

2020年度 実務経験のある教員による授業科目 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

【発行日：2020/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

専門入門科目 100 番台 情報学入門Ⅰ/Ⅱ (2019 年度以降入学者)・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ (2018 年度以前入学者) []	1
【56001】経済学入門Ⅰ／経済学入門 A(前期メディア) [平田 英明] 前期	2
【56009】マーケティング論Ⅰ (前期メディア) [竹内 淑恵] 前期	3
【56019】ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンス A(前期メディア) [山崎 輝] 前期	4
【A0015】憲法訴訟論 [大津 浩] 秋学期授業/Fall	5
【A0085】犯罪学 [佐藤 輝幸] 春学期授業/Spring	6
【A0086】刑事政策 [佐野 文彦] 秋学期授業/Fall	7
【A0089】概説刑事法 [須藤 純正] 春学期授業/Spring	7
【A0141】法学入門 [西田 幸介] 春学期授業/Spring	8
【A0158】演習 [須藤 純正] 年間授業/Yearly	9
【A0159】演習 [高須 順一] 年間授業/Yearly	10
【A0197】概説刑事法 [須藤 純正] 春学期授業/Spring	12
【A0205】法律学特講 (経済刑法) [須藤 純正] 秋学期授業/Fall	13
【A0253】経済原論Ⅰ [水野 和夫] 春学期授業/Spring	14
【A0254】経済原論Ⅱ [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	15
【A0275】福祉政策Ⅰ [石川 久] 春学期授業/Spring	16
【A0276】福祉政策Ⅱ [石川 久] 秋学期授業/Fall	17
【A0279】環境政策Ⅰ [上岡 直見] 春学期授業/Spring	18
【A0280】環境政策Ⅱ [上岡 直見] 秋学期授業/Fall	19
【A0283】都市政策Ⅰ [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	21
【A0284】都市政策Ⅱ [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	22
【A0297】財政学Ⅰ [小黑 一正] 春学期授業/Spring	23
【A0298】財政学Ⅱ [小黑 一正] 春学期授業/Spring	23
【A0445】国際政治学入門 [森 聡] 春学期授業/Spring	24
【A0446】国際政治の理論と現実 [森 聡] 秋学期授業/Fall	25
【A0447】アメリカ政治外交史 [森 聡] 春学期授業/Spring	26
【A0448】現代のアメリカと世界 [森 聡] 秋学期授業/Fall	27
【A0485】政治学特殊講義Ⅰ (安全保障政策) [半田 滋] 春学期授業/Spring	28
【A0491】演習 [水野 和夫] 春学期授業/Spring	29
【A0492】演習 [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	30
【A0625】Global Governance [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	31
【A0649】国際NGO論Ⅰ [山口 誠史] 春学期授業/Spring	32
【A0650】国際NGO論Ⅱ [山口 誠史] 秋学期授業/Fall	33
【A0662】アジア国際政治概論 [水野 孝昭] 秋学期授業/Fall	34
【A0672】地球環境論Ⅰ 秋学期	35
【A0673】地球環境論Ⅱ 秋学期	36
【A0708】文章の書き方セミナー [五十嵐 文生] 春学期授業/Spring	37
【A0709】文章の書き方セミナー [五十嵐 文生] 秋学期授業/Fall	38
【A0717】国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring	39
【A0718】国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall	40
【A0727】演習 [森 聡] 春学期授業/Spring	42
【A0728】演習 [森 聡] 秋学期授業/Fall	43
【A0729】グローバル・ビジネス論Ⅰ [籠宮 信雄] 春学期授業/Spring	44
【A0730】グローバル・ビジネス論Ⅱ [籠宮 信雄] 秋学期授業/Fall	45
【A0749】国際機構論Ⅰ [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	46
【A0750】国際機構論Ⅱ [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	47
【A0769】国際社会の法Ⅰ [新垣 修] 春学期授業/Spring	48
【A0770】国際社会の法Ⅱ [新垣 修] 秋学期授業/Fall	49
【A0779】演習 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	50
【A0780】演習 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	50
【A0921】現代政策学特講Ⅰ (立法学) [正木 寛也] 春学期授業/Spring	51
【A0922】現代政策学特講Ⅱ (立法学) [正木 寛也] 秋学期授業/Fall	52
【A0947】演習 [廣瀬 克哉] 春学期授業/Spring	53

【A0948】	演習 [廣瀬 克哉] 秋学期授業/Fall	54
【A0973】	演習 [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	55
【A0974】	演習 [新崎 盛吾] 秋学期授業/Fall	56
【A0983】	演習 [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	57
【A0984】	演習 [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	58
【A0985】	法学入門 [金子 匡良] 春学期授業/Spring	59
【A2441】	日本文学史A [中沢 けい] 春学期	60
【A2442】	日本文学史A [藤谷 治] 春学期	61
【A2443】	日本文学史B [中沢 けい] 秋学期	61
【A2444】	日本文学史B [藤谷 治] 秋学期	62
【A2445】	文章表現論A [田中 和生] 春学期	63
【A2447】	文章表現論B [田中 和生] 秋学期	64
【A2568】	メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期	65
【A2584】	表現と著作権 A [内藤 裕之] 春学期	66
【A2586】	表現と著作権 B [内藤 裕之] 秋学期	67
【A2647】	ゼミナール17A [中沢 けい] 春学期	68
【A2648】	ゼミナール17B [中沢 けい] 秋学期	68
【A2649】	ゼミナール18A [中沢 けい] 春学期	69
【A2650】	ゼミナール18B [中沢 けい] 秋学期	70
【A2651】	ゼミナール19A [田中 和生] 春学期	70
【A2652】	ゼミナール19B [田中 和生] 秋学期	71
【A2653】	ゼミナール20A [田中 和生] 春学期	71
【A2654】	ゼミナール20B [田中 和生] 秋学期	72
【A2655】	ゼミナール21A [根本 昌夫] 春学期	72
【A2656】	ゼミナール21B [根本 昌夫] 秋学期	73
【A2687】	日本文芸研究特講 (9) 表現A [藤谷 治] 春学期	74
【A2688】	日本文芸研究特講 (9) 表現B [藤谷 治] 秋学期	75
【A2695】	日本文芸研究特講 (12) 詩歌A [池井 昌樹] 春学期	75
【A2696】	日本文芸研究特講 (12) 詩歌B [池井 昌樹] 秋学期	76
【A2709】	編集理論A [福江 泰太] 春学期	76
【A2710】	編集理論B [福江 泰太] 秋学期	77
【A2711】	書道(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 年間	78
【A2712】	書道(書写を中心とする) [橋本 匡朗] 年間	79
【A2717】	情報メディア演習A [武田 俊、新見 直] 春学期	80
【A2718】	情報メディア演習B [武田 俊、新見 直] 秋学期	81
【A3101】	日本史概説I [小倉 淳一] 春学期	82
【A3124】	日本近世史科学I [松本 剣志郎] 春学期	83
【A3125】	日本近世史科学II [松本 剣志郎] 秋学期	84
【A3128】	日本考古学演習 [小倉 淳一] 年間	85
【A3412】	地球科学概論I [宍倉 正展] 春学期	86
【A3413】	地球科学概論II [宍倉 正展] 秋学期	87
【A3422】	気候・気象学及び実験I [山口 隆子] 春学期	88
【A3423】	気候・気象学及び実験II [山口 隆子] 秋学期	89
【A3434】	自然地理学演習(1) [山口 隆子] 年間	89
【A3453】	自然地理学特講(3) [山口 隆子] 春学期	90
【A3461】	測量学及び測量実習I [川本 利一] 秋学期	91
【A3462】	測量学及び測量実習II [川本 利一] 秋学期	92
【A3511】	地学実験(2) (コンピュータ活用含む) [加藤 美雄] 春学期	93
【A3512】	地学実験(2) (コンピュータ活用含む) [加藤 美雄] 秋学期	94
【A3527】	理科教育法(1) [狩野 真規] 春学期	95
【A3528】	理科教育法(2) [狩野 真規] 秋学期	96
【A3530】	理科教育法(3) [狩野 真規] 春学期	97
【A3531】	理科教育法(4) [狩野 真規] 秋学期	98
【A3667】	言語心理学 [福田 由紀] 春学期	99
【A3669】	行動分析学特講 [島宗 理] 秋学期	100
【A3670】	行動分析学 [島宗 理] 春学期	101
【A3691】	犯罪心理学 [越智 啓太] 春学期	102

【A3721】産業組織心理学〔島宗 理〕秋学期	103
【A3722】心理学特殊講義Ⅰ〔島宗 理〕秋学期	104
【A3723】言語心理学特講〔福田 由紀〕秋学期	105
専門入門科目 100 番台 【A4013】ファイナンス入門〔山崎 輝〕春学期授業/Spring	107
専門入門科目 100 番台 【A4014】ファイナンス入門〔山崎 輝〕秋学期授業/Fall	108
専門入門科目 100 番台 【A4015】ファイナンス入門〔岸本 直樹〕秋学期授業/Fall	109
専門入門科目 100 番台 【A4016】経済学入門〔高橋 理香, 大木 良子〕春学期授業/Spring	110
専門入門科目 100 番台 【A4017】経済学入門〔大木 良子, 高橋 理香〕春学期授業/Spring	112
専門入門科目 100 番台 【A4018】経済学入門〔宮澤 信二郎, 藤澤 利治〕秋学期授業/Fall	114
専門入門科目 100 番台 【A4060】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者）〔島田 由美子〕春学期授業/Spring	116
専門入門科目 100 番台 【A4072】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者）〔児玉 靖司〕春学期授業/Spring	118
専門入門科目 100 番台 【A4073】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者）〔児玉 靖司〕秋学期授業/Fall	120
専門入門科目 100 番台 【A4074】情報学入門Ⅰ（データ演習）（2019 年度以降入学者）〔寺脇 由紀〕春学期授業/Spring	122
専門入門科目 100 番台 【A4075】情報学入門Ⅱ（データ演習）（2019 年度以降入学者）〔寺脇 由紀〕秋学期授業/Fall	124
【A4142】情報科学実習Ⅰ（b コース）（2018 年度入学者）〔児玉 靖司〕春学期授業/Spring	126
【A4143】情報科学実習Ⅱ（b コース）（2018 年度入学者）〔児玉 靖司〕秋学期授業/Fall	128
【A4212】情報科学実習Ⅰ（2016～2017 年度入学者）〔児玉 靖司〕春学期授業/Spring	130
【A4213】情報科学実習Ⅱ（2016～2017 年度入学者）〔児玉 靖司〕秋学期授業/Fall	132
専門入門科目 200 番台 【A4315】情報学基礎（2019 年度以降入学者）〔児玉 靖司〕春学期授業/Spring	134
専門入門科目 200 番台 【A4316】情報学基礎（2019 年度以降入学者）〔児玉 靖司〕秋学期授業/Fall	135
【A4355】経営社会学Ⅰ〔佐野 哲〕春学期授業/Spring	136
【A4356】経営社会学Ⅱ〔佐野 哲〕春学期授業/Spring	137
【A4393】組織経済学Ⅰ〔奥西 好夫〕秋学期授業/Fall	138
経営戦略学科専門科目 200 番台 【A4411】日本経済論Ⅰ〔平田 英明〕春学期授業/Spring	139
経営戦略学科専門科目 200 番台 【A4412】日本経済論Ⅱ〔平田 英明〕秋学期授業/Fall	141
【A4431】システム管理論Ⅰ〔児玉 靖司〕春学期授業/Spring	143
【A4432】システム管理論Ⅱ〔児玉 靖司〕秋学期授業/Fall	144
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4457】マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019 年度以降入学者）〔西川 英彦〕春学期授業/Spring	145
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4469】コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）〔金 瑤晋〕春学期授業/Spring	146
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4470】コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）〔金 瑤晋〕秋学期授業/Fall	148
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4471】デリバティブ入門Ⅰ（2019 年度以降入学者）〔山崎 輝〕春学期授業/Spring	150
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4472】デリバティブ入門Ⅱ（2019 年度以降入学者）〔山崎 輝〕秋学期授業/Fall	152
【A4475】産業組織論Ⅰ〔大木 良子〕春学期授業/Spring	154
【A4476】産業組織論Ⅱ〔大木 良子〕秋学期授業/Fall	156
【A4483】マーケティング・リサーチⅠ（2018 年度以前入学者）〔西川 英彦〕春学期授業/Spring	158
【A4484】マーケティング・リサーチⅡ（2018 年度以前入学者）〔本條 晴一郎〕秋学期授業/Fall	159
【A4485】企業財務論Ⅰ（2018 年度以前入学者）〔金 瑤晋〕春学期授業/Spring	160
【A4486】企業財務論Ⅱ（2018 年度以前入学者）〔金 瑤晋〕秋学期授業/Fall	162
【A4487】ファイナンス論Ⅰ（2018 年度以前入学者）〔山崎 輝〕春学期授業/Spring	164
【A4488】ファイナンス論Ⅱ（2018 年度以前入学者）〔山崎 輝〕秋学期授業/Fall	166
連環科目 【A4581】インターンシップⅠ〔小林 健一〕秋学期授業/Fall	168
【A4589】インターンシップⅠ〔小林 健一〕秋学期授業/Fall	169
【A4681】演習 1〔大木 良子〕春学期授業/Spring	170
【A4682】演習 2〔大木 良子〕秋学期授業/Fall	172
【A4683】演習 3〔大木 良子〕春学期授業/Spring	174
【A4684】演習 4〔大木 良子〕秋学期授業/Fall	176
【A4685】演習 5〔大木 良子〕春学期授業/Spring	178
【A4686】演習 6〔大木 良子〕秋学期授業/Fall	180
【A4687】演習 1〔大下 勇二〕春学期授業/Spring	182
【A4705】演習 1〔奥西 好夫〕春学期授業/Spring	184
【A4706】演習 2〔奥西 好夫〕秋学期授業/Fall	186
【A4707】演習 3〔奥西 好夫〕春学期授業/Spring	188
【A4708】演習 4〔奥西 好夫〕秋学期授業/Fall	190
【A4709】演習 5〔奥西 好夫〕春学期授業/Spring	192

【A4710】	演習 6	〔奥西 好夫〕	秋学期授業/Fall	194
【A4753】	演習 1	〔金 瑤晋〕	春学期授業/Spring	196
【A4754】	演習 2	〔金 瑤晋〕	秋学期授業/Fall	198
【A4755】	演習 3	〔金 瑤晋〕	春学期授業/Spring	200
【A4756】	演習 4	〔金 瑤晋〕	秋学期授業/Fall	202
【A4757】	演習 5	〔金 瑤晋〕	春学期授業/Spring	204
【A4758】	演習 6	〔金 瑤晋〕	秋学期授業/Fall	206
【A4777】	演習 1	〔児玉 靖司〕	春学期授業/Spring	208
【A4778】	演習 2	〔児玉 靖司〕	秋学期授業/Fall	210
【A4779】	演習 3	〔児玉 靖司〕	春学期授業/Spring	212
【A4780】	演習 4	〔児玉 靖司〕	秋学期授業/Fall	214
【A4781】	演習 5	〔児玉 靖司〕	春学期授業/Spring	216
【A4782】	演習 6	〔児玉 靖司〕	秋学期授業/Fall	218
【A4795】	演習 1	〔佐野 哲〕	春学期授業/Spring	220
【A4796】	演習 2	〔佐野 哲〕	秋学期授業/Fall	222
【A4797】	演習 3	〔佐野 哲〕	春学期授業/Spring	224
【A4798】	演習 4	〔佐野 哲〕	秋学期授業/Fall	226
【A4799】	演習 5	〔佐野 哲〕	春学期授業/Spring	228
【A4800】	演習 6	〔佐野 哲〕	秋学期授業/Fall	230
【A4867】	演習 1	〔西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)〕	春学期授業/Spring	232
【A4868】	演習 2	〔西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)〕	秋学期授業/Fall	234
【A4869】	演習 3	〔西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)〕	春学期授業/Spring	236
【A4870】	演習 4	〔西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)〕	秋学期授業/Fall	238
【A4871】	演習 5	〔西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)〕	春学期授業/Spring	240
【A4872】	演習 6	〔西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)〕	秋学期授業/Fall	242
【A4891】	演習 1	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	244
【A4892】	演習 2	〔平田 英明〕	秋学期授業/Fall	246
【A4893】	演習 3	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	248
【A4894】	演習 4	〔平田 英明〕	秋学期授業/Fall	250
【A4895】	演習 5	〔平田 英明〕	春学期授業/Spring	252
【A4896】	演習 6	〔平田 英明〕	秋学期授業/Fall	254
【A4939】	演習 1	〔山崎 輝〕	春学期授業/Spring	256
【A4940】	演習 2	〔山崎 輝〕	秋学期授業/Fall	258
【A4941】	演習 3	〔山崎 輝〕	春学期授業/Spring	260
【A4942】	演習 4	〔山崎 輝〕	秋学期授業/Fall	262
【A4943】	演習 5	〔山崎 輝〕	春学期授業/Spring	264
【A4944】	演習 6	〔山崎 輝〕	秋学期授業/Fall	266
【A4980】	演習 1・2	〔大木 良子〕	年間授業/Yearly	268
【A4984】	演習 1・2	〔奥西 好夫〕	年間授業/Yearly	270
【A4992】	演習 1・2	〔金 瑤晋〕	年間授業/Yearly	272
【A4996】	演習 1・2	〔児玉 靖司〕	年間授業/Yearly	274
【A4999】	演習 1・2	〔佐野 哲〕	年間授業/Yearly	276
【A5011】	演習 1・2	〔西川 英彦〕	年間授業/Yearly	278
【A5015】	演習 1・2	〔平田 英明〕	年間授業/Yearly	280
【A5023】	演習 1・2	〔山崎 輝〕	年間授業/Yearly	282
【A5034】	演習 3・4	〔大木 良子〕	年間授業/Yearly	284
【A5038】	演習 3・4	〔奥西 好夫〕	年間授業/Yearly	286
【A5046】	演習 3・4	〔金 瑤晋〕	年間授業/Yearly	288
【A5050】	演習 3・4	〔児玉 靖司〕	年間授業/Yearly	290
【A5053】	演習 3・4	〔佐野 哲〕	年間授業/Yearly	292
【A5065】	演習 3・4	〔西川 英彦〕	年間授業/Yearly	294
【A5069】	演習 3・4	〔平田 英明〕	年間授業/Yearly	296
【A5077】	演習 3・4	〔山崎 輝〕	年間授業/Yearly	298
【A5088】	演習 5・6	〔大木 良子〕	年間授業/Yearly	300
【A5092】	演習 5・6	〔奥西 好夫〕	年間授業/Yearly	302
【A5100】	演習 5・6	〔金 瑤晋〕	年間授業/Yearly	304
【A5104】	演習 5・6	〔児玉 靖司〕	年間授業/Yearly	306

【A5107】 演習 5・6 [佐野 哲] 年間授業/Yearly	308
【A5119】 演習 5・6 [西川 英彦] 年間授業/Yearly	310
【A5123】 演習 5・6 [平田 英明] 年間授業/Yearly	312
【A5131】 演習 5・6 [山崎 輝] 年間授業/Yearly	314
特殊講義 【A5401】 広告論 [小林 健一] オータムセッション/Autumn Session	316
特殊講義 【A5410】 寄附講座・資本市場の役割と証券投資 [鷲田 賢一郎] 秋学期授業/Fall	317
【A6173】 International Business and Employability [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	318
【A6178】 Introduction to Tourism Studies [John Melvin] 春学期授業/Spring	319
【A6179】 Introduction to Tourism Studies [John Melvin] 秋学期授業/Fall	320
【A6253,A6532】 Brand Management [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	321
【A6254】 Event Management [John Melvin] 春学期授業/Spring	322
【A6259】 Tourism Development in Japan [John Melvin] 春学期授業/Spring	323
【A6334】 Services Marketing [John Melvin] 秋学期授業/Fall	324
【A6336】 Cultural Tourism [John Melvin] 秋学期授業/Fall	325
【A6344】 International Law [Naoko Obi] 春学期授業/Spring	326
【A6428,A6429】 Seminar: Tourism Management I [John Melvin] 春学期授業/Spring	327
【A6430,A6431】 Seminar: Tourism Management II [John Melvin] 秋学期授業/Fall	328
【A6436, A6437】 Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring	329
【A6622】 Introduction to Career Design [Azusa MIYAKI] 春学期授業/Spring	330
【A6623】 Introduction to Career Design [Hiromi FUJISAWA] 春学期授業/Spring	331
【A6632】 Law (Constitution of Japan) [Masayoshi KANEKO] 春学期授業/Spring	333
【A6633】 Law (Constitution of Japan) [Masayoshi KANEKO] 秋学期授業/Fall	334
【A8000】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring	335
【A8001】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring	336
【A8002】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Simon Wardle] 春学期授業/Spring	337
【A8003】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Jean-Pierre Corbeil] 春学期授業/Spring	338
【A8004】 ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Jonathan Docherty] 春学期授業/Spring	339
【A8005】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring	340
【A8007】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Jean-Pierre Corbeil] 春学期授業/Spring	341
【A8008】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	343
【A8009】 ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	344
【A8010】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Jonathan Docherty] 春学期授業/Spring	346
【A8011】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [David Raffray] 春学期授業/Spring	347
【A8012】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Jean-Pierre Corbeil] 春学期授業/Spring	348
【A8013】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	349
【A8014】 ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Jason Lee] 春学期授業/Spring	350
【A8015】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Jonathan Docherty] 春学期授業/Spring	351
【A8016】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Ivan Iannotta] 春学期授業/Spring	352
【A8017】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [David Raffray] 春学期授業/Spring	354
【A8018】 ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Jonathan Docherty] 春学期授業/Spring	355
【A8019】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Jonathan Docherty] 春学期授業/Spring	357
【A8020】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Simon Wardle] 春学期授業/Spring	358
【A8021】 ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Jonathan Docherty] 春学期授業/Spring	359

[A8022] ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [Jason Lee] 春学期授業/Spring	360
[A8023] ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [Simon Wardle] 春学期授業/Spring	361
[A8024] ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I [David Raffray] 春学期授業/Spring	363
[A8050] ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall	364
[A8051] ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Jean-Pierre Corbeil] 秋学期授業/Fall	365
[A8052] ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II [Simon Wardle] 秋学期授業/Fall	366
[A8053] ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II [Jonathan Docherty] 秋学期授業/Fall	368
[A8054] ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall	369
[A8055] ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Jean-Pierre Corbeil] 秋学期授業/Fall	370
[A8056] ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Simon Wardle] 秋学期授業/Fall	371
[A8057] ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Jonathan Docherty] 秋学期授業/Fall	373
[A8058] ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall	374
[A8059] ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Jonathan Docherty] 秋学期授業/Fall	375
[A8060] ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II [Simon Wardle] 秋学期授業/Fall	376
[A8061] ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II [Jean-Pierre Corbeil] 秋学期授業/Fall	378
[A8100] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [David Raffray] 春学期授業/Spring	379
[A8101] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Jason Lee] 春学期授業/Spring	380
[A8102] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Michael Morrison] 春学期授業/Spring	381
[A8103] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Michael Morrison] 春学期授業/Spring	382
[A8104] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I [Simon Wardle] 春学期授業/Spring	383
[A8105] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I [Simon Wardle] 春学期授業/Spring	385
[A8106] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I [Jason Lee] 春学期授業/Spring	386
[A8107] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I [Michael Morrison] 春学期授業/Spring	388
[A8108] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Thomas Rogers] 春学期授業/Spring	389
[A8109] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	390
[A8110] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Helen Nagasawa] 春学期授業/Spring	391
[A8111] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Thomas Rogers] 春学期授業/Spring	392
[A8112] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	394
[A8113] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Thomas Rogers] 春学期授業/Spring	395
[A8114] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Simon Wardle] 春学期授業/Spring	397
[A8115] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Thomas Rogers] 春学期授業/Spring	398
[A8116] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I [David Raffray] 春学期授業/Spring	399
[A8117] ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced I [Helen Nagasawa] 春学期授業/Spring	400
[A8150] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Amy Toms] 秋学期授業/Fall	402
[A8151] ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Michael Morrison] 秋学期授業/Fall	403
[A8152] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II [Simon Wardle] 秋学期授業/Fall	404
[A8153] ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II [Thomas Rogers] 秋学期授業/Fall	405
[A8154] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Simon Wardle] 秋学期授業/Fall	406
[A8155] ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Helen Nagasawa] 秋学期授業/Fall	407
[A8156] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Amy Toms] 秋学期授業/Fall	408
[A8157] ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Thomas Rogers] 秋学期授業/Fall	410
[A8158] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Simon Wardle] 秋学期授業/Fall	411
[A8159] ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Thomas Rogers] 秋学期授業/Fall	412

【A8160】 ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II [Amy Toms] 秋学期授業/Fall	413
【A8161】 ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II [Helen Nagasawa] 秋学期授業/Fall	415
【A8200】 ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	416
【A8201】 ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I [Thomas Saunders] 春学期授業/Spring	417
【A8202】 ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring	419
【A8203】 ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I [Thomas Saunders]	
春学期授業/Spring	420
【A8204】 ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	421
【A8205】 ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I [Samuel Harper] 春学期授	
業/Spring	423
【A8206】 ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Thomas Saunders] 春学期授	
業/Spring	424
【A8207】 ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I [Samuel Harper] 春学期授業/Spring	425
【A8208】 ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I [Thomas Saunders] 春学期授業/Spring	426
【A8209】 ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I [Amy Toms] 春学期授業/Spring	428
【A8250】 ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II [Amy Toms] 秋学期授業/Fall	429
【A8251】 ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II [Thomas Saunders] 秋学期授業/Fall	430
【A8252】 ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall	431
【A8253】 ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II [Thomas Saunders]	
秋学期授業/Fall	433
【A8254】 ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Amy Toms] 秋学期授業/Fall	434
【A8255】 ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall	435
【A8256】 ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Thomas Saunders] 秋学期授	
業/Fall	437
【A8257】 ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II [Samuel Harper] 秋学期授業/Fall	438
【A8258】 ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II [Thomas Saunders] 秋学期授業/Fall	439
【A8259】 ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II [Amy Toms] 秋学期授業/Fall	440
【A9004】 スポーツ心理学 [飯田 麻紗子] 春学期授業/Spring	442
【A9009】 トップアスリート論 [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	443
【A9012】 スポーツ栄養学Ⅰ [杉山 明美] 春学期授業/Spring	444
【A9013】 スポーツ栄養学Ⅱ [杉山 明美] 秋学期授業/Fall	445
【A9044/A9049】 スポーツ組織論/スポーツ組織論Ⅰ [日比 千里] 秋学期授業/Fall	446
【A9053】 スポーツ実習 (バレーボール)Ⅲ [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	447
【A9054】 スポーツ実習 (バレーボール)Ⅳ [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	448
【A9202】 スポーツ医学Ⅰ [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	449
【A9203】 スポーツ医学Ⅱ [瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	450
【A9204】 スポーツ心理学 [飯田 麻紗子] 春学期授業/Spring	451
【A9209】 スポーツ栄養学Ⅰ [杉山 明美] 春学期授業/Spring	452
【A9210】 スポーツ栄養学Ⅱ [杉山 明美] 秋学期授業/Fall	453
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall	454
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall	455
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1009】 知的財産権 [加納 昌彦] 秋学期授業/Fall	456
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [小野澤 雅人、浅川 英理	
子] 秋学期授業/Fall	457
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [小野澤 雅人、浅川 英理子] 秋学期授業/Fall	458
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [小野澤 雅人、浅川 英理	
子] 秋学期授業/Fall	459
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	460
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	461
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1019】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	462
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	463
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	464
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1051】 マーケティング [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	466
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [井波 真弓] 春学期授業/Spring	468
建築学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [井波 真弓] 春学期授業/Spring	469
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [井波 真弓] 春学期授業/Spring	470
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1100】 技術者倫理 [山内 裕之] 秋学期授業/Fall	471

建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1150】 数学1 [浜田 英明] 春学期授業/Spring	472
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1200】 技術者倫理 [佐々木 寿朗] 秋学期授業/Fall	473
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1264】 工業力学及演習 X [山本 佳士] 秋学期授業/Fall	474
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1265】 工業力学及演習 Y [内田 大介] 秋学期授業/Fall	475
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1266】 図学及演習 [高柳 誠也、山田 裕貴、高見 公雄、今井 裕久] 秋学期授業/Fall	476
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1268】 ジオロジカルエンジニアリング [山本 浩之] 秋学期授業/Fall	477
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B1351】 数学2 X (2018年度以前入学生) [関口 豊一] 春学期前半/Spring(1st half)	479
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野 【B2005】 デザイン文化論 [辻村 亮子] 春学期授業/Spring	480
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2007】 色彩論 [大高 知子] 秋学期授業/Fall	481
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2011】 法学概論 (2019年度以降入学生) 秋学期授業/Fall	483
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2011】 法学概論 (2019年度以降入学生) 秋学期授業/Fall	484
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B2011】 法学概論 (2019年度以降入学生) 秋学期授業/Fall	485
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B2013】 数学2 Y (2018年度以前入学生) [山田 泰之] 春学期前半/Spring(1st half)	486
建築学科 【B2052】 アーバンイズム (2018年度以前入学生) [渡邊 眞理] 春学期授業/Spring	487
都市環境デザイン工学科 【B2052】 アーバンイズム (2018年度以前入学生) [渡邊 眞理] 春学期授業/Spring	488
【B2052】 アーバンイズム (2018年度以前入学生) [渡邊 眞理] 春学期授業/Spring	489
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	490
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	491
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2055】 都市・地域政策 [土屋 愛自] 春学期前半/Spring(1st half)	492
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 (2020年度休講) [高見 公雄、杉浦 榮、佐藤 康三、下吹越 武人、伊藤 登、竹内 豪] 秋学期授業/Fall	493
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 (2020年度休講) [高見 公雄、杉浦 榮、佐藤 康三、下吹越 武人、伊藤 登、竹内 豪] 秋学期授業/Fall	494
建築学科_専門科目_展開科目 【B2056】 公共空間デザイン及演習 (2020年度休講) [高見 公雄、杉浦 榮、佐藤 康三、下吹越 武人、伊藤 登、竹内 豪] 秋学期授業/Fall	495
建築学科_専門科目_導入科目 【B2150】 デザインスタジオ2 (建築) W [赤松 佳珠子] 秋学期授業/Fall	496
建築学科 【B2153】 構法スタジオ (2018年度以前入学生) [網野 禎昭、飯塚 豊、溝部 公寛、水井 敬、鍋野 友哉、永野 向吾] 秋学期授業/Fall	498
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [今井 龍一] 春学期前半/Spring(1st half)	499
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	500
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [道奥 康治] 春学期前半/Spring(1st half)	501
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [溝渕 利明] 春学期前半/Spring(1st half)	502
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [酒井 久和] 春学期前半/Spring(1st half)	503
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [高見 公雄] 春学期前半/Spring(1st half)	504
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [鈴木 善晴] 春学期前半/Spring(1st half)	505
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [渡邊 竜一] 春学期前半/Spring(1st half)	506
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B2230】 導入ゼミナール (都市) [内田 大介] 春学期前半/Spring(1st half)	507
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2232】 国土・地域概論 [高見 公雄、堀川 洋子] 秋学期後半/Fall(2nd half)	508
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2234】 都市計画法と政策 [福井 恒明] 秋学期前半/Fall(1st half)	509
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2237】 地盤力学及演習 X [酒井 久和] 春学期授業/Spring	510
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B2238】 地盤力学及演習 Y [澤田 俊一] 春学期授業/Spring	511

建築学科_専門科目_導入科目 【B2250】 デザインスタジオ 2 (建築) X [小池 ひろの] 秋学期授業/Fall	512
システムデザイン学科_専門科目_導入科目 【B2344】 デザインスタジオ 2 (SD) [佐藤 康三、谷口 武司、相川 真実、竹内 則雄、山田 泰之、西岡 靖之] 秋学期授業/Fall	514
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2345】 デザイン理論 (SD) [秋元 淳] 秋学期授業/Fall	516
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2346】 図形科学基礎演習 X [梶本 博司、石橋 忠人] 秋学期授業/Fall	517
システムデザイン学科_基礎科目_総合系_デザイン分野 【B2347】 図形科学基礎演習 Y [梶本 博司、石橋 忠人] 秋学期授業/Fall	518
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2356】 クリエーション基礎論 [土屋 雅人、佐藤 康三] 秋学期後半/Fall(2nd half)	519
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2357】 プレゼンテーション技術 X [豊島 純子] 秋学期授業/Fall	520
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2358】 プレゼンテーション技術 Y [豊島 純子] 秋学期授業/Fall	522
【B2361】 造形デザイン実習制作 (2018年度以前入学生) [佐藤 康三、宮沢 哲、梶本 博司、谷口 武司] 秋学期授業/Fall	524
【B2362】 ヒューマンセンタードデザイン演習 (2018年度以前入学生) [安積 伸、秋山かおり、林 登志也] 年間授業/Yearly	525
建築学科_専門科目_基礎科目 【B2405】 骨組の力学 [浜田 英明] 秋学期授業/Fall	526
建築学科 【B2431】 建築論・建築造形論 (2018年度以前入学生) [今村 創平] 春学期授業/Spring	527
建築学科 【B2432】 都市計画 (2018年度以前入学生) [石川 貴之] 秋学期授業/Fall	528
建築学科 【B2437】 建築生産 (2018年度以前入学生) [河野 泰治] 秋学期授業/Fall	530
建築学科_専門科目_導入科目 【B2450】 デザインスタジオ 2 (建築) Y [坂野 由典] 秋学期授業/Fall	531
都市環境デザイン工学科 【B2530】 デザインスタジオ 2 (都市) (2018年度以前入学生) [高見 公雄、福井 恒明、袴田 喜夫、椿 真吾、金城 正紀] 秋学期授業/Fall	533
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2531】 交通計画 [今井 龍一] 春学期前半/Spring(1st half)	534
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2533】 建築設計基礎 [瀬戸 健似、今井 裕久] 秋学期授業/Fall	535
都市環境デザイン工学科 【B2535】 計画の可視化 (2018年度以前入学生) [福井 恒明] 秋学期後半/Fall(2nd half)	536
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2538】 鋼構造デザイン実習 [平山 繁幸、鈴木 泰之] 春学期授業/Spring	537
都市環境デザイン工学科 【B2544】 地盤と環境 2 (2018年度以前入学生) [酒井 久和] 春学期前半/Spring(1st half)	538
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2545】 工学実験 2 [鈴木 善晴、酒井 久和、鈴木 弘明、道奥 康治、池田 勇司、北條 幸雄] 年間授業/Yearly	539
都市環境デザイン工学科 【B2546】 環境法規 (2018年度以前入学生) [弘末 文紀] 秋学期前半/Fall(1st half)	540
都市環境デザイン工学科 【B2547】 環境アセスメント (2018年度以前入学生) [中林 純] 秋学期後半/Fall(2nd half)	541
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B2549】 メンテナンス工学 (2020年度休講) [溝渕 利明、藤原 博] 春学期前半/Spring(1st half)	542
建築学科_専門科目_導入科目 【B2550】 デザインスタジオ 2 (建築) Z [塩田 能也] 秋学期授業/Fall	543
【B2630】 3Dモデリング (クリエーション系) X (2018年度以前入学生) [渡辺 仙一郎] 年間授業/Yearly	545
【B2631】 3Dモデリング (クリエーション系) Y (2018年度以前入学生) [村田 桂太] 年間授業/Yearly	546
【B2637】 機械の機構と設計 (2018年度以前入学生) [山田 泰之] 春学期後半/Spring(2nd half)	547
【B2666】 応用色彩工学 (2018年度以前入学生) [淵田 隆義] 春学期授業/Spring	548
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2667】 デザインシンキング [安積 伸、三浦 秀彦] 秋学期後半/Fall(2nd half)	550
【B2672】 Web サイト構築演習 (2014 年度以前入学生用) [関口 和真] 秋学期後半/Fall(2nd half)	551
【B2679】 スマートマシン設計 (2018年度以前入学生) [吉見 隆、梶田 秀司、黒河 治久、荒井 裕彦] 秋学期授業/Fall	552
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2708】 プロダクトデザイン理論 [佐藤 康三] 秋学期授業/Fall	553
【B2709】 未来予測デザイン演習 (2018年度以前入学生) [安積 伸、三浦 秀彦] 秋学期前半/Fall(1st half)	554
【B2711】 Web デザイン演習 (2018年度以前入学生) [関口 和真] 秋学期後半/Fall(2nd half)	555
システムデザイン学科_基礎科目_理工系_自然科学分野 【B2746】 微分積分学 X (2019年度以降入学生) [関口 豊一] 春学期前半/Spring(1st half)	556
【B2747】 微分積分学 Y (2019年度以降入学生) [山田 泰之] 春学期前半/Spring(1st half)	557
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	558
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	560
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	562
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [渡邊 眞理、下吹越 武人、赤松 佳珠子、北山 恒] 秋学期授業/Fall	564
システムデザイン学科_外国語科目_英語 【B3014】 テクニカルライティング X [大友 敬三] 秋学期授業/Fall	565

都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語	【B3014】	テクニカルライティング X	[大友 敬三]	秋学期授業/Fall	...	567
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語	【B3014】	テクニカルライティング X	[大友 敬三]	秋学期授業/Fall	...	569
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語	【B3015】	テクニカルライティング Y	[浅川 英理子]	秋学期授業/Fall	...	571
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語	【B3015】	テクニカルライティング Y	[浅川 英理子]	秋学期授業/Fall	...	573
システムデザイン学科_外国語科目_英語	【B3015】	テクニカルライティング Y	[浅川 英理子]	秋学期授業/Fall	...	575
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野	【B3016】	数理統計学	[牧野 倫子]	春学期授業/Spring		577
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野	【B3016】	数理統計学	[牧野 倫子]	春学期授業/Spring		578
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野	【B3016】	数理統計学	[牧野 倫子]	春学期授業/Spring		579
システムデザイン学科_専門科目_展開科目	【B3017】	タウンマネジメント	[土屋 愛白、藤澤 浩子]	秋学期前半/Fall(1st half)		580
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3017】	タウンマネジメント	[土屋 愛白、藤澤 浩子]	秋学期前半/Fall(1st half)		581
建築学科_専門科目_展開科目	【B3017】	タウンマネジメント	[土屋 愛白、藤澤 浩子]	秋学期前半/Fall(1st half)	...	582
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目	【B3018】	マテリアルサイエンス	[岩瀬 扶佐子]	春学期授業/Spring	...	583
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3018】	マテリアルサイエンス	[岩瀬 扶佐子]	春学期授業/Spring	...	584
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3018】	マテリアルサイエンス	[岩瀬 扶佐子]	春学期授業/Spring		585
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3402】	デザインスタジオ4	[下吹越 武人、岩佐 明彦、鍋島 千恵、菅原 大輔、池田 賢、岩瀬 諒子]	秋学期授業/Fall		586
建築学科_専門科目_展開科目	【B3403】	デザインスタジオ5	[下吹越 武人、渡邊 眞理、稲垣 淳哉、津野 恵美子]	春学期授業/Spring		587
建築学科_専門科目_展開科目	【B3404】	デザインスタジオ6	[渡邊 眞理、後藤 武、山道 拓人、渡邊 健介]	秋学期授業/Fall		588
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3410】	建築計画1	[岩佐 明彦]	春学期授業/Spring		589
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3411】	建築計画2	[岩佐 明彦]	秋学期授業/Fall		590
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3413】	建築材料	[網野 禎昭]	春学期授業/Spring		591
建築学科	【B3414】	材料特性実験 X	(2018年度以前入学生) [鍋野 友哉]	年間授業/Yearly		592
建築学科	【B3415】	材料特性実験 Y	(2018年度以前入学生) [中 太郎]	年間授業/Yearly		593
建築学科_専門科目_展開科目	【B3416】	施工管理	[三上 孝明]	春学期授業/Spring		594
建築学科_専門科目_展開科目	【B3417】	木造建築の構法	[網野 禎昭]	秋学期授業/Fall		596
建築学科_専門科目_展開科目	【B3421】	建築の測量実習	[川口 剛]	年間授業/Yearly		597
建築学科_専門科目_展開科目	【B3425】	構造計算プログラミング2	(2014年度以前入学生用) [浜田 英明]	秋学期前半/Fall(1st half)		598
建築学科_専門科目_展開科目	【B3427】	空間の構造デザイン	[浜田 英明]	春学期授業/Spring		599
建築学科_専門科目_展開科目	【B3428】	鉄筋コンクリートのデザイン	[浜田 英明]	春学期授業/Spring		600
建築学科_専門科目_展開科目	【B3431】	構造デザインの実践2	(2014年度以前入学生用) [佐藤 良一]	秋学期後半/Fall(2nd half)		601
建築学科	【B3435】	構造実験	(2018年度以前入学生) [浜田 英明]	年間授業/Yearly		602
建築学科_専門科目_基礎科目	【B3441】	空調設備	[石川 裕司]	秋学期授業/Fall		603
建築学科	【B3442】	給排水・電気設備	(2018年度以前入学生) [石川 裕司]	秋学期授業/Fall		604
建築学科	【B3443】	建築設備総合デザイン	(2018年度以前入学生) [石川 裕司]	秋学期授業/Fall		606
建築学科_専門科目_展開科目	【B3446】	構造計算プログラミング	[浜田 英明]	秋学期前半/Fall(1st half)		608
建築学科_専門科目_展開科目	【B3449】	構造デザインの実践	[佐藤 良一]	秋学期後半/Fall(2nd half)		609
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3601】	測量実習 X	[今井 龍一]	年間授業/Yearly		610
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3602】	測量実習 Y	[渡辺 一博、大山 容一]	年間授業/Yearly	...	611
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3617】	構造力学2	[小笠原 照夫]	秋学期前半/Fall(1st half)		612
都市環境デザイン工学科	【B3619】	鋼構造デザイン X	(2018年度以前入学生) [内田 大介]	秋学期前半/Fall(1st half)		613
都市環境デザイン工学科	【B3620】	鋼構造デザイン Y	(2018年度以前入学生) [森 猛]	秋学期前半/Fall(1st half)	...	614
都市環境デザイン工学科	【B3621】	RC構造デザイン X	(2018年度以前入学生) [山本 佳士]	秋学期前半/Fall(1st half)		615
都市環境デザイン工学科	【B3622】	RC構造デザイン Y	(2018年度以前入学生) [山野辺 慎一]	秋学期前半/Fall(1st half)		616
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】	ゼミナール	[高見 公雄]	秋学期授業/Fall		617
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】	ゼミナール	[内田 大介]	秋学期授業/Fall		618
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】	ゼミナール	[溝渕 利明]	秋学期授業/Fall		619
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】	ゼミナール	[道奥 康治]	秋学期授業/Fall		620
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】	ゼミナール	[福井 恒明]	秋学期授業/Fall		621

都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】ゼミナール [今井 龍一]	秋学期授業/Fall	622
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】ゼミナール [鈴木 善晴]	秋学期授業/Fall	623
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】ゼミナール [酒井 久和]	秋学期授業/Fall	624
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3630】ゼミナール [渡邊 竜一]	秋学期授業/Fall	625
都市環境デザイン工学科	【B3634】総合演習（2018年度以前入学生）[溝渕 利明、鈴木 善晴、福井 恒明、道奥 康治、並河 努、今井 龍一、内田 大介]	秋学期前半/Fall(1st half)	626
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3637】インターンシップ（都市）[今井 龍一、内田 大介]	秋学期授業/Fall	627
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3645】上下水道システム [島田 裕康]	秋学期前半/Fall(1st half)	628
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3649】PC 構造デザイン [酒井 秀昭]	秋学期後半/Fall(2nd half)	629
都市環境デザイン工学科	【B3653】アセットマネジメント（2018年度以前入学生）[藤原 博]	秋学期前半/Fall(1st half)	630
都市環境デザイン工学科	【B3654】防災工学（2014 年度以前入学生用）[越川 海、東 博紀]	秋学期後半/Fall(2nd half)	632
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3660】建築法規（都市）[飯田 直彦]	春学期前半/Spring(1st half)	633
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3662】海洋環境工学 [東 博紀、越川 海]	秋学期後半/Fall(2nd half)	635
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3670】卒業研究 1（都市）[溝渕 利明]	春学期授業/Spring	636
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3671】卒業研究 1（都市）[今井 龍一]	春学期授業/Spring	637
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3672】卒業研究 1（都市）[内田 大介]	春学期授業/Spring	638
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3673】卒業研究 1（都市）[渡邊 竜一]	春学期授業/Spring	639
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3674】卒業研究 1（都市）[高見 公雄]	春学期授業/Spring	640
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3675】卒業研究 1（都市）[鈴木 善晴]	春学期授業/Spring	641
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3676】卒業研究 1（都市）[福井 恒明、福島 秀哉]	春学期授業/Spring	642
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3677】卒業研究 1（都市）[山本 佳士]	春学期授業/Spring	643
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3678】卒業研究 1（都市）[酒井 久和]	春学期授業/Spring	644
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3679】卒業研究 1（都市）[道奥 康治]	春学期授業/Spring	645
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3680】卒業研究 2（都市）[溝渕 利明]	秋学期授業/Fall	646
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3681】卒業研究 2（都市）[今井 龍一]	秋学期授業/Fall	647
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3682】卒業研究 2（都市）[内田 大介]	秋学期授業/Fall	648
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3683】卒業研究 2（都市）[渡邊 竜一]	秋学期授業/Fall	649
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3685】卒業研究 2（都市）[鈴木 善晴]	秋学期授業/Fall	650
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3686】卒業研究 2（都市）[福井 恒明、福島 秀哉]	秋学期授業/Fall	651
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3687】卒業研究 2（都市）[山本 佳士]	秋学期授業/Fall	652
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3690】卒業研究 2（都市）[道奥 康治]	秋学期授業/Fall	653
都市環境デザイン工学科_基礎科目_理工系_自然科学分野	【B3697】バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）[大山 聖一、小林 卓也]	秋学期授業/Fall	654
建築学科_基礎科目_理工系_自然科学分野	【B3698】バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）[大山 聖一、小林 卓也]	秋学期授業/Fall	655
システムデザイン学科_基礎科目_理工系_自然科学分野	【B3698】バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）[大山 聖一、小林 卓也]	秋学期授業/Fall	656
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3706】RC 構造学及演習 X（2019年度以降入学生）[山本 佳士]	秋学期授業/Fall	657
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目	【B3707】RC 構造学及演習 Y（2019年度以降入学生）[山野辺 慎一]	秋学期授業/Fall	658
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3711】プロジェクトスタジオ（都市）（2019年度以降入学生）[高見 公雄、福井 恒明、袴田 喜夫、椿 真吾]	秋学期授業/Fall	659
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3790】卒業研究 2（都市）[高見 公雄]	秋学期授業/Fall	660
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3791】卒業研究 2（都市）[酒井 久和]	秋学期授業/Fall	661
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目	【B3809】メカトロニクス [木村 文信]	秋学期後半/Fall(2nd half)	662
システムデザイン学科_専門科目_展開科目	【B3812】システム工学 [森 健一郎]	春学期後半/Spring(2nd half)	663
システムデザイン学科_専門科目_展開科目	【B3816】素材と機能 [岩瀬 扶佐子]	秋学期授業/Fall	665
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目	【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣]	秋学期授業/Fall	666
建築学科_専門科目_展開科目	【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣]	秋学期授業/Fall	667
システムデザイン学科_専門科目_展開科目	【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣]	秋学期授業/Fall	668
システムデザイン学科_専門科目_展開科目	【B3831】プロジェクトマネジメント（SD）[永田 義昭、村上 季史]	春学期授業/Spring	669
【C0242】国際文化協力 [松本 悟]	春学期授業/Spring		671
【C0243】平和学 [松本 悟]	秋学期授業/Fall		672

【C0410】メディア情報基礎 [大嶋 良明、甲 洋介、米倉 明男、菊池 司] 秋学期授業/Fall	673
【C0420,C0421,C0422,C0423,C0424】ネットワーク基礎 [和泉 順子、大嶋 良明、松田 裕幸] 春学期授業/Spring	674
【C0432】メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	676
【C0439】メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	678
【C0771】情報コミュニケーションⅡ [和泉 順子] 春学期授業/Spring	679
【C0810】道具のデザイン学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	680
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	681
【C0860】マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	683
【C1040】国際関係研究Ⅰ (アクターに着目した理論の捉え方) [松本 悟] 春学期授業/Spring	685
【C1041】国際関係研究Ⅱ (メコン流域国の開発と環境 (社会と自然)) [松本 悟] 秋学期授業/Fall	686
【C1048】実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	687
【C1049】途上国経済論 [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	688
【C1100】情報文化演習 [大嶋 良明] 春学期・秋学期/Spring・Fall	689
【C2104】現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	691
【C2105】ビジネスストーリー [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	692
【C2116】CSR 論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	693
【C2117】CSR 論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	694
【C2118】国際環境政策Ⅰ [國則 守生] 春学期授業/Spring	695
【C2119】国際環境政策Ⅱ [人間環境学部教員] 秋学期授業/Fall	696
【C2120】途上国経済論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	697
【C2121】途上国経済論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	698
【C2122】国際経済協力論Ⅰ [武貞 稔彦] 春学期授業/Spring	699
【C2123】国際経済協力論Ⅱ [武貞 稔彦] 秋学期授業/Fall	700
【C2208】ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	701
【C2226】ローカルスタディーズⅡ [坂本 昭夫] 秋学期授業/Fall	702
【C2227】災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	702
【C2240】ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	704
【C2402】サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	705
【C2413】自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	706
【C2414】自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	707
【C2416】環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	708
【C2417】環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	709
【C2418】環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	710
【C2433】自然環境論Ⅳ [中井 達郎] 秋学期授業/Fall	711
【C2500】公害防止管理論Ⅰ [大岡 健三] 春学期授業/Spring	712
【C3015】研究会 A [武貞 稔彦] 年間授業/Yearly	713
【C3024】研究会 A [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	714
【C3035】研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	715
【C3043】研究会 B [武貞 稔彦、竹本 研史] 年間授業/Yearly	716
【C3049】研究会 B [長谷川 直哉] 年間授業/Yearly	717
【C3052】研究会 A [高田 雅之] 年間授業/Yearly	718
【C3054】研究会 B [永野 秀雄] 春学期授業/Spring	719
【C3095】研究会 B [高田 雅之] 年間授業/Yearly	719
基幹科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7061】ビジネスキャリア入門D [酒井 理] 秋学期	720
基幹科目_選択 【C7081】ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期	721
基幹科目_選択 【C7086】生活設計論Ⅱ (生活設計) [林 奈生子] 秋学期	722
基幹科目_選択 【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ [梅崎 修] 春学期	723
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7160】キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) [宮脇 優子] 秋学期	724
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7163】教育相談 [土屋 弥生] 秋学期	725
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7165】教育相談 [遠藤 裕子] 秋学期	727
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7166】教育相談 [土屋 弥生] 春学期	728
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7171】教育心理学 [遠藤 裕子] 春学期	729
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7183】図書館情報学概論Ⅱ [丹 一信] 秋学期	730
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7186】図書館情報学概論Ⅱ [丹 一信] 春学期	731
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7278】産業論 [青木 成樹] 秋学期	732
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7282】流通・サービスビジネス論 [酒井 理] 春学期	734
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ 【C7313】NPO論 [山口 佳子] 秋学期	735

展開科目_選択必修(領域別)_ライフ【C7326】多文化社会論Ⅲ [加藤 丈太郎] 春学期	736
演習科目【C7477】演習(ビジネス)2年生 [松浦 民恵] 秋学期	737
演習科目【C7478】演習(ビジネス)3・4年生(春) [松浦 民恵] 春学期	738
演習科目【C7631】卒業論文(ビジネス) [松浦 民恵] 年間	739
関連科目【C7711】就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期	740
関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期	742
関連科目【C7902】図書館演習【通年】 [丹 一信] 年間	743
関連科目【C7903】図書館演習 [丹 一信] 年間	744
関連科目【C7930】ミュージアム教育論 [山下 治子] 秋学期	745
関連科目【C7948】現代生活・文化と社会教育Ⅰ [鈴木 悌遍] 春学期	746
専門教育科目_専門科目【J0329】データ構造とアルゴリズム [尾花 賢] 春学期授業/Spring	748
専門教育科目_専門科目【J0335】最適化 [佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	749
専門教育科目_専門科目【J0404】形式言語とオートマトン [日高 宗一郎] 春学期授業/Spring	750
専門教育科目_専門科目【J0422】新ネットワーク理論 [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	752
専門教育科目_専門科目【J0427】データベース [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	754
専門教育科目_専門科目【J0430】人工知能 [藤田 悟] 秋学期授業/Fall	755
専門教育科目_専門科目【J0439】コンピュータグラフィックス [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	757
専門教育科目_専門科目【J0440】パターン認識と機械学習 [若原 徹] 秋学期授業/Fall	758
専門教育科目_専門科目【J0445】デジタル信号処理 [小池 崇文] 春学期授業/Spring	759
専門教育科目_専門科目【J0446】画像処理 [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	760
専門教育科目_専門科目【J0447】音声情報処理 [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	761
講義・実習科目【K5254】地理学Ⅱ [朴 倬玄] 秋学期授業/Fall	762
【K5353】物理学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	763
講義・実習科目【K5353】物理学Ⅰ [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	764
講義・実習科目【K5354】物理学Ⅱ [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	765
【K5354】物理学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	766
講義・実習科目【K5355】物理学Ⅰ [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	767
【K5355】物理学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	768
【K5356】物理学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	769
General Education Courses / 総合教育科目_Tama Campus General Education Courses / 多摩総合教育科目	
【K5365】Basic Science for Global Environment A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	770
【K5365】Basic Science for Global Environment A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	771
【K5366】Basic Science for Global Environment B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	772
General Education Courses / 総合教育科目_Tama Campus General Education Courses / 多摩総合教育科目	
【K5366】Basic Science for Global Environment B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	773
【K6243】社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	774
【K6244】社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	775
【K6314】地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	776
【K6315】地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	777
【K6501】特別講義(寄付講座 証券市場論) [大和証券(株)] 春学期授業/Spring	778
講義・実習科目【L0106】職業社会論 [依田 素味] 春学期授業/Spring	779
情報教育基礎【L0131】コンピュータ入門 [湯本 正実] 春学期授業/Spring	780
情報教育基礎【L0132】プログラミング入門 [湯本 正実] 秋学期授業/Fall	781
講義・実習科目【L0571】メディア社会学への招待 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	782
講義・実習科目【L0593】国際社会入門 [岡野内 正] 春学期授業/Spring	782
講義・実習科目【L0613】環境倫理 [島田 昭仁] 春学期授業/Spring	783
専門演習【L1446】演習1・2 [岡野内 正] 年間授業/Yearly	784
専門演習【L1448】演習3(卒業論文) [岡野内 正] 年間授業/Yearly	785
専門演習【L1608】演習3(卒業論文) [大崎 雄二] 年間授業/Yearly	786
専門演習【L1611】演習1 [藤田 真文] 年間授業/Yearly	787
専門演習【L1612】演習2 [藤田 真文] 年間授業/Yearly	788
専門演習【L1613】演習3(卒業論文) [藤田 真文] 年間授業/Yearly	789
基礎演習【L5013】基礎演習Ⅰ [岡野内 正] 春学期授業/Spring	790
基礎演習【L5014】基礎演習Ⅱ [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	791
講義・実習科目【LA200】サステナビリティ論A [田中 充] 秋学期授業/Fall	792
講義・実習科目【LA204】環境政策論 [田中 充] 春学期授業/Spring	793
講義・実習科目【LA205】環境自治体論 [田中 充] 秋学期授業/Fall	794

講義・実習科目	【LA300】	グローバル市民社会論A〔岡野内 正〕	春学期授業/Spring	795
講義・実習科目	【LA308】	国際協力論〔岡野内 正〕	秋学期授業/Fall	796
講義・実習科目	【LA309】	イスラム社会論〔岡野内 正〕	春学期授業/Spring	797
講義・実習科目	【LB401】	国際社会と言語文化〔大崎 雄二〕	春学期授業/Spring	798
講義・実習科目	【LB410】	地域研究（中国）〔大崎 雄二〕	秋学期授業/Fall	799
講義・実習科目	【LD010-a】	クリエイティブ・ライティング〔梨屋 アリエ〕	春学期授業/Spring	799
講義・実習科目	【LD010-b】	クリエイティブ・ライティング〔梨屋 アリエ〕	秋学期授業/Fall	800
講義・実習科目	【LD010-c】	クリエイティブ・ライティング〔梨屋 アリエ〕	春学期授業/Spring	801
講義・実習科目	【LD010-d】	クリエイティブ・ライティング〔梨屋 アリエ〕	秋学期授業/Fall	802
講義・実習科目	【LD017】	プログラミングと論理的思考〔湯本 正実〕	春学期授業/Spring	803
講義・実習科目	【LD022-a】	メディアプログラミング実習〔湯本 正実〕	秋学期授業/Fall	804
講義・実習科目	【LD022-b】	メディアプログラミング実習〔湯本 正実〕	春学期授業/Spring	804
講義・実習科目	【LD101-b】	映像制作技法〔石橋 充行〕	春学期授業/Spring	805
講義・実習科目	【LD102-b】	映像制作実習〔石橋 充行〕	秋学期授業/Fall	806
講義・実習科目	【LD125】	広告制作実習〔川越 智勇〕	春学期授業/Spring	807
講義・実習科目	【LD135】	特講（広告制作実習）〔川越 智勇〕	秋学期授業/Fall	808
講義・実習科目	【LL007-d】	プログラミング初級〔湯本 正実〕	秋学期授業/Fall	809
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0530】	経営学〔新海 貴弘〕	春学期授業/Spring	811
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0550】	コミュニケーション論〔山本 浩〕	春学期授業/Spring	812
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0600】	情報リテラシーⅠ〔新海 貴弘〕	春学期授業/Spring	814
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0601】	情報リテラシーⅠ〔新海 貴弘〕	春学期授業/Spring	816
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0602】	情報リテラシーⅠ〔新海 貴弘〕	春学期授業/Spring	818
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0610】	情報リテラシーⅡ〔新海 貴弘〕	秋学期授業/Fall	820
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0611】	情報リテラシーⅡ〔新海 貴弘〕	秋学期授業/Fall	821
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0612】	情報リテラシーⅡ〔新海 貴弘〕	秋学期授業/Fall	822
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0660】	哲学〔小館 貴幸〕	秋学期授業/Fall	823
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0670】	生命倫理〔小館 貴幸〕	秋学期授業/Fall	824
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0710】	障害者福祉論〔山岸 倫子〕	春学期授業/Spring	825
総合教育科目_視野形成科目（必修選択）	【M0730】	基礎科学〔瀬戸 宏明〕	秋学期授業/Fall	826
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）	【M1040】	スポーツ哲学〔早瀬 健介〕	春学期授業/Spring	827
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）	【M1080】	運動生理学概論〔高見 京太〕	春学期授業/Spring	829
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）	【M1140】	スポーツ史〔山本 浩〕	秋学期授業/Fall	830
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）	【M1150】	生理学〔高見 京太〕	春学期授業/Spring	831
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M1650】	スポーツ文化論〔早瀬 健介〕	春学期授業/Spring	833
専門教育科目_専門基礎科目（講義科目）	【M1730】	スポーツリスクマネジメント〔木下 訓光〕	春学期授業/Spring	834
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M1730】	スポーツリスクマネジメント〔木下 訓光〕	春学期授業/Spring	837
専門教育科目_専門基幹科目	【M1780】	予防医学概論〔瀬戸 宏明〕	秋学期授業/Fall	839
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2060】	運動処方・負荷テスト〔木下 訓光〕	春学期授業/Spring	840
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2080】	生活習慣病と身体活動〔木下 訓光〕	春学期授業/Spring	842
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2090】	運動生理学〔瀬戸 宏明〕	春学期授業/Spring	844
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2190】	運動負荷テスト実習〔木下 訓光〕	秋学期授業/Fall	845
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2191】	運動負荷テスト実習〔木下 訓光〕	秋学期授業/Fall	846
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2250】	スポーツ医学（内科系）〔瀬戸 宏明〕	春学期授業/Spring	847
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2260】	スポーツ医学（外科系）〔瀬戸 宏明〕	秋学期授業/Fall	848
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2320】	スポーツ医科学実習〔木下 訓光、瀬戸 宏明〕	秋学期授業/Fall	849
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2321】	スポーツ医科学実習〔木下 訓光、瀬戸 宏明〕	秋学期授業/Fall	851
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2370】	スポーツ医学A〔瀬戸 宏明〕	春学期授業/Spring	852
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目	【M2400】	スポーツ医学B〔瀬戸 宏明〕	秋学期授業/Fall	853
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3020】	スポーツ経済論〔宮下 量久〕	秋学期授業/Fall	855
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目	【M3080】	スポーツメディア論〔山本 浩〕	秋学期授業/Fall	856
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4380】	バドミントン指導論演習〔升 佑二郎〕	秋学期授業/Fall	857
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4550】	剣道指導論演習〔古澤 伸晃〕	秋学期授業/Fall	858
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4551】	剣道指導論演習〔古澤 伸晃〕	秋学期授業/Fall	859
専門教育科目_スポーツコーチングコース専門科目	【M4640】	バドミントン実習〔升 佑二郎〕	春学期授業/Spring	860
専門教育科目_専門演習	【M5016】	専門演習Ⅰ〔木下 訓光〕	年間授業/Yearly	862

専門教育科目_専門演習【M5028】専門演習Ⅰ〔瀬戸 宏明〕年間授業/Yearly	863
専門教育科目_専門演習【M5116】専門演習Ⅱ〔木下 訓光〕年間授業/Yearly	864
専門教育科目_専門演習【M5126】専門演習Ⅱ〔山本 浩〕年間授業/Yearly	865
専門教育科目_専門演習【M5128】専門演習Ⅱ〔瀬戸 宏明〕年間授業/Yearly	866
専門教育科目_専門演習【M5216】専門演習Ⅲ〔木下 訓光〕年間授業/Yearly	868
専門教育科目_専門演習【M5226】専門演習Ⅲ〔山本 浩〕年間授業/Yearly	869
専門教育科目_専門演習【M5228】専門演習Ⅲ〔瀬戸 宏明〕年間授業/Yearly	870
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0005】基礎演習Ⅰ〔佐野 竜平〕春学期授業/Spring	871
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0017】基礎演習Ⅱ〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	872
福祉コミュニティ学科_総合教育科目_学部共通科目【N0025】フィールドスタディ入門〔長山 恵一、水野 雅男、宮城 孝〕秋学期授業/Fall	872
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1002】ソーシャルワークⅠ（相談援助の基盤と専門職）〔佐藤 蘭美〕秋学期授業/Fall	873
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1003】地域問題入門〔野田 岳仁〕春学期授業/Spring	874
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基礎科目【N1004】まちづくりの思想〔佐野 竜平、水野 雅男、保井 美樹、図司 直也、野田 岳仁〕春学期授業/Spring	875
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1051】地域福祉論〔宮城 孝〕秋学期授業/Fall	876
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1056】社会的包摂論〔水野 雅男〕秋学期授業/Fall	877
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1057】心理学的支援法〔末武 康弘〕春学期授業/Spring	878
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1060】ソーシャルワークⅢ（方法）〔伊藤 正子〕秋学期授業/Fall	879
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1108】都市住宅政策論〔水野 雅男〕春学期授業/Spring	880
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1112】司法福祉論〔辰野 文理〕秋学期授業/Fall	881
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1113】国際協力論〔佐野 竜平〕春学期授業/Spring	882
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1118】Community Based Inclusive Development〔佐野 竜平〕春学期授業/Spring	883
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1119】アジア地域開発論〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	883
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1120】Disability and Development in Asia〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	884
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1304】障害者福祉論〔眞保 智子〕秋学期授業/Fall	884
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1313】教育心理学特講〔安齊 順子〕春学期授業/Spring	885
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1317】コミュニティソーシャルワーク〔宮城 孝〕春学期授業/Spring	886
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1323】多文化ソーシャルワーク〔伊藤 正子〕春学期授業/Spring	887
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1329】死生観とソーシャルワーク〔佐藤 蘭美〕春学期授業/Spring	888
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1451】コミュニティ心理学〔榊原 佐和子〕秋学期授業/Fall	889
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1454】臨床心理学概論〔金築 優〕春学期授業/Spring	890
臨床心理学科_専門教育科目_専門基幹科目【N1455】心理療法〔久保田 幹子〕春学期授業/Spring	891
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_専門展開科目【N1456】精神疾患とその治療〔関谷 秀子〕秋学期授業/Fall	892
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1502】社会・集団・家族心理学〔榊原 佐和子〕秋学期授業/Fall	893
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1503】児童精神医学〔関谷 秀子〕春学期授業/Spring	894
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1507】精神分析学〔中 康〕秋学期授業/Fall	895
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1509】臨床心理学特講〔末武 康弘〕秋学期授業/Fall	895
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1510】健康・医療心理学〔久保田 幹子〕秋学期授業/Fall	896
臨床心理学科_専門教育科目_専門展開科目【N1511】認知行動療法〔金築 優〕秋学期授業/Fall	897
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2002】専門演習ⅠA〔伊藤 正子〕春学期授業/Spring	898
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2005】専門演習ⅠA〔佐藤 蘭美〕春学期授業/Spring	898
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2006】専門演習ⅠA〔佐野 竜平〕春学期授業/Spring	899
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2013】専門演習ⅠA〔水野 雅男〕春学期授業/Spring	900
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2014】専門演習ⅠA〔宮城 孝〕春学期授業/Spring	901
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2023】専門演習ⅠA〔久保田 幹子〕春学期授業/Spring	902
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2024】専門演習ⅠA〔末武 康弘〕春学期授業/Spring	903
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2032】専門演習ⅠB〔伊藤 正子〕秋学期授業/Fall	904
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2035】専門演習ⅠB〔佐藤 蘭美〕秋学期授業/Fall	904
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2036】専門演習ⅠB〔佐野 竜平〕秋学期授業/Fall	905
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2043】専門演習ⅠB〔水野 雅男〕秋学期授業/Fall	906
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目【N2044】専門演習ⅠB〔宮城 孝〕秋学期授業/Fall	906

臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2053】 専門演習ⅠB [久保田 幹子] 秋学期授業/Fall	907
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2054】 専門演習ⅠB [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	908
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2102】 専門演習ⅡA [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	908
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2105】 専門演習ⅡA [佐藤 繭美] 春学期授業/Spring	909
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2106】 専門演習ⅡA [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	910
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2113】 専門演習ⅡA [水野 雅男] 春学期授業/Spring	910
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2114】 専門演習ⅡA [宮城 孝] 春学期授業/Spring	911
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2123】 専門演習ⅡA [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	911
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2124】 専門演習ⅡA [末武 康弘] 春学期授業/Spring	912
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2132】 専門演習ⅡB [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	913
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2135】 専門演習ⅡB [佐藤 繭美] 秋学期授業/Fall	914
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2136】 専門演習ⅡB [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	914
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2143】 専門演習ⅡB [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	915
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2144】 専門演習ⅡB [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	915
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2153】 専門演習ⅡB [久保田 幹子] 秋学期授業/Fall	916
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2154】 専門演習ⅡB [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	916
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2202】 専門演習ⅢA [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	917
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2206】 専門演習ⅢA [佐野 竜平] 春学期授業/Spring	917
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2214】 専門演習ⅢA [宮城 孝] 春学期授業/Spring	918
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2223】 専門演習ⅢA [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	918
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2232】 専門演習ⅢB [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	919
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2236】 専門演習ⅢB [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	920
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2244】 専門演習ⅢB [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	921
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2253】 専門演習ⅢB [久保田 幹子] 秋学期授業/Fall	921
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2254】 専門演習ⅢB [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	922
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2302】 卒業論文 [伊藤 正子] 年間授業/Yearly	923
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2306】 卒業論文 [佐野 竜平] 年間授業/Yearly	924
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2313】 卒業論文 [水野 雅男] 年間授業/Yearly	924
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2314】 卒業論文 [宮城 孝] 年間授業/Yearly	925
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2323】 卒業論文 [久保田 幹子] 年間授業/Yearly	926
臨床心理学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2324】 卒業論文 [末武 康弘] 年間授業/Yearly	927
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2373】 コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ [佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁] 秋学期授業/Fall	928
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2374】 コミュニティスタディ実習 (2017 年度以前入学生) [佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁] 年間授業/Yearly	929
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2404】 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [眞保 智子] 秋学期授業/Fall	929
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2405】 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [眞保 智子] 春学期授業/Spring	930
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2421,N2422,N2423,N2424,N2425,N2426,N2427,N2428】 ソーシャルワーク演習Ⅱ [石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 繭美、中村 律子、柴崎 祐美、西田 ちゆき、高良 麻子] 春学期授業/Spring	931
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2431,N2432,N2433,N2434】 ソーシャルワーク演習Ⅲ [柴崎 祐美、西田 ちゆき、根岸 弓、西田 純子] 春学期授業/Spring	932
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2441,N2442,N2433,N2444】 ソーシャルワーク演習Ⅳ [柴崎 祐美、西田 ちゆき、杉本 豊和、西田 純子] 春学期授業/Spring	933
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2451,N2452,N2453,N2454,N2455,N2456,N2457,N2458】 ソーシャルワーク演習Ⅴ [石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 繭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子] 秋学期授業/Fall	934
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2461,N2462,N2463,N2464,N2465,N2466,N2467,N2468】 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ [石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 繭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子] 秋学期授業/Fall	935
福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目	【N2471,N2472,N2473,N2474,N2475,N2476,N2478,N2479】 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ [石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 繭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子] 春学期授業/Spring	936

福祉コミュニティ学科_専門教育科目_演習・実習科目 【N2491,N2492,N2493,N2497,N2498】 ソーシャルワーク実習 [石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 蘭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子]	
年間授業/Yearly	937
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0115】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0116】 情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	939
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0117】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	940
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0118】 情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0123】 情報処理演習Ⅰ [松田 裕幸] 春学期授業/Spring	942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0124】 情報処理演習Ⅱ [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0125】 情報処理演習Ⅰ [松田 裕幸] 春学期授業/Spring	944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 リベラルアーツ科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0126】 情報処理演習Ⅱ [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	945
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0435】 キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0436】 キャリアデザイン入門 [藤澤 広美] 春学期授業/Spring	947
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0621】 リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ: 岩田和子、講師 (ゲストスピーカー): 山本洋一郎氏他] 春学期授業/Spring	949
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2015】 法学Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2016】 法学Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2031】 法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 春学期授業/Spring	952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2032】 法学 (日本国憲法) [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】 経済学Ⅰ [西崎 文平] 春学期授業/Spring	954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】 経済学Ⅱ [西崎 文平] 秋学期授業/Fall	955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】 マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】 マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6127】 アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	958
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6128】 アジア・太平洋島嶼国際関係史B [新崎 盛吾] 秋学期授業/Fall	959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5011】 フランス語ⅠⅠ [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	963
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5012】 フランス語ⅠⅡ [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5061】 フランス語ⅡⅠ [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5062】 フランス語ⅡⅡ [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	966

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5263】 フランス語 3-I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_200 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5264】 フランス語 3-II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	968
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0005】 ソーシャルワーク特論 I [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	969
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0007】 ソーシャルワーク理論研究特論 [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	970
福祉社会専攻_専門展開科目 (ソーシャルワーク系) 【S0009】 地域福祉特論 [宮城 孝] 春学期授業/Spring	971
福祉社会専攻_演習科目 【S0102】 論文研究演習 I [伊藤 正子] 年間授業/Yearly	972
福祉社会専攻_演習科目 【S0111】 論文研究演習 I [水野 雅男] 年間授業/Yearly	973
福祉社会専攻_演習科目 【S0204】 実践研究演習 I [佐藤 蘭美] 年間授業/Yearly	974
福祉社会専攻_演習科目 【S0205】 実践研究演習 I [佐野 竜平] 年間授業/Yearly	975
福祉社会専攻_演習科目 【S0210】 実践研究演習 I [水野 雅男] 年間授業/Yearly	976
福祉社会専攻_演習科目 【S0252】 実践研究演習 II [宮城 孝] 年間授業/Yearly	977
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1001】 臨床心理基礎実習 [久保田 幹子、末武 康弘] 年間授業/Yearly	978
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1003】 心理支援に関する理論と実践 [末武 康弘] 春学期授業/Spring	979
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1004】 臨床心理面接特論 II [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	980
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1007】 心理実践実習 [金築 優、丹羽 郁夫] 年間授業/Yearly	981
臨床心理学専攻_専門基幹科目 【S1008】 臨床心理実習 II [金築 優、関谷 秀子] 年間授業/Yearly	982
臨床心理学専攻_専門展開科目 【S1074】 医療心理学特論 [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	983
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1103】 論文研究指導 [久保田 幹子] 年間授業/Yearly	984
臨床心理学専攻_研究指導科目 【S1104】 論文研究指導 [末武 康弘] 年間授業/Yearly	985
【S2023】 福祉社会系特殊講義 I [眞保 智子] 春学期授業/Spring	986
【S2043】 福祉臨床系特殊講義 I [伊藤 正子] 春学期授業/Spring	987
【S2044】 福祉臨床系特殊講義 II [伊藤 正子] 秋学期授業/Fall	987
【S2047】 福祉臨床系特殊講義 I [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring	988
【S2048】 福祉臨床系特殊講義 II [佐藤 蘭美] 秋学期授業/Fall	989
【S2049】 福祉臨床系特殊講義 I [宮城 孝] 春学期授業/Spring	990
【S2050】 福祉臨床系特殊講義 II [宮城 孝] 秋学期授業/Fall	991
【S2083】 地域・文化系特殊講義 I [水野 雅男] 春学期授業/Spring	992
【S2084】 地域・文化系特殊講義 II [水野 雅男] 秋学期授業/Fall	993
【S2103】 臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 I [末武 康弘] 春学期授業/Spring	994
【S2104】 臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 II [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	995
【S2123】 臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 I [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	996
【S2124】 臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 II [久保田 幹子] 秋学期授業/Fall	997
【S2202】 人間福祉特別演習 I [伊藤 正子] 年間授業/Yearly	998
【S2207】 人間福祉特別演習 I [佐藤 蘭美] 年間授業/Yearly	999
【S2218】 人間福祉特別演習 I [水野 雅男] 年間授業/Yearly	1000
【S2219】 人間福祉特別演習 I [宮城 孝] 年間授業/Yearly	1001
【S2252】 人間福祉特別演習 II [宮城 孝] 年間授業/Yearly	1002
【S2302】 人間福祉特別演習 III [末武 康弘] 年間授業/Yearly	1003
基礎科目 【S5030】 スポーツ健康学特論 II (自然科学) [木下 訓光、瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	1004
研究指導 【S9220】 スポーツ健康学演習 III [山本 浩] 春学期授業/Spring	1005
研究指導 【S9225】 スポーツ健康学演習 III [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	1006
研究指導 【S9320】 スポーツ健康学演習 IV [山本 浩] 秋学期授業/Fall	1007
研究指導 【S9325】 スポーツ健康学演習 IV [瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall	1008
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目 【U0101】 近現代デザイン概論 [渡邊 眞理] 秋学期授業/Fall	1009
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目 【U0101】 近現代デザイン概論 [渡邊 眞理] 秋学期授業/Fall	1010
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目 【U0101】 近現代デザイン概論 [渡邊 眞理] 秋学期授業/Fall	1011
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目 【U0102】 環境工学概論 [田中 俊彦] 春学期授業/Spring	1012
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目 【U0102】 環境工学概論 [田中 俊彦] 春学期授業/Spring	1013
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目 【U0102】 環境工学概論 [田中 俊彦] 春学期授業/Spring	1014
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目 【U0103】 景観デザイン概論 [福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	1015
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目 【U0103】 景観デザイン概論 [福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	1016
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目 【U0103】 景観デザイン概論 [福井 恒明] 春学期前半/Spring(1st half)	1017

修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論〔高見 公雄〕春学期後半/Spring(2nd half)	1018
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論〔高見 公雄〕春学期後半/Spring(2nd half)	1019
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0104】地域・都市再生概論〔高見 公雄〕春学期後半/Spring(2nd half) ...	1020
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語〔大友 敬三〕春学期授業/Spring	1021
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語〔大友 敬三〕春学期授業/Spring	1023
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0105】環境技術英語〔大友 敬三〕春学期授業/Spring	1025
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論〔宮武 久佳〕秋学期後半/Fall(2nd half)	1027
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論〔宮武 久佳〕秋学期後半/Fall(2nd half)	1028
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0107】知的財産権論〔宮武 久佳〕秋学期後半/Fall(2nd half) ..	1029
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論〔今橋 隆〕秋学期前半/Fall(1st half)	1030
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論〔今橋 隆〕秋学期前半/Fall(1st half)	1031
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0108】現代産業論〔今橋 隆〕秋学期前半/Fall(1st half) ..	1032
修士課程_建築学専攻_共通基盤科目【U0110】海外研修プログラム 2〔渡邊 眞理、網野 禎昭、浜田 英明〕秋学期授業/Fall	1033
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_共通基盤科目【U0111】海外研修プログラム 2〔溝渕 利明〕秋学期授業/Fall ..	1034
修士課程_システムデザイン専攻_共通基盤科目【U0112】海外研修プログラム 2〔田中 豊〕秋学期授業/Fall	1035
修士課程_建築学専攻_専門科目【U1100】建築構造力学特論〔那花 謙二〕春学期授業/Spring	1036
修士課程_建築学専攻_専門科目【U1101】曲面構造特論〔那花 謙二〕秋学期授業/Fall	1037
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1317】建築プロフェッショナル総合演習 1〔下吹越 武人、志賀 良和、加用 現空、坂田 泉、藤澤 百合〕春学期授業/Spring	1038
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1318】建築プロフェッショナル総合演習 2〔下吹越 武人、石渡 智秋、稲葉 裕、小川 重雄、中川 龍吾、鈴木 研一〕秋学期授業/Fall	1039
修士課程_建築学専攻_スタジオ科目【U1332】建築構造デザイン〔浜田 英明〕春学期授業/Spring	1040
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2001】都市環境デザイン工学基礎 2〔高見 公雄、内田 大介、酒井 久和〕春学期後半/Spring(2nd half)	1041
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2002】災害リスクマネジメント概論〔馬場 仁志〕春学期前半/Spring(1st half)	1042
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_基盤科目【U2004】材料科学概論〔鯉渕 清〕春学期後半/Spring(2nd half) ..	1043
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2102】比較都市環境デザイン〔高見 公雄、伊藤 香織、橋本 圭央〕秋学期後半/Fall(2nd half)	1044
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2105】水域環境の保全〔佐合 純造、伊藤 一正、和田 彰、阿部 充、酒井 憲司、吉富 友恭、川崎 秀明、鈴木 享子、CHAVOSHIAN SEYED ALI〕秋学期前半/Fall(1st half)	1045
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2109】社会基盤施設の資産管理〔丸山 明〕春学期授業/Spring ..	1046
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2110】鋼橋の点検・診断・対策技術〔杉本 一郎〕春学期後半/Spring(2nd half)	1047
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_専門科目【U2111】複合材料構造解析〔山本 佳士〕春学期後半/Spring(2nd half) ..	1048
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2300】サステイナブル都市デザイン〔高見 公雄〕春学期後半/Spring(2nd half)	1049
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_スタジオ科目【U2302】構造解析と設計〔奥井 義昭〕春学期前半/Spring(1st half)	1050
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3000】テクニカルライティング〔豊島 純子〕春学期授業/Spring ..	1051
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3002】ヒューマンサイエンス論〔森 健治〕秋学期授業/Fall	1053
修士課程_システムデザイン専攻_基盤科目【U3006】身体表現論〔山中 玲子、観世 鏡之丞、観世 喜正、中司 由起子〕秋学期授業/Fall	1054
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3100】ソシオシステムデザイン論〔廣田 尚子〕春学期前半/Spring(1st half)	1055
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3101】インダストリアルデザイン論〔佐藤 康三〕春学期後半/Spring(2nd half)	1056
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3102】インタフェースデザイン論〔土屋 雅人〕秋学期授業/Fall ...	1057
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3114】品質マネジメント論〔池庄司 雅臣〕春学期授業/Spring	1058
修士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3115】ヒューマニティデザイン論〔安積 伸〕秋学期後半/Fall(2nd half) ..	1059
修士課程_システムデザイン専攻_スタジオ科目【U3300】システムデザインワークショップ (PBL)〔安積 伸、岩月 正見、野々部 宏司、峯元 長、SEONG YOUNG AH〕春学期授業/Spring	1060

博士課程_システムデザイン専攻_専門科目【U3500】デザイン創生学特論〔佐藤 康三、土屋 雅人、安積 伸〕春 学期授業/Spring	1061
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5403】建築学修士研修 1 (2014 年度以降入学用)〔渡邊 眞理〕春学 期授業/Spring	1062
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5411】建築学修士研修 1 (2014 年度以降入学用)〔浜田 英明〕春学 期授業/Spring	1063
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5418】建築学修士研修 2(2014 年度以降入学用)〔渡邊 眞理〕春学期 授業/Spring	1064
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5426】建築学修士研修 2(2014 年度以降入学用)〔浜田 英明〕春学期 授業/Spring	1065
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5433】建築学修士プロジェクト 1〔渡邊 眞理〕秋学期授業/Fall	1066
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5441】建築学修士プロジェクト 1〔浜田 英明〕秋学期授業/Fall	1067
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5445】修士論文(建築)〔渡邊 眞理〕秋学期授業/Fall	1068
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5445】修士論文(建築)〔浜田 英明〕秋学期授業/Fall	1069
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5448】建築学修士プロジェクト 2〔渡邊 眞理〕秋学期授業/Fall	1070
修士課程_建築学専攻_プロジェクト科目【U5456】建築学修士プロジェクト 2〔浜田 英明〕秋学期授業/Fall	1071
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6403】都市環境デザイン工学研究 1 (2014 年度以降入 学)〔内田 大介〕春学期授業/Spring	1072
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6404】都市環境デザイン工学研究 1 (2014 年度以降入 学)〔高見 公雄〕春学期授業/Spring	1073
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6407】都市環境デザイン工学研究 1 (2014 年度以降入 学)〔福井 恒明〕春学期授業/Spring	1074
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6408】都市環境デザイン工学研究 1 (2014 年度以降入 学)〔酒井 久和〕春学期授業/Spring	1075
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6413】都市環境デザイン工学研究 2 (2014 年度以降入 学)〔内田 大介〕秋学期授業/Fall	1076
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6414】都市環境デザイン工学研究 2 (2014 年度以降入 学)〔高見 公雄〕秋学期授業/Fall	1077
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6417】都市環境デザイン工学研究 2 (2014 年度以降入 学)〔福井 恒明〕秋学期授業/Fall	1078
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6418】都市環境デザイン工学研究 2 (2014 年度以降入 学)〔酒井 久和〕秋学期授業/Fall	1079
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6423】都市環境デザイン工学研究 3 (2014 年度以降入 学)〔内田 大介〕春学期授業/Spring	1080
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6424】都市環境デザイン工学研究 3 (2014 年度以降入 学)〔高見 公雄〕春学期授業/Spring	1081
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6427】都市環境デザイン工学研究 3 (2014 年度以降入 学)〔福井 恒明〕春学期授業/Spring	1082
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6428】都市環境デザイン工学研究 3 (2014 年度以降入 学)〔酒井 久和〕春学期授業/Spring	1083
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6430】修士論文(都市)〔高見 公雄〕秋学期授業/Fall	1084
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6430】修士論文(都市)〔福井 恒明〕秋学期授業/Fall	1085
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6430】修士論文(都市)〔酒井 久和〕秋学期授業/Fall	1086
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6430】修士論文(都市)〔内田 大介〕秋学期授業/Fall	1087
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6433】都市環境デザイン工学研究 4 (2014 年度以降入 学)〔内田 大介〕秋学期授業/Fall	1088
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6434】都市環境デザイン工学研究 4 (2014 年度以降入 学)〔高見 公雄〕秋学期授業/Fall	1089
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6437】都市環境デザイン工学研究 4 (2014 年度以降入 学)〔福井 恒明〕秋学期授業/Fall	1090
修士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6438】都市環境デザイン工学研究 4 (2014 年度以降入 学)〔酒井 久和〕秋学期授業/Fall	1091
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6600】都市環境デザイン工学特別研究 1_2014 年度以降 入学〔道奥 康治〕春学期授業/Spring	1092
博士課程_都市環境デザイン工学専攻_プロジェクト科目【U6610】都市環境デザイン工学特別研究 2_2014 年度以降 入学〔道奥 康治〕秋学期授業/Fall	1093

修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7401】システムデザイン修士研修1〔安積 伸〕春学期授業/Spring.....	1094
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7406】システムデザイン修士研修1〔佐藤 康三〕春学期授業/Spring.....	1095
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7412】システムデザイン修士研修2〔安積 伸〕秋学期授業/Fall.....	1096
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7417】システムデザイン修士研修2〔佐藤 康三〕秋学期授業/Fall.....	1097
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7423】システムデザイン修士研修3〔安積 伸〕春学期授業/Spring.....	1098
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7428】システムデザイン修士研修3〔佐藤 康三〕春学期授業/Spring.....	1099
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7434】システムデザイン修士研修4〔安積 伸〕秋学期授業/Fall.....	1100
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7439】システムデザイン修士研修4〔佐藤 康三〕秋学期授業/Fall.....	1101
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7445】システムデザイン修士プロジェクト1〔安積 伸〕春学期授業/Spring.....	1102
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7456】システムデザイン修士プロジェクト2〔安積 伸〕秋学期授業/Fall.....	1103
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7461】システムデザイン修士プロジェクト2〔佐藤 康三〕秋学期授業/Fall.....	1104
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7467】システムデザイン修士プロジェクト3〔安積 伸〕春学期授業/Spring.....	1105
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7472】システムデザイン修士プロジェクト3〔佐藤 康三〕春学期授業/Spring.....	1106
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7478】システムデザイン修士プロジェクト4〔安積 伸〕秋学期授業/Fall.....	1107
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7483】システムデザイン修士プロジェクト4〔佐藤 康三〕秋学期授業/Fall.....	1108
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7901】修士論文(SD)〔安積 伸〕秋学期授業/Fall.....	1109
修士課程_システムデザイン専攻_プロジェクト科目【U7906】修士論文(SD)〔佐藤 康三〕秋学期授業/Fall.....	1110

情報学入門Ⅰ/Ⅱ(2019年度以降入学者)・情報科学実習Ⅰ/Ⅱ(2018年度以前入学者) 1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近では、様々な場面においてコンピュータが利用され、必須のものとなっている。さらに、スマートフォン、携帯端末に代表されるように、コンピュータネットワークに接続し、コンピュータを用いて情報交換することができるようになって来た。我々の生活のあらゆる場面で広く活用され、道具として使いこなすことは、誰にとっても当然のこととして要求されるようになっていく。

情報学に関する専門基礎科目の目標は、皆さんが PC や情報ネットワークに慣れ親しみ、情報化社会の中で問題を解決するために有効に活用することができる能力を養うことである。

具体的には、第一に、コンピュータである情報通信機器に慣れ親しみ、「読み・書き・算盤」に相当する情報リテラシーを学ぶことであり、不自由なく PC や情報ネットワークを使いこなすことができるようにすることである。第二に、既存のソフトウェアを扱うことができるようになるだけでなく、独自のプログラムを作成し、自分自身で問題解決ができるようになることである。第三は、情報リテラシーを学ぶことによって、情報を使いこなしながら生活していく基礎能力を養うことである。

皆さんが高校までに習得した一般的な基礎に加えて、大学生にふさわしくさらに進んだ情報学基礎を学ぶことができるように、本実習科目では以下の6つのコースを設けている。自分の興味にあったコースを選び、さらに力をつけましょう。

【到達目標】

情報学の基礎となる概念と技術を学び、技術を理解することを目標とする。評価に関わる目標は、各コース毎に異なる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

〔表計算コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために表計算ソフトウェアを用いて様々なデータの整理、分析を行い、ワークシート上での様々な計算をする方法やグラフの作成法等を学ぶ。

〔データ演習コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するために初級プログラミング言語として一般的な Visual Basic for Applications を用いた初歩的なプログラミングを行う。結果として、様々な問題に対する解決のための思考能力を養う。

〔データベースコース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、必要な情報を収集し、分析するためにデータベースソフトウェアを用いてデータの収集・整理・計算・管理方法を学び、グラフの作成法等も学ぶ。

〔空間情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、様々な学問分野や業種で利用されることが多くなった電子地図や位置情報を持った統計情報などの扱い方、それらを用いた分布図の作成法、簡易 GIS ソフトを用いた空間情報解析の基礎能力を身につける。

〔メディア情報処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、画像編集ソフトを利用した基礎的な画像加工ができる。描画ソフトを利用した描画の基礎的な方法を知る。DTP ソフトを利用した紙面デザインの基礎的な技術を習得する。

〔言語データ処理コース〕

情報学基礎として、コンピュータ上で文書を書き、メールを受渡し、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーションをする実習等様々な基礎を学ぶ。以上によりコンピュータへの情報の入力や操作に慣れることが第一目標である。さらに、後半には各教員の専門に近い形でテーマ設定により問題解決能力を養う。例えば、文字ベースのデータおよび音声データの入手や分析に必要な IT スキルの基本を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
各	コー	各コースのページを参
ス	の	照。
ペ	ー	ジ
ー		を参照。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各コースのページを参照。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各コースのページを参照。

【参考書】

各コースのページを参照。

【成績評価の方法と基準】

各コースのページを参照。

【学生の意見等からの気づき】

各コースのページを参照。

【学生が準備すべき機器他】

各コースのページを参照。

【その他の重要事項】

各コースのページを参照。

【関連科目】

各コースのページを参照。

【Outline and objectives】

The goal of these courses of informatics is to get the ability for you to become familiar with PCs and information networks and to use them effectively to solve problems in the information society.

Specifically, the first is to become familiar with information and communication equipment and to learn information literacy. Students will not only be able to work with existing software, but will be able to create your own programs and solve problems yourself.

The following six courses are set up in this practical subject so that students can learn the basics of informatics.

ECN100TG
経済学入門 I / 経済学入門 A(前期メディア)
平田 英明
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2 単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしています。

【到達目標】

現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学，自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	市場における需要と供給 1	需要の基礎を学びます。
第 2 回	市場における需要と供給 2	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第 3 回	市場における需要と供給 3	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第 4 回	市場における需要と供給 4	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第 5 回	弾力性とその応用 1	需要の価格弾力性について学びます。
第 6 回	弾力性とその応用 2	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第 7 回	需給と政府の政策 1	価格規制の基礎を学びます。
第 8 回	需給と政府の政策 2	課税の基礎を学びます。
第 9 回	消費者、生産者、市場の効率性 1	余剰分析の基礎を学びます。
第 10 回	消費者、生産者、市場の効率性 2	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第 11 回	課税の応用 1	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第 12 回	課税の応用 2	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第 13 回	国際貿易 1	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。
第 14 回	国際貿易 2	貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

【テキスト（教科書）】

『マンキュー経済学 I ミクロ編（第4版）』N. グレゴリ・マンキュー著（東洋経済新報社）
第 3 版をベースに授業は作成していますので、入手できるようにしたら第 3 版を使って頂いて全く問題ありません。

【参考書】

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 40%、レポート試験 60%で評価する予定です。いずれも 4 択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。

【学生の意見等からの気づき】

中間試験（中間レポート）、期末試験後、模範解答を求める声がたまに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いしています。中間試験がよくても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろな理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

【その他の重要事項】

過去に試験について、Yahoo 知恵袋で質問をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間（2 日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有する。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有する。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたい。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

MAN200TG
マーケティング論 I (前期メディア)
竹内 淑恵
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2 単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のサービス化、グローバル化、ICT の進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商学科：経営学・商学」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で授業を進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	第 1 章 マーケティング発想法 －ニューコークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第 02 回	第 2 章 マーケティング・ミックスによる顧客創造 －ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの 4P(製品、価格、流通、プロモーション) によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第 03 回	第 3 章 製品による顧客創造 －カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第 04 回	第 4 章 価格による顧客創造 －サントリー ザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第 05 回	第 5 章 チャネルによる顧客創造 －ネスレ日本 ネスカフェ アンパサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。
第 06 回	第 6 章 コミュニケーションにおける顧客創造 －ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定 (焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第 07 回	第 7 章 顧客理解 －ライオン株式会社「Ban 汗ブロックロールオン」	Ban 汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第 08 回	第 8 章 関係構築 －ガンホー・オンライン・エンターテイメント バズドラ	バズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第 09 回	第 9 章 デジタル・マーケティング －ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第 10 回	第 10 章 デイモンドチェーン －カルビー ポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2 つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。

第 11 回	第 11 章 ブランド構築 －マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第 12 回	第 12 章 営業活動 －カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第 13 回	第 13 章 マーケティングの戦略展開 －花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第 14 回	第 14 章 社会共生 －トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第 15 回	第 15 章 マーケティング 3.0 － P&G	P&G のマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連科目としてマーケティング論Ⅱがあります。あわせて履修するようにしてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1 からのマーケティング・デザイン』碩学舎 (2016 年)。

【参考書】

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版 (2007 年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第 5 版』有斐閣 (2016 年)。
- ・コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵 直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版 (2014 年)。

【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト 1,2 は各々 25 %、トータル 50 %を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
- ・最終課題であるレポート試験を 50 %として扱い、平常点と加算して評価します。
- ・平常点 50 点+レポート課題 50 点、計 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
- ・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になるという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いしたいと考えています。
- ・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

【その他の重要事項】

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

【Outline and objectives】

Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objective, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs.

In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we learn the basics of marketing through case studies.

ECN300TG ファイナンス論Ⅰ／現代ファイナンスA(前期メディア)
山 嵯 輝
カテゴリー：前期メディア 予備登録の有無： 授業形態：スクーリング 単位数：2 単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析がテーマとなります。

【到達目標】

本授業では、初めてファイナンスを学ぶ学生を対象にファイナンス理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、金融・証券市場の基礎知識と債券・株式の計量分析です。授業の到達目標は、①金融・証券市場の基礎知識を習得する、②株式と債券のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③初等的な確率論をもちいて不確実な将来キャッシュフローの評価手法を説明することができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

【授業の進め方と方法】

金融・証券市場の概観や基礎用語を紹介した後に、金融商品の現在価値の考え方や株式・債券の基本的な分析手法を解説します。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	「金融・証券市場の概観」	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足などについて概説します。
第 02 回	「本邦の債券市場」	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場などについて講義します。
第 03 回	「本邦の株式市場」	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場などについて講義します。
第 04 回	「キャッシュフローと現在価値 (1)」	キャッシュフローの概念を矢印図をもちいて把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念について講義します。
第 05 回	「キャッシュフローと現在価値 (2)」	付利期間、連続複利、割引率の概念、連続複利でもちいられるネイピア数について講義します。
第 06 回	「債券分析入門 (1)」	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートの概念について講義します。
第 07 回	「債券分析入門 (2)」	スポットレートとフォワードレートの概念について講義します。
第 08 回	「債券分析入門 (3)」	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブの間の関係について講義します。
第 09 回	「債券分析入門 (4)」	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デフレーションによる債券価格の近似方法について講義します。
第 10 回	「債券分析入門 (5)」	債券の信用リスクと格付けについて概説した後に、社債分析に必要な確率の基礎知識（事象、確率測度、確率変数、期待値など）について講義します。
第 11 回	「債券分析入門 (6)」	社債価格の評価手法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率について講義します。
第 12 回	「株式分析入門 (1)」	株価評価モデルである配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）について講義します。
第 13 回	「株式分析入門 (2)」	株価評価のための財務分析を概説した後に、配当割引モデルによる株式分析について講義します。

第 14 回	「株式分析入門 (3)」	株価評価モデルであるフリーキャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルについて講義します。
第 15 回	「株式分析入門 (4)」	PER、PBR、配当利回り、益利回り、企業価値 EBITDA 比率などの株式投資尺度について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行ってください。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スライド以外には特に指定しません。

【参考書】

『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポート 40 %、レポート試験 60 % の合計 100 % です。ただし、単位取得のためには中間レポートの提出は必須となります。レポートの内容によってメディアの授業（小テストを含む）の理解度を確認し、成績評価を決定します。したがって、メディア授業の理解と小テストへの取り組みが何よりも肝要となります。

【学生の意見等からの気づき】

「ファイナンスは難しい学問である」との印象を持っている学生が多いようですが、基礎からしっかりと学べる講義となっています。現代の経済・経営を理解するためには必須の内容なので、みなさんの積極的な受講を期待しています。

【その他の重要事項】

担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to finance theory to students who start learning finance. It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To give students basic tools for analyzing securities such as government bonds, corporate bonds, and stocks. (3) To provide students with an introductory asset pricing theory for evaluating the present values of uncertain future cash flows.

LAW300AB

憲法訴訟論

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法訴訟論は、実体法と訴訟法の双方を系統的に学び、裁判をフィールドにした法解釈の専門的能力の習得を目指す「裁判と法」コースおよび、現代的な法を学ぶ「行政・公共政策と法」に分類されていることに鑑みて、本授業では、実際の日本の憲法判例の分析を通じて、日本国憲法の違憲審査制の特質並びにそこから導かれる憲法訴訟の特質と法技術を理解することを目指す。

【到達目標】

付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質に由来する憲法訴訟の諸特徴と限界について理解できるようになること、こうした限界の中でも、権利の実効的保障のために試みられている様々な新たな憲法訴訟の手法や法理について理解できるようになること、さらに、新しい憲法判例の中でもこのような手法や法理がより一層取り入れられるようになるうえで必要な条件は何かについて、自ら考える力を身に付けることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

初めに外国の違憲審査制と対比しつつ、付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質を講義する。次に、この違憲審査制の特質から導き出される憲法訴訟の諸理論について講義し、そのうえで、それぞれの憲法訴訟論に関わる具体的な憲法判例の分析を行う。

学部生の授業であることを念頭に置き、あまり難解で高度な授業にはしないつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	憲法訴訟に関する受講生の知識を確認するアンケートを実施した後に、授業の進め方を解説する。
第 2 回	違憲審査制	アメリカ、ドイツ、フランスの違憲審査制と対比しつつ、日本の違憲審査制の特質を講義する。
第 3 回	事件性と客観訴訟	司法権概念の分析から、適法な訴訟となるための訴訟要件を講義する。
第 4 回	憲法訴訟の当事者適格	実際の訴訟において違憲性を争点とするための要件について講義する。第三者の権利援用についても説明する。
第 5 回	憲法判断回避の準則	具体的な判例の分析を通じて、付随審査制の特質に由来する憲法判断回避の準則について講義する。
第 6 回	合憲限定解釈	具体的な判例の分析を通じて合憲限定解釈の有効性と困難性を講義する。
第 7 回	違憲判断の方法（1）	法令違憲の現状を概観する。
第 8 回	違憲判断の方法（2）	法令違憲、適用違憲、処分違憲の違いについて講義する。
第 9 回	違憲判決の効力	違憲判決の効力をめぐる学説の対立と、実際の運用状況について講義する。
第 10 回	違憲無効判断回避の手法	とくに選挙訴訟を例にとりながら、違憲無効判断の回避の手法としての合理的期間論と事情判決の法理の意義を講義する。
第 11 回	立法行為の憲法訴訟（1）	在宅投票制廃止事件を中心に、その他の判例も取り上げつつ、付随審査制と国民代表制の下で立法行為の憲法訴訟を提起することの困難性を理論的に説明する。
第 12 回	立法行為の憲法訴訟（2）	在外投票制事件を取り上げつつ、国家賠償請求と確認請求の二つの手段を通じた立法不作為の憲法訴訟の可能性を説明する。
第 13 回	権利の実効的保障	権利の実効的救済方法としての立法者の合理的意思推定の理論と部分無効の法理について解説する。
第 14 回	違憲審査基準の現状と本授業のまとめ	二重の基準論、規制目的二分論などの従来の違憲審査基準論のあり方を概観したのちに、最近の最高裁判所の違憲審査の状況や「三段階審査」論について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについて、学部の憲法の授業（憲法Ⅰ～Ⅳ）で用いた教科書の該当部分を参照し予習しておくこと。また、各回の授業で扱った憲法判例について、判例集や参考書の当該部分を参照し、自分で判決内容をまとめ直すことで、理解をより深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はせず、代わりにプリントを配布する。

【参考書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』（岩波書店、2017 年）、3,800 円（＋税）
 初宿正典他共著『憲法 Case and Materials 憲法訴訟』（有斐閣、第 2 版、2013 年）7,150 円
 芦部信喜（高橋和幸補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019 年）3,520 円
 L S 憲法研究会編『プロセス演習・憲法』（信山社、第 4 版、2012 年）5,800（＋税）円

【成績評価の方法と基準】

定期試験（95 %）及びその他の授業参加の積極度（5 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的であり、難解な講義となりがちなので、具体例を多く用いつつ、十分な時間をかけて分かりやすい講義に努める。時間配分に気を付けて、最終テーマまで到達できるよう心掛ける。

【Outline and objectives】

Lecture of Japanese constitutional action theories though analysis of some constitutional precedents in Japan.

LAW200AB

犯罪学

佐藤 輝幸

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、犯罪をコントロールする方法を研究する刑事学のうち、犯罪の現状、すなわち、犯罪の原因や発生状況を分析することを目的とする。このような犯罪学は、刑法学における犯罪の成立要件の解釈や刑事政策学における犯罪予防の方策の研究に対して、基礎となる犯罪の現状認識を提供し、合理的かつ有効な研究を可能とするものである。

これらの知識は、「行政・公共政策と法コース」にとって行政活動や法令の制定を通じて犯罪対策を行うために必要なものである。他方で、犯罪という社会の病理現象の現状やその原因を探ることは、「文化・社会と法コース」にとって、法的知識の前提となる教養をなすものといえる。またこの科目は「裁判と法コース」にも属している。

【到達目標】

前半の授業により、我が国における犯罪の現状について、マスコミ等の影響ではなく、データを基礎に（但し、データの限界を踏まえて）、その現状を理解することができる。

後半の授業により、なぜ犯罪が生じるのかについて、生物学、心理学、社会学等を利用した分析手法を学び、それに基づく仮説を検証することができる。

両者を総合して、犯罪対策、刑事政策のベースとなる正確なデータと理論的な仮説を調査し、自ら批判的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業支援システムにアップするレジュメに沿って行うが、犯罪白書のデータを適宜参照しながら行うので、授業中に参照できるようにすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、教材等の説明、犯罪学の意義（50 分で区切り、同一内容のガイダンスを 2 回行う）。
第 2 回	犯罪統計の読み方	犯罪統計の種類と意義、分析の注意点など、犯罪統計の基本用語。
第 3 回	我が国の犯罪の全体像	我が国の治安に対するイメージ、認知件数・検挙件数の推移。
第 4 回	犯罪者の処遇に関する近年の動向	刑事手続きの各段階における処遇の現状。
第 5 回	個別の犯罪の検討 (1)	殺人の件数の推移、被害者との関係、処遇の動向、強盗の件数の推移、手口、処遇の動向。
第 6 回	個別の犯罪の検討 (2)	窃盗及び覚せい剤事犯、女性犯罪、高齢者犯罪。
第 7 回	個別の犯罪の検討 (3)	再犯者による犯罪の推移。
第 8 回	個別の犯罪の検討 (4)	少年の犯罪・非行に対する手続の概観、少年犯罪・非行の件数の推移。
第 9 回	犯罪の分析の刑事政策へのつながり	犯罪のイメージと実態、犯罪者処遇への示唆、刑事手続・処遇以前への対応の重要性。
第 10 回	犯罪原因論の歴史の概観	古典派犯罪学、犯罪生物学、犯罪心理学、犯罪社会学。
第 11 回	犯罪原因論の分析手法 (1)	古典派犯罪学の意義、初期の犯罪生物学の評価、新しい犯罪生物学。
第 12 回	犯罪原因論の分析手法 (2)	深層心理と犯罪、性格と犯罪、知能と犯罪、近時の心理学的アプローチ。
第 13 回	犯罪原因論の分析手法 (3)	初期の社会学的アプローチ、社会過程アプローチ、緊張理論、葛藤理論。
第 14 回	犯罪原因への新しいアプローチ	ラベリング論、コントロール理論、環境犯罪学、ニュークリミノロジー。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に行う。具体的には、レジュメや教科書等の内容について、犯罪白書等のデータを基に自ら検証したり、参考文献を自分で読んでみたりすることで、理解を確認することを毎週 1 時間程度行うことを目安とする。これに加えて、試験対策を兼ねて、各テーマの関連性を理解するため、試験前に 15 時間程度全体の復習を行うことが有益であろう。

また、犯罪等に関するマスコミ報道等に注意し、授業やデータに照らして考えてみることも望ましい。これを時間数で示すことはナンセンスであるが、毎日テレビ、新聞、インターネット等の犯罪に関する報道・記事を 20 分でも 30 分でも自覚的に見たり読んだりできれば、犯罪学的な視点を養うことができるだろう。

【テキスト（教科書）】

法務省『令和元年版 犯罪白書』（冊子版の他、法務省のホームページ（http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html）でも閲覧可能）。

【参考書】

やや古いが犯罪学全体についての定評ある教科書として、瀬川晃『犯罪学』（1998、成文堂）。

犯罪統計の分析に関する詳細かつわかりやすい解説として、浜井浩一編著『犯罪統計入門』（第 2 版、2013、日本評論社）、同編著『刑事司法統計入門』（2010、日本評論社）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業の翌日に授業支援システムにアップするようにしたい。試験時間を 90 分とする。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the criminology. In this course, we analyze Japanese criminal statistics and learn the theories about cause of crimes.

LAW200AB

刑事政策

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の「犯罪学」が犯罪現象と犯罪原因を取り扱うのに対し、本講義では、とりわけ刑事制裁の内容を中心に、刑事司法制度における犯罪対策の在り方を学修する。

具体的な犯罪対策と、それを基礎付ける刑罰論を学修することにより、春学期の「犯罪学」と合わせて、法解釈学にとどまらない幅広い視点から犯罪現象を捉える能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

古くより対立の大きい問題（例えば死刑や保安処分）や、近時法改正の進んでいる問題（例えば没収追徴や執行猶予）について、抽象的な議論に止まらず、具体的な制度に関する知識に根ざした議論が展開できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス、犯罪学との関係
第 2 回	刑罰論 1	刑罰目的論についての議論状況の確認
第 3 回	刑罰論 2	刑罰とその他の制度との関係、非犯罪化
第 4 回	量刑理論	量刑の手續と基準、裁判員裁判との関係
第 5 回	死刑	死刑制度の現状、死刑選択基準、死刑存廃論
第 6 回	自由刑、財産刑	制度の現状、単一刑論、労役場留置、日数罰金制
第 7 回	没収追徴	没収追徴制度の現状、法的性質、組織犯罪に関する法改正
第 8 回	司法内処遇	微罪処分、起訴猶予、執行猶予
第 9 回	施設内処遇（1）	沿革、再犯と処遇
第 10 回	施設内処遇（2）	矯正処遇の現状
第 11 回	施設内処遇（3）	受刑者の法的地位
第 12 回	社会内処遇	仮釈放、保護観察
第 13 回	保安処分	刑罰との相違、措置入院制度、医療観察法
第 14 回	さいごに	まとめ（刑事制裁の内実と刑罰目的論の関係）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書にとどまらず、授業内で紹介する参考文献をも読むことで、刑事政策を巡る諸問題について主体的に考え、意見を持つことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出敏裕＝金光旭『刑事政策〔第 2 版〕』（成文堂、2018）

【参考書】

犯罪白書（令和元年版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to the way in which we control and prevent crimes within the criminal justice system. The issues this course addresses include the penal theories, the forms of criminal sanction and the civil commitment.

LAW100AB

概説刑事法

須藤 純正

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各コースに共通の選択必修科目である。法律学科で学ぶ刑事法の分野としては、刑法（総論・各論）のほか、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策などがある。この授業は、これらの各分野を関連付けながら個々の学問領域のおおよその内容と基本的な考え方を紹介するものであり、この授業を終えた学生が興味を持ったそのうちの科目の本格的な勉強に取り組もうとするときに役立つ刑事法入門であるとともに、刑事実用法学を習得する前提として必要となるリベラル・アーツ科目でもある。

【到達目標】

刑事法をめぐるさまざまな社会事象（犯罪現象）について幅広い視点で自分なりに分析検討できるようになることを到達目標とするが、まずは、あまり普段の生活に縁がなく、とくに理屈っぽく、とっつきにくいと思われがちな刑事法への親しみを感じてもらい、理屈っぽいものの面白さを発見したり、犯罪というもののイメージを新たに、刑事法という学問分野を身近に感じてもらうことが第 1 の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業開始日は、4 月 24 日です。

この授業では刑事法の各分野を総合的に紹介するとともに、わが国及び世界の刑事法をめぐるアップ・ツー・デートな問題についても、比較法的な視点を加えつつ幅広くその要点を紹介する。それにより実用法学ないし法解釈学の領域を超えたりベラル・アーツ教育としての色彩が加わることとなるが、このように視野を広げることが法学に本格的に取り組んでいく上で必ず役に立つと思われる。

大教室での講義形式の授業であるが、各授業のまとめとして、理解度を確認する趣旨でクイズを数人のグループで話し合って解いてもらうことを予定している。

授業の準備と復習・発展には各 2 時間程度充てるのが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要、授業の受け方、教員自己紹介
第 2 回	犯罪とその原因	本論「刑事法とは」 犯罪原因論、わが国の犯罪現象
第 3 回	民事責任との違い、刑罰理論	刑法の機能と目的 応報理論と目的理論 刑罰と保安処分
第 4 回	刑罰の種類、刑法学	わが国の死刑制度 刑法の解釈 第 1 回レポート提出
第 5 回	刑法各論	個人的法益の罪（殺人、窃盗、名誉棄損） 社会的法益の罪 国家的法益の罪
第 6 回	犯罪論、構成要件	実体法、手続法、処遇法 法的要件と法的効果
第 7 回	犯罪論、違法性と責任	正当業務行為 正当防衛、緊急避難 責任能力
第 8 回	故意と過失	故意犯と過失犯 錯誤 第 2 回レポートの提出
第 9 回	未遂犯と共犯、刑の量定	正犯と共犯 共同正犯、教唆と幫助 共謀罪 量刑、罪数論
第 10 回	刑事訴訟法（捜査）	刑事訴訟法の目的 憲法の人権規定と捜査
第 11 回	刑事訴訟法（公判・上訴・再審）	公訴の提起 公判手続 証拠能力と証明力 確定判決と再審

発行日：2020/5/1

第 12 回	各種犯罪の特徴と対策	暴力団犯罪 ホワイトカラー犯罪 高齢者犯罪 ヘイト・スピーチ 第 3 回レポートの提出
第 13 回	犯罪者の処遇、少年法	施設内処遇 社会内処遇 非行少年の処遇手続 米国刑法
第 14 回	比較法	陪審制と裁判員裁判 死刑存廃論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前の予習として教科書の担当部分を読んでおくこと（第 1 回の授業には、次に掲げる教科書の第 1 章の部分を事前に読んで臨むこと）。分からない用語は法律学辞典で調べるとよい。
分からない部分は読み飛ばしても構わない。分からない部分は授業で理解するようにし、それでも分からない場合は教員や仲間に質問して疑問点の解消に努める。オフィスアワーも利用する。
参考図書を指定するから、図書館を利用するなどして積極的に読んでほしい。宿題として、指定した参考図書のうちから興味を持ったもの 3 冊を選び、順次、その要約と感想を 1000 字から 2000 字程度のレポートとして 3 回提出する。提出されたレポートは評価した後、学生間の相互評価の機会を設ける。授業の準備と復習に合計 2 時間程度を充てること。

【テキスト（教科書）】

井田良著『基礎から学ぶ刑事法（第 6 版）』（有斐閣 2017 年）。
小型の六法（例えば、三省堂の『デイリー六法』）を授業に持参すること。

【参考書】

参考図書
王雲海著『日本の刑罰は重いか軽いのか』（集英社新書）
ベッカーリア著『犯罪と刑罰』（岩波文庫）
ミル著山崎洋一訳『自由論』（光文社文庫 2006 年）
穂積陳重著『復讐と法律』（岩波文庫 1982 年）
ジャン＝マリ・カルバサ著『死刑制度の歴史（新版）』（文庫クセジュ 2006 年）
コリン P.A. ジョーンズ著『アメリカ人弁護士が見た裁判員制度』（平凡社新書 2008 年）
木村晋介著『激論！「裁判員」問題』（朝日新書 2008 年）
鈴木伸元著『加害者家族』（幻冬舎新書 2010 年）
桜井英治著『贈与の歴史学』（中公新書 2011 年）
師岡康子著『ヘイトスピーチとは何か』（岩波新書 2013 年）
田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書 1957 年）
宮崎学著『ヤクザに弁当を売ったら犯罪か？』（ちくま新書 2012 年）

【成績評価の方法と基準】

3 回のレポートの提出、(20% × 3 = 60%) と期末試験 (40%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度に本授業を担当したが、刑事法に親しみを持ってくれた受講者が少なからずいたようだ。

【Outline and objectives】

In this department of law, you can learn as criminal law in a broad sense Criminal Law, Criminal Procedure, Criminology, Criminal Justice Policy. This is an introducing subject of Japanese criminal law in a broad sense.

BSP100AB

法学入門

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学部法律学科の入門科目として、大きくいえば、法とはどのようなものなのかについて取り扱うものである。このための具体的なテーマとして、法とは何か、法の存在形式、法の解釈、裁判制度、権利と義務を取り上げる。

法を学ぶとき、初学者がはじめに突き当たる壁として、専門用語の難解さがある。たとえば、自然人、法人、権利、義務などである。これらの言葉を正確に説明できる法律学科の 1 年生はおそらくほとんどいないであろう。自然人や法人という言葉はそもそも未知のものであろうし、権利と義務の正確な意義を高校までに学んだ人はほとんどいないように思う。

この授業の受講者は、法および法学を正しく理解するのに必要となる思考方法を知り、法学の基礎的概念を理解し説明することができるようにすると同時に、法を解釈できるようになることを期待される。

【到達目標】

- ①法と法律の意義を説明できる。
- ②法を強制する方法を説明できる。
- ③法と道徳の違いを説明できる。
- ④制定法、慣習法、判例法の意義を説明できる。
- ⑤法の解釈の意義・方法・技術について説明できる。
- ⑥裁判の意義、裁判公開の原則、司法権の独立など裁判制度に係る基本的な概念を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、学習支援システムを用い、①受講者による資料の精読、②動画配信によるポイント解説、③小テスト・アンケート（理解度確認）によって行う。ただし、対面授業が可能となれば、一般的な講義形式に変更する。

学習支援システムによる授業は、2020 年 4 月 21 日から開始する。ただし、同日から 5 月 7 日までは、学習のための資料の提供にとどめる。詳細は、学習支援システムの「おしらせ」にて周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	法とはどのようなものか
第 2 回	法とは何か（1）	法、法律、法的目的
第 3 回	法とは何か（2）	法の強制
第 4 回	法とは何か（3）	法と道徳
第 5 回	法の存在形式（1）	法源、制定法
第 6 回	法の存在形式（2）	判例法
第 7 回	法の存在形式（3）	慣習法、条理
第 8 回	法の解釈（1）	法の適用と解釈、法の解釈の目的
第 9 回	法の解釈（2）	法の欠缺と裁判官の法創造
第 10 回	法の解釈（3）	法の解釈の方法と技術、法の解釈の科学性
第 11 回	裁判制度（1）	裁判の意義と種類
第 12 回	裁判制度（2）	裁判の担い手
第 13 回	裁判制度（3）	裁判を受ける権利、司法権の独立、裁判公開の原則
第 14 回	権利と義務	政治的主張と法的権利

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- ・五十嵐清『法学入門』（日本評論社）
- ・大村敦志『法学入門』（羽鳥書店）
- ・澤木敬郎＝荒木伸怡＝南部篤『ホーンブック法学原理』（北樹出版）
- ・田中成明『法学入門』（有斐閣）
- ・星野英一『法学入門』（有斐閣）
- ・山田卓生『法学入門 社会生活と法』（信山社）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100 %）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline and objectives】

In this course, definition of Law and Statute, Law Enforcement, difference between Law and Moral, Forms of Law, interpretation of statute, Judicial System, and meanings of Right in Law are taken. Words used in Law or Jurisprudence are difficult. So beginners of Law initially have to learn what the terms of law mean. And also we should interpret statutes because those are abstract and can be understood in various meanings. In Department of Law, our University, at the first semester, every students must learn basic law concept and become to be able to interpret statute.

LAW200AB

演習

須藤 純正

授業形式：演習 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑事法演習である。民法と交錯するホワイトカラー犯罪をはじめとして色々な刑事事件の具体的裁判例を素材とし、例えば公務員へのお歳暮の付け届けは贈賄罪になるか否などの論点についてディベート形式で検討する。判例は有罪と無罪の判断が分かれるようなきわどい事例やユニークであったり、ある意味議論して面白いものを積極的に取り上げたい。

【到達目標】

刑法への理解を深め、事実認定（証拠に基づいて判決の基礎となる事実を認定する）や法律の適用についての直観力・応用力を身につける。
ゼミに入った当初は、「なんとなくこう思います。」とか、自分の常識（偏見？）からの根拠のあいまいな直感的な意見の発表でも全く差し支えない。回数を重ねるごとに先輩やほかの学生の意見を聴き、自分とはことなる視点や自分の発言の足りない部分に気づいていき、「Aという理由だからBだと思います」と自分の意見を論理的に話すことができるようになる。論理的思考力を高め、複雑な状況下でも正しい判断が下せるようになり、自分と考えの異なる人を説得するスキルを身につけることが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

判例を素材とした討論は、各週ごとに通常 2 人でテーマをレジュメにまとめて発表した後、争点についての各人の見解により、有罪・無罪の 2 チームに分かれて討論を行う。グループ内での議論を踏まえてのグループ相互のディベートをし、最後に教員がコメントをして終了となる。3 年生と 4 年生が混成チームで議論を進めるので、4 年生が 3 年生にアドバイスすることがあり、3 年生も回数を重ねるごとに論理的な意見が言えるようになる。4 年生にもなると、あえて自分の考えとは反対側に回って、議論を盛り上げようとする学生もいる。

模擬裁判を前期と後期に各 1 回ずつ行い、それぞれの役割において法律の適用を実際に体験すると共にプレゼンテーション力を養う。検察・弁護の両サイドがそれぞれ証拠を出して論理的に主張し、被告人の行為を一つひとつ刑法的に犯罪の構成要素にあてはめて、それが犯罪として評価できるか否かを明らかにする。最終的には裁判員が評議をして結論を下す。

模擬裁判は準備から捜査（検察官の取調べ）・公判・裁判員制度による評議・判決まで行い、締めくくりとして反省会を行う。正解やきっちりしたシナリオがある訳ではないため、証人の立て方や証人への質問の仕方でも、自分たちの主張を有利に展開できるかどうか変わってくる。模擬裁判に参加する学生にとって、法律の知識だけではなく、どのような展開に持ち込めば有利になるか、柔軟な企画力や発想力も大切といえる。

授業開始日は 4 月 22 日です。少なくとも 5 月 6 日まではオンラインでの開講となります。具体的方法は、学習支援システム、当ゼミの Line、メールで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明、自己紹介、ゼミ長など係の決定
第 2 回	別居中の父親が母親の養育下にある長男（2 歳）を路上から抱きかかえて連れ去ることは誘拐になるのか？	裁判例討議（最決平成 17 年 12 月 6 日）
第 3 回	医療過誤	裁判例討議（最決平成 17 年 11 月 15 日）
第 4 回	危険運転致死傷罪の成否	裁判例討議（最判平成 18 年 3 月 14 日）
第 5 回	殺人犯人と被告人の同一性	裁判例討議（札幌高判平成 14 年 3 月 19 日）
第 6 回	模擬裁判（窃盗被告事件）	役割分担、グループごとの打合せ
第 7 回	同上	検察官捜査、グループごとの証拠精査、争点の決定、裁判所進行打合せ、公判準備
第 8 回	同上	第 1 回公判（人定質問、起訴状朗読、証拠調べ、証人尋問）
第 9 回	同上	第 2 回公判（被告人質問から結審まで）
第 10 回	同上	裁判評議、判決宣告
第 11 回	同上（反省会）	役割ごとの感想発表、コメンテーターのコメント
第 12 回	情報を盗むことができるのか？	裁判例討議（東京地判昭和 59 年 6 月 28 日）

第 13 回	児童虐待と不作為の刑事責任	裁判例討議（札幌高判平成 12 年 3 月 16 日）
第 14 回	心中を約束した女に青酸カリを渡して飲ませ死亡させた後、男が後を追わなかった場合どうなるのか？	裁判例討議（最判昭和 33 年 11 月 21 日）
第 15 回	裁判員裁判の死刑判決は控訴審で無期懲役に変更できるのか？君は賛成か反対か？	裁判例討議（東京高判平成 25 年 10 月 8 日）
第 16 回	「エボバの証人」信者輸血拒否事件－医師は治療に必要な輸血をしなくてよいのか？	裁判例討議（最判平成 12 年 7 月 19 日）
第 17 回	誤まって自分の預金口座に振り込まれたお金は誰のもの？	裁判例討議（最決平成 15 年 3 月 12 日）
第 18 回	預かった賄賂資金を目的に従って渡せば贈賄罪、では渡さずに使った方がマシか？	裁判例討議（最判昭和 36 年 10 月 10 日）
第 19 回	自分名義のクレジットカードをして詐欺になることがあるのか？	裁判例討議（東京高判昭和 59 年 11 月 19 日）
第 20 回	模擬裁判（殺人未遂被告事件）	役割分担など
第 21 回	同上	捜査、公判準備
第 22 回	同上	第 1 回公判
第 23 回	同上	第 2 回公判
第 24 回	同上	第 3 回公判
第 25 回	同上	反省会、レポート提出
第 26 回	満員電車の痴漢事件	裁判例討議（最判平成 21 年 4 月 14 日）
第 27 回	傷害致死事件における精神鑑定	裁判例討議（最判平成 20 年 4 月 25 日）
第 28 回	権利行使と恐喝	裁判例討議（最判昭和 30 年 10 月 14 日）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

判例を素材とした討論に際しては、指示された参考文献、関係判例に基づく学習。模擬裁判に際しては、それぞれの役割に応じて指示された内容に基づく学習（起訴状など文書起草、証拠の精査、手続過程の理解など）及び法廷傍聴。授業の準備と復習・発展に各 2 時間程度充てるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストはなし。

【参考書】

素材とする判例、模擬裁判の教材などについては適宜教示する。

【成績評価の方法と基準】

裁判例討議での発表、レジュメ作成、模擬裁判レポートのほか、議論に積極的に参加してくれたことなど授業への貢献度を平常点として評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ディベート、模擬裁判と夏季合宿における刑務所見学はこのゼミの独自性であるが、好評を得ていると自負している。

【副題】

刑事法

【聴講について】

模擬裁判を実施する授業についてのみ、面接の上 5 名までの聴講を許可する。

【Outline and objectives】

This is a seminar on Criminal Law in Japan. We examine various kinds of criminal cases- for example, white collar crimes which contain issues concerned with civil law and commercial law. We discuss such cases separating into both sides for guilty and not guilty.

LAW200AB

演習

高須 順一

授業形式：演習 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法財産法についてのケーススタディです。民法の解釈能力の向上を目指し、法科大学院への進学や各種法律試験の受験に有意義と思っています。「裁判と法コース」に直結する演習と理解しています。

本年度は、2020 年 4 月 1 日施行の改正債権法の習得に比重を置いた演習にしたい。

【到達目標】

2 年間のゼミを通じて民法財産法の主要な争点について、ひととおり学習することを目標とします。とりわけ、121 年ぶりの抜本改正となった改正債権法の内容により特化したゼミを行い、新民法の実像を理解することを目指します。また、ゼミ受講によって主体的に勉強するというスキルを身につけることができるようにします。法律の知識の習得はもちろんのこと、法的なものの考え方を体得することもできるようにします。

また、12 月に京都で実施されるインターカレッジ民法討論会に参加し、プレゼンテーション能力の向上にも務める予定です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

予め設例として提示された紛争事例の当事者の立場に立ってもらい、紛争の解決を目指すシミュレーション方法を採用しています。このような方式を取る関係上、毎回のゼミについて予習を行うことが不可欠です。そして、ゼミ当日は自分の頭で考え、対立当事者に対して自分の考えを主張し説得することを心がけてもらいます。また、私のゼミは単位の取得のみを目的とすることなく、卒業後も付き合っていけるような人間関係を作っていきたいと考えています。「元氣一杯、高須ゼミ」のキャッチフレーズのもと、勉強以外の活動も活発に行います。

（緊急告知）

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。また、ゼミ内での何らかの連絡ツールも使用します。本演習授業の開始日は、4 月 23 日（木）5 限とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	1 年間のゼミの運営方法等を説明する。
第 2 回	シミュレーション問題の実例	実際にシミュレーション問題を利用してゼミを行ってみる。
第 3 回	総則法を中心とする問題の検討その 1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 4 回	総則法を中心とする問題の検討その 2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 5 回	総則法を中心とする問題の検討その 3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 6 回	総則法を中心とする問題の検討その 4	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 7 回	物権法を中心とする問題の検討その 1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 8 回	物権法を中心とする問題の検討その 2	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 9 回	物権法を中心とする問題の検討その 3	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。
第 10 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 1	オリジナル問題を使用してゼミを行なう。

第 11 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 2	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 12 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 3	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 13 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 4	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 14 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 5	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 15 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 6	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 16 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 7	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 17 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 8	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 18 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 9	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 19 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 10	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 20 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 11	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 21 回	改正債権法を中心とする問題の検討その 12	オリジナル問題を使用してゼミを行う。
第 22 回	改正債権法の検討その 1	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。
第 23 回	改正債権法の検討その 2	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。
第 24 回	改正債権法の検討その 3	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。
第 25 回	改正債権法の検討その 4	債権法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。
第 26 回	改正相続法の検討その 1	相続法改正に関する資料等を使用して、改正法に特化したゼミを行う。
第 27 回	改正相続法の検討その 2	相続法改正に関する資料等を使用してゼミを行う。
第 28 回	改正相続法の検討その 3	相続法改正に関する資料等を使用してゼミを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私のゼミでは他大学のゼミとの合同ゼミの実施や、毎年、関西で行われるインターカレッジ民法討論会への参加などの対外的な活動を積極的に行っています。昨年度は早稲田大学のゼミとの間で合同ゼミを行いました。また、インカレ民法は一昨年、昨年と続けて3位入賞でした。これらのイベントについても積極的に参加してもらい、民法の実力を付けてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

私が作成したゼミ教材（問題集）をテキストとして使用します。その他にも、私が法科大学院の民事法演習で使用している教材や、債権法改正に関して法務省が作成した法制審議会資料等についても適宜、利用する予定です。

【参考書】

必要があれば、その都度、指摘します。

【成績評価の方法と基準】

1 年を通じたゼミにおける平常点で成績を評価します（100%）。ただし、ゼミ内においてレポート等を提出してもらうこともあります。（緊急告知）

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講になったことにともない、演習授業のあり方も今年度は従前の年度とは違っていますが、平常点評価とする点、一定の頻度でレポート等を提出してもらい、それも評価の対象とする点に基本的な変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート該当科目ではありませんので、特にありません。

【副題】

民法・改正債権法

【聴講について】

基本的には聴講は予定していません。

【Outline and objectives】

It is a case study about the civil law property law. Aiming at improvement of the ability for interpretation of the civil law, I think it to be significant for the examination of the entrance into a school of higher grade to the law school and various law examinations. It is understood with practice to be connected directly with "a trial and the law course". In this year, I want to make it the practice that placed more weight on the acquisition of the enforcement planned revised credit law on April 1, 2020.

LAW100AB

概説刑事法

須藤 純正

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各コースに共通の選択必修科目である。法律学科で学ぶ刑事法の分野としては、刑法（総論・各論）のほか、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策などがある。この授業は、これらの各分野を関連付けながら個々の学問領域のおおよその内容と基本的な考え方を紹介するものであり、この授業を終えた学生が興味を持ったそのうちの科目の本格的な勉強に取り組もうとするときに役立つ刑事法入門であるとともに、刑事実用法学を習得する前提として必要となるリベラル・アーツ科目でもある。

【到達目標】

刑事法をめぐるさまざまな社会事象（犯罪現象）について幅広い視点で自分なりに分析検討できるようになることを到達目標とするが、まずは、あまり普段の生活に縁がなく、とくに理屈っぽく、とつつきにくいと思われがちな刑事法への親しみを感じてもらい、理屈っぽいなりの面白さを発見したり、犯罪というもののイメージを新たに、刑事法という学問分野を身近に感じてもらうことが第1の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業開始日は、4 月 24 日です。

この授業では刑事法の各分野を総合的に紹介するとともに、わが国及び世界の刑事法をめぐるアップ・ツー・デートな問題についても、比較法的な視点を加えつつ幅広くその要点を紹介する。それにより実用法学ないし法解釈学の領域を超えたりベラル・アーツ教育としての色彩が加わることとなるが、このように視野を広げることが法学に本格的に取り組んでいく上で必ず役に立つと思われる。

大教室での講義形式の授業であるが、各授業のまとめとして、理解度を確認する趣旨でクイズを数人のグループで話し合っって解いてもらうことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要、授業の受け方、教員自己紹介 本論「刑事法とは」
第 2 回	犯罪とその原因	犯罪原因論、わが国の犯罪現象
第 3 回	民事責任との違い、刑罰理論	刑法の機能と目的 応報刑論と目的刑論
第 4 回	刑罰の種類、刑法学	刑罰と保安処分 わが国の死刑制度 刑法の解釈 第 1 回レポート提出
第 5 回	刑法各論	個人的法益の罪（殺人、窃盗、名誉棄損） 社会的法益の罪 国家的法益の罪
第 6 回	犯罪論、構成要件	実体法、手続法、処遇法 法的要件と法的効果
第 7 回	犯罪論、違法性と責任	正当業務行為 正当防衛、緊急避難 責任能力
第 8 回	故意と過失	故意犯と過失犯 錯誤 第 2 回レポートの提出
第 9 回	未遂犯と共犯、刑の量定	正犯と共犯 共同正犯、教唆と幫助 共謀罪 量刑、罪数論
第 10 回	刑事訴訟法（捜査）	刑事訴訟法の目的 憲法の人権規定と捜査
第 11 回	刑事訴訟法（公判・上訴・再審）	公訴の提起 公判手続 証拠能力と証明力 確定判決と再審
第 12 回	各種犯罪の特徴と対策	暴力団犯罪 ホワイトカラー犯罪 高齢者犯罪 ヘイト・スピーチ 第 3 回レポートの提出

第 13 回	犯罪者の処遇、少年法	施設内処遇 社会内処遇 非行少年の処遇手続
第 14 回	比較法	米国刑法 陪審制と裁判員裁判 死刑存廃論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前の予習として教科書の担当部分を読んでくること（第1回の授業には、次に掲げる教科書の第1章の部分を事前に読んで臨むこと）。分からない用語は法律学辞典で調べるとよい。

分からない部分は読み飛ばしても構わない。分からない部分は授業で理解するようにし、それでも分からない場合は教員や仲間に質問して疑問点の解消に努める。オフィスアワーも利用する。

参考図書を指定するから、図書館を利用するなどして積極的に読んでほしい。宿題として、指定した参考図書のうちから興味を持ったもの3冊を選び、順次、その要約と感想を1000字から2000字程度のレポートとして3回提出する。提出されたレポートは評価した後、学生間の相互評価の機会を設ける。

【テキスト（教科書）】

井田良著『基礎から学ぶ刑事法（第6版）』（有斐閣 2017 年）。

小型の六法（例えば、三省堂の『デイリー六法』）を授業に持参すること。

【参考書】

参考図書

王雲海著『日本の刑罰は重いか軽いか』（集英社新書）

ベッカー・ア著『犯罪と刑罰』（岩波文庫）

ミル著山崎洋一訳『自由論』（光文社文庫 2006 年）

穂積陳重著『復讐と法律』（岩波文庫 1982 年）

ジャン＝マリ・カルパス著『死刑制度の歴史（新版）』（文庫クセジュ 2006 年）

コリン・P.A. ジョーンズ著『アメリカ人弁護士が見た裁判員制度』（平凡社新書 2008 年）

木村晋介著『激論！「裁判員」問題』（朝日新書 2008 年）

鈴木伸元著『加害者家族』（幻冬舎新書 2010 年）

桜井英治著『贈与の歴史学』（中公新書 2011 年）

師岡康子著『ヘイトスピーチとは何か』（岩波新書 2013 年）

田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書 1957 年）

宮崎学著『ヤクザに弁当を売ったら犯罪か？』（ちくま新書 2012 年）

【成績評価の方法と基準】

3 回のレポートの提出、（20% × 3 = 60%）と期末試験（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度に本授業を担当したが、刑事法に親しみを持ってくれた受講者が少なからずいたようだ。

【Outline and objectives】

In this department of law, you can learn as criminal law in a broad sense Criminal Law, Criminal Procedure, Criminology, Criminal Justice Policy. This is an introducing subject of Japanese criminal law in a broad sense.

LAW200AB

法律学特講（経済刑法）

須藤 純正

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済刑法とは、企業活動と経済取引に関する犯罪に適用される処罰規定の総称ということができる。経済刑法が扱う犯罪は基本的に裁判員制度の対象事件ではない。世間の耳目を集める著名事件には東京地検特捜部が検挙して起訴するケースが多い。この種の事件の捜査手法に対しては、検察ファッショ、国策捜査といった批判的な声が国民の側から出ることがあり、授業では刑事政策的あるいは犯罪学の視点からの検討を加えることがある。半期の授業が終了した時点では、社会人としてのコンプライアンス、リスク・マネジメント能力を身につけ、日常的に身近に起こるホワイトカラー犯罪について自ら主体的に考えることができるリーガルマインドが備わることが教育目標となる。

【到達目標】

受講生の大半はホワイトカラーの仕事に就くであろう。経済刑法は、英語圏では **White-collar Crime** と呼ばれているが、米ロースクールの某教授は講義の冒頭で学生たちに対し、「ホワイトカラー犯罪に関していえば、君たちは将来刑事弁護人になるよりも、刑事被告人になる確率ははるかに高いだろう」というそうである。受講生は将来企業等に就職して、万一、コンプライアンスが問題になるような困難な状況に直面したとして、無批判に職務命令に盲従するのではなく、そこでの問題点を冷静に抽出して、個人として、企業としてベストな合理的な判断にたどり着くためのヒントが得られるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては講義形式とグループ討論の併用を予定しており、教員が作成配布するレジュメの中の事例を基に事実関係を紹介した上、問題点を検討する。中間レポートとして「判例ブリーフ」の作成（指定された1つの判例を読んだ上で、自分の言葉で事件の全貌を、争点、事実、結論、理由に分けて1000字程度にまとめる。）が求められる。これにより法令の適用の力を身につける。授業の準備と復習・発展に各2時間程度充てるのが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ホワイトカラー犯罪の犯罪学	授業の進め方について 一流企業においてもなぜホワイトカラー犯罪は行なわれるのか
第2回	ロッキード事件	元総理大臣の犯罪 国際司法共助
第3回	総会屋利益供与 転換社債の親引け	法務大臣の一般的指揮権 検察と政治的圧力とのせめぎあい
第4回	外務省背任・業務妨害 事件	国策捜査 特捜部検察官の心意気
第5回	あっせん取賄罪	国会議員の職務権限 公正取引委員会の委員長への陳情 圧力は不正か？
第6回	村木無罪事件 虚偽有印公文書作成・ 行使罪	検察官による権力犯罪 証拠改ざん

第7回	銀行の違法配当・粉飾 決算 金融商品取引法違反の 罪	最判平成 20.7.18（長銀事件） 会社法、金商法、税法による会計 規制 公正なる会計慣行
第8回	特別背任事件	不正融資 経営判断の原則
第9回	投機取引と賭博罪 商品先物取引と詐欺	同和商品事件 客殺し商法
第10回	組織犯罪	組織的詐欺 暴力団犯罪と民事介入暴力 対抗言論の法理
第11回	インターネットと名誉 棄損	
第12回	米国の名誉棄損	表現の自由の保障の日米の差異
第13回	ヘイトクライム	ヘイトスピーチと表現の自由 各国のヘイトスピーチの規制
第14回	不正競争防止法違反 の罪 外国公務員贈賄事件	賄賂罪との差異

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として指示された参考文献及び判例を読んでレポートにまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

芝原邦爾ほか著「ケースブック経済刑法（第3版）」（有斐閣2010年）

【成績評価の方法と基準】

授業参加等を考慮する平常点（20％）、中間レポートの提出（20％）、学期末試験（60％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

数年前から不定期に3回ほど開講したことがある。その時、アンケート結果はおおむね良好であったが、「体系書などが存在しないのが難点」との指摘があった。1つの法律の体系的な解釈を目的としたものではなく、今までに修得した刑法理論などを応用する思考が試される授業と考えてもらいたい。体系的理論とのつながりはその都度説明して分かりやすい授業を心がけたい。話の腰を折ってもよいから分からない点は挙手をして恥ずかしがらずに質問してもらいたい。

【Outline and objectives】

We learn about White Collar Crimes in Japan. The instructor also provides you the basic principles of criminal law and criminal procedure necessary to an understanding of white collar crime. Some cases we learn are about the use and abuse of power by one of the most influential figures in the Japanese governmental system- the prosecutor.

ECN100AC

経済原論 I

水野 和夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済原論は、経済の根本原理を説明することを目的とする科目であり、「理論・歴史・思想」の分野に属する。個々の企業の生産活動と家計の消費行動の法則を明らかにするのが、ミクロ経済学である。

ミクロ経済の基本的なフレームワークを学んだうえで企業と消費者の行動メカニズムを考察する。そして 1990 年にバブルが崩壊しその後巨額の財政赤字を解消できず、デフレから脱却できない理由を学ぶことができる。

従来の常識にとらわれることなく日本が今様々な困難を抱えている状況にいかに対処するかを考える力を身につけることができる。

【到達目標】

この授業では、政治と経済は表裏一体であることを理解し、経済活動がどのようなメカニズムの上で成り立っているのかを理解し、自ら日本経済が抱える問題や課題を見つけることができるようになることを目標とする。

その上でどうすればいいのかを考える力を取得することが到達目標である。また、この授業のテーマは日本の望ましい経済の姿を考えることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式中心の授業を行うが、14 回の講義のなかで 4 回程度リアクションペーパーを配り、質問を次の授業の冒頭で回答する。

経済原論 I（春学期）は企業の投資行動や家計の消費行動などミクロ経済学を学び、経済原論 II（秋学期）は日本の生産額がどのように決まってくるのかなどマクロ経済学を学ぶ。経済原論 I と II の両方を受講することが望ましい。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの授業となるため、各回の授業計画の変更については「学習支援システム」でその都度提示する。本授業のオンラインでの開始は 5 月 15 日（水）とする。それ以前の第 1 回目の 4 月 22 日（水）の授業については自習とし、具体的な自習方法は「学習支援システム」の「お知らせ」欄で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション①ー経済学の十大原理（テキスト 第 1 章）	人々はどうのように意思決定するか、人々はどうのように影響しあうのか、経済は全体としてどのように動いているか
2	イントロダクション②ー経済学者らしく考える（テキスト 第 2 章）	科学者としての経済学者、政策アドバイザーとしての経済学者、なぜ経済学者の意見は一致しないのか
3	イントロダクション③ー相互依存と交易からの利益（テキスト 第 3 章）	現代経済の寓話、比較優位
4	イントロダクション④ー相互依存と交易からの利益（テキスト 第 3 章）	比較優位の応用例、結論
5	ミクロ経済学：市場における需要と供給の作用①（テキスト 第 4 章）	市場と競争、需要、供給
6	ミクロ経済学：市場における需要と供給の作用②（テキスト 第 4 章）	需要と供給を組み合わせる、結論（価格はどうのようにして資源を配分するか）
7	ミクロ経済学：需要、供給、および政府の政策①（テキスト 第 5 章）	価格規制、税金
8	ミクロ経済学：需要、供給、および政府の政策②（テキスト 第 5 章）	付論 弾力性、結論
9	ミクロ経済学：消費者、生産者、市場の効率性①	消費者余剰と生産者余剰
10	ミクロ経済学：消費者、生産者、市場の効率性②（テキスト 第 6 章）	市場の効率性、結論（市場の効率性と市場の失敗）
11	ミクロ経済学：税と効率・公平①（テキスト 第 6 章付論）	税と効率、税と公平、結論（効率と公平のトレードオフ）
12	ミクロ経済学：外部性①（テキスト 第 7 章）	外部性と市場の効率性、外部性に対する公共政策、外部性に対する当事者間による解決法、結論

13 春学期のまとめ①

ミクロ経済学の現実への適用例（消費と貯蓄の選択理論からゼロ金利を解釈する）

14 春学期のまとめ②

異次元金融緩和政策と物価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義のパワーポイント資料（授業支援システムに掲載）を参照しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくに復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

『マンキュー 入門経済学 [第 3 版]』 東洋経済新報社
<https://str.toyokeizai.net/books/9784492315217/>

【参考書】

『ミクロ経済学入門の入門』（坂井豊貴、岩波新書）
<https://www.iwanami.co.jp/book/b285381.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + 期末レポート 50 %

受講態度は 4 回程度提出したりアクションペーパーの内容で評価

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムやリアクションペーパーの配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【Outline and objectives】

This course introduces the Principles of Micro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics? There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

ECN100AC

経済原論Ⅱ

水野 和夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済原論は、経済の根本原理を説明することを目的とする科目であり、「理論・歴史・思想」の分野に属する。個々の企業の生産量や家計の消費量などの集計量がどのように決まるのか、その法則を明らかにするのが、マクロ経済学である。

その基本的なフレームワークを学んだうえで資本主義の生成とそのメカニズムを考察する。そして 21 世紀になって世界的に広がった格差や不平等問題について考察する。

従来の常識にとらわれることなく日本が今様々な困難を抱えている状況にいかに対処するかを考える力を身につけることができる。

【到達目標】

この授業では、政治と経済は表裏一体であることを理解し、経済活動がどのようなメカニズムの上で成り立っているのかを考察し、自ら日本経済が抱える問題や課題を見つけることができるようになることを目標とする。

その上でどうすればいいのかを考える力を取得することが到達目標である。また、テーマは日本の望ましい経済の姿を考えることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式中心の授業を行うが、14 回の講義のなかで 4 回程度リアクションペーパーを配り、次回の授業の冒頭で質問に回答する。

原論（春学期）は企業の投資行動や家計の消費行動などミクロ経済学を学び、経済原論（秋学期）は日本の生産額がどのように決まってくるのかなどマクロ経済学を学ぶ。経済原論ⅠとⅡの両方を受講することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済学：国民所得の測定①－経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDP の構成要素（テキスト 第 8 章）	経済の所得と支出、国内総生産の測定、GDP の構成要素
2	マクロ経済学：国民所得の測定②－実質 GDP と名目 GDP、GDP は経済厚生をよみ尺度か、結論（テキスト 第 8 章）	実質 GDP と名目 GDP、GDP は経済厚生をよみ尺度か、結論
3	マクロ経済学：生計費の測定①－消費者物価指数（テキスト 第 9 章）	消費者物価指数、インフレーションの影響に対する経済変動の補正
4	マクロ経済学：生計費の測定②－インフレーションの影響に対する経済変動の補正（テキスト 第 9 章）	結論
5	マクロ経済学：生産と成長①－世界の国々の経済成長、生産性：その役割と決定要因（テキスト 第 10 章）	世界の国々の経済成長、生産性（その役割と決定要因）
6	マクロ経済学：生産と成長②－経済成長と公共政策、結論：長期的成長の重要性（テキスト 第 10 章）	経済成長と公共政策、結論（長期的成長の重要性）
7	マクロ経済学：貯蓄、投資と金融システム①－国民所得勘定における貯蓄と投資（テキスト 第 11 章）	アメリカ経済における金融機関、日本との比較、国民所得勘定における貯蓄と投資
8	マクロ経済学：貯蓄、投資と金融システム②－貸付資金市場、結論（テキスト 第 11 章）	貸付資金市場、結論
9	マクロ経済学：付論 1、2（テキスト 第 11 章）	貨幣システム、貨幣の需給とインフレーションの古典派理論

10	マクロ経済学：総需要と総供給①（テキスト 第 12 章）	経済変動に関する三つの重要な事実、短期の経済変動の説明
11	マクロ経済学：総需要と総供給②－（テキスト 第 12 章）	総需要曲線、総供給曲線、経済変動の二つの要因、結論
12	マクロ経済学：開放マクロ経済学①（テキスト 第 13 章）	財と資本の国際フロー、国際取引に与える価格（実質為替相場と名目為替相場）、為替相場決定の最初の理論：購買力平価、結論
13	秋学期のまとめ①	マクロ経済学の現実への適用（米中新冷戦について）
14	秋学期のまとめ②	マクロ経済学の現実への適用（財政の持続性について）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義のパワーポイント資料（授業支援システムに掲載）を参照しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくに復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

『マンキュー 入門経済学 [第 3 版]』 東洋経済新報社
<https://str.toyokeizai.net/books/9784492315217/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989
<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 50 % + 期末レポート 50 %
受講態度は 4 回程度提出したリアクションペーパーで評価

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムやリアクションペーパー（質問票）の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【Outline and objectives】

This course introduces the Principles of Macro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics? There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

POL200AC

福祉政策Ⅰ

石川 久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。

政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。

【到達目標】

- ・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。
- ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。
- ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業開始日は、4 月 22 日とし、当面学習支援システムに授業 PPT ファイルと PDF を掲載する。

授業では、以下の項目について、自治体現場での実務・実践経験や具体的事例を取り上げながら、できる限り、分かりやすく、役に立つ講義を中心に行う。

- 1 政策主体としての自治体と福祉環境の変化
- 2 福祉政策・計画とその実現手法としての法務・財務
- 3 子育て・子育て支援などの子ども家庭福祉政策
- 4 年金などの高齢者福祉政策

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 授業開始日は、4 月 22 日とし、当面学習支援システムに授業 PPT と PDF ファイルを掲載する。	授業の概要、注意事項、評価方法などを説明する。
第 2 回	福祉事業の変遷	福祉政策・福祉事業の変遷について概説する。
第 3 回	福祉環境の変化 (1) 人口構造の変化	日本社会の人口構造の変化（少子高齢化・人口減少など）が福祉政策に及ぼす影響などについて考える。
第 4 回	福祉環境の変化 (2) 地方分権	福祉政策の主体としての自治体、特に分権改革（地方分権）と福祉事業について考える。
第 5 回	福祉環境の変化 (3) 措置から契約へ	社会福祉構造改革、「措置」から「契約」への変化について考える。
第 6 回	福祉の計画と法務・財務	福祉分野の計画とその実現手法としての法務・財務を考える。
第 7 回	子ども家庭福祉政策 (1) 子どもの人権と福祉政策	子どもの人権と福祉政策について考える。
第 8 回	子ども家庭福祉政策 (2) 子育て・子育て支援①	子育て・子育て支援の歴史とその考え方について学ぶ。
第 9 回	子ども家庭福祉政策 (3) 子育て・子育て支援②	子育て・子育て支援の現況と問題点・課題について考える。
第 10 回	子ども家庭福祉政策 (4) 子ども虐待	子ども虐待について考える。
第 11 回	子ども家庭福祉政策 (5) ひとり親家庭	ひとり親家庭（母子・父子家庭）の福祉について考える。
第 12 回	高齢者福祉政策 (1) 所得の保障	高齢者の所得保障としての年金、合わせて「定年」延長などについて考える。
第 13 回	高齢者福祉政策 (2) 生きがいと就労	高齢者の生きがいや社会参加、就労などについて考える。
第 14 回	授業のまとめ。	授業のまとめを行い、到達度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容に基づく学習。事前に PPT ファイルを「授業支援システム」に掲載されるので、あらかじめ見ておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『図解 福祉政策はわかり 第 1 次改訂版』石川久 学陽書房 2017 年 2100

【参考書】

石川久『福祉課のシゴト』ぎょうせい
石川久他編著『自治体政策と訴訟法務』学陽書房
自治六法・福祉六法
その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に照らして、各授業の要点を理解しているかどうかを確認するため、期末にペーパーテストを行う。この学期末試験（80 %程度）、平常点（20 %程度）として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

従来の授業に改善を要する特段の指摘がなかったため、原則として従来どおり、パワーポイントを用いた授業を行う。
各回にリアクションペーパー（出席票）を配布・回収し、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【Outline and objectives】

It is a subject belonging to the field of "policy system" among subjects of political science courses.

As the government's most important role, there is guarantee of a minimum healthy and cultural life. Though they are carried out in each administrative field, the foundation becomes the formation and development of each welfare policy. In this lesson, it is to understand the outline of each welfare field, to be able to think about the problem.

POL200AC

福祉政策Ⅱ

石川 久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。政府のもっとも重要な役割として、健康で文化的な最低限度の生活の保障がある。それらは各行政分野で担われるが、その基本となるのは各福祉政策の形成とその展開にある。本授業では、それぞれの福祉分野の概要を理解し、その問題点、課題を考えられるようになることである。

【到達目標】

- ・今日の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・福祉政策における地方自治体と国との関係やその役割を理解する。
- ・それぞれの福祉政策分野ごとにその制度と実際の運用・適用について理解を深める。
- ・これらについて問題点を探り、今後の課題と改革について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、以下の項目について、自治体現場での実務・実践経験や具体的事例を取り上げながら、できる限り、分かりやすく、役に立つ講義を行う。

- 1 高齢者介護などの高齢者福祉政策
- 2 障がい者の社会参加などの障がい者福祉政策
- 3 生活保護制度
- 4 健康づくり、医療保険などの保健・医療政策
- 5 専門職など多様な福祉の担い手
- 6 福祉社会における福祉教育・福祉文化

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法などを説明する。
第 2 回	介護保険制度 (1) 制度の創設	介護保険制度の創設経過などを概説する。
第 3 回	介護保険制度 (2) 制度の課題・問題点、今後の展望	介護保険制度の運用と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 4 回	障がい者福祉政策 (1) 制度の歴史・概要	障がい者福祉施策の概要について概説する。
第 5 回	障がい者福祉政策 (2) 措置から自立支援に	障害者自立支援制度について考える。
第 6 回	障がい者福祉政策 (3) 総合支援、就労・雇用	障害者総合支援制度、就労・雇用について考える。
第 7 回	生活保護制度 (1) 制度の歴史・概要	生活保護制度の概要について概説する。
第 8 回	生活保護制度 (2) 運用の実態	生活保護の具体的運用、その実態を考える。
第 9 回	生活保護制度 (3) 制度の課題・問題点、今後の展望	生活保護、生活困窮者支援制度の運用と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 10 回	地域福祉 (1) 制度の創設、理念	地域福祉の概要・考え方を概説する。
第 11 回	地域福祉 (2) 地域福祉計画	地域福祉の計画と実践のしくみ、現状と課題・問題点、今後の展望について考える。
第 12 回	ボランティア・NPOと福祉政策	ボランティアの基礎と歴史について概説し、現状・課題・問題点、今後の展望について考える。
第 13 回	福祉の担い手と福祉文化	福祉の担い手と福祉文化、福祉政策の今後を考える。
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめを行い、到達度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容に基づく学習。事前に授業の PPT ファイルが「授業支援システム」に掲載されるので、それを見ておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『図解 福祉政策はやわかり 第 1 次改訂版』石川久 学陽書房 2017 年 2100 円

【参考書】

石川久『福祉課のシゴト』ぎょうせい

石川久他編著『自治体政策と訴訟法務』学陽書房

自治六法・福祉六法

その他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に照らして、各授業の要点を理解しているかどうかを確認するため、期末にペーパーテストを行う。この学期末試験（80 % 程度）、平常点（20 % 程度）として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

従来の授業に改善を要する特段の指摘がなかったため、原則として従来どおり、パワーポイントを用いた授業を行う。各回にリアクションペーパー（出席票）を配布・回収し、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【Outline and objectives】

It is a subject belonging to the field of "policy system" among subjects of political science courses.

As the government's most important role, there is guarantee of a minimum healthy and cultural life. Though they are carried out in each administrative field, the foundation becomes the formation and development of each welfare policy. In this lesson, it is to understand the outline of each welfare field, to be able to think about the problem.

POL200AC

環境政策 I

上岡 直見

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【2020 年度春学期での対応】

動画で授業の案内をしています。(YouTube)

<https://youtu.be/6Grh68LEMzk>

学習支援システム"教材"でテキスト"2020_春_f"を提供しているので、履修を検討している人は参考にして下さい。時事問題として感染症やデマの伝播シミュレーション等も取り上げています。この科目での「政策」とは、条文や事例を学ぶだけではなく、環境や社会の現象をシステムの・数量的に捉え、誰が、何を、とどれだけすべきか、社会的資源をどのように配分するかを考える視点を提供することを目的としています。

【到達目標】

- (1) 環境問題はなぜ起きるのか、感覚や風説ではなく物理的な現象としてメカニズムを把握する考え方を習得する。
- (2) 政策の立案・評価を数字を用いて検討する手法を習得する。また広くは環境問題にかぎらず数字を通じた客観的・論理的な考え方に親しむ。
- (3) エネルギー・放射線・大気汚染・騒音・道路政策等の基本的な知識を理解する。
- (4) 問題の基本的な構造を理解した後、応用問題について自分で結果を導く手法を習得し、環境問題に限らず広くビジネス全般にも応用できる手法を知る。
- (5) メディア等で提供される情報を一方的に受け取るだけでなく、多くの情報の中から要点を整理し自分なりの考え方を構築できる考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【2020 年度春学期での対応】

- ※授業は大学の日程（改訂後）どおりに開始します。遠隔授業では曜日・時限の概念はありませんが、おおむね本来の時間割（毎週金曜 1 限）に合わせてその週の学習内容を提示します。学習内容を提示したとき、その他の連絡・変更があるとき、課題を提示したときは科目の「お知らせ」で案内します。最低、週 1 回は学習支援システムをチェックするようにして下さい。
- 学習支援システム"教材"でテキスト"2020_春_f"を提供しています。本登録をするか否かにかかわらずダウンロードと閲覧は自由です。
 - 大学から案内のとおり、改めて連絡があるまで教室での授業は行いません。
 - 現時点では、情報提供は学習支援システムのみを通じて行います。オンライン（双方向）授業は現状では予定していません。
 - 市販のテキストや参考書の購入は必要ありません。
 - テキストの内容は概ねシラバスの各回分に対応していますが、状況により一部省略するかもしれません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	数式による現象の記述／感染症やデマの伝播のシミュレーション	ガイダンス／この科目の目的、現象をどのように正しく数字で捉えたらよいか。現象を数字で捉えることによる論理的な判断。感染症の侵入を広義の環境問題として取り上げる。（演習：ある都市に感染症が侵入した場合の拡大のシミュレーションと対策効果の試算）
2	「正しい情報」とは何か／環境に関する基礎的な数値の取扱い	環境に関する数値の単位や換算について。（演習：大きな（あるいは小さな）数の計算、単位の換算、データとその解釈の関連）
3	地球温暖化のメカニズム	宇宙における地球の位置づけ、地球の大気は温度はどのように決まっているか、温暖化のメカニズムについて考える。（演習：地球の熱バランスと大気温度に関する試算）
4	原発や放射線の基礎情報／放射線被曝について	放射線の被曝はどのように計算・評価したらよいか。放射線は人間にどのように到達するか。法令や制度・基準によって被曝はどのように影響されるか。（演習：空気や食品を通じた一般消費者の被曝を計算してみる）
5	大気汚染物質や放射性物質の拡散と人間への到達	放射性物質や大気汚染物質について発生源から人間への到達はどのような要因によって左右されるか。（演習：発生源からの拡散について簡略化した例題により概要を理解する）

6	発電・送電・停電	電気の需要・供給は「発電」だけではなく送電のシステムと併せて考える必要がある。電気はどのように発電し送電されてくるか。停電とはどういうことか、停電を防ぐための取り組み。北海道大停電（2018 年）、関東大停電（2019 年）等について。（演習：電力需給に関する試算）
7	電力の費用について考える	電力の価格（電力料金）はどのように決まっているのか、「真のコスト」とは何かを考える。原子力事故の損害賠償についての法的側面についても考える。（演習：発電コストはどのように計算されるのか。また事故リスクコストを考慮した電力価格について試算）
8	環境インパクト／「環境に優しい」とは何か／ライフサイクルアセスメント	物質の有害性に関する考え方を紹介。「環境に優しい」とはどのように評価すべきか。「水素社会」は本当にクリーンなエネルギー体系か。（演習：電気自動車やバイオ燃料に関する評価）
9	経済・社会システムと環境のかかわり	環境にかかわる現象は、人間の経済の活動の結果としてあらわれるものであり環境を直接コントロールする政策は存在しない。環境をコントロールするのは経済政策であることを説明。（演習：日常の消費が誘発する環境負荷、エネルギー需給の将来予測など）
10	再生可能エネルギー／地域の持続性や自給	再生可能エネルギーの考え方・技術（演習：実在の都市を対象とした太陽光・風力に関するいくつかの試算）再生可能エネルギーの考え方・技術、地域のエネルギー自給（演習：バイオマス系再生可能エネルギーに関するいくつかの試算）
11	住宅や街区の省エネルギーと電力需要	環境問題は狭義の環境政策ではなく住宅・都市政策にも関連が深い。住宅や街区の省エネルギーはどのような方法があるか。（演習：さまざまな省エネルギーに関する施策と効果、住宅の断熱について）東京五輪が夏に開催されることにより競技環境が問題となっているが地表面の温度の計算や低下対策を検討する。（演習：地表面の熱バランスと温度の試算）
12	東京オリンピックの環境負荷	東京オリンピックを例に、大規模プロジェクトと環境負荷の関係、それがもたらす健康被害等について考える。（演習：オリンピックの準備・開催に伴う環境負荷の発生とその影響について）
13	戦争と経済	戦争は「もうかる」か？ GDP や雇用への影響はどうか？ 沖縄の基地の経済効果はどのくらいか？ 産業連関モデルを使ってシミュレーションする。（演習：軍事と社会政策に同じ公費を投入した場合の経済効果の比較）
14	環境政策の歴史／生命健康の価値	明治期から現在までの環境政策と法律的観点の変化、環境政策の評価に係る生命健康の経済価値の評価、「社会的費用」の考え方（演習：大気汚染の経済損失）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【2020 年度春学期での対応】

学習支援システム"教材"でテキスト"2020_春_f"を提供しています。事前に目を通しておくことを勧めます。

【テキスト（教科書）】

【2020 年度春学期での対応】 学習支援システム"教材"でテキスト"2020_春_f"を提供しています。履修を検討している学生の皆さんは参考にして下さい。本登録をするか否かにかかわらずダウンロードと閲覧は自由です。

【参考書】

指定の参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

【2020 年度春学期での対応】

指示があった時にテキストに基づく課題を提出（学習支援システム利用）してください。情報は学習支援システムにより提供するので常にチェックして下さい。

【学生の意見等からの気づき】

【2020 年度春学期での対応】

従来、出席を評価してほしいという要望がありましたが、今回は教室での授業は実施できないので各自で自主的に学習に取り組んで下さい。

【Outline and objectives】

In general the students of the law department study laws related with the human acts like the criminal law, civil law, the commercial law. In contrast the environmental policy has the connection that is close to physical phenomenon. In other words, the student may not figure out the idea of the environmental policy only by studying laws, ordinances and precedents. The approach of the environmental policy is as follows, 1) What is the problem to be solved, 2) What is the target to be achieved, 3) How can we approach the target. The process of this way of thinking is useful even if students will advance to any occupation in the future. The main content of this subject is to understand environmental problem as a physical phenomenon in quantitative analysis and to think about who should do what, how much. Although the object of the environmental policy diverges into many fields, energy and pollution issues will be taken in this class.

POL200AC

環境政策Ⅱ

上岡 直見

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、「政策・都市・行政」の分野に属する科目です。現実社会の中で法律的・政治的な考え方や評価を求められる分野は多岐にわたりますが、環境の分野においては物理現象を対象にします。これは刑法・民法・商法等とは異なる点です。法令・判例・事例を知るだけでは具体的なイメージが把握できません。どの「政策」でも唯一の正解はありませんが、（１）解決すべき課題を認識し、（２）目標を設定し、（３）それをどのように達成するかを考える過程は共通です。法曹・公務員・企業などいずれの道に進んでもこの過程で改めて勉強が求められます。課題に対して、資源すなわちヒト・モノ・カネを割り当て、効果の予測と評価を行う過程が必要です。環境問題を現象面と数量面で捉え、誰が・何を・どれだけすればよいのかを考えます。環境問題は対象が広い。ため全部のテーマは取り上げられませんが、環境政策Ⅱでは主に交通や都市に起因する環境問題とその検討手法を取り扱います。

【到達目標】

- （１）環境問題はなぜ起きるのか、感覚や風説ではなく物理的な現象としてメカニズムを把握する考え方を習得する。
- （２）政策の立案・評価を数字を用いて検討する手法を習得する。また広くは環境問題にかぎらず数字を通じた客観的・論理的な考え方に親しむ。
- （３）エネルギー・放射線・大気汚染・騒音・道路政策等の基本的な知識を理解する。
- （４）問題の基本的な構造を理解した後、応用問題について自分で結果を導く手法を習得する。
- （５）メディア等で提供される情報を一方的に受け取るだけでなく、多くの情報の中から要点を整理し自分なりの考え方を構築できる考え方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回、時間の前半は授業計画に示したテーマに関する資料に基づいて内容を解説し、後半はそのテーマに関連して計算を主とした演習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	水害とダム	ガイダンス／水害など気象災害が多発・巨大化している。気象災害の考え方と効果的な防止対策を考える。（演習：河川の水位の推定と効果的な洪水対策）
2	交通と環境政策のかかわり／交通を数字で捉える	交通とは何か、環境とのかかわりとは何かを理解する。（演習：（１）あなたの１日の行動についてアンケート）（２）災害時の「帰宅難民」の事例から、交通を数字で捉える手法を理解する。（演習：都内に勤務・通学する人が災害時に徒歩で帰宅する状況について）
3	交通に関する環境負荷の基礎計算	自動車・鉄道・航空・船舶など手段別の交通に関する環境負荷の基礎数値を把握する。（演習：自動車・鉄道・航空・船舶のエネルギー消費量の試算）
4	道路公害／騒音	騒音に関する基礎知識、人間への影響、その対策、法令や規制など。（演習：道路騒音に関するモデル計算）
5	段階的推計法	環境政策の立案のためには交通の将来状況を予測する必要がある。予測法の代表的な手法を紹介する。（演習：将来交通需要の予測や分布に関する例題）人々はどのような要因で交通手段を選んでいるのか。その代表的な手法を紹介する。（演習：簡略化したモデルにより料金や所要時間による交通手段分担に関する例題計算）
6	経路の分担	人々はどのような要因で交通経路を選んでいるのか。その代表的な手法を理解する。（演習：アクアラインを事例に簡略化した均衡計算による道路選択に関する簡単な例題計算）

7	道路事業に関する評価・費用便益分析	道路事業を例に「費用便益分析」について解説する。この手法は交通問題だけではなく環境政策その他あらゆる政策に共通する。時間損失・気候変動・大気汚染・騒音など社会的な費用、大都市圏の鉄道の混雑に関する評価等に関する検討。(演習：実際の道路事業について費用便益分析の例題計算)
8	都市・交通・環境のかかわり	交通に関する環境問題は、単に交通手段やエコカー等の問題ではなく、都市や地域の構造が密接に関連している。(演習：道路整備状況や自動車保有台数の統計的関連についての例題計算など)
9	持続的な社会／長期的な予測と環境政策	SDGs (持続可能な開発目標) が注目されているが、漠然と「持続的」では政策との関連が明確にならない。長期的なシミュレーションと関連づけてどのような政策が将来の社会・環境に影響を及ぼすか検討する。(演習：World Model による長期シミュレーション)
10	気候変動 (地球温暖化)	一般に「温暖化」と呼ばれているが、大気中の温室効果ガス (人工的起源) の増加とその影響について考える。(演習：将来の気温上昇と二酸化炭素濃度)
11	物流と環境問題、フードマイレージ	通常、市民があまり意識することのない貨物輸送や物流について解説し、身近な食品をテーマに、日常生活がもたらす環境負荷を試算する。(演習：フードマイレージ (食品の輸送にかかわる環境負荷) に関する試算)
12	運輸部門とエネルギー体系	交通 (特に自動車) は利便性の反面で大量のエネルギーを必要とするが、近年は電気自動車や水素自動車が目立っている。これらとエネルギー体系全体の関係を考える。(演習：電気自動車普及した場合の電力需要を推計する)
13	日本を取り巻く軍事・外交や核兵器の歴史と現状	世界の核兵器状況、条約や制度、北朝鮮の核とミサイルの経緯、日本における核武装論の経緯、可能性などの各種情報を提供する。核爆発による爆風・熱線・放射線などの各種の影響を解説し、具体的に被害の推定方法を知る。(演習：爆心からの距離による被害を推計する)
14	原子力防災体系	福島事故の避難・被曝の実態や、原発再稼働と関連して原子力災害対策指針の問題点など。(演習：津波避難を例に避難手段と所要時間の分析)。原発事故の際の地域避難と手段による被曝など。(演習：避難手段や経路による被曝の差に関する例題)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回ではありませんが高校数学の範囲で指数・対数を使用する問題があります。(指数と対数の変換ができれば可。方程式等はありません。) 微分・積分・行列等、理系の数学は必要ありません。特に予習は求めませんがメディアやインターネットでエネルギー・環境・原発などに関する動きを知っておくと興味を持って授業に参加できると思います。また時間の制約から授業内ですべての演習は実施できない場合があるので事後に自分で計算してみることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定のテキストはありません。毎回授業開始時に資料と演習を配布します。レポートや試験に必要となるので保管して下さい。欠席・遅刻者は各自の責任で対処して下さい。

【参考書】

指定の参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

単位の要件としては以下のすべての提出・受験を必須とします。

- (1) レポート 2～3 回 (学期中に随時出題します)
 - (2) 学期末試験 (※通常は定期試験ですが人数等により判断します。)
- ※レポートを提出しなかった時点で履修放棄とみなします。教育実習・ゼミ合宿・裁判傍聴等、大学所定あるいは履修科目の教員の指示による理由以外の遅延提出は受理しません。

【学生の意見等からの気づき】

出席を評価してほしいとの要望がみられますが、平常点のために授業に参加しても効果的ではありません。自発的に出席し演習等に取り組むことを期待しています。

【Outline and objectives】

In general the students of the law department study laws related with the human acts like the criminal law, civil law, the commercial law. In contrast the environmental policy has the connection that is close to physical phenomenon. In other words, the student may not figure out the idea of the environmental policy only by studying laws, ordinances and precedents. The approach of the environmental policy is as follows, 1) What is the problem to be solved, 2) What is the target to be achieved, 3) How can we approach the target. The process of this way of thinking is useful even if students will advance to any occupation in the future. The main content of this subject is to understand environmental problem as a physical phenomenon in quantitative analysis and to think about who should do what, how much. Although the object of the environmental policy diverges into many fields, issues in conjunction with transportation and city planning will be taken in this class.

POL200AC

都市政策 I

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

当面は下記の通り授業を行います。

- ・授業前日（月曜日）18 時までに資料と解説音声データを学習支援システムの「課題」にアップロードする。（※大学等のシステム環境が充実したときに変更することがある）
- ・基本的には時間割と同じ時間（火曜日 1 限）に視聴していることを想定しているが、事前に視聴しても構わない（リアルタイムでのクリッカーなどは使用しない）。
- ・視聴時間は各回の内容により異なる。視聴後は、①即日課題（授業の感想・意見等）、あるいは②一般課題のいずれかを課題とするので、以下に示した通りに提出する。

①即日課題（通常のリアクションペーパーに相当）：授業後に授業内容に関する感想、意見、質問について、学習支援システムの「課題」から提出（当日中締切）

②一般課題：授業で課題された課題に関して、インターネットや居住地周辺の現地調査をした上でその結果を学習支援システムの「課題」から提出（基本的には該当週の金曜日正午締切）

・第 1 回講義「オリエンテーション」の内容については、授業支援システムにアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	都市とは何か	都市の成り立ちと集積
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設 1	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設 2	公園緑地
第 6 回	近代都市計画の誕生	産業革命による都市環境の変化
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地区計画	地区計画、建築協定（建築基準法）等
第 9 回	開発許可制度	制度導入の経緯、概要
第 10 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 11 回	都市計画の決め方	都市計画決定、地方分権
第 12 回	都市の計画	都市計画マスタープラン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（前日までに配布資料をアップロードします）。

・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

教員が講義で配布する資料を使う。

講義資料は講義前日までに授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

伊藤雅春ほか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）

饗庭伸ほか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）

住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）

高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）

【成績評価の方法と基準】

評価は、即日課題、一般課題の合計（60%）と期末試験（40%）で行う。

①即日課題、一般課題の評価は下記になる。

・即日課題（授業の感想・意見等）：A：授業内容を踏まえた独自の視点からの意見や考え方が記述されている。B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。D：未記入とする。

・一般課題：A：独自の視点からの意見が掛けられている優れた内容である。B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。C：レポートの課題主旨が理解できず、表現方法も含めて不十分な内容である。

また、いずれ課題も締切時間を遅延した場合には、受理するが上記の評価からさらに減点する。

②期末試験は定期試験期間に行う予定であるが、期間中の実施ができない場合には、学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を用いて行う。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【Outline and objectives】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

POL200AC

都市政策Ⅱ

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回レジメや参考資料を配布し、必要に応じて、事例等の画像をプロジェクターから投影して講義を行う。また適宜参考資料等の情報提供を行う。
また、自らが生活する地域の土地利用の現状を考察する課題（レポート）を出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第 2 回	歴史的街並みの保全・活用の取組	歴史的街並みの保全・活用の取組を生み出す背景と事例紹介
第 3 回	景観まちづくり	景観条例と景観法
第 4 回	都市デザイン	都市デザイン行政の事例紹介（横浜市）
第 5 回	住宅政策と都市構造	戦後の住宅政策、都心居住
第 6 回	空き家問題とストック活用	既存ストックを活用したまちづくり事例
第 7 回	ライフスタイルの小売業の変化	戦後の小売業の発展が都市構造に与えた影響
第 8 回	商業政策	小売業に関する規制緩和と都市構造に与えた影響
第 9 回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	ユニバーサルデザイン等の概念、都市空間にて実現するための制度・事業等
第 10 回	防災まちづくり 1	都市空間における災害、防災まちづくりの手法・事例の紹介（地震・火災）
第 11 回	防災まちづくり 2	都市空間における災害、防災まちづくりの手法・事例の紹介（風水害）
第 12 回	都市再生	大都市の構造変化
第 13 回	コンパクトシティ	低成長・高齢社会における土地利用の考え方
第 14 回	公共施設マネジメント	低成長・高齢社会におけるインフラ維持・管理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします（前日までに配布資料をアップロードします）。
・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教員が講義で配布する資料を使います。
講義資料は講義前日までに授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

伊藤雅春はか著「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）
饗庭伸はか著「初めて学ぶ都市計画」（市ヶ谷出版社）
三船康道+まちづくりコラボレーション著「まちづくりキーワード事典」（学芸出版社）
住民主体のまちづくり研究ネットワーク 編著「住民主体の都市計画」（学芸出版社）
高見沢実 著「初学者のための都市工学入門」（鹿島出版会）ほか

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、地域課題（課題は授業内で出題）に関するレポート（30%）、期末試験（40%）
*平常点評価：受講生は各回授業の最後に感想・意見などをリアクションペーパーに記入する。各回のリアクションペーパーの記載内容を評価したものを集計する。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料

等の改善を行いたい。

【Outline and objectives】

In this lecture, we examine the case of controlling space to solve regional problems.

ECN100AC

財政学Ⅰ

小黒 一正

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。
 日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③世代間格差是正、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎理論について踏まえた後、市場の限界に対する政府の役割、租税が経済に与える影響などについて学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政（1）	市場の失敗と政府の役割、財政制度概観
第3回	財政（2）	予算制度
第4回	財政（3）	公共財
第5回	財政（4）	外部性、情報上の失敗、自然独占
第6回	租税（1）	租税の基礎理論
第7回	租税（2）	労働所得税
第8回	租税（3）	資本所得税
第9回	租税（4）	間接税、税制改革の方向性
第10回	財政政策（1）	財政政策の効果
第11回	財政政策（2）	財政赤字と公債の負担
第12回	財政政策（3）	再分配政策
第13回	その他	公的年金と医療、地方財政
第14回	まとめと期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小黒一正『財政学 15 講』新世社

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
 (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
 (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
 (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
 (4) 鳥澤論『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

ECN100AC

財政学Ⅱ

小黒 一正

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目である。
 日本財政は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③世代間格差是正、といった多くの課題を抱えている。本講義では、社会保障制度（年金・医療）やその財源、世代間格差の現状や課題などを講義する。

【到達目標】

日本財政や社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障改革の方向性について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第3回	年金（1）	年金制度の仕組み
第4回	年金（2）	年金制度の現状と課題
第5回	年金（3）	年金制度の経済分析
第6回	医療（1）	医療制度の仕組み
第7回	医療（2）	医療制度の現状と課題
第8回	医療（3）	医療制度の経済分析
第9回	介護（1）	介護制度の仕組み
第10回	介護（2）	介護制度の現状と課題
第11回	生活保護	生活保護の現状と課題、経済分析
第12回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第13回	世代間格差	世代会計
第14回	まとめと期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。
 (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
 (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
 (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
 (4) 小黒一正『財政学 15 講』新世社
 (5) 鳥澤論『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

POL100AD

国際政治学入門

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、初学者の受講を念頭に置いた国際政治学の入門講座である。その目的は、国際政治学に関する基礎知識を修得するとともに、専門知識を体系的に学習するための準備を行うことにある。複雑さを増してやまない国際社会の諸問題を広い視野から理解したり説明したりするのに必要な、国際政治学や国際関係論と呼ばれる学問分野でこれまで生み出されてきた基本概念や理解・認識の枠組み（パラダイムないしリサーチ・プログラム）を解説する。終盤では、現在進行中の国際政治経済、国際安全保障の話題を取り上げる。

【到達目標】

次の三つの到達目標を目指して、＜国際政治学ないし国際関係論の主要パラダイム＞について学ぶ。第一に、国際政治学における基本的な用語・概念や主要なテーマについての知識を身につける。第二に、国際政治学ないし国際関係論を捉えるための分析枠組みにまつわる諸々のポイントを正確に理解する。第三に、現実の国際社会の諸事象を、基本的な概念や分析枠組みを使って理解し、諸資料を活用しながら実証的に説明できる初歩的な能力を修得する。

また、国際政治の専門的なテーマに関する理論を扱う学術論文を正確に理解するための基礎理解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度告知する。本授業の開始日は、5月4日から11日までの間とし、この時期までに具体的な授業方法などを、学習支援システムで提示する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際政治学のあゆみ	主要パラダイムの概観。学問としての国際政治学の発展の歴史。
2	国際政治学における分析の枠組み	理論とは何か。分析レベルの問題。リサーチ・プログラムとは何か。
3	競争の国際政治（1）	リアリズムの中核概念。古典的リアリズムとは何か。
4	競争の国際政治（2）	構造的リアリズムとは何か。攻撃的・防衛的リアリズム。
5	協調の国際政治（1）	リベラリズムの中核概念。観念的・商業的・共和的リベラリズムとは何か。
6	協調の国際政治（2）	ネオリベラル制度論とは何か。ネオ・ネオ論争。リベラリズムへの批判。
7	観念の国際政治（1）	コンストラクティビズムの中核概念。適切性の論理と結果の論理とは何か。
8	観念の国際政治（2）	規範と文化に関する諸理論。コンストラクティビズムへの批判。
9	対外政策の理論—「点」からみる国際政治	対外政策を動かす国内要因を理解する。指導者、政党、利益集団、世論など。
10	戦略的相互作用—「線」からみる国際政治	国家と国家との相互作用という観点から国際政治のプロセスを理解する。
11	国際秩序—「面」からみる国際政治	国家が共通の規則や制度に拘束されていると考えている時に生まれる国際関係を理解する。
12	国際政治経済	現代における貿易と金融をめぐる国際政治を考える。
13	国際安全保障	現代における戦争と平和をめぐる国際政治を考える。
14	総括	全体の振り返りと、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。授業支援システムでアウトライン等を配信する。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。

・田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』、有斐閣ブックス、2004 年、2400 円。

・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013 年、3000 円。

・世界地図。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は、学習支援システムで告知する。

【学生の意見等からの気づき】

・毎回、授業の冒頭で、前回後半の講義内容を振り返って、記憶を喚起する。
 ・複雑な概念を扱う際には、二回の講義を利用して説明を行う。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

＜主要研究業績＞

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), pp.16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。など

【Outline and objectives】

This is an introductory course on international politics. The objective of this course is to gain knowledge of basic concepts of international relations in order to lay the foundation for systematically learning advanced theories of international relations. Students would be exposed to the main paradigms or research programs relating to international politics.

POL100AD

国際政治の理論と現実

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、国際政治学の基礎知識を身につけた受講者を念頭に置いた国際政治学の専門講座である。履修者が、複雑な国際事象を広い視野から理解したり説明したりするのに必要な国際政治学に関する専門知識を体系的に修得することを旨として、現在進行中の国際情勢も紹介しながら、その分析の手掛かりとなりうる国際政治学の代表的な理論などを説明する。

【到達目標】

＜国際政治の理論と現実＞について学ぶ。国際秩序という視点から現代の国際政治現象について理解するための理論や分析枠組みを学び、諸資料を活用して国際社会の諸問題を動態的に分析する能力を習得することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で進める。日々動く国際情勢にも随時言及しながら、講義を展開する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	国際政治学の主要パラダイムの確認。 授業要領の説明。
2	国際秩序の理論（1）	国際社会の成立。政治秩序の構成要素。国際秩序とは何か。
3	国際秩序の理論（2）	国際秩序の国内類推論、市場類推論。
4	20 世紀の国際秩序（1）	1919 年の秩序構築とその変容
5	20 世紀の国際秩序（2）	1945 年の秩序構築とその変容
6	20 世紀の国際秩序（3）	冷戦期の国際秩序とその変容
7	20 世紀の国際秩序（4）	ポスト冷戦期の国際秩序とその変容
8	21 世紀の国際経済秩序（1）	国際通商秩序の歴史とその変容。ブレトンウッズ体制から WTO への発展。自由貿易協定の拡散。自由貿易に対する反動と保護主義。
9	21 世紀の国際経済秩序（2）	国際金融秩序の歴史とその変容。グローバル金融危機。
10	21 世紀の国際安全保障秩序	パワーシフトと国際秩序の変容。リベラル覇権秩序は劣化しているか。
11	21 世紀の地域秩序（1）—東アジア	米中「新冷戦」の展開。北朝鮮問題の行方。アメリカの同盟システムの行方。
12	21 世紀の地域秩序（2）—ヨーロッパ	ヨーロッパの地域秩序の変容。ロシアとウクライナ危機。移民・難民危機。ブレグジットの意味。NATO の行方。
13	21 世紀の地域秩序（3）—中東	中東の地域秩序の変容。イラン＝サウジアラビア・イスラエルの対立。ロシアの関与。
14	新領域における秩序	サイバー空間、宇宙空間における秩序の行方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持ったトピックについて、参考書で関連用語を調べ、理解を深めるといふ個人的な努力を積み、ゼミでの研究に結びつく力を養うことができる。新聞の国際面の記事を読みながら、授業で習った概念を使って、そこで報じられている事件・事象をどう理解できるかを常に考える癖をつけるとなお良い。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に示す。
 以下を購入する義務はないが、要すれば適宜参照されたい。
 ・田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識（新版）』、有斐閣ブックス、2004 年、2400 円。
 ・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013 年、3000 円。
 ・中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』、有斐閣、2013 年、3200 円。
 ・世界地図。

【成績評価の方法と基準】

期末に筆記試験を実施し評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

・複雑な概念を扱う場合には、講義で少なくとも 2 回解説する。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

＜専門領域＞ 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
 ＜研究テーマ＞ 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
 ＜主要研究業績＞
 ・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.
 ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
 ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。
 ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。
 ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。
 ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。など

【Outline and objectives】

This is a specialized lecture course for students who are already familiar with the basic concepts of international relations theory. The objective of this course is to systematically gain specialized knowledge of international politics by learning major theories in the field as well as ongoing contemporary international affairs.

POL300AD

アメリカ政治外交史

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの建国から第二次世界大戦までの政治と外交の歴史について、国内政治上の変化が対外政策にいかなる変化を生じさせたのかを解説する。また、アメリカの対外関与が、いかなる国際的な要因の変化を受けながら射程を広げていったのかを説明する。さらに、資料を活用しながら、重要な歴史的局面における政策転換に作用した諸要因を明らかにする。

【到達目標】

次の到達目標を目指す。第一に、アメリカの政治制度の特徴と由来についての専門的な知識を習得する。第二に、アメリカ外交を国内政治と対外政策との相互連関という視点から理解できる能力を身につける。

また、授業で紹介する資料について、その文脈や位置づけについて考察する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度告知する。本授業の開始日は、4 月 21 日とする。具体的な授業方法などは、学習支援システムで提示する。学習支援システムの「お知らせ」サイトを随時確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	合衆国憲法の政治制度	連邦制と三権分立。
2	大統領と連邦議会の外交権限	大統領の権限。連邦議会の権限。官僚機構の役割。
3	独立革命	植民地から合衆国憲法の制定まで。
4	フランス革命への対応と 1812 年の米英戦争	米国内における権力闘争と外交。
5	モンロー・ドクトリン	欧州諸国との駆け引き。
6	南北戦争と対外関係	南北戦争と米国の外交
7	領土拡張と門戸開放政策	西方への拡張。アジアへの関与。
8	革新主義と対アジア政策	ローズヴェルト、タフト、ウィルソンの時代の政治と外交。
9	第一次世界大戦とパリ講話会議	第一次世界大戦への参戦過程と戦後処理。
10	1920 年代の共和党政権の内政と外交、中南米での善隣外交	戦間期の政治。ドル外交の展開。
11	大恐慌とニューディール	1930 年代の政治。ニューディール連合の結成。
12	1930 年代のアジアとヨーロッパ	台頭する日本とドイツへの対応。
13	第二次世界大戦をめぐる外交と戦略	レンド・リース法の制定。戦争準備。日米交渉。
14	戦時体制と終戦外交	第二次世界大戦期の内政と外交。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史（第二版）』、東京大学出版会、2012 年。
 斎藤真、久保文明編『アメリカ政治外交史教材・英文資料選（第二版）』、東京大学出版会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は、学習支援システムで告知する。

【学生の意見等からの気づき】

前回の授業のポイントを、次回の講義の冒頭で確認のために解説する。

【現代アメリカ外交、国際政治学】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障
 <研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など
 <主要研究業績>

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

This is a lecture course on the history of American politics and diplomacy covering the period from the founding of the nation to the Second World War. It will shed light on how domestic political factors and international factors affected U.S. foreign engagement. Documents will be used from time to time to explain how historically significant decisions were influenced by various factors.

POL300AD

現代のアメリカと世界

森 聡

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦以降のアメリカの世界戦略や外交に関する専門的な知識を身につけるとともに、対外政策過程をめぐる政治力学の機微についての理解を深め、意思の決定や実行に関する実践的な知識も習得する。ハリー・トルーマン政権からドナルド・トランプ政権までのアメリカ外交の歴史的展開を辿り、各政権の世界観がどのように変遷してきたのかを解説する。

【到達目標】

・第二次世界大戦以降のアメリカの対外政策の歴史を踏まえて、現在のアメリカ外交を理解できる能力を身につける。
 ・アメリカの対外政策の立案・決定・実行をめぐる政治力学の複雑さに関する理解を深め、米国内の多元的なアクターによる駆け引きと、諸外国との相互作用の接点として対外政策を理解できる能力を身につける。
 ・また、歴代政権の対外政策の連続性と変化を理解し、その要因について仮説を立てられる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式による授業とする。（なお、履修者数が少ない場合には、教員の判断でゼミに準じた形式を導入する可能性もある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカの対外関与	アメリカの対外関与のパターン
第 2 回	アメリカの国際秩序観	一国主義とリベラル国際主義の起源と融合
第 3 回	冷戦の起源とアメリカ	アメリカによる戦後秩序構想
第 4 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 1）	トルーマン政権の初期封じ込め戦略と NSC68
第 5 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 2）	アイゼンハワー政権のニュールック戦略と、ケネディ・ジョンソン政権の柔軟反応戦略
第 6 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 3）	ニクソン・フォード政権のデタント外交と、カーター政権の対外政策
第 7 回	冷戦期の封じ込め戦略（その 4）	レーガン政権の巻き返しと、ブッシュ I 政権の対外政策
第 8 回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その 1）	クリントン政権の対外政策
第 9 回	ポスト冷戦期のアメリカの戦略（その 2）	ブッシュ II 政権の対外政策
第 10 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 1）	オバマ政権の対外政策
第 11 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 2）	オバマ政権の対アジア戦略
第 12 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 3）	トランプ政権登場の背景
第 13 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 4）	トランプ政権の対外政策
第 14 回	グローバル金融・経済危機後のアメリカの戦略（その 5）	トランプ外交の行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）により評価する。（履修者数が 20 名に満たない場合には、レポート課題に切り替える可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

授業冒頭で、前回の要点を振り返る。

【現代アメリカの外交・安全保障政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.

・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.

・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。

・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。

・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。

・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

など

【Outline and objectives】

The objective of this course is to provide class participants with specialized knowledge relating to U.S. foreign policy after the Second World War, and thereby enable them to deepen their understanding of the politics of foreign policy-making, and gain practical knowledge related to decision-making and implementation of U.S. foreign policy. The course will illustrate U.S. diplomacy from the Truman administration to the Trump administration, and point out the global outlook of successive postwar U.S. administrations.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）

半田 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシビリアンコントロール（文民統制）の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。
 ※新型コロナウイルスの影響で授業回数が減ります。シラバスにある通りの14 回分の授業は全体をコンパクトにして回数が減っても学習機会が奪われることがないように工夫していきます。（4 月 17 日修正）
 ※授業開始日は4 月 2 1 日です。この日以降は毎週火曜日です。

【到達目標】

日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回、講義をします。パワーポイント、画像などを活用します。講義の最後に質問を受けます。
 ※新型コロナウイルスの影響で大学での授業ができない状態となっています。当面は Hoppii の学習支援システムを使った授業を行います。詳しくは仮登録すれば、授業支援システムの「政治学特殊講義Ⅰ（安全保障政策）」にアクセスできますので、読んでみてください。仮登録後の授業は「学習支援システム」に私がアップする「お知らせ」や「教材」を活用して授業を進めます。youtube などを使った授業については検討中です。（4 月 17 日修正）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（自衛隊とは）	自衛隊とはどのような存在でしょうか。また国民は自衛隊をどうみているのでしょうか。活動の全体像を画像などで勉強します。
第 2 回	日本国憲法下の自衛隊／日米安全保障条約とは	戦争放棄を明記した日本国憲法のもと、政府は自衛隊を合憲とし、米国は日米安全保障条約により、日本に基地を置くことが認められています。この根拠を学びます
第 3 回	多様化する自衛隊の活動	国内においては国防から災害派遣と幅広く、海外では国連平和維持活動（PKO）などにも参加しています。自衛隊の現状を学びます。
第 4 回	国連平和維持活動（PKO）への参加	冷戦後、自衛隊はPKOへの参加を開始しました。すでに14 回の派遣実績があります。憲法との整合性と活動の実態をみます。
第 5 回	米国艦艇への洋上補給／憲法違反の判決を受けたイラクでの空輸	米国のアフガニスタン攻撃、イラク戦争に合わせて自衛隊は対米支援を実施しました。初の戦地派遣です。このうち憲法違反の判決を受けた活動もあるのです。
第 6 回	ソマリア沖の海賊対処／拡大するジブチの自衛隊海外拠点	海外活動はソマリア沖の海賊対処が典型例です。海賊対処のためにジブチに恒久施設を持った自衛隊の活動とその狙いは何でしょうか。
第 7 回	東京、神奈川に集中する米軍基地	在日米軍4 万5 0 0 0 人は東京、神奈川といった首都圏に多くの基地を置いています。米軍の現状と役割について学習します。
第 8 回	沖縄の米軍基地の現状と問題点	沖縄には在日米軍基地の7 割が集中。米本国以外で唯一の海兵隊もいます。重い基地負担の現状と、基地をめぐる沖縄と日本政府の対立について、考察します。

第 9 回	中国の軍事力強化とその狙い	海軍力を強める中国、の狙いを理解し、日本の安全にどのような影響があるのか関連を学びます。
第 10 回	北朝鮮の核・ミサイル開発の狙いと朝鮮半島情勢	核とミサイル開発を進める北朝鮮。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、朝鮮半島情勢はどう変化するか学びます。
第 11 回	米国から導入した弾道ミサイル迎撃システムとオスプレイの問題点	自衛隊は米国以外では唯一、米国製のミサイル防衛システムを導入し、近くオスプレイも導入します。経緯と問題点を探ります。
第 12 回	安全保障関連法による自衛隊の変化・その1	安倍晋三政権は安全保障関連法を成立させ、自衛隊の活動に集団的自衛権行使を含めました。多くの憲法学者から違憲との指摘もある活動の中身をみていきます。
第 13 回	安全保障関連法による自衛隊の変化・その2	前の授業に続き、安全保障関連法による自衛隊の変化を勉強します。憲法改正による自衛隊明記の意味も考えていきます。
第 14 回	テスト	これまで学んできた自衛隊や米軍の現状、日本を取り巻く安全保障環境などについて幅広く出題します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本を取り巻く安全保障環境はこの四半世紀の間に大きく変わりました。政府は「防衛計画の大綱」を変えるなかで、空母保有を打ち出すなど日本の安全保障政策は大きく変化しています。中国は南シナ海での活動をさらに活発化させるのか、核・ミサイル開発を進めてきた北朝鮮は今後、どうなるのか。新聞、テレビを通じて、日々の動きを追い、日本の安全がどのような形で維持されていくのか注視してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

半田滋『安保法制下で進む先制攻撃できる自衛隊』（あけび書房）
 半田滋『検証 自衛隊・南スーダンPKO』（岩波書店）
 半田滋『日本は戦争をするのか－集団的自衛権と自衛隊』（岩波新書）

【参考書】

防衛省『令和元年版防衛白書 日本の防衛』
 半田滋『僕たちの国の自衛隊に21 の質問』（講談社）

【成績評価の方法と基準】

平常点20%、試験80%で評価する。授業中の私語は、他の学生の迷惑となるので注意のうえ、減点とする。

【学生の意見等からの気づき】

政治の動きと自衛隊の活動は一体化しているので、「新聞が参考になる」との学生の意見がありました。本授業では、新聞のみならず、テレビ、インターネット情報も積極的に取り入れていきます。

【Outline and objectives】

I will examine Japanese security policy. It is the Self Defense Force who uniquely plays Japan defense. U.S. military roles are required by the Japan-US Security Treaty. Without exercising force abroad, the Self Defense Force, which has dedicated itself to exclusive defense, began working overseas after the Cold War. Furthermore, by the security-related law, we are trying to step into the exercise of collective self-defense rights and backward support to other national forces. Since Japan is a country of civilian control, of course, it is decision by politics. We will learn about the way the SDF and the US military are determined by politics based on concrete examples.

POL300AC

演習

水野 和夫

授業形式：演習 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の現在、世界で起きていること、たとえば、デフレ、ゼロ金利、多発するテロ、イギリスのEU離脱、トランプの次期大統領誕生などは、近代にとってみれば「例外状況」である。例外状況においてこそ物事（ここでは資本主義）の本質が現れるのだから、21 世紀の現在はまさに研究テーマとしてふさわしいといえよう。その場合、近代の本質をとらえるには政治と経済を一体化して考察が必要となる。

資本主義とグローバリゼーションや民主主義の関係を考え、資本主義が高度に発達した 21 世紀におきてなぜ貧困や不平等問題が生じるかなどについて研究し、現実の世界で見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかと学ぶことができる。

【到達目標】

ゼミの 2 年間の到達目標は、「近代とはいかなる時代か？」を理解することによって、近代の次に来るであろう 21 世紀のシステムはどの方向に向かうかを理解できる。

目に見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかに関して、説明できる唯一の理論は存在しないものの、筋道をたてて考察することによって、その構造変化を引き起こしている原動力は何かを見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義とグループごとの発表、そして活発な質疑応答。

まず、4 月に下記①～④の論文を読んで、21 世紀の経済現象をとらえるための基本的な枠組みを把握する。

次いで、5 - 6 月にかけて、『21 世紀の資本』（ピケティ）を輪読し、格差が生ずる基本的なメカニズムを考察する。

7 月には、下記⑤～⑦の論文を参照し、「長い 16 世紀」の歴史的な危機においてシェイクスピアが『ヴェニスの商人』で描いた資本の本質についてを考え、現在との相違点を探る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの進め方を説明	下記①～④の論文の発表、『21 世紀の資本』の各章の発表グループを決定
第 2 回	①「収拾つかぬ方へ」（エルスナー他）、②「現代帝国主義の国際法的諸形態」（カール・シュミット）	世界史は「蒐集」の歴史、支配と非支配の正当性
第 3 回	③「歴史における危機」（ブルクハルト）	21 世紀と、過去 3 回の「歴史の危機」との比較
第 4 回	④「わが孫たちの経済的可能性」（ケインズ）	ゼロ金利の意味、貨幣愛の防止策
第 5 回	『21 世紀の資本』はじめに、第 1 章	所得と産出
第 6 回	『21 世紀の資本』第 2 章、3 章	経済成長——幻想と現実 資本の変化
第 7 回	『21 世紀の資本』第 5 章	長期的に見た資本／所得比率、3 年生ゼミ論の演題と構成mの発表（3 人前後）
第 8 回	『21 世紀の資本』第 6 章	21 世紀における資本と労働の分配、3 年生ゼミ論の演題と構成mの発表（3 人前後）
第 9 回	『21 世紀の資本』第 7 章	格差と集中——予備的な見通し、3 年生ゼミ論の演題と構成mの発表（3 人前後）
第 10 回	『21 世紀の資本』第 10 章	資本所有の格差
第 11 回	『ベニスの商人』（DVD 鑑賞）	⑤イーグルトン「ヴェニスの商人」 『シェイクスピア 言語・欲望・貨幣』
第 12 回	⑥本橋哲也「シャイロックの財産はどこへ」（第 2 章）『本当はこわいシェイクスピア 〈性〉と〈植民地〉の渦中へ』	⑦岩崎宗治「〈運命の女神〉と資本主義の結婚」（第 3 章）『シェイクスピアの文化史 社会・演劇・イコノロジー』名古屋大学出版会、2002 年
第 13 回	シャイロックとポーシャ・アントニオニについて、議論	契約重視か慈悲か

第 14 回 春学期のまとめ 夏合宿の準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくにプレゼンの準備をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

「収拾つかぬ方へ（序論）」、『蒐集』ジョン・エルスナー/ロジャー・カーディナル編、原書 1994、高山宏/富島美子/浜口稔訳、1998、研究社）

「現代帝国主義の国際法的諸形態（1932）」、『カール・シュミット著作集 1』（2007）長尾龍一訳、慈恵社出版

「歴史における危機（第 4 章）」、『世界史の考察』（ヤコブ・ブルクハルト、1868 年、ちくま学芸文庫、新井靖一訳、2009）

「わが孫たちの経済的可能性」（1930 年）『ケインズ全集 9 説得論集』宮崎義一訳、東洋経済新報社、1981）

『21 世紀の資本』（ピケティ、みすず書房）

イーグルトン「ヴェニスの商人」（第 3 章）『シェイクスピア 言語・欲望・貨幣』大橋洋一訳、平凡社、2013 年

本橋哲也「シャイロックの財産はどこへ」（第 2 章）『本当はこわいシェイクスピア 〈性〉と〈植民地〉の渦中へ』 講談社選書メチエ、2004 年

岩崎宗治「〈運命の女神〉と資本主義の結婚」（第 3 章）『シェイクスピアの文化史 社会・演劇・イコノロジー』名古屋大学出版会、2002 年

【参考書】

『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書）

『閉じてゆく帝国と逆説の 21 世紀経済』（水野和夫、集英社新書）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンの発表内容（50 %）と、質問の頻度（50 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、最後の 15 分間程度使って、ゼミの望ましいあり方を議論し、改善していく。

【Outline and objectives】

This course introduces the cause of deflation and zero interest rate, and effect of globalization, and the problem of poverty to students taking this course.

Student can consider the pluses and minuses of Capitalism in the 21st century and a subject modern society.

POL300AC

演習

水野 和夫

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の現在、世界で起きていること、たとえば、デフレ、ゼロ金利、多発するテロ、イギリスの EU 離脱、トランプの次期大統領誕生などは、近代にとってみれば「例外状況」である。例外状況においてこそ物事（ここでは資本主義）の本質が現れるのだから、21 世紀の現在はまさに研究テーマとしてふさわしいといえよう。その場合、近代の本質をとらえるには政治と経済を一体化して考察が必要となる。

資本主義とグローバリゼーションや民主主義の関係を考え、資本主義が高度に発達した 21 世紀におきてなぜ貧困や不平等問題が生じるかなどについて研究し、現実の世界で見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかと学ぶことができる。

【到達目標】

ゼミの 2 年間の到達目標は、「近代とはいかなる時代か？」を理解することによって、近代の次に来るであろう 21 世紀のシステムはどの方向に向かうかを理解できる。

目に見える現象の水面下でどういった構造変化が起きているかに関して、説明できる唯一の理論は存在しないものの、筋道をたて考察することによって、その構造変化を引き起こしている原動力は何かを見つけることができる。

3 年生はゼミ論の作成にとりかかり、論文を書く能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義とグループごとの発表、そして活発な質疑応答。

まず、9 月に下記①～④の論文を読んで、帝国とグローバリゼーションの関係について考察する。

つぎに、10～11 月にかけて、近刊書を輪読し、ゼロ金利や米中新冷戦の背景を考察する。

12 月は『サド侯爵夫人』（第 2 幕）を読み、21 世紀は近代が続いているのか、あるいはポスト近代の時代に入っているのかを考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の目標について	下記①～④の論文、近刊書の発表グループを決定
第 2 回	①「『帝国』とは何か」（第 1 章）『帝国の研究—原理・類型・関係—』（山本有造編、名古屋大学出版会、2003 年）	②「帝国の表彰」（松浦寿輝）山内昌之他編（1997）『帝国とは何か』岩波書店
第 3 回	③「序論」『近代とはいかなる時代か？—モダニティの帰結』（アンソニー・ギデンズ、而立書房、松尾 精文/小幡 正敏訳、原著 1990、1993）	④「グローバリゼーションと領域民主主義（第 1 章）、『変容する民主主義 グローバル化の中で』（A. マッグルー【編】、1997 原著、松下洸【監訳】、日本経済評論社、2003）
第 4 回	はじめに（近刊書、署名未定）	第 1 章「ゼロ金利と『蒐集』」第 1 節「蒐集の歴史の終わりを意味するゼロ金利」
第 5 回	第 2 節「崩壊寸前の米国社会」	第 3 節「21 世紀の『歴史の危機』」
第 6 回	第 2 章「グローと帝国」第 1 節「近代を呼び込んだ中世のグローバリゼーション」	3 年生ゼミ論中間発表（3 名前後）
第 7 回	第 2 章第 2 節	3 年生ゼミ論中間発表（3 名前後）
第 8 回	第 2 章第 3 節	3 年生ゼミ論中間発表（3 名前後）
第 9 回	第 3 章「利子と資本」第 1 節	利子の根拠
第 10 回	第 3 章第 2 節、3 節	投資か消費か、エネルギー問題
第 11 回	終章	21 世紀の日本の課題
第 12 回	近代とは	『サド侯爵夫人』（第 2 幕）を題材に近代、ポスト近代を考える—ルネカモン トルイユ夫人か
第 13 回	2 年間の総まとめ	3 年生ゼミ論最終発表
第 14 回	秋学期のまとめ	近代と国民国家、ポスト近代と帝国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、とくにプレゼンの準備をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

「『帝国』とは何か」（第 1 章）『帝国の研究—原理・類型・関係—』（山本有造編、名古屋大学出版会、2003 年）

「帝国の表彰」（松浦寿輝）山内昌之他編（1997）『帝国とは何か』岩波書店
 「序論」『近代とはいかなる時代か？—モダニティの帰結』（アンソニー・ギデンズ、而立書房、松尾 精文/小幡 正敏訳、原著 1990、1993）

「グローバリゼーションと領域民主主義（第 1 章）、『変容する民主主義 グローバル化の中で』（A. マッグルー【編】、1997 原著、松下洸【監訳】、日本経済評論社、2003）

【参考書】

『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書）

【成績評価の方法と基準】

プレゼンの発表内容（50 %）と、質問の頻度（50 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、最後の 15 分間程度使って、ゼミの望ましいあり方を議論し、改善していく。

【Outline and objectives】

This course introduces the cause of deflation and zero interest rate, and effect of globalization, and the problem of poverty to students taking this course.

Student can consider the pluses and minuses of Capitalism in the 21st century and a subject modern society.

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2020 spring semester, classes will start on 22 April (Wednesday)(4th period). Please register using 学習支援システム（履修するためには、4月20日までに学習支援システムで仮登録をして下さい）。Please also check for any announcements and class arrangements in 学習支援システム（教材や授業のやり方などについては学習支援システムを見て下さい - お知らせ、教材などを参照）。

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance. The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance

6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance
10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

・Thomas G. Weiss, Global Governance, Why? What? Whither?, Polity Press, 2013.

・Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.

・United Nations Development Programme (UNDP), Human Development Report 2013: The Rise of the South, Human Progress in a Diverse World. New York: UNDP, 2013

・鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017

・笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治—文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016 年

・鈴木佑司・後藤一美（編著）『グローバリゼーションとグローバル・ガバナンス』（法政大学現代法研究所叢書 30）、法政大学出版局、2009 年

・国連開発計画（UNDP）「人間開発報告書 2013：南の台頭—多様な世界における人間開発」、2013 年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【Outline and objectives】

As written above.

POL300AD

国際NGO論 I

山口 誠史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の援助においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の開発理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンライン授業用の第 1 回目の教材および課題を、4 月 18 日に授業支援システムにアップしました。

課題については、4 月 30 日までに回答してください。

教室授業では、私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。数回は、個人または複数でのワークを行います。

授業の最後には、毎回アクションペーパーに記入し提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の狙いおよび春学期の授業計画を説明した後、国際協力の背景
第 2 回	日本の NGO の概要	NGO とは何か、日本の国際 NGO の特徴と課題
第 3 回	NGO と ODA	政府が行う ODA の概要と NGO との違い
第 4 回	開発効果	ODA 援助効果と CSO 開発効果およびイスタンブール原則について
第 5 回	MDGs と SDGs	貧困削減や環境保全など世界が共通に目指す国際目標である MDGs と SDGs の背景と課題
第 6 回	教育	途上国の教育問題を理解するために、「世界一大きな授業」を実施する
第 7 回	緊急救援	ソマリアにおける緊急救援を例に、飢餓の原因と NGO による緊急救援活動
第 8 回	貧困と地域開発	バングラデシュの貧困、開発、NGO、ソーシャルビジネス（外部講師）
第 9 回	難民問題	アフガニスタンを題材に難民問題に関する概要と現状について
第 10 回	人道支援	シリアなどの紛争地における人道支援活動
第 11 回	農村開発	カンボジアにおける農村開発プロジェクトの事例研究
第 12 回	保健医療 I	カンボジアにおける保健状況と NGO による母子保健プロジェクトの成果
第 13 回	保健医療 II	東ティモールにおける学校保健プロジェクトの事例研究
第 14 回	まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの予習内容を指示します。

また、1、2 回のレポート作成を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。

授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界（2011）高柳彰夫、フェリス女学院大学
- ・ミレニアム開発目標 世界から貧しさをなくす 8 つの方法（2012）「動く → 動かす」編、合同出版
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力 NGO と 3・11（2012）国際協力 NGO センター、早稲田大学出版部

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、試験（50%）、レポート（10%）、平常点（40%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料をもっと見やすく作りたいと思います。

ディスカッションが好評だったので、もう少し取り入れたいと思います。

【Outline and objectives】

Starvation and poverty, human rights violations, various global problems including the environmental disruption worsen more and more. For these problems, the role of the NGO which works on solution from a civic viewpoint becomes important.

In the help of the NGO, it is important that strengthen the potential ability of people than material support, and people themselves work on improvement autonomously. You learn an idea and the approach of such an NGO and I expect that you think about what you can do to solve global problem.

POL300AD

国際NGO論Ⅱ

山口 誠史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の援助においては、物質的な支援よりも、人々の潜在的な能力を強めて、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の開発理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講師が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。数回は、個人または複数でのワークを行います。

授業の最後には、毎回リアクションペーパーに記入し提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	HIV/AIDS I	HIV/AIDS の概要とアジアにおける事例
第 2 回	HIV/AIDS II	アフリカにおける HIV/AIDS の事例
第 3 回	環境	ラオスにおける森林プロジェクトの事例研究
第 4 回	在日外国人支援	在日外国人の健康問題に取り組む NGO の事例研究
第 5 回	国内における緊急救援	東日本大震災における国際協力 NGO の活躍と課題
第 6 回	NGO 間のネットワーク	ネットワークの意義と NGO 間の連携
第 7 回	企業との連携	NGO と企業との連携の意義と事例研究
第 8 回	BOP ビジネス	途上国における NGO と企業との連携
第 9 回	NGO の組織運営とアカウンタビリティ	NGO の組織の特徴と、NGO 活動を支える組織運営の概要
第 10 回	プロジェクト立案入門編	ひとつのエピソードをきっかけに、問題分析から事業立案を体験
第 11 回	政策提言 I	地球規模の課題に対する提言活動の事例として、対地雷廃絶の道を解説
第 12 回	政策提言 II	日本の ODA や政府の方針に対する政策提言活動
第 13 回	働く場としての NGO	NGO の職場環境や待遇を含む NGO の現状とリクルートまでのプロセス
第 14 回	まとめ	秋学期全体の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの予習内容を指示します。

また、1、2 回のレポート作成を指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。

授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界（2011）高柳彰夫、フェリス学院大学
- ・ミレニアム開発目標 世界から貧しさをなくす 8 つの方法（2012）「動く → 動かす」編、合同出版、
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力 NGO と 3・11（2012）国際協力 NGO センター、早稲田大学出版部

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、試験（50%）、レポート（10%）、平常点（40%）を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料をもっと見やすく作りたいと思います。

ディスカッションが好評だったので、もう少し取り入れたいと思います。

【Outline and objectives】

Starvation and poverty, human rights violations, various global problems including the environmental disruption worsen more and more. For these problems, the role of the NGO which works on solution from a civic viewpoint becomes important.

In the help of the NGO, it is important that strengthen the potential ability of people than material support, and people themselves work on improvement autonomously. You learn an idea and the approach of such an NGO and I expect that you think about what you can do to solve global problem.

POL300AD

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの国際関係の構図について、外交・安全保障を中心に、歴史や経済を踏まえつつ、考えていきます。とくに日本、中国、朝鮮半島を軸に各国のナショナリズムに焦点をあてます。東アジアには冷戦の終焉後も不信と対立の構造が根深く残っています。それはなぜか、どうしたら不信は解けるかを考えていきましょう。

【到達目標】

21 世紀の東アジアの国際関係の現状を理解するため、その歴史的背景と構造を押さえること。戦前の大日本帝国の戦争とその崩壊、戦後の冷戦期、21 世紀の米国と中国の協調と対立を軸に、日本と米国、日本と中国、日本と南北朝鮮、日本と東南アジアという関係を、政治・安全保障、経済、文化・市民社会という次元をふまえて理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半は、東アジアの国際関係の成り立ちと基本構造について、時代別に取り上げて基礎知識を共有する。後半は安全保障、領土紛争、歴史認識、経済統合などの主要な争点をとりあげ、受講生がテーマを選択してプレゼンを行い、その争点について討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「東アジアのパラドックス」／政治と安全保障、経済と文化／地政学とナショナリズム
第 2 回	アジアの「帝国」とパワーシフト	大日本帝国の戦争と植民地支配の遺産／パワーの定義
第 3 回	米国はアジアか？	米国にとっての東アジア／日本の戦略的価値／朝鮮戦争とベトナム戦争
第 4 回	中国：分断国家から超大国へ	中華アイデンティティ／「一帯一路」
第 5 回	中国と日本：歴史、領土、外交、経済	米中国交正常化と日中関係／日米中トライアングル
第 6 回	韓国：民主化とナショナリズム	半島国家の地政学 南北統一の展望 日韓関係
第 7 回	北朝鮮：化石体制の行方	金王朝とスターリニズム／核兵器開発と 6 者協議／拉致問題
第 8 回	ベトナム戦争からカンボジア和平：「戦場から市場へ」	独立と民族解放のベトナム戦争／ドイモイと市場経済／対中、対米関係
第 9 回	A S E A N：成長のはざままで	アジア金融危機と開発独裁の問題点／中進国のワナ／
第 10 回	民主化と開発：フィリピンとミャンマー	開発独裁から民主化したフィリピンやインドネシア、軍政のタイ、ミャンマーの経験は？
第 11 回	南シナ海と領土紛争	A S E A N 地域フォーラムなど多国間協調の意義と限界
第 12 回	米中新時代？ 冷戦の再現？	米国の「アジア回帰」と中国の「一帯一路」や海洋戦略／
第 13 回	日本外交の選択	日米安保体制とは／朝鮮半島有事シナリオ／対中戦略は？
第 14 回	まとめと総括	21 世紀の東アジアと日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

東アジアは、日々動いています。国際政治では、現実には起きている問題を、その文脈を踏まえて理論的な枠組みを使って普遍的に説明できる能力が求められます。英文サイトを読むなど日々のニュースに敏感になってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書と参考文献は最初の授業で説明する

【参考書】

服部龍二 『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書）
 図説「ゼロからわかる日本の安全保障」
 ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』（上下）
 イアン・ブルマ 『戦争の記憶 日本人とドイツ人』
 若宮啓文 『和解とナショナリズム』
 植木千可子 『平和のための戦争論』（ちくま新書）
 ドン・オーバードーフアー 『二つのコリア』（共同通信）

『日中関係史』（有斐閣アルマ）

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーなど授業参加、平常点が 4 割。期末試験が 6 割。テーマを選んでプレゼンを行い、その内容をまとめたペーパーを提出することで期末試験に代えることもできる。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序は、できるだけ現実の国際社会の動きに合わせていくので、必ずアジアに関する国際ニュースをチェックすること。

【Outline and objectives】

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL300AD

地球環境論 I

授業形式： | 開講セメスター：秋学期

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の 3 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第 2 回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水・森林と人との関わり、開発と自然保護の対立
第 3 回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第 4 回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント、生態学と環境計画
第 5 回	法によらない保全メカニズム	自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPO による取組事例、協定等の自発的手法
第 6 回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのビオトープ
第 7 回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第 8 回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い、エコロジカルネットワーク
第 9 回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第 10 回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第 11 回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第 12 回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第 13 回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光、野生生物を生かした事例
第 14 回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

POL300AD

地球環境論Ⅱ

授業形式： | 開講セメスター：秋学期
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第 2 回	オゾン層・その 1（第 7 章）	紫外線、フロンガス
第 3 回	オゾン層・その 2（第 7 章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第 4 回	気候変動・その 1（第 8 章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第 5 回	気候変動・その 2（第 8 章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第 6 回	気候変動・その 3（第 8 章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第 7 回	気候変動・その 4（第 8 章）	緩和策
第 8 回	気候変動・その 5（第 8 章）	適応策
第 9 回	越境汚染（第 9 章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第 10 回	中国の環境と資源・その 1（第 11 章）	人口、食料と水資源
第 11 回	中国の環境と資源・その 2（第 11 章）	エネルギー、公害、政策
第 12 回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第 13 回	環境国際協力	事例研究
第 14 回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。
授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）と期末試験（90 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

POL200AD

文章の書き方セミナー

五十嵐 文生

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献のない事象や現在進行中の問題について、自分で調べて、取材し、問題の所在を明らかにして、それを文章として表現する能力を養う。

【到達目標】

インタビュー、映画鑑賞、裁判傍聴、自らの企画立案による取材などを通じて、資料収集と文章作成の基本を身につけることができる。特に、問題点を把握し、わかりやすく、読みやすい文章をまとめることができるように、一度書いた文章を添削してから、再度書き直す過程を組み込んでいる。これによって、学生が平均より上位レベルの文章作成技術を習得し、ジャーナリスト志望者のみならず、通常の論文執筆や、エントリーシートなど就職試験の文章作成にも生かせる能力を養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期はコロナウィルス対策のため、学習支援システムとメールを活用した授業で、秋学期とは大きく異なっている。各回の授業計画については学習支援システムにその都度提示する。授業の開始日は 4 月 27 日（月曜日）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムに公開するので、必ず確認すること。春学期の授業概要は「自分へのインタビュー」、「文章紹介文」、「裁判傍聴記」「法政の人」の合計 4 本の取材、執筆を行って、文章作成の基本技術を習得する。いずれも 600 字の短文にまとめるが、添削したものを再度書き直すことが求められる。文章の講評は、講師がプロフェッショナルな視点から行うと同時に、学生同士が学習支援システムを通じてグループで相互に講評する。文章の書き方の基本、インタビュー技術などの取材方法、著作権や名誉棄損の問題など、文章作成に関連した知識についても資料配布で学ぶ。最終課題の「法政の人」については、学生自らが企画し、取材依頼、インタビュー、執筆を行う。クラスは 20 人程度を予定し、希望者が多い場合は抽選で選抜する。

※選抜について

春期、秋期いずれの受講希望者も、学習支援システムを通じて春期の最初の授業の 2 日前（4 月 25 日）までに各学期の授業に仮登録すること。抽選結果については 4 月 27 日に学習支援システムの「お知らせ」で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	受講理由を書いてメールで送る	課題「受講を希望する理由」を 600 字で書く。 ※受講希望者多数の場合は抽選を行い、受講が認められた人のみが執筆してメールで送る。5 月 1 日締め切り。
第 2 回	文章をどう書くか、新聞記事に学ぶ	定型記事とインタビュー原稿について資料と解説を学習支援システムにアップする
第 3 回	自分へのインタビュー実習	自分自身にインタビューする。テーマは「私の学生生活」。600 字写真付き。1 週間後に締め切り
第 4 回	「法政の人」の取材企画をメールで送る	自ら取材したい法政の学生、教員、職員等を選び、どういう視点で記事にするかという企画を作成し、取材を開始する。「法政の人」は 600 字、写真付き
第 5 回	自分へのインタビュー原稿の講評	学習支援システムを通じてグループで相互に講評し、書き直し
第 6 回	自分へのインタビュー原稿の書き直しの講評	補講日。学習支援システムを通じてグループで相互に講評
第 7 回	文章を読んで紹介文をまとめる	誤報に関する文章を読んで紹介文を 600 字にまとめる
第 8 回	裁判傍聴の説明と取材の方法を学ぶ	学習支援システムを通じて、資料と解説を提示する
第 9 回	文章の紹介文の講評	学習支援システムを通じてグループで相互に講評、書き直し
第 10 回	文章の紹介文の書き直しの講評	補講日。学習支援システムを通じてグループで相互に講評
第 11 回	裁判を傍聴	東京地裁などの裁判を傍聴して 600 字にまとめる
第 12 回	著作権と名誉棄損の基本	学習支援システムを通じて資料と解説を読む

第 13 回 裁判傍聴記の講評

学習支援システムを通じて、グループで相互に講評

第 14 回 「法政の人」を講評

学習支援システムを通じてグループ相互で講評し、書き直し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章の執筆と書き直しはメール添付で送る形式を取る。自分で企画する「法政の人」の取材は、授業外の時間に行うことが求められる。裁判傍聴については、傍聴する裁判や時間を自分で決めて行うが、コロナウィルスの感染状況によって裁判が行われていない場合はほかの課題に変更する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、「法政の人」インタビュー、裁判傍聴には 5 時間前後かかる場合があります。

【テキスト（教科書）】

使用しない。レジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

必要がある場合は、講義で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最初の「受講を希望する理由」を除く 4 回の文章作成と書き直しの総計 8 回の原稿提出で評価する（70 %）。締め切り日の厳守や学習支援システムへの書き込みなど平常点による総合評価も加味する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的な発言を促す。

【Outline and objectives】

Students investigate or interview about unreported events or ongoing problems, and clarify where the problem is. Thereby, they develop the ability to express it as sentences.

POL200AD

文章の書き方セミナー

五十嵐 文生

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献のない事象や現在進行中の問題について、自分で調べて、取材し、問題の所在を明らかにして、それを文章として表現する能力を養う。

【到達目標】

インタビュー、映画鑑賞、裁判傍聴、自らの企画立案による取材などを通じて、資料収集と文章作成の基本を身につけることができる。特に、問題点を把握し、わかりやすく、読みやすい文章をまとめることができるように、一度書いた文章を添削してから、再度書き直す過程を組み込んでいる。これによって、学生が平均より上位レベルの文章作成技術を習得し、ジャーナリスト志望者のみならず、通常の論文執筆や、エントリーシートなど就職試験の文章作成にも生かせる能力を養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」に強く関連。「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「学生生活インタビュー」、「映画鑑賞記」、「裁判傍聴記」「法政の人」の合計 4 本の取材、執筆を行って、文章作成の基本技術を習得する。いずれも 600 字の短文にまとめるが、添削したものを再度書き直すことが求められる。文章の講評は、講師がプロフェッショナルな視点から行うと同時に、学生同士が相互に講評するグループ討論を取り入れる。文章の書き方の基本、インタビュー技術などの取材方法、著作権や名誉棄損の問題など、文章作成に関連した知識についても講義する。最終課題の「法政の人」については、学生自らが企画し、取材依頼、インタビュー、執筆を行う。議論を中心とした授業になるため、クラスは 20 人程度を予定し、希望者が多い場合は春期、秋季とも抽選で選抜する。

※選抜について

春期、秋期いずれの受講希望者も、学習支援システムを通じて春期の最初の授業の 2 日前（4 月 25 日）までに各学期の授業に仮登録すること。抽選結果については 4 月 27 日に学習支援システムの「お知らせ」で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	課題「受講を希望する理由」を 600 字で書く。 ※受講希望者多数の場合は抽選を行うため、秋期の受講希望者も春期の第 1 回の授業に出席すること
第 2 回	文章をどう書くか、新聞記事に学ぶ	定型記事とインタビュー原稿について講義と議論
第 3 回	インタビュー実習	学生同士でインタビュー。テーマは「私の学生生活」。600 字にまとめ、1 週間後に締め切り
第 4 回	「法政の人」の取材企画の立案、発表	自ら取材したい法政の学生、教員、職員等を選び、どういう視点で記事にするかという企画をプレゼンテーションし、取材を開始する。「法政の人」は 600 字、写真付き
第 5 回	インタビュー原稿の講評	グループで相互に講評し、書き直し
第 6 回	映画を見て文章をまとめる	600 字にまとめ、1 週間後に締め切り
第 7 回	裁判傍聴の説明と取材の方法	講義と議論
第 8 回	映画鑑賞記の講評	グループで相互に講評し、書き直し
第 9 回	実際の裁判を見て傍聴記を書く（東京地裁など）	600 字にまとめ、1 週間後に締め切り
第 10 回	裁判傍聴記の講評	グループで相互に講評し、書き直し
第 11 回	著作権と名誉棄損の基本解説	講義と議論
第 12 回	「法政の人」取材原稿の講評（1 回目）	グループで相互に講評し、書き直し
第 13 回	取材の疑問点の質疑、ルポなど長文のまとめ方	講義と議論
第 14 回	「法政の人」取材原稿の書き直しを講評（2 回目）	グループで相互に講評し、再度書き直し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文章の執筆と書き直しは授業中には行わず、締め切りまでに完成させて、メール添付で送る形式を取る。自分で企画する「法政の人」の取材も、授業外の時間に行うことが求められる。裁判傍聴については、傍聴する裁判や時間を自分で決めるため、授業時間外に行う場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、「法政の人」インタビュー、裁判傍聴には 5 時間前後かかる場合があります。

【テキスト（教科書）】

使用しない。レジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

必要がある場合は、講義で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最初の「受講を希望する理由」を除く 4 回の文章作成と書き直しの総計 9 回（「法政の人」は書き直しが 2 回ある）の原稿提出で評価する（70 %）。インタビュー実習と映画鑑賞記については、当日欠席した場合は文章作成ができなくなるので注意すること。締め切り日の厳守や授業中の議論への寄与度など平常点による総合評価も加味する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の積極的な発言を促す。

【Outline and objectives】

Students investigate or interview about unreported events or ongoing problems, and clarify where the problem is. Thereby, they develop the ability to express it as sentences.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルス感染の世界的拡大は、今後の世界のあり方を激変させると言われている。世界の片隅で起きた感染が日本を含む先進国に大きな打撃を与えたことで、国際社会が一致団結してこの困難に立ち向かい、途上国での感染拡大防止に取り組むことの重要性は明白になったが、米中の対立や先進諸国の思惑の違いなどで、国際社会が一致できるかはますます不確定となっている。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は5月8日（金）とする。具体的なオンライン授業の進め方などを、5月3日までに学習支援システムで提示する。制約はあるが、出来るだけインターアクティブな授業としたい。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：	講義の目的と概要、成績評価方法等の説明
2	途上国問題とは何か①	「途上国」とはどのような国々なのか、そこでは、何が、なぜ問題になっているのかを、「先進国」と対照しながら考える。

3

4	途上国問題の歴史①	途上国問題はどのような歴史的展開を経てきたのかを、米ソ冷戦終結前までの国際政治経済史に位置づけながら考える。
5	途上国問題の歴史②	途上国問題はどのような歴史的展開を経てきたのかを、冷戦終結以降の国際政治経済史に位置づけながら考える。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13		
14	授業内容の振り返りと総括	これまでに学習したことを振り返ったうえで、今後学習すべきことを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学：「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開：途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊：開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の採用に伴い、成績評価の方法・基準を変更する必要があるため、具体的な内容を授業開始日（5月8日）に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義（講師からの説明）の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国をはじめとする新興国の台頭、米トランプ政権誕生やブレグジットに象徴される「不寛容と不機嫌」な国内世論の醸成と拡散、地域紛争の続発と環境問題の深刻化など、国際政治経済情勢の大きな変動に伴って、まだ誰も答えを見いだせていない人類の難問が次々に生まれている。いわゆる「途上国」において発生する様々な問題にどう対応すべきか、開発援助のあり方をどう変えていくべきかも、こうした難問の一つである。

こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたくて、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性がある（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの意見の発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に必要な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると 言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。
3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。

5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい独裁国家に対しては援助を行うべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実 (post-truth) の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs (持続可能な開発目標) を読み、2000 年に策定された MDGs (ミレニアム開発目標) と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行 (AIIB) 等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助 (ODA) の特徴①	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。
12	日本の政府開発援助 (ODA) の特徴②	日本の ODA は借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。
13	日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③	2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱 (1992 年制定、2003 年改訂)」と比較しながら読み解く。
14	授業内容の振り返りと総括	これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4 サイズで 2 枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する (シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009 年、『開発援助の経済学: 「共生の世界」と日本の ODA』、有斐閣。
木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013 年、『開発政治学の展開: 途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。
木村宏恒編、2018 年、『開発政治学を学ぶための 61 冊: 開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (70 %) およびディスカッションへの積極的参加の度合い (30 %) によって成績を評定する予定であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【Outline and objectives】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL300AD

演習

森 聡

授業形式：演習 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、現代の国際政治における重要課題を自ら見出し、その課題に関する先行研究を渉猟し、専門的な知識を体系的に吸収し、論理的な方法で課題に接近し、自らの仮説を立ててそれを立証する能力を修得することを目的とする。

この目的を達成すべく、本演習では、まず国際政治学の諸概念に関する基礎知識や各種のリサーチ・メソッドを身につけ、参加者各自がケース・スタディを行い、専門性の高いテーマについて分析・考察する。

今年度は、「東アジア国際政治と日米関係」というテーマで演習を実施する。

【到達目標】

- ①国際政治学の基礎知識を身につけ、専門知識を正確に修得する。
- ②国際事象の分析・考察に必要な方法論についての知識を修得する。
- ③既存の研究とは異なる、オリジナルな視点に立った仮説を立て、それを論理的に実証する研究上の取り組みを経験し、強靱な論理性を身につける。
- ④問題の原因に関する仮説を立て、その問題に対処するための方法を考案する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

班ごとに分担する文献の講読・発表、ショート・ペーパーに基づく参加者同士の討議、担当教員による解説を主な要素として授業を進める。また、参加者は各自でケース・スタディを実施し、その成果を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	ケース・スタディとは何か。リサーチの方法。レジュメの作成要領。
2	国際関係理論の概観	国際関係理論とは何か
3	分析レベルの問題	国際政治を突き動かす要因とは何か
4	事例としての中国問題	中国の台頭を取り巻く国際政治
5	リアリズム	リアリズムとは何か。パワーと安全保障の視点からみる中国問題。
6	リベラリズム	リベラリズムとは何か。利益と制度の視点からみる中国問題。
7	コンストラクティビズム	コンストラクティビズムとは何か。規範とアイデンティティの視点からみる中国問題。
8	ケース・スタディとは何か	定性的研究の手法。
9	外交とは何か（1）	外交の歴史の変遷の概観。外交交渉の仕組み。
10	外交とは何か（2）	「旧外交」の歴史。
11	外交とは何か（3）	「新外交」の歴史。第二次世界大戦後の現代外交の歴史。
12	抑止	抑止とは何か。事例の検討。
13	強制外交	強制外交とは何か。事例の検討。
14	危機管理	危機管理とは何か。事例の検討。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・所属班の担当文献についての報告レジュメの作成。
- ・課題ペーパーの作成。
- ・ケース・スタディの調査と発表準備。
- ・新聞の国際面・政治面のフォロー。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

- ・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013 年、3000 円。

【成績評価の方法と基準】

報告レジュメの完成度（20 %）、各回の課題ペーパーの完成度（30 %）、討議への参加度（10 %）、ケース・スタディ（2 年生）や研究計画（3 年生）の完成度（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎知識を習得する春学期には、基本的に邦語文献を扱う。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

- ・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.
- ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
- ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。
- ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。
- ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。
- ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

【Outline and objectives】

The objectives of this seminar is to encourage students to identify meaningful topics relating to contemporary international politics, survey existing literature on the subject, absorb specialized knowledge of the field, devise a logical method to approach the subject matter, and verify one's own hypotheses.

In order to achieve these goals, the seminar will aim to provide students with basic knowledge relating to international relations theory and methodologies, encourage students to undertake case studies, and analyze highly specialized subjects in the field.

The overarching topic for the academic year 2019 is "East Asian International Politics and Japan-U.S. Relations."

POL300AD

演習

森 聡

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、現代の国際政治における重要課題を自ら見出し、その課題に関する先行研究を渉猟し、専門的な知識を体系的に吸収し、論理的な方法で課題に接近し、自らの仮説を立ててそれを立証する能力を修得することを目的とする。

この目的を達成すべく、本演習では、まず国際政治学の基礎知識や各種のリサーチ・メソッドを身につけ、参加者各自がケース・スタディを行い、専門性の高いテーマについて分析・考察する。

今年度は、「東アジアの国際政治と日米関係」というテーマで演習を実施する。

【到達目標】

- ①国際政治学の基礎知識を身につけ、専門知識を正確に修得する。
- ②国際事象の分析・考察に必要な方法論についての知識を修得する。
- ③既存の研究とは異なる、オリジナルな視点に立った仮説を立て、それを論理的に実証する研究上の取り組みを経験し、強靱な論理性を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

班ごとに分担する文献の講読・発表、ショート・ペーパーに基づく参加者同士の討議、担当教員による解説を主な要素として授業を進める。また、参加者は共通の課題について各自でゼミ・ペーパーを執筆する。

なお、下記の授業計画は暫定的なものであり、前期の進捗状況等を踏まえ、適宜修正する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	導入	前期の総括と復習。
2	同盟の理論（その1）	同盟とは何か。勢力均衡論の概要。
3	同盟の理論（その2）	脅威均衡論、利益均衡論。
4	同盟の理論（その3）	同盟における政治体制とイデオロギー。
5	同盟の多様性	戦後に結成された同盟の比較。
6	日米同盟の歴史	戦後日米関係の歴史。
7	論文構想発表	論文構想の発表。
8	中国と日米同盟（その1）	尖閣諸島、東シナ海をめぐる日米中関係。
9	中国と日米同盟（その2）	中国の軍事的台頭と日米同盟の課題。
10	中国と日米同盟（その3）	米中貿易紛争とハイテク覇権競争と日米関係。
11	朝鮮半島と日米同盟（その1）	ポスト冷戦期の北朝鮮の核開発疑惑と日米関係。
12	朝鮮半島と日米同盟（その2）	トランプ政権期の米朝関係と米韓関係、日韓関係。
13	国際貿易と日米関係	TPP をめぐる日米の乖離、米国による管理貿易と日本の通商外交。
14	総括	日米の政治と同盟の行方。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・所属班の担当文献についての報告レジュメの作成。
- ・課題ペーパーの作成。
- ・ゼミ・ペーパー、ゼミ論文の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用文献は授業時間内に指示する。

【参考書】

・小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』、ミネルヴァ書房、2013 年、3000 円。

【成績評価の方法と基準】

2 年生は、報告レジュメの完成度（15 %）、課題ペーパーの完成度（15 %）、期末に提出するゼミ・ペーパーの完成度（70 %）で評価する。

3 年生は、討議への参加度（10 %）、課題ペーパーの完成度（10 %）、ゼミ論文の完成度（80 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

英語文献を扱う場合、報告レジュメを準備するための時間を十分に設ける。

【国際政治学、現代アメリカの対外政策】

<専門領域> 国際政治学、戦後アメリカの外交と安全保障

<研究テーマ> 先端技術と国際政治、パワーシフトと国際秩序、現代アメリカのインド太平洋戦略など

<主要研究業績>

- ・"US Technological Competition with China: The Military, Industrial and Digital Network Dimensions," Asia Pacific Review, Vol.26, No.1 (2019), pp.77-120.
- ・"U.S. Defense Innovation and Artificial Intelligence," Asia Pacific Review, Vol.25, No.2 (Fall 2018), 16-44.
- ・「統合作戦構想と太平洋軍—マルチ・ドメイン・バトル構想の開発と導入」、土屋大洋編著、『アメリカ太平洋軍の研究—インド・太平洋の安全保障』、千倉書房、2018 年 7 月。
- ・「リベラル国際主義への挑戦—アメリカの二つの国際秩序観の起源と融合」、『レヴァイアサン』第 58 号（2016 年 4 月）、23-48 頁。
- ・「アメリカのアジア戦略と中国」、北岡伸一・久保文明監修『希望の日米同盟—アジア太平洋の海洋安全保障』、中央公論社、2016 年、39-91 頁。
- ・『ヴェトナム戦争と同盟外交—英仏の外交とアメリカの選択 1964-1968 年』、東京大学出版会、2009 年（日本アメリカ学会清水博賞受賞）。

【Outline and objectives】

The objectives of this seminar are to: encourage students to identify meaningful topics relating to contemporary international politics, survey existing literature on the subject, absorb specialized knowledge of the field, devise a logical method to approach the subject matter, and verify one's own hypotheses.

In order to achieve these goals, the seminar will aim to provide students with basic knowledge relating to international relations theory and methodologies, encourage students to undertake case studies, and analyze highly specialized subjects in the field.

The main topic for the academic year 2020 is "East Asian International Politics and Japan-U.S. Relations."

POL300AD

グローバル・ビジネス論Ⅰ

籠宮 信雄

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進む国際社会で、ヒト、モノ、カネの世界を巡る動きが加速してきた。貿易を中心に国際社会のグローバル化がどのように進んでいるか、それを支える制度的な仕組みはどうなっているか、どのような問題が生じているかといった問題について、経済学の理論を基盤としつつ、国際政治・国際経済の実態との関係を意識しながら掘り下げる。

【到達目標】

貿易と投資を中心にグローバル化の実相を理解し、国際政治・経済・社会の理解の一助とする。

なお、現在まさに進行中の問題・課題については、必ずしも正解が何か結論が出ていないものもある。そうした課題にアプローチする際に、どのような議論がこれまで行われてきたかを十分把握した上で、自分自身の考え方を論理的に整理していくことが重要であることを認識してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義毎の主要項目について基礎的な内容を説明しつつ、トピックに応じて具体的なケースを掘り下げることを試みる。シラバスに沿った形で講義は進めるが、必要に応じ変更がありえる。特段のテキストは指定しないが、参考文献にある程度準拠する。講義に積極的に参加の上、疑問があればその都度問いかけてください。（4月20日に以下を加筆しました。）

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する予定です。オンライン授業の間は、基本的に、シラバスに沿って毎回の教材を学習支援システムに掲載し、適宜課題を提示することを想定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	講義のエッセンス、評価方法など
2 回	貿易のメリット	貿易のメリットを経済学のモデルで説明する。
3 回	貿易のメリットに関する留意点と貿易摩擦	貿易に関しての経済学のモデルに関する留意点、現実とモデルとの相違を説明し、なぜ貿易摩擦が起きるのかを考察する。
4 回	GDPとは	一国の経済規模や構造を見るGDP統計の仕組みについて概説する。
5 回	国際収支の仕組み	国と国との収支のやり取りを示す国際収支の構造を概説する。
6 回	マクロ経済と国際収支	国際収支の不均衡の発生についてマクロ経済学的なモデルによる説明を紹介する。
7 回	為替レートの仕組み	為替相場制度の仕組み、変動相場制の下で為替レートはどのように決まるかを概説する。

8 回	自由貿易を進める国際的な仕組み	WTO による自由貿易の仕組み、その歴史など
9 回	経済連携協定	日本をはじめ各国で取り組まれている経済連携協定について紹介する。
10 回	経済統合	経済連携協定を越える地域における経済統合について欧州連合（EU）を例に概説する。
11 回	対外直接投資	グローバル化が進む中で直接投資が増加する背景・効果、留意点。
12 回	中国など新興国の経済発展とグローバル化	先進国中心の経済構造は、21 世紀に入って中国や他の新興国の経済発展により大きく変貌したことを概説。
13 回	グローバル・バリュー・チェーン	グローバル・バリュー・チェーンがどのように形成されてきたか、その効果と留意点は何か。
14 回	まとめ	学期全体を通じたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常のグローバルなニュースに接しながら、その背景にある変化や要因を論理的に考察することが重要。各回の授業の予習・復習に必要な学習時間の目安はそれぞれ 2 時間程度である。

【テキスト（教科書）】

特段のテキストは使用しない。

講義の際に適宜、レジュメ、資料を配布する。

【参考書】

国際経済学に関する基礎的な教科書。例えば以下にある程度準拠する。

阿部顕三、遠藤正寛（2012 年）、「国際経済学」、有斐閣
 アルマ 浦田秀次郎、小川英治、澤田康幸（2011 年）、「はじめて学ぶ国際経済」、有斐閣
 アルマ 大川良文（2019 年）、「入門国際経済学」、中央経済社
 追加がありえる。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50 %）、出席や授業への参加度（50 %）などを踏まえて総合的に判断する。

期末レポートについては、講義を踏まえたグローバルビジネスの基礎的な理解、論理的な記述、創造性・独創性のある論旨と掘下げ、社会科学のレポートとしての妥当性を評価基準とする。

（4月20日に以下を加筆しました。）

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示しますが、期末レポート、出席や授業への参加度（オンライン授業の間は、課題の提出により確認します。）により評価することを想定しています。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The globalization has been accelerating in the past decades. In this lecture, I will discuss globalization based on the theoretical framework of economic sciences while paying attention to the reality of international politics/economy. Main issues of the lecture include international trade, the institutional framework of international society and rising problems caused by globalization.

POL300AD

グローバル・ビジネス論Ⅱ

籠宮 信雄

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広い意味での技術進歩により世界経済は成長を続けてきた。日本経済はどのように発展してきたのか、経済が成長するにはどのような条件が必要なのか、それを支える制度的な仕組みはどうなっているのか、近年のデジタル技術の発展は経済社会にどのような可能性を開き、一方でどのような課題をつきつけているのか、といった問題を掘り下げる。

【到達目標】

経済成長に必要な条件を把握するとともに、新しい技術の発展の中で、個人や企業にどのようなことが求められているのかを理解し、現代の国際政治・経済・社会の理解の一助とする。

なお、現在まさに進行中の問題・課題については、必ずしも正解が何か結論が出ていないものもある。そうした課題にアプローチする際に、どのような議論がこれまで行われてきたかを十分把握した上で、自分自身の考え方を論理的に整理していくことが重要であることを認識してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義毎の主要項目について基礎的な内容を説明しつつ、トピックに応じて具体的なケースを掘り下げることを試みる。シラバスに沿った形で講義は進めるが、必要に応じ変更がありえる。特段のテキストはないので、講義に積極的に参加の上、疑問があればその都度問いかけてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	日本経済の成長と産業構造の変化	グローバリゼーションが進む国際社会の中での日本経済の立ち位置を確認するため、戦後の経済成長と産業構造の変化を振り返る。
2 回	生産性と豊かさ	生産性と豊かさの関係、国際比較の方法を説明する。
3 回	経済成長	経済成長の要因として、広い意味での技術進歩、生産性の役割を説明。
4 回	経済発展の条件	経済社会に関する制度や人的資本の重要性を説明する。
5 回	人口高齢化と経済	日本経済を念頭に置きつつ、人口高齢化が経済発展にどのような影響を及ぼすのかを考察する。
6 回	経済システムと生産性	。市場経済という意味では共通しているようで、各国の経済を支える制度や慣行は多様。そうした経済システムの違いを概説。
7 回	日本的経営・雇用慣行の変化	いわゆる日本的経営・雇用慣行と言われてきたものが、グローバリゼーションや人口高齢化の中でどのような変容を迫られているかを考察する

8 回	ICT 革命のインパクト	ICT 革命は経済社会に大きな影響を与えていること、しかし、実は生産性の側面からは十分に把握されていないことなどを説明する。
9 回	AI と雇用	AI の発展により雇用の多くが失われるという説もある。そうした議論を紹介。
10 回	グローバリゼーションと技術進歩	先進国における賃金の伸び悩みや格差拡大はグローバリゼーションや技術進歩の影響と言われるが、様々な議論があることを紹介。
11 回	地球規模の課題	温暖化問題などを例に取り国際的な協力、対応を考察する。
12 回	グローバリゼーションへのアンチテーゼ	いわゆるポピュリズムの台頭、ランプ現象、英国のEU離脱などについて概説。
13 回	経済危機への対応	リーマンショックへの国際社会の対応とその教訓など。
14 回	まとめ	学期全体を通じたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常のグローバルなニュースに接しながら、その背景にある変化や要因を論理的に考察することが重要。各回の授業の予習・復習に必要な学習時間の目安はそれぞれ 2 時間程度である。

【テキスト（教科書）】

特段のテキストは使用しない。
 講義の際に適宜、レジュメ、資料を配布する。

【参考書】

小峰隆夫、村田啓子（2016 年）「最新 日本経済入門（第 5 版）、日本評論社、
 阿部顕三、遠藤正寛（2012 年）、「国際経済学」、有斐閣アルマ
 浦田秀次郎、小川英治、澤田康幸（2011 年）、「はじめて学ぶ国際経済」、有斐閣アルマ
 大川良文（2019 年）、「入門国際経済学」、中央経済社
 そのほか適宜追加文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（50 %）、出席や授業への参加度（50 %）などを踏まえて総合的に判断する。
 期末レポートについては、講義を踏まえたグローバルビジネスの基礎的な理解、論理的な記述、創造性・独創性のある論旨と掘下げ、社会科学のレポートとしての妥当性を評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline and objectives】

The global society have experienced economic growth led by the technological progress in a broad definition. In this lecture, I will discuss the development of Japanese economy and various conditions for economic growth including the institutional framework of the nations. I will also touch upon the issues surrounding the possible impacts of and problems caused by the digitalization in the globalized economy and society.

POL300AD

国際機構論 I

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations I”, students will learn about the definition, roles, categories, functions, and history of international organizations. They will learn about the role of the United Nations (UN) and how various UN agencies tackle key global issues, including international peace and security, economic and social development, human rights, and humanitarian assistance. UN’s activities to support the achievement of the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) will be examined. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding on the conditions and circumstances that led to the creation of international organizations as well as their role in the world. Their understanding will be particularly enhanced on the unique role of the UN as well as their strengths and limitations by examining the function of its principal organs and various UN agencies. The students will also understand how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2020 spring semester, classes will start on 21 April (Tuesday)(3rd period). Please register using 学習支援システム（履修するためには、4月20日までに学習支援システムで仮登録をして下さい）。Please also check for any announcements and class arrangements in 学習支援システム（教材や授業のやり方などについては学習支援システムにアップロードしますので見て下さい - お知らせ、教材、課題などのセクションを参照）。

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to international organizations	Definition and roles of international organizations

2	Types of international organizations	Different categories and functions of international organizations
3	Background of international organizations	History of international organizations
4	The League of Nations	The League of Nations, success and shortcomings
5	Foundation of the United Nations (UN) System	Charter of the UN; purposes and principles of the UN
6	UN System and its structure	UN structure, its principal organs and decision making
7	UN General Assembly	Role of UN General Assembly
8	Conflict prevention and Security Council	UN’s role in conflict prevention
9	Peacekeeping and Security Council	UN’s role in peacekeeping
10	Peacebuilding	UN’s role in peacebuilding
11	Economic and social development	UN’s role in economic and social development
12	Humanitarian assistance	UN’s role in humanitarian assistance
13	Human rights	UN’s role in human rights, Human Rights Council
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations (42nd Edition). United Nations Publication, New York, 2017.

・ Clive Archer, International Organizations, Fourth edition. London and New York: Routledge, 2015.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、関西学院出版会、2018

【参考書】

・ 植木安弘『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018年）

・ 横田洋三（監修）『入門 国際機構』（法律文化社、2016年）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

・ 渡部茂己・望月康恵（編著）『国際機構論 総合編』（国際書院、2015）

・ 内田孟男（編著）『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013年）

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, second edition. Palgrave MacMillan, 2012.

【成績評価の方法と基準】

Class participation(30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【Outline and objectives】

As written above.

POL300AD

国際機構論Ⅱ

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations II” (which follows “International Organizations I”), students will learn about the different roles and activities of various international organizations, notably the UN system and its agencies. They will learn how different UN agencies deal with key global issues, particularly those included in the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs). The course will examine the evolving role of the UN and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding on the role and activities of the various UN agencies, including their strengths and limitations as well as challenges for the future. They will also enhance their understanding on how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Role of international organizations (IO)	IO as global actors
2	Role of Member States	Relationship between Member States and UN
3	Role of civil society	Relationship between civil society and UN
4	Role of private sector	Relationship between the private sector and UN
5	Regional organizations	Relationship between regional organizations and UN
6	Sustainable development	2030 Agenda and SDGs
7	UN Secretariat	Role of UN Secretariat
8	Global governance	UN and global governance

9	Human security	Role of UN in human security
10	Peacebuilding	Role of UN in peacebuilding
11	UN and Japan	Japan's role in the UN
12	Multilateralism	Multilateralism and UN
13	UN reform	Progress and issues in UN reform
14	Summary and review	Review of course contents

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Besides those listed below, other materials will be assigned in class.

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations, 42nd Edition. United Nations Publication, New York, 2017.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2018

【参考書】

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, Second Edition. Palgrave MacMillan, 2012.

・ 植木安弘 『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018）

・ 山田哲也『国際機構論 入門』（東大出版会、2018）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016 年）

・ 渡部茂己・望月康恵 編著『国際機構論 総合編』（国際書院、2015 年）

・ 内田孟男 編著『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【Outline and objectives】

As written above.

POL100AD

国際社会の法 I

新垣 修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における法の役割について学びます。具体的には、毎回取り上げる様々なトピックを通じ、国際法や国内法が果たす機能について理解を深めます。

【到達目標】

- 1 国際社会における国際法や国内法の意味について理解します。
- 2 メディアで取り上げられる国際時事問題を法的視点から捉え、これについて議論できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

*新型コロナウイルス感染症の影響拡大による 2020 年度春学期授業の対応のため、学習支援システムで授業が開始される（データアップされる）のは、2020 年 4 月 24 日（金曜日）です。

（教室での対面授業が実施されるまでの期間）

- 1 学習支援システムで文字情報を発信します。その内容をしっかり把握してください。
 - 2 学習支援システムで週に 1 回的小レポートの課題をお知らせします。
 - 3 提出方法（システムへのアップロードやメールでの送信など）は別途連絡します。
- （教室での対面授業実施以降）
- 1 講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
 - 2 アウトライン集（添付）に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
 - 3 適宜、小レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ：法とは何か？	1 はじめに 2 法とは何か？ 3 国際法の法源 4 国際法の変化 5 まとめ
2	国際社会における法と政治	1 はじめに 2 国際法の法的性質 (1) 否定説 (2) 肯定説 3 法と社会の構造 4 国際社会における法と政治の関係 5 まとめ

3	法政大学は独立国家になれるか？	1 国家であるということ：主権 2 国家承認 (1) 法政大学は独立国家になれるか？ (2) 国家承認とは？ (3) 国家承認の法的性質 (4) 国家と認められるための要件 (5) 国家承認の方法 3 まとめ 1 はじめに 2 正戦論 3 無差別戦争観 4 国際連盟の時代：戦争の違法化 5 国際連合の時代：武力行使禁止 6 平和のための結集決議と国連平和維持活動（PKO） 7 冷戦時代の PKO 8 冷戦終結後の PKO 9 まとめ 1 はじめに 2 感染症の歴史 3 感染症に関する国際法 4 WHO 4 新型コロナウイルス 5 まとめ 1 はじめに 2 国籍とその決定 3 国籍の得喪 4 国際法の機能：国籍の調整 5 無国籍 6 まとめ 1 はじめに 2 ニュージーランドの概 3 異文化の衝突と共存 4 ニュージーランドの難民保護制度 5 ニュージーランドでの体験：自分の発見と発掘 6 まとめ 1 はじめに 2 国際赤十字の誕生 3 その後のデュナン 4 国際人道法の発展 5 人道支援とは何か？ 6 人道支援のジレンマ 7 まとめ 1 はじめに 2 気候変動・海面上昇と適応策 3 ツバル 4 国外移住政策と外交 5 開発と適応策 6 まとめ 1 はじめに 2 ルワンダ略史 3 ルワンダと植民地政策 4 ウガンダにおけるツチ難民 5 ジェノサイド 6 国際社会の対応 7 まとめ
4	戦争と平和について考えよう	
5	感染症	
6	国籍と無国籍	
7	ツアーでみるニュージーランド	
8	人道支援と法：救済と正義のジレンマ	
9	気候変動で海に沈む国々？	
10	ルワンダとジェノサイド（1）	
11	ルワンダとジェノサイド（2）	
12	エピローグ&授業内試験	本講義全体のまとめ&授業内試験
13	X	X
14	X	X

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アウトライン集（添付）にしたがって予習を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松井芳郎（編・著）『国際法』第 5 版（有斐閣 S シリーズ）2007 年
＊オンラインなどで購入してください。

【参考書】

アウトライン集（添付）に記載しています。

【成績評価の方法と基準】

小レポート 50%
授業内試験の成績 50%

【学生の意見等からの気づき】

「ディスカッションや意見共有の機会が多くて良かった」との趣旨の意見がありました。

【Outline and objectives】

This course explores to seek out the role of law in international society. Examining various topics, participants of the course will learn functions both of international law and municipal law.

POL100AD

国際社会の法Ⅱ**新垣 修**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。

【到達目標】

- 1 国際人権法の基本的概念を理解します。
- 2 国際社会における人権の価値や意義について考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 1 講義形式ですが、ディスカッションを含むインターアクティブな授業を行います。したがって、授業への積極的な参加が求められます。
- 2 アウトライン集（添付）に示された計画にしたがい、講師の説明とパワーポイントの資料を用いて授業を進めます。
- 3 授業内で適宜、クイズへの答案の提出を求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プロローグ	アウトライン集（添付）参照
2	国際社会と法、人権	アウトライン集（添付）参照
3	世界人権宣言（1）	アウトライン集（添付）参照
4	世界人権宣言（2）	アウトライン集（添付）参照
5	国際人権規約を中心に	アウトライン集（添付）参照
6	小テスト	第1講～5講までの小テスト。紙媒体であれば持込可。
7	ジェンダー	アウトライン集（添付）参照
8	子ども	アウトライン集（添付）参照
9	人身取引	アウトライン集（添付）参照
10	人種差別	アウトライン集（添付）参照
11	障がい者	アウトライン集（添付）参照
12	LGBT	アウトライン集（添付）参照
13	難民	アウトライン集（添付）参照
14	エピローグ	アウトライン集（添付）参照

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アウトライン集（添付）にしたがい、予習を行います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

アウトライン集（添付）参照。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験（筆記試験） 50%
授業内クイズ 30%
小テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

「国際人権法について具体的な事例を通して学んだことが良かった」との趣旨のフィードバックが多かった。

【Outline and objectives】

国際人権法に関する基本的な概念や枠組み、思想を学びます。さらに、国際社会における国際人権法の機能について理解を深めます。

POL300AC

演習

杉崎 和久

授業形式：**演習** | 開講セメスター：**春学期授業/Spring**
 単位数：**4 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で、「政策」の分野に属する科目である。演習を通じて、都市空間に関わる現代的な課題について、文献資料や現地調査等を通じて、社会的背景、システム等の課題等の構造を理解する。

【到達目標】

- 1) 都市空間に関する現代的課題について、その社会的拝見、システム等の課題を理解すること
- 2) 現代的課題に関する先駆的な取組事例をケーススタディし、さらなる改善方策を提案すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

・春学期は、東京を対象としたフィールドワーク等を通じて、現代の都市空間における課題の把握、夏期調査に向けた事前学習、秋学期以降のゼミ論文作成のための準備を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習の進め方を説明します。
第 2 回	現代東京に関するフィールドワーク 1	現代の東京における特徴的な地域の現地踏査をする。
第 3 回	現代東京に関するフィールドワーク 2	現代の東京における特徴的な地域の現地踏査をする。
第 4 回	フィールドワーク振り返り	フィールドワークの知見を共有する。
第 5 回	文献探索方法	図書館利用に関するガイダンス等の方法を理解する。
第 6 回	現代の都市課題 1	関心ある都市課題について発表する。
第 7 回	現代の都市課題 2	関心ある都市課題について発表する。
第 8 回	夏季調査企画検討／ゼミ論文テーマ案検討	夏季調査の候補地の選定をする。
第 9 回	ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関連する文献を講読し、その内容を紹介する。
第 10 回	夏季調査企画検討／ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関連する文献を講読し、その内容を紹介する。
第 11 回	ゼミ論文参考文献の講読	ゼミ論文のテーマに関連する文献を講読し、その内容を紹介する。
第 12 回	夏季合宿調査	夏季合宿地に関する事前調査を行う。
第 13 回	ゼミ論文テーマ検討	ゼミ論文テーマを検討する。
第 14 回	夏期調査準備	調査実施に向けた準備作業を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で指示した文献の通読、担当文献の要約作成、夏期調査の企画検討等は演習以外の時間での準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習のなかで適宜指示します。

【参考書】

演習のなかで適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 点）、ゼミ内での発言や課題提出などゼミへの貢献度（40 点）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

In this seminar, through literature survey and field work, we understand the background etc for solving the problem in the city.

POL300AC

演習

杉崎 和久

授業形式：**演習** | 開講セメスター：**秋学期授業/Fall**
 単位数：**4 単位**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。演習を通じて、都市空間に関わる現代的な課題について、文献資料や現地調査等を通じて、社会的背景、システム等の課題等の構造を理解する。

【到達目標】

- 1) 都市空間に関する現代的課題について、その社会的拝見、システム等の課題を理解すること
- 2) 現代的課題に関する先駆的な取組事例をケーススタディし、さらなる改善方策を提案すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋期は、ゼミ論文の作成のための、研究企画作成、調査実施、論文執筆を進めながら、演習での指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	夏期調査報告書発表	夏期調査報告書内容を共有します
第 2 回	ゼミ論文作成にむけたオリエンテーション	ゼミ論文作成のための説明をします
第 3 回	ゼミ論文テーマ検討	ゼミ論文のテーマを決めます
第 4 回	既往研究の収集	テーマに関連する既往研究を収集します
第 5 回	ゼミ論文に關係する論点整理	既往研究からテーマに関する論点を整理する
第 6 回	研究企画	研究企画を検討する
第 7 回	調査企画	調査企画を検討する
第 8 回	調査実施	調査を実施する（必要に応じて調査等の相談をうけます）
第 9 回	調査実施	調査を実施する（必要に応じて調査等の相談をうけます）
第 10 回	中間発表報告	調査状況の報告をします
第 11 回	論文相談（論文作成）	論文執筆をします（必要に応じて相談をうけます）
第 12 回	論文相談（論文作成）	論文執筆をします（必要に応じて相談をうけます）
第 13 回	ゼミ論文提出、発表 1	論文を提出し、発表します
第 14 回	ゼミ論文発表 2	提出した論文の発表をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習で指示した文献の通読、担当文献の要約作成、夏期調査の企画検討等は演習以外の時間での準備が必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習のなかで適宜指示します。

【参考書】

演習のなかで適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 点）、ゼミ内での発言や課題提出などゼミへの貢献度（40 点）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

In this seminar, through literature survey and field work, we understand the background etc for solving the problem in the city.

POL300AC

現代政策学特講Ⅰ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、政治学科科目の中で「政策・都市・行政」の科目群に属する科目であり、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成（立法）過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘されており、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅰでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】

法制度は不変のものではなく、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業計画の大枠に変更はありませんが、当面オンラインでの開講となったことを踏まえ、授業内容は、学習支援システムでそのつと提示します。授業の開始日（初回の教材提供日）は4月24日（金）としますが、オンライン授業の実施体制の状況に鑑み、実質的な授業は5月8日（金）から行います。授業の進め方と課題については、開始日以降、学習支援システムで指示します。可能な限り、立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図りたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程概論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義
第8回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第9回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第10回	選挙制度と政策の関係	テーマに沿った講義
第11回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第12回	選挙制度史	テーマに沿った講義
第13回	日本の選挙制度	テーマに沿った講義
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸問題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえたいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

当面オンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、政治学科科目の中で「政策・都市・行政」の科目群に属する科目であり、Ⅰ・Ⅱを通して、法制度の形成（立法）過程を着眼点として立法学の全体像を俯瞰するものです。解釈法学に対する概念としての立法学の必要性は古くから指摘されており、これまでも、様々な分野の研究者が各自の視点からの「立法学」を論じています。本科目は、今日までの立法学に関する議論を整理するとともに、法制度がいかにして形成されるかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容に係る憲法、民事法、刑事法等との関係の在り方といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に位置付けて体系的に構築することを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程を分析します。

【到達目標】

法制度は不動不変のものではなく、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程において政策がいかにして形成されるか、そして、政策のアウトプットの形態としての法制度がいかにして構築されるかを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法に、それを誰が主体的に形成しているかという視点を加えることで実定法を動的に理解できるようにすることにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体例として取り上げるテーマについても、要望を踏まえて可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において皆さんに考えてもらう時間を確保することにより、法制度の形成過程における立法者の思考の流れを体験してもらうこと等を通して、「実用」性を高める努力もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	代議制民主政治論	テーマに沿った講義
第3回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第4回	二院制と立法過程	テーマに沿った講義
第5回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義
第6回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第7回	立法政策と立法事実論	テーマに沿った講義
第8回	法制度設計の政治性と倫理	テーマに沿った講義
第9回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第10回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第11回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（4）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（5）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸問題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえたいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、レポート（60%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

POL300AC

演習**廣瀬 克哉**授業形式：**演習** | 開講セメスター：**春学期授業/Spring**単位数：**4 単位****【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地域から公共政策を考える

いま日本社会は、構造的な変化を経験しつつある。急速な高齢化と人口減少時代の到来、社会経済構造の変化、グローバル化、情報化などの、社会の全体的な規模での変化が、一人一人の生活の場での政策課題を浮上させている。福祉政策や環境政策はもちろん、近い将来諸君が直面する労働市場の変容への対応もその一例である。

このゼミでは、身近な地域社会という場を対象として、今日的な政策課題について考える。単にそこにある政策的取り組みを調べて来るだけでなく、具体的な課題解決の方法について自らの手と足を使って提案したり試作したりする「作業」を通して、法や制度、そしてまた政治が公共政策にどのように関わっているのかについての理解を深めていきたい。

自分の足で歩き、手を動かしながら、具体的な現実から地域社会の政策課題を考えていきたい。フットワークと、好奇心にあふれた人の参加を期待したい。

【到達目標】

学生は地域課題の構造的な分析を通して政策課題の理解ができる。

学生は政策構想の立案作業を通して政策作成の基礎的な技法を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文献講読、授業内でのグループワーク、授業外でのグループ作業にもとづいた政策構想や意見の発表、関係学会主催の学生政策コンペ参加のための準備作業などをおこなう予定だったが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。当面の間、教室でのゼミができないので、オンライン会議システムを使ったりアルタイムのテレビ会議上でゼミを行うことを予定している。ゼミの LINE グループなどで連絡をとりながらテレビ会議の日時や方法について調整したうえで、4月28日にテレビ会議を試行したい。学習支援システムのアクセス状況によって Google Classroom も使う可能性があり、その場合はあらためてシラバスで指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	自己紹介とアイスブレイキング	自己紹介とアイスブレイキング
第2回	導入とテキスト選定	3年生による前年度のゼミ論文の発表
第3回	導入テキスト講読 1	導入段階の文献を講読する
第4回	導入テキスト講読 2	導入段階の文献を講読する
第5回	導入テキスト講読 3	導入段階の文献を講読する
第6回	導入テキスト講読 4	導入段階の文献を講読する
第7回	グループワーク準備	春学期グループワークの具体化のための企画検討
第8回	導入テキスト講読 5・グループワーク	導入段階の文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第9回	導入テキスト講読 6・グループワーク	導入段階の文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第10回	テキスト選定・グループワーク	導入段階の文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第11回	フィールドワーク報告	テーマに関連したフィールドワークを行った結果を報告する
第12回	テキスト講読 1・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第13回	テキスト講読 2・グループワーク	文献を講読し、関連テーマでグループワークを行う
第14回	グループワーク発表	グループワークの成果を発表し、相互に批評検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、現場に赴いての調査、ゼミ全体への報告のための資料作成。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時参加者と相談の上決めていく

【参考書】

随時参加者と相談の上決めていく

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と、報告・討論などでの貢献度、レポートを総合して判断する。

現場から政策課題についての論点を発見し、実地調査、文献調査と、遠州参加者間での討議を通して、政策課題についての検討を行い、その成果を他者に伝達可能な形で発表する力が身につければ A +。以下、その達成度によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を反映して、報告担当者の分担決定方法を変更した。

【Outline and objectives】

Study public policy through local government policy such as town planing, area management, platform building for revitalization of local industry and so on in Japan and other countries.

POL300AC

演習

廣瀬 克哉

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域から公共政策を考える

いま日本社会は、構造的な変化を経験しつつある。急速な高齢化と人口減少時代の到来、社会経済構造の変化、グローバル化、情報化などの、社会の全体的な規模での変化が、一人一人の生活の場での政策課題を浮上させている。福祉政策や環境政策はもちろん、近い将来諸君が直面する労働市場の変容への対応もその一例である。

このゼミでは、身近な地域社会という場を対象として、今日的な政策課題について考える。単にそこにある政策的取り組みを調べて来るだけでなく、具体的な課題解決の方法について自らの手と足を使って提案したり試作したりする「作業」を通して、法や制度、そしてまた政治が公共政策にどのように関わっているのかについての理解を深めていきたい。

自分の足で歩き、手を動かしながら、具体的な現実から地域社会の政策課題を考えていきたい。フットワークと、好奇心にあふれた人の参加を期待したい。

【到達目標】

学生は地域課題の構造的な分析を通して政策課題の理解ができる。

学生は政策構想の立案作業を通して政策作成の基礎的な技法を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文献講読、授業内でのグループワーク、授業外でのグループ作業にもとづいた政策構想や意見の発表、関係学会主催の学生政策コンペ参加のための準備作業などをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	政策コンペ企画	学会主催の政策コンペに向けての企画を検討する
第 2 回	政策コンペ準備	政策提言の立案作業をおこなう
第 3 回	政策コンペ参加	学会主催の学生政策コンペに出場する
第 4 回	テキスト講読①およびゼミ論文テーマ発表①	文献講読と、3 年生によるゼミ論文のテーマ発表
第 5 回	テキスト講読②およびゼミ論文テーマ発表②	文献講読と、2 年生によるゼミ論文のテーマ発表
第 6 回	テキスト講読③	文献を講読し、テーマに冠してグループワークを行う
第 7 回	テキスト講読④	文献を講読し、テーマに冠してグループワークを行う
第 8 回	テキスト講読⑤	文献を講読し、テーマに冠してグループワークを行う
第 9 回	ゼミ論文中間報告①	ゼミ論文の作成準備状況の発表と仕上げに向けての方針の検討①
第 10 回	ゼミ論文中間報告②	ゼミ論文の作成準備状況の発表と仕上げに向けての方針の検討②
第 11 回	ゼミ論文中間報告③	ゼミ論文の作成準備状況の発表と仕上げに向けての方針の検討③
第 12 回	テキスト講読⑥	文献を講読し、テーマに冠してグループワークを行う
第 13 回	ゼミ論文発表①	3 年生によるゼミ論文の発表と合評
第 14 回	ゼミ論文発表②	2 年生によるゼミ論文の発表と合評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、現場に赴いての調査、ゼミ全体への報告のための資料作成。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時参加者と相談の上決めていく

【参考書】

随時参加者と相談の上決めていく

【成績評価の方法と基準】

授業への出席と、報告・討論などでの貢献度、レポートを総合して判断する。現場から政策課題についての論点を発見し、実地調査、文献調査と、遠州参加者間での討議を通して、政策課題についての検討を行い、その成果を他者に伝達可能な形で発表する力が身につければ A +。以下、その達成度によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を反映して、報告担当者の分担決定方法を変更した。

【Outline and objectives】

Study public policy through local government policy such as town planing, area management, platform building for revitalization of local industry and so on in Japan and other countries.

POL300AD

演習

新崎 盛吾

授業形式：演習 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治経済や近代史などを含む社会事象について多角的に学び、専門知識を深める

【到達目標】

グローバルな世界の諸事象に対して、全体的な構造や特徴を考えながら、見えないものを推論し、可視化を試みる鍛錬を積む。論理的志向性、社会人基礎力とスキルアップの志向性を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

【4月17日追記】

コロナ対応に鑑み、当面の授業は、オンライン会議システムの「Zoom」を使ったミーティングで実施します。

本来の授業時間である木曜日4～5時限の時間帯に合わせてミーティングを設定し、学習支援システムのお知らせで招待状を表示しますので、学生は各自で対応願います。

授業開始は4月30日（木）としますが、練習も兼ねて4月23日（木）にもミーティングを設定します。できるだけ参加するように心掛けてください。23日はシステムへの習熟が目的ですので、出欠を含めて成績評価とは無関係です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	年間スケジュールを含めゼミ活動の企画を討議・決定する
2 回	文献購読 ゼミ論文ガイダンス	発表と討議 ガイダンス
3 回	文献購読 ゼミ論初期計画	発表と討議 発表と質疑
4 回	文献購読 ゼミ論初期計画	発表と討議 発表と質疑
5 回	文献購読 ゼミ論 Position Paper	発表と討議 Position Paper への指導
6 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
7 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
8 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
9 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
10 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
11 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
12 回	文献購読 就活報告会	発表と討議 質疑・アドバイス
13 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント
14 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 プレゼン質疑・コメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文においてベンチマークする主要図書を早めに見出し、関連文献情報に接する。ゼミ論の準備・執筆には、通常の講義の予習・復習にかかるよりも多くの時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義に際して適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への積極的な参加とゼミ論文を総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

今年が初講義のため、特になし

【Outline and objectives】

We study various aspects of social phenomena including political economy and modern history in depth. Certain practical knowledge is obtained through the group study.

POL300AD

演習

新崎 盛吾

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治経済や近代史など含む社会事象について多角的に学び、専門知識を深める

【到達目標】

グローバルな世界の諸事象に対して、全体的な構造や特徴を考えながら、見えないものを推論し、可視化を試みる鍛錬を積む。論理的志向性、社会人基礎力とスキルアップの志向性を高める。論理的な整理やコミュニケーションに慣れ、様々な意見交換ができる志向性を高める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

1. 購読を中心とした考察・討議、ゼミ論文のプレゼンと質疑の両建てで行う
2. テーマの設定はゼミ生が自主的にを行い自主的なゼミ運営をモットーとする
3. 自ら計画し、ゼミ生がワイワイガヤガヤと自由闊達に意見を出し自主独立の志向性を高める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	進捗と課題に関して質疑
2 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
3 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
4 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
5 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
6 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
7 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
8 回	文献購読 ゼミ論プレゼン	発表と討議 進捗と課題に関して質疑
9 回	文献購読 ゲスト・スピーカー講義	発表と討議
10 回	文献購読 ゼミ論最終プレゼン	発表と討議 プレゼンと質疑
11 回	文献購読 ゼミ論最終プレゼン	発表と討議 プレゼンと質疑
12 回	文献購読 ゼミ論最終プレゼン	発表と討議 プレゼンと質疑
13 回	文献購読 ゼミ論最終プレゼン	発表と討議 質疑
14 回	文献購読 ジャーナリズム特論	発表と討議 講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文においてベンチマークする主要図書を早めに見出し、関連文献情報に接する。ゼミ論の準備・執筆には、通常の講義の予習・復習にかかるよりも多くの時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義に際して適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動への積極的な参加とゼミ論文を総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

今年が初講義のため、特になし

【Outline and objectives】

We study various aspects of social phenomena including political economy and modern history in depth in the practical ways such as group discussion, presentation, preparation of reports.

POL300AD

演習

弓削 昭子

授業形式：演習 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar on International Development and Peacebuilding, the students will examine the various issues related to economic, social and human development as well as peacebuilding, focusing on developing countries. They will learn about Agenda 2030 on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) and issues related to its implementation. The students will learn about the different roles and activities of various actors in this field, including governments, international organizations, civil society, the private sector, and others, and how they interact to achieve the SDGs.

【到達目標】

The students will deepen their understanding of the range of international development and peacebuilding issues including the SDGs and the roles and activities of various actors in this field and their respective strengths and limitations. They will enhance their understanding of different approaches in tackling development problems, including poverty, inequality, gender issues, human development, vulnerability, human rights, environment and climate change, and peacebuilding. The students will also develop a deeper understanding on various collaborative partnerships among different actors. Through presentations and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

Classes will start on 23 April (Thursday).

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international development and peacebuilding. The course will also cover discussions that are taking place at the UN and other global forums, and the students will examine how their outcome apply to various development situations in different countries. Students are expected to read the assigned materials, make presentations, and actively participate in class discussions. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials related to international development and peacebuilding, produced by UN as well as other international organizations and global actors.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction and expectations
2	2030 Agenda and Sustainable Development Goals (SDGs)	Status of SDGs and related issues
3	SDGs implementation issues	Operational issues related to SDGs

4	Approaches to development	Presentation and discussion
5	Poverty reduction	Presentation and discussion
6	Reducing inequality	Presentation and discussion
7	Human development	Presentation and discussion
8	Human security	Presentation and discussion
9	Gender equality and women's empowerment	Presentation and discussion
10	Discrimination and human rights	Presentation and discussion
11	Vulnerability and resilience	Presentation and discussion
12	Humanitarian assistance	Presentation and discussion
13	Environment protection and climate change	Presentation and discussion
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

・ Dean Karlan and Jakob Appel, More Than Good Intentions, Plume, 2012
 ・ Paul Collier, The Bottom Billion, Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It, Oxford University Press, 2008.

【参考書】

・ Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development, Twelfth Edition. Pearson Education Limited, 2015.
 ・ Craig Zelizer (ed.), Integrated Peacebuilding, Innovative Approaches to Transforming Conflict, Westview Press, 2013
 ・ マイケル・P・トダロ、ステファン・C・スミス『トダロとスミスの開発経済学、原著第10版』森杉壽芳 監訳、OCDI 開発経済研究会訳、ピアソン桐原、2010 年

【成績評価の方法と基準】

Presentation and participation in class discussions as well as participation in other Seminar activities (special Seminar sessions, study tour, etc.)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【Outline and objectives】

As written above.

POL300AD

演習

弓削 昭子

授業形式：演習 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar on International Development and Peacebuilding, the students will examine the various issues related to economic, social and human development as well as peacebuilding, focusing on developing countries. They will learn about Agenda 2030 on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) and issues related to its implementation. The students will learn about the different roles and activities of various actors in this field, including governments, international organizations, civil society, the private sector, and others, and how they interact to achieve the SDGs.

【到達目標】

The students will deepen their understanding of the range of international development and peacebuilding issues including the SDGs and the roles and activities of various actors in this field and their respective strengths and limitations. They will enhance their understanding of different approaches in tackling development problems, including poverty, inequality, gender issues, human development, vulnerability, human rights, environment and climate change, and peacebuilding. The students will also develop a deeper understanding on various collaborative partnerships among different actors. Through presentations and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international development and peacebuilding. The course will also cover discussions that are taking place at the UN and other global forums, and the students will examine how their outcome apply to various development situations in different countries. Students are expected to read the assigned materials, make presentations, and actively participate in class discussions. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials related to international development and peacebuilding, produced by UN as well as other international organizations and global actors.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation and review of spring semester materials	Orientation and expectations of fall semester
2	Approaches to nation building	Presentation and discussion
3	Democratic governance	Presentation and discussion
4	Poverty reduction and peace	Presentation and discussion

5	Socio-economic development and peace	Presentation and discussion
6	Inequality and social stability	Presentation and discussion
7	Human rights and development	Presentation and discussion
8	Sustainable livelihoods	Presentation and discussion
9	Conflict prevention	Presentation and discussion
10	Post-conflict reconstruction	Presentation and discussion
11	Peacebuilding	Presentation and discussion
12	Fragile states	Presentation and discussion
13	Global partnerships for sustainable development	Presentation and discussion
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

・ Paul Collier, The Bottom Billion, Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It, Oxford University Press, 2008.

・ Craig Zelizer(ed), Integrated Peacebuilding - Innovative Approaches to Transforming Conflict. Westview Press, 2013.

【参考書】

・ Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development, Twelfth Edition. Pearson Education Limited, 2015.

・ Jeffrey Sachs, The End of Poverty, How We Can Make it Happen in Our Lifetime, Penguin Books, 2005.

・ David Hulme, Should Rich Nations Help the Poor?, Polity Press, 2016

・ Dean Karlan and Jakob Appel, More Than Good Intentions, Plume 2012.

・ マイケル・P・トダロ、ステファン・C・スミス『トダロとスミスの開発経済学、原著第10版』森杉壽芳 監訳、OCDI 開発経済研究会訳、ピアソン桐原、2010 年

【成績評価の方法と基準】

Presentation and participation in class discussions as well as participation in other Seminar activities (special Seminar sessions, study tour, etc.). For third year students, Seminar Report submission is required at the end of the semester (40%).

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【Outline and objectives】

As written above.

BSP100AB

法学入門

金子 匡良

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法律学科の新入生を対象に、法学の基本的な用語や概念を学び、法学的なものの考え方（これを「リーガル・マインド」という）を身につけることを目的とする。法学の基礎を学ぶがゆえに、法律学科のすべてのコースに関連する科目である。

【到達目標】

- ①法学に関する基本的な用語や概念を理解し、それらを「自分の言葉」として使えるようになる。
- ②法や法学の歴史的な発展過程を理解する。
- ③法令や判例の検索方法及び読解方法を習得する。
- ④立法過程や裁判制度など、法の定立・実行に関わる制度の概要を理解する。
- ⑤上記①～④に基づいて、現代社会の法的問題を分析する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業支援システムにアップロードしたプリントに沿って、講義形式で授業を進めるが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：法学とは？ 法学部とは？	法学が何を対象とする学問であり、法学部とは何を学ぶ学部なのかを考える。
第2回	法とは何か？	社会規範としての法の位置づけ、法と道徳の相違、法の特色などについて学ぶ。
第3回	法の目的	法の目的としての正義について学ぶ。
第4回	法の内容－権利と義務	法の主たる内容としての権利・義務の種類について学ぶ。
第5回	法の分類	成文法と不文法の違いとそれぞれの内容・特質について学ぶ。
第6回	法の根拠	法の根拠としての自然法の意義、および法実証主義による自然法批判について学ぶ。
第7回	法の歴史と系統	大陸法と英米法の成立経緯および両者の特徴について学ぶ。
第8回	日本法の歴史	日本における法の歴史、特に近代法の継受の過程について学ぶ。
第9回	裁判制度	裁判制度の意義と種類、裁判所の組織について学ぶ。
第10回	裁判手続	裁判の過程と訴訟手続上の原則について学ぶ。
第11回	法解釈の方法	法解釈の方法と基本的な法令用語の意味について学ぶ。
第12回	法解釈の目的	概念法学と自由法論の違いと特徴について学ぶ。
第13回	法の効力	法の効力の種類と原則について学ぶ。
第14回	現代法の課題	授業全体のまとめをするとともに、現代における法的諸問題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムからプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解消されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップロードするプリントを用いる。特定のテキストは指定しないが、授業は概ね下記の「参考書」の内容に沿って進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）
澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理〔第4版〕』（北樹出版、2015年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

初年次配当の授業であるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【Outline and objectives】

This lecture aims to learn fundamental terms and concepts of jurisprudence, targeting freshmen of legal department, and to acquire the ability to think based on legal logic – this ability is called "legal mind".

LIT200BC

日本文学史 A

中沢 けい

授業コード：A2441 | 曜日・時限：木曜 3 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学史 A 前半ではまず文語文を使っていた古代から近世までの概観を見て行きます。文語文が口語文に切り替わるのは明治時代です。幕末から明治期にかけてなぜそのような大きな変化がおきたのでしょうか？ この変化は近代社会の成立とかかわった変化です。近代の文章が形を整える昭和初期までをあつかいます。

【到達目標】

文章は時代によって変化します。変化の流れをつかみましょう。また変化の理由を考察する力を身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

5 月 7 日から授業を始めます。今年は学習支援システムを使い参考書などを示しながら授業を進めてゆきます。皆様の御協力をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	原稿用紙はいつ生まれたのか	原稿用紙の重要性について。
第 3 回	原稿用紙と私	
第 4 回	近代口語文とは何か	現在使われている文章についてお話します。
第 5 回	原稿用紙と文明	日本の文章はこれまでどのような文明と関わってきたのでしょうか？
第 6 回	文明と文章	1970 年代の映像を視聴します。
第 7 回	1970 年代の映像	なぜ文章改良運動が必要であったの考察します。
第 8 回	文語文から口語文へ	
第 9 回	文語文の時代を振り返る	古代、中古の文章の特徴を考察します。
第 10 回	文語文の時代を振り返る	中世、近世の文章の特徴を考察します。
第 11 回	「福沢諭吉全集緒言」を読む	口語文の成り立ちを考察します。
第 12 回	第一次世界大戦の映像を見てみましょう	第一次世界大戦の映像を見てみましょう
第 13 回	中原中也の詩と小林秀雄の評論	第一次世界大戦後の変化を考察します。
第 14 回	世界大恐慌時代の映像を見る	アメリカの登場を考察します。
第 15 回	ジャズエイジの作家たちと村上春樹	ジャズエイジの作家たちが村上春樹に与えた影響を考察します。
第 16 回	第二次世界大戦終了後の世界を記録した映像を見ましょう	第二次世界大戦終了後の世界を記録した映像を見ましょう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを使います。文章を成立させた時代背景を考えるために様々な時代の文章をその時代背景を考えながら読む習慣を持つようにしましょう日文科の授業では文章を読まない日はありません。ほかの授業の文章でもその時代背景を考えるように心がけましょう。

【テキスト（教科書）】

授業内で本を紹介するようにします。皆さんが手持ちの本はないかもしれませんが、図書館や町の書店を自由に使えるようになったら探してみてください。合わせて映像資料もご紹介します。

【参考書】

毎日、読む新聞なども時代の資料としての価値を持っています。現在は大きな文明の転換点に立っているのかもしれませんが。皆さんが何気なく読むものの全てが参考資料です。

【成績評価の方法と基準】

授業時のレポート 60 % 期末のレポート 40 %。みなさんとお目にかかって授業ができないのはとても残念です。授業時の課題提出は忘れなくお願いします。

【学生の意見等からの気づき】

時代背景と文章の関連性がつかめなくなることがあります。授業中の積極的な質問は大歓迎です。疑問に思ったことはどんどん質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

400 字詰め原稿用紙のアプリケーション

ネットで探すことができます。また、手持ちのアプリケーションにも原稿用紙のアプリが入っていることでしょう。

【その他の重要事項】

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】

History of sentences

LIT200BC

日本文学史 A

藤谷 治

夜間時間帯

授業コード：A2442 | 曜日・時限：木曜 5 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。前期は日本語の文章の成り立ちから、平安・鎌倉期までの文章を読んでいきます。

【到達目標】

古典と見なされている文章から、日本語の文章の多様性を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

日本語の文章を読みながら、講義形式で進めます。

（4 月 19 日追記）今期授業計画の変更に伴い、当面は課題をレポート形式で提出することで授業を進めます。課題については、4 月 23 日（木）以降、学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本文学史と現在の文章	この講義について
第 2 回	日本語の文章が生まれる	「古事記」と「万葉集」を読む
第 3 回	変体漢文と土着	「日本霊異記」を読む
第 4 回	フィクションと歌	「竹取物語」と「伊勢物語」を読む
第 5 回	ドキュメンタリーと話法	「土佐日記」を読む
第 6 回	物語のビッグ・バン	「うつは物語」を読む
第 7 回	ロマンスと共感	「落窪物語」を読む
第 8 回	つづやきと内輪話	「枕草子」を読む
第 9 回	統合と完成	「源氏物語」を読む
第 10 回	文章と実人生	「更級日記」を読む
第 11 回	人から聞いた話	「今昔物語集」を読む
第 12 回	主観と文明観	「方丈記」を読む
第 13 回	ドラマと語るための文章	「平家物語」を読む
第 14 回	演じるための文章	「謡曲集」「能狂言」「風姿花伝」を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げる作品を、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度プリントして配布します。

【参考書】

授業計画の内容にある通りです。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50 %。レポート 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

【その他の重要事項】

講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいます。

【Outline and objectives】

During the spring term we will read passages from Japanese writings and old tales from the Kamakura period, and study the origin of sentences.

LIT200BC

日本文学史 B

中沢 けい

授業コード：A2443 | 曜日・時限：木曜 3 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文学史 B では、A の内容を踏まえながら、近代から 1970 年代までの文芸に現われた文章の変化を見てゆきます。その際、世界の政治情勢が文芸ひいては文学に大きな影響を与えたことを映像資料を視聴しながら理解してもらうことを狙いとしています。

【到達目標】

文章は時代精神の形成とともに変化します。時代精神はどのような変化をしたのかを世界の中の日本、アジアの中の日本という視点で見えてゆきます。歴史の大きな流れの中にある文章の変化についての認識を作りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。日本の文章の歴史と変化を実際の文章を読みながら学んで行きます。また映像資料を視聴し、文章が歴史的に変化して行く時代背景について理解を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日中戦争、太平洋戦争の終了と文章の変化	戦後と呼ばれる時代の始まりにどのような文章の変化があったのかを考察します。
第 3 回	1945 年以降の戦争について	第二次世界大戦の終了は戦争の全ての戦争の終了ではありません。アジアに起きた戦争について考察します。
第 4 回	朝鮮戦争の映像を見ましょう	第二次世界大戦後の世界の変化に注目しましょう。
第 5 回	ベトナム戦争の映像を見ましょう	社会の変化が文章をも変化させます。
第 6 回	アメリカ社会の変貌を描いた映像を見る	現在への影響を考察します。
第 7 回	大正から昭和初期に確立近代口語文について考察します。	印刷技術と出版文化の関係を考察します。
第 8 回	アメリカの反戦運動、黒人公民権運動の映像を見る	現在を理解するため
第 9 回	テクノロジーと文章	活版印刷からネットまでの変化を考察。
第 10 回	ノンフィクションの興亡	メディアで起きていることについて考察。
第 11 回	映像のアーカイブ化	映像記録と文章記録の違いとは何か。
第 12 回	今何が起きているのか	現在の状況について考察します。
第 13 回	文学の変容と文章の変容について	文章の変化について考える。
第 14 回	レポートの課題説明	レポートの課題説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

印刷技術から生まれた正書法について理解するために原稿用紙のアプリケーションを使うことをおすすめします。手書きする必要はありませんが、原稿用紙のアプリケーションを用いてレポートなどを制作しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントして配布します。プリントは課題提出時に必要になります。ファイルして下さい。

【参考書】

授業計画に示されてる文章を図書館で探して下さい。映像資料は「映像の世紀」（NHK）を使用します。

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう映像の感想 50 % レポート 50 %。授業時に書いてもらう映像の感想では視覚的な情報を言語化する努力を求めます。レポートでは授業を使用した文章を読み込む力を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

文章の未来について考察するようにしましょう。また情報技術（IT）は文章にどのような変化をもたらすのかを考えながら知識を収集する努力をしてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

400字詰め原稿用紙のアプリケーション。

【その他の重要事項】

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】

History of sentences

LIT200BC

日本文学史B

藤谷 治

夜間時間帯

授業コード：A2444 | 曜日・時限：木曜5限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語の文章を、物語の文章を中心に読んでいきます。後期は17世紀から現代までの文学作品を読みます。

【到達目標】

日本語の文章の多様性から、現代における新しい文章の可能性を探っていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、日本語の文章を読んでいきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	聞かせる文章	説経節を読む
第2回	商売のための文章	好色一代男を読む
第3回	美の追求	「奥の細道」を読む
第4回	スキャンダルの劇化	「曾根崎心中」を読む
第5回	学識と芸術	「雨月物語」を読む
第6回	江戸の文章	「東海道中膝栗毛」「浮世風呂」を読む
第7回	グロテスクと爛熟	「東海道四谷怪談」を読む
第8回	予兆なき残光	「南総里見八犬伝」を読む
第9回	新時代と旧時代	「真景累が淵」を読む
第10回	言文一致	二葉亭四迷と山田美妙を読む
第11回	言文を一致させない	樋口一葉、幸田露伴、尾崎紅葉、泉鏡花、を読む
第12回	自然主義とその批判	田山花袋ほか自然主義作家と、二葉亭「平凡」、石川啄木を読む
第13回	民主主義下の文章	大江健三郎とよしもとばななを読む
第14回	現代の文章	東直子と古川日出男を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の内容にかかわらず、どんどん読んでいってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

講義内容にある通りです。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

情報としての古典文学ではなく、私たちの文学を広げる可能性をはらんだ文章として、多様な文章を読んでいきます。

【その他の重要事項】

講師は職業作家であり、国文学の専門家ではないので、「現代」の「読者」であり「創作者」である立場から、日本文学の文章に取り組んでいきます。

【Outline and objectives】

During the fall term we will read passages from 17th century Japanese literary works to contemporary works.

LIT200BC

文章表現論 A

田中 和生

授業コード：A2445 | 曜日・時限：火曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

【到達目標】

まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。

次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。

以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。毎回講評を行い、学生自身が評価をする機会も設け、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。授業は4月21日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第2回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第3回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第4回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第5回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第6回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第7回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第8回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第9回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第10回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけるとはどういうことかを理解します。
第11回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第12回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第13回	作文を評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第14回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに2回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に4回800字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline and objectives】

Through the exploration of finding what you want to write and writing it as you like, experience the freedom of starting a new writing and understand its difficulties. By knowing both its freedom and difficulties, you will seek phrases in Japanese to well express what you want to say, and acquire the usage of literary words within poetries, stories and criticisms.

LIT200BC

文章表現論 B

田中 和生

授業コード：A2447 | 曜日・時限：火曜2限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】

まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書こうとすること。

次にそうでなくして明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。

以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。毎回講評を行い、学生自身が評価する機会も設け、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第2回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第3回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第4回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第5回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第6回	フィクションを評価する1	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第7回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第8回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第9回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第10回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものかを考察します。
第11回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第12回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第13回	フィクションを評価する2	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第14回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。

【参考書】

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

授業中に4回800字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が2回あります。作文自体の評価（5割）と、作文へ取り組む姿勢（5割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline and objectives】

Understand the difficulty of writing exactly of what you know well and the restriction of its contents, and at the same time experience the freedom of writing texts of unknown and fiction. By paying attention to the difference between texts of the known and unknown, seek out what you want to write as fiction and what is your theme.

LIT300BC

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火曜 5 限

秋学期・2 単位

【Outline and objectives】

Relationship between media and society

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？表現とは何か？という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何を考えるのが目的です。また情報義出の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話します。(中沢けい)
第 2 回	知的財産権の捉え方 1	1 冊の本には多様な著作権者の権利が交錯しています。
第 3 回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第 4 回	表現の対象になる人々の権利 1	取材対象者の権利、モデル問題などを考えます
第 5 回	同上	河原理子講師（朝日新聞編集委員）
第 6 回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第 7 回	同上	鶴飼哲夫講師（読売編集委員）
第 8 回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第 9 回	同上	仲俣暁生（編集者）
第 10 回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第 11 回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第 12 回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第 13 回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之（建築家、小説家）
第 14 回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分 (%)」：レポート 30% 平常点 70 %

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：月曜5限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作者人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した実例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。加えて、テクノロジー、ツールの急激な進化が、誰でも簡単に発信者になってしまうことの危うさについて受講生に強く警告したい。受信者が簡単に発信者になれる SNS 時代に身を置いていることがどれだけ危険か。安易な発信や軽い気持ちで発信した冗談情報が一人歩きを続ける現実にも強く注意喚起したい。新型コロナに伴う、トイレトーパーバー、ティッシュ、果ては納豆（免疫力アップ）まで、一つのデマ情報がどこまでの事態を引き起こすか。身の回りの現実起きた事件・事象から具体的に説き起こしたい。飲食店やコンビニのアルバイト従業員がふざけておこなった不謹慎動画が、「発信者」の人生を破壊してしまう危険についても強く注意喚起したい。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、「鈍感力」に裏付けられた「謝り力」を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は知的財産権、著作権の実例を講義、解説し、ジャンル、メディアによる違いを質疑、討論も含めながら、明らかにする。後半においては、編集実務を交えたグループワークやテーマを決めたプレゼンテーションなど、制作現場の模擬体験を通じて、判断の基準を理解する。具体的な方法については、受講人数によって決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と手順、進め方。	法律家ではない現場から見た考え。こんなにある身近な知的財産権。授業開始日は5月6日とします。それまでに学習支援システムの授業掲示板に記載されている事項について書き込みをお願いします。
第2回	知的財産権には何があるか	著作権も知的財産権の一つ。創作物の何を守らなければいけないのか？
第3回	それでは著作権には何があるか。	過去のトラブルの具体的事例から、著作権を侵害しないための注意点を理解する。
第4回	「生まれたて写真週刊誌のドタバタ」個々の権利について出版現場から考える①	週刊誌「FRIDAY」編集者としてのエピソードから、著作権保護を考える。
第5回	「引用となるかならぬか」個々の権利について出版現場から考える②	男性ヴィジュアル誌「PENTHOUSE」編集現場の体験から、引用、パロディについて考える。
第6回	「平凡なアイデアに魂は宿らない」個々の権利について出版現場から考える③	文芸誌「群像」小説誌「小説現代」編集者としての経験から、資料と史料などについて考える。
第7回	「盗用と剽窃」個々の権利について出版現場から考える④	文庫、書籍編集者としての体験から、アイデア、企画について著作権の立場から考える。
第8回	ジャンルから考える①	音楽、文芸、写真、美術、建築など、表現手段や対象分野の違いによって、どの視点から著作権が守られるべきか、考える。
第9回	ジャンルから考える② グループワーク「ディベートしてみよう」	受講者が二つのグループに分かれ、写真分野における著作権侵害の実際に提訴された裁判について、ディベートする。人数によっては裁判官役も設定して、論点の立て方による勝敗の決定も行う。

第10回	ジャンルから考える③ グループワーク「ディベートしてみよう」	原告側の主張を調べ、著作権の各権利から、侵害を訴える。被告側は、反論する。
第11回	ジャンルから考える④ グループワーク「ディベートしてみよう」	被告側の主張を調べ、反証する。原告側は反論。
第12回	ジャンルから考える⑤ グループワーク「ディベートしてみよう」	さて、判決は？ 勝つのはどっち？
第13回	誰でも発信できる危険な時代	知らないと大変な危機に見舞われるかも。受信者が発信者と一緒になったとき、悲劇に襲われる編集者がいつも肝に銘じていること、「編集者とは何か」
第14回	総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。いまリアルタイムに起きた事件を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などを理解していた方が、授業内容の理解の手助けになると思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて、配付資料を準備します。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30%。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20%、通常授業での平常点30%、課題評価20%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

<専門領域（現職）> 日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。文芸分野（フィクション）を統括する講談社 文芸局長を経験。

<主要研究業績（社歴）>

群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline and objectives】

About the intellectual property right,in particular,the copyright and the copyright infringement,the students understand in actual example,which I had experienced on 「FRIDAY」「PENTHOUSE」「GUNZO(Literary magazine)」. Nowadays everybody can send readily anything with SNS. But it is very dangerous. Anyone only to receive can send easily everything,then they will be at risk and don't know it.It is very important to avoid those danger and to get sense of them,

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：月曜 5 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」と理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。
第 10 回	出版について考えてみる②	名作からスタンダードに。新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	SNS 時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けになると 생각합니다。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

<専門領域（現職）> 日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。

文芸分野（フィクション）を統括する講談社 元文芸局長。

<主要研究業績（社歴）>

群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline and objectives】

If you think the news is all same in every media, that is incorrect. Each media has his original opinion. The newspaper article is not neutral, and also the television. The students must learn the difference of each media news, how different there is and why it will happen.

LIT300BC

ゼミナール 1 7 A

中沢 けい

授業コード：A2647 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春学期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。
夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

創作作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

5 月 7 日から授業を始めます。

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話そうにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第 11 回	同上	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第 12 回	同上	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第 13 回	同上	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第 14 回	同上	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

購読作品と関連した本も見つけてみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙のアプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】

Literature creation

LIT300BC

ゼミナール 1 7 B

中沢 けい

授業コード：A2648 | 曜日・時限：木曜 4 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。
後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話そうにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	同上	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第 10 回	同上	人によって読み方はさまざまです。
第 11 回	同上	自分の作品の理解者を探してみましょう。
第 12 回	同上	作品はイメージ通りに書けましたか。
第 13 回	同上	作品の修正の方法を考えてみましょう。
第 14 回	同上	修正したほうがいいのかあ新しい作品を書いたほうがいいのかを考えてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。詩、批評、戯曲なども読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌

【参考書】

ゼミ誌の批評をレジュメにまとめてもらいます。各自でほかのゼミ生のレジュメを読み比べてみましょう

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。
小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】

Literature creation

LIT300BC

ゼミナール 18A

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2649 | 曜日・時限：金曜 6限

春学期・2単位

【Outline and objectives】
Literature creation

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。春期は作品購読をします。これにより批評の仕方を学んでください。

夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。

後期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

Literature creation

【到達目標】

5月8日から授業を始めます。

文芸作品の批評的読解ができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第3回	受講生による発表	リストによる購読で批評の方法を学びます。
第4回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第5回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第6回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第7回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第8回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第9回	ゼミ誌制作の準備	作品は「本」になって初めて原稿ではなく作品になります。
第10回	受講生による発表	再び、リストによる作品購読でさまざまな読み方を学びます。
第11回	同上	作品の研究論文、評論などを探しましょう。
第12回	同上	先行研究や評論とあなたの感じ方の違いを比べてみましょう。
第13回	同上	作品の書かれた時代背景を考えてみましょう。
第14回	同上	先行作品から新しい作品を生み出すヒントを探してみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

購読作品の関連図書を探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（%）は授業へ積極的参加 50 % ゼミ誌作品 50%。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【学生が準備すべき機器他】

原稿用紙アプリケーション

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。

小説家。1978年「海を感じる時」で第21回群像新人賞受賞。1985年「水平線にて」で第6回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

LIT300BC

ゼミナール 18B

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2650 | 曜日・時限：金曜 6 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創作について学びます。まず、注意深くいろいろな作品を読んでゆくことにしましょう。夏休み期間を利用してゼミ誌を製作します。ゼミ誌は後期授業のテキストになります。秋学期は各自が製作した作品の合評会を行います。また、夏季に合宿を予定しています。

【到達目標】

ゼミ生相互に作品批評をします。同一の作品でも人により読み方が違うことが理解できます。その中で自分の作品について必要な批評を聞き分けられるようになりましょう。自分自身がどのような形態の作品を書きたいのかを意識できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文芸創作を学ぶゼミです。ゼミ生自身ですすんで授業を作ってゆくと考えてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	購読作品の選定とスケジュール作り
第 3 回	受講生相互の批評	作品にたいする批評をレジュメにして提出してもらいます。
第 4 回	同上	内容だけではなく表現の技術にも注目しましょう。
第 5 回	同上	具体的な文章の引用をしましょう。
第 6 回	同上	引用に基づいた感想を話すようにしましょう。
第 7 回	同上	読むことはすなわち「創造」です。
第 8 回	同上	「読むこと」と「書く」ことのつながりを考えましょう。
第 9 回	同上	読みかたは人によって異なります。
第 10 回	同上	自分はどのような作品を書きたかったのかを考えてみましょう。
第 11 回	同上	作品の理解したうえでの批評を探しましょう。
第 12 回	同上	作品の修正の方法を考えてみましょう
第 13 回	同上	作品を修正したほうが良いのか、それとも新しい作品を書くほうがよいのかを考えてみましょう。
第 14 回	同上	次作のイメージを作ってみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

できるだけたくさん本を読みましょう。小説に限らず詩、批評、戯曲なども読みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ゼミ誌を受講生自身で制作します。

【参考書】

自分の作品のイメージを喚起する作品を先行作品の中から探してみましょう。

【成績評価の方法と基準】

配分（％）は授業へ積極的参加 50 %ゼミ誌作品 50%。 評価基準は創作のセンスの良さ。

【学生の意見等からの気づき】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：夏休みに合宿を予定しています。

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline and objectives】

Literature creation

LIT300BC

ゼミナール 19A

田中 和生

授業コード：A2651 | 曜日・時限：火曜 4 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。授業は 4 月 21 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	短歌を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む (4)	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む (5)	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む (6)	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】

Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール１９Ｂ

田中 和生

授業コード：A2652 | 曜日・時限：火曜４限
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評 (1)	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評 (2)	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評 (3)	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評 (4)	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評 (5)	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評 (6)	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評 (7)	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評 (8)	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評 (9)	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評 (10)	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】

Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２０Ａ

田中 和生

夜間時間帯
授業コード：A2653 | 曜日・時限：月曜６限
春学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。授業は 4 月 27 日に開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	短歌を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む (1)	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む (2)	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む (3)	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む (4)	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む (5)	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む (6)	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内するが、自発的な読書が肝要である。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したい。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導する。

【Outline and objectives】

Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール 20B

田中 和生

夜間時間帯

授業コード：A2654 | 曜日・時限：月曜 6 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】

創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評 (1)	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評 (2)	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評 (3)	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評 (4)	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評 (5)	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評 (6)	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評 (7)	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評 (8)	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評 (9)	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評 (10)	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】

文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】

Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール 21A

根本 昌夫

授業コード：A2655 | 曜日・時限：木曜 4 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさん的小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じることに文学を楽しむこと 言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。

また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】

小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解説

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講座の概要
第 2 回	作品を書く前にすべきこと	文章の基本作法 1
第 3 回	同上	文章の基本作法 2
第 4 回	読むということについて 1	課題作品講評
第 5 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 1	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで
第 6 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 2	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで
第 7 回	読むということについて 2	課題作品講評
第 8 回	散文と詩	文章の基本作法 3
第 9 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 3	島田雅彦・平野啓一郎から上田岳弘・町屋良平まで
第 10 回	読むということについて 3	課題作品講評
第 11 回	批評について	文章の基本作法 4
第 12 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 4	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで
第 13 回	読むということについて 4	課題作品講評
第 14 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞 5	村上龍・村上春樹から又吉直樹・古川真人まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】

吉本隆明「マス・イメージ論」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、提出作品 50 % の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】

早稲田大学在学中「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of literary.

LIT300BC

ゼミナール 2 1 B

根本 昌夫

授業コード：A2656 | 曜日・時限：木曜 4 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じる こと 文学を楽しむ こと 言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。

また、よしもとばな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】

小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解説

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文芸作品のジャンルと方法	1950 年代の文芸
第 2 回	読むということについて 1	提出作品講評 1
第 3 回	読むということについて 2	提出作品講評 2
第 4 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 5 回	読むということについて	提出作品講評 3
第 6 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 7 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 8 回	文芸作品のジャンルと方法	1960 年代の文芸
第 9 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 10 回	読むということについて 9	提出作品講評 4
第 11 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 12 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 13 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで
第 14 回	現代日本文学作品の解説と鑑賞	小川洋子・角田光代から村田紗耶香・今村夏子まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】

根本昌夫「実践小説教室」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、提出作品 50 % の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】

早稲田大学在学中に「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。

退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of literary.

LIT200BC

日本文学研究特講（9）表現 A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

（4 月 19 日追記）今次授業計画の変更に伴い、当面は課題をレポート形式で提出することで授業を進めます。課題については、4 月 23 日（木）以降、学習支援システムにて提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50%。レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

文学表現の可能性をその時その時で考察しながら授業を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline and objectives】

We will observe the elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：木曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	発想	趣向について
第2回	取材	空気を吸うことについて
第3回	文章	スタイルの選択
第4回	起筆	書き出しについて
第5回	持続	書き続けることの困難
第6回	題名	題名を決める
第7回	人物	性格の否定について
第8回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第9回	推敲	文章の検討と批判
第10回	改稿	初稿の否定について
第11回	構成	作品全体について
第12回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第13回	完成	作品の独立について
第14回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline and objectives】

We will analyze the way a story progress with selected example from novels and discuss how the phase of expression is realized in literary works.

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌A

池井 昌樹

授業コード：A2695 | 曜日・時限：水曜4限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1966年の第一作から2020年現在までの自作詩を、70冊の手書き清書ノート及び19冊の単行詩集を軸に講義します。市井で働きながら詩を書き続けた私にとっての詩の意味、詩の価値、生の輝きについて。

【到達目標】

詩の力。詩の無力。詩とヒトとの関りについて正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

とりあえず本年は講義形式から始めます。
本科目の初回授業日は5月6日（水）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業について説明します。
第2回	第一詩集「理科系の路地まで」を中心に	朗読と講義
第3回	第二詩集「鮫肌鉄道」	朗読と講義
第4回	第三詩集「これは、きたない」、第五詩集「沢海」	朗読と講義
第5回	第六詩集「この生は、気味悪いなあ」、第七詩集「ぼたいのいる家」	朗読と講義
第6回	第八詩集「水源行」、第九詩集「黒いサンタクロース」	朗読と講義
第7回	第十詩集「晴夜」	朗読と講義
第8回	第十一詩集「月下の一群」	朗読と講義
第9回	第十二詩集「一輪」	朗読と講義
第10回	第十三詩集「童子」	朗読と講義
第11回	第十四詩集「眠れる旅人」	朗読と講義
第12回	第十五詩集「母家」	朗読と講義
第13回	第十六詩集「明星」	朗読と講義
第14回	第十七詩集「冠雪富士」、第十八詩集「未知」、第十九詩集「遺品」／レポート提出	朗読と講義 総括、レポートの提出説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩にのみ限らない様々な言語表現、言語にのみ限らない様々な芸術文化、芸術文化にのみ限らない様々な日常
市井での出会いとときめきを何よりも先ず。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「池井昌樹詩集」（ハルキ文庫）、「現代詩文庫 164 池井昌樹詩集」（思潮社）

【参考書】

上記に未収録の単行詩集（「一輪」より「冠雪富士」まで全て思潮社）
「手から手へ」（集英社）

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう感想 70%、レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

詩人。中学3年生の時、山本太郎の選で全国学芸コンクール詩部門特選となる。1977年第一詩集「理科系の路地まで」を発表。1997年に発表した「晴夜」で歷程賞と芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。選詩集に「池井昌樹詩集」（現代詩文庫）、その他に植田正治の写真とコラボレーションした写真詩集「手から、手へ」などがある。
1999年 - 「月下の一群」で第17回現代詩花椿賞 2006年 - 「童子」で第22回詩歌文学館賞詩部門 2009年 - 「眠れる旅人」で第4回三好達治賞 2013年 - 「明星」で第31回現代詩人賞

【Outline and objectives】

Learn poetry

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌B

池井 昌樹

授業コード：A2696 | 曜日・時限：水曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らが詩を書き続ける中で出会った近現代詩の鑑賞と解釈。それらの詩が「私」を超えやがて「普遍」へと昇華されて行く神秘について、背景となる時代状況を併せて講義します。

【到達目標】

絶えず「詩」とともに在り続けた「ヒト」。時代を超えるその不可避について正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。テーマとなる作品及び年譜をプリントして毎回配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業について説明します。
第2回	私の「谷内六郎」体験	『遠い日のうた』『旅の絵本』『谷内六郎画集』を中心に。
第3回	私の「北原白秋」体験	『思ひ出』『邪宗門』を中心に。
第4回	私の「萩原朔太郎」体験	『月に吠える』『青猫』を中心に。
第5回	私の「三好達治」体験	『測量船』『南窓集』『閑花集』を中心に。
第6回	私の「山村暮鳥」体験	『聖三稜玻璃』『雲』を中心に。
第7回	私の「八木重吉」体験	『秋の瞳』を中心に。
第8回	私の「田中冬二」体験	『青い夜道』を中心に。
第9回	私の「宮沢賢治」体験	『春と修羅』を中心に。
第10回	私の「中原中也」体験	『山羊の歌』『在りし日の歌』を中心に。
第11回	私の「草野心平」体験	『第百階級』『日本沙漠』を中心に。
第12回	私の「山本太郎」体験	『礼問者の惑いの唄』『死法』を中心に。
第13回	私の「会田綱雄」体験	『鹹湖』『狂言』『汝』『遺言』を中心に。
第14回	私の「長田弘」体験	『長田弘全詩集』『最後の詩集』を中心に。／レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回テーマとなる諸作品の多くが文庫化されていますので自主的に役立ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にプリントして配布します。プリントはファイルしてレポートに役立ててください。

【参考書】

思潮社版『現代詩文庫』の各「近代詩人篇」及び新潮、角川、講談、集英、ハルキ他、各文庫版詩集。

【成績評価の方法と基準】

授業時に書いてもらう感想 70 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

板書・資料をより密にし、各作家、各作品の背景をより詳細にします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

詩人。中学3年生の時、山本太郎の選で全国学芸コンクール詩部門特選となる。1977年第一詩集『理科系の路地まで』を発表。1997年に発表した『晴夜』で歴程賞と芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。選詩集に『池井昌樹詩集』（現代詩文庫）、その他に植田正治の写真とコラボレーションした写真詩集『手から、手へ』などがある。
1999年 - 「月下の一群」で第17回現代詩花椿賞 2006年 - 「童子」で第22回詩歌文学館賞詩部門 2009年 - 「眠れる旅人」で第4回三好達治賞 2013年 - 「明星」で第31回現代詩人賞

【Outline and objectives】

Learn poetry

LIT200BC

編集理論A

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2709 | 曜日・時限：月曜5限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちはテキストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web空間におけるテキストについては秋学期に扱います）。まず、テキストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】

これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隔々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現在の書籍や雑誌の制作過程を追体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テキスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際の・具体的な授業内容となるよう心がけます。
授業開始日は5月11日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	作者／編集者／読者	テキストに編集という行為はどういう作用を及ぼし、編集者とはいったいどういう存在なのか考えます。 実際の編集作業の流れを、DVDの視聴を通じて理解します。
第2回	編集の流れ 1	
第3回	編集の流れ 2	
第4回	資材論 1	「ゲラ」の動きを中心に、作家／編集者／校正者／印刷・製本業者の協働を考えます。 印刷用紙の大きさと書籍・雑誌の判型の関係を歴史的に考察します。
第5回	資材論 2	「紙」の性質の考察のほか、書籍作りに不可欠な資材について学びます。 書籍や雑誌に使われる文字の大きさや種類、字形／字体／書体の関係について学びます。
第6回	文字考	
第7回	文字と版面	書籍や雑誌のページがどのように設計されるのか、その基礎を学びます。
第8回	台割と折	書籍・雑誌の全体のページ展開がどのように構成されているのか、その原則を学びます。
第9回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要性を学びます。また当用漢字から新常用漢字に至る国語・国字問題も考察します。
第10回	装幀考	そのテキストにふさわしい造本とはどのようなものか、造本感覚について学びます。
第11回	現代の印刷・製本について	印刷および製本の基礎的な知識について学びます。
第12回	現代の書籍・雑誌の流通	書籍・雑誌の流通は固有な制度によって成り立っています。その制度の問題点を含め、流通全体を概観します。
第13回	定価と印税	書籍・雑誌の定価はどのようにして決められていくのか、また印税の歴史についても考察します。
第14回	読書／読者考	書店や図書館などの「購書空間」「選書空間」「読書空間」の変遷を含め、本を読むという行為の歴史を考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くリアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。

「実務経験」大学在学中より編集の世界に携わり、学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline and objectives】

What kind of a task is an editor? Through an usual work of an editor, I show you the process of publishing.

LIT200BC

編集理論 B

福江 泰太

夜間時間帯

授業コード：A2710 | 曜日・時限：月曜 5 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紙も印刷術も存在しない時代の書物作りから現代の web 空間でのテキストまで、書物の歴史を概観し、旧来の書物制作者から「近代的編集者」がいかに特化し誕生したかを考察します。またテキストと編集行為との関係、さらに加速化するネット社会における新たなテキスト状況についても概観します。

【到達目標】

編集理論 A で対象とした現代の書籍や雑誌は決して最高の到達点ではありません。むしろ切り捨ててしまった面や退化したところも多くあります。書物の姿は時代とともに変遷します。書物制作の歴史を学ぶことにより、書物がそれぞれの時代に提示してきた「豊饒さ」を新たに認識し、編集という行為の歴史的・文化史的意義を学び、同時に電子書籍をはじめとした現代の web 空間におけるテキストのあり方も考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

書物制作の歴史を西洋・東洋ともに概観します。また電子書籍や web 空間での新たな問題も考察します。DVD 視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	書物におけるアナログ／デジタル	なぜ今書物の歴史を学ぶことが大切なのか、その意義を考えます。
第 2 回	紙以前の書写材料	パピルス、羊皮紙、バイラーンなど、紙以前の資材とそれによって作られた書物について考察します。
第 3 回	紙の発明とその伝播	紙はいかに作られたのか、中国から西欧への伝播と、東西での製紙法の差を概観します。
第 4 回	書物の形態考	卷子本と冊子本（コデックス）を中心に、様々な書物の「かたち」を紹介し、書物の「かたち」が読書という行為に与えた影響を考えます。
第 5 回	日本・東洋の書物史 1	百万塔陀羅尼から写経、摺經、写本の時代を考察します。
第 6 回	日本・東洋の書物史 2	膠泥活字、木活字、銅活字、鉛活字による中国・朝鮮・日本の古活字の時代を考察します。
第 7 回	日本・東洋の書物史 3	浮世草子をはじめとした近世の書物制作と、書物問屋という出版制度を考察します。
第 8 回	西洋の書物史 1	グーテンベルク以前の、ギリシア・ローマ時代の書物制作、中世の写本文化を概観します。
第 9 回	西洋の書物史 2	グーテンベルクの印刷術の発明とその影響、ルネッサンス、宗教改革、大航海時代の書物のあり方を概観します。
第 10 回	西洋の書物史 3	産業革命以降の書物制作で、ウィリアム・モリスの「プライベート・プレス」の試みとペーパーバックの誕生について概観します。
第 11 回	画像表現の歴史	手書きによる挿画、版画の利用、写真の印刷への応用というヴィジュアル・コミュニケーションの変遷を考察します。とりわけ「写真」の果たした役割を考えます。
第 12 回	日本における近代書物の誕生	整版から鉛活字による組版、和本から洋装本へと移行する明治の 20 年間の書物制作者のさまざまな試みを考察します。
第 13 回	出版と書物の大衆化	大正末から昭和初めの円本ブーム以降、戦後の流通革命、印刷・製本技術の革新により、書物が一気に大衆化していったことの意味を考え、現在の書物の姿の根拠をとらえます。

第 14 回 電子書籍と web 空間 テキストが紙媒体であることを脱ぎ捨てようとする現代、そこでは編集という行為はどうなっていくのか、その意味を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時コピーを配布します。

【参考書】

随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢 50% 期末のレポート内容 50% を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気での授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】

編集理論 AB の通年履修が好ましい。「実務経験」大学在学中より編集の世界に携わり、学芸書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline and objectives】

Through learning the history of books, I show you the book of the future.

LIT300BC

書道 (書写を中心とする)

橋本 匡朗

授業コード：A2711 | 曜日・時限：金曜 4 限
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。本科目の初回授業は 4/24（金）です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 16 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 17 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」（大筆）
第 18 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）の歴史
第 19 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 20 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 21 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 22 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 23 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 24 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗氣清」（大筆）
第 25 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「惠風和暢」（大筆）

第 26 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」(大筆)
第 27 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」(小筆)
第 28 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。
(80%)
適時レポート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低 20 枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】

From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

LIT300BC

書道(書写を中心とする)

橋本 匡朗

夜間時間帯

授業コード：A2712 | 曜日・時限：金曜 5 限
年間・4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】

良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踏えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。本科目の初回授業は 4/24 (金) です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」(大筆)「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」(大筆)「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」(大筆)「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆) 背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」(大筆) 向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」(大筆)「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆) 前半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」(小筆) 後半 6 文字を中心に学び全体をまとめる。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」(大筆)
第 16 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」(大筆)
第 17 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懷遠人」(大筆)
第 18 回	行書①	行書の特徴・各書体(篆書・隸書・楷書・行書・草書)の歴史
第 19 回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 20 回	行書②筆使い	「我忘吾」(大筆)「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 21 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 22 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」(大筆)「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 23 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」(大筆)
第 24 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」(大筆)

発行日：2020/5/1

第 25 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」(大筆)
第 26 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」(大筆)
第 27 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」(小筆)
第 28 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」(大筆)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
- ②プリント配布

【参考書】

プリント配布

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（80％）
適時レポート（20％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】

用具・用材

大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スボイドも可）/半紙（毎回最低20枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】

書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】

From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

PRI100BC

情報メディア演習 A

武田 俊、新見 直

夜間時間帯

授業コード：A2717 | 曜日・時限：金曜 5 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における、テキストを中心としたメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介し、演習形式のため、様々なツールを使い生徒一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。

メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】

実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショップを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

※授業開始日は 4 月 24 日（金）です。

※オンライン講義にて通常の授業開始時間より行います。

※詳細は学習支援システムにて当日までにお知らせします。

原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。

講義では、実際に手を動かすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	現代メディア論 現代のメディアの縮図	現代社会におけるメディアやその役割について、俯瞰的にお話しします。
第 3 回	現代メディア論 テキストメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web …現代のテキストメディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第 4 回	記事制作 ワークショップ 1 WEB メディアにはどのような記事があるか	実在する WEB メディアを参照に、記事のタイプや特徴などをリサーチします。
第 5 回	記事制作ワークショップ 2 : 取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を作成するための取材のしかたを学び、実践します。
第 6 回	記事制作ワークショップ 3 : 記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように扱い記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第 7 回	講評	できあがった記事について、プレゼンと講評を行います。
第 8 回	現代編集論 : 現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがあり、どのような仕事の仕方をしているかお話しします。
第 9 回	メディアに携わる仕事 雑誌編集者	雑誌の編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 10 回	メディアに携わる仕事 マンガ編集者	マンガの編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 11 回	企画のつくり方	編集者がどのように企画をつくるのか。講師が企画書の制作の仕方についてレクチャーします。
第 12 回	まとめ	企画書の講評とまとめの講義を行います。
第 13 回	新型コロナウイルス対策の影響により中止	新型コロナウイルス対策の影響により中止
第 14 回	新型コロナウイルス対策の影響により中止	新型コロナウイルス対策の影響により中止

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。
講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。
加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【その他の重要事項】

講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらおうと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.
It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

PRI100BC

情報メディア演習 B

武田 俊、新見 直

夜間時間帯

授業コード：A2718 | 曜日・時限：金曜 5 限

秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における、デジタルメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。時には、様々なツールや SNS を使い、生徒一人ひとりに考えるだけでなく、実践してもらいます。
メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】

実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショップを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。
講義では、実際に手を動かすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。
第 3 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの変遷	様々な種類の SNS について、その特徴と主だったコンテンツのあり方をレクチャーします。
第 4 回	SNS ワークショップ 1：コンセプトワーク	実際に SNS のアカウントを構築し、運用するためのコンセプトを考えます。
第 5 回	SNS ワークショップ：コンテンツ制作	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え実際に制作・発信します。
第 6 回	講評	運用された SNS のアカウント・コンテンツについてプレゼンしてもらい、講評します
第 7 回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的にお話しします
第 8 回	デジタルメディアを知る	様々なメディアに関わる資料を提供・観賞し、ディベートを行います。
第 9 回	メディアに携わる仕事 デザイナー	デザイナーとはどのような仕事なのか？ 何をするのか？ ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 10 回	メディアに携わる仕事 フォトグラファー	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？ 何をするのか？ ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 11 回	メディアに携わる仕事 映像作家	映像作家とはどのような仕事なのか？ 何をするのか？ ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 12 回	ビブリオバトル 1	書評を戦わせるゲーム「ビブリオバトル」について、そのルールや成り立ちを学び企画してもらいます。
第 13 回	ビブリオバトル 2	実際にビブリオバトルを行います。
第 14 回	まとめ	ビブリオバトルの講評とまとめの講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。
講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】

講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。
加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起きているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【その他の重要事項】

講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらいたいと思います。

【Outline and objectives】

This course introduces digital media and how to edit it to students taking this course.
It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

HIS100BE

日本史概説 I

小倉 淳一

授業コード：A3101 | 曜日・時限：水曜 1 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】

考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができる。それらと比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稻耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。
春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第 3 回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第 4 回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第 5 回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第 6 回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第 7 回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第 8 回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第 9 回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第 10 回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第 11 回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第 12 回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第 13 回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第 14 回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】

日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書 490 倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー 76 縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太一郎編（2002）『日本の時代史 1 倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史 2 倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立 シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権 シリーズ日本古代史 2』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】

当初は論述式の筆記試験を予定していたが、期末試験を通常通り行えない可能性がある。このため、授業内に課す小レポートによる評価を 50 % とし、期末レポートによる評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。

高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about Japanese history from the Paleolithic Age to the Kofun period.

HIS300BE

日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月曜2限

春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピーを配布するので、まずは自力で読解に取り組む。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する。

【追記】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第2回	古文書読解入門	近世史科学講義
第3回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第4回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第5回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第6回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第7回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第8回	年貢割付状読解	年貢請求書
第9回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第10回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第11回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第12回	変体仮名読解	俳句をよむ
第13回	金子借用証文読解	年貢滞納
第14回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

『新編古文書読解辞典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【追記】春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に関する実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月曜2限

秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	発句読解	変体仮名
第2回	離縁状読解	三行半
第3回	触書読解（1）	ベリー来航
第4回	触書読解（2）	株仲間再興
第5回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第6回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第7回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第8回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第9回	漢詩読解	七言絶句
第10回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第11回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第12回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第13回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第14回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。プリントを配布する。

【参考書】

『新編古文書解読辞典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に関する実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本考古学演習

小倉 淳一

授業コード：A3128 | 曜日・時限：月曜4限
年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】

2年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。

3年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、レポートの研究発表も実施する。

毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおく必要がある。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。

[2020.4.17 追記] 春学期の開講当初はオンラインでの授業となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで順次提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

通年	回	テーマ	内容
通年	第1回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
	第2回	論文講読発表 (1)	文献解題と討論 (1)
	第3回	論文講読発表 (2)	文献解題と討論 (2)
	第4回	論文講読発表 (3)	文献解題と討論 (3)
	第5回	論文講読発表 (4)	文献解題と討論 (4)
	第6回	論文講読発表 (5)	文献解題と討論 (5)
	第7回	研究発表 (1)	卒業論文に関連する研究発表 (1)
	第8回	研究発表 (2)	卒業論文に関連する研究発表 (2)
	第9回	研究発表 (3)	卒業論文に関連する研究発表 (3)
	第10回	論文講読発表 (6)	文献解題と討論 (6)
	第11回	論文講読発表 (7)	文献解題と討論 (7)
	第12回	論文講読発表 (8)	文献解題と討論 (8)
	第13回	論文講読発表 (9)	文献解題と討論 (9)
	第14回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示
秋学期	回	テーマ	内容
	第15回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
	第16回	論文講読発表 (10)	文献解題と討論 (10)
	第17回	論文講読発表 (11)	文献解題と討論 (11)
	第18回	論文講読発表 (12)	文献解題と討論 (12)
	第19回	論文講読発表 (13)	文献解題と討論 (13)
	第20回	論文講読発表 (14)	文献解題と討論 (14)
	第21回	研究発表 (4)	卒業論文に関連する研究発表 (4)
	第22回	研究発表 (5)	卒業論文に関連する研究発表 (5)
	第23回	研究発表 (6)	卒業論文に関連する研究発表 (6)
	第24回	論文講読発表 (15)	文献解題と討論 (15)
	第25回	論文講読発表 (16)	文献解題と討論 (16)
	第26回	論文講読発表 (17)	文献解題と討論 (17)
	第27回	論文講読発表 (18)	文献解題と討論 (18)
	第28回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）、コリン・レンフルー、ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学 理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】

春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。

[2020.4.17 追記] オンライン授業の期間においては、小レポート等で参加態度や発言・発表内容を評価する。その際 Web 会議システム等の活用もあり得る。授業への出席ならびに各学期の期末レポートは必須である。

【学生の意見等からの気づき】

すべてのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】

※〔実務経験のある教員による授業〕：担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

GEO200BF

地球科学概論 I

宍倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火曜 3 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていと言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題について、レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

4 月 21 日に学習支援システム上に春学期の指針を知らせる（最初の授業から課題有り）。

基本的には毎回、学習支援システム上にアップされた教材を見てもらい、それに関する課題についてレポートを提出してもらうが、適宜動画配信についても行う予定である。

レポートについては課題の難易度に応じて、その都度提出期限を設ける（当日、翌日、週末まで等）ので、それまでに提出する。期限までの提出が無かった者はその授業は欠席扱いとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 12 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト—地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版

http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487

泊 次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会

<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>

宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
大木聖子「地球の声を耳をすませて」くもん出版
http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうレポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全12回（予定）の授業のうち2/3以上の出席（レポートの提出）をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
コンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This lecture explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, explain the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

宍倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火曜3限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題についてグループワークを通して議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、またグループワークでは論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、適宜グループワークを行う。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業において出席の確認も兼ねて講義やグループワークの感想や質問を書いてもらい、授業終了時に提出してもらう。
補講として校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
第1回	津波1	前半でこの講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う 津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第2回	津波2	津波災害に関する課題について説明し、グループワークを行う。
第3回	津波3およびグループワーク	グループごとに議論した内容を発表する。
第4回	グループワーク発表会	地殻変動の観測方法や地震に伴う緩急様々な様式の地殻変動の調査研究例を紹介する。
第5回	地殻変動	活断層の評価と防災施策について説明する。
第6回	活断層	10万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第7回	気候変動1	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考え、グループワークを行う。
第8回	気候変動2およびグループワーク	グループごとに議論した内容を発表する。
第9回	グループワーク発表会	地球表層で生じる外的作用としておもに山や河川の侵食について説明。
第10回	侵食と堆積1	河川から運ばれた土砂が堆積して形成される平野や海岸の侵食・堆積について説明。
第11回	侵食と堆積2	土砂災害をテーマにしたディスカッションを行う。
第12回	土砂災害およびグループワーク	グループごとに議論した内容を発表する。
第13回	グループワーク発表会	地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。
第14回	防災教育と地球科学	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で使ったスライドは本講義のwebにアップするので授業でよく理解できなかった点などを復習をする。
津波、地殻変動、気候変動、土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめ、グループワーク等で役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>

穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

- 1・期末にレポートの提出を求める（40 %）。
 - 2・毎回提出してもらう授業の感想の内容（50%）。
 - 3・グループワークを取り組む姿勢（10 %）。
- なお、講義回数の 3 分の 2 以上の出席者のみ評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】

Phenomena occurring in the aerosphere, hydrosphere and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. This lecture explains the mechanism of such phenomena and also discuss associated disasters and its issues through the group work.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅰ

山口 隆子

授業コード：A3422 | 曜日・時限：火曜 1 限

春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、 気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。バレー出版, pp1 - 261.

仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第 4 版』。古今書院, pp1 - 144.

小倉義光（2016）：『一般気象学 第 2 版補訂版』。東京大学出版会, pp1 - 320.

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（Ⅰ）」を受講希望する学生は、本講義を 2 年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め 1 年生に開講されている「地学実験」（気候・気象）を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は 64 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口 隆子

授業コード：A3423 | 曜日・時限：火曜1限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】

気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

簡単な実験や実習、小テストなどを適宜交えて講義を進行させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	大気大循環	大気大循環とは何か
第2回	世界の気圧分布と地上風系	大気大循環、偏西風
第3回	モンスーン	季節風
第4回	世界の海流	風成循環と熱塩循環
第5回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第6回	世界の降水量分布	世界の水収支
第7回	世界の気候区分	ケッペンの気候区分
第8回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第9回	地球温暖化	地球温暖化の現状と今後
第10回	酸性雨	大気汚染
第11回	砂漠化	砂漠化の実態
第12回	気候変動	第四紀の気候変化
第13回	古気候	歴史時代以降の気候変化
第14回	まとめ	秋学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』。ベレ出版、pp1－261。
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学 第4版』。古今書院、pp1－144。
小倉義光（2016）：『一般気象学 第2版補訂版』。東京大学出版会、pp1－320。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験：70％ 課題：30％

【学生の意見等からの気づき】

講義資料は講義後1週間、授業支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を授業支援システムで配布するため、PCもしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】

「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を2年次で履修することが望ましい。本科目「Ⅰ」を履修していることが望ましい。なお、実験等があるため履修上限人数は64名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO400BF

自然地理学演習（1）

山口 隆子

授業コード：A3434 | 曜日・時限：火曜4限
年間・4単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。3年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。4年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】

本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあつて、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにある。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

3年生を中心に運営していく予定である。4年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取組んでいくとともに、3年生にアドバイスをすることを通して、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととする。具体的な運営方法は、第1回目のゼミで話し合う予定である。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	1年間のゼミ運営について説明・決定
第2回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第3回	卒論構想発表	4年生の卒論構想発表
第4回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第5回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第6回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第7回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第8回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第9回	学生論文紹介	3年生3名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第10回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第11回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第12回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第13回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①
第14回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表①

秋学期

回	テーマ	内容
第15回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第16回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第17回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第18回	卒論中間発表	4年生の卒論中間発表②
第19回	グループ発表	グループごとに中間発表
第20回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第21回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第22回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第23回	卒論構想発表	3年生の卒論構想発表
第24回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第25回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第26回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第27回	卒論最終発表	4年生の卒論発表
第28回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、2週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3もしくはA4 1枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』。古今書院, 120 p.

【成績評価の方法と基準】

ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」(30 %)、「討論への参加と応答」(30 %)、「発表内容」(40 %)などを重視する。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、プロジェクター

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline and objectives】

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

GEO300BF

自然地理学特講（3）

山口 隆子

授業コード：A3453 | 曜日・時限：火曜2限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候学・生気象学を研究していくうえで必要となる環境気候学を学ぶ。

【到達目標】

環境と気候のとらえかたを学び、気候学に関する研究テーマを設定できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、担当範囲についてレジュメの作成・発表を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講生との講義内容に関する意見交換
第2回	明治時代の気候と気象災害	明治時代の気候や気象災害の様子を、過去のデータから読み解く。
第3回	地球温暖化の実態とメカニズム	地球温暖化の実態とは
第4回	ヒートアイランドの性質	ヒートアイランドの実態とは
第5回	都市気候をめぐる話題	都市気候とは
第6回	気候変動の信頼性に関する問題	観測データの均質性、統計的な方法
第7回	夏の局地風と広域ヒートアイランド	海陸風と広域ヒートアイランド
第8回	猛暑の実態とその長期変化	猛暑とフェーン現象
第9回	気候変動と降水の変化	日本の大雨の特徴と降水の変化の実態
第10回	都市が降水に与える影響	都市と降水の関係
第11回	観測準備	都市気候に関する観測の準備
第12回	観測	観測実施
第13回	解析	観測データの解析
第14回	まとめ	都市気候の仕組みと実態に関するまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメ作成に際し、担当範囲の参考文献はすべて読み、まとめることも含む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤部文昭（2012）：『都市の気候変動と異常気象』。朝倉書店,161p.

【参考書】

講義内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】

Learn the environmental climatology that is necessary for studying climatology and biometeorology.

GEO300BF

測量学及び測量実習 I

川本 利一

授業コード：A3461 | 曜日・時限：月曜3限
 秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

【到達目標】

測量に関する基礎的知識を習得する。測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる。距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

測量法及び測量の資格と社会との関係、測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義、測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習、測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う。教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ。測量結果に基づき計算を行い、最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	測量とは	測量の概要と歴史について講義する
第2回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格について講義する
第3回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ、形と測量の原理について講義する
第4回	誤差論1	誤差の種類と対処方法について講義する
第5回	誤差論2	誤差に関わる計算方法と計算実習
第6回	各種測量とその原理	角測量、距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量、簡易測量の原理と方法について講義する
第7回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器について講義する
第8回	水準測量実習1	レベルの使用方法
第9回	水準測量実習2	観測方法の習得
第10回	水準測量実習3	水準測量の観測実習（往）
第11回	水準測量実習4	水準測量の観測実習（復）
第12回	水準測量のデータ処理1	観測データの整理方法について講義する
第13回	水準測量のデータ処理2	実習で行った観測データの整理
第14回	まとめ	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。

授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂新版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするといよい。
 中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量 第2版』日本加除出版
 斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)、実習態度 (30%) を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習 I を履修する場合は、測量学及び測量実習 II も同時に履修すること。測量学及び測量実習 I だけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、実習内容について判りやすい説明を行う。

【その他の重要事項】

関数電卓を必ず持参すること。

国土地理院職員として測地測量に従事した者が、高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する。

【Outline and objectives】

The most fundamental information regarding space is information regarding position. Surveying is the method used to get this information regarding position. In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying. In particular, leveling, which is one of the pillars in the basic handling of surveying data and in surveying will be the focus of this lesson's study and practice.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅱ

川本 利一

授業コード：A3462 | 曜日・時限：月曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き、測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い、測量に関する基礎的技術の習得を目指す。特に、トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量であるGNSS測量を中心に講義・実習する。

【到達目標】

基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる。GNSS測量の原理、方法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基準点測量の方法について学び、実習を行う。実習で得られたデータに基づいて誤差処理、計算を行う。また、GNSS測量などについても簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる測量の方法について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第3回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第4回	基準点測量の観測1	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第5回	基準点測量の観測2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第6回	基準点測量の実習1	トータルステーションを用いた観測点1の観測を実習する
第7回	基準点測量の実習2	トータルステーションを用いた観測点2の観測を実習する
第8回	基準点測量の実習3	トータルステーションを用いた観測点3の観測を実習する
第9回	基準点測量データの処理1	観測データ整理を行う
第10回	基準点測量データの処理2	距離補正計算を行う
第11回	基準点測量データの処理3	標高計算を行う
第12回	基準点測量データの処理4	座標計算を行う
第13回	GNSS測量1	GNSS測量の原理及び測量について講義する
第14回	GNSS測量2	ハンディーGPSを用いてGPS単独測位を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題の宿題は、次の授業時までには必ず提出すること。
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までには終わらせておくこと。また、授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までには各自終わらせておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂新版 基礎測量学』電気書院

【参考書】

書店では測量学に関するさまざまなテキスト、図解テキストが売られている。自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい。
斉藤博ほか著『新版 教程 基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程 TS-GPSによる基準点測量 三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】

平常点(20%)、授業中に行う計算・測量の成果(最終課題)(50%)、実習態度(30%)を総合して評価する。提出物の欠如者には単位は与えられない。

なお、測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は、測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること。測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない。また、受講を希望する者は第1回授業から出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

講義・実習は基礎的なものに重点を置き、測量の基礎について修得を目指す。また、実習内容について判りやすく説明を行う。

【その他の重要事項】

関数電卓および直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。国土地理院職員として測地測量に従事した者が、水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する。

【Outline and objectives】

In succession of [surveying and survey training I], study along with training will be held for one more of the pillars in surveying, the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying.

GEO100BF

地学実験 (2) (コンピュータ活用含む)

加藤 美雄

授業コード：A3511 | 曜日・時限：月曜5限
春学期・1単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。

- ①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。
- ②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。
- ③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月27日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。また、高気圧、低気圧、前線などについて把握する。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計の使用法、及び読み練習とともに、器差補正のデータを集める。
第5回	外濠での気温・相対湿度の小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の定点観測と移動観測を実施する。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計の使用法を把握するとともに、実際に使用して風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから様々な風配図を作成し、検討する。
第11回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。また、作成した図の考察を行う。
第12回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島における数枚の気候学図を作成する。更に、図を比較して検討する。
第13回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を実施し、図の読み取りも行なう。また、移動平均を解説し、作図を行うとともに、図について考察する。
第14回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法（自然編）、東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著、法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象や気象災害に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆（12色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30cm程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用する。その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は2人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline and objectives】

Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

GEO100BF

地学実験 (2) (コンピュータ活用含む)

加藤 美雄

授業コード：A3512 | 曜日・時限：月曜5限
秋学期・1単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】

次の3つを到達目標とする。

- ①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。
- ②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。
- ③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内容の1例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。

気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、1～3回の授業時間にかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第2回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。また、高気圧、低気圧、前線などについて把握する。
第3回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第4回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計の使用法、及び読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第5回	外濠での気温・相対湿度の小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の定点観測と移動観測を実施する。
第6回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第7回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計の使用法を把握するとともに、実際に使用して風の測定方法を学習する。
第8回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第9回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第10回	風配図の作成	アメダスの風のデータから様々な風配図を作成し、検討する。
第11回	アイソプレスの作成	2次元上での3変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。また、作成した図の考察を行う。
第12回	気候学図の作成	降水量の平均値から日本列島における数枚の気候学図を作成する。更に、図を比較して検討する。
第13回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を実施し、図の読み取りも行なう。また、移動平均を解説し、作図を行うとともに、図について考察する。

第14回 レーダー観測と気象衛星 レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編 気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習しておくことで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

地理調査法（自然編）. 東郷正美・佐藤典人・井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】

実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。

評価の配分は、各実習課題の報告物が70%、平常点が30%とする。

【学生の意見等からの気づき】

気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象や気象災害に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】

実験・実習には、色鉛筆（12色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30cm程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】

実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので十分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用する。その際には持参・提出を忘れないこと。

観測や作業は2人1組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので十分に注意すること。

なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline and objectives】

Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.

The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

EDU200BF

理科教育法（1）

狩野 真規

授業コード：A3527 | 曜日・時限：水曜5限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】

教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。学習支援システムに課題を提示して、講義前にそれを提出してもらおう。また、講義資料はシステムにて配布し、必要に応じてシステム上の掲示板に意見などを書き込んでもらう。なお、本講義の開始日は4/22とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第1回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第2回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第3回	学習指導要領について・その1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第4回	学習指導要領について・その2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第5回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第6回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探索する。
第7回	中学理科の科目研究・その1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第8回	中学理科の科目研究・その2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探索する。
第9回	中学理科の科目研究・その3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。
第10回	中学理科の科目研究・その4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第11回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備（第1回）	学習指導案の作成について確認していく。
第12回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備（第2回）	学習指導案を作成し、その内容を確認していく。
第13回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備（第3回）	学習指導案の修正を通じて、指導実践に必要な要素を確認していく。
第14回	実際の授業で活用できるもの	授業で活用できそうな教材を探っていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究することである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。

また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているが、昨今の状況では難しいのでそれに代わるものを検討してみたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義は授業支援システムを通じて行うことを基本とするので、本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけでなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble science classes in the junior high school and high school.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

EDU200BF

理科教育法（2）

狩野 真規

授業コード：A3528 | 曜日・時限：水曜5限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。

また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけでなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT教材の確かな利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第2回	発展的学習内容について	高校理科における発展的学習内容に対する実践的指導とそのあり方について考察する。
第3回	視聴覚及びICT教材の活用	視聴覚・ICT教材の効果的活用法について理解し、理科の授業設計に活かせる考え方を身に付ける。
第4回	高校理科の学習評価	高校理科における定期テストやレポートなどを通じた学習評価について、その方法や考え方を理解する。
第5回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について基本的な事項の検討をする。
第6回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第7回	高校理科の科目研究・その1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第8回	高校理科の科目研究・その2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第9回	高校理科の科目研究・その3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第10回	高校理科の科目研究・その4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第11回	授業実践・高校理科の模擬授業（第1回）	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第12回	授業実践・高校理科の模擬授業（第2回）	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第13回	授業実践・高校理科の模擬授業（第3回）	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第14回	授業実践・高校理科の模擬授業（第4回）	ICT機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答（15%）、模擬授業のために作成した学習指導案（25%）、模擬授業の内容（25%）、授業内討論での発言等（20%）を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価（15%）も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。

また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble science classes in the junior high school and high school.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

EDU200BF

理科教育法（3）

狩野 真規

授業コード：A3530 | 曜日・時限：月曜 4 限
春学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、実際の教科書を使った教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習だけではなく実際に教壇に立った時に役立つようなより実践的な内容も行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。
第 2 回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 5 回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第 6 回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第 7 回	中学理科の発展的学習・その 1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 8 回	中学理科の発展的学習・その 2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 9 回	中学理科の発展的学習・その 3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 10 回	中学理科の発展的学習・その 4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 11 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 1 回）	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 12 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 2 回）	生徒の実態（認識力・思考力・学力など）に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 13 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 3 回）	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第 14 回	授業実践・中学理科の模擬授業（第 4 回）	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble science classes in the junior high school and high school.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
 2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
 3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
 4. Apply theories or findings to real world situations.
- Make it more developed content than (1) or (2).

EDU200BF

理科教育法（４）

狩野 真規

授業コード：A3531 | 曜日・時限：月曜４限
秋学期・２単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】

中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、実際の教科書を使った教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習だけではなく実際に教壇に立った時に役立つようなより実践的な内容も行いたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第 2 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ICT 教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第 3 回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第 4 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第 5 回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第 6 回	SSH について	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール (SSH) について、その取り組みから実態を探索する。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対処法を考える。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けて時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省 最新版）

【参考書】

中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省 最新版）その他については講義内に適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to assemble science classes in the junior high school and high school.

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
 2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
 3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
 4. Apply theories or findings to real world situations.
- Make it more developed content than (1) or (2).

PSY200BG

言語心理学

福田 由紀

授業コード：A3667 | 曜日・時限：木曜3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【皆様、本年度のシラバスには、変更があります。学習支援システムで仮登録をしてください。その後、「教材」にある「言心_オリエンテーション_2020_5月末」を読んでください。登録するかどうかの判断資料になるでしょう。受講希望者は、そのまま資料に書いてあるとおりに学習活動を行ってください。一方、希望しない人は、学習支援システムから本授業への「参加解除」手続きを行ってください。以上です。】

ヒトが文章を読む時に、どのようなことが頭の中で起きているか、言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また、実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②①について他者に説明ができる。
- ③言葉の働きについて、心理学的な見方でできる。
- ④聞きながらメモをとることができる。
- ⑤階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業は4月23日から始まります！授業の概要と目的に追加した情報を読んでください】

基本は講義形式です。授業中、教科書を使いますので毎回持参してください。適宜、様々な問題について作業をし、その内容を体験したり、グループで討論したりしてもらいます。また、授業のまとめをチャトルシートに記述し、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方、心的表象の特徴と種類
第2回	言語力の発達	語彙の発達、読み書きの発達の概観
第3回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第4回	単語認知に影響する要因	心的辞書、認知に影響する要因、材料を統制するとは？
第5回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第6回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文、作業記憶量
第7回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか、読み手の推論の力
第8回	文章理解に影響する要因1：既有知識	物語文法、物語スキーマ
第9回	文章理解に影響する要因2：既有知識	スクリプト、視点
第10回	文章の理解モデル	状況モデル
第11回	状況モデルの新たな展開1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第12回	状況モデルの新たな展開2：対象の広がり	メタ認知、自己概念、感情
第13回	状況モデルの新たな展開3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第14回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。

- 第1回 モーラの概念を使えるようにする。
- 第2回 コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え、書く。
- 第3回 類似語を選定する。

- 第4回 規則語と例外語の例を書く。
 - 第5回 ガーデンパス文を修正する。
 - 第6回 Sacksの実験材料を読み、質問に答える。
 - 第7回 桃太郎の物語の要約を書く。
 - 第8回 行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。
 - 第9回 Morrow et al.の実験材料である地図を記憶する。
 - 第10回 文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。
 - 第11回 小説を読んだときの体験を書く。
 - 第12回 大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
 - 第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編 培風館 2012年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、平常点10%と期末テスト90%により決定されます。平常点には、授業後に提出してもらふチャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末テストでは、選択問題を予定しています。選択式問題の内容は知識の確認と応用問題です。

【学生の意見等からの気づき】

言語心理学の2019年度の授業では、約7割が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述をみると、チャトルシートの記入が授業のメリハリになっている、自分でまとめられるので良かった等、好評でした。今後も続けていきますね。

【その他の重要事項】

この授業は、初回から実質的な内容に入ります。また、授業計画に変更がある場合には第1回の授業中にお知らせをする予定です。そのため、受講希望者は、必ず初回の授業を受けて下さい。

また、授業の基本は講義形式ですが、授業中に作業等してもらいます。積極的な取り組みを期待します。質問やコメントも大歓迎です。

文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から、本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn various activities of language in terms of psychological perspective. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language.

PSY200BG

行動分析学特講

島宗 理

授業コード：A3669 | 曜日・時限：金曜3限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行動分析学は「人はなぜどのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード A3670）の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に活用できるようにマスターすることを目的とします。

また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】

以下の2つを目標とします。

- (1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
- (2) 日常生活における行動問題に対し、ABC 分析や AB 分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
- (3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

発達臨床（自閉症や ADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。

毎回、「じぶん実験」に関する演習を行います。そして学期末には「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容与方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。
第 3 回	発達臨床 II	・じぶん実験の標的行動を決定します。 ・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第 4 回	「理解」の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係性理論。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。 ・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。
第 7 回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。

第 9 回 広告と消費者行動 II

・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。

第 10 回 “記憶” の行動分析学

・じぶん実験で介入計画を実施します。
・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。
・じぶん実験で介入の効果を実証化し、検証します。

第 11 回 行動的コーチング I

・行動的コーチングの演習を行います。
・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。

第 12 回 行動的コーチング II

・行動的コーチングの演習を行います。
・じぶん実験の結果から制御変数について考察します。

第 13 回 “動機づけ” の行動分析学

・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。
・じぶん実験の結果を発表します。
・じぶん実験のレポートを作成し、提出します。

第 14 回 プレゼンテーションとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、「じぶん実験」に関する課題を出します。教科書を読みながら課題に取り組んで下さい。最終的に「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房

【参考書】

- 『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
- 『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
- 『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館
- 『ワードマップ：応用行動分析学』（島宗、2019）

他にも、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

○毎回授業内で提出してもらった演習のワークシートもしくはクイズを採点し得点化します。配分はじぶん実験に関する課題が最終レポートを含めて 50%、その他の授業内課題が 50%です。但し、最終レポートを提出しないと成績はつきませんので注意して下さい。

○授業を欠席したときには授業内課題を補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内の課題得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

(2019 年度の授業改善アンケートより)

高い評価をいただきました。昨年度の気づきを読み直すと「じぶん実験を主とし、授業内容を大幅に刷新したのですが、欲張りすぎたかもしれません」と書いてあります。今年度は講義の分量を減らしたのですが、それでも、じぶん実験以外に、発達障がい、記憶、理解、言語行動、スポーツなどを扱い、さらに論文読解まで課題にしまいました。欲張りすぎてオーバーワークだったかもしれません。けん玉課題に 3 回かかってしまった原因なども調べつつ、来年度は課題一つひとつの習得度を上げるために内容を精選しようと思います。

【その他の重要事項】

- 本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
- 本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
- オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

PSY200BG

行動分析学

島宗 理

授業コード：A3670 | 曜日・時限：金曜3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

【到達目標】

- 基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC分析、AB分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
- 標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
- 日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。授業は4/24からですが、すでに補習教材を用意してありますので、各自、取り組んで下さい。

学習支援システムがつかないようなので、直接、下記の授業ノートへアクセスしてください。

<https://docs.google.com/document/d/1TFic66VEm0NeMZqonk4I7kNf1okA98cwikBwRjcwu0Q/edit?usp=sharing>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。
第2回	「問題」とは？ 心と行動の区別	解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。個人攻撃の罠について学びます。
第3回	好子と嫌子	生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。
第4回	強化と弱化	基本的な行動随伴性について学びます。
第5回	課題分析	標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。
第6回	シェイピング	新しい行動レパートリーを教えるシェイピングの技法を学びます。
第7回	ABC分析#1	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第8回	ABC分析#2	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC分析の手法を学びます。
第9回	AB分析#1	オペラントとレスポナントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第10回	AB分析#2	情動の条件付けや知覚学習について学びます。
第11回	ABC分析#3	ABC分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。
第12回	観察法	インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第13回	行動分析学の実験計画法	シングルケース研究法（反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法）について学びます。
第14回	まとめ	授業で学んだ行動分析学の考え方をを使って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。レポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、webクイズに取り組んで予習してきます。
最終回までに、行動分析学を用いて、社会的な問題を解決する具体的な方法について考え、まとめるレポートを作成します。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『パフォーマンス・マネジメントー問題解決のための行動分析学』島宗理（著）2000年 米田出版

【参考書】

- 『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗理（著）2014年 ちくま書房
- 『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗理（著）2010年 光文社新書
- 『行動分析学入門』杉山ら 1998年 産業図書
- 『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】

- クイズ50%、授業内演習課題50%として成績を評価します。
- 授業を欠席したときには授業内課題を補完するレポートを書いて提出してください。10点満点で採点します。学期内6回まではこのレポートの得点で授業内の課題得点を補完できるものとします。授業内クイズの得点は該当するweb学習プログラムに取り組み、満点をとっていれば10点を補填します。どちらも期限は欠席した次の授業時間の開始時刻です。

【学生の意見等からの気づき】

（2019年度の授業改善アンケートより）

64人中40人が回答してくれました（63%）。そのうち37人が「この授業を履修してよかった」と回答してくれました（93%）。

成績評価の方法については意見を書いてくれた人（ほぼ全員）が例外なく「絶対評価」を支持していました。理由も明確で納得のいくものでした（そうだね）。大学からクレームが来たら、学生の声として、みなさまの意見を伝えます。ありがとう。

シングルケースデザイン法の演習ネタとしては、時間計測、震源地ゲーム、効き茶、なんじゃもんじゃなどを提案していただけました。複雑でよく考えてみないとわからないものもありますが、参考にして、来年度いずれかを採用しようと思います。こちらもありがとう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスやレポートの作成などにPCを多用します。

【その他の重要事項】

- 本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
- オフィスアワーは春学期は金曜日の4限、秋学期は火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎6F9号室）です。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

PSY200BG

犯罪心理学

越智 啓太

授業コード：A3691 | 曜日・時限：火曜3限
春学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

<授業概要>

犯罪者の行動を科学的に分析する

犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBIの捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。

<授業目標>

犯罪者行動に関する最先端の研究を理解する。

【到達目標】

- (1) 犯罪についての科学研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
- (2) 各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
- (3) 各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

<授業方法>

授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第2回	連続殺人（1）	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第3回	連続殺人（2）	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第4回	連続殺人（3）	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第5回	大量殺人（1）	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第6回	大量殺人（2）	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第7回	テロリズム（1）	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第8回	テロリズム（2）	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第9回	テロリズム（3）	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第10回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第11回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第12回	子どもに対する性犯罪（3）	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第13回	非行（1）	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割
第14回	非行（2）	非行の原因に関する諸理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ配布する授業キーワード集をもとに毎回取り上げる、テーマのキーワードについて説明できるようにしておく。また、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておくこと。適宜そのまとめを小レポートとして提出させる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

越智啓太 ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房

【参考書】

越智啓太 犯罪心理学 朝倉書店

越智啓太 プログレス&アプリケーション 犯罪心理学 サイエンス社

越智啓太ほか（編著）法と心理学の事典 朝倉書店

越智啓太 ワードマップ 犯罪捜査の心理学 新曜社

越智啓太 桐生正幸（編著）テキストブック司法犯罪心理学 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（100%）が基本だが、毎回提出させるコメントシートの内容によって得点を加算する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、本年は新しい事例をくわえ、さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

- (1) 本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるため、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
- (2) 授業のパワーポイントを撮影することを禁止する。重要なことはテキストに書いてありますし、不足の部分があれば資料を配付します。
- (3) 例年、5%～10%がD評価になります。他の教員に比べてA,A+はつきにくいので楽勝科目ではありません。
- (4) 講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどと関連付けながら講義を行う。

【Outline and objectives】

Learn about scientific analysis and profiling of criminal behavior

PSY200BG

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：金曜4限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことを授業の最初にクイズで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第2回	小売業その1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第3回	小売業その2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第4回	テーマパークその1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDRにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤリティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計量的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析
第5回	テーマパークその2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDRにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティ

第6回 業績評価指標（KPI）とそのマネジメント

第7回 企業におけるメンタルヘルス

第8回 働きがいのある会社

第9回 特別講義（内容は未定です）

第10回 広告とブランドづくりその1

第11回 広告とブランドづくりその2

第12回 産業組織心理学は役に立つのか？

第13回 グローバリゼーションとローカリゼーション

第14回 まとめと振り返り

様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介しします。これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率などなど）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。

いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進

企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール

マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略

産業組織心理学の歴史や現状について解説します。日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
○島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

○授業内クイズ 100%で成績を評価します。
○授業を欠席したときには授業内クイズを補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内クイズの得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

(2019 年度の授業改善アンケートより)
高い評価をいただきました。特別講義については特別講師招聘希望と通常授業希望の比がおおよそ 1:2 でした。通常授業を希望する人も特別講義の分野については希望を書いてくれた人が多く、順不同ですが、以下のような業種や人物が挙げられていました：コンサルティング、広告、塾などの教育関係、人事、公務員、アパレル、イーロン・マスク、旅行や航空。最後の3つ以外は招聘したことがある領域です。アパレルや航空などのコンサルティング事例を追加するという手もありそうです。検討します。

スライドの数が多く、スライドの進行速度が早すぎるという感想を何人かからいただきました。スライドは授業ノートで公開していますから、事前に読むこともできますし、授業で見逃したところは後で復習することもできるようになっています。適切な進行速度には個人差があるので、どうしても「早すぎる」、「遅すぎる」という感想をいただく人がでてくるものです。ついていくのが大変だと思う場合は「予習する」ことで、見逃した場合には「復習する」ことで対応してもらえればと思います。

【その他の重要事項】

○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

PSY200BG

心理学特殊講義 I

島宗 理

授業コード：A3722 | 曜日・時限：月曜3限
秋学期・2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる、刺激提示や行動測定、データの視覚的分析の方法を学びます。プログラミング言語としては Python（パイソン）を用います。プログラミングの基本を学ぶと共に、こうしたプロジェクトをチームで円滑に進めるための技術も習得します。

【到達目標】

Python を使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。

- ①画像や文字、音声などの刺激をディスプレイに提示する。
- ②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
- ③その他の外部入力装置を用い、より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画、音声データを測定して数値化するなど）。
- ④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。

さらに、プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や、困ったときに他の人に相談したり、困っている人に助言したりするスキルなど、研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要な知識や技術の習得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週プログラミングの課題を用意しますので、授業時間内外に関わらず、各自で自主的に取り組んでください。授業内ではチーム内で課題の進捗を報告し、情報を共有したり、プログラミングについて相談したり、協力して問題解決していくことに時間をかけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Python の基本と開発環境	○課題と課題の進め方、提出方法、評価について説明します。 ○ Python と PyCharm をインストールし、開発環境をセットアップします。
第 2 回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第 3 回	刺激制御	○ Kivy をインストールし、ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第 4 回	刺激制御	○ Kivy を使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示するプログラムを作成します。
第 5 回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第 6 回	刺激制御	○音源データを提示し、キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第 7 回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第 8 回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第 9 回	データの視覚化	○ Matplotlib をインストールし、データからグラフを作成するプログラムを作成します。
第 10 回	プログラム開発 (1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し、開発計画を立案します。
第 11 回	プログラム開発 (2)	○自作プログラムを開発します。
第 12 回	プログラム開発 (3)	○自作プログラムを開発します。
第 13 回	プログラム開発 (4)	○自作プログラムを開発します。
第 14 回	プログラム開発 (5)	○自作プログラムを公表し、評価し合います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○全 14 回ぶんの課題をできるだけ早く提供します（期限の 2-3 週間前には提供できるように準備します）。受講生は授業時間外に自主的に課題に取り組んでください。

○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。ただし、プログラミングには、予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまって時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

何冊か例示しますが、図書館や書店に足を運んで、自分でページをめくり、読みやすそうなもの、必要な情報の例が多い本を選びましょう。

○プログラミング演習 Python 2019 喜多一（2020）<https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698> からダウンロードできます（無料）。

○東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Python で手を動かして学ぶデータ分析~ 塚本ら マイナビ出版（2019）

○エキスパート Python プログラミング 改訂 2 版 Jaworski ら ドワンゴ（2018）

○入門 Python 3（日本語）Lubanovic オライリー・ジャパン（2015）

○独学プログラマー ~Python 言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経 BP（2018）

○Python 実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~ 陶山 技術評論社（2020）

【成績評価の方法と基準】

○課題得点を 70%、授業内活動への参加を 30%で評価します。

○授業を欠席した場合には課題を期限までに提出してください。欠席しても課題得点は 6 回ぶんまでは補填できるものとします。ただし、授業内活動の得点は補填できません。

【学生の意見等からの気づき】

（2020 年度から開講する授業なので気づきはまだありません）

【学生が準備すべき機器他】

○毎回、ノート PC を持参してください。

○大学のノート PC には管理者権限がなく、自分でソフトなどをインストールできないので、自分の PC を使うことをお勧めしますが、持っていないかたたりしてマイ PC を持参することが難しい場合には相談してください。

【その他の重要事項】

○本授業では民間のソフトウェア開発会社でプログラマー・SE として勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。

○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.” Another goal of this course is to obtain skill sets that facilitates collaboration when working on a team project involving computer programming.

PSY200BG

言語心理学特講

福田 由紀

授業コード：A3723 | 曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、私たちが日々直面している言語的コミュニケーションの問題を心理学的なアプローチから解決することです。その方策をグループ活動（実習）を通して考えて、自分の言語力をあげていきましょう。この授業では、言語力とは、1つの能力だけでなく、話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】

- ①言葉を読むときに何が起きているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
- ②言語心理学的知識を基礎にして、日常への応用への提言ができる。
- ③自分の言語力を省察し、開発することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は講義形式です。授業中、教科書を使いますので毎回持参してください。様々な問題について 10 回の実習を行います。そこでは、グループで討論をし、発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、言語力とは	授業の進め方の確認、言語力とは？
第 2 回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第 3 回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第 4 回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し、より良い合意形成を目指す
第 5 回	伝わる文章 1：言葉の特性、実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第 6 回	伝わる文章 2：実習④悪文から学ぶ	校正を通して、分かりやすい文章を作成する
第 7 回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して、わかりやすく説明をする
第 8 回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解、イメージ能力、心情理解、感情推論
第 9 回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	PISA の読解力、米国の実践例、地球運動の実験
第 10 回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語の RST	第二言語の難しさ
第 11 回	発達性読み書き障がいとは 1	ビデオの視聴
第 12 回	発達性読み書き障がいとは 2：実習⑨支援をグループディスカッションから考える	どのような支援ができるか、洗練された討論を通じて合意形成を目指す
第 13 回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方、支援の考え方
第 14 回	期末テストとその解説、まとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

* 次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に授業支援システムから提出して下さい。

- 第 1 回 言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り、書いてください。
- 第 2 回 集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がいいと思いますか？
- 第 3 回 合意形成の極意は何だと思いますか？ 1 番重要だと思う事から順に 3 つ挙げてください。
- 第 4 回 言葉にまつわることで、何か誤解したことや、笑い話しはありますか？
- 第 5 回 『彼女（あなたの友人）は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。
- 第 6 回 スキーマの定義を書いてください

第7回 次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？

第8回 文章の挿絵は理解を促進しますか？

第9回 あなたはどのくらい英語が得意ですか？

第10回 発達性読み書き障がい字・者の日常生活上の困難を予想する。

第11回 WAIS-R の数唱は何を調べているか？

第12回 模擬期末テストを作成する。

第13回 期末テストの準備を行い、自己評価する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「言語心理学入門－言語力を育てる－」 福田由紀編 培風館 2012 年

【参考書】

適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%と期末試験 80%により決定されます。平常点には、授業後に提出してもらったチャトルシートへの記入と宿題の事前提出を含みます。期末試験では、選択問題（含む応用問題）を予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度の気づきです。この授業の特徴は、「実習」と「心理学的事象の解説」がセットになっている点です。心理学が日常にどう役立てるのか、「言語力を伸ばそう！」という目的を掲げてやっています。よって、心理学の基礎知識があることが前提ですが、今年度から他学科に開きました。そのため、理解度が気になっていましたが、すべての人が 5 件法で 3 以上を選択してくれていて、安心しました。

また、コメント見ると、グループワークが良い刺激になった、就活の予行練習ができたなど好評でした。一方、授業のワークに使う宿題の点数を上げることにより、忘れる人が少なくなるのでは？という貴重なご意見もいただきました。それを踏まえて、2020 年度の評価基準を見直しました。ありがとうございました。

【その他の重要事項】

この授業は、初回から実質的な内容に入ります。また、授業計画に変更がある場合には第 1 回の授業中にお知らせをする予定です。そのため、受講希望者は、必ず初回の授業を受けて下さい。

また、文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた知見に基づき、受講生の言語力をあげるためのグループワークを行います。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn various psychological approaches trying to solve the problems in our communication. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language by participating in group activities.

ECN100FA

ファイナンス入門

ECN100FA

ファイナンス入門**山崎 輝**

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念、債券と株式の初歩的な分析手法について学びます。さらには、デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は2年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

次の5つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- ⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年度は動画配信によるオンデマンド授業を実施します。履修を希望する方は4月20日までに授業支援システムで仮登録をしてください。授業動画の視聴方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第3回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第4回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第5回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第6回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第7回	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語
第8回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第9回	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因
第10回	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法
第11回	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語
第12回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第13回	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターン
第14回	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う筆記試験（100 %）で評価します。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

ファナンス特有の概念や理論の解説は特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. It has four objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. (4) To introduce financial derivative transactions including forwards, futures, and options.

ECN100FA

ファイナンス入門

ECN100FA

ファイナンス入門**山 崎 輝**

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代のすべての社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の基礎知識は必須です。経営学部多くの卒業生が金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また個人でも、株式投資や年金運用のためにはファイナンスの知識や思考が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念、債券と株式の初歩的な分析手法について学びます。さらには、デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス関連科目の基礎になります。

【到達目標】

次の 5 つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- ⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本年度は動画配信によるオンデマンド授業を実施します。履修を希望する方は 4 月 20 日までに授業支援システムで仮登録をしてください。授業動画の視聴方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などの概説
第 3 回	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者および政府、中央銀行の役割
第 4 回	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値および複利と単利の概念
第 5 回	利子率、将来価値、現在価値（2）	現在価値の概念と複数のキャッシュフローがある場合の価値評価
第 6 回	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間と利子率の計算
第 7 回	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語
第 8 回	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスク
第 9 回	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因
第 10 回	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法
第 11 回	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語
第 12 回	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標
第 13 回	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターン
第 14 回	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

専門入門科目 100 番台 1 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う筆記試験（100 %）で評価します。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

ファナンス特有の概念や理論の解説は特にゆっくりと丁寧に説明します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I / II、デリバティブ入門 I / II、Excel で学ぶファイナンス理論 I / II

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to finance to students who start learning finance. It has four objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts of the future value and the present value of a cash flow. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. (4) To introduce financial derivative transactions including forwards, futures, and options.

ECN100FA

ファイナンス入門

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

岸本 直樹

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ファイナンスの入門的な内容を講義します。ほとんどの学生がこの授業で初めてファイナンスを学ぶことになると思いますが、現代の社会人にとって、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券投資の知識は必須です。たとえば、経営学部卒の卒業生の多くが金融機関や企業の財務部門で活躍していますが、ファイナンスの理論がそれらのビジネスの基礎になっています。また、個人としても、債券、株式、投資信託等への投資のほか、年金運用のための投資にファイナンスの知識が欠かせません。本講義では、金融取引や証券市場の仕組み、将来価値と現在価値の概念と計算方法、債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに、デリバティブ取引についても簡単に紹介します。これらの内容は 2 年次以降で学習するファイナンス科目の基礎になります。

【到達目標】

次の 5 つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②利子率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ③債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ④株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
- ⑤代表的なデリバティブ取引の仕組みを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。黒板に板書することがあるので、必要に応じてノートをとってください。また、授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓、あるいは、スマートフォン、タブレット、ノート PC の表計算ソフト）を持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。
2	金融・証券市場の概観（1）	債券市場、株式市場、短期金融市場などを概説する。
3	金融・証券市場の概観（2）	市場参加者のほか、政府、中央銀行の役割を概説する。
4	利子率、将来価値、現在価値（1）	将来価値、現在価値の計算ほか、複利と単利の違いを学習する。
5	利子率、将来価値、現在価値（2）	将来価値、現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
6	利子率、将来価値、現在価値（3）	様々な複利期間について将来価値および現在価値の計算を学習するほか、1 年当たりの利子率として表示されるものについて学習する。
7	債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。
8	債券入門（2）	最終利回りと債券投資のリスクを学習する。
9	債券分析の基礎（1）	金利の変動要因を学習する。
10	債券分析の基礎（2）	債券投資の方法を学習する。
11	株式入門（1）	株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
12	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
13	株式入門（3）	株式投資のリスクとリターンを学習する。
14	デリバティブの紹介	先物やオプションなどのデリバティブ取引を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末テストが 70%、授業で実施する小テストと授業態度が 30%。

【学生の意見等からの気づき】

本科目を担当するのは初めてなので、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓、あるいは、スマートフォン、タブレット、ノート PC の表計算ソフト）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。

【関連科目】

投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I / II、デリバティブ入門 I / II、Excel で学ぶファイナンス理論 I / II。

【Outline and objectives】

This course offers an introduction to finance. It has four objectives. (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To teach the concepts and the computation of the future value and the present value of cash flows. (3) To give students basic tools for analyzing bonds and stocks. (4) To give an introduction to financial derivatives, including forwards, futures, and options. These topics will provide the foundation for the finance courses offered at the Faculty of Business Administration.

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、実証編 7 回と理論編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします】この授業では、教員の専門性を活かし、実証編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）と理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実証編：日本のマクロ経済動向	日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。 ①マクロ経済のプレイヤー ②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察） ③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察） ④戦後日本経済の長期的概観
第 2 回	戦後日本経済のあゆみ（1）	第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。 ①戦後復興 ②高度成長 ③高度成長の終焉
第 3 回	戦後日本経済のあゆみ（2）	1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。 ①安定成長からバブル経済へ ②バブル崩壊と平成不況 ③世界金融危機の発生

第 4 回 日本の労働

皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。

- ①失業率と有効求人倍率
- ②労働時間と賃金
- ③就業形態と労働力率

第 5 回 日本の世界経済とのかかわり（1）

日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。

- ①日本の貿易の現状
- ②日本の貿易政策の転換

第 6 回 日本の世界経済とのかかわり（2）

モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。

- ①為替レートとは
- ②円ドル為替レートの軌跡
- ③国際通貨体制の変遷
- ④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響

第 7 回 地域経済統合とグローバル経済の変遷

近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。

- ①多様な国際通商システム（GATT-WTO, RTA）
- ②地域経済統合の形態
- ③ EU とユーロ
- ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰
- ⑤実証編のまとめ

第 8 回 理論編：経済学とは？

授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？経済学ではどのような考え方をするのか？経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？という疑問について、一緒に考えていきます。

- ①授業概要の紹介
- ②経済とは？経済学とは？
- ③経済学の考え方
- ④経済学を学ぶ意義

第 9 回 市場と需要・供給（1）

市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実を観察される現象について、グラフを描いて考察します。

- ①市場と競争
- ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト）
- ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）

第 10 回 市場と需要・供給（2）

需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。

- ①市場均衡（需要と供給を一緒に考える）
- ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）

第 11 回	市場と需要・供給 (3)	いくつかの例題を通して第 2, 3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？
第 12 回	市場の効率性	売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。 ①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？） ②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？） ③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？） ④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
第 13 回	市場の失敗 (1)	市場に任せておく問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取引しようとする場合について考えます。 ①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合） ②公共財（特殊な性格を持つ財を取引しようとする場合）
第 14 回	市場の失敗 (2)	市場に任せておく問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるマイクロ経済学の分析道具を紹介します。 ①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合） ②理論編のまとめ ③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

理論編では、以下のテキストを使用します。

マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社 2019 年

【参考書】

実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。

伊藤元重 『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年

伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年

安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年

【成績評価の方法と基準】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】

期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方にも高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします。】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（大木）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（高橋）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 2 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実を観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 3 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給と一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）

第 4 回 市場と需要・供給（3）

いくつかの例題を通して第 2、3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。

①税金が上がると市場均衡はどう変わる？

②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？

売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。

①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？）

②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？）

③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？）

④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取り扱うような場合について考えます。

①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合）
②公共財（特殊な性格を持つ財を取り扱うような場合）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかいない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。

①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合）

②理論編のまとめ
③ゲーム理論と情報の経済学の紹介
日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。

①マクロ経済のプレイヤー
②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察）

③マクロ経済を把握する方法 2（横断的考察）
④戦後日本経済の長期的概観

第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。

①戦後復興
②高度成長
③高度成長の終焉

1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。

①安定成長からバブル経済へ
②バブル崩壊と平成不況
③世界金融危機の発生

第 6 回 市場の失敗（1）

第 7 回 市場の失敗（2）

第 8 回 実証編：日本のマクロ経済動向

第 9 回 戦後日本経済のあゆみ（1）

第 10 回 戦後日本経済のあゆみ（2）

第 11 回	日本の労働	皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。 ①失業率と有効求人倍率 ②労働時間と賃金 ③就業形態と労働力率
第 12 回	日本の世界経済とのかかわり (1)	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 13 回	日本の世界経済とのかかわり (2)	モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
第 14 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム (GATT-WTO, RTA) ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてそれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社 2019 年
実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】
期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方も高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

経済学入門

宮澤 信二郎, 藤澤 利治

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学を学ぼうとするみなさんは、個々人や個々の企業の選択、そしてその土台となる経済の仕組みやその動きなどについて強い関心を持っていると思います。経済学を学ぶことで、それらの読み解き方を身につけることができます。この講義によって、その経済学の学びの最初の一步を踏み出すことができます。

14 回の講義は、理論編 7 回と実証編 7 回で構成されています。

理論編では、消費者行動や企業行動を論理的に考えるために必要なミクロ経済学の基礎を学びます。実証編では、日本経済と国際経済の実態やトレンド、そして経済のしくみについて、具体的な数字や事象の解説を通じて理解を深めます。

【到達目標】

市場、インセンティブ、競争、バブル、金融、為替など、身近な経済学の基本用語の定義を正しく理解した上で、経済の仕組みの基本を身につける。また、履修を通じて学んだ経済学の基本的な理論や経済の仕組みを現実のビジネスや消費者行動の分析に応用する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業では、教員の専門性を活かし、理論編 7 回を担当する教員 1 名（宮澤）と実証編 7 回を担当する教員 1 名（藤澤）とで協力して授業を進めます。また、オンライン教材などを活用して宿題を出題し、簡単な問題を自分の力で考えて解くトレーニングを積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期および秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理論編：経済学とは？	授業の概要を確認するとともに、経済学とはどのような学問か？ 経済学ではどのような考え方をするのか？ 経営学部生が経済学を学ぶ意義は何か？ という疑問について、一緒に考えていきます。 ①授業概要の紹介 ②経済とは？ 経済学とは？ ③経済学の考え方 ④経済学を学ぶ意義
第 2 回	市場と需要・供給（1）	市場経済を機能させている最も重要な要素である需要と供給について学びます。「猛暑がアイスクリームの需要を増加させる」「台風が農作物の供給を減少させる」など現実を観察される現象について、グラフを描いて考察します。 ①市場と競争 ②需要（需要の決まり方、需要曲線のシフト） ③供給（供給の決まり方、供給曲線のシフト）
第 3 回	市場と需要・供給（2）	需要と供給は 1 つ 1 つの財の生産量と販売価格を決定します。市場において、売り手と買い手がどのように行動し、影響し合うのかを考察します。 ①市場均衡（需要と供給と一緒に考える） ②需要と供給の弾力性（価格などの変化に対して、需要や供給はどのように変化するか？）
第 4 回	市場と需要・供給（3）	いくつかの例題を通して第 2, 3 回で学んだ内容を組み合わせて、より詳細に市場とその均衡の変化を分析します。 ①税金が上がると市場均衡はどう変わる？ ②猛暑でアイスが売れ、台風でさとうきびが取れなくなって砂糖の価格が上がったら、アイス市場の均衡はどう変わる？

専門入門科目 100 番台

1 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

第 5 回 市場の効率性

売り手と買い手が市場に参加することによって得られる便益（ベネフィット）について考え、どうすればそれらの便益をできるだけ大きくできるかについて考えます。そして市場が望ましい結果をもたらしてくれる理由を探ります。
①消費者余剰とは？（買い手はどれくらい満足しているの？）
②生産者余剰とは？（売り手はどれくらい満足しているの？）

第 6 回 市場の失敗（1）

③市場の効率性（売り手と買い手による交換の利益が一番大きいのはどこ？）
④課税の死荷重（課税によって失われるものがある？）（時間があれば）
市場に任せておくと問題が生じる場合として、取引当事者以外の満足に影響を及ぼすような場合と公共財と呼ばれる特殊な財を取りしようとする場合について考えます。
①外部性（取引当事者以外の満足に影響を及ぼす場合）
②公共財（特殊な性格を持つ財を取りしようとする場合）

第 7 回 市場の失敗（2）

市場に任せておくと問題が生じる場合として、売り手が一人または少数しかない状況について考えます。また、理論編のまとめを行います。さらに、より現実的な経済の現象を説明するために使われるミクロ経済学の分析道具を紹介します。
①独占と寡占（売り手が一人または少数の場合）
②理論編のまとめ
③ゲーム理論と情報の経済学の紹介

第 8 回 実証編：日本のマクロ経済動向

日本経済をマクロ的な視点から捉えることの意味を理解した上で、時系列的・横断的にデータを使って経済動向を考察してみます。
①マクロ経済のプレイヤー
②マクロ経済を把握する方法 1（時系列的考察）
③マクロ経済を把握する方法 2（横断面的考察）

第 9 回 戦後日本経済のあゆみ（1）

④戦後日本経済の長期的概観
第二次世界大戦後の日本経済は、占領期の制度変化を経て、「高度成長」と呼ばれる歴史的な経済成長を経験します。高度成長が終焉し、安定成長へ移行する 1970 年代までの日本経済の動向について、経済政策や企業側の対応にも目配りしながら概観します。
①戦後復興
②高度成長
③高度成長の終焉

第 10 回 戦後日本経済のあゆみ（2）

1980 年代の日本経済ではバブルが発生、それが崩壊した後は「失われた 20 年」と呼ばれる長期の低迷、さらに世界金融危機を経験します。この間 2000 年代までの日本経済の動向について、様々な経済データを用いながら概観し、現状への理解を深めます。
①安定成長からバブル経済へ
②バブル崩壊と平成不況
③世界金融危機の発生

第 11 回 日本の労働

皆さんは数年後に社会に出ます。すると、皆さんは消費者であると同時に、社会人（労働者）ともなります。皆さんの飛び込む労働市場はどのような特徴を持った市場なのか概観し、近年のトピックを紹介していきます。
①失業率と有効求人倍率
②労働時間と賃金
③就業形態と労働力率

第 12 回	日本の世界経済とのかかわり (1)	日本はモノ・サービス・カネ・ヒトの国際移動を通じて、多くの国とさまざまな関わりを持っています。この回では日本と他国とのモノやサービスの移動に焦点をあて、日本の貿易の特徴についてデータを用いながら概観します。 ①日本の貿易の現状 ②日本の貿易政策の転換
第 13 回	日本の世界経済とのかかわり (2)	モノやサービスの国際取引が行われると、その裏で必ずカネの国際間移動が起きます。この回では日本と他国と国際取引で用いられるカネに焦点をあて、為替の仕組みや制度を理解し、国際金融にまつわる大きな出来事の及ぼす影響を概観します。 ①為替レートとは ②円ドル為替レートの軌跡 ③国際通貨体制の変遷 ④金融危機（アジア通貨危機、世界金融危機）による日本経済への影響
第 14 回	地域経済統合とグローバル経済の変遷	近年、他国と協力して経済のルールやシステムを構築しようとする経済統合の動きと各国が自己の利益を追求する動きの両方がせめぎあっています。過去の経緯や近年のトピックを紹介しながら主要な地域経済統合の構造や動向を考察します。また、実証編のまとめ、理論編とのつながり、2 年次以降の専門科目との関連性についても説明します。 ①多様な国際通商システム (GATT-WTO, RTA) ②地域経済統合の形態 ③ EU とユーロ ④グローバル経済への批判と保護主義への回帰 ⑤実証編のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提とはしません。代わりに復習に重点を置いてください。各回の授業は相互に関連していますので、宿題などの復習を通じてこれまで学んだ内容を定着させることが予習につながります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理論編では、以下のテキストを使用します。
マンキュー（足立ほか訳）『マンキュー経済学 ミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社 2019 年
実証編では、テキストを指定しません。毎回、授業で使用するプリントを配布する予定です。

【参考書】

理論編の学習には以下の参考書が役に立ちます。
伊藤元重 『ミクロ経済学（第 3 版）』日本評論社 2018 年
伊藤元重・下井直毅『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社 2007 年
安藤至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣 2013 年
実証編では、適宜参考になる文献を授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60 %）、授業中の小テストや課題、宿題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからのフィードバックを反映しながら、政治・経済関連科目初学者の方にも高校で学ばれた方にも配慮した授業内容となるように心がけています。スライドを投影したり、黒板をつかったり、オンライン教材を使ったり、ワークシートを配布するなど複数種類の教材を活用して学習効果の向上を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインシステム（授業支援システム）を活用し、授業資料の配布や重要なお知らせなどを行います。詳細は第 1 回の授業で説明します。

【関連科目】

『マクロ経済学』（ILAC 科目）、『ミクロ経済学入門』、『経営のための経済学』、『産業組織論』、『日本経済論』、『金融論』、『組織経済学』、『国際金融論』、『国際経済論』、『日本経営史』、『産業史』

【実務経験のある教員による授業】

該当なし

【Outline and objectives】

Everyone who wants to study business may have a strong interest in decision-making of individuals and firms and the fundamental structure of economy in a whole society. By learning economics, you can understand them. This class is the first step for you to study economics. This class consists of two parts: theoretical and empirical studies. In the theoretical study, we will learn principles of microeconomics necessary to grasp consumer and corporate behavior logically. In the empirical study, we will deepen our understanding of mechanisms and trends of the Japanese and the world economies through data, history, and current topics.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、**Web** ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【授業の概要】**

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、**WWW** とは何か、**Web** ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい **Visual Basic Applications** によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 **2 時間** を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム **Classroom** を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

[illegible]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勧めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合があります。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎として、コンピュータを用いて文書を作成し、メールを送受信し、Web ブラウザを用いて情報収集する方法を学習する。データ演習コースでは特に文書処理とプログラミング（VBA）に重点を置き、日本語ワードプロセッサを利用して効率的に文章を構成する方法や、プログラミングやデータ分析により、より表現力の高い文書作成方法や問題解決方法を学ぶ。

【到達目標】

学問を学ぶ上で必要なコンピュータの仕組みやコンピュータの使い方から、より表現力の高い問題解決のためのプログラミングを理解することを目標とする。さらに、一部統計解析手法を学び、実務に必要な問題解決の事例を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」に関連が特に強く、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】

情報学の基礎知識として、コンピュータを用いて文書を書く（日本語ワードプロセッサの使い方）、メールの受渡し、WWW とは何か、Web ブラウザを用いた情報収集、プレゼンテーションソフトウェアを用いたプレゼンテーション方法等を学習する。以上にコンピュータのキーボード入力や操作に慣れることが第一目標である。

さらに、〔データ演習コース〕ではプログラミング言語として親しみやすい Visual Basic Applications によるプログラミング方法の基礎を学ぶ。文科系の学生が興味を持てるような具体的な例題を取り上げたプログラミング学習により、独自のプログラムを作りコンピュータを使いこなすことができるようにする。

【授業の方法】

コンピュータを実際に操作しながら例題を入力し理解しながら学習する。さらに、小さな課題に自ら取り組み考える力を養う。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムでその都度提示する。本科目の授業開始日や具体的なオンライン授業の方法などは、各授業時間の担当者が学習支援システム等で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの基礎知識について学ぶ。
第 2 回	キーボード入力練習	キーボードからの入力の練習について学ぶ。
第 3 回	日本語ワードプロセッサ操作	日本語ワードプロセッサの基本操作について学ぶ。
第 4 回	パワーポイントによる文章表現法	パワーポイントの基本的な使い方、表現の仕方について学ぶ。
第 5 回	電子メールの受渡しと Web ブラウザの利用法	電子メールの書き方、情報検索方法について学ぶ。
第 6 回	表計算について（1）	表計算の基礎について学ぶ。
第 7 回	表計算による集計方法（2）	表計算の応用について学ぶ。
第 8 回	表計算による集計方法（3）	表計算の応用について学ぶ。
第 9 回	マクロの起動と操作法	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 10 回	プログラム作成手順	プログラムの作成方法の基礎を学ぶ。
第 11 回	変数とデータ型	変数とデータ型について学ぶ。
第 12 回	簡単な計算（1）	文字列の表示と簡単な計算について学ぶ。
第 13 回	簡単な計算（2）	変数を用いた簡単な計算について学ぶ。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期のまとめを行う。

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	分岐構造	プログラミングにおいて重要な処理である分岐構造について学ぶ。
第 2 回	繰り返し（1）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しについて学ぶ。
第 3 回	繰り返し（2）	プログラミングにおいて重要な処理である繰り返しの応用について学ぶ。
第 4 回	プログラムの分割と構造化（1）	プログラムの分割と構造化について学ぶ。
第 5 回	プログラムの分割と構造化（2）	プログラムの分割と構造化の応用について学ぶ。
第 6 回	データの整理と集計（1）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方について学ぶ。
第 7 回	データの整理と集計（2）	プログラム中でのデータの整理と集計の仕方の応用について学ぶ。
第 8 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（1）	プログラム中での文字列の処理について学ぶ。
第 9 回	文字や文字列の扱い方（文字列処理）（2）	プログラム中での文字列の処理の応用について学ぶ。
第 10 回	ユーザフォーム（1）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。

第 11 回	ユーザフォーム（2）	ユーザフォームの使い方について学ぶ。
第 12 回	応用プログラミング（1）	再帰定義や、アルゴリズムなど応用プログラミングを学ぶ。
第 13 回	応用プログラミング（2）	簡単な応用プログラミングについて学ぶ。
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コンピュータの基本操作、プログラミングについて理解できるように予習・復習を行うことが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教材については開講時に指示する。

【参考書】

参考文献については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期と秋学期に各 1 回ずつテスト（レポート提出や授業中の小テストに代えることもある）を行い、出席や課題提出も考慮し評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

適度にチェックテストを行い、理解度をチェックしながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。学習管理システム Classroom を多用し効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養うので、経営学部生には特に勤めるコースである。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、情報学に関連した業務にあった経験のある教員が主に講義を行う。さらに、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

Introduction to informatics I and II aim to provide a fundamental understanding of document processing, e-mail and information retrievals. In addition to it, this course especially focuses on programming and statistical analysis, and aims to provide skills for composing effective and expressive documents and presentations using programming techniques.

情報学基礎（2019 年度以降入学者）**情報学基礎（2019 年度以降入学者）**

児玉 靖司

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの発達に伴い経営活動に関係ある情報学の基礎を学ぶ。前半では、コンピュータの仕組みから情報の表現、情報通信ネットワークについて学ぶ。後半では、オペレーティングシステム、プログラミング言語などの基本ソフトウェアと応用技術、その他、情報セキュリティ、アルゴリズム、人工知能などについて学ぶ。情報学の幅広い範囲を学ぶので、事前学習をすることが望ましい。

【到達目標】

情報学の基礎についてコンピュータ科学を中心とした知識を一通り理解することを目標とする。知識を学ぶと同時に、将来の社会について考察できることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

〔授業の概要〕 情報学として必要な様々な概念について学ぶ。
〔授業の方法〕 授業は基本的に教科書（資料）に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト（確認テスト）を行い、理解度を調査しながら進める。

〔補足〕

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 27 日（月）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報学全体の概要について学ぶ。
第 2 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	情報の表現（1）	コンピュータ上で情報を表現する方法についての基礎を学ぶ。
第 4 回	情報の表現（2）	コンピュータ上で情報を表現する方法についての応用を学ぶ。
第 5 回	情報通信ネットワーク	最近のコンピュータに必須の情報通信ネットワークについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティングシステム	基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	プログラミング言語	ソフトウェアを記述するプログラミング言語について学ぶ。
第 8 回	アルゴリズムとデータ構造（1）	ソフトウェアの設計図にあたるアルゴリズムとデータ構造の基礎について学ぶ。
第 9 回	アルゴリズムとデータ構造（2）	アルゴリズムとデータ構造の応用について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティと暗号化	情報セキュリティと暗号化について学ぶ。
第 11 回	IoT	IoT(Internet of Things) と社会について学ぶ。
第 12 回	データ解析	コンピュータを使ったデータ解析について学ぶ。
第 13 回	人工知能	人工知能の概略について学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報学全体のまとめを行う。

専門入門科目 200 番台

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

専門入門科目 200 番台

2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント（PDF）による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

講義開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席点（50 %）と定期試験（50%）で評価する。

〔補足〕

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関連する科目

【Outline and objectives】

Learning the fundamentals of informatics related to business activities with the development of computers. In the first half, students learn about the expression of information and communication networks from the mechanism of computers. In the second half, you can learn basic software and applied technologies such as operating systems and programming languages, as well as information security, algorithms and artificial intelligence.

情報学基礎（2019 年度以降入学者）**情報学基礎（2019 年度以降入学者）**

児玉 靖司

※ クラス指定があります。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの発達に伴い経営活動に関係ある情報学の基礎を学ぶ。前半では、コンピュータの仕組みから情報の表現、情報通信ネットワークについて学ぶ。後半では、オペレーティングシステム、プログラミング言語などの基本ソフトウェアと応用技術、その他、情報セキュリティ、アルゴリズム、人工知能などについて学ぶ。情報学の幅広い範囲を学ぶので、事前学習をすることが望ましい。

【到達目標】

情報学の基礎についてコンピュータ科学を中心とした知識を一通り理解することを目標とする。知識を学ぶと同時に、将来の社会について考察できることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

〔授業の概要〕 情報学として必要な様々な概念について学ぶ。
〔授業の方法〕 授業は基本的に教科書（資料）に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト（確認テスト）を行い、理解度を調査しながら進める。

〔補足〕

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 27 日（月）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**春学期および秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報学全体の概要について学ぶ。
第 2 回	コンピュータの仕組み	コンピュータの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	情報の表現（1）	コンピュータ上で情報を表現する方法についての基礎を学ぶ。
第 4 回	情報の表現（2）	コンピュータ上で情報を表現する方法についての応用を学ぶ。
第 5 回	情報通信ネットワーク	最近のコンピュータに必須の情報通信ネットワークについて学ぶ。
第 6 回	オペレーティングシステム	基本ソフトウェアであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第 7 回	プログラミング言語	ソフトウェアを記述するプログラミング言語について学ぶ。
第 8 回	アルゴリズムとデータ構造（1）	ソフトウェアの設計図にあたるアルゴリズムとデータ構造の基礎について学ぶ。
第 9 回	アルゴリズムとデータ構造（2）	アルゴリズムとデータ構造の応用について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティと暗号化	情報セキュリティと暗号化について学ぶ。
第 11 回	IoT	IoT(Internet of Things) と社会について学ぶ。
第 12 回	データ解析	コンピュータを使ったデータ解析について学ぶ。
第 13 回	人工知能	人工知能の概略について学ぶ。
第 14 回	まとめ	情報学全体のまとめを行う。

専門入門科目 200 番台

2～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

専門入門科目 200 番台

2～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント（PDF）による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

講義開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

出席点（50 %）と定期試験（50%）で評価する。

〔補足〕

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する場合がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

開講初年度のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関連する科目

【Outline and objectives】

Learning the fundamentals of informatics related to business activities with the development of computers. In the first half, students learn about the expression of information and communication networks from the mechanism of computers. In the second half, you can learn basic software and applied technologies such as operating systems and programming languages, as well as information security, algorithms and artificial intelligence.

SOC300FB

経営社会学Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

SOC300FB

経営社会学Ⅱ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

佐野 哲

※ Ⅰ、Ⅱとも春学期に開講するので注意してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多面的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な類出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えられません。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には「労働社会学」などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは「政治経済学」などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

● 2020 年度の当オンライン講義（資料配信型）は、履修登録期間終了後の2020 年 5 月 16 日（土）から、資料 PDF を配信するかたちでスタートさせます。詳しくは、学習支援システム「お知らせ」もしくはツイッター（「経営社会学 2020【法政営営】で検索）を確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用の IT 化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネジャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループディスカッション
[14]	ペーパーテストによる振り返り	授業内試験（論述形式）の実施

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造

[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループディスカッション
[14]	ペーパーテストによる振り返り	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web 検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

● 学習支援システム「お知らせ」を確認願います。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

この講義は、企業経営の人間の・政治的側面にフォーカスしながら、経営・労働主体のおかれる社会構造及び、その活動の「社会的合理性」と今後の変化を捉えようとするものです。講義で扱う「社会及び経済の時事問題」は、それを考える際の題材です。こうした学びは、状況判断力や環境変革力などの「就業力」を高める効果があります。もちろん、社会や経済の動きを把握し自ら判断していく力を養うわけですから、企業の人事部や広報部、さらには経営企画部で活躍するための必須の能力といえます。

なお、当授業に関連する経営学部の専門科目としては、経営社会学Ⅰでは「人的資源管理Ⅰ/Ⅱ」など、同Ⅱでは上記【授業計画】のテーマに関係する他学部（法、社会学部など）公開科目の履修を勧めます。

【Outline and objectives】

This course provides an applied sociological analysis of work and work experience in its social, organizational and political context in Japan. In this course, we examine the major trends shaping current and future work; work's organization into projects, firms, and government. This course consists of two parts, 1)“Work, Organization and Society” and 2)“Work, Environment and Government”. The first part, “Work, Organization and Society” presents a broad overview of central topics in Occupational system, the transformation of management, Job insecurity and ethnic diversity in Japan. The second part of the course covers topics in political and social change, the reform of the welfare state, risk and the environment and the global media and democracy.

SOC300FB

経営社会学Ⅱ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

SOC300FB

経営社会学Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在進行形の「社会及び経済の時事問題」を、企業経営の視点を借りつつ、多角的・多元的に理解すること。これが、経営社会学講義の最終目標です。新聞の一面から政治面、経済面、国際面、社会面に渡る毎日の時事トピックスを、大学生が知っておくべき重要な頻出キーワードからバランス良く分野ごとに体系化し、それぞれの問題の背景、経緯、法制度、論点、企業経営との関係などについて、経営学の戦略的思考法と社会学の理論的枠組みを織り交ぜながら解説していきます。時事問題に関する諸知識は、とりわけ就職活動の面接などにおいて求められる、現代の学生にとって不可欠なものです。問題のコア、賛否双方の論点、自らの立場が明確に整理できていないと、面接者からの問いにしっかり答えられません。

【到達目標】

経営社会学Ⅰでは、労働者が直面する社会的な時事問題を扱います。一般的には「労働社会学」などが取り上げるトピックスですが、これを企業経営者の目線から再分析していくことで、一方的な企業批判に陥りがちな労働問題の「現実的な解決策の落としどころ」を探ります。ここで狙っているのは、対立しがちな議論における「バランス感覚」の修得でもあります。

経営社会学Ⅱでは、経営者が直面する政治経済的な時事問題を扱います。同じくそれらは「政治経済学」などが取り上げるトピックスですが、これも企業経営者の目線から再整理していくことで、営利追求や社会的責任の観点などから「問題を主体的に単純化して捉える分析視覚」を明示します。ここで狙っているのは、拡散しがちな議論における「方向感覚」の修得でもあります。

本講義の最終的な到達目標は、これら多様かつ複雑な時事問題の背景にある大きな経営社会構造を自ら分析し、経済メディア（経済専門紙・専門誌）からの情報を取捨選択していく能力（情報リテラシー）の涵養にあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

● 2020 年度の当オンライン講義（資料配信型）は、履修登録期間終了後の 2020 年 5 月 16 日（土）から、資料 PDF を配信するかたちでスタートさせます。詳しくは、学習支援システム「お知らせ」もしくはツイッター（「経営社会学 2020」【法政営営】で検索）を確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
[1]	イントロダクション	経営社会学とはいかなる学問か？
[2]	新卒労働市場の社会学①	学生の「就活」と企業の新規学卒一括採用、その構造変化
[3]	新卒労働市場の社会学②	新卒採用の IT 化とアウトソーシング
[4]	新卒労働市場の社会学③	グループディスカッション
[5]	ビジネスキャリア開発の社会学①	大企業における大卒マネジャーの昇進構造
[6]	ビジネスキャリア開発の社会学②	転職や出向など「失業なき労働移動」の成功要因
[7]	ビジネスキャリア開発の社会学③	グループディスカッション
[8]	非正規労働化と貧困問題①	社会成層の中の「非正規化と貧困」
[9]	非正規労働化と貧困問題②	「派遣」から考える日本の労働政策
[10]	非正規労働化と貧困問題③	グループディスカッション
[11]	国際労働移動の社会学①	外国人労働者の諸類型
[12]	国際労働移動の社会学②	国際的な資本と労働の移動形態
[13]	国際労働移動の社会学③	グループディスカッション
[14]	ペーパーテストによる振り返り	授業内試験（論述形式）の実施

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
[1]	再導入グループワーク	「ポリティカル・コンパス」（あなた達の政治思想を類型化する）
[2]	政党政治と官僚支配の政策社会学①	政党政治の諸類型
[3]	政党政治と官僚支配の政策社会学②	政党政治プロセスの社会構造

[4]	政党政治と官僚支配の政策社会学③	グループディスカッション
[5]	赤字財政が変える日本の政策と生活①	日本の財政構造とプライマリーバランス
[6]	赤字財政が変える日本の政策と生活②	増大する医療・社会保障費と増税政策
[7]	赤字財政が変える日本の政策と生活③	グループディスカッション
[8]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学①	環境関連経済イベントの連鎖と混乱
[9]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学②	環境ポリティクスの多様化と多元化
[10]	温暖化とエネルギー政策の環境社会学③	グループディスカッション
[11]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学①	メディア資本の拡張と「業界」構造
[12]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学②	メディア産業の全体像と構造変化
[13]	マスコミ産業と情報インフラのメディア社会学③	グループディスカッション
[14]	ペーパーテストによる振り返り	授業内試験（論述形式）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記【授業の進め方と方法】の通り、毎回「Web 検索レポート」の提出を求めます（これが毎回の「宿題」となります）。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。毎回、トピックごとに主な講義内容を取りまとめたプリントを配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。各回個別のテーマに関する専門的文献（新書など）については、参加学生の興味・関心に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

● 学習支援システム「お知らせ」を確認願います。

【学生の意見等からの気づき】

毎回のリアクションペーパーから得られる受講者ニーズに合わせ、必要に応じて、講義内容の難易度及び進行スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

各自パソコンを持ち込み、講義を受けながら（わからない概念等について）その都度ワード検索をかけると便利です。

【その他の重要事項】

この講義は、企業経営の人的・政治的側面にフォーカスしながら、経営・労働主体のおかれる社会構造及び、その活動の「社会的合理性」と今後の変化を捉えようとするものです。講義で扱う「社会及び経済の時事問題」は、それを考える際の題材です。こうした学びは、状況判断力や環境変革力などの「就業力」を高める効果があります。もちろん、社会や経済の動きを把握し自ら判断していく力を養うわけですから、企業の人事部や広報部、さらには経営企画部で活躍するための必須の能力といえます。

なお、当授業に関連する経営学部の専門科目としては、経営社会学Ⅰでは「人的資源管理Ⅰ/Ⅱ」など、同Ⅱでは上記【授業計画】のテーマに関係する他学部（法、社会学部など）公開科目の履修を勧めます。

【Outline and objectives】

This course provides an applied sociological analysis of work and work experience in its social, organizational and political context in Japan. In this course, we examine the major trends shaping current and future work; work's organization into projects, firms, and government. This course consists of two parts, 1)“Work, Organization and Society” and 2)“Work, Environment and Government”. The first part, “Work, Organization and Society” presents a broad overview of central topics in Occupational system, the transformation of management, Job insecurity and ethnic diversity in Japan. The second part of the course covers topics in political and social change, the reform of the welfare state, risk and the environment and the global media and democracy.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題など。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・担当教員による講義が主だが、授業中に適宜アンケートや小課題、それらの解説や議論等を行う（授業中または自宅での予習・復習として、授業支援システムの利用を予定）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
3.	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
4.	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
8.	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン (1)	・組織構造
10.	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題 (1)	・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題 (2)	・人事制度への応用
14.	まとめ、復習	・講義全体の総括 ・講義の進捗や受講者数によっては授業内試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義レジュメや資料を事前に学内授業支援システムにアップするので、授業前に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることもあるので誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業の間か、次回授業の冒頭までに行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業レジュメ、参考資料等を事前に学内授業支援システムを通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題のエッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のバイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期末に行う筆記試験（参照不可。マークシートと記述式を併用）の結果を 80%、授業期間中の平常点（アンケートや小課題の回答状況）を 20% のウェイトで足し合わせた総合点（100 点が満点）の点数によって評価する。

・試験問題は、上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2015 年度、2016 年度の結果を総合すると（2017 年度は休講）、内容の難易度は「適切」が過半だが、「やや難しい」もかなりある。内容の理解度は「およそ理解できた」が約半分で、残りは「どちらとも言えない」と「あまり理解できなかった」。自由記述のコメントを見ても、内容が興味深い、考える力がついたなどのコメントがある一方、内容が難しい、説明が分かりにくいといったコメントがあった。受講者の理解度を高めるために一層の工夫、努力が必要だと受け止めている。

・板書が読みにくいとのコメントも相変わらず散見されるが、是非、教員が黒板に書くことよりも、話すことをメモする訓練をしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業中に「授業支援システム」を利用する予定なので、スマホないしパソコンを用意してほしい。ただし、授業中に利用不可の場合は、授業外での利用もハンディとならないように配慮する。

【その他の重要事項】

・本科目は I、II の通年開講授業だったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされる。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の HRM I/II (I は秋学期、II は春学期) でカバーする。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい。

・担当教員は、1980 ～ 89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学入門 I / II、組織行動論 I / II、人的資源管理 I / II 等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline and objectives】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

ECN300FC

日本経済論Ⅰ

ECN300FC

日本経済論Ⅱ

平田 英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

また、海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。コロナウィルスの影響は？ トランプ政権下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部にも所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかんと思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようにすることも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て授業支援システムを使って発信します。

例年、政策当局の方と国会議員の方などに授業内で2回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、エコノミストなど）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実務家の講演を織り込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2	日本経済を丸ごとつかむ 1	マクロ経済学的な視点から日本経済を歴史的に概観します
3	日本経済を丸ごとつかむ 2	マクロ経済学的な視点から日本経済の最近の状況を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5	わが国の企業活動をつかむ 1	働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解します
6	わが国の企業活動をつかむ 2	企業のグローバル化、IT 化と日本の企業システムの変化の動向を理解します
7	わが国の労働市場をつかむ 1	労働者として働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解し、労働市場の見方を学びます
8	わが国の労働市場をつかむ 2	日本の雇用システムの歴史的な変化について学びます
9	わが国の労働市場をつかむ 3	若年労働、女性労働、高齢者労働の特徴を理解します
10	政府の役割をつかむ 1	政府の日本経済の中での位置づけを理解し、予算の仕組みを理解します

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

11	政府の役割をつかむ 2	財政赤字問題について理解します
12	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ 1	日本経済における金融の役割の基本を理解します
13	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ 2	各経済主体の経済活動と金融の関係＋金融に関係する経済政策について理解します
14	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 1	バブル経済とその後についての歴史を学びます
2	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 2	90 年代の日本経済の抱えた問題を学びます
3	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 3	デフレのコストについて学びます
4	日本経済のボトルネック 2：社会保障問題 1	社会保障制度の基本を学びます
5	日本経済のボトルネック 2：社会保障問題 2	社会保障制度の問題点や課題を理解します
6	日本経済のボトルネック 番外編：因果関係とは何か	原因を理解せずに問題を解決することは出来ません。適切な因果関係の把握の仕方を理解します。
7	日本経済のボトルネック 3：少子化問題 1	少子化問題の現状と背景を理解します
8	日本経済のボトルネック 3：少子化問題 2	少子化問題の解決策を考えていきます
9	日本経済のボトルネック 4：海外との経済関係 1	貿易や投資を通じた海外とのつながりについて学びます
10	日本経済のボトルネック 4：海外との経済関係 2	近年の貿易戦争と貿易の自由化の関係を学びます
11	日本経済のボトルネック 4：海外との経済関係 3	日本の経済と海外の経済がどのように連動したり、逆連動するのかを学びます
12	ゲストスピーチ 1	政策関係者またはビジネス関係の有識者による講演です。
13	ゲストスピーチ 2	政策関係者またはビジネス関係の有識者による講演です。
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定ですが、予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』（有斐閣、2020）を必ず購入してください。発売されたばかりの最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

【1】期末試験 100% + X%（授業への参加（発言、質問等））の 2 要素で成績評価を行います。

【2】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

3. 単位取得率は例年 95% 程度（昨年度は 98%）であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【関連科目】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

ECN300FC

日本経済論Ⅱ

ECN300FC

日本経済論Ⅰ

平田 英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言をしています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「(良い意味で) ヤバイ」のでしょうか、それとも「(悪い意味で) ヤバイ」のでしょうか。

また、海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。コロナウィルスの影響は？ トランプ政権下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部にも所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには「the answer(s)」があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中核の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかんと思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て授業支援システムを使って発信します。

例年、政策当局の方と国会議員の方などに授業内で2回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、エコノミストなど）。皆さんの意見も踏まえ今年度も実務家の講演を織り込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	日本経済をなぜ学ぶのか	授業計画の紹介と日本経済の基本的特徴の説明をします
2	日本経済を丸ごとつかむ 1	マクロ経済学的な視点から日本経済を歴史的に概観します
3	日本経済を丸ごとつかむ 2	マクロ経済学的な視点から日本経済の最近の状況を概観します
4	マーケットをつかむ	需要と供給の基本的な仕組み、マーケットの役割を学びます
5	わが国の企業活動をつかむ 1	働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解します
6	わが国の企業活動をつかむ 2	企業のグローバル化、IT 化と日本の企業システムの変化の動向を理解します
7	わが国の労働市場をつかむ 1	労働者として働くことのビジネス・経済的な視点からの意味を理解し、労働市場の見方を学びます
8	わが国の労働市場をつかむ 2	日本の雇用システムの歴史的な変化について学びます
9	わが国の労働市場をつかむ 3	若年労働、女性労働、高齢者労働の特徴を理解します
10	政府の役割をつかむ 1	政府の日本経済の中での位置づけを理解し、予算の仕組みを理解します

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

経営戦略学科専門科目 200 番台3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

11	政府の役割をつかむ 2	財政赤字問題について理解します
12	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ 1	日本経済における金融の役割の基本を理解します
13	カネは天下をめぐる－マネーとは何かをつかむ 2	各経済主体の経済活動と金融の関係＋金融に関係する経済政策について理解します
14	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
1	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 1	バブル経済とその後についての歴史を学びます
2	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 2	90 年代の日本経済の抱えた問題を学びます
3	日本経済のボトルネック 1：デフレ問題 3	デフレのコストについて学びます
4	日本経済のボトルネック 2：社会保障問題 1	社会保障制度の基本を学びます
5	日本経済のボトルネック 2：社会保障問題 2	社会保障制度の問題点や課題を理解します
6	日本経済のボトルネック 番外編：因果関係とは何か	原因を理解せずに問題を解決することは出来ません。適切な因果関係の把握の仕方を理解します。
7	日本経済のボトルネック 3：少子化問題 1	少子化問題の現状と背景を理解します
8	日本経済のボトルネック 3：少子化問題 2	少子化問題の解決策を考えていきます
9	日本経済のボトルネック 4：海外との経済関係 1	貿易や投資を通じた海外とのつながりについて学びます
10	日本経済のボトルネック 4：海外との経済関係 2	近年の貿易戦争と貿易の自由化の関係を学びます
11	日本経済のボトルネック 4：海外との経済関係 3	日本の経済と海外の経済がどのように連動したり、逆連動するのかを学びます
12	ゲストスピーチ 1	政策関係者またはビジネス関係の有識者による講演です。
13	ゲストスピーチ 2	政策関係者またはビジネス関係の有識者による講演です。
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定ですが、予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』（有斐閣、2020）を必ず購入してください。発売されたばかりの最新版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+ a として授業内での発言等について加点をすることがあります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。詳細は以下の 1 の通りです。

1. 単位の評価は 2 つの方法で行います（期末試験時に学生が選択）。詳細は授業にて説明します。

【1】期末試験 100% + X%（授業への参加（発言、質問等））の 2 要素で成績評価を行います。

【2】問題数を絞った期末試験のみで成績評価を行います。

2. 例年、サボっていた学生から救済措置等を求める連絡が来ますが、本科目だけの特別な措置はしません。

3. 単位取得率は例年 95% 程度（昨年度は 98%）であり、落第者の大半は殆ど授業に出席しておらず、とてつもなく低い点数をとる学生です。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけています。

【関連科目】

I、II を連続履修することを薦めます。マクロ経済学 I/II、ミクロ経済学入門 I/II 等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.

INF300FC

システム管理論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

INF300FC

システム管理論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（Ⅰ）は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

秋学期（Ⅱ）は、ICTに関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的解析に関する素養や、離散数学の素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト（確認テスト）を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在中の2年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 23 日（木）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第 2 回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第 3 回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第 4 回	要求分析（1）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第 5 回	要求分析（2）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第 6 回	外部設計（1）	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第 7 回	外部設計（2）	外部設計の具体的な事例について学ぶ。
第 8 回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第 9 回	テスト手法について（1）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第 10 回	テスト手法について（2）	システム開発におけるテスト手法の具体例について学ぶ。
第 11 回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第 12 回	2 進数について（1）	システム開発における基本的な知識として 2 進数について学ぶ。
第 13 回	2 進数について（2）	浮動小数点の 2 進数表現、補数の表現について学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の意義について学ぶ。
第 2 回	情報セキュリティ	コンピュータウイルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第 3 回	新聞売り子問題（1）	新聞売り子問題について学ぶ。
第 4 回	新聞売り子問題（2）	新聞売り子問題について応用事例について学ぶ。
第 5 回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第 6 回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例を学ぶ。

第 7 回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第 8 回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第 9 回	ゲーム理論（3）確率を用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第 10 回	ゲーム理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第 11 回	ゲーム理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第 12 回	線形計画法（1）	線形計画法について概略を学ぶ。
第 13 回	線形計画法（2）	線形計画法について応用を学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

（課題）確認テストおよび取り組み姿勢（14%）、定期試験（86%）により評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫（進度をやや遅く）する。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

INF300FC

システム管理論Ⅱ

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

INF300FC

システム管理論Ⅰ

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

児玉 靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（Ⅰ）は、ICT(情報通信技術)の基本的な知識の修得を目的とする。具体的にはシステムとは何かを学び、システム設計法を中心に学ぶ。特に、近年注目されている要求定義手法について学ぶ。

秋学期（Ⅱ）は、ICTに関わる問題分析手法について学ぶ。具体的には、情報セキュリティ、新聞売り子問題、作業工程分析、ゲーム理論、線形計画法等である。

【到達目標】

情報学の基礎として ICT(情報通信技術)の基本的な知識を活用し、上位者の指導の下で、業務の分析と解決およびシステム化の支援を行うための手法を学ぶ。経営学に必要な数理的分析に関する素養や、離散数学的素養をつけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【授業の概要】経営情報学として必要な様々な概念について学習する。
【授業の方法】授業は基本的に資料に沿って行う。専門性の高い分野に関する講義の場合は、別途、参考文献を指定する場合がある。原則として毎回簡単な小テスト（確認テスト）を行い、理解度を調査しながら進める。さらに、本年度は米国滞在中の2年間の話題に触れ、最新情報を講義するように努力する。

【補足】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業による開講となるが、各回の授業計画の変更については学習支援システムと Google Classroom でその都度提示する。2020 年 4 月 23 日（木）を第一回目とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータのはじまり等	システム開発をする上で基本的なコンピュータに関する知識を学ぶ。
第 2 回	システム開発	システム開発の全体的な流れについて学ぶ。
第 3 回	システム開発プロセス	システム開発プロセス全体について、種々の開発方法を学ぶ。
第 4 回	要求分析（1）	要求分析について概説し、要求獲得について学ぶ。
第 5 回	要求分析（2）	要求分析について概説し、要求表現、要求検証について学ぶ。
第 6 回	外部設計（1）	システムへの入出力について主に設計する外部設計について学ぶ。
第 7 回	外部設計（2）	外部設計の具体的な事例について学ぶ。
第 8 回	内部設計	内部設計について学ぶ。
第 9 回	テスト手法について（1）	システム開発におけるテスト手法について学ぶ。
第 10 回	テスト手法について（2）	システム開発におけるテスト手法の具体例について学ぶ。
第 11 回	オブジェクト指向設計	オブジェクトとは何か、さらに、オブジェクトを用いた設計方法について学ぶ。
第 12 回	2 進数について（1）	システム開発における基本的な知識として 2 進数について学ぶ。
第 13 回	2 進数について（2）	浮動小数点の 2 進数表現、補数の表現について学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、情報とは	データ、情報、知識の違いについて概説し、情報学の意義について学ぶ。
第 2 回	情報セキュリティ	コンピュータウイルスを中心にセキュリティについて学ぶ。共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式を中心に学ぶ。
第 3 回	新聞売り子の問題（1）	新聞売り子の問題について学ぶ。
第 4 回	新聞売り子の問題（2）	新聞売り子の問題について応用事例について学ぶ。
第 5 回	プロジェクト管理（1）	プロジェクト管理に重要な作業工程分析について学ぶ。
第 6 回	プロジェクト管理（2）	作業工程分析について応用事例を学ぶ。

第 7 回	ゲーム理論（1）戦略をたてる	ゲーム理論全体について学ぶ。
第 8 回	ゲーム理論（2）ミニマックス戦略	ミニマックス戦略について学ぶ。
第 9 回	ゲーム理論（3）確率を用いたモデル	確率モデルを用いた戦略について学ぶ。
第 10 回	ゲーム理論（4）基本定理	ゲーム理論の基本定理について学ぶ。
第 11 回	ゲーム理論（5）囚人のジレンマ	囚人のジレンマについて学ぶ。
第 12 回	線形計画法（1）	線形計画法について概略を学ぶ。
第 13 回	線形計画法（2）	線形計画法について応用を学ぶ。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回簡単な確認テストを行い、次の時間に解説を行うので、予習、復習を行うこと。授業中に紹介する参考図書等も読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後、指定する。原則としてパワーポイント(PDF)による資料を Classroom より配布する。

【参考書】

開講後、指定する。

【成績評価の方法と基準】

（課題）確認テストおよび取り組み姿勢（14%）、定期試験（86%）により評価する。

【補足】

オンライン授業の実施に伴い、成績評価の方法と基準を変更する可能性がある。具体的な内容は学習支援システムと Google Classroom で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。板書が出来るように、授業の進め方を工夫（進度をやや遅く）する。

【学生が準備すべき機器他】

PC 上でのパワーポイントによるプレゼンテーションを多用する。

【その他の重要事項】

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、外資系コンピュータメーカ研究開発本部にてシステム設計および基本ソフトウェア開発を行った経験を活かし、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

As a professional person, you can learn the basic knowledge of ICT (Information and Communication Technology), and learn the techniques to analyze works, to solve problems under the guidance of superiors. We aim to establish a knowledge on mathematical problems necessary for business management.

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論Ⅰ（2019年度以降入学者） 市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN300FD

マーケティング・リサーチⅠ（2018年度以前入学者） 3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。

なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

- ①ケースをもとに、インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【加筆】

初回授業は、4月28日から実施します。なお、この授業は少なくとも前半はZOOMを使用し、オンラインで実施します。

履修を希望される方は、4月24日AM10時までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。4月24日中に、電子教科書と紐つけます。仮登録は、それ以降でも可能ですが、電子教科書との紐つけが遅れることをご了解ください。

事前課題のための電子教科書の購入方法（5/10までは無料利用可能）や、授業の参加方法は、学習支援システムの授業情報表示で、ご確認ください。

一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

電子教科書での講義

そのため、大学生協の電子教科書（アプリの利用）を用いて、生協より同書へのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうけることで、双方の講義を実施する。

コミュニケーションシートでのフィードバック

授業終了後に提出のコミュニケーションシートにより疑問点やコメントをアップし、次週の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	ライオン ・電子教科書を使った講義の進め方、テキスト第1章
第2回	インタビュー法	資生堂 ・テキスト第2章
第3回	観察法（消費者の行動観察）	デザイン企業 IDEO ・デザイン、テキスト第3章
第4回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 深澤勝義さん講演
第5回	リード・ユーザー法（先端的ユーザーの活用）	3M、無印良品 ・テキスト第4章
第6回	アイデア発想	TOTO ・たまごっち、テキスト第5章、最終レポートの説明
第7回	コンセプト開発	エースコック ・ユニチャーム、テキスト第6章
第8回	プロトタイピング（試作品）、コンテスト・テスト（定量調査）	IDEO、ハウス ・テキスト第7章、第10章
第9回	企画書作成、プレゼンテーション	フジッコ、スティーブ・ジョブズなど ・テキスト第14章、第15章
第10回	早期優秀レポートの報告	レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第11回	優秀レポートの報告	レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第12回	中止	中止
第13回	中止	中止

第14回 中止

中止

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、双方向の講義のため、電子教科書の各章で、当該章で最も重要だと思うキーワード1つを選択し、その理由とそれに関連した事例を「コメントをつける」（共有する）でアップすること。詳しくは、授業支援システムの「コメント方法.pdf」を確認のこと。なお、当日若干名に発言を求め、発言された場合のみ加点あり。

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大学生協の電子教科書（西川英彦・廣田章光『1からの商品企画』碩学舎、2012年）。

購入方法は、授業支援システムの授業情報表示を確認のこと。講義や事前課題の評価は電子版をもとに進めるので注意すること。

【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）50点
- ・事前学習（電子教科書の重要なキーワードへのコメント）25点
- ・平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）25点
- ・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
- ・なお、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

電子書籍を利用するため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論Ⅰ/Ⅱ、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline and objectives】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives lectures based on actual corporate cases with the theme of "product planning" where research is often used, and concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019年度以降入学者）市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD

企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD

企業財務論Ⅰ（2018年度以前入学者）3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019年度以降入学者）市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

金 瑠 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要な事柄であります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考えます。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が計算出来るようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	Ⅰ 春学期	
	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3	キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
4	キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
6	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
7	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
8	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
9	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
10	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意

11	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
12	資本構成理論 2	節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ
13	資本構成理論 3	倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
14	総括	倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論
Ⅱ 秋学期		補足と纏め
回	テーマ	内容
15	ペイアウト政策	ペイアウト政策の手段、配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
16	企業価値の評価 1	フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
17	企業価値の評価 2	節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較
18	企業価値の評価 3	経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益
19	合併・買収	M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、組織再編、LBO・MBO
20	コーポレート・ガバナンス	エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、株主対理解関係者、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較
21	財務リスク管理 1	リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR
22	財務リスク管理 2	デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ
23	エクイティ・ファイナンス 1	スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開の際のバズル
24	エクイティ・ファイナンス 2	新規株式公開のコスト、増資のコスト、増資の種類
25	デット・ファイナンス	ハイブリッド証券、転換社債、ワラント債の仕組みと評価
26	国際財務管理 1	為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達
27	国際財務管理 2	海外投資プロジェクトの評価
28	総括	補足及び纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】

コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、クイズ及び授業参加度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019年度以降入学者）市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD

企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD

企業財務論Ⅰ（2018年度以前入学者）3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019年度以降入学者）市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

金 瑠 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の評価は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要な事柄であります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考えます。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が計算出来るようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	I 春学期	テーマ	内容
1		企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2		財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3		キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
4		キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5		債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
6		投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
7		投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実際
8		証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
9		証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
10		資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意

11	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
12	資本構成理論 2	節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
13	資本構成理論 3	倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論
14	総括	補足と纏め
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
15	ペイアウト政策	ペイアウト政策の手段、配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
16	企業価値の評価 1	フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
17	企業価値の評価 2	節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較
18	企業価値の評価 3	経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益
19	合併・買収	M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、組織再編、LBO・MBO
20	コーポレート・ガバナンス	エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、株主対理解関係者、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較
21	財務リスク管理 1	リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR
22	財務リスク管理 2	デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ
23	エクイティ・ファイナンス 1	スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開の際のバズル
24	エクイティ・ファイナンス 2	新規株式公開のコスト、増資のコスト、増資の種類
25	デット・ファイナンス	ハイブリッド証券、転換社債、ワラント債の仕組みと評価
26	国際財務管理 1	為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達
27	国際財務管理 2	海外投資プロジェクトの評価
28	総括	補足及び纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】

コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、クイズ及び授業参加度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山 崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」、「中央銀行の金融政策を占うには？」、「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員（一種）」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②主要なデリバティブ取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業はネット会議アプリ Zoom を使用し、オンラインで実施します。初回授業は4月22日（水）午前10時40分からになります。履修を希望される方は4月20日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・バズル
第9回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（2）	スワップレート、パーレート、LIBOR
第13回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明

第16回 春学期の復習

現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習

第17回 スワップ取引（1）

スワップ取引の概要、IRS とその活用方法

第18回 スワップ取引（2）

通貨スワップとその活用方法

第19回 スワップ取引（3）

スワップレートの決定理論

第20回 オプション取引（1）

オプション取引の概要、コールとプット、プット・コール・パリティ

第21回 オプション取引（2）

オプションの活用方法

第22回 ファイナンスのための確率論入門

確率、確率変数、期待値などの諸概念

第23回 オプション価格理論（1）

1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出

第24回 オプション価格理論（2）

Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け

第25回 オプション価格理論（3）

2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出

第26回 オプション価格理論（4）

ブラック・ショールズ理論の概説

第27回 クレジット・デリバティブ取引（1）

クレジット・デリバティブの概要、CDS とその活用方法

第28回 クレジット・デリバティブ取引（2）

リーマン・ショックでは何が起きていたのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を各自でダウンロードして持参してください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。ノート PC やタブレット端末を持ち込んで講義資料を参照しても構いません。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019 年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

春学期末・秋学期末に行う筆記試験の結果（100 %）で評価します。デリバティブの知識や理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定です。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards, futures, swaps, and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle and takeover bid (TOB).

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

山 崎 輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」、「中央銀行の金融政策を占うには？」、「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員（一種）」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②主要なデリバティブ取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業はネット会議アプリ Zoom を使用し、オンラインで実施します。初回授業は4月22日（水）午前10時40分からになります。履修を希望される方は4月20日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・バズル
第9回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（2）	スワップレート、パーレート、LIBOR
第13回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

市場経営学科専門科目 200 番台2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

第16回	春学期の復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第17回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、IRS とその活用方法
第18回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第19回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第20回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、コールとプット、プット・コール・パリティ
第21回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第22回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第23回	オプション価格理論（1）	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第24回	オプション価格理論（2）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第25回	オプション価格理論（3）	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第26回	オプション価格理論（4）	ブラック・ショールズ理論の概説
第27回	クレジット・デリバティブ取引（1）	クレジット・デリバティブの概要、CDS とその活用方法
第28回	クレジット・デリバティブ取引（2）	リーマン・ショックでは何が起きていたのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を各自でダウンロードして持参してください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。ノート PC やタブレット端末を持ち込んで講義資料を参照しても構いません。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019 年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

春学期末・秋学期末に行う筆記試験の結果（100 %）で評価します。デリバティブの知識や理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定です。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards, futures, swaps, and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle and takeover bid (TOB).

ECN300FD

産業組織論Ⅰ

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD

産業組織論Ⅱ

3～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

大木 良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします。】

経済学のモノの見方を通して、企業意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックを理論的に学び、それに対応する現実の事例について、理論的分析結果と現実との一致や相違点について考察する。

I では、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや合併など、寡占市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

II では、製品差別化や価格差別など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説する。必要に応じて、ワークシートを用いて参加者に自主的に考察する時間を設ける。

学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか
2	市場と競争	企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
3	完全競争市場	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？
4	独占 1	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
5	独占 2	独占企業意思決定、価格、数量の決まり方と経済厚生
6	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
7	寡占 1	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が増えれば競争はどのように変わっていくか？
8	寡占 2	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
9	ゲーム理論 1	ゲーム理論とは何か？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
10	ゲーム理論 2	いろいろなゲームの均衡を求める
11	ゲーム理論 3	ゲーム理論を用いて数量競争・価格競争を再考しよう
12	垂直的取引制限 1	垂直的取引制限とは？ 企業のどのような行為は競争を阻害するのか？
13	垂直的取引制限 2	垂直的取引制限に関する具体事例の紹介
14	参入阻止	参入阻止と市場競争

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	事例紹介	近年競争政策上問題となった事例の紹介
16	企業行動と法制度	法律や制度がどのように経済主体の意思決定に影響を与えるのか（法と経済学）
17	競争政策	競争政策と産業組織論の関係
18	製品差別化と競争 1	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
19	製品差別化と競争 2	主要な製品差別化の経済モデルの紹介
20	価格差別 1	価格差別の定義と経済モデル
21	価格差別 2	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
22	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
23	合併	合併の経済モデル、合併が市場競争に与える影響
24	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
25	ネットワーク外部性 1	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる市場の事例
26	ネットワーク外部性 2	情報化社会とプラットフォーム間競争
27	ネットワーク外部性 3	多面的市場の定義とそれが見られる市場の事例
28	事例研究によるまとめ	これまで学んだ分析ツールを応用した実際の独占禁止法違反事例を分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『ブラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】

宿題 15 %

中間試験 25 %

期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

授業中に投影するスライドの重要な点を空欄にしている資料を毎回配布します。出席して説明を聞きながら資料の穴埋めをすることに加え、余白にメモを取るによりご自身で復習しやすいノートを作っていくてください。やむを得ない理由で欠席された場合は、翌週以降教員に直接質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、連続した履修を強く薦めます。（Ⅰの内容を前提としてⅡが進められます）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

ECN300FD

産業組織論Ⅱ

ECN300FD

産業組織論Ⅰ

大木 良子

3～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

3～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。頻繁に連絡をしますので、学習支援システムへの仮登録をお願いします。】

経済学のモノの見方を通して、企業意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックを理論的に学び、それに対応する現実の事例について、理論の分析結果と現実との一致や相違点について考察する。

I では、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや合併など、寡占市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

II では、製品差別化や価格差別など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

全て講義形式で行う。講義はスライドを用いて解説する。必要に応じて、ワークシートを用いて参加者に自主的に考察する時間を設ける。

学習内容の確認のために、数回の宿題と中間試験、期末試験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか
2	市場と競争	企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
3	完全競争市場	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？
4	独占 1	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違い なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
5	独占 2	独占企業意思決定、価格、数量の決まり方と経済厚生
6	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
7	寡占 1	数量を決定して競争する場合（クールノー競争） 企業の数が増えれば競争はどのように変わっていくか？
8	寡占 2	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
9	ゲーム理論 1	ゲーム理論とは何か？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
10	ゲーム理論 2	いろいろなゲームの均衡を求める
11	ゲーム理論 3	ゲーム理論を用いて数量競争・価格競争を再考しよう
12	垂直的取引制限 1	垂直的取引制限とは？ 企業のどのような行為は競争を阻害するのか？
13	垂直的取引制限 2	垂直的取引制限に関する具体事例の紹介
14	参入阻止	参入阻止と市場競争

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	事例紹介	近年競争政策上問題となった事例の紹介
16	企業行動と法制度	法律や制度がどのように経済主体の意思決定に影響を与えるのか（法と経済学）
17	競争政策	競争政策と産業組織論の関係
18	製品差別化と競争 1	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
19	製品差別化と競争 2	主要な製品差別化の経済モデルの紹介
20	価格差別 1	価格差別の定義と経済モデル
21	価格差別 2	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
22	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
23	合併	合併の経済モデル、合併が市場競争に与える影響
24	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
25	ネットワーク外部性 1	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる市場の事例
26	ネットワーク外部性 2	情報化社会とプラットフォーム間競争
27	ネットワーク外部性 3	多面的市場の定義とそれが見られる市場の事例
28	事例研究によるまとめ	これまで学んだ分析ツールを応用した実際の独占禁止法違反事例を分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『ブラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

【2020 年 4 月 14 日追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。】

宿題 15 %

中間試験 25 %

期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

授業中に投影するスライドの重要な点を空欄にしている資料を毎回配布します。出席して説明を聞きながら資料の穴埋めをすることに加え、余白にメモを取るによりご自身で復習しやすいノートを作っていくてください。やむを得ない理由で欠席された場合は、翌週以降教員に直接質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、連続した履修を強く薦めます。（Ⅰの内容を前提としてⅡが進められます）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

MAN300FD

マーケティング・リサーチ I（2018 年度以前入学者）

3～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論 I（2019 年度以降入学者）

2～4 年次／2 単位[春学期授業/Spring]

西川 英彦

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの商品企画の実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、講義を行う。

なお、I（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、II（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の 2 点である。

- ①ケースをもとに、インタビューや観察法、リード・ユーザー法などの定性調査のスキルを身につける。
- ②簡単な定性調査を行い、商品企画の仮説となるレポート（企画書）を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

【加筆】

初回授業は、4 月 28 日から実施します。なお、この授業は少なくとも前半は ZOOM を使用し、オンラインで実施します。

履修を希望される方は、4 月 24 日 AM10 時までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。4 月 24 日中に、電子教科書と紐つけます。仮登録は、それ以降でも可能ですが、電子教科書との紐つけが遅れることをご了解ください。

事前課題のための電子教科書の購入方法（5/10 までは無料利用可能）や、授業の参加方法は、学習支援システムの授業情報表示で、ご確認ください。

一方的に講義をするのではなく、学生からのコメントや質問をもとに、学生参加型の講義を行う。

電子教科書での講義

そのため、大学生協の電子教科書（アプリの利用）を用いて、生協より同書へのマーカーやコメントなどの個人ログデータの提供をうけることで、双方の講義を実施する。

コミュニケーションシートでのフィードバック

授業終了後に提出のコミュニケーションシートにより疑問点やコメントをアップし、次週の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	商品企画プロセスにおけるリサーチの重要性	ライオン ・電子教科書を使った講義の進め方、テキスト第 1 章
第 2 回	インタビュー法	資生堂 ・テキスト第 2 章
第 3 回	観察法（消費者の行動観察）	デザイン企業 IDEO ・デザイン、テキスト第 3 章
第 4 回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	日清食品ホールディングス株式会社 執行役員・CMO 深澤勝義さん講演
第 5 回	リード・ユーザー法（先端的ユーザーの活用）	3M、無印良品 ・テキスト第 4 章
第 6 回	アイデア発想	TOTO ・たまごっち、テキスト第 5 章、最終レポートの説明
第 7 回	コンセプト開発	エースコック ・ユニチャーム、テキスト第 6 章
第 8 回	プロトタイピング（試作品）、コンテスト・テスト（定量調査）	IDEO、ハウス ・テキスト第 7 章、第 10 章
第 9 回	企画書作成、プレゼンテーション	フジッコ、スティーブ・ジョブズなど ・テキスト第 14 章、第 15 章
第 10 回	早期優秀レポートの報告	レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第 11 回	優秀レポートの報告	レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第 12 回	中止	中止
第 13 回	中止	中止

第 14 回 中止

中止

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、双方向の講義のため、電子教科書の各章で、当該章で最も重要だと思うキーワード 1 つを選択し、その理由とそれに関連した事例を「コメントをつける」（共有する）でアップすること。詳しくは、授業支援システムの「コメント方法.pdf」を確認のこと。なお、当日若干名に発言を求め、発言された場合のみ加点あり。

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大学生協の電子教科書（西川英彦・廣田章光『1 からの商品企画』碩学舎、2012 年）。

購入方法は、授業支援システムの授業情報表示を確認のこと。講義や事前課題の評価は電子版をもとに進めるので注意すること。

【参考書】

ベルク・フィッシャー・コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート（いずれかの定性調査と、それを利用した商品企画アイデア）50 点
- ・事前学習（電子教科書の重要なキーワードへのコメント）25 点
- ・平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）25 点
- ・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
- ・なお、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、2 点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

電子書籍を利用するため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービスマネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論、基礎統計学 I/II、統計学 I/II である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline and objectives】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives lectures based on actual corporate cases with the theme of "product planning" where research is often used, and concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

MAN300FD

マーケティング・リサーチⅡ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

MAN200FD

マーケティング・リサーチ論Ⅱ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

本條 晴一郎

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

たくさんの実例を通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を身につけよう。

はじめてマーケティング・リサーチを学ぶ学生が理解しやすいように、本授業では、リサーチがよく活用される「商品企画」や「マーケティング」をテーマにした実際の企業ケースや、リサーチの具体例をもとに、双方向の講義と簡単な演習を行う。

なお、Ⅰ（春学期）はインタビューや観察法などの定性的調査、Ⅱ（秋学期）はアンケート作成やデータ分析などの定量的調査を学ぶ。両方を学ぶことで、相乗効果が期待できる。

【到達目標】

到達目標は、以下の2点である。

①具体例をもとに、アンケート作成やデータ分析などの定量的調査のスキルを身につける。②簡単な定量的調査を行い、商品企画の仮説を検証するレポートを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-4」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業では、実際にリサーチを商品企画に活用しているゲストスピーカーの講演をはじめ、企業のケースや具体例を通して、リサーチの活用イメージをつかんだ上で、リサーチの基礎と方法を学ぶことで、その理解を深める。各授業で、コミュニケーションシートにより疑問点やコメントをアップし、次の授業でフィードバックをうけ、不明な箇所が解決できる。

演習は、無料統計ソフト R を用いて、配布するマニュアル通りに入力すれば分析できるので、数学が苦手な学生でも大丈夫である。難しい数式は、使いたないので安心ください。アシスタントによる支援もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	定量調査の楽しさ	定量調査の概要 ・勘と経験ではダメな理由 ・データ分析が必要な理由
第2回	リサーチデザイン	リサーチプロセスを知ろう！ ・課題の定義と仮説、探索的調査と検証的調査、R の使い方
第3回	データの特徴	店舗の売上の特徴を知ろう！ ・「平均」 ・「標準偏差」
第4回	データの関係①	顧客の購入金額と来店頻度の関係みよう！ ・相関分析 ・無相関検定
第5回	データの関係②	デザインリニューアルの男女別選好の関係を調べよう！ ・独立性の検定 ・適合度の検定
第6回	データの差	POP 効果を分析しよう！ ・ <i>t</i> 検定
第7回	因果関係	ざるそばの売上を予測しよう！ ・回帰分析
第8回	データの集約	歯磨き粉の利用要因を集約化しよう！ ・因子分析
第9回	報告書	SNS での実名と匿名ユーザーの行動の報告書 ・レポートの説明
第10回	アンケート	アンケートのつくり方 ・尺度、グーグルアンケート
第11回	サンプリング	大学生対象時のサンプルの選び方 ・サンプリング
第12回	リサーチの最前線（ゲスト講演）	クロレッツなどを展開するモンデリーズ・ジャパンマネージャー東浦和宏さん（元ユニリーバ、P&G 等）講演 ・講演と質疑
第13回	早期優秀レポートの報告	早期レポートの報告とフィードバック ・成果の共有
第14回	優秀レポートの報告	優秀レポートの報告とフィードバック ・成果の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習をしつつ、最終レポートを授業時間外に作成すること。
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップする。

【参考書】

恩蔵直人・富田健司『1 からのマーケティング分析』碩学舎、2011 年
山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

・レポート（いずれかの定量調査と分析結果）70 点満点
・平常点（ネットアンケートでのコミュニケーションシート）30 点満点
・早期レポートの提出・報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。
・なお、授業内での発言・報告には加点あり。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が難しかったプロセスを考慮して、3 点を改善した。

①レポートをイメージしやすいように、レポート例を紹介する。

②全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

③基本編と解説編を分けて説明する。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメの確認のため、スマホ、あるいはタブレット、パソコンをご持参ください。また、第 2 回以降は、統計ソフト R を利用するため、パソコンを持参あるいはレンタルでご用意ください。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング・リサーチ論Ⅰ、マーケティング入門、消費者行動論Ⅰ/Ⅱ、流通論Ⅰ/Ⅱ、サービス・マネジメント論Ⅰ/Ⅱ、製品開発論Ⅰ/Ⅱ、広告論、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ、統計学Ⅰ/Ⅱである。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした講義を実施する。

【Outline and objectives】

Let's learn the basics and methods of marketing research through examples of many product planning. To make it easier for students to learn about marketing and research for the first time, this class gives the interactive lectures and exercises based on actual corporate cases with the theme of "product planning" and "marketing" where research is often used and the concrete examples of research. In the spring semester, students will study qualitative surveys such as interviews and observation methods, and in the fall semester, they will study quantitative surveys such as questionnaire creation and data analysis. By learning both, a synergistic effect can be expected.

ECN300FD

企業財務論Ⅰ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD

企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

金 瑤 晋**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要な事柄であります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考えます。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が計算出来るようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3	キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
4	キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
6	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
7	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実例
8	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
9	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
10	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意

11	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
12	資本構成理論 2	節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
13	資本構成理論 3	倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論
14	総括	補足と纏め
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
15	ペイアウト政策	ペイアウト政策の手段、配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
16	企業価値の評価 1	フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
17	企業価値の評価 2	節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較
18	企業価値の評価 3	経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益
19	合併・買収	M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、組織再編、LBO・MBO
20	コーポレート・ガバナンス	エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、株主対理解関係者、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較
21	財務リスク管理 1	リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR
22	財務リスク管理 2	デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ
23	エクイティ・ファイナンス 1	スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開の際のバズル
24	エクイティ・ファイナンス 2	新規株式公開のコスト、増資のコスト、増資の種類
25	デット・ファイナンス	ハイブリッド証券、転換社債、ワラント債の仕組みと評価
26	国際財務管理 1	為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達
27	国際財務管理 2	海外投資プロジェクトの評価
28	総括	補足及び纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】

コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、クイズ及び授業参加度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

ECN300FD

企業財務論Ⅱ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD

企業財務論Ⅰ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FD

コーポレートファイナンス入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

金 瑠 晋**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

CFO と呼ばれる最高財務責任者は、様々な財務意思決定問題の解決策を見出さなければなりません。ここで、財務意思決定とは、投資案の評価、資金調達手段の選択、企業価値の評価、ペイアウト政策、買収・合併の決定、新規株式公開の決定、コーポレート・ガバナンス、財務リスク管理など等があり、実に多岐に渡ります。なお、最高財務責任者が合理的な財務意思決定を行うためには、資金提供者である投資家の行動原理を理解する必要があります。例えば、企業価値の値評は、企業の経営者と投資家の両方の意思決定において極めて重要な事柄であります。この授業では、企業価値向上に関わる様々な財務意思決定問題を取り上げ、企業の最高財務責任者が、どのような基準に基づき、どのようなアプローチを取ることによって、問題を解決すべきかについて考えます。

【到達目標】

- ・キャッシュフローの時間価値の重要性が分かるようになります。
- ・投資案・金融資産・企業の価値が計算出来るようになります。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・配当・自社株買いに関する理解が深まります。
- ・経済・金融関連のニュースをより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」と「DP4」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。電卓（関数電卓を含む）を持参し、授業中に使用して構いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	企業と資本市場	企業組織の形態、株式会社の仕組みの理解、投資家とステークホルダー、資本市場の役割
2	財務諸表と情報	財務諸表からの情報と財務意思決定、市価と簿価、キャッシュフローの重要性
3	キャッシュフローの時間価値 1	キャッシュフローの割引現在価値・将来価値、資産評価と無裁定均衡の理解
4	キャッシュフローの時間価値 2	特殊なキャッシュフローを持つ場合の割引現在価値の計算、表計算ソフトを用いた計算例
5	債券と株式の評価	マネーの時間価値の応用、債券の理論価格、債券の利回り、株式の理論価格、配当割引モデル、企業成長と株価
6	投資の意思決定 1	プロジェクト評価の諸手法、正味現在価値、内部収益率、回収期間法、収益性指標
7	投資の意思決定 2	内部収益率法の落とし穴、資金制約がある場合のプロジェクト評価、日米企業における投資案評価の実例
8	証券のリターンとリスク 1	株式の投資収益率、ポートフォリオ理論の基礎、分散可能なリスクと体系的リスクの理解、体系的リスクの尺度
9	証券のリターンとリスク 2	市場均衡、均衡におけるリターンとリスクとの関係、ベータ値の推定、資本資産評価モデルの理解、マルチファクターモデルの紹介
10	資本コストの推定	株主資本コスト、株式のベータ、負債の資本コスト、加重平均資本コストの推定、負債利用の節税効果の含意

11	資本構成理論 1	完全資本市場、資本構成理論の基礎、無裁定均衡の理解、MM の命題Ⅰと命題Ⅱ、レバレッジと株主資本コストの関係
12	資本構成理論 2	節税効果、修正 MM の命題ⅠとⅡ、倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論、実務における資本構成、資本構成理論のまとめ
13	資本構成理論 3	倒産コストの考慮、資金調達意思決定とエージェンシー費用、トレードオフ理論、ベッキングオーダー理論
14	総括	補足と纏め
Ⅱ 秋学期		
回	テーマ	内容
15	ペイアウト政策	ペイアウト政策の手段、配当政策に関する MM 理論、自社株買いと企業価値の関係
16	企業価値の評価 1	フリーキャッシュフローの推計、加重資本コストの推計、継続価値、割引キャッシュフロー法による企業評価
17	企業価値の評価 2	節税効果の確認、修正現在価値法による評価、割引キャッシュフロー法との比較
18	企業価値の評価 3	経済的利益による企業評価、経済的利益と残余利益
19	合併・買収	M&A の経済的メリット、買収案件の評価、敵対的買収と買収防衛策、組織再編、LBO・MBO
20	コーポレート・ガバナンス	エージェンシー問題とコーポレート・ガバナンス、株主対理解関係者、ガバナンス改善のための諸施策、国際比較
21	財務リスク管理 1	リスク・マネジメントと企業価値、リスク・マネジメントの手法、VaR
22	財務リスク管理 2	デリバティブを用いたリスクのヘッジ、フォワード型のヘッジ、オプション型のヘッジ
23	エクイティ・ファイナンス 1	スタートアップの資金調達、ベンチャーキャピタルの役割、新規株式公開の際のバズル
24	エクイティ・ファイナンス 2	新規株式公開のコスト、増資のコスト、増資の種類
25	デット・ファイナンス	ハイブリッド証券、転換社債、ワラント債の仕組みと評価
26	国際財務管理 1	為替リスクのヘッジ、国際金融市場からの資金調達
27	国際財務管理 2	海外投資プロジェクトの評価
28	総括	補足及び纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井富雄・高橋文朗・芹田敏夫著『コーポレート・ファイナンス』、中央経済社、2016

【参考書】

コーポレート・ファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている図書の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、クイズ及び授業参加度 30 %

【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓や表計算ソフトウェアの使い方に慣れて置きましょう。

【その他の重要事項】

授業では、初歩的な計算を行います、特に前提知識は要りません。奮ってご参加下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論、デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間シンクタンクの金融部門で財務意思決定や金融市場調査などの金融実務に携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course introduces the basics of corporate finance. Topics include investment projects analysis, capital structure, valuation of the firm, payout policy, M&A decision, financial risk management, and international financial management.

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

山 崎 輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか?」、「中央銀行の金融政策を占うには?」、「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員（一種）」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②主要なデリバティブ取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業はネット会議アプリ Zoom を使用し、オンラインで実施します。初回授業は4月22日（水）午前10時40分からになります。履修を希望される方は4月20日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・バズル
第9回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（2）	スワップレート、パーレート、LIBOR
第13回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明

第16回	春学期の復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第17回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、IRS とその活用方法
第18回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第19回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第20回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、コールとプット、プット・コール・パリティ
第21回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第22回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第23回	オプション価格理論（1）	1期間2項モデルによるオプション価格の算出
第24回	オプション価格理論（2）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第25回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデルによるオプション価格の算出
第26回	オプション価格理論（4）	ブラック・ショールズ理論の概説
第27回	クレジット・デリバティブ取引（1）	クレジット・デリバティブの概要、CDS とその活用方法
第28回	クレジット・デリバティブ取引（2）	リーマン・ショックでは何が起こっていたのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を各自でダウンロードして持参してください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。ノート PC やタブレット端末を持ち込んで講義資料を参照しても構いません。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019 - 2020 年版』、2019年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2019年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

春学期末・秋学期末に行う筆記試験の結果（100％）で評価します。デリバティブの知識や理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定です。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards, futures, swaps, and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle and takeover bid (TOB).

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN300FD

ファイナンス論Ⅰ（2018年度以前入学者）

3～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[秋学期授業/Fall]

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

2～4年次／2単位[春学期授業/Spring]

山 崎 輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか?」、「中央銀行の金融政策を占うには?」、「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを扱う予定です。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員（一種）」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- ①金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- ②主要なデリバティブ取引のしくみや活用方法を説明できる。
- ③無裁定条件に基づく金融商品の価格決定理論がわかる。
- ④金融市場の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業はネット会議アプリ Zoom を使用し、オンラインで実施します。初回授業は4月22日（水）午前10時40分からになります。履修を希望される方は4月20日までに学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに登録されているメールアドレス宛に連絡します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・バズル
第9回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（2）	スワップレート、パーレート、LIBOR
第13回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明

第16回	春学期の復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第17回	スワップ取引（1）	スワップ取引の概要、IRS とその活用方法
第18回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第19回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第20回	オプション取引（1）	オプション取引の概要、コールとプット、プット・コール・パリティ
第21回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第22回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第23回	オプション価格理論（1）	1期間2項モデルによるオプション価格の算出
第24回	オプション価格理論（2）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第25回	オプション価格理論（3）	2期間2項モデルによるオプション価格の算出
第26回	オプション価格理論（4）	ブラック・ショールズ理論の概説
第27回	クレジット・デリバティブ取引（1）	クレジット・デリバティブの概要、CDS とその活用方法
第28回	クレジット・デリバティブ取引（2）	リーマン・ショックでは何が起きていたのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を各自でダウンロードして持参してください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。ノートPCやタブレット端末を持ち込んで講義資料を参照しても構いません。

【参考書】

- ①岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- ②フィナンシャル・バンク・インスティテュート編、『うかる！証券外務員一種 必修テキスト 2019・2020年版』、2019年、日本経済新聞出版社
- ③佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2019年、ビジネス教育出版社
- ④ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

春学期末・秋学期末に行う筆記試験の結果（100％）で評価します。デリバティブの知識や理解を問う問題と計量分析や価格評価などの計算問題を出題する予定です。筆記試験では「計算機能のみの一般的な電卓」の持ち込みを可とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してもよい）を持参してください。

【その他の重要事項】

教室内での私語は厳禁です。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」に関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline and objectives】

This course provides students with an introduction to derivatives. It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards, futures, swaps, and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle and takeover bid (TOB).

MAN200FA

インターンシップⅠ

MAN200FA

インターンシップⅠ

小林 健一

連環科目

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業活動と仕事の実践を学ぶ」

■企業の経営やマーケティングを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動に触れる事により実践的に理解します。

→「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習

■仕事とは何か、また仕事の楽しさとは何かを、魅力ある職業人の方々の生の声を通して理解します。

→「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習

【到達目標】

①実際の企業の企業活動/マーケティング活動のケースや社会で活躍している職業人の仕事、人生について聞きながら、そのポイントを理解できる。

②また、そこから、自分の人生や将来の働き方についてのヒントを得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

●ゲストをお招きする授業の性格上、受講学生数を最大 80 名に絞ることににより、集中して授業に取り組める環境を重視しています。

●毎回企業からゲスト・スピーカーを招き、約 80 分間のスピーチの後、質疑応答の時間を設けます。

●第 1 回目の授業で、各企業のプレゼンテーションを聞くための視点、及び事例として学ぶ各企業を紹介、その後各回授業で、実際に 12 社の企業事例を聞く事により、理解を深めます。

●以下の授業計画は 2019 年度の実績に基づくものです。2020 年度のゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 インターンシップⅠ の受講の仕方について ゲスト企業の紹介
第 2 回	これまでの広告会社 からの広告会社	ゲスト・スピーカー： 株式会社 電通
第 3 回	小売業界の課題とドラッグストアの役割	執行役員 松尾 秀実 氏 ゲスト・スピーカー： ウエルシア薬局（株） 総合職採用部 採用マネジャー 宮崎 拓也 氏
第 4 回	食のあるべき姿を追求する	ゲスト・スピーカー： （株）エー・ピーカンパニー 魚事業部本部長 兼 ブランド開発室室長 横澤 将司 氏
第 5 回	まずは挑戦、何でも自分でやってみること	ゲスト・スピーカー： 古河電池（株） 産業機器事業本部 佐藤 晴香 氏
第 6 回	一番身近な社会人の話	ゲスト・スピーカー： 法政大学 大学院事務部 大学院課 堀込 康介 氏
第 7 回	コピーライター/CM プランナーの仕事	ゲスト・スピーカー： （株）電通 コピーライター/CM プランナー 勝浦 雅彦 氏
第 8 回	プラットフォームサービスについて	ゲスト・スピーカー： プラットフォームサービス（株） 取締役会長 田辺 恵一郎 氏
第 9 回	様々な業界を支援するマーケティングリサーチ	ゲスト・スピーカー： （株）インテージ 経営推進本部 人事部 鈴木 有通子 氏

第 10 回 介護事業における人材採用の需給バランス及びその環境下での獲得戦略について
ゲスト・スピーカー：
（株）らいふ
施設事業部 人事課 主任
板井 明子 氏

第 11 回 弥生と今とこれから
ゲスト・スピーカー：
弥生（株）
代表取締役社長
岡本 浩一郎 氏

第 12 回 とあるロスジェネ世代のワークライフバランスの一例
ゲスト・スピーカー：
日本バーカライジング（株）
働きかた改革委員会 事務局
内田 康夫 氏

第 13 回 起業家という職業
ゲスト・スピーカー：
（株）イオレ
代表取締役社長
小川 誠 氏

第 14 回 総括
授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

80 分のレクチャーで、その企業の経営/マーケティングを理解する事は容易ではありません。事前にネット等でその企業についての情報を収集する事により、あらかじめ十分な予備知識をもって授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。

授業週に提出するレポート 8 回以上を必須として、8 回を超えるレポート提出回数 24 %、レポート評価 76 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各業界の現状もさることながら、ゲストご本人のこれまでのキャリアや仕事についての考え方を聞きたいという学生の声があるため、今年度はできる限りゲストの方ご自身のことについてお話いただくようにお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

ゲスト企業の諒解が得られた場合は、授業で使用したスライドを授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

●この授業は、受講生を 80 名に絞ります。

受講を希望する学生は、学習支援システム、もしくは経営学部 Web 掲示板で、選抜のためのレポート課題を確認して、4 月 23 日（木）正午まで に、学習支援システムを通じてレポートを提出してください。選抜結果は、4 月 27 日（月）正午に学習支援システム、および経営学部 Web 掲示板で発表します。

●教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

●企業活動やマーケティング活動は常にさまざまな選択肢からの意思決定の連続です。この授業を通じて養っていただきたいのは、さまざまな仕事に対する想像力や洞察力です。常に「自分なら」という視点から、実際の経営や仕事を想像、洞察する習慣を身につける努力をしてください。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Learn about corporate activities and actual work in business

● We will understand practical management and marketing of companies by touching corporate activities and marketing activities of various companies.

● We will understand what something is done at work and what sort of fun of work is through the real voices and experiences of fascinating professionals.

MAN200FA

インターンシップⅠ

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

インターンシップⅠ

2～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

小林 健一

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「企業活動と仕事の実践を学ぶ」

■企業の経営やマーケティングを、さまざまな企業の企業活動/マーケティング活動に触れる事により実践的に理解します。

→「経営学を学ぶ自分」としての理解/学習

■仕事とは何か、また仕事の楽しさとは何かを、魅力ある職業人の方々の生の声を通して理解します。

→「将来社会に出ていく自分」としての理解/学習

【到達目標】

①実際の企業の企業活動/マーケティング活動のケースや社会で活躍している職業人の仕事、人生について聞きながら、そのポイントを理解できる。

②また、そこから、自分の人生や将来の働き方についてのヒントを得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

●ゲストをお招きする授業の性格上、受講学生数を最大 80 名に絞ることにより、集中して授業に取り組める環境を重視しています。

●毎回企業からゲスト・スピーカーを招き、約 80 分間のスピーチの後、質疑応答の時間を設けます。

●第 1 回目の授業で、各企業のプレゼンテーションを聞くための視点、及び事例として学ぶ各企業を紹介、その後各回授業で、実際に 12 社の企業事例を聞く事により、理解を深めます。

●以下の授業計画は 2019 年度の実績に基づくものです。2020 年度のゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 インターンシップⅠ の受講の仕方について
第 2 回	これまでの広告会社 からの広告会社	ゲスト企業紹介 株式会社 電通 執行役員 松尾 秀実 氏
第 3 回	小売業界の課題とドラッグストアの役割	ゲスト・スピーカー： ウエルシア薬局（株） 総合職採用部 採用マネジャー 宮崎 拓也 氏
第 4 回	食のあるべき姿を追求する	ゲスト・スピーカー： （株）エー・ピーカンパニー 魚事業部部長 兼 ブランド開発室室長 横澤 将司 氏
第 5 回	まずは挑戦、何でも自分でやってみること	ゲスト・スピーカー： 古河電池（株） 産業機器事業本部 佐藤 晴香 氏
第 6 回	一番身近な社会人の話	ゲスト・スピーカー： 法政大学 大学院事務局 大学院課 堀込 康介 氏
第 7 回	コピーライター/CM プランナーの仕事	ゲスト・スピーカー： （株）電通 コピーライター/CM プランナー 勝浦 雅彦 氏
第 8 回	プラットフォームサービスについて	ゲスト・スピーカー： プラットフォームサービス（株） 取締役会長 田辺 恵一郎 氏
第 9 回	様々な業界を支援するマーケティングリサーチ	ゲスト・スピーカー： （株）インテジ 経営推進本部 人事部 鈴木 有通子 氏

第 10 回 介護事業における人材採用の需給バランス及びその環境下での獲得戦略について

第 11 回 弥生と今とこれから

第 12 回 とあるロスジェネ世代のワークライフバランスの一例

第 13 回 起業家という職業

第 14 回 総括

ゲスト・スピーカー：
（株）らいふ
施設事業部 人事課 主任
板井 明子 氏

ゲスト・スピーカー：
弥生（株）
代表取締役社長
岡本 浩一郎 氏

ゲスト・スピーカー：
日本バーカライジング（株）
働きかた改革委員会 事務局
内田 康夫 氏

ゲスト・スピーカー：
（株）イオレ
代表取締役社長
小川 誠 氏

授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

80 分のレクチャーで、その企業の経営/マーケティングを理解する事は容易ではありません。事前にネット等でその企業についての情報を収集する事により、あらかじめ十分な予備知識をもって授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しませんが、授業に必要な資料は適宜配布します。

【参考書】

特に使用しません。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。

授業週に提出するレポート 8 回以上を必須として、8 回を超えるレポート提出回数 24 %、レポート評価 76 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各業界の現状もさることながら、ゲストご本人のこれまでのキャリアや仕事についての考え方を聞きたいという学生の声があるため、今年度はできる限りゲストの方ご自身のことについてお話いただくようにお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

ゲスト企業の諒解が得られた場合は、授業で使用するスライドを授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

●この授業は、受講生を 80 名に絞ります。

受講を希望する学生は、学習支援システム、もしくは経営学部 Web 掲示板で、選抜のためのレポート課題を確認して、4 月 23 日（木）正午まで、学習支援システムを通じてレポートを提出してください。選抜結果は、4 月 27 日（月）正午に学習支援システム、および経営学部 Web 掲示板で発表します。

●教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

●企業活動やマーケティング活動は常にさまざまな選択肢からの意思決定の連続です。この授業を通じて養っていただきたいのは、さまざまな仕事に対する想像力や洞察力です。常に「自分なら」という視点から、実際の経営や仕事を想像、洞察する習慣を身につける努力をしてください。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Learn about corporate activities and actual work in business

● We will understand practical management and marketing of companies by touching corporate activities and marketing activities of various companies.

● We will understand what something is done at work and what sort of fun of work is through the real voices and experiences of fascinating professionals.

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当以外には、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当以外には、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当以外には、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当以外には、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当以外には、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当以外には、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

1 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。
16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞きした企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

大下 勇二

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の理論的・実践的学習。財務会計の様々な問題を学習し、財務会計の基本的な考え方と具体的な会計処理を学習する。

【到達目標】

財務・会計情報がどのようなルールの下で作成されているのか、そのルールの基本的な考え方はどのようなものかといった財務会計理論の基礎の涵養を目指します。

さらに、二・三年生は財務会計の基礎を学習する中でプレゼンテーションおよび議論の仕方を学び、自分の考えを適切に表現する能力を養います。

四年生は財務会計の特定の問題を深く研究しこれを卒業論文の形にまとめることで、物事を深く考え・分析し、それをまとめる能力を養います。

二・三年生はレポート等の作成により、四年生は論文の作成により、問題の把握、問題へのアプローチの仕方、文献・資料の収集と分析の仕方、自分の考えのまとめ方・文章化など、レポート・論文を作成する能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

二・三年生は会計学の基礎とデータ分析の基礎を理解できるように努める。毎回報告者が財務会計テキストの担当部分をレポートし全員で議論する。報告者は事前に十分な準備をしておく必要があります。また、エクセルによるデータの分析方法を修得します。テキストに基づく基礎的学習の後、3グループに分かれて企業分析を行い、複数回報告（プレゼン）してもらい、最終的に報告書にまとめます。

四年生は卒業論文の作成に向けて論文のテーマを決め、関連する論文・文献の収集を始めて論文の作成作業に取りかかります。年数回の中間報告を行った上で最終的に卒業論文にまとめます。

授業は教室での学習が中心ですが、この他に証券取引所の見学や合宿を実施する予定です。

春学期の授業については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は4月23日です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	基本テキストの分担の決定、参考文献等の紹介など
第2回	財務会計の基礎	3 年生はテキスト第 1 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第3回	財務諸表の仕組み	3 年生はテキスト第 2 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第4回	棚卸資産の会計	3 年生はテキスト第 3 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第5回	有形固定資産の会計	3 年生はテキスト第 4 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

第6回	無形固定資産および繰延資産の会計	3 年生はテキスト第 5 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第7回	金融資産の会計	3 年生はテキスト第 6 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第8回	負債の会計	3 年生はテキスト第 7 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第9回	純資産の会計	3 年生はテキスト第 8 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第10回	収益と費用の会計	3 年生はテキスト第 9 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第11回	税効果会計	3 年生はテキスト第 10 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第12回	外貨換算会計	3 年生はテキスト第 11 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第13回	企業結合会計	3 年生はテキスト第 12 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第14回	連結財務諸表	3 年生はテキスト第 13 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告

II 秋学期

回	テーマ	内容
第15回	財務諸表の分析 (1)	3 年生はテキスト第 14 章の報告・議論。4 年生は卒業論文の中間報告
第16回	財務諸表の分析 (2)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第17回	財務諸表の分析 (3)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第18回	財務諸表の分析 (4)	3 年生はエクセルを用いた企業財務データ分析の演習。4 年生は卒業論文の中間報告
第19回	グループワークによる企業分析 (1)	複数のグループに分れ、特定の業界・企業を選定する作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第20回	グループワークによる企業分析 (2)	選定した業界・企業に関するデータの蒐集作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第21回	グループワークによる企業分析 (3)	蒐集した業界・企業のデータに基づいて様々な観点から分析作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第22回	グループワークによる企業分析 (4)	各グループごとにまとめた分析結果を中間報告し、議論する。
第23回	グループワークによる企業分析 (5)	中間報告での指摘に基づいて、分析の再検討を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第24回	グループワークによる企業分析 (6)	分析の再検討を反映した最終報告書の作成作業を行う。4 年生は卒業論文の中間報告
第25回	グループワークによる企業分析 (7)	各グループごとに最終報告し、これを報告書としてまとめる。4 年生は卒業論文の中間報告
第26回	卒業論文の最終報告 (1)	4 年生の卒業論文の最終報告をしてもらう。

- 第 27 回 卒業論文の最終報告 (2) 4 年生の卒業論文の最終報告をしても
らう。
- 第 28 回 グループ報告書および卒業論文の提出と総括 グループ報告書と卒業論文を提出して
もらい、1 年間のゼミ活動を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報告担当者でなくても、テキストを事前に読んでおき、質問事項を考えておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

財務会計のスタンダードなテキストを用います。田中建二著『財務会計入門』（最新版）（中央経済社）を使用する予定です。データ分析に関するテキストは最初の授業で指示します。

【参考書】

最初の授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

今期、成績評価の方法と基準を変更します。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

会計データの作成プロセスの面とこれに基づく分析の面をバランス良く学習できるよう工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

本ゼミは財務会計の分野を中心に学習しますので、1 年次の簿記入門Ⅰ・Ⅱ、2 年次の会計学入門Ⅰ/Ⅱの既習者であり、3・4 年次の財務会計論Ⅰ/Ⅱ、税務会計論Ⅰ/Ⅱ、国際会計論Ⅰ/Ⅱ、経営分析Ⅰ/Ⅱ、Ⅲ/Ⅳなどの会計関連の専門科目を履修することが望ましい。

ゼミでの報告は基本的に簿記 3 級程度以上の知識、パワーポイントの基礎およびエクセルの基礎を修得していることを前提としていますので、4 月の授業開始までに、これらを修得しておいてください。

【Outline and objectives】

The objective of this subject is to understand the bases of financial accounting and financial data analysis.

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
		・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26

8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27
9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 34
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 35
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 36
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 37
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 38
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
28.	ゼミのまとめ (2)	・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスイスブックにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
		・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26

8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27
9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 34
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 35
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 36
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 37
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 38
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
28.	ゼミのまとめ (2)	・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスペインクにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
		・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26

8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27
9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 34
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 35
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 36
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 37
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 38
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
28.	ゼミのまとめ (2)	・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスペインクにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
		・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26

8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27
9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 34
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 35
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 36
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 37
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 38
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
28.	ゼミのまとめ (2)	・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスイスブックにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
		・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26

8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27
9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 34
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 35
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 36
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 37
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 38
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
28.	ゼミのまとめ (2)	・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスペインクにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
 - ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
 - ③学生は、②の結論を他人に伝えるときにも、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
		・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26

8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27
9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 34
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 35
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 36
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 37
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 38
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 39
		・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
28.	ゼミのまとめ (2)	・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
		・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスペインクにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 瑤 晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・ゼミ生は、今回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど） 40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

金 塔晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・ゼミ生は、今回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 瑤 晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・ゼミ生は、今回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど） 40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN300FA

演習 4

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

金 塔晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・ゼミ生は、今回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合があります。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど） 40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 瑤 晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・ゼミ生は、今回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 瑤 晋

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社の仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

- ①グループディスカッション（春学期）
 - ・ゼミ生は、今回の学習内容について予習を行う。
 - ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
 - ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
 - ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
 - ・他のグループからフィードバックを受ける。
 - ・講師から補足を行う。
 - ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合がある。
 - ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。
- ②プロジェクトの発表（秋学期）
 - ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。
- ③出欠管理
 - ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とペッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協働役割をもつて研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外(米国・ヨーロッパ)に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	テーマの確認 (1)	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認 (2)	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論 (1)	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論 (2)	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論 (3)	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究 (1)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究 (2)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究 (3)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究 (1)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究 (2)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢(原則としてすべてに参加すること)、② 2・3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出(発表)を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協働し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを(原則として)3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書(教員が指定)を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外(米国・ヨーロッパ)に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献(専門書)の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定 (1)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定 (2)	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読 (1)	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読 (2)	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読 (3)	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読 (4)	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読 (5)	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	テーマの確認 (1)	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認 (2)	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論 (1)	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論 (2)	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論 (3)	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究 (1)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究 (2)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究 (3)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究 (1)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究 (2)	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】 夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点 (50%)、発表内容について (50%) で評価する。

【秋学期評価】 ① 演習への取り組み姿勢 (原則としてすべてに参加すること)、② 2・3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出 (発表) を義務とする。以上の点について平常点 (50%)、発表、論文の内容について (50%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協働役割をもつて研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
第 15 回	テーマ	内容
第 16 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 18 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 21 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び
プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR及びSRIの重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定した大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返し進めていく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「企業と社会の関係構造を学際的に理解すること」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「“これからの企業のあり方”について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネジャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、エーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び
プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ (ゼミコン)。
- ③無印良品への企画提案 (MUJI プロジェクト)。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」(Student Innovation College) は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読 (以下、原則毎回)
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明

第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間 (第 3 回) 報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告 (秋カンに参加)	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告 (冬カン)	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動 (第 2 版)』碩学舎、2020 年。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ (ゼミコン)。
- ③無印良品への企画提案 (MUJI プロジェクト)。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」(Student Innovation College) は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読 (以下、原則毎回)
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明

第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間 (第 3 回) 報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告 (秋カに参加)	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告 (冬カ)	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動 (第 2 版)』碩学舎、2020 年。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ (ゼミコン)。
- ③無印良品への企画提案 (MUJI プロジェクト)。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」(Student Innovation College) は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。 <http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読 (以下、原則毎回)
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明

第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間 (第 3 回) 報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告 (秋カンに参加)	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 23 回	卒論第 2 回報告②	卒論調査データの報告
	S カレ第 8 回報告	本番どりのプレゼン、相互にフィードバック
第 24 回	卒論第 2 回報告③	卒論調査データの報告
	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告 (冬カン)	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動 (第 2 版)』碩学舎、2020 年。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN300FA

演習 4

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

西川 英彦（秋学期代講：本條 晴一郎）

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期		
第 15 回	テーマ S カレ第 4 回報告	内容 S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告（秋カに参加）	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告（冬カ）	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、『『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング』である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ (ゼミコン)。
- ③無印良品への企画提案 (MUJI プロジェクト)。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」(Student Innovation College) は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。 <http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読 (以下、原則毎回)
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明

第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間 (第 3 回) 報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期		
第 15 回	テーマ S カレ第 4 回報告	内容 S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告 (秋カンに参加)	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告 (冬カン)	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動 (第 2 版)』碩学舎、2020 年。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

西川 英彦 (秋学期代講：本條 晴一郎)

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ (ゼミコン)。
- ③無印良品への企画提案 (MUJI プロジェクト)。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」(Student Innovation College) は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読 (以下、原則毎回)
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明

第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告
第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間 (第 3 回) 報告	デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告 (秋カに参加)	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプの報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告 (冬カ)	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動 (第 2 版)』碩学舎、2020 年。

【参考書】

- ①トム ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年.
- ②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
- ③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.
- ④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年.

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。
授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト 2	1 章 + 補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	4 章の輪読
4	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	5 章の輪読
5	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 3	1 章の輪読
6	テキスト 3	コンピュータ演習 1
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 3	2 章の輪読
8	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 3	3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 3	4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1	コンピュータ演習 3
	テキスト 3	5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3	6 章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト 3	7 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 1
18	テキスト 3	8 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3	9 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3	10 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていただくが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015) 『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015) 『学力』の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015) 『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話のご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしつかり説明できるように、つまりものごとをしつかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト 2	1 章 + 補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	4 章の輪読
4	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	5 章の輪読
5	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 3	1 章の輪読
6	テキスト 3	コンピュータ演習 1
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 3	2 章の輪読
8	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 3	3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 3	4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1	コンピュータ演習 3
	テキスト 3	5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3	6 章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト 3	7 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 1
18	テキスト 3	8 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3	9 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3	10 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていただくが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしつかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話のご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト 2	1 章 + 補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	4 章の輪読
4	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	5 章の輪読
5	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 3	1 章の輪読
6	テキスト 3	コンピュータ演習 1
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 3	2 章の輪読
8	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 3	3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 3	4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1	コンピュータ演習 3
	テキスト 3	5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3	6 章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト 3	7 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 1
18	テキスト 3	8 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3	9 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3	10 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていただくが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。

ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしつかり説明できるように、つまりものごとをしつかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト 2	1 章＋補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	4 章の輪読
4	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	5 章の輪読
5	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 3	1 章の輪読
6	テキスト 3	コンピュータ演習 1
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 3	2 章の輪読
8	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 3	3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 3	4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1	コンピュータ演習 3
	テキスト 3	5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3	6 章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト 3	7 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 1
18	テキスト 3	8 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3	9 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3	10 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていただくが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしつかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話のご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト 2	1 章＋補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	4 章の輪読
4	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	5 章の輪読
5	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 3	1 章の輪読
6	テキスト 3	コンピュータ演習 1
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 3	2 章の輪読
8	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 3	3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 3	4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1	コンピュータ演習 3
	テキスト 3	5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3	6 章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト 3	7 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 1
18	テキスト 3	8 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3	9 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3	10 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしてくることが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」であると考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話のご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしつかり説明できるように、つまりものごとをしつかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方	ゼミ運営について話します
	テキスト 2	1 章 + 補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1	1 章の輪読
	テキスト 2	4 章の輪読
4	テキスト 1	2 章の輪読
	テキスト 2	5 章の輪読
5	テキスト 1	3 章の輪読
	テキスト 3	1 章の輪読
6	テキスト 3	コンピュータ演習 1
	懸賞論文	キックオフ会議
7	テキスト 1	4 章の輪読
	テキスト 3	2 章の輪読
8	テキスト 1	5 章の輪読
	テキスト 3	3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1	6 章の輪読
	テキスト 3	4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1	コンピュータ演習 3
	テキスト 3	5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定 + 準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3	6 章の輪読
	懸賞論文	仕上げ作業
17	テキスト 3	7 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 1
18	テキスト 3	8 章の輪読
	懸賞論文	プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3	9 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3	10 章の輪読
	懸賞論文	プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていただくが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」とであると考え、毎週のゼミに向けた準備をしつかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バイティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットャブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バイティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
 ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
 ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バイティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バイティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
 ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
 ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN400FA

演習 6

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

山 崎 輝

※ 原則春学期、秋学期連続で受講してください。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とブットラブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR） EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際バリエーション関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・バイティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
 ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
 ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当者以外は、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しよう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてプレインストリングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。

16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞した企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン ・Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 8 ・同 Case 11
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 12 ・同 Case 13
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 14 ・同 Case 15
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 25 ・同 Case 26
8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27 ・同 Case 34

9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35 ・同 Case 36
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 37 ・同 Case 38
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 39 ・同 Case 51
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 52 ・同 Case 53
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 54 ・同 Case 59
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 60 ・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66 ・同 Case 67
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 76 ・同 Case 77
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 78 ・同 Case 85
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 88 ・同 Case 89
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 90 ・同 Case 98
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 99 ・同 Case 103
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 104 ・同 Case 105
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 106
24.	組織と人間行動	・映画「チャイナ・シンドローム」
25.	4 年生卒論報告 (2)	・研究経過報告（グループ 1）
26.	4 年生卒論報告 (3)	・研究経過報告（グループ 2）
27.	ゼミのまとめ (1)	・日本の時事的テーマに関する議論（例:働き方改革）
28.	ゼミのまとめ (2)	・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイェスブックにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 塔 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
- ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
- ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
- ・他のグループからフィードバックを受ける。
- ・講師から補足を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合があります。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③出欠管理

- ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN200FA

演習 1・2

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

児玉 靖司

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 16 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 18 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 21 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（4）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネージャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、ユーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN200FA

演習 1・2

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN300FA

演習 3・4

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

西川 英彦

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告

第 9 回 定量的調査の相互学習③ 因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明

第 10 回 S カレ第 1 回報告 S カレのラフ調査・プロトタイプの報告、相互にフィードバック

第 11 回 ゼミコン第 3 回報告 ゼミコン報告、相互にフィードバック

第 12 回 S カレ第 2 回報告 フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプの報告

第 13 回 ゼミコン最終発表
S カレ中間（第 3 回）報告 デザイナーにプレゼン、講評をうける

第 14 回 卒論第 1 回報告 先行研究レビューの報告

II 秋学期
回 テーマ 内容

第 15 回 S カレ第 4 回報告 S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック

第 16 回 MUJI プロジェクトキックオフ 良品計画の開発者による課題の説明および質疑

第 17 回 S カレ第 5 回報告（秋カンに参加） S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック

第 18 回 MUJI プロジェクト第 1 回報告 プロトタイプの報告、相互にフィードバック

第 19 回 S カレ第 6 回報告 S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック

第 20 回 MUJI プロジェクト第 2 回報告 プロトタイプの報告、相互にフィードバック

第 21 回 S カレ第 7 回報告
卒論第 2 回報告① S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック

第 22 回 MUJI プロジェクト第 3 回報告
卒論第 2 回報告② 卒論調査データの報告

第 23 回 S カレ第 8 回報告
卒論第 2 回報告③ 卒論調査データの報告

第 24 回 MUJI プロジェクト第 4 回報告
卒論第 2 回報告④ 調査および企画の報告、相互にフィードバック

第 25 回 S カレ第 9 回報告（冬カン） フィードバックをもとに修正したプレゼン

第 26 回 MUJI プロジェクト最終報告 良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける

第 27 回 卒論第 3 回報告① 調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

第 28 回 卒論第 3 回報告② 調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

【参考書】

①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社！― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。

②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%
演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方 テキスト 2	ゼミ運営について話します 1 章＋補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1 テキスト 2	1 章の輪読 4 章の輪読
4	テキスト 1 テキスト 2	2 章の輪読 5 章の輪読
5	テキスト 1 テキスト 3	3 章の輪読 1 章の輪読
6	テキスト 3 懸賞論文	コンピュータ演習 1 キックオフ会議
7	テキスト 1 テキスト 3	4 章の輪読 2 章の輪読
8	テキスト 1 テキスト 3	5 章の輪読 3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1 テキスト 3	6 章の輪読 4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1 テキスト 3	コンピュータ演習 3 5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3 懸賞論文	6 章の輪読 仕上げ作業
17	テキスト 3 懸賞論文	7 章の輪読 プレゼン練習 1
18	テキスト 3 懸賞論文	8 章の輪読 プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3 懸賞論文	9 章の輪読 プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3 懸賞論文	10 章の輪読 プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」と考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN200FA

演習 1・2

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN300FA

演習 3・4

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

山 崎 輝

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本原則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
- ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
- ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
- ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当者以外は、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。

16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花崗誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞した企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・Nkomo et al.(2011) の Case 1
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 2
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 8
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 11
8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 12
		・同 Case 13
		・同 Case 14
		・同 Case 15
		・同 Case 25
		・同 Case 26
		・同 Case 27
		・同 Case 34

9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 36
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 37
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 38
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 39
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 51
		・同 Case 52
		・同 Case 53
		・同 Case 54
		・同 Case 59
		・同 Case 60
		・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 67
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 76
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 77
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 78
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 85
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 88
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 89
24.	組織と人間行動	・同 Case 90
25.	4 年生卒論報告 (2)	・同 Case 98
26.	4 年生卒論報告 (3)	・同 Case 99
27.	ゼミのまとめ (1)	・同 Case 103
		・同 Case 104
		・同 Case 105
		・同 Case 106
28.	ゼミのまとめ (2)	・映画「チャイナ・シンドローム」
		・研究経過報告（グループ 1）
		・研究経過報告（グループ 2）
		・日本の時事的テーマに関する議論（例：働き方改革）
		・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。

・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイスペインクにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 塔 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
- ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
- ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
- ・他のグループからフィードバックを受ける。
- ・講師から補足を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合があります。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③出欠管理

- ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

児玉 靖司

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】**【概要】**

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 16 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 18 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 21 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（4）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追っていくだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネージャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、ユーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

28 最終プレゼンテーション 提携先投資信託会社への表敬訪問及び プレゼンテーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

西川 英彦

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告

第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプ の報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプ の報告 デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互に フィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキック オフ	良品計画の開発者による課題の説明お よび質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告（秋カ ンに参加）	S カレのコンセプト案の報告、相互に フィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプ の報告、相互にフィード バック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互 にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプ の報告、相互にフィード バック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互 にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィード バック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どおりのプレゼン、相互にフィード バック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィード バック
第 25 回	S カレ第 9 回報告（冬カ ン）	フィードバックをもとに修正したプレ ゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終 報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評を うける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互に フィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互に フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

【参考書】

①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社! ― 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。

②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

③ラッセル・ベルク・アイリーン・フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%

演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方 テキスト 2	ゼミ運営について話します 1 章＋補論の輪読
2	テキスト 2	2 章と 3 章の輪読
3	テキスト 1 テキスト 2	1 章の輪読 4 章の輪読
4	テキスト 1 テキスト 2	2 章の輪読 5 章の輪読
5	テキスト 1 テキスト 3	3 章の輪読 1 章の輪読
6	テキスト 3 懸賞論文	コンピュータ演習 1 キックオフ会議
7	テキスト 1 テキスト 3	4 章の輪読 2 章の輪読
8	テキスト 1 テキスト 3	5 章の輪読 3 章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト 1 テキスト 3	6 章の輪読 4 章の輪読
11	テキスト 1	コンピュータ演習 2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト 1 テキスト 3	コンピュータ演習 3 5 章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト 3 懸賞論文	6 章の輪読 仕上げ作業
17	テキスト 3 懸賞論文	7 章の輪読 プレゼン練習 1
18	テキスト 3 懸賞論文	8 章の輪読 プレゼン練習 2
19	テキスト 3	復習セッション 1
20	インゼミ	インゼミ 1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト 3	復習セッション 2
22	テキスト 3 懸賞論文	9 章の輪読 プレゼンの仕上げ 1
23	テキスト 3 懸賞論文	10 章の輪読 プレゼンの仕上げ 2
24	インゼミ	インゼミ 2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ 3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト 3	総復習 1
27	テキスト 3	総復習 2
28	テキスト 3	総復習 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」と考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3 年生に関しては、各学期で合計で 3 回以上、通年で 4 回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的に D 評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、3 年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1

MAN400FA

演習 5・6

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

山 崎 輝

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリランチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモーメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本原則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
 ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
 ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

大木 良子

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ミクロ経済学のツールを用いて、企業や市場の分析を行い、産業組織論について専門的な知識を得る。
2. 関連する最近の事例を詳しく調べてまとめ、経済理論を用いて分析できるようになる。
3. 知識を身につけると同時に、問題意識を持つ訓練、またプレゼンテーションの技術、論理的に議論を構築する力をつける。

【到達目標】

ミクロ経済学の考え方を身につけ、自分の考え方や他の学問分野との違いを明確にすることにより、社会に対する複眼的な視点を得ることができるようになる。

考える力、書く力、説明する力を身に付けることで、自分なりの考えを導き、伝えるプロセスを確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインで行います。それに伴い、以下の点に変更があります。

1. テキストの輪読：各自で教科書の指定された章事前に読み、まずはグループで質疑応答・ディスカッションを Zoom 等を使って行います。その後、ゼミ全体で集まり、グループごとに成果の発表を行い、残る疑問点についてインタラクティブに解決していきます。

2. 文章の書き方・読み方：当面は教科書の読んだ箇所について、ロジックの整理を行い、毎回提出します。提出物はゼミ全体で共有し、コメントを付け合います。軌道にのったところで、別途短い論文等を事前に指定しますので、同様にロジックの整理と相互コメントを行います。

テキストの輪読、要約レポートの読み比べ、3 年生はケーススタディの執筆、4 年生は卒業論文の執筆を行う。

輪読：受講者と相談した上で、ミクロ経済学に関連するテキストやテーマを選び、毎回、テキストの各章を担当者を決めて輪読する。担当者は、そのトピックについて講師として授業を行う。そのために必要なレジュメなど発表の準備をする。このとき、どのようにプレゼンテーションを行えばゼミの参加者が理解しやすいか、工夫することも重要になる。また、プレゼンテーションの最後に、練習問題・ディスカッションテーマを用意しゼミ生全員に出題する。担当者以外は、その章を事前に読み、討論に備える。グループディスカッションをして、代表者はグループの結論を発表する。

要約レポートの読み比べ：各自が選んだテキストの章について 500-1000 字程度の要約を提出し、全員でそのテーマについて議論する。加えて、要約として優れている点を指摘しあう。要約執筆を通して客観的で簡潔な文章を書くことに慣れる。

ケーススタディの執筆：インゼミで取り上げる、産業組織論のトピックを応用できるような市場、企業に関するテーマについて、ケーススタディを執筆する。分析ツールとして産業組織論やゲーム理論を用いる。ケーススタディの執筆を通じて学術的文章の書き方を身につけ、卒業論文のテーマを決めることに役立てる。

卒業論文の執筆：論理的な文章の書き方、専門文献の探し方を学んだ上で、自分の関心を具体的な問題に落とし込み、研究する。中間・最終報告では、論文の内容についてプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	候補の中から輪読するテキストを決定する。報告の具体的なひな形を説明し、報告の順番を決める。
2	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
3	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
4	ロジックツリーの理解	日本語論文を読み、そのロジックツリーを作成する
5	要約の批評	第 4 回で学んだ論文について、ロジックツリーを活かした要約を執筆し参加者で批評をする
6	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
7	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
8	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
9	学術論文のルール	学術論文執筆の際に必要な引用の考え方など基本ルールを学ぶ。新聞記事などと比較し違いを認識する。
10	テキスト 1 の輪読とテキスト 2 の要約	テキスト 1：担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。テキスト 2：担当者が要約を配り、全体で批評を行う。
11	テキスト 1 に関する復習	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
12	インゼミ準備	インゼミのテーマについて、チームに分かれてブレインストーミングを行い調査方針を確定する。
13	卒業論文テーマ発表会	4 年生による卒業論文のテーマ発表会
14	秋学期ケーススタディテーマに関するディスカッション	3 年生が各自の関心に基づき、テーマを発表し、研究対象を絞り込む

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	インゼミ準備	夏季休暇中の作業進捗を確認し、この先の作業計画を立てる。

16	卒業論文中間報告会	4 年生による卒業論文の中間報告会
17	論文執筆方法	論文の基本的な成り立ち、論理構造、引用のしかたなど基本的な知識を学ぶ。
18	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
19	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
20	卒業論文中間報告会	卒業論文の中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
21	インゼミ準備	ケーススタディの中間報告会。プレゼンテーションと質疑応答
22	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 について、担当者が報告し、全体で質疑応答、議論を行う。
23	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
24	テキスト 1 の輪読	テキスト 1 についてこれまで学んだ内容に関するグループで応用問題を解き理解を深める。
25	インゼミ準備	インゼミで用いる資料を使いプレゼンテーションを行い、改善点を指摘し合う。
26	ケーススタディ最終報告会	3 年生によるケーススタディの最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
27	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答
28	卒業論文最終報告会	4 年生による卒業論文の最終報告会。プレゼンテーションと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストを予習し、具体的な質問を考え、授業中の議論への準備をすること。

運営はなるべく参加者に委ねるため、何を勉強したいのか、何を明らかにしたいのか、またそのためには何をすればよいのかについて、自主的に取り組み、問題が生じれば自分で解決すること。

事前準備にあたり、分からない箇所があってもかまわないが、分からない部分をはっきりさせて授業中に質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読用テキストとして、以下を指定する。

『産業組織とビジネスの経済学』 花蘭誠 有斐閣 2018 年

【参考書】

文章の書き方、ロジカルシンキング等に関する書籍を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

報告・議論への主体的な関わり 50 %

提出物 50 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生の状況に応じて、授業内容を調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学に関する基本的な知識を習得済みであることを望みます。

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学、産業組織論Ⅰ/Ⅱと強く関連しています。すべての科目が履修済みであること、または並行して履修することを要望します。

【実務経験のある教員による授業】

経営コンサルティング会社において勤務した経験があります。実際に見聞した企業の事例なども適宜紹介します。

【Outline and objectives】

1. We will learn Industrial Organization theory to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
2. Through writing a case study and a graduation thesis, students get the ability to analyze real-world examples by applying microeconomic theory.
3. In addition to knowledge acquisition, this course provides training of logical thinking, presentation and discussion skills.

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

奥西 好夫

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・人と組織、とりわけ人事・雇用問題を主要テーマとする。この領域に関する基本的な知識を習得することは当然だが、それ自体はどちらかと言えば、「ゼミ」より「講義」あるいは「自習」の役割である。ゼミでは、むしろプレゼンテーション、質疑、議論、司会など、集団の中で効果的なコミュニケーションを行うことに力点を置き、そうした能力を身につける。そのための素材として、主に英文で書かれたケースを用いる。

【到達目標】

- ①学生は、自ら適切な課題を見つけることができる。
- ②学生は、①の課題に関し、関連文献を読んだり、データを分析したり、関係者の話を聞いたりして、よく考え、自分なりの結論を導くことができる。
- ③学生は、②の結論を他人に伝えるときに、建設的な議論を通して、結論の説得力を高めることができる。
- ・こうした能力は、将来、どこでどのような仕事をする場合でも、きわめて重要である。
- ・また、英文ケース教材を通じて、経営関係の英文を正確に読み取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- ・2・3 年生は、グループ別に割り当てられた特定のテーマ（ケース素材）について報告し、それをもとに全員で議論する。グループ編成（原則として 2 人 1 組で、組み合わせは毎回変更）と担当テーマは学期はじめに決める。
- ・4 年生は、それに加えゼミ論文を作成する。
- ・映画鑑賞、社会人とのディスカッションなども随時行う。
- ・なお、下記の通常授業以外に夏合宿、春合宿を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	・ゼミの概要、年間計画、進め方等の確認
2.	発表・議論の仕方、説得の手法	・映画「12 人の怒れる男」
3.	英文ケースの報告と議論 (1)	・スティーブ・ジョブズのプレゼン ・ Nkomo et al.(2011) の Case 1 ・同 Case 2
4.	英文ケースの報告と議論 (2)	・同 Case 8 ・同 Case 11
5.	英文ケースの報告と議論 (3)	・同 Case 12 ・同 Case 13
6.	英文ケースの報告と議論 (4)	・同 Case 14 ・同 Case 15
7.	英文ケースの報告と議論 (5)	・同 Case 25 ・同 Case 26
8.	英文ケースの報告と議論 (6)	・同 Case 27 ・同 Case 34

9.	英文ケースの報告と議論 (7)	・同 Case 35 ・同 Case 36
10.	英文ケースの報告と議論 (8)	・同 Case 37 ・同 Case 38
11.	英文ケースの報告と議論 (9)	・同 Case 39 ・同 Case 51
12.	英文ケースの報告と議論 (10)	・同 Case 52 ・同 Case 53
13.	英文ケースの報告と議論 (11)	・同 Case 54 ・同 Case 59
14.	英文ケースの報告と議論 (12)	・同 Case 60 ・同 Case 65

II 秋学期

回	テーマ	内容
15.	4 年生卒論報告 (1)	・テーマ、研究計画の報告、
16.	英文ケースの報告と議論 (13)	・同 Case 66 ・同 Case 67
17.	英文ケースの報告と議論 (14)	・同 Case 76 ・同 Case 77
18.	英文ケースの報告と議論 (15)	・同 Case 78 ・同 Case 85
19.	英文ケースの報告と議論 (16)	・同 Case 88 ・同 Case 89
20.	英文ケースの報告と議論 (17)	・同 Case 90 ・同 Case 98
21.	英文ケースの報告と議論 (18)	・同 Case 99 ・同 Case 103
22.	英文ケースの報告と議論 (19)	・同 Case 104 ・同 Case 105
23.	英文ケースの報告と議論 (20)	・同 Case 106
24.	組織と人間行動	・映画「チャイナ・シンドローム」
25.	4 年生卒論報告 (2)	・研究経過報告（グループ 1）
26.	4 年生卒論報告 (3)	・研究経過報告（グループ 2）
27.	ゼミのまとめ (1)	・日本の時事的テーマに関する議論（例:働き方改革）
28.	ゼミのまとめ (2)	・「健全な懐疑精神」とは？（例：生産性に関する議論）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・英文ケース素材は、報告担当者だけでなく、全員が事前によく読み込んだ上でゼミに参加すること。また、報告担当者は、奥西に事前相談するなどして、英文解釈上の疑問点を解消しておくこと。
・さらに、各回の報告や議論における反省点を次回以降に活かすよう、十分意識すること。担当者は、毎回の議論のテーマ、要点、反省点等をゼミのフェイェスブックにアップする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・英文ケース素材として、Nkomo, Fottler and McAfee, Human Resource Management Applications, 7th edition (South-Western, 2011) を使う予定。その他、参考文献は適宜指示する。

【参考書】

・日本の人事管理に関する基礎知識を得るには、例えば、今野浩一郎・佐藤博樹『マネジメント・テキスト 人事管理入門（第2版）』（日本経済新聞社、2009）がある。また、使用するケースは大半がアメリカの事例であるため、アメリカの人的資源管理に関する予備知識が必要となることがある。その場合は、インターネット等で調べるか、奥西に事前に相談してほしい。

・なお、「授業の到達目標」で記した、自分で課題を見つけ、自分なりの結論を導く力を身につける一つの手がかりとして、ロバート・フランク『日常の疑問を経済学で考える』（日本経済新聞社、2008）とマイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010）を薦める。

【成績評価の方法と基準】

・「勤勉性」（無断欠席、遅刻をしない、課題にきちんと取り組む）と「積極性」（ゼミでの発言、合宿の企画など）を重視する。全員の責務として行うべき事柄に関し、「他人任せ」、「ただ乗り精神」（自分は何もしなくとも、どうせ誰かがやってくれる）は、奥西の嫌うところであり、マイナス評価とする。これらの「平常点」を総合評価する（ウェイトは100%）。

・なお、4年生の場合は、ゼミ論文（卒論）の内容、質も重視する（平常点が70%、卒論が30%）。

【学生の意見等からの気づき】

・これまで、アンケートでの改善提案はほとんどなかったが、一点だけ「卒論に関する情報を明確にしてほしい」との指摘があった。毎年卒論に関するコメントを全員公開でフィードバックしているが、今後は事前の書き方指導にもより力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・インターネットの普及により、さまざまな「情報」の入手がきわめて容易になったが、それらの中には、誤ったもの、偏った一面的なものも多い。ゼミでは、それらへの判断力（「健全な懐疑精神」）も磨いてほしい。

・また、ゼミへの参加に当たっては、自分なりの「取り柄」を活かし、「得意技」を持つように心がけてほしい。

・担当教員は、1980～89年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。そうした組織での仕事経験から得られた知見は、本演習でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・（報告や議論の前提となる予備知識を得るという意味で）関連科目は組織経済学Ⅰ、人的資源管理Ⅰ/Ⅱなど。

【Outline and objectives】

・The main theme of this seminar is people and organization, particularly personnel and employment problems. Cases written in English are used as course materials.

・Students are expected to acquire capability of effective communication in a group, through presenting cases, discussing problems and steering them. They should also learn basic knowledge of the field mainly through other relevant lectures and self-study.

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

金 塔 晋

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習ではファイナンスの基礎を学びます。ファイナンスは、投資論（インベストメント論）とコーポレートファイナンスに大きく分けることができます。投資論は、投資家が行う金融資産投資意思決定問題を、コーポレートファイナンスは、企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題を扱う分野です。この授業では、ファイナンスに関する知識を深めると共に、学生自ら問題意識を持ち出し、その解決策を試みることを強く促します。

【到達目標】

- ・金融資産価値の一般評価原理が理解できます。
- ・株式会社仕組みが分かるようになります。
- ・株式、債券、デリバティブの評価に関する理解が深まります。
- ・資金調達のプロセスが分かるようになります。
- ・企業価値の評価、M&A の意思決定に関する理解が深まります。
- ・どのような基準で企業の財務意思決定を行うべきかについて理解が深まります。
- ・プレゼン能力が培われます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

学習支援システムで授業が開始されるのは 2020 年 4 月 21 日（火）です。授業は、次の要領で行われます。

①グループディスカッション（春学期）

- ・ゼミ生は、次回の学習内容について予習を行う。
- ・グループ毎に、予習内容を確認し、互いの理解を深める。
- ・講師から与えられる課題についてグループディスカッションを行い、その解決策を模索する。
- ・グループ毎に課題の解決策を発表する。
- ・他のグループからフィードバックを受ける。
- ・講師から補足を行う。
- ・内容によっては、講師からの講義が先行する場合があります。
- ・課題によっては表計算ソフトを利用することを推奨する。

②プロジェクトの発表（秋学期）

- ・個人、またはチーム毎に、ファイナンスや経済学に関連したテーマをひとつ選び、その分析を試みる。

③出欠管理

- ・単位取得のためには 2/3 以上の出席が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
1	企業の資金調達手段	日本企業の資金調達手段の構成
2	マネーの時間価値	キャッシュフローの現在価値、将来価値、割引率
3	資本構成理論：基礎 1	完全資本市場、財務レバレッジと財務リスク、MM の命題

4	資本構成理論：基礎 2	負債利用の節税効果、修正 MM 命題、倒産コスト、個人税と MM 命題
5	資本構成理論：発展	逆選択問題とベッキングオーダー理論、エージェンシー問題と資本構成
6	株主資本による資金調達 1	株式発行の方法と特徴、新規株式公開のプロセス、新規株式公開の費用
7	株主資本による資金調達 2	公募増資の現状と費用
8	負債による資金調達 1	負債による資金調達と情報、社債と借入の選択
9	負債による資金調達 2	担保と借入、担保と企業再生
10	内部資金と内部資本市場	内部資金と投資水準、内部資本市場
11	配当政策 1	配当政策における MM の命題、税制と顧客効果
12	配当政策 2	情報の非対称性と配当、フリーキャッシュフロー仮説
13	自社株買い	ペイアウト政策、配当と自社株買い、自社株買いの動機付け
14	総括および秋学期個人プロジェクトに向けての準備	企業の財務意思決定の総括、秋学期個人プロジェクト報告に関するガイダンス

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	プロジェクトの発表	報告 1, 報告 2
16	プロジェクトの発表	報告 3, 報告 4
17	プロジェクトの発表	報告 5, 報告 6
18	プロジェクトの発表	報告 7, 報告 8
19	入ゼミの面接と選考	入ゼミ希望者の面接と選考
20	プロジェクトの発表	報告 9, 報告 10
21	プロジェクトの発表	報告 11, 報告 12
22	プロジェクトの発表	報告 13, 報告 14
23	プロジェクトの発表	報告 15, 報告 16
24	プロジェクトの発表	報告 17, 報告 18
25	東京証券取引所見学及びセミナー受講	証券取引の仕組み、上場基準などの学習、セミナーの受講、模擬投資の体験
26	プロジェクト発表	報告 19, 報告 20
27	プロジェクト発表	報告 21, 報告 22
28	総括	プロジェクト報告における改善点、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

表計算ソフトを使いこなせるようになってください。日頃、経済・経営関連ニュースに関心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、いくつかの候補から初回の授業で決めます。また、適宜配布資料を配ります。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の報告 30 %、平常点（質問、コメントなど）40 %、プロジェクトの発表 30 %に基づき総合的に評価します。特に、出席率が低い場合、またはプロジェクトの報告を怠る場合は、評価が極めて厳しくなります。

【学生の意見等からの気づき】

初心者にも分かりやすい解説を心掛けます。

【学生が準備すべき機器他】

テーマによっては、表計算ソフトを用いて解説を行いますので、ノートパソコンを持参してください。また、授業支援システムを利用しますので、随時チェックしてください。

【Outline and objectives】

This seminar covers the basics of finance. Topics include corporate finance, portfolio theory, derivatives pricing and associated issues. Students will be responsible for participating in an individual and/or group presentation. Active class participation is highly encouraged.

MAN400FA

演習 5・6

MAN200FA

演習 1

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

児玉 靖司

4 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次 / 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次 / 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次 / 3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に経営戦略に必要な経営情報学に関するテーマを選択し、自身の研究として考察を行う。ゼミの中で協調し役割をもって研究活動を行い、卒業論文としてレポート、論文として結果を残すことを目標とする。経営情報学やマーケティングをテーマとして、疑問に思った点をまとめ文献を調査、フィールドワーク等を実施し議論を行う。

【到達目標】

文献を調査しプレゼンテーションとして発表していく方法を学ぶ。主に経営情報学について疑問に思った点を解決するために、文献を調査したりインターネット上で情報検索したりし問題解決する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

【概要】

経営戦略に必要な情報、知識について調査、研究をする。最近では、SNS (Social Networking Service)、CMS (Contents Management System)、LMS (Learning Management System) などさまざまな情報システムが存在し、経営戦略に利用されている。これら情報システムを中心としたビジネスプラン策定、情報システムの基本的な仕組みについて、戦略活動に応用する手段について考察する。さらに、マーケティング手法についても学び、経営戦略に役立てることを考える。例えば、1. ビジネスモデル策定、2. 集合知の経営戦略への応用、3. 経営情報システムビジネスモデル、4. アンケート調査による経営分析など様々なアプローチが考えられる。

【方法】

ゼミのメンバを（原則として）3 人までからなるグループに分け、2・3 年次には、目標とする分野の専門書（教員が指定）を読破し、論文またはレポートとしてまとめ発表してもらう。4 年次には、さらに調査、実現を行い卒業論文としてまとめ発表することを目標とする。

現在のところ、1. 情報システムと経営戦略、2. 携帯端末アプリの設計、3. 新しい経営情報システムビジネスモデルなどさまざまなテーマについて自由に研究活動を行っている。特に最近では海外（米国・ヨーロッパ）に訪問し企業調査も行っている。2018 年には、ゼミ生と共にシリコンバレーに訪問し研修を行った。ただし、新たな目標に向かって研究するグループを作って活動することも歓迎するので、積極的な提案ができることが望ましい。原則として、毎週、グループ毎に調査してきたことを発表してもらう。さらに、説得力のある方法でプレゼンテーションし、互いに議論しながら授業を進める。2、3 年次の初期の段階では、コンピュータの基本操作、英語文献（専門書）の輪読を行い、その中で互いに教えあう雰囲気をつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	自己紹介、役割分担など
第 2 回	グループ分け、テーマ設定（1）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。

第 3 回	グループ分け、テーマ設定（2）	テーマを設定しグループ毎にディスカッションを行う。
第 4 回	輪読本の選定等	テーマに基づいた本の選定、輪読のスケジュール等を決定する。
第 5 回	輪読本の選定、輪読開始	選定した本の輪読を行う。
第 6 回	輪読（1）	選定した本の輪読を行う。
第 7 回	輪読（2）	選定した本の輪読を行う。
第 8 回	輪読（3）	選定した本の輪読を行う。
第 9 回	輪読（4）	選定した本の輪読を行う。
第 10 回	グループテーマ議論	グループ毎にテーマについて議論を行う。
第 11 回	テーマ発表	グループ毎にテーマについて発表する。
第 12 回	輪読（5）	選定した本の輪読を行う。
第 13 回	輪読まとめ	選定した本の輪読についてまとめを行う。
第 14 回	春学期のまとめ	春学期演習のまとめを行う。
II 秋学期		
回	テーマ	内容
第 15 回	テーマの確認（1）	グループ毎のミーティングを行う。
第 16 回	テーマの確認（2）	グループ毎のミーティングを行う。
第 17 回	テーマ別の議論（1）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 18 回	テーマ別の議論（2）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 19 回	テーマ別の議論（3）	テーマ別に分かれて議論を行う。
第 20 回	テーマ別グループ発表	テーマ別に分かれて行った議論の中間発表を行う。
第 21 回	テーマ別調査研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 22 回	テーマ別調査研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 23 回	テーマ別調査研究（3）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 24 回	テーマ別調査研究（4）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 25 回	テーマ別調査研究結果発表	テーマ別に行った調査研究結果について発表を行う。
第 26 回	テーマ別研究（1）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 27 回	テーマ別研究（2）	テーマ別に仕上げる研究を行う。
第 28 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定したテーマについて予習、復習を行う。演習で発表するための調査、考察を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、研究課題により異なる。英語の文献については開講後提示する。

【参考書】

特に定めず、研究課題により異なる。

【成績評価の方法と基準】

【春学期評価】夏休みの合宿で発表できるように、中間発表を行うこと。取り組み姿勢を評価する。以上の点について平常点（50%）、発表内容について（50%）で評価する。

【秋学期評価】① 演習への取り組み姿勢（原則としてすべてに参加すること）、② 2、3 年次は、調査結果の発表、成果の提出、③ 4 年次には、卒業論文の提出（発表）を義務とする。以上の点について平常点（50%）、発表、論文の内容について（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足度は高いが、テーマ設定をじっくり行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーション機器を使って発表する。学習管理システム Classroom を用いて効率的な授業を行う。

【その他の重要事項】

積極的に人前でプレゼンテーションができ好奇心をもってゼミに参加することができる学生が望ましい。ゼミとしてグループ活動する以上、合宿、サブゼミなど積極的に行い、協調性をもって望むこと。
知識については、教員とゼミ生間で教えあう雰囲気を作っていきたい。

〔関連科目〕

情報学に関する基礎科目

【実務経験のある教員による授業】

実際に、ビジネス分野で役立つ実践的な事例を採用し、問題解決能力を養うように工夫する。

【関連科目】

情報学に関する基礎科目

【Outline and objectives】

We mainly select the theme related to informatics necessary for management strategy and consider it as our research. You can research in collaboration with each other and report as graduation thesis.

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

佐野 哲

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「経営学を改めて広く学び直し、その知識をもって、“継続的に社会と調和し生き残っていく企業”のあり方について考える」

これが、本演習の基本テーマです。学部カリキュラム上の科目名称で言い換えると、①**経営学総論**（企業経営に関する諸知識の総合的な学び直し）と、②**経営社会学**（企業の社会的責任論、企業と社会の持続的な共存のあり方に関する検討）の融合、になります。この二つの学問領域を軸に、「現存する企業」をサンプルとして分析しつつ、「アクションとディスカッション」を繰り返していく活動です。

【到達目標】

最終的な到達目標は、「**企業と社会の関係構造を学際的に理解すること**」です。

企業経営の総合的理解には、経営学のみならず、企業経営を取り巻く時事問題や社会学などの隣接学問分野（学際）を広く学んでおく必要があります。まず本演習では、経営学の教科書を軸に、多様なメディアからのニュース報道を積極的に織り交ぜて学び、これらから知り得た企業経営及び社会問題との関わりについて「自らの言葉で語れる」レベルを目指します。

他方、企業と社会の共存関係に関する構造的な理解には、個別企業による**社会貢献活動（CSR：Corporate Social Responsibility）**の動きや変化を追ってだけでなく、社会及び市場が「その企業（その本業＝事業）の存在価値をどう評価しているのか」について、しっかりと見定めていく必要があります。本演習では、社会貢献型企業及び同関係者とのコミュニケーション機会を可能な限り企画・創造し、それら関係者と「これからの企業のあり方」について意見交換ができる」レベルを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習のゼミ活動は、①教科書の輪読（経営学の学び直し）と、②企業関係者との学外交流活動、の二本立てになっています。

①の輪読では、主に経営大学院で採用されている経営学の教科書（以下テキスト参照）を使用します。参加者各自による発表、教員を中心としたディスカッションを通じ、参加学生の興味関心を考慮しながら、バランス良く経営学の知識が身に付くよう進めていきます。

②の学外交流は、**社会的責任投資（SRI：Socially responsible investment）**を実践する投資ファンド（投資信託運用会社）との産学連携コラボレーション活動を中心に行います。同ファンド内で開催されている勉強会への継続的な参加、投資対象企業の経営分析、ファンドマネージャー（運用担当者）との対話などを通じ、参加学生が「CSR 及び SRI の重要性」について、自らの肌身で感じる機会を設けます。また、投資信託の制度と市場を深く吟味しつつ各自が少額投資口座を開設するなど、リスク担保が可能な範囲で社会的責任投資信託を実践する計画を進めていきます。なお、本年度における実際の分析・投資対象としては、三菱商事、旭化成、本田技研工業、味の素、資生堂、ユーザイ、ユニチャームなどを予定しています（まずは、社会貢献活動が充実した安定的な大企業から取り上げ、徐々に小規模のソーシャルビジネスへと対象を移していく予定です）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

Ⅰ 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習（学外交流コラボレーション）の概要・年間計画の策定
2	グルーピング	作業グループの編成
3	コラボレーションの準備	提携先投資信託会社に関する情報収集
4	企業情報の経営分析	分析手法の解説及びグループワークの実施
5	コラボレーションの企画検討	問題関心の整理とゴール設定
6	企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び評価
7	企業情報の分析（人事）	「見える企業価値」の分析：人事制度など経営学的領域での企業分析及び評価
8	企業情報の分析（営業）	「見える企業価値」の分析：営業実績など経営学的領域での企業分析及び評価
9	コラボレーションのあり方検討	設定ゴールの再検討
10	専門用語の理解	投資信託活動に最低限必要な専門用語の学習
11	文献サーベイ	専門用語に関する学術的資料の収集・整理
12	コラボレーションのあり方検討	問題の整理と設定ゴールの明確化
13	初回プレゼン資料の作成	パワーポイント資料の作成・検討
14	キックオフミーティング	提携先投資信託会社への表敬訪問及びプレゼンテーション

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
15	オリエンテーション	春学期の振り返り
16	活動計画の再検討	ゴールの再設定
17	学外交流活動（大学）	大学間で開催する勉強会への参加
18	セミナーへの参加	提携先投資信託会社が実施するセミナーへの参加
19	投資活動のレディネス	提携先企業が実施するセミナーへの参加
20	学外交流活動（企業）	投資先企業が開催する勉強会への参加
21	学外交流活動（投資信託）	その他投資信託会社が開催する勉強会への参加
22	投資活動のスタートアップ	投資信託の実施
23	投資活動の進捗確認	投資情報の相互共有
24	投資先企業情報の分析（財務）	「見える企業価値」の分析：財務情報など経営学的領域での企業分析及び再評価
25	知見の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸知見のとりまとめ
26	課題の整理	ゼミでの投資活動から得られた諸課題のとりまとめ
27	年度活動報告書の作成	パワーポイント資料の作成・検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループもしくは個人による「サブゼミ」の実施（授業内で処理出来なかった作業や教員による指導・指示への対応など、授業外に行う自主的なゼミ活動）と、その進捗に関する報告を求めます。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読に使用する教科書として、『MBA マネジメントブック [改訂3版]』（グロービス・マネジメントインスティテュート編著／ダイヤモンド社／3,000円）を使用します。

【参考書】

講義（演習）の進捗に合わせて、その都度講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）と試験（50％）を基本としますが、各活動に関わった「社会人からの評価」を加味して評定します。

【学生の意見等からの気づき】

個々人別の到達目標を設定し、テーマ別プロジェクト（左記「授業計画」参照）ごとに個別評価及び設定目標の変更を随時施していけるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（ワード・エクセル・パワーポイントのソフトがインストールされたもの）は必須です。大学ではノートパソコンの時間貸与サービスがあります（個人所有機器があると便利です）。

【その他の重要事項】

新聞や経済専門誌など経済メディアからの情報（企業を取り巻く時事問題）に、日頃から広く積極的に触れている学生の参加を望みます。SRIには、地球温暖化や少子高齢化など、企業が深く関わっていくべき社会問題の構造把握並びに論点整理が絶対的に不可欠だからです。

なお、当授業の関連科目は「経営学総論Ⅰ/Ⅱ」及び「経営社会学Ⅰ/Ⅱ」です。

【Outline and objectives】

This is a course designed to study the transformation of corporate governance and corporate social responsibility practiced in firms, organizations, and networks. This course provides an overview of corporate social responsibility(CSR), especially focused on the role of the socially responsible investment fund. The main objectives of the course are:

- ・ understand concepts of corporate social responsibility;
- ・ understand corporate ESG(Environmental, Social and Governance)policies and actions and investors' preferences;
- ・ enable the development of a sound understanding of corporate governance practice in Japan.

MAN400FA

演習 5・6

MAN200FA

演習 1

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

西川 英彦

4 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、「『楽しい』をカタチにする実践的マーケティング」である。具体的には、マーケティングをはじめ、商品企画やマーケティング・リサーチ、消費者行動などを理論を学びつつ、それらを使った企画を実践し、それらの理論を自分のものとして深く理解することを目的とする。

【到達目標】

到達目標としては、以下の 3 点に整理できる。

- ①マーケティングの基礎理論を説明できる。
- ②実践的なマーケティング・リサーチ手法を自ら実践できる。
- ③企画書や論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

演習では、主には 5 つのことを実施する。

- ①商品企画、マーケティング・リサーチ、消費者行動に関する基礎理論や手法の相互学習のための輪読。
- ②ゼミ内コンペ（ゼミコン）。
- ③無印良品への企画提案（MUJI プロジェクト）。
- ④ S カレでの企画提案。「S カレ」（Student Innovation College）は、実際に商品化を目指す商品企画のインターカレッジである。メーカーとタイアップして、実際のユーザーに対して、具体的な商品企画やコミュニケーション活動の実践を行い、商品化していく。なお、実際の様子は、次の URL を参照のこと。<http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>
- ⑤卒業論文の作成。なお、討議や合宿、懇親会など積極的に演習の活動に貢献し、他のメンバーに良い影響を与えられる学生が条件となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習概要 輪読（以下、原則毎回）
第 2 回	定性的調査の相互学習①	インタビュー法についての基礎理論や手法の説明
第 3 回	定性的調査の相互学習②	観察法についての基礎理論や手法の説明
第 4 回	定性的調査の相互学習③ ゼミコン・キックオフ	リード・ユーザー法についての基礎理論や手法の説明 ゼミコンの課題説明
第 5 回	定量的調査の相互学習①	記述統計・相関分析の基礎理論や手法の説明
第 6 回	ゼミコン第 1 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 7 回	定量的調査の相互学習②	χ^2 検定、差の検定の基礎理論や手法の説明
第 8 回	ゼミコン第 2 回報告 S カレのテーマ設定	ゼミコン報告、相互にフィードバック S カレのテーマおよびプロトタイプ案の報告

第 9 回	定量的調査の相互学習③	因子分析・回帰分析の基礎理論や手法の説明
第 10 回	S カレ第 1 回報告	S カレのラフ調査・プロトタイプ報告、相互にフィードバック
第 11 回	ゼミコン第 3 回報告	ゼミコン報告、相互にフィードバック
第 12 回	S カレ第 2 回報告	フィードバックをもとに修正した S カレのプロトタイプ報告 デザイナーにプレゼン、講評をうける
第 13 回	ゼミコン最終発表 S カレ中間（第 3 回）報告	
第 14 回	卒論第 1 回報告	先行研究レビューの報告
II 秋学期	テーマ	内容
第 15 回	S カレ第 4 回報告	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 16 回	MUJI プロジェクトキックオフ	良品計画の開発者による課題の説明および質疑
第 17 回	S カレ第 5 回報告（秋カンに参加）	S カレのコンセプト案の報告、相互にフィードバック
第 18 回	MUJI プロジェクト第 1 回報告	プロトタイプ報告、相互にフィードバック
第 19 回	S カレ第 6 回報告	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 20 回	MUJI プロジェクト第 2 回報告	プロトタイプ報告、相互にフィードバック
第 21 回	S カレ第 7 回報告 卒論第 2 回報告①	S カレの調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 22 回	MUJI プロジェクト第 3 回報告 卒論第 2 回報告②	調査および企画の報告、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 23 回	S カレ第 8 回報告 卒論第 2 回報告③	本番どおりのプレゼン、相互にフィードバック 卒論調査データの報告
第 24 回	MUJI プロジェクト第 4 回報告	調査および企画の報告、相互にフィードバック
第 25 回	S カレ第 9 回報告（冬カン）	フィードバックをもとに修正したプレゼン
第 26 回	MUJI プロジェクト最終報告	良品計画の開発者にプレゼン、講評をうける
第 27 回	卒論第 3 回報告①	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック
第 28 回	卒論第 3 回報告②	調査結果および結論の報告、相互にフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自またはグループの研究&企画課題は、基本的に授業外に行うことになります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松井剛・西川英彦『1 からの消費者行動（第 2 版）』碩学舎、2020 年。

【参考書】

①トム・ケリー・ジョナサン・リットマン『発想する会社！— 世界最高のデザイン・ファーム IDEO に学ぶイノベーションの技法』早川書房、2002 年。

②山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年。

③ラッセル ベルク・アイリーン フィッシャー・ロバート V コジネット『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年。

④マイケル・R・ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015 年。

【成績評価の方法と基準】

個人・グループ報告 50%

演習活動への貢献 50%

【学生の意見等からの気づき】

計画的に進行できるように、スケジュール管理を行う。

【学生が準備すべき機器他】

適宜利用する。

【その他の重要事項】

関連科目は、マーケティング論 I/II、消費者行動論 I/II、流通論 I/II、サービス・マネジメント論 I/II、製品開発論 I/II、広告論である。

授業計画は、履修者やゲストの状況によっては、事前に説明の上、変わる可能性があることを留意ください。

【実務経験のある教員による授業】

複数の企業でのマーケティングやリサーチ、新製品開発、新規事業開発などの実務経験を通して、リサーチの理論と実践の両面を活かした演習を実施する。

【Outline and objectives】

The theme of this exercise is practical marketing to give “fun” a concrete shape. Specifically, students aim to learn theories such as marketing, product planning, marketing research, consumer behavior, and practice plans using them, and understand those theories deeply as our own.

MAN400FA

演習 5・6

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 3・4

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN200FA

演習 1・2

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

MAN400FA

演習 6

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN400FA

演習 5

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN300FA

演習 4

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

MAN300FA

演習 3

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

MAN200FA

演習 2

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

平田 英明

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、現実がどの程度論理的に考えた帰結と整合的／非整合的かということをしっかり説明できるように、つまりものごとをしっかりと「つかむ（把握する）」能力を身につけることを教育するように心がけています。

【到達目標】

経済学の理論と実証の基礎を学び、経済分析の仕方を身につけることを学習目標とします。そして、学生の関心のある事象に関する実証研究を夏休みにグループ単位で行って貰います。これを学内懸賞論文や日銀の懸賞論文等に応募し、毎年各種の賞の受賞を果たしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

3－4つのグループで輪読を行ってもらいます。日本経済がなぜこれほどに **poor performing** なのかを理解していく上で、基礎的な理解となる金融の基礎分析やマクロ経済分析の教科書をじっくり読み進めていきます。同時に実証分析のツールを学ぶために、直観的な理解のしやすい計量分析の教科書も輪読します。なお、他大学とのインゼミを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】**I 春学期**

回	テーマ	内容
1	ゼミの進め方 テキスト2	ゼミ運営について話します 1章＋補論の輪読
2	テキスト2	2章と3章の輪読
3	テキスト1 テキスト2	1章の輪読 4章の輪読
4	テキスト1 テキスト2	2章の輪読 5章の輪読
5	テキスト1 テキスト3	3章の輪読 1章の輪読
6	テキスト3 懸賞論文	コンピュータ演習1 キックオフ会議
7	テキスト1 テキスト3	4章の輪読 2章の輪読
8	テキスト1 テキスト3	5章の輪読 3章の輪読
9	懸賞論文	懸賞論文のテーマ・プレゼン
10	テキスト1 テキスト3	6章の輪読 4章の輪読
11	テキスト1	コンピュータ演習2
12	懸賞論文	懸賞論文に関する進捗状況の報告
13	テキスト1 テキスト3	コンピュータ演習3 5章の輪読
14	懸賞論文	懸賞論文のテーマ確定＋準備作業

II 秋学期

回	テーマ	内容
15	懸賞論文会議	懸賞論文テーマの確定と進捗状況の報告
16	テキスト3 懸賞論文	6章の輪読 仕上げ作業
17	テキスト3 懸賞論文	7章の輪読 プレゼン練習1
18	テキスト3 懸賞論文	8章の輪読 プレゼン練習2
19	テキスト3	復習セッション1
20	インゼミ	インゼミ1（慶應義塾大学商学部）
21	テキスト3	復習セッション2
22	テキスト3 懸賞論文	9章の輪読 プレゼンの仕上げ1
23	テキスト3 懸賞論文	10章の輪読 プレゼンの仕上げ2
24	インゼミ	インゼミ2（明治大学政経学部）
25	インゼミ	インゼミ3（神奈川大学経済学部）
26	テキスト3	総復習1
27	テキスト3	総復習2
28	テキスト3	総復習3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の範囲だけでなく、幅広い資料に触れ、自発的に授業に向けた準備をしていくことが大前提です。受け身では、何も身につけません。主体性を持って学習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 永易淳・江阪太郎・吉田裕司 (2015)『はじめて学ぶ国際金融論』（有斐閣）
- 中室牧子 (2015)『「学力」の経済学』（Discover 21）
- 山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』（中央経済社）

【参考書】

- 伊藤元重『ゼミナール 国際経済学入門』（日本経済新聞出版）
- 福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門』（有斐閣）
- 蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済）

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの報告（75%）、日頃の学習態度（25%）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

各種のコメントを考慮してゼミ運営をします。

【その他の重要事項】

ゼミの場は、「知的議論を行う真剣勝負の場」と考え、毎週のゼミに向けた準備をしっかりと行う意志のある学生を歓迎します。2－3年生に関しては、各学期で合計で3回以上、通年で4回以上欠席した場合、特別な理由を除き、自動的にD評価となります。

ゼミへの出席は不可欠であり、ゼミ中の私語・携帯電話はご遠慮頂きます。ゼミ生は、3年生以上は日本経済論、国際金融論、国際経済論、産業組織論、統計関連科目の履修を原則とします。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to encourage students to think about every business and economic phenomenon analytically and logically. In so doing, class participation and presentation are required.

MAN400FA

演習 5・6

MAN200FA

演習 1

MAN300FA

演習 3・4

MAN200FA

演習 1・2

MAN400FA

演習 6

MAN400FA

演習 5

MAN300FA

演習 4

MAN300FA

演習 3

MAN200FA

演習 2

山 崎 輝

4 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

2 年次／ 6 単位 [年間授業/Yearly]

4 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

4 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

3 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

3 年次／ 3 単位 [春学期授業/Spring]

2 年次／ 3 単位 [秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、ファイナンスに関する輪読・討論・実証分析等を通じて、金融実務で通用するファイナンスのスキルを身に付けることを目指します。ファイナンス理論の進歩は著しく、その広範な研究成果は、経済学などの学術界はもとより、金融ビジネスをはじめとする実社会にも多大な影響を与えました。高度に発展したファイナンス理論には難解な部分もあることは確かですが、本演習では理論の持つ本質的なメッセージを極力シンプルに、かつ正確に理解することを重視します。将来、多くのゼミ生が金融ビジネスの世界で活躍できるように、理論面だけでなく、私自身の金融実務の経験も踏まえながら様々な後押しをしていきます。また、年 1～2 回、金融ビジネスの世界で活躍する現役のプロフェッショナルによる実務家講演会を開催しています。過去、三菱 UFJ 銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 信託銀行、メルリリンチ日本証券、日本銀行、有力ヘッジファンドなどのアナリストやトレーダー、ファンドマネージャー、経営コンサルタントが講演しています。

【到達目標】

以下の 4 つを到達目標に掲げます。

- ①ファイナンス理論の諸概念を理解し、金融・証券市場で実際に起こる様々な出来事を論理的に解釈できる。
- ②自分自身の考察や分析結果に基づいて、論理的かつ整合的な説明（プレゼンテーション）ができる。
- ③表計算ソフトを利用してファイナンスに関する初歩的な実証分析や数値実験（シミュレーション）ができる。
- ④金融の様々な話題に関するディスカッションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP1-3」、「DP1-4」、「教養」、「DP2-1」、「DP3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本演習は 4 つの課題に取り組みます。1 つ目は金融市場の動向に関するファンダメンタル分析です。毎回、授業のはじめに最近の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向に関する報告を行います。2 つ目はテキストの輪読です。指定テキストはファイナンス理論の標準的な教科書であり、このテキストの精読を通じてファイナンス理論のエッセンスを丁寧に読み取ることを心掛けます。3 つ目は問題演習です。輪読と並行して「証券アナリスト第 1・2 次レベル試験」の問題をたくさん解くことで、ファイナンスのスキルを確固たるものにします。また、PC（Excel）を用いて金融市場の実証分析も行います。4 つ目は実務家講演会の開催です。金融ビジネスの第一線で活躍する社会人を招聘して講演会を開催し、ゼミ生と活発なディスカッションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

I 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の進め方、到達目標、成績評価などの説明
第 2 回	テキストの輪読（債券投資分析）	債券の種類とそのキャッシュフロー、債券評価の基本、債券価格と最終利回り

第 3 回	テキストの輪読（債券投資分析）	様々な利回り尺度、デュレーション
第 4 回	テキストの輪読（債券投資分析）	コンベキシティ、利回り曲線と金利の期間構造
第 5 回	テキストの輪読（債券投資分析）	利回り曲線の変動要因、様々な利回り曲線
第 6 回	テキストの輪読（債券投資分析）	金利期間構造の理論、信用リスクと格付け、信用リスクと利回り格差
第 7 回	テキストの輪読（債券投資分析）	信用リスクの推定、社債評価と投資戦略、コーラブル債とプットブル債
第 8 回	テキストの輪読（債券投資分析）	変動利付債、インフレ連動債、モーゲージ・バック証券（MBS）
第 9 回	テキストの輪読（債券投資分析）	投資目的とベンチマーク、債券ポートフォリオのリスク、パッシブ戦略、アクティブ戦略
第 10 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場の効率性に対する考え方、小型株効果、割安株効果
第 11 回	テキストの輪読（株式投資分析）	リターン・リバーサルとモメンタム、それ以外の市場アノマリー
第 12 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 1
第 13 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 2
第 14 回	卒業レポートおよび卒業レポートの研究計画	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の研究計画の発表 3

II 秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの輪読（株式投資分析）	市場アノマリーの原因、市場の効率性と株式投資、企業・株式価値評価モデルの分類
第 16 回	テキストの輪読（株式投資分析）	配当割引モデル
第 17 回	テキストの輪読（株式投資分析）	残余利益モデル、割引キャッシュフロー法（DCF）、企業価値の残余利益モデル（EVA）
第 18 回	テキストの輪読（株式投資分析）	資本コスト
第 19 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株式評価尺度、株式収益率（PER）、配当利回り
第 20 回	テキストの輪読（株式投資分析）	株価純資産倍率（PBR）EV/EBITDA、株価キャッシュフロー倍率（PCFR）、株価売上高倍率（PSR）、相対価値評価の注意点
第 21 回	テキストの輪読（株式投資分析）	インデックス運用
第 22 回	テキストの輪読（株式投資分析）	アクティブ運用、アクティブ運用の基本法則、アクティブ運用の種類
第 23 回	テキストの輪読（株式投資分析）	国際証券投資の意義
第 24 回	テキストの輪読（国際証券投資）	国際パリティ関係、購買力平価、国際フィッシャー関係、フォワード・パリティ

第 25 回	テキストの輪読（国際証券投資）	カバー付き金利バリエーション、カバーなし金利バリエーション、国際バリエーション関係の現実
第 26 回	実務家講演会	現役の金融ビジネスパーソンによる実務家講演会の開催
第 27 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 1
第 28 回	卒業レポートおよび卒業レポートの発表	4 年生による卒業レポートおよび卒業論文の最終発表会 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の金融・証券市場（株式・外国為替・金利）の動向を自分の言葉で説明できるように情報収集・要約の準備をすること。輪読テキストの該当範囲を事前に読むこと。各回の担当者は発表のためのプレゼン資料の準備が必須です。さらに問題演習や宿題に取り組む必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ①伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論 II 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
 ②小林孝雄・芹田敏夫、『新・証券投資論 I 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【参考書】

- ①佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ②佐野三郎、『パーフェクト証券アナリスト第 2 次レベル』、2019 年、ビジネス教育出版社
 ③ジョン・ハル、『フィナンシャル・エンジニアリング 第 7 版』、2009 年、金融財政事情研究会
 ④木島正明・鈴木輝好・後藤允、『ファイナンス理論入門』、2012 年、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、問題演習・宿題（30 %）、平常点（20 %）に基づいて成績を評価します。さらに学習意欲やゼミへの貢献度などが加点されます。4 年生は卒業レポートもしくは卒業論文の提出及び発表が必須です。

【学生の意見等からの気づき】

学習意欲の高いゼミ生が多いので、みなさんの知的好奇心に応えるべく、基礎から始めて高度かつ実践的な内容まで辿り着けるように授業を構成します。実務家講演会の講演者の選定はゼミ生の要望がかなうように尽力します。また、Excel 演習の時間が十分にとれるように配慮します。高度で洗練されたファイナンス理論を楽しく学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

問題演習や宿題では Excel を使います。発表用のプレゼン資料は PowerPoint、卒業レポートや卒業論文は Word を利用して作成して下さい。

【関連科目】

ファイナンス入門、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門 I/II、デリバティブ入門 I/II

【前提知識】

関連科目を履修すると理解が深まります。また、中学・高校の数学の基礎知識を使いますが、高度な数学の事前知識は必要ありません。

【Outline and objectives】

This course provides students with a wide variety of skills to understand financial markets and modern finance business. The four major sections of the course are: (1) fundamental analysis of the recent trend of financial markets, including stock markets, foreign exchange markets, and outlook for monetary policy; (2) reading a textbook about principles of modern finance theory; (3) exercises with Microsoft Excel in introductory quantitative analysis of asset pricing and investment decisions; and (4) holding a workshop by an invited business person and discussion with students.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティングと広告」

「広告」は、「経営」「マーケティング」「マーケティングコミュニケーション」等と密接な関連を持ちながら、企業活動を支えています。

この講座では、「広告」の役割を明らかにした上で、特に「マーケティングコミュニケーション」の一手段としての「広告」に焦点を絞り、その理論や実務上の知識を学ぶ事を目的とします。

【到達目標】

- ① 「経営」「マーケティング」と「広告」の関係を理解し、説明できる。
- ② 広告の機能/役割について理解し、説明できる。
- ③ 広告戦略/広告計画の立案手順を理解し、説明できる。
- ④ 広告ビジネスの構造や、関連企業の役割について理解し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

- 講義は、電通出身の教員が勤めます。
- 講義を中心に進めますが、理解を深めるために授業内課題、授業内小テストを併用します。
- 将来広告の仕事に携わる受講生ばかりではないことを考え、授業内に「今週の広告」「今週の言葉」「仕事の力裏表」等のミニコーナーを設け、幅広い知識見識が身につくようにします。
- また、広告ビジネスの現状に関する理解を深めるために、事業会社、広告会社等からのゲストを招いてお話をうかがいます。
- ゲストは今後の交渉によって決定します。そのため、授業計画とスケジュールは変更になる可能性が大きく、詳細は第 1 回目の授業時に説明します。（授業計画には、参考までに、昨年度のゲスト講師を記載してあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介 授業計画の説明 受講動機等に関するアンケート
第 2 回	広告の定義 経営における広告の機能と役割	広告の定義 経営に果たす広告の機能と役割 社会・経済に果たす広告の機能と役割
第 3 回	マーケティングにおける 広告の機能と役割	マーケティングにおける 広告の機能と役割とは？ マーケティングコミュニケーションとは？
第 4 回	広告ビジネス	広告業務の流れ 広告主、広告会社、媒体社、 その他の広告関連企業の機能と役割
第 5 回	広告戦略/広告計画 1	広告会社の組織と機能 広告計画立案の流れ 広告計画の意味と重要性 状況分析と広告目標の設定
第 6 回	（ゲスト講師）事業会社	事業会社における広告業務 （昨年度は 資生堂ジャパン株式会社 メディア統括部長 高橋 満 氏）
第 7 回	広告戦略/広告計画 2	戦略とは？ 広告戦略の基本
第 8 回	媒体計画	媒体計画とは？ 媒体計画の作成手順
第 9 回	（ゲスト講師）広告会社	実体験を核としたマーケティング・コミュニケーション （昨年度は（株）電通ライブ シニア・クリエイティブディレクター
第 10 回	表現計画	原田 和明 氏） 広告表現とは？ 広告表現の類型化

第 11 回	（ゲスト講師）広告会社	広告表現制作の実際 （昨年度は （株）電通 エグゼクティブクリエイティブディレクター 佐藤 義浩 氏）
第 12 回	広告効果過程	消費者の購買意思決定過程 広告効果過程のモデル
第 13 回	広告効果測定	広告調査の種類と方法 広告効果測定の新しい流れ
第 14 回	ブランドと広告	ブランドとは？ ブランドと広告の関係 授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常的に、新聞/テレビ/雑誌/ラジオ/インターネット等の広告に積極的な関心を持って接しながら、その背景にある企業の意図や戦略を読み取る習慣を身につけるよう努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しませんが、適宜以下の参考書に基づいて講義を行います。

【参考書】

「現代広告論 第 3 版」岸志津恵/田中洋/嶋村和恵、有斐閣、2017。
「消費者・コミュニケーション戦略」田中洋/清水聡（編）有斐閣、2006。

【成績評価の方法と基準】

出席はとりません。
授業内課題 30 % 授業内小テスト 70 % の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・教員の実務経験についてもっと聞きたいという声があったので、適宜広告会社での経験についてもお話ししたいと思います。
- ・質問コーナーを設けてほしいという声があったので、できる限り学生の皆さんの質問に答える時間を作りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義のアジェンダは授業開始前、講義に使用したスライドは授業終了後、授業支援システムで共有します。

【その他の重要事項】

教員は、（株）電通 IMC プランニングセンター長、（株）電通マーケティングインサイト代表取締役社長等を勤めた実務家出身です。過去の経験も交えながら、皆さんが将来社会に出た時に役に立つよう、実践的な授業を進めたいと思います。

【関連科目】

なし

【Outline and objectives】

Marketing and advertising

This course aims to clarify the role of "advertisement" at first and then focus on

"advertisement" as a means of "marketing communication", to learn the theory and practical knowledge.

ECN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

鷲田 賢一郎

特殊講義

2～4 年次／2 単位[秋学期授業/Fall]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。

【授業の目的・意義】生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。

【到達目標】

- ・金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- ・「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- ・自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

野村グループの各講師による講義を主軸に進めていきます。適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方向でのやりとりが発生することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

Ⅱ 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	金融市場と私たちの生活がどのように密接に結びついているかを理解し、金融リテラシーを身に着けることの重要性、本講義で学習する意義を理解する。我々の周りにある様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。企業・家計・国・海外と各項目に分け、関連性を確認する。
第 2 回	経済情報の捉え方	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを解説し、今後の展望を交えながら金融市場の役割を理解する。
第 3 回	金融資本市場の役割とその変化	「投資とは」「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習した後、リスクコントロールの基本的な考え方である「長期投資」の考え方とその具体的手法を学ぶ。
第 4 回	証券投資のリスク・リターン	ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方と、その元となる「リスク・リターン」の関係について学習する。
第 5 回	ポートフォリオ・マネジメント	「外国為替」の基本的事柄を紹介し、外国為替レートの変動要因について確認する。また世界の外国為替の状況を知る。
第 6 回	外国為替相場とその変動要因について	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（＝金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 7 回	債券市場の役割と投資の考え方	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について解説した後、株価の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 8 回	株式市場の役割と投資の考え方	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。
第 9 回	投資信託の役割とその仕組み	

第 10 回	グローバル化する世界と資本主義の果たす役割	野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
第 11 回	資本市場における投資家心理	証券投資を行なう際の心構えとして、私たちの投資判断に影響を与える様々な心理的バイアスについて理解するとともに、その具体例を通して対処法と投資行動への応用法を学習する。
第 12 回	産業展望と投資の考え方	成長産業とこれからの日本に期待される成長戦略について考える。具体的にどの産業がどのように変貌するのかを可能な限り具体的解りやすく解説する。なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。ライフプランニングの実践にあたり、資産形成の基礎となる NISA 等の非課税制度に関して学ぶ。また、近年、制度の充実により加入者が拡大中の確定拠出年金に加え、国民年金や財形制度に関してもその概要を学ぶ。
第 13 回	ライフプランニングと資産形成	授業内に期末試験を行う。
第 14 回	資産形成と非課税制度、並びに「期末試験」	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「入門証券論 第 3 版」
榊原 茂樹、城下 賢吾、姜 喜永、福田 司文、岡村 秀夫 著 / 有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点・小レポート 30 %（リアクションペーパーを参考とする。当日の講義内容のポイントや感想などを簡単に記述し提出）

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしてみたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義の 1 週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【実務経験のある教員による授業】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。
証券投資提案、ライフプランニング、トレーディング、M&A、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線できている経済事象についての実例を交えながら講義を行います。

【Outline and objectives】

Role of the Capital Markets and the Securities Investment

MAN100ZA

International Business and Employability

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

People, goods, money, and information are now crossing national borders in various industries thanks to the rapid development of technology. Employees working for multinational companies have more opportunities to communicate with people from different cultures. The lingua franca is, unsurprisingly, English, which has become the de facto standard language in business.

This course is aimed at students who may someday engage in global business, using their language skills and overseas experience. This class focuses on students acquiring basic knowledge and global business skills for the real world.

【Goal】

This course teaches the basics of international business and the skills required to compete in a competitive global marketplace.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In a working environment, we need to develop global perspectives, with knowledge and skills that are sufficient to keep up with these global changes. In this course, we will look at aspects of globalization in various contexts, focusing on basic knowledge and skills, then we will learn about the internationalization of multinational companies.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Multinational Companies	Learn about MNCs (definition, role, etc.)
3	Global Human Resources	Learn about global human resources (definition, required skills, etc.)
4	Internationalization	Learn about internationalization (process, strategy, etc.)
5	Companies and Organizations (1)	Learn about companies and organizations (international dept, etc.)
6	Companies and Organizations (2)	Learn about companies and organizations (global strategy)
7	HQ and Local Offices (1)	Learn about HQ and local offices (control, function, relation, etc.)
8	HQ and Local Offices (2)	Learn about HQ and local offices (local employees and career, etc.)
9	Marketing (1)	Learn marketing basics (4P, 3C)
10	Marketing (2)	Learn marketing basics (SWOT, etc.)
11	Global Leadership	Learn about the global business and leadership
12	Case Study and Discussion (1), (2)	Case study and discussion
13	Case Study and Discussion (3), (4)	Case study and discussion
14	Review & Final Exam	Review & final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should read the assigned chapters in the coursebook to prepare for class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

To be announced.

【Grading criteria】

Evaluation is based on class participation (40%) and the final exam (60%).

【Changes following student comments】

The lecturer will provide more international business and employability tips.

【Others】

This is an introductory course to international business.

[For GIS students who entered in 2008 - 2015]

This course is regarded as a 100-level General Study Course. If you have obtained credits for both International Business and Employability I and II, you can't register this course. If you have only obtained credits for either International Business and Employability I or II, or have not taken either one or both of these courses, you can register this course.

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group presentation on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze the situation and present your solutions and recommendations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: Understanding the significance and complexity of tourism
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists; Understanding different motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Tourism and Technology	The impact of technology on the management and organization of tourism
8	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from an international case study
9	Event Tourism	Analyzing the role of events as a destination resource
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters

11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group presentations (topics will be assigned in class)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
 Day/Period : 木 3/Thu.3

[Outline and objectives]

The purpose of this course is to provide students with an understanding of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

[Goal]

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on tourism

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group presentation on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze the situation and present your solutions and recommendations.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: Understanding the significance and complexity of tourism
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists; Understanding different motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Tourism and Technology	The impact of technology on the management and organization of tourism
8	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from an international case study
9	Event Tourism	Analyzing the role of events as a destination resource
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters

11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group presentations (topics will be assigned in class)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
 Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
 The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None.

MAN200ZA

Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

【Outline and objectives】

To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic / advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】

The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand's presence in the consumer's mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.

Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.

Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class participation (40%) and the final exam (60%).

【Changes following student comments】

The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None

TRS200ZA

Event Management

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 1/Mon.1

[Outline and objectives]

For millennia, humans have found ways to mark important events in their lives: the changing of the seasons, the phases of the moon and the renewal of life each spring. Today, events are playing an increasing role in people's lives and culture. More leisure time and better standards of living have led to a proliferation of public and private events. More recently, governments and businesses have recognised the power of events to help with economic development and destination marketing. The wide array of events, from community to international level, makes event management a hugely exciting field of study.

[Goal]

The purpose of this course is to acquire an in-depth knowledge about the field of event management and the factors to consider for the successful planning, promotion, implementation and evaluation of events within different contexts.

This course will cover the critical techniques and strategies required to plan successful special events. Upon completion of this course, you should be able to:

- 1) Understand the range of factors driving conceptualising and designing events
- 2) Understand different sources of event funding and support
- 3) Understand and apply appropriate risk management practices
- 4) Understand the role and management of event volunteers
- 5) Appreciate the varied aims and objectives of different events and consider strategies to achieve a positive event impact and legacy

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though you will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A range of case studies can help you consolidate your learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will design a unique event, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Understanding the events industry, the range of events and the areas this class will cover
2	Event Conceptualization	The various influences on developing an event concept and the issues to be included in the planning process
3	The Event Environment	Examining the unique context that events take place in and how this influences the event design and management process
4	Designing the Event Experience	Developing the attendee experience (theme, program, venue, etc.) to best achieve an event's particular objectives
5	Event Funding & Support	Analyzing how events can utilize various forms of support (e.g. grants and sponsorship) to more effectively realize aims and objectives
6	Event Marketing and Promotion	Analyzing approaches to marketing and the challenges of event marketing: selling an intangible experience
7	Human Resource/Volunteer Management	Managing human resources for the event including volunteer recruitment, motivation and retainment
8	Guest Speaker	An experienced guest speaker will discuss aspects of event management

9	Risk Management, Licensing and Health and Safety	Planning and preparing for negative incidents to ensure the safe and smooth delivery of the event
10	Financial Management and Budgeting	Financial management processes including sourcing funding, managing cashflow and evaluation
11	Event Case Study	Analysing aspects of event management from an international case study
12	Group Presentations	Groups will give a presentation on their original event
13	Group Presentations	Groups will give a presentation on their original event
14	Post Event Evaluation and the Event Legacy & Wrap-up	Considering strategies of the importance of planning for an event's legacy

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set text for this course. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

The reference books are available in the university library.
 Allen, J, O'Toole, W, McDonnell, I. and Harris, R. (2011) *Festival and Special Event Management*. (5th edition) Brisbane: Wiley
 Bowdin, G., McDonnell, I., Allen, J. and O'Toole, W. (2001) *Events Management*. Oxford: Butterworth-Heinemann
 Brittain, I., Bocarro, J., Byers, T. and Swart, K. (eds) (2017) *Legacies and Mega Events: Fact or Fairy Tales?* London: Routledge

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Term paper (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

[Changes following student comments]

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None.

TRS200ZA

Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

[Outline and objectives]

Currently inbound tourism to Japan is experiencing unparalleled growth. An increasingly diverse range of tourists brings opportunities and challenges to tourism managers.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including how Japan can take advantage of the Tokyo Olympics in 2020 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing of tourism in different prefectures and also consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake.

[Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Appreciate some of the key organizations involved in planning tourism in Japan
- 3) Understand the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at national and local level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing campaigns

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Considering the current state of Japanese tourism and recent trends
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Destination Management	Analysis of destination management approaches, and an introduction to some of the key institutions involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as Economic and Social Lifeline	Exploring the economic potential of tourism for local and regional development 'off the beaten track'
5	Tourism Marketing	Analyzing approaches to tourism marketing planning at national and prefectural level
6	Japan and Asia	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea. We will also consider how Japan is differentiating itself amid growing international competition for inbound tourists.
7	Tourism Resources: Events	Analyzing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites and how they are utilized for tourism purposes

9	Inbound Tourism	Historical and current trends in inbound tourism. Also a consideration of the management challenges of varying motivations and behaviors of different visitor groups.
10	Case Study	In-depth focus on destination management through a case study
11	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters, and the response to the Great East Japan earthquake in 2011
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism and contents tourism related to anime, movies and TV shows
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

The reference book is available in the library and in the GIS Reference Room.

Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York

[Grading criteria]

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

[Changes following student comments]

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

MAN300ZA

Services Marketing

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by globalization and advances in technology, organizations' and customers are experiencing closer and more interactive relationships than before, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.

This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by technological developments.

Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

【Goal】

This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.

From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Setting the context: introducing the characteristics of services and the challenges of service marketing
2	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
3	The Experience Economy	Analyzing the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
4	Managing the Consumer Experience	Exploring different influences on the service experience, and the various stages of service delivery
5	Service Systems and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption
6	Buyer Decision Making	Examining the influences on decision-making and how organizations can manage these
7	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities that new service developments offer organizations
8	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation
9	Service Quality	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy
10	Service Delivery	Examining the role of employees and self-serving technology in facilitating consumer value creation

11	Relationships and Networks	Exploring the importance of organizational and customer networks and how they can facilitate service consumption
12	Group Presentations	Student group presentations
13	Marketing, Sustainability & Corporate Social Responsibility (CSR)	Analyze organizational approaches towards sustainability and more responsible business approaches
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill

Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy*. Harvard: Harvard University Press

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30% - individually assessed)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

【Changes following student comments】

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

Although not essential, students are encouraged to have taken tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' or the 200-level 'Event Management' course.

TRS300ZA

Cultural Tourism

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

【Outline and objectives】

The phenomenon of cultural tourism exists in many forms and is regarded as one of the oldest forms of tourism. Defined as “A form of tourism that relies on a destination’s cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.” (du Cros & McKercher, 2015: p.6), this course will analyze the 4 elements within the definition: (i) Tourism, (ii) Utilization of Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people’s ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO & ICOMOS.

【Goal】

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people’s national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular destination, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism (CT)	Introduction to the definitions of culture, different forms of CT and the diverse range of tangible & intangible CT resources
2	People: Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community’s perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an ‘authentic’ experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the socio-cultural impacts of CT on host communities, culture & creativity as well as the economic impacts of CT
5	Culture & Nation Branding	Consider the strategic role of culture for developed & developing countries’ tourism portfolios
6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Consider the impact of socio-political attitudes in how culture is interpreted and whose version of history prevails
7	World Heritage Sites 1	Consider concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources

8	World Heritage Sites 2	Consider the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Consider the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing the visitor experience.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Consider the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Food Tourism	Consider the role of food & drink as cultural resources, and using tourism to preserve local heritage
12	Group Presentations	Presentations on group case studies
13	Film- and TV-inspired Tourism	Consider the role of movies, TV and other media content as cultural resources, also the importance of accurate & artistic representations of local culture
14	Future of Cultural Tourism & Course Wrap Up	Considering how CT has evolved, and possible future trends

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge
Students can purchase the paperback version or the e-book; alternatively, the e-book may be rented more cheaply for a fixed time from the publisher’s website (more details to be provided in class).
Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge
Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI

【Grading criteria】

1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

To encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

This is a new course for the 2020 academic year.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

Although not essential, this course will be easier for students who have taken tourism-related courses, such as the 100-level ‘Introduction to Tourism Studies’ or the 200-level ‘Event Management’ course.

POL300ZA

International Law

Naoko Obi

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

【Outline and objectives】

This course aims to explain the basic principles of law, and the various roles and practices and limitations of international law in modern international society. Students will acquire multifaceted knowledge of international law and international society through readings, discussions and group work.

【Goal】

Upon completion of this course, students should have a better understanding of the practices, theories and limitations of international law.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Due to the spread of COVID-19, Hosei university has delayed its starting date of the spring term and decided to offer all the courses online. Accordingly, the course will be completed in 12 weeks, instead of 14 weeks as originally envisaged. Please also note that depending on the progress we make, the contents of each class may be further revised.

(1) The first phase of this course will be lectures on the basic knowledge of theories related to international law. Students are asked to read the provided readings before the lecture, find related news articles, and do pre-class assignments. At times, there will be quizzes to check whether the students have understood the topic.

(2) In the second phase of this course, particular topics in international law will be dealt with. This will include international human rights law, international refugee law, international law of the sea and other fields that the students wish to research.

(3) In the final week, students will be asked to hand in reports. The details of the final report will be shared during class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Guidance	Course guidance and introduction
2	What is International Law ?	(1)The nature of international law and the international society (2) The sources of international law
3	Personality, Statehood and Recognition	Concept of personality in international law / Statehood and recognition
4	Jurisdiction and Sovereignty	The concept of sovereignty, jurisdiction, acquisition of territory
5	International law and national law	Relationship between international law and national law
6	Immunities from national jurisdiction	State immunity in international law / Diplomatic and Consular immunities
7	Use of Force	Historical background on the discussion of use of force in international law / self defense and use of force
8	Peaceful settlement of disputes	Various ways of settling disputes in international law
9	International Human Rights Law	case studies
10	International Refugee Law	case studies
11	Climate change and the rising sea level	Case study
12	Wrap up	International law in the modern international society

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be required to read the assigned readings and prepare for the presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Relevant materials will be distributed in class.

【References】

Martin Dixon. (2013). *Textbook on International Law*. Seventh edition. Oxford: OUP.

Malcolm Evans.(2018). *International Law*. Fifth edition. Oxford: OUP.

Vaughan Lowe. (2008). *International Law*, Oxford: OUP.

Ian Brownlie. (2012). *Principles of International Law*. Eighth edition. Oxford: OUP.

Malcolm D. Evans.(2017). *Blackstone's International Law Documents*. 13th edition. Oxford: OUP .

【Grading criteria】

Weekly assessment and participation (including quizzes, forum contribution, feedback survey, reading/writing assignments and zoom meeting participation)(80%)

End term paper (20%)

【Changes following student comments】

Students' requests and comments will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】

Internet access.

【Others】

The course will be offered by a teacher who has 30 years of experience in the work of the United Nations. The course will therefore provide an opportunity for the students to learn how international law is applied in reality.

Week 1 attendance is mandatory to register for this class. If the number of students wishing to take this course exceeds the limit, the lecturer will make a selection based on the questionnaire in the first class.

【Prerequisite】

Students are asked to have taken courses related to international relations, international organizations etc.

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

[Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned.

Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be completed during the second year of the semester.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with others.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the seminar; The importance of adopting sustainable approaches.
2	Seminar Reading 1	Considering first case study on tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study on destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Considering third case study on tourism marketing
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study on the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study on destination management
8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study on service quality
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study on differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects

12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (40%).

Fourth year students: Class Participation (40%) and Final Paper (60%).

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have taken some of the following Business & Economy courses: Introduction to Tourism Studies; Introduction to Business; Principles of Marketing; Marketing in Japan; Tourism Development in Japan; Event Management; Sustainable Tourism Management; Marketing Management.

Seminar students are strongly encouraged to concurrently enrol in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 月 4/Mon.4, 月 5/Mon.5

[Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be completed during the second year of the semester.

Building on knowledge acquired in the Spring seminar on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the Fall seminar; reflection on what students have learned in the Spring semester
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study on tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Project Progress Update	Research project progress report; discussion of readings
9	Seminar Reading 2	Considering second case study on tourism management
10	Seminar Reading 3	Considering third case study on tourism management
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Projects 1	Presentations and discussions on students' individual research projects
13	Presentations on Student Research Projects 2	Presentations and discussions on students' individual research projects

14

Final Discussion

Roundtable discussion on second-semester progress and expectations for the second year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
 McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
 Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (40%).

Fourth year students: Class Participation (40%) and Final Paper (60%). Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3, 金 4/Fri.4

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn “practical wisdom” by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager's perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Overview	Confirmation of the goals of this seminar and the responsibility of each seminar member
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・ Students need to make good preparations for individual / group study
- ・ Students are encouraged to join the summer training camp

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year student) — 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None.

CAR100ZA

Introduction to Career Design

Azusa MIYAKI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1
Day/Period : 金 1/Fri.1

【Outline and objectives】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【Goal】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Method(s)】

【重要】4/24 第1回の授業（オリエンテーション）開催いたしました。すでに授業資料を Hoppii にアップロードしていますので、履修予定者は仮登録の上、授業資料を確認ください。2020 春学期、オンライン授業が実施されることに伴い、授業計画が一部変更されています。授業計画は3月末のものになってますが、新しい授業内容はオリエンテーション（資料あり）で説明します。第2回は5/8を予定しています。

●5/15以降、ZOOM等を活用し参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
第1回	オリエンテーション	授業主旨、進め方、成績評価方法、求められる参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明します。
第2回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても議論します。

第3回 学生と社会人

社会人には何が求められているのだろう。学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較しながら、就職活動やインターンシップで求められる基本的な態度やマナー等も理解していきます。

第4回 労働の連鎖

私たちの社会は、労働の連鎖で繋がっています。連鎖が一つでも途絶えると、通常の生活ができなくなります。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働が関わっているかを例に考えていきます。

第5回 ストレスマネジメント

適度なストレスは、何かを頑張るための良い刺激となり、自己成長へ繋がります。一方、心が苦しくなったり、嫌な気分になったり、やる気をなくしたりする悪いストレスもあります。ストレスを理解し、対処する方法を学びます。

第6回 アルバイト経験の意味

アルバイトとして働く場合も、労働法によって保護されています。労働基準法やパートタイム労働法など、働く上での基本的な権利と義務について学んでいきます。アルバイトは就業経験としてどのような意味があるのかも考えていきます。

第7回 やる気とモチベーション

これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源になるものを見つけていきます。

第8回 インターンシップ

インターンシップとは何か。何をするのか。どういう効果があるのか。どのように参加するのがよいのだろうかなど、窓口であるキャリアセンター職員をゲストに呼び、過去の先輩の事例や参加の注意点などを聞いていきます。

第9回 働き方と多様性

現代の日本では、外国人、高齢者、障害者、性的マイノリティなど様々な人たちが、様々な雇用形態で働いています。雇用形態の変化、新しい働き方のあり方やその意義について考えます。

第10回 グローバル人材とは

グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。

第11回 働くことの意味

働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論し発表します。

第12回 企業の採用活動

就職活動を採用される立場からだけでなく、採用する側の立場で考えてみましょう。企業社会で求められる人材とはどういう人だろうかという視点を持ち、自分がどんな人間なのかを人に伝えるためのワークを実施していきます。

- 第13回 世の中の動きと求められる人材 これから世の中はどのように変化していくのか、変化に対応しながら、皆さんはどのような生活を営み、キャリアを歩んでいくのでしょうか。近未来予想図を描いてみます。
- 第14回 学生生活の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し、「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業の中で適宜指示をします。

【Textbooks】

特に定めません。授業支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードをしたりプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【References】

授業の中で適宜指示をします。

【Grading criteria】

授業の回数が増えたことに伴い、評価の比重を変更する予定です。授業内でアナウンスをしますのでご確認ください（更新2020.4.26）毎回のリアクションペーパーが70%、期末試験での成績が30%という構成。リアクションペーパーは、記述内容、論理構成等を評価します。

【Changes following student comments】

授業を通して、学生と教員、学生同士、学生と先輩社会人の相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

【Equipment student needs to prepare】

筆記用具は必ず持ってくる。それ以外に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【Others】

コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。また企業や大学では、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にも関わりました。授業では、企業・組織の実態などを共有し、これからの大学生活を送る上で、また社会に出ていく準備期間としてキャリアデザインの必要性を伝えていきます。

■皆様の参加をお待ちしています■ 4月23日更新

オリエンテーション（資料）にて、今後の授業の進め方の詳細・授業内容の変更など詳細を説明していますので確認ください。

【】

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

CAR100ZA

Introduction to Career Design

Hiromi FUJISAWA

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1
Day/Period : 金 2/Fri.2

【Outline and objectives】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思っています。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【Goal】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムを用いて、その都度提示する。また、本授業開始日時は、4月24日（金）10:40～12:20とする。具体的なオンライン授業の方法などについて、初回授業日に学習支援システムを用いて提示する。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明します。また、キャリアとは何か、大学生にとってのキャリアとは何か、導入講義を行います。
2	働くことの意味	なぜキャリアデザインが必要なのか、あなたにとって働くことの意味や意義、やりがいとは何か、ワークを通して検討します。
3	労働の連鎖	社会は労働（職業や役割等）の連鎖でできています。社会の中で自分自身がどのような役割を担っているのか、ワークを通して検討します。
4	インターンシップ	インターンシップとは何か（意義や内容、効果）、どのように参加するとよいのか。窓口であるキャリアセンター職員をゲストに呼び、過去の先輩たちの事例や参加の注意点などについて学びます。

- | | | |
|----|-----------------|--|
| 5 | これまでの自分を振り返る | キャリアデザインの枠組みを学び、これまでの自分を振り返ります。自身の人生観や価値観、仕事観に影響を与えた出会いをまとめるワークを行います。 |
| 6 | 今の自分を分析する | 自己理解の基本姿勢について学びます。また、あなた自身が見ている「今の自分」について分析したうえで自己紹介ワークを行います。 |
| 7 | 多様なキャリアの捉え方 | これまでの授業で紹介したキャリアに関する理論を整理します。また、理論を用いて長期的なキャリアを展望するワークを行います。 |
| 8 | 偶然を活かすキャリア | 偶然を活かすキャリア理論について学びます。参考動画の視聴を通して偶然の活かし方を検討します。また、長期的な人生を歩むうえで役立つであろう「偶然を味方にする」ワークを行います。 |
| 9 | 人生の転機と変幻自在なキャリア | 人生の転機とは何か、転機を活かすキャリア理論と変幻自在なキャリアについて学び、自身が長期的な人生を歩む上で必要となる考え方を探ります。 |
| 10 | ワーク・ライフ・バランス | ワーク・ライフ・バランスとは何か、結婚、出産や育児といったライフ・イベントに関する事例をもとにグループで検討します。 |
| 11 | 働き方と多様性 | 現代の日本社会における雇用形態を学び、性別・年齢・国籍などの属性的条件、価値観やライフスタイルなどの違いによる働き方を考えます。 |
| 12 | 企業の採用活動と求められる能力 | 企業の採用活動、求められる能力について学びます。自身の行動を振り返ることで能力を整理し、学生生活の過ごし方のヒントを探ります。 |
| 13 | 大学での学び | 大学での学びとは何か、春学期の授業を振り返ります。本授業と他の授業の接点や自身の生活における学びの応用など、ワークを通して検討します。 |
| 14 | 学生生活の過ごし方 | 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどのように過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるために何が必要か、学生生活の目標を設定します。 |

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各回の授業では当該テーマに関して生活の中で接点を探したり、それをきっかけに学びを深めたりすることを期待した発展ワークを出題します。
日常生活でも学びを応用する機会を増やしていきましょう。

【Textbooks】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。
資料は「授業支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【References】

授業中に適宜紹介します。

【Grading criteria】

成績評価は、以下の通りです。
リアクションペーパー（毎回）： 70 %、レポート： 30 %

【Changes following student comments】

昨年度ゲストスピーカー登壇について好評を得たため、今年度も予定しています。
なお、授業内での意見によって運営方法等は変更することがあります。

【Equipment student needs to prepare】

配布資料（レジュメ、ワークシート等）や課題提出等で授業支援システムを利用します。各自印刷のうえ、授業に持参してください。

【Others】

新卒で人材紹介会社にて人事コンサルティング営業に従事したのち、メーカー販社兼商社にて法人営業に就き、ベンチャー企業と創業 100 年を超える老舗企業を経験しました。また、3 つの大学でキャリアカウンセラーとして、累計 2,000 件を超えるキャリアカウンセリングの経験があります。

企業経験の観点からはリアルに、キャリアカウンセリングの観点からは皆さんと近い目線でキャリアデザインについて一緒に考えていきたいと思っています。

【】

This course deals with the how to spend at university and working in society.

By thinking them together, I will support you so that you can spend your student life meaningfully.

In the classroom, we provide basic knowledge about the way of thinking, society, and working that are necessary for walking a longer-term life.

It also enhances the development of students' attitude to act autonomously.

LAW100ZA

Law (Constitution of Japan)

Masayoshi KANEKO

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

【Outline and objectives】

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と内容を概観する。

【Goal】

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
- ③日本国憲法の構造について理解する。
- ④日本国憲法が保障する人権の内容と限界について理解する。
- ⑤日本国憲法が定める平和主義の意義と内容について理解する。
- ⑥日本国憲法が定める統治機構の内容について理解する。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【Method(s)】

学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って、授業を進めていくが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

なし / No

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
第1回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点等を説明する
第2回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第3回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第4回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第7回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第8回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第9回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の種類とそれぞれの特質について学ぶ。
第10回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ。
第11回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第12回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法9条の解釈論について学ぶ。

第13回 統治機構①：日本国憲法が定める権力分立 日本国憲法上の統治機構について学ぶ。

第14回 統治機構②：行政権・政党国家 権力分立の現代的課題について学ぶ。

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【Textbooks】

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【References】

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【Grading criteria】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【Others】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【】

In this class, you first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, you learn about the history and contents of the Constitution of Japan.

LAW100ZA

Law (Constitution of Japan)

Masayoshi KANEKO

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

[Outline and objectives]

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と内容を概観する。

[Goal]

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
 ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
 ③日本国憲法の構造について理解する。
 ④日本国憲法が保障する人権の内容と限界について理解する。
 ⑤日本国憲法が定める平和主義の意義と内容について理解する。
 ⑥日本国憲法が定める統治機構の内容について理解する。

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

[Method(s)]

授業システムを通じて配布するプリントに沿って、講義形式で授業を進める。

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

なし / No

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
第1回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点等を説明する
第2回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第3回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第4回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第7回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第8回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第9回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の種類とそれぞれの特質について学ぶ。
第10回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ。
第11回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第12回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法9条の解釈論について学ぶ。
第13回	統治機構①：日本国憲法が定める権力分立	日本国憲法上の統治機構について学ぶ。
第14回	統治機構②：行政国家・政党国家	権力分立の現代的課題について学ぶ。

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

[Textbooks]

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

[References]

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

[Grading criteria]

上記到達目標が達成できたか否かを期末試験によって判定し、成績を評価する（100％）。期末試験では基本的な問題を60点分、応用的な問題を40点分出題し、60点以上で合格とする。

[Changes following student comments]

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

[Others]

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

[]

In this class, you first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, you learn about the history and contents of the Constitution of Japan.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group) Prepare a short speech on "Free Time"
8	Unit 4: Free Time; parts a-b	
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Jean-Pierre Corbeil

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jean-Pierre Corbeil is from British Columbia, Canada, majored in Economics and has a Cambridge CELTA teaching qualification. He has worked in both corporate and academic environments in Japan for over six years. As a University Instructor Jean-Pierre has taught TOEFL, Academic Writing, Reading, Discussion and Listening courses. He has been a Corporate Consultant at Japanese and International Corporations and various Governmental Organizations, where he has taught Meeting/Facilitating, Presentation and Negotiating courses. Outside Japan, he taught at a college in the south of Saudi Arabia and as a Night Auditor in Vancouver, Canada.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日 (金) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group) Prepare a short speech on "Free Time"
8	Unit 4: Free Time; parts a-b	
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

[]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Jean-Pierre Corbeil

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

【Outline and objectives】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Jean-Pierre Corbeil is from British Columbia, Canada, majored in Economics and has a Cambridge CELTA teaching qualification. He has worked in both corporate and academic environments in Japan for over six years. As a University Instructor Jean-Pierre has taught TOEFL, Academic Writing, Reading, Discussion and Listening courses.

He has been a Corporate Consultant at Japanese and International Corporations and various Governmental Organizations, where he has taught Meeting/Facilitating, Presentation and Negotiating courses. Outside Japan, he taught at a college in the south of Saudi Arabia and as a Night Auditor in Vancouver, Canada.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

【Outline and objectives】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

[I]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

David Raffray

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

David is originally from Louisiana, America. In the seven years that David has been in Japan he has taught a wide variety of corporate lessons for a wide range of Corporate Clients. In addition, he often gives English seminars for area fire stations, local ward offices, and railway companies and English seminars at several universities. He also has experience working in the areas of graphic design, branding, and communications.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

[]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Jean-Pierre Corbeil

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jean-Pierre Corbeil is from British Columbia, Canada, majored in Economics and has a Cambridge CELTA teaching qualification. He has worked in both corporate and academic environments in Japan for over six years. As a University Instructor Jean-Pierre has taught TOEFL, Academic Writing, Reading, Discussion and Listening courses.

He has been a Corporate Consultant at Japanese and International Corporations and various Governmental Organizations, where he has taught Meeting/Facilitating, Presentation and Negotiating courses.

Outside Japan, he taught at a college in the south of Saudi Arabia and as a Night Auditor in Vancouver, Canada.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

[]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日 (金) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

[]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Jason Lee

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日 (金) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on "Competitions"
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on "Transportation"
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on "Challenges"
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on "The Environment"
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jason Lee is from Los Angeles, California. He majored in East Asian Languages and cultures with a minor in Business Administration. He has been teaching in Japan for over 3 years and has experience teaching in both universities and companies. Courses include Meetings, Negotiations, Presentations, Discussion and Email Writing. In addition, he also has a sound knowledge of Eiken and TOEIC examinations. Prior to moving to Japan, he worked for a year at a law firm as an office manager, and several years in finance as a financial and administrative analyst. Jason's knowledge of different cultures gained whilst studying combined with experience in the financial industry and in teaching, help him create lessons which encourage students to think about the 'big picture' and take on a world view during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Ivan Iannotta

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

【Outline and objectives】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Ivan Iannotta is a native English speaker born in Zurich, Switzerland, and raised in New York. He is a native speaker of English and German and can speak four more languages fluently. He has been teaching English in Europe and Japan for 15 years. His main areas of expertise are cross-cultural communication, bilingualism, curriculum development, international English exams (Cambridge, TOEFL, TOEIC, IELTS), English for professional/academic purposes and oral assessment. He is a speaking examiner for the University of Cambridge English Language Assessment Department, a freelance translator and interpreter (Japanese <> English). His experience also includes teacher training and academic counseling.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

David Raffray

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

David is originally from Louisiana, America. In the seven years that David has been in Japan he has taught a wide variety of corporate lessons for a wide range of Corporate Clients. In addition, he often gives English seminars for area fire stations, local ward offices, and railway companies and English seminars at several universities. He also has experience working in the areas of graphic design, branding, and communications.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

【Outline and objectives】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[I]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[[

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[I]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Jason Lee

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Jason Lee is from Los Angeles, California. He majored in East Asian Languages and cultures with a minor in Business Administration. He has been teaching in Japan for over 3 years and has experience teaching in both universities and companies. Courses include Meetings, Negotiations, Presentations, Discussion and Email Writing. In addition, he also has a sound knowledge of Eiken and TOEIC examinations. Prior to moving to Japan, he worked for a year at a law firm as an office manager, and several years in finance as a financial and administrative analyst. Jason's knowledge of different cultures gained whilst studying combined with experience in the financial industry and in teaching, help him create lessons which encourage students to think about the 'big picture' and take on a world view during lessons.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

【Outline and objectives】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced I

David Raffray

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

David is originally from Louisiana, America. In the seven years that David has been in Japan he has taught a wide variety of corporate lessons for a wide range of Corporate Clients. In addition, he often gives English seminars for area fire stations, local ward offices, and railway companies and English seminars at several universities. He also has experience working in the areas of graphic design, branding, and communications.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

【Outline and objectives】

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the final six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)

8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on “Learning”
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on “Tourism”
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Jean-Pierre Corbeil

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on “Journeys”
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on “Appearance”
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on “Entertainment”
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)

8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on “Learning”
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on “Tourism”
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jean-Pierre Corbeil is from British Columbia, Canada, majored in Economics and has a Cambridge CELTA teaching qualification. He has worked in both corporate and academic environments in Japan for over six years. As a University Instructor Jean-Pierre has taught TOEFL, Academic Writing, Reading, Discussion and Listening courses.

He has been a Corporate Consultant at Japanese and International Corporations and various Governmental Organizations, where he has taught Meeting/Facilitating, Presentation and Negotiating courses. Outside Japan, he taught at a college in the south of Saudi Arabia and as a Night Auditor in Vancouver, Canada.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 3/Tue.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order (“on the left ... behind that”) descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (200-300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 4

3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft	[Prerequisite] English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final	
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 – 10%	Review Chapter 4	
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5	
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Writing 2 Draft	
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final	
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 – 10%	Review Chapter 5	
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6	
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft	
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final	
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on “What I learned in this course”	
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

LANe100LD

ERP CE1 (Ichigaya): Writing & Discussion: Intermediate II

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 3/Fri.3**[Outline and objectives]**

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left ... behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (200-300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 4

3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- * Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)
- * Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

【Outline and objectives】

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial)	Prepare a short speech on “Work”
3	Unit 7: Work; parts a-b Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on “Technology”
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on “Vacations”

7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on “Products”
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on “History”
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[I]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Jean-Pierre Corbeil

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial)	Prepare a short speech on “Work”
3	Unit 7: Work; parts a-b Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on “Technology”
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on “Vacations”

7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on “Products”
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on “History”
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jean-Pierre Corbeil is from British Columbia, Canada, majored in Economics and has a Cambridge CELTA teaching qualification. He has worked in both corporate and academic environments in Japan for over six years. As a University Instructor Jean-Pierre has taught TOEFL, Academic Writing, Reading, Discussion and Listening courses.

He has been a Corporate Consultant at Japanese and International Corporations and various Governmental Organizations, where he has taught Meeting/Facilitating, Presentation and Negotiating courses. Outside Japan, he taught at a college in the south of Saudi Arabia and as a Night Auditor in Vancouver, Canada.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing and discussion course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the chapters five, six, seven and nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final	[Prerequisite] English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5	
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft	
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final	
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6	
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft	
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final	
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7	
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft	
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final	
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"	
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

LANe100LD

ERP CE2 (Ichigaya): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 2/Fri.2**[Outline and objectives]**

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the chapters five, six, seven and nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the final six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"

7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10%	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts a-b Discussion 1 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10%	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Unit 12: Experts; parts a-b Presentation 3 continued (solo) - 10%	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語プレイスメント a 730

[I]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Jonathan Docherty

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations - two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10%	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts a-b Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"

7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10%	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts a-b Discussion 1 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10%	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Unit 12: Experts; parts a-b Presentation 3 continued (solo) - 10%	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jonathan Docherty is from Glasgow in Scotland. He is a native speaker of British English. Jonathan has been involved in the teaching English as a foreign language industry since 2004. He taught across Europe for two years before moving to Tokyo, Japan in 2008. He has experience teaching a range of age groups and levels to Japanese students in the Kanto area and Aichi too. He aims to deliver interesting, communicative, fun student centred lessons through a blend of task based pair work and group work activities. He believes teaching English to be a challenging and deeply rewarding career. Punctual, patient and positive by nature, he hopes the students at Hosei University enjoy learning English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (500-1000w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the second four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final	【Prerequisite】 English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final	
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6	
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft	
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final	
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7	
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft	
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final	
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on “What I learned in this course”	
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

* Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

* Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

LANe100LD

ERP CE3 (Ichigaya): Writing & Discussion: Advanced II

Jean-Pierre Corbeil

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3**[Outline and objectives]**

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (500-1000w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the second four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jean-Pierre Corbeil is from British Columbia, Canada, majored in Economics and has a Cambridge CELTA teaching qualification. He has worked in both corporate and academic environments in Japan for over six years. As a University Instructor Jean-Pierre has taught TOEFL, Academic Writing, Reading, Discussion and Listening courses.

He has been a Corporate Consultant at Japanese and International Corporations and various Governmental Organizations, where he has taught Meeting/Facilitating, Presentation and Negotiating courses. Outside Japan, he taught at a college in the south of Saudi Arabia and as a Night Auditor in Vancouver, Canada.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語プレイスメント α 730

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

David Raffray

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

【Outline and objectives】

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

David is originally from Louisiana, America. In the seven years that David has been in Japan he has taught a wide variety of corporate lessons for a wide range of Corporate Clients. In addition, he often gives English seminars for area fire stations, local ward offices, and railway companies and English seminars at several universities. He also has experience working in the areas of graphic design, branding, and communications.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Jason Lee

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations - two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Jason Lee is from Los Angeles, California. He majored in East Asian Languages and cultures with a minor in Business Administration. He has been teaching in Japan for over 3 years and has experience teaching in both universities and companies. Courses include Meetings, Negotiations, Presentations, Discussion and Email Writing. In addition, he also has a sound knowledge of Eiken and TOEIC examinations. Prior to moving to Japan, he worked for a year at a law firm as an office manager, and several years in finance as a financial and administrative analyst. Jason's knowledge of different cultures gained whilst studying combined with experience in the financial industry and in teaching, help him create lessons which encourage students to think about the 'big picture' and take on a world view during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Michael Morrison

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日 (金) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations - two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Michael Morrison comes from the UK. He has lived and worked in the Kansai and Kanto areas for several years. Both as an instructor and as an office worker, Michael has led teams working towards strict deadlines while getting the best out of each member. He has experience in curriculum development and textbook writing. He encourages his students to set themselves short- and long-term goals, to take the initiative, and to have the confidence to make full use of the skills they have acquired in class. He pays close attention to each student's needs so that no one is left behind.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Michael Morrison

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

[Outline and objectives]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日 (金) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations - two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Michael Morrison comes from the UK. He has lived and worked in the Kansai and Kanto areas for several years. Both as an instructor and as an office worker, Michael has led teams working towards strict deadlines while getting the best out of each member. He has experience in curriculum development and textbook writing. He encourages his students to set themselves short- and long-term goals, to take the initiative, and to have the confidence to make full use of the skills they have acquired in class. He pays close attention to each student's needs so that no one is left behind.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

[I]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Jason Lee

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

【Outline and objectives】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 – 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Jason Lee is from Los Angeles, California. He majored in East Asian Languages and cultures with a minor in Business Administration. He has been teaching in Japan for over 3 years and has experience teaching in both universities and companies. Courses include Meetings, Negotiations, Presentations, Discussion and Email Writing. In addition, he also has a sound knowledge of Eiken and TOEIC examinations. Prior to moving to Japan, he worked for a year at a law firm as an office manager, and several years in finance as a financial and administrative analyst. Jason's knowledge of different cultures gained whilst studying combined with experience in the financial industry and in teaching, help him create lessons which encourage students to think about the 'big picture' and take on a world view during lessons.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate I

Michael Morrison

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Michael Morrison comes from the UK. He has lived and worked in the Kansai and Kanto areas for several years. Both as an instructor and as an office worker, Michael has led teams working towards strict deadlines while getting the best out of each member. He has experience in curriculum development and textbook writing. He encourages his students to set themselves short- and long-term goals, to take the initiative, and to have the confidence to make full use of the skills they have acquired in class. He pays close attention to each student's needs so that no one is left behind.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

【Outline and objectives】

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on “Competitions”
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on “Transportation”
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on “Challenges”
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on “The Environment”
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[I]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on “Lifestyle”
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on “Competitions”
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on “Transportation”
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on “Challenges”
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on “The Environment”
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[I]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Helen Nagasawa

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on “Lifestyle”
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on “Competitions”
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on “Transportation”
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on “Challenges”
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on “The Environment”
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Helen Nagasawa is a native New Yorker who began her career in marketing at a publishing company. She has been in Tokyo since 2005 and has over 15 years of experience teaching English to a wide range of students including university students, returnees, and business professionals. Working with learners of varying ages and levels has allowed her to strengthen her communication skills and creativity in the classroom. She also brings with her cross-cultural communication skills from living and working across three continents namely in the United States, China, Japan, and Austria. She is dedicated, a team player and believes that learning is an ongoing process.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[I]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

【Outline and objectives】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[I]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on "Performing"
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on "Water"
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on "Opportunities"
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on "Well-being"
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[I]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced
I

David Raffray

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

【Outline and objectives】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

[Others]

David is originally from Louisiana, America. In the seven years that David has been in Japan he has taught a wide variety of corporate lessons for a wide range of Corporate Clients. In addition, he often gives English seminars for area fire stations, local ward offices, and railway companies and English seminars at several universities. He also has experience working in the areas of graphic design, branding, and communications.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイクメン
ト a 730

[I]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced

Helen Nagasawa

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Helen Nagasawa is a native New Yorker who began her career in marketing at a publishing company. She has been in Tokyo since 2005 and has over 15 years of experience teaching English to a wide range of students including university students, returnees, and business professionals. Working with learners of varying ages and levels has allowed her to strengthen her communication skills and creativity in the classroom. She also brings with her cross-cultural communication skills from living and working across three continents namely in the United States, China, Japan, and Austria. She is dedicated, a team player and believes that learning is an ongoing process.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント α 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 3/Tue.3**[Outline and objectives]**

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)

8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Michael Morrison

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4**[Outline and objectives]**

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)

8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on "Learning"
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on "Tourism"
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Michael Morrison comes from the UK. He has lived and worked in the Kansai and Kanto areas for several years. Both as an instructor and as an office worker, Michael has led teams working towards strict deadlines while getting the best out of each member. He has experience in curriculum development and textbook writing. He encourages his students to set themselves short- and long-term goals, to take the initiative, and to have the confidence to make full use of the skills they have acquired in class. He pays close attention to each student's needs so that no one is left behind.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 4/Mon.4**[Outline and objectives]**

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left ... behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (200-300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 4

3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- * Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)
- * Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test α 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Tama): Writing & Discussion: Intermediate II

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

【Outline and objectives】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left ... behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (200-300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the final three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 4

3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- * Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)
- * Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations - two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial)	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts a-b Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"

7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10%	Prepare a short speech on “Products”
9	Unit 10: Products; parts a-b Unit 10: Products; parts c-e Discussion – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on “History”
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10%	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Unit 12: Nature; parts a-b Presentation 3 continued (solo) – 10%	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Helen Nagasawa

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial)	Prepare a short speech on “Work”
3	Unit 7: Work; parts a-b Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10%	Prepare a short speech on “Technology”
5	Unit 8: Technology; parts a-b Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on “Vacations”

7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Products; parts a-b	Prepare a short speech on “Products”
9	Unit 10: Products; parts c-e Discussion – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: History; parts a-b	Prepare a short speech on “History”
11	Unit 11: History; parts c-e Discussion – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Helen Nagasawa is a native New Yorker who began her career in marketing at a publishing company. She has been in Tokyo since 2005 and has over 15 years of experience teaching English to a wide range of students including university students, returnees, and business professionals. Working with learners of varying ages and levels has allowed her to strengthen her communication skills and creativity in the classroom. She also brings with her cross-cultural communication skills from living and working across three continents namely in the United States, China, Japan, and Austria. She is dedicated, a team player and believes that learning is an ongoing process.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing and discussion skills, by helping them to develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the chapters five, six, seven and nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final	[Prerequisite] English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test α 690-729
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5	
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft	
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final	
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6	
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft	
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final	
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7	
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft	
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final	
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on “What I learned in this course”	
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

LANe100LD

ERP CE2 (Tama): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3**[Outline and objectives]**

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the chapters five, six, seven and nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion
:Advanced II

Simon Wardle

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the final six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"

7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Simon Wardle is from Wigan in the UK and has a BA (Hons) in Design. He has been teaching in Japan, in both corporate and university settings, for over ten years. His corporate experience includes teaching presentation, meeting, negotiation and discussion courses. At university his classes focus on more communicative based lessons as well as reading and writing, and TOEFL courses. Prior to teaching, Simon Wardle worked in the Financial sector in England at a well-known bank. Through his work experience and his extensive teaching experience, Simon Wardle is able to create and deliver engaging student led lessons which focus on maximizing learner output.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Thomas Rogers

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations - two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"

7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Thomas Rogers graduated with a Bachelor of Arts in American Studies. He is an experienced teacher and in the five years that he has been in Japan he has taught a wide range of students from kindergarten to adults. He has taught oral communication classes as well as TOEFL and TOEIC. He has worked as a freelance translator and has a high level of Japanese. By applying his analytical skills and his extensive experience as an Instructor, Tom focuses on creating interesting lessons with the aim of improving his students' critical thinking skills in English.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (500-1000w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the second four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final	【Prerequisite】 English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント α 730
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final	
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6	
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft	
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final	
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7	
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft	
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final	
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on “What I learned in this course”	
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

* Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

* Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

LANe100LD

ERP CE3 (Tama): Writing & Discussion: Advanced II

Helen Nagasawa

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

【Outline and objectives】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (500-1000w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the second four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

- * Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)
- * Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Helen Nagasawa is a native New Yorker who began her career in marketing at a publishing company. She has been in Tokyo since 2005 and has over 15 years of experience teaching English to a wide range of students including university students, returnees, and business professionals. Working with learners of varying ages and levels has allowed her to strengthen her communication skills and creativity in the classroom. She also brings with her cross-cultural communication skills from living and working across three continents namely in the United States, China, Japan, and Austria. She is dedicated, a team player and believes that learning is an ongoing process.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語プレイスメント a 730

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

【Outline and objectives】

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations (with PowerPoint, etc.) in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: People; parts a-b	Prepare a short speech on "People"
3	Unit 1: People; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) - 10% Unit 2: Possessions; parts a-b	Prepare a short speech on "Possessions"

5	Unit 2: Possessions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Places; parts a-b	Prepare a short speech on "Places"
7	Unit 3: Places; parts c-e Discussion 1 - 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) - 10% Unit 4: Free Time; parts a-b	Prepare a short speech on "Free Time"
9	Unit 4: Free Time; parts c-e Discussion 2 - 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Food; parts a-b	Prepare a short speech on "Food"
11	Unit 5: Food; parts c-e Discussion 3 - 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) - 10% Unit 6: Past Lives; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

[]

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course

2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Describing People Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 1
3	Chapter 1: Describing People Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 1: Describing People Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 1: Describing People Discussion 1 - 10%	Review Chapter 1
6	Writing 1 Final feedback Chapter 2: Listing-Order Paragraphs	Prepare a discussion topic based on Chapter 2
7	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
8	Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 2: Listing-Order Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 2
10	Writing 2 Final feedback Chapter 3: Giving Instructions	Prepare a discussion topic based on Chapter 3
11	Chapter 3: Giving Instructions Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 3: Giving Instructions Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 3: Giving Instructions Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 3 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

【】

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the first three chapters in the textbook firstly to confirm students' understanding of and ability to write basic English paragraphs, secondly to analyze and practice listing-order ("first ... second ..." etc.) paragraphs, and thirdly to build students' ability to write written instructions, requests and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate I

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

【Outline and objectives】

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make presentations in English (with PowerPoint, etc.) on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Lifestyle; parts a-b	Prepare a short speech on "Lifestyle"
3	Unit 1: Lifestyle; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Competitions; parts a-b	Prepare a short speech on “Competitions”
5	Unit 2: Competitions; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Transportation; parts a-b	Prepare a short speech on “Transportation”
7	Unit 3: Transportation; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Challenges; parts a-b	Prepare a short speech on “Challenges”
9	Unit 4: Challenges; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: The Environment; parts a-b	Prepare a short speech on “The Environment”
11	Unit 5: The Environment; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Stages of Life; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

[I]

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 52-60, TOEFL ® ITP 470-499, TOEIC ® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN ® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は5月1日(金)とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP受講には専用サイトで4月21日(火)~26日(日)の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first three chapters and chapter nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Academic Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Academic Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Narrative Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Narrative Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Basic Paragraph Structure	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Basic Paragraph Structure Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Basic Paragraph Structure Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 9: Essay Organization Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 9: Essay Organization Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 9: Essay Organization Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 9 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

【】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first three chapters of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure and to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter nine of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 3/Tue.3

【Outline and objectives】

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 28 日 (火) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)～26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on "Culture and Identity"
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on “Performing”
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on “Water”
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on “Opportunities”
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on “Well-being”
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[I]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced I

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

[Outline and objectives]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make academic presentations (with PowerPoint, etc.) in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 5 月 1 日 (金) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 1: Culture and Identity; parts a-b	Prepare a short speech on “Culture and Identity”
3	Unit 1: Culture and Identity; parts c-e Discussion	Unit 1 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)

4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 2: Performing; parts a-b	Prepare a short speech on “Performing”
5	Unit 2: Performing; parts c-e Discussion	Unit 2 review
6	Unit 3: Water; parts a-b	Prepare a short speech on “Water”
7	Unit 3: Water; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 3 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)
8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 4: Opportunities; parts a-b	Prepare a short speech on “Opportunities”
9	Unit 4: Opportunities; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 4 review
10	Unit 5: Well-being; parts a-b	Prepare a short speech on “Well-being”
11	Unit 5: Well-being; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 5 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 6: Mysteries; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or English Placement Test a 730

[]

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 27 日 (月) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火) ~ 26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced I

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

[Outline and objectives]

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (750w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 30 日 (木) とし、具体的な授業の方法などを、学習支援システムで提示する。なお、ERP 受講には専用サイトで 4 月 21 日 (火)~26 日 (日) の申し込み期間で申し込みが必要なので注意する。詳細は <http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/erp/> で確認のこと。

The course covers the first four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 1: Paragraph Structure Discussion	Writing Practice Draft
3	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 1: Paragraph Structure Writing Practice Final group review	Review Chapter 1
5	Chapter 2: Unity and Coherence Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 2: Unity and Coherence Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 2: Unit and Coherence Discussion 1 - 10%	Review Chapter 2
8	Writing 1 Final feedback Chapter 3: Using Outside Sources Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 3: Using Outside Sources Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 3: Using Outside Sources Discussion 2 - 10%	Review Chapter 3
11	Writing 2 Final feedback Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 4: From Paragraph to Essay Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 4: From Paragraph to Essay Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 4 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語プレイスメント a 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the first four chapters of the textbook to firstly review English paragraph structure, secondly to reinforce understanding of and ability to produce unified and coherent writing, thirdly to utilize and cite outside resources (references), and fourthly to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Intermediate II

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

【Outline and objectives】

This course, the lowest level communication course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing speaking and listening skills, by building a solid foundation of English vocabulary and structures to allow simple communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of relevant topics and themes focused on society and culture as a springboard for planning, discussion, presentation and simple debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- make basic presentations in English, in pairs, groups and individually
- build ability to listen to prepared speeches and simple multi-party interactions
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the final six units of the Life (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Journeys; parts a-b	Prepare a short speech on "Journeys"
3	Unit 7: Journeys; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Appearance; parts a-b	Prepare a short speech on "Appearance"
5	Unit 8: Appearance; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Entertainment; parts a-b	Prepare a short speech on "Entertainment"
7	Unit 9: Entertainment; parts c-e Discussion 1 – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group)

8	Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: Learning; parts a-b	Prepare a short speech on “Learning”
9	Unit 10: Learning; parts c-e Discussion 2 – 10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Tourism; parts a-b	Prepare a short speech on “Tourism”
11	Unit 11: Tourism; parts c-e Discussion 3 – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: The Earth; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on “What I learned in this course”
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Life 2 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790563-3)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order (“on the left ... behind that”) descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (200-300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 4

3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- * Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)
- * Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 45-51, TOEFL ® ITP 450-469, TOEIC ® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN ® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

LANe100LD

ERP CE1 (Koganei): Writing & Discussion: Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

[Outline and objectives]

This course, the lowest level writing course in the ERP, aims to support and strengthen students' existing writing and discussion skills, by building a solid foundation of English vocabulary and grammar structures to allow simple written and oral communication on a range of engaging topics and situations. It uses the final three chapters in the textbook firstly to analyze and practice space-order ("on the left ... behind that") descriptive paragraphs, secondly to recognize and practice writing well-reasoned paragraphs supported by examples, and thirdly to build students' ability to write simple logical opinions in longer paragraphs. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and confidence.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and become familiar with standard conjunctions
- write coherent, logical English extended paragraphs on a range of topics (200-300 words in length)
- build general vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- improve reading skills (skimming, scanning, comprehension) using short, level-appropriate articles
- engage in and lead simple discussions on a range of topics
- manage common written communication tasks (e.g. emails) in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing simple strategies for explaining, checking and confirming
- confidently express opinions supported by simple reasoning
- work together with other students in simple collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final three chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 2) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every four lessons thereafter. The first and second lessons of each unit focus on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the third and fourth lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the third lesson of the course, students are expected to prepare short speech and discussion topics, write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Prepare a discussion topic based on Chapter 4

3	Chapter 4: Describing with Space Order Discussion	Writing 1 Draft
4	Chapter 4: Describing with Space Order Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
5	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 4: Describing with Space Order Discussion 1 - 10%	Review Chapter 4
6	Writing 1 Final feedback Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Prepare a discussion topic based on Chapter 5
7	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples	Writing 2 Draft
8	Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
9	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 5: Stating Reasons and Using Examples Discussion 2 - 10%	Review Chapter 5
10	Writing 2 Final feedback Chapter 6: Expressing Your Opinion	Prepare a discussion topic based on Chapter 6
11	Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 6: Expressing Your Opinion Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 6: Expressing Your Opinion Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 6 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 45-51, TOEFL® ITP 450-469, TOEIC® 500-549, IELTS 5.0 or EIKEN® CSE2.0 2200-2303, English Placement Test a 640-689

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

- * Longman Academic Writing Series (Level 2); 3rd Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466333-3)
- * Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Oral Presentation & Discussion: Higher-Intermediate II

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 3/Mon.3**[Outline and objectives]**

This course, the mid-level communication course in the ERP, aims to further develop students' speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make effective presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to prepared speeches and multi-party interactions
- engage in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- improve pronunciation to maintain a clear diction understandable by native and non-native speakers
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, and considering multiple points of view
- build analysis and decision-making skills through group discussion activities
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial)	Prepare a short speech on "Work"
3	Unit 7: Work; parts a-b Unit 7: Work; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Technology; parts a-b	Prepare a short speech on "Technology"
5	Unit 8: Technology; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Vacations; parts a-b	Prepare a short speech on "Vacations"

7	Unit 9: Vacations; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) – 10%	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group) Prepare a short speech on "Products"
8	Unit 10: Products; parts a-b Unit 10: Products; parts c-e Discussion – 10%	Unit 10 review
9	Unit 11: History; parts a-b Unit 11: History; parts c-e Discussion – 10%	Prepare a short speech on "History"
10	Unit 11: History; parts c-e Discussion – 10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
11	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: Nature; parts a-b Presentation 3 continued (solo) – 10%	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
12	Unit 12: Nature; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
13	Course review / Study planning	

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 3 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790564-0)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

[Outline and objectives]

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the chapters five, six, seven and nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD

ERP CE2 (Koganei): Writing & Discussion: Higher-Intermediate II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

【Outline and objectives】

This course, the mid-level writing course in the ERP, aims to further develop students' English writing and discussion skills, by helping them to write different kinds of paragraphs and finally to write simple essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses chapters five, six and seven of the textbook to introduce various kinds of English paragraph structure, to reinforce understanding of and the ability to produce unified and coherent writing. The course then turns to chapter ten of the book to look at how to apply this knowledge and skill to write a basic essay. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- compose complex, multi-clause English sentences and expand use of more sophisticated conjunctions
- write logical English paragraphs (200-300w) and short essays (500w) on a range of academic and general topics
- expand specific vocabulary related to the reading, writing and discussion topics
- build understanding of the difference between spoken and written English
- improve reading skills (summarizing, note-taking) using longer, level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the chapters five, six, seven and nine of the Longman Academic Writing Series (Level 3) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning.

Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Paragraphs Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Paragraphs Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Definition Paragraphs Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Definition Paragraphs Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Cause / Effect Paragraphs Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 10: Opinion Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 10: Opinion Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 10: Opinion Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

* Longman Academic Writing Series (Level 3); 4th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466332-6)

* Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 52-60, TOEFL® ITP 470-499, TOEIC® 550-624, IELTS 5.5, EIKEN® CSE2.0 2304-2399 or English Placement Test a 690-729

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 3/Tue.3**[Outline and objectives]**

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"

7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group) Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 1 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Oral Presentation & Discussion :Advanced II

Samuel Harper

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4**[Outline and objectives]**

This course, the highest level communication course in the ERP, aims to further develop students' already significant speaking and listening skills, by expanding their active repertoire of English vocabulary and structures to allow complex communication on a range of engaging topics and situations. It uses the textbook's wide range of topics and themes on society and culture as a springboard for planning, discussion, meeting simulation, presentation and debate activities, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- make sophisticated academic presentations in English on academic and other topics, in pairs, groups and individually
- expand ability to listen to academic presentations and complex multi-party interactions
- engage proactively in and facilitate discussions on a relatively simple academic topics related to their fields of study
- manage common situations when communicating in English both in Japan and when travelling abroad
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence, backed by data and evidence
- expand analysis and research skills by using data to support discussions and presentations in class
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the final six units of the Life (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every two lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on language input and controlled practice, while the second lesson focuses on open practice and application. At the end of each unit is a discussion which provides the basis for the creation of three presentations. In the fourth, eighth and twelfth / thirteenth lessons, students will deliver these presentations which they have worked on in-class and at home. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three presentations – two of which are done in pairs / groups, and one individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR self-evaluation (Initial) Unit 7: Living space; parts a-b	Prepare a short speech on "Living space"
3	Unit 7: Living space; parts c-e Discussion	Unit 7 review Prepare & practice Presentation 1 (pair/group)
4	Presentation 1 (pair/group) – 10% Unit 8: Travel; parts a-b	Prepare a short speech on "Travel"
5	Unit 8: Travel; parts c-e Discussion	Unit 8 review
6	Unit 9: Shopping; parts a-b	Prepare a short speech on "Shopping"

7	Unit 9: Shopping; parts c-e Discussion 1 – 10% Presentation 2 (pair/group) – 10% Unit 10: No limits; parts a-b	Unit 9 review Prepare and practice Presentation 2 (pair/group) Prepare a short speech on "No limits"
9	Unit 10: No limits; parts c-e Discussion 1 -10%	Unit 10 review
10	Unit 11: Connections; parts a-b	Prepare a short speech on "Connections"
11	Unit 11: Connections; parts c-e Discussion 3 -10%	Unit 11 review Prepare and practice Presentation 3 (solo)
12	Presentation 3 (solo) – 10% Unit 12: Experts; parts a-b	Review / Prepare Presentation 3 (solo)
13	Presentation 3 continued (solo) – 10% Unit 12: Experts; parts c-e CEFR self-evaluation (Final) / Student surveys	Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

* Life 4 (2nd Ed.), Cengage Learning / National Geographic Learning (ISBN: 978-1-33-790565-7)

* Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Presentation 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Samuel Harper is from the south of England and has a background in science, centering around the biological sciences, medicine and pharmacology. He graduated in Medical Biochemistry. Following this, he obtained a Cambridge CELTA teaching qualification. His teaching experience includes both academic and corporate classes. He has taught business classes focusing on Presentations, Meetings, Negotiations and general Business Communication. In addition to these courses, Sam has facilitated discussion and writing courses at a prominent medical university in Tokyo. He also has over 2 years' experience teaching both IELTS and TOEIC examination courses. Sam's background in science and his teaching experience helps learners improve and develop their logical thinking skills during discussions and debates during lessons.

[Prerequisite]

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイクメン ト a 730

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II

Thomas Saunders

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 2/Mon.2**[Outline and objectives]**

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

[Goal]

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (500-1000w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

The course covers the second four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule]

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final
7	Writing 1 Final DUE - 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 - 10%	Review Chapter 6
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final
10	Writing 2 Final DUE - 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 - 10%	Review Chapter 7
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final
13	Writing 3 Final DUE - 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 - 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on "What I learned in this course"
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

[Textbooks]

*Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

*Supplementary in-class handouts (free)

[References]

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

[Grading criteria]

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

Tom Saunders has a Ph.D in Public Administration and a M.P.A in Public and Nonprofit Management and Policy. He is a consultant with over twenty implementing, and studying local-level responses to social policy issues as well as providing technical assistance to governmental and nonprofit organizations. He has several years teaching experience in Japan teaching government agencies and corporate clients. He has taught university courses as well as government agencies and corporate clients.

【Prerequisite】

English proficiency requirement: TOEFL® iBT 61, TOEFL® ITP 500, TOEIC® 625, IELTS 6.0, EIKEN® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント a 730

【】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

LANe100LD

ERP CE3 (Koganei): Writing & Discussion: Advanced II

Amy Toms

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

【Outline and objectives】

This course, the highest level writing course in the ERP, aims to further develop students' already significant English writing and discussion skills, by expanding their ability to write long paragraphs into essays consisting of a clear introduction, body, conclusion structure. It uses the second four chapters of the textbook to analyze and practice writing four different essay types: Process Essays, Cause / Effect Essays, Comparison / Contrast Essays, and finally Argumentative Essays. Through these units various writing skills are explored including organization, thesis statements, collocations, antonyms, summarizing, and so on. These writing skills are always balanced with speaking and discussion tasks on a variety of engaging topics, with a focus on encouraging active engagement, learner autonomy, and critical thinking.

【Goal】

By the end of this course, students will be better able to:

- write sophisticated, referenced, logical English essays (500-1000w) on a range of academic and general topics
- be sensitive to the importance of citation and reference in academic writing and avoid plagiarism
- learn effective techniques for quoting, paraphrasing, summarizing, etc. the work of others
- deepen vocabulary related to target topics through in-class and further reading / research
- develop critical reading skills (identifying opinions and bias) using extended level-appropriate academic articles
- engage proactively in and facilitate discussions on a wide range of topics related to their fields of study
- communicate actively by employing strategies for explaining, reasoning, persuading, checking and confirming
- confidently express opinions supported by logical reasoning and convincing evidence
- work together with other students in collaborative projects

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

【Method(s)】

The course covers the second four chapters of the Longman Academic Writing Series (Level 4) textbook. It starts with a general orientation to the program and introduction to the course, and a study planning workshop in which students set learning goals for the semester. After completing the CEFR self-evaluation in Lesson 2, students begin working with the textbook, completing one unit every three lessons thereafter. The first lesson of each unit focuses on structure, language input and controlled writing practice, with small-group discussion, while the second and third lessons focus on topic exploration, free writing practice, and editing. During each unit there are discussion tasks which provide the basis for the creation of three writing assignments appropriate to the level of the students. Starting as homework after the fifth lesson of the course, students are expected to write a draft assignment, review it in pairs and with the teacher in the next class, and then prepare a final copy for submission for evaluation. After evaluation, students will have a chance to receive feedback from the instructor for all three evaluated assignments. The course ends with a review of key language and skills and another study planning workshop to encourage autonomous learning. Evaluation is based on consistent attendance, active participation in class activities, homework completion, discussion activities, and three writing assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】

No.	Theme	Contents
1	Orientation & introductions Course preview Study planning	Write down three SMART learning goals for this course
2	CEFR Self-Evaluation (Initial) Chapter 5: Process Essays Discussion	Writing Practice Draft

3	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Draft pair review	Writing Practice Final	【Prerequisite】 English proficiency requirement: TOEFL ® iBT 61, TOEFL ® ITP 500, TOEIC ® 625, IELTS 6.0, EIKEN ® CSE2.0 2400 or 英語ブレイスメント α 730
4	Chapter 5: Process Essays Writing Practice Final group review	Review Chapter 5	
5	Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion	Writing 1 Draft	
6	Chapter 6: Cause / Effect Essays Writing 1 Draft pair review	Writing 1 Final	
7	Writing 1 Final DUE – 10% Chapter 6: Cause / Effect Essays Discussion 1 – 10%	Review Chapter 6	
8	Writing 1 Final feedback Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion	Writing 2 Draft	
9	Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Writing 2 Draft pair review	Writing 2 Final	
10	Writing 2 Final DUE – 10% Chapter 7: Comparison / Contrast Essays Discussion 2 – 10%	Review Chapter 7	
11	Writing 2 Final feedback Chapter 8: Argumentative Essays Discussion	Writing 3 Draft	
12	Chapter 8: Argumentative Essays Writing 3 Draft pair review	Writing 3 Final	
13	Writing 3 Final DUE – 10% Chapter 8: Argumentative Essays Discussion 3 – 10% CEFR Self-Evaluation (Final) / Student surveys	Review Chapter 8 Prepare a short speech on “What I learned in this course”	
14	Writing 3 Final feedback Course review / Study planning	-	

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Throughout the course, students will be expected to do homework. Students will be expected to spend 2 hours a week completing homework assignments (preparing short speeches, preparing and practicing evaluated presentations, and completing unit review pages). They will also be asked to set goals and develop study plans as part of their self-study.

【Textbooks】

* Longman Academic Writing Series (Level 4); 5th Edition, Pearson (ISBN: 978-0-13-466331-9)

* Supplementary in-class handouts (free)

【References】

The supplementary reading materials and/or websites would be shared appropriately.

【Grading criteria】

Participation (with attendance) 40%; Writing 30%; Discussion 30%

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

Amy Toms, from the U.K., is a personable and professional individual who has worked in Japan since 2017. Her experience includes teaching English to both children and adults, providing her with an engaging and creative approach. She has taught at Universities and Language schools in Japan, providing communication classes, exam preparation and 1:1 lessons tailored to professionals' business needs. Her students value her enthusiasm and encouraging approach. She genuinely enjoys seeing her students improve and grow in confidence. Prior to working in Japan, she worked as a Clinical Psychologist for the National Health Service in the UK. She also taught English to children in various locations throughout Europe including Italy, Spain, Austria and the UK.

HSS105LB

スポーツ心理学

飯田 麻紗子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツと心の関係を学ぶ。

【到達目標】

発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、情報源把握力、信頼関係構築力）」と「状況判断・行動力（主に、自己変革力、環境変革力）」の育成に貢献することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

この授業では、スポーツ心理学の実践的なテーマを学習します。運動・スポーツは、私たちの心と深い関わりをもっています。運動・スポーツと心との関係を学ぶことは、効果的に運動・スポーツ指導を実践する上で欠かせません。この講義では、公認スポーツ指導者養成のための共通科目として、発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて、具体的な実践的に学び、実践できるようになることを目指します。

少なくとも春学期前半はオンライン授業とし、本授業の開始日は、4 月 27 日とします。なお、初回（4 月 27 日）は、オンライン授業の具体的な実施方法、成績評価等について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ジュニア期のスポーツ 発育発達過程の身体的特徴、心理的特徴	この授業で扱う全体像を理解し、説明できるようになる。子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-
2	ジュニア期のスポーツ 発育発達期に多いケガや病気	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-②
3	ジュニア期のスポーツ 発育発達期のプログラム	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-③
4	スポーツの心理Ⅰ スポーツと心	スポーツ指導における心理学的なポイントを理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-①
5	スポーツの心理Ⅰ スポーツにおける動機づけ	スポーツ指導における心理学的なポイントを理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-②
6	スポーツの心理Ⅰ コーチングの心理（1）	スポーツ指導における心理学的なポイントを理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-③
7	スポーツの心理Ⅰ コーチングの心理（2）	スポーツ指導における心理学的なポイントを理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-③
8	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（1）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
9	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（2）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
10	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（3）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①

11	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（4）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
12	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（5）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
13	スポーツの心理Ⅱ 指導者のメンタルマネジメント（1）	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。Ⅲ-6-②
14	スポーツの心理Ⅱ 指導者のメンタルマネジメント（2）	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。Ⅲ-6-②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容を実践・活用できるようにすることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目の内容については、復習用の動画が用意されています。とくに、欠席した学生は活用してください。

【テキスト（教科書）】

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（公）日本体育協会

【参考書】

日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

1) 授業の到達目標と対応した期末のレポートが 60%、2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価となります。少なくとも春学期前半がオンライン授業となった為、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な成績評価の方法と基準は、初回の授業にて説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「毎回プリントくれて、授業支援システムに出してくれるので良かった。授業内容も今の自分に十分に生かせる話を聞くことができたので履修して良かった」「動画もおもしろかった」「普段なかなか学ぶことが出来ない、メンタルのことなどを知ることができとてもためになりました。わかりやすい授業ありがとございました！」「メンタル面でとてもサポートして貰いました。実践的なことも多かったのでこれからの自分の競技力向上へと繋がると思います。いちばん好きな講義でした」という意見がありました。この科目は、1 年次から履修可能な必修科目なので、平易に情報提供できるよう努めます。また、授業内レポートを課して、翌週にそのフィードバックを行う授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。グループでのワークや、ペアでのワークを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。この授業の担当教員は、臨床心理士、公認心理師などの有資格者であり、思春期スポーツ選手の心理支援を専門としています。これまでのスポーツ心理学の研究実績や、現場での部活動指導経験を踏まえ、本講義では事例を交えながら具体的に指導します。

【Outline and objectives】

To learn the relationship between exercise / sports and psychological factors.

HSS202LB

トップアスリート論

吉田 康伸

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国内外のトップアスリートに注目し、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法等を調べ、ディスカッションを通して、トップアスリートの特徴について考察する。

【到達目標】

- ①日頃から取り組んでいる競技と併せ、他競技のルールや歴史等についても理解を深め、視野を広げる。
- ②各アスリートの経歴を調べる中で、練習に取り組む姿勢や日常生活の過ごし方等、彼らが優れたパフォーマンスを発揮するために努力している点について探り、理解する。
- ③各自が理想のアスリート像を確立させ、競技生活や競技力向上に役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

演習形式で授業を進め、スポーツ界で活躍する（した）一流選手を取り上げ、彼らの経歴や考え方、トレーニング方法等の特徴についてまとめ、ディスカッションしていく。

各自が関心のある選手について調査し、個人あるいはグループごとに資料を作成して、その内容を発表してもらう予定である。なお、必要に応じてビデオ等を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、受講者決定	授業概要について説明し、受講者の確認をする。
第2回	トップアスリートとは（意識、練習法等）	トップアスリート特有の考え方やトレーニング方法について説明する。
第3回	トップアスリートの紹介（1）	ビデオ又は資料を用いてトップアスリートの紹介をする。
第4回	トップアスリートの紹介（2）	ビデオ又は資料を用いてトップアスリートを紹介する。
第5回	トップアスリートの紹介（3）	ビデオ又は資料を用いてトップアスリートを紹介する。
第6回	各競技のアスリート発表（1）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第7回	各競技のアスリート発表（2）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第8回	各競技のアスリート発表（3）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第9回	各競技のアスリート発表（4）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第10回	各競技のアスリート発表（5）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第11回	各競技のアスリート発表（6）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第12回	各競技のアスリート発表（7）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第13回	各競技のアスリート発表（8）、ディスカッション	個人又はグループによってトップアスリートの発表を行い、質疑応答等のディスカッションを行う。
第14回	授業総括とレポート作成、提出	授業総括を行った後、レポートを作成し提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回取り上げる競技やトップアスリートの特徴等を再度確認、復習し、自身の発表でアスリートに関するより詳しい内容を述べられるよう、資料の作成に努めること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、グループ発表（20 %）及びレポート（20 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げたアスリート及び競技について、詳しく解説、補足することを目指す。

【その他の重要事項】

バレーボール現Vリーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてトップアスリートについての授業を行う。

【Outline and objectives】

Pay attention to domestic and international top athletes, examine their backgrounds, thoughts, training methods, etc., and discuss characteristics of top athletes through discussion.

HSS204LB

スポーツ栄養学Ⅰ

杉山 明美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、具体的なコンディショニング方法を学ぶ。

【到達目標】

・身体の仕組みやケガの成り立ち、栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。
・自分のコンディションを血液データや症状から客観的に見極め、コンディション向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。
・自分の課題（減量やコンディションのコントロールなど）に対し対応ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

春学期はオンライン授業となる。授業開始を 4/21（火）～全 12 回とし、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第 2 回目	栄養管理の重要性	新しい栄養学の必要性について学ぶ。
第 3 回目	パフォーマンスと栄養	パフォーマンスと栄養の関係について学ぶ。
第 4 回目	アスリートの食事	アスリートが必要としているバランスのとれた食事について学ぶ。
第 5 回目	消化と吸収	身体の消化と吸収のしくみとパフォーマンスの関係について学ぶ。
第 6 回目	エネルギー代謝	身体の中でエネルギーを作り出すシステムについて学ぶ。
第 7 回目	スポーツと栄養素（たんぱく質）	たんぱく質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響を学ぶ。
第 8 回目	スポーツと栄養素（糖質）	糖質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 9 回目	スポーツと栄養素（脂質）	脂質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 10 回	スポーツと栄養素（ビタミン①）	ビタミンの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 11 回	スポーツと栄養素（ビタミン②ミネラル①）	ビタミンとミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 12 回	スポーツと栄養素（ミネラル②）	ミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内容を生かしコンディショニングを行う。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで提示する

【参考書】

「スポーツ選手の栄養と食事」 杉山明美、三栄書房、2018 年、1400 円

【成績評価の方法と基準】

春学期はオンライン授業となるため、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法については、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

・欠席者がテキストを希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。
・集中力が持続できるような授業構成を行う。

【その他の重要事項】

・併せてスポーツ栄養学Ⅱも受講することが望ましい。
・実務経験について → バレーボール選手としてオリンピックに出場するなどのトップアスリートとしての経験と、引退後、分子整合栄養学管理士の資格を取り、アスリートや一般の方の栄養管理を行いコンディションの改善・向上を行っている経験を、体験談や症例を授業で紹介していく。

【Outline and objectives】

Learn concrete conditioning methods using scientific latest sports nutrition based on molecular matching nutrition.

HSS205LB

スポーツ栄養学Ⅱ

杉山 明美

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、具体的なコンディショニング方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・身体の仕組みや症状の成り立ち、各栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。
- ・自分のコンディショニングを血液データや症状から客観的に見極め、コンディショニング向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。
- ・自分の課題（減量やコンディショニングのコントロールなど）に対し対応ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科： DP3、法学部政治学科： DP1、法学部国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP4、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科： DP4、社会学部： DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科： DP1、現代福祉学部臨床心理学科： DP1、デザイン工学部システムデザイン学科： DP4

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に行う中で、各テーマについて個々またはグループでディスカッションを行う。また、授業の感想や質問などを自由に提出し、個人の問題や課題について解決していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第 2 回目	コンディショニングと栄養	コンディショニングと栄養の関係について学ぶ。
第 3 回目	アスリートの食事	アスリートが理想とするメニューの作り方や選び方、また、タイミング別の栄養摂取の方法を学ぶ。
第 4 回目	鉄欠乏と栄養対策	鉄欠乏の症状と競技への影響について学ぶ。また、貧血診断の問題点と栄養アプローチについて学ぶ。
第 5 回目	スタミナと栄養対策（体力編）	スタミナアップのメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 6 回目	スタミナと栄養対策（メンタル編）	メンタルアップのメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 7 回目	免疫力と栄養対策	感染症を発症するメカニズムと、栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 8 回目	増量と栄養対策	増量のメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 9 回目	減量と栄養対策	減量のメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 10 回目	ケガと栄養対策Ⅰ	ケガが起こるメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 11 回目	ケガと栄養対策Ⅱ	ケガが起こるメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 12 回目	筋肉と栄養対策	筋肉の質を向上させるメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第 13 回目	血液検査とコンディショニング	血液検査データを参考にコンディショニングに役立てる方法を学ぶ。
第 14 回目	総括（試験）	秋学期の授業内容について理解度を確認するための試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内容を生かしコンディショニングを行う。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する。

【参考書】

「スポーツ選手の栄養と食事」杉山明美、三栄書房、2018 年、1400 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%他、グループワーク、提出物、授業態度など総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・欠席者がテキストを希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。

・集中力が持続できるような授業構成を行う。

【その他の重要事項】

- ・スポーツ栄養学Ⅰから受講することが望ましい。
- ・実務経験について → バレーボール選手としてオリンピックに出場するなどのトップアスリートとしての経験と、引退後、分子整合栄養学管理士の資格を取り、アスリートや一般の方の栄養管理を行いコンディショニングの改善・向上を行っている経験を、体験談や症例を授業で紹介していく。

【Outline and objectives】

Learn concrete conditioning methods using scientific latest sports nutrition based on molecular matching nutrition.

HSS222LB

スポーツ組織論/スポーツ組織論 I

日比 千里

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

チームビルディングの手法を学び、スポーツ組織についての考察を深めることを目的とする。

【到達目標】

スポーツ組織についての考察を深め、そこから得た自己の学びを実際のスポーツ場面に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

この授業では、チームビルディングについて学び、その手法を体験します。その場でチームごとのワークを行いますので、受け身ではなく、自ら学びを得ようとする主体的な姿勢が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・スポーツ組織の概要	授業の進め方、スポーツ組織の概要について説明する。
2	メンバーの関係づくり	チームメンバーの関係づくりについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
3	自己理解と他者理解	自己および他者への理解について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
4	情報伝達	チームの情報伝達について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
5	計画	チームの計画とその実行について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
6	コミュニケーション	チームのコミュニケーションについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
7	話し合い方	チームで行う話し合いの方法について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
8	認識共有	チームでの認識共有について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
9	イノベーション	チームのイノベーションについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
10	目標設定	チームの目標設定について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
11	リーダーとフォロワー	チームのリーダーとフォロワーについて解説し、理解を深めるためのワークを行う。
12	役割分担	チームの役割分担について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
13	他チームとの関係性	自チーム、他チームの関係性について解説し、理解を深めるためのワークを行う。
14	まとめ	これまでの授業をまとめ、話し合いを行って学びを深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容を自身の所属組織で実践・活用できるようになることを目指して、講義で得た学びを毎回復習してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中のチームでのワークに対する参加状況および取り組みと毎回のリアクションペーパー（70 %）、レポート（30 %）により総合的に評価します。出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価になります。また、授業の進行上、遅刻はできませんので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

「組織づくりをするための手法を楽しく学び、身に付けることが出来たので良かった」、「様々な体育会の学生と交流できたのが良かった」といった意見がありましたので、今年度もチームごとのワークによる学習を進めながら、学生間の交流もできる授業を行っていきます。

【その他の重要事項】

初回の授業には、必ず出席してください。

チームでのワークが多いため、協力的、主体的な姿勢で授業に参加してください。

使用する教場の関係から、受講人数は原則 20 名前後を上限とします。

また本講義は、チームビルディングを扱う研修会社に所属する教員が担当し、体験的にスポーツ組織について学びます。

【Outline and objectives】

This course introduces team building to students taking this course.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of sports teams.

HSS112LB

スポーツ実習（バレーボール）Ⅲ

吉田 康伸

配当年次／単位：1～4 年／1 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボール指導者としての理論と実践を学習する。
同時にバレーボール競技でのトップアスリートに必要な基本を習得する。

【到達目標】

バレーボール選手として必要な技術、フィジカル、メンタルを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進める。まずバレーボールを実践する上での準備段階としてのウォーミングアップや体力測定を実習し、バレーボールに必要なトレーニングに取り組んだ上で、基本的なフォーメーション等を理解していく。同時にルールや各技術の方法等の理論も学習していく。必要に応じてビデオ機器を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中・上級者指導法 バレーボールの技術論 (攻撃・守備) ①	主に攻撃と守備の基本技術の習得をする。
第 2 回	中・上級者指導法 バレーボールの技術論 (攻撃・守備) ②、6・9 人制のルール①	基本的なルールを踏まえて、攻撃と守備の技術を習得する。
第 3 回	中・上級者指導法 6・9 人制のルール②	6・9 人制のそれぞれのルールを比較しながら、理解していく。
第 4 回	中・上級者指導法 体力測定実習①	体力測定の実施。
第 5 回	中・上級者指導法 体力測定実習② 救急法実習①	体力測定と救急法の実施。
第 6 回	中・上級者指導法 救急法実習② マッサージ実習①	救急法とマッサージの実施。
第 7 回	中・上級者指導法 マッサージ実習②	マッサージの実施。
第 8 回	中・上級者指導法 ウォーミングアップと クーリングダウン実習	ウォーミングアップとクーリングダウンの実施。
第 9 回	中・上級者指導法 バレーボールに必要なトレーニング①	バレーボールに必要なトレーニングを行う。
第 10 回	中・上級者指導法 バレーボールに必要なトレーニング②	バレーボールに必要なトレーニングを行う。
第 11 回	中・上級者指導法 バレーボールに必要なトレーニング③	バレーボールに必要なトレーニングを行う。
第 12 回	中・上級者指導法 基本のフォーメーション (6・9 人制) ①	基本フォーメーションを理解しながら、ゲームを行う。
第 13 回	中・上級者指導法 基本のフォーメーション (6・9 人制) ②	基本フォーメーションを理解しながら、ゲームを行う。
第 14 回	中・上級者指導法 基本のフォーメーション (6・9 人制) ③	基本フォーメーションを理解しながら、ゲームを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実習を行う上でまずは各自がコンディショニングを整えて臨めるようにすること。同時に指導教本に記載されているルールやフォーメーションの基本等を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

日本バレーボール協会編「バレーボール指導教本」
日本バレーボール協会編「ソフトバレーハンドブック」

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
(2) 課題・レポート等 40%の配分として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生間の交流を深めるために試合形式等を行う。

【その他の重要事項】

本科目は、バレーボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これに該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、この科目の履修を推奨しない。
本科目を受講する場合、「スポーツ実習（バレーボール）Ⅳ」も履修することが望ましい。
またバレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボール指導者についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Learn the theory and practice as a volleyball leader.

At the same time master the basic necessary for top athlete in volleyball game.

HSS113LB

スポーツ実習（バレーボール）Ⅳ

吉田 康伸

配当年次／単位：1～4 年／ 1 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：市ヶ谷

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バレーボール指導者としての理論と実践を学習する。
同時にバレーボール競技でのトップアスリートに必要な基本を習得する。

【到達目標】

より実践的な技術を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

実習形式で授業を進め、主に各技術の基本を習得し、総合的なスキルアップを目指す。
同時に実習を通して指導法についても理解を深めていく。必要に応じてビデオ機器を使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	中・上級者指導法 日本バレーボールの現状 と今後のバレーボールの 展開①	日本のバレーボールの現状を理解する。
第 2 回	中・上級者指導法 日本バレーボールの現状 と今後のバレーボールの 展開②、バレーボール及 びソフトバレーの初心者 導入法①	日本のバレーボールの現状を理解する ことと初心者導入法を実施する。
第 3 回	中・上級者指導法 バレーボール及びソフト バレーの初心者導入法②	初心者導入法を実施する。
第 4 回	中・上級者指導法 基本技術実習（攻撃）①	攻撃の基本技術を習得する。
第 5 回	中・上級者指導法 基本技術実習（攻撃）②	攻撃の基本技術を習得する。
第 6 回	中・上級者指導法 基本技術実習（守備）①	守備の基本技術を習得する。
第 7 回	中・上級者指導法 基本技術実習（守備）②	守備の基本技術を習得する。
第 8 回	中・上級者指導法 練習における管理及び組 織化①	練習における管理及び組織化を理解する。
第 9 回	中・上級者指導法 練習における管理及び組 織化②、ボールコント ロール及び指導法①	練習における管理及び組織化を理解 し、ボールコントロール及びその指導 法を実施する。
第 10 回	中・上級者指導法 ボールコントロール及び 指導法②	ボールコントロール及びその指導法を 実施する。
第 11 回	中・上級者指導法 基本技術（攻撃・守備） の指導実習①	攻撃と守備の基本技術の指導法を実施 する。
第 12 回	中・上級者指導法 基本技術（攻撃・守備） の指導実習②	攻撃と守備の基本技術の指導法を実施 する。
第 13 回	中・上級者指導法 バレーボール及びソフト バレーの初心者指導実習 ①	初心者指導を実習する。
第 14 回	中・上級者指導法 バレーボール及びソフト バレーの初心者指導実習 ②、指導計画の立案法① ②	初心者指導を実習し、指導計画の立案 を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実習を行う上で
まずは各自がコンディショニングを整えて臨めるようにすること。
同時に指導教本に記載されているバレーボール界の現状や基本技術の要点等
を理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

日本バレーボール協会編「バレーボール指導教本」

日本バレーボール協会編「ソフトバレーハンドブック」

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業中の活動に対する参画状況 60%
(2) 課題・レポート等 40%の配分として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生間の交流を深めるために試合形式等を行う。

【その他の重要事項】

本科目は、バレーボール競技において高い専門的競技能力（おおよそ全国大会
入賞レベル）を有することを前提に実習内容を構成している。そのため、これ
に該当しない学生は、実習内容を修習できない可能性が予想されるため、こ
の科目の履修を推奨しない。
本科目を受講する場合、「スポーツ実習（バレーボール）Ⅲ」から履修するこ
とが望ましい。

またバレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本
スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチーム
のコーチ及び監督経験を活かしてバレーボール指導者についての授業を行う。

【Outline and objectives】

Learn the theory and practice as a volleyball leader.

At the same time master the basic necessary for top athlete in volleyball
game.

HSS103LB

スポーツ医学 I

瀬戸 宏明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学は、トレーニングやスポーツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防や治療、リハビリテーションなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。

スポーツ医学 I では、スポーツ医学を学ぶために必要な基礎的知識を身につけた上で、スポーツ医学の意義、ならびにスポーツ競技の現場でみられる疾患や怪我の処置などについて学習する。

【到達目標】

1. 基本的な解剖学用語を使用することができる。
2. 骨、骨格筋、神経の代表的な名称を述べることができる。
3. 内臓や血管などの代表的な名称を述べることができる。
4. 健康づくりにおけるスポーツの効果を列挙できる。
5. アスリートの健康管理の重要性を説明できる。
6. スポーツ中に多い内科的疾患（特に突然死と熱中症）の原因と対処法を説明できる。
7. スポーツ中に多い代表的な内科的障害の原因と対処法を説明できる。
8. スポーツ活動中に多い整形外科的傷害の原因と対処法を説明できる。
9. 心理的ストレスの対処法について述べるができる。
10. 心肺蘇生法の重要性を解説できる。
11. 心肺蘇生法の適切な手順を述べるができる。
12. 止血の適切な手順を述べるができる。
13. R I C E 処置の意義を説明できる。
14. R I C E 処置の適切な手順を述べるができる。
15. テーピングの目的を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義は多くの競技に共通した内容で行う。毎回のテーマは実際に行われている競技現場を意識しながら授業を展開し、到達目標の達成を目指す。授業は講義形式が中心となる。講義ではスライド、DVD などを用いて効率よい知識の伝達を行う。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開始日は5月6日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
2	健康づくりとスポーツ医学的健康管理	加齢、健康の定義、生活習慣病などについて解説する。
3	アスリートの食生活と栄養摂取①	トップアスリートが実際行っている食事の内容を解説する。
4	アスリートの食生活と栄養摂取②	サプリメントの効果、効能および食品添加物が身体に及ぼす影響について説明する。
5	アスリートの食生活と栄養摂取③	アスリートに多くみられる栄養障害とその対処法について解説する。
6	スポーツ活動中に多いケガや病気①	スポーツ外傷の概要およびその予防について説明する
7	スポーツ活動中に多いケガや病気②	スポーツ障害の概要およびその予防について説明する
8	アスリートにみられる内科的な急性障害	突然死やアナフィラキシーショックなど内科的急性障害とその対処法について解説する。
9	アスリートにみられる内科的な慢性障害	貧血やオーバートレーニングなど内科的慢性障害とその対策や対処法について解説する。
10	アスリートにみられる怪我や痛み（スポーツ外傷）	頭頸部、上肢、体幹、下肢の外傷について解説して、その対処方法についても説明する。

10	アスリートにみられる怪我や痛み（スポーツ障害）	頭頸部、上肢、体幹、下肢の障害について解説して、その予防方法についても説明する。
11	スポーツによる精神障害と対策	スポーツとより密接に関連のある精神的障害のうち頻度の高いものについて解説する。
12	救急処置と怪我や痛みの予防	止血法や RICE 処置などについて説明する。
13	炎症・治療過程について	スポーツ活動中に起こる炎症・治療過程について解説する。
14	単位認定試験と解説	授業内において単位認定試験とその解説をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料のダウンロードを行い、指定参考書を用いて事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、配布資料に沿って進める。

【参考書】

1. 伊藤マモル（監修）『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』第2版、日本文芸社
2. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 I
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目 II
4. 小島康昭、他（著）『からだ・健康・スポーツ』サンウェイ出版
5. 武藤芳照（著）『スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応』日本医事新報社
6. Peter Brukner, Karim Khan（著）『臨床スポーツ医学』医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 後方の席は使用しない。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine I is to learn the following things

- 1: study basic knowledge about sports injuries
- 2: gain practical skills (ex. emergency treatment) through training this lecture.

HSS104LB

スポーツ医学Ⅱ

瀬戸 宏明

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学は、トレーニングやスポーツが身体に与える影響を踏まえて、医学的知識を競技力向上や健康の保持増進に役立てることと、運動学的知識を運動不足や疾病の予防や治療、リハビリテーションなどに役立てるために、医学と運動学を融合させた学問といえる。

スポーツ医学Ⅱでは、スポーツ競技のパフォーマンスを安定的かつ長期的に維持するために極めて重要であるアスリートの「健康管理」に主眼をおいた内容に具体的事例を含め学習することで、トップアスリートとして成功するためにスポーツ医学的知識がなぜ必要であるかを認識する。

【到達目標】

1. 基本的な解剖学用語を使用することができる。
2. スポーツバイオメカニクスに関する基礎的用語を使用することができる。
3. 運動器の仕組みと働きを説明できる。
4. アスリートの健康管理に携わる専門的職種を列挙できる。
5. アスリートの健康管理に必要な検討項目を列挙できる。
6. スポーツにおける栄養の意義を解説できる。
7. リハビリテーションとコンディショニングの違いを述べることができる。
8. スポーツ中に多い代表的な内科的障害の原因と対処法を説明できる。
9. スポーツ活動中に多い整形外科的傷害の原因と対処法を説明できる。
10. 高地や寒冷地などでの特殊環境下のスポーツについて説明できる。
11. サプリメントを利用する場合の注意点を列挙できる。
12. ドーピングの意義を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

講義は多くの競技に共通した内容で行う。毎回のテーマは実際に行われている競技現場を意識しながら授業を展開し、到達目標の達成を目指す。授業は講義形式が中心となる。講義ではスライド、DVD などを用いて効率よい知識の伝達を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
2	スポーツと栄養①	スポーツ栄養の理論を踏まえた基礎的な知識を説明する。
3	スポーツと栄養②	水分摂取の意義、効果的な摂取方法および成分などについて解説する。
4	運動器の仕組みと働き①	スポーツ医学に必要な解剖生理学用語について解説する。
5	運動器の仕組みと働き②	筋・骨格筋・神経系について解説する。
6	運動器の仕組みと働き③	関節・運動器の機能について解説する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給システムについて解説する。
8	スポーツバイオメカニクス総論	走る、投げる、跳ぶ、蹴るなどの基本動作のバイオメカニクスについて説明する。
9	アスリートと健康管理	健康管理体制について概説し、メディカルチェックの意義およびその方法について解説する。
10	アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画	主にアスレティックリハビリテーションについて、その意義、方法を説明する。
11	コンディショニングの手法	スポーツ現場でおこなわれている代表的なコンディショニングの手法について解説する。
12	特殊環境下とスポーツ医学	暑熱環境、低温環境、高地環境、時差、感染症などについて、概要と対策を説明する。
13	ドーピングとスポーツ医学	ドーピング概要およびその歴史、現在の現状を解説しながら、実際の方法を説明する。
14	単位認定試験と解説	授業内において単位認定試験とその解説をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料のダウンロードを行い、指定参考書を用いて事前学習を行う。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、配布資料に沿って進める。

【参考書】

1. 伊藤マモル（監修）『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』第2版、日本文芸社
2. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ
3. 公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅲ
4. 小島康昭、他（著）『からだ・健康・スポーツ』サンウェイ出版
5. 武藤芳照（著）『スポーツ医学実践ナビースポーツ外傷・障害の予防とその対応』日本医事新報社
6. Peter Brukner, Karim Khan（著）『臨床スポーツ医学』医学映像教育センター

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内で実施する小テストと授業への参画態度による平常点：14%

(2) 期末の筆記試験（単位認定試験）：86%

で評価をおこなう。

なお、出席回数が実施授業実施回数の 2/3 に満たない場合は E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

1. 毎回の講義ははじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2. 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
3. 後方の席は使用しない。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine II is to learn content mainly on the health care is important to maintain the performance of the sports.

HSS105LB

スポーツ心理学

飯田 麻紗子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動・スポーツと心の関係を学ぶ。

【到達目標】

発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて理解し、スポーツ場面での実践に活かせるようになることを目指します。

なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、情報源把握力、信頼関係構築力）」と「状況判断・行動力（主に、自己変革力、環境変革力）」の育成に貢献することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

この授業では、スポーツ心理学の実践的なテーマを学習します。運動・スポーツは、私たちの心と深い関わりをもっています。運動・スポーツと心との関係を学ぶことは、効果的に運動・スポーツ指導を実践する上で欠かせません。この講義では、公認スポーツ指導者養成のための共通科目として、発育ステージに応じたプログラムづくり、スポーツと個人要因・環境要因、スポーツへの動機づけやコーチングの評価、メンタルトレーニング、チームマネジメントなどについて、具体的な実践的に学び、実践できるようになることを目指します。

少なくとも春学期前半はオンライン授業とし、本授業の開始日は、4 月 30 日とします。なお、初回（4 月 30 日）は、オンライン授業の具体的な実施方法、成績評価等について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ジュニア期のスポーツ 発育発達過程の身体的特徴、心理的特徴	この授業で扱う全体像を理解し、説明できるようになる。子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-
2	ジュニア期のスポーツ 発育発達期に多いケガや病気	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-②
3	ジュニア期のスポーツ 発育発達期のプログラム	子どもにスポーツ指導を行う際のポイントを理解し、指導計画を立てられるようになる。Ⅰ-7-③
4	スポーツの心理Ⅰ スポーツと心	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-①
5	スポーツの心理Ⅰ スポーツにおける動機づけ	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-②
6	スポーツの心理Ⅰ コーチングの心理（1）	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-③
7	スポーツの心理Ⅰ コーチングの心理（2）	スポーツ指導における心理学的なポイント理解し、効果的な指導を行えるようになる。Ⅱ-3-③
8	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（1）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
9	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（2）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
10	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（3）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①

11	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（4）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
12	スポーツの心理Ⅱ メンタルマネジメント（5）	メンタルマネジメントの技法を活用して、選手としてメンタルトレーニングを実践することができるようになる。Ⅲ-6-①
13	スポーツの心理Ⅱ 指導者のメンタルマネジメント（1）	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。Ⅲ-6-②
14	スポーツの心理Ⅱ 指導者のメンタルマネジメント（2）	メンタルマネジメントの技法を活用して、指導を実践することができるようになる。Ⅲ-6-②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容を実践・活用できるようにすることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目の内容については、復習用の動画が用意されています。とくに、欠席した学生は活用してください。

【テキスト（教科書）】

公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ （公）日本体育協会

【参考書】

日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

1) 授業の到達目標と対応した期末のレポートが 60%、2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。出席回数が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、E 評価となります。少なくとも春学期前半がオンライン授業となった為、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な成績評価の方法と基準は、初回の授業にて説明します。

【学生の意見等からの気づき】

「毎回プリントくれて、授業支援システムに出してくれるので良かった。授業内容も今の自分に十分に生かせる話を聞くことができたので履修して良かった」「動画もおもしろかった」「普段なかなか学ぶことが出来ない、メンタルのことなどを知ることができとてもためになりました。わかりやすい授業ありがとうございました！」「メンタル面でとてもサポートして貰いました。実践的なことも多かったのでこれからの自分の競技力向上へと繋がると思います。いちばん好きな講義でした」という意見がありました。この科目は、1 年次から履修可能な必修科目なので、平易に情報提供できるよう努めます。また、授業内レポートを課して、翌週にそのフィードバックを行う授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。グループでのワークや、ペアでのワークを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。この授業の担当教員は、臨床心理士、公認心理師などの有資格者であり、思春期スポーツ選手の心理支援を専門としています。これまでのスポーツ心理学の研究実績や、現場での部活動指導経験を踏まえ、本講義では事例を交えながら具体的に指導します。

【Outline and objectives】

To learn the relationship between exercise / sports and psychological factors.

HSS204LB

スポーツ栄養学Ⅰ

杉山 明美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、具体的なコンディショニング方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・身体の仕組みやケガの成り立ち、栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。
- ・自分のコンディショニングを血液データや症状から客観的に見極め、コンディショニング向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。
- ・自分の課題（減量やコンディショニングのコントロールなど）に対し対応ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

春学期はオンライン授業となる。授業開始を 4/27（月）～全 12 回とし、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第 2 回目	栄養管理の重要性	新しい栄養学の必要性について学ぶ。
第 3 回目	パフォーマンスと栄養	パフォーマンスと栄養の関係について学ぶ。
第 4 回目	アスリートの食事	アスリートが必要としているバランスのとれた食事について学ぶ。
第 5 回目	消化と吸収	身体の消化と吸収のしくみとパフォーマンスの関係について学ぶ。
第 6 回目	エネルギー代謝	身体の中でエネルギーを作り出すシステムについて学ぶ。
第 7 回目	スポーツと栄養素（たんぱく質）	たんぱく質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響を学ぶ。
第 8 回目	スポーツと栄養素（糖質）	糖質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 9 回目	スポーツと栄養素（脂質）	脂質の働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 10 回	スポーツと栄養素（ビタミン①）	ビタミンの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 11 回	スポーツと栄養素（ビタミン②ミネラル①）	ビタミンとミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。
第 12 回	スポーツと栄養素（ミネラル②）	ミネラルの働きとパフォーマンスに及ぼす影響について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業内容を生かしコンディショニングを行う。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで提示する。

【参考書】

「スポーツ選手の栄養と食事」 杉山明美、三栄書房、2018 年、1400 円

【成績評価の方法と基準】

春学期はオンライン授業となるため、成績評価の方法と基準を変更する。具体的な方法については、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・欠席者がテキストを希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。
- ・集中力が持続できるような授業構成を行う。

【その他の重要事項】

- ・併せてスポーツ栄養学Ⅱも受講することが望ましい。
- ・実務経験について → バレーボール選手としてオリンピックに出場するなどのトップアスリートとしての経験と、引退後、分子整合栄養学管理士の資格を取り、アスリートや一般の方の栄養管理を行いコンディショニングの改善・向上を行っている経験を、体験談や症例を授業で紹介していく。

【Outline and objectives】

Learn concrete conditioning methods using scientific latest sports nutrition based on molecular matching nutrition.

HSS205LB

スポーツ栄養学Ⅱ

杉山 明美

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | キャンパス：多摩

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子整合栄養学を基盤にした科学的な最新スポーツ栄養学を使い、具体的なコンディショニング方法を学ぶ。

【到達目標】

・身体の仕組みや症状の成り立ち、各栄養素の働きを知ることで身体に対する興味が深くなり、自己管理能力が上がる。
・自分のコンディションを血液データや症状から客観的に見極め、コンディション向上のための食事改善とサプリメント摂取を行うための知識を得ることができる。
・自分の課題（減量やコンディションのコントロールなど）にに対し対応ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部法律学科：DP3、法学部政治学科：DP1、法学部国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1、経済学部経済学科・現代ビジネス学科：DP4、社会学部：DP2、現代福祉学部福祉コミュニティ学科：DP1、現代福祉学部臨床心理学科：DP1、デザイン工学部システムデザイン学科：DP4

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使った講義を中心に行う中で、各テーマについて個々またはグループでディスカッションを行う。また、授業の感想や質問などを自由に提出し、個人の問題や課題について解決していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回目	オリエンテーション	授業概要を説明、また授業目標の確認を行う。
第2回目	コンディションと栄養	コンディションと栄養の関係について学ぶ。
第3回目	アスリートの食事	アスリートが理想とするメニューの作り方や選び方、また、タイミング別の栄養摂取の方法を学ぶ。
第4回目	鉄欠乏と栄養対策	鉄欠乏の症状と競技への影響について学ぶ。また、貧血診断の問題点と栄養アプローチの方法について学ぶ。
第5回目	スタミナと栄養対策（体力編）	スタミナアップのメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第6回目	スタミナと栄養対策（メンタル編）	メンタルアップのメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第7回目	免疫力と栄養対策	感染症を発症するメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第8回目	増量と栄養対策	増量のメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第9回目	減量と栄養対策	減量のメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第10回目	ケガと栄養対策Ⅰ	ケガが起こるメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第11回目	ケガと栄養対策Ⅱ	ケガが起こるメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第12回目	筋肉と栄養対策	筋肉の質を向上させるためのメカニズムと栄養アプローチの方法について学ぶ。
第13回目	血液検査とコンディショニング	血液検査データを参考にコンディショニングに役立てる方法を学ぶ。
第14回目	総括（試験）	秋学期の授業内容について理解度を確認するための試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を生かしコンディショニングを行う。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する。

【参考書】

「スポーツ選手の栄養と食事」杉山明美、三栄書房、2018年、1400円

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%他、グループワーク、提出物、授業態度など総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・欠席者がテキストを希望する場合の対応をスムーズに行えるようにする。
・集中力が持続できるような授業構成を行う。

【その他の重要事項】

・スポーツ栄養学Ⅰから受講することが望ましい。
・実務経験について → バレーボール選手としてオリンピックに出場するなどのトップアスリートとしての経験と、引退後、分子整合栄養学管理士の資格を取り、アスリートや一般の方の栄養管理を行いコンディショニングの改善・向上を行っている経験を、体験談や症例を授業で紹介していく。

【Outline and objectives】

Learn concrete conditioning methods using scientific latest sports nutrition based on molecular matching nutrition.

知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。かつて、知的財産に関する知識は専門家を対象にしたプロのための道具でしたが、近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これらの成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観するとともに、個人情報や営業秘密など「情報」の保護についても検討し、目標とする「総合デザイン」のための基盤を作ります。

【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	○	○	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回レジュメを配布する講義形式を基本としつつ、随時課題（宿題）、小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS 利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法 (1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念的「著作物」を理解する
4	著作権法 (2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法 (3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法 (4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法 (5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法 (6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する
13	情報に関する法制度	個人情報・営業秘密の保護に関する法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018 年）、990 円（税込）

【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料（各自 PC にダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと）。

・『著作権テキスト～初めて学ぶ人のために〔2019 年度〕』（文化庁著作権課、2019 年）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/r1392388_01.pdf

・『はじめての著作権講座～著作権って何？』（著作権情報センター、2019 年）

https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1_201906.pdf

・『2019 年 知的財産権制度説明会（初心者向け）テキスト』（特許庁、2019 年）

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2019_syosinsya.html

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2019_syosinsya/all.pdf

【成績評価の方法と基準】

・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（50 %）、および期末に提出するレポート（50%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記した自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline and objectives】

This course is intended for providing students with basic principles of intellectual property rights, including copyright, patent, industrial design and trademark, as well as protection of information.

LAW100NA

知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。かつて、知的財産に関する知識は専門家を対象にしたプロのための道具でしたが、近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これらの成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観するとともに、個人情報や営業秘密など「情報」の保護についても検討し、目標とする「総合デザイン」のための基盤を作ります。

【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用力	5%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	10%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回レジメを配布する講義形式を基本としつつ、随時課題（宿題）、小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS 利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法 (1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法 (2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法 (3)	著作権：著作者等と与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法 (4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法 (5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法 (6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する
13	情報に関する法制度	個人情報・営業秘密の保護に関する法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018 年）、990 円（税込）

【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料（各自 PC にダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと）。

・『著作権テキスト～初めて学ぶ人のために〔2019 年度〕』（文化庁著作権課、2019 年）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/r1392388_01.pdf

・『はじめての著作権講座～著作権って何？』（著作権情報センター、2019 年）

https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1_201906.pdf

・『2019 年 知的財産権制度説明会（初心者向け）テキスト』（特許庁、2019 年）

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2019_syosinsya.html

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2019_syosinsya/all.pdf

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（50 %）、および期末に提出するレポート（50%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記した自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。
- ・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline and objectives】

This course is intended for providing students with basic principles of intellectual property rights, including copyright, patent, industrial design and trademark, as well as protection of information.

知的財産権

加納 昌彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産権の基礎について学ぶ入門編です。かつて、知的財産に関する知識は専門家を対象にしたプロのための道具でしたが、近年の急速な技術革新により、私たちは人間の知的活動による豊富な成果物を容易に享受する恩恵を受けています。これらの成果物は無断で利用されやすいという性質があり、法律により適切に保護することが必要です。授業では、私たちの身近にあるコンテンツ（著作権）から、パテント（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）に至る知的財産権の全体像を概観するとともに、個人情報や営業秘密など「情報」の保護についても検討し、目標とする「総合デザイン」のための基盤を作ります。

【到達目標】

- ・知的財産権を構成する基本的な内容を理解すること。
- ・知的財産権をめぐる発生している問題を正しく理解し、検討し、解決するための基盤を作ること。
- ・知的財産権に関する基本的な文献の読解力を涵養すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回レジメを配布する講義形式を基本としつつ、随時課題（宿題）、小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・導入	知的財産法の全体像の概説、アンケート
2	法律文の読み方	SNS 利用規約を事例に法律文を読解する
3	著作権法 (1)	著作物とは何か：著作権法の基本概念の「著作物」を理解する
4	著作権法 (2)	著作者：著作物の創作者について理解する
5	著作権法 (3)	著作権：著作者等に与えられる権利の種類・構成・内容を理解する
6	著作権法 (4)	権利の例外・制限：「例外的な無断利用」を理解する
7	著作権法 (5)	保護期間：権利の保護期間について理解する
8	著作権法 (6)	著作物の利用：著作物等を正しく利用する方法について理解する
9	中間まとめ	授業前半（著作権法）のまとめ
10	特許	特許制度（パテント）の概要を理解する
11	意匠	意匠制度（デザイン）の概要を理解する
12	商標	商標制度（ブランド）の概要を理解する
13	情報に関する法制度	個人情報・営業秘密の保護に関する法制度を理解する
14	まとめ	授業後半・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・以下に掲げるテキスト（教科書）と参考書のほか、授業で使用する文献資料等は都度指示します。事前に十分に読解しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・池村聡『はじめての著作権法』（日本経済新聞出版社、2018 年）、990 円（税込）

【参考書】

関係機関によりウェブサイト上で公開されている資料（各自 PC にダウンロードしていつでも参照できるように準備しておくこと）。

・『著作権テキスト～初めて学ぶ人のために〔2019 年度〕』（文化庁著作権課、2019 年）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/r1392388_01.pdf

・『はじめての著作権講座～著作権って何？』（著作権情報センター、2019 年）
https://www.cric.or.jp/publication/pamphlet/doc/hajimete1_201906.pdf

・『2019 年 知的財産権制度説明会（初心者向け）テキスト』（特許庁、2019 年）
https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/2019_syosinsya.html

https://www.jpo.go.jp/news/shinchaku/event/seminer/text/document/2019_syosinsya/all.pdf

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点、授業中随時実施する課題・小テスト等（50 %）、および期末に提出するレポート（50%）を考慮して総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業で検討する事項について、積極的な質問・コメントを歓迎します。
- ・授業中に自ら記したノートやメモは最も身近な、かつ、唯一の知的財産です。授業中に記した自身の記録を有力な手がかりとして予習・復習に役立ててください。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業の進展に応じて必要な場合、都度指示します。

【その他の重要事項】

- ・授業計画の内容は、初回に実施するアンケート結果や授業の進捗に応じて変更する場合があります。

・教員は、電気通信事業者にて、研究所、知的財産、通信サービス開発部門などの部署に勤務しました。授業では、学術的観点を中心としつつ、実務的な視点も含めた検討を行いたく予定しています。

【Outline and objectives】

This course is intended for providing students with basic principles of intellectual property rights, including copyright, patent, industrial design and trademark, as well as protection of information.

POL100NA

開発と国際協力

小野澤 雅人、浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けてながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

- 1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
- 2. 海外留学の実態について理解する。
- 3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
- 4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline and objectives】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

開発と国際協力

小野澤 雅人、浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けてながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline and objectives】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

小野澤 雅人、浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けてながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1） 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1） 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2） 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3） 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4） 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5） 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員（1）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員（2）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員（3）	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20 %。課題パワーポイント作成と発表課題 50 %、課題レポート：30 %。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline and objectives】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○第 1 回目講義資料アップロードは、4 月 20 日（月）

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごと的小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小テスト総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを用いて行いますので、プロジェクターやスクリーンなどを設置した施設を利用します。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline and objectives】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today's energy and environmental issues.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○第 1 回目講義資料アップロードは、4 月 20 日（月）

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小テスト総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを用いて行いますので、プロジェクターやスクリーンなどを設置した施設を利用します。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline and objectives】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today's energy and environmental issues.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○当面の間、学習支援システムを利用した資料の提供、課題の提示および提出、質問等の受付、を行う。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○第 1 回目講義資料アップロードは、4 月 20 日（月）

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA(国際エネルギー機構)の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの小テストを含む受講状況（20%）により評価します。授業中実施する小テスト総数によりこの比率は変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【学生が準備すべき機器他】

授業はパワーポイントを用いて行いますので、プロジェクターやスクリーンなどを設置した施設を利用します。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline and objectives】

The term “Anthropocene” was coined to suggest that the earth has been moving toward a new geological epoch, based on the recognition that humankind has been become a significant driving force for “changes of a global magnitude on the earth”. Human activities starting at the Industrial Revolution, such as economic activity, utilization of earth resources, transportation, telecommunication including population growth and so on, have rapidly developed and tremendously accelerated in particular since the last half of the 20th century and continue to accelerate even in the 21st century. Energy and material flow characterizing human activities continue to expand globally and their impact on the earth are emerging. Ultimately they leave many questions regarding the sustainable development of human society.

The objectives of this course are: to acquire basic knowledge of energy and the environment; to overview historically the relationship between human activities, centered on utilization of energy and resources, and the environment; to analyze the impact of human activities on the environment in terms of technologies, well-being and culture; to learn the framework to understand today's energy and environmental issues.

MAN100NA

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ③仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力－の養成を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。

*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。

*GWのグループ分けは第3回授業で行います。

*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。
9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場どのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。

12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介いたします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW50%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

<講師について>

金融機関系コンサルティング会社に経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

<グループワーク（GW）について>

*GWのグループ分けは、第3回授業で行う予定です。

*指定のグループ以外でGWに参加した学生については、GWの成績評価はしません。

*GWの完了は、指定された用紙の提出をもって行われます。

*提出の用紙に、⑦所定の項目が記入されていない場合 ④指示通りに記入されていない場合－は減点になるか、もしくは成績評価をしません。

*提出用紙に記入するグループメンバーとは、グループでの議論・用紙の作成・プレゼンへの協力など、一連のGWに実際に参加したメンバーを指します。
*なお、提出用紙の記入において学生証番号と氏名が一致しない学生の成績評価はしません。

<その他>

*欠席と遅刻については本授業独自の規定は設けません。なお、交通機関の遅延証明書の提出の必要はありません。

*他学部、他大学の受講生（デザイン工学部のタッチパネルが使えない学生）が出席の際は、講師の指定する出席簿に記入してください。

*禁止事項（禁止事項があった場合は教室からの退出を求めます）

①授業内容のインターネットなどによる公開。

②他学生の受講に差し障ると判断される私語。

③食事（飲物は可）。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

マーケティング

林 奈生子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでどこでも誰とも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報－を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ③仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力－の養成を目指します。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力 25%
- (G) コミュニケーション能力 25%
- (H) 継続的学習能力 25%
- (I) 業務遂行能力 25%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。
*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。
*GWのグループ分けは第3回授業で行います。
*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性和収集・分析の留意事項について知る。

9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。
10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でどのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介しします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW50%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後より効果的にGWを授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

＜講師について＞
金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。
＜グループワーク（GW）について＞
*GWのグループ分けは、第3回授業で行う予定です。
*指定のグループ以外でGWに参加した学生については、GWの成績評価はしません。
*GWの完了は、指定された用紙の提出をもって行われます。
*提出の用紙に、⑦所定の項目が記入されていない場合 ④指示通りに記入されていない場合 - は減点になるか、もしくは成績評価をしません。
*提出用紙に記入するグループメンバーとは、グループでの議論・用紙の作成・プレゼンへの協力など、一連のGWに実際に参加したメンバーを指します。
*なお、提出用紙の記入において学生証番号と氏名が一致しない学生の成績評価はしません。
＜その他＞
*欠席と遅刻については本授業独自の規定は設けません。なお、交通機関の遅延証明書提出の必要はありません。
*他学部、他大学の受講生（デザイン工学部のタッチパネルが使えない学生）が出席の際は、講師の指定する出席簿に記入してください。
*禁止事項（禁止事項があった場合は教室からの退出を求めます）
①授業内容のインターネットなどによる公開。
②他学生の受講に差し障ると判断される私語。
③食事（飲物は可）。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

優れた技術や新規のアイデアを備えていれば製品は必ずヒットし市場で売れていくのでしょうか。斬新な技術やユニークなアイデアで開発された製品が人々の関心を引くことなく市場から消えていくことは珍しくありません。多くの人に支持される製品を開発するにはマーケティングの思考が欠かせません。また、今日、マーケティングの概念や知識は既に日常に浸透し使われています。例えば、大学の研究室での議論、友人との会話、就職活動の面接やグループ討議、就職後の製品企画会議などでは頻繁に用いられます。さらに、マーケティングの用語は世界共通でありこれらの用語を知ることでもどこでも誰とでも議論が可能になります。授業では、主に企業のマーケティング活動からその基本知識を学びます。加えて、マーケティングでの優れたデザインとは何かを考えます。

【到達目標】

本授業では次の2つの到達目標を設定します。

1. 企業のマーケティング活動を自身の生活に関連させて考える力の習得。そのために、①マーケティングの概念と基本用語 ②企業活動 ③企業から発信される情報を理解することに重点を置きます。2. マーケティングの実践力の習得。優れたマーケティングはチームで成されます。そのために、グループワーク（GW）により各自のコミュニケーションスキルを伸ばします。具体的には、①自身の考えを自身の言葉で発言する力 ②仲間の考えを聞く力 ③議論を展開させていく力の養成を目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、グループワーク（GW）、特別講義（ゲストによる講演）、事例紹介により授業を進めます。
*第3回、第5～7回、第12回はGWになります。
*GWのグループ分けは第3回授業で行います。
*授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。マーケティングの歴史を学ぶ。
2	マーケティングと企業	企業におけるマーケティングの重要性を学ぶ。
3	組織とマネジメント	企業活動を理解するために「組織」と「マネジメント」について学ぶ。（グループ分けとGW）
4	マーケティング・ツール	マーケティングの4P（製品、価格、流通、販売促進）について学ぶ。
5	新製品・サービスの開発①	各人がアイデアを出し、どのような新製品・サービスを提案するか議論する。（GW）
6	新製品・サービスの開発②	前回議論したアイデアを具体化するために4Pを用いて考える。あわせて、プレゼンテーションの準備をする。（GW）
7	新製品・サービスのプレゼンテーション	新製品・サービスのプレゼンテーションを行う。同時に、他グループのプレゼンテーションを評価する。（GW）
8	マーケティング・ミックスと情報	4Pとマーケティング・ミックスの関係について学ぶ。また、情報の重要性と収集・分析の留意事項について知る。
9	市場の細分化	STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の基本知識と事例を学ぶ。

10	ゲストによる講義	ゲスト講師を招いて実際の企業活動でのマーケティング事例を学ぶ。本講義までに学んだことがビジネスの場でどのように実践されているかを考える。
11	消費者購買プロセス	消費者の購買行動と企業のマーケティング戦略の関係性を考える。
12	企業のプロモーション戦略	企業のプロモーション事例から製品・サービスを人々に伝える方法と内容を考える。（GW）
13	顧客との関係の強化	顧客との関係維持の必要性を学ぶ。あわせて、企業のマーケティング活動が顧客に何をもたらすべきなのかについて考える。
14	企業の社会的責任とマーケティング	企業の社会的責任とマーケティング、およびマーケティング領域の拡大について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、インターネットの情報をマーケティングの観点で読む努力をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介しします。

【参考書】

石井淳蔵 廣田章光編著『1からのマーケティング』中央経済社
フィリップ・コトラー ケビン・レーン・ケラー著『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』ピアソン・エデュケーション
P. F. ドラッガー著『エッセンシャル版マネジメント 基本と原則』ダイヤモンド社
そのほか、随時、授業で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

配点は、GW50%、試験50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

グループワーク（GW）では、受講生から「価値観が違う人と話すことでアイデアが生まれた」「1つの提案が様々な方向へ進化することが勉強になった」「リーダーはみんなの意見を引き出すことが大切だと思った」「最初は不安だったが役割分担をして時間を無駄にしないようにした」などの感想が寄せられた。受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促していることがわかる。今後もより効果的にGWを授業に組み入れたい。

【その他の重要事項】

＜講師について＞

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティングの経験をもつ教員が、企業のマーケティング活動において求められる創造力の育成に資する講義を行います。

＜グループワーク（GW）について＞

*GWのグループ分けは、第3回授業で行う予定です。

*指定のグループ以外でGWに参加した学生については、GWの成績評価はしません。

*GWの完了は、指定された用紙の提出をもって行われます。

*提出の用紙に、⑦所定の項目が記入されていない場合 ④指示通りに記入されていない場合 - は減点になるか、もしくは成績評価をしません。

*提出用紙に記入するグループメンバーとは、グループでの議論・用紙の作成・プレゼンへの協力など、一連のGWに実際に参加したメンバーを指します。

*なお、提出用紙の記入において学生証番号と氏名が一致しない学生の成績評価はしません。

＜その他＞

*欠席と遅刻については本授業独自の規定は設けません。なお、交通機関の遅延証明書提出の必要はありません。

*他学部、他大学の受講生（デザイン工学部のタッチパネルが使えない学生）が出席の際は、講師の指定する出席簿に記入してください。

*禁止事項（禁止事項があった場合は教室からの退出を求めます）

①授業内容のインターネットなどによる公開。

②他学生の受講に差し障ると判断される私語。

③食事（飲物は可）。

【Outline and objectives】

Do all products with outstanding technology or fresh ideas necessarily hit it big in the market? It's not unusual for products with novel ideas to be developed only to fail to win interest from the public and disappear. A marketing plan is essential for the development of any product that requires the support of many people. In today's age the ideas and knowledge of marketing have become widespread. For example, they are frequently cited in university laboratory discussions, conversations, job interviews, meetings etc. In addition, as the language of marketing is universal it is possible to discuss ideas through knowledge of marketing terms.

In this course students will gain fundamental knowledge through mainly industrial activities. In addition, the question of what makes good design in marketing will be discussed.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日本の年中行事について学びます。日本には古来から続く通過儀礼が存在します。子供が健やかに成長していくことは子供を育てる人にとって重要です。さらに成人してからは健康で長生きできるように様々な行事が行われます。

一年間を通じて年中行事が行われますが、皆さんの国ではどの行事が一番重要ですか。またそれはなぜですか。行事の意味や歴史を知るとともにそれらの行事が現在まで続いている理由について探りたいと思います。

【到達目標】

日本文化を諸外国の文化と比較することで、双方の文化の違いを明確に認識し、相互理解を容易にすることを目的としています。

また、理解したことを文章で表現できるようにします。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	20%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。学習支援システムによる遠隔授業（通信教育型）です。本授業の開始日は5月7日とします。

年中行事や通過儀礼を中心に学習をしますが、日本文化を知ることは日本や日本人について知ることです。また自分の国を客観的に知る手立てとなります。

また、授業では今まで皆さんが通過儀礼と年中行事にどのように関わってきたか自国での体験を交えて、文章にしていきます。

授業では関連事項の URL を示しますから、それらを参考に、課題を出してください。日本だけでなく、自国の文化も発見しながらレポートを書いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンライン授業	ネット環境の確認をします。 授業は 2 回目 5 月 7 日からとなります。
2	イントロダクション 日本の中に見る自国文化	授業の内容についての説明をします。 また、自己紹介を行います。世界は交流が盛んになってます小さくなっています。皆さんは日本の中に自分の国のものや影響されたものを見つけるのではないのでしょうか。なぜ、どのようなかたちで受け入れられているか発表しましょう。
3	自国にみる日本文化	自分の国の中ではどんな形で日本文化が存在しましたか。日本にはどんなイメージを持っていたか発表します。
4	通過儀礼 ① 誕生からお食い初めまで	子供の誕生にはどのようなお祝いをしますか。どのような祈りを込めて皆さんの名前が付けられましたか。
5	通過儀礼 ② 初節句、七五三	子供の成長を願う行事ですが、男の子と女の子ではどのように違うのでしょうか。皆さんの国では男女の違いがありますか。
6	通過儀礼 ③ 結婚、厄年、長寿の祝い	日本では結婚相手を探すサービスがあります。年齢によって結婚形態も変化しています。どのような結婚が望まれていますか。
7	通過儀礼 ④ 葬式	日本の葬式は他国に見られない形で行われます。あまり触れることのない儀式から人間関係や死生観について触れます。

8	年中行事 ① 大晦日、正月、鏡開き	年末年始には日本で大移動が行われます。静かな正月から慌ただしい正月への変化について考えます。
9	年中行事 ② バレンタインデー ホワイトデー 雛祭り	女の子の健やかな成長を願う雛祭りと西洋の影響を受けたバレンタインデー。女性は変化したのでしょうか。また、なぜホワイトデーが誕生したのでしょうか。
10	年中行事 ③ 母の日、父の日 特別な祝日	日本にある祝日と自国の祝日を比較します。また、両親は子供にとってどのような存在でしょうか。
11	年中行事 ④ クリスマス	欧米では宗教行事ですが、日本では宗教とは異なる形のクリスマスが行われています。なぜでしょうか。
12	レポートの作成	今まで取り組んだ 4 ～ 11 までの中から関心のあるテーマの一つ選び自国の文化と比較しながら 2000 字程度のレポートを書きます。途中経過のレポートを提出します。
13	レポートの作成・提出	前回 12 回目のレポートを加筆訂正し、レポートを完成させます。
14	レポートについてのフィードバック	提出されたレポートのまとめと解説を行います。振り返りシートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の行事や生活を自分の国と比べてよく観察してください。疑問があったらなぜなのとその理由を考えてください。次の回のテーマをあらかじめ調べておいてください。

授業中に予習、復習、課題を指示しますから、次回までに必ず行ってください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本の伝統文化	https://japan-trad.net/culture.html
日本の行事・暦	http://koyomigyoyuji.com/nenchugyouji.htm
年中行事	https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/
日本文化いろは事典	http://iroha-japan.net/

【参考書】

日本文化	https://japanese-culture-info.com/annual-event/
------	---

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。

授業への参加、課題の提出、最終レポートなどで総合的に評価します。

出席は 3 分の 2 以上が必要です。

【学生の意見等からの気づき】

留学生科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等

【その他の重要事項】

在日大使館秘書としての経験を有する教員が、経験を活かし日本文化に関する講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about Japanese annual celebrations. Japan has many rites of passage that have continued since ancient times, considered important for things like the health and growth of children. Even into adulthood there are rituals held for good health and long life.

Out of all the celebrations held throughout the year, what would you consider the most important in your country? Why? Through understanding the significance and history of such celebrations we will explore the reasons for their continuation to this day.

SOC100NA

日本文化論

井波 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日本の年中行事について学びます。日本には古来から続く通過儀礼が存在します。子供が健やかに成長していくことは子供を育てる人にとって重要です。さらに成人してからは健康で長生きできるように様々な行事が行われます。

一年間を通じて年中行事が行われますが、皆さんの国ではどの行事が一番重要ですか。またそれはなぜですか。行事の意味や歴史を知るとともにそれらの行事が現在まで続いている理由について探りたいと思います。

【到達目標】

日本文化を諸外国の文化と比較することで、双方の文化の違いを明確に認識し、相互理解を容易にすることを目的としています。

また、理解したことを文章で表現できるようにします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力	◎			○	○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。学習支援システムによる遠隔授業（通信教育型）です。本授業の開始日は5月7日とします。

年中行事や通過儀礼を中心に学習をしますが、日本文化を知ることとは日本や日本人について知ることです。また自分の国を客観的に知る手立てとなります。

また、授業では今まで皆さんが通過儀礼と年中行事にどのように関わってきたか自国での体験を交えて、文章にしていきます。

授業では関連事項の URL を示しますから、それらを参考に、課題を出してください。日本だけでなく、自国の文化も発見しながらレポートを書いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンライン授業	ネット環境の確認をします。 授業は2回目5月7日からとなります。
2	イントロダクション 日本の中に見る自国文化	授業の内容についての説明をします。 また、自己紹介を行います。世界は交流が盛んになってますます小さくなっています。皆さんは日本の中に自分の国のものや影響されたものを見つけるのではないのでしょうか。なぜ、どのようなかたちで受け入れられているか発表しましょう。
3	自国にみる日本文化	自分の国の中ではどんな形で日本文化が存在しましたか。日本にはどんなイメージを持っていたか発表します。
4	通過儀礼 ① 誕生からお食い初めまで	子供の誕生にはどのようなお祝いをしますか。どのような祈りを込めて皆さんの名前が付けられましたか。
5	通過儀礼 ② 初節句、七五三	子供の成長を願う行事ですが、男の子と女の子ではどのように違うのでしょうか。皆さんの国では男女の違いがありますか。
6	通過儀礼 ③ 結婚、厄年、長寿の祝い	日本では結婚相手を探すサービスがあります。年齢によって結婚形態も変化しています。どのような結婚が望まれていますか。
7	通過儀礼 ④ 葬式	日本の葬式は他国に見られない形で行われます。あまり触れることのない儀式から人間関係や死生観について触れます。
8	年中行事 ① 大晦日、正月、鏡開き	年末年始には日本で大移動が行われます。静かな正月から慌ただしい正月への変化について考えます。

9	年中行事 ② バレンタインデー ホワイトデー 雛祭り	女の子の健やかな成長を願う雛祭りとは西洋の影響を受けたバレンタインデー。女性は変化したのでしょうか。また、なぜホワイトデーが誕生したのでしょうか。
10	年中行事 ③ 母の日、父の日 特別な祝日	日本にある祝日と自国の祝日を比較します。また、両親は子供にとってどのような存在でしょうか。
11	年中行事 ④ クリスマス	欧米では宗教行事ですが、日本では宗教とは異なる形のクリスマスが行われています。なぜでしょうか。
12	レポートの作成	今まで取り組んだ4～11までのの中から関心のあるテーマの一つを選び自国の文化と比較しながら2000字程度のレポートを書きます。途中経過のレポートを提出します。
13	レポートの作成・提出	前回12回目のレポートを加筆訂正し、レポートを完成させます。
14	レポートについての フィードバック	提出されたレポートのまとめと解説を行います。振り返りシートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の行事や生活を自分の国と比べてよく観察してください。疑問があったらなぜなのかその理由を考えてください。次の回のテーマをあらかじめ調べておいてください。

授業中に予習、復習、課題を指示しますから、次回までに必ず行ってください。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間30分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本の伝統文化 <https://japan-trad.net/culture.html>
日本の行事・暦 <http://koyomigyouji.com/nenchugyouji.htm>
年中行事 <https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/>
日本文化いろは事典 <http://iroha-japan.net/>

【参考書】

日本文化 <https://japanese-culture-info.com/annual-event/>

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更します。

授業への参加、課題の提出、最終レポートなどで総合的に評価します。

出席は3分の2以上必要です。

【学生の意見等からの気づき】

留学生科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等

【その他の重要事項】

在日大使館秘書としての経験を有する教員が、経験を活かし日本文化に関する講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about Japanese annual celebrations. Japan has many rites of passage that have continued since ancient times, considered important for things like the health and growth of children. Even into adulthood there are rituals held for good health and long life.

Out of all the celebrations held throughout the year, what would you consider the most important in your country? Why? Through understanding the significance and history of such celebrations we will explore the reasons for their continuation to this day.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日本の年中行事について学びます。日本には古来から続く通過儀礼が存在します。子供が健やかに成長していくことは子供を育てる人にとって重要です。さらに成人してからは健康で長生きできるように様々な行事が行われます。

一年間を通じて年中行事が行われますが、皆さんの国ではどの行事が一番重要ですか。またそれはなぜですか。行事の意味や歴史を知るとともにそれらの行事が現在まで続いている理由について探りたいと思います。

【到達目標】

日本文化を諸外国の文化と比較することで、双方の文化の違いを明確に認識し、相互理解を容易にすることを目的としています。
また、理解したことを文章で表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期はオンラインでの開講となります。学習支援システムによる遠隔授業（通信教育型）です。本授業の開始日は5月7日とします。

年中行事や通過儀礼を中心に学習をしますが、日本文化を知ることは日本や日本人について知ることです。また自分の国を客観的に知る手立てとなります。

また、授業では今まで皆さんが通過儀礼と年中行事にどのようにかわってきたか自国での体験を交えて、文章にしていきます。

授業では関連事項の URL を示しますから、それらを参考に、課題を出してください。日本だけでなく、自国の文化も発見しながらレポートを書いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンライン授業	ネット環境の確認をします。 授業は 2 回目 5 月 7 日からとなります。
2	イントロダクション 日本の中に見る自国文化	授業の内容についての説明をします。 また、自己紹介を行います。世界は交流が盛んになってますます小さくなっています。皆さんは日本の中に自分の国のものや影響されたものを見つけないでしょうか。なぜ、どのようなかたちで受け入れられているか発表しましょう。
3	自国にみる日本文化	自分の国の中ではどんな形で日本文化が存在しましたか。日本にはどんなイメージを持っていたか発表します。
4	通過儀礼 ① 誕生からお食い初めまで	子供の誕生にはどのようなお祝いをしますか。どのような祈りを込めて皆さんの名前が付けられましたか。
5	通過儀礼 ② 初節句、七五三	子供の成長を願う行事ですが、男の子と女の子ではどのように違うのでしょうか。皆さんの国では男女の違いがありますか。
6	通過儀礼 ③ 結婚、厄年、長寿の祝い	日本では結婚相手を探すサービスがあります。年齢によって結婚形態も変化しています。どのような結婚が望まれていますか。
7	通過儀礼 ④ 葬式	日本の葬式は他国に見られない形で行われます。あまり触れることのない儀式から人間関係や死生観について触れます。
8	年中行事 ① 大晦日、正月、鏡開き	年末年始には日本で大移動が行われます。静かな正月から慌ただしい正月への変化について考えます。
9	年中行事 ② バレンタインデー ホワイトデー 雛祭り	女の子の健やかな成長を願う雛祭りや西洋の影響を受けたバレンタインデー。女性は変化したのでしょうか。また、なぜホワイトデーが誕生したのでしょうか。
10	年中行事 ③ 母の日、父の日 特別な祝日	日本にある祝日と自国の祝日を比較します。また、両親は子供にとってどのような存在でしょうか。

11	年中行事 ④ クリスマス	欧米では宗教行事ですが、日本では宗教とは異なる形のクリスマスが行われています。なぜでしょうか。
12	レポートの作成	今まで取り組んだ 4～11 までのの中から関心のあるテーマを一つ選び自国の文化と比較しながら 2000 字程度のレポートを書きます。途中経過のレポートを提出します。
13	レポートの作成・提出	前回 12 回目のレポートを加筆訂正し、レポートを完成させます。
14	レポートについての フィードバック	提出されたレポートのまとめと解説を行います。振り返りシートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の行事や生活を自分の国と比べてよく観察してください。疑問があったらなぜなのかその理由を考えてください。次の回のテーマをあらかじめ調べておいてください。

授業中に予習、復習、課題を指示しますから、次回までに必ず行ってください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間 30 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本の伝統文化	https://japan-trad.net/culture.html
日本の行事・暦	http://koyomigyouji.com/nenchugyouji.htm
年中行事	https://wa-gokoro.jp/event/annual-events/
日本文化いろは事典	http://iroha-japan.net/

【参考書】

日本文化	https://japanese-culture-info.com/annual-event/
------	---

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更します。

授業への参加、課題の提出、最終レポートなどで総合的に評価します。

出席は 3 分の 2 以上必要です。

【学生の意見等からの気づき】

留学生科目につき、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等

【その他の重要事項】

在日大使館秘書としての経験を有する教員が、経験を活かし日本文化に関する講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about Japanese annual celebrations. Japan has many rites of passage that have continued since ancient times, considered important for things like the health and growth of children. Even into adulthood there are rituals held for good health and long life.

Out of all the celebrations held throughout the year, what would you consider the most important in your country? Why? Through understanding the significance and history of such celebrations we will explore the reasons for their continuation to this day.

SEE200NB

技術者倫理

山内 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「技術者」は「科学技術」を用いて社会の発展に貢献してきたが、近年「技術者の倫理観」が原因となる問題が発生し「社会問題化」してきている。技術者の置かれる状況が高度化・複雑化してきた中で、「技術者」が本来の職責を全うするためには「専門的知識」とその「生かし方」を学ぶことが必要である。ある事例を学びながら、その事例が示唆するものを自ら考えることにより「倫理的行動」とは何かを考える。

【到達目標】

講義で基本的なことを学ぶとともに、事例や演習を通して対処方法の訓練を経験することにより、「倫理的問題」に直面したときに決して誤った判断をしないようにするために必要な判断を自らできる素養となる「倫理観」および関連する「知識」を修得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	◎	○				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために、基本的な知識等について学び、その後に具体的な事例について解説する。また演習を通して、自ら倫理問題について考えることを実施しレポートにまとめる（提出）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	技術者倫理ガイダンス・技術者倫理とは	技術者倫理講座の進め方、注意事項など 技術者倫理の必要性 コミュニティ、モラル、倫理、規範法と倫理 倫理的な行動 技術者倫理とは など
第 2 回	技術者と責任	注意・過失・欠陥 責任とは 事故の責任 責任のレベル 技術者の責任を果たす妨げとなるもの 技術者の特別な責任 技術者の資格 倫理綱領についてなど
第 3 回	技術者と組織	組織と技術者 技術者の相反する立場 企業論理と技術者倫理 忠実と不服従 事故や不祥事の発生要因 組織の倫理問題 内部告発と公益通報者制度 など
第 4 回	技術者と社会	社会と企業コミュニティ 組織風土の劣化と組織事故 健全な組織風土の形成と維持 企業の社会的責任 人を尊重する思想 消費者保護の動き など
第 5 回	技術者とリスク	科学技術のリスク 安全とリスクの定義 安全性の向上の考え方 リスクマネジメント 受け入れ可能なリスク リスク評価のギャップとコミュニケーショ ン 安全に対する考え方 など

第 6 回	技術者と環境	環境倫理とは 持続可能な社会 生物多様性 循環型社会 低炭素社会 など
第 7 回	倫理問題への取り組み方	問題解決の流れ 倫理問題解決に必要な能力 倫理的な意思決定を妨げる要因と促進要因 人間尊重の倫理 など
第 8 回	建築と技術者倫理	建築の特殊性 建設業が抱える問題とその対応 建築技術者の役割と倫理 など
第 9 回	建築と知的財産	知的財産権 建設業の知的財産 建築の著作権 建築意匠の模倣 など
第 10 回	建築と環境	建築環境問題と倫理 建築と地球温暖化 建設廃棄物問題 持続可能な建築 など
第 11 回	建築の事故・欠陥	建設業をとりまく現況 建築生産プロセスと参加者 建築の事故・欠陥 建設技術者の倫理 など
第 12 回	建築のライフサイクル	建築の寿命 建築のライフサイクル 建築のライフサイクルコスト 不適切保全による事故 予防保全 耐震改修 など
第 13 回	建築と文化財	文化財保護法と建築物の保存 建築物の保存と都市開発 最近の歴史的建築物保存 など
第 14 回	技術者倫理まとめ	まとめ理解度確認レポート 技術者倫理の実践について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事等で技術者倫理に関係しそうな記事を拾い上げ、自分なら何ができ、どのように行動するかを考える。また自発的に学生同士でディスカッションを行い倫理問題について考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

必要に応じて、講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（平常点） 28%
各講義時に提出するレポート（まとめ理解度確認レポート含む） 72%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を学生がわかりやすいように更なる工夫・改善をする

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、パソコン画面の投影プロジェクターや情報機器

【その他の重要事項】

総合建設会社で建築施工管理から本社管理部門までの経験を持つ教員が、複雑な背景を持つ技術者倫理問題を解説する。

【Outline and objectives】

"Technologists" are known to contribute to the development of society through science and technology, but in recent years have also come to be the cause of increasing social problems. As the problems related to technology grow in number and complexity, In order for technologists to fulfill their roles in the future it is important to examine expert knowledge and how to leverage it. By studying example problems and considering for oneself what they imply, we will discuss what is the basis for "acting through logic".

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の様々な問題を考える上で登場する微分法および積分法について学び、技術者としてそれらに応用できるだけの教養を身につけることを目的とする。

【到達目標】

初等関数の導関数や不定積分を理解した上で、関数の展開法、微分方程式の意味と解法、2変数関数についての微分と積分の概念について把握することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は 4/22（水）より開始します。入構禁止期間中においては、WEB 会議システムを用いて授業を行います。

この授業では微積分に関する非常に幅広い内容を扱っており、高校数学の微積分の知識は必須である。そのため、まずは高校数学の内容を簡単に復習しながら、次第に大学で扱うより高度な微積分につなげていく。積み上げ式の授業であり、常に授業内容を復習してもらうため、毎回演習課題が課される。基本的な 1 回の授業は、前回演習課題の解説 → 講義 → 小テスト → 演習課題発表 → 自宅での演習 → 次回授業での演習課題提出という流れである。小テストの解答では、数名をその場で指名し解答を板書してもらう。

授業進度はかなり速いが、予習復習をして、しっかりついてきてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関数	基本的な関数
2	高校学校の関数の復習 微分法	三角関数、指数関数、対数関数、逆関数 基本的な微分
3	高等学校の微分の復讐 微分法	微分係数と導関数、積と商の導関数、 三角関数・逆三角関数・指数関数・対 数関数の導関数、高次導関数
4	微分係数と導関数 導関数の性質 関数の導関数	
5	微分法 平均値の定理 微分法の応用	平均値の定理、ロピタルの定理、極 大・極小
6	積分法 高校学校の積分の復習	不定積分、不定積分の公式、定積分と 不定積分の関係
7	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
8	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
9	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
10	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
11	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
12	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
13	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法
14	積分法 置換積分法 部分積分法	置換積分法、部分積分法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業内容に応じて作成された演習問題に解答し提出する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

理科系の基礎 微分積分（高遠節夫・石村隆一他共著、培風館）

【参考書】

やさしく学べる微分積分（石村園子著、共立出版）

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題： 50 %（各 100 点満点）

定期試験： 50 %（試験の際、各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

ただし、定期試験で 85 点以上の者は、演習 30%試験 70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

また、連続 3 回欠席、通算で 5 回以上欠席したものは成績評価しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業内で扱えない定理やその証明等はあとで確認できるように、プリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特に必要としない

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

By studying several problems where differential and integral calculus appear, students will aim to equip themselves as developers with the skills to apply their knowledge.

SEE200NC

技術者倫理

佐々木 寿朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術者として仕事を行う上で必須である倫理課題に適切に対処できる素養を養う。目的は以下の3項目。

- ①技術に関する意思決定が社会や環境に大きな影響を与えることを学ぶ
- ②技術者としての倫理的対処に際し、直面する問題と対処方法を学ぶ
- ③倫理的対処に欠かせない当事者意識と実践力を養う

【到達目標】

- ①技術者が担う責任の範囲が理解できる
- ②科学技術の不確実性とリスクの違いが理解できる
- ③技術者倫理の必要性が理解できる
- ④技術者倫理規定が理解できる
- ⑤倫理課題「持続可能性」の背景と取組概要が理解できる
- ⑥技術者倫理問題に対処するための考え方と阻害要因が理解できる
- ⑦当事者として技術者倫理問題が意識できる
- ⑧技術者倫理問題に対処する実践力が発揮できる

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 25% |
| (B) 技術者倫理 | 75% |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

前半（第1～8回）は、技術者の責任範囲、科学技術の本質、技術者倫理が求められる社会的状況、倫理問題の考え方や阻害要因、事例による取組み方などの講義を聞く。後半（第9～14回）は、これらをもとに仮想事案（2件）や現実の事案（2件）ほか、各自が用意した事案について、技術者倫理上の問題点とその対処方法をグループワークで検討し、技術者倫理の実践力を養う。第1回を除き、各回内容に沿った事前課題をその都度、各自ネット上などで調べ答案を作成し、その回ごとに提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・職業と仕事 ・エンジニアリング ・技術者制度 ・シラバス
第2回	科学技術のリスクと不確実性	・科学技術の光と影 ・リスクと不確実性 ・安全対策
第3回	技術者倫理の必要性	・技術者倫理の必要性 ・倫理、法規制、モラル ・技術者倫理規程 ・今日からの実践
第4回	社会的要請と技術者倫理	・背景 ・変容する倫理 ・顕在化する地球温暖化
第5回	「持続可能な発展」の取組	・「持続可能な発展」とは ・アジェンダ 21・日本の取組・ISO26000 ・低炭素社会に向けた12の方策 ・その他の取組と3者連携
第6回	技術者倫理問題の考え方	・影響範囲と対処の主体 ・技術者倫理問題の解決方法 ・検討手順
第7回	阻害要因と危険な罠	・誤った優先順位 ・限定された知覚・認識 ・知覚・認識を限定する要因 ・危険な罠 ・対処方法
第8回	事例解説	・事例による技術者倫理問題の考え方の解説
第9回	事例検討1(グループワーク)	・仮想事例（誤解を解く観点）

第10回	事例検討2(グループワーク)	・仮想事例（線引き問題）
第11回	事例検討3(グループワーク)	・実事例（相反問題）
第12回	事例研究(1/2)(グループワーク)	実課題：高レベル放射性廃棄物の地層処分 ・現状の把握
第13回	事例研究(2/2)(グループワーク)	実課題：高レベル放射性廃棄物の地層処分 ・倫理問題と対処案の検討
第14回	総合研究(グループワーク)	・多様な対処がもたらす継続検討の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題：次回の内容に沿った事前課題について、ネット上などで調べ答案を作成し、当日の授業開始時に提出する。第1回を除く第2回から全13回提出する。

日頃の思考訓練：自らが遭遇した事案や、新聞等で報じられている事案などについて、技術者倫理上、どのように対処すべきか考える習慣を身に着ける。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・第1回の資料は当日配布する。
- ・第2回以降は、前日までにエチュード上に掲載するので各自でプリントを用意する。

【参考書】

- ・「技術士倫理綱領の理解を深める技術者倫理事例集」（日本技術士会 倫理委員会 日本技術士会 平成25年 1,200円税込）
- ・「倫理の死角」（バイザーマンほか NTT 出版 2013年 2,800円税別）
- ・「ファスト&スロー上」（ダニエル・カーネマン 早川書房 2014年 840円税別）
- ・「卒業生としての知識・能力と専門職としての知識・能力」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu7/siryoo/_icsFiles/afiefieldfile/2012/12/08/1328590_7.pdf

【成績評価の方法と基準】

- | | |
|------|-----|
| 期末試験 | 50% |
| 事前課題 | 40% |
| 平常点 | 10% |

【学生の意見等からの気づき】

・授業中に騒ぐ学生がいるので注意してほしい旨の意見や、グループワーク時討論に加わりたくないものも見かける。技術者倫理という技術者に必須な素養を養うというこの科目の特異性を踏まえ、授業に取り組む心構えの説明が肝要。そこで、第1回の講義の冒頭と第9回からのグループワークについて説明する第8回の最後に技術者倫理の基本として科目に取り組む心構えについて解説する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・第1回～第8回はパワーポイントを使用した講義形式で行う。手持ち資料としてはエチュードから各自プリントを用意する。
- ・第9回～第14回のグループワークは、エチュード上の各回の実施要領に従い、進行役・書記（発表者）・タイムキーパーを決め独自に検討を進める。その後グループの検討結果発表を全員で聞く。検討課題は各回の実施要領の中にあり各自で事前に検討し、答案としてその都度提出するほか、グループで自らの検討内容を容易にメンバーに周知できるように、答案の短冊もその都度用意する。

【その他の重要事項】

技術者倫理は、世界標準の技術者に欠かせない能力であり JABEE 認定コースの必須科目。この技術者倫理が日本に導入されたのは 2000 年頃のこと。その経緯は、WTO が物の貿易と同様にサービスの国際的な自由化を目指す中で、日本も自国のエンジニアリングサービスが国際標準を満たすものとするべく、技術士資格の国際的な同等性に関する調査を実施し必要な対応策を講じた結果である。この一連の対処に建設コンサルタントの技術者として直接関わった貴重な経験のほか、その後の土木学会での技術者倫理教材の作成やその教材による技術者倫理講習に携わった経験をもとに、技術者倫理の習得を指導する。

【Outline and objectives】

This course will look at developing intuition to deal appropriately with ethical issues that are essential for doing work as an engineer. The three objectives of the course are:

- ① Learn how decision-making in engineering has a major impact on society and the environment
- ② Learn about problems and countermeasures in dealing with ethical issues as an engineer
- ③ Developing party consciousness and practical skills indispensable for engineering ethics

CST100NC

工業力学及演習 X

山本 佳士

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面 2 次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

【到達目標】

力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | 50% |
| (D) 専門基礎学力 | 30% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | 20% |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では 2 年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習するとともに、実際に問題を解くことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐荷力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
3	模型の製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
4	構造の載荷試験	耐荷力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
5	断面諸量（1） 断面 1 次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2 次元物体の重心、断面と線分の図心、断面 1 次モーメント、合成断面の図心についての講義と演習
6	断面諸量（2） 断面 1 次モーメント、図心	積分による面積・断面図心の求め方の講義と演習
7	断面諸量（3） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量（4） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	平行軸の定理を用いた合成断面の断面 2 次モーメントの求め方の講義と演習
9	第 8 回までの講義・演習の復習	範囲は断面 1 次モーメント、図心、断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径。参照不可電卓可
10	弾性体の変形（1） 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
11	弾性体の変形（2） 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習
12	弾性体の変形（3） 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習

13	弾性体の変形（4） 材料力学の基礎	せん断ひずみ、ねじり、継手についての講義と演習
14	弾性体の変形（5） 材料力学の基礎	2 次元物体の変形と応力ひずみ、傾いた面に作用する応力についての講義と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 設計製作についての予習と演習問題を用いた復習
 2. 同上
 3. 同上
 4. 同上
 5. 教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習
 6. 同上
 7. 同上
 8. 同上
 9. 中間試験の復習
 10. 同上
 11. 同上
 12. 同上
 13. 同上
 14. 期末試験の準備と復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

【参考書】

プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】

模型製作（10 %）、毎回の小テスト（20 %）、中間実力確認（35%）と期末試験（35 %）による。
欠席 4 回以上は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。
レポート作成時には貸与 PC を使用してもよい。

【その他の重要事項】

橋梁メーカーおよび橋梁設計コンサルタントに勤務した経験を有する教員が、力学の基礎を講義する。

【Outline and objectives】

This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation were presented. Students can learn basic idea of design structure through making bridge model and testing its load carrying capacity.

CST100NC
工業力学及演習 Y

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際に模型を作成することにより力学的センスを養うとともに、断面 2 次モーメントなどの断面諸量と材料力学の基礎を学ぶことにより、主として工学基礎学力と専門基礎学力を養う。

【到達目標】

力の流れ、断面諸量、応力ひずみ関係、力と変形の基礎について、基本的な問題を解ける、またその内容を説明できる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 50%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力 20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

構造物のデザインや建設を担うため、構造物の強度や作用する力を求める必要がある。工業力学及演習では 2 年次以降の本格的なデザインや建設の科目を履修するために基礎となる断面の性質や材料の力学の基礎について学習するとともに、実際に問題を解くことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	材料の変形について理解する 学習内容と学習上の注意および形状の異なる棒部材を用いて曲げ荷重を作用させ形状と曲がりやすさの関係を実感する。橋の模型製作、耐力力試験のガイダンス
2	グループ毎の模型設計製作についての検討と製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
3	模型の製作	構造模型の設計・製作・試験の実施、結果の取りまとめ 力学的センスを身に付ける
4	構造の載荷試験	耐力力試験の実施、結果のとりまとめ、所定の期日までにレポートとしてまとめる。
5	断面諸量（1） 断面 1 次モーメント、図心	断面諸量とは何か、2 次元物体の重心、断面と線分の図心、断面 1 次モーメント、合成断面の図心についての講義と演習
6	断面諸量（2） 断面 1 次モーメント、図心	積分による面積・断面図心の求め方の講義と演習
7	断面諸量（3） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径の求め方の講義と演習
8	断面諸量（4） 断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径	平行軸の定理を用いた合成断面の断面 2 次モーメントの求め方の講義と演習
9	第 8 回までの講義・演習の復習	範囲は断面 1 次モーメント、図心、断面 2 次モーメント、断面 2 次極モーメント、断面 2 次半径。参照不可電卓可
10	弾性体の変形（1） 材料力学の基礎	構造物を構成する部材に作用する力、応力、ひずみ、フックの法則、棒部材の荷重と変形の関係についての講義と演習
11	弾性体の変形（2） 材料力学の基礎	変断面棒部材の変形、温度応力についての講義と演習
12	弾性体の変形（3） 材料力学の基礎	組み合わせ部材の荷重と変形の関係についての講義と演習

13	弾性体の変形（4） 材料力学の基礎	せん断ひずみ、ねじり、継手についての講義と演習
14	弾性体の変形（5） 材料力学の基礎	2 次元物体の変形と応力ひずみ、傾いた面に作用する応力についての講義と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 設計製作についての予習と演習問題を用いた復習
 2. 同上
 3. 同上
 4. 同上
 5. 教科書を用いた予習と演習問題を用いた復習
 6. 同上
 7. 同上
 8. 同上
 9. 中間試験の復習
 10. 同上
 11. 同上
 12. 同上
 13. 同上
 14. 期末試験の準備と復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基礎から学べる材料力学（伊藤勝悦著・森北出版）

【参考書】

プリントを配布する

【成績評価の方法と基準】

模型製作（10 %）、毎回の小テスト（20 %）、中間実力確認（35%）と期末試験（35 %）による。
欠席 4 回以上は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。
レポート作成時には貸与 PC を使用してもよい。

【その他の重要事項】

橋梁メーカーおよび橋梁設計コンサルタントに勤務した経験を有する教員が、力学の基礎を講義する。

【Outline and objectives】

This course is intended to introduce basic engineering and principal mechanics. Basic property of structural members such as moment of inertia and stress-strain relation were presented. Students can learn basic idea of design structure through making bridge model and testing its load carrying capacity.

CST100NC

図学及演習

高柳 誠也、山田 裕貴、高見 公雄、今井 裕久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は、物体や空間を表現する手段としての図学の基礎的知識を都市環境デザインにおける具体的な活用法を踏まえて学習する。また、図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。後半は、コンピュータを用いたCADやドローイングソフトによるさまざまな図面の作成について学ぶ。

【到達目標】

【前半】図的表現の基礎的手法について学び、課題の作図によって作図技術を習得する。

【後半】CAD ソフトの習得。ドローイングソフトの習得。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 60%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は手書きによる作図を基本として、図法の説明とその作図課題により授業を進める。後半は、パソコンを活用した作図システムについて操作の基本を習得するとともに、情報の共有化、送受信など、電子化された図面の新たな機能・効果についても学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	技術者の言語としての図面 都市環境デザイン分野の図面 作図用具とその使用法
2	作図法の基礎	図面表現の基本
3	正投影法 (1)	平面図・立面図の表現と作図
4	正投影法 (2)	断面図の表現と作図
5	読図の基礎	図面情報の読み取り
6	透視図法 (1)	投影図・透視図の体系
7	透視図法 (2)	透視図作図の原理
8	透視図法 (3)	1 点透視図の表現と作図 2 点透視図の表現と作図 点景の表現
9	前半まとめ	2 点透視図による空間イメージの表現
10	描画ソフト利用ガイダンス	システムの起動・操作・入力・出力・データ保管・終了
11	CAD ソフト (1)	基本機能/支援機能の活用
12	CAD ソフト (2)	作図/出力の基礎
13	CAD ソフト (3)	作図/出力の習得
14	ドローイングソフト (1)	基本機能/支援機能の活用
15	ドローイングソフト (2)	土地利用現況図のトレース
16	ドローイングソフト (3)	地区開発イメージ図の制作
17	ドローイングソフト (4)	地域の略図の制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示する

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回の作図課題により評価する。なお、4 回以上の欠席または演習課題未提出者は単位取得を認めない (D 判定)。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

【前半】作図のための製図用具が必要となる。最小限必要な用具セットは年度始めに案内する。

【後半】ドローイングソフトの演習には貸与パソコンを使用する。CAD ソフトの演習には情報教室を使用する。

【その他の重要事項】

都市環境デザイン分野における実務経験を持つ教員がその経験を活かして、設計における作図技術につながる内容を指導する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn the fundamental knowledge and skills of drawing for expressing objects and spaces in the field of civil and environmental engineering design. Students will learn basic methods of graphical representation and plotting skills through several exercises in handwriting and CAD.

CST100NC

ジオロジカルエンジニアリング

山本 浩之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力 60%
(D) 専門基礎学力 40%
(E) 専門知識の活用・応用力
(F) 総合デザイン能力
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5 コマ）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかわりを考える。

地質の基礎知識（1.5 コマ）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。

特別講義（2 コマ）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。

地質調査・試験（1 コマ）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1 コマ）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。

ダムと地質情報（2 コマ）、トンネルと地質情報（2 コマ）、構造物基礎と地質情報（1 コマ）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。

のり面と地質情報（2 コマ）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

地すべりと地質情報（1 コマ）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回講義中に演習を実施する（なお、演習解答の提出を出欠の確認とし、宿題は出さない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識 (1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係の理解と地質の基礎知識を習得する。	岩盤の風化・変質、地質構造。
3	地質の基礎知識 (2)	地質の基礎知識を習得する。
4	特別講義 (1)	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。
5	「地球の動き／地震」の解釈の歴史の変遷、現状を理解する。	
6	地質調査・試験	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験。
7	代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。	

5	地盤の分類（岩盤分類）	岩盤分類法、海外の岩盤分類。
6	岩盤を定量的に区分する方法について理解する。	
7	ダムと地質情報 (1)	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。
8	ダムの設計と施工方法を理解する。	
9	ダムと地質情報 (2)	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。
10	ダムの設計と施工方法を理解する。	
11	特別講義 (2)	原子力発電所の地震対策、津波対策、再開方法。
12	「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。	
13	トンネルと地質情報 (1)	トンネル・地下空洞の種類、施工方法、前方予測。
14	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
15	トンネルと地質情報 (2)	日本で最も長い青函トンネルと大規模地下空洞である小丸川地下発電所の施工事例。
16	トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。	
17	構造物基礎と地質情報	橋梁の種類と発展、橋梁基礎の安定性に関わる施工事例。
18	橋梁の歴史の変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。	
19	のり面と地質情報 (1)	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
20	掘削のり面の基本と岩盤の異方性を通じて安定性を理解する。	
21	のり面と地質情報 (2)	掘削のり面の安定対策、直線すべりのり面の安定対策方法と安定計算。
22	のり面の安定対策方法と設計方法を習得する。	
23	地すべりと地質情報	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。
24	地すべり地形の見方と安定計算方法を習得する。	
25	講義全般をまとめる。	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書 1 章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書 2 章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書 3 章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書 4 章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書 6 章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書 7 章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院 を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題（記述・作図・計算など）の提出により習得度を評価し、その合計から評価点（100 点満点）を算出する。合否の基準は、100-90 点を S、89-87 点を A+、86-83 点を A、82-80 点を A-、79-77 点を B+、76-73 点を B、72-70 点を B-、69-67 点を C+、66-63 点を C、62-60 点を C-とし合格とする。59-0 点または欠席 4 回以上を D、未受講、採点不能を E とし不合格とする。期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の習得度を向上させるため、毎回の講義で行なう演習の時間配分を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（工学）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。

【Outline and objectives】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the fundamentals of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in social infrastructure projects, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

MAT100ND

数学2 X (2018年度以前入学生)

関口 豊一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来学んでいく専門分野の背景をなす数学、特に微分積分学の理解に焦点をあてる。

微分積分学は数学のひとつの分野としてはもちろん、あらゆる自然科学を記述するための道具としての側面を持つ。工学系を学ぶ学生にとって理解が不可欠な学問分野のひとつである。ひいては、様々な創作活動において、現象の理解や具体化に活用可能である。

【到達目標】

本講義は、微分積分学の入門として基礎的な事柄から応用まで広く扱い、計算方法のみではなく背景にある考え方を理解するとともに、今後の各専門分野の勉強、ひいては実務（デザイン、エンジニアリング双方）に役立つような知識・考え方を身に付けることを目的としている。従って、その計算過程での論理的な説明や証明問題に対して筋道の通った答えを書く能力と、それを活用する能力の双方の養成を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

微分積分学の諸概念について、数学的に厳密な定義を行うことはもちろん、クリエイティブ、テクノロジーおよびマネジメントでの応用や、それらに必要な問題の解法に関する演習を行う。

本授業は4月24日より開始する。学習支援システムで逐次連絡事項等をアップロードするので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関数と極限 微分法の基礎 1	関数の連続性、極限 微分係数の定義と微分可能性 導関数の定義 初等関数の導関数
2	微分法の基礎 2 微分法の応用 1	関数の和、差、積、商の導関数 合成関数、逆関数の微分法 逆三角関数と双曲線関数 接線、法線の方程式 関数の増減とグラフ
3	微分法の応用 2 不定積分	テイラー展開 原始関数と不定積分の定義 初等関数の不定積分 置換積分と部分積分
4	定積分 1	定積分の定義 初等関数の定積分 面積と体積
5	定積分 2 偏微分 1	広義積分 2変数関数の偏微分、全微分 2変数関数の合成関数の微分
6	偏微分 2	2変数関数の極値 条件付き極値
7	重積分	累次積分 座標変換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成。

返却されたレポート課題の復習。

講義内容の復習と関連した演習問題は各自解いておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

磯島伸 他「コア講義 微分積分」(裳華房)

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)

提出課題 (30 %)

(授業内の演習課題やレポート課題の評価など)

平常点 (10 %)

出席回数の少ない学生は成績の評価をしないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【Outline and objectives】

Calculus as a branch of mathematics is, of course, is on one hand a tool to describe all natural science fields, and to engineering students a vital to understand subject. This course provides the necessary mathematical background for future studies in technical fields, focusing on the understanding of differential and integral calculus.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザインとは何か？」を考察する。

古くから営々と続く人間のものづくりから最先端のデザインまでを観察することから、それがなぜ生まれたのか、何が必要とされているのかを問う。

授業内容は、いわゆるプロダクトデザインのみならず、芸術、建築、各種デザイン、映画、文学から社会現象まで、幅広いジャンルを縦横に取り上げ、人間の創造活動全般を研究対象とする。特に自分たちの身のまわりに存在する都市施設に関連することを主に、具体的な例からデザインの文化的側面を考察していくことを目的とする。

尚、授業では最新の事例をとりあげることがあるので、授業計画が前後したり必ずしも一致しないことがある。

【到達目標】

1) 「創造したい」という気持ちを育む。

2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義が主。

実習、ワークショップも実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらいと注意事項および教員紹介。
2	イントロダクション	自分が今何に興味を持っているのか？ 各自の自己紹介を含むキックオフを行う。
3	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？	現在のダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。
4	都市の観察 1	経済成長著しいミャンマー、ヤンゴンの街の観察から、デザインの意義を考える。
5	都市の観察 2	ヘルシンキの街の観察。デザイン王国といわれるフィンランドの首都はどのようなものか？
6	身のまわりの観察	毎日過ごしている自分のまわりをきちんと観察しているのか？ 法政大学市ヶ谷キャンパスをどう表現するか、地図を製作してみる。
7	講評	各自が製作した地図をお互いに講評する。
8	地図からデザインを探る ロンドン地下鉄路線図	1933年に作られたハリー・ベックの地下鉄路線図とグーグルマップの比較からデザインの意義を考える。
9	ロンドン交通局 C I のはじめ	フランク・ピックによるロンドン交通局のデザイン統合から、トマス・ヘザウィックのバス、最新のエリサベスラインのデザインまでを見る。
10	ニューヨークの地下鉄路線図と新車両	マッシュモ・ヴィネッリの路線図とロンドンの違い。 ニューヨークの地下鉄車両デザインの現在を探る。
11	パリのメトロにおけるデザインと文化。その他の都市。	スプラグ・トムソンの車両からギマーのアルヌーボ駅舎。都市の地下利用の例をみる。

12	ワークショップ	授業内で、「観察 → 描く」頭の体操をする。
13	日本の地下鉄	90年を超える歴史を持つ東京メトロ。その成り立ちを考察する。杉浦非水のポスター、百貨店との関係。
14	スポット講義	在仏建築家千田勝。ブルーターニュ地方で、社会構造の変化から生まれた空家のリノベーションから都市と建築の再生をめざすプロジェクトのレクチャー。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 50%、一部授業後の提出物 25%。出席点 25%

【学生の意見等からの気づき】

未定

【学生が準備すべき機器他】

特になし。ワークショップ時には、マーカー持参のこと。

【その他の重要事項】

デザインジャーナリスト、雑誌編集に携わる教員が、デザインの最新の動きや歴史を講義する。

【Outline and objectives】

This course discusses the question, "What is design?"

By looking at design from long-established means of producing items to today's state of the art, we question what ideas have been essential throughout.

Topics will not be limited to product design, but also cover a wide genres from art, architecture, all types of design, film, literature through to social phenomenon, researching all types of creative human endeavors. We aim to consider in particular themes related to urban institutions around us, from concrete examples to cultural perspectives.

DES100ND

色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。
光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノ・色」が見えるしくみから、色がもたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎知識」を学習する。

【到達目標】

講義では多角的な視点から、色彩の概念・本質・知識を習得する。
また、講義をもとに宿題を通して微妙な色の識別判断の訓練や、色の認知、色彩表現技術を体感、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと、色彩が使えることは異なる。
テーマ毎の事例をパワーポイント、サンプル提示にて講義を行い、視覚・記憶・現象による「様々な見え」をシミュレート体験し、コミュニケーションツールとしての色彩文化、色彩計画を学習する。
また、宿題を通して、微妙な色の識別判断や色彩表現をカラートレーニングツールから色の三属性 HVC（色相・明度・彩度）に基づいて、様々な色彩を体系的に把握する。
そして、段階的なコンポジション表現（宿題）を通して、色彩をコントロールする能力を習得する。
ほか、発想練習、リアクションペーパー、授業アンケートを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちと HVC 表現	光と色の三原色 色の三属性 HVC（色相・明度・彩度） 色相環 ※宿題 1：色相環配置
4	色彩の尺度	様々な色票 様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現 ※宿題 1 の講評
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比 ※宿題 2：HVC 識別_色相環合わせ

6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩 ※宿題 2 の講評
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史 ※宿題 3：等色相断図_1
8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史 ※宿題 3 の講評
9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略 ※宿題 4：等色相断図_2
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩 ※宿題 4 の講評
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	テーマからの発想練習_1 ※宿題 5：イメージからの色彩 配色コンポジション_1
13	イメージの色彩・2	テーマからの発想練習_2 ※宿題 5 の講評 ※宿題 6：イメージからの色彩 配色コンポジション_2
14	今期まとめ	全講義内容、宿題の再確認 ※宿題 6 の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・シラバス内容の事前確認
・身の周りの色彩観察
・全 6 テーマの宿題作成
・宿題の見直しと自己採点
本授業の宿題作成時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】

・授業に対する能動的な学習態度、積極的な授業への参加と取り組み：45 %
・色彩の基礎知識の理解度指標となる各宿題の提出内容：55 %
※未提出の宿題がある学生、3 分の 1 以上欠席した学生は評価の対象としない（D 評価）。遅刻、早退は 2 回で欠席 1 回と換算する。

【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎知識のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。また、テーマに沿った豊富なサンプル、図録の提示を行なっている。
宿題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる宿題内容としている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

※受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席のこと。
※宿題は原則として講義時に教室での提出・受け取りとする。

※プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

法学概論（2019年度以降入学生）

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法が社会の中で果たしている役割を理解するとともに、社会人として必要な基礎的法知識を習得します。もとより受講生が今後の人生で遭遇する法律問題は多種多様ですが、およそ社会規範としての法律には、その基礎をなす一定の思想、価値観、理念といったものが存在し、それらを理解しておくことが、現実には法律問題に直面した際の解決策の発見を容易にします。本講義では、わが国の法体系の基礎をなす日本国憲法を中心にその理念、運用等について考察します。法律の条文の書きぶりには、堅苦しくとっつきにくい印象があると思いますが、多少の基礎知識を習得することにより、ある程度その印象が緩和されます。

社会が複雑化する中で、理工系、文科系を問わず法律知識を必要とする場面が格段と増えています。受講生には、基本的な法の枠組みと、その立案、制定、運用の過程を知ることによって、法を身近なものと感じることができるようになることを期待しています。

本講義では、主に、法と国家の関係に焦点を当て、主として憲法、及びそれに関連して刑法、行政法の基本を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の成立の背景と理念を理解し、関連して公法の主要分野である国際公法、刑法、行政法の概略を知ることによって、社会で起きている事件、事象について法的に読み解く力を身につけることを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的、基本的な事項について解説を行うとともに、適宜条文や判例などを参照し、それらの読み方、その背景にあるものなどを考えていきます。受講生の人数にもありますが、極力、質疑応答、意見開陳、アンケート等により双方向の授業を心がけたいと思っています。

なお、授業計画に示した各回のテーマ及び内容は、なるべく新しい動きを紹介するなど授業の進行の都合上適宜変更や省略がありうるをご承知ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法という現象 －社会のなかの法	ガイダンス、様々な社会秩序、法秩序の源泉、社会規範の役割、法と道德、近代法の理念、「悪法も法なり？」
2	法律体系 －法の類型と相互関係	法の分類、法源、法律の階層構造、公法と私法、「新法は旧法を破る」、一般法と特別法、強行規定と任意規定、目的論的法解釈等
3	国家のかたち －立憲国家の意味	近代憲法の歴史、立憲という考え方、自然権思想、近代憲法の特質、大日本帝国憲法、日本国憲法の成立等
4	法の形成と実現 －立法と司法	立法の仕組みと実際、法の立案、国会審議、成立から公布施行まで、私法の仕組みと裁判の実際、法の実現等
5	人権の本質 －基本的人権（1）	基本的人権の成立、種類と制約、法の下の平等、人権の衝突、公共の福祉、内在的制約、幸福追求権等

6	精神的自由権 －基本的人権（2）	思想・良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会の自由、結社の自由、通信の秘密、学問の自由等
7	経済的自由権 －基本的人権（3）	自由な経済活動、職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障と制約等
8	社会権 －基本的人権（4）	福祉国家の理想、生存権、教育を受ける権利、労働の権利と労働基本権、社会権のあり方等
9	三権分立 －統治機構	権力の分立の理念と由来、国会機能と実際、国政調査権、司法権の意味、司法機能と裁判の実際等
10	違憲審査 －その機能	違憲審査の意味、違憲判決の効果、司法審査の限界、統治行為論、違憲判決の事例と効果等
11	国際秩序 －国際法の世界	国際社会のルール、国家主権、領土、領海、領空、条約、国際紛争等
12	法律による行政 の規律	行政活動、行政の原則、法律による行政、裁量行為、行政不服審査、行政訴訟、国家賠償等
13	罪刑法定主義 －刑法の基礎	刑罰の種類と役割、犯罪の要件、人権の確保、刑事手続の実際、弁護士役割、裁判員裁判等
14	法の目指すもの	日本国憲法の理想と現実、憲法の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常日頃、新聞、テレビ、雑誌などで報道される社会、経済の動きに関心を持ち、その背景にある法的問題を考えたり調べたりするよう心がけることは、社会生活上も有益です。講師の経験上、法学は、受講生の社会や経済に対する関心の度合いによって、学習に明らかな差が出ます。法学の学習のためとだけでなく、新聞などをしっかり読むことをお勧めします。

また、配布するレジュメには、関係する法令の条番号を記載しているので、受講生は該当条文を参照し確認しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 2 回の講義から、適宜条文を参照しますので、なるべく六法を持参ください。小型の携帯用のもので結構です。受講生によく使われている六法は、ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）等です。

このほか、これらの出版社から発行されている判例付きのものも結構です。

なお、定期試験の際、これらの六法を持ち込み可とする予定です（但し電子式のものを除きます）。

【参考書】

憲法について、芦部信義「憲法」（岩波書店）を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験により、補足的にミニレポートにより評価します（概ね定期試験 80%、ミニレポート 20%）。試験時間は 90 分。B4 の解答用紙 2 ページ程度を使用して、記述式による解答を求めます。例えば法律上の用語、制度の仕組み等に関する知識やその背景にある考え方や理念などの理解度、それらを踏まえた表現力などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大教室を使用する可能性が高いのですが、教室内がうるさくて迷惑しているとの意見が寄せられました。当然ですが、私語は厳禁します。

また、現に起きている生の事件・事象を素材とした解説や、講師自身の体験に基づく解説が好評のようなので、取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しません。

【その他の重要事項】

やむを得ず講義途中に入退室する場合は、他の受講生や講義の迷惑にならないよう注意すること。

なお、講師は、永年国土交通省等において、政策や法令の立案や国会との調整を担当。その経験を生かして、解説する。

【Outline and objectives】

In this course the role and basic knowledge of laws are studied. The idea and use of the Constitution of Japan will be the focus for discussion. Although It is usually difficult to understand formal sentences in laws, their impressions can be informed basic knowledge. As society becomes increasingly complicated many careers require legal knowledge, whether within liberal arts or science and technology. Learning a framework of basic law and its drafting process can possibly aid these situations. Lectures will focus on the relations between law and nations. Students will mainly learn criminal law and basics of administrative law.

法学概論（2019年度以降入学生）

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法が社会の中で果たしている役割を理解するとともに、社会人として必要な基礎的法知識を習得します。もとより受講生が今後の人生で遭遇する法律問題は多種多様ですが、およそ社会規範としての法律には、その基礎をなす一定の思想、価値観、理念といったものが存在し、それらを理解しておくことが、現実には法律問題に直面した際の解決策の発見を容易にします。本講義では、わが国の法体系の基礎をなす日本国憲法を中心にその理念、運用等について考察します。法律の条文の書きぶりには、堅苦しくとっつきにくい印象があると思いますが、多少の基礎知識を習得することにより、ある程度その印象が緩和されます。

社会が複雑化する中で、理工系、文科系を問わず法律知識を必要とする場面が格段と増えています。受講生には、基本的な法の枠組みと、その立案、制定、運用の過程を知ることによって、法を身近なものと感じることができるようになることを期待しています。

本講義では、主に、法と国家の関係に焦点を当て、主として憲法、及びそれに関連して刑法、行政法の基本を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の成立の背景と理念を理解し、関連して公法の主要分野である国際公法、刑法、行政法の概略を知ることによって、社会で起きている事件、事象について法的に読み解く力を身につけることを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的、基本的な事項について解説を行うとともに、適宜条文や判例などを参照し、それらの読み方、その背景にあるものなどを考えていきます。受講生の人数にもありますが、極力、質疑応答、意見開陳、アンケート等により双方向の授業を心がけたいと思っています。

なお、授業計画に示した各回のテーマ及び内容は、なるべく新しい動きを紹介するなど授業の進行の都合上適宜変更や省略がありうるをご承知ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法という現象 －社会のなかの法	ガイダンス、様々な社会秩序、法秩序の源泉、社会規範の役割、法と道德、近代法の理念、「悪法も法なり？」
2	法律体系 －法の類型と相互関係	法の分類、法源、法律の階層構造、公法と私法、「新法は旧法を破る」、一般法と特別法、強行規定と任意規定、目的論的法解釈等
3	国家のかたち －立憲国家の意味	近代憲法の歴史、立憲という考え方、自然権思想、近代憲法の特質、大日本帝国憲法、日本国憲法の成立等
4	法の形成と実現 －立法と司法	立法の仕組みと実際、法の立案、国会審議、成立から公布施行まで、私法の仕組みと裁判の実際、法の実現等
5	人権の本質 －基本的人権（1）	基本的人権の成立、種類と制約、法の下での平等、人権の衝突、公共の福祉、内面的制約、幸福追求権等

6	精神的自由権 －基本的人権（2）	思想・良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会の自由、結社の自由、通信の秘密、学問の自由等
7	経済的自由権 －基本的人権（3）	自由な経済活動、職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障と制約等
8	社会権 －基本的人権（4）	福祉国家の理想、生存権、教育を受ける権利、労働の権利と労働基本権、社会権のあり方等
9	三権分立 －統治機構	権力の分立の理念と由来、国会機能と実際、国政調査権、司法権の意味、司法機能と裁判の実際等
10	違憲審査 －その機能	違憲審査の意味、違憲判決の効果、司法審査の限界、統治行為論、違憲判決の実例と効果等
11	国際秩序 －国際法の世界	国際社会のルール、国家主権、領土、領海、領空、条約、国際紛争等
12	法律による行政 の規律	行政活動、行政の原則、法律による行政、裁量行為、行政不服審査、行政訴訟、国家賠償等
13	罪刑法定主義 －刑法の基礎	刑罰の種類と役割、犯罪の要件、人権の確保、刑事手続の実際、弁護士役割、裁判員裁判等
14	法の目指すもの	日本国憲法の理想と現実、憲法の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常日頃、新聞、テレビ、雑誌などで報道される社会、経済の動きに関心を持ち、その背景にある法的問題を考えたり調べたりするよう心がけることは、社会生活上も有益です。講師の経験上、法学は、受講生の社会や経済に対する関心の度合いによって、学習に明らかな差が出ます。法学の学習のためとだけでなく、新聞などをしっかり読むことをお勧めします。

また、配布するレジュメには、関係する法令の条番号を記載しているので、受講生は該当条文を参照し確認しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 2 回の講義から、適宜条文を参照しますので、なるべく六法を持参ください。小型の携帯用のもので結構です。受講生によく使われている六法は、ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）等です。

このほか、これらの出版社から発行されている判例付きのものも結構です。

なお、定期試験の際、これらの六法を持ち込み可とする予定です（但し電子式のものを除きます）。

【参考書】

憲法について、芦部信義「憲法」（岩波書店）を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験により、補足的にミニレポートにより評価します（概ね定期試験 80%、ミニレポート 20%）。試験時間は 90 分。B4 の解答用紙 2 ページ程度を使用して、記述式による解答を求めます。例えば法律上の用語、制度の仕組み等に関する知識やその背景にある考え方や理念などの理解度、それらを踏まえた表現力などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大教室を使用する可能性が高いのですが、教室内がうるさくて迷惑しているとの意見が寄せられました。当然ですが、私語は厳禁します。

また、現に起きている生の事件・事象を素材とした解説や、講師自身の体験に基づく解説が好評のようなので、取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しません。

【その他の重要事項】

やむを得ず講義途中に入退室する場合は、他の受講生や講義の迷惑にならないよう注意すること。

なお、講師は、永年国土交通省等において、政策や法令の立案や国会との調整を担当。その経験を生かして、解説する。

【Outline and objectives】

In this course the role and basic knowledge of laws are studied. The idea and use of the Constitution of Japan will be the focus for discussion. Although It is usually difficult to understand formal sentences in laws, their impressions can be informed basic knowledge. As society becomes increasingly complicated many careers require legal knowledge, whether within liberal arts or science and technology. Learning a framework of basic law and its drafting process can possibly aid these situations. Lectures will focus on the relations between law and nations. Students will mainly learn criminal law and basics of administrative law.

法学概論（2019年度以降入学生）

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法が社会の中で果たしている役割を理解するとともに、社会人として必要な基礎的法知識を習得します。もとより受講生が今後の人生で遭遇する法律問題は多種多様ですが、およそ社会規範としての法律には、その基礎をなす一定の思想、価値観、理念といったものが存在し、それら理解しておくことが、現実には法律問題に直面した際の解決策の発見を容易にします。本講義では、わが国の法体系の基礎をなす日本国憲法を中心にその理念、運用等について考察します。法律の条文の書きぶりには、堅苦しくとつつきにくい印象があると思いますが、多少の基礎知識を習得することにより、ある程度その印象が緩和されます。

社会が複雑化する中で、理工系、文科系を問わず法律知識を必要とする場面が格段と増えています。受講生には、基本的な法の枠組みと、その立案、制定、運用の過程を知ることによって、法を身近なものと感じることができるようになることを期待しています。

本講義では、主に、法と国家の関係に焦点を当て、主として憲法、及びそれに関連して刑法、行政法の基本を学びます。

【到達目標】

日本国憲法の成立の背景と理念を理解し、関連して公法の主要分野である国際公法、刑法、行政法の概略を知ることによって、社会で起きている事件、事象について法的に読み解く力を身につけることを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	◎	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一般的、基本的な事項について解説を行うとともに、適宜条文や判例などを参照し、それらの読み方、その背景にあるものなどを考えていきます。受講生の人数にもありますが、極力、質疑応答、意見開陳、アンケート等により双方向の授業を心がけたいと思っています。

なお、授業計画に示した各回のテーマ及び内容は、なるべく新しい動きを紹介するなど授業の進行の都合上適宜変更や省略がありうることをご承知ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	法という現象 －社会のなかの法	ガイダンス、様々な社会秩序、法秩序の源泉、社会規範の役割、法と道德、近代法の理念、「悪法も法なり？」
2	法律体系 －法の類型と相互関係	法の分類、法源、法律の階層構造、公法と私法、「新法は旧法を破る」、一般法と特別法、強行規定と任意規定、目的論的法解釈等
3	国家のかたち －立憲国家の意味	近代憲法の歴史、立憲という考え方、自然権思想、近代憲法の特質、大日本帝国憲法、日本国憲法の成立等
4	法の形成と実現 －立法と司法	立法の仕組みと実際、法の立案、国会審議、成立から公布施行まで、私法の仕組みと裁判の実際、法の実現等
5	人権の本質 －基本的人権（1）	基本的人権の成立、種類と制約、法の下の平等、人権の衝突、公共の福祉、内在的制約、幸福追求権等

6	精神的自由権 －基本的人権（2）	思想・良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会の自由、結社の自由、通信の秘密、学問の自由等
7	経済的自由権 －基本的人権（3）	自由な経済活動、職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障と制約等
8	社会権 －基本的人権（4）	福祉国家の理想、生存権、教育を受ける権利、労働の権利と労働基本権、社会権のあり方等
9	三権分立 －統治機構	権力の分立の理念と由来、国会機能と実際、国政調査権、司法権の意味、司法機能と裁判の実際等
10	違憲審査 －その機能	違憲審査の意味、違憲判決の効果、司法審査の限界、統治行為論、違憲判決の事例と効果等
11	国際秩序 －国際法の世界	国際社会のルール、国家主権、領土、領海、領空、条約、国際紛争等
12	法律による行政 －行政の規律	行政活動、行政の原則、法律による行政、裁量行為、行政不服審査、行政訴訟、国家賠償等
13	罪刑法定主義 －刑法の基礎	刑罰の種類と役割、犯罪の要件、人権の確保、刑事手続の実際、弁護士役割、裁判員裁判等
14	法を目指すもの	日本国憲法の理想と現実、憲法の論点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常日頃、新聞、テレビ、雑誌などで報道される社会、経済の動きに関心をもち、その背景にある法的問題を考えたり調べたりするよう心がけることは、社会生活上も有益です。講師の経験上、法学は、受講生の社会や経済に対する関心の度合いによって、学習に明らかな差が出ます。法学の学習のためということだけでなく、新聞などをしっかり読むことをお勧めします。

また、配布するレジュメには、関係する法令の条番号を記載しているので、受講生は該当条文を参照し確認しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 2 回の講義から、適宜条文を参照しますので、なるべく六法を持参ください。小型の携帯用のもので結構です。受講生によく使われている六法は、ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）等です。

このほか、これらの出版社から発行されている判例付きのものも結構です。

なお、定期試験の際、これらの六法を持ち込み可とする予定です（但し電子式のものを除きます）。

【参考書】

憲法について、芦部信義「憲法」（岩波書店）を薦めます。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験により、補足的にミニレポートにより評価します（概ね定期試験 80%、ミニレポート 20%）。試験時間は 90 分。B4 の解答用紙 2 ページ程度を使用して、記述式による解答を求めます。例えば法律上の用語、制度の仕組み等に関する知識やその背景にある考え方や理念などの理解度、それらを踏まえた表現力などを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大教室を使用する可能性が高いのですが、教室内がうるさくて迷惑しているとの意見が寄せられました。当然ですが、私語は厳禁します。

また、現に起きている生の事件・事象を素材とした解説や、講師自身の体験に基づく解説が好評のようなので、取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しません。

【その他の重要事項】

やむを得ず講義途中に入退室する場合は、他の受講生や講義の迷惑にならないよう注意すること。

なお、講師は、永年国土交通省等において、政策や法令の立案や国会との調整を担当。その経験を生かして、解説する。

【Outline and objectives】

In this course the role and basic knowledge of laws are studied. The idea and use of the Constitution of Japan will be the focus for discussion. Although It is usually difficult to understand formal sentences in laws, their impressions can be informed basic knowledge. As society becomes increasingly complicated many careers require legal knowledge, whether within liberal arts or science and technology. Learning a framework of basic law and its drafting process can possibly aid these situations. Lectures will focus on the relations between law and nations. Students will mainly learn criminal law and basics of administrative law.

MAT100ND

数学 2 Y（2018年度以前入学生）

山田 泰之

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来学んでいく専門分野の背景をなす数学、特に微分積分学の理解に焦点をあてる。

微分積分学は数学のひとつの分野としてはもちろん、あらゆる自然科学を記述するための道具としての側面を持つ。工学系を学ぶ学生にとって理解が不可欠な学問分野のひとつである。ひいては、様々な創作活動において、現象の理解や具体化に活用可能である。

【到達目標】

本講義は、微分積分学の入門として基礎的な事柄から応用まで広く扱い、計算方法のみではなく背景にある考え方を理解するとともに、今後の各専門分野の勉強、ひいては実務（デザイン、エンジニアリング双方）に役立つような知識・考え方を身に付けることを目的としている。従って、その計算過程での論理的な説明や証明問題に対して筋道の通った答えを書く能力と、それを活用する能力の双方の養成を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

微分積分学の諸概念について、数学的に厳密な定義を行うことはもちろん、クリエイティブ、テクノロジーおよびマネジメントでの応用や、それらに必要な問題の解法に関する演習を行う。

本授業は 4 月 24 日より開始する。学習支援システムで逐次連絡事項等をアップロードするので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関数と極限 微分法の基礎 1	関数の連続性、極限 微分係数の定義と微分可能性 導関数の定義 初等関数の導関数
2	微分法の基礎 2 微分法の応用 1	関数の和、差、積、商の導関数 合成関数、逆関数の微分法 逆三角関数と双曲線関数 接線、法線の方程式 関数の増減とグラフ
3	微分法の応用 2 不定積分	テイラー展開 原始関数と不定積分の定義 初等関数の不定積分 置換積分と部分積分
4	定積分 1	定積分の定義 初等関数の定積分 面積と体積
5	定積分 2 偏微分 1	広義積分 2 変数関数の偏微分、全微分 2 変数関数の合成関数の微分
6	偏微分 2	2 変数関数の極値 条件付き極値
7	重積分	累次積分 座標変換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成。

返却されたレポート課題の復習。

講義内容の復習と関連した演習問題は各自解いておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

磯島伸 他「コア講義 微分積分」(裳華房)

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)

提出課題 (30 %)

(授業内の演習課題やレポート課題の評価など)

平常点 (10 %)

出席回数の少ない学生は成績の評価をしないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【Outline and objectives】

Calculus as a branch of mathematics is, of course, is on one hand a tool to describe all natural science fields, and to engineering students a vital to understand subject. This course provides the necessary mathematical background for future studies in technical fields, focusing on the understanding of differential and integral calculus.

ADE200NA

アーバニズム（2018年度以前入学生）

渡邊 眞理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市とは何か、そして都市がどのようにして成立し、成長してきたのかを、都市建築の視点から検討する。ルネッサンスの理想都市、産業革命が都市にもたらしたもの、20 世紀のアーバニズムの特徴とその問題点を時系列にしたがってたどりながら、建築と都市の関係を考える。

【到達目標】

コーリン・ロウの著書「コラージュ・シティ」の読解をベースにしながら、都市および都市と建築の関係性を理解するために不可欠ないくつかの基本理念を学ぶ。発表授業に参加する中で、インターネットの利用法、レポート作成の基本やプレゼンテーションの技法なども学習する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

都市を考えるには 1 冊の参考書を読んだだけでは意味をなさない。この授業では授業内で PC とグループ学習を活用するアクティブラーニングを行なう中で、都市形成（アーバニズム）がどのような理由でどのようにして行なわれたのかを視覚的な素材（写真、データなど）を多用しながら考える。授業内でもグループで考え発表することが求められるが、さらに授業の中間と最後に複数回の発表授業を設けてある。そこでは与えられたテーマについて文章（ワード文書）と画像（パワーポイント）でのレポート提出が求められる。都市というテーマは必ずしもやさしいテーマではないが、発表授業を通じて、自己の理解レベルを確認し、友人の意見に刺激を受けることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の構成、グループ学習、発表授業とは、レポートの書き方についてなど授業履修の基本の提示を受ける。
2	序論	都市とは何か？ 授業で取り扱う都市の定義。ギリシャ、ローマの都市から学ぶものは何か？
3	ユートピア①	ルネッサンスの理想都市について。人類が都市のかたちを議論するようになったのはどうしてだろうか。
4	ユートピア②	ルドゥーの理想都市やその建築をとりあげ、18 世紀の都市とその特徴について考える。
5	ユートピア③	産業革命期、都市はどう変容し、ユートピア概念はどう変わったか。
6	20 世紀のユートピア①	ハワード「田園都市」、ル・コルビュジェのアーバニズムなどから 20 世紀前半のアーバニズムとその特徴について考える。
7	20 世紀のユートピア②	タウンスケープ派とその理論（ゴードン・カレン、ケビン・リンチ、R. ヴェンチュリーなど）、現在も継承される都市景観という概念について。
8	20 世紀のユートピア③	SF 派の提案した都市とその特徴（メタポリズム、アーキグラム、スーパースタジオなど）。60 年代から 70 年代に生じたラディカルな都市観について。
9	発表授業 A：提出されたレポートの中からパワーポイントで発表する。	選ばれた発表者はもとより、発表しない学生も発表内容への質疑などを通じて授業参加が強く求められる。
10	都市組織の崩壊①	オスマンのバリ改造（19 世紀）とアムステルダム・サウス（20 世紀）の違い。
11	都市組織の崩壊②	サン・ディエ計画（ル・コルビュジェ）、単体建築と都市建築の違い、近代建築の特性が近代都市に及ぼしたもの。

12	都市組織の崩壊③	図と地、疎と密という概念について。フィレンツェのウフィツィ宮がユニークな都市空間なのはなぜか？
13	都市組織の崩壊④	フォルムとアクロポリスに代表される、都市空間の 2 つの類型とその意味。
14	発表授業 B：提出されたレポートから代表何名かがパワーポイントで発表する。	選ばれた発表者はもとより、発表しない学生も発表内容への質疑などを通じて授業参加が強く求められる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーリン・ロウ＋フレッド・コッター著「コラージュ・シティ」鹿島出版会 SD 選書を通読して授業内容の理解をあらかじめ行なっておくことがのぞましい。同書は必ずしも容易に読める本ではないが、授業前に通読し概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コーリン・ロウ＋フレッド・コッター著「コラージュ・シティ」鹿島出版会 SD 選書に即して授業を進める。

【参考書】

授業内にプリントで提示する。

【成績評価の方法と基準】

グループ学習への参加（40 %）、レポート（ワードとパワーポイント）提出（60 %）、発表授業への参加（同前）が評価の対象となる。2 度のレポート提出がない場合には評価対象外となる。なお、授業を 4 回以上欠席すると単位認定の対象から外れるので注意のこと。アクティブラーニング授業を行うため、教室はスタジオ HAL となるが、そのため 60 名以上の履修は困難なので、履修希望者多数の場合には受講者選定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

田町校舎にある法政アクティブラーニング教室（HAL）を利用してグループ学習や授業参加を重視した新しい方式の授業を行なう。Google Earth や Wikipedia などを利用しながら、インターネット検索だけでは到達できない視点をどのようにしたら獲得できるかを試行する。

【学生が準備すべき機器他】

アクティブ・ラーニング方式で授業を行なうため、各自ノート PC を持参して授業に臨むこと。レポートは建築学科の I A E サーバーの指定されたフォルダーに提出する。

【その他の重要事項】

教室定員が 60 名のため履修希望者が多い場合にはガイダンス時にレポートなどで受講者を決定する。実務経験との関連：サブ・テキストの「コラージュ・シティ」の著者から直接米国で学び、翻訳した経験を生かして授業を組み立てている。

【Outline and objectives】

This course will examine questions of what are cities and how we should form and grow them, through the point of view of urban architecture. Following developments through time including the ideal Renaissance city, effect of the Industrial Revolution on cities, and characteristics and problems with 20th century urbanism, students will consider the relation between architecture and cities.

ADE200NA

アーバニズム（2018年度以前入学生）

渡邊 眞理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築とは何か、都市とは何か、私たちの文明がどのようにして成立し、成長してきたのかを、資源活用の点から考察する。森林資源、水資源、食料資源などに対するこれまでの人間の向き合い方を振り返り、文明が持続的な発展を遂げる為の課題について考える視点を養う。

【到達目標】

現代社会における資源問題を理解し、その上で建築や都市の在り方を論じる力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回トピックを定め、それについての基礎的理解を進める為に講義を行う。また、トピックごとに課題を抽出し、これについての学生との対話により、資源と現代社会の在り方について理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の構成、グループ学習、発表授業とは、レポートの書き方についてなど授業履修の基本の提示を受ける。
2	序論	都市とは何か？ 授業で取り扱う都市の定義。ギリシャ、ローマの都市から学ぶものは何か？
3	ユートピア①	ルネサンスの理想都市について。人類が都市のかたちを議論するようになったのはどうしてだろうか。
4	ユートピア②	ルドゥーの理想都市やその建築をとりあげ、18世紀の都市とその特徴について考える。
5	ユートピア③	産業革命期、都市はどう変容し、ユートピア概念はどう変わったか。
6	20世紀のユートピア①	ハワード「田園都市」、ル・コルビュジェのアーバニズムなどから20世紀前半のアーバニズムとその特徴について考える。
7	20世紀のユートピア②	タウンスケープ派とその理論（ゴードン・カレン、ケビン・リンチ、R.ヴェンチュリなど）、現在も継承される都市景観という概念について。
8	20世紀のユートピア③	SF派の提案した都市とその特徴（メタポリズム、アーキグラム、スーパースタジオなど）。60年代から70年代に生じたラディカルな都市観について。
9	発表授業 A：提出されたレポートの中からパワーポイントで発表する。	選ばれた発表者はもとより、発表しない学生も発表内容への質疑などを通じて授業参加が強く求められる。
10	都市組織の崩壊①	オスマンのバリ改造（19世紀）とアムステルダム・サウス（20世紀）の違い。
11	都市組織の崩壊②	サン・ディエ計画（ル・コルビュジェ）、単体建築と都市建築の違い、近代建築の特性が近代都市に及ぼしたもの。
12	都市組織の崩壊③	図と地、疎と密という概念について。フィレンツェのウフィツィ宮がユニークな都市空間なのはなぜか？
13	都市組織の崩壊④	フォルムとアクロポリスに代表される、都市空間の2つの類型とその意味。
14	発表授業 B：提出されたレポートから代表何名かがパワーポイントで発表する。	選ばれた発表者はもとより、発表しない学生も発表内容への質疑などを通じて授業参加が強く求められる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについて、様々な情報媒体（インターネットや新聞等）を授業前に通読し概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

都度、学習支援システム上で指示をします。

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

グループ学習への参加（40%）、レポート（ワードとパワーポイント）提出（60%）、発表授業への参加（同前）が評価の対象となる。2度のレポート提出がない場合には評価対象外となる。なお、授業を4回以上欠席すると単位認定の対象から外れるので注意のこと。アクティブラーニング授業を行うため、教室はスタジオ HAL となるが、そのため60名以上の履修は困難なので、履修希望者多数の場合には受講者選定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

田町校舎にある法政アクティブラーニング教室（HAL）を利用してグループ学習や授業参加を重視した新しい方式の授業を行なう。Google Earth や Wikipedia などを利用しながら、インターネット検索だけでは到達できない視点をどのようにしたら獲得できるかを試行する。

【学生が準備すべき機器他】

アクティブ・ラーニング方式で授業を行なうため、各自ノート PC を持参して授業に臨むこと。レポートは建築学科の I A E サーバーの指定されたフォルダーに提出する。

【その他の重要事項】

教室定員が60名のため履修希望者が多い場合にはガイダンス時にレポートなどで受講者を決定する。
実務経験との関連：サブ・テキストの「コラージュ・シティ」の著者から直接米国で学び、翻訳した経験を生かして授業を組み立てている。

【Outline and objectives】

This course will examine questions of what are cities and how we should form and grow them, through the point of view of urban architecture. Following developments through time including the ideal Renaissance city, effect of the Industrial Revolution on cities, and characteristics and problems with 20th century urbanism, students will consider the relation between architecture and cities.

ADE200NA

アーバニズム（2018年度以前入学生）

渡邊 眞理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市とは何か、そして都市がどのようにして成立し、成長してきたのかを、都市建築の視点から検討する。ルネッサンスの理想都市、産業革命が都市にもたらしたもの、20 世紀のアーバニズムの特徴とその問題点を時系列にしたがってたどりながら、建築と都市の関係を考える。

【到達目標】

コーリン・ロウの著書「コラージュ・シティ」の読解をベースにしながら、都市および都市と建築の関係性を理解するために不可欠ないくつかの基本理念を学ぶ。発表授業に参加する中で、インターネットの利用法、レポート作成の基本やプレゼンテーションの技法なども学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

都市を考えるには 1 冊の参考書を読んだだけでは意味をなさない。この授業では授業内で PC とグループ学習を活用するアクティブラーニングを行なう中で、都市形成（アーバニズム）がどのような理由でどのようにして行なわれたのかを視覚的な素材（写真、データなど）を多用しながら考える。授業内でもグループで考え発表することが求められるが、さらに授業の中間と最後に複数回の発表授業を設けてある。そこでは与えられたテーマについて文章（ワード文書）と画像（パワーポイント）でのレポート提出が求められる。都市というテーマは必ずしもやさしいテーマではないが、発表授業を通じて、自己の理解レベルを確認し、友人の意見に刺激を受けることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の構成、グループ学習、発表授業とは、レポートの書き方についてなど授業履修の基本的提示を受ける。
2	序論	都市とは何か？ 授業で取り扱う都市の定義。ギリシャ、ローマの都市から学ぶものは何か？
3	ユートピア①	ルネッサンスの理想都市について。人類が都市のかたちを議論するようになったのはどうしてだろうか。
4	ユートピア②	ルドゥーの理想都市やその建築をとりあげ、18 世紀の都市とその特徴について考える。
5	ユートピア③	産業革命期、都市はどう変容し、ユートピア概念はどう変わったか。
6	20 世紀のユートピア①	ハワード「田園都市」、ル・コルビュジェのアーバニズムなどから 20 世紀前半のアーバニズムとその特徴について考える。
7	20 世紀のユートピア②	タウンスケープ派とその理論（ゴードン・カレン、ケビン・リンチ、R. ヴェンチュリなど）、現在も継承される都市景観という概念について。
8	20 世紀のユートピア③	SF 派の提案した都市とその特徴（メタボリズム、アーキグラム、スーパースタジオなど）。60 年代から 70 年代に生じたラディカルな都市観について。
9	発表授業 A：提出されたレポートの中からパワーポイントで発表する。	選ばれた発表者はもとより、発表しない学生も発表内容への質疑などを通じて授業参加が強く求められる。
10	都市組織の崩壊①	オースマンのバリ改造（19 世紀）とアムステルダム・サウス（20 世紀）の違い。
11	都市組織の崩壊②	サン・ディエ計画（ル・コルビュジェ）、単体建築と都市建築の違い、近代建築の特性が近代都市に及ぼしたもの。
12	都市組織の崩壊③	図と地、疎と密という概念について。フィレンツェのウフィツィ宮がユニークな都市空間なのはなぜか？
13	都市組織の崩壊④	フォルムとアクロポリスに代表される、都市空間の 2 つの類型とその意味。

14 発表授業 B：提出された選ばれた発表者はもとより、発表しない学生も発表内容への質疑などを通じて授業参加が強く求められる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーリン・ロウ+フレッド・コッター著「コラージュ・シティ」鹿島出版会 SD 選書を通して授業内容の理解をあらかじめ行なっておくことがのぞましい。同書は必ずしも容易に読める本ではないが、授業前に通読し概要を知っておくことが授業理解に役に立つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コーリン・ロウ+フレッド・コッター著「コラージュ・シティ」鹿島出版会 SD 選書に即して授業を進める。

【参考書】

授業内にプリントで提示する。

【成績評価の方法と基準】

グループ学習への参加（40 %）、レポート（ワードとパワーポイント）提出（60 %）、発表授業への参加（同前）が評価の対象となる。2 度のレポート提出がない場合には評価対象外となる。なお、授業を 4 回以上欠席すると単位認定の対象から外れるので注意のこと。アクティブラーニング授業を行うため、教室はスタジオ HAL となるが、そのため 60 名以上の履修は困難なので、履修希望者多数の場合には受講者選定を行う場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

田町校舎にある法政アクティブラーニング教室（HAL）を利用してグループ学習や授業参加を重視した新しい方式の授業を行なう。Google Earth や Wikipedia などを利用しながら、インターネット検索だけでは到達できない視点をどのようにしたら獲得できるかを試行する。

【学生が準備すべき機器他】

アクティブ・ラーニング方式で授業を行なうため、各自ノート PC を持参して授業に臨むこと。レポートは建築学科の IAE サーバーの指定されたフォルダーに提出する。

【その他の重要事項】

教室定員が 60 名のため履修希望者が多い場合にはガイダンス時にレポートなどで受講者を決定する。実務経験との関連：サブ・テキストの「コラージュ・シティ」の著者から直接米国で学び、翻訳した経験を生かして授業を組み立てている。

【Outline and objectives】

This course will examine questions of what are cities and how we should form and grow them, through the point of view of urban architecture. Following developments through time including the ideal Renaissance city, effect of the Industrial Revolution on cities, and characteristics and problems with 20th century urbanism, students will consider the relation between architecture and cities.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この機までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現状分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study overseas case will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

CST200NA
都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養う。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力

40%

(D) 専門基礎学力

40%

(E) 専門知識の活用・応用能力

20%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。

①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%

②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%

③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study overseas case will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考え。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌倉市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題についての中間発表	課題解決地区の定量的評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は以下の通り

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量的評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、授業支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義をする。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study overseas case will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

DES300NA

公共空間デザイン及演習（2020年度休講）

高見 公雄、杉浦 榮、佐藤 康三、下吹越 武人、伊藤 登、竹内 豪

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

公共空間デザイン及演習（2020年度休講）

高見 公雄、杉浦 榮、佐藤 康三、下吹越 武人、伊藤 登、竹内 豪

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当該授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著

日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

DES300NA

公共空間デザイン及演習（2020年度休講）

高見 公雄、杉浦 榮、佐藤 康三、下吹越 武人、伊藤 登、竹内 豪

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方と技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著 日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30％）、最終成果物（70％）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

ADE100NB

デザインスタジオ2（建築）W

赤松 佳珠子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・ 模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・ 空間に対する分析力・考察力を養う
- ・ 日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・ 各種構造の特性を理解する
- ・ 行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・ 周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）

【ウォッチャー】普段目している風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺 5m 立方の空間の設計】一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評

6 『光の箱』
●講評会
『ウォッチャー』

7 『5m 立法の空間』

8 『5m 立法の空間』

9 『5m 立法の空間』

10 『5m 立法の空間』

11 『5m 立法の空間』

12 『5m 立法の空間』

13 『5m 立法の空間』
●スタジオ講評会

14 『5m 立法の空間』
●合同講評会

○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。

○ウォッチャー 発表と講評

○『5m 立法の空間』

ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする
○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。

○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。

○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。

○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。

○中間講評で指摘された事例を反映しスタディを深める。

○敷地や家具類を含めた模型を製作する。

○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。

○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。

◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。

プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、

●発表および講評会を各スタジオで行う。

全スタジオ合同講評会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）

『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）。

『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。

〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。

○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。

○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。

どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。

〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成員、新しい視点の提示など総合的に評価する。

〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのようにに取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成力などにより総合的に評価する。

〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。

（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）

（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

ADE200NB

構法スタジオ（2018年度以前入学生）

網野 禎昭、飯塚 豊、溝部 公寛、水井 敬、鍋野 友哉、永野 向吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構法スタジオでは、設計演習を通して架構や各部位の仕組みを実践的に理解し、詳細に図面化する能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

木造軸組構造による小型建築物を設計課題として、その空間計画、架構計画、各部設計を行なうとともに、今日の環境性能要求の高まりに対応した断熱設計も習得する。

エスキス時には図面を手描きすることで描画力を養うが、提出図面についてはCADソフトを利用し、実務に即した作図能力もあわせて修得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		◎				◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

AB 期の対面授業は実施不可となった。それにともなう開講時期の変更については、4 月 22 日までに学習支援システムで提示する。
各週ごとにテーマとして設定された設計上の問題に取り組み、これを図化あるいはモデル化し、そのチェックを受けることで設計を進める。最終的に、基本図・骨組模型・構造図・詳細図などの提出を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題説明 基本構想 1	設計課題の解説 基本的な空間構想に着手する
2	基本構想 2	基本的な空間構想を固める
3	架構設計 1	柱位置・主梁方向の検討
4	架構設計 2	屋根・床など平面架構の検討
5	架構設計 3	耐震壁・プレースの検討
6	屋根・壁・床の断面設計 1	屋根・壁の一般断面の検討／内・外装の検討
7	屋根・壁・床の断面設計 2	床の一般断面の検討／床・天井仕上の検討
8	屋根・壁・床の取り合い設計 1	基礎・床・外壁の取り合い
9	屋根・壁・床の取り合い設計 2	屋根防水構法の検討
10	屋根・壁・床の取り合い設計 3	屋根・外壁・庇の取り合い
11	屋根・壁・床の取り合い設計 4	内装面と主要な内部造作の取り合い
12	開口部設計 1	開口方法の検討
13	開口部設計 2	開口部品と外壁の取り合い
14	最終講評	課題の提出と講評をうける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週チェック時の指摘事項に対しては、参考文献調査や実地見学などを通し、これを十分理解し、課題の最終提出に備えること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じ資料を配布。

【参考書】

「間取りの方程式」エクスナレッジ
「プロとして恥をかかないためのゼロエネルギー住宅のつくり方」エクスナレッジ
等

【成績評価の方法と基準】

最終提出物の評価（100 %）による。正当な理由なく授業を 4 回以上欠席すると単位認定の対象外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

実物サンプルを活用する

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline and objectives】

This studio program on construction methods aims to provide students with a practical understanding of types of methods through planning exercises and the ability to create detailed blueprints.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

今井 龍一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

道奥 康治

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

溝渕 利明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

酒井 久和

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

鈴木 善晴

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュータリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュータリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュータリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュータリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュータリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

渡邊 竜一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

BSP100NC

導入ゼミナール（都市）

内田 大介

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科課程を円滑に開始できるように、基本的な学習ツールやシステムの活用を支援・促進することを目的とする。具体的には、学科課程の学修から資格取得、さらにキャリアアップへ向かうために、都市環境デザイン工学に関するオリエンテーション、コンピュタリテラシー、図書館利用ガイダンス、技術者を招いての講演・意見交換会を実施することにより、専門課程への効果的な導入を図る。

【到達目標】

在学期間の受講計画を策定し、自らの技術者としてのキャリアパスを設計する。授業内容を素材として学生間や教員と意見交換を通じ、都市環境デザイン工学への理解を深める。自らが課題を設定し、かつ解決する能力を開発する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	50%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業で目指す目標に到達するために、座学、討議、現地視察など様々な学習手段によって学生自らがスキルアップする素養を醸成することを重視する。大学での学習生活が円滑に開始し、キャリア形成への第1歩を順調に踏み出すためにも、授業への出席は不可欠である。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	コンピュタリテラシー (1)	インターネット・メール使用上の注意、エチュードの適正な使用方法。
(2)	教員紹介+系別の教育・研究紹介	各教員が担当する授業の内容、研究室で進める活動、就職等を紹介する。
(3)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(4)	見学会（3～4 時限連続）	防災センター、隅田川および橋梁群／浅草周辺の戦災復興事業の見学。
(5)	学科説明、大学院卒業後の進路	都市環境デザイン工学の各分野における技術が果たす社会貢献、技術者の仕事内容。
(6)	図書館ガイダンス	図書館利用と学術情報収集方法の理解。
(7)	コンピュタリテラシー (2)	授業で使用する基本アプリケーションの理解。
(8)	コンピュタリテラシー (3)	基本アプリケーションを使用した課題作成、演習
(9)	専任教員による話題提供	土木研究分野の理解
(10)	講演内容についての発表 (1)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(11)	外部講演者による話題提供	土木実務分野の理解
(12)	講演内容についての発表 (2)	講演について、グループでディスカッションを行い、その内容を発表する。
(13)	ディベート大会 (1)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。
(14)	ディベート大会 (2)	設定された課題に対して各グループが賛成・反対のロールに分かれ、ディベートする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバスの事前確認と学習準備、配布教材の講読・理解。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ようこそドボク学科へ、佐々木葉編、学芸出版社、2015。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートと授業への参加状況に基づいて判定される。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない（D 評価）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

時間割上は、3 時限と 4 時限であるが、見学会の回は交通事情等によって遅れる可能性があるため、該当時間に開講される他の授業科目を履修しないこと。コンピュタリテラシーの回はノート PC を必ず持参すること。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、製作現場に勤務した経験を有する教員が、学科の基礎について解説する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help and support first-year students. Students will learn how to use basic learning tools and systems to start their studies smoothly. Specifically, students will obtain certain licenses by studying featured subjects. In addition, this course will hold an orientation about Civil and Environmental Engineering, computer literacy, library use guidance, and lectures and public meetings with invited engineers for career advice. This course will provide an effective introduction for students to their major.

国土・地域概論

高見 公雄、堀川 洋子

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学科の学生が学ぶべき国土・地域・都市に係わる事項は多い。当科目は 1 年生の必修科目として、国土から都市に係わる基本的な事柄、技術の入口を学ぶ。

【到達目標】

わが国の国土が形成されてきた経緯とその概要を理解する。
国土・地域・都市に係わる常識、並びに関連する基礎知識を習得する。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | 20% |
| (D) 専門基礎学力 | 50% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 30% |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国土形成の歴史を学ぶ前半部（1～7 回）と、国土・地域・都市に係わる基礎を学ぶ後半部（8～14 回）を平行的に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会的共有財（公共性）としての社会基盤工学と開発・整備の意義。国土整備・都市建設の特徴。国土・地域の地理・気候・風土的特性に対する理解。
2	古代～中世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて古代～中世～戦国時代までの国土整備の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
3	近世日本の社会基盤	様々な土木遺構などを通じて近世の国土、藩領と城下町の実態と地域社会発展の足跡を学ぶ。
4	近代西欧の社会基盤	明治期の社会基盤工学
5	大正・昭和期～第二次世界大戦後の社会基盤形成と国土形成	日本の近代化の中で自立する社会基盤の構築技術と国土整備事業を学ぶ。戦後復興期の国土整備事業、エネルギーと水資源の確保。
6	高度経済成長期の国土開発から持続可能な発展／開発と保全の並立	高度経済成長期以降の全国総合開発計画と交通網・都市基盤の整備を学ぶ。リオの環境宣言（1992）～京都議定書（1997）～IPCC（2007 気候変動に関する政府間パネル）に至る経緯と持続的な発展。
7	中間まとめ	レポートの提出、発表と質疑応答
8	ガイダンス、国土と都市・地域の概々論	国土・地域・都市にまつわる多様な視点と話題の提示。ディスカッション。
9	国土計画・地域計画総論	わが国の現行の国土計画から都市計画、身近な環境づくりに関わる諸制度のアウトライン。
10	計画立案のための統計情報と演習	様々な計画作業の基本となる指定統計を中心とした統計データの所在、背景と、代表的指標を使った演習。
11	現下の課題	震災復興など現在問題となっている国土形成、都市整備に関わる諸課題整理とこれに対する所見。
12	道路構造基準と演習	市街地の根幹をなす都市施設である道路の構造基準解説と構造基準に準拠した道路の設計演習。
13	地域計画の視点、地域資源	国土から地域レベルの計画を行う上で知っておくべき関連する基礎知識の学習。
14	国土・地域概論の確認	後半に学んだことの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認

配布資料の復習

レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

共著、「都市および地方計画」、海山堂、高橋裕著、「現代日本土木史」、彰国社、松浦茂樹、「明治の国土開発史」、鹿島出版会ほか多数

【成績評価の方法と基準】

1～7 回は各回のレポート課題で評価（50 %）8～15 回は演習課題（10 %）、期末試験（40 %）で評価。また 4 回以上の欠席、演習課題の未提出者は D 判定とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

統計の演習時にはノートパソコンが必須となる。道路構造令の演習では製図器具が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いている教員が、国土・地域に関する実務の現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

This course consists of three sections. The first includes lectures about the history of engineering practice in modern Japan. The second is an introduction of land planning policy. The last includes lectures about fundamental issues which essential for students of the Department of Civil and Environmental Engineering.

CST200NC

都市計画法と政策

福井 恒明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市のありようや都市計画・設計の系譜を踏まえ、現代都市の諸課題とその要因を理解し、対処の考え方や手段としての都市計画政策について学習する。

【到達目標】

都市計画における主要課題とその構造について理解する。都市計画制度の系譜や考え方、具体的な手法について理解する。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 20% |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 60% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 20% |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アクティブラーニング手法により授業を進める。授業時間（100分）ごとにテーマを定め、内容について実務上の実践内容を含めながら概論を解説する（プロジェクター使用）。基本的に写したものは全て配布する。従って原則としてノートは不要。解説後、ワークを出題する。ワークは教科書を参照しながら、学生間の協力（3-4名程度のグループ）で解く。授業の最後には、リアクションペーパーを記入して提出する。リアクションペーパーに記載の質問については次の週の冒頭に補足説明・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・都市論	都市計画の対象である都市や都市的地域の特性について説明し、日本における都市や市街地の定義と実態について確認する。
2	都市計画論	日本の明治以降に近代化の一環として取り組まれてきた都市計画の歴史の概要について説明する。
3	都市基本計画	都市計画の基本となる総合的な計画である都市基本計画（マスタープラン）について、その内容と方法を説明する。
4	土地利用計画	土地利用計画の内容や計画策定の方法とともに、その実現手段である地域地区制度について説明する。
5	公園・緑地・オープンスペースの計画	公園・緑地・オープンスペースの機能、制度、計画の考え方について説明する。
6	住宅・住環境の計画	都市内で最も多い土地利用を占める住宅に関し、住宅問題、住宅需給計画、住宅地計画、住環境計画について説明する。
7	都市基盤施設の計画	都市を支える上下水道、電気、情報通信施設、廃棄物処理施設などのインフラストラクチャーについて説明する。
8	都市環境の計画	都市における環境問題や環境基準について概説し、都市計画的な対応のあり方について説明する。
9	都市の防災計画	都市地域における災害の防止、軽減及び災害復興推進のための都市防災計画について、主に地震防災を中心に説明する。
10	都市の景観設計	都市の景観設計のための基本的考え方、歴史の変遷、手法などについて説明する。
11	欧米諸国の計画制度	日本の都市計画制度導入の際に参考としてきた欧米諸国の都市計画制度について概観する。
12	日本の都市計画制度（1）	日本の法定都市計画制度について仕組み、実態、実績などを説明する。
13	日本の都市計画制度（2）	日本の法定都市計画制度について仕組み、実態、実績などを説明する。

14 まとめ 授業全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1-5 回、7-12 回：授業後、配布資料にもとづく復習

6 回、13 回：レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川上光彦「都市計画 第3版」森北出版（必ず入手すること）

【参考書】

前田英寿、遠藤新、野原卓、阿部大輔、黒瀬武史「アーバンデザイン講座」彰国社（アーバンデザインの歴史的経緯、理念、技法、実践を整理）
東京大学 cSUR-SSD 研究会「世界の SSD100 —都市持続再生のツボ」（世界の都市の持続再生の試みを 100 事例紹介）

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポートの内容及び発表において評価する。1 回でもレポートの提出を行わない者及び欠席 4 回以上の者は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度は担当者変更のため該当なし。

【その他の重要事項】

具体的な都市プランニングに携わった実務経験を持つ教員が、その経験を活かして都市プロジェクトや法制度の考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand the problems and factors of modern cities and to learn how urban planning policies deal with them. Students will learn concepts and approaches to grasp the actual conditions of cities, understand the history of urban planning and design, and learn about various urban planning policies.

地盤力学及演習Ⅹ

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する。

【到達目標】

土の物理量、地下水流動、圧密、土の強度、土圧について講義と演習を通じて学び、実務に応用できる基礎力を身に着ける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 20%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている。授業では、まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く。ついで、地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ。以後は、地盤と地下水の力学的・流体力学的関係、地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する。さらに、講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを、多くの例題を用いて解説した後、学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	建設と地盤	地盤の理解の重要性、構造物の安定、
	建設的観点からの地盤	建設に関する諸問題
2	土の基本物理量と SI 単位	土の相構成と基本物理量の定義、各物理量間の実用的関係式、SI 単位の基本事項と重要性、例題解説と演習
3	土の分類と工学的性質	混合物としての地盤、粗粒土と細粒土、土の構成成分と工学的性質の関係、コンシステンシー、例題解説と演習
4	土の透水性とその試験法	水頭・動水勾配の定義、Darcy 則と透水係数の定義、透水試験と透水係数の評価、例題解説と演習
5	地下水の流れ	等ポテンシャル関数と流れ関数、フローネットによる流量と間隙水圧分布、例題解説と演習
6	有効応力と土被り圧	有効応力と全応力、間隙水圧の関係、土被り圧の計算法、例題解説と演習
7	中間試験	1～6 回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験、模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象	圧密現象と力学モデル、先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密、圧縮指数と圧密沈下量、例題解説と演習
9	圧密沈下と時間	圧密沈下量と時間の計算、実際問題への適用、例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準	Mohr-Coulomb の破壊規準、例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値	各種試験と Mohr-Coulomb の破壊規準、一軸圧縮試験の応力状態、3 軸圧縮試験の種類と適応性、例題解説と演習

12	地盤内応力	地盤内応力の簡易計算法、
	地中部の応力状態と簡易的算定法	Boussinesq の式、長方形分割法、影響円法、Osterberg 法、圧力球根、例題解説と演習
13	土圧論	土圧と土圧係数の定義、主動状態と受働状態、Coulomb と Rankine の土圧論、地下水面の存在と土圧、例題解説と演習
14	総復習	8 回～13 回の範囲の演習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習をかねた演習問題への取り組み

2. 同 上

3. 同 上

4. 同 上

5. 同 上

6. 同 上

7. 中間試験問題に沿って総復習

8. 復習をかねた演習問題への取り組み

9. 同 上

10. 同 上

11. 同 上

12. 同 上

13. 同 上

14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

【参考書】

地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 % + レポート 30 % = 100 %

欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

理解状況を確認しながら講義を進め、そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方、難しすぎるとの意見もあった。自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから、100 分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓または PC

【その他の重要事項】

元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

【Outline and objectives】

The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.

CST200NC

地盤力学及演習 Y

澤田 俊一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境や生活環境に配慮した安全で快適な施設を計画・設計・施工する上で不可欠となる地盤の力学的考え方の基礎事項を理解する。

【到達目標】

土の物理量、地下水流動、圧密、土の強度、土圧について講義と演習を通じて学び、実務に応用できる基礎力を身に着ける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重

(B) 技術者倫理

(C) 工学基礎学力 20%

(D) 専門基礎学力 50%

(E) 専門知識の活用・応用能力 30%

(F) 総合デザイン能力

(G) コミュニケーション能力

(H) 継続的学習能力

(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

人間の生活や経済活動の基盤となるインフラ施設はいずれも地盤によって支えられている。授業では、まず始めにこれら施設の基礎となる地盤を力学的に理解した上で実務に活用できる能力の必要性を説く。ついで、地盤の大半を占める土を工学材料として扱うための共通の尺度としての幾つかの物理量とその測定法を学ぶ。以後は、地盤と地下水の力学的・流体力学的関係、地盤の破壊と作用力の関係等に関する基礎事項を講義する。さらに、講義で学んだ内容を具体的な力学問題にどのようにして応用して行くかを、多くの例題を用いて解説した後、学生自身が演習問題に取り組むことによって実践力を養う。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	建設と地盤	地盤の理解の重要性、構造物の安定、建設に関する諸問題
2	建設的観点からの地盤 土の基本物理量と SI 単位	土の相構成と基本物理量の定義、各物理量間の実用的関係式、SI 単位の基本事項と重要性、例題解説と演習
3	土の 3 相構成の理解と単位的重要性	混合体としての地盤、粗粒土と細粒土、土の構成成分と工学的性質の関係、コンシステンシー、例題解説と演習
4	土の分類と工学的性質の理解	水頭・動水勾配の定義、Darcy 則と透水係数の定義、透水試験と透水係数の評価、例題解説と演習
5	土の透水性とその試験法 水頭の定義とダルシー則の理解	等ポテンシャル関数と流れ関数、フローネットによる流量と間隙水圧分布、例題解説と演習
6	地下水の流れ 理論と簡易法の理解	有効応力と土被り圧、全応力と有効応力の関係、土被り圧の理解
7	中間試験 1～6 回までの理解度確認と総復習	1～6 回の授業内容全般に及ぶ理解度の確認試験、模範解答による解説と総合的復習
8	圧密現象 圧密沈下と即時沈下、圧密沈下による社会問題、一次元圧密理論の理解	圧密現象と力学モデル、先行圧密荷重と正規圧密及び過圧密、圧縮指数と圧密沈下量、例題解説と演習
9	圧密沈下量と時間 実用的な圧密計算の手順を整理・理解	圧密沈下量と時間の計算、実際問題への適用、例題解説と演習
10	土のせん断と破壊基準 土の破壊と構造物の安定の関係を理解	Mohr-Coulomb の破壊規準、例題解説と演習
11	土の力学試験と物性値 土質試験結果の適用方法の理解	各種試験と Mohr-Coulomb の破壊規準、一軸圧縮試験の応力状態、3 軸圧縮試験の種類と適応性、例題解説と演習

12	地盤内応力 地中部の応力状態と簡易的算定法	地盤内応力の簡易計算法、Boussinesq の式、長方形分割法、影響円法、Osterberg 法、圧力球根、例題解説と演習
13	土圧論 壁体に作用する土の圧力と計算法を理解	土圧と土圧係数の定義、主動状態と受働状態、Coulomb と Rankine の土圧論、地下水面の存在と土圧、例題解説と演習
14	総復習	8 回～13 回の範囲の演習、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習をかねた演習問題への取り組み

2. 同 上

3. 同 上

4. 同 上

5. 同 上

6. 同 上

7. 中間試験問題に沿って総復習

8. 復習をかねた演習問題への取り組み

9. 同 上

10. 同 上

11. 同 上

12. 同 上

13. 同 上

14. 期末試験問題に沿って総復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石原研而：土質力学、丸善

【参考書】

地盤工学会：土質試験－基本と手引き－

【成績評価の方法と基準】

定期試験 70 % + レポート 30 % = 100 %

欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

理解状況を確認しながら講義を進め、そのことに対する肯定的な意見が複数あった一方、難しすぎるとの意見もあった。自己学習時間が少ないために理解が進んでいない学生も散見されることから、100 分授業で講義中に演習問題を複数解かせるとともに課題としての演習を課したい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓または PC

【その他の重要事項】

元建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

【Outline and objectives】

The main objectives of the Geomechanics and Exercise Program are to acquire fundamental knowledge on geomechanics, which is crucial for the 'planning, designing and constructing of safe and comfortable infrastructure aimed at natural and social environments.

ADE100NB

デザインスタジオ2（建築）X

小池 ひろの

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・ 模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・ 空間に対する分析力・考察力を養う
- ・ 日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・ 各種構造の特性を理解する
- ・ 行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・ 周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）

【ウォッチャー】普段目している風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺 5m 立方の空間の設計】一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評

6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。 ○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。 ○中間講評で指摘された事例を反映しスタディを深める。 ○敷地や家具類を含めた模型を製作する。 ○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。 ○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
7	『5m 立法の空間』	
8	『5m 立法の空間』	
9	『5m 立法の空間』	
10	『5m 立法の空間』	
11	『5m 立法の空間』	
12	『5m 立法の空間』	
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成員、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのようにに取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成員などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。
（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

OTR100ND

デザインスタジオ 2 (SD)

佐藤 康三、谷口 武司、相川 真実、竹内 則雄、山田 泰之、西岡 靖之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインスタジオ2は、【マネジメント系】【クリエーション系】【テクノロジー系】の三つの系を各5回づつ、3クラスに分けて授業をうける。自分のクラスを間違わないように授業を受けること。クラス分けは、最初のガイダンスで行なわれる。

デザイン工学では、製品を製作するときのあらゆる場面で自分の制作しようとしている不可視な状態（想像されている状態）の人工物を第三者に的確かつスピーディーに可視化しその情報を視覚伝達技術の基礎が学べる。マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を学び理解する基礎が学べる。

クリエーション系では脳内視覚情報を実際に見える形に再現する観察能力、表現技術を学びます。対象は自然物の観察とその立体再現する「模刻」が学べる。「模刻」では、観察スケッチ、対象の特徴抽出、再現計画、実際の再現技術の基礎の習得が出来る。テクノロジー系講義では3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現方法、「かたち」や「しくみ」に取り入れられている力学的な関係と、工学的見地からデザインをとらえる基礎知識を身につけることが出来る。

【到達目標】

【マネジメント系】

身の回りにあるさまざまな“問題”の問題解決のための基本構造を学ぶ。意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できるようにします。問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法の基礎を習得する事を目標とする。

【クリエーション系】

観察能力のあり方とフォルムの表現方法・技術の基礎を習得する。二次平面上でのアイデア表現技法から立体表現技法の基礎を「模刻」より習得する事を目標とする。

【テクノロジー系】

3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現、物体の変形、流体の流れの関係、あるいは「ちから」と「かたち」や「しくみ」の基本的な関係を習得する事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【マネジメント系】

マネジメント系では、身の回りにあるさまざまな“問題”とどう関わるかについて、まず、問題解決のための基本構造を理解できる。これまではおそらく意識して行っていなかった“発想”および“問題発見”の方法を学び実践できる。そして、さらに、問題解決のためのステップや、複数のメンバーによるプロジェクトの設定方法と実施方法を学ぶ事が出来る。演習は、4～5名からなるグループワークで実施できる。

【クリエーション系】

この授業は、AB期でのデザインスタジオ1の継続に位置すると考えてください。CD期ではインダストリアルデザインのクリエーション系アイデアの、視覚表現つまり自分観察能力のあり方とフォルムの表現方法・技術の基礎を学びます。はじめに、アイデアスケッチ（対象物のフォルムを具体的に視覚化し自分の脳内にある観察されたフォルムを何枚ものスケッチを通して自己確認し精度を上げる作業および第三者に自己の観察結果を視覚的に的確に伝達する作業）の基礎スキルラフスケッチの描き方を学びます。自然物も幾何形体の連続形状の構成によって出来ていることを学び自己のデザイン表現の基礎技術を身につけます。次に、さきの二次平面上でのアイデア表現技法から立体表現技法を「模刻」より学びます。「模刻」は、対象物（例：植物・果実等）を観察する能力を身に着ける授業です。対象を徹底的に観察し観察した対象をケント紙等で再現する技術を学ぶ授業です。ここでは、どのようなプロセスで再現するかを学びます。この技術は、先のラフスケッチの立体模型化にとって極めて重要な技術となります。ここで得られる技術は各自の固有の技術となりますので予習、復習をしっかりと行ってください。また専門技術の基礎となりますので真剣に取り組む必要があります。

【テクノロジー系】

3次元物体や現象のコンピュータによる正確な表現、物体の変形、流体の流れの関係、あるいは「ちから」と「かたち」や「しくみ」の関係を実習をととして学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マネジメント系ガイダンス	授業概要、目標の説明 ブレインストーミングを行う
2	問題解決の基本形 発散的な思考法	KJ法により問題を深化させる

3	問題分析と構造化	連関図法、系統図法による問題の整理
4	問題解決の手段と実施	連関図法、系統図法による問題の整理
5	マネジメント系まとめ	グループ別プレゼンテーション
6	クリエーション系ガイダンス	授業概要、目標の説明 ラフスケッチとは何か、 ラフスケッチ実習
	「模刻」とは何か、 なぜ、製作するのか、 製作の目標	「模刻」とは 制作対象物の選定 用意されたピーマンと各自が選択した、対象物（野菜、または果物）の観察技法、対象物造形の重点の捉え方、 スケッチ方法を学ぶ。
7	ピーマンの観察 各自が用意した野菜、または果物の観察	各自が選択した、対象物（野菜、または果物）をコピー氏等の紙で外観を作る為の視点を学び試作を行う。
8	各自が用意した野菜、または果物の「模刻」紙での制作1	各自が選択した、対象物（野菜、または果物）をケント紙でそっくりに作る為の視点を強化し、完成に向け制作を行う。
9	「各自が用意した野菜、または果物の「模刻」ケント紙による制作2	授業開始時に、各自の作品をデジタルアーカイブします。完成作品の製作手法、観察の結果、自然物の観察から発見された造形の特徴等を各自2分程度でプレゼンテーションを行う。
10	「模刻」成果物プレゼンテーション	授業概要、目標の説明 計算力学の成り立ちを歴史的な建造物における問題点の解決に向けて取り組んだ背景やその学術的背景を事例を交えて説明し、その必要性への理解を深める。物理学や数学などの基礎学問と数値計算技術との関係を説明し、これらを踏まえたソフトウェア開発の歴史と背景、各国各社の代表的ソフトウェアへの理解を深める。
11	テクノロジー系ガイダンス 計算力学概論	CAE 構造解析を始める前に解析に必要な基礎知識を簡単に紹介。解析を適用することの効果、材料力学や FEM の基礎知識、解析条件定義の考え方や解析結果の解釈、製品設計へのフィードバックなどについて理解して頂く。
12	構造解析を始めるための 設計者のための CAE 基礎知識	CAE を活用するための条件、静解析を行うための解析手順など実際の適用までの流れを説明していきます。
13	設計者のための FEM 基礎知識 非線形解析入門	CAE ソフトを扱う上での前提知識として、材料力学の基礎を説明します。さらに、CAE ソフトの概要と基本的な内部計算について説明します 線形解析と非線形解析の違いを事例を交えて紹介し、どのようなケースに非線形解析が用いられるべきかを説明します。
14	伝熱解析入門 流体解析入門	伝熱解析の学習が始める前での前提知識として、伝熱の基本概念を説明する。伝熱解析の目的を理解し、その解析手法について簡単に説明する。 流体解析の手法について紹介し、メッシュや時間刻み幅、残差など重要な基本概念について理解していただきます。さらに、実際の流体解析における、問題の設定から、メッシュ生成、解析の実行、結果の評価にいたる各手順について解説します。乱流モデルや大規模並列計算など最近の技術動向についても簡単に紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

【マネジメント、クリエーション、テクノロジー系】

必要に応じてプリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。

クリエーション系：制作1、2（30％）最終成果物および、プレゼンテーション（70％）

■成績は、マネジメント系 100 点、クリエーション系 100 点、テクノロジー系 100 点とし、合計平均で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各系の基礎となる授業です。毎回必ず出席する事。

クリエーション系制作実習中の私語を慎む事。又、授業終了時は必ず掃除をしたのち退出する事。

【学生が準備すべき機器他】

【テクノロジー系】

ノート PC を持参すること。

【その他の重要事項】

【クリエーション系】

■授業初回から、必ず自分で選んだ野菜、または果物の同種類を数個。ビニール袋、鉛筆 B～5 B・消しゴム、スケッチ用紙・カッターナイフ、G クリア糊を持参のこと。

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

Design Studio 2 comprises of three different subjects in management, creation and technology, each held five times and divided into three classes.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座は「デザインの基礎講座」です。デザインが対象とする領域と事象の幅が大きく広がった現在において、デザインの基礎となっている考え方と、個別解としてのデザインを成り立たせている考え方、すなわち「今日のデザインの理論」を理解します。デザインの技法の習得を目的とするのではなく、人間がより良く、希望をもって生きられる社会であるためにデザインをする、という視点で、デザインと主体的に関わる姿勢を涵養することを目的としています。

【到達目標】

- 今日の社会におけるデザインの基本的な位置づけを理解します。
- 今日のデザインをめぐる実態と、社会的な役割・期待・担い手の想いなどを理解します。
- 自らの活動にデザインの方法論を反映させていくための素地をつくります。
- デザインに対する省察的な態度を身につけ、デザインの担い手としての意識を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインがどのような意図のもとで、どのような社会システムとして構築されているのか、社会において何が課題とされ、それに対してデザインとしてどういった提案ができるのか、デザインには何が期待されているのか、などの考察に向けた講義形式を基本とします。毎回、様々な分野にわたるグッドデザイン賞の受賞対象を事例に、そこから読み取れる目的性、意義、可能性などについて掘り下げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」に関する説明（歴史、概念など）
2	社会とデザインの変化	社会の変化と、デザインの対象及び目的の拡張との関係についての理解
3	最新デザイン事例の紹介	2020 年度グッドデザイン賞受賞デザインを題材に、いまのデザインの傾向に関する理解と、デザインが目指すことに関する考察
4	デザインの意図	デザインの担い手がどのようなことを考えているか
5	デザインの多様なフェイズ	今日のデザインの理解のために「理念としてのデザイン」「手法としてのデザイン」「実践としてのデザイン」の違いについて
6	具体的なデザイン	様々な分野・領域から注目されるデザインを取り上げ、その注目点を探る
7	2020 グッドデザイン大賞の読み解き	最新のグッドデザイン大賞から読み取れることに関する考察
8	新しいデザイン像	様々な立場や能力の人が共に担うデザイン
9	新しいデザイン像	新しく作らない、すでにあるものを活用したデザイン
10	新しいデザイン像	大量生産・廃棄型の社会構造と異なるエコシステムを目指すデザイン
11	新しいデザイン像	新たな公共圏の形成を目指すデザイン
12	デザインへの批判的省察	「人間中心」という今日のデザインにおける基礎的な考え方に対する批判的考察
13	デザインへの批判的省察	・レポートの内容提示 課題解決志向のデザインと異なるデザインの可能性
14	最終まとめ	総括およびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・つねに社会の動向、人々の関心、情報の流れを意識して捉えるようにしてください。デザインはそれらと密接不可分で、誰に対しても・どのようなことに対しても関わるという認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／デザインがどのように関わられるか探ってみる」という視点を持ち続けてください。

・講座内で紹介したデザイナーやデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。

・2020 年 10 月～ 11 月初旬に東京都内で開催予定の、最新グッドデザイン賞の受賞デザイナー公開プレゼンテーションと、受賞展イベントを視察することを勧めます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】

本講座の期間中に 1 ～ 2 回程度課すレポートの提出、授業への参加度を総合的に判断して成績を決めます。レポートとして課す内容は、授業への出席回数が著しく低い場合には対応が難しいテーマを想定しています。なお、テストは行わない予定です。

評価の内訳：

レポート提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めています。

【学生が準備すべき機器他】

特別なものは必要ありませんが、スマートフォンなど通常一般に携帯されている端末は、授業時に示すデザイン事例に関してすぐに二次情報を得るために有効であると考えられます。

【その他の重要事項】

・担当講師が「グッドデザイン賞」の事業運営に携わっているため、本講座で扱う内容は、基本的にグッドデザイン賞という固有の制度を通じた、デザインについての考察や提起がベースになることを、前提条件として予め承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインのあり方を定める絶対条件ではありません。すなわち「グッドデザイン賞＝デザインに関する絶対的な正解や正論」ではなく、あくまでもデザインの実相や意義や可能性について考え理解していく上での、ひとつの相対的な見方と考え方が提示されると理解して、講座に臨んでもらえるとよいと思います。

逆に言うと、グッドデザイン賞に対する根本的な疑問や不信感を持つ人への履修は薦めません。

・実技としてのデザイン（描写や造形や編集行為など）の履修は実施しません。

・レポートは原則として講義時に教室での提出・受取とします。提出形態は出力紙とします。

なお、講師の実務を活かして、デザインに関わる展覧会やトークイベントなどへの参加を呼びかけ、その体験をもとにしたレポートなどを課す場合があります。

【Outline and objectives】

This course is provides a basic course in design. Participants will learn about the concepts that form the basis of design in this day and age, along with the individual principle components of design — that is, the “theory of design,” through various subjects of design, case studies, and more. In doing so, the goal is not master design-technic, but to foster within each participant the perspectives necessary to uncover social challenges and link them to solutions, as well as an awareness of design as a way to proactively build a more livable and hopeful society for all.

DES100ND

図形科学基礎演習Ⅹ

梶本 博司、石橋 忠人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくり（プロダクトデザインの製品化や製品シミュレーションに必要な作図技術）の基本となる製品設計の「設計図面：三角法」作図技法の基本を学ぶ事が出来る。また、図面のデジタル化の基礎が学べる（ソフト：Rhinoceors）

【到達目標】

「設計図面：三角法」の基本を習得し、CAD システム（ソフト：Rhinoceors）による基礎的な作図が出来る様にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、ものづくり（プロダクトデザインの製品化や製品シミュレーションに必要な作図技術）の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは3次元の立体物を対象にデザイン（総合計画設計）します。3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格ののっとり作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法を演習を通して学びます。また、図形処理と画像処理を含めたマルチメディア表現による図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1、三角法の作図法、基礎概念の理解。 課題－1：手書きによる幾何形体の作図
3	三角法の基礎-2：三角法の作図法、図枠、線種と図面記号。	手描きによる幾何形体－演習2：課題の講評、三角法の作図法、線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。 課題－2：手書きによる幾何形体の作図
4	三角法の基礎-3：三角法の作図法、図面の配置計画。	手描きによる幾何形体－演習3 課題の講評、三角法の作図法、図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。 課題－3：手書きによる幾何形体の作図
5	三角法の基礎-4：三角法の作図法、投影図	手描きによる幾何形体－演習4 課題の講評、三角法の作図法、投影図、部分拡大図、見取り図の描き方の理解。 課題－4：手書きによる幾何形体の作図
6	三角法の基礎-5：三角法の作図法、寸法記入-1、断面図-1	手描きによる幾何形体－演習5 課題の講評、三角法の作図法、寸法記入法-1、断面図-1の理解。 課題－5：手書きによる幾何形体の作図
7	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。

10	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な道具を各自計測し、三角法で作図。（基本レイアウトの作成）
13	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な道具を各自計測し、三角法で作図。（断面図、寸法記入、整合性の検証）
14	CADによる三角法作図の応用演習-3	身近な道具を各自計測し、三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

三角法の復習を必ずすること。
Rhinoceorsの基本操作を自主的に学習しておく事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

【参考書】

「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者 山田 学
「デザイン製図ハンドブック」
発行：株式会社ダヴィッド社、著者 小山 静夫

【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100%）

【学生の意見等からの気づき】

図面配置計画、寸法配置計画、断面図記入法について、復習の機会を増やす。
3次元を2次元に表現することの演習機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

三角定規 20cm 程度、定規 30cm 程度、コンパス、字消し板、消しゴム、シャープペン 0.3mm 及び 0.5mm、製図用紙（A4 コピー用紙）：（第1回授業で指示します）。

【その他の重要事項】

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, as process of fundamental product planning of manufacturing (blueprinting technology essential to productization/product simulation of industrial design) we will learn the basics of trigonometry for creating blueprints. In addition, we study the fundamentals of digitalizing blueprints (software: AutoCAD).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ものづくり（プロダクトデザインの製品化や製品シミュレーションに必要な作図技術）の基礎と成る製品設計の「設計図面：三角法」作図技法の基本を学ぶ事が出来る。また、図面のデジタル化の基礎が学べる（ソフト：Rhinoceors）

【到達目標】

「設計図面：三角法」の基礎を習得し、CAD システム（ソフト：Rhinoceors）による基礎的な作図が出来る様にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、ものづくり（プロダクトデザインの製品化や製品シミュレーションに必要な作図技術）の基礎を学ぶことが出来ます。プロダクトデザインは3次元の立体物を対象にデザイン（総合計画設計）します。3次元形状を的確に把握する能力はデザインの開発過程で必要不可欠です。その能力開発の基礎として、3次元人工物を正確に客観的、計量的に表示し第三者に図示する方法として2次元での図学（Descriptive Geometry）を習得する必要があります。プロダクトデザインにおける「設計図面」は自己の発案した形状を製造者に数的に伝達をするものです。また「設計図面」は世界共通の図情報として扱われており、ISO規格、国内でのJIS規格ののっとり作図する必要があります。本授業では「三角法」と呼ばれる作図技法を演習を通して学びます。また、図形処理と画像処理を含めたマルチメディア表現による図面はCAD（Computer Aided Design）と呼ぶコンピュータ上での設計が主流であり、CADでの作図技術基礎も演習を通して学ぶ事が出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、本授業の演習目的、演習概要、演習採点等内容。演習道具の説明。	プロダクトデザインにおける図面の役割、図面の必要性と図面の基礎概念等
2	三角法の基礎-1：基礎概念、三角法の作図法	手描きによる幾何形体－演習1、三角法の作図法、基礎概念の理解。 課題－1：手書きによる幾何形体の作図
3	三角法の基礎-2：三角法の作図法、図枠、線種と図面記号。	手描きによる幾何形体－演習2：課題の講評、三角法の作図法、線の種類、基本的な図面記号、図面様式の理解。 課題－2：手書きによる幾何形体の作図
4	三角法の基礎-3：三角法の作図法、図面の配置計画。	手描きによる幾何形体－演習3 課題の講評、三角法の作図法、図面の整合性、中心線の定義、図面配置計画の理解。 課題－3：手書きによる幾何形体の作図
5	三角法の基礎-4：三角法の作図法、投影図	手描きによる幾何形体－演習4 課題の講評、三角法の作図法、投影図、部分拡大図、見取り図の描き方の理解。 課題－4：手書きによる幾何形体の作図
6	三角法の基礎-5：三角法の作図法、寸法記入-1、断面図-1	手描きによる幾何形体－演習5 課題の講評、三角法の作図法、寸法記入法-1、断面図-1の理解。 課題－5：手書きによる幾何形体の作図
7	CADによる三角法作図の基礎演習-1	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解。
8	CADによる三角法作図の基礎演習-2	CADによる作図のメリット、留意点の理解。アプリケーションの起動及びファイルの保存、図形描画ツールの理解。
9	CADによる三角法作図の基礎演習-3	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。

10	CADによる三角法作図の基礎演習-4	図形描画ツールの理解、数値入力基本操作、演習課題1：三角法による幾何形体の作図。
11	CADによる三角法作図の基礎演習-5	図形の編集手順、印刷設定方法の理解。演習課題2：三角法による幾何形体の作図。
12	CADによる三角法作図の応用演習-1	身近な道具を各自計測し、三角法で作図。（基本レイアウトの作成）
13	CADによる三角法作図の応用演習-2	身近な道具を各自計測し、三角法で作図。（断面図、寸法記入、整合性の検証）
14	CADによる三角法作図の応用演習-3	身近な道具を各自計測し、三角法で作図。（完成、及び講師による講評）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

三角法の復習を必ずすること。
Rhinoceorsの基本操作を自主的に学習しておく事。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容は画像で表示し、学生各自がメモをとるように指導します。

【参考書】

「図面ってどない描くねん」
発行：日刊工業新聞、著者 山田 学
「デザイン製図ハンドブック」
発行：株式会社ダヴィッド社、著者 小山 静夫

【成績評価の方法と基準】

出席（減点法）
積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。
課題の提出（100％）

【学生の意見等からの気づき】

図面配置計画、寸法配置計画、断面図記入法について、復習の機会を増やす。
3次元を2次元に表現することの演習機会を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

三角定規 20cm 程度、定規 30cm 程度、コンパス、字消し板、消しゴム、シャープペン 0.3mm 及び 0.5mm、製図用紙（A4 コピー用紙）：（第1回授業で指示します）。

【その他の重要事項】

活躍中のプロダクトデザイナーが仕事の経験を活かした指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, as process of fundamental product planning of manufacturing (blueprinting technology essential to productization/product simulation of industrial design) we will learn the basics of trigonometry for creating blueprints. In addition, we study the fundamentals of digitalizing blueprints (software: AutoCAD).

DES200ND

クリエイション基礎論

土屋 雅人、佐藤 康三

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

クリエイション基礎論は、講義形式の授業となります。

授業テーマは、インダストリアルデザイン開発（工業製品意匠設計開発）（以下、ID 開発）にまつわる、基本的な知識の習得です。工業製品は、大量生産を目的とし、様々な設計がなされます。この授業では、ID 開発の歴史的背景から最先端領域までの全体像を俯瞰し、ID 開発に於ける、文化的文脈、設計思想の流れ、ID 開発と生産技術の関係、又、視覚情報伝達と ID 開発の関係などを学習していきます。

【到達目標】

インダストリアルデザイン開発（工業製品意匠設計開発）（以下、ID 開発）にまつわる、基本的かつ、全体観の知識の習得が到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1 回目はガイダンスとなります。講義は2部構成となります第一部は2回目より8回目まで、そして第二部は9回目から15回目の講義となります。

講義概要は、

第一部は、視覚情報伝達と認知工学、人間工学と ID 開発

第二部は、ID 開発の文化的文脈、設計思想の流れ、今日の作業領域となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス および ID 開発と情報デザイン	本講義の概要、注意点。 到達目標その意義、SD の中での位置づけ 工業デザインにおける情報デザインと情報価値の変遷
2	ピクトグラムデザイン	情報の記号化とピクトグラムの役割
3	ダイアグラムデザイン	メディアの変遷とダイアグラムの機能
4	グラフィックデザイン	印刷媒体とグラフィックデザインの働き
5	サイン計画	情報伝達とサイン計画
6	情報伝達と認知	情報の分類と理解の仕組み
7	情報価値の創造	情報の構造化とメディア、情報価値の創造
8	デザインの意味	今日の「デザイン」の意味を理解する。 広義のデザイン、定規のデザインの意味について 産業革命、近代の生産技術と工業デザイン
9	20C と 21c に於けるデザインの産業、企業活動の変化	産業社会が現在抱える問題と問題解決の為の模索について エコロジーデザイン、ユニバーサルデザインについて
10	20C と 21c に於けるデザインの産業、企業活動の変化 ID 開発と科学技術-1	地球環境問題と産業デザインの関係について、ライフサイクルデザインについて
11	1 ID 業務分類	世界インダストリアル団体協議会におけるインダストリアルリアデザインの職能分類とその業務内容：デザインマネジメント等
12	ID 業務分類	世界インダストリアル団体協議会におけるインダストリアルリアデザインの職能分類とその業務内容
13	現在のデザインフォームの大分類 1 ID 開発と人間工学-2	現代デザインのフォーム分類 モダンデザイン、ミニマルデザイン、バイオオーガニックデザインについて
14	現在のデザインフォームの大分類 2	現代デザインのフォーム分類 ポストモダンデザイン、デザインセマンティックス、バイオミクリーデザインその他について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習をしっかり行い、デザイン職能分類、デザインフォーム等の作品恥分でも調べることを。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて・授業内で配布

【参考書】

「世界デザイン史」監修、阿部校正、美術出版社

「デザイン、新・100 の法則」(株) BNN

“PRODUCT AND FURNITURE DESIGN” Thames & Hudson

【成績評価の方法と基準】

授業態度を評価対象とします。

佐藤：試験（100 %）

土屋：各課題合計（40 %）、試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートの結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザインの基礎知識を講義する。

【Outline and objectives】

This course on fundamental theory on creation is based around mastering basic knowledge of industrial design development.

OTR200ND

プレゼンテーション技術Ⅹ

豊島 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイデアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、聴衆を思いやりながらプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され共感してもらえるか?」を常に念頭におきながら、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習を行います（B2357、B2358 は同一内容）。実習ではビデオ撮影とIT技術を利用した相互評価支援システム（PEAS）による相互評価を行い、発表者は教員とほかの受講者のフィードバックを受けます。受講者は各回のテーマにそってプレゼンテーションを準備し、学期中に計三回のプレゼンテーションを実演します。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアルとフィジカルメッセージの活用に関する講義の後、三回のプレゼンテーション実習（日本語二回、英語一回）を行います。そしてチームで活動する機会の多い理工系学生のコミュニケーション力を高めるために PBL（problem-based learning）活動も行います。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」。第二回日本語プレゼンテーションは将来の研究発表へとつながる問題解決型プレゼンテーションです。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本である **Tell Them Three Times Approach** を使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントネーションを練習後に実演します。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者は PC やスマホを使って発表者にフィードバックします。発表者のプレゼンテーションをよく見て、大いに参考になるアドバイスやコメントをしてください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は学内のウェブである **OA Tube** 上にアップロードされた自分のビデオ映像を視聴し、講義で学習した内容、クラスメートによる相互評価結果を参考に自らのプレゼンテーションを振り返って内省し、自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次のプレゼンテーションに反映させ改善していきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積んでいきます。自分を直視することは苦しい作業ですが、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。この授業では、ありのままの自分を見つめ向上させようとする、積極的かつ真摯な姿勢を受講者に求めます。

尚、詳しい授業計画と内容は初回のガイダンスにて説明しますが、授業の進捗によって内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プレゼンテーション概要とプレゼンテーションの三要素（Story Message）について	プレゼンテーションの概要について学習後、明快なストーリーを組立てる際に有効な Tell Them Three Times Approach を学びます。
2	プレゼンテーションの3要素（Visual & Physical Messages）について	PPT スライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションに有効なフィジカルメッセージの活用方法を学びます。

3 日本語プレゼンテーション実習（1）

4 日本語プレゼンテーション実習（2）

5 日本語プレゼンテーション実習（3）

6 第一回日本語プレゼンテーションの講評、第二回日本語プレゼンテーションに関する講義、および問題解決型プレゼンテーションにむけた PBL 活動

7 英語プレゼンテーションの準備（1）、および問題解決型プレゼンテーションにむけた PBL 活動

8 英語プレゼンテーションの準備（2）、および問題解決型プレゼンにむけた PBL 活動

9 英語プレゼンテーションの準備（3）、および問題解決型プレゼンにむけた PBL 活動

10 英語プレゼンテーション実習（1）

11 英語プレゼンテーション実習（2）

12 第二回日本語プレゼンテーション（1）

13 第二回日本語プレゼンテーション（2）

14 まとめ

テーマにそって第一回日本語プレゼンテーション（個人プレゼン）を行います。プレゼンテーションはビデオ撮影し、後日学内のウェブ **OA Tube** にアップロードします。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオと相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。

第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。三日目は初日と二日の結果を受けて初日に定めた方針を変える必要があると判断した時は変更する場合があります。授業前半は講義となり、第一回日本語プレゼンテーションの講評、そして第二回日本語プレゼンテーション（問題解決型プレゼンテーション）の趣旨と組み立て方を学びます。後半はアイスブレイキングを行い、その後取り組んでいく「問題」をブレンストーミングします。

授業前半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（**Informative Speech**）を学びます。授業後半は、前回絞り込んだ「問題」に対する「解決法」を考え、いくつかの解決法の中から一つを選びます。

授業前半は、各自作成してきた英語プレゼンテーション原稿をピア・レビューし原稿を修正します。授業後半は前回選定した「解決法」の効果を検証する方法について考察します。

授業前半は英文原稿完成後、口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行い、英語プレゼンテーションに備えます。授業後半は検証結果から導かれる「結論」を検討します。

個人による英語プレゼンテーション（**Hometown Speech**）の初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者は相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。

英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。**PBL** 活動の成果報告会を行います。プレゼンテーションはビデオ撮影し、後日学内のウェブ **OA Tube** にアップロードします。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオと相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。

PBL 活動成果報告の初日の方針に従い、二日目の発表を行います。英語プレゼンテーション、**PBL** 成果報告会の講評後、よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（**Final Reflection**）を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に計三回のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を行い、受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備をして実演にのぞみます。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を参照し自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

・Garr Reynolds「プレゼンテーション ZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ビザン・エデュケーション

・Harrington,D.,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 45%、課題 40%、授業への取り組み（出席含む）15%
 ・三回のプレゼンテーションすべてを実施することが単位取得の要件です。
 ・不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告すること。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
 ・3分の1以上欠席の場合、単位は不可とします。
 ・課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習をただこなすのではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
 ・三回のプレゼンテーション実習を完了していても、省察レポート等の課題が未提出の場合は単位取得が困難になります。メ切を守って課題は期限内に提出すること。
 ・PEASによる相互評価への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「ストーリーの組み立て方を理解したらわかりやすいプレゼンができるようになった」、「ビデオ録画の視聴で自分を客観視できて勉強になった」、「クラスメートのフィードバックを読んで、ビデオで自己点検すると、なるほどと納得した」等のコメントをいただきました。受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って向上しているのがわかり、大変頼もしく感じました。また、ICTによる相互評価システムの即時性、利便性を評価するコメントが多かったので、今後とも相互評価支援システム、ビデオ撮影を大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

相互評価支援システム利用の際は PC を持参ください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（UB）で理工系学生（STEM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、ICT利用の相互評価支援システムによる協働学修を導入しながら、プレゼンテーションの心構えと効果的なスキルを指導します。

【Outline and objectives】

Communication skill is indispensable for thriving in the global engineering community. Above all, presentation skill is one of the greatest career-boosters for engineers. In order to comply with such needs, a presentation skill course is offered by integrating video self-reflection and peer evaluation using ICT technology. This 14-week course consists of lectures and presentation sessions by the students. After lectures on how to structure presentations and use effective visuals with powerful body language, students will be assigned to make three presentations (two solo presentations and one group presentation) during the semester. Students' performances are videotaped and evaluated by peers using ICT device PEAS. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the student will write a self-reflection report.

プレゼンテーション技術Ⅳ

豊島 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーション能力は日本のみならず欧米やアジア諸国でも技術者教育において育成すべき重要な能力と位置づけられています。とりわけ学会や専門的な会合で自分のアイデアを発表する機会の多い理工系学生は、高いプレゼンテーション能力が要求されます。この授業の目的は、自分が伝えたいことを聴衆に正しく理解してもらい、共感してもらえるようになるための効果的なスキルを学び、自分らしくのびやかに自己表現できるようになることです。授業では受講者同士が助け合いながらプレゼンテーションの上達をめざす協働学習を行います。

【到達目標】

この授業の到達目標は、聴衆を思いやりながらプレゼンテーションを企画し実演できるようになることです。

具体的に言えば「どのように自己表現すれば聴衆に理解され共感してもらえるか?」を常に念頭におきながら、自分らしく、自分も楽しみながら、自信をもってプレゼンテーションができるようになることです。

第一回日本語プレゼンテーションは「自分の情報や意図を聴衆にわかりやすく伝えられること」、第二回日本語プレゼンテーションは「問題を発見し解決策を提示して検証し、その解決策が有効なことを説得力をもって示せること」、英語プレゼンテーションは「シンプルな英語で正しく情報伝達できるようになること」を目標に練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義とプレゼンテーション実習を行います（B2357、B2358 は同一内容）。実習ではビデオ撮影とIT技術を利用した相互評価支援システム（PEAS）による相互評価を行い、発表者は教員とほかの受講者のフィードバックを受けます。受講者は各回のテーマにそってプレゼンテーションを準備し、学期中に計三回のプレゼンテーションを実演します。

授業では構造的なストーリー、明快なビジュアルとフィジカルメッセージの活用に関する講義の後、三回のプレゼンテーション実習（日本語二回、英語一回）を行います。そしてチームで活動する機会の多い理工系学生のコミュニケーション力を高めるために PBL（problem-based learning）活動も行います。

第一回日本語プレゼンテーションは自分の情報を聴衆にわかりやすく伝える「情報伝達型プレゼンテーション」。第二回日本語プレゼンテーションは将来の研究発表へとつながる問題解決型プレゼンテーションです。英語発表実習では、英語プレゼンテーションの基本である Tell Them Three Times Approach を使って原稿を作成する方法を学び、発音とイントネーションを練習後に実演します。

協働学習の一環として相互評価を行い、その際発表者以外の受講者は PC やスマホを使って発表者にフィードバックします。発表者のプレゼンテーションをよく見て、大いに参考になるアドバイスやコメントをしてください。さらに自分を客観視できるようにプレゼンテーションのビデオ撮影を行います。発表者は学内のウェブである OA Tube 上にアップロードされた自分のビデオ映像を視聴し、講義で学習した内容、クラスメートによる相互評価結果を参考に自らのプレゼンテーションを振り返って内省し、自己省察レポートを書きます。そして、そこから得た学びを次のプレゼンテーションに反映させ改善していきます。

また、受講者は実演するだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを観察し自らと比較することで、自分の「強み」と「課題」を客観視する訓練を積んでいきます。自分を直視することは苦しい作業ですが、そのチャレンジを乗り越えると飛躍的に進歩します。この授業では、ありのままの自分を見つめ向上させようとする、積極的かつ真摯な姿勢を受講者に求めます。

尚、詳しい授業計画と内容は初回のガイダンスにて説明しますが、授業の進捗によって内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	プレゼンテーション概要とプレゼンテーションの三要素（Story Message）について	プレゼンテーションの概要について学習後、明快なストーリーを組立てる際に有効な Tell Them Three Times Approach を学びます。
2	プレゼンテーションの 3 要素（Visual & Physical Messages）について	PPT スライド等視覚的資料の作り方、印象的なプレゼンテーションに有効なフィジカルメッセージの活用方法を学びます。

3 日本語プレゼンテーション実習（1）

4 日本語プレゼンテーション実習（2）

5 日本語プレゼンテーション実習（3）

6 第一回日本語プレゼンテーションの講評、第二回日本語プレゼンテーションに関する講義、および問題解決型プレゼンテーションにむけた PBL 活動

7 英語プレゼンテーションの準備（1）、および問題解決型プレゼンテーションにむけた PBL 活動

8 英語プレゼンテーションの準備（2）、および問題解決型プレゼンにむけた PBL 活動

9 英語プレゼンテーションの準備（3）、および問題解決型プレゼンにむけた PBL 活動

10 英語プレゼンテーション実習（1）

11 英語プレゼンテーション実習（2）

12 第二回日本語プレゼンテーション（1）

13 第二回日本語プレゼンテーション（2）

14 まとめ

テーマにそって第一回日本語プレゼンテーション（個人プレゼン）を行います。プレゼンテーションはビデオ撮影し、後日学内のウェブ OA Tube にアップロードします。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオと相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。

第一回日本語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。三日目は初日と二日の結果を受けて初日に定めた方針を変える必要があると判断した時は変更する場合があります。授業前半は講義となり、第一回日本語プレゼンテーションの講評、そして第二回日本語プレゼンテーション（問題解決型プレゼンテーション）の趣旨と組み立て方を学びます。後半はアイスブレーキングを行い、その後取り組んでいく「問題」をブレインストーミングします。

授業前半はわかりやすい英語プレゼンテーション原稿の作り方（Informative Speech）を学びます。授業後半は、前回絞り込んだ「問題」に対する「解決法」を考え、いくつかの解決法の中から一つを選びます。

授業前半は、各自作成してきた英語プレゼンテーション原稿をピア・レビューし原稿を修正します。授業後半は前回選定した「解決法」の効果を検証する方法について考察します。

授業前半は英文原稿完成後、口頭発表時の発音やイントネーションの練習を行い、英語プレゼンテーションに備えます。授業後半は検証結果から導かれる「結論」を検討します。

個人による英語プレゼンテーション（Hometown Speech）の初日です。発表者以外は相互評価を行います。発表者は相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。

英語プレゼンテーションの初日の方針に従って二日目を実施します。PBL 活動の成果報告会を行います。プレゼンテーションはビデオ撮影し、後日学内のウェブ OA Tube にアップロードします。発表者以外は発表の相互評価をします。発表者はビデオと相互評価結果を参考に省察レポートを書きます。

PBL 活動成果報告の初日の方針に従い、二日目の発表を行います。英語プレゼンテーション、PBL 成果報告会の講評後、よりよいプレゼンテーションをめざし半期にわたって学んできたプレゼンテーション技術のまとめを行います。授業後半は今学期の自分の学びを振り返り、最終レポート（Final Reflection）を授業内で書きます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では学期中に計三回のプレゼンテーション（日本語プレゼンテーション二回、英語プレゼンテーション一回）を行い、受講者は各自授業外でプレゼンテーションの準備をして実演にのぞみます。そしてプレゼンテーション・スキルの向上のため、自分のプレゼンテーション録画と相互評価結果を参照し自己省察のレポートを書きます。また模範的な英語プレゼンテーションを視聴して分析するなど、プレゼンテーション・スキルの向上に役立つ課題を授業外で学習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材は教員が準備し配布します。

【参考書】

・Garr Reynolds「プレゼンテーション ZEN - プレゼンのデザインと伝え方に関するシンプルなアイデア」株式会社ビザン・エデュケーション

・Harrington,D.,& LeBeau,D.(2009). Speaking of Speech -Basic Presentation Skills for Beginners (New Edition) , Tokyo: MacMillan Languagehouse

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション 45%、課題 40%、授業への取り組み（出席含む）15%

- ・三回のプレゼンテーションすべてを実施することが単位取得の要件です。
- ・不可抗力によるプレゼンテーション欠席の際は事由を速やかに報告すること。欠席理由の説明がない場合は放棄とみなします。
- ・3分の1以上欠席の場合、単位は不可とします。
- ・課題レポート（主にプレゼンテーション録画とクラスメートによる相互評価結果を参考に発表終了後に書く自己省察レポート）を重視します。プレゼンテーション実習をただこなすのではなく「そこから何を学び、どのように修正し、次のプレゼンテーションにつなげていくか？」という前向きな姿勢が重要です。
- ・三回のプレゼンテーション実習を完了していても、省察レポート等の課題が未提出の場合は単位取得が困難になります。メ切を守って課題は期限内に提出すること。
- ・PEASによる相互評価への取り組みを重視します。

【学生の意見等からの気づき】

「ストーリーの組み立て方を理解したらわかりやすいプレゼンができるようになった」、「ビデオ録画の視聴で自分を客観視できて勉強になった」、「クラスメートのフィードバックを読んで、ビデオで自己点検すると、なるほどと納得した」等のコメントをいただきました。受講者の皆さんがしっかり自分と向き合って向上しているのがわかり、大変頼もしく感じました。また、ICTによる相互評価システムの即時性、利便性を評価するコメントが多かったので、今後とも相互評価支援システム、ビデオ撮影を大いに活用してアクティブな授業を行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

相互評価支援システム利用の際は PC を持参ください。

【その他の重要事項】

外資系保険業界で様々なプレゼンテーションを実践後、ニューヨーク州立大学（UB）で理工系学生（STEM）向けのテクニカル・コミュニケーションを修了した教員が、ICT利用の相互評価支援システムによる協働学修を導入しながら、プレゼンテーションの心構えと効果的なスキルを指導します。

【Outline and objectives】

Communication skill is indispensable for thriving in the global engineering community. Above all, presentation skill is one of the greatest career-boosters for engineers. In order to comply with such needs, a presentation skill course is offered by integrating video self-reflection and peer evaluation using ICT technology. This 14-week course consists of lectures and presentation sessions by the students. After lectures on how to structure presentations and use effective visuals with powerful body language, students will be assigned to make three presentations (two solo presentations and one group presentation) during the semester. Students' performances are videotaped and evaluated by peers using ICT device PEAS. After checking the peer evaluation results and the recorded video, the student will write a self-reflection report.

造形デザイン実習制作（2018年度以前入学生）

佐藤 康三、宮沢 哲、梶本 博司、谷口 武司

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロダクトデザイン（製品デザイン）の造形デザインの開発プロセスの基本を学べる。課題となる製品デザイン開発の対象物（課題）の立体形状を「理解し実験開発対象物の造形、使用性の完成度を上げるプロトタイプ（スタディーモック）」という手法でデザインの開発を進める技術、手法を学ぶことが出来る。この授業は2時限続期で学べる。

【到達目標】

製品デザイン開発の基本として、基礎的なデザインコンセプトの立案方法、アイデアの展開方法、基礎的なデザイン製品マトリックスの考え方、制作方法、スタイロを使ったプロトタイプ（スタディーモック）制作方法、等製品のデザインを進める考え方、プロトタイプ制作方法を学ぶことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

SDスタジオと、都市スタジオで実習制作します。
各スタジオに教員2名配置されます。
この授業は、インダストリアルデザイン領域の中のプロダクトデザイン（製品デザイン）の機器・設備デザイン開発プロセスを実習を通して学習します。課題1～3の実習で重要なことは、立体形状を「手」で理解し実験開発対象物のフォルムのトライ&エラーを繰り返して、発想の柔軟性を重視した造形と機能の関係を探索制作を行います。B課題では、さらにフォルムの完成度を上げていく技術、手法を学びます。この実習を通しデザイン開発における「手」の触覚情報の重要性を深く学習します。デザイン開発する対象物はガイダンスのときに指示します。対象物の現状調査を行うことより現在の対象製品の実態を理解します。対象物の改善点を洞察し、自己のコンセプトからラフスケッチ、ラフ図面、完成予想デザインと機能を開発進捗にあわせ設定し進捗に必要な開発プロセスの成果を積み上げて行きます。又、開発着手時にデザイン開発プロセスを学び、開発プロセスにあわせた制作スケジュールを作成します。第1次外観デザイン簡易モックアップ（スタディモデル）を納得できるまで制作します。特に数回にわたる簡易モックアップでのデザイン検証・デザイン調整に重点を置き学習します。開発プロセスを通し発案（発想）の重要性を学び、創造力を触覚情報を中心とし五感の高度化をめざします。この授業では、何よりも自分の初期発案意匠に対する客観性を持つ力を学習します。はじめに、対象物デザインをこうしたい、ああしたいと考えることは重要ですがそのことに縛られてしまうことは危険です。教員を4名配置し少人数対応での実習形式とします。教員よりステップごとに質問、疑問点を指摘しソリューション能力、プレゼンテーション能力を習得していきます。また各開発ステップは記録し、最終課題は、プレゼンテーションを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	1. ガイダンス 2. 第1課題の説明 制作プロセス概要	この演習授業概要説明 課題説明 この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行えるようにする。
2	基礎造形演習課題1の制作	スタイロフォーム、[球体]、[立方体]制作 /次週提出
3	基礎造形演習課題2の制作	スタイロ [直方体を用いて R 面、カット面で変化する造形表現・造形印象変化] の演習/制作
4	基礎造形演習課題2の制作	スタイロ 造形変化による「安定」、「上昇」、「リズム」、「浮遊感」「スピード」等の基礎造形制作実習する。 制作治具の説明 治具の使用 方法 型紙制作方法 制作プロットの説明 完成度の上げ方
5	PD 第1製品制作課題1の制作 1-1	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [テーパーカッターデザイン] モックアップ制作実習する。
6	PD 第1製品制作課題1の制作 1-2	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [テーパーカッターデザイン] モックアップ制作実習する。

7	PD 第1製品制作課題1 プレゼンテーション、講評	PD 第1製品制作課題1 プレゼンテーション、講評
8	PD 第2制作課題の制作 1-1	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [冷蔵庫用ウォーターサーバーデザイン] の製作実習する。
9	PD 第2制作課題の制作 1-2	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [冷蔵庫用ウォーターサーバーデザイン] の製作実習する。
10	PD 第2制作課題の制作 1-3	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [冷蔵庫用ウォーターサーバーデザイン] の製作実習する。
11	PD 第2制作課題プレゼンテーション	PD 第2制作課題プレゼンテーション
12	PD 第3制作課題の制作 1-1	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [冷蔵庫用ウォーターサーバーデザイン] モックアップ制作実習する。
13	PD 第3制作課題の制作 1-2	スタイロ（モックアップ用の層材）を使って [冷蔵庫用ウォーターサーバーデザイン] モックアップ制作実習する。
14	PD 第3制作課題プレゼンテーション、講評	PD 第3制作課題プレゼンテーション、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. この授業での制作プロセスをよく理解し積極的にデザインする準備を行えるようにする。担当教員の説明と割り当てます。制作課題は、自主制作デザイン2作品です。今回のテーマに即したデザインコンセプトワークを各自行う。デザインコンセプトをワードで文章化し、提出し、チェックを受けます。スタディーモック制作は、基本図面がしっかりしていないといけません。自主的に三面図とスタディーモック造形検証してください。制作プロセスは、プレゼンで使用しますので、必ずドキュメントを画像で撮影しておいてください。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜製作方法を記載した資料を配布します。

【参考書】

「アイデア&プロセスの法則」IDSA、リン・ハラー、チェルリ・ダングル・カレン編

出版：毎日コミュニケーションズ、2005年初版、¥3480

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。授業回数 14 回
欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。
遅刻は 2 回で 1 回の
欠席扱いとなります。
課題の提出：(100%)
基礎造形演習課題1 (10%)
基礎造形演習課題2 (15%)
PD 製品制作課題1 (25%)
PD 製品制作課題2 (25%)
PD 製品制作課題3 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

制作プロセスの説明強化。制作プロセス、方法論指導強化します。
洞察、観察レベルの指導強化。

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn the basics of model design development process in product design. They will study three-dimensional shapes used in product design development technology and methods to advance design development and usability including prototyping (study mock) techniques.

DES200ND

ヒューマンセンタードデザイン演習（2018年度以前入学生）

安積 伸、秋山かおり、林 登志也

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習を通してプロダクトデザインの基礎となる考え方を学び、新鮮な視点をもった企画の提案力、オリジナリティの高いデザインの創造力を養う。クリエイティブ・プロセスにおける試作と検証の重要性を学び、実践方法・技術を習得する。

【到達目標】

ものづくり、デザインに関わる基礎的かつ根本的な実践力、創造力を身につけることを目標とする。
社会・文化のあらゆる側面に目を向け、理解し、真に快適なデザインとは何かを考察しながら、独創性の高いデザインを追求する方法を学ぶ。
造形・色彩・機能・人間工学・認知心理、といったプロダクトデザインに必要な要素を実習を通して理解する。
観察・実験・データ収集・分析、といった方法を通し、社会的視点をもったデザインの提案方法を学ぶ。
様々な素材・加工法での試作実験・検証を通し、根源的レベルからのデザイン提案力、開発力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、3～4人からなるグループワークと、個人制作の両方を行い、大きく8つの課題に取り組みます。それぞれに課題説明、初期案発表、開発中間報告、チュートリアル、最終発表、というステージで行います。
また本授業では特に、アイデアを試作し、検証・発展させるプロセスが重視されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 週	ガイダンス 色彩と木工	全プロセスの俯瞰と把握 課題説明 1
2 週	無意識の行動 無意識の行動 社会実装実験	課題説明 2 最終発表 課題説明
3 週	工作機械・工法講習	ワークショップ
4 週	色彩と木工 蝋燭と鋳造と香り	最終発表 課題説明
5 週	蝋燭と鋳造と香り 金属とアップサイクリング	最終発表 課題説明
6 週	金属とアップサイクリング メッシュを用いたデザイン	最終発表 課題説明
7 週	メッシュを用いたデザイン 食とデザインとプランニング	最終発表 課題説明
8 週	食とデザインとプランニング	ワークショップ チュートリアル
9 週	食とデザインとプランニング 空間のデザインと人間工学	最終発表 課題説明
10 週	空間のデザインと人間工学	見学会 第1案発表
11 週	空間のデザインと人間工学	経過発表 チュートリアル
12 週	空間のデザインと人間工学 社会実装実験	最終発表 チュートリアル
13 週	社会実装実験	経過報告 チュートリアル
14 週	社会実装実験	最終発表 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題制作は宿題として授業時間外で行います。
各課題の最終プレゼンテーション以外にも、毎回授業のはじめに進捗状況をまとめた発表をします。
本授業の準備・復習時間は、約2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 D. A. ノーマン (著) 新曜社
「考えなしの行動？」ジェーン・フルトン・スーリ (著) 太田出版
「新版 アフォーダンス」佐々木 正人 (著) 岩波書店
「心を動かすデザインの秘密」荷方 邦夫 (著) 実務教育出版

【成績評価の方法と基準】

授業回数の 1/3 (5 回) 欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。30 分以上の遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。(ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。)
プレゼンテーション (30%) 制作 (70%)
積極的な授業参加と授業態度も評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

各課題の狙い、各プロセスで重要視する事柄を理解しやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

PC 必要なソフトウェア（プレゼンテーション・CAD・グラフィック等）を習熟しておいてください。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。
履修生には、日常を細かく観察し、問題点、改善可能な点などを常に考察することを期待する。

【Outline and objectives】

In this program, students will acquire basic knowledge, skills and ways of thinking for product design. This project-based learning course provides opportunities for students to develop their abilities to create viable proposals with fresh points of view, and create truly original designs of their own. Students will understand the significance behind repetitive processes in prototyping and verification in creative processes whilst acquiring their necessary skills.

ADE200NB

骨組の力学

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の基本原理解であるエネルギー原理を用いて、様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法について学ぶ。

【到達目標】

様々な静定構造物の変形および不静定構造物の応力を求める解法の修得と基本的な構造形式の力学性状の把握を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
			◎		○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「部材の力学」では、力のつりあいについて学習し、静定構造物の応力を求めた。また、「材料の力学」では、構造部材に働く応力度とひずみ度の関係、断面の性質について学習した。

この授業では、物理学の基本原理解であるエネルギー原理を用いて、様々な構造物の応力状態や変形状態を求める手法を主に学習する。

理論や解析手法を修得するだけではなく、基本的な構造形式が持つ力学的特性についても把握するため、数多くの演習問題に挑戦してもらう。

基本的な 1 回の授業は、前回演習課題の解説 → 講義 → 演習課題発表 → 自宅での演習 → 次回授業での演習課題提出という流れである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概説	授業概要 構造物の安定・不安定
2	静定構造物の応力（復習）	片持ち梁 単純梁 静定ラーメン 静定トラス
3	直線部材の変形（復習）	はりの基本式（弾性曲線方程式） モールの定理
4	エネルギー原理	仕事とエネルギー 熱力学の基本法則 ひずみエネルギー 仕事の原理
5	仮想仕事の原理	仮想仕事の原理 重ね合わせの原理 相反定理 単位仮想荷重法
6	静定トラスの変位	軸力部材の変位 静定トラスの変位 強制変形による変位
7	静定梁の変位	はり部材の変位 片持梁の変位 単純梁の変位 変断面梁の変位
8	静定ラーメンの変位	ラーメン構造の変位 片持梁型ラーメンの変位 単純梁型ラーメンの変位 3 ヒンジラーメンの変位
9	Castigliano の定理	Castigliano の定理の導出 Castigliano の第 2 定理の応用 最小仕事の定理の応用
10	総合演習（1）	授業内試験
11	演習解説と復習・整理	演習解説 静定梁の公式整理
12	不静定構造物の応力（1）	不静定構造物の解法 不静定構造物の例題 1 不静定構造物の例題 2
13	不静定構造物の応力（2）	特殊な不静定梁 不静定ラーメン
14	不静定構造物の応力（3）	不静定トラスの解法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等による予習と授業後の復習、宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題： 50 %（A ～ D の 4 段階評価で、未提出は D 評価）

期末試験： 50 %（試験の際、各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

ただし、定期試験で 85 点以上の者は、演習 30%試験 70%での評価とも比較して、よい方を評価素点とする。

なお、演習課題の提出率が 80 %未満のものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて、授業進度を調整することに心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

「材料の力学」および「部材の力学」で学んだ知識を用いるため、これらの授業の復習は必ず行っておくこと。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

Using fundamental principles of energy from physics, students will learn techniques to investigate the stress and transformation of various structures.

ADE300NB

建築論・建築造形論（2018年度以前入学生）

今村 創平

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代建築の代表的な建築家や建築作品、および近代都市計画や現代都市理論を対象とします。代表的な人物や作品、事例を知るのみならず、その社会的背景、それらを支える理論について検証します。

【到達目標】

近代および現代はどのような時代であり、そこにいる私たちはどのような存在であるのか。建築家は何を生み出し、私たちはどのようにして都市に住むのか。近現代の建築の多様な表現と思想を学び、現代都市の状況と課題を理解し、それを自らの創作や思考の糧とすることを目標とします。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回主題をもって講義を行う、簡単な復習小試験を授業内で適宜行う。授業のなかで参考図書の紹介を行う。興味のある学生は購入して学習することを勧める。

*学習支援システムの講義開始は 4/21 を予定している（ただし 4/21 以降に参加しても支障ないよう配慮する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 近代の始まり	授業の紹介 産業革命（産業構造の変化、都市の変化、鉄とガラスの建物）、田園都市、近代都市計画の萌芽
第 2 回	アドルフ・ロース（「装飾は罪悪である」） ル・コルビュジエ（近代建築五原則） ラウムプラン VS フリープラン	近代建築のバイオニアであるロースとル・コルビュジエの建築とその思想について学ぶ
第 3 回	ミース・ファン・デル・ローエ フランク・ロイド・ライト （北欧モダニズム、テラーニ）	モダニズムを代表するミースとライト、および各地のモダニズム建築について学ぶ
第 4 回	ドイツ：ジードルング、ソ連期の集合住宅 CIAM、TEAM X	ヨーロッパ各地の近代都市計画運動について学ぶ
第 5 回	日本の近代建築（明治から戦前まで）	明治期における西洋建築の導入、続く大正、昭和前期における建築について学ぶ
第 6 回	丹下健三とメタボリズム	戦後日本最大の建築家丹下と、前衛的な建築と都市の運動メタボリズムについて学ぶ
第 7 回	アーキグラム シチュアショニスト ヴェンチューリ&スコット・ブラウン（「ラスベガス」）	欧米の前衛的な都市への提案や、都市理論について学ぶ
第 8 回	アレグザンダー（「都市はツリーではない」） アルド・ロッシ（「都市の建築」） コーリン・ロウ（「コラージュ・シティ」）	欧米の現代都市理論について学ぶ
第 9 回	ジェームズ・スターリング アルド・ロッシ ルイス・カーン ヨーン・ウッツオン	欧米を代表するモダニズム以降の代表的な建築家の作品と思想を学ぶ
第 10 回	現代建築	欧米を代表する近年の代表的な建築について学ぶ。

第 11 回	ハイテク建築と環境建築	ハイテク建築の特徴を学ぶ。現代建築におけるエネルギーの問題、環境に配慮した建築の事例について学ぶ
第 12 回	日本現代（安藤、伊東、長谷川、SANNA、谷口	日本を代表する現代建築家の作品と建築論を学ぶ
第 13 回	レム&グルーバル・シテイ	現在もっとも影響力のある建築家、レムコールハウスの作品と都市に関する理論について学ぶ
第 14 回	近現代建築と都市まとめ これからの建築	これまでの講義を通史として見直し、近現代とはどのような時代であり、何が課題であるのかを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のなかで参考図書の紹介を行う。興味のある学生は購入して学習することを勧める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『現代都市理論講義』今村創平 オーム社

【参考書】

『現代建築史』ケネス・フランプトン TOTO 出版
『錯乱のニューヨーク』レム・コールハース 筑摩書房
『都市のエージェントはだれなのか』北山恒 TOTO 出版

【成績評価の方法と基準】

講義内小試験、本試験による。
小試験 50 %、本試験 50 % として、採点する。

【学生の意見等からの気づき】

デザインスタジオのエキスキに関連付けられるように、問題意識を持って受講すること。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用するため、情報機器を持参すること。

【その他の重要事項】

一級建築士として 20 年以上の事務経験を持つ教員が、知識・理論と実践の橋渡しをする授業を行う。

【Outline and objectives】

This course will deal with subjects on representative modern and contemporary architectures and architects, and modern urban planning and contemporary urban theories.

ADE300NB

都市計画（2018年度以前入学生）

石川 貴之

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、我が国の都市政策の力点は「都市の成長」から「都市の再生」にその重点が移っている。

第二次世界大戦後から高度成長期を中心とした都市の成長・発展期においては、地方から大都市圏に集中する人口や産業を適切に受け入れるための「都市化政策」が実施されたが、これらの政策は人口規模の拡大・産業の高度化を前提としていた。

一方、現在展開されている「都市再生政策」は、人口の減少や社会の成熟化等、都市の規模や人口が飛躍的な拡大を遂げるという状況になく、少子化や高齢化という成熟期特有の新たな都市課題に適應するため、拡大した都市を適正な規模に再編することや、都市の中心部や郊外部での都市機能の再編等、「都市のカタチを作り替える」ための政策であるともいえる。

加えて近年では環境への影響が地球規模で深刻化しているため、都市計画においても単に空間や機能を充足させることに留まらず、環境負荷の低減、自然環境との調和等への対応が求められる時代となってきた。

本授業では、主として都市計画の基本的な枠組み、第二次世界大戦後の我が国の大都市圏での都市政策の変遷、主要な事業制度の仕組みを理解することを通じて、快適な都市環境を形成する上での都市計画や都市開発の役割、それらの公共性と社会性を理解することを目的とする。

【到達目標】

戦後の我が国における都市政策を振り返るとともに、実社会における都市計画技術者へのニーズ等について、講義を通じて伝えることにより、以下の事項を理解し、今後実践の中で活用しうる基礎的な都市計画の素養を獲得することを到達目標とする。

- ①我が国の都市政策と都市計画の変遷を振り返り、その特徴と課題を理解する。
- ②今後の人口減少、高齢社会での都市計画における経営的視点の重要性を理解する。
- ③新興国を中心に急激な都市化が進展する中、我が国が培ってきた都市計画・都市開発の技術やノウハウが世界の都市づくりに貢献する意義を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ	○	○	○	◎	○	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

大きくは3つのフェーズに分けて、授業を実施する。

- 第1フェーズは、都市計画、都市開発等に関わる基礎的な専門知識の習得及び、成長期における都市計画の概括的内容と経緯等についての理解を深める。
- 第2フェーズは、成熟期を迎えた現在の都市が抱える様々な重要課題とその課題解決の視点としての都市経営の重要性についての理解を深める。
- 第3フェーズは、都市が抱える様々な課題を解決するための都市開発手法、我が国の都市開発・都市計画ノウハウの海外展開について、具体的な事例の紹介を通じて理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業のガイダンス（授業の構成、進め方、評価についての方針等）を行い、授業への取り組み方を準備。本授業で対象とする都市計画の領域を示す。
2	都市計画・都市開発概論①	都市計画や都市開発の現場・業務を概括的に示し、建築と都市との相違点等についての理解を深める。（都市計画の対象、行政の役割等）
3	都市計画・都市開発概論②	都市計画や都市開発の現場・業務を概括的に示し、建築と都市との相違点等についての理解を深める。（様々なステイクホルダーの存在と利害、都市インフラと建築との関係等）
4	都市計画の系譜の概括① 都市化政策	戦後の都市計画の系譜を概括的に整理することを通じて、戦後から高度経済成長期での都市化時代での都市計画等の目的や役割を理解する。（都市インフラの充実、都市の拡張・郊外化政策等）

5	都市計画の系譜の概括② 大都市圏政策	我が国の都市化時代の成長を牽引してきた首都圏を中心とした、大都市圏の都市政策の目的・役割を理解する。
6	都市計画の系譜の概括③ 都市再生政策	特にバブル期から成熟社会を迎えたわが国における昨今の都市再生の系譜を概括的に整理することを通じて、その際、期待された役割や求められていた視点等についての理解を深める。（都心の高度化利用、用途複合、都心居住推進等）
7	都市再生政策における主要な課題 ①少子高齢化・地球環境問題	今後のわが国の都市計画・都市開発等を考えるにあたっての重要課題についての理解を深める。まずは人口減少時代を迎える中の少子化と高齢化の状況と課題への対応と地球温暖化問題が深刻化する中、建築や都市スケールで求められている環境負荷低減の考え方やその方策などについて学ぶ。
8	都市再生政策における主要な課題 ②都市経営	人口減少や高齢化の進展で地方税収が減少することで地方財政は逼迫しており、今後の都市づくりにおいて経営的視点から都市づくりを実施していくことの重要性について学ぶ。
9	都市再生政策における主要な課題 ③グローバル化	金融や経済において、いち早くグローバル化が進展してきた中、日本の都市づくりにおいても、今後ますますグローバル化の視点から都市づくりを行っていくことの重要性を学ぶ。
10	都市開発の具体化 ①面的整備	土地利用の高度化・再編手法。低密度な土地利用の高度化と基盤整備の再編を合わせて行う再開発や区画整理等の事業手法について、事例等を通じて総括的に紹介する。
11	都市開発の具体化 ②公共交通指向型都市開発	駅前再開発を中心とした公共交通指向型都市開発と、民間鉄道会社を中心としたわが国の特徴的な市街地整備としての沿線開発について、事例等を通じて総括的に紹介する。
12	都市開発の具体化 ③開発マネジメント	建築はもろろんのこと、都市においても、「如何に創るか」ということから、「如何に育てる（維持管理する）か」「如何に上手に使うか」が重要になってきている。まちなみ景観や環境など、様々なガイドラインの事例等の紹介を通じて、都市のマネジメントについての理解を深める。
13	都市開発の具体化 ④海外展開	日本の都市開発ノウハウを海外輸出するという国際化政策についての事例紹介を通じて、特に東アジアの旺盛な都市化・都市開発需要に対して海外展開していることの意味についての理解を深める。
14	とりまとめ	講義内容全般を振り返り、重要なポイントを整理し、講義の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内に小テストを実施する（3回程度）。小テストの開催日程は事前の授業にて連絡する。問題は小テスト開催以前に授業で用いたスライド（テキスト）の講義内容から、毎回2～3題程度を作成し、出題する。なお、授業で用いたスライド（テキスト）は授業支援システムのサーバーに各回授業終了後、アップデートする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各授業で用いたスライドをテキストとする。

【参考書】

私鉄 3.0-沿線人気 No.1 東急電鉄の戦略的ブランディング 東浦亮典著 ワニブックス「PLUS」新書
都市輸出-都市ソリューションが拓く未来 都市ソリューション研究会編集 東洋経済新報社
スマートシティはどうつくる？ 山村真司監修・著- NSRI 選書（002）工作舎
近未来モビリティとまちづくり 安藤章著- NSRI 選書（004）工作舎
その他、授業の中で随時、WEBアドレスを紹介予定。

【成績評価の方法と基準】

授業内で実施する小テスト 20%、期末試験 80%
欠席 4 回以上で単位取得を認めない。

(やむを得ない欠席については、事前に申請することで、免除対象とする)

【学生の意見等からの気づき】

戦後の我が国における都市計画の潮流と変遷を概括するため、情報量も都市計画に関する専門用語も多く、大学3年生を主たる対象とした授業としては多少難解な内容かも知れない。

ただ、基礎的知識よりも史実としての都市計画や都市開発の変遷を理解することを通じて、実社会で必要とされる応用知識が習得できることを目的とした内容や構成とした授業計画を立案した。

これにより、今後、時代とともに都市の課題が変化する環境の中にあっても、「都市の課題」をきちんと把握する眼と「課題解決」を提案する能力が養成されることに寄与するものと思う。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとしての実務経験があり、都市開発事業の調整業務、政策支援業務の実情等を解説する。

【IAE サーバーの活用】

課題の提出は I A E サーバーにより行う。

【Outline and objectives】

In this course, through learning the history of urban policy in metropolitan areas of Japan after World War II and its major urban planning and development system, we will aim to understand the social and environmental value of urban and urban development in creating a comfortable urban environment.

ADE300NB

建築生産（2018年度以前入学生）

河野 泰治

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ルネサンスから産業革命を経て、現代の大量生産時代における建築の実現には、建築家だけでなく、多くの産業がその生産システムに関わっており、消費者自身もまた然りである。大量生産時代の建築物、多品種少量生産時代の建築物を、建築家の視点からケーススタディすることにより、生産という観点から建築構法を捉え、それぞれの時代の社会や経済、技術の変化と建築のつくり方の相関性を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

建築生産という概念から建築物を説明できる
近現代の代表的な建築生産と社会の関係について説明できる
様々な建築生産方式の導入を時代背景から説明できる

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力	○	◎	○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の回ごとに、対象となる建築家と建築生産方式を定め、それぞれについて画像資料を多用した講義を行う。講義では対話を重視するため、各回複数の学生に発表を求める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	建築生産の歴史と概要1	ルネサンス期の建築生産や明治以降の日本の建築生産について
第2回	建築生産の歴史と概要2	コンペやプロポーザルから企画・設計そして施工にあたりヨーン・ウツォンの作品を取り上げる
第3回	建築生産 実例を通して1	実例の建築から建築生産を考察する
第4回	建築生産 実例を通して2	実例の建築から建築生産を考察する
第5回	20世紀初めの建築生産の模索	エッフェル塔からパリ万博、第一次世界大戦頃の建築生産
第6回	工場をもった建築家（建設家）ブルーヴェ	建築の工業化（オーダーメイド方式）をリードした事例としてジャン・ブルーヴェを取り上げる
第7回	工業化と乾式構法の普及	ドイツとアメリカにおけるワルター・グロピウスを中心に乾式構法の発展をみる
第8回	20世紀半ばのアメリカの建築生産	フランク・L・ライト、ルドルフ・シンドラー、フェイ・ジョーンズたちと建築生産
第9回	北欧の建築生産と手仕事	アルヴァ・アアルトやシレン夫妻を中心とした建築
第10回	アルヴァロ・シザの建築生産と素材	アルヴァロ・シザの作品から建築生産を考えてみる
第11回	ピーター・ズントーの架構とディテールそして未来へ	ピーター・ズントーの作品から建築生産を考えてみる
第12回	レンゾ・ピアノとアラップの協働による設計手法	レンゾ・ピアノの作品における構造や設備設計による新たな建築生産
第13回	日本の建築生産1	アントニン・レーモンド、土浦亀城、前川國男たちの作品と建築生産
第14回	日本の建築生産2	坂倉準三、清家清たちによる昭和期の建築生産、現代の建築家と建築生産の関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

好きな建築で構わないので建築を見学する前後でその建築がどのようにして実現されているのか、いつも考えるようにしてください
参考図書を授業と並行して読み進めると理解が深まります

【テキスト（教科書）】

テキストはありません

【参考書】

リチャード・バックミンスター フラーほか：バックミンスター・フルーのダイマキシオンの世界（鹿島出版会）
ジャン・ブルーヴェほか：構築の人、ジャン・ブルーヴェ（みすず書房）
内田祥哉：建築生産のオープンシステム（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

複数回のレポートにより評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

キーノート中心の授業となります

【その他の重要事項】

各回のテーマについては、授業進度により順番の入れ替えがあり得ます。

【Outline and objectives】

Studying the following topics:
contemporary housing supply
historical and modern industrialized building processes
mass and post-mass production
closed and open building system
building production and geopolitics

ADE100NB

デザインスタジオ2（建築）Y

坂野 由典

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・ 模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・ 空間に対する分析力・考察力を養う
- ・ 日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・ 各種構造の特性を理解する
- ・ 行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・ 周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）

【ウォッチャー】普段目している風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺 5m 立方の空間の設計】一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評

6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。 ○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。 ○中間講評で指摘された事例を反映しスタディを深める。 ○敷地や家具類を含めた模型を製作する。 ○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。 ○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
7	『5m 立法の空間』	
8	『5m 立法の空間』	
9	『5m 立法の空間』	
10	『5m 立法の空間』	
11	『5m 立法の空間』	
12	『5m 立法の空間』	
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構力、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのようにに取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構力などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。
（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

DES300NC

デザインスタジオ2（都市）（2018年度以前入学生）

高見 公雄、福井 恒明、袴田 喜夫、椿 真吾、金城 正紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市プランニング系の演習科目で唯一の必修である。都市整備に係わる法令や基礎知識を活かし、エンジニアリング・デザインの観点から具体的な地区を捉え、条件に応じた課題に応じていくことで都市プランニングの考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を現地調査や各種計画や地図等、また歴史的経緯から読みとくことができるようになる。その場において解決すべき課題を自ら設定することができ、これについて合理的な解決案の提案とその表現ができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

30%

50%

20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は図面上での作業、図面・模型の製作、それらのプレゼンテーションからなる。前半の全体模型づくりはチームでの対応となる。エスキスは手書きを主に教員と議論を行い、個人課題の成果品フィニッシュは模型並びにデジタルツールを用いた図と説明からなるプレゼンテーション・シートとする。図面と模型の制作に関しては、その作業量から授業時間外での対応が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題説明、課題検討の視点	計画課題を説明する。この課題を考える上で留意すべき点を各教員より説明する。
2	チーム編成、現地調査準備	チームを編成し現地調査において何を確認すべきかを討論し、調査事項をまとめる
3	現地調査	現地調査を行う。その結果は各人レポートとしてまとめる
4	エスキス（整備方針）	対象地域の課題と今後の市街地像について検討する
5	模型制作の基礎	模型づくりの基礎を学ぶ。全体模型に着手する。
6	全体模型の制作・その2	全体模型の制作を進める
7	建築物に関する基礎知識	建築物の用途ごとの形態、配置、規模に関する基礎知識を得る
8	道路設計に関する基礎知識	道路など基盤施設設計の条件、基礎知識を得る
9	整備課題と再編テーマ	対象地の整備課題を整理し、各自再編のテーマを設定する
10	エスキス（再編の方向）	再編テーマに即した整備方針について検討し指導を受ける
11	エスキス（計画図）	計画図の下書きについて検討し指導を受ける
12	エスキス（個人模型）	個人模型の作成方法、課程などについて指導を受ける
13	個人課題提出、講評会	個人課題である図面、模型を完成させ提出する。講評を始める
14	講評会・その2	講評をつづけ、総評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たちが暮らす都市空間がどのようにできているか興味を持ち、町を見る。道路の幅員、橋の高さ、建物の大きさなどを寸法として考えてみる。好きな場所、嫌いな場所の要因を考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

アーバンデザインの現代的展望（渡辺定夫、鹿島出版会）

日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）
コンパクト建築設計資料集成【都市再生】（日本建築学会編、丸善）
世界の SSD100-都市持続再生のツボ（東京大学 cSUR-SSD 研究会、彰国社）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）
欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）

【学生の意見等からの気づき】

最終提出物のイメージを意識して作業するよう指導する。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。
三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる（1 年次のデザインスタジオ用に購入したものがあれば可。）模型制作にあたっては、カッターなどの道具の他、模型材料を自ら調達する必要がある。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた専任教員、またわが国の第一線で建築、都市整備の実務に就いている兼任教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

As the only compulsory course in this program, students will locate problems in their target field and make suggestions for improvements using plan views, sectional views and models.

CST300NC

交通計画

今井 龍一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

交通計画の役割とその領域、関連分野を認識しつつ、人・物の動きとその特性および各種交通手段の特性を把握する。また、それらの特性把握のためパーソントリップ調査等による交通需要予測を通じ、各種交通手段と交通施設の相互関係を把握（土地利用形態、密度と交通ネットワーク、交通結節施設）するとともに、交通施設の構造基準、交通流特性、交通容量等について解説し、交通網計画および交通管理計画の策定手法習得を目標とする。

学習・教育目標

歴史自然： 20 % 専門基礎： 40 % 知識活用： 20 %
実務応用： 10 % デザイン： 10 %

【到達目標】

- ・交通の意義、交通の発展の歴史を理解する
- ・交通政策の変遷を理解する
- ・交通の性質、運用技術の基礎を理解する
- ・都市交通問題解決のための考え方を身につける
- ・交通量調査、交通実態調査および交通需要推計（段階推計法）を理解する

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力 20%
(E) 専門知識の活用・応用能力 60%
(F) 総合デザイン能力 20%
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な交通計画の概念を把握するとともに、ネットワーク計画や解析、簡単な交通需要予測計算が算定できるような能力を身につける。また、モビリティマネージメントなどの新たな交通計画の概念を理解する。
今年度の授業は、4月21日1限からオンライン形式で開始する。アクセスする URL は、学習支援システムの当該科目のお知らせメニューの「オンライン授業の連絡」を参照のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	交通計画の概論	交通の定義、日本の道路交通政策の推移
2	交通調査（1）	全般、交通・輸送調査
3	交通調査（2）	パーソントリップ調査
4	自動車交通流（1）	交通量、速度、密度
5	自動車交通流（2）	交通容量、サービス水準
6	自動車交通流（3）	渋滞
7	理解度の確認	第1回～第6回の総括
8	都市交通計画（1）	計画策定方法、都市経営方法
9	都市交通計画（2）	交通需要予測の役割と手法の種類
10	都市交通計画（3）	四段階推計手法
11	都市交通計画の評価	ITS の役割、サービス内容
12	高度道路交通システム	分布交通量・機関分担交通量の算定
13	将来の都市交通計画	最新の都市交通分野の動向
14	総括と理解度の確認	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを web により配付する。

【参考書】

・交通工学研究会：交通工学ハンドブック，丸善出版，2014 年
・交通工学研究会：道路交通技術必携 2013，丸善出版，2018 年
・久保田尚，大口敬，高橋勝美：読んで学ぶ交通工学・交通計画，理工図書，2010 年

【成績評価の方法と基準】

オンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な統計解析は習得しておくこと。
交通インフラは社会の要望および時機の政策に大きく影響される「社会工学」である。「工学」としての普遍的な基本を習得するとともに、発展する社会の発するサインに敏感になることにも意識すること。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

同分野での豊富な実務経験を有する教員が講義する。

【Outline and objectives】

This course allows students to learn the aims, roles, and formulation methods of transportation plans. For this purpose, students will understand motion characteristics of persons and objects, characteristics of different means of transportation, transportation demand forecasting using person trip surveys, structure standards of transportation facilities, characteristics of traffic flow, and traffic capacity.

ADE300NC

建築設計基礎

瀬戸 健似、今井 裕久

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は建築物等の建築工事を実施するために必要となる図面等の作成を行うことができるようにするため、建築物等の形態、建築材料及び構造等を決め、それを図面に表示する技術を講義及び演習を通して、修得することを目標とする。建築士を目指す学生は必ず受講すること。

【到達目標】

二級建築士試験に出題される木造建物の製図技術の獲得を目標に、最新の建築物等の動向や特徴を紹介しながら、建築物がどのように計画され、どのように図面化されていくのかを、実際の演習を通して学習する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の建築士試験と同様に与えられた敷地条件や建築条件を満足する建築構造物の設計・製図を行い、中間発表、最終評価を通じて他の受講生の評価・講評を実施する。

毎回の講義を通じて設計・製図を実施することから、進捗に応じて時間外での作業が発生する可能性があるため、継続的・積極的に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション 建築物等の現在 製図の準備・基礎	設計製図の目的、講義スケジュール、 建築士の概要、建築士試験の概要 今日の建築物等の動向、特徴的・代表的な建築物の分類 用具の確認、用具の使い方、線の練習・その他ユニットの練習
2 回	建築物等の形態 建築材料・構造・設備 木造建築物の製図基礎 (1)	建築の形態、条件の把握、行為の分類、空間イメージ、スケール感 敷地条件・方位と建築、調査・法規・計画の事例紹介 建築材料と構造種別（木造、S 造、S R C 造、R C 造）、建築設備と役割 図面の表現（配置兼 1 階平面図と 2 階平面図）その 1
3 回	木造建築物の製図基礎 (2)	図面の表現（配置兼 1 階平面図と 2 階平面図）その 2
4 回	建築構造物の設計 (1) 木造建築物の製図基礎 (3)	図面作成上のポイント（図面の構成と関係性） 課題設計スケジュールの作成、条件整理とエスキス 図面の表現（立面図、伏図、矩計図）
5 回	建築構造物の設計 (2)	設計コンセプト、エスキス（平面図）
6 回	建築構造物の設計 (3)	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図）
7 回	建築構造物の設計 (4)	設計コンセプト、エスキス（平面図・断面図・立面図）
8 回	中間発表	エスキスの確認
9 回	建築構造物の製図 (1)	製図（配置図兼 1 階平面図、2 階平面図）
10 回	建築構造物の製図 (2)	製図（断面図・立面図）
11 回	建築構造物の製図 (3)	製図（その他）
12 回	CAD 製図 (1)	配置図兼 1 階平面図及びプレゼンテーションその 1
13 回	CAD 製図 (2)	配置図兼 1 階平面図及びプレゼンテーションその 2
14 回	最終講評	優秀作品の選出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義において実施される演習は期限内に必ず仕上げて提出すること。

特に、講義後半に実施する課題分による作図演習については、講義時間内でのエスキス作成ができない場合は、時間を確保し中間審査を経てから作図作業に入る必要がある。

また CAD 製図についても同様に、手書きによる平面図作成が終了している必要がある。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

建築デザインの製図法から簡単な設計まで—建築設計演習基礎編、武者 英二他 (著)、彰国社

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

課題提出 6 0 %、授業への参加 4 0 %、欠席 4 回以上は D 評価
演習が主体の授業であり、授業参加が単位取得の前提となります。授業時間内での課題提出は必須となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

A 2 製図盤以外の基本的な製図用具は各自で準備する必要がある。基本的には 1 年生の図学及演習で購入した製図用具セットで対応が可能である。初回講義で必要なものを提示するので各自で準備すること。

【その他の重要事項】

一級建築士の資格を有し、建築設計事務所にて木造住宅から公共施設等、様々な建築設計の経験を持つ教員が、実際の資格試験の概要、設計実務を踏まえた製図知識、実際の設計作業を通じたプレゼンテーション、CAD を用いた図面によるプレゼンテーションなどを指導する。

【Outline and objectives】

Students will learn skills for the drawing of building construction plans through lectures and exercises. Students will determine the type, structure and material of buildings, and learn how to indicate them in drawings. Students aspiring to become architects should attend this class.

CST300NC

計画の可視化（2018年度以前入学生）

福井 恒明

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代のシビルエンジニアには、どのような専門分野であっても、技術によって創出される構造物や空間、風景の質に対する知識と責任が求められる。本授業では、これに対応できる素養を修得するために景観工学の基礎知識、景観デザインに関する事例や考え方を学ぶ。

【到達目標】

1) 景観に関する基礎知識を修得し、計画・設計の前提となる基本的考察ができるようになる。
2) 1) をもとに景観に関する調査を行い、その結果について他者と共有できる論理構成と表現ができるようになる。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 20% |
| (E) 専門知識の活用・応用力 | 60% |
| (F) 総合デザイン能力 | 20% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に授業を進める。一部にグループワークによる実習的作業を含む。

グループワークに基づく授業内発表を行う（13,14 回目）。その結果についてレポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・景観の捉え方	景観工学の誕生／ルーツと展開／景観とは／景観把握モデル／3つのアプローチ
2	景観の捉え方	（グループワーク）景観に関する言葉を使った例文作成と用法の確認
3	視覚的アプローチ（1）人間の視知覚特性	視知覚特性と「よい眺め」／景観ディスプレイ論／図と地
4	視覚的アプローチ（2）	（グループワーク）視距離の見え方について、顔の認識限界を調べてみる
5	視覚的アプローチ（3）身体感覚的アプローチ（1）	色彩／ヒューマンスケール
6	身体感覚的アプローチ（2）	（グループワーク）ヒューマンスケールの実測、歩幅の確認と歩測
7	身体感覚的アプローチ（3）	仮想行動／「閉じる・開く」と「見る・見られる」／シーケンズ／イメージと景観／イメージの構造
8	意味的アプローチ（1）意味的アプローチ（2）	（グループワーク）アフォーダンスの理解、ポジティブスペース・ネガティブスペースの採集
9	意味的アプローチ（3）	名付けと描写／伝統的景観／原風景と生活景
10	意味的アプローチ（4）	（グループワーク）身の回りのデザインポキャブラリーを考える、歴史的景観とテーマパークの違い
11	現地見学（11-12 回連続）	まちなみの成り立ちを理解する
12	現地見学（11-12 回連続）	まちなみの成り立ちを理解する
13	グループディスカッション	景観に関する課題についてグループディスカッションを行う
14	グループディスカッションの発表と講評	グループディスカッションの結果についての発表とそれに対する講評を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的にテキスト（教科書）に沿って授業を進めるため、該当箇所について予習・復習を行う。授業後半にグループディスカッションを行うため、これに関する事前準備や事後のレポート作成（個人）がある。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「景観とデザイン」内山久雄監修・佐々木葉著、オーム社、2015、2500 円＋税

【参考書】

「景観用語事典 増補改訂版」篠原修編、彰国社、2007、3600 円＋税
その他必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

各回のグループワーク評価 40%、グループディスカッションの評価 20%、個人レポート 40 % とする。
欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

2017 年度より担当教員が変更となったため、シラバス作成時点では該当無し。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

Civil engineers are required to possess knowledge and responsibility for the quality of structures, spaces and landscapes created by technology, no matter what their field of specialty is. In this course, students will study basic knowledge of landscape engineering, examples and ideas on landscape design in order to acquire essential related skills.

CST300NC

鋼構造デザイン実習

平山 繁幸、鈴木 泰之

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鋼構造の設計方法について、実習を通して習得する。本実習では、まず、鋼構造設計の基礎を、講義ならびに演習を通して習得した後、これらの知識を活用して鋼構造のデザイン実習を行う。デザイン実習は、鋼歩道橋を対象として個別に与えられた設計条件に基づき、設計計算、作図および数量算出を行う。

【到達目標】

鋼構造の設計方法および鋼の性質を演習問題を通して習得する。鋼歩道橋の設計計算を行い、その結果を基に施工を考慮した図面を作成し、設計手法・図面の読み方を取得する。

これら一連の実習をとおして、この講義の受講後、学生は、「技術者に求められる「設計」という行為がどのようなものであるか」について理解できるとともに、1、2年次で学んだ構造力学が、実際の鋼構造設計で、どのように使われるのかを、実体験をとおして、習得することができる。

各講義で出題される演習問題の提出、設計計算書、設計図面、数量計算書を提出することにより、単位が与えられる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	10%
(F) 総合デザイン能力	40%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

与えられた課題に対して各々が問題に対する解答の作成、与えられた設計条件に対する設計計算書の作成、製図、数量の算出を行う。製図は手書き・CADいずれでもよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鋼構造概論	鋼構造の特徴について、鋼橋を例に取り説明する。 鋼橋の構成要素と要素の役割および鋼橋設計に必要な基本事項について説明する。
2	鋼構造演習（構造力学の設計への応用 荷重）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。
3	鋼構造演習（構造力学の設計への応用 荷重強度）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。荷重と荷重強度に関する演習課題を行う。
4	鋼構造演習（作用・断面力の算出）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。作用（断面力）の算出に関する演習課題を行う。
5	鋼構造演習（断面諸元・抵抗）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。断面諸元および抵抗の算出に関する演習を行う。
6	鋼構造演習（添接・補剛設計）	既習得の構造力学の知識の鋼構造設計への応用について、演習を通して学習する。添接の考え方、部材の補剛方法、補剛材の設計方法について演習を行う。
7	鋼橋設計計算書の作成（設計条件・荷重・荷重強度）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、荷重・荷重強度を取り纏める
8	鋼橋設計計算書の作成（断面力・断面決定・添接）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、断面力・断面決定・添接を扱う
9	鋼橋設計計算書の作成（補剛設計・横桁・支点上補剛材）	鋼単純桁（歩道橋他）を例に取り、設計計算書を作成する。この実習では、補剛設計・横桁・支点上補剛材を扱う。

10	鋼橋の製図（構造一般図）	設計計算書を基にした製作図面の作成方法の説明を行う。設計計算書が完成した学生は教員による確認を受けた後、製図作業に着手する。製図は手書き・CADいずれでも可とする。この実習では、構造一般図の作図を行う。
11	鋼橋の製図（主桁）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・CADいずれでも可とする。この実習では、主桁の作図を行う。
12	鋼橋の製図（構造詳細図）	作成された設計計算結果を基に、鋼歩道橋の製作図面を作成する。製図は手書き・CADいずれでも可とする。この実習では、構造詳細図の作図を行う。
13	材料の算出	作成された製作図面を基に、鋼橋製作に必要な材料を算出する。算出結果は、数量計算書として取りまとめる。
14	成果品の提出、講評	設計計算書、製作図面、数量計算書を教員に提出し、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1～6 構造力学の復習
7～13 進捗が遅い学生は、授業時間外で成果の作成進捗を補うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布

【参考書】

道路橋示方書・同解説（公）日本道路協会 平成 29 年 11 月
合成桁の設計例と解説（一）日本橋梁建設協会 平成 30 年 2 月
大倉一郎：鋼構造設計学の基礎、(株) 東洋書籍
中井・北田・山口・事口・平城：例題で学ぶ橋梁工学、共立出版（株）
田島富男、徳山昭：絵とき鋼構造の設計、(株) オーム社
中井博、北田俊行：新編 橋梁工学、共立出版（株）

【成績評価の方法と基準】

演習問題の提出および採点結果 40点
鋼歩道橋他の設計計算 40点
鋼歩道橋他の製図 15点
鋼歩道橋他の数量計算 5点
ただし、欠席1回（1日）につき－5点（4回欠席でD評価）、遅刻1回につき－3点
演習問題の実施が少ない場合は、配点を少なくし、他に割り振る場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

教える側が「当然理解しているであろう、あるいは、理解したであろう」と考えている事項を質問にくる学生が多い。教える側にとって、当然であることも、実は、学生にとって、理解されていないことが多いことに、改めて気づく。懇切丁寧に分かり易い説明に心がける。また、学生の理解を深めるために、基礎演習に力を入れる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、電卓、定規

【その他の重要事項】

同分野での実務経験を有する教員が担当する。
鋼構造デザイン実習は学生証番号偶数が受講する。
製図は、CAD・手書き何れも可とする。

【Outline and objectives】

Learn how to design steel structures through practical training. In this training, the basis of steel structure design will be studied through lectures and exercises, after which students will perform designs of practical steel structures utilizing this knowledge. In the design training, design calculation, drawing and quantity calculation are carried out based on individually assigned design conditions for steel pedestrian bridges.

CST300NC

地盤と環境 2（2018年度以前入学生）

酒井 久和

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地盤調査、地盤災害、基礎、地盤改良、地盤掘削について学習するとともに、様々な構造物の設計演習を通じて総合的なデザイン能力を高め、設計の考え方を習得する。

【到達目標】

- ①インフラ建設時の調査法、設計法、地盤災害について理解する。
- ②建設工事に必要な地盤調査法や建設時の地盤災害を理解し、ボーリング柱状図から事前に問題点を抽出する力を養成する。
- ③浅い基礎、深い基礎の設計方法と構造物の支持力機構を理解する。
- ④地盤改良や掘削の方法について理解する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「地盤と環境 1」の発展として、インフラ建設時の調査法、設計法、地盤災害について講義を行う。前半では、建設時の地盤災害、浅い基礎の設計方法、液状化のメカニズムについて学び、後半は、深い基礎の設計方法、地盤改良や掘削の方法について学習する。構造物設計上の要点を把握した状態でボーリング柱状図を読むことで事前に問題点を抽出する力を養成する。授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、地盤調査法	ーサウンディング、サンプリングによる地盤構造の把握
2	建設時の地盤災害	ボーリングの現象、検討方法、対策法
3	建設時の地盤災害	ヒービング、盤膨れの現象、検討方法、対策法
4	浅い基礎の概説	浅い基礎の種類と施工法
5	浅い基礎の設計法	浅い基礎の支持力の考え方
6	浅い基礎の設計演習	浅い基礎の設計演習と解説
7	液状化現象	メカニズム、液状化対策と液状化判定
8	深い基礎の概説	支持力機構、基礎に要求される性能、杭の工法、材質、形状による分類
9	深い基礎の概説	工法の特徴と施工法の概要
10	深い基礎の検討	検討方法、鉛直支持力の計算法の概説
11	深い基礎の設計法	鉛直支持力、負の摩擦力の計算演習
12	地盤改良	地盤改良工法の概説、適用例
13	掘削方法	各種掘削工法の概説、特徴
14	地盤特性値の解釈調査と留意点	設計地盤定数の求め方と留意点、ボーリング柱状図の読み方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 今回授業内容の復習
2. 同 上
3. 同 上
4. 同 上
5. 同 上
6. 同 上
7. 同 上
8. 同 上
9. 同 上
10. 同 上
11. 同 上
12. 同 上
13. 同 上
14. 同 上

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。
プリントを適宜配布する

【参考書】

地盤工学会：地盤調査法
日本道路協会：杭基礎設計便覧（平成 18 年度）
吉見吉昭、福武毅芳：地盤液状化の物理と評価・対策技術、技報堂出版
日本道路協会：道路土工―軟弱地盤対策工指針―（平成 24 年度版）

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは高評価であった。そのため、昨年と同様に対話型の講義を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓,PC

【その他の重要事項】

建設会社の設計部で実務を担当した教員が設計経験を活かして講義を行う。

【Outline and objectives】

The main objectives of the Geological Environmental Engineering 2 Program are the following:

- 1) Graduates will acquire fundamental knowledge on geotechnology: ground survey, ground disaster, foundation, ground improvement and excavation methods.
- 2) Graduates will enhance their ability of general design by design practices of several types of infrastructure.

工学実験2

鈴木 善晴、酒井 久和、鈴木 弘明、道奥 康治、池田 勇司、北條 幸雄

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境システム系の実験（水圏環境実験および土質環境実験）を実施して計測技術を習得する。実験データを的確に図表化・分析し、実験値と理論値との整合性や違いの原因を考察する。以上の実験結果を反映したレポートをわかりやすく作成することにより、これまでの学習内容を実証的に理解するとともに実験で得た新たな発見を通して水圏・土質環境に発現する実現象への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

実験の目的と方法を正しく理解した上で、グループのメンバーと協力しながら自ら実験作業に従事して業務遂行能力の向上を図る（G, I）、実験結果をレポートとしてわかりやすく明快にまとめる力を養うとともに、これまでに習得した専門知識と関連づけながら実験結果を適切に考察できるように応用力や科学的思考力を身につける（E, H）、などが本授業の主な学習到達目標である。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	40%
(F) 総合デザイン能力	
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、水圏環境実験および土質環境実験の2つからなる。いずれにおいても自ら実験に参加して、実験データを取得して分析・整理し、実験結果に対する深い考察を反映したレポートを作成・提出することが不可欠である。水圏環境実験では、水理現象の観察・測定、実験と理論との比較・検証を通して、水理特性を理解することを目的とする。また、土質環境実験では、ふるい分けなどの実験を通して土と接することにより、その物理的・力学的性質を体感し土質特性を理解すること、および水質に関する浄化・分析の手法を理解することを目的とする。

各実験はいずれもグループに分かれて実施するが、水圏環境実験は、グループによって実験AとBの実施日が異なる。また、土質環境実験は、午前と午後で実験AとBのグループを入れ替えて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	実験概要・実験方法およびレポートの作成・提出方法の説明
(2)	水圏環境実験 A-1	変水位透水試験に関する講義および演習：ダルシーの法則、変水位透水試験と定水位透水試験の理論
(3)	水圏環境実験 B-1	浮体の安定実験に関する講義および演習：静水圧解析の復習、アルキメデスの原理、浮体の重心・浮心、浮体の安定条件の基礎理論
(4)	水圏環境実験 A-2	変水位透水試験の実施：土壌試料3種類を鉛直カラムに充填して水位低下量を計測、変水位透水試験の理論式より飽和透水係数を算出
(5)	水圏環境実験 A-3	変水位透水試験に関するデータ整理とレポート作成
(6)	水圏環境実験 B-2	浮体の安定実験の実施：浮体模型の重量・重心・断面2次モーメントを変化させながら浮体の安定性を観察・考察、アルキメデスの原理の確認
(7)	水圏環境実験 B-3	浮体の安定実験に関するデータ整理とレポート作成
(8)	土質環境実験 A-1	土の含水比試験、ふるい分け試験、一軸圧縮試験、最大最小密度試験の説明、実験の予習、課題作成

(9)	土質環境実験 A-2	土の含水比試験と粒度分析の実施：湿潤状態と乾燥状態の土の質量から含水比を算出し、ふるい分け試験により土の粒度分布を把握
(10)	土質環境実験 B-1	排水の浄化実験の実施：簡易廃液処理装置を用いた、六価クロムを含む原水の水処理
(11)	土質環境実験 A-3	一軸圧縮試験の実施：土の円柱供試体に対して鉛直力のみを載荷し、ひずみと荷重との関係から土の一軸圧縮強度、変形係数、鋭敏比等を算出
(12)	土質環境実験 B-2	原水・浄化水や環境水等の水質分析の実施：簡易水質分析キットや分光光度計を用いた水素イオン濃度指数、電気伝導率、化学的酸素要求量、六価クロム等の測定
(13)	土質環境実験 A-5	土の最大密度・最小密度試験の実施：乾燥砂に対して最も密な状態としての最大密度と最も疎な状態の最小密度を測定し、土の相対密度を算出
(14)	土質環境実験 B-3	水質分析に関するデータ解析、解析結果の口頭発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験データの取りまとめやレポートの作成に取り組み、指定された期限内までにレポートを提出する。原則として期限後のレポート提出は認めない。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業の際にプリントを配付する。

【参考書】

必要に応じて授業の際に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

水圏環境実験および土質環境実験をそれぞれ50点満点、合計100点満点とし、各実験に対する取り組み状況、提出されたレポートの内容等により評価を行う。60点以上を合格とする。ただし、提出すべきレポートのいずれか1件でも未提出の場合（あるいは0点の場合）には不合格とする。また、全28コマの講義のうち欠席回数が6コマを超えた場合にも不合格（評価D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

実験結果の取りまとめやレポートの作成を行う際に「ノートパソコン」を使用することがあるので、教員からの指示があった場合は忘れずに持参すること。

【その他の重要事項】

実験データの整理等を行う際に「関数電卓」が必要となる場合があるので、各自で忘れずに持参すること（持参し忘れた場合には貸与しない）。建設コンサルタントおよび土質試験所において、水質、土質試験を行った経験を有する教員が試験の指導を行う。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to learn measurement techniques that are necessary in hydrospheric- and geo-environmental engineering. By graphically displaying and analyzing experimental data based on theoretical background, students will understand theories and mechanisms involved in the phenomena. The results should be briefly and properly reported in a paper so that students enrich their understanding of environmental systems in the hydrosphere and geosphere.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀の科学技術の飛躍的な発展は、地球環境の破壊と人口爆発を生じさせ、もはや人間はもちろん様々な生物の生存にとって危機的状態をもたらしている。地球環境の改善と保全是、今世紀に人類が解決しなければならない緊急で最優先の課題である。本授業は、この問題を解決するための一手段である法律「環境基本法と関連法規」の概要と「環境関連技術」について講義する。本授業の内容は、社会人（民間企業、公務員）の基礎知識として是非とも覚えておくべきもの、そしてシビルエンジニアの基礎技術として知っておくべきものであり、将来の業務の様々な局面で役立つことになることを考える。

【到達目標】

環境にかかわる近代から現代の出来事と関連する法規制の歴史を概観することで環境基本法の成立に至る過程とその理念を理解し、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、廃棄物処理等に関連する個別の法規制の概要とその特徴および対処方法を事例に基づき習得する。さらに、建設産業を例に、生産活動の中で環境関連法規がどのように遵守されているかを具体的事例に基づき解説し、またそのために必要な環境関連技術の開発・実施事例などを紹介する。そして、これらの法律を遵守しつつ企業活動を行うために必須の倫理観と企業責任（コンプライアンス、CSR、SDGs）など、今世の中で求められている環境経営の手法についても概説するのでこれらを理解する。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 20% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 60% |
| (F) 総合デザイン能力 | 20% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオリジナルのパワーポイントを用いて講義形式で実施する。資料は講義当日にコピーを配布する（同じものが個人で授業支援システムからダウンロード出来る）。講義期間（C期）内に、関連するレポート課題を1つ出す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地球環境と環境法規	地球および地域環境問題の歴史的背景と環境政策の基本理念・施策の枠組み
2	地球および地域環境問題と建設産業	建設産業における環境問題全般への取り組みと事例
3	水質環境の保全（その1）	水質汚濁と公害、有害化学物質による生物への影響、発生源と環境基準
4	水質環境の保全（その2）	水質汚濁の事例と対策および効果
5	大気環境の保全（その1）	大気汚染物質の法的規制と技術的対応
6	大気環境の保全（その2）	今日的な大気汚染問題（ヒートアイランド、温室効果ガスなど）
7	土壌環境の保全（その1）	土壌汚染物質と土壌汚染対策法
8	土壌環境の保全（その2）	汚染土壌の浄化技術とその事例
9	廃棄物とリサイクル（その1）	廃棄物処理法とリサイクル法
10	廃棄物とリサイクル（その2）	一般廃棄物と産業廃棄物の処理・処分の現況
11	環境経営	コンプライアンス、CSR、環境マネジメントシステム
12	騒音と振動 レポート結果の総括 (4 または 6 回目の講義時に課題提示)	騒音および振動の規制と対策 レポート内容の確認と改善策の検討
13	ここ数年の環境問題トピックスを事例に講義	例) 豊洲新市場土壌汚染問題とその対策
14	授業内容総確認	1～13回の講義内容における重要事項の把握確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配信するテキスト（パワーポイント）等と参考書による予習および講義の復習をし、特に重要な事項については講義時に指摘するので、これらについて把握する。

レポート課題は複数の設定課題から1つ選択または独自に設定出来るので、これについて約2週間で調査・考察をまとめ提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

独自の印刷物を配布予定（同 pdf ファイルを授業支援システム配信する）。

【参考書】

事前予習のための参考書は特に必要としない。

なお、建設関連法規がまとめた資料としては、以下のものがある。「建設工事の環境法令集」(社)日本建設業団体連合会監修、(株)富士グローバルネットワーク発行（なお、最新版は2020年6月頃発行予定）

【成績評価の方法と基準】

評価点は100点満点で評価し、90点以上 S、87点以上 A+、83点以上 A、80点以上 A-、77点以上 B+、73点以上 B、70点以上 B-、67点以上 C+、63点以上 C、60点以上 C-、59点以下または欠席4回以上 D とする。
評価点 = 把握度確認の成績 80% + レポート点 20%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度のレポート結果でも、要求に対するまとめ方の理解（考察する部分の）が不十分および深掘りがされていないレポートが多かった。ただ、独自の見解の記載においては、これまでの枠にとらわれないユニークなコメントもあり、それらを皆で共有する場を見たことは有益であったと思う。今年度も学生諸君の奇抜な？ アイデアを求めたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義は教室のプロジェクターを使用するため情報機器を持参する必要はありません。ただし、講義内容をより具体的に把握するため、特に法規・基準などをPCでリアルタイムに検索することは有効であるのでPCの持込を推奨します。

【その他の重要事項】

ゼネコンの技術研究開発部門で、地下水解析からはじまり土壌汚染、水質汚濁、廃棄物処理、災害瓦礫、除染などを対象とした環境関連技術の開発と実施に30年以上携わっている者が、その経験を活かして環境関連の法規と技術、さらには環境を考慮した企業経営の在り方について講義する。

【Outline and objectives】

The dramatic development of science and technology in the 20th century has caused the destruction of the global environment and population explosion. It heralds a critical state for the survival of various creatures, not to mention human beings.

Improvement and conservation of the global environment is an urgent and top priority issue that mankind must solve this century.

This course provides lectures outlining "Basic Environmental Law and Related Legislation" and "Environment-related technology" which offer a means to solve this problem. The studied content should be known as basic knowledge for social workers (private enterprises, civil servants), and as basic technology for civil engineers, and helpful in various aspects of the student's future career.

EAE300NC

環境アセスメント（2018年度以前入学生）

中林 純

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国における環境アセスメントは、EIA（事業アセス）段階から SEA（戦略アセス）に向けた新たなステージに進み、社会的重要性が増している。また、民間企業においては、CSRの観点等から自主的な環境アセスメントを行う土壌が形成されつつある。

重要なことは、環境アセスメントが、基本である予測・評価、環境保全等の科学技術の側面に立脚しつつも、行政手続きの側面、住民とのコミュニケーションの側面等多様な側面を有していることである。

本科目で扱うテーマは、環境アセスメントを実践する上で必要な基礎的知識・技術の紹介、要素技術（予測・評価のための数理技術）に関する演習、具体的事例を通じた環境アセスメントの多様な側面に関する調査・討議である。

【到達目標】

環境アセスメント制度を理解し、実践的な調査、予測・評価技術を習得するとともに、住民とのコミュニケーションや環境保全策の実態について知ることにより、環境アセスメントの多様な側面について理解を深める。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 20% |
| (E) 専門知識の活用・応用力 | 60% |
| (F) 総合デザイン能力 | 20% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境アセスメントの歴史と制度を理解した上で、調査、予測・評価技術の基本的な事項を講義し、演習・実習を通して、実務レベルの知識・技術を身に付けられるようにする。

さらに、アセス説明会への自主的参加やアセス対象事業の現地見学会等を通して、住民とのコミュニケーションや環境保全措置の実態を知り、各人が興味を持ったテーマについて調査・発表・討議を行うことにより、環境アセスメントの広範さや問題点について認識できる場を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	環境問題の歴史と環境アセスメント	公害から地球環境へと変遷する環境問題の歴史の流れにおける環境基本法、環境影響評価法の成立とその持つ特性
2	環境アセスメント制度の概要と実施状況	法アセス・自治体条例アセスの制度の内容（手続き、体制、予測・評価項目）、実施状況（件数、期間等）。環境アセスメント制度の特性、課題に関する演習と討議
3	環境基準等規制基準	公害型環境項目に関連する環境基準等規制基準。成り立ちの背景等を含めた定義と評価指標としての使い方の理解
4	公害型環境項目の調査、予測・評価（1）	大気汚染、悪臭の予測の流れ、予測式、評価指標、保全措置。予測・評価に関する基礎的演習と討議
5	公害型環境項目の調査、予測・評価（2）	騒音・振動の予測の流れ、予測式、評価指標、保全措置。予測・評価に関する基礎的演習と討議
6	公害型環境項目の調査、予測・評価（3）	水質汚濁、地盤沈下、土壤汚染の予測の流れ、予測式、評価指標、保全措置。予測・評価に関する基礎的演習と討議
7	環境現況調査システムの概要	交通量、気象、大気質、騒音・振動等予測・評価の基本となる指標の現地観測の概要
8	測定実習	評価指標の測定実習（騒音・振動計を用いた測定と演算、規制基準との比較）
9	自然型環境項目の調査、予測・評価（1）	地形・地質、景観、自然との触れ合い活動の場の予測の流れ、予測式、保全措置とその効果。予測・評価の基本的な事項に関する演習と討議

- | | | |
|----|---------------------|---|
| 10 | 自然型環境項目の調査、予測・評価（2） | 植物、動物、生態系の予測の流れ、予測式、保全措置とその効果。予測・評価の基本的な事項に関する演習と討議 |
| 11 | アセス対象事業現地見学（1） | アセス対象事業の見学（事業の内容、アセスの予測・評価結果と環境保全措置の状況）、関係者との意見交換 |
| 12 | アセス対象事業現地見学（2） | 見学を踏まえた建設事業における環境配慮のあり方に関する討議 |
| 13 | 都市型環境項目の調査、予測・評価（1） | 風環境の予測の流れ、予測式、保全措置とその効果。風工学全般の理論、工学での応用を紹介し、その中の環境側面として理解 |
| 14 | 都市型環境項目の調査、予測・評価（2） | 日影、電波障害、廃棄物、温室効果ガスの予測の流れ、予測式、保全措置とその効果。予測・評価に関する基礎的演習と討議 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回のテーマについて配布資料等を復習し、知識・技術を定着させるとともに、興味のあるテーマについて、参考書等を学習し、発展させる。

アセス説明会等の傍聴やアセス図書の閲覧など、自主的に参加し、アセスの現場を知ることとはとくに重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回に講義・演習資料を配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題・演習レポート（70点）と、講義時間内に行う確認小テスト（30点）による。欠席は1回につき3点の減点とし、欠席4回以上は単位の取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想等から、講義において、実際の測定器を用いた演習や現場見学などの経験や事例紹介などが環境アセスメントの実践的な側面の理解に役立っていると確認できた。これらは、将来、行政官、事業者等環境アセスメントにかかわる様々な立場となっても、あるいは市民として参加しても、体験的理解となって役立つことを期待したい。

今年度の講義では、これら体験的学習を一層充実させるほか、説明会への自主的参加等を強く促すなど、積極的に働きかけたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の講義にPPTやVD教材を使用する。

【その他の重要事項】

- ・環境アセスメントのコンサルタント実務経験者が、法令・制度、調査・予測・評価技術の基本的な事項について実践的、体験的に講義する。
- ・現地見学、測定実習は関係者と日程等調整をすることから、授業計画で示したスケジュール（順番）は変更となることがある。
- ・毎回、A4のレポート用紙と電卓（PC可）を持参のこと。

【Outline and objectives】

Environmental assessment in Japan has progressed from EIA (Business Assessment) to the new SEA (Strategic Assessment) accompanying a rise in social importance. Private enterprises have started to carry out environmental assessment voluntarily in terms of CSR. Importantly, environmental assessment does not only focus on the fundamental science and technology such as prediction, evaluation and environmental conservation etc., but also emphasizes administrative procedures and communication with residents in achieving diversity. The themes in this course cover introduction of basic knowledge and techniques which are necessary for practicing environmental assessment, exercises on fundamental technologies (mathematical techniques for prediction and evaluation) and investigation and discussion of various aspects of environmental assessment through case studies.

CST300NC

メンテナンス工学（2020年度休講）

溝渕 利明、藤原 博

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

重要な社会資本である構造物（鋼構造、コンクリート構造）を適切に維持管理して長期間安全に使用するための方策・技術についての基礎知識を身につける。

【到達目標】

橋梁の維持管理方法に関する基礎知識を身につけることを本授業の到達目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力
(E) 専門知識の活用・応用力 80%
(F) 総合デザイン能力 20%
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

21 世紀の建設業界は、新設の時代から維持管理の時代へと移行していくこととなる。特に高度成長期に整備された社会資本は建設後 50 年近く経過しており、その多くが老朽化してきており、早急に調査・点検を行っていく必要がある。

本講義では、社会資本の一つである橋梁を中心に維持管理の基本的な考え方、手法などについて概説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メンテナンスとは何か 維持管理の原則とメンテナンスの重要性について理解する	維持管理の原則とメンテナンスの重要性について概説
2	ライフサイクルを考える ライフサイクルエンジニアリングやライフサイクルコスト、ライフサイクルマネジメントについてその内容を理解する	ライフサイクルエンジニアリングやライフサイクルコスト、ライフサイクルマネジメントについて概説
3	コンクリートの劣化 コンクリートの劣化の代表的な塩害、中性化、凍害、アルカリ骨材反応についての劣化メカニズムを理解する	コンクリートの劣化の代表的な塩害、中性化、凍害、アルカリ骨材反応について概説
4	コンクリートの劣化予測手法 コンクリートの劣化予測手法の現状技術について理解する	コンクリートの劣化予測手法の現状技術について概説
5	維持管理の方法 維持管理計画と診断方法について理解する	維持管理計画と診断方法について概説
6	点検について 点検の種類と点検方法の概説、点検における調査について理解する	点検の種類と点検方法の概説、点検における調査について概説
7	評価・判定、対策 診断結果に基づく評価・判定、対策の種類と選定、補修・補強について理解する	診断結果に基づく評価・判定、対策の種類と選定、補修・補強について概説
8	鋼構造物の特徴とメンテナンス メンテナンスを行う上での鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本的な考え方を理解する。	鋼構造物の特徴とメンテナンスの基本

9	鋼構造物の疲労損傷と対策技術 鋼道路橋に発生する疲労のメカニズムと対策技術を理解する。	疲労の要因とメカニズム 疲労損傷の事例と対策 疲労部材の評価
10	鋼構造物の腐食損傷と対策技術 鋼構造物に発生する腐食のメカニズムと対策技術を理解する。	腐食の要因とメカニズム 腐食損傷の事例と対策 腐食部材の評価
11	鋼構造物の点検と診断技術 鋼構造物の点検・調査方法と診断技術を理解する。	点検と診断の目的と実際 健全度評価、劣化予測手法
12	鋼構造物の補修・補強技術 鋼構造物の補修・補強の考え方および補修・補強技術を理解する。	補修・補強方法の基本的な考え方 補修・補強技術 補修・補強の実例
13	鋼構造物のメンテナンスマネジメント 鋼構造物メンテナンスマネジメント手法を理解する。	マネジメント導入の背景・効果・課題 マネジメントの事例、予防保全・事後保全とライフサイクルコストの関係
14	過去から学ぶメンテナンス技術 鋼構造物に関する過去の重大事故からメンテナンスの重要性とメンテナンスエンジニアのあり方について学ぶ。	過去の重大事故におけるメンテナンス上の問題 これからのメンテナンスエンジニア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配信する

【参考書】

社会基盤メンテナンス工学；東京大学出版会
コンクリート標準示方書（維持管理編）；土木学会
必要に応じて講義中に配付する。
コンクリート崩壊：PHP 新書
朽ちるインフラ：日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

レポートによる。ただし、欠席は 10 点/回減点とし、遅刻は 1 点/10 分の割合で減点として、取得点から差し引く。指定した回数以上の欠席者については期末試験の受験資格がないものとする。
レポート課題 100 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

高速道路会社で長くメンテナンス部門に勤務した教員が、鋼構造物のメンテナンスについて指導する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to acquire basic knowledge on measures and techniques for long-term safe use of structures (steel, concrete structures) and their appropriate maintenance and management vital for social capital.

ADE100NB

デザインスタジオ2（建築）Ⅱ

塩田 能也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分が構想する空間を模型やドローイングを通してプレゼンテーションし、人に伝える方法を学びます。

【到達目標】

- ・ 模型などを用いて立体と平面を行き来しながらデザインする
- ・ 空間に対する分析力・考察力を養う
- ・ 日常や社会活動を捉え直す視点を養う
- ・ 各種構造の特性を理解する
- ・ 行動場面をイメージしながら設計する技術を身につける
- ・ 周辺環境との関係を理解し、敷地の特徴を活かす技術を身につける

● AB 期の「デザインスタジオ 1」を発展させる。

【建築研究】自分が選んだ建築空間や環境を調べた後、実際に空間を訪れ体験し、レポートにまとめることで空間の分析力、考察力を養う。（事前研究レポートと、空間体験レポートの 2 部構成での提出とする）

【ウォッチャー】普段目している風景や街中にある事物を、あるテーマを通してとらえなおし 1 枚の写真に表現することで、日常に対する新たな視点を持つ力を養う。

【光の箱】建築空間にとって最も基本的であると同時に重要な要素である『光』をテーマにした課題を通して、空間に於ける光の扱い方を習得する。

【一辺 5m 立方の空間の設計】一辺 5m キューブの空間を設計する。ここでは、三次元で考え、それを図面化することによって立体と図面との関係を理解する。また図面の理解のみでなく、「空間への夢」を形態としてデザインする。デザインスタジオ 3、4 へのステップとして特に重要である。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、まず建物研究を行う。どのような建物や環境に興味をもったのか、そしてその建物を研究したあと、実際に空間を体験することで、図面や写真の分析から読み取れることと、体験しなければわからないことを考察する。また、この研究では、建築作品が気候・風土、風俗・習慣、技術、経済性など、多くの条件の結果として優れた空間がつくりだされていることを学ぶ。そして、『ウォッチャー』では、一つのテーマに沿った写真を撮り提出する。全員の写真を並べてみることで同じテーマでも多様な視点があることを学ぶ。

建築を取り巻く背景に触れた後に、初学年ではじめて設計を行う。夢をあたにするとどのようなことか。建築空間を考えるとどのようなことか。そして、建築を構成する材料とはどのようなものか。条件に従ったうえでの個性とは。そして美とは何か。などさまざまな問いかけを、手を動かしてスケッチし、模型を作り、エスキースを繰り返し替えることから形を見出し、空間を作り出し、表現する方法を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・建築研究 『光の箱』 『ウォッチャー』の説明	○魅了される建築を研究と見学の両方を通して体験しレポートにまとめる。 ○課題の説明。
2	建築研究 発表 『光の箱』 『ウォッチャー』	○建築研究レポート 発表 ○光の箱 エスキース 1 開口と光の関係を探る ○ウォッチャー 発表と講評
3	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 2 壁や開口部の素材、反射による光の効果を探る。 ○ウォッチャー 発表と講評
4	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 3 さまざまなスタディによってどんな光の状態ができるのかを把握する。 ○ウォッチャー 発表と講評
5	『光の箱』 『ウォッチャー』	○光の箱 エスキース 4 写真やドローイングも含めたプレゼンテーションの方法を学ぶ。 ○ウォッチャー 発表と講評

6	『光の箱』 ●講評会 『ウォッチャー』	○光の箱 プレゼンテーション：作品のコンセプト、図面、模型を提出し、講評会を行う。 ○ウォッチャー 発表と講評 ○『5m 立法の空間』 ガイダンス：一辺 5m 立方の空間のなかに自分のための空間（自室）を設計する。他者を招くことも条件とする ○自分自身が人を招く空間としてどのような空間を作りたいかをイメージする。 ○ 5m 立法の空間の大きさを把握する。 ○模型やスケッチをつくることで具体的な空間を思考する。平面図に空間を落とし込む。 ○平面図と模型を提出。クラス別に中間講評会を行う。 ○中間講評で指摘された事例を反映しスタディを深める。 ○敷地や家具類を含めた模型を製作する。 ○最終プレゼンテーション用の図面と模型の製作を行う。 ○模型の撮影法、プレゼンテーション（人に意図を伝える）方法について学ぶ。 ◇プレゼンテーションパネルは模型写真・説明図・一般図面等を含んで構成する。 プレゼンテーション：作品のコンセプト・図面を提示、 ●発表および講評会を各スタジオで行う。 全スタジオ合同講評会
7	『5m 立法の空間』	
8	『5m 立法の空間』	
9	『5m 立法の空間』	
10	『5m 立法の空間』	
11	『5m 立法の空間』	
12	『5m 立法の空間』	
13	『5m 立法の空間』 ●スタジオ講評会	
14	『5m 立法の空間』 ●合同講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良い空間を体験することは、建築学習にとって何よりも学ぶことが多い。実際に足を運び、優れた建築空間を体験する習慣をつけることが望ましい。そして、その空間がなぜ優れているのかを観察することが設計への第一歩となる。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『空間練習帳』小嶋一浩、小池ひろの、高安重一、伊藤香織（建築文化シナジー）

【参考書】

『住まいの空間 独立住居』武者英二・宮宇地一彦・永瀬克己著、日本建築学会編（彰国社）
『建築設計演習基礎編』武者英二・永瀬克己著（彰国社）。
『建築のしくみ』安藤直見・柴田晃宏・比護結子著（丸善）

【成績評価の方法と基準】

課題ごとに採点し、全作品により評価する。
〈建築研究〉興味ある建築物の研究を行い、事前研究レポート、空間体験レポートの 2 部構成で提出する。
○事前研究レポート：まず図面や写真、建築家の記述などから周辺環境との関係や建築の空間分析を行う。
○空間体験レポート：実際にその建築空間を体験し、事前研究で行った分析との比較、体験したからこそ得られた空間の印象などの考察を記述する。どのような対象を取り上げるのか。建築家の思想、思考をどのように読み取ったのか。実空間体験によりどのような考察を行ったのか。自分自身の思考と言葉による分析などを評価する。
〈ウォッチャー〉週ごとに設定されるテーマに沿った 1 枚の写真を提出。テーマのとらえ方、写真の表現力、構図・構成員、新しい視点の提示など総合的に評価する。
〈光の箱〉一つの箱に対して、穴のあけ方、素材の選び方、使い方などから光をどのようにに取り込み、空間化したか。授業におけるエスキースの取り組みと、模型及び図面の表現力。プレゼンテーションパネルの構成員などにより総合的に評価する。
〈5m 立法の空間〉自分の夢をどのように空間化できたか。模型による表現。図面や写真による平面構成、プレゼンテーションによって評価する。授業におけるエスキースの取り組み、および提出した課題作品により評価する。
（評価配分：建築研究 15 %、ウォッチャー 5%、光の箱 30%、5m 立法の空間 50%）
（ただし、1 つでも未提出課題がある場合は単位取得できない可能性があります）

【学生の意見等からの気づき】

授業時間における作業だけでなく、日常的にスケッチを書いたり、スタディ模型を作製したり、エスキースで指摘されたことをきちんと見直すなど、授業以外の時間をいかに使うか。課題の最終成果物へ向けた作業予定を立て、計画的に進めていくことが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

製図用具：製図に必要な各種道具（各自）、模型用材・用具（各自）、カッターマット（各自）、平行定規（各スタジオ）。

【その他の重要事項】

初めての設計では、既成概念に縛られがちである。「夢」が図面作成や模型制作を元気づける。

現在も活躍している建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn how to create models and drawings from planned designs for use in presentations in order to further their communication skills.

COT200ND

3Dモデリング（クリエーション系）X（2018年度以前入学生）

渡辺 仙一郎

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデザイン・エンジニアリング及びマルチメディア表現において不可欠な要素である3次元モデリング表現を理解し、ソフト（サーフェス系 3D-CAD：Rhino）の基本操作を学びます。
また、工業デザインにおける外観形態（外観設計）とそれを稼動させる個々の実装ディバイス形態（実装設計）との密接な関係を3Dシミュレーションにより理解しながら個々の作品を完成させることを目的としています。

【到達目標】

3Dモデリングソフトの基本操作を習得しながら造形デザインへの適用方法を学び、今後の制作活動におけるスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半では、講義で使用するサーフェス系 3D-CAD（Rhino）の演習を行い、基本操作を習得します。

授業中盤以降は習得した技術を用いて、個人によるデジタル作品制作（課題1、課題2）を実習形式にて行います。講義前後の調査、研究も積極的に行ってください。

その他、造形デザイン（工業デザイン）のポイントや、コンセプト設定、デザインプレゼンテーションのレクチャー等も適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

前期

回	テーマ	内容
1	講義内容ガイダンス	3Dモデリング演習内容の説明。演習場の注意事項。 デザイン開発実務上での事例説明。 機材取り扱い、および注意事項説明
2	3Dモデリング実習-1	本講義で使用するサーフェス系 3D-CAD「Rhino」の概要説明。 サーフェイス3Dとソリッド3Dの違いについて。 および演習を行う。拡大、縮小、回転等
3	3Dモデリング実習-2	3Dモデリングソフトの演習 3D構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
4	3Dモデリング実習-3	3Dモデリングソフトの演習 3D構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
5	3Dモデリング実習-4	3Dモデリングソフトの演習 3D構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
6	課題1 動物の3Dモデリング-1	任意の動物をデザインする ラフスケッチ、ラフ3面図を創作し、3Dモデリング化する
7	動物の3Dモデリング-2	課題1の3Dモデリング化 背景の作成
8	課題1：提出、発表、講評	コンセプト概要、ラフ原案、三面図、背景を含むパース図 ※出力紙、データ（USBメモリー）にて提出
9	課題2 工業製品のデザイン-1	工業製品の外装、実装（機構）とデザインの関係性を講義し 基本的な工業製品の3Dモデリング実習を行う
10	工業製品のデザイン-2	実際の工業製品を参考に任意の外装デザイン及び実装計画を立てる ラフスケッチ、ラフ3面図を創作し、3Dモデリングを行う
11	工業製品のデザイン-3	課題2の3Dモデリング化。 各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。

12	工業製品のデザイン-4	課題2の3Dモデリング化。 各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。
13	工業製品のデザイン-5	課題2の3Dモデリング化 作品の背景を作成。各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。
14	課題2：提出、発表、講評	コンセプト、ラフ原案、三面図、実装構成図、 背景を含むパース図 ※出力紙（A3ファイルにまとめる）、データ（USBメモリー）にて提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プロダクトデザインの基本となる、製品コンセプトの建て方、コンセプトチャート作成、ラフスケッチの練習等を自主的に行ってください。
わからない事は、教員が指導しますので、積極的に質問してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

Rhino で極める 3D デジタル・デザイン、中島淳雄著、株式会社ラトラズ発行、2013 年、¥4,280+税
Rhino+Grasshopper、ノイズ・アーキテクト編著、彰国社発行、2011 年、¥2,600+税

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品評価（70 %）
※2 課題配点（課題1：30 %、課題2：40 %）
3Dモデリングソフトの習熟度、作品完成度
小テスト評価（20 %）—理解度
制作プロセス評価（10 %）—平常点
課題未提出は D

【学生の意見等からの気づき】

製品デザインプロセスの中でのデジタル機器の活用方法を紹介し、柔軟で多彩な 3D スキルの重要性和表現方法の具体的事例を演習に取り込んでいきます。

【学生が準備すべき機器他】

PC
USB メモリ
配布資料用クリアーファイル

【その他の重要事項】

様々な素材表現に挑戦してください。日常気になる素材をデジカメで収集しておくと、自作の素材集ができます。
■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

As one of today's essential components in design, engineering and multimedia, 3D modeling will be studied together with basic operations of the Rhino 3D CAD surface software. In addition, through simulation studies of the close relation between appearance in industrial design and the implemented devices which motivate it, students aim to successfully create their own designs.

COT200ND

3Dモデリング（クリエーション系）Y（2018年度以前入学生）

村田 桂太

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデザイン・エンジニアリング及びマルチメディア表現において不可欠な要素である 3D モデリング表現を理解し、ソフト（サーフェス系 3D-CAD：Rhino）の基本操作を学びます。
また、工業デザインにおける外観形態（外観設計）とそれを稼働させる個々の実装デバイス形態（実装設計）との密接な関係を 3D シミュレーションにより理解しながら個々の作品を完成させることを目的としています。

【到達目標】

3D モデリングソフトの基本操作を習得しながら造形デザインへの適用方法を学び、今後の制作活動におけるスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半では、講義で使用するサーフェス系 3D-CAD（Rhino）の演習を行い、基本操作を習得します。

授業中盤以降は習得した技術を用いて、個人によるデジタル作品制作（課題 1、課題 2）を実習形式にて行います。講義前後の調査、研究も積極的に行ってください。

その他、造形デザイン（工業デザイン）のポイントや、コンセプト設定、デザインプレゼンテーションのレクチャー等も適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

前期

回	テーマ	内容
1	講義内容ガイダンス	3D モデリング演習内容の説明。演習場の注意事項。デザイン開発実務上での事例説明。機材取り扱い、および注意事項説明。
2	3D モデリング実習-1	本講義で使用するサーフェス系 3D-CAD「Rhino」の概要説明。サーフェイス 3D とソリッド 3D の違いについて。および演習を行う。拡大、縮小、回転等。
3	3D モデリング実習-2	3D モデリングソフトの演習 3D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
4	3D モデリング実習-3	3D モデリングソフトの演習 3D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
5	3D モデリング実習-4	3D モデリングソフトの演習 3D 構築作図入力のための画面アイコンの作動を演習にて理解する。
6	課題 1 動物の 3D モデリング-1	任意の動物をデザインする ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリング化する。
7	動物の 3D モデリング-2	課題 1 の 3D モデリング化 背景の作成等。
8	課題 1：提出、発表、講評	コンセプト概要、ラフ原案、三面図、背景を含むパース図 ※出力紙、データ（USB メモリー）にて提出。
9	課題 2 工業製品のデザイン-1	工業製品の外装、実装（機構）とデザインの関係性を講義し 基本的な工業製品の 3D モデリング実習を行う。
10	工業製品のデザイン-2	実際の工業製品を参考に任意の外装デザイン及び実装計画を立てる ラフスケッチ、ラフ 3 面図を創作し、3D モデリングを行う。
11	工業製品のデザイン-3	課題 2 の 3D モデリング化。 各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。

12	工業製品のデザイン-4	課題 2 の 3D モデリング化。 各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。
13	工業製品のデザイン-5	課題 2 の 3D モデリング化 作品の背景を作成。各自でモデリングを行い、モデリング生成での操作不明点の質問を受け、質問の集中がある点について、再度、モデリング法説明。
14	工業製品のデザイン-6	コンセプト、ラフ原案、三面図、実装構成図、 背景を含むパース図 ※出力紙（A3 ファイルにまとめる）、データ（USB メモリー）にて提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プロダクトデザインの基本となる、製品コンセプトの建て方、コンセプトチャート作成、ラフスケッチの練習等を自主的に行ってください。
わからない事は、教員が指導しますので、積極的に質問してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

Rhino で極める 3D デジタル・デザイン、中島淳雄著、株式会社ラトラス発行、2013 年、¥4,280+税
Rhino+Grasshopper、ノイズ・アーキテクト編著、彰国社発行、2011 年、¥2,600+税

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品評価（70 %）※ 2 課題配点（課題 1：30 %、課題 2：40 %）—3D モデリングソフトの習熟度、作品完成度
小テスト評価（20 %）—理解度
制作プロセス評価（10 %）—平常点
課題未提出は D

【学生の意見等からの気づき】

製品デザインプロセスの中でのデジタル機器の活用方法を紹介し、柔軟で多彩な 3D スキルの重要性と表現方法の具体的事例を演習に取り込んでいきます。

【学生が準備すべき機器他】

PC
USB メモリ
配布資料用クリアファイル

【その他の重要事項】

様々な素材表現に挑戦してください。日常気になる素材をデジカメで収集しておくと、自作の素材集ができます。
■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

As one of today's essential components in design, engineering and multimedia, 3D modeling will be studied together with basic operations of the Rhino 3D CAD surface software. In addition, through simulation studies of the close relation between appearance in industrial design and the implemented devices which motivate it, students aim to successfully create their own designs.

MEC200ND

機械の機構と設計（2018年度以前入学生）

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは、物体と物体の動きの関係性を定める機構（メカニズム）に焦点をあて、幾何学や一般力学の基本原則を元に学ぶ。さらに、それらのメカニズムを利用したメカニカルシステムを、材料特性、加工、生産性などの多角的視点により具体化させる方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機構の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニズムを具体化するために必要は材料、加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1) と 2) の学習を通じて、機構の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

動きをとらえようあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主な機構メカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定についても学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに 設計基礎	・機構設計とは何か、身近な機械機構、 材料と加工法の実例紹介 ・図面と CAD を用いた機構設計と設計プロセス
第 2 回	構造と機構 1	・機構要素や規格品の活用（締結要素や材料規格） ・構造と材料の選定について
第 3 回	構造と機構 2	・機構要素：ギヤ ・柔軟伝達機構、カム機構、リンク機構、緩衝装置
第 4 回	構造と機構 3	・液体伝達要素、アクチュエータ
第 5 回	材料と加工 1	・金属材料を利用したメカニカルデザイン
第 6 回	材料と加工 2	・非金属材料を利用したメカニカルデザイン ・製品化（加工、整備性、歩留まりや生産性、知財）を配慮したメカニカルデザイン
第 7 回	応用的なメカニカルデザイン	従来の機構設計の枠を超えて、様々なプロダクトやアートに適応された事例を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する
- 2) SolidWorks のインストールおよび、ライセンス更新を必ず行なっておく。
- 3) ソフトウェア（SolidWorks）の基本的な操作法を予め予習する。
- 4) 演習課題を復習する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材、資料は電子媒体で配信する。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911
- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト（20 %）

課題提出（30 %）

期末試験の結果（50 %）

により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が、「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのか、イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし、学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

演習では Mathematica により計算や動きを確認する。したがって、大学から貸与されているノートパソコン（Mathematica インストールおよびライセンス更新済み）を各自必ず持参すること。

【その他の重要事項】

メーカ、公的研究機関で研究開発、産学官連携業務に携わった経験を持つ教員が、大学の研究成果や学問上の知識を、どのように実際の製品開発や設計に生かすかについて具体的に講義・演習を行う。

【Outline and objectives】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training.

DES300ND

応用色彩工学（2018年度以前入学生）

淵田 隆義

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★2020年度授業は大学の方針により学習支援システムによるオンライン授業で実施します。推奨教科書は決めますが、最低限必要な資料は学習支援システムで配布します。配布した授業資料に基づいてレポート課題・理解度テストを出題します。

■私達の身の回りには緻密で色彩豊かな画像機器（スマートフォン、高精細テレビ、プロジェクター、カラープリンターなど）が溢れている。さらに進歩を続け、色彩環境はますます豊かになるであろう。そのような色彩があふれる社会において、例えばネット通販で画面上の商品の色と実際の商品の色が異なっていたら大きな問題になるであろう。

■このような「色彩に基づいた情報伝達」はますます重要になりつつある。その基本は「カラーマネージメント（色彩管理）」の考え方であり、「物を照らす光の色」「光に照らされる物の色」を科学的にとらえることであり、すなわち色彩を数値で扱う「色彩の数量化」が基礎技術になっている。

■色彩の数量化（定量化）は“測色学（Colorimetry）”、光の数量化は“測光学（Photometry）”として国際標準化された方法が確立している。この授業では測色学、測光学の原理と定式化、国際標準化方法の基礎を学ぶ。

■この授業の目的は理論重視ではなく色彩工学を応用の立場から広範囲に理解することである。授業では可能な限りビデオ映像を補助資料として用いながら進める。また光、色は実際に見ることが大切であり、機器のデモンストレーションも行う。

【到達目標】

■光と色は、五感（視、聴、味、嗅、触覚）の中で85%以上の情報量をもつと言われる視覚によるものである。そのため光と色の定量化では、視覚に関する「物理量」と「心理量」の関係を理解し、人間の感覚量が介在した「心理物理量」とは何かを正しく理解する。

■光（照明）と色（発光色、物体色）の数量化（定量化）と方法の原理を理解し、基礎レベルで自ら数値化（計算）ができるようになることをこの授業の目的の一つとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

★重要

4月20日時点での仮登録者数が大幅に増加しすぎているため、オンライン授業を充実して進めることができない可能性が出てきました。そのため定員制限する場合があります。現在、定員制限するかどうか大学学部事務と相談しています。具体的なことが決定しましたらあらためて掲示板に表示します。なお4/23(木)から授業開始の予定ですが、状況によっては若干遅れる場合があります。

★＜授業の進行＞

授業は4月23日(木)から開始することとし、前期授業をいくつかのブロックに分けて、ブロックごとに授業数回分のテキストをまとめて学習支援システムに掲示するので、各自それに基づいて学習する。各ブロックの授業ごとにレポート課題を学習支援システムで行う。

前期授業では理解度テストを数回に分けて実施する予定である。理解度テストも学習支援システムで行う。

★授業では資料ビデオ映像を利用する予定であるが、2020年度は学習支援システム機能が整ってから実施する予定です。

資料ビデオ映像を用いて色彩工学とは何かを基礎的に理解するとともに、色彩工学が実用の場面でどのように関わっているのかを理解する。

■色の見えに対して光（照明）がいかに強く影響しているのか、実際のデモで体験する。

■色彩工学は「物の色を定量化する＝測る」ことであり、測定機器により光および物体の色彩データ計測を体験する。

■色彩工学の基礎について、配付資料（PowerPoint資料）および推奨する教科書を通じて基礎理論を理解する。

■色彩数値化を実技を通して基礎レベルで計算できるようにする。

■授業ではレポート課題を出題します。各自が課題の解答を作成し、授業支援システムにより解答すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	■応用色彩工学で学ぶ全体講義内容とその必要性について説明する。
2	色の心理評価と色彩工学との関わり－1	■色彩基礎理論について実例と演習で学習する。

3 色の心理評価と色彩工学との関わり－2

4 色の心理評価と色彩工学との関わり－3

5 色の見えの定量化と表色系－1

6 色の見えの定量化と表色系－2

7 色の見えの定量化と表色系－3

8 色の見えの定量化と表色系－4

9 色彩と照明の関係性

10 測光（明るさの定量化）体系－1

11 測光（明るさの定量化）体系－2

12 CIE表色系（国際標準化方法）－1

13 CIE表色系（国際標準化方法）－2

14 応用色彩工学の全講義内容の確認

■色の見えの仕組み（光、物体、目）の基礎を学習する。映像資料1を視聴し、レポートとしてまとめる。

■光（照明）、物体の状態、目の機能（水晶体、網膜など）、脳の中核による知覚という一連の流れで色が見えることについて、生理学的、心理学的な基礎知識を習得する。映像資料2を視聴し、レポートとしてまとめる。

■光の強さ、明るさの数値化（測光量）についても学習する。映像資料3を視聴し、レポートとしてまとめる。

■混色系、顕色系、マンセル表色系などの概要を学習の基礎を学習する。映像資料4を視聴し、レポートとしてまとめる。

■色を数値で表示するための加法混色による表色系の基礎を学習する。映像資料5を視聴し、レポートとしてまとめる。

■物体の反射特性と色の見えとの関係について学習する。映像資料6を視聴し、レポートとしてまとめる。

■物の色の見え方は照明の影響をく受ける。授業ではデモンストレーションで確認しながらその関係を理論的に学ぶ。映像資料7を視聴し、レポートとしてまとめる。

■国際標準化されている測光システムであるCIE(国際照明委員会)の基礎を学ぶ。

■明るさの定量化（測光量の計算）の基礎を学び、Excelシートで計算する。

■色の物理測定について、実際に色票（または染色布）の色を測定し、三刺激値と色度を計算することで測色の基礎を習得する。

■照明光の分光分布測定のプロセスを通して、光と物の色の関係をCIE表色系に基づいた色の数値計算のExcelシートを作成し、理解する。

■応用色彩工学の授業内容の重要ポイントを総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムを用いた課題レポートでは、自ら様々な参考資料（書籍、インターネットなど）に基づいて調査・分析・整理し、PowerPointまたはWord文書にまとめる。まとめた課題レポートを学習支援システムで指定日時までに解答する。

【テキスト（教科書）】

推奨教科書

大田 登 著、「色彩工学」、(東京電気大学出版局)

【参考書】

必要に応じて授業にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、

■レポート課題・理解度テストの内容により採点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題にはExcel計算課題があるので各自Excelが使用できるパソコンが必要である。

【その他の重要事項】

■総合電機会社および照明機器会社の研究開発部門、商品企画部門、営業部門、技術総責任者、技術採用責任者など30数年間の経験を踏まえ、学生の皆さんには社会で活かすための学び、考え方も学んでもらいたいという精神で講義する。

◆課題資料の作成、計算を行うため、Microsoft OfficeのPowerPoint(パワーポイント)、Excel、Wordの基本機能を使いこなせることが必要。なおMac形式のデータは受け付けない。

【Outline and objectives】

"Communication based on color" is becoming more and more important, but its basic concept is "color management (color management)". Scientifically grasping the "color of the illuminated object", that is, "quantification of color", which handles color numerically, is a basic technology. The internationally standardized method for color quantification (quantification) has been established as "Colorimetry", and the quantification of light has been established as "Photometry". In this class, you will learn the basics of colorimetry, the principles and formulation of photometry, and international standardization methods. The purpose of this class is not to emphasize theory, but to understand color engineering extensively from an applied standpoint. In the class, video images will be used as supplementary materials as much as possible. In addition, it is important to actually see the light and color, and a demonstration of the equipment will be provided.

DES200ND

デザインシンキング

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインというキーワードをここでは広義に「問題解決・新たな価値創造」ととらえます。

デザインすることは、外観・設計・人的関係性の問題を解決し、魅力的な価値を創造するということであり、デザインシンキングとは問題解決・価値創造のための思考法・手法といえます。

デザインシンキングのプロセスをワークショップ形式で追いながら、問題解決や価値創造の手法を実践的に学ぶことを目的とします。

【到達目標】

ティム・ブラウンが提唱した「デザインシンキング」は、製品やサービスの開発手法として今日では多くの企業・開発者に影響を与えています。デザインシンキングに含まれる多くの重要なプロセスを理解し、説得力があり新鮮で魅力的な提案をする力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

デザインシンキングのプロセスを追いながら、少人数のチームによるワークショップ形式で進めます。

参加学生には、積極的なディスカッションやプレゼンテーションへの参加が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	全体ガイダンス 第1テーマ 課題説明 グループ分け ワークショップ	全体概要説明 アイスブレイク 分析 要素の解体・抽出 インサイトの共有
2	第1テーマ ワークショップ	アイデア・テーマ考案 グループ再編 アイデア展開 プロトタイプ・プレゼンテーション制作
3	第1テーマ 最終プレゼンテーション	第1テーマ 最終案発表会 まとめ
4	第2テーマ 情報収集・情報整理・発案に関するスキル習得 ワークショップ	情報収集・情報整理・発案プロセスに関する有用なスキルをワークショップ形式で習得する。
5	第3テーマ 課題説明 グループ分け フィールドワーク予備調査 ワークショップ	課題概要説明 観察場所の抽出・選択 現地視察（個人） 観察まとめ 場所と企画の設定 グループ再編
6	第3テーマ フィールドワーク 現地調査 インタビュー	現地調査観察（グループ） 情報共有・考察 インタビュー フィールドワークの調査結果・考察 プロトタイプ・最終プレゼンテーション準備
7	第3テーマ 最終プレゼンテーション 総評	第3テーマ 最終案発表会 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にまとまりきれない作業は、時間外で自主的に行ってもらいます。各課題の終了後は、企画提案書を美しくまとめ、レポートとして提出してもらいます。

自らの生活を注意深く観察すること。

日常の中で感じる不便な要素を常に記憶し、改善方法を考察する事。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「デザイン思考が世界を変える」（ティム・ブラウン：早川書房）

【参考書】

「デザイン思考ファシリテーションガイドブック」（イトーキオフィス研究所/社）デザイン思考研究所

<http://www.itoki.jp/catalog/special/designthinking/pdf/designthinking.pdf>

【成績評価の方法と基準】

授業参加度の平常点評価を40点、最終プレゼンテーション内容を40点、提出レポートを20点とする。

総合点が90点以上をA+、90点未満80点以上をA、80点未満70点以上をB、70点未満60点以上をC、60点未満をDとする。

ただし、1点でも提出レポートが欠けている者はDとする。

1コマ欠席-10点、遅刻-5点。ただし、5コマ以上欠席した者はDとする。

（なお、病欠、忌引き、SSI大会、公式練習等は欠席対象から除外、ただし当該証明書を提出する事。）

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に必要なソフトウェアを各自のPCに入れておく。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline and objectives】

This group workshop aims to take the word 'design' as a 'problem-solving method that creates new value'. To design something is to resolve issues in appearance, structure, human interface and interaction, and consecutively to create new values. The actual process of 'design thinking' is practiced through project-based learning.

FRI300ND

Web サイト構築演習 (2014 年度以前入学生用)

関口 和真

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のウェブサイト構築に用いられるサーバーサイドプログラムとフロントエンドプログラムについて、実習を通して理解、活用方法を学習する。JavaScript の知識を学習し、スマートフォン上で動作するアプリケーションやサーバーサイドと連携する仕組みを作ることを目的とする。Web サイト構築技術は日々進化しているため、できるだけ現状に即した技術を活用する。

【到達目標】

この授業では、実習を通して、現在のウェブサイト構築に用いられる技術がどのようなものであり、どういう状況において適用できるかを把握、理解する。Web サイト構築のためにさまざまな技術の活用を考察できるようになることを目的としている。スマートフォン向けの Web サイト作成、JS を利用したプログラム作成、PHP 及び JS を利用したサーバーサイド＋フロントエンドプログラムが作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

PC を利用した実技を中心として、授業を進める。事例及び技術の概要説明はパワーポイントなどで提示していく。技術の概要説明及び一部のプログラムコードは資料として配付する。毎回授業内で作成したものを提出して貰う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	HTML5、CSS3 の概要	HTML5 及び CSS3 を利用した Web サイトの構築
2 回	スマートフォン向け Web サイトの構築	スマートフォン向け Web サイトの構築技法 スマートフォン独自のルール
3 回	Node.js のインストールと、コマンド	Node.js をインストールし、利用できるようにする
4 回	NPMScript の利用、Babel の設定	Node.js 上に NPMScript の利用方法、および Babel の設定
5 回	JavaScript (JS) の基本理解	JS (ES6) の基本知識 JS を利用した簡単なプログラムの作成
6 回	JS を利用したプログラム作成	JS を利用したプログラム作成
7 回	JS によるインタラクティブなコンテンツ	JS を利用したインタラクティブなコンテンツの作成
8 回	HTML5 関連 API の JavaScript を通した利用	HTML5 関連 API の利用 GeolocationAPI、GoogleMap へのマッピング localStorage の利用
9 回	サーバーサイドプログラムの基本的概念	ローカルサーバーの環境構築、サーバーサイドプログラムの基本概念理解
10 回	PHP の基本文法と HTML 出力	簡単な PHP プログラムの作成と表示確認 HTML への埋め込み
11 回	PHP における変数の引き渡し方法	問い合わせフォームの作成とセッションを跨ぐ変数の引き渡し方法
12 回	問い合わせフォームの確認画面作成	PHP による問い合わせフォームの確認画面の表示方法、PHP からのメール送信の仕方
13 回	JS と PHP プログラムの連携	JavaScript と PHP プログラムの連携方法 JSON の扱い
14 回	プログラムエラー対応	プログラムエラー処理の修正方法、テストの方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

連続した項目を扱うため、前回の授業で行ったことを着実に把握しておく。授業に欠席した場合、次の授業で追いつけるように準備しておくこと。HTML 及び CSS を理解し、記述が可能であることを前提とする。何らかのプログラミング言語が使える方が、理解がしやすい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要な資料は配付する。教科書は使用しない。

【参考書】

玉川 純著『入門 JavaScript フロントエンドエンジニアになるための基本と実践スキル』、翔泳社、2018
狩野 祐東『動かしながらさくっと身につく 今こそホンキで覚える JavaScript[JS/ES2016 対応]』、ソシム、2019
エビスコム著『HTML5&CSS3 デザイン 現場の新標準ガイド』、マイナビ出版、2017
リブワークス著『スラスラ読める PHP ふりがなプログラミング』、インプレス、2019

【成績評価の方法と基準】

授業内の作成物を毎回提出（40%）、最終課題（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗が早いという意見がたまにあるが、適宜進捗状況を確認して進める。制作環境の構築に失敗する学生に対しては、資料に明示し、必要に応じて個別対応を行う。

【学生が準備すべき機器他】

以下のソフトをあらかじめインストールし、利用できる状態にしておくこと。
・ VisualStudioCode 最新版（必要に応じてプラグインを導入する）
・ GoogleChrome 最新版
・ エディタ（EmEditor、mi、TeraPad、秀丸エディタなどから 1 つ）
可能であれば、グラフィック編集ソフト（Photoshop 等）もあると良い。

【その他の重要事項】

各自の PC を利用するため、PC を必ず持参すること。
Mac を利用しても構わないが、授業では Windows を用いて説明を行う。現役の Web システム制作会社で制作を行っている教員が、実務に即した内容を学習の体系に落とし込んで授業を展開する。

【Outline and objectives】

Learn about server side programs and front end programs used for building current websites through understanding and utilization via practical training. This course aims to provide knowledge of JavaScript, in order to create mechanisms to work with applications operating on smartphones and servers.
Website construction technology is evolving day by day, and we will utilize technology as appropriately as possible.

HUI300ND

スマートマシン設計（2018年度以前入学生）

吉見 隆、梶田 秀司、黒河 治久、荒井 裕彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スマートマシンとは先端ロボット工学を応用した次世代の機械である。具体例として、人間型ロボット、自律分散型ロボット、視覚処理システム、産業用ロボット技術について、各分野の専門家が基礎から応用、将来の展望まで紹介する。

【到達目標】

ロボット工学の基礎と現状を把握し、生徒自らが今後の技術開発の展望を描けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、レポート課題（4回、7回、10回）、理解度を見る小テスト（11回、12回、13回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	2足歩行ロボットの研究の歴史について	2足歩行ロボット／ヒューマノイドロボットの研究の歴史を紹介し、技術の現状について述べる。
2	2足歩行と ZMP	2足歩行制御において重要な ZMP（ゼロモーメントポイント）の概念を説明し、これに基づいて歩行パターンを作る手法を具体的に説明する。
3	全身動作生成と安定化制御	ヒューマノイドロボットの全身バランスを考慮した動作生成法と歩行安定化制御の手法について説明する。またヒューマノイドロボット技術の今後の発展について展望を述べる。
4	シミュレータと制御システム	様々なロボット開発に役立つソフトウェアとして、Choreonoid と ROS について紹介する。
5	コントロールモーメントジャイロによる姿勢制御	人工衛星の制御技術、特に姿勢制御について概要を述べる。その中でコントロールモーメントジャイロの制御を、ロボットの運動学と関連させて紹介する。
6	モジュール型ロボット M-TRAN	モジュール型ロボットの歴史と、M-TRAN による運動制御、変形について紹介する。
7	世界の自律分散制御技術の動向について	モジュール型ロボットを含む、分散機械システムや、さらに広く自律分散システムについて、歴史と現状を概説する。
8	コンピュータビジョンの基礎と世界の動向	画像を使って世界の認識を行うコンピュータビジョンの歴史、基礎技術および実用化された応用技術を紹介する。
9	Versatile Volumetric Vision (VVV) 技術の紹介	産総研で開発された VVV というコンピュータビジョンシステムについてその技術体系の概要を紹介する。
10	ロボットとサイエンスフィクション	大勢のロボット工学者の原体験である SF に登場したロボット、人工知能を紹介し、その技術的、社会的な位置づけを考察する。
11	非駆動関節を有するマニピュレータの制御	非駆動関節（モータで駆動されない自由に回転する関節）を有するマニピュレータを動力学的性質を利用して制御する方法を紹介する。（講義後、小テストあり）
12	パワーアシスト技術	ロボット技術によって人間の身体的負荷を軽減するパワーアシスト技術および人間とロボットの協調作業に関する技術を紹介する。（講義後、小テストあり）
13	スピニング加工技術	回転する金属板をローラ工具で希望する形に成形するスピニング加工（へら紋り）に対するロボット制御技術の応用とその成果を紹介する。（講義後、小テストあり）

14 スマートマシン総括

レポートの総括、最新ニュースの紹介。学生からの質問受付など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4回、7回、10回の講義終了時に出題する課題のレポートを翌週提出すること。（11～13回はレポートのかわりに授業中に簡単な小テストを行う）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【参考書】

梶田編著「ヒューマノイドロボット」オーム社

村田、黒河著「自己組織機械システムの設計論」オーム社

【成績評価の方法と基準】

出席、レポート、小テストに基づいて採点

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【その他の重要事項】

本講義の履修に際しては線形代数と微積分に関する知識が必要。

履修条件として、2年次に「メカトロニクス」、「メカトロニクス演習」、「ロボットデザイン」、「機械の機構と設計」、「福祉工学」のうち少なくとも一つの科目を受講済みであること。

国立研究機関において研究員として勤務する教員が、ロボット工学の基礎から応用、将来展望について講義する。

【Outline and objectives】

Smart machines are the next generation of machines based on advanced robotics engineering. As examples, humanoid robots, autonomous distributed robots, vision processing systems, and industrial robot technologies will be explained by specialists of their field from fundamentals to future pathways.

DES300ND

プロダクトデザイン理論

佐藤 康三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

■注意・2020 年度開講期は変更となりました。

A 期集中、火曜日 3 限、金曜日 2 限は、
CD 期火曜日 4 限に変更となりました。

この授業では、プロダクトデザイン（以下 PD）の創造性にとって重点的な要件の基礎理論を学ぶことが出来る。

人間の創造行為としての PD の歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PD と人間工学、PD に多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解することができる。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン（PD）開発プロセス概要の理解。PD 企画の理解。PD フォームの理解。PD と素材、素材表面処理の理解。PD の量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

2020 講義期、時限の変更

講義は A 期集中講義となります。火曜日 5 限と金曜日 2 限で行予定でしたが CD 期火曜日 4 限への変更となります。

プロダクトデザインの設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関する講義および現代のプロダクデザインが成立するまでの近代デザインの歴史の文脈および

そのデザイン思想の背景の講義を 1 週おきに行います。

講義ノートを必ずとる事。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・ 素材基礎 1	授業概要説明 素材基礎 1： PD でよく使用する基本素材 1
2	プロダクトデザインとは 現在のデザインフォルム 分類	プロダクトデザインの意味、文化的文脈の重要性、製品デザインの概要 現在のデザインフォルム分類
3	素材基礎 2	素材の比重等素材特性に付いて
4	産業革命とデザイン 新古典からアールヌー ボー について	近代デザインの主なムーブメント 新古典主義について アールヌーボーの背景と意味、表現について
5	プラスチックについて	工業製品でよく使用されるプラスチックの特性について
6	ディ・ステール ロシア構成主義	工業デザイン黎明期について セゼッション ディ・ステール、ロシア構成主義の背景と意味、表現について
7	新素材について	炭素繊維等の新素材特性と製品デザインの関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する

各回の講義ノートをまとめ講義ノートを充実させる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

世界デザイン史、安倍公正監修：美術出版社：¥2500

PRODUCT AND FURNITURE DESIGN/Thames & Hudson/Rob Thompson

PROTOTYPING AND LOW-VOLUME PRODUCTION /Thames & Hudson/Rob Thompson

素材とデザインの教科書：日経デザイン編：日経 BP 社

デザイン、新・100 の法則/株式会社 BNK, William Lidwall,Kritina Holden,Jill Butter 著

マテリアルデザイン/彰国社、その他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で 4 回以上の欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。欠席一回につき 4 点、遅刻-2 点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価：

筆記試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を講義する。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn basic theory behind fundamental requirements in product design (PD) creativity.

DES300ND

未来予測デザイン演習（2018年度以前入学生）

安積 伸、三浦 秀彦

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、インクルーシブデザインの考え方と手法について実践演習を通して学びます。

世の中に流通する量産品は、健常者青年男女といった、最大ボリュームゾーンの利用者をターゲットとすることが多く、それ以外は少数ユーザーあるいは極端なユーザーとして量産品のターゲットから排除される傾向がありました。しかし、排除されるユーザーの中には、障がいを持つ人、高齢者、外国人、妊婦、乳幼児とその親なども含まれ、そういった人々の抱える生きづらさは、人生の上で誰の身にも起こりえる普遍的な問題といえるでしょう。これまで極端なユーザーとして切り離されてきた人々をリード・ユーザーとしてプロジェクトに招き、エスノグラフィカルな手法で生活で直面する不具合を観察し、考察、提案、試作、改良、の全プロセスに協力を得ながら、そのユーザーにとって最適な道具を開発します。インクルーシブなデザイン・プロセスを実践的に経験し、デザインによって人々の生活をより快適にすることを目指します。

【到達目標】

本授業では、日常生活に何らかの支障を抱える人をパートナーに招き、インクルーシブなデザインプロセスを行いながら、その人に最適化された日常生活を支える機器を開発する。
また、開発プロセスをビデオ撮影し、プロジェクトの始動から完成までのドキュメント映像作品を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、3～4人のグループワークで行う。

各班、デザインを行う対象として具体的な人物を一名、プロジェクトのパートナー（リードユーザー）として招待し、そのパートナーの抱える日常的問題を観察・調査の中から精査し、問題解決を図るためのデザイン提案を試作、パートナーにフィードバックをもらいながら改良を重ね、最終的なプロダクトを制作する。

また一方で、この一連のプロセスをビデオに収め、調査・問題定義・解決方の考察・試作・フィードバック・改良・完成、という流れをもったビデオ作品として仕上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	課題説明 チーム分け パートナー検討
2	パートナー調査報告発表 問題抽出	生活観察・インタビュー等 アイデア検討 チュートリアル
3	問題定義	初期アイデア発表 ビデオレポート アイデア・コンセプトスケッチ制作 チュートリアル
4	第一試作テスト結果発表 問題定義の強化 改良案検討	第一試作 テスト・ビデオレポート 発表 改良案検討 チュートリアル
5	第二試作テスト結果発表 改良案検討	第二試作 テスト・ビデオレポート 発表 最終試作検討・制作 チュートリアル
6	最終試作テスト結果発表 改良案検討	最終試作 テスト・フィードバック ビデオレポート 発表 最終発表のための映像検討 チュートリアル
7	最終作品発表	ビデオ上映とデモンストレーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修生には、時間外での積極的な制作を期待します。

授業時間外に調査・試作・検証等を行い、週週その様子を映像で発表してもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「インクルーシブデザイン」という発想 ジュリア・カセム(著), 平井康之(監修) ホートン・秋穂(翻訳) フィルムアート社

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

課題提出作品 70 点、制作プロセスの評価を 30 点とします。

総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+, 86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+, 76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+, 66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D とする。

最終作品が未提出な者は評価外とします。

【学生の意見等からの気づき】

進行・制作に関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

履修学生は、パワーポイントやビデオ編集ソフトなど、事前に必要なソフトを各自の PC に入れ、習熟しておくこと。

また、ビデオ映像を撮りためておく大容量の外付 HDD を準備する事が望ましい。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務に必要な知識・経験・考え方に関する指導を行う。

【Outline and objectives】

This project-based learning program focuses on the theme of Inclusive Design. Most mass-produced products are designed to focus on non-handicapped adults to maximize economic efficiency, however the experience of other users such as the older generation, young children and people with disabilities are often not considered enough. In this project, actual users of these categories are invited to help us find the difficulties they face, and students will develop problem-solving concepts through an ethnographic approach and design actual products for optimal results.

FRI300ND

Web デザイン演習（2018年度以前入学生）

関口 和真

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のウェブサイト構築に用いられるサーバーサイドプログラムとフロントエンドプログラムについて、実習を通して理解、活用方法を学習する。**JavaScript**の知識を学習し、スマートフォン上で動作するアプリケーションやサーバーサイドと連携する仕組みを作ることを目的とする。**Web** サイト構築技術は日々進化しているため、できるだけ現状に即した技術を活用する。

【到達目標】

この授業では、実習を通して、現在のウェブサイト構築に用いられる技術がどのようなものであり、どういう状況において適用できるかを把握、理解する。**Web** サイト構築のためにさまざまな技術の活用を考察できるようになることを目的としている
スマートフォン向けの **Web** サイト作成、**JS** を利用したプログラム作成、**PHP** 及び **JS** を利用したサーバーサイド+フロントエンドプログラムが作成することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

PC を利用した実技を中心として、授業を進める
事例及び技術の概要説明はパワーポイントなどで提示していく
技術の概要説明及び一部のプログラムコードは資料として配付する
毎回授業内で作成したものを提出して貰う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	HTML5、CSS3 の概要	HTML5 及び CSS3 を利用した Web サイトの構築
2 回	スマートフォン向け Web サイトの構築	スマートフォン向け Web サイトの構築技法 スマートフォン独自のルール
3 回	Node.js のインストールと、コマンド	Node.js をインストールし、利用できるようにする
4 回	NPMScript の利用、Babel の設定	Node.js 上に NPMScript の利用方法、および Babel の設定
5 回	JavaScript (JS) の基本理解	JS (ES6) の基本知識 JS を利用した簡単なプログラムの作成
6 回	JS を利用したプログラム作成	JS を利用したプログラム作成
7 回	JS によるインタラク	JS を利用したインタラクティブなコンテンツの作成
8 回	HTML5 関連 API の JavaScript を通した利用	HTML5 関連 API の利用 GeolocationAPI、GoogleMap へのマッピング localStorage の利用
9 回	サーバーサイドプログラムの基本的概念	ローカルサーバーの環境構築、サーバーサイドプログラムの基本概念理解
10 回	PHP の基本文法と HTML 出力	簡単な PHP プログラムの作成と表示確認 HTML への埋め込み
11 回	PHP における変数の引き渡し方法	問い合わせフォームの作成とセッションを跨ぐ変数の引き渡し方法
12 回	問い合わせフォームの確認画面作成	PHP による問い合わせフォームの確認画面の表示方法、PHP からのメール送信の仕方
13 回	JS と PHP プログラムの連携	JavaScript と PHP プログラムの連携方法 JSON の扱い
14 回	プログラムエラー対応	プログラムエラー処理の修正方法、テストの方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

連続した項目を扱うため、前回の授業で行ったことを着実に把握しておく
授業に欠席した場合、次回の授業で追いつけるように準備しておくこと
HTML 及び CSS を理解し、記述が可能であることを前提とする
何らかのプログラミング言語が使える方が、理解がしやすい
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要な資料は配付する
教科書は使用しない

【参考書】

玉川 純著『入門 JavaScript フロントエンドエンジニアになるための基本と実践スキル』、翔泳社、2018
狩野 祐東『動かしながらくつと身につく 今こそホンキで覚える JavaScript(JS/ES2016 対応)』、ソシム、2019
エビスコム著『HTML5&CSS3 デザイン 現場の新標準ガイド』、マイナビ出版、2017
リブワークス著『スラスラ読める PHP ふりがなプログラミング』、インプレス、2019

【成績評価の方法と基準】

授業内の作成物を毎回提出（40%）、最終課題（60%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗が早いという意見がたまにあるが、適宜進捗状況を確認して進める。
制作環境の構築に失敗する学生に対しては、資料に明示し、必要に応じて個別対応を行う。

【学生が準備すべき機器他】

以下のソフトをあらかじめインストールし、利用できる状態にしておくこと
・ VisualStudioCode 最新版（必要に応じてプラグインを導入する）
・ GoogleChrome 最新版
・ エディタ（EmEditor、mi、TeraPad、秀丸エディタなどから 1 つ）
可能であれば、グラフィック編集ソフト（Photoshop 等）もあると良い

【その他の重要事項】

各自の PC を利用するため、PC を必ず持参すること
Mac を利用しても構わないが、授業では Windows を用いて説明を行う
現役の Web システム制作会社で制作を行っている教員が、実務に即した内容を学習の体系に落とし込んで授業を展開する

【Outline and objectives】

Learn about server side programs and front end programs used for building current websites through understanding and utilization via practical training. This course aims to provide knowledge of JavaScript, in order to create mechanisms to work with applications operating on smartphones and servers.
Website construction technology is evolving day by day, and we will utilize technology as appropriately as possible.

MAT100ND

微分積分学Ⅹ（2019年度以降入学生）

関口 豊一

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来学んでいく専門分野の背景をなす数学、特に微分積分学の理解に焦点をあてる。

微分積分学は数学のひとつの分野としてはもちろん、あらゆる自然科学を記述するための道具としての側面を持つ。工学系を学ぶ学生にとって理解が不可欠な学問分野のひとつである。ひいては、様々な創作活動において、現象の理解や具体化に活用可能である。

【到達目標】

本講義は、微分積分学の入門として基礎的な事柄から応用まで広く扱い、計算方法のみではなく背景にある考え方を理解するとともに、今後の各専門分野の勉強、ひいては実務（デザイン、エンジニアリング双方）に役立つような知識・考え方を身に付けることを目的としている。従って、その計算過程での論理的な説明や証明問題に対して筋道の通った答えを書く能力と、それを活用する能力の双方の養成を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

微分積分学の諸概念について、数学的に厳密な定義を行うことはもちろん、クリエイティブ、テクノロジーおよびマネジメントでの応用や、それらに必要な問題の解法に関する演習を行う。

本授業は4月24日より開始する。学習支援システムで逐次連絡事項等をアップロードするので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関数と極限 微分法の基礎 1	関数の連続性、極限 微分係数の定義と微分可能性 導関数の定義 初等関数の導関数
2	微分法の基礎 2 微分法の応用 1	関数の和、差、積、商の導関数 合成関数、逆関数の微分法 逆三角関数と双曲線関数 接線、法線の方程式 関数の増減とグラフ
3	微分法の応用 2 不定積分	テイラー展開 原始関数と不定積分の定義 初等関数の不定積分 置換積分と部分積分
4	定積分 1	定積分の定義 初等関数の定積分 面積と体積
5	定積分 2 偏微分 1	広義積分 2 変数関数の偏微分、全微分 2 変数関数の合成関数の微分
6	偏微分 2	2 変数関数の極値 条件付き極値
7	重積分	累次積分 座標変換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成。

返却されたレポート課題の復習。

講義内容の復習と関連した演習問題は各自解いておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

磯島伸 他「コア講義 微分積分」(裳華房)

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)

提出課題 (30 %)

(授業内の演習課題やレポート課題の評価など)

平常点 (10 %)

出席回数の少ない学生は成績の評価をしないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【Outline and objectives】

Calculus as a branch of mathematics is, of course, is on one hand a tool to describe all natural science fields, and to engineering students a vital to understand subject. This course provides the necessary mathematical background for future studies in technical fields, focusing on the understanding of differential and integral calculus.

MAT100ND

微分積分学 Y（2019年度以降入学生）

山田 泰之

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

将来学んでいく専門分野の背景をなす数学、特に微分積分学の理解に焦点をあてる。

微分積分学は数学のひとつの分野としてはもちろん、あらゆる自然科学を記述するための道具としての側面を持つ。工学系を学ぶ学生にとって理解が不可欠な学問分野のひとつである。ひいては、様々な創作活動において、現象の理解や具体化に活用可能である。

【到達目標】

本講義は、微分積分学の入門として基礎的な事柄から応用まで広く扱い、計算方法のみではなく背景にある考え方を理解するとともに、今後の各専門分野の勉強、ひいては実務（デザイン、エンジニアリング双方）に役立つような知識・考え方を身に付けることを目的としている。従って、その計算過程での論理的な説明や証明問題に対して筋道の通った答えを書く能力と、それを活用する能力の双方の養成を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

微分積分学の諸概念について、数学的に厳密な定義を行うことはもちろん、クリエイティブ、テクノロジーおよびマネジメントでの応用や、それらに必要な問題の解法に関する演習を行う。

本授業は 4 月 24 日より開始する。学習支援システムで逐次連絡事項等をアップロードするので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	関数と極限 微分法の基礎 1	関数の連続性、極限 微分係数の定義と微分可能性 導関数の定義 初等関数の導関数
2	微分法の基礎 2 微分法の応用 1	関数の和、差、積、商の導関数 合成関数、逆関数の微分法 逆三角関数と双曲線関数 接線、法線の方程式 関数の増減とグラフ
3	微分法の応用 2 不定積分	テイラー展開 原始関数と不定積分の定義 初等関数の不定積分 置換積分と部分積分
4	定積分 1	定積分の定義 初等関数の定積分 面積と体積
5	定積分 2 偏微分 1	広義積分 2 変数関数の偏微分、全微分 2 変数関数の合成関数の微分
6	偏微分 2	2 変数関数の極値 条件付き極値
7	重積分	累次積分 座標変換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成。

返却されたレポート課題の復習。

講義内容の復習と関連した演習問題は各自解いておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

磯島伸 他「コア講義 微分積分」(裳華房)

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)

提出課題 (30 %)

(授業内の演習課題やレポート課題の評価など)

平常点 (10 %)

出席回数の少ない学生は成績の評価をしないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

N/A

【Outline and objectives】

Calculus as a branch of mathematics is, of course, is on one hand a tool to describe all natural science fields, and to engineering students a vital to understand subject. This course provides the necessary mathematical background for future studies in technical fields, focusing on the understanding of differential and integral calculus.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

最初の開始日は4月22日とし、少なくとも春学期、前半は学習支援システムのオンラインでの講義となる。講義の基本は当面は資料配信型とする。中間でレポートを実施し、最終レポートを行う。
・対面授業ができるようになった時は以下の内容とする。
・授業形態は講義とし、講義資料の配布及びパワーポイント、DVD又はビデオの映写により授業を進める。発表を一部の学生にお願いする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明と共に、各人の現在までのランドスケープとの関わり合いを認識した上で、ランドスケープデザインの授業の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	建替事業のランドスケープ	武蔵野緑町・桜堤団地の建替事例を通じて既存樹木の利活用、建替反対運動と居住者との合意形成、居住者の緑の意識、緑の基本計画、ビオトープの創出、多自然川づくりについて学ぶ。多摩平の森を事例に、既存樹林を活かしたランドスケープ、緑のワークショップ、団地居住者・地域住民の緑の認識について学ぶ。
(4)	都市の森の歴史と価値	造園技術の好事例から学ぶ。明治神宮の森は造園技術として歴史的にも価値が高い、この内容をビデオ視聴により深く知るとともに、都市の森の実態を学ぶ。

- | | | |
|------|---|---|
| (5) | 屋上・壁面・室内緑化の技術の本質 | 屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例から学ぶ。 |
| (6) | ニュータウン事業のランドスケープ | 多摩ニュータウン諏訪、永山、C J Kブロック、タウンハウスの変遷と港北ニュータウンのグリーンマトリックスから学ぶ。多摩・港北・つくばのNTの植生計画の違いを学ぶ。【課題の内容を提示する】 |
| (7) | 日本と世界の造園空間・庭園様式 | 日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。 |
| (8) | ドイツ集合住宅世界遺産 | ベルリンにあるブリッツの集合住宅のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を「ビデオ視聴」と論文から学ぶ。 |
| (9) | ドイツの環境配慮事例 | ドイツの工業都市であるエムシャパークの環境共生を視点とした街の再生とベルリン・ハノーファー等の環境共生事例から学ぶ。「シェーンベルク南部地区自然復元公園」の生物多様性に視点を当て、希少種の保護と公園利用者へのデザイン性の総合化を学ぶ。ドイツの樹木保護条例（民有地の緑も保存）の実態と特徴から学ぶ。 |
| (10) | 海外（イギリス・フランス・アメリカ）のランドスケープ | イギリスのフットパス、フランスの庭園、森・並木、セントラルパークの思想からランドスケープを学ぶ。 |
| (11) | 日本庭園からランドスケープ手法を学ぶ | 日本庭園として造園学会賞受賞作品である「梅小路公園シンボル庭園の設計・現場デザイン」の「ビデオ視聴」から品質管理の向上技術を学ぶ。更に庭園の設計手法からデザインを学ぶ。 |
| (12) | 樹木の重要性和価値 | ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。 |
| (13) | これからのランドスケープ | 今後の社会環境を展望しながら、ランドスケープ技術の関係を概説するが、社会状況により内容は変化する。（テーマパークのランドスケープ、東日本大震災とランドスケープ等） |
| (14) | 課題に関する作品レポートの発表と講評から学ぶ。課題に関する作品レポートの発表と講評から学ぶ。更にランドスケープデザインのまとめ | 作品レポートに関して数名の学生が発表し、質疑応答と講評を行う。ランドスケープデザインの講義のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

対面講義が可能になったら、講義に先だって講師資料を配布する。ただし、学習支援システムにアップした資料は講義前にプリントアウトして講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

課題テーマに関する作品レポート（70%）、レポート（30%）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及び UR リンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。

【Outline and objectives】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
	○	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学科建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

最初の開始日は4月22日とし、少なくとも春学期、前半は学習支援システムのオンラインでの講義となる。講義の基本は当面は資料配信型とする。中間でレポートを実施し、最終レポートを行う。
・対面授業ができるようになった時は以下の内容とする。
・授業形態は講義とし、講義資料の配布及びパワーポイント、DVD 又はビデオの映写により授業を進める。発表を一部の学生にお願いする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、各人の現在までのランドスケープとの関わり合いを認識した上で、ランドスケープデザインの授業の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	建替事業のランドスケープ	武蔵野緑町・桜堤団地の建替事例を通じて既存樹木の利活用、建替反対運動と居住者との合意形成、居住者の緑の意識、緑の基本計画、ビオトープの創出、多自然川づくりについて学ぶ。多摩平の森を事例に、既存樹林を活かしたランドスケープ、緑のワークショップ、団地居住者・地域住民の緑の認識について学ぶ。
(4)	都市の森の歴史と価値	武蔵野緑町・桜堤団地の建替事例を通じて既存樹木の利活用、建替反対運動と居住者との合意形成、居住者の緑の意識、緑の基本計画、ビオトープの創出、多自然川づくりについて学ぶ。多摩平の森を事例に、既存樹林を活かしたランドスケープ、緑のワークショップ、団地居住者・地域住民の緑の認識について学ぶ。

- | | | |
|------|---|---|
| (5) | 屋上・壁面・室内緑化の技術の本質 | 屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例から学ぶ。 |
| (6) | ニュータウン事業のランドスケープ | 多摩ニュータウン諏訪、永山、C J Kブロック、タウンハウスの変遷と港北ニュータウンのグリーンマトリックスから学ぶ。多摩・港北・つくばのNTの植生計画の違いを学ぶ。【課題の内容を提示する】 |
| (7) | 日本と世界の造園空間・庭園様式 | 日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。 |
| (8) | ドイツ集合住宅世界遺産 | ベルリンにあるブリッツの集合住宅のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を「ビデオ視聴」と論文から学ぶ。 |
| (9) | ドイツの環境配慮事例 | ドイツの工業都市であるエムシャパークの環境共生を視点とした街の再生とベルリン・ハノーファー等の環境共生事例から学ぶ。「シェーンベルク南部地区自然復元公園」の生物多様性に視点を当て、希少種の保護と公園利用者へのデザイン性の総合化を学ぶ。ドイツの樹木保護条例（民有地の緑も保存）の実態と特徴から学ぶ。 |
| (10) | 海外（イギリス・フランス・アメリカ）のランドスケープ | イギリスのフットパス、フランスの庭園、森・並木、セントラルパークの思想からランドスケープを学ぶ。 |
| (11) | 日本庭園からランドスケープ手法を学ぶ | 日本庭園として造園学会賞受賞作品である「梅小路公園シンボル庭園の設計・現場デザイン」の「ビデオ視聴」から品質管理の向上技術を学ぶ。更に庭園の設計手法からデザインを学ぶ。 |
| (12) | 樹木の重要性和価値 | ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。 |
| (13) | これからのランドスケープ | 今後の社会環境を展望しながら、ランドスケープ技術の関係を概説するが、社会状況により内容は変化する。（テーマパークのランドスケープ、東日本大震災とランドスケープ等） |
| (14) | 課題に関する作品レポートの発表と講評から学ぶ。課題に関する作品レポートの発表と講評から学ぶ。更にランドスケープデザインのまとめ | 作品レポートに関して数名の学生が発表をし、質疑応答と講評を行う。ランドスケープデザインの講義のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

対面講義が可能になったら、講義に先だって講師資料を配布する。ただし、学習支援システムにアップした資料は講義前にプリントアウトして講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

課題テーマに関する作品レポート（70%）、レポート（30%）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及び UR リンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。

【Outline and objectives】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・最初の開始日は4月22日とし、少なくとも春学期、前半は学習支援システムのオンラインでの講義となる。講義の基本は当面は資料配信型とする。中間でレポートを実施し、最終レポートを行う。
- ・対面授業ができるようになった時は以下の内容とする。
- ・授業形態は講義とし、講義資料の配布及びパワーポイント、DVD又はビデオの映写により授業を進める。発表を一部の学生にお願いする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、各人の現在までのランドスケープとの関わり合いを認識した上で、ランドスケープデザインの授業の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	建替事業のランドスケープ	武蔵野緑町・桜堤団地の建替事例を通じ既存樹木の利活用、建替反対運動と居住者との合意形成、居住者の緑の意識、緑の基本計画、ビオトープの創出、多自然川づくりについて学ぶ。多摩平の森を事例に、既存樹林を活かしたランドスケープ、緑のワークショップ、団地居住者・地域住民の緑の認識について学ぶ。
(4)	都市の森の歴史と価値	造園技術の好事例から学ぶ。明治神宮の森は造園技術として歴史的にも価値が高い、この内容をビデオ視聴により深く知るとともに、都市の森の実態を学ぶ。
(5)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例から学ぶ。

- | | | |
|------|---|--|
| (6) | ニュートン事業のランドスケープ | 多摩ニュートン諏訪、永山、C J Kブロック、タウンハウスの変遷と港北ニュートンのグリーンマトリックスから学ぶ。多摩・港北・つくばのNTの植生計画の違いを学ぶ。【課題の内容を提示する】 |
| (7) | 日本と世界の造園空間・庭園様式 | 日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。 |
| (8) | ドイツ集合住宅世界遺産 | ベルリンにあるブリッツの集合住宅のランドスケープはブルーノタウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を「ビデオ視聴」と論文から学ぶ。 |
| (9) | ドイツの環境配慮事例 | ドイツの工業都市であるエムシャパークの環境共生を視点とした街の再生とベルリン・ハノーファー等の環境共生事例から学ぶ。「シェーンバルク南部地区自然復元公園」の生物多様性に視点を当て、希少種の保護と公園利用者へのデザイン性の総合化を学ぶ。ドイツの樹木保護条例（民有地の緑も保存）の実態と特徴から学ぶ。 |
| (10) | 海外（イギリス・フランス・アメリカ）のランドスケープ | イギリスのフットパス、フランスの庭園、森・並木、セントラルパークの思想からランドスケープを学ぶ。 |
| (11) | 日本庭園からランドスケープ手法を学ぶ | 日本庭園として造園学会賞受賞作品である「梅小路公園シンボル庭園の設計・現場デザイン」の「ビデオ視聴」から品質管理の向上技術を学ぶ。更に庭園の設計手法からデザインを学ぶ。 |
| (12) | 樹木の重要性和価値 | ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木匠の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。 |
| (13) | これからのランドスケープ | 今後の社会環境を展望しながら、ランドスケープ技術の関係を概説するが、社会状況により内容は変化する。（テーマパークのランドスケープ、東日本大震災とランドスケープ等） |
| (14) | 課題に関する作品レポートの発表と講評から学ぶ。課題に関する作品レポートの発表と講評から学ぶ。更にランドスケープデザインのまとめ | 作品レポートに関して数名の学生が発表し、質疑応答と講評を行う。ランドスケープデザインの講義のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

対面講義が可能になったら、講義に先だって講師資料を配布する。ただし、学習支援システムにアップした資料は講義前にプリントアウトして講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

課題テーマに関する作品レポート（70%）、レポート（30%）による。欠席4回以上は原則として単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びURリネージュの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。

【Outline and objectives】

Urban and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design.

建築フォーラム

渡邊 眞理、下吹越 武人、赤松 佳珠子、北山 恒

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築という領域の中ではさまざまな実践がなされている。建築フォーラムでは毎回異なる講師に建築の最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルな建築を実感してもらうことが目標である。

構造分野の最先端の問題は何か？
世界の中で建築家という制度はどのように定められているのか？
ひとつの建築を完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？
建築でも土木でもない新しい分野とは？
アーバンデザインとは具体的にどういうもののなのか？
住まいとその設計との間のギャップとは？
今日コミュニティはどのような意味をもっているか？
こういったさまざまなテーマの講演に参加することは建築という分野のパーソンナリティを形成するのには貢献するだろうし、さらに重要なのは自分が共感できる分野にめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

- 1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。
 - 2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。
 - 3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう
- 以上の技術を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎				◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築フォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、
学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。建築および関連分野の第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14回の連続性が持ち味の通常の授業と1回の講演の繰り返しが特徴の建築フォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を6回の講演に参加することで徐々に身につける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で6回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである（授業計画の項を参照のこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。

9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)
10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマや講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容をまとめ、レポートで授業支援システムに提出する。ワード文書の作成の基本をよく理解すること。レポートには適切な題名をつけること。引用であることを明示してあればレポート文中に他の文献などから引用することは無論 OK だが、ブログなどのインターネットからの引用意図「コピペ」は盗用となり、単位不認定となる場合があるので注意すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

授業参加とレポート内容による。
フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。
6回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90 %）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10 %）として加点される。

【学生の意見等からの気づき】

建築フォーラムはオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、文化についての局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

建築学科所属の学生は授業レポートを授業支援システムのほか I A E サーバーに提出することで、個人の e ポートフォリオ作成および Slideshare への開示が可能となる。詳しくは以下の I A E サーバーの URL で確認のこと。
<https://iae.hosei.ac.jp/>
実務経験との関連：現役の建築家でもある複数の教員が建築をとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 7 名の講師を選定し招聘している。

【Outline and objectives】

In the field of architecture many kinds of practices exist. This architecture forum each time invites different lecturers to report on the front-line of architecture, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:
What are the latest problems in structures?
How are architect organizations formed around the world?
How much effort is required to complete an entire building?
Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?
What exactly is urban design?
What gap exists between a house and its planning?
What are the implications for today's community?
Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

LANe200NA

テクニカルライティングⅩ

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による世界へ向けた情報発信スキル、特に「書く英語」が重要性を増している。本科目では、技術系の職場で必要となる英文作成（テクニカル・ライティング）能力取得に役立つよう、実例の分析や演習を通じて、正確かつ簡潔で明確な英文を書く基礎力を養成する。

【到達目標】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。
- ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。
- ③技術英文の論理展開が理解できる。
- ④基礎的な技術表現を英文化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

技術英語について、文法項目に沿って体系的な学習ができるように配慮された指定教材（下記）を用いて、日本人が陥りがちな欠点を含む英文を、テクニカル・ライティングに相応しく書き換えるポイントを習得する。習得のため、学生に簡単な口頭発表を求める。また、実際の英文を用いた小テストを毎回課し、理解度の定着を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ガイダンス（授業の概要と進め方、成績評価の方法等） ・テクニカル・ライティングとは
第 2 回	単数形と複数形 (Chap.1)、名詞と代名詞 (Chap.2)、形容詞 (Chap.3) ※（ ）内は指定教材の該当章 (Chapter)、以下、同様。	・名詞の単数形・複数形の用法で間違いやすい点、技術英語における代名詞の重要性、形容詞を使う場合の問題点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 3 回	不定冠詞 (Chap.4) と定冠詞 (Chap.6)	・不定冠詞の役割とそれに伴う可算名詞と不可算名詞の区別、定冠詞の役割と誤用しやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 4 回	配分詞 (Chap.5) と重要な形容詞 ANOTHER, OTHER, THE OTHER(S) (Chap.7)	・配分詞（名詞が量的に限定される仕方を示す語句）の種類と正しい使い方、技術英語における another, other, the other(s) の機能、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 5 回	副詞 (Chap.8) と比較法 (Chap.9)	・副詞を使う場合の留意点、比較法表現における問題点、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 6 回	動詞－現在形、現在進行形 (Chap.10) と動詞－現在完了形 (Chap.11)	・日本語と英語の発想の違いの観点から、動詞の現在形と現在進行形の役割や使用にあたっての留意点、動詞の現在完了形の正しい用法などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 7 回	他動詞－自動詞－受動態 (Chap.12) と複合動詞 (Chap.17)	・他動詞と自動詞の区別とそれに付随する受動態の使用に関する留意点、複合動詞（2つ以上の単語で構成される動詞）で代名詞を目的語とする場合の留意点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 8 回	前置詞Ⅰ (Chap.13) と前置詞Ⅱ (Chap.14)	・英語の発想に基づく的確な前置詞の選択や他の単語との組み合わせについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 9 回	助動詞Ⅰ (Chap.15) と助動詞Ⅱ (Chap.16)	・助動詞を使用するにあたって誤用しやすい点、さまざまな助動詞の意味や役割などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 10 回	形式主語 (Chap.18) と句 (Chap.20)	・形式主語 (It, there) を使用するべき場合、句の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第 11 回 節 (Chap.21)

・節について、節の役割と機能ならびにそれに関連した句読法（句読点の打ち方）、論理性などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）

第 12 回 接続詞 (Chap.19)

・接続詞の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）

第 13 回 総括復習

・テクニカル・ライティングの基礎事項の理解を定着させるため、第 2 回～第 12 回までを通じて学んだ事項を復習する。
・実例演習（小テスト）
・授業で取り上げた例文と同等の英文を書く能力を測定し、本科目の全体を通じて得られた知識の定着度を評価する。
・理解度測定（テスト形式）

第 14 回 理解度測定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教材（テキストおよびプリント）の予習（不明語彙の確認、英文和訳、和文英訳）
・授業中に取り上げた例文の復習（暗記）
・課題（小テストおよびレポート）の復習（返却された講評の確認と再演習）
※ 予習してあることを前提として授業を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・フランシス・J・クディラ、ブライアン・J・フリン著「技術英語の基盤〔改訂新版〕」（朝日出版社）
・上記のほか適宜、プリント教材を配布

【参考書】

・片岡英樹著「技術英文の書き方 55 のルール」（創元社）
・杉原厚吉著「理科系のための英文作法―文章をなめらかに」（中公新書）
・山本忠著「工業英語ハンドブック」（日本能率協会マネジメントセンター）
・「工業英検 3 級対策」（日本工業英語協会）
・「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）
・伊藤功康「逆転の英文法―ネイティブの発想をときあかす―」（NHK 出版新書）

【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。→ 平常点 2 点＋期末試験 3 点＝小計 5 点
 - ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。→ 平常点 20 点＋期末試験 30 点＝小計 50 点
 - ③技術英文の論理展開が理解できる。→ 平常点 4 点＋期末試験 6 点＝小計 10 点
 - ④基礎的な技術表現を英文化できる。→ 平常点 14 点＋期末試験 21 点＝小計 35 点
- ・平常点には、小テストと質疑応答・発表等が含まれる。
・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・文法事項とテクニカル・ライティングとの関連性についてより体系的に学習できるよう、テキストにおける類似事項を同一授業で扱うようにシラバスを構成している。
・授業内に適宜、英文の書き方練習を含める。
・英文の書き方練習について、学生を指名して解答を発表してもらう等、教員との間でコミュニケーションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】

・授業にはパワーポイント（液晶プロジェクト映写）を使用する。
・プリント教材の配布や課題の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

※ 学生の習熟状況等に応じて進度や内容を調整することがある。
※ X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

テクニカルライティングⅩ

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による世界へ向けた情報発信スキル、特に「書く英語」が重要性を増している。本科目では、技術系の職場で必要となる英文作成（テクニカル・ライティング）能力取得に役立つよう、実例の分析や演習を通じて、正確かつ簡潔で明確な英文を書く基礎力を養成する。

【到達目標】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。
- ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。
- ③技術英文の論理展開が理解できる。
- ④基礎的な技術表現を英文化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

技術英語について、文法項目に沿って体系的な学習ができるように配慮された指定教材（下記）を用いて、日本人が陥りがちな欠点を含む英文を、テクニカル・ライティングに相応しく書き換えるポイントを習得する。習得のため、学生に簡単な口頭発表を求める。また、実際の英文を用いた小テストを毎回課し、理解度の定着を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ガイダンス（授業の概要と進め方、成績評価の方法等） ・テクニカル・ライティングとは
第 2 回	単数形と複数形 (Chap.1)、名詞と代名詞 (Chap.2)、形容詞 (Chap.3) ※（ ）内は指定教材の該当章 (Chapter)、以下、同様。	・名詞の単数形・複数形の用法で間違いやすい点、技術英語における代名詞の重要性、形容詞を使う場合の問題点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 3 回	不定冠詞 (Chap.4) と定冠詞 (Chap.6)	・不定冠詞の役割とそれに伴う可算名詞と不可算名詞の区別、定冠詞の役割と誤用しやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 4 回	配分詞 (Chap.5) と重要な形容詞 ANOTHER, OTHER, THE OTHER(S) (Chap.7)	・配分詞（名詞が量的に限定される仕方を示す語句）の種類と正しい使い方、技術英語における another, other, the other(s) の機能、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 5 回	副詞 (Chap.8) と比較法 (Chap.9)	・副詞を使う場合の留意点、比較法表現における問題点、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 6 回	動詞－現在形、現在進行形 (Chap.10) と動詞－現在完了形 (Chap.11)	・日本語と英語の発想の違いの観点から、動詞の現在形と現在進行形の役割や使用にあたっての留意点、動詞の現在完了形の正しい用法などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 7 回	他動詞－自動詞－受動態 (Chap.12) と複合動詞 (Chap.17)	・他動詞と自動詞の区別とそれに付随する受動態の使用に関する留意点、複合動詞（2つ以上の単語で構成される動詞）で代名詞を目的語とする場合の留意点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 8 回	前置詞Ⅰ (Chap.13) と前置詞Ⅱ (Chap.14)	・英語の発想に基づく的確な前置詞の選択や他の単語との組み合わせについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 9 回	助動詞Ⅰ (Chap.15) と助動詞Ⅱ (Chap.16)	・助動詞を使用するにあたって誤用しやすい点、さまざまな助動詞の意味や役割などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 10 回	形式主語 (Chap.18) と句 (Chap.20)	・形式主語 (It, there) を使用するべき場合、句の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第 11 回 節 (Chap.21)

第 12 回 接続詞 (Chap.19)

第 13 回 総括復習

第 14 回 理解度測定

- ・節について、節の役割と機能ならびにそれに関連した句読法（句読点の打ち方）、論理性などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・接続詞の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・テクニカル・ライティングの基礎事項の理解を定着させるため、第 2 回～第 12 回までを通じて学んだ事項を復習する。
・実例演習（小テスト）
- ・授業で取り上げた例文と同等の英文を書く能力を測定し、本科目の全体を通じて得られた知識の定着度を評価する。
・理解度測定（テスト形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教材（テキストおよびプリント）の予習（不明語彙の確認、英文和訳、和文英訳）
 - ・授業中に取り上げた例文の復習（暗記）
 - ・課題（小テストおよびレポート）の復習（返却された講評の確認と再演習）
- ※ 予習してあることを前提として授業を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・フランシス・J・クディラ、ブライアン・J・フリン著「技術英語の基盤〔改訂新版〕」（朝日出版社）
- ・上記のほか適宜、プリント教材を配布

【参考書】

- ・片岡英樹著「技術英文の書き方 55 のルール」（創元社）
- ・杉原厚吉著「理科系のための英文作法―文章をなめらかに」（中公新書）
- ・山本忠著「工業英語ハンドブック」（日本能率協会マネジメントセンター）
- ・「工業英検 3 級対策」（日本工業英語協会）
- ・「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）
- ・伊藤効康「逆転の英文法―ネイティブの発想をときあかす―」（NHK 出版新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。→ 平常点 2 点＋期末試験 3 点＝小計 5 点
 - ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。→ 平常点 20 点＋期末試験 30 点＝小計 50 点
 - ③技術英文の論理展開が理解できる。→ 平常点 4 点＋期末試験 6 点＝小計 10 点
 - ④基礎的な技術表現を英文化できる。→ 平常点 14 点＋期末試験 21 点＝小計 35 点
- ・平常点には、小テストと質疑応答・発表等が含まれる。
 - ・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
 - ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・文法事項とテクニカル・ライティングとの関連性についてより体系的に学習できるよう、テキストにおける類似事項を同一授業で扱うようにシラバスを構成している。
- ・授業内に適宜、英文の書き方練習を含める。
- ・英文の書き方練習について、学生を指名して解答を発表してもらう等、教員との間でコミュニケーションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業にはパワーポイント（液晶プロジェクト映写）を使用する。
- ・プリント教材の配布や課題の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ※ 学生の習熟状況等に応じて進度や内容を調整することがある。
- ※ X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

テクニカルライティングⅩ

大友 敬三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による世界へ向けた情報発信スキル、特に「書く英語」が重要性を増している。本科目では、技術系の職場で必要となる英文作成（テクニカル・ライティング）能力取得に役立つよう、実例の分析や演習を通じて、正確かつ簡潔で明確な英文を書く基礎力を養成する。

【到達目標】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。
- ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。
- ③技術英文の論理展開が理解できる。
- ④基礎的な技術表現を英文化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

技術英語について、文法項目に沿って体系的な学習ができるように配慮された指定教材（下記）を用いて、日本人が陥りがちな欠点を含む英文を、テクニカル・ライティングに相応しく書き換えるポイントを習得する。習得のため、学生に簡単な口頭発表を求める。また、実際の英文を用いた小テストを毎回課し、理解度の定着を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ガイダンス（授業の概要と進め方、成績評価の方法等） ・テクニカル・ライティングとは
第 2 回	単数形と複数形 (Chap.1)、名詞と代名詞 (Chap.2)、形容詞 (Chap.3) ※（ ）内は指定教材の該当章 (Chapter)、以下、同様。	・名詞の単数形・複数形の用法で間違いやすい点、技術英語における代名詞の重要性、形容詞を使う場合の問題点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 3 回	不定冠詞 (Chap.4) と定冠詞 (Chap.6)	・不定冠詞の役割とそれに伴う可算名詞と不可算名詞の区別、定冠詞の役割と誤用しやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 4 回	配分詞 (Chap.5) と重要な形容詞 ANOTHER, OTHER, THE OTHER(S) (Chap.7)	・配分詞（名詞が量的に限定される仕方を示す語句）の種類と正しい使い方、技術英語における another, other, the other(s) の機能、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 5 回	副詞 (Chap.8) と比較法 (Chap.9)	・副詞を使う場合の留意点、比較法表現における問題点、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 6 回	動詞－現在形、現在進行形 (Chap.10) と動詞－現在完了形 (Chap.11)	・日本語と英語の発想の違いの観点から、動詞の現在形と現在進行形の役割や使用にあたっての留意点、動詞の現在完了形の正しい用法などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 7 回	他動詞－自動詞－受動態 (Chap.12) と複合動詞 (Chap.17)	・他動詞と自動詞の区別とそれに付随する受動態の使用に関する留意点、複合動詞（2つ以上の単語で構成される動詞）で代名詞を目的語とする場合の留意点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 8 回	前置詞Ⅰ (Chap.13) と前置詞Ⅱ (Chap.14)	・英語の発想に基づく的確な前置詞の選択や他の単語との組み合わせについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 9 回	助動詞Ⅰ (Chap.15) と助動詞Ⅱ (Chap.16)	・助動詞を使用するにあたって誤用しやすい点、さまざまな助動詞の意味や役割などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 10 回	形式主語 (Chap.18) と句 (Chap.20)	・形式主語 (It, there) を使用するべき場合、句の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第 11 回 節 (Chap.21)

・節について、節の役割と機能ならびにそれに関連した句読法（句読点の打ち方）、論理性などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）

第 12 回 接続詞 (Chap.19)

・接続詞の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）

第 13 回 総括復習

・テクニカル・ライティングの基礎事項の理解を定着させるため、第 2 回～第 12 回までを通じて学んだ事項を復習する。
・実例演習（小テスト）

第 14 回 理解度測定

・授業で取り上げた例文と同等の英文を書く能力を測定し、本科目の全体を通じて得られた知識の定着度を評価する。
・理解度測定（テスト形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教材（テキストおよびプリント）の予習（不明語彙の確認、英文和訳、和文英訳）
・授業中に取り上げた例文の復習（暗記）
・課題（小テストおよびレポート）の復習（返却された講評の確認と再演習）
※ 予習してあることを前提として授業を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・フランシス・J・クディラ、ブライアン・J・フリン著「技術英語の基盤〔改訂新版〕」（朝日出版社）
・上記のほか適宜、プリント教材を配布

【参考書】

・片岡英樹著「技術英文の書き方 55 のルール」（創元社）
・杉原厚吉著「理科系のための英文作法―文章をなめらかに」（中公新書）
・山本忠著「工業英語ハンドブック」（日本能率協会マネジメントセンター）
・「工業英検 3 級対策」（日本工業英語協会）
・「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）
・伊藤効康「逆転の英文法―ネイティブの発想をときあかす―」（NHK 出版新書）

【成績評価の方法と基準】

・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。→ 平常点 2 点＋期末試験 3 点＝小計 5 点
 - ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。→ 平常点 20 点＋期末試験 30 点＝小計 50 点
 - ③技術英文の論理展開が理解できる。→ 平常点 4 点＋期末試験 6 点＝小計 10 点
 - ④基礎的な技術表現を英文化できる。→ 平常点 14 点＋期末試験 21 点＝小計 35 点
- ・平常点には、小テストと質疑応答・発表等が含まれる。
・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

・文法事項とテクニカル・ライティングとの関連性についてより体系的に学習できるよう、テキストにおける類似事項を同一授業で扱うようにシラバスを構成している。
・授業内に適宜、英文の書き方練習を含める。
・英文の書き方練習について、学生を指名して解答を発表してもらう等、教員との間でコミュニケーションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】

・授業にはパワーポイント（液晶プロジェクト映写）を使用する。
・プリント教材の配布や課題の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

※ 学生の習熟状況等に応じて進度や内容を調整することがある。
※ X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

テクニカルライティングⅣ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による世界へ向けた情報発信スキル、特に「書く英語」が重要性を増している。本科目では、技術系の職場で必要となる英文作成（テクニカル・ライティング）能力取得に役立つよう、実例の分析や演習を通じて、正確かつ簡潔で明確な英文を書く基礎力を養成する。

【到達目標】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。
- ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。
- ③技術英文の論理展開が理解できる。
- ④基礎的な技術表現を英文化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

技術英語について、文法項目に沿って体系的な学習ができるように配慮された指定教材（下記）を用いて、日本人が陥りがちな欠点を含む英文を、テクニカル・ライティングに相応しく書き換えるポイントを習得する。習得のため、学生に簡単な口頭発表を求める。また、実際の英文を用いた小テストを毎回課し、理解度の定着を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ガイダンス（授業の概要と進め方、成績評価の方法等） ・テクニカル・ライティングとは
第 2 回	単数形と複数形 (Chap.1)、名詞と代名詞 (Chap.2)、形容詞 (Chap.3) ※（ ）内は指定教材の該当章 (Chapter)、以下、同様。	・名詞の単数形・複数形の用法で間違いやすい点、技術英語における代名詞の重要性、形容詞を使う場合の問題点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 3 回	不定冠詞 (Chap.4) と定冠詞 (Chap.6)	・不定冠詞の役割とそれに伴う可算名詞と不可算名詞の区別、定冠詞の役割と誤用しやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 4 回	配分詞 (Chap.5) と重要な形容詞 ANOTHER, OTHER, THE OTHER(S) (Chap.7)	・配分詞（名詞が量的に限定される仕方を示す語句）の種類と正しい使い方、技術英語における another, other, the other(s) の機能、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 5 回	副詞 (Chap.8) と比較法 (Chap.9)	・副詞を使う場合の留意点、比較法表現における問題点、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 6 回	動詞－現在形、現在進行形 (Chap.10) と動詞－現在完了形 (Chap.11)	・日本語と英語の発想の違いの観点から、動詞の現在形と現在進行形の役割や使用にあたっての留意点、動詞の現在完了形の正しい用法などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 7 回	他動詞－自動詞－受動態 (Chap.12) と複合動詞 (Chap.17)	・他動詞と自動詞の区別とそれに付随する受動態の使用に関する留意点、複合動詞（2つ以上の単語で構成される動詞）で代名詞を目的語とする場合の留意点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 8 回	前置詞Ⅰ (Chap.13) と前置詞Ⅱ (Chap.14)	・英語の発想に基づく的確な前置詞の選択や他の単語との組み合わせについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 9 回	助動詞Ⅰ (Chap.15) と助動詞Ⅱ (Chap.16)	・助動詞を使用するにあたって誤用しやすい点、さまざまな助動詞の意味や役割などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 10 回	形式主語 (Chap.18) と句 (Chap.20)	・形式主語 (It, there) を使用するべき場合、句の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第 11 回 節 (Chap.21)

第 12 回 接続詞 (Chap.19)

第 13 回 総括復習

第 14 回 理解度測定

- ・節について、節の役割と機能ならびにそれに関連した句読法（句読点の打ち方）、論理性などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・接続詞の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・テクニカル・ライティングの基礎事項の理解を定着させるため、第 2 回～第 12 回までを通じて学んだ事項を復習する。
・実例演習（小テスト）
- ・授業で取り上げた例文と同等の英文を書く能力を測定し、本科目の全体を通じて得られた知識の定着度を評価する。
・理解度測定（テスト形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教材（テキストおよびプリント）の予習（不明語彙の確認、英文和訳、和文英訳）
 - ・授業中に取り上げた例文の復習（暗記）
 - ・課題（小テストおよびレポート）の復習（返却された講評の確認と再演習）
- ※ 予習してあることを前提として授業を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・フランシス・J・クディラ、ブライアン・J・フリン著「技術英語の基盤〔改訂新版〕」（朝日出版社）
- ・上記のほか適宜、プリント教材を配布

【参考書】

- ・片岡英樹著「技術英文の書き方 55 のルール」（創元社）
- ・杉原厚吉著「理科系のための英文作法―文章をなめらかに」（中公新書）
- ・山本忠著「工業英語ハンドブック」（日本能率協会マネジメントセンター）
- ・「工業英検 3 級対策」（日本工業英語協会）
- ・「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）
- ・伊藤効康「逆転の英文法―ネイティブの発想をときあかす―」（NHK 出版新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。→ 平常点 2 点＋期末試験 3 点＝小計 5 点
 - ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。→ 平常点 20 点＋期末試験 30 点＝小計 50 点
 - ③技術英文の論理展開が理解できる。→ 平常点 4 点＋期末試験 6 点＝小計 10 点
 - ④基礎的な技術表現を英文化できる。→ 平常点 14 点＋期末試験 21 点＝小計 35 点
- ・平常点には、小テストと質疑応答・発表等が含まれる。
 - ・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
 - ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・文法事項とテクニカル・ライティングとの関連性についてより体系的に学習できるよう、テキストにおける類似事項を同一授業で扱うようにシラバスを構成している。
- ・授業内に適宜、英文の書き方練習を含める。
- ・英文の書き方練習について、学生を指名して解答を発表してもらう等、教員との間でコミュニケーションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業にはパワーポイント（液晶プロジェクト映写）を使用する。
- ・プリント教材の配布や課題の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ※ 学生の習熟状況等に応じて進度や内容を調整することがある。
- ※ X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

LANe200NA

テクニカルライティングⅣ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による世界へ向けた情報発信スキル、特に「書く英語」が重要性を増している。本科目では、技術系の職場で必要となる英文作成（テクニカル・ライティング）能力取得に役立つよう、実例の分析や演習を通じて、正確かつ簡潔で明確な英文を書く基礎力を養成する。

【到達目標】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。
- ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。
- ③技術英文の論理展開が理解できる。
- ④基礎的な技術表現を英文化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

技術英語について、文法項目に沿って体系的な学習ができるように配慮された指定教材（下記）を用いて、日本人が陥りがちな欠点を含む英文を、テクニカル・ライティングに相応しく書き換えるポイントを習得する。習得のため、学生に簡単な口頭発表を求める。また、実際の英文を用いた小テストを毎回課し、理解度の定着を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ガイダンス（授業の概要と進め方、成績評価の方法等） ・テクニカル・ライティングとは
第 2 回	単数形と複数形 (Chap.1)、名詞と代名詞 (Chap.2)、形容詞 (Chap.3) ※（ ）内は指定教材の該当章 (Chapter)、以下、同様。	・名詞の単数形・複数形の用法で間違いやすい点、技術英語における代名詞の重要性、形容詞を使う場合の問題点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 3 回	不定冠詞 (Chap.4) と定冠詞 (Chap.6)	・不定冠詞の役割とそれに伴う可算名詞と不可算名詞の区別、定冠詞の役割と誤用しやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 4 回	配分詞 (Chap.5) と重要な形容詞 ANOTHER, OTHER, THE OTHER(S) (Chap.7)	・配分詞（名詞が量的に限定される仕方を示す語句）の種類と正しい使い方、技術英語における another, other, the other(s) の機能、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 5 回	副詞 (Chap.8) と比較法 (Chap.9)	・副詞を使う場合の留意点、比較法表現における問題点、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 6 回	動詞－現在形、現在進行形 (Chap.10) と動詞－現在完了形 (Chap.11)	・日本語と英語の発想の違いの観点から、動詞の現在形と現在進行形の役割や使用にあたっての留意点、動詞の現在完了形の正しい用法などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 7 回	他動詞－自動詞－受動態 (Chap.12) と複合動詞 (Chap.17)	・他動詞と自動詞の区別とそれに付随する受動態の使用に関する留意点、複合動詞（2つ以上の単語で構成される動詞）で代名詞を目的語とする場合の留意点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 8 回	前置詞Ⅰ (Chap.13) と前置詞Ⅱ (Chap.14)	・英語の発想に基づく的確な前置詞の選択や他の単語との組み合わせについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 9 回	助動詞Ⅰ (Chap.15) と助動詞Ⅱ (Chap.16)	・助動詞を使用するにあたって誤用しやすい点、さまざまな助動詞の意味や役割などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 10 回	形式主語 (Chap.18) と句 (Chap.20)	・形式主語 (It, there) を使用するべき場合、句の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第 11 回 節 (Chap.21)

第 12 回 接続詞 (Chap.19)

第 13 回 総括復習

第 14 回 理解度測定

- ・節について、節の役割と機能ならびにそれに関連した句読法（句読点の打ち方）、論理性などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・接続詞の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・テクニカル・ライティングの基礎事項の理解を定着させるため、第 2 回～第 12 回までを通じて学んだ事項を復習する。
・実例演習（小テスト）
- ・授業で取り上げた例文と同等の英文を書く能力を測定し、本科目の全体を通じて得られた知識の定着度を評価する。
・理解度測定（テスト形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教材（テキストおよびプリント）の予習（不明語彙の確認、英文和訳、和文英訳）
 - ・授業中に取り上げた例文の復習（暗記）
 - ・課題（小テストおよびレポート）の復習（返却された講評の確認と再演習）
- ※ 予習してあることを前提として授業を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・フランシス・J・クディラ、ブライアン・J・フリン著「技術英語の基盤〔改訂新版〕」（朝日出版社）
- ・上記のほか適宜、プリント教材を配布

【参考書】

- ・片岡英樹著「技術英文の書き方 55 のルール」（創元社）
- ・杉原厚吉著「理科系のための英文作法―文章をなめらかに」（中公新書）
- ・山本忠著「工業英語ハンドブック」（日本能率協会マネジメントセンター）
- ・「工業英検 3 級対策」（日本工業英語協会）
- ・「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）
- ・伊藤功康「逆転の英文法―ネイティブの発想をときあかす―」（NHK 出版新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。→ 平常点 2 点＋期末試験 3 点＝小計 5 点
 - ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。→ 平常点 20 点＋期末試験 30 点＝小計 50 点
 - ③技術英文の論理展開が理解できる。→ 平常点 4 点＋期末試験 6 点＝小計 10 点
 - ④基礎的な技術表現を英文化できる。→ 平常点 14 点＋期末試験 21 点＝小計 35 点
- ・平常点には、小テストと質疑応答・発表等が含まれる。
 - ・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
 - ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・文法事項とテクニカル・ライティングとの関連性についてより体系的に学習できるよう、テキストにおける類似事項を同一授業で扱うようにシラバスを構成している。
- ・授業内に適宜、英文の書き方練習を含める。
- ・英文の書き方練習について、学生を指名して解答を発表してもらう等、教員との間でコミュニケーションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業にはパワーポイント（液晶プロジェクト映写）を使用する。
- ・プリント教材の配布や課題の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ※ 学生の習熟状況等に応じて進度や内容を調整することがある。
- ※ X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

テクニカルライティングⅣ

浅川 英理子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化の進展に伴い、日本人にとっても英語による世界へ向けた情報発信スキル、特に「書く英語」が重要性を増している。本科目では、技術系の職場で必要となる英文作成（テクニカル・ライティング）能力取得に役立つよう、実例の分析や演習を通じて、正確かつ簡潔で明確な英文を書く基礎力を養成する。

【到達目標】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。
- ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。
- ③技術英文の論理展開が理解できる。
- ④基礎的な技術表現を英文化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

技術英語について、文法項目に沿って体系的な学習ができるように配慮された指定教材（下記）を用いて、日本人が陥りがちな欠点を含む英文を、テクニカル・ライティングに相応しく書き換えるポイントを習得する。習得のため、学生に簡単な口頭発表を求める。また、実際の英文を用いた小テストを毎回課し、理解度の定着を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ガイダンス（授業の概要と進め方、成績評価の方法等） ・テクニカル・ライティングとは
第 2 回	単数形と複数形 (Chap.1)、名詞と代名詞 (Chap.2)、形容詞 (Chap.3) ※（ ）内は指定教材の該当章 (Chapter)、以下、同様。	・名詞の単数形・複数形の用法で間違いやすい点、技術英語における代名詞の重要性、形容詞を使う場合の問題点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 3 回	不定冠詞 (Chap.4) と定冠詞 (Chap.6)	・不定冠詞の役割とそれに伴う可算名詞と不可算名詞の区別、定冠詞の役割と誤用しやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 4 回	配分詞 (Chap.5) と重要な形容詞 ANOTHER, OTHER, THE OTHER(S) (Chap.7)	・配分詞（名詞が量的に限定される仕方を示す語句）の種類と正しい使い方、技術英語における another, other, the other(s) の機能、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 5 回	副詞 (Chap.8) と比較法 (Chap.9)	・副詞を使う場合の留意点、比較法表現における問題点、などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 6 回	動詞－現在形、現在進行形 (Chap.10) と動詞－現在完了形 (Chap.11)	・日本語と英語の発想の違いの観点から、動詞の現在形と現在進行形の役割や使用にあたっての留意点、動詞の現在完了形の正しい用法などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 7 回	他動詞－自動詞－受動態 (Chap.12) と複合動詞 (Chap.17)	・他動詞と自動詞の区別とそれに付随する受動態の使用に関する留意点、複合動詞（2つ以上の単語で構成される動詞）で代名詞を目的語とする場合の留意点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 8 回	前置詞Ⅰ (Chap.13) と前置詞Ⅱ (Chap.14)	・英語の発想に基づく的確な前置詞の選択や他の単語との組み合わせについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 9 回	助動詞Ⅰ (Chap.15) と助動詞Ⅱ (Chap.16)	・助動詞を使用するにあたって誤用しやすい点、さまざまな助動詞の意味や役割などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）
第 10 回	形式主語 (Chap.18) と句 (Chap.20)	・形式主語 (It, there) を使用するべき場合、句の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。 ・実例演習（小テスト）

第 11 回 節 (Chap.21)

第 12 回 接続詞 (Chap.19)

第 13 回 総括復習

第 14 回 理解度測定

- ・節について、節の役割と機能ならびにそれに関連した句読法（句読点の打ち方）、論理性などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・接続詞の種類と正しい用法や間違いやすい点などについて学ぶ。
・実例演習（小テスト）
- ・テクニカル・ライティングの基礎事項の理解を定着させるため、第 2 回～第 12 回までを通じて学んだ事項を復習する。
・実例演習（小テスト）
- ・授業で取り上げた例文と同等の英文を書く能力を測定し、本科目の全体を通じて得られた知識の定着度を評価する。
・理解度測定（テスト形式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教材（テキストおよびプリント）の予習（不明語彙の確認、英文和訳、和文英訳）
 - ・授業中に取り上げた例文の復習（暗記）
 - ・課題（小テストおよびレポート）の復習（返却された講評の確認と再演習）
- ※ 予習してあることを前提として授業を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・フランシス・J・クディラ、ブライアン・J・フリン著「技術英語の基盤〔改訂新版〕」（朝日出版社）
- ・上記のほか適宜、プリント教材を配布

【参考書】

- ・片岡英樹著「技術英文の書き方 55 のルール」（創元社）
- ・杉原厚吉著「理科系のための英文作法―文章をなめらかに」（中公新書）
- ・山本忠著「工業英語ハンドブック」（日本能率協会マネジメントセンター）
- ・「工業英検 3 級対策」（日本工業英語協会）
- ・「工業英検 4 級対策」（日本工業英語協会）
- ・伊藤功康「逆転の英文法―ネイティブの発想をときあかす―」（NHK 出版新書）

【成績評価の方法と基準】

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末試験により到達度を測定（点数化）し、100 点満点として総合的に成績評価する（60 点以上が合格）。平常点と期末試験の配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①テクニカルライティングにおける 3C を説明できる。→ 平常点 2 点＋期末試験 3 点＝小計 5 点
 - ②技術英文における正しい文法や用法を習得できる。→ 平常点 20 点＋期末試験 30 点＝小計 50 点
 - ③技術英文の論理展開が理解できる。→ 平常点 4 点＋期末試験 6 点＝小計 10 点
 - ④基礎的な技術表現を英文化できる。→ 平常点 14 点＋期末試験 21 点＝小計 35 点
- ・平常点には、小テストと質疑応答・発表等が含まれる。
 - ・期末試験とは、辞書やノートなどを参照しない筆記試験を指す。
 - ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可（評価：D）とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・文法事項とテクニカル・ライティングとの関連性についてより体系的に学習できるよう、テキストにおける類似事項を同一授業で扱うようにシラバスを構成している。
- ・授業内に適宜、英文の書き方練習を含める。
- ・英文の書き方練習について、学生を指名して解答を発表してもらう等、教員との間でコミュニケーションを促進する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・授業にはパワーポイント（液晶プロジェクト映写）を使用する。
- ・プリント教材の配布や課題の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ※ 学生の習熟状況等に応じて進度や内容を調整することがある。
- ※ X クラス（B3014）を担当する教員（大友）は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

With growing globalization, worldwide communication skills in English have become more important for most Japanese. This subject will cultivate elementary skills for developing concise, clear and correct English through analysis and exercises using practical technical English. As a result, registered students will acquire the ability to handle writing in English which may be required at in their career and beyond.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して解析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【4月23日開講。4月23日に資料をすでに学習支援システムに配布済み。】
← 連絡遅くなりすみません。

- ※ zoom を利用したオンライン授業を開催（木曜日 5 時限目）と学習支援システムの併用
- ※学習支援システム上で随時しこちらから必要事項をお知らせ
- ※「授業内掲示板」で各種質問等を行ってください。
- 配布資料の内容について演習を交えながら講義し、さらに内容を具体的に把握する目的で数値実験も行う。授業の最後にミニテスト形式で講義内容の復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概論 確率（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認する。
2	確率（2）	事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
3	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
4	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（3）	連続確率変数の代表的な確率分布で重要な正規分布について理解する。
6	確率変数と確率分布（4）	2変数確率変数について理解する。
7	データ分析（1）	データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
8	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
9	中間テスト	第1回～8回までの確認テスト
10	中心極限定理と統計解析に必要な確率分布	・中心極限定理の内容を理解する。 ・正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。

11	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
12	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
13	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
14	推定・仮説検定の演習	区間推定、仮説検定についての演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★確認演習の復習を行い、次のミニテストに備える。
 - ★授業に関する問題集の宿題をする。
 - ★実際のデータを授業内容をもとにエクセルで解析をし、考察をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※プリントを授業ごとに配布します。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004 年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著、培風館 2010 年）
- ・内容を具体的に理解するのに参考にしてください。
- ★マンガでわかる統計学（高橋信 著、オーム社、2004 年）
- ★マンガでわかる統計学 回帰分析編（高橋信 著、オーム社、2005 年）

【成績評価の方法と基準】

- 中間試験：40パーセント
- 期末試験：40パーセント。
- ミニテスト・レポート課題：20パーセント。
- ※試験は問題を掲示し、当日の指定された期日までにその解答を写真でとってメールで送り、それを採点することで評価する。
- ※ミニテストは各授業の最後に掲示する。提出方法は試験と同様。
- ※レポート課題についても同様。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

各自の PC あるいは大学から支給されたのコンピュータで、エクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。

また後半の演習では電卓を使用する。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし、必要な基礎事項を講義する。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
 ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
 ・中心極限定理の内容を理解する。
 ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
 インカ

◎

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【4月23日開講。4月23日に資料をすでに学習支援システムに配布済み。】
 ← 連絡遅くなりすみません。

※ zoom を利用したオンライン授業を開催（木曜日 5 時限目）と学習支援システムの併用

※学習支援システム上で随時こちらから必要事項をお知らせ

※「授業内掲示板」で各種質問等を行ってください。

配布資料の内容について演習を交えながら講義し、さらに内容を具体的に把握する目的で数値実験も行う。授業の最後にミニテスト形式で講義内容の復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概論 確率（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認する。
2	確率（2）	事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
3	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
4	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（3）	連続確率変数の代表的な確率分布で重要な正規分布について理解する。
6	確率変数と確率分布（4）	2変数確率変数について理解する。
7	データ分析（1）	データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
8	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
9	中間テスト	第1回～8回までの確認テスト
10	中心極限定理と統計解析に必要な確率分布	・中心極限定理の内容を理解する。 ・正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
12	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。

13	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
14	推定・仮説検定の演習	区間推定、仮説検定についての演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★確認演習の復習を行い、次のミニテストに備える。

★授業に関する問題集の宿題をする。

★実際のデータを授業内容をもとにエクセルで解析をし、考察をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※プリントを授業ごとに配布します。

【参考書】

・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。

★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004 年）

★統計学演習（村上正康、安田正實 共著、培風館 2010 年）

・内容を具体的に理解するのに参考にしてください。

★マンガでわかる統計学（高橋信 著、オーム社、2004 年）

★マンガでわかる統計学 回帰分析編（高橋信 著、オーム社、2005 年）

【成績評価の方法と基準】

中間試験：40 パーセント

期末試験：40 パーセント。

ミニテスト・レポート課題：20 パーセント。

※試験は問題を掲示し、当日の指定された期日までにその解答を写真でとってメールで送り、それを採点することで評価する。

※ミニテストは各授業の最後に掲示する。提出方法は試験と同様。

※レポート課題についても同様。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

各自の PC あるいは大学から支給されたのコンピュータで、エクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。

また後半の演習では電卓を使用する。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし、必要な基礎事項を講義する。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA
数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して解析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【4月23日開講。4月23日に資料をすでに学習支援システムに配布済み。】
← 連絡遅くなりすみません。

- ※ zoom を利用したオンライン授業を開催（木曜日 5 時限目）と学習支援システムの併用
 - ※ 学習支援システム上で随時しこちらから必要事項をお知らせ
 - ※ 「授業内掲示板」で各種質問等を行ってください。
- 配布資料の内容について演習を交えながら講義し、さらに内容を具体的に把握する目的で数値実験も行う。授業の最後にミニテスト形式で講義内容の復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概論 確率（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解する。 ・集合と事象、確率と確率空間、確率の基本的性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認する。
2	確率（2）	事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
3	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
4	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（3）	連続確率変数の代表的な確率分布で重要な正規分布について理解する。
6	確率変数と確率分布（4）	2変数確率変数について理解する。
7	データ分析（1）	データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
8	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
9	中間テスト	第1回～8回までの確認テスト
10	中心極限定理と統計解析に必要な確率分布	・中心極限定理の内容を理解する。 ・正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
12	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
13	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。 また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
14	推定・区間推定の演習	区間推定、仮説検定についての演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★確認演習の復習を行い、次回のミニテストに備える。
 - ★授業に関する問題集の宿題をする。
 - ★実際のデータを授業内容をもとにエクセルで解析をし、考察をする。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※プリントを授業ごとに配布します。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといでしょう。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004 年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著、培風館 2010 年）
- ・内容を具体的に理解するのに参考にしてください。
- ★マンガでわかる統計学（高橋信 著、オーム社、2004 年）
- ★マンガでわかる統計学 回帰分析編（高橋信 著、オーム社、2005 年）

【成績評価の方法と基準】

中間試験：40パーセント
期末試験：40パーセント。
ミニテスト・レポート課題：20パーセント。
※試験は問題を掲示し、当日の指定された期日までにその解答を写真でとってメールで送り、それを採点することで評価する。
※ミニテストは各授業の最後に掲示する。提出方法は試験と同様。
※レポート課題についても同様。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

各自の PC あるいは大学から支給されたのコンピュータで、エクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
また後半の演習では電卓を使用する。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし、必要な基礎事項を講義する。

【Outline and objectives】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA

タウンマネジメント

土屋 愛自、藤澤 浩子

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことを狙いとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍している2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略を理解する	タウンマネジメントを行う組織について理解する。
2	タウンマネジメントのステークホルダー	地域運営におけるNPOの役割、NPO法人制度について理解する。
3	タウンマネジメントのステークホルダー（NPO法人）	NPO法人の設立と運営手法について理解する。
4	タウンマネジメントの管理形態	指定管理者制度について理解する。
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメントの総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのタウンマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版BIDの概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメント課題	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅰ）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅱ）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	・講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート、発表により評価する。

- ・レポート（藤澤）40 %
- ・レポート（土屋）50 %
- ・発表（土屋）10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組むまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動し続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

DES300NA

タウンマネジメント

土屋 愛自、藤澤 浩子

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略を理解する	タウンマネジメントを行う組織について理解する。
2	タウンマネジメントのステークホルダー	地域運営におけるNPOの役割、NPO法人制度について理解する。
3	タウンマネジメントのステークホルダー（NPO法人）	NPO法人の設立と運営手法について理解する。
4	タウンマネジメントの管理形態	指定管理者制度について理解する。
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版BIDの概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの課題	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅰ）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅱ）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意
レポート（藤澤）40 %
レポート（土屋）50 %
発表（土屋）10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

DES300NA

タウンマネジメント

土屋 愛自、藤澤 浩子

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○				◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略を理解する	タウンマネジメントを行う組織について理解する。
2	タウンマネジメントのステークホルダー	地域におけるNPOの役割、NPO法人制度について理解する。
3	タウンマネジメントのステークホルダー（NPO法人）	NPO法人の設立と運営手法について理解する。
4	タウンマネジメントの管理形態	指定管理者制度について理解する。
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメントの総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメント概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのタウンマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版 BID の概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの課題	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅰ）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（Ⅱ）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポートにより評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

- ・レポート（藤澤）40 %
- ・レポート（土屋）50 %
- ・発表（土屋）10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline and objectives】

The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

MTL200NA
マテリアルサイエンス

岩瀬 扶佐子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】
身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
単純に”軽けりゃ良い”、”強けりゃ良い”ではない事例を紹介して、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。
材料の世界も日進月歩であるため、最新情報を調査する力を付ける。また、長年研究してきた専門家に的を得た相談ができるように素養を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。
主にスライドを使用して、イメージをつかみやすい流れにする。また、講義後半には演習問題を出題して、翌週には解説するので再度考える機会を作る。演習の自由記述欄に記述されたユニークな発想の意見やコメントなどを紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	デザインを生かすも殺すもマテリアル。授業の進め方。サイエンスは直訳すると科学だが、社会、地勢、少々の化学に授業で触れることを説明する。必要な基礎知識紹介。
2	工業材料の基礎	身の回りの物質の成り立ち
3	アルミニウムと軽金属	飛行機も電車も自動車も。軽くて強い。ナポレオンが愛したのは？
4	鉄：Fe	鉄器時代から使われ始めた素材。構造物の基本。”産業の米”、”鉄は国家なり”とも言われた代表的な素材。
5	磁石	身近な電気ものには目に見えないところで使用。永久磁石と電磁石とは。
6	銅：Cu	大仏、武器、和同開珎など、古くから使用されてきた。ある時代には日本が輸出量世界 1。最も大きな特徴は？
7	中間試験	電気や熱の良導体。
8	表面処理	前半の復習と試験 資料の持込可。金属の表面は一般的に腐食しやすい。自然に緻密な酸化被膜を作り酸化が進まない金属もあれば、徐々に酸化が進むものもある。防食対策費用は GDP の 1-2 %。
9	プラスチック	石油化学の発展による比較的新しい材料。身近に便利な製品がたくさんある。添加剤で様々な付加価値が。その強みと弱みは？ 最近では海洋汚染プラスチックが話題に。
10	ガラス	金属にもガラス状態はある。ガラスとは？ 一般的な性質。透明に利点。
11	木材、植物、野菜に共通なもの？	異質な工業材料。天然素材には癒される。
12	金・銀・白金；貴金属	食料かエネルギーか？ 美しいものというだけ？ 化学的には安定；貴。工業的な利用が意外と多い。
13	複合材；昔からある	大昔から経験則で使用。現在では、航空・宇宙分野にも精緻にコントロールされて使用されている。

14 最終試験 全体の理解度をチェックする。選択問題と記述式。資料の持込可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
改定
毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。演習問題がレポートの参考になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト
毎回、WEB に講義内容を掲載するので、それを読んで、本来の講義日に出席する演習問題を実施のこと。

【参考書】
改定
WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】
改定
1. 第 7 回目に中間レポート課題 30 %
締切は 1 週間程度
2. 最終テスト（レポート形式） 70 %
締切は 1 週間程度 第 14 回の講義日に公開します。

【学生の意見等からの気づき】
専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
担当講師は過去に非鉄金属メーカーに在籍。材料評価、光半導体の開発や、事業所の環境・安全の責任者を担当した経験を活かして、材料科学全般について講義をする。

【Outline and objectives】
Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

岩瀬 扶佐子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている。他方、それらと比較して歴史の浅いナタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。単純に”軽けりゃ良い”、”強けりゃ良い”ではない事例を紹介して、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。材料の世界も日進月歩であるため、興味を持ち、最新情報を調査する力をつける。また、専門家に相談する際の最低限の知識を身に付ける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	20%
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。講義前にWEB資料に講義内容を掲示する。講義は主にスライドを使用して、イメージをつかみやすい流れにする。また、講義後半には演習問題を提出して、翌週には解説するので再度考える機会を作る。演習に記述されたユニークな発想の意見なども紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	デザインを生かすも殺すもマテリアル。授業の進め方を紹介。サイエンスは直訳すると科学だが、社会、地勢、少々の化学や物理に触れる。必要な基礎知識も紹介。
2	工業材料の基礎	身の回りの物質の成り立ち
3	アルミニウム Al と軽金属	飛行機も電車も自動車も。軽くて強いが必須。
4	鉄： Fe	ナポレオンが愛したのは？鉄器時代から使われ始めた素材。構造物の基本。”産業の米”、”鉄は国家なり”とも言われた製造量 NO1 の代表的な素材。
5	磁石	身近な電気ものに、目に見えないところで使用。永久磁石は鉄とレアアース。電磁石は電流を多量に流せることが重要。
6	銅： Cu	大仏、武器、和同開珎など、古くから使用されてきた。ある時代には日本が輸出量世界 1。最も大きな特徴は？
7	中間試験	電気や熱の良導体。
8	表面処理	前半の復習と試験 資料の持込可。金属の表面は一般的に腐食しやすい。環境にもよるが、自然に緻密な酸化被膜を作り酸化が進まない金属もあれば、徐々に酸化が進むものもある。防食対策費用は GDP の 1-2 %。

9	プラスチック	石油化学の発展による比較的新しい材料。身近に便利な製品がたくさんある。添加物で様々な付加価値が。その強みと弱みは？ 最近では海洋汚染問題で、プラスチック削減運動が盛んになっている。
10	ガラス	金属にもガラス状態はある。ガラスとは？ 一般的な性質。透明に利点。
11	木材、植物、野菜に共通なものは？	異質な工業材料。天然素材には極さる。構造材、食料かエネルギーか？ 美しいものというだけ？
12	金・銀・白金；貴金属	化学的には安定；貴。工業的な利用が意外と多い。
13	複合材；昔からある	大昔から経験則で使用。現在では、航空・宇宙分野にも精緻にコントロールされて使用されている。
14	最終試験	全体の理解度をチェックする。選択問題と記述式。資料の持込可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

改定
毎回、WEB に講義内容を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。演習問題がレポートの参考になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、WEB に講義内容を掲載するので、それを読んで、本来の講義日に出席する演習問題を実施のこと。

【参考書】

改定
WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】

改定	
1. 第 7 回目に中間レポート課題	30 %
締切は 1 週間程度	
2. 最終テスト（レポート形式）	70 %
締切は 1 週間程度 第 14 回の講義日公開します。	

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答もある。逆に化学が得意、物理が得意で判り易かったという声も聞く。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に、平易な内容にして授業を進める。WEB 資料に周期表を掲載するので、出力して頂くこと。族（縦の列）の意味合い、軽元素、重い元素であるかなど確認する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。講義中に調査可能。

【その他の重要事項】

担当講師は過去に非鉄金属メーカーに在籍。材料評価、光半導体の開発や、事業所の環境・安全の責任者を担当した経験を活かして、材料科学全般について講義をする。

【Outline and objectives】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

岩瀬 扶佐子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている。他方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学び、材料を使用するときなどのような長所と短所があるか検討する。単純に”軽けりゃ良い”、”強けりゃ良い”ではない事例を紹介して、ものづくりのスタート地点に立てるようにする。材料の世界も日進月歩であるため、最新情報を調査する力を付ける。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

◎ ○ ○ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。主にスライドを使用して、イメージをつかみやすい流れにする。また、講義後半には演習問題を出題して、翌週には解説するので再度考える機会を作る。演習の結果、ユニークな意見、コメント、質問に関して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	デザインを生かすも殺すもマテリアル。授業の進め方。サイエンスは直訳すると科学だが、社会、地勢、少々の化学に触れることなど授業内容を説明する。必要な基礎知識紹介。
2	工業材料の基礎	身の回りの物質の成り立ち
3	アルミニウム	飛行機も電車も自動車も。軽くて強い。ナボレオンが愛したのは？
4	鉄： Fe	鉄器時代から使われ始めた素材。構造材の基本。”産業の米”、”鉄は国家なり”とも言われた代表的な素材。
5	磁石	身近な電気もの、見えないところで使用。永久磁石と電磁石。その材料と開発状況。
6	銅： Cu	大仏、武具、和同開珎など、古くから使用されてきた。ある時代には日本が輸出量世界 1。最も大きな特徴は？
7	中間試験	電気や熱の良導体。
8	表面処理	前半の復習と試験 資料の持込可。金属の表面は一般的に腐食しやすい。自然に緻密な酸化被膜を作り酸化が進まない金属もあれば、徐々に酸化が進むものもある。防食対策費用は GDP の 1-2 %。
9	プラスチック	石油化学の発展による比較的新しい材料。身近に便利な製品がたくさんある。添加剤で様々な付加価値が出現。その強みと弱みは？ 最近では海洋汚染プラスチック削減が話題に。
10	ガラス	金属にもガラス状態はある。ガラスとは？ 一般的な性質。透明に利点。
11	木材、植物、野菜に共通なもの？	異質な工業材料。天然素材には癒される。食料かエネルギーか？

12	金・銀・白金；貴金属	美しいものというだけ？ 化学的には安定な貴。工業的な利用が意外と多い。
13	複合材；昔からある	大昔から経験則で使用。現在では、航空・宇宙分野にも精緻にコントロールされて使用されている。
14	最終試験	全体の理解度をチェックする。選択問題と記述式。資料の持込可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

改定
毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。演習問題がレポートの参考になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、WEB に講義内容を掲載するので、それを読んで、本来の講義日に出題する演習問題を実施のこと。

【参考書】

改定
WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】

改定
1. 第 7 回目までに中間レポート課題 30 %
締切は 1 週間程度
2. 最終テスト（レポート形式） 70 %
締切は 1 週間程度 第 14 回の講義日公開します。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することと、材料に興味を持つことが目的の授業なので、多くの学生が基礎知識を理解することを念頭に、授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン
【その他の重要事項】
担当講師は過去に非鉄金属メーカーに在籍。材料評価、光半導体の開発や、事業所の環境・安全の責任者を担当した経験を活かして、材料科学全般について講義をする。

【Outline and objectives】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

デザインスタジオ 4

下吹越 武人、岩佐 明彦、鍋島 千恵、菅原 大輔、池田 賢、岩瀬 諒子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、図面・模型の製作を通じて、具体的な課題に取り組み、設計のプロセスを体験的に学んでいく。また、グループ課題を通して、チームワークにおけるコミュニケーション能力を培う。

【到達目標】

- ・抽象的な概念を空間化する能力を養う
- ・想定される行動場面に對して適正な空間を作り出す技術を身につける
- ・空間的アイデアを構法計画に還元して検討する
- ・環境負荷低減の観点から建築を検討する
- ・空間の特徴を定性的・定量的に評価する技術を身につける
- ・敷地周辺地域の特徴を抽出しレイヤー的に理解する
- ・グループワークを効果的・効率的に行う方法を身につける
- ・空間を表現・伝達する技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインスタジオ 3 に引き続き、2 つの設計課題を通じて、図面と模型による建築設計を学ぶ。第 1 課題はグループ課題とし、第 2 課題は個人課題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	第 1 課題出題 「都市の文化拠点 1」	・全体ガイダンス ・課題説明、現地視察
2	リサーチ中間報告 (クラス毎)	・各グループの進捗状況を発表 ・グループ間でリサーチ内容の共有化を図る
3	リサーチ発表 (全体)	・リサーチ結果の報告および空間デザインの構想を発表
4	エスキース 1	・模型、図面によるスタディチェック ・空間構想、イメージをスケッチや模型にまとめる コンセプトスタディ 配置・平面、断面検討
5	エスキース 2	・デザインデベロップメント ・エスキースを図面にまとめる ・プレゼンテーション検討
6	・合同講評会 ・第 2 課題出題 「都市の文化拠点 2」	・選抜者が自案の発表を行い、これを題材に共通の問題点などの講評を行う ・第 2 課題出題と説明
7	企画のプレゼンテーション	・現地視察報告と提案及び企画シート作成
8	エスキース 1	・構想案をつくる ・模型、スケッチによるスタディチェック
9	エスキース 2	・エスキースを図面にまとめる ・平面、断面、スタディ模型
10	第 2 課題中間提出	・クラス発表および講評
11	エスキース 3	・中間発表の講評をフィードバックし、案の更なる発展を試みる ・プレゼンテーションの検討
12	クラス内レビュー	・図面チェック ・クラス内発表
13	ファイナルレビュー	・第 2 課題の選抜作品の発表、講評 ・各スタジオの代表作品を持寄り、講評会を公開で行う
14	卒業設計演習（1 月後半）	・4 年生の卒業設計に参加することで卒業設計の意味や大きなプロジェクトの制作進行に伴う問題点などを実体験の中で理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

敷地に立ち、調査し考えを深める。

自らのスケッチブックの上でエスキースを重ねる―建築をまとめ上げる試行錯誤の繰り返し―。

適切な視覚的表現方法を探る。

チーム内や友人とのディスカッションを重ね、提案の強度を高める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示する。

【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築製図（朝倉書店）、各種建築専門雑誌。

【成績評価の方法と基準】

エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。エスキースによる案の深化、発展度合いは重要な評価対象となる。
配分：第 1 課題 30 %、第 2 課題 70 %。
4 回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will experience the process of design while developing their field of study, through the creation of diagrams and models. In addition, during group classes students will gain communication skills through teamwork.

ADE300NB

デザインスタジオ 5

下吹越 武人、渡邊 眞理、稲垣 淳哉、津野 恵美子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3 年 AB 期のデザインスタジオでは A 期と B 期に分けて 2 つの課題に取り組む。A 期は集住について、B 期は次世代型図書館に関連したテーマを元に 4 ユニットからそれぞれ課題が出題され、スタジオワークにより少人数教育を行う（原則として各ユニット 15 人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】

- ・コンセプトチュアルに考える方法を身につける
- ・都市の成り立ちからコンテクストを読み取る技術を身につける
- ・都市の一部として建築を構想する
- ・社会的問題群を認識し、建築的回答を構想する
- ・デジタルツールの基本操作を身につける
- ・空間の特性をエンジニアリングの着想から創造する

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎				◎		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の概要< 1> デザインスタジオ 5 + 6 の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ 5 + 6 はデザインスタジオ 1 から 4 で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオに入れることができるのは学部卒の場合 3 年生の作品までなので、今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4 年生には卒業設計という大きな関門が控えているが、大学 3 年でこの科目を履修せずに 1 年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないというまでもないことである。2) これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった 2 年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいいだけでは直ぐ行き詰まる。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。3) それぞれのユニット・インストラクターによって敷地や課題の詳細は異なるから、自分が興味あるインストラクターについて自分の興味のある課題にチャレンジする機会が与えられる（ユニット選択は抽選となる）。各インストラクターがそれぞれの課題の趣旨を説明するガイダンスには必ず出席すること。

【ガイダンスについて】
4 月 21 日（火）13 時よりガイダンスを開催します。詳細は学習支援システム【お知らせ】で確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】
回 テーマ 内容

1	ガイダンス、前半課題課題説明、ユニット分け	・第 1 課題は「居住」をテーマとした複数課題から選択して取り組む。 ・事前調査のポイントやコンセプトの作り方などについて指導する。
2	前半課題クラス別指導（エスキース 1）	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。設計イメージはビジュアルな表現で製作する。
3	前半課題クラス別指導（エスキース 2）	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの自律性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画の検討。

4	中間講評会	・平面図、断面図、立面図という基本図面を描いてみることで、コンセプトやイメージを具体化する。
5	前半課題クラス別指導（エスキース 3）	・中間講評会の指摘を踏まえたデザインの展開とその確認。 ・設計図面の正確な描き方を学ぶ
6	前半課題クラス別指導（エスキース 4）	・最終のエスキスチェックを行う。プレゼンテーションを行うにあたってのコンセプトの表現を検討。
7	全体講評会	・優秀作品の発表を通じてこれを題材に共通の問題点などの講評を受ける。
8	後半課題課題説明、ユニット分け、関連特別講義	・第 1 課題と同様に、複数の設計課題の中から、それぞれの学生の希望でひとつのユニットを選択する。・関連特別講義によって課題主旨の理解を深める。
9	後半課題クラス別指導（エスキース 1）	・事例研究、敷地調査についての発表と討議。敷地模型をグループで制作する。 ・各自がコンセプト、設計イメージを発表し、指導を受ける。
10	後半課題クラス別指導（エスキース 2）	・イメージ模型を作成。敷地との関係性を検討すると同時に、プログラムの自律性についても確認する。 ・建物規模、ゾーニング、断面構成、動線計画、構造計画の検討。
11	中間講評会 Pinboard Review	・図面と模型を用いて設計中の建物を説明することで、自分の設計アイデアに客観性をあたえる。 ・Pinboard を用いて、学生主体の第 1 課題講評会を行う。
12	後半課題クラス別指導（エスキース 3）	・中間講評時の講評を踏まえたデザインの展開とその確認。
13	後半課題クラス別指導（エスキース 4）	・詳細図と基本図の違いなどを学ぶ。 ・最終のエスキスチェックを行う。プレゼンテーションを行うにあたってのコンセプトの表現を検討。
14	最終講評会	・優秀作品の発表を通じて、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているため、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）。

【成績評価の方法と基準】

エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのような作品制作に取り組んだかが評価の対象となる。
配分：第 1 課題 50 %、第 2 課題 50 %。
4 回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

3 年生からは図面の CAD 提出も認められるので、CAD や CG の自己学習が求められる。

【その他の重要事項】

現在活躍している一級建築士が、自身の経験を活かし建築設計に関する実習指導を行う。

【Outline and objectives】

The 3rd year A/B semester Design Studio course is separated into A and B semesters. A semester is a condensed course, while B is a centered around the theme “libraries of the future”, following the subjects introduced in Unit 4. Studio work classes will have a limited number of participants (as a rule no more than 15 per unit). Students who wish to attend seminars for project-based subjects must enroll in this course.

デザインスタジオ6

渡邊 眞理、後藤 武、山道 拓人、渡邊 健介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年CD期のデザインスタジオはデザインスタジオの最終段階と位置づけられる。そのため建築だけでなく建築と既存の都市、建築とランドスケープなどのように建築と他分野との接点をもつような課題設定も含まれている。大きく前半と後半に分け、グループ学習も取り入れるが、1学期間を通じてひとつの設計テーマを継続的に追求する。今年度は学校が周囲の地域の核となることを意図して、コミュニティ・コアとしての学校をテーマとする。ただしこの課題では自己の母校をテーマにするので個人ごとの問題解決が求められる。この学期ではスタディ模型やスケッチ作成によりザイン・コンセプトを短時間で作り出す能力を育成するだけでなく、正確な図面を描く方法や詳細図についても学ぶ。学生は自分の興味や関心に合ったクラスを希望選択することができる。クラス分けのあとではスタジオワークにより少人数教育を行う（各クラス15人以下）。計画分野のゼミナールを希望する学生は、履修しておかねばならない科目である。

【到達目標】

- ・社会的問題群を認識し、建築的回答を構想する
- ・地域の物理的・社会的資源を理解する
- ・既存建築の機能を変更しプログラムを再編する技術を身につける
- ・環境の質を定量化し形態にフィードバックする
- ・配置やファサードデザインで環境負荷を低減する技術を身につける
- ・設計意図を的確に表現する技術を身につける
- ・短期間でアイデアを形にまとめる技術を身につける

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎			◎			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

●デザインスタジオ5+6の位置付け：「ポートフォリオの充実・卒業設計に連なるもの」デザインスタジオ5+6はデザインスタジオ1から4で培われてきた建築設計の基本的な素養をさらに発展させるための科目である。したがって、将来建築設計の分野をめざす学生諸君はもとより他分野を志望する人も是非履修してほしい。（就職のための）ポートフォリオにいれることができるのは学部卒の場合3年生の作品までなので、今年度のきみの努力は（就職試験の選考過程で）君が社会からどう評価されるかにも決定的な意味をもつだろう。4年生では卒業設計という大きな関門が控えているが、大学3年でこの科目を履修せずに1年間のブランクをもつことは卒業設計という必修科目の履修には好ましくないというまでもないことである。

●これまでのデザインスタジオの評価が芳しくないという君へ：これまでのデザインスタジオで良い評価を受けていないからと言ってあきらめるのはまだ早い。たった2年間の試みで建築設計への自分の能力を判定してしまうのは早計である。異なった教師からは異なった評価を受ける場合もあるのだから、ここでもう一度「設計」に挑戦してみることで将来への展望が開けるかもしれない。ただし、自分の手を徹底的に動かさなくては優れた作品は生まれてこないという設計の永遠の真理は常に存在する。怠け者は上達しない。ちょっとセンスがいただけでは直ぐ行き詰まる。努力を惜しまない者しか残れないというのもまた確かである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、課題説明	計画内容と条件を示す。課題説明のあとで希望者によるクラス分けを行い、その後クラスごとに分かれて具体的な作業の説明を受ける。
2	グループワーク	敷地模型、事例研究などの共同作業を行なう。
3	グループワーク発表	敷地、事例研究の成果を発表し、IAEサーバーで共有する。
4	エスキース	個人ごとに計画案とスタディ模型を提出し、各講師から指導を受ける。
5	エスキース	他者からの批判を客観性にとらえ、自己中心的になり勝ちな設計プランを改善する。
6	クラス別発表会	クラスごとに成果物を提出し、担当のインストラクターから指導を受ける。

7	中間講評会1	優秀作品の発表を通じてプレゼンテーションについて学習する。エスキースをいかにして提出図面に活かすか。担当講師が交代する。もうひとつの視点で指導を受ける。
8	後半エスキース	模型から図面へ、そして図面から模型へという設計プロセスを学習する。
9	エスキース	基本図の描き方についての確認を受ける。詳細図の描き方について指導を受ける。
10	エスキース	中間発表を行なうことでクラス内でのスタジオ受講者がおのおのの進行状況を確認する。設計中の建物を説明するという技能を学ぶ。
11	中間講評会2	プレゼンテーションにあたってのコンセプトの表現法の研究。
12	エスキース	スタジオ内課題提出、発表、討論を行なう。全員発表し講評を受ける。
13	クラス別講評会	クラスの代表者が自案の発表を行ない、これを題材に共通の問題点などの講評を受ける。他学年の設計担当教員からも講評を受ける。なお、1月後半からは4年生の卒業設計に関与する卒業設計演習を行なう。
14	最終講評会	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本学では大学院スタジオ以外は個人専用のデスクのある「スタジオ」型ではなく授業時に製図室で作業を行なう方式をとっているため、自宅での図面制作や模型制作は必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

建築設計資料集成（丸善）、建築計画教科書、都市計画教科書（彰国社）など。

【成績評価の方法と基準】

エスキース・中間発表を踏まえた最終発表の成果作品を総合的に評価する。毎週それぞれのスタジオインストラクターのもとでどのように作品制作に取り組んだかは重要な評価対象となる。4回以上の無断欠席は成績評価対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

1月の卒業設計演習のため、DS6は期間が短いという指摘があったが、1学期1課題とすることでじっくり設計できるフレームワークとした。前半にはグループワークも取り入れることで、チームでの作業の面白さと難しさを学ぶ。課題の前半と後半でスタジオ・インストラクターがチェンジすることで2名の教員の異なる視点と異なる教員から共通の評価があることを体験的に学んでほしい。主観的評価と客観的評価が同居するのが建築デザインの特徴なのである。

【学生が準備すべき機器他】

3年生からは図面のCAD提出も認められるので、CADやCGの自己学習が求められる。

【その他の重要事項】

DS6の作品は自分のポートフォリオにぜひ入れておきたい。卒業設計の前哨戦として重要なステップである。実務経験との関係：担当教員は現役の建築家であり、一級建築士でもあるので、デザイン力の鍛錬だけでなく、建築士としての視点からも指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

The third year CD semester Design Studio course is organized as the final course in this program. For this reason topics will cover not only architecture but its connections to existing cities, landscapes and other related fields. Broadly split into first and second halves, while group discussions will still take place the focus will be on the continued work on a semester-long topic. We will use the theme of the school as a community core, planning its incorporation as a core of the local district this year. In their study students will use the school they attended, working to so solve problems individually. In this semester students will not only learn how to produce quick design concepts through study mock-ups and sketches, but also how to draw accurate and detailed blueprints. Students will be able to choose classes which best fits their area of interest. After classes have been assigned students will participate in studio work in groups of small numbers (15 or less). Enrolment in this course is compulsory for students wishing to enter planning-related seminars.

ADE200NB

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。
本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- ・建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- ・建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- ・設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行うため、講義と途中からの参加（遅刻）や離脱（早退）に対して補習課題が課される場合もある。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- ・「建築計画2」と併せて履修することが望ましい。

【追記 4月19日】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日（木）とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／建築設計と決定根拠	コンビニエンスストアに学ぶ空間の決定原理
第2回	住む1／住宅・住戸	生活の基本単位としての住まい
第3回	住む2／住宅・住戸	ライフスタイルの変遷と住戸計画
第4回	過ごす／パビリオン・週末住宅・余暇建築	趣味や嗜好が最大化される建築デザイン
第5回	育てる1／幼稚園・保育園・こども園	遊びと学びと成長を支える建築デザイン
第6回	育てる2／幼稚園・保育園・こども園	行動場面と建築デザイン
第7回	教える・学ぶ1／学校・ラーニングセンター	学びと学校の歴史
第8回	教える・学ぶ2／学校・ラーニングセンター	アクティブラーニングが変える学びの空間
第9回	知る1／図書館	情報と建築の歴史
第10回	知る2／図書館	知の広場としての図書館
第11回	交わる1／公民館	ビルディングタイプとそのプレイクスル
第12回	交わる2／公民館	屋根のついた広場、社会的包摂の場
第13回	移動と滞留／駅・ターミナル・商業施設	ショッピングモールからの気付き
第14回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし
必要な資料は適宜講義内で配布する。

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）

コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・事例研究レポート（50%）
- ※事例研究レポート未提出者は評価対象外とする

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

講義内でPCを利用する場合があるが、その際は別途指示をする。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので持参すること。

【その他の重要事項】

- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAEにレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline and objectives】

Behind the design theories of architectural planning many decisions are made based on human scale, movement, perception, cultural context, communication, work efficiency, social regulations and more. Architecture is designed according to different uses and purposes, in conjunction with appropriate technology. For this reason architecture has the property of being a medium which expresses our time. At the same time it has the ability to transcend the demands and space of society to expand and continue as a space of its own. This course offers a two-pronged approach by addressing periodicity as well as universality, beginning by visiting the fundamental principles, and consolidating and integrating them to in order to learn the structure behind great architecture.

ADE200NB

建築計画Ⅱ

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学Ⅰ」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画Ⅰ」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行うため、講義と途中からの参加（遅刻）や離脱（早退）に対して補習課題が課される場合もある。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／建築設計と決定根拠	建築は仮説からできている
2	鑑る1／美術館・博物館・劇場	第4世代に向かう美術館建築
3	鑑る2／美術館・博物館・劇場	エクスペリエンスデザイン
4	鑑る3／美術館・博物館・劇場	娯楽と劇場の歴史
5	支える1／病院・福祉施設	制度と建築
6	支える2／病院・福祉施設	サービスで規定される建築
7	老いる／高齢者施設	ライフステージと建築
8	集う1／集合住宅・住宅地	社会の基盤としての住まい
9	集う2／集合住宅・住宅地	コミュニティと住まいの形
10	働く／オフィス・ラボ	効率の追求とワークプレイス
11	回復する／災害と建築	回復の場としての応急仮設住宅
12	参加する／参加とデザイン	建築家なしの建築
13	再生する／リノベーション建築	ストックとしての建築
14	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

必要な資料は適宜講義内で配布する。

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSE などの各建築雑誌
建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）
アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
 - ・事例研究レポート（50%）
- ※事例研究レポート未提出者は評価対象外とする

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

講義内で PC を利用する場合があるが、その際は別途指示をする。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3 ～ 0.5mm）を使用するので持参すること。

【その他の重要事項】

- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAE にレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline and objectives】

Behind the design theories of architectural planning, many decisions are made based on human scale, movement, perception, cultural context, communication, work efficiency, social regulations and more.

In this course students will understand and think about the way architecture is viewed and planned.

In architecture, materials such as concrete, iron, glass and wood are assembled on the basis of a variety of data, analysis and considerations. Architecture at its core is simply the assemblage of materials. However, humans occupy the constructed space engaging in different activities. In light of this, students will learn how to equate the construction of space with architectural planning.

ADE200NB

建築材料

網野 禎昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な建築材料の工学的特質はもとより、様々な建築材料が開発されるに至った歴史・社会的な背景、とくに各時代の資源事情などもあわせて解説する。

【到達目標】

建築材料に技術者として接するだけでなく、これまで諸文明が限りある資源をもとに建設され、数多の問題を乗り越えた結果として現代があるという事実を、現代文明の住人として捉える。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
	○	◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

AB 期はオンラインでの開講となる。それにともなう授業計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。主要建築材料の開発背景、加工製造方法、特性、そして、各材が応用された代表的な建築物を紹介する。また、現代で多用される材料については、建築物への応用上の留意点について重点的に解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文明と資源
2	Materia 1	森林と林産業
3	Materia 2	木材の基本特性
4	Materia 3	木材の利用
5	Materia 4	木質材料
6	焼かない材料から焼く材料へ	日乾レンガ、焼成レンガ、ローマンコンクリート
7	石造と石材	盛期ローマネスク、ゴシック、扁平アーチ、石材とその利用
8	薪からコークスへ 1	燃料革命と製鉄、鋳物、鋼
9	薪からコークスへ 2	鋼の基本特性、鋼の加工、鋼の腐食
10	薪からコークスへ 3	鋼の生産、形鋼、特殊鋼、非鉄金属
11	水硬性材料の発見 1	水硬性セメント・鉄筋コンクリートの発明、コンクリートの種類と基本特性
12	水硬性材料の発見 2	コンクリートの施工、品質管理、各種コンジョット材
13	ローマ・ロンドン・エド	火災と建築材料、建築構造材の熱的性
14	動かない空気	能、耐火被覆、燃代設計 気体で断熱をする理由、気体・固体・液体の熱伝導、各種断熱材、高気密高断熱設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で説明のあった建築材料の使われ方を、実際の建築物の観察により確認しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

「建築材料用教材」日本建築学会編（丸善）他、講義時に紹介。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の材料サンプルの活用。

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline and objectives】

Starting with studies of fundamental engineering characteristics of architectural materials, students will understand the history/social background of various developed materials, particularly looking at information on resources in each period.

ADE300NB

材料特性実験 X（2018年度以前入学生）

鍋野 友哉

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小規模な木の構造体を設計し、これを実際に制作した後、載荷試験により破壊することとて、材料の加工性や構造的な振る舞いを学びます。

【到達目標】

これまでに学んだ建築材料・建築構法・構造力学等の知識を連結し安全な構造物を提供するために何ができるのか検証することができる。
複数の提案のうち、それぞれの長所・短所を把握し、チームとしてその対策・改良等を行うことができる。
自分らの提案を設計し図面化、さらに実際に試験体として施工することができる。
破壊の機構を検証し、その原因・対策等の検討を行うことができる。
アイデアの検討から、設計、施工、破壊試験、考察、対策検討等の全過程を基本的なフォーマットを順守しつつレポート化することができる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

AB 期の対面授業は実施不可となった。それにとまう開講時期の変更については、4 月 22 日までに学習支援システムで提示する。
まずは数名から構成されるチームを編成します。以降はチームごとに活動してください。講義にて示されたレギュレーションをクリアすれば手段を選ばず様々な構造物の作製を認めます。チームごとに明確なコンセプトを提示しつつ試験体の設計・施工を行ってください。試験体完成の後に、破壊試験を行います。破壊試験の結果をしっかりと考察し、その機構の解明や対策等も検討してください。最終的には、これらの全過程をレポートとして提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 実験課題の出題	本講義の講義内容・展開を説明。 実験対象とする試験体の出題。
2	試験体の設計 1	グループ毎に試験体を構想する。
3	試験体の設計 2	グループ毎に試験体を構想する。
4	資材表作成と発注	試験体の構成部材を設計し、部材発注する。
5	試験体の製作 1	部材を加工する。
6	試験体の製作 2	試験体を組立てる。
7	載荷実験と講評	試験体に載荷し、変形・強度を計測する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査により材料の使用方法について把握する。
工具の種類など加工方法について事前調査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

建築材料実験用教材、日本建築学会編

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（平常点 50%）
実際に体験をしないことにはレポートはかけません。しっかりと講義に出席し、実験に参加してください。
期末レポート（提出物評価 50%）
実験レポートの展開（実験の目的・手法・結果・考察・まとめ等）をしっかりと踏まえて期末レポートの作成を行いましょう。得られた結果をしっかりと吟味し、各自考察を行いレポートを仕上げてください。レポートは各項目の内容をまとめて期末レポートとして提出をしてください。

【学生の意見等からの気づき】

試験体の自主作成率を高め、履修者の実験への参加意識を高める。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

実験の講義ですので、服等が汚れる可能性があります。また、供試体・実験器具等の取り扱いには怪我等の原因となるため、十分注意して下さい。
試験体の種類や個数により授業計画が変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う。

【Outline and objectives】

By designing and building small-scale wooden structures and experimenting with destructive load tests, students will learn about engineering properties and behavior of materials.

ADE300NB

材料特性実験 Y（2018年度以前入学生）

中 太郎

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小規模な木の構造体を設計し、これを実際に制作した後、載荷試験により破壊することとて、材料の加工性や構造的な振る舞いを学びます。

【到達目標】

これまでに学んだ建築材料・建築構法・構造力学等の知識を連結し安全な構造物を提供するために何ができるのか検証することができる。
複数の提案のうち、それぞれの長所・短所を把握し、チームとしてその対策・改良等を行うことができる。
自分らの提案を設計し図面化、さらに実際に試験体として施工することができる。
破壊の機構を検証し、その原因・対策等の検討を行うことができる。
アイデアの検討から、設計、施工、破壊試験、考察、対策検討等の全過程を基本的なフォーマットを順守しつつレポート化することができる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
			◎			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

AB 期の対面授業は実施不可となった。それにとまう開講時期の変更については、4 月 22 日までに学習支援システムで提示する。
まずは数名から構成されるチームを編成します。以降はチームごとに活動してください。講義にて示されたレギュレーションをクリアすれば手段を選ばず様々な構造物の作製を認めます。チームごとに明確なコンセプトを提示しつつ試験体の設計・施工を行ってください。試験体完成の後に、破壊試験を行います。破壊試験の結果をしっかりと考察し、その機構の解明や対策等も検討してください。最終的には、これらの全過程をレポートとして提出してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 実験課題の出題	本講義の講義内容・展開を説明。 実験対象とする試験体の出題。
2	試験体の設計 1	グループ毎に試験体を構想する。
3	試験体の設計 2	グループ毎に試験体を構想する。
4	資材表作成と発注	試験体の構成部材を設計し、部材発注する。
5	試験体の製作 1	部材を加工する。
6	試験体の製作 2	試験体を組立てる。
7	載荷実験と講評	試験体に載荷し、変形・強度を計測する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査により材料の使用方法について把握する。
工具の種類など加工方法について事前調査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

【参考書】

建築材料実験用教材、日本建築学会編

【成績評価の方法と基準】

授業への参加姿勢（平常点 50%）
実際に体験をしないことにはレポートはかけません。しっかりと講義に出席し、実験に参加してください。
期末レポート（提出物評価 50%）
実験レポートの展開（実験の目的・手法・結果・考察・まとめ等）をしっかりと踏まえて期末レポートの作成を行いましょう。得られた結果をしっかりと吟味し、各自考察を行いレポートを仕上げてください。レポートは各項目の内容をまとめて期末レポートとして提出をしてください。

【学生の意見等からの気づき】

試験体の自主作成率を高め、履修者の実験への参加意識を高める。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

実験の講義ですので、服等が汚れる可能性があります。また、供試体・実験器具等の取り扱いには怪我等の原因となるため、十分注意して下さい。
試験体の種類や個数により授業計画が変更される場合がありますので、掲示に注意して下さい。
建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う。

【Outline and objectives】

By designing and building small-scale wooden structures and experimenting with destructive load tests, students will learn about engineering properties and behavior of materials.

ADE300NB

施工管理

三上 孝明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

施工管理とは、「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」などの行為（四大任務）の総称である。将来どのポジションでキャリアを積むに関わらず、建設業界に身を置く者にとって知っておくべき各種工事とその流れに沿って、材料、構造等にも触れながら「施工管理」のポイントを解説する。施工管理業務従事者（主に現場監督）が建築生産の中でどのように位置付けられ、その役割はどのようなものであるか概観することが出来、また協業による「ものづくり」の視点を持つための知識の習得を目的とする。また、1級建築士試験に対応できる知識習得の目的も有する。

【到達目標】

大きく二つの目標を持つ。
① 施工管理の四大任務を理解し、管理における PDCA サイクルが概観出来る。
② 施工の流れを知り、各種工事の管理に必要な材料および構造知識を持った施工管理知識を得ることが出来る。
なお、建築物をつくるという目的は一つだが、「建築生産」における上流工程である「設計」と、下流工程となる「施工」では役割が異なる。この異なる役割から手戻り等、非効率的な現場運営となることが問題視されることがしばしばある。こうしたことの回避に、現在の生産システムにおいて何が必要であるかを考察するきっかけを得ることが出来るようにする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業開始日：4月22日（水）とします。授業資料配布期限に注意して下さい。（現在は過去公開条件通り4月30日までダウンロード可能となっております。）

以下第2項は＜平常授業＞の進め方ですが、＜在宅学習＞に対しても HOPPII にて授業シート、カルテ（小テスト）テキスト、サブテキストを配布します。「お知らせ」「授業内掲示板」にて説明していますのでご覧ください。また、「教材」欄は2回分の公開をしていますが、適宜 追加公開をする場合もありますので、「お知らせ」をご覧ください。公開と同時に仮登録学生へメールが届く設定にしています。受信未設定の学生は極力受信設定にしてください。

2. 一授業（コマ）ごとに学ぶ内容を今日の授業シートとして明示し、授業内容を概観したうえで、ポイントごとに解説を行う。理解度を確認するため、授業の終盤に 10 問程度の設問に回答してもらう「確認テスト」を行い、授業終了する。なお、極力板書を避け、スクリーンにテキストを投影し、必要に応じて画像、動画を差し理解度を高める。

講義の締めくくりとして、建設現場で起こった「事故」の一事例を題材として取り上げて、グループディスカッションを行い、事故原因を探り、回避可能な事故であったのか、不可能な事故であったのかを本講義で得た知識をもとに論じてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	施工計画・管理概説	日本の建設産業の概要と現状と今後について解説する。また、施工管理の四大任務である「工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」のアウトラインを知り、「請負」、「現場代理人」など施工管理に関わる基本用語の意味を理解する。 確認テスト 1
2	品質管理（Q）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである品質管理とは何かを解説する。また、QC 活動、ISO9000 に触れながら、施工の品質管理の考え方とそのプロセス管理を理解する。 確認テスト 2

3	原価管理（C）	施工管理に必要な経営の知識、原価管理の考えか方と手順並びに施工と VE（Value Engineering）の基礎知識を解説する。また、施工管理にける見積り、発注、請求、稟議、決裁などの用語を知り、原価管理の PDCA サイクルの大枠の流れと実行予算を中心とした管理の概要を理解する。 確認テスト 3
4	安全管理（S）と労務管理（W）	施工管理の四大任務（QCDS）の一つである安全管理と、労務管理の概要を解説する。また、管理における新しい課題である環境問題についても解説する。 確認テスト 4
5	工程管理（D）	工程管理とは何か、ネットワーク工程表等の工程表種類と基本的な用語を解説し、実務における工程管理の考え方を理解し、特に工事遅延が他の管理項目に及ぼす影響について事例を挙げて解説する。 確認テスト 5
6	ネットワーク工程表作成演習と施工管理の四大任務のまとめ（中間試験）	ネットワーク工程表作成演習を行う。また、全 5 回の講義内容の理解度を確認するため、履修判定中間試験を行う。
7	施工管理と施工計画	着工前に必要な確認事項、準備工事の内容について解説し、工事期間、予算、安全等施工管理全般に大きく影響する「施工計画」の実例をもとに解説する。 確認テスト 6
8	仮設工事	施工効率、建物品質、安全などに影響する仮設工事について、たわみや座屈などの構造力学知識の必要性に触れ、動画を示しながら仮設工事の概要を解説する。 確認テスト 7
9	基礎・地下工事	杭、地盤改良などの地業工事、地下躯体工事のための土工、山留工事など基礎工事および地下工事について解説する。 確認テスト 8
10	鉄筋工事・型枠工事	鉄筋コンクリート構造の躯体工事における鉄筋工事について、鉄筋種類、発注方法、製品検査等、および組み方を実際の工事の模様を動画で示し、解説する。 鉄筋コンクリート構造の躯体工事における型枠工事について、一般的な型枠材料である型枠合板の組み方とその手順、および組み立てに必要な補助材料の種類と取り扱いと施工上の注意点を動画を交えて解説する。 確認テスト 9
11	コンクリート工事の概要、材料と品質および品質管理	鉄筋コンクリート工事におけるコンクリート工事について概要とコンクリート材料の特徴と品質について、またその品質管理の方法を解説する。 確認テスト 10
12	コンクリート工事 打設	鉄筋が組まれ、型枠が組み上げられたのち、品質管理されたコンクリートを打ち込むが、打設の仕方の不備による不具合が生じる場合がある。不具合を起こさない打設方法について解説する。 確認テスト 11

- | | | |
|----|--|---|
| 13 | 鉄骨工事 鉄骨造の生産システムの特徴と鋼材種類とその特徴及び部材の接合 | 鉄骨造の施工の特徴は部材を組み上げる前の段階において建設現場以外で各部材を制作して現場に搬入される点にある。ファブリケーターと呼ぶ生産業者への発注方法と制作における原寸チェック等その特徴を解説する。また、ファブリケーターによって制作された各部材の代表的接合方法を解説する。
確認テスト1 2
なお、14 講での「施工管理について考える」課題を提示する |
| 14 | その他の工事の紹介
施工管理について考える
グループディスカッション | 施工管理における他の工事についてその種別を示す。
・13 講で示した課題について議論した上でまとめる |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業開始時に今日の授業を概観するシートを配布する。講義はオリジナルテキストを配布し、スクリーンに投影して解説していく。解説終了後授業時間内に実施する確認テストは授業の重要ポイントを示しており、各自が授業時間外の復習に活用してもらうことを目的としており、各自の理解不足を発見して、配布された資料を再度見ることによって時間外学習が成立する。授業毎配布するので、その日のうちに再読して学習してもらいたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。以下の 4 点を配布する。

- ① その日の授業シート
- ② オリジナルテキスト（PPT プリントテキスト）
- ③ 確認テスト（授業時間内提出）
- ④ 確認テスト解答解説

【参考書】

- ① 国土交通省「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」WEB 公開資料
https://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_seibi_h28hyoujyun.html
- ② 構造用教材（日本建築学会）

【成績評価の方法と基準】

大きく二つの到達目標があります。それぞれ独立したものではありませんが、煩雑さを避けるため目標を区分します。それぞれの理解度を試験にて判断します。なお、履修判定には確認テストの点数は直接はカウントしません。しかし、平常点として配点します。

- ① 中間試験 施工管理の四大任務の理解
 - ② 期末試験 各種工事と施工プロセスの理解
 - ③ 平常点 授業参加度と理解度
- 試験成績 70 % （中間試験＋期末試験）／2
平常点 30 %

<成績評価>

☐ 不合格

未受験・採点不可 = E 0～59 点 = D

☐ 合格

60 点～62 点 = C- 63 点～66 点 = C 67 点～69 点 = C+

70 点～72 点 = B- 73 点～76 点 = B 77 点～79 点 = B+

80 点～82 点 = A- 83 点～86 点 = A 87 点～89 点 = A+

90 点～100 点 = S

【学生の意見等からの気づき】

オリジナルテキストは PPT を印刷配布していますが、枚数が多く 1 シートに 4 枚～9 枚にまとめており、文字つぶれや画像の粗さがあり 1 シート 2 枚～4 枚程度にとの希望がありました。また、前半授業で使用した今日の授業シート、確認テストの後半授業での配布の希望があり、全授業で使用するものとします。なお、配布プリントは 4 枚 1 シートとし、授業支援システムを利用して事前配布します。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は授業支援システムにて公開します。各自情報端末にて確認してください。

【その他の重要事項】

設計事務所経営経験を有する一級建築士が、設計監理の経験から建設業者との施工管理実務を通じて得た施工管理に必要な基本姿勢と、施工会社における安全大会等での講義経験を活かして「管理」のポイントを講義する。また、建築士受験関連参考図書の執筆経験から建築士試験受験要件を満たす最低限必要な知識を概説する。

本科目は建築士試験受験認定に必要な「指定科目」の一つです。「施工」カテゴリ科目の一つですが、全員が履修し単位を取得することが望ましく、充分な復習を行って中間テスト、期末テストに臨んで下さい。

【Outline and objectives】

Construction management is a generic term for actions (within four major missions) such as process control, safety management, quality control and cost management. The ideas of "construction management" will be explained while touching on materials, structure, etc, in line with various constructions types, along with trends which must be known to all those in the construction industry, regardless of future career position.

An overview will be given of how the workers in construction management (mainly field supervisors) are positioned in building production, what their roles are, and see the process of "making things" through collaboration.

The goal is to gain the knowledge to support Class 1 architect exams.

ADE300NB

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、パラディオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構 造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築などの 最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁ー 1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline and objectives】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB
建築の測量実習

川口 剛

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築測量の基礎として、基本技術である測量の分類、機器、距離測量、トラバース測量、水準測量、平板測量などの内容を学習し、この理論をベースに測量機器の性能・取扱い方、測量方法などを実習する。また、最新の測量やGISの実社会での応用事例から新技術の適用範囲を学習する。

【到達目標】

測量の基本原則の知識としての距離測量、トラバース測量、水準測量、平板測量などの理論と測量機器の性能・取扱い方、測量方法などを理解し、測量の基本技術の理解と機器操作の習得を行う事で、地理空間情報の作成や内容の基礎を学ぶ。更に、授業にて紹介する最新の測量やGISの実社会での応用事例を知る事で社会基盤技術の基礎を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始について】

新型コロナウイルスの影響を考え、実習が伴う授業内容ですので、講義開始日を以下の日程に変更します。

8月3日（月）～8月5日（水）＜予備日：8月4日（木）＞

学習支援システム（Hoppii）の「お知らせ」にも記載しています。

【授業の進めごとと方法】

建築測量の基本技術は、測量の分類、機器、距離測量、トラバース測量、水準測量、平板測量を中心とする。実習は、基本技術を元に測量機器の性能・取扱い方、測量方法などを学習する。学習手順としては、①トラバース測量、②水準測量、③平板測量の3種類の測量方法を中心に、それぞれ、各測量において用いられる機器の使用方法、計測実習を実習する。また、最新の技術動向として、急速に普及している人工衛星を利用したGPS測量やGIS技術についても概要を講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1,2	測量の基本	本講義のガイダンス、測量技術の基本概念、距離測量の一部
3,4	距離測量	巻尺による測量実習とその結果の計算法、実習成果の提出
5,6	水準測量	水準測量と機器の操作方法・実習、レポート提出
7,8	距離・水準測量	距離・水準測量のまとめ、講義内レポートによる確認
9,10	角測量の理論	角度の基本概念、測定手法、講義内レポートによる確認
11,12	角測量 1	トラバース測量実習（1）：計測器による操作・計測実習、実習成果の提出
13,14	角測量 2	トラバース測量実習（2）：計測器による操作・計測実習、実習成果の提出
15,16	角測量 3	緯距経距、トラバースの調整方法、講義内レポートによる確認
17,18	角測量 4	実習データによるトラバースの調整、製図、講義内レポートによる確認

19,20	平板測量 1	機器の操作方法・平板測量実習：計測器による操作・計測実習、実習成果の提出
21,22	平板測量 2	平板測量実習・製図：計測器による操作・計測実習、実習成果の提出
23,24	地図基本技術	実習のおさらい、投影法、地図座標系など
25,26	最新の測量技術	GPS 測量、GIS 技術とその応用事例など最新の測量技術の応用事例
27,28	建築の測量実習の総括	講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認

返却されたレポートの復習

レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜、計算プリントや実習操作手順書を配布する。

【参考書】

測量実習指導書（土木学会）

【成績評価の方法と基準】

期末定期試験（60%）、講義における毎回のレポート（25%）、実習成果物、実習中における実技評価や取り組み（15%）を基本とした総合評価による。

【学生の意見等からの気づき】

受講者希望者数が多い場合は、機材数の関係から、受講者数の制限などを大学側へ提案する。

【学生が準備すべき機器他】

【持参すべきもの】

60 進数計算が可能な関数電卓（試験でも利用します）

【屋外実習の注意事項】

授業は、基本的に1回4時間続きで行う。屋外実習は、天候に左右される場合があるので、授業計画に示す授業内容の順番を変更するなどして対応する場合がある。

【その他の重要事項】

測量士、空間情報総括監理技術者、技術士（総合技術監理部門）の資格をもち、国や海外の大学での研究員としての経験、国の機関や地方公共団体における地理空間情報業務の実績を持つ教員が、その経験や最新技術、応用動向の知識を活かして、測量の基本原則を中心に応用事例などを含めて講義を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will learn the fundamental tools and techniques used in surveys for construction surveys, such as distance, traverse, level, plane-table etc. measurements, and using this knowledge understand their properties, management and usage. In addition, from example of real-world use of recent surveying technology and GIS students will understand their possibilities for applications.

ADE300NB

構造計算プログラミング2 (2014 年度以前入学生用)

浜田 英明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算アプリケーションソフトを用いてプログラミングを行い、構造計算方法およびプログラミング技術の修得を授業テーマとする。

【到達目標】

表計算アプリケーションソフトでのプログラミング演習を通して、1) 鉄筋コンクリート（RC）造の柱・梁部材の断面検定方法を理解すること、2) 基本的なプログラミング技術を修得すること、3) 表計算アプリケーションソフトの扱いに慣れ、論文作成等での応用力をつけること、これら 3 点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
			○	◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算について一通り学習してきたことを、今度はコンピュータにプログラミングという形で学習させて、構造計算させる方法について学ぶ。コンピュータは大量のデータを瞬時に正確に処理してくれるが、正確にプログラムを記述しなければ、正解を導いてはくれない。「コンピュータに学習させる」ことを通して、鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算に対する自分自身の理解の深化と復習を図る。また、表計算アプリケーションソフトの扱いについて慣れ、論文作成等に活用できるようにすることも目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Excel マクロ (VBA) の基本的な使い方	コンピュータ言語 アルゴリズム、プログラミング Sub プロシージャ、Function プロシージャ For Next 文、If 文
2	演習課題 1	Sub プロシージャ、Function プロシージャを用いた例題の演習
3	ユーザーフォームの利用と鋼材断面性能の算出	ユーザーフォーム 鋼材断面性能
4	演習課題 2	ユーザーフォームを用いた鋼材断面性能算出アプリケーションの作成演習
5	RC 梁の断面検定方法の復習（曲げに対する断面検定）	鉄筋、コンクリートの許容応力度 曲げに対する断面検定の復習
6	Excel によるグラフの作図	グラフ作図演習
7	RC 梁の断面検定方法の復習（せん断に対する断面検定）	RC 長方形梁の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 せん断に対する断面検定の復習
8	演習課題 4	RC 長方形梁の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形梁の断面検定シートの作成
9	RC 柱の断面検定方法の復習（軸力と曲げ、せん断に対する断面検定）	軸力と曲げに対する断面検定の復習 せん断に対する断面検定の復習
10	演習課題 5	RC 長方形柱の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 RC 長方形柱の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形柱の断面検定シートの作成
11	人工知能による構造設計	最適化アルゴリズムによる構造設計
12	演習課題 6	トラス断面の最適化 人間による構造設計 最適化アルゴリズムによる構造設計
13	コンピュータの発展と人類	建築構造設計におけるコンピュータの利活用とその弊害 今後に向けて まとめ、総括

14 小レポート 総括レポートを各自作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やノート等による予・復習や宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、Excel VBA に関する書物のうち自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】

日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010, 日本建築学会（丸善）

日本建築学会：鋼構造設計規準－許容応力度設計法－, 日本建築学会（丸善）
その他、「鋼のデザイン」および「鉄筋コンクリートのデザイン」の授業で使用したテキストやノート

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：100%（授業内で指示された演習課題に対する作成状況）
なお、5 回以上欠席したものは評価しない

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室の機器

【その他の重要事項】

この授業は「鉄筋コンクリートのデザイン」と密接な関係があるため、先にその履修をしておくことを勧める。
また、「鋼のデザイン」とも関係が深いため、同時に履修することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

This course provides students with skills in structural calculations and programming via an introduction to programming using spreadsheet software.

ADE300NB
空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史の変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
◎	◎	○		○		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は 4/22（水）から開始する。入構禁止期間中は WEB 会議システムを用いて授業を行う。
テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらを応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2 次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、ブラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EP シェル、HP シェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B. フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1 方向、2 方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第 2 版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：40 %（A ～ D の 4 段階評価で、未提出は D 評価）
定期試験：60 %（試験の際、各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）
なお、5 回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

ADE300NB

鉄筋コンクリートのデザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート構造に関して、その特性および基本理論、構造設計手法、最新の技術動向について学ぶ。

【到達目標】

基本的な専門用語、コンクリートおよび鉄筋の性質を整理した上で、鉄筋コンクリート構造を含む各種コンクリート系構造の原理を理解すること、鉄筋コンクリート部材の曲げおよびせん断挙動を把握すること、鉄筋コンクリート部材の構造設計の基本的な考え方を修得すること、この3点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
○			○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は4/27（月）から開始する。入構禁止期間中はWEB会議システムを用いて授業を行う。

鉄筋コンクリートは、現在極めて広範囲に使用されている建築主要材料であり、圧縮には強いが引張に弱いコンクリートを、引張に強い鉄筋で補強した複合材料である。

この授業では、まず、鉄筋コンクリートの主要材料たりうる長所と注意すべき短所について整理する。その後、複合材料としての基本的な力学理論および設計手法について解説していく。

理解の定着を図るために、演習課題や演習・復習授業を適宜実施する。また、鉄筋コンクリート構造以外の各種コンクリート系構造についても解説し、最新の技術動向について触れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリート概論	授業ガイダンス 鉄筋コンクリートの原理と特徴 コンクリート系構造の基礎知識
2	コンクリートの性質	コンクリートの種類、 応力－ひずみ曲線、 強度、その他の性質
3	鉄筋の性質 鉄筋とコンクリートの付着	鉄筋の種類、強度、 応力－ひずみ曲線
4	鉄筋コンクリートの力学の基本概念	鉄筋とコンクリートの付着のしくみ 曲率と平面保持仮定 中心軸圧縮柱の応力計算 付着・定着と配筋の原則
5	梁部材の曲げ設計 1 (ひび割れモーメント、許容曲げモーメント)	無筋梁の曲げ挙動 単筋梁の曲げ挙動 複筋梁の曲げ挙動 釣合鉄筋比
6	梁部材の曲げ設計 2 (終局曲げモーメント、曲げ変形能力)	単筋梁、複筋梁の終局曲げモーメント モーメント－曲率曲線
7	柱部材の曲げ設計 1 (ひび割れモーメント、許容曲げモーメント)	無筋柱の曲げ挙動 鉄筋コンクリート柱の設計基本式 N-M 相関曲線
8	柱部材の曲げ設計 2 (終局曲げモーメント、曲げ変形能力)	終局曲げモーメント Nu-Mu 相関曲線
9	演習および復習	柱の変形能力に関わる要因 梁・柱部材の曲げ設計演習 専門用語の整理 ひび割れと配筋方法
10	鉄筋コンクリート部材のせん断挙動	せん断破壊形式 せん断力の伝達メカニズム せん断補強筋の役割
11	梁・柱部材のせん断設計	せん断補強設計の要点 梁・柱の許容せん断耐力 設計用せん断力
12	柱梁接合部のせん断設計	柱梁接合部の種類 接合部まわりの応力状態 柱梁仕口部の設計

13	スラブの設計 壁部材の設計	スラブの種類と力学 スラブの応力計算 たわみと振動障害 耐震壁の役割と力学 許容応力度設計 終局強度
14	各種コンクリート系構造と最新の技術動向	コンクリート系構造の種類 プレストレストコンクリートの特徴と原理 最新の技術動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書等による予習と授業後の復習、宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、下記参考書のうち、自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】

谷川恭雄 他：鉄筋コンクリート構造 理論と設計、森北出版
市之瀬敏勝：鉄筋コンクリート構造、共立出版
福島正人 他：鉄筋コンクリート構造、森北出版
西谷章：鉄筋コンクリート構造入門、鹿島出版会
日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010、丸善

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

定期試験：60%（試験の際、各自A4用紙1枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

板書を消すまでの時間をもう少し長くするとともに、学生が説明を十分聞けるように時間配分を調節する。

【その他の重要事項】

この授業とともに「材料のデザイン」「構造デザインの実践」「構造計算プログラミング」を履修することでさらに理解が深まるので、その履修を強く勧める。

また、建築士資格の取得を目指す学生は受講することを勧める。構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about reinforced concrete structure, including their characteristics and fundamental theory, structural planning process and recent technological developments.

ADE300NB

構造デザインの実践 2(2014 年度以前入学生用)

佐藤 良一

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄骨構造は高層建築物や大スパン構造に不可欠な工法であるが、ラーメン構造、あるいはブレースを用いて小規模の住宅、店舗、事務所、工場等にも用いられている。建物は床・小梁・それらを支える建物全体を順序だてて計算し設計する。鉄骨構造の鋼材は、工場で規格化され大量生産されるため信頼できる材料である。鉄筋コンクリートのおよそ 10 倍程度の強度であり、小さい断面で設計できる。一方たわみが大きい振動障害が生じたり、変形によって破壊する座屈という現象が生じる。これらを理解し習得できるようにカリキュラムが組まれている。

【到達目標】

小規模の建物を例として、構造設計条件から荷重の条件、荷重の伝達（応力解析）および柱梁断面算定（許容応力度設計）を通して鉄骨造に顕著な座屈という現象を習得する。さらにこのように設計された建物の大地震時に対する耐震能力と保有水平耐力算定を通して学ぶ。

【習得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	○	◎	◎	○	○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

鉄骨構造は既成の部材を組立工期が短縮できる。軽量な構造であるため、地震力に対して安全を確認するだけでなく、風荷重あるいは積雪荷重に対しても考慮しなければならない。構造設計するには建物に作用する荷重・外力を正確に把握する必要がある。固定荷重・積載荷重・積雪荷重・風圧力・地震力の例を小規模の建物を例として理解する。部材の設計として、引張材の設計、圧縮材では許容圧縮応力度、単一圧縮材、有効座屈長さを習得する。梁材として許容曲げ応力度、曲げ応力度、せん断応力度を検討する。曲げと圧縮力を受ける材として許容応力度設計を検討する。接合部の設計では高力ボルトの軸方向力とせん断力を伝える場合と溶接接合部について習得する。梁またはブレースの継手を検討し、柱梁接合部の耐力やブレースの耐力の検定をおこなう。これらを習得して、建物全体の構造設計をおこなう。1980 年建築基準法施行令の改正公布となり、1981 年に「新耐震設計法」が施行された。鉄骨構造耐震設計のフローは、「ルート 1」は小規模建物でせん断力係数を割り増しする設計、「ルート 2」は層間変形角、剛性率、偏心率を確認する設計、「ルート 3」は保有水平耐力の計算を行い、必要保有耐力を算定して設計した建物が安全であることを確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要説明	荷重・外力の理解 固定荷重、積載荷重、風荷重、地震荷重の例
2	部材の算定	許容応力度の理解 曲げ、せん断、軸力の許容応力度
3	部材の算定	単純な荷重を受ける部材 スラブ、小梁の設計（接合部分も含む）
4	部材の算定	引張と圧縮の相違 引張材、圧縮材では許容圧縮応力度、単一圧縮材、有効座屈長さを習得する。
5	断面設計	大梁の断面設計・柱の断面設計
6	断面設計	詳細の検討 柱梁接合部の検討・梁継手の検討
7	応力計算	ラーメンの応力解析 鉛直荷重時ラーメンの応力算定（1）
8	応力計算	ラーメンの応力解析 鉛直荷重時ラーメンの応力算定（2）
9	応力計算	ラーメンの応力解析 地震時のラーメンの応力算定（1）
10	応力計算	ラーメンの応力解析 地震時のラーメンの応力算定（2）
11	応力計算後の検討	変形について理解する 層間変形角、剛性率、偏心率の検討
12	保有耐力の検討	終局強度とは 部材の終局強度

13	保有耐力の検討	塑性理論の基本を理解 節点振り分け法・終局時ヒンジ図・メカニズム図
14	保有耐力の検討	崩壊について理解 必要保有耐力と判定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 回目 床・屋根の仕上げ
 - 2 回目 内力と応力の相違
 - 3 回目 単純なモーメント図及び応力図の理解
 - 4 回目 座屈について復習
 - 5 回目 断面係数について復習
 - 6 回目 接合部の詳細図について学習
 - 7 回目 単純支持と両端固定のモーメントを復習
 - 8 回目 ラーメン解法の復習（固定モーメント法及び撓角法の予習は必ず行っておくこと）
 - 9 回目 ラーメン解法の復習
 - 10 回目 ラーメン解法の復習
 - 11 回目 ラーメンの変形について復習
 - 12 回目 塑性について予習
 - 13 回目 塑性について復習
 - 14 回目 崩壊について復習
 - 15 回目 建築雑誌等で実例を調べる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。
教育支援システムにアップロードすることもある

【参考書】

鋼構造設計基準 日本建築学会
鋼構造接合部設計指針 日本建築学会
鉄骨の構造設計 藤本盛久著 技報堂出版株式会社

【成績評価の方法と基準】

演習の提出（100 %）
毎回の演習の評価・期末試験はなし

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントやプロジェクターを使用し、毎回の演習目標の説明および回答までの解説を明快に行う。

【その他の重要事項】

建築構造設計実務及び構造設計監理業務の経験のある教員が、実際に設計・建設された鉄骨造建物をとし、鉄骨造の性質、特性を理解してもらうための実習指導をおこなう

【Outline and objectives】

Steel frame construction is an indispensable structure used in skyscrapers and large-span buildings, but through Rahmen and brace structures also in houses, shops, offices, factories etc. Buildings are calculated and designed in order from floor/small beams through to the entire support structure. As steel frame materials are mass produced in accordance with standards, they are reliable to use. Reinforced concrete, with its roughly 10 times greater strength, can be planned for use with small cross sections. On the other hand, its large flexion can become a hindrance to vibrations, and depending on shape can break under buckling. This course aims to provide students with an understanding of such phenomenon.

ADE300NB

構造実験（2018年度以前入学生）

浜田 英明

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造力学等の講義で修得した理論や知識の復習とそれらの実感を伴った理解のための構造実験を行い、「形と力」の関係について学ぶ。また、技術者（Professional Engineer）としての、エンジニアリングデザイン能力およびチームワーク能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【到達目標】

実験を通して、1) 構造物に生じる応力や変形を捉える能力、2) チーム内で協調して作業する能力、3) レポート等による論理的なプレゼンテーション能力、これら 3 点を修得することを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○			○			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

与えられた実験課題に対して、5～6 人で構成されるチーム単位で構造模型を作成し、その構造性能を競い合うコンテスト形式で授業を行う。実験課題は第 1・第 2 ラウンドの 2 つあり、それぞれのラウンドごとに順位に応じた点数を付与し、最終的にその合計点で総合順位を決める。また、ラウンドごとに、設計理念の説明や構造性能に関するレポート作成等によるプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	エンジニアリングデザインとは チーム分け
2	第 1 実験課題 (課題説明、設計製作作業)	課題説明 構造模型設計 構造模型製作
3	第 1 実験課題 (製作作業、レポート作成)	プレゼンテーション準備 レポート準備
4	第 1 実験課題 (プレゼンテーション、載荷実験、議論)	設計理念説明 載荷実験の実施 実験結果について議論 レポート作成
5	第 2 実験課題 (課題説明)	課題説明
6	第 2 実験課題 (設計作業)	構造作品の設計
7	第 2 実験課題 (製作作業)	試作作品の製作
8	第 2 実験課題 (試作作品実験)	試作作品の実験と考察
9	第 2 実験課題 (改良案の提示と議論)	改善案の検討と議論
10	第 2 実験課題 (改良案の設計作業)	改良作品の設計
11	第 2 実験課題 (改良案の製作作業)	改良作品の製作
12	第 2 実験課題 (製作作業、レポート作成)	プレゼンテーションの準備 レポート準備
13	第 2 実験課題 (プレゼンテーション、載荷実験)	設計理念説明 載荷実験の実施
14	第 2 実験課題 (講評、レポート作成)	講評 議論 レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学の復習
 - 2.3.4. 断面の性質・曲げ座屈・局部座屈の復習、レポート整理
 - 5.6.7.8. 断面の性質・横座屈・局部座屈の復習、レポート整理
 - 9.10.11.12.13. トラスの力学の復習、レポート整理
 14. レポート整理
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に印刷物を適宜配布する。

【参考書】

日本建築学会：構造入門教材 ちからとたち、日本建築学会（丸善）

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

実験演習結果：40%（実験の総合順位を加味する）

実験レポートの提出：60%（未提出のものは成績評価しない）

出席：5 回以上欠席した者は成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

配布ノートパソコン

【その他の重要事項】

この授業は春学期の期末試験後に集中講義として行われる。

また、使用する教室の都合により、受講者数の制限を行う場合もある。

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will review theory and concepts gained from lectures in structural dynamics etc. and consolidate their practical understanding through structural experiments, learning about the relation between form and strength. In addition they will aim to improve skills in engineering design, teamwork and presentations as appropriate to beginning a path towards becoming professional engineers.

ADE200NB

空気調和設備

石川 裕司

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境とを加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素である。授業は空気をテーマとしその性質、空調設備設計法、熱源及び空調方式、関連機器設備を理解する。

【到達目標】

1. 空気調和の目的、概要などの全体像を理解する
2. 空気線図をはじめとし各種線図の読み方と使用法を理解する
3. 熱負荷計算法を理解する
4. 各種空調熱源・空調方式並びに機器設備について理解する
5. 空調に関係した省エネ理論を学習する。
6. 将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

＜授業の概要＞

授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩に沿って実施するので変更もある。

＜授業の方法＞

授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用する。進め方として画像や映像（PPT 又は DVD 等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習（テスト）を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	建築設備概論 空気調和の歴史 室内環境と空気調和	・室内を快適にするために先人達はどういう工夫をしてきたか ・空気の性質を知る ・空気環境、地域環境、地球環境を考える (空気の性質) ・空気線図の扱い方 ・空気線図の応用 (空気の熱量) ・加熱 ・冷却 ・加湿 ・減湿 ・混合
第 2 回	空気線図	(室温と外気温) ・室内外条件 ・負荷の種類 (壁体の熱) ・冷暖房負荷計算 ・顕熱と潜熱 ・装置容量の計算
第 3 回	空気の状態変化	(室は冷、暖) ・空調機器 ファンコイルユニット、エアーハンドリングユニットの他に、現在主流のビル用マルチ方式まで、総合的に学ぶ。 ・空調ゾーニング ベリメーター、インテリア
第 4 回	熱負荷の種類	(冷温水を作る) ・ビル用一般冷温熱源 ・蓄熱運転 ・冷温熱源としてのコージェネレーション (CGS) ・地域冷暖房
第 5 回	熱負荷計算と機器選定	(温暖化) ・未利用エネルギー ・計画の検討事項
第 6 回	空調方式	
第 7 回	熱源方式	
第 8 回	新エネルギー計画と設計	

第 9 回	自動制御と中央監視	(室温一定) ・設備機器の種類 ・中央監視設備の概要 ・BEMS(building energy management system) について (空気で快適) ・ダクト設備 ・ダクト設計法 (冷温水で快適) ・配管設備 ・配管設計法 (空気は汚れる) ・空気清浄度保持のための換気設計法 ・全熱交換器について (火災と避難) ・排煙方式 ・排煙目的 ・機械排煙量 ・排煙装置と排煙機 (省エネ) ・「省エネルギーと設備」(空調関連) ・ビル消費エネルギーと地球温暖化 (空調関連) ・省エネ計算法
第 10 回	空気搬送設備	
第 11 回	水搬送設備	
第 12 回	換気	
第 13 回	機械排煙と防災	
第 14 回	エネルギー消費	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

『建築気候』『環境工学』の授業内容とは密接な関連があるので、その内容を再度確認しておく。また数学・物理・化学などに対する苦手な人は、空調設備にはこれに関連する内容が多い。特に苦手な人は意識して勉強しておくこと。一例を挙げれば、潜熱・顕熱は室内環境と冷凍理論を理解する上では不可欠であるし、冷媒の環境問題を考えるときには化学の知識が求められる。また、数学はすべての論理的思考の基礎になっているものである。

【テキスト（教科書）】

・建築設備（市ヶ谷出版） 監修：井上宇一・著者：前島他 2 名。テキストの中のデータ類は小テストの場合、必要数値として読見取る必要があることがある。
・適宜プリントを配付する。プリント記載外の授業をすることが多いので、ノートはきちんと取るのを奨励する。

【参考書】

『図説 やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賢彌、(2800 円)
『最新 建築環境工学』監修：田中俊六・著者：田尻他 井上書院、(3000 円)
『空気調和ハンドブック』井上市市著、丸善、(4200 円)

【成績評価の方法と基準】

定期試験成績を最重点基準事項とする。
評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、以下の各項についてポイントの加減を行う。
①期末試験（70 %）小テスト・レポート（20 %）平常点（10 %）により評価する。
②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。
③時間内テストなどで不正行為があると認めた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。
④学生諸氏が、TA を含む教員との間に万一行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。プロジェクターでの表示関係の見やすさを考慮する。

【学生が準備すべき機器他】

テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓等を持参すること。

【その他の重要事項】

建築技術者としての基礎知識を身につけるためには、春学期の給排水・電気設備を合わせて履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。

【Outline and objectives】

Building facilities are responsible for creation of comfortable indoor environments by integrating natural and artificial environments to supply water, air and electricity. It plays a large factor in how living quality is evaluated. This course with its theme on air will provide students with an understanding of quality, planning air conditioning, heating and air conditioning systems and related equipment.

ADE200NB

給排水・電気設備（2018年度以前入学生）

石川 裕司

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜テーマ＞

設備は、生活に不可欠な「水・空気・電気」を自然環境と人工環境とを加減・融合し、適切な室内環境を創ることである。それと同時に居住性の良し悪しから建物の評価を大きく左右する要素でもある。太古の昔から人は水辺に居を構え集落を造り、時の経過、更に時代の変遷と共に、利便性・快適性を追求し、人為的に室内環境の創造と調整を行ってきた。将来も技術の進歩につれてこれが継承されて行かなくてはならない。これらのことを、給排水・電気設備の学習テーマとし授業を進める。

【到達目標】

＜授業の到達目標＞

建築設備の学習項目である、「①空気調和・換気設備、②給排水・衛生設備、③電力・通信情報設備」のうち、生命の根源である「②の水（給排水）」と利便性の代表である「③の電気（あかりと動力及び通信情報）」について学習する。将来を担う建築技術者としての基礎知識を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「本授業は新型コロナウイルスの影響により開講期変更を予定しています。

開講期変更の詳細は、履修本登録期間までにデザイン工学部事務より

Web 掲示板でお知らせいたします。Web 掲示板を随時ご確認ください」

＜授業の概要＞

授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」の表に沿って実施するものとする。但し授業の内容は、時代のニーズ並びに、技術の進歩により変更する場合もある。

＜授業の方法＞

授業でデータ等を確認する必要上、テキストを使用するが、進め方として画像や映像（PPT 又は DVD 等）を主に使用し、目からの情報を重視した方法をとる。一方、授業の要所要所で、学生のレベル向上と、学生・教員相互による授業内容理解度効果確認のための、時間内演習テストを実施することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	建築設備ガイダンス	快適で安心、健康的で文化的、建物に必要なもの。 ・給排水設備 ・電気設備 ・空気調和設備
2	建築設備	(建築設備で何) ・設備の歴史（必要から生まれた人工的環境の創造。現在に受け継がれる古人の知恵。）
3	給水設備	(安全な水) ・水の基礎的知識 ・生活と水 ・給水計画法 ・給水方式と系統 ・水系汚染防止等
4	給湯設備	(何で湯が出る) ・給湯方式と系統 ・給湯熱源 ・給湯循環
5	排水設備	(どこに流れる) ・排水、通気方式と系統 ・排水トラップ ・雨水
6	し尿浄化槽設備	(きれいな排水) ・汚水処理 ・汚水のリサイクル
7	衛生器具設備・ガス設備	(便器とコンロ) ・衛生器具と設備ユニット ・都市ガス、LPG ガス設備
8	電気設備	(ビルの電気) ・電気の基礎知識

9	照明設備	(いろんな灯り) ・照明の基礎 ・照明計画法 ・LED、Hf 蛍光灯 ・明視照明と雰囲気照明 ・システム天井
10	照明計算	(ランプと数) ・光源 ・照度
11	受変電設備	(電気のもと) ・受電設備 ・変電設備 ・自家発電 ・コ・ジェネレーション等
12	配線設備	(血管と神経) ・幹線設備 ・動力配線系統と方式 ・動力盤と分電盤通信・情報設備 ・ビルの通信情報網 ・中央監視と BEMS ・ビル管理の IT 化
13	防災設備	(火事だ) ・自動火災報知設備 ・誘導灯・非常照明 ・避雷設備
14	消火設備	(火の消し方) ・消火器 ・屋内消火栓 ・スプリンクラー ・泡 ・ガス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

1. 既存の建物の環境・設備をよく観察することから始まる。

2. 家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。

例えば、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・冷暖房の使用状態の把握…。

3. 学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗・病院…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。

4. 上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモしておく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

建築設備（市ヶ谷出版） 監修：井上宇一・著者：前島他 2 名。3200 円
必要に応じプリントを配布。

【参考書】

『図説 やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賛弼、2800 円

『最新 建築環境工学』（井上書院） 監修：田中俊六・著者：田尻他 5 名。3000 円

【成績評価の方法と基準】

定期試験成績を最重点基準事項とする。

評価基準は、小テスト・レポートの出題回数により変動するが、以下の各項についてポイントの加減を行う。

①期末試験（70 %）小テスト・レポート（20 %）平常点（10 %）により評価する。

②平常点評価（授業態度・遅刻・早退）特別の事情がない限り、これは大きな減点対象となる。

③時間内テストなどで不正行為があると認めた場合には、当然単位は与えない。定期試験同等と心得られたい。

④学生諸氏が、TA を含む教員との間に万一行為があった場合は、各種不正行為を含め単位は与えない。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の、小テストやレポート課題を取り入れて、計算関係の理解度を深める。その他は、前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、システムでは省エネの重要性、機器類では、CGS(Co-Generation System)、Hf 蛍光灯、LED 燈等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

【学生が準備すべき機器他】

テキスト（教科書）は、授業中は持参すること。又、必要に応じて計算問題を行うに当たって電卓等を持参すること。

【その他の重要事項】

建築技術者としての基礎知識を身につけるためには、秋学期の空気調和設備を合わせて履修の推奨する。又、建築設備の科目の対象とするものは、建築設計・工事監理等の業務に関する知識、能力の養成に資するものである。

現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして講義する。

【Outline and objectives】

Utilities are important mechanisms for regulating and uniting resources vital for life - water, gas, electricity - with the natural and manmade environment, and allow the creation of indoor spaces. At the same time it has a large influence on the evaluation of living standards. Since ancient times humans have settled along watersides, and since have chosen to build and manage indoor environments according to their convenience and pleasure. In the future, such tendencies must be upheld by the pace of technology. We will examine such issues through the themes of water supply and drainage and electricity utilities.

ADE300NB

建築設備総合デザイン（2018年度以前入学生）

石川 裕司

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

モデルビル（10,000 m²クラス中高層ビル）を教材とし、実務に直結した建築設備設計即ち、空調・給排水・電気設備計画を実施する。これら設備計画を実施することにより、建築設備が建築デザインと、どのような形で融合しているかを理解する。この演習を通して、日々進歩発展の著しい最新の設備技術の習得をはじめとして、設備の仕様、設備設計図の読取りと作成を目標とする。更に、この授業で計画したビルのエネルギー消費傾向を把握し、省エネルギー設計への手法を学ぶ。

【到達目標】

建築計画において、建築設備が与える影響は快適性の要求や技術の進歩から、と年々大きくなっていく様相を示している。授業では、予め用意したモデルビルの総合設備計画を行い、空調・給排水・電気各設備計画の実施を理解することをはじめとして、更にはとかくメカニクに偏りがちな設備が、建築空間にどのようなかたちで融和・適合しているか、又はさせるべきかを同時に学習する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎		○	◎			

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

＜授業の概要＞

授業は、前述の「授業の到達目標及びテーマ」と後述の「授業計画」に沿って実施するものとする。

＜授業の方法＞

授業では、データ等を確認する必要上、配布資料とテキストを使用するが、進め方として必要に応じ、画像や映像（PPT 又は DVD 等）を使用し、設備設計法を理解したうえで、図面化へと進む。

図面化には、計画等条件設定 → 計算 → ラフスケッチ → 実施設計へのステップで実施する。

授業の過半は計算書作成や図面やスケッチ図の製作であるが、全て授業時間内で完結させることとする。

なお、この授業を受講するに際し、環境工学関連授業はもとより、空気調和設備、給排水・電気設備を受講されているのが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業実施の概要	今年度実施授業内容 ・モデルビルの建築及び設備概要の理解 ・意匠図と設備図の読み方
2	建築設備デザイン全体計画	設備空間の構成と関連室の配置計画。 ・PS,DS,EPS 配置計画 ・設備容量の把握とビルが消費するエネルギー（空気）の性質
3	空調設備各種設計条件	・外気及び室内環境条件決定 ・熱負荷計算上の数値やファクター ・空気線図の習得
4	空調熱負荷計算	（負荷構成） ・熱負荷計算の実施 ・熱負荷の集計
5	熱源機器の選定	（熱源方式） ・熱源機の選定 ・熱源構成の学習（ポンプ、ヘッダー等）
6	空調機器の選定	（空調方式） ・空調機、屋内機、器具等関連 ・設備空間への機器配置計画 ・快適空間の学習
7	単一ダクト式（定風量式）	（風で空調） ・ダクト経路及び整風器具（吹出・吸込口）のデザイン ・空調換気ダクト図の作成

8	ファンコイルユニット方式（水温水）＋外気処理機	（水で空調） ・ファンコイル等、室内ユニット＋外気処理機併用方式の学習 ・併用方式の図面作成
9	空調熱源（空冷ヒートポンプチラー）	（全体のつながり） ・熱源方式の決定と熱源構成。 ・熱源機器スペース ・熱源系統図の作成
10	空冷ヒートポンプパッケージ（空気熱源方式）＋全熱交換器	（冷媒で空調） ・冷媒配管の経路及び室内ユニットの選定とデザイン ・空調冷媒配管図の作成
11	防災設備デザイン	（防災） スプリンクラー設備配置と関連防災設備デザイン （照明）
12	電気設備デザイン	電気設備容量の算定 ・照明計画と照度計算 照明器具配置とデザイン
13	設備総合デザイン	（天井のバランス） 天井伏図上に室内各種設備配置。 ・今迄実施した空調設備図を基に、プロット図の作成
14	省エネルギー設計法	エネルギー消費量の計算と原油換算 エネルギー源単位算出法 二酸化炭素排出量計算法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習

1. 既存の建物の環境・設備をよく観察することから始まる。
2. 家族を含めた学生諸氏の生活状態を自己観察する。
例えば、室内温熱環境（温度・湿度・気流・着衣状況・活動状況）の状況観察、水の使用状況や使用する時間帯、照明の点灯・状態の把握…。
3. 学内や、常に利用したり、又は利用した学外諸施設（駅・ホテル・劇場・店舗…）の環境・設備関連項目の観察と、利用しているヒトの行動や観察。
4. 上記の気付き項目を、ランダムでも良いから、図や寸法を交え忘れずにメモにしておく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・建築設備（市ヶ谷出版） 監修：井上宇一・著者：前島他 2 名。（3200 円）
- なお、テキストがないと、各種容量計算上の図版等を参照できず、授業中制作した計算や図面が、全く根拠がないものとなる。必ずテキスト又は、それに替わる参考書を常備すること。
- ・資料集（受講者に配布）
- ・課題プリント（受講者に配布）

【参考書】

- 『図説 やさしい建築設備』著者：伏見建、朴賢弼、（2800 円）
- ・最新 建築環境設備工学（井上書院） 監修：田中俊六・著者：田尻他 5 名。（3000 円）
- ・その他、授業中に必要に応じ、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習であるので定期試験を実施しない。評価は成果品採点を基準事項とする。毎授業終了後に作品のチェック及び評価を行う。但し、最終評価以外、即日評価の公表は行わない。

注意事項：

- ①成績評価は、成果品（75 %）、平常点（25 %）により評価する。
- ②当日評価であるので、欠席者は原則得点できない。
- ③欠席者で、後日成果品を提出又は関連レポートを提出した場合は、得点の考慮対象とすることもある。担当教員等に相談されたい。
- ④平常点（主として遅刻、早退、中途退出再入場）は、大きな減点対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も前年同様の授業の進め方、評価等の方法を踏襲する。但し、授業内容は、省エネ等、時代の流れ並びに、技術の進歩に沿って前年とは大きく異なることもある。

【学生が準備すべき機器他】

持参するもの、熱計算等は電卓は必要。
図面作成に当たっては、三角定規、コンパス等が必要。

【その他の重要事項】

現役の建築設備設計者としての経験を持つ教員が、その経験を活かして、基礎的な計算・機器選定から設計図作成までの実習を指導する。

【Outline and objectives】

Using a model building as a base for study (10,000 m² middle-rise buildings), we practice the planning of practical building facilities including air conditioning, plumbing and electricity. Through this practice we will understand how facilities are combined into architectural design. Beginning by reviewing the remarkable daily technological progress of facilities, students aim to be able to read and create facility specifications and blueprints. In addition, by understanding the power consumption of the building planned in class, we will learn techniques for the design of low energy consumption.

ADE300NB

構造計算プログラミング

浜田 英明

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算アプリケーションソフトを用いてプログラミングを行い、構造計算方法およびプログラミング技術の修得を授業テーマとする。

【到達目標】

表計算アプリケーションソフトでのプログラミング演習を通して、1) 鉄筋コンクリート（RC）造の柱・梁部材の断面検定方法を理解すること、2) 基本的なプログラミング技術を修得すること、3) 表計算アプリケーションソフトの扱いに慣れ、論文作成等での応用力をつけること、これら 3 点を目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
			○	◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

これまでの授業で鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算について一通り学習してきたことを、今度はコンピュータにプログラミングという形で学習させて、構造計算させる方法について学ぶ。
コンピュータは大量のデータを瞬時に正確に処理してくれるが、正確にプログラムを記述しなければ、正解を導いてはくれない。
「コンピュータに学習させる」ことを通して、鉄骨造や鉄筋コンクリート造の構造計算に対する自分自身の理解の深化と復習を図る。
また、表計算アプリケーションソフトの扱いについて慣れ、論文作成等に活用できるようにすることも目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Excel マクロ (VBA) の基本的な使い方	コンピュータ言語 アルゴリズム、プログラミング Sub プロシージャ、Function プロシージャ For Next 文、If 文
2	演習課題 1	Sub プロシージャ、Function プロシージャを用いた例題の演習
3	ユーザーフォームの利用と鋼材断面性能の算出	ユーザーフォーム 鋼材断面性能
4	演習課題 2	ユーザーフォームを用いた鋼材断面性能算出アプリケーションの作成演習
5	RC 梁の断面検定方法の復習（曲げに対する断面検定）	鉄筋、コンクリートの許容応力度 曲げに対する断面検定の復習
6	Excel によるグラフの作図	グラフ作図演習
7	演習課題 3 RC 梁の断面検定方法の復習（せん断に対する断面検定）	RC 長方形梁の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 せん断に対する断面検定の復習
8	演習課題 4	RC 長方形梁の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形梁の断面検定シートの作成
9	RC 柱の断面検定方法の復習（軸力と曲げ、せん断に対する断面検定）	軸力と曲げに対する断面検定の復習 せん断に対する断面検定の復習
10	演習課題 5	RC 長方形柱の許容曲げモーメント算出プログラムの作成 RC 長方形柱の許容せん断力算出プログラムの作成 長方形柱の断面検定シートの作成
11	人工知能による構造設計	最適化アルゴリズムによる構造設計
12	演習課題 6	トラス断面の最適化 人間による構造設計 最適化アルゴリズムによる構造設計
13	コンピュータの発展と人類	建築構造設計におけるコンピュータの利活用とその弊害 今後に向けて まとめ、総括

14 小レポート

総括レポートを各自作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やノート等による予・復習や宿題の演習課題、これらに積極的に取り組むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で印刷物を適宜配布するが、Excel VBA に関する書物のうち自分に合ったものを一冊購入することを勧める。

【参考書】

日本建築学会：鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 2010、日本建築学会（丸善）

日本建築学会：鋼構造設計規準－許容応力度設計法－、日本建築学会（丸善）
その他、「鋼のデザイン」および「鉄筋コンクリートのデザイン」の授業で使ったテキストやノート

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）
演習課題：100%（授業内で指示された演習課題に対する作成状況）
なお、5 回以上欠席したものは評価しない

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報教室の機器

【その他の重要事項】

この授業は「鉄筋コンクリートのデザイン」と密接な関係があるため、先にその履修をしておくことを勧める。
また、「鋼のデザイン」とも関係が深いため、同時に履修することを勧める。
構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

This course provides students with skills in structural calculations and programming via an introduction to programming using spreadsheet software.

ADE300NB
構造デザインの実践

佐藤 良一

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄骨構造は高層建築物や大スパン構造に不可欠な工法であるが、ラーメン構造、あるいはブレースを用いて小規模の住宅、店舗、事務所、工場等にも用いられている。建物は床・小梁・それらを支える建物全体を順序だてて計算し設計する。鉄骨構造の鋼材は、工場で規格化され大量生産されるため信頼できる材料である。鉄筋コンクリートのおよそ 10 倍程度の強度であり、小さい断面で設計できる。一方たわみが大きい振動障害が生じたり、変形によって破壊する座屈という現象が生じる。これらを理解し習得できるようにカリキュラムが組まれている。

【到達目標】

小規模の建物を例として、構造設計条件から荷重の条件、荷重の伝達（応力解析）および柱梁断面算定（許容応力度設計）を通して鉄骨造に顕著な座屈という現象を習得する。さらにこのように設計された建物の大地震時に対する耐震能力を保有耐力算定を通して学ぶ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	○	◎	◎	○	○	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

鉄骨構造は既成の部材を組立工期が短縮できる。軽量な構造であるため、地震力に対して安全を確認するだけでなく、風荷重あるいは積雪荷重に対しても考慮しなければならない。構造設計するには建物に作用する荷重・外力を正確に把握する必要がある。固定荷重・積載荷重・積雪荷重・風圧力・地震力の例を小規模の建物を例として理解する。部材の設計として、引張材の設計、圧縮材では許容圧縮応力度、単一圧縮材、有効座屈長さを習得する。梁材として許容曲げ応力度、曲げ応力度、せん断応力度を検討する。曲げと圧縮力を受ける材として許容応力度設計を検討する。接合部の設計では高力ボルトの軸方向力とせん断力を伝える場合と溶接接合部について習得する。梁またはブレースの継手を検討し、柱梁接合部の耐力やブレースの耐力の検定をおこなう。これらを習得して、建物全体の構造設計をおこなう。1980 年建築基準法施行令の改正公布となり、1981 年に「新耐震設計法」が施行された。鉄骨構造耐震設計のフローは、「ルート 1」は小規模建物でせん断力係数を割り増しする設計、「ルート 2」は層間変形角、剛性率、偏心率を確認する設計、「ルート 3」は保有水平耐力の計算を行い、必要保有耐力を算定して設計した建物が安全であることを確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	概要説明	荷重・外力の理解 固定荷重、積載荷重、風荷重、地震荷重の例
2	部材の算定	許容応力度の理解 曲げ、せん断、軸力の許容応力度
3	部材の算定	単純な荷重を受ける部材 スラブ、小梁の設計（接合部分も含む）
4	部材の算定	引張と圧縮の相違 引張材、圧縮材では許容圧縮応力度、単一圧縮材、有効座屈長さを習得する。
5	断面設計	大梁の断面設計・柱の断面設計
6	断面設計	詳細の検討 柱梁接合部の検討・梁継手の検討
7	応力計算	ラーメンの応力解析 鉛直荷重時ラーメンの応力算定（1）
8	応力計算	ラーメンの応力解析 鉛直荷重時ラーメンの応力算定（2）
9	応力計算	ラーメンの応力解析 地震時のラーメンの応力算定（1）
10	応力計算	ラーメンの応力解析 地震時のラーメンの応力算定（2）
11	応力計算後の検討	変形について理解する 層間変形角、剛性率、偏心率の検討
12	保有耐力の検討	終局強度とは 部材の終局強度

13	保有耐力の検討	塑性理論の基本を理解 節点振り分け法・終局時ヒンジ図・メカニズム図
14	保有耐力の検討	崩壊について理解 必要保有耐力と判定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1 回目 床・屋根の仕上げ
 - 2 回目 内力と応力の相違
 - 3 回目 単純なモーメント図及び応力図の理解
 - 4 回目 座屈について復習
 - 5 回目 断面係数について復習
 - 6 回目 接合部の詳細図について学習
 - 7 回目 単純支持と両端固定のモーメントを復習
 - 8 回目 ラーメン解法の復習（固定モーメント法及び撓角法の予習は必ず行っておくこと）
 - 9 回目 ラーメン解法の復習
 - 10 回目 ラーメン解法の復習
 - 11 回目 ラーメンの変形について復習
 - 12 回目 塑性について予習
 - 13 回目 塑性について復習
 - 14 回目 崩壊について復習
 - 15 回目 建築雑誌等で実例を調べる
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。
教育支援システムにアップロードすることもある

【参考書】

鋼構造設計基準 日本建築学会
鋼構造接合部設計指針 日本建築学会
鉄骨の構造設計 藤本盛久著 技報堂出版株式会社

【成績評価の方法と基準】

演習の提出（100 %）
毎回の演習の評価・期末試験はなし

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントやプロジェクターを使用し、毎回の演習目標の説明および回答までの解説を明快に行う。

【その他の重要事項】

建築構造設計実務及び構造設計監理業務の経験のある教員が、実際に設計・建設された鉄骨造建物をとし、鉄骨造の性質、特性を理解してもらうための実習指導をおこなう

【Outline and objectives】

Steel frame construction is an indispensable structure used in skyscrapers and large-span buildings, but through Rahmen and brace structures also in houses, shops, offices, factories etc. Buildings are calculated and designed in order from floor/small beams through to the entire support structure. As steel frame materials are mass produced in accordance with standards, they are reliable to use. Reinforced concrete, with its roughly 10 times greater strength, can be planned for use with small cross sections. On the other hand, its large flexion can become a hindrance to vibrations, and depending on shape can break under buckling. This course aims to provide students with an understanding of such phenomenon.

CST200NC

測量実習 X

今井 龍一

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】

距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | 30% |
| (D) 専門基礎学力 | 30% |
| (E) 専門知識の活用・応用力 | 20% |
| (F) 総合デザイン能力 | 20% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の測量機器を用いて計測方法を習得する。また、得られたデータによる精度検証を行い、実務に利用できる能力を身につける。なお、測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し、選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器械等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
6	測角（4） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
7	距離測定（1） 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
8	距離測量（2）	距離測定
9	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断面測量 水準測量の計算、誤差配分
10	多角測量 測角を行い、多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
11	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器械の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
12	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
13	平板測量（3）、その他	最終成果として見やすいように仕上げる。 その他、不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施する
14	まとめ	成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】

講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する
取組姿勢・平常点（60 %）、個人実習（20 %）、班別成果（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

初めて機器に触れるため、丁寧な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

計算には関数付電卓か PC を持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】

授業を 4 回以上欠席した場合は、単位取得を認めない（評価 D）。
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。

【Outline and objectives】

Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.

CST200NC

測量実習 Y

渡辺 一博、大山 容一

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土木に於ける測量は、建設・施工面で重要視されている。その技術は、基本として地図を作成する過程を習得することにある。そのため本実習では地図を作る工程の基本につき講義・実習を行う。

【到達目標】

距離、角度、高低差を計測する技術を習得し、さらに、平板測量の仕方を身に着ける

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 30%
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の測量機器を用いて計測方法を習得する。また、得られたデータによる精度検証を行い、実務に利用できる能力を身につける。なお、測量は班別に計測するため協力して成果を得られるチームワークを身につける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 測量の精度と工程を把握し、選点図を作成することにより測量の概要を理解する	ガイダンス（測量の目的、方法、工程、器械等について）現地踏査、選点、埋設、点の記、選点図の作成
2	計画・準備 測量範囲、方法、精度、工程の検討	多角点の設置
3	測角（1） トランシットの使い方をマスターする	経緯儀の構造、角測定の方法
4	測角（2） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
5	測角（3） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算
6	測角（4） 実際に選点した閉トラバースの内角の測定	角度の測定、計算、精度の検証
7	距離測定（1） 距離測定の方法と誤差配分を理解する	スチールテープの特性、直接測距の方法、距離の測定、誤差の配分
8	距離測定（2） 水準測量	距離測定
9	水準測量 レベルの使い方をマスターする	水準測量の方法、縦横断面測量 水準測量の計算、誤差配分
10	多角測量 測角を行い、多角測量の計算手法を理解する	方位角の取付け 多角測量の計算、制限、誤差配分 再測、展開、まとめ
11	平板測量（1） 平板測量の仕方を理解する	器械の説明、取り扱い、方法 細部測量（平面・等高線、標高点）
12	平板測量（2）	校舎周辺の平板測量
13	平板測量（3）、その他	最終成果として見やすいように仕上げる。 その他、不足している測量項目がないか検証してある場合は補足の測量を実施する
14	まとめ	成果の取りまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小田部和司著「測量学」、技報堂出版

【参考書】

講義の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】

平常点、取組姿勢及び個人レポート及び班別成果により評価する
取組姿勢・平常点（60 %）、個人実習（20 %）、班別成果（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

初めて機器に触れるため、丁寧な説明を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

計算には関数付電卓か PC を持参すること。
野外実習に適した服装をすること。

【その他の重要事項】

授業を 4 回以上欠席した場合は、単位取得を認めない（評価 D）。
測量士資格を有し、本務地において現地測量の実務経験を有する教員が、測量実習において、実務に即した計画段階取りや、実作業として効率的な手順や精度管理方法について、実演も含めて講義する。

【Outline and objectives】

Surveying in civil engineering is regarded as an important process for construction. The basic technique involves mastering the process of creating maps. Therefore, in this course, lectures and practice will be given on the basics maps making process.

構造力学2

小笠原 照夫

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、構造力学 1 及演習を引き継ぐ科目である。構造計算に必要な基本的項目を理解し、実際の問題を解ける能力を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

不静定構造の断面力図が思い浮かぶようになる。剛性マトリクス法による構造解析の基本的な考え方が理解できる。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

70%

30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主な学習内容は、「構造力学 1 の復習とはり・トラスの影響線の応用、仮想仕事の原理とエネルギー法による弾性体の解析手法、マトリクス構造解析の考え方、応力とひずみの関係」の 4 項目である。授業はプロジェクトを使用して行うことを基本とし、資料配布も行う。また、理解を高めるために例題の解説を行い、授業の最後には演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	構造力学 1 の復習 構造物の断面力や影響線の考え方が理解できること。	構造力学 1 の復習、はりの断面力と影響線
2	はりの影響線の応用 はりの間接荷重による影響線から断面力が求められること。	間接荷重を受けるはりの影響線の求め方・利用法
3	トラスの影響線 トラスの影響線を描画できること。	トラスの影響線の求め方・利用法
4	弾性体の変形 (1) 仮想仕事の基本的な考え方を理解すること。	剛体の仮想仕事の原理、弾性体の仮想仕事の原理
5	弾性体の変形 (2) 仮想仕事の原理を用い、弾性体の変形量を算出できること。	仮想仕事の原理を用いたはりトラスの変形の算出
6	弾性体の変形 (3) 仮想仕事の原理を用い、はりの影響線を描画できること。	相反作用の定理、Betti の法則、Maxwell の法則、Müller-Breslau の原理
7	弾性体の変形 (4) ひずみエネルギーの考え方を理解すること。	ひずみエネルギーを用いた解法
8	弾性体の変形 (5) ひずみエネルギーを用いた弾性体の解法を理解すること。	Castigliano の第 2 定理
9	弾性体の変形 (6) ひずみエネルギーを用いた弾性体の解法を理解すること。	最小仕事の定理、Castigliano の第 1 定理
10	不静定はり 不静定はりの断面力図を描画できること。	不静定構造、連続はり、余力法
11	剛性マトリクス (1) 剛性マトリクス法による構造解析の考え方とトラスの解法を理解すること。	剛性マトリクス、行列、軸方向力部材の剛性マトリクス

12	剛性マトリクス (2) 剛性マトリクス法によるラーメンの解法を理解すること。	有限要素法、軸方向力と曲げを受ける棒要素の剛性マトリクス
13	応力とひずみ 構造材料の力学的性質と 2 次元応力状態の主応力について理解すること。 主応力と Mohr の応力円	構造力学 (1) の復習、弾性・塑性、等方性・異方性、応力とひずみの関係、Mohr の応力円と最大・最小主応力
14	構造力学 2 のまとめ	不静定構造の各種解析手法、影響線の応用、主応力のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 構造力学 (1) の復習、テキスト [上]4 章、7～9 章の復習
 2. 構造力学 (1) の復習、テキスト [上]9.4 の予習
 3. 構造力学 (1) の復習、テキスト [上]9.5 の予習
 4. テキスト [下]1 章、2.1-2 の予習
 5. テキスト [下]2.3-4 の予習
 6. テキスト [下]3 章の予習
 7. テキスト [下]4 章の予習
 8. テキスト [下]4 章の予習
 9. テキスト [下]4 章の予習
 10. テキスト [下]5 章の予習
 11. テキスト [下]6 章の予習
 12. テキスト [下]7 章の予習
 13. テキスト [上]6 章の予習、
 14. テキスト [上]7.7 と付録（もっと立ち入った応力の話）の予習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

崎元達郎：構造力学 第 2 版（上）静定編
構造力学 第 2 版（下）不静定編（第 2 刷以降）
（森北出版）

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（配点 30 点）と期末試験（配点 70 点）による。欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

橋梁構造等に関する設計・施工の実務経験から、「理論と計算」を考慮した構造力学を講義する。

【Outline and objectives】

The content of this course takes over from Structural Mechanics 1 and Practice.

It aims to understand the basic aspects necessary for structural calculation and to acquire the ability to solve actual problems.

CST200NC

鋼構造デザイン X (2018年度以前入学生)

内田 大介

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】

鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 70% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 30% |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

橋梁などの鋼構造物を設計（デザイン）する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	橋の形式、著名な橋、橋ができるまで、設計の基本的な考え方
2	鋼材の性質	鋼材の製造法、冶金の性質、機械的性質、鋼材の破壊形式（延性破壊、脆性破壊、疲労破壊）、鋼橋の腐食と防食方法
3	圧縮部材の強度（1）	長柱のオイラー座屈
4	圧縮部材の強度（2）	不完全さのある柱の座屈（偏心荷重、元たわみ）、非弾性座屈、溶接組立柱の座屈、平板の座屈
5	曲げ部材の強度（1）	全塑性モーメント、横ねじれ座屈
6	曲げ部材の強度（2）	曲げに伴うせん断応力の発生機構と計算方法、せん断耐力、ウェブの座屈、ウェブの設計
7	合成桁の応力度	合成桁、合成桁の応力度の算出
8	第8回までの講義・演習の復習	鋼材の性質、圧縮部材の強度、曲げ部材の強度、合成桁
9	高力ボルト接合とその設計（1）	高力ボルトの種類、高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム、ボルトの締め付け方法
10	高力ボルト接合とその設計（2）	高力ボルト摩擦接合継手の設計、支圧接合継手、引張接合継手
11	溶接継手とその設計（1）	溶接方法の種類
12	溶接継手とその設計（2）	アーク溶接、溶接入熱、溶接変形
13	溶接継手とその設計（3）	溶接継手の種類、溶接残留応力、溶接継手の強度、溶接記号
14	溶接継手とその設計（4）	疲労設計荷重、溶接継手の疲労強度、線形累積被害則、疲労照査
		溶接さず、破壊力学を用いた脆性破壊の照査、破壊制御設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 講義の復習
2. 講義の復習
3. 講義の復習
4. 講義の復習
5. 講義の復習
6. 講義の復習
7. 講義の復習
8. 中間実力確認の復習
9. 講義の復習
10. 講義の復習
11. 講義の復習
12. 講義の復習

13. 講義の復習

14. 講義の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

館石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配点は中間実力確認と期末試験が各40点、第2～7、9～14回に実施する小テスト20点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用することがある。

【その他の重要事項】

鋼橋の設計・施工・維持管理に関する研究開発に携わった教員が、実務経験を織り交ぜながら講義する。

教材、レポートと試験の解答は授業支援システム「エチュード」に掲載する。

【Outline and objectives】

Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.

鋼構造デザイン Y（2018年度以前入学生）

森 猛

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁を例として鋼構造の設計法の基本を学ぶことにより、主として専門知識の活用・応用能力を身に付ける。

【到達目標】

鋼材の性質、破壊、接合方法、接合部の強度の基礎的事項を説明できる。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 70% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 30% |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

橋梁などの鋼構造物を設計（デザイン）する際に必要となる鋼材およびその接合部の破壊形式と強度についての知識を身に付ける。本科目を履修する前に構造力学及演習Ⅰを履修しておくことが望ましい。実際の設計については3年次配当科目の「鋼構造デザイン実習」において学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	橋の形式、著名な橋、橋ができるまで、設計の基本的な考え方
2	鋼材の性質	鋼材の製造法、冶金の性質、機械的性質、鋼材の破壊形式（延性破壊、脆性破壊、疲労破壊）、鋼橋の腐食と防食方法
3	圧縮部材の強度（1）	長柱のオイラー座屈
4	圧縮部材の強度（2）	不完全さのある柱の座屈（偏心荷重、元たわみ）、非弾性座屈、溶接組立柱の座屈、平板の座屈
5	曲げ部材の強度（1）	全塑性モーメント、横ねじれ座屈
6	曲げ部材の強度（2）	曲げに伴うせん断応力の発生機構と計算方法、せん断耐力、ウェブの座屈、ウェブの設計
7	合成桁の応力度	合成桁、合成桁の応力度の算出
8	第8回までの講義・演習の復習	鋼材の性質、圧縮部材の強度、曲げ部材の強度、合成桁
9	高力ボルト接合とその設計（1）	高力ボルトの種類、高力ボルト摩擦接合継手のメカニズム、ボルトの締め付け方法
10	高力ボルト接合とその設計（2）	高力ボルト摩擦接合継手の設計、支圧接合継手、引張接合継手
11	溶接継手とその設計（1）	溶接方法の種類
12	溶接継手とその設計（2）	アーク溶接、溶接入熱、溶接変形
13	溶接継手とその設計（3）	溶接継手の種類、溶接残留応力、溶接継手の強度、溶接記号
14	溶接継手とその設計（4）	疲労設計荷重、溶接継手の疲労強度、線形累積被害則、疲労照査
		溶接きず、破壊力学を用いた脆性破壊の照査、破壊制御設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 講義の復習
2. 講義の復習
3. 講義の復習
4. 講義の復習
5. 講義の復習
6. 講義の復習
7. 講義の復習
8. 中間実力確認の復習
9. 講義の復習
10. 講義の復習
11. 講義の復習
12. 講義の復習

13. 講義の復習

14. 講義の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

館石和雄 著：鋼構造学，コロナ社

【参考書】

必要に応じて、講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配点は中間実力確認と期末試験が各40点、第2～7、9～14回に実施する小テスト20点とする。4回以上欠席した場合にはD評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用することがある。

【その他の重要事項】

鋼橋の設計・施工・維持管理に関する研究開発に携わった教員が、実務経験を織り交ぜながら講義する。

教材、レポートと試験の解答は授業支援システム「エチュード」に掲載する。

【Outline and objectives】

Using the case of steel bridges as an example, students will acquire basic knowledge of steel structure design methods.

CST200NC

RC構造デザイン X（2018年度以前入学生）

山本 佳士

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート（RC）は、社会インフラに広く用いられている。都市施設をデザインする技術者は、設計法の基本を理解するとともに、鉄筋コンクリートに使用する材料の性質、各種の外力が作用した場合の RC 部材の挙動など基礎的な事項を理解しておく必要がある。RC 構造デザインではこれらについて修得することを目標とし、RC 構造の設計論、材料の力学的性質、曲げモーメント、軸力、せん断力に対する梁部材あるいは柱部材の挙動と設計法について、計算演習も取り入れて学ぶ。

【到達目標】

鉄筋コンクリートに使用する材料とその性質、各種の外力が作用した場合の鉄筋コンクリートの挙動について基礎的な事項を把握すると共に設計方法の基本を修得することを目標とする

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後にミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・鉄筋コンクリートの概要 材料力学の復習	ガイダンス・鉄筋コンクリートとはどのようなものか・鉄筋コンクリートの原理・成立性・特長・歴史・主要構造物の説明
2	設計方法の概要	および材料力学の復習【ミニテスト】 設計の目的・設計方法の変遷・限界状態設計法と許容応力度法の説明【ミニテスト】
3	曲げを受ける部材（1）	曲げモーメントを受ける部材の変形挙動・曲げ部材の弾性解析の説明、長方形断面の曲げ応力度の算出【ミニテスト】
4	曲げを受ける部材（2）	T 型断面の曲げ応力度算出、曲げひび割れとひび割れ制御の説明【ミニテスト】
5	曲げを受ける部材（3）	曲げ耐力の説明【ミニテスト】
6	前半の総合演習	前半の総合演習
7	中間実力確認	演習および解説
8	特別講義	エクセルを用いた計算演習
9	せん断力を受けるはり部材（1）	せん断力を受けるはり部材の応力の分布、ひびわれ発生の状況、破壊の種類と対策の説明【ミニテスト】
10	せん断力を受けるはり部材（2）	せん断力を受ける部材の耐荷機構、コンクリートとせん断補強鉄筋が分担する終局耐力計算方法の説明【ミニテスト】
11	曲げと軸方向力を受ける部材（1）	軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、横拘束筋の役割【ミニテスト】
12	曲げと軸方向力を受ける部材（2）	曲げと軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、M－N 相関図の説明【ミニテスト】
13	一般構造細目・配筋方法	かぶり・あき・定着・継ぎ手・最小鉄筋量・配筋等の構造細目の説明、各種構造物への配筋方法および全体のまとめ【ミニテスト】
14	後半の総合演習	後半の総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基礎から学ぶ鉄筋コンクリート工学（朝倉書店）

【参考書】

鉄筋コンクリートの解析と設計 限界状態設計法と性能設計法 吉川弘道著 丸善書店

【成績評価の方法と基準】

ミニテスト 10%・エクセル演習 10%・中間実力確認 40%・期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。講義には POWERPOINT を使用する。

【その他の重要事項】

土木構造物の設計、建設、研究業務に携わる現役技術者および勤務経験のある教員が、鉄筋コンクリートの基礎を解説する。

【Outline and objectives】

Reinforced concrete (RC) is widely used for social infrastructure. Engineers, who design urban facilities, need to understand fundamental matters such as the nature of materials used for reinforced concrete and the behavior of RC members under various loads. This course aims to comprehend these issues. Students will learn about the design theory of RC structures and the mechanical properties of the materials, followed by the behavior and design method of RC beam or column members in relation to bending moment, shear and axial force through calculation exercises.

CST200NC

RC構造デザイン Y (2018年度以前入学生)

山野辺 慎一

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート（RC）は、社会インフラに広く用いられている。都市施設をデザインする技術者は、設計法の基本を理解するとともに、鉄筋コンクリートに使用する材料の性質、各種の外力が作用した場合の RC 部材の挙動など基礎的な事項を理解しておく必要がある。RC 構造デザインではこれらについて修得することを目標とし、RC 構造の設計論、材料の力学的性質、曲げモーメント、軸力、せん断力に対する梁部材あるいは柱部材の挙動と設計法について、計算演習も取り入れて学ぶ。

【到達目標】

鉄筋コンクリートに使用する材料とその性質、各種の外力が作用した場合の鉄筋コンクリートの挙動について基礎的な事項を把握すると共に設計方法の基本を修得することを目標とする

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 70% |
| (E) 専門知識の活用・応用力 | 30% |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後にミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・鉄筋コンクリートの概要 材料力学の復習	ガイダンス・鉄筋コンクリートとはどのようなものか・鉄筋コンクリートの原理・成立性・特長・歴史・主要構造物の説明
2	設計方法の概要	および材料力学の復習【ミニテスト】 設計の目的・設計方法の変遷・限界状態設計法と許容応力度法の説明【ミニテスト】
3	曲げを受ける部材（1）	曲げモーメントを受ける部材の変形挙動・曲げ部材の弾性解析の説明、長方形断面の曲げ応力度の算出【ミニテスト】
4	曲げを受ける部材（2）	T 型断面の曲げ応力度算出、曲げひび割れとひび割れ制御の説明【ミニテスト】
5	曲げを受ける部材（3）	曲げ耐力の説明【ミニテスト】
6	前半の総合演習	前半の総合演習
7	中間実力確認	演習および解説
8	特別講義	エクセルを用いた計算演習
9	せん断力を受けるはり部材（1）	せん断力を受けるはり部材の応力の分布、ひびわれ発生の状況、破壊の種類と対策の説明【ミニテスト】
10	せん断力を受けるはり部材（2）	せん断力を受ける部材の耐荷機構、コンクリートとせん断補強鉄筋が分担する終局耐力計算方法の説明【ミニテスト】
11	曲げと軸方向力を受ける部材（1）	軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、横拘束筋の役割【ミニテスト】
12	曲げと軸方向力を受ける部材（2）	曲げと軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、M-N 相関図の説明【ミニテスト】
13	一般構造細目・配筋方法	かぶり・あき・定着・継ぎ手・最小鉄筋量・配筋等の構造細目の説明、各種構造物への配筋方法および全体のまとめ【ミニテスト】
14	後半の総合演習	後半の総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基礎から学ぶ鉄筋コンクリート工学（朝倉書店）

【参考書】

鉄筋コンクリートの解析と設計 限界状態設計法と性能設計法 吉川弘道著 丸善書店

【成績評価の方法と基準】

ミニテスト 10%・エクセル演習 10%・中間実力確認 40%・期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。講義には POWERPOINT を使用する。

【その他の重要事項】

土木構造物の設計、建設、研究に携わる現役技術者および同経験を有する教員が、鉄筋コンクリートの基礎を解説する。

【Outline and objectives】

Reinforced concrete (RC) is widely used for social infrastructure. Engineers, who design urban facilities, need to understand fundamental matters such as the nature of materials used for reinforced concrete and the behavior of RC members under various loads. This course aims to comprehend these issues. Students will learn about the design theory of RC structures and the mechanical properties of the materials, followed by the behavior and design method of RC beam or column members in relation to bending moment, shear and axial force through calculation exercises.

OTR300NC

ゼミナール

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。

なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

溝渕 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。
なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

道奥 康治

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。
なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。
なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

鈴木 善晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。
なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

OTR300NC

ゼミナール

渡邊 竜一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員別ゼミナールによる専門的知識の蓄積とともに卒業研究着手への準備をする。卒業研究の実施状況や現場を視察し、研究の進め方や技術の実用・実装を学ぶとともに、レポートの作成を通して自分の考えを文章表現するための作文能力を養成する。

【到達目標】

調査・分析能力とコミュニケーション能力を身につける。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	20%
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員別ゼミナールについては、学生の希望を考慮したグループ分けを行い、少人数で行う。この科目の単位を取得しなければ卒業研究に着手できない。この授業で取り上げる事項は各回の内容を参照されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
(1)	ガイダンス	教員別ゼミナールのための班分け、授業のガイダンス、資格試験等説明
(2)	教員別ゼミナール (1)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(3)	教員別ゼミナール (2)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(4)	教員別ゼミナール (3)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(5)	教員別ゼミナール (4)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(6)	教員別ゼミナール (5)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(7)	教員別ゼミナール (6)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(8)	教員別ゼミナール (7)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(9)	教員別ゼミナール (8)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(10)	教員別ゼミナール (9)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(11)	教員別ゼミナール (10)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(12)	教員別ゼミナール (11)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(13)	教員別ゼミナール (12)	卒業研究の内容説明・模擬体験、現場視察、文献購読など。
(14)	卒業研究審査会	卒業研究審査会へ参加し、発表と審査を傍聴する。数件の研究に関し内容と自身が受けた印象・考えなどをまとめたレポートを提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認。配布資料の復習。レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参照すべき書籍などを講義中に随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマに関するレポートによる。欠席 4 回以上は単位の取得を認めない (D 評価)。

なお、1 年生春学期から 3 年生春学期までの達成度自己評価システム（全 5 回分）の提出を本授業における単位認定の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適正能力審査試験では WEB 入力方式の模擬試験を実施する。ディベート大会の準備ではインターネットなどによる情報収集が必要となる。以上の場合には貸与ノート PC を持参する。

【その他の重要事項】

土木構造物の計画、設計、建設（施工）、調査・研究に携わった経験のある教員が、専門的知識を解説するとともに卒業研究着手へ向けた指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn technical knowledge about their field and prepare to commence their graduation theses. Specifically, students learn how to write a thesis and visit a construction site to further their studies and practical technique. In addition, students will practice writing skills through reports.

CST300NC

総合演習（2018年度以前入学生）

溝渕 利明、鈴木 善晴、福井 恒明、道奥 康治、並河 努、今井 龍一、内田 大介

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この時点までに学習した各科目について問題演習の実施とその解法を説明して、専門分野の学力レベルの向上を目指す。

【到達目標】

3 年生 B 期までに身につけた専門分野の基礎学力ならびに応用学力をより確かなものとする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 30%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 70%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

出題頻度の高い就職試験問題や資格試験（技術士補、土木学会 2 級技術者資格）レベルの演習問題を実際に解く。その後、問題・解答の解説を行う。演習問題回答 50 分、問題・解答の解説 30 分を目途とする。演習問題の中から指定された問題の回答をレポートとして提出する。これにより、これまでに身に付けた工学基礎学力や専門基礎学力等をより確かなものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業方法の周知
	力学	力学に関する演習の実施と解答
2	構造力学・鋼構造 (1)	構造力学・鋼構造に関する演習の実施と解答
3	構造力学・鋼構造 (2)	構造力学・鋼構造に関する演習の実施と解答
4	数学	数学に関する演習の実施と解答
5	水理学	水理学に関する演習の実施と解答
6	地盤力学 (1)	地盤力学に関する演習の実施と解答
7	交通計画	交通計画に関する演習の実施と解答
8	地盤力学 (2)	地盤力学に関する演習の実施と解答
9	コンクリート構造	コンクリート構造に関する演習の実施と解答
10	コンクリート材料	コンクリート材料に関する演習の実施と解答
11	都市計画	都市計画に関する演習の実施と解答
12	水工学、河川工学	水工学、河川工学に関する演習の実施と解答
13	測量学	測量学に関する演習の実施と解答
14	環境システム、土木史	環境システム、土木史に関する演習の実施と解答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題および関連問題について復習を行うこと
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

各回の成績 (50 %)、期末試験（総合）(50 %)。欠席 4 回以上は評価 D。

【学生の意見等からの気づき】

学年により受講人数が変動するため、開講時間を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習の順番に変更がある場合はエチュードおよび掲示板にて受講者に連絡を行う。

【その他の重要事項】

コンサルタント、建設会社、橋梁メーカー等にて豊富な実務経験を有する教員が、専門知識を解説する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to extend one's skill and ability by taking comprehensive examinations in various fields of the civil and environmental engineering.

CST300NC

インターンシップ（都市）

今井 龍一、内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学科カリキュラムと密接に関連する研究開発、調査・分析、計画・設計、施工管理等に関連する実業務を体験することにより、環境システムのデザイン、施設のデザイン、都市プランニングの実務者に必要な基礎能力を身につける。

【到達目標】

役所や企業の活動内容を理解し、これまで修得してきた専門知識を踏まえ、実習先の指導担当者との十分な意思疎通を図って業務を体験する。これらを通じて業務遂行能力を修得する。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | |
| (E) 専門知識の活用・応用力 | 20% |
| (F) 総合デザイン能力 | 20% |
| (G) コミュニケーション能力 | 30% |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | 30% |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

実習する事業所、業務形態と内容により異なるが、① 研究開発業務の手順・手法・検証評価および報告書のとりまとめ、② 現地調査と調査データの解析・評価および報告書のとりまとめ、③ 計画の立案と事業主体や住民への説明、④ 設計計算書・図面の作成と積算、⑤ 施工・安全・出来高管理等の実際業務を官・民の事業所で体験学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1・2	オリエンテーション 実習先の決定・実習における注意	実習先の希望聴取・実習先の説明・実習先の決定・実習先での諸注意を行う
3～13	実習先でのインターンシップ	インターンシップの実施 (1) 実施期間は原則として2週（実働10日間）以上 (2) 実習先で業務日誌を作成すること。 (3) 実習終了時に指導担当者の方に指導報告書を記入していただくこと。
14	結果の報告とレポートの提出	作成したレポートをもとに担当教員に報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1・2. 実習希望先の調査・履歴書などの準備

3～13. 業務日誌・レポート等の作成

学科ガイダンス（年度当初）およびインターンシップガイダンス（5月中旬）を実施する。

学科が斡旋する企業等の割り当てについては5月下旬に調整を行うので必ず上記ガイダンスに参加すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

必要に応じて配布

【成績評価の方法と基準】

レポートおよび実習先指導担当者による報告書により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

インターンシップの目的は職業体験であり、社会人としての仕事への取り組み方について実感を得るとともに、都市環境デザイン工学が担う幅広い職種に対する理解を深めることが狙いである。将来の就職活動の際に幅広い視野を得るため、特定の企業のみを考えることなく参加することが重要である。

【その他の重要事項】

都市環境デザイン分野（ゼネコン・行政）において実務経験を持つ教員がその経験を活かして派遣先のコーディネイトを行う。

実習にあたり、Word・Excel等の基本的な操作ができることが前提である。

またCAD等についても基本的な操作ができることが望ましい。

【Outline and objectives】

In this course, students will experience business, research and development, survey/analysis, planning and design, and construction management in civil and environmental engineering fields at companies and government offices in order to acquire basic skills as practical engineers.

上下水道システム

島田 裕康

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

水の循環は、自然系の水循環と社会活動に必要な不可欠な上下水道システムによる人工系の水循環が混在している。

本講義では、都市の上下水道による水循環に焦点を当て、社会基盤を支えるインフラの一つとして、上下水道システムにおける発展の歴史や求められる役割、システムの構成と機能、設計や施工方法及びシステムの運営・管理等日本の実社会での取組み事例等をベースに学ぶ。また、持続可能な社会構築にむけてインフラの共通課題である、施設の老朽化や耐震化問題を始めた上下水道分野における課題と対応策についても学ぶ。

上下水道システムの全体像や構成技術、現在の課題及び対応策について理解を深めることにより、卒業後上下水道分野の職場を希望する学生のみならず、街づくりに携わる分野を希望する学生にとっても必要な基本能力の向上を目的とする。

【到達目標】

上下水道システムの

- ・役割（生命・社会生活の維持、水環境の保全、持続的社会での期待）について学ぶ。特に上下水道技術分野における課題、今後の方向性を十分理解するとともに、厳しい社会経済状況のなかで、市民としての「自助」活動のあり方を理解するとともに、工学エンジニアとしての社会における技術者貢献をめざして、上下水道技術分野の基本的な知識習得を目標とする。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントによる講義とし、毎回テキストを配布するとともに、ミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義全体概要の紹介と地球・世界・日本の水事情	授業目標、成績評価法、人体と水、地球の水、日本の水、世界と日本における水を取り巻く環境、都市化による水循環の悪化と対策
2	上水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例紹介、水道普及の要因と現状、水道の役割と法律（水道法）
3	水道はどのように運営されているのか？	水道事業者、独立採算の原則、水道料金設定等水道事業の現状と課題。水道水源保全の重要性
4	水源から飲料水になるまで、どのように浄化・処理されるのか？	浄水処理技術の原理と仕組み。浄水施設の構成と浄化機能。おいしい水の供給とミネラルウォーター
5	日本ではどのようにして安全で安心な水道を供給しているのか？	水道法による水質基準、水質検査と安全管理。地震による水道被害と対策
6	地球温暖化による水道への影響と離島での水道事情	温暖化による今後の予測、節水対策、雨水利用の現状と動向。離島における水道の現状。今後の水道（新水道ビジョン）
7	下水道の発展の歴史と求められる役割	文明を支えた技術、国内外の事例紹介、下水道普及の要因と現状。下水道の役割とその変遷
8	下水道に関する指標と数値が示す意味	下水処理人口普及率と汚水処理人口普及率。河川と湖沼の水質基準と環境基準（BOD と COD）

9	雨水や汚水はどのようにして下水処理場へ運ばれるのか？	下水道の収集方法（分流・合流）様々な下水管きょの種類と特性。下水道設計の流れと必要な諸言。流量算定フロー
10	下水道の施工方法及び改修技術	下水道管きょの施工（開削、シールド、推進工法）施設の老朽化問題とその対策（更新・改修技術）
11	汚れた水はどのようにして浄化するのか？	浄化技術の変遷、重要な微生物の働き、標準活性汚泥法、公共水域の水質改善と高度処理
12	都市型水害とは？ その背景と現状及び対策	急増する集中豪雨の現状と対策、都市化の影響、都市の地理的特性、河川、下水道での対策、重要なソフト対策
13	雨水の貯留と浸透。街づくりと一体となった都市型水害対策	貯留・浸透工法の構造・施工・効果の確認、貯留・浸透工法の活用方策、街づくりと一体となった対策事例
14	試験・まとめ	第 1 回～第 13 回講義での重要なポイントの理解度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

市民生活を支える「上水道」「下水道」について自分の身近な水を学習することから始める。

たとえば、「水道料金はいくら払っているのか？」「自宅の水道水は、どこの浄水場から給水されているのか？ そもそも、その水源はどこなのか？」「使用した水は、どのように処理されているのか？ また下水処理場は？ 処理水の放流先は？」「自宅の屋根や敷地に降った雨水はどのように処理されているのか？」など各自の生活の周りにある「水」を理解しておく。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定するテキストはない。パワーポイントにより授業を進め、毎回テキスト及び関連資料を配布する。

【参考書】

指定する参考書はない。上下水道の基礎知識を備えておくことが望ましいことから、インターネット等の情報を活用し、各講義で紹介した出典文献等を確認することや、浄水場・汚水処理場等システムを構成する施設の見学も参考となる。

【成績評価の方法と基準】

授業の理解度を確認するため、授業毎に実施するミニテスト（理解度確認試験）と期末試験を行う。

両試験での評価点は、ミニテスト 40 % 期末テスト 60 % 合計 100 % とする。ミニテストは、当該授業に関連した内容とし、教員からの指示に従い、記入・回収する。その提出状況と記入内容を評価する。

期末試験は、授業全体の理解度を記入内容から評価する。授業は連続授業（1 日 2 時限で 7 日間 14 回講義）となるが、全 14 回講義のうち欠席 4 回以上は単位の取得を認めない。（この場合評価 D）

【学生の意見等からの気づき】

幅広い講義内容となることから、授業内容への関心と理解を深めるため、日常的な課題を具体的な事例により説明する。本講義のテーマが机上での知識だけでなく、学生自らの生活に密接に係るものであることを十分認識できる講義を目指す。

【その他の重要事項】

都市再生機構職員として、団地建替事業や市街地再開発事業に携わった経験を持つ教員が、街づくりとの関係を含め上下水道全般について講義する。

【Outline and objectives】

In this course, you will learn the history and role of the development of water supplies and sewer systems, in addition to their composition, function, design, construction, operation and management.

CST200NC

PC 構造デザイン

酒井 秀昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プレストレストコンクリート（Prestressed-Concrete）（以下、PC という）について、主に PC 橋梁を事例としその力学的特性と設計の基本を学ぶ。PC とは、コンクリートに予め圧縮力を与えたコンクリートをいい、引張に弱いコンクリートに予め圧縮力を与えることで、従来の鉄筋コンクリートの概念を飛躍的に向上させた構造である。PC 構造は、社会インフラとしての橋梁に広く採用されており、ライフサイクルコストの削減や効率的整備に大きく貢献している。この PC 構造のデザインを学習することにより、今後の技術者としての将来に大きく貢献できるものと期待される。

【到達目標】

「PC 構造デザイン」では、PC の原理、力学的特性、設計法、維持管理法について、基礎的な内容やその適用事例などを幅広く学習する。到達目標は、構造力学の復習も含め、学生諸君が社会において PC 技術に携わる際、躊躇無く取組めるよう、基礎的見識の習得及び PC 構造のデザインの基礎習得を目指す。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初にプレストレストコンクリート（PC）の概要を掴むため、その概念、歴史・変遷、近年の適用事例について学ぶ。その後、PC 構造物のライフサイクルマネジメント手法およびデザインの基本的考え方を学ぶ。さらに、プレストレスの作用・仕組み、プレストレスを作用させた PC 構造物の設計方法ならびに維持管理手法について具体的に学習する。授業は、パワーポイント（PPT）と黒板を用いて説明する。PPT の内容については、授業支援システムに登録する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	PC 構造の概要	授業の目的や進め方を説明する。また、PC 構造の特徴を把握する。
2	PC 構造の発展と構造物	PC 構造の開発の経緯と活用例を知ることにより、PC 構造の特性を理解する。
3	PC 構造の橋梁への適用	PC 構造の橋梁への適用例を学習することにより、PC 構造の利点を理解するとともに PC 構造のデザインの基礎を理解する。
4	PC 構造の技術・材料	PC 構造を可能とするための基本的な技術および構成材料の種類や特徴を理解する。
5	PC 橋の種類・架設工法	近年の PC 橋の形式や架設工法について、鋼構造との複合構造も含めて理解する。
6	PC 橋のライフサイクルマネジメント	PC 橋の計画・設計・施工・維持管理のライフサイクルマネジメントを理解することにより、PC 構造のデザインの基本的考え方を理解する。
7	PC 橋のプランニング	PC 橋の設計供用期間、維持管理区分および要求性能の設定方法を学習して、構造形式や構造形状の計画方法を理解する。
8	PC 橋のデザインの概要	PC 橋の性能照査型設計による性能確保に関する基本概念および性能照査型設計の手順を理解する。
9	PC 橋のデザイン（作用と限界値）	PC 橋の死荷重、活荷重および環境作用などの作用の設定方法および材料等の限界値の設定方法を理解する。
10	PC 橋のデザイン（応答値と性能照査）	PC 橋の応答値の算定方法および要求性能に対する性能の照査方法を理解する。

11	PC 橋のデザイン計算（作用と限界値）	PC 橋の活荷重作用の算定、環境作用の算定に関する事例および性能照査の事例により、PC 橋の設計方法を理解する。
12	PC 橋のデザイン計算（応答値と性能照査）	PC 橋の活荷重作用、環境作用による応答値の算定に関する事例および性能照査の事例により、PC 橋の設計方法を理解する。
13	PC 橋の保全方法	PC 橋の維持管理における維持管理計画の策定、診断、記録および対策の基本概念および手順を理解する。
14	全体のまとめ	全体の復習を行って、PC 構造のデザイン方法の理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講する前に、構造力学、鉄筋コンクリートおよび鋼・コンクリートなどの材料に関する今までの関連授業の内容を再確認したうえで、授業に臨む。授業の中でレポートを 1 回提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業は、PPT と黒板説明を中心とする。PPT の資料は、全て、授業支援システムに登録するので準備のこと。

【参考書】

- ・コンクリート標準示方書 基本原則編、設計編、維持管理編（公益社団法人土木学会）
- ・道路橋示方書・同解説 I 共通編、Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編（社団法人日本道路協会）
- ・コンクリート構造設計施工規準（公益社団法人プレストレストコンクリート工学会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を重視（70%）するが、レポート提出も考慮（30%）する。

【学生の意見等からの気づき】

図や写真等をなるべく多く活用し、わかりやすい授業内容とする。

【その他の重要事項】

橋梁の計画・設計・施工・維持管理の経験を有する者が、プレストレストコンクリート構造及びプレストレストコンクリート橋梁のデザインについて具体的に講義する。

【Outline and objectives】

This course is on prestressed concrete (“PC”) taught by the civil engineering department. It features subjects on bridge and buildings utilizing PC structure. PC structure is made up of concrete with compressive force applied and drastically improves the concept of conventional reinforced concrete by applying compression force in advance to concrete which is weak against tension. PC structure is widely adopted in bridges for social infrastructure, and contributes greatly to efficient construction and the reduction of life cycle cost. It is expected that students will greatly contribute as engineers in the future by learning the design of PC structure.

CST300NC

アセットマネジメント（2018年度以前入学生）

藤原 博

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会基盤は、人が社会・経済活動を行う上で欠くことができない極めて大きな役割を果たしている。しかし、わが国の社会基盤ストックは老朽化や損傷が進み、今後数十年の間に集中的に更新時期を迎えることになる。社会基盤は適切な維持管理によってその機能を保つことができる。一方、わが国は近年の厳しい財政状況から、公共事業予算の削減が継続して行われており、これに、少子・高齢化、人口減少時代を迎えて、長期的な社会基盤投資余力の減少も見込まれている。こうしたことから、社会基盤ストックの維持管理や更新に要する費用の増大が、新たな社会基盤整備のための投資を制約し、近い将来、新設投資が不可能になるとされている。このようななか、国や自治体、鉄道や高速道路あるいは電力などにおいて、社会基盤の維持管理に「アセットマネジメント」が導入されるようになってきた。アセットマネジメントは、限られた予算条件の下で、効率的かつ効果的な社会基盤の運用・管理ができる維持管理手法として注目を集めている。

【到達目標】

本授業では、社会基盤のアセットマネジメント導入の背景を理解するとともに、アセットマネジメント構築に必要な基礎知識を習得する。その結果、初歩的なアセットマネジメントが構築できるようになるとともに、自治体等で行われているアセットマネジメントを説明できるようになることが本授業の到達目標である。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力 40%
(E) 専門知識の活用・応用能力 40%
(F) 総合デザイン能力 20%
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、授業では、アセットマネジメント導入の背景、国の財政事情および国の老朽化に対する施策を理解するとともに、アセットマネジメントを構築するために必要な基礎知識（損傷と補修・補強、点検と健全度診断、寿命と劣化予測、予防保全）を習得する。また、アセットマネジメントに不可欠な経済、経営、財務・会計に関する知識（ライフサイクルコスト、インフラ会計、維持管理シナリオと予算の平準化）についても習得し、近年求められている“経済に強いエンジニア”を目指す。授業の後半では、自治体等で行われているアセットマネジメントの現状を理解するとともに、今後建設業界において拡大が予想されているPFI、コンセッションなどについて理解する。授業内容を理解できたかについては、討議や授業内試験によって確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「アセットマネジメントとは」 社会基盤におけるアセットマネジメントの概要と構築の手順を理解する。	・社会基盤のアセットマネジメントとは ・アセットマネジメントの目的と効果 ・アセットマネジメント構築の課題
第2回	「アセットマネジメント導入の背景」 アセットマネジメントを導入する背景となった、わが国の社会基盤の現状を理解するとともに、わが国より約30年早く社会基盤が荒廃したアメリカの例から、わが国の社会基盤のあり方を考える。	・荒廃するアメリカの教訓 ・わが国の社会基盤を取り巻く環境 ・わが国の財政事情

第3回	「老朽化対策に関する国の施策」 高度成長期の大量に建設された社会基盤は老朽化が進み、多くの社会基盤は補修や更新時期を迎えている。アセットマネジメントを効果的に構築し運用するためには、国の老朽化対策に関する施策を理解しておくことが必要となる。	・道路の老朽化対策に関する取り組み ・長寿命化修繕計画の策定 ・点検基準等の法定化
第4回	「インフラの損傷と補修・補強」 社会基盤は使用状況、設置環境さらにはメンテナンス体制などによって損傷の状態や進行度が異なっている。授業では、鋼道路橋を例に社会基盤に発生する劣化・損傷と補修・補強技術の概要について理解する。	・インフラに発生する劣化と損傷 ・補修・補強の基本的な考え方
第5回	「点検と健全度診断」 LCC型アセットマネジメントでは、構造物の現状を的確に把握し、劣化の進行を予測し、適切な時期に適切な対策を行うことが重要となる。ここでは、構造物の状態を把握するための点検・調査、診断および健全度評価技術の概要を理解する。	・道路の点検・調査、診断、健全度評価 ・点検・診断の課題
第6回	「維持管理シナリオと予算の平準化」 アセットマネジメントのための予算計画を策定する場合、インフラの管理コストを単純に積み上げると、特定の年度の修繕更新費が突出することになる。インフラのサービス水準を維持しつつ、効果的・効率的なメンテナンスを行うためには、インフラの重要度や劣化度に応じた優先度を設定し、予算の平準化を前提にした維持管理シナリオが必要となる。	・予算の平準化とは ・維持管理シナリオの考え方
第7回	「インフラの寿命と劣化予測」 アセットマネジメントにおいて、対象となる構造物が将来的にどのように劣化していくかを予測することは非常に重要な要素である。道路橋を対象に、インフラの寿命（耐用年数）の考え方と劣化予測の現状と劣化予測手法を理解する。	・寿命の考え方 ・劣化予測の現状
第8回	「予防保全」 アセットマネジメントでは、予防保全を前提とした維持管理が行われる。予防保全によって構造物のライフサイクルコストの低減が実現できるとともに、維持管理シナリオによる予算の平準化が可能となる。本授業では、予防保全の考え方、事後保全と予防保全の違い等について理解する。	・事後保全と予防保全 ・もし予防保全が行われていたら（事例解説） ・予防保全を適切に行うためには

- 第9回 「ライフサイクルコスト（LCC）」
現在、地方自治体で行われているLCC型アセットマネジメントでは、建設から維持管理までのライフサイクルコストを最小化するとともに、予算の平準化が主な目的となっている。授業では、社会基盤におけるLCCの考え方、LCC算出方法、LCCの低減方法について理解する。
- 第10回 「インフラ会計」
予算計画を策定し、インフラ資産の維持補修のためのアクションプログラムを機能させようとするれば、予算やその執行管理を実施するためのインフラ資産の評価が必要となる。ここでは、インフラ資産を評価する会計手法について理解する。
- 第11回 「アセットマネジメントの実際」
自治体において運用・試行されている社会基盤アセットマネジメントを例に、LCC型アセットマネジメントを理解する。ここでは、自治体で行われているアセットマネジメントの実例について理解する。
- 第12回 「アセットマネジメントの進化」
多くの自治体で行われているアセットマネジメントは、アセットマネジメントの初期段階のLCC（ライフサイクルコスト）型アセットマネジメントであるが、今後は資産運用型アセットマネジメントに移行しつつある。ここでは、資産運用型アセットマネジメントPPPの具体的な実現方法の一つであるPFIについて理解する。
- 第13回 「アセットマネジメントに必要な技術者資質」
アセットマネジメントの構築には、メンテナンスに精通した技術者が必要となる。ここでは、エンジニアに求められる資質や資格と建設業界の現状を理解する。
- 第14回 「授業のまとめ」

- ・LCCの考え方
- ・LCCの算出方法
- ・LCCを低減させるには
- ・LCCの課題

- ・公会計導入の背景と目的
- ・官庁会計と企業会計

- ・自治体における事例解説

- ・NPMとPFI
- ・PFI法
- ・コンセッション方式
- ・PFI導入事例

- ・メンテナンスエンジニアの役割と資質
- ・メンテナンスエンジニアに必要な資格

授業で修得した知識の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に自治体等のホームページで公開しているアセットマネジメントの内容を確認しておく。次回の授業準備として、配布された資料を熟読しておくとともに、授業内で示されたレポート作成をとおして授業の内容を理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業ごとに配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験100点満点（100%）

授業内容を理解した上で、「論理的に自分の考えを述べているか」、「技術的な論文形式になっているか」、「発展的な内容となっているか」を総合的な観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

過去の授業改善アンケートによると、「将来仕事に就く上で必要な授業であった」、「インフラの資産運用について知ることができた」、「内容に興味を持てた」、「ライフサイクルコストを含む都市計画・構造物の資産的な知識が得られた」、「面白かった」、「知識が身についた」などのコメントが多くあった反面、一部の内容がわかりにくいという指摘があり、よりわかりやすい授業にしたいと考えている。これからの技術者には経済、会計、財務およびマネジメントの知識が必要になる。またアセットマネジメントを理解するにはこれらの知識が不可欠であることから、授業では適宜わかりやすく解説する。

【学生が準備すべき機器他】

使用しない。授業中のパソコンの使用は禁止する。

【その他の重要事項】

高速道路会社のメンテナンス部門に長く勤務した教員が、アセットマネジメントの実務科目について指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn infrastructure asset management. Its objectives are the understanding of circumstances in which countries introduce Asset Management, their financial situations, inspection and soundness judgment methods necessary for asset management, prediction of deterioration, preventive maintenance technology, repair methods, life cycle cost and maintenance management scenarios. In addition, by understanding the economics and accounting for essential asset management, it will be possible to efficiently and economically manage infrastructure.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海洋に関する基礎的な知識を幅広く習得するとともに、工学・環境学の技術者に必要な基礎理論・数理モデルを理解する。

【到達目標】

- ①沿岸・内湾～全球スケールにおける海の流動や循環、海洋の生態系など、海岸工学・海洋学に関する基礎知識を幅広く習得する。
- ②津波・高潮、地球温暖化、富栄養化など、海にまつわる災害・環境問題を理解する。
- ③海洋環境の保全・改善に向けた日本と世界の取組みを理解する。
- ④波の基礎理論および赤潮・貧酸素水塊の数理モデルを習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配布資料を用いた講義・問題演習を行う。第 1～10 回および第 13・14 回では、奇数回目において海洋学の基礎や海の災害・環境問題について総合的理解を深め、偶数回目で前講義内容に関わる基礎理論の解説・問題演習を行う。第 11・12 回では、海の環境保全・改善に関する日本と世界の取組みについて学習する。期末試験を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、海の構造と観測	海の深さ・海底地形、海の色、水温・塩分・海水密度の鉛直構造、海の流れと種類、潮汐の発生メカニズム、海洋観測
2	波の基礎理論 1(演習)	長波と深水波、微小振幅波理論の解説と問題演習
3	海にまつわる災害～津波と高潮～	津波・高潮の発生メカニズム、災害事例、災害に伴って発生する環境問題
4	波の基礎理論 2(演習)	微小振幅波理論 (第 2 回の続き)、分散関係式、津波の伝播速度・到達時間の解説と問題演習
5	沿岸・内湾の富栄養化問題 1	海洋生態系の基礎、生命の起源、水生生物の種類と食物網、海洋の一次生産、赤潮の発生メカニズム
6	生態系の数理解析 1(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 1)
7	沿岸・内湾の富栄養化問題 2	干潟の種類、底生生物の種類、二枚貝(アサリ)の生活史、貧酸素水塊の発生メカニズム、底生生物の水質浄化作用
8	生態系の数理解析 2(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 2)
9	わが国の沿岸環境の現状と保全	環境基本法、水質汚濁防止法、排水基準、環境基準、総量規制制度、生活排水対策
10	生態系の数理解析 3(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 3)
11	海洋環境保全のための国際的取組み	海洋汚染防止に関する国際条約とわが国の取り組み
12	海洋資源開発と環境保全	海底鉱物資源の基礎知識、海底鉱物資源開発の現状、海底鉱物資源開発による環境影響
13	地球規模の大気・海洋循環と温暖化の影響	水の状態変化、地球の水・熱循環、地球規模の大気循環、海洋の風成循環と熱塩循環、地球温暖化の影響
14	海洋循環の基礎理論 (演習)	コリオリ力、地衡流の解説・問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使用了スライド資料、配布資料、問題演習 (全てエチュードにアップする) を復習する。第 2・4・14 回の問題演習では水理学が、第 6・8・10 回では Excel の表計算が基礎になるため、関連科目を復習してから授業に臨む。第 6・8・10 回で構築した赤潮・貧酸素水塊予測モデルを用いたレポート課題に取組む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の際に資料を配布する。

【参考書】

海洋学 (Paul R. Pinet 著、東京大学大気海洋研究所監訳、東海大学出版会)、海岸工学 (木村、森北出版)、沿岸の海洋物理学 (宇野木、東海大学出版会)

【成績評価の方法と基準】

レポート 40 %、期末試験 60 % を標準的な配点として、その合計点で評価する。なお、欠席 5 回以上は単位取得を認めない (評価 D または E)。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業では、毎回出席票を配布・回収し、授業で分からなかったところや授業内容・方法の改善要望などを自由形式で記述してもらい、学生の理解度の把握や意見の収集に努めた。寄せられた質問については次回の講義で補足説明を行うなど、授業にフィードバックさせた。今年度も可能な限り学生からの意見・要望を集め、授業改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- 問題演習の講義では関数電卓を持参すること。第 6・8・10 回の問題演習では Excel を使用するのでノートパソコンを持参すること。
- レポート課題の提出には授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- 現役の研究者が、海洋学と環境保全に関する基本的知識を幅広く解説するとともに、人間活動が海域環境に及ぼす影響を予測するモデルについて指導する。
- 交通機関の遅延証明については 30 分以上の遅延のみ考慮することとし (その他のケースは無効・遅延証明を受領しない)、学生証の持参忘れ・タッチ忘れ等については原則 1 回のみ配慮する (2 回目以降は無効・欠席扱い)。
- 期末試験では関数電卓が必要となるため、各自忘れずに持参すること (持参し忘れた場合も貸与はしない)。

【Outline and objectives】

This is a course of oceanography for civil and environmental engineering. Students can learn basic knowledge of oceanography, especially mathematical physical theories, numerical modelling for coastal biogeochemical cycles, and national/international environmental management.

ADE300NC

建築法規（都市）

飯田 直彦

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では建築物単体や集団の基準や景観・バリアフリー・省エネなどの基準と手続きからなる様々な建築法規を知ること、君の都市デザインを合理的かつ実行可能なものにするための基本的な考え方を学ぶ。建築法規の条文は一般に長文で複雑であるが、これを節や句に分解し、各種工学や都市計画や行政法などの理論を参照し、君が学ぶ他の科目との関係づけを意識して、そして考察を加えて自問し、他者と意見交換をしながら、建築法規の精神を理解する。

【到達目標】

1. 建築関連法令の読み方と解釈力を習得できる
2. 建築関連法令の内容と趣旨を説明できる力を習得できる
3. 法令の本旨を織り込んだデザインをする力を習得できる
4. 建築士試験受験の基礎を習得できる

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
(B) 技術者倫理
(C) 工学基礎学力
(D) 専門基礎学力 20%
(E) 専門知識の活用・応用力 60%
(F) 総合デザイン能力 20%
(G) コミュニケーション能力
(H) 継続的学習能力
(I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

建築関連法令のルール（手続きと基準）の要点、背景そして目的を、テキスト（教科書）や授業資料を用いてその実例を示し、例題を解きながら、身につけていく。その上で、自らの感想や意見を加えて建築法規に裏付けられた、また、他の授業で学ぶ公共サービス計画と運営と関連付けられた、都市デザインを探っていく。4月21日からの配布資料の学習支援システムにアップします。2020年4月21日開講。4月24日に確認及び錯誤による誤植の訂正。

筑5

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	まちやいえてみかける建築法規	道路の幅員や隅切り。建築物と敷地、建築物の用途・位置・規模・形態・意匠に関連する法規の発見。建築物内の居室・廊下・階段、壁・柱・梁、開口部、各種設備配管などに適用される法規の発見。SDGsからみた建築法規
2	建築の自由 vs 公共の福祉	建築法規の歴史、法律・条例・政令・省令・告示・政策方針書や技術的助言や条例などの体系、条や項そして号、本文とただし書きなど条文の構成と読み方。最低基準とincentives、屋内の安全衛生や環境と屋外の各種環境との関係。性能規定と仕様書規定。
3	室内環境のルール（建築基準法単体規定1）	居室と室、廊下・階段などの日常安全や採光・換気・通風など衛生のルール。建築設備の役割、室内環境と屋外環境との関係。ビル衛生法との関係。
4	構造強度のルール（建築基準法単体規定2）	建築物とその骨組み。加わる外力と生じる反力そして応力。基礎と地盤、部材とその接合部での力の伝達とヒンジ。構造方法と壁量計算や構造計算。
5	防火避難のルール（建築基準法単体規定3）	特殊建築物と住宅。居室と無窓居室。火災時の火熱煙の拡大とその抑制。高層階・避難階・地下階。避難行動と消防活動、在館者特性、市街地火災、消防法や火災保険。
6	建築物と各種インフラ・公共サービスとの関係を秩序づけるルール	上下水道・電気ガス・道路・廃棄物処理などと建築物との関わり、開発許可制度、都市計画制限、土地利用規制と税制そして税負担他と公共財の整備経営。建築防災と都市防災。

7	建築物と敷地・道路のルール（建築基準法集団規定1）	接道義務。道路位置指定・2項道路・3項道路。木造密集市街地での防災や居住環境そして空地。
8	建築物の用途のルール（建築基準法集団規定2）	建築用途の制限（相性悪い用途と補いあう用途、影響力ある用途と影響受けやすい用途、その建築用途が必要とする公共サービス）、不法妨害（nuisance）論、Buffer zoning、土地利用規制や営業開設許可制や環境公害規制との相補。用途の純化 vs 異種用途との共生。
9	建築物の規模配置などのルール（建築基準法集団規定3）	面積や高さの算定、容積率・建蔽率・高さ・日影・敷地面積・壁面後退等の制限、2以上の用途地域等にまたがる場合の集団規定。基準のローカライズとカスタマイズ（地区計画制度）。
10	着工前、工事中及び使用中の手続きのルール（建築基準法手続き規定）	建築確認と検査。建築基準関係規定。工程管理和工事監理。定期報告制度。違反建築物対策。不服申し立てと裁決。適用除外と認定や許可。建築主責任。
11	設計や施工や維持管理などを担う職業専門家へのルール（建築士法ほか）	資格・登録制。維持保全計画、業務請負契約。法令順守・倫理。監督処分と罰則。性能設計と単体規定の性能規定階層化。地域特性に応じた集団規定の目的志向階層化。損害賠償保険。
12	人口減少・少子高齢社会での建築ストックに関するルール	既存不適格建築物。バリアフリー・耐震診断と改修・省エネ・建設リサイクル。景観・緑・屋外広告物。
13	住まいをめぐる市民と専門家（住宅・宅地関係法ほか）	建物の寿命と人間のライフステージ。区分所有。性能表示。瑕疵担保責任・宅地建物取引。住宅金融と税制。契約と登記。
14	義務と推奨	以上の内容を義務と推奨の観点から整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習ではテキスト（教科書）の該当する文章や図表を一読する。復習では該当する条文をインターネットや法令集で再確認するほか、これらをまちや校舎内やいえてみつける。うち、面白い、気になる、自分だったらこうするといった場面と関連する建築法規を後述するノートにメモしておく。なお、授業では個々具体の建築法規への異論反論とその事情背景を当該法規の沿革や海外の場合とあわせて紹介し、学生自らの発言を期待する。さらに、これらをたたき台に他の講義など機会をとらえて仲間の意見もきいて、自分なりの考えを磨いて課題レポートに反映する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大村謙二郎 五條渉 萩原一郎 平野吉信 監修：First Stage シリーズ 建築法規概論改訂版、実教出版、2019年9月、2,400円＋税。このほか関連する法規はその都度、紹介する。

【参考書】

建築基準法、建築基準法施行令などは法令データ提供システム 電子政府の総合窓口 eGov をたどると、また、〇〇市建築基準条例、〇〇市建築基準条例施行規則などは〇〇市のホームページの例規集をたどると、ダウンロードできる。このほか、都市計画やまちづくりのネット上の記事は豊富で、昔の地形図、まちでみかける道路、建築物、屋外広告物、地形、水、緑、交通などすべてが建築法規の実例となる。このほか、法令集を自分の身近に置いて何かあれば辞書代わりに使える力をこの講義で身につける。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（100%）。課題レポートでは、自分が今後のデザインに役立つと考えた建築法規についてデザインに反映する姿勢などを論じることによって上記の到達目標への自分の到達点を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

建築物は他の講義で学ぶ道路・上下水道などインフラと結びついていることに気付く、との声をきいた。建築法規（都市）を君の学ぶ都市デザインやインフラマネジメントにも役立ててほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業のヒントとなるお知らせや授業スライドを”学習支援システム”（これまで”授業支援システム”（通称：エチュード）と呼ばれていたシステムが2020年4月から変更、とのこと）を利用して入手してください。このほか、授業等のノートを一冊、用意して授業のほか予習・復習やまちやキャンパスや家でみかけた建築法規をメモ風に書き込み、頭の中を整理していきます。

【その他の重要事項】

国・県・市の建築指導行政に携わり、そして建築構造技術者からなる団体での役員としての勤務経験を有する教員が建築法規の趣旨及び概要とそれを自他が律することの意義を講義します。また、他の科目が建築法規からの発展展開に関連深いことから、しっかりと勉強してください。学習支援システムを使ってコミュニケーションをしましょう。

【Outline and objectives】

In this course, we will learn about various legal rules and procedures for the regulation of buildings such as building, zoning, aesthetic, sign and green codes and so on. This course aims to provide you with key concepts to make your urban design reasonable and practical. We will study complicated provisions, breaking sentences into clauses and referring to theories of civil/architectural engineering, urban planning, administrative laws etc., while exchanging opinions about these codes in order to examine their principles.

CST300NC
海洋環境工学

東 博紀、越川 海

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海洋に関する基礎的な知識を幅広く習得するとともに、工学・環境学の技術者に必要な基礎理論・数値モデルを理解する。

【到達目標】

- ①沿岸・内湾～全球スケールにおける海の流動や循環、海洋の生態系など、海岸工学・海洋学に関する基礎知識を幅広く習得する。
- ②津波・高潮、地球温暖化、富栄養化など、海にまつわる災害・環境問題を理解する。
- ③海洋環境の保全・改善に向けた日本と世界の取組みを理解する。
- ④波の基礎理論および赤潮・貧酸素水塊の数値モデルを習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 20%
- (E) 専門知識の活用・応用力 60%
- (F) 総合デザイン能力 20%
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配布資料を用いた講義・問題演習を行う。第 1～10 回および第 13・14 回では、奇数回目において海洋学の基礎や海の災害・環境問題について総合的理解を深め、偶数回目で前講義内容に関わる基礎理論の解説・問題演習を行う。第 11・12 回では、海の環境保全・改善に関する日本と世界の取組みについて学習する。期末試験を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、海の構造と観測	海の深さ・海底地形、海の色、水温・塩分・海水密度の鉛直構造、海の流れと種類、潮汐の発生メカニズム、海洋観測
2	波の基礎理論 1(演習)	長波と深水波、微小振幅波理論の解説と問題演習
3	海にまつわる災害～津波と高潮～	津波・高潮の発生メカニズム、災害事例、災害に伴って発生する環境問題
4	波の基礎理論 2(演習)	微小振幅波理論 (第 2 回の続き)、分散関係式、津波の伝播速度・到達時間の解説と問題演習
5	沿岸・内湾の富栄養化問題 1	海洋生態系の基礎、生命の起源、水生生物の種類と食物網、海洋の一次生産、赤潮の発生メカニズム
6	生態系の数理解析 1(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 1)
7	沿岸・内湾の富栄養化問題 2	干潟の種類、底生生物の種類、二枚貝(アサリ)の生活史、貧酸素水塊の発生メカニズム、底生生物の水質浄化作用
8	生態系の数理解析 2(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 2)
9	わが国の沿岸環境の現状と保全	環境基本法、水質汚濁防止法、排水基準、環境基準、総量規制制度、生活排水対策
10	生態系の数理解析 3(演習)	Excel を用いた赤潮・貧酸素水塊の予測モデルの構築 (その 3)
11	海洋環境保全のための国際的取組み	海洋汚染防止に関する国際条約とわが国の取り組み
12	海洋資源開発と環境保全	海底鉱物資源の基礎知識、海底鉱物資源開発の現状、海底鉱物資源開発による環境影響
13	地球規模の大気・海洋循環と温暖化の影響	水の状態変化、地球の水・熱循環、地球規模の大気循環、海洋の風成循環と熱塩循環、地球温暖化の影響
14	海洋循環の基礎理論 (演習)	コリオリ力、地衡流の解説・問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使ったスライド資料、配布資料、問題演習 (全てエチュードにアップする) を復習する。第 2・4・14 回の問題演習では水理学が、第 6・8・10 回では Excel の表計算が基礎になるため、関連科目を復習してから授業に臨む。第 6・8・10 回で構築した赤潮・貧酸素水塊予測モデルを用いたレポート課題に取り組む。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業の際に資料を配布する。

【参考書】

海洋学 (Paul R. Pinet 著、東京大学大気海洋研究所監訳、東海大学出版会)、海岸工学 (木村、森北出版)、沿岸の海洋物理学 (宇野木、東海大学出版会)

【成績評価の方法と基準】

レポート 40 %、期末試験 60 % を標準的な配点として、その合計点で評価する。なお、欠席 5 回以上は単位取得を認めない (評価 D または E)。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業では、毎回出席票を配布・回収し、授業で分からなかったところや授業内容・方法の改善要望などを自由形式で記述してもらい、学生の理解度の把握や意見の収集に努めた。寄せられた質問については次回の講義で補足説明を行うなど、授業にフィードバックさせた。今年度も可能な限り学生からの意見・要望を集め、授業改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- 問題演習の講義では関数電卓を持参すること。第 6・8・10 回の問題演習では Excel を使用するのでノートパソコンを持参すること。
- レポート課題の提出には授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- 現役の研究者が、海洋学と環境保全に関する基本的知識を幅広く解説するとともに、人間活動が海域環境に及ぼす影響を予測するモデルについて指導する。
- 交通機関の遅延証明については 30 分以上の遅延のみ考慮することとし (その他のケースは無効・遅延証明を受領しない)、学生証の持参忘れ・タッチ忘れ等については原則 1 回のみ配慮する (2 回目以降は無効・欠席扱い)。
- 期末試験では関数電卓が必要となるため、各自忘れずに持参すること (持参し忘れた場合も貸与はしない)。

【Outline and objectives】

This is a course of oceanography for civil and environmental engineering. Students can learn basic knowledge of oceanography, especially mathematical physical theories, numerical modelling for coastal biogeochemical cycles, and national/international environmental management.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

溝渕 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。

卒業研究 1 実施記録：80 %，卒業研究 1 報告書：20 %

ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

今井 龍一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。

卒業研究 1 実施記録：80%，卒業研究 1 報告書：20%

ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

内田 大介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。
卒業研究 1 実施記録：80%，卒業研究 1 報告書：20 %
ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

渡邊 竜一

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。
卒業研究 1 実施記録：80 %、卒業研究 1 報告書：20 %
ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

高見 公雄

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。

卒業研究 1 実施記録：80%，卒業研究 1 報告書：20%

ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

鈴木 善晴

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。
卒業研究 1 実施記録：80%，卒業研究 1 報告書：20%
ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

福井 恒明、福島 秀哉

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。
卒業研究 1 実施記録：80 %、卒業研究 1 報告書：20 %
ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

山本 佳士

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。
卒業研究 1 実施記録：80 %、卒業研究 1 報告書：20 %
ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。
卒業研究 1 実施記録：80 %、卒業研究 1 報告書：20 %
ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

CST400NC

卒業研究 1（都市）

道奥 康治

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、3 年次までに得られた専門知識を基礎とし、技術者・研究者としての資質の向上、問題を整理して解決するための能力をみがくことを目的としたものである。他の科目とは履修形態が異なり、各学生は指導教員の専門分野に応じた課題についての研究を行う。その成果は卒業論文として提出し、審査を受けることになる。その過程で、論文をまとめ、かつ発表する能力を培う。

【到達目標】

卒業研究の遂行を通して、問題を見つける力、解決する力、伝える力を身につける。

課題を理解し、背景の解明、課題とされる事項の指標による裏付け、問題・課題の将来予測などについて、客観的な説明資料を用いて、誰でもが平易に理解できるレベルでの説明力を求める。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各テーマについて、受講生一人一人が文献調査、解析、統計分析等を通して研究を行う。

定例会における発表および指導教員との個別面談により、研究の進め方やその進捗状況について確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題の設定	卒業研究とは何か、そして研究室が担う学問領域はどういうものかの理解を深める
2	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	問題について多面的に考察するとともに、関連すると思われる先行論文を読み込み、都市計画的な論理思考を理解する。
3	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
4	研究テーマの理解 関連・先行論文の読解	関連・先行論文を読み込むことで、自己の研究テーマを絞りこんでいく。
5	研究テーマの理解 基礎的課題の実施	研究テーマを仮に決め、その分野に関する情報収集を図る
6	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
7	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
8	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
9	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
10	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
11	研究の実施	研究テーマに沿った客観情報、各種統計資料等を収集、整理、分析する。
12	研究の実施	これまでの研究内容を概観し、研究テーマの再確認を行う。
13	研究の実施	研究成果をまとめる
14	研究の実施	研究成果をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究室にて、卒業研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への取り組み状況、卒業研究 1 報告書により総合的に評価する。

卒業研究 1 実施記録：80 %，卒業研究 1 報告書：20 %

ただし、研究従事時間が 90 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【その他の重要事項】

豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

The goal of this course is to prepare students for engineering or science careers. Problem-solving skills will be developed using the technical knowledge obtained in their three years of university study. The form of classes differs from other subjects. Students will conduct research on each subject related to their supervisor's field of study. The results of this study will be completed and defended in their graduation thesis. Students will cultivate their writing and presentation skills through work in this course.

卒業研究 2（都市）

溝渕 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

CST400NC

卒業研究 2（都市）

今井 龍一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

CST400NC

卒業研究 2（都市）

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

CST400NC

卒業研究 2（都市）

渡邊 竜一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

卒業研究 2（都市）

鈴木 善晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

CST400NC

卒業研究 2（都市）

福井 恒明、福島 秀哉

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

卒業研究 2（都市）

山本 佳士

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

CST400NC

卒業研究 2（都市）

道奥 康治

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞-組織-器官 など
2	個体群と生態系	環境と動物の反応との関係について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量、概念と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。

11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。
13	反応速度と触媒	化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。
14	酸・塩基と酸化還元	酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に-」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 % として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞-組織-器官 など
2	個体群と生態系	環境と動物の反応との関係について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量、概念と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。

11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。
13	反応速度と触媒	化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。
14	酸・塩基と酸化還元	酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に-」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 % として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

大山 聖一、小林 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学的開発を自然との調和の中で実現するために必要な生物に関する基礎的な知識および、デザイン工学における化学的な諸問題に対処する上で必要な基礎知識を習得する。

【到達目標】

人間活動にともなう生態系の変化、生物や生態系から受けている恩恵、自然・生物保護活動の現状等、現在の人と自然との関係について理解する。また、デザイン工学で必要とされる化学の基礎概念とデザイン工学における化学の役割を理解する。デザイン工学分野の可能性について理解を深めるとともに、身近な課題を解決するために必要な思考方法を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
イン力						
	◎			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。前半（7回）で生物・生態系、後半（7回）で化学に関する講義を実施する。講義には PowerPoint を使用し、講義資料は授業支援システムで公開する。講義では、適宜、演習問題を実施する（7回程度）とともに、グループ議論や発表等を行うことにより理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生命の成立、細胞、個体	生命の成立とそれを維持するためのエネルギーや物質の流れについて理解するとともに、生物の個体の成り立ちについて理解する。 ・生命と分子 ・代謝 ・細胞-組織-器官 など
2	個体群と生態系	環境と動物の反応との関係について理解する。 ・様々な個体群 ・生態系の本質 など
3	環境と生物の反応	環境と動物・植物の反応との関係について理解する。 ・反応メカニズム ・特徴的な反応 ・動物と植物の違い など
4	生物多様性	生物多様性の概念と維持のための課題について理解する。 ・遺伝子と形質 ・生物多様性の意味 ・国際動向 など
5	生物の機能とその利用	生物の能力や機能の利用例について概観するとともに、その重要性を理解する。
6	生物圏と人間活動	気候変動を始めとする生物圏に対する人間活動の影響についてその概要を理解するとともに、デザイン工学の可能性について考える。
7	生物・生態系を知るための技術	生物・生態系の状態や変化を知るために利用される観測技術や調査手法について理解する。
8	原子の構造、物質と化学反応式	原子構造、物質の種類と構造、元素・単体・化合物について学ぶ。原子量・分子量・式量、概念と化学反応式との量的関係、物質の状態変化、物質収支について学ぶ。
9	化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の化学結合と物質の関わりについて学ぶ。
10	物質の性質（1）気体	気体の性質、気体の法則と状態方程式、理想気体と実在気体等について学ぶ。

11	物質の性質（2）液体	液体の性質（溶解度、沸点上昇、凝固点降下等）について学ぶ。
12	物質の性質（3）固体	結晶構造と固体の性質等について学ぶ。
13	反応速度と触媒	化学反応速度と化学平衡、触媒のはたらきについて学ぶ。
14	酸・塩基と酸化還元	酸・塩基と酸化還元概念と反応の実際について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認、授業支援システムで公開する講義資料の予習、授業内での演習問題、実施した演習問題の復習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムで公開する講義資料 (PowerPoint) を中心に進めるため、授業内で教科書は使用しません。講義のテーマによって知識レベルの個人差が大きくなるため、授業計画に沿って作成した資料を、講義の予習や復習用の補足教材として配布する場合があります。

【参考書】

「化学入門」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0570-6、「化学-基本の考え方を中心に」東京化学同人 ISBN978-4-8079-0334-4 など。その他、学習に有用な参考書がある場合には開講時に知らせます。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は 100 点満点とし、60 点以上を合格とします。成績評価の配点は講義内演習 30 %、期末試験 70 % として、それぞれの合計で最終評価とします。欠席 4 回以上の場合には単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

個々人が授業参加ができるよう、グループワーク等において議論した結果の発言機会を設けるとともに、授業内で実施するアンケートに基づき授業テーマに関連した最新知見の紹介を行います。また、希望があった場合には、補講日等を利用して、成績評価対象としない学習機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

講義には PowerPoint を使用し、同 PowerPoint を授業支援システムで公開します。また、必要に応じて、予習・復習時に参考となる講義資料を、授業支援システムを利用して配布します。計算演習には関数電卓を使用します。教室のスクリーンが見難い場合があるので、受講時には貸与パソコンを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

現在もエネルギー環境分野の技術開発に従事する研究者が、自身の経験に基づいて、バイオ・ケミカルエンジニアリング（生物、化学、環境）の講義を行います。

【Outline and objectives】

In this course students will learn basic knowledge on biology and chemistry necessary for solving various problems in design engineering.

CST200NC

RC構造学及演習 X（2019年度以降入学生）

山本 佳士

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート（RC）は、社会インフラに広く用いられている。都市施設をデザインする技術者は、設計法の基本を理解するとともに、鉄筋コンクリートに使用する材料の性質、各種の外力が作用した場合の RC 部材の挙動など基礎的な事項を理解しておく必要がある。RC 構造デザインではこれらについて修得することを目標とし、RC 構造の設計論、材料の力学的性質、曲げモーメント、軸力、せん断力に対する梁部材あるいは柱部材の挙動と設計法について、計算演習も取り入れて学ぶ。

【到達目標】

鉄筋コンクリートに使用する材料とその性質、各種の外力が作用した場合の鉄筋コンクリートの挙動について基礎的な事項を把握すると共に設計方法の基本を修得することを目標とする

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後にミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・鉄筋コンクリートの概要 材料力学の復習	ガイダンス・鉄筋コンクリートとはどのようなものか・鉄筋コンクリートの原理・成立性・特長・歴史・主要構造物の説明
2	設計方法の概要	および材料力学の復習【ミニテスト】 設計の目的・設計方法の変遷・限界状態設計法と許容応力度法の説明【ミニテスト】
3	曲げを受ける部材（1）	曲げモーメントを受ける部材の変形挙動・曲げ部材の弾性解析の説明、長方形断面の曲げ応力度の算出【ミニテスト】
4	曲げを受ける部材（2）	T 型断面の曲げ応力度算出、曲げひび割れとひび割れ制御の説明【ミニテスト】
5	曲げを受ける部材（3）	曲げ耐力の説明【ミニテスト】
6	前半の総合演習	前半の総合演習
7	中間実力確認	演習および解説
8	特別講義	エクセルを用いた計算演習
9	せん断力を受けるはり部材（1）	せん断力を受けるはり部材の応力の分布、ひびわれ発生の状況、破壊の種類と対策の説明【ミニテスト】
10	せん断力を受けるはり部材（2）	せん断力を受ける部材の耐荷機構、コンクリートとせん断補強鉄筋が分担する終局耐力計算方法の説明【ミニテスト】
11	曲げと軸方向力を受ける部材（1）	軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、横拘束筋の役割【ミニテスト】
12	曲げと軸方向力を受ける部材（2）	曲げと軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、M－N 相関図の説明【ミニテスト】
13	一般構造細目・配筋方法	かぶり・あき・定着・継ぎ手・最小鉄筋量・配筋等の構造細目の説明、各種構造物への配筋方法および全体のまとめ【ミニテスト】
14	後半の総合演習	後半の総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基礎から学ぶ鉄筋コンクリート工学（朝倉書店）

【参考書】

鉄筋コンクリートの解析と設計 限界状態設計法と性能設計法 吉川弘道著 丸善書店

【成績評価の方法と基準】

ミニテスト 10 点・エクセル演習 10 点・中間実力確認 40 点・期末試験 40 点

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。講義には POWERPOINT を使用する。

【その他の重要事項】

土木構造物の設計、建設、研究業務に携わる現役技術者および勤務経験のある教員が、鉄筋コンクリートの基礎を解説する。

【Outline and objectives】

Reinforced concrete (RC) is widely used for social infrastructure. Engineers, who design urban facilities, need to understand fundamental matters such as the nature of materials used for reinforced concrete and the behavior of RC members under various loads. This course aims to comprehend these issues. Students will learn about the design theory of RC structures and the mechanical properties of the materials, followed by the behavior and design method of RC beam or column members in relation to bending moment, shear and axial force through calculation exercises.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート（RC）は、社会インフラに広く用いられている。都市施設をデザインする技術者は、設計法の基本を理解するとともに、鉄筋コンクリートに使用する材料の性質、各種の外力が作用した場合の RC 部材の挙動など基礎的な事項を理解しておく必要がある。RC 構造デザインではこれらについて修得することを目標とし、RC 構造の設計論、材料の力学的性質、曲げモーメント、軸力、せん断力に対する梁部材あるいは柱部材の挙動と設計法について、計算演習も取り入れて学ぶ。

【到達目標】

鉄筋コンクリートに使用する材料とその性質、各種の外力が作用した場合の鉄筋コンクリートの挙動について基礎的な事項を把握すると共に設計方法の基本を修得することを目標とする

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力
- (D) 専門基礎学力 70%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 30%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の後にミニテストを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・鉄筋コンクリートの概要 材料力学の復習	ガイダンス・鉄筋コンクリートとはどのようなものか・鉄筋コンクリートの原理・成立性・特長・歴史・主要構造物の説明
2	設計方法の概要	および材料力学の復習【ミニテスト】 設計の目的・設計方法の変遷・限界状態設計法と許容応力度法の説明【ミニテスト】
3	曲げを受ける部材（1）	曲げモーメントを受ける部材の変形挙動・曲げ部材の弾性解析の説明、長方形断面の曲げ応力度の算出【ミニテスト】
4	曲げを受ける部材（2）	T 型断面の曲げ応力算出、曲げひび割れとひび割れ制御の説明【ミニテスト】
5	曲げを受ける部材（3）	曲げ耐力の説明【ミニテスト】
6	前半の総合演習	前半の総合演習
7	中間実力確認	演習および解説
8	特別講義	エクセルを用いた計算演習
9	せん断力を受けるはり部材（1）	せん断力を受けるはり部材の応力の分布、ひびわれ発生の状況、破壊の種類と対策の説明【ミニテスト】
10	せん断力を受けるはり部材（2）	せん断力を受ける部材の耐荷機構、コンクリートとせん断補強鉄筋が分担する終局耐力計算方法の説明【ミニテスト】
11	曲げと軸方向力を受ける部材（1）	軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、横拘束筋の役割【ミニテスト】
12	曲げと軸方向力を受ける部材（2）	曲げと軸力をうける部材の弾性解析と断面耐力の説明、M-N 相関図の説明【ミニテスト】
13	一般構造細目・配筋方法	かぶり・あき・定着・継ぎ手・最小鉄筋量・配筋等の構造細目の説明、各種構造物への配筋方法および全体のまとめ【ミニテスト】
14	後半の総合演習	後半の総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基礎から学ぶ鉄筋コンクリート工学（朝倉書店）

【参考書】

鉄筋コンクリートの解析と設計 限界状態設計法と性能設計法 吉川弘道著 丸善書店

【成績評価の方法と基準】

ミニテスト 10 点・エクセル演習 10 点・中間実力確認 40 点・期末試験 40 点

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を持参すること。講義には POWERPOINT を使用する。

【その他の重要事項】

土木構造物の設計、建設、研究業務に携わる現役技術者および勤務経験のある教員が、鉄筋コンクリートの基礎を解説する。

【Outline and objectives】

Reinforced concrete (RC) is widely used for social infrastructure. Engineers, who design urban facilities, need to understand fundamental matters such as the nature of materials used for reinforced concrete and the behavior of RC members under various loads. This course aims to comprehend these issues. Students will learn about the design theory of RC structures and the mechanical properties of the materials, followed by the behavior and design method of RC beam or column members in relation to bending moment, shear and axial force through calculation exercises.

CST200NC

プロジェクトスタジオ（都市）（2019年度以降入学生）

高見 公雄、福井 恒明、袴田 喜夫、椿 真吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市プランニング系の演習科目で唯一の必修である。都市整備に係わる法令や基礎知識を活かし、エンジニアリング・デザインの観点から具体的な地区を捉え、条件に応じた課題に応じていくことで都市プランニングの考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を現地調査や各種計画や地図等、また歴史的経緯から読みとくことができるようになる。その場において解決すべき課題を自ら設定することができ、これについて合理的な解決案の提案とその表現ができる。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | 30% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 50% |
| (F) 総合デザイン能力 | 20% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は図面上での作業、図面・模型の製作、それらのプレゼンテーションからなる。前半の全体模型づくりはチームでの対応となる。エスキスは手書きを主に教員と議論を行い、個人課題の成果品フィニッシュは模型並びにデジタルツールを用いた図と説明からなるプレゼンテーション・シートとする。図面と模型の制作に関しては、その作業量から授業時間外での対応が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	課題説明、課題検討の視点	計画課題を説明する。この課題を考える上で留意すべき点を各教員より説明する。
2	チーム編成、現地調査準備	チームを編成し現地調査において何を確認すべきかを討論し、調査事項をまとめる
3	現地調査	現地調査を行う。その結果は各人レポートとしてまとめる
4	エスキス（整備方針）	対象地域の課題と今後の市街地像について検討する
5	模型制作の基礎	模型づくりの基礎を学ぶ。全体模型に着手する。
6	全体模型の制作・その2	全体模型の制作を進める
7	建築物に関する基礎知識	建築物の用途ごとの形態、配置、規模に関する基礎知識を得る
8	道路設計に関する基礎知識	道路など基盤施設設計の条件、基礎知識を得る
9	整備課題と再編テーマ	対象地の整備課題を整理し、各自再編のテーマを設定する
10	エスキス（再編の方向）	再編テーマに即した整備方針について検討し指導を受ける
11	エスキス（計画図）	計画図の下書きについて検討し指導を受ける
12	エスキス（個人模型）	個人模型の作成方法、課程などについて指導を受ける
13	個人課題提出、講評会	個人課題である図面、模型を完成させ提出する。講評を始める
14	講評会・その2	講評をつづけ、総評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私たちが暮らす都市空間がどのようにできているか興味を持ち、町を見る。道路の幅員、橋の高さ、建物の大きさなどを寸法として考えてみる。好きな場所、嫌いな場所の要因を考える。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

アーバンデザインの現代的展望（渡辺定夫、鹿島出版会）

日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）
コンパクト建築設計資料集成【都市再生】（日本建築学会編、丸善）
世界の SSD100-都市持続再生のツボ（東京大学 cSUR-SSD 研究会、彰国社）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30 %）、最終成果物（70 %）
欠席 4 回以上は単位取得を認めない（評価 D）

【学生の意見等からの気づき】

最終提出物のイメージを意識して作業するよう指導する。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与 PC を用いて CAD またはドロー系ソフトにより作図する必要がある。
三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる（1 年次のデザインスタジオ用に購入したものがあれば可。）模型制作にあたっては、カッターなどの道具の他、模型材料を自ら調達する必要がある。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた専任教員、またわが国の第一線で建築、都市整備の実務に就いている兼任教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

As the only compulsory course in this program, students will locate problems in their target field and make suggestions for improvements using plan views, sectional views and models.

卒業研究 2（都市）

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。豊富な実務経験を有する専任教員が、専門内容の研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

CST400NC

卒業研究 2（都市）

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門分野の中から各自が選択した研究テーマに関する基礎的な知識や、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得するとともに、各自の研究テーマに関する具体的な研究課題に取り組むことで、卒業論文の執筆に必要な知識やスキルのレベルアップを目指す。

【到達目標】

各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の参考文献を精読することで関連分野も含めた基礎知識を習得する。また、演習課題への取り組みを通じてコンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルを習得する。さらには、各自の研究テーマにおける具体的な問題・課題への認識および理解を深め、卒業論文の執筆に向けた研究計画を自ら立案・実行することができるよう各自のレベルアップ（問題解決能力の向上）を図ることが本授業における学習目標となる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	5%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	10%
(I) 業務遂行能力	15%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究室の専攻分野に関する個別の研究テーマを設定し問題解決に取り組む。既往研究のレビューや数値モデルの理解、各種分析手法の習得等を通じて各自の基礎的・専門的スキルの向上を図るとともに、指導教員とのディスカッションを交えながら独自に調査・解析を進め、学会でのプレゼンや学術論文執筆による成果発表にも積極的に取り組みながら最終成果としての卒業論文の執筆を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	基礎知識の習得 (1)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
②	基礎知識の習得 (2)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
③	基礎知識の習得 (3)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
④	基礎知識の習得 (4)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑤	基礎知識の習得 (5)	各自の研究テーマに関する書籍や学術論文等の精読、既往研究のレビュー、数値モデルの理解
⑥	基本スキルの習得 (1)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑦	基本スキルの習得 (2)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑧	基本スキルの習得 (3)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習

⑨	基本スキルの習得 (4)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑩	基本スキルの習得 (5)	コンピュータやプログラミング等に関する課題演習、各種分析手法に関する基礎学習・課題演習
⑪	課題への取り組み (1)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑫	課題への取り組み (2)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑬	課題への取り組み (3)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション
⑭	課題への取り組み (4)	研究プランの立案・検討、具体的な研究課題に関する調査・解析、指導教員とのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究テーマに関する基礎的な知識の習得、コンピュータやプログラミング等に関する基本的なスキルの習得、および具体的な研究課題への取り組みなど、授業時間外における幅広い継続学習が必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【参考書】

研究テーマに応じて担当教員より適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間発表、卒業研究 2 中間報告書に対する中間審査を合格した者に対して、研究への取り組み状況、最終審査（卒業研究論文、研究概要、研究発表）により評価する。評価は研究への取り組み状況と卒業研究論文 50%、研究概要 25%、研究発表 25%の重み付けとする。ただし、研究従事時間が 180 時間未満の場合には不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

土木分野に関する計画、設計、製作、施工に関わる豊富な業務経験を有する専任教員が、研究指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course, students will acquire basic knowledge about the topic of their thesis as well as the basic computer and programming skills. Tasked with concrete topics, students will obtain the higher-level skills and knowledge necessary for writing their thesis.

MEC200ND

メカトロニクス

木村 文信

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学（メカニズム）と電気電子工学（エレクトロニクス）の合成語で、機械を電気回路で賢く制御するシステムのことである。メカトロニクスを修学するにあたり、機械のしくみ、電気回路の動作だけでなく、ソフトウェアによる制御やシステム全体としての設計や運用など、広い専門知識が必要とされる。本授業では、メカトロニクスの各要素技術に関して、その概念を理解し、分野全体のイメージを把握することを目的とする。

【到達目標】

授業終了時点で以下のことを理解することを目標とする。

- 1) メカトロニクスシステムの構成を把握する方法。
- 2) 機械要素の種類と用途。
- 3) 電気・電子回路部品の種類と用途。
- 4) アクチュエータ・センサの原理。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に板書と口述によって進められる。また、授業の内容が理解できているかを確認するため、適宜小テストを行う（基本的に各授業の最後に行う）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を解説し、それを踏まえ、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する。
第 2 回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスの各要素を理解する上で必要となる数学や物理（力学・電磁気学）を解説する。
第 3 回	アナログ電子回路－受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を解説する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。
第 4 回	アナログ電子回路－能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて解説する。
第 5 回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムで用いられるアクチュエータの概要と分類を解説する。また、システムを構成する際の選定基準について説明する。
第 6 回	アクチュエータの原理	主に電磁アクチュエータを対象として、動作原理について解説する。加えて、駆動に必要な信号などの計算方法を述べる。
第 7 回	センサの概要	メカトロニクスシステムを構成するために必要なセンサについて、概要と分類を説明し、システム構築のためのセンサの選定方法について述べる。
第 8 回	各種センサの計測原理	様々なセンサの紹介を行い、どのような原理で計測を行っているかを、出力信号の処理方法とともに解説する。

第 9 回 デジタル回路とコンピュータ

デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。

第 10 回 アナログ信号とデジタル信号の相互変換

センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのようにに変換されるかについて解説する。

第 11 回 機構の基礎

機械を構成する要素部品（機構部品）について、その種類と仕組み、用途について説明する。

第 12 回 機械の設計

機構部品を組み合わせて、機械的なシステムを構築する手法について説明し、そのシステムの運動伝達の計算方法を解説する。

第 13 回 制御工学の基礎

制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴等を説明する。

第 14 回 システム設計と開発の事例
まとめ

各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学（特に力学、電磁気学分野）を復習して望むとよい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

・三浦宏文（監修）「ハンディブック メカトロニクス」オーム社
・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
・松本潔「設計者に必要なメカトロニクスの基礎知識」日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストの評価を 40%、期末試験の評価を 60% として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の進行（板書等）が速いために理解が追い付けないことが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート

大学から貸与されるパソコン

【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。

【Outline and objectives】

"Mechatronics" is a multidisciplinary engineering field that includes mechanical engineering and electrical engineering to produce intelligent systems that control machines via electronic and information technologies. To understand mechatronics, a wide range of disciplines are required. In this lecture, students will acquire knowledge of each of the fundamental technologies of mechatronic systems and skills to apply it to real systems.

ELC300ND

システム工学

森 健一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証等のステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステムチェックに進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

1. システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
2. ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
3. 手法の図やモデルを使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
4. 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なのかを理解しよう。
2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。
3	システムの要求定義	＜課題演習 (1)＞ 利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。
5	システムの安定性	＜課題演習 (2)＞ システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。

6	システム制御のモデリング	フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。
7	システムの安全性	＜課題演習 (3)＞ システムの安全性の概念の1つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	モデルベース設計手法	システムモデルから、詳細設計を行い、制御プログラムを自動生成をする手法について理解する。実際の生産設備やロボットシステム制御を、映像や3次元シミュレーションモデルで視覚的に学ぶ。
9	確率システム	＜課題演習 (4)＞ 様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	統計的データ解析	Internet of Things によるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。
11	システムの信頼性	＜課題演習 (5)＞ 信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
12	信頼性解析	システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、FMEA、FTA、およびリスク分析の手法を理解する。
13	ネットワークの性質	＜課題演習 (6)＞ ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。
14	ネットワークの構造	ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみる。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

機械工学便覧「生産システム工学」日本機械学会（2005年）丸善
橋本、石井、小林、大山共著「Scilabで学ぶシステム制御の基礎」（2007年）オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木共著「システム工学 第2版」（2006年）森北出版
大橋、島海、白山共著「システム理論Ⅱ」（2016年）丸善出版

【成績評価の方法と基準】

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視して、それに提出された課題演習の得点を総合して評価する。（期末試験はなし）
2. 平常点は、授業への出席状況や質問票の提出を反映する。
3. 成績評価は100点満点とし、平常点と課題演習の得点は各50%の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

1. パソコンで Excel やシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義ではプロジェクターを使用するが、授業支援システムで説明資料をダウンロードできるようにする。
3. 課題演習は、授業時間内に課題を印刷した用紙を配布する。

【その他の重要事項】

メーカーの技術・商品開発部門に勤務経験のある教員が、実社会での多数のシステム設計および開発プロジェクト遂行の経験に基づき、システム工学の基礎を講義する。

【Outline and objectives】

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization etc.

In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification etc, before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods.

In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.

MTL300ND

素材と機能

岩瀬 扶佐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

素材の性質、使い勝手について検討し、デザインと関係するものづくりの要素としての機能を、実例に基づき具体的に紹介する。ものづくりにおいてはエネルギー問題も重要であり、発電に関する技術も概観する。世界を制覇した日本の自動車を支える高張力鋼板、PET ボトル全盛でもビール缶はアルミ、巨大旅客機の燃費を改善する炭素繊維強化プラスチック、“地震大国にほん”の超高層ビルの免震工法の基本となるゴムの寿命、など。また相反する機能を盛り込むとトレードオフの関係が出てくる。落としどころはどこか？

【到達目標】

要求事項が高度化かつ細分化されている身の回りの製品。それらに用いるに材料の基本に興味をもち、まとめる力、最新情報を調査する能力の基礎を養う。素材は日々進歩している。また、アイデアはあっても実用化していなかった製品が、周辺技術の開発により新たに着目されるものもある。また、社会情勢で開発を断念することもある。巷には情報が溢れているが、何が重要か？調査した情報を鵜呑みにしないで読み解く力を付ける。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

総合デザイン力：◎文化性：○教養力：◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

科学や文化の発展に伴い、先端材料は様々な機能において限界に挑戦して開発されている。また、国際関係や経済状況により素材開発の動向も異なってくる。製品の性能や歴史を知ることにより、一般的な材料の基本的な特性を理解し、経済性（コスト）も同時に把握する。デザインにおいても商品設計する場合、価格は第一の関心事であり、何が価格を決めているかという観点も重要である。授業はスライドを中心に、製品・製法の実際を見ながら理解を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	素材と機能 ガイダンス	素材と機能とは？ ものづくりにおいてまずは形態維持のための強度だが。
2	機能の作り込み：まずは強度	強いとは？ 強度より剛性、伸び、耐力。キャラクタライズの重要性。
3	国家の力『ハイテン』	産業の米。鉄の威力とは。ここまで制御するのか？
4	安心な暮らしとは？	ビル、橋梁など構造物から個人の家屋まで。耐震構造において重要なシステムやゴムの寿命とは？ 最近では異常気象により想定外の事態が生じている。その対策は？
5	自動車 歩行者安全	現代の NO1 製造業。自動車車体の要求機能。日本における特徴とは？
6	移動体；自動車以外	自動車搭載用の素材、船舶などについて。永遠の悩み；腐食とは？ 界面の重要性。
7	前半の復習と課題 試験 かレポート提出。	レポート課題提示、説明 テーマ決定後、レポート作成する場合には素材でわからない部分は孫引きすること。不思議に思う部分を再確認すること。
8	より広い世界へ	飛行機など極限の要求仕様は？ 安全第 1 だが、人間が乗り組むのに必要なことは？
9	電気と生活	現代生活において電気がないと困る。エネルギーを無駄なく作り無駄なく送る、一時的に蓄える技術とは？ 磁石も電気エネルギーに必須。
10	情報と通信	半導体、光ファイバなど情報量とスピードが増大する中で、どのような機能の開発競争があるのか
11	地球も人間も長寿	高齢化社会と人。生体への融和、環境への適合、サステイナブルとは。生き残りで進化した生物の機能とは？

12	繊維；古い産業だが	日本の産業の出発点とも言える古くて新しい産業。その形態が機能製品として複合材へ展開する。隙間があることは良いこと。
13	複合材；昔からある技術	単独素材の製品はないに等しい。また、どのような製品もどこかで複合化している。そして必ず界面がある。
14	最終試験	最初から 13 回目の全範囲の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

改定

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。演習問題がレポートの参考になります。資料を読んで疑問や関連事項気づいたことを調べるのが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改定

毎回、WEB に講義内容を掲載するので、それを読んで、本来の講義日に出題する演習問題を実施のこと。

【参考書】

改定

WEB 掲載資料内に記入。メーカーの HP に判りやすい説明や動画があります。判り易いメーカーの動画などを見つけたら、お知らせ下さい。

【成績評価の方法と基準】

改定

1. 第 7 回目に中間レポート課題 30 %
締切は 1 週間程度
2. 最終テスト（レポート形式） 70 %
締切は 1 週間程度 第 14 回の講義日公開します。

【学生の意見等からの気づき】

同時並行で履修しているプロジェクトに役立つとのアンケート回答あり。暗記する授業ではなく、考える授業を念頭に進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、出力した WEB 資料。そこに書き込みをする。

【その他の重要事項】

担当講師は元非鉄金属メーカーに在籍。材料評価、光半導体の開発や、事業所の環境・安全の責任者を担当した経験を活かして、素材と機能について講義をする。
春学期に開講するマテリアルサイエンスを受講していると理解しやすい。

【Outline and objectives】

By industrial progress, the materials with the contrary function (e.g., light and at the same time strong, in one material) are necessary.
This course introduces a basic example and we discuss problems.

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○						◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習、討論を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。

7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、 QC 7 つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 **2 時間** を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禎子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：60%、演習レポート：40%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○						◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。

7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、 QC 7 つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの課題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 **2 時間** を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禎子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：60%、演習レポート：40%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	40%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○						◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。
品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。

7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、 QC 7 つ道具に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 **2 時間** を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山禎子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：60%、演習レポート：40%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

SSS300ND

プロジェクトマネジメント（SD）

永田 義昭、村上 季史

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン学科では「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を学びます。「創造」には、共通のゴールに向かって、複数の人間が協力し合って未知の分野に挑戦する行為が必要です。これが「プロジェクト」です。この授業では、そうしたプロジェクトの計画立案と遂行・コントロールについて、また繰返し行われる日常業務の進め方との違いについて、演習を交えて理解していきます。

【到達目標】

プロジェクト・マネジメントの基本概念と、コミュニケーション・ファシリテーションなどの基本スキル、ならびに Activity List・WBS・CPM・EVM などの技法について初歩を理解し、自分なりにプロジェクトを組み立てリードしていける能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は全部で 14 回で構成します。

第 1 回～第 2 回 プロジェクト・マネジメントの概要について解説します
第 3 回～第 6 回 プロジェクトを遂行するヒューマンスキルを学びます
第 7 回～第 13 回 プロジェクト計画の立案方法と実行・監視・コントロールの仕方を理解します
第 14 回 グループ課題の発表と相互評価を行います
なお、授業には演習を取り入れます。また、授業と並行してグループを組み、課題「プロジェクト計画演習」を 6 週間かけて進める宿題の形とします。授業を通して、クラスメイトと協力しながら、プロジェクト・マネジメントの手法を身につけ、演習とグループ課題で実践に結びつけて、本当に「使える」スキルとして身につけてもらいたいと期待しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（プロジェクトとは何か）	この授業の目標と全体のプロセスを理解します ・プロジェクトとは何か ・プロジェクトの進め方の全体像
2	ゴール・目的・目標	プロジェクトのゴール設定と「プロジェクト CHARTER」を学びます ・プロジェクトの成功と失敗 ・ゴール、目的、目標の違い ・演習 プロジェクト CHARTER をつくる
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントの違い、また、プロジェクトマネージャーについて学びます。 ・リーダーシップとマネジメント ・プロジェクトマネージャーに求められるもの
4	コミュニケーション	日常生活の中でも実践できる、コミュニケーション力を上げるためのポイントを学びます。 ・プロジェクト遂行上のコミュニケーション ・コミュニケーションの目的とは？ ・コミュニケーション力の高い人とは？ ・コミュニケーション上手になるためには？ ・演習
5	ファシリテーション	ファシリテーションは話す力、聴く力、論理的思考力などのヒューマンスキルの総合技術であり、チームの成果を最大限引き出すことができます。グループ演習を通じてファシリテーションを活用した議論、意思決定を体験します。 ・ファシリテーションとは ・演習
6	モチベーション	他者と協働し、意欲を持って動いてもらうための動機づけについて理解します。 ・動機づけ理論 ・人は何で動くか

7	スコープ・WBS	プロジェクト・マネジメントの基礎であるスコープと WBS 作成について学びます。 ・スコープとは何か ・演習 Activity List と WBS をつくる ・グループ課題「プロジェクト計画演習」の説明
8	組織と要員	複数の人間が協力し合うために必要な組織のデザインを学びます。 ・企業の組織とは ・プロジェクト組織の分類 ・チームと役割
9	スケジューリング	プロジェクトの納期を守るためのタイム・マネジメントの基礎を学びます。 ・ロジックネットワークスケジュールの基礎 ・演習 クリティカル・パスを見つける
10	コスト	予算を守るためのコスト計画とコントロールについて学びます。 ・予算とはそもそも何か ・人のコスト ・見積の方法 ・演習 入札ゲーム
11	リスク	プロジェクト・マネジメントにとって最も難しい課題であるリスクについて考えます。 ・リスクとは何か ・リスクへの対応戦略
12	デザインと品質	顧客のニーズや期待に応える商品・サービスを提供するために、品質という観点で重要なポイントを学びます。 ・品質とは ・デザインとは ・品質目標の実現のために
13	進捗管理とアクション	プロジェクトの進捗管理と必要なアクションについて、実践的なテクニックを学びます ・プロジェクトの進捗管理 ・EVM ・変更管理
14	グループ課題発表	「プロジェクト計画演習」課題のグループ発表 ・動画・パワーポイントによる課題のグループ発表会 ・各班による相互評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて指示します。特にグループで取り組む「プロジェクト計画演習」の際に時間外の準備が必要となります。
なお、それ以外にも、研究でもサークル活動でも、あるいはバイトでもかまいませんから、人と共同して何かを達成する経験となるべく積んでおくことをお勧めします。これは本授業のみならず、卒業後にも必ず役に立つことです。

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありませんが、講義資料は PDF で授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】

(1)「世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書」佐藤知一・著（技術評論社）
若手エンジニアを主人公に、プロジェクトマネジメントの基本を解説しています。
(2)「改訂 3 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」日本プロジェクトマネジメント協会・著（日本能率協会マネジメントセンター）
日本の団体が中心となり、プロジェクトとプログラムのマネジメントについて解説した書です。
(3)「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第 6 版」Project Management Institute 著（PMI 東京支部）
現在最も世界的に影響力のある標準体系の解説書です。PMP（Project Management Professional）資格受験のための必須の教科書です。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への参加（60%）
講義の中で教室内でグループ演習を何回か行います。プロジェクト・マネジメントは演習なしで理解することはほとんど不可能です。講義と演習への積極的な参加を成績評価の対象とします。
また、講義に関する質問やコメントを記したリアクションペーパーの提出も講義への貢献として成績評価の対象とします。

(2) グループ課題の発表 (40%)

この授業で学んだことをもとに、グループを作成し、各グループでプロジェクト構想を作り、その内容と遂行計画について発表してもらいます。実現可能性それ自体は問いませんが、実行手順についてはできるだけ具体的にイメージして作成してください。

「プロジェクト成果物の構想説明」、「プロジェクト計画書作成」、「プレゼンテーション」に合計 40 点を配点します。グループ課題は受講生全員が相互に採点する方式で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は PDF の形で授業支援システムに事前にアップします。閲覧可能な機器を授業に持ってきてください。

【その他の重要事項】

現在、種々のプラント建設プロジェクトに携わっているエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。

【Outline and objectives】

In this course on system design, students will learn the engineering involved in creating and designing new innovative systems. Creating involves challenging undiscovered areas by facing common problems and collaborating with people. Students will understand how to plan, execute and control such projects as well as how they differ to real world duties through classes and practice.

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：100 名前後が望ましい

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2 年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につけること
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できること
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できること
- (4) 関連する文献の趣旨を的確に読み取れること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/23 の 3 限 (13 時) を最初の授業にし、オンデマンド授業を実施します。音声付きパワーポイントを学習支援システムに投稿します。双方向オンライン授業ではないので、後から受講することもできます。その時に、春学期の授業内容や授業の進め方について説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論
2	国際文化論とは	文化とか何か、国際文化論とはどのような学問かを考える
3	国際協力とは	グループ演習の形で国際協力について考える
4	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
5	開発コミュニケーション	進んだ技術の伝播をコミュニケーション理論とつなげて考える
6	文化の受容と抵抗	明治日本の近代化を支えたお雇い外国人を通して異文化への反応について考える
7	文化遺産保護	なぜ文化遺産を守るのか、明治日本とイスラム国 (IS) を通して考える
8	博物館学	他国の文化財保護に協力するという発想がどのように誕生したのかを考える
9	国連と文化	文化面での国際協力を進める国連機関の役割について考える
10	政府開発援助 (ODA) と文化影響	ODA の基礎を学ぶとともにそれが文化に与える影響を考える
11	文化外交	開発途上国への文化協力を通してパブリックディプロマシーについて考える
12	人権	人権とは何かを歴史的に考える
13	難民受け入れ	難民受け入れ制度について「集団的汚名」という視点を通して考える
14	統合と同化	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初の授業で具体的に指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

最初の授業で提示した上で、毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（フィードバックシートで評価）20%、中間レポート 40%、期末課題（レポートもしくは口頭発表）40%

【学生の意見等からの気づき】

1 年生にとってレポートが難しかったという意見があったので、レポートの書き方について丁寧に説明するなどの対応を講じ、適切なレベルでの達成度評価を行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに必ず事前登録して下さい。

【その他の重要事項】

- ・2018 年度の代講教員から元の担当教員に変更になっていますので、先輩からアドバイスをもらう際には留意して下さい。この授業は国際社会コースの基幹科目ですので、特に 1、2 年生には将来どのような専門を学びたいか、SA で何を学んだらいいか、3 年生からどのようなゼミに入ったらいいかを考える場としてこの授業を活かして欲しいと思います。
- ・3、4 年生で履修する人は、論理的思考の基礎を改めて修得して下さい。
- ・NHK 記者や、開発協力分野の NGO として実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義します。

【Outline and objectives】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 平和学で取り上げられる方法を理解し事例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義のほか、関連した問いを毎回提示し近くの学生と討議する時間を設ける。提示する問いには正解がないので、論理的に物事を考えると同時に、他者の考え方に触れる機会とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c 以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から 13 回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、平和に関わる記事を読んでおくこと。なお、新聞は紙媒体で読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業で配布するフィードバックシート）20%、中間レポート40%、期末レポート（もしくは口頭発表）40%。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が多くても受講生の議論の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力NGOでの実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例を挙げながら講義する。
- ・受講生の関心や反応を見ながら、内容を多少変更することがある。

【Outline and objectives】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peaces in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

COT100GA

メディア情報基礎

大嶋 良明、甲 洋介、米倉 明男、菊池 司

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：抽選

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディア作品を **Photoshop** と **Premier** で作る。

メディアとしてのコンピュータに着目し、文化情報の発信・加工・編集のための基本技法の習得に力点を置いて学ぶ。デジタルとは何かを読み解くことから始めながら、メディア情報の文化史、メディア情報をデジタルに扱うためのしくみと基本技法、ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなどメディア機器の活用法、PC を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツの制作、HTML とスタイルシートによる Web コンテンツの構造化とデザイン要素の取り扱いなどを学び、マルチメディアを活用した文化情報の発信・加工・編集のための基礎事項を習得するとともに、コンピュータを用いた作品実習を通じてメディアとしてのコンピュータを駆使するための実践的なスキルを修得する。

【到達目標】

PC マルチメディアの基礎知識の習得から始め、画像処理、映像制作の代表的なソフトを備えた実習設備を十分に活用しながら作品制作を行う。これにより、インターネット環境において文化情報を発信できる能力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

・Photoshop や Premier などのソフトに親しみ、デジカメ写真や動画などを、Web サイトやレポート、作品作りなどに活用するテクニックを身につける。
・デザインの考え方を学び自分自身の表現に活かす練習をする。
・パソコンやデジカメなどで、モノのカタチや色をデータとして扱う方法を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	メディアとは何か。メディア情報とそれを支える情報技術の文化史を学ぶ。
2	メディア情報の基礎	デジタルであるということ、メディア情報の基礎知識を学ぶ。
3	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）基本的なしくみを学ぶ。
4	メディア情報の基礎：静止画像	デジタル画像（静止画像）その特性の詳細を学ぶ。
5	制作実習 A：実習の手引き	PC・周辺機器ハードウェアとメディア機器の活用方法（ディジタルカメラ、スキャナ、ビデオなど）を学ぶ。
6	制作実習 A：静止画像の作品制作	Photoshop を用いたディジタル画像の制作の基本を学ぶ。
7	制作実習 A：静止画像の作品制作	レイヤーを操作単位とする描画、編集、調整の技法を学ぶ。
8	メディア情報の基礎：動画画像	デジタル動画画像の特性と情報圧縮の仕組み、Windows Media, MPEG4, FlashVideo など代表的な動画形式の特性を学ぶ。
9	制作実習 B：実習の手引き	静止画像・動画画像・音楽を用いた簡単なマルチメディア・コンテンツ制作の手順と基礎知識を学ぶ。
10	制作実習 B：映像作品の制作	AviUtl（または Premier）を用いたムービー制作の基礎を学ぶ。素材画像の取り込みから基本的な編集操作を実習する。
11	制作実習 B：映像作品の制作	AviUtl（または Premier）を用いたムービー制作を実践する。エフェクトを含む映像素材の効果的な編集やテキスト、音声を配置して作品としてまとめる方法を実習する。
12	Web ページの構成と表現手法	HTML5 による Web ページの制作手法。スタイルシート利用のメリットと実例。基礎知識と制作手順を学ぶ。

13	制作実習 C：スタイルシート	HTML とスタイルシートを用いた Web コンテンツの構造化、CSS による Web コンテンツの制作を学び、実習する。
14	まとめ	学習内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義の復習。実習課題作品を制作し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義初回に提示する。

【参考書】

講義において適宜提示する。マルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「入門マルチメディア [改訂新版]」、ISBN 978-4-903474-60-1 を挙げる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)、平常点 (授業の参画度を含む, 30%)、授業内の課題や小テスト (実技を含む, 30%) を総合的に評価する。

欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスに基づく共同担当科目として、各教員はそれまでのアンケート内容による気づきを共有し授業改善に役立てる。

【学生が準備すべき機器他】

画像処理、映像制作の代表的なソフトでの実習が可能な、情報実習室において授業を行う。課題提出等には学内 Web 環境ならびに ePortfolio を活用する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ： マルチメディアデータを自由に編集できるようになると、コンピュータの多彩な機能の一つひとつが面白くなってくる。コンピュータが本当にパーソナルなツールとして身近に感じられる、そういう段階です。思い切りコンピュータを楽しんで欲しい。

本科目では、マルチメディアの活用実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

実務経験のある教員による授業：

コンピュータ関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピュータを使用したメディア発信に関する実習を行う。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」

【Outline and objectives】

This course provides students with basic knowledge and techniques in computer multimedia and web design at the entry level. It also deals with the concept of information design. The students will work on projects on Adobe Photoshop and Adobe Premier, AviUtl and on a simple case of HTML authoring. The objective of this course is to enable students to acquire fundamental understanding in digital multimedia and information design with elementary techniques in related authoring tools.

COT200GA

ネットワーク基礎

和泉 順子、大嶋 良明、松田 裕幸

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：抽選

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中どこでも **Internet** で安全確実にコミュニケーションできるようになる

コンピュータとネットワークをコミュニケーションの基盤ととらえ、ネットワークとコンピュータを用いた共同作業やインターネットにおける情報交換・情報共有の仕組みを、WWW、メール、ビデオ会議、グループウェアなど先端的コミュニケーションツールの基本概念とその実現例を通して学ぶ。世界中どこに行っても安全確実にコミュニケーションできる知識とスキルを修得する。

【到達目標】

インターネットの通信とサービスの仕組みの基礎知識を習得しビデオ会議やソーシャルメディアなどインターネット環境での情報サービスの活用法を学び、同時に正しい使いこなしのためのセキュリティ知識を身に付ける。海外でのインターネットの利用と **ePortfolio** 活用のスキルを身につけ、学外での学習記録や在外帰国報告のための活用法と有効性を理解する。本科目の履修とリテラシー関連科目での既習知識を総合することで、IT パスポート等にもむけての知識習得を目指し、さらに関連の上位科目に結びつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本科目の授業開始日は次の通りです。4/23（木曜クラス）、4/24（金曜クラス）4/27（月曜クラス）

【注意】今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画

を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

インターネットをいつでもどこでも（学外や **SA** などで）安全確実に使いこなすために、ビデオ会議、動画配信、ソーシャル **Web** など最新のサービス、アプリケーションを実習し、同時にセキュリティやネットワークの仕組みを学ぶ。

● **ePortfolio** による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コンピュータ、ネットワーク、コミュニケーション	ネットワークの基礎概念と、相互接続することの利点を学ぶ。
2	インターネットの設計思想	ネットワークの接続形態、サーバ・クライアントモデル、LAN、WAN、伝送制御などを理解する。
3	インターネットの構成要素：名前、アドレス、経路制御と DNS	インターネットの構成要素であるドメイン名、IP アドレス、ルーティングを理解する。通信データの packets 化とアドレスの仕組みと経路制御の概念、ドメインの階層化による名前管理の方法、経路制御、DNS による名前解決の概念を学ぶ。
4	インターネットの実習：ネットワークコマンド、無線 LAN	ネットワークコマンド (ping, ipconfig, traceroute, nslookup など) を活用する。無線 LAN でのネットワーク接続を実習する。
5	インターネットの仕組み（1）：通信プロトコル、TCP/IP	通信プロトコルの基礎概念と実装の階層化を理解し TCP/IP および UDP/IP の概念と設計思想を学ぶ。
6	インターネットの仕組み（2）：ネットワークの設計原理	プロトコル階層化について、さらに深く学ぶ。OSI の参照モデルと TCP/IP の各層との関係を理解する。パケットの送受信とサービスポートの関係について理解する。
7	電子メール（1）：電子メールの仕組み、メールサーバ、ドメイン、プロトコル	電子メールの概念とサービスの仕組みを学ぶ。メールアドレスとドメインの関係を学ぶ。メールサーバとメール送信、転送、受信の仕組みを理解する。

8	電子メール（2）：メールデータの構造	電子メールについてヘッダとメッセージデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。メッセージの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。添付ファイルの構造とマルチメディアデータの MIME 符号化を学ぶ。
9	Web サービス（1）：HTML 文書の交換と Web サーバ	HTML 文書の設計とその構成法を理解する。Web サーバの基本動作を理解する。 HTTP プロトコルの主な特徴を学ぶ。
10	Web サービス（2）：ハイパーテキストデータ	Web コンテンツ (HTTP データ) についてヘッダとデータの構造を理解する。ヘッダの各項目の機能を理解する。コンテンツの文字コードと多言語の扱いを学ぶ。 MIME データとプラグイン、ヘルパーアプリケーションの仕組みを理解する。
11	ファイル転送・共有 (FTP 、 SCP)	ファイルサーバの動作を理解する。サービスとしての FTP と SCP を理解する。アップロード、ダウンロード、ファイル共有とフォルダの関係を理解する。
12	動画・音声の配信：ビデオ会議とストリーミング	TCP と UDP の違いを理解する。ダウンロード配信とオンデマンド配信の違いを理解する。 Skype や WindowsMedia 配信などリアルタイムマルチメディアの応用を実習する。
13	データ保護、認証、暗号化	SSL 暗号化の概念を学ぶ。 HTTPS や WinSCP などセキュアなプロトコルを用いたサービス利用を理解する。ネチケット、パスワード管理、ウイルス対策を理解しセキュリティ意識を身に付ける。ネットワーク犯罪の深刻さを理解する。 SPAM 、ボット、フィッシングについて学ぶ。機密保持、プライバシー保護、著作権尊重の重要性を理解する。
14	ネットワーク利用のセキュリティ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目の学習内容、特にネットワーク接続や各種オンライン情報サービスの実習は現実のオンライン社会での応用力養成が何よりも大事である。学内ネットワークでの実習だけでなく、学外のインターネット環境でも検証を行い、**SA** など在外環境でもネットワークが適切に活用できるよう十分に課外実習することにより学習効果が上がる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

有賀妙子、大谷俊郎、吉田智子（著）『改訂新版 インターネット講座：ネットワークリテラシーを身につける』、北大路書房（2014）、ISBN:978-4-7628-2830-0

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、平常点（授業の参画度を含む、30%）、授業内の課題や小テスト（実技を含む、30%）を総合的に評価する。
欠席が一定基準を超えると期末試験を受験できないので注意しよう。期末試験は授業内容理解の確認でもあるので未受験者には単位認定できない。なお、やむを得ない事情で未受験となった場合、代替措置の可否は担当教員ではなく必ず学部窓口にて相談ください。

【学生の意見等からの気づき】

共通シラバスによる共同担当科目として、各教員はそれぞれのアンケートよりの気づきをお互いに共有し、よりよい授業運営に努める。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。特に **SA** などキャンパス外でのネットワーク接続とさまざまな活用方法についても実際の利用シナリオを意識した実習をおこなう。実習においては情報実習室に固定設置した **PC** のみならず、学生個人が利用するノート **PC** や携帯端末、情報センターの貸出ノート **PC** などさまざまな **ICT** 機器を活用する。課題提出等には学内 **Web** 環境ならびに学習支援システム、**ePortfolio** を活用するため、個人 **PC** または貸与 **PC** が必要になる。

【その他の重要事項】

今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

本科目では、Web を基盤とする **ICT** の実習、ならびに発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】本科目の学習内容は、職業人に共通に求められる知識を問う **IT** パスポート試験（スキルレベル1）のテクノロジー系に密接に関連する。

実務経験のある教員による授業：コンピュータ関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピュータやネットワークに関する実習を行う。

【前提科目】

前提科目： 「情報リテラシーⅠ」「情報リテラシーⅡ」

関連科目： 基幹科目「システム論」、「デジタル情報学概論」

【Outline and objectives】

This course deals with the concept of inter-networking, network computing, and fundamentals in hierarchical design and operating principles of the Internet and its TCP/IP protocol. It provides with user level knowledge for well-known information services including email, web, and other services such as streaming, video chat and ePortfolio. It also covers contemporary issues on network security and WiFi. The objective of this course is to enable all students to fully use network computing in a comfortable and safe manner in studying abroad environment.

COT200GA

メディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組む。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

- ・デザインの基礎と Photoshop の応用技法
- ・画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用
- ・レイヤー、マスク、フィルタの技法
- ・コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論

● DTP に向けてのスキャナ、プリンタの利用法

- クリティーク（合評）と制作メモの提出
- 各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

● ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・デジタル写真のリタッチ
- ・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）
- ・写真表現の作品化（アルバム・Web）
- ・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

- ・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。
- ・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。
- ・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。
- ・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持とう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史的変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。
5	メディア処理ソフトウェアの実践－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop Elements）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。

7	イメージの取り込みと調整	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。
8	レイヤーの技法	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半。
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop5.5 and Illustrator8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499
デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性、30%）、クリティーク（課題作品の相互批評、15%）、課題ならびにマルチメディア作品制作（35%）、ePortfolio（個人の作品集づくり、20%）を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（デジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。
提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。
【資格を目指す人のために】本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。
実務経験のある教員による授業：
コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディアの制作に関する実習を行う。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshopの応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【Outline and objectives】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 **Processing** のプログラム（スケッチ）基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある **p5.js** 環境での **Processing** 流プログラムの **Web** 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。**Processing** の制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoT や **Maker** ムーブメントなど **Web** と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業日は 4 月 27 日の予定である。

【注意】今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●講義と実習（マルチメディア対応の情報実習室）

Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

● **ePortfolio** による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション： Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎（1）：簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎（2）：基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎（3）：変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインターフェース 【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザーの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題 1】習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作：移動、回転、拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション：動きの演出 【制作課題 2：学習成果のまとめと Web 化の検討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】制作物の実装方法の構想発表。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、 Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
14	まとめ：最終課題の発表と相互批評	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを **Processing** 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧 (翻訳)、「**Processing** をはじめよう 第 2 版 (Make: PROJECTS)」、オライリージャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津 貴之 (監修)「**Generative Design with p5.js** — ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「**Generative Design — Processing** で切り拓く、デザインの新境地地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン (著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘 (監修)、沖 啓介 (翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アート — **Processing** による実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業参加の積極性、20%)、中間課題 (30%)、最終課題 (40%)、相互批評 (10%) を目安にすべてを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目なので過去年度からの気づきはとくにないが、プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し **Processing** の可能性を理解してもらえるよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる **PC** と **Web** 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。そのなかで **IoT** や **Maker** ムーブメントなどの動向も十分に取り入れた内容を盛り込む。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自の **PC** や携帯端末を実習の検証に活用する。

ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。

情報系教員によるクラス授業であり、**Web** を基盤とする **ICT** の活用実習、ならびに発見型学習を通じて**本科目では学生の就業力育成を支援する**。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア表現手法について講義する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。

関連科目：「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【Outline and objectives】

This course deals with introduction to creative coding with **Processing** programming language. In addition, **p5.js** is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

COT200GA

情報コミュニケーションⅡ

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に付けて

【情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。

【情報コミュニケーションⅡの学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。

本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に付ける。インターネット環境を十分に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

●講義と実習（情報実習室を使用する）

学習内容を授業計画に沿ってゆめやかに仕分けしてみると

前半：

●在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学ぶ後半：

●文化研究としての SA: 情報機器を用いた研究成果の発信と共有となります。セメスタ全体を通して SA で自分（たち）は何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させて行くことを目指します。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れます。

→ 追記：春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更につ

いては、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 24 日と

し、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体）インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体）インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。
8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。

9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。
14	全体のまとめ	学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には：

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
4. (必要に応じて) Web 外部公開申請書提出、個人研究テーマの検討
5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーカー書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版

(2006/12/20) ISBN 978-4788510302

水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版 (1996)、

ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加（30%）、ブログなどのコンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、

発表（10%）を目安とする。

→ 追記：春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

携行予定の情報機器や SA 先での WiFi 接続など、実際の学習環境は年々変化する。

これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行います。受講者は学外（とくに SA 先）でのインターネット接続を励行します。スマホ、ノート PC もしくはタブレット端末など実際に現場で使用する機器類を授業内実習でも適宜使う予定です。不明な点は担当教員にご相談ください。

【その他の重要事項】

SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。

Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。

SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を並履修すること。

【Outline and objectives】

In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.

The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.

HUI200GA

道具のデザイン学

甲 洋介

サブタイトル：どのようにデザインするか？

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● うまくデザインすると、暮らしはもっと心地よいものになる

日常生活を観察すると、私たちはさまざまな道具に囲まれている。人間は道具を次々に作り出すことによって身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。しかし現実には甘くない。高齢者や初心者をはじめ、使い方がよく分からないので新しい道具を諦めてしまう例も多いのである。暮らしの道具を使いやすくすることは、その人の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結する。道具のデザインは重要である。

● では、どうデザインするか？

それには基本がある。本講義では、道具を利用者にとって使いやすく、魅力的なものにするための方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザ」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参画を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではない。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会にとって重要な、人と人工物の共生の問題を考えることにも繋がっていく。このような発展的な課題について考える基礎も身につくはずである。

● ある時代をリードする道具をどのようにデザインするのか。このことが文化を築く視点から見た時、きわめて重要な問題であることに受講生は気づくだろう。

【到達目標】

デザイン手法の基礎知識を身につけ、魅力ある企画書を作ってみよう！

・使いやすい道具をデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方、デザインの基本原則から、ユーザ特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。
・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス (experience=体験) の観点からデザインし、企画書を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【4 月 27 日から開始する予定です。今学期中に本授業計画を修正する可能性があります。変更の場合は学習支援システムで周知します】
日常生活を豊かに暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」*User Experience Design* を、基本から実践までを体系的に学ぶ。

● 前半は、道具のデザインの基本的な考え方を学ぶ

暮らしの中の道具をもっと使いやすいものにするには、まず人間の面白い特性を知ろう。たとえば、人間は覚えたことをすぐに忘れる。思い込みによって深刻な誤りを起こすこともある。人間のそういった諸特性を考慮してデザインすると、道具に囲まれた暮らしはもっと気軽に楽しいものになる。

● 「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する

後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。履修者それぞれが、日常生活を豊かに暮らしやすくする道具・商品・サービスをテーマに、デザイン実習に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	『暮らし』をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く
2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザの心理学	ユーザの認知過程: 道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えられない動物である

6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザビリティの国際規格
7	「人間中心のデザイン手法」 <i>User-Centered Design (UCD)</i> ①	ユーザの特性を理解し、体験 (<i>experience</i>) をデザインする、という考え方
8	「人間中心のデザイン手法」②	<i>UCD</i> の基本原則を学ぶ
9	「人間中心のデザイン手法」③	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①	魅力ある商品の企画書を作る
11	道具のデザイン実習②	ユーザ・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③	ユーザの快適な体験 (<i>experience</i>) をデザインする
13	道具のデザイン実習④	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学習した方法論に沿ってデザイン実習を行い、その成果を企画提案レポートとして仕上げる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」(D.A. ノーマン、新曜社) 2015

・「人間計測ハンドブック」(甲ほか、朝川書店) 2013

他については適宜指示する。

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社) 2017

・「ユーザビリティエンジニアリング」(樽本徹也、オーム社)2014

・NPO 人間中心設計推進機構：<http://www.hcdnet.org/>

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、つぎの成績評価方法と基準も変更する可能性がある。変更する場合、具体的な方法と基準は学習支援システムで明示する。

発表とレポート (60 %)、授業・討議における積極的な貢献度合い (レスポンスシートを含む) (40 %)。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に授業支援システムを利用するので授業前後にアクセスを確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

実務経験のある教員による授業：

情報関連企業のデザイン部門・技術顧問として実践してきた教員がデザイン学を手ほどきする。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・「情報コミュニケーションⅠ」がユーザーエクスペリエンス・デザインの実践ワークショップになっている。これと併行履修すると、基本知識と実習を、効果的に学習できる。
・本科目のテーマは、「文化情報空間論」において発展されていく。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

P C、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline and objectives】

This class allows you to learn basic principles of the "User-Centered Design" and how to conduct concrete design steps using the "User-Centered Design" methodology.

COT300GA

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC でシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語である Pure Data(Pd) を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時に MIDI や OSC による他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoT など現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようにする。Pure Data(Pd) に習熟しビジュアルプログラミングの考え方やコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしての Pd の利点を認識し、Windows、Mac など OS や機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようにする。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業日は 4 月 22 日の予定である。

【注意】今学期は情報教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスタ内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pd による音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】 PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】 DTMF トーン（ブッシュホン）や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】 パッチ (Pd のプログラム) を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。

7	リズムマシン (2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を發展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 足音のモデル化を学ぶ。 【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット（スターウォーズ R2D2）の応答のモデル化を学ぶ。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。 【講義と実習】 ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】 OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。 学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。
12	ネットワーク環境への拡張	
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	
14	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424

松村 誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エス・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『「PureData」ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30 %)、課題 (30 %)、最終課題の評点 (40 %) で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にして欲しい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC (Mac 版、Linux 版もある) にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。Raspberry Pi、Arduino、Kinect、Leap Motion などの実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験の教員がコンピューターを使用したメディア処理について講義する。

【Outline and objectives】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

ART300GA

マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：人数制限あり (15 名)。希望者多数の場合は選抜します。初回授業に出席すること。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統一的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web マルチメディア、DTP などの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品や DTP 作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業日は 4 月 22 日の予定である。

【注意】今学期は教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

・デザインの基礎

・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

・写真技法：ライティング、構図、光の読み方、モデル（銀塩+デジカメ、レフ、ストロボ）

・写真表現の作品化（アルバム・Web）

・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム（ハンディカム）

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・ポスター作り（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

・写真表現の作品化（アルバム・Web）

・Jingle（短い 15 秒程度の CM の映像）

・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

・コンピュータ上でのメディアデータの特性と tangible なモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。

・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込まない世界」があることがわかる。

・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAP の原則を学ぶ。 【自由課題による写真課題】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：各自の写真作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。【写真課題：line、pattern、texture】

3	コミュニケーションデザインの手法－視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：line、pattern、texture 【写真課題：光と影、色】
4	コミュニケーションデザインの手法－Web	Web の特性とデザインについて理解する。 クリティーク：光と影、色 【写真課題：人物ポートレート、ライティング（2 週間）】
5	情報デザインとコンテンツ制作－パッケージメディア	パッケージメディア（CD、DVD など）の構成法を理解する。 実習：Premiere による短いビデオ 【課題：写真ポートフォリオ（2 週間）】
6	情報デザインとコンテンツ制作－サイバースペース 制作	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 【課題：Web 写真アルバム（2 週間）】
7	タイポグラフィの基礎 中間のまとめ：課題のクリティーク	タイポグラフィの基礎を学ぶ。各自のポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 学期末課題のガイダンス、絵コンテについて学ぶ。
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Web アルバム 【課題：ポスターのデザイン】
9	ヒューマンファクタと認知モデル	ヒューマンファクタと認知モデルについて理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	情報デザインとマルチモーダルインターフェース 実習：期末課題の絵コンテあるいは企画書提出	情報デザインとマルチモーダルインターフェースを学ぶ。 クリティーク：広告
11	知的所有権とメディア表現	知的所有権とメディア表現について学ぶ。
12	コンテンツの流通、管理と電子透かし	コンテンツの流通、管理の仕組みと電子透かしの技法を理解する。
13	インターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力や Web 上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するには DTP や Web 制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

マルチメディア全般について以下の 2 冊を参考書として挙げる。

参考書 (1) CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 参考書 (2) CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1 以上の 2 冊は資格取得を目指す人にも最適の参考書である。

撮影技法については、キット タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

ショートムービーの制作については、ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社（2006）、ISBN:978-4845906956 が参考になる。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性を含む、30%）、クリティークなど授業参加による平常点（20%）、中間課題（30%）ならびに最終課題（20%）を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年度までは 3～4 年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を取り入れ、また教学上の配慮も含め、2012 年度より 2 年次より履修可能とした。2017 年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室（BT#0704）にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。
長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびに ePortfolio に提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

実務経験のある教員による授業：

コンピューター関連企業・研究所の勤務経験のある教員がコンピューターを使用したメディア表現手法について講義する。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）

Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【Outline and objectives】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

POL200GA

国際関係研究Ⅰ（アクターに着目した理論の捉え方）

松本 悟

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：国際関係研究Ⅰ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業ではアクター（行為の主体）に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

4/22 の 2 限（10 時 40 分）を最初の授業にし、オンデマンド授業を実施します。音声付きパワーポイントを学習支援システムに投稿します。双方向オンライン授業ではないので、後から受講することもできます（視聴可能期間は授業の 2 日後の 22 時までとします）。その時に、春学期の授業内容や授業の進め方について説明します。なお、Hoppii へのアクセスに問題が生じた場合に備えて Google Classroom をバックアップにします。第 1 回授業教材に参加登録の仕方を書いてありますので、万一に備えて参加登録をしておいて下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム（アプローチ）であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ 4 つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGO とは何か	NGO の定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としての NGO	国際社会における NGO の役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGO は国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans) のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバメンタリティ	国家に操られずに NGO が国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中の NGO 活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。
14	まとめ（プライベートレジャー）	「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む習慣をつけ、国際関係に係る記事を毎日読むこと。その際紙媒体で読むようにすること。理論については授業で指示する文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

【レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編（2013）『NGO から見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。→ オンライン授業に伴い変更します。詳しくは第 1 回授業のパワーポイントを参照して下さい。

【参考書】

毛利聡子（2011）『NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回授業のパワーポイントで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の議論の時間を確保する。→ オンライン授業になったため今年度は難しい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

・長年 NGO として国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づく NGO の現状を交えて講義する。
・「国際関係学概論」「平和学」を受講していることが望ましい。

【Outline and objectives】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））**松本 悟**

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究2

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン河流域国という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を取り上げることで、社会科学と自然科学の融合的な視点を身につけることを目指す。

【到達目標】

- 「地域研究」の視点から国際関係を理解できるようになる。
- 「開発と社会・環境」に係る「国際関係」を分析する際に有用な学問的な理論や概念を理解し説明できる。
- 「地域研究」や東南アジア半島部の「開発と社会・環境」を論じた論文を適切に理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

14回のうち10回程度は演習形式で行う。事前に短い論文等を課題として出し、それをもとに担当者が授業の目的を踏まえて重要だと考えた点とその理由を発表する。それを受けて担当教員が論点を挙げグループ討議・発表を行うとともに、担当教員が関連する短い補足講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方、論点とは何かを説明する。事前に読む課題文献を提示する。
2	地域を学ぶ意義	メコン地域を概観した上で、国際関係の中で地域を学ぶことの意義について考える。
3	越境環境問題	「メコン地域」内で起きている越境的な問題を捉える分析視角を考える。
4	村から見た国際関係	1つの村の歴史を紐解きながら、ミクロとマクロの視点で国際関係について考える。
5	調査から見た国際関係	メコン地域の開発事業を事例に環境・社会影響評価調査の課題について考える。
6	資金源と国際関係	資源開発が引き起こした人権侵害を例に資金源の「目隠しの効果」を考える。
7	コモンスと財	カンボジアの漁業紛争を財の性質という視点から考える。
8	洪水と水害	ベトナムの洪水を事例に「多過ぎる水」の問題について考える。
9	国境を越える人	メコン地域の越境人身売買について考える。
10	資源の呪い	ビルマを例に、資源が結果的に人々を不幸にする実態について考える。
11	市場の失敗、政府の失敗	資源が枯渇する原因を囚人のジレンマなどの理論を使って考える。
12	国家間債務の機能	対ビルマODAの分析を事例に国家間債務が国際関係に及ぼす機能について考える。
13	メコン河開発の歴史	地域の歴史と重ね合わせて、開発の歴史を紐解くことで地域の視点で国際関係を捉える意義を考える。
14	まとめ	解釈学、系譜学、考古学の視点から授業で扱った 이슈を再度検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前課題文献を読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（フィードバックシートで評価）20%、事前課題文献の理解度（発表で評価）20%、グループ討議への参加度（互評で評価）20%、期末レポート40%。授業内の発表は2-3人1組で行い事前課題文献から導いたこの授業の目的に照らして重要だと思う点とその理由を提示する。1人1回担当。事前課題文献は最初の授業で知らせる。期末レポートでは国際関係と地域研究について論理的な思考を求める。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの課題が難しいという指摘が過去にあったため、2019年度から事前課題文献を用いた授業内討論を導入した。一方で、学生が議論するに値する論点を提示することが難しかったため、2020年度は担当教員が論点を示すことにした。

【学生が準備すべき機器他】

事前課題文献があるので、授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

- ・事前課題文献についての発表を必ず1回担当するので、第1回もしくは第2回の授業には必ず出席すること。
- ・グループ討議を中心に行う授業であることを認識して出席して欲しい。
- ・必須ではないが、「国際関係学概論」「平和学」「国際関係研究1」を受講していることが望ましい。
- ・メコン河流域国で長年NGO活動をしていた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline and objectives】

What is "Area Studies"? How is it related to international studies? This course focuses on "Mekong countries" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには 2 つの意義があると考えます。1 つは体系立った学習の応用として、もう 1 つは新たに学習すべき領域を見つけるためである。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心的に取り上げる。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにする。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員による補足講義、の 3 つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース 1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース 1 を受けたグループ発表・討議	ケース 1 に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース 2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース 2 を受けたグループ発表・討議	ケース 2 に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース 3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース 3 を受けたグループ発表・討議	ケース 3 に関するグループ討議、その後全体討議。
9	ケース 4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース 4 を受けたグループ発表・討議	ケース 4 に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。
13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	まとめと試験	13 回の授業をまとめた上で試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。大学に向かう通学電車でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（フィードバックシートで評価）20%、グループ討議での積極性（互評）30%、期末試験 50%（試験はケースに対する考察と、その結果の応用力を問うものとなる）。

【学生の意見等からの気づき】

遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に授業支援システムを使う。

【その他の重要事項】

- ・国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自らが関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。
- ・遅刻や欠席はグループワークを困難にし仲間に多大な迷惑をかけるので、第 1 回もしくは第 2 回の授業には必ず出席し履修するかどうかを慎重に判断すること。

【Outline and objectives】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

ECN300GA

途上国経済論

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。

第 9 回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じて社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすることができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

FRI300GA

情報文化演習

大嶋 良明

サブタイトル：PureData で音楽、CG、デジタル・アートを創ろう

配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期・秋学期/Spring・Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●テーマ

永遠のテーマは、「マルチメディアとネットワーク」ですが、特に先端芸術（音・映像・インタラクティブが融合した表現芸術）に関心があります。マルチメディアはメディアアートへと拡張し、ネットワークといえば今日では IoT、すなわち我々を取り巻く総てのモノがインターネット上で有機的に繋がること。2020 年度の重点テーマは、アートなモノ作りに没頭すること。PureData, Arduino, Kinect, leapmotion, Raspberry Piなどを駆使して音楽、楽器、メディア・アート作品を制作します。

●授業運営の方針

「やりたくなったらまず動く」「Be Proactive!」これに尽きます。

●こし研究室では何をするのか？

Pure Data というメディア処理ソフトに習熟し、MIDI 機器や iPad で対話的に反応する音楽や CG 作品の制作技法を身に着けて、その学習成果を ePortfolio にまとめます。

●「何を学ぶのか？」から「何ができるのか？ 何のために学ぶか？」へこれまでのゼミ生たちは Web, サウンドデザイン、アニメ制作、映画監督、UX、情報科教員などの分野に進み、留学、大学院進学者もたくさん輩出しました。参考にして下さい。最近の実績分野については後述しました。

【到達目標】

●目標

- ・コンピュータを自分の表現のために応用すること
- ・インターネット社会で自分を表現すること
- ・新しい物作りを構想し提案すること

を通して

- ・社会の中で十分に役に立つもの
- ・長期的に世の中を見通す力

を身につけたいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回授業日は 4 月 27 日の予定である。

【注意】今学期は教室における対面授業は当面できないため、学期中に授業計画を変更していくことが想定され、変更がある場合は学習支援システムで周知する。

●ICT の最先端を学びます。

●各自がテーマを決めて、個人研究あるいは作品制作に取組みます。

●学習成果の「見える化」には e-Portfolio を積極活用しましょう。

●4 年生は各自（あるいは連名）で、3 年生は全員でひとつのテーマで、国際文化情報学会および学外での成果発表に向けて取組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	インテロダクション、学術活動とその基盤	【講義】 アカデミック・スキルズと研究環境を理解する。とくにネットワーク環境について全員で習得する。Web を学ぶためのクライアント環境、端末について検討する。
2	【Pure Data 入門】	【演習】 ePortfolio を立ち上げる。 【講義と演習】 Pure Data とは何かを学ぶ。環境設定、パッチ、オブジェクト、入出力、パラメータなど Pure Data の構成要素を理解する。
3	リズムを作る	【講義と演習】 音叉の生成、リズムの生成、テンポ (BPM) の指定方法などを理解し、メトロノームを作成する。
4	サンプリング音源	【講義と演習】 Pure Data にサンプリング音源ファイルを読込んで利用する。マイクからの Pure Dataへ音データを録音する。 【月例報告】 ePortfolio

5	ドラムマシン	【講義と演習】 サンプル音源によるドラムマシンを作成する。テンポの可変性、音源増設など機能を拡張する。
6	【Pure Data 応用（1）：自作楽器】	【課題演習】 学習内容を組合せてビートボックスの自作に挑戦する。 【調査】 メディア・アートと Pure Data
7	【第 1 回中間発表（構想発表）】	【発表】 研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
8	ループ・サンプラー	【講義と演習】 サンプラ、ループ、ピッチ変換、逆再生などサンプルデータの書込み・読出し操作による音の処理を学ぶ。
9	エフェクト（1）	【講義と演習】 ギターエフェクト（音色系）： ディストーション、イコライザ、ワウワウ、ディレイ、コンプレッサなど楽器音の音色加工の原理と実装を学ぶ。
10	エフェクト（2）	【講義と演習】 ギターエフェクト（空間系）： コーラス、フランジャー、ハーモナイザなど楽器音の音像定位や時間処理の原理と実装を学ぶ。
11	【Pure Data 応用（2）：オリジナル・エフェクターの自作】	【課題演習】 自作エフェクターのデモリング・モジュレータやビット・クラッシャーなど市販製品にない仕様の音響効果の自作に挑戦する。 【調査】 デバイス系への応用 Arduino, Raspberry Pi と Pure Data
12	【電子音楽の世界】	【月例報告】 ePortfolio
13	シンセサイザー（1）：音作りの原理	【講義と演習】 シンセサイザーとは何か、正弦波音源、MIDI による音源制御、エンベロープ生成を学ぶ。
13	シンセサイザー（2）：音色加工の手法	【講義と演習】 様々な音源波形、フィルタによる音色変化、ボリフォニック化による機能拡張、FM 音源の手法などを学ぶ。
14	【第 2 回中間発表】	【発表】 研究構想を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。
15	秋学期キックオフ	【夏休み宿題】 Raspberry Pi 上で Pure Data を立ち上げておく。 【月例報告】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。
16	【ビジュアルな作り込み】アプリ操作性の向上	【講義と演習】 スケラなど直感的なインターフェースの作成とプリセットによるパラメータ設定の自動化を学ぶ。
17	機能の部品化と可視化、外部ハード（Arduino）との連携	【講義と演習】 アブストラクションによるモジュール化、GUI ボックス、VU メータなど操作インターフェースの部品化と可視化を学ぶ。あわせて Pure Data と外部機器（Arduino）との接続と連携方法を学ぶ。
18	外部アプリとの連携	【講義と演習】 オーディオデータのルーティングを設定し、Pure Data と DAW などの外部アプリを連携させる手法を学ぶ。
19	ネットワークの利用	【講義と演習】 LAN 環境を構築し、相互接続した複数機器上の Pure Data を連携して稼働させる手法を学ぶ。LAN 上で連携するドラムマシンを作成する。
20	モバイル端末との連携	【月例報告】 ePortfolio
20	モバイル端末との連携	【講義と演習】 iPad などのモバイル端末と PC, Mac 上の Pure Data を連携して稼働させる手法を学ぶ。
21	【第 3 回中間発表・学会発表準備】	【発表】 研究の進捗状況を発表し、研究計画を相互レビューする。学習活動を ePortfolio にまとめる。本中間報告会の成果により学会発表応募の形態を検討する。
22	映像の生成：GEM とコンピュータグラフィックス	【講義と演習】 GEM の基本、ウィンドウの生成、3 次元モデルへの操作とチューン、照明、テクスチャー、Web カメラ映像の取り込み、簡単なアニメーションの作り方を学ぶ。
23	Web カメラの活用	【講義と演習】 Web カメラ映像から動きや色を検知抽出する方法を学ぶ。
24	Pure Data 応用（3）：音と映像のインタラクション	【課題演習】 音、映像、GUI、外部機器を組合わせた作品制作に挑戦する。 【報告】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。12 月初めの学会発表にむけての準備状況を情報共有する。

25	イメージ処理	【講義と演習】 外部イメージデータの取込み、フィルタの適用、複数イメージのレイヤー化、背景の消去などの技法を学習する。
26	対話性の実現：マウス、キーボード、自作インターフェース	【講義と演習】 マウス位置、キーボードイベントの検知法、ビデオコントローラ、各種センサーと Arduino による自作インターフェース、簡単な対話的アニメの作成を学ぶ。
27	物理モデル	【講義と演習】 物理演算モデルと pmpd 、バネの動き、重力の影響のモデル化、複数のモデル要素の連結、 GEM による視覚表現などを学ぶ。
28	【期末発表】 2020 年度のまとめ	【発表】 個人研究、グループプロジェクトの進捗状況を発表し情報共有する。 【学習成果の総括と見える化】 学習内容の総まとめを実施する。 ePortfolio で学習成果の公開コンテンツ化を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献講読、プロジェクト活動、自主的な学習など授業時間外に求められる学習行動はとても大事です。プロジェクト運営、文献レポートなど積極的に活動してください。

とくに学外での貴重な学びの機会として **Pure Data Japan** のパッチングサークルのような勉強会やオトアソビなどのメディアアート関連のイベントがあります。まずは聴講参加を心がけてください。そしてできれば作品発表できるようにになりたいです。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習では学ぶべきことが多岐にわたるので必要に応じて文献を紹介します。今年度にとりあげる **PureData** の教科書として美山千香士、「**Pure Data** チュートリアル&リファレンス」、ワークスコーポレーション (2013), ISBN 978-4862671424

を指定します。

関連文献については、こちらのページを参照ください。

<https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10296>

PureData 関連の **Web** については、こちらのページを参照ください。

<https://epf.hosei.ac.jp/mahara/view/view.php?id=10554>

【参考書】

【**Pure Data**】

Pure Data の参考書として：

松村 誠一郎,「Pd Recipe Book — **Pure Data** ではじめるサウンドプログラミング」, ビー・エヌ・エヌ新社 (2012), ISBN 978-4861007804

中村隆之,「**PureData**」ではじめるサウンド・プログラミング—「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」工学社 (2015), ISBN: 978-4777518821 の2冊を挙げておきます。

最新動向については、**Pure Data Japan** の **Web** サイトを参照してください：

<http://puredatajapan.info/>

【**Raspberry Pi**】

日本語で読める参考書がたくさん出版されています。例えば Japanese Raspberry Pi Users Group,「**Raspberry Pi** 〔実用〕入門」, 技術評論社 (2013), ISBN: 978-4774158556

は良くまとまっています。

【**Arduino**】

PureData と **Arduino** の連携については上に挙げた「**Pure Data** チュートリアル&リファレンス」のほかに

青木直史,「**Arduino** と **Processing** ではじめるプロトタイピング入門」, 講談社 (2017), ISBN 978-4-06-156569-2

藤本 直明ほか,「**電脳 Arduino** でちょっと未来を作る」, CQ 出版 (2010), ISBN: 978-4789818506

が参考になります。

【**Web**】

今日の **Web** の最前線に触れると言う意味で：

「**Web** サイト制作 最新トレンドの傾向と対策」**MdN**(2012), ISBN: 978-4844362456 を多く参照しますが、これに限らず他の文献も多用します。

【文化情報学】

大学院で情報学系の研究を目指す学生のためにじっくりとまた批判的に読んでもらいたい論集と書籍を挙げておきます：

Durham and Kellner (ed), "Media and Cultural Studies Keywords", Blackwell(2001), 978-0-631-22095-4

Thomas Swiss(ed), "Unspun - Key Concepts for Understanding the World Wide Web", New York University Press(2000), ISBN 0-8147-9759-8

Cambridge, "Eportfolios for Lifelong Learning and Assessment", Jossey-Bass(2010), ISBN: 978-0470503768

西垣通,「基礎情報学—生命から社会へ」, NTT 出版 (2004), ISBN-13: 978-4757101203

【成績評価の方法と基準】

●成績評価方法 セメスタ毎に総合評価します。欠席は認めません。止むを得ない事情で欠席する場合には必ず申し出てください。また講義内容を復習して次の授業までに実習課題を済ませておいてください。

Proactive な運営方針にもとづき、学生個人によるゼミ制作・ゼミ論研究 (25%)、全体プロジェクトとグループ活動 (25%)、学会への参加や外部コンペへの作品応募 (20%)、各種資格 (情報・英語関連など実践力形成に限る) の取得努力 (20%)、研究指導を受けるための個別面談 (10%) などすべて総合的に評価します。

最後にまとめとしてのゼミ論、あるいは何らかの作品制作 (狭い意味での表現に限らず、システム・プログラム等でもよい) と制作レポートを課します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 演習形式であるため、授業アンケートのような期末アンケートではその場の学習ニーズに対応できない。面談による個別指導によってこれまででも対応してきており、今後もこの方針を継続します。面談を通じての個別の研究指導とゼミでの学びをうまく組み合わせて効率的な学びをサポートできるように配慮してゆきます。

(2) 意欲ある学生の参加を歓迎します。4 年次からの研究や作品制作も可能ですので、演習変更希望の場合は事前に相談ください。

【学生が準備すべき機器他】

ゼミは国際文化学部情報セミナー室 (BT#0704) にて行います。

2020 年度の学習には、**Windows PC**, **Mac**, **iPad**, **LINUX** サーバ、**MIDI** 楽器、**Kinect**, **Raspberry Pi** などのデバイス等を使いますが**必要な機器はすべて研究室にあります**。講義時間外での作業のために **WindowsPC** か **Mac**(あるいは **LINUX** サーバ) が必要です。また **Web** や **iPhone** 環境でも **Pure Data** は稼働します。**Pure Data** はオープンソースですので、自分にパソコンにダウンロードしてすべての課題実習と作品制作に取り組むことができます。またユーザー同士の交流もとてもさかんです。研究活動は情報準備室 (BT#0703) のネットワーク、サーバ、マルチメディア装置からなる **SOHO** 環境を基盤として実習します。

【その他の重要事項】

●履修上の注意

まず手を動かす、自分で調べる、しっかり聞く、物怖じせずに発言する。そこから文化と情報を発想します。自分ひとりでは解らないこともありますから、担当教員と面談を通じて指導を受ける、あるいは作品制作について助言を受けるなど風通しの良いコミュニケーションを心がけてください。

また、

- ・情報系、メディア系専門科目の 3~4 年次での履修
- ・情報処理・メディア関連の検定資格取得
- ・継続的な英語力養成の必要性

を明言します。

非常に関連が深い科目として「コンピュータ音楽と音声情報処理」があります。おなじく **Pure Data** を重点的に扱う科目として、きつと参考になると思います。

【研究室の活動実績】

【研究・制作活動】

2011 年度：学部の動画配信システムの構築。

2012 年度：**e-Portfolio** の学部導入、全学導入にむけての技術的検討。大学院でのメディア論科目と連携。

2013 年度：**e-Portfolio** (HOPS) の構築に参加。

2014 年度より：**Puredata** パッチングサークルに参加、発表。

2015 年度 (研究留学)：Carnegie Mellon 大学の **Music & Technology** においてコンピュータ音楽とサウンドデザインの研究。(演習は東京工科大学デザイン学科の松村誠一郎先生)

2016 年度：**PureData** でシンセサイザ、エフェクタ、シークエンサなどをインタラクティブな仕組みと組み合わせてライブ演奏向けに制作。

2018 年度：**Prezi Night** (2019 年 2 月)に参加。

【学部学会】3 年生は連名で学部学会に発表参加する、4 年生は個人で研究成果を発表することを目指してきました。

2014 年度は研究室からポスターとデモで発表 3 件。

2015 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表。

2016 年度は 3 年生が中間成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。

2017 年度は 4 年生が卒業研究の成果を学会発表、ポスターとデモで発表 2 件。

2018 年度は 3 年生がポスター発表 1 件。

2019 年度は 4 年生がインсталレーション発表 1 件。

【学外の学会等】

2012 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

教育システム情報学会「全国大会」

日本教育工学会「e ポートフォリオの活用と普及」研究会

2013 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2013 での研究発表 (2 件)

2014 年度の学会参加

Mahara Open Forum 2014 での研究発表 (1 件)

Pure Data パッチングサークルへの参加 (5 回)

2016 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

Pure Data パッチングサークルへの参加 (2 回)

2016 年度の学会参加

私情協の「教育改革 ICT 戦略大会」

2018 年度の学会参加

ADADA2018 学術大会にて研究発表。

【Outline and objectives】

The course deals with computer music and media art programming by **PureData** and extends interactive creativity by use of various kinds of external data obtained through stand-alone and micro-controller-based sensor devices such as WebCams, accelerometers, thermo sensors, infra-red gesture detectors. The purpose of this course is to support students with their individual research project and undergraduate thesis. **ePortfolio** is provided as the learning platform to support reflection and active learning.

MAN200HA

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs やパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業は SDGs を達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。本講義では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球環境問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、知識集約型社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社制度と様々な経営課題に立ち向かう企業の姿勢を理解し、SDGs が求める持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論と事例を取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の全体像
	企業とは何か	株式会社の誕生と発展
第 2 回	製品・サービスの提供	市場における優位性の獲得
第 3 回	株式会社の仕組みと課題	株式会社は誰のものか
第 4 回	大企業の機能と専門経営者の誕生	所有と経営の分離
	[ケース①：サントリー]	
第 5 回	企業規模の拡大と組織	規模の利益と経営の効率化（コーポレートガバナンス）
	[ケース②：本田技研工業]	
第 6 回	日本の経営の構造	日本的経営の成果と課題
	[ケース③：キヤノン]	
第 7 回	経営管理の理念と機能	マネジメントの実践
	[ケース④：熊本黒川温泉]	
第 8 回	外部講師による特別講義 < 1 >	企業担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 9 回	ICT・IoT と企業経営	先端技術の活用と経営変革
	[ケース⑤：ミツカン]	
第 10 回	競争戦略とマネジメント	市場競争力の源泉
第 11 回	製品開発戦略	製品開発のコンセプトとプロセス
	[ケース⑥：ユニクロ]	
第 12 回	外部講師による特別講義 < 2 >	機関投資家による講義（詳細は開講時に提示）
第 13 回	SDGs と ESG 投資	持続可能な開発目標と企業経営の未来
	[ケース⑦：スタジオジブリ]	
第 14 回	企業間競争ケーススタディ	飲料メーカーの競争戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけてどのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶ ESG 経営』文眞堂、2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文眞堂、2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂、2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂、2016 年

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30 %

期末試験：70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出向し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連視角】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

The emergence of the SDGs and the Paris Agreement have called for a shift from a fossil fuel-based economy to a decarbonized economy. Companies are positioned as key partners in achieving the SDGs, and the role they need to play is expanding more than ever. This lecture focuses on various issues surrounding companies, based on the changes in the external environment, such as the end of the age of mass production and mass consumption, the growing An overview of corporate management, taking up contemporary issues.

MAN200HA

ビジネスストーリー

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦前・戦後の日本経済の発展をリードした代表的な企業家の活動について説明します。過去から現在に至る企業および企業家活動の展開を振り返ることで、企業と社会の関係性や企業の社会的責任（CSR）や SDGs（持続可能な開発目標）とビジネスの関係について学びます。併せて、企業を評価するために必要な情報や知識を提供します。

【到達目標】

日本企業の成長プロセスを振り返り、企業が長年培ってきた「知の蓄積」の実像や SDGs を先取りした事例を理解し、現代社会で問われている企業活動の社会的意義を的確に評価する知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、わが国の代表的な企業や企業家のケースを取り上げて解説します。また、外部講師による特別講話を行う予定です。講義にはパワーポイントを使用し、必要に応じて DVD 等を視聴します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 高峰譲吉 [三共商店]	ビジネスストーリーを学ぶ意義 製薬ベンチャー
第 2 回	豊田佐吉 [豊田自動織機製作所]	自動織機の実験者
第 3 回	鈴木道雄 [鈴木式織機株式会社]	オートバイ・軽自動車製造の実験者
第 4 回	波多野鶴吉 [郡是製糸]	人を大切にする経営
第 5 回	大原孫三郎 [倉敷紡績・倉敷絹織]	日本版 CSR の実験者
第 6 回	武藤山治 [鐘淵紡績]	人道主義経営
第 7 回	岡田良一郎 [大日本報徳社]	企業家の経営理念を支えた報徳思想
第 8 回	中島知久平 [中島飛行機]	航空機製造の実験者
第 9 回	伊庭貞号・鈴木馬左也 [住友財閥]	別子銅山の煙害を克服した SDGs の実験者
第 10 回	鳥井信治郎 [サントリー]	個性あるマーケティング活動
第 11 回	小林一三 [阪急東宝グループ]	宝塚歌劇を生み出した私鉄経営の実験者
第 12 回	石橋正二郎 [ブリヂストン]	足袋屋から国産タイヤメーカーへ
第 13 回	樋口廣太郎 [アサヒビール]	スーパードライの生みの親
第 14 回	立石一真 [オムロン]	考えるオートメーションの開発

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料と参考書を使用して必ず復習して下さい。企業のホームページに掲載されている「企業の歴史」などをウォッチし、各企業が生き残りをかけてどのような取り組みを行ってきたのかを考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史: CSR 経営の実験者に学ぶ』文真堂、2016 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどる日本の金融事業史』文真堂、2013 年
長谷川直哉著『スズキを創った男－鈴木道雄』三重大学出版会、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%

リアクションペーパー：20%（5 回）

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを中心に、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財)国際金融情報センターに出向し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

This lecture describes the activities of leading entrepreneurs who have led the development of the Japanese economy before and after the war. By looking back on the development of corporate and entrepreneurial activities from the Meiji era to the present, we will learn about the relationship between business and society, corporate social responsibility (CSR), and the relationship between the SDGs (Sustainable Development Goals) and business. It also provides the information and knowledge needed to evaluate a company.

MAN300HA

CSR 論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において企業が直面する社会的課題について検討します。SDGs や CSR に関心が高まっている背景には、社会が必ずしもよい方向に進んでいないという認識を人々が抱いているからに他なりません。サステナビリティ（持続可能性）という視点から、社会と企業の関係について理解を深めることを目指します。将来の企業選択にも役立つように、企業を見る目を養います。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG 投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

サステナビリティという言葉が現代社会のキーワードとして提示され、社会課題の解決に向けて、企業はいままで以上に幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGs や CSR に関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティ意義とビジネスモデル変革の方向性を説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス CSR の基本概念 企業と社会の問題領域	講義の進め方 講義の全体像
第 2 回	グローバル経済の進展とその影響	1980 年代の米国と英国で進展した市場主義経済の光と影
第 3 回	サステナビリティ（持続可能性）と CSR	地球サミット以降の CSR の展開
第 4 回	SDGs と企業経営	SDGs の本質と企業経営に及ぼす影響
第 5 回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州における SDGs の取り組み
第 6 回	欧州のサステナビリティ戦略②	欧州における SDGs の取り組み
第 7 回	外部講師による特別講義 ＜1＞	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 8 回	責任投資原則と機関投資家の責任	責任投資原則が機関投資家の行動に及ぼす影響
第 9 回	CSR 金融①	社会的責任投資（SRI）と企業評価
第 10 回	CSR 金融②	ESG 投資と企業評価
第 11 回	外部講師による特別講義 ＜2＞Ⅱ	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 12 回	サステナビリティを巡る政策動向	ISO26000 統合報告書 SBT/TCFD
第 13 回	デジタルトランスフォーメーション	脱炭素を加速するデジタル革命
第 14 回	SDGs と企業経営	企業家に学ぶ ESG 経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では 1,000 社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでもみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年、3410 円税込
 長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年、3080 円税込
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年、2970 円税込
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年、2750 円税込

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート： 30 %
 期末試験： 70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、（公財）国際金融情報センターに出身し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【Outline and objectives】

This lesson examines the social issues facing businesses in modern society. The growing interest in SDGs and CSR is due to the perception that society is not necessarily going in the right direction. We aim to deepen our understanding of the relationship between society and companies from the perspective of sustainability. Cultivate the eyes of companies to help them choose future companies.

MAN300HA

CSR 論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR 論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）や Business Ethics（経営倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割と企業経営者の倫理観について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGs が求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決に必要とされる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が求められます。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本の SDGs/CSR および Business Ethics に関する基本理論や背景となる思想の展開を概観します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者の倫理観について検討していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方
第 2 回	社会構造の変化 近代産業の勃興と経済倫理①-見えざる手と道徳哲学	現代社会が直面する構造変化 『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性
第 3 回	A. スミス 近代産業の勃興と経済倫理Ⅱ-功利主義思想	産業革命の勃興と企業倫理
第 4 回	J. ベンサム、J. ミル 近代産業の勃興と経済倫理Ⅲ-資本主義の精神と倫理	近代資本主義の思想的背景
第 5 回	M. ウェーバー CSR の胎動	新自由主義への反動と CSR の胎動
第 6 回	外部講師による特別講義 < 1 >	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 7 回	日本企業の倫理と CSR ①	明治～戦前期における企業経営と CSR
第 8 回	日本企業の倫理と CSR ②	高度成長期の企業経営と CSR
第 9 回	CSR から CSV（共通価値の創造）へ	マイケル・ポーターの経営論
第 10 回	外部講師による特別講義 < 2 >	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細は開講時に提示）
第 11 回	気候非常事態と企業経営	気候変動と企業経営
第 12 回	CSR 先進企業事例	ケーススタディ
第 13 回	SDGs 先進企業事例	ケーススタディ
第 14 回	SDGs とデジタルトランスフォーメーションと	SDGs を支えるデジタル革命

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景に SDGs に取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年、3410 円税込
 長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年、3080 円税込
 長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年、2970 円税込
 長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年、2750 円税込

【成績評価の方法と基準】

特別講義レポート：30%

期末試験：70 %

講義で取り上げた内容に関する基礎的事項を理解し、課題に対して自己の見解を論理的に展開しているか等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年間投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、（公財）国際金融情報センターに出向し、カントリーリストや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【Outline and objectives】

In this lesson, based on the knowledge acquired in CSR theory, we will follow how the SDGs (Sustainable Development Goals) and Business Ethics (Business Ethics) have changed with the times. We aim to deepen our understanding of the role of companies required in a sustainable society and the ethics of business executives.

ECN300HA

国際環境政策 I

国則 守生

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では環境問題を国際的な観点、地球規模の観点から議論する際に必要となる考え方を環境経済学の立場から紹介・議論する。地球規模の環境問題は同世代内だけでなく、世代間問題の公平性に関わる側面が顕著であることを確認していく。具体的には、前半で環境問題を軽減・解決を図るために先進各国で採用されてきたさまざまな経済的手段（economic instruments）について、規制的手段や自主的手段などとの比較を含めて、学習する。とくに各国で経済的手段がいかに利用されているかを概観するとともに、環境税、排出権（量）取引などの効果と課題等について議論する。後半では、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化などの越境・地球環境問題を対象に、経済的手段の国際協調の側面を取り扱う。

【到達目標】

本授業は国際的、越境のおよび全地球的な観点から、環境政策と経済との多様な繋がりを理解することを目指す。とくに、採用される政策手段のさまざまな特徴と課題を環境経済学の側面から検討することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにならう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。授業は講義とともに資料に基づく学習の形態とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	環境問題の広がりとその類型
第2回	OECD 諸国での環境政策の多様性	時代的変遷とその特徴
第3回	環境税賦課の影響	環境税の帰着問題
第4回	環境と経済的手段 (1)	OECD 諸国での課徴金と環境税
第5回	環境と経済的手段 (2)	OECD 諸国での排出権（量）取引の種類
第6回	環境と経済的手段 (3)	その他の環境に関する経済的手段
第7回	環境と経済的手段 (4)	環境関連税制（environmentally related taxes）
第8回	越境環境問題 (1)	国内環境問題との対比
第9回	越境環境問題 (2)	酸性雨問題
第10回	国際環境協定の可能性 (1)	完全協力解、非協力解、提携 (coalition) など
第11回	国際環境協定の可能性 (2)	自律的な国際環境協定や国際協定の難易度
第12回	地球環境問題 (1)	オゾン層破壊と国際協定
第13回	地球環境問題 (2)	地球温暖化問題と現状実施されている経済的対応の評価
第14回	地球環境問題 (3)	地球温暖化問題と地域間、世代間対立の課題、社会的割引率のあり方など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。とくに、復習に当たっては、各回、新出の概念とそのインプリケーションに注目し、まとめておくこと。受講に当たっては、環境経済論 I、II の履修（同時に含めて）が望ましい。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しないが、必要に応じて担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

とくに指定しないが、以下の書籍が概念等を学ぶ上で参考となる。

R. K. ターナー他 (2001)『環境経済学入門』（大沼あゆみ訳）東洋経済新報社（¥ 3,190）

栗山浩一・馬奈木俊介 (2016)『環境経済学をつかむ』第3版、有斐閣（¥ 2,640）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学習の定着をはかるため、重要な概念の利用等について繰り返し説明し、理解を深めるよう配慮する。

【その他の重要事項】

旧科目名称「国際環境政策」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

授業後、必要に応じてエクササイズ（課題・ホームワーク）を課すので、必ず解答・提出すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

教員は政府系政策金融機関の研究部門にて地球温暖化問題に関する研究経験があり、本講義中の地球温暖化問題の一部に考え方、分析などが反映されている。

【Outline and objectives】

This lecture is concerned with the multifaceted, international aspects of environmental problems. Especially the lecture finds that global environmental problems are typically susceptible to intra- and inter-generational equity agenda.

ECN300HA

国際環境政策Ⅱ**人間環境学部教員**

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、環境政策およびエネルギー政策の国内の状況、国際比較や国際協調のあり方をテーマとします。国際環境政策Ⅰの内容を踏まえ、エネルギー問題を含む環境問題について統計などの諸資料を活用しながら現状について客観的な理解を深めます。また、国内外の環境政策、エネルギー政策の経緯や潮流を理解することで、地球環境問題と環境問題と一体となっているエネルギー問題の解決のための国際社会や国際協調のあり方、日本の対応などについて学びます。

【到達目標】

各種統計資料等に基づいた国内の状況および国際比較を通じて、各学生が将来に向けて現代社会の重要課題である環境問題と環境問題と一体となっているエネルギー問題について、データと事実に基づいて広い視野から主体的に考察できるようにすること、そして、将来に向けて新たな問題意識の発掘や醸成および課題解決について思考、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

特に環境問題と表裏の関係にあるエネルギー問題を含めて、国際環境政策Ⅰで扱うことができなかった問題について、基礎的事項と国際的な取り組みの動向等をスライドを利用しながら講義形式で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の狙い、構成、成績評価としてのレポートの概要など
第 2 回	エネルギーセキュリティ (1)	エネルギー安全保障とは（概念と歴史的経緯）
第 3 回	エネルギーセキュリティ (2)	今日のエネルギー安全保障（至近の情勢、注目点）
第 4 回	エネルギーセキュリティ (3)	途上国のエネルギー安全保障（途上国固有の課題）
第 5 回	エネルギーセキュリティ (4)	安全保障の対策と国際エネルギーガバナンス（政策の選択肢、国際協力）
第 6 回	エネルギー市場 (1)	エネルギー市場の概要
第 7 回	エネルギー市場 (2)	国際的なエネルギー市場
第 8 回	エネルギー市場 (3)	国内のエネルギー市場
第 9 回	エネルギー市場 (4)	エネルギー・環境政策と市場
第 10 回	環境政策 (1)	地球温暖化とエネルギー、国際交渉 (ICAO、IMO 含む)
第 11 回	環境政策 (2)	省エネ、日本の取り組みと世界動向
第 12 回	環境政策 (3)	カーボンプライシング動向
第 13 回	環境政策 (4)	ビジネス界の取り組み (ESG)
第 14 回	まとめ	質疑、フリーディスカッションなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
事前に資料を読んでおくこと。復習では、授業を振り返るとともに、授業を通じて、関心を持ったトピックスについて、関連情報を収集し、問題意識の醸成に努めることで授業の内容理解と授業への積極的な参加が期待されます。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。担当教員が作成した資料（スライド）をもとに毎回授業を進めます。

【参考書】

特定の参考書はありません。担当教員が作成した個々のテーマの資料（スライド）に参考とすべき書籍・論文があれば個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

合計 3 回のレポート提出（各 33・1/3 %）をもとに総合判断します。定められたレポートの提出期限をまもること。

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当のため特になし。

【その他の重要事項】

春学期開講の「国際環境政策Ⅰ」の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

教員（3 名）はエネルギー経済に関する（一財）日本エネルギー経済研究所での研究活動に従事しており、本講義はそこでの研究活動の考え方、分析方法などが一部反映されている。

【Outline and objectives】

Themes of this lecture series are on (1) environment and energy policies in Japan and the world, and (2) approaches for overcoming the challenges for so-called 3Es (Energy Security Enhancement, Economic Efficiency, and Environmental Protection). Those themes will be analyzed from Japan's past experiences/current undertakings as well as other countries' approaches. Engagement of the international community to such a framework as UNFCCC is also an important theme to be analyzed in this lecture series.

The objectives of this lecture series are:

- to objectively understand the current energy and environmental issues with the use of statistical data as well as policies analyses,
- to understand the global environment and energy policies from both historical and current perspectives, and
- to establish views for overcoming those challenges surrounding global environment and energy issues from multilateral/ bilateral approaches as well as Japan's approaches.

ECN300HA

途上国経済論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、ア) 途上国経済の分析枠組み、特徴、イ) 主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、ウ) 日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し、エ) 将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論 I においては、途上国の社会と経済を見る際に使われる分析枠組み、主要地域ごとの歴史と社会の概要、日本と特に関係が深いアジア諸国の経済と社会を中心に学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：開発途上国とは。途上国経済を見る目	開発途上国とよばれる国や地域はどのようなところか、概念を整理する。同時に、途上国を見る際に頻繁に使われる分析枠組み（評価軸）を再考する。
第 2 回	経済成長の理論と途上国経済の位置づけ	経済学の世界では経済成長はどのようなものだと考えられているかを紹介し、途上国経済を扱う「開発経済学」の発展を概観する。
第 3 回	日本は途上国だったのか？：戦後日本の経済成長と現在の開発途上国経済	戦後日本は急速な経済成長をとげたが、現在の開発途上国にとって日本はどのような点で手本足り得るかを考える。
第 4 回	途上国社会・経済の概況（1）：アジア地域	アジア地域の「途上国」と呼ばれる国や地域が「キャッチアップ」を果たす過程で、政府・国家がどのような役割を果たしたのか、東アジアと南アジアをとりあげ、歴史的な視点から概観する。特に、分析の視点として「植民地」について考える。
第 5 回	途上国社会・経済の概況（2）：ラテンアメリカ地域	アジアと異なる「植民地」経験を持つラテンアメリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況（3）：アフリカ	アジアと異なる「植民地」経験を持つアフリカ地域が、その後どのように経済発展を遂げたか（または遂げられなかったか）を概観する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況（4）：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済（1）：韓国－危機とその克服	韓国は、目覚ましい経済成長を遂げた NIES の代表である。一旦は先進国の仲間入りを果たした韓国の歩んだ道筋と 1997 年の IMF 危機以降の経済・社会の状況について理解する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済（2）：台湾－その生い立ちと国際社会における立場	台湾も、韓国とならび目覚ましい経済成長を遂げた NIES の一つである。現在の台湾の国際社会・国際経済における地位はその特殊な生い立ちに影響されていることを理解する。

第 10 回	主要国／地域の社会と経済（3）：香港およびシンガポール－小さな街の大きな経済	アジア NIES の一つである香港とシンガポールをとりあげ、資源のない国（都市）の経済成長について考える。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済（4）：インドネシア－多様性の中の権威主義的開発体制	アセアン（Association of South East Asian Nations）の一員として NIES に続き経済成長を遂げたインドネシアをとりあげ、政治体制と経済成長（経済発展）の関係について考える。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済（5）：マレーシア－カリスマと経済成長	強力なリーダーによる経済成長戦略を通じて発展したマレーシア経済・社会を概観する。
第 13 回	民主主義と経済成長	アジア的価値がアジア諸国の経済成長をもたらしたのか。民主主義と経済成長の関係を、アジア諸国を例に考える。
第 14 回	経済成長、進歩、貧困	先進国、途上国いずれもが経済成長を通じて社会の進歩、貧困の撲滅を目指してきた。現代の途上国は経済成長によって貧困をなくすることができるのか、という問いを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したもののやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

ECN300HA

途上国経済論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の経済は、様々な資源の供給元や市場として世界各国との相互依存を強めている。この講義は、世界人口の半数以上が暮らす、開発途上国と呼ばれる国や地域の経済と社会について、固有の歴史／文化的背景も含め日本とのかかわりを念頭におきながら基礎的な知識の習得をめざす。

【到達目標】

本講義においては、途上国経済論Ⅰに引き続き、ア）主要地域や主要国の経済・社会の特徴について学び、イ）日本社会や経済の世界における位置づけをよりよく理解し ウ）南北問題や世界貿易など、個々の国や地域が置かれている「構造」への理解を深めることで、エ）将来社会に出た際に諸外国の人々と基礎的な知識に基づいた意味あるコミュニケーションができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

途上国経済論Ⅱにおいては、新興国と呼ばれる経済成長著しい国、今後の経済発展が見込まれる国などの歴史と社会の概要、国際経済の成り立ちなどを講義形式で学ぶ。

学生の将来に関わりの深い日本企業の活動や、新聞などでとりあげられる現実の出来事、ニュースと関連づけて講義を行うことにより、自らの日々の生活にひきつけた現実社会の理解を目指す。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：途上国経済を見る目	途上国経済論Ⅰの概要の復習とⅡの主題についての概観。
第 2 回	世界経済の歴史	「経済」と呼ばれるものの誕生も含め、「世界経済」の成り立ち、発展について概観する。
第 3 回	世界貿易の構造をめぐる議論	国際経済の主要な活動である貿易について、その理論、構造、課題を概観する。
第 4 回	途上国社会・経済の概況 (1)：中国 (1) 社会主義と資本主義	中国は世界有数の大国であり、計画経済から市場経済へと緩やかに転換しつつ経済成長を続けている。議論の前提として社会主義／共産主義の考え方についての理解を深める。
第 5 回	途上国社会・経済の概況 (2)：中国 (2) 持続的経済成長と大国としての復活	世界経済にインパクトを与える存在となった中国の社会と経済について概観する。
第 6 回	途上国社会・経済の概況 (3)：インドー目覚めた大国	インドは、近年、経済成長著しい BRICs の一つ。イギリス植民地から独立した後のインドの長い経済停滞、1990 年代以降の目覚ましい経済発展という大きな流れを理解する。
第 7 回	途上国社会・経済の概況 (4)：映像でみる途上国社会経済	映像を通じて、途上国の社会と経済について知る。
第 8 回	主要国／地域の社会と経済 (5)：タイー東南アジアの「先進国」	東南アジア諸国のなかでも NIES に続く目覚ましい経済発展を遂げたタイ。アジア通貨危機の発端となるなど途上国の中の「先進国」の経済社会を概観する。
第 9 回	主要国／地域の社会と経済 (6)：ベトナムー戦場から市場へ	1960 年代にベトナム戦争で大きな傷を受けたベトナムが新興経済国の一角として名乗りを挙げる過程を概観する。
第 10 回	主要国／地域の社会と経済 (7)：ブラジルー南米の大国	ブラジルはインドや中国とならび 21 世紀に入って新興国として台頭著しい。豊かな自然を抱える大国の姿を概観する。
第 11 回	主要国／地域の社会と経済 (8)：南アフリカーアパルトヘイト	アパルトヘイトという大きな問題を克服して以降の南アフリカ経済の新興国としての経済成長を概観する。
第 12 回	主要国／地域の社会と経済 (9)：ボツワナー資源の呪いを越えて	アフリカ大陸にありながら世界でも有数の高経済成長を続けたボツワナの経済社会を概観する。

第 13 回	国際経済の中の域内協力	ASEAN（東南アジア諸国連合）を例に、グローバル化がすすむ国際社会における域内協力の重要性を概観する。
第 14 回	まとめ：途上国経済および世界経済の未来	講義全般の復習を行うとともに、今後の世界経済、途上国経済の姿について想像する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定される参考文献および参考図書の該当部分を講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

グラボウスキー他（2008 年）『経済発展の政治経済学』（日本評論社）
渡辺利夫編（2007 年）『アジア経済読本（第 4 版）』（東洋経済新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末試験による。成績配分は中間レポート 20%、期末試験 80%を予定する。リアクションペーパーについては、加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどを充実することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、途上国への経済協力の実務に携わっていた経験がある。本講義に関しては途上国での駐在も含めた業務経験で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a second part of the course on the economy and society of developing countries. Students will be able to obtain a reference framework and to understand basic structure of developing countries' economy including particular historical, cultural, and geographical settings.

ECN300HA

国際経済協力論 I

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進展する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得を目指す基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取り組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生が自分なりの意見や考えを持ち、人に伝えられるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようになることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

【授業の進め方と方法】

【4 月 20 日追記】 当面の予定は以下の通りです。

4 月 24 日 第 1 回 ガイダンス 1（授業の進め方などについて）

5 月 1 日 休講日

5 月 8 日 第 2 回 ガイダンス 2（授業のテーマなどについて）

5 月 15 日 第 3 回 講義内容に入ります。

（詳細は学習支援システムの本授業ページ冒頭を確認してください。）

＝＝＝＝＝

国際経済協力論 I においては、講師の経済協力の実務経験の紹介も交えながら、日本の取り組みを中心に、経済協力の歴史や背景、その仕組みについての理解を深めるための講義を進める。必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力とは？	国際経済協力とはどのような取り組みか、またなぜそのような取り組みが必要とされているのかについて理解する。
第 2 回	開発途上国とは？	開発途上国と呼ばれる国や地域はどのようなところで、どのように生まれたのかを理解し、われわれが途上国をみる際の視点を再考する。
第 3 回	国際社会と経済協力の歴史（1）（1945 年～1960 年代）：戦後世界と南北問題	第二次世界大戦後の国際秩序形成の過程と南北問題の登場、初期の経済協力の取り組みについて概観する。
第 4 回	国際社会と経済協力の歴史（2）（1970 年～1980 年代）：経済協力への失望と変化の兆し	経済協力の初期の取り組みへの反省と幻滅、その後の変化につながる新たな考え方の登場を概観する。
第 5 回	国際社会と経済協力の歴史（3）（1990 年代～現在）：冷戦後の世界とグローバル化	冷戦終結後の国際秩序と、グローバル化における経済協力の位置づけを概観する。
第 6 回	日本の経済協力の歩み（1）：被援助国から援助国へ	第二次世界大戦後の日本は援助を受ける国であったこと、その経験がその後の日本の経済協力に与えた影響について理解する。
第 7 回	日本の経済協力の歩み（2）：援助国としてのスタート	日本の援助国としての取り組みについて、1950 年代～1970 年代までの社会経済の変化とあわせ概観する。
第 8 回	日本の経済協力の歩み（3）：援助大国と日本の責任	日本の援助国としての取り組みについて 1980 年代～2000 年以降の社会経済の変化とあわせ概観する。
第 9 回	経済協力の仕組みと方法	日本の経済協力の仕組みと現状（特徴）につき、統計資料などをともに理解する。

第 10 回	経済協力の現場に関わる人々：政府、援助機関、企業、NGO(NPO)	日本の経済協力はどのような人々に担われているのかを理解する。特に政府（「官」）ではなく、「民」の果たしている役割の大きさについて理解する。
第 11 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（1）：経済成長と人間開発	経済協力の基本的な目標の変遷について大きな流れとして理解する。「経済」重視から「人間」重視に移り変わる様を、具体的な戦略（アプローチ）の変遷を通じて理解する。
第 12 回	経済協力をめぐる議論の大きな流れ（2）：持続可能な開発と環境	環境をめぐる問題が経済協力の分野でとりあげられてきた経緯を知り、時代ごとに異なる環境問題の様相について理解する。
第 13 回	経済協力の評価と効果をめぐる議論	これまでの経済協力には効果はあったのか、という問いに対する答えを概観する。そのうえでこれからの経済協力について考えるための材料を得る。
第 14 回	日本が経済協力を行う理由	日本は途上国への経済協力を続けるべきか、そうだとすればその理由は何か、日本国民がそれらの問いをどう考えているかを知る。そのうえで自分なりの答えを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）

勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）

牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）

外務省（毎年発行）『日本の開発協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【4 月 20 日修正】

期末試験は行いません。成績評価は、授業時に求めるリアクションペーパーや小課題（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）によることを予定しています。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a first part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries.

ECN300HA

国際経済協力論Ⅱ

武貞 稔彦

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進化する世界において、国と国の間に所得だけではなく様々な格差が広がっている。経済協力は、そういった格差を是正し、新しい国や社会さらには世界を、共に築き上げていく手段の一つである。人々がより善く生きることができる社会の構築に受講生が関わるために、この講義では国際経済協力に関する基礎的な知識の習得を目的とする。

【到達目標】

本講義を通じて獲得する基礎的な知識は、具体的には、経済協力の歴史、仕組み、その背景にある途上国開発の理論、これまでの経済協力の成果や影響、近年の新たな課題と取組みを含む。これら基礎的な知識をもとに、日本が国際社会で果たす役割、一人ひとりがなし得ることについて、受講生は自分なりの意見や考えを持てるようになることが期待される。加えて「持続可能な開発目標（SDGs）」におけるパートナーシップの意義についても説明できるようにすることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
経営学部のディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP5」に関連が特に強く、「D4」に関連がかなりある。

【授業の進め方と方法】

国際経済協力論Ⅱにおいては、国際経済協力の取り組みにおいて近年注目を浴びているテーマについてより深く解説する。特に、誰が、なぜ経済協力を行うのか、経済協力の目的とされている「開発」とは一体何を意味するのか、という点を中心に各テーマにアプローチする。

必要に応じて映像教材を活用し、多くの学生にとってなじみのない開発途上国の人々の暮らしや問題について、言葉だけでは語りつくせないイメージを得る一助とする。

またリアクションペーパー（教員からの簡単な質問への回答と、学生からの質問やコメントを記入するもの）を配布、時間内に記入のうえ回収することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：国際経済協力論Ⅰの復習と国際経済協力をめぐる課題の俯瞰	春学期講義の簡単な概括とあわせ、秋学期にとりあげるテーマについて「持続可能な開発目標（SDGs）」とあわせて全体像を紹介する。
第 2 回	開発と文化：経済協力の目的を問い直す視点	開発の目標がいかに歴史的に形作られてきたかを知り、多様な文化／社会と開発の関係を概観する。
第 3 回	新たな主体による経済協力（1）NGO(NPO)と市民社会	近年、経済協力において主たるアクターとなっている NGO(NPO) の活動について概観する。
第 4 回	新たな主体による経済協力（2）民間企業	一般に営利を追求すると思われる民間企業が、経済協力の分野で行っている活動を紹介し、その背景を概観する。
第 5 回	開発とジェンダー／マイクロクレジットという試み	ノーベル平和賞を受賞したグラミン銀行（バングラデシュ）を事例に、開発とジェンダーの関係について概観する。
第 6 回	人間の安全保障と経済協力	近年注目される「人間の安全保障」という考え方を知り、国際社会による「人間の安全保障」実現に向けた行動を概観する。
第 7 回	紛争と平和構築：テロとの戦いと脆弱国家の復興支援	経済協力と紛争／平和の関係について、近年の新たな取り組みをもとに考える。
第 8 回	アフリカ（1）：アフリカの苦悩 激しい貧困と機能しない国家	アフリカ諸国とそこに暮らす人々がおかれている厳しい状況について概観する。
第 9 回	アフリカ（2）：アフリカに対して何ができるのか	これまでのアフリカ支援の評価と今後の課題について概観する。
第 10 回	フェア・トレード（1）：なぜ今、フェア・トレードが重要か？	フェア・トレードとよばれる取り組みがなぜ必要とされているのかについて理解する。
第 11 回	フェア・トレード（2）：フェア・トレードの試みとその評価	具体的なフェア・トレードの取り組みを紹介し、その課題や現状について概観する。

第 12 回	国際経済協力や開発による自然・社会環境への影響	開発による環境への影響はどのようなものか概観し、環境への影響を回避／最小限にするためにとられる対策について理解する。
第 13 回	地球環境問題と経済協力：気候変動（地球温暖化）を中心に	気候変動（地球温暖化）を事例に、国際社会における環境と開発のバランスの議論を概観する。
第 14 回	まとめ：持続可能な開発目標（SDGs）と支援、パートナーシップ	さまざまな国際協力の課題や現状を踏まえて、これからの支援やパートナーシップのあり方について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
受講生は各回に指定される参考文献および参考図書該当部分を、講義の事前／事後に適宜参照し、講義内容の理解を深めることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

斎藤文彦（2005 年）『国際開発論』（日本評論社）
勝間靖編著（2012 年）『テキスト国際開発論：貧困をなくすミレニアム開発目標へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）
牧田東一編著（2013 年）『国際協力のレッスン：地球市民の国際協力入門』（学陽書房）
外務省（毎年発行）『日本の国際協力』（ODA 白書）

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（20%）と期末試験（80%）による。リアクションペーパーは加点要素とする場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が記入したリアクションペーパーに対する、教員からのコメントなどの対応の充実を目指す。また、提供される情報が多いため、理解しやすい形でメリハリをつけることが求められているところ授業運営に引き続き留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義ではスライドを主に利用する。講義資料として配布したものやスライドなどは、授業支援システム上に掲示する。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力に携わっていた経験がある。本講義においては、途上国駐在も含めた経済協力実務で得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This is a second part of the course on economic cooperation for developing countries putting emphasis on Japanese Official Development Assistance (ODA). Students will be able to understand basic knowledge and background of economic cooperation for developing countries including contemporary topics in the international society regarding Sustainable Development Goals (SDGs).

SOC200HA

ファシリテーション論

鈴木 まり子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習システムでその都度掲示する。本授業の開始日は5月12日（火）とする。この授業は、オンラインビデオ会議システムZoomを使い双方向で行う予定である。授業開始日までを含めて、具体的なオンライン授業の方法は、学習支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方 オンライン授業は5月12日開始	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインでの参加型の場が求められる背景。ワークショップとファシリテーションとは。【演習】 チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】 場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】 場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】 プログラムデザインとプロセスについて。【演習】 広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】 ファシリテーターについて。 【事例紹介】 ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】 オリエンテーションの OARR とは。【演習】 アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】 アイスブレイクとは。【演習】 アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】 ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】 質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】 グラフィックとタイムキープとは【演習】 ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	7 回目に統合	7 回目に統合
12	8 回目に統合	8 回目に統合
13	9 回目に統合	9 回目に統合
14	10 回目に統合	10 回目に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】

「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）
「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェの会話が未来を創る～: アニータブラウン / デイビッド アイザックス ヒューマンリソース

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度とレポートによって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ファシリテーションの意義や効果に関して事例を知りたいという意見がありましたので、事例を多く取り上げる予定です。

【その他の重要事項】

◎オンラインでの演習を中心にした授業です。

◎ RSP 生は、本科目は履修不可。火曜 2 限のファシリテーション論を受講すること。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

SOS300HA

ローカルスタディーズⅡ

坂本 昭夫

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 6/Tue.6

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

悪化する海洋、地球環境。その原因をひとつずつ解析し、現状の問題点を洗い出し、未来へきれいで豊かな地球、海洋を残すためのアイデアを引き出したいと思います。

【到達目標】

例えば、海洋に漂う無数のマイクロプラ。そのプラが生物に対してどのように影響しているのか、また どのように我々に影響するのか。そして その結果 現在どうなっているのかを探りだします。海洋、ゴミ、プラスチック、可塑剤、農業等問題点を探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は主に、PPT を使用し、DVD 等を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	海洋環境概論	現状の海の状態を把握
2	東京湾における生物体系を知る	生物の状態、そして問題点を探ります
3	海洋ゴミ問題 1	現状の海洋ゴミに関し探ります
4	海洋ゴミ問題 2	3 に続き、海洋ゴミ問題に関し探ります。
5	震災ゴミ	2011 年東北震災における漂着ゴミに関し探ります。
6	プラスチック	プラスチックとは？を解析します。
7	マイクロプラスチック	5 mm 以下に小さくなったマイクロプラスチックの現状を探ります
8	海洋温暖化に伴う赤潮、青潮発生メカニズム	赤潮、青潮発生に関するメカニズムを探ります
9	アマモ移植	海藻、海草。その役目と海洋環境改善策とはを探ります 1
10	海洋ゴミ	海洋ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります
11	河川ゴミ	河川ゴミ問題を外部ゲストを交え探ります
12	ワカメ	海藻、海草。その役目と海洋環境改善策とはを探ります 2
13	農業	農業がどのように地球環境、生物環境等を破壊しているのかを探ります
14	総括	1～13 までの総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考書はありません。

【成績評価の方法と基準】

13 回目の講義終了時にレポート課題を発表し、最終講義 第 14 回にてレポートを回収します。成績評価はレポートのみ（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し

【学生が準備すべき機器他】

無し

【その他の重要事項】

無し

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当します。

【Outline and objectives】

We will consider different ways in which we can protect the ocean and the earth by identifying current problems and analyzing their causes.

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展、課題を学んで理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出して、今後の実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。できるだけ豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回アクションペーパーに記入し、授業の冒頭には前回のアクションペーパーを振り返って、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきことは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。
第 2 回	自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1	地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。
第 3 回	身近な景観と災害＝理科 2	事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW期間中に取り組む、地元土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで	日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。	第 12 回	市民防災・ボランティア	この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いに なったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ることで、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。
第 5 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後	日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。	第 13 回	災害と恵み・防災教育・ジオパーク	「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでも OK。
第 6 回	3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災とはなにか	東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。	第 14 回	めざすべき社会と災害＝授業のまとめおよび授業内レポート	
第 7 回	近年の風水害から、課題を考える	2019 年台風 15 号や 19 号、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートの提出を求める。さらに、この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。		
第 8 回	近年の地震災害から、課題を考える	2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。	【テキスト（教科書）】 授業では、PPT を使用する。その資料は、毎回、授業で縮小印刷して配布するとともに、授業支援システムに事後に掲載する。関連資料などもリストするので参考にして欲しい。		
第 9 回	近年の火山噴火災害から、課題を考える	登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。	【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。		
第 10 回	これからの大災害への備え	南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何かを考える。14 回目の授業内レポートのために必要な、「地域防災計画の課題発見」の課題を出す。	【成績評価の方法と基準】 平常評価（リアベで授業内容の理解を評価）40 %、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20 %、期末試験（最終講座内レポート）評価 40 %。どうしても出席ができなかった場合、資料を参考にしてリアベ代わりの授業レポートをメールで提出することで一定の評価対象とする。		
第 11 回	災害報道・災害情報	かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。	【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施する他、授業中の相互のディスカッションの時間をより多くしたい。毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。		
			【学生が準備すべき機器他】 最終授業の際には、スマホやネット環境を備えた PC の持ち込みは可能。		
			【関連の深いコース】 履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。		
			【実務経験のある教員による授業】 通信社記者として、1984 年の長野県西部地震や 1995 年の阪神大震災などを取材。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与。その後も、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組み、内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザーも務める。一方で、災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を 10 年以上担当している。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。		
			【Outline and objectives】 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster. 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree. 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.		

ファシリテーション論

鈴木 まり子

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習システムでその都度掲示する。本授業の開始日は5月12日（火）とする。この授業は、オンラインビデオ会議システムZoomを使い双方向で行う予定である。授業開始日までを含めて、具体的なオンライン授業の方法は、学習支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方 オンライン授業は5月12日開始	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインで参加型の場が求められる背景。ワークショップとファシリテーションとは。【演習】 チェット
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】 場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】 場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】 プログラムデザインとプロセスについて。【演習】 広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】 ファシリテーターについて。 【事例紹介】 ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】 オリエンテーションの OARR とは。【演習】 アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】 アイスブレイクとは。【演習】 アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】 ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】 質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】 グラフィックとタイムキープとは【演習】 ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	7 回目に統合	7 回目に統合
12	8 回目に統合	8 回目に統合
13	9 回目に統合	9 回目に統合
14	10 回目に統合	10 回目に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してみてください（楽しい、有意義、つまらないなど）本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】

「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）
「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバース 明石書店「ワールドカフェ」カフェの会話が未来を創る～: アニータブラウン/デイビッド アイザックス ヒューマンバリュー

【成績評価の方法と基準】

ファシリテーションの意義と効果に関して、事例をもっと知りたいという希望があったので、多様な事例を取り上げる予定です。
演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

就職活動やファシリテーターという職業に関して、もう少し具体的にイメージしたいという意見があったので、キャリアデザインという視点で、具体的な活動分野などを紹介していきます。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。履修希望者が多い場合は、第1回授業に出席した人を優先する可能性がありますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください。
◎受講希望者が多数となった場合は、受講者数を限定する可能性があるため、初回授業には必ず参加すること。
◎上記の通り受講者数を限定する際には、社会人学生（含む RSP 生）を優先的に受け入れる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みについて、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究事例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカ、サメ
第12回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性	生物多様性とは、レジリエンス
第14回	保全生態学	生態学を保全にどう生かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as organic evolution, wildlife and ecosystems in Japan.

DES300HA

自然環境政策論Ⅰ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の 2 点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という課題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第 2 回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第 3 回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第 4 回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第 5 回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第 6 回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第 7 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第 8 回	自然環境をめぐる難題：貴重種 2	種の保存法に関する事例、種の再導入
第 9 回	自然環境をめぐる難題：外来種 1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第 10 回	自然環境をめぐる難題：外来種 2	淡水における外来種問題など
第 11 回	日本の自然環境保全政策 1	鳥獣保護区、ワイルドライフマネジメント
第 12 回	日本の自然環境保全政策 2	自然公園、自然環境保全地域
第 13 回	自然の再生	自然再生とは、近自然河川工法、国内外の事例、グリーンインフラ
第 14 回	里山と生物多様性	里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

DES300HA

自然環境政策論Ⅱ

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。
法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国におけるユニークな保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水・森林と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント、生態学と環境計画
第5回	法によらない保全メカニズム	自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミューゼ、ドイツのビオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い、エコロジカルネットワーク
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約、生物多様性条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例
第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、生物多様性オフセット、自然資本
第13回	エコツーリズム	エコツーリズムとは、インタープリテーション、管理型観光と自主型観光、野生生物を生かした事例
第14回	地域資源の活用	自然の価値を高める経済的な循環事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

ENV300HA

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目指す。

- ・大気汚染（ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。

4 月 23 日 5 時限から Zoom 利用のオンラインで開始します。Zoom のアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいか、環境科学の役割
第 2 回	大気汚染・その 1（第 1 章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫黄酸化物
第 3 回	大気汚染・その 2（第 1 章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第 4 回	上水道（第 2 章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第 5 回	下水道と浄化槽（第 2 章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第 6 回	水質汚濁（第 3 章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第 7 回	工場排水と土壌汚染（第 3 章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第 8 回	悪臭（第 4 章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第 9 回	騒音（第 4 章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第 10 回	廃棄物・その 1（第 5 章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第 11 回	廃棄物・その 2（第 5 章）	産業廃棄物
第 12 回	リサイクル（第 5 章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第 13 回	有害物質とリスク、基準の決め方（第 6 章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第 14 回	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。

授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第 16 巻，第 1 号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basic engineering knowledge regarding mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances.

ENV300HA

環境科学Ⅱ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会
- ・越境大気汚染の原因と対策
- ・中国の資源と環境
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

法学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。テキストに記載していない事項については資料を配布します。配布資料は、原則として授業支援システムにアップします。講義の終わりに理解度をチェックするためのミニテストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、人口	国際環境政策の難しさ、人口増加のメカニズム、都市人口
第2回	オゾン層・その1（第7章）	紫外線、フロンガス
第3回	オゾン層・その2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第4回	気候変動・その1（第8章）	I P C C、二酸化炭素の温室効果
第5回	気候変動・その2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第6回	気候変動・その3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第7回	気候変動・その4（第8章）	緩和策
第8回	気候変動・その5（第8章）	適応策
第9回	越境汚染（第9章）	酸性雨の化学、光化学オキシダント、プラスチックごみ
第10回	中国の環境と資源・その1（第11章）	人口、食料と水資源
第11回	中国の環境と資源・その2（第11章）	エネルギー、公害、政策
第12回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第13回	環境国際協力	事例研究
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。

授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（10 %）と期末試験（90 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壤汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Environmental problems are physical, chemical and biological consequences and reactions on natural ecosystems caused by human activities. In order to understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is indispensable. In this lecture, students will learn the basics of science regarding mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone layer protection, acid rain and resource and environmental problems in China.

ENV300HA

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的な作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・ベースメタルとレアアース

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

4 月 25 日 1 時限から Zoom 利用のオンラインで開始します。Zoom のアドレスとパスワードは前日までに学習支援システムの「お知らせ」欄に示します。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第 2 回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第 3 回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第 4 回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第 5 回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第 6 回	エネルギー（3）	石炭、水力
第 7 回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第 8 回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第 9 回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第 10 回	リンと窒素	循環、機能、存在
第 11 回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第 12 回	遺伝資源	食料、医薬品
第 13 回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第 14 回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第 15 巻第 2 号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回、簡単な小テスト（方法は未定）を行い、その提出をもって出席とします。評価は小テスト 50 %、期末試験（期末試験が行えない場合にはレポート）50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関与しました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline and objectives】

Students will acquire basic knowledge about the meaning of resources, the scientific nature of resources and the prospect of utilization. Major items include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals.

DES300HA

自然環境論Ⅳ

中井 達郎

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は、自然環境に取り巻かれ、それを基盤にして生存し、生活しています。しかし、近年さまざまな原因により自然環境が劣化し、人間社会への悪影響が生じています。この授業では、そのような自然環境の劣化の現状を知り、その原因を考えます。さらには自然環境保全の必要性とそのための方策を考えます。そして自然環境保全のためには、生態学、地生態学などの自然科学のみならず人文・社会科学も含むさまざまなアプローチから、また身の回りの身近な地域レベルから地球規模までの幅広い視点から理解しようとすることの重要性を学び、人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の 4 点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①環境保全のための基本概念である生態系
- ②生物多様性保全とそのための方策
- ③地域レベルから地球規模レベルまでを関連づけて総合的とらえることの重要性
- ④持続可能な自然利用の重要性とそのための方策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生態系」、「社会変化と自然環境」、「生物多様性保全」、「地域での自然環境のとりえ方」、「持続可能な自然利用とそれを基本とした社会」などについて、国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより学びます。自然科学的視点と人文・社会科学的視点を含む総合的かつ論理的な理解とそれに基づいて、自然とのつきあい方を考える能力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「環境」とは？ 自然環境保全とは？	「環境」とは何かを整理、認識した上で、現代社会で大きな課題となっている環境問題、自然環境保全の内容とその根底に共通する「持続可能性」についての議論を行う。
第 2 回	生態系とは：循環と関係性	自然環境を理解し、また地球環境問題や公害問題も含む環境保全全般において重要な基本概念である「生態系」について解説する。
第 3 回	生物多様性 (biodiversity) とは？	自然環境保全において重要なキーワードである「生物多様性」について解説する。そして生物多様性を保全することが、自然環境保全に根幹にあることを示す。
第 4 回	生物種の多様性の危機	近代から現代にかけて、急速に進行する生物種の絶滅、それは生物多様性の危機である。その現状を解説する。
第 5 回	生態系の多様性・地域の多様性	生物多様性保全において、地域生態系の多様性を保全が極めて重要である。地域生態系の多様性を成立させている空間的、時間的背景を含めその保全の重要性を解説する。
第 6 回	人間と自然のかかわりから見た生態系の多様性・地域の多様性	地域の生態系の現状を把握し、その保全を図る上で、人間と自然のかかわりの状況から捉える視点が必要である。その重要性について解説する。
第 7 回	里やまと生物多様性（1） 里やまとは	近年、生物多様性保全の視点から注目されている「里やま」について解説する。
第 8 回	里やまと生物多様性（2） 人間活動が維持する生物多様性	「里やま」における伝統的自然利用とそれが生む生物多様性について紹介するとともに、持続可能な自然利用のありかたを考える。
第 9 回	都市の自然：自然環境・生物多様性の回復をめざして	すでに劣化してしまった都市の自然について、そのような場所における生物多様性の「回復」の必要性和活動の事例を紹介する。

第 10 回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全（1）：サンゴ礁の生物多様性	授業担当者の専門であるサンゴ礁の自然と人間のかかわりを紹介する。まず、サンゴ礁生態系の構造と生物多様性について解説する。
第 11 回	サンゴ礁に見る地球環境保全と生物多様性保全（2）：地球温暖化とサンゴ礁	現在世界各地のサンゴ礁は人為的インパクトによって劣化している。サンゴ礁保全を通じて、地域レベルの生物多様性保全の解決は地球規模の生物多様性保全・環境保全につながることを学ぶ。
第 12 回	人間にとっての生物多様性：なぜ自然環境保全が必要か？	これ以前の授業でも折に触れて言及する「人間にとっての生物多様性」の必要性について整理を行った上で、どのような保全が目指されているか、生物多様性条約などについて学ぶ。
第 13 回	生物多様性保全の方法としての地域計画	国立公園や世界自然遺産を含む自然保護区は、生物多様性保全のための地域計画といえる。その基本理念と実践例を概観する。
第 14 回	自然環境保全と持続可能な自然利用を基本とする社会にむかって	自然環境保全・生物多様性保全のゴールは、持続可能な自然利用を基本においた社会形成であると考ええる。それは現在関心が広がっている SDG s などが目指す社会変革と関連をしている。近年の議論と今後の展望について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃接するメディアや日常生活において、自然環境に関わる情報や科学的な話題などに関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

本講義は応用的内容を含みますので、基礎的な知識や理解として自然環境科学の基礎（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を併せて受講することを勧めます。また講義改善や理解促進の目的で、毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、日本を代表する自然保護団体である（公財）日本自然保護協会において 30 年以上にわたり、研究部長、理事、参与などとして、日本の自然保護問題に携わってきた。具体的には、日本で最初のレッド・データブックの作成、沖縄のサンゴ礁保全問題（白保・辺野古）、河川保護問題（長良川・千歳川）、小笠原問題など。その経験に基づき、授業を展開する。

【Outline and objectives】

Human beings are surrounded by the natural environment and our life is supported by its natural environment. However, due to various causes in recent years, the natural environment has deteriorated. And the environmental degradation has a bad influence on human society. In this class, we will learn the current situation of such natural environment degradation and reveal the cause. Furthermore, we discuss the necessity of natural environment conservation and measures for that. These discussions include social scientific approaches as well as natural scientific approaches. It also includes the spatial scale from the local level to the global level. Through such various perspectives, we aim to consider the desirable relationship between human beings and the natural environment.

ENV300HA

公害防止管理論 I

大岡 健三

配当年次／単位：1～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では水質汚濁防止の基本手法を学ぶ。湖沼、河川、海および地下水に関するさまざまな環境問題についても学び、メインの排水処理技術に加えて、環境法の実務知識もマスターする。企業経営や環境行政、海外活動で環境の知識は不可欠であるが、社会で役立つ実務知識を本講座で習得することができる。

公害防止管理者の国家資格を得るのに役立つ基礎知識の解説をするが、国家試験を受験しない文系学生も興味深く学ぶことができる授業内容とする。

授業では、水質汚濁メカニズムや水環境の保全策などを学び、物理化学・生物学的な排水処理技術のスキルを習得する。本講座の受講により、国家試験や民間の環境検定の受験に役立ち、企業や行政の環境担当者によって日常使用される BOD/COD など技術用語や環境管理の基本が理解できるようになる。

【到達目標】

新聞や TV などマスコミ報道でよく耳にする環境キーワードが十分理解でき、環境系学部卒にふさわしい水環境の原理原則をマスターする。環境汚染の実態および物理化学処理などの浄化処理技術を基礎から習得する。汚れた廃水が無色透明に浄化できるプロセスなど浄化手法の理解に加え、米国の環境科学の知見や汚染事故、海外情報なども学び、国際レベルで環境問題を思考できるレベルを目指す。

実社会で役立つ環境技術と法令の実務スキルの理解を深める。さらに、公害防止管理者国家試験（公害総論や水質概論など）や ECO 検定等の水環境に関する問題を解く訓練も時々行い、授業終了段階では環境の専門用語や基本概念を問う基本レベルの問題が解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回教材を配布してパワーポイントで説明する。必要に応じて映像を利用。各論では、講師が国内外で取材した産業公害の事例、有名企業の汚水処理の実際、有害物質規制の概要、汚染メカニズム、環境分析等を解説する。水質浄化技術を学ぶことによって水に関する環境保全手法を習得する。テーマは 1 回の授業でなるべく完結させるので、欠席しても次回授業がスムーズに理解できるようにする。難解かつ苦手なテーマは何度も説明して理解できるようにする。毎回学生のコメントや要望などを聞いて次回講義になるべく反映する。なお成績評価は、授業内に行う簡単な小テストと平常点で行う。【春学期の少なくとも前半はオンライン開講となる。授業計画の変更は、学習支援システムでその都度提示する。教材をアップするので授業開始日は 4 月 24 日を予定。】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講座全体の概要 地球温暖化と水環境、廃棄物問題、ベトナム、マレーシア、ネパール、ブルネイ及び米国・欧州の環境事情など	当講座の概要と授業方法について説明。国内外取材の映像などを見て、環境汚染、浄化対策及び公害防止の側面から評価分析する。
第 2 回	環境基本法と法体系、水質環境基準	環境基本法の概要を中心に関連法の体系、水質環境基準について解説する。公害防止者管理法等の各論についても触れる。
第 3 回	水質汚濁防止法と排水基準	水質汚濁防止法に関する概説と排水基準など企業が実際に遵守すべき法令の具体的解説。
第 4 回	日本の水質汚濁の現状と原因 主因は工場排水ではない	水質汚濁の現状を眺め、大気や土壌・廃棄物由来の水質汚濁はどのように起こるのか、事例を中心に検討。
第 5 回	水質汚濁の種類と発生メカニズム、地下水汚染とは何か？	水質汚濁には、生活上問題になる物質と健康に有害な物質がある。河川や地下水汚染の発生メカニズムを理解する。
第 6 回	物理化学的処理法 1 凝集沈殿	汚水処理計画及び工場排水を浄化するための凝集沈殿など物理化学的処理法をわかりやすく解説。
第 7 回	物理化学的処理法 2 浮上分離、ろ過など	工場排水を浄化するための傾斜板、浮上分離、ろ過などの原理を学ぶ。マイクロバブル手法など最新技術にも触れる。
第 8 回	化学的処理法、酸化還元、膜分離の基礎	化学処理法を学ぶ。pH 調整、酸化還元の原理、膜分離などの基本知識及び逆浸透 RO 等最新技術も解説。

第 9 回	生物処理法 1 概要と基礎	排水を浄化するためのエアレーション、好気性微生物を利用する生物処理法の基礎を学ぶ。
第 10 回	生物処理法 2、好気嫌気処理及び汚泥の脱水技術	好気性微生物と嫌気性微生物を利用する生物処理法を解説。各種処理法によって生じる余剰汚泥の脱水技術も学ぶ。
第 11 回	高度処理法、活性炭処理等	排水を浄化するための活性炭利用など高度な処理法および最新技術を応用した処理法について学ぶ。
第 12 回	処理装置の維持管理	物理化学的処理の維持管理。活性汚泥処理の維持管理など実務面の知識。
第 13 回	水質管理のパラメータと水質測定の基礎	BOD/COD,pH,DO 溶存酸素などの知識の整理。試料採取など水質測定の基礎。水質汚濁物質などの復習とまとめ。
第 14 回	環境法令など授業の復習と最終テスト	授業の要点復習および最終テスト実施（問題は主に簡単な選択問題）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
Web 公開されている公害防止管理者等国家試験の過去問を授業中に時々使用することがある。国家試験受験希望者は市販の書籍（産業環境管理協会発行）またはインターネット検索により自主的に予習復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、毎回プリントを配布

【参考書】

「新・公害防止の技術と法規 水質編」

「公害防止管理者等国家試験問題 正解とヒント 水質」

「図解公害防止管理者国家試験合格基礎講座」

上記 3 冊の発行所 （一社）産業環境管理協会

【成績評価の方法と基準】

授業終了後にリアクションペーパーを提出し、その記載内容を評価する（30%）。最終試験及び小テスト（70%）と合わせて総合点で判定する。60 点以上が合格。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の質問や意見を適宜提供してもらい可能な限り次回授業に反映させる。物理化学など理系の基礎知識や履修歴がない受講者も十分理解できるように授業を進める。

【その他の重要事項】

高校で物理や化学などの教育を受けていない文系学生を対象に授業をする。過去に経済・経営・法学など他学部の学生も多数受講している。

【関連の深いコース】

履修の手引き「7.3 専門科目およびコース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

講師は大規模な汚水処理事業所の責任者も経験しており、その経験と知識で複数の海外政府向けに環境教育をしている（JICA 専門派遣など）。そういった世界レベルのトピックスや教材も授業で利用する。

【Outline and objectives】

This course is designed to help you learn and understand the basic methods for water pollution control. You will also learn various environmental issues on surface water such as lakes, streams, and ocean as well as groundwater. In addition to wastewater treatment techniques (main subjects), lectures on environmental laws and regulations will be provided in this course.

You can learn practical environmental knowledge required for corporate management, environmental administration, and international activities, etc. The class will also provide introductory-level knowledge useful for acquiring National qualifications of Pollution Control Manager. By the end of the course students will learn the principal skills to clean up the wastewater chemically and biologically. By this course, you can gain useful knowledge for taking the national and private exams. Also you will understand a number of technical terms and concepts including BOD/COD, that are used by pollution control managers etc.

ECN400HA

研究会 A

武貞 稔彦

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 5/Fri.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年度は、「環境」がテーマです。持続可能な社会の構想には、「環境」という要素が欠かせません。開発途上国では経済成長や生活水準向上のために、環境に後戻りできない影響を与える開発が引き続き求められています。それらを単純に環境破壊だと指摘することは可能でしょうか。環境と経済や貧困削減の両立をどのように考えるべきか、先進国と途上国でそれらに違いはあるのか、そもそもなぜ環境を守る必要があるのか、といった問いについて考えていきます。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 将来の持続可能な社会の姿を想像・構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関するグループ調査とディスカッション、c) 参加者の意見表明の機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	基礎文献の輪読（1）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 3 回	基礎文献の輪読（2）	「環境」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 4 回	基礎文献の輪読（3）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 5 回	基礎文献の輪読（4）	「環境保全／保護」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 6 回	基礎文献の輪読（5）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 7 回	基礎文献の輪読（6）	「生物多様性」に関する基礎文献を読み、意見交換する。
第 8 回	グループディスカッション 課題 1-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 9 回	グループディスカッション 課題 1-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 10 回	グループディスカッション 課題 2-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 11 回	グループディスカッション 課題 2-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 12 回	グループディスカッション 課題 3-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる
第 13 回	グループディスカッション 課題 3-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 14 回	春学期のまとめ	春学期全体のまとめ、フィードバック。
第 15 回	春学期まとめと秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	グループディスカッション 課題 4-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 17 回	グループディスカッション 課題 4-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 18 回	グループディスカッション 課題 5-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 19 回	グループディスカッション 課題 5-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 20 回	グループディスカッション 課題 6-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 21 回	グループディスカッション 課題 6-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 22 回	グループディスカッション 課題 7-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 23 回	グループディスカッション 課題 7-2	グループ発表および全体ディスカッション

第 24 回	グループディスカッション 課題 8-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 25 回	グループディスカッション 課題 8-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 26 回	グループディスカッション 課題 9-1	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、意見をまとめる。
第 27 回	グループディスカッション 課題 9-2	グループ発表および全体ディスカッション
第 28 回	まとめ	年間の議論を総括するとともにこれまでの活動に関するフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（議論への積極的参加や貢献など）（70%）、期末レポート（30%）に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生同士のコミュニケーションのバリエーションを増やすことに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、調査、発表用のパソコン／タブレットなどを持参すること。

【関連の深いコース】

グローバル・サステイナビリティコース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

担当者は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、経済協力の実務を通じて得られた知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This year's seminar is on "(natural) environment." Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic idea on "conserving/protecting environment" and to nurture their values and attitudes towards an adequate balance of development and environment.

MAN400HA

研究会 A

長谷川 直哉

配当年度／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代企業論、ビジネスヒストリー、CSR 論Ⅰ・Ⅱで習得した知識をベースに、「良い企業、良い社会、良い働き方」とは何かという問いに対する回答を見出すため、企業と社会の関係性を学びます。SDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定、CSR（企業の社会的責任）、Business Ethics（企業倫理）等のテーマを中心に、サステイナブル社会における企業と社会の関係を学びます。

【到達目標】

SDGs や ESG 投資の視点から、社会変革をリードし持続可能な社会の構築に貢献できる企業について実証的アプローチによる研究を行い、4 年生は研究会修了論文、2・3 年生は日経ストックリーグレポートを作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、SDGs および ESG 投資に関する文献や論文を輪読し、論文作成に必要な知識を習得しディベート能力も涵養します。秋学期は複数のチームを編成し、日本経済新聞社が主催するストックリーグに参加します。日経ストックリーグでは SDGs への取り組み、財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの ESG 投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。さらに、その成果をレポートにまとめてコンテストにチャレンジします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・ストックリーグ ・卒業論文	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要 卒業論文の執筆スケジュール
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ 第 1 回テーマ報告	テーマの方向性について報告
第 7 回	ESG 投資文献購読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献購読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献購読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ 第 2 回テーマ報告	問題認識と分析手法の報告
第 11 回	ESG 投資文献購読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献購読①	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 13 回	財務分析文献購読②	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 14 回	財務分析文献購読③	担当者による報告と全体討議 チームの活動報告
第 15 回	ストックリーグ 第 3 回テーマ報告	ファンドテーマの決定 企業調査の方法・スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ グループ中間報告①	これまでの分析結果の報告
第 17 回	卒業論文中間報告①	卒論テーマ・論文構成の発表
第 18 回	ストックリーグ活動①	チーム活動の報告
第 19 回	ストックリーグ活動②	チーム活動の報告
第 20 回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 21 回	ストックリーグ中間報告②	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリング
第 24 回	ストックリーグ活動⑥	企業ヒアリング
第 25 回	ストックリーグ中間報告③	ポートフォリオの完成
第 26 回	卒業論文中間報告③	卒業論文の予備報告
第 27 回	ストックリーグ活動⑦	レポート作成

第 28 回 ストックリーグ活動⑧ レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミの発表資料や適宜紹介される文献・資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。企業の SDGs 活動、財務分析、企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本経営協会／長谷川直哉著『サステイナビリティ調査報告書』日本経営協会
長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年
長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年
長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年
長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステイナブル経営史』文真堂、2016 年
日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年
水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%) ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容
レポート (70%) 日経ストックリーグレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【関連の深いコース】

サステイナブル経済・経営コース、ローカル・サステイナビリティコース

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。
1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出向し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

This seminar focuses on themes such as SDGa (Sustainable Development Target), Paris Agreement, CSR (Corporate Social Responsibility), Business Ethics) and learns the relationship between companies and society in a sustainable society.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 3/Fri.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、地域の社会や経済との関わりの視点を中心に、国際的視点や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをととして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※サブゼミ学習のテーマ例：都市の緑地・水辺・生物・東京湾・生き物文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3：ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4：個人・グループ研究 1	事前学習

第 23 回	テーマ 4：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4：個人・グループ研究 6	発表と総括講義
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

ローカル・サステイナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from local perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

ECN400HA

研究会 B

武貞 稔彦, 竹本 研史

配当年度／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 5/Thu.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年度は、持続可能な社会を構想するうえで、不可欠な「制度」について考えます。たとえば途上国では、「学校での予防接種」のような「制度」が整備されていないために、子どもの健康が守られていないといったことが言われます。なぜ、「制度」というものがあるのか、わたしたちは「制度」に「生かされている」のか、「制度」を利用した「統治」とはどういうことか、といった問いについて考えていきます。

【到達目標】

本研究会では、(ア) 開発と環境保全をめぐる議論を広い視野から捉え、(イ) 自らの意見を持ちそれを人に伝え、(ウ) 途上国、先進国を問わず、将来の持続可能な社会の姿を自らの価値観に基づき想像／構想できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者の積極的な提案に基づき、演習の方法等は随時見直しを行います。主に a) 基礎文献の精読、b) 与えられた課題に関する個人またはグループによる調査とグループディスカッション、c) 参加者の意見表明やプレゼンテーションの機会、からなります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	メンバー間の自己紹介、研究会の進め方（予定）について概説する。
第 2 回	何が「問題」か？	「制度」に関する基礎文献を読み、何が「問題」なのかについて意見交換する。
第 3 回	誰にとって「問題」か？	「制度」に関する基礎文献を読み、誰にとって「問題」なのかについて意見交換する。
第 4 回	グループディスカッション課題 1（身近な制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、身近な制度について意見交換する。(1)
第 5 回	グループディスカッション課題 1（身近な制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、身近な制度について意見交換する。(2)
第 6 回	グループディスカッション課題 1（身近な制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、身近な制度について意見交換する。(3)
第 7 回	グループディスカッション課題 2（日本における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、日本における制度にかかる問題について意見交換する。(1)
第 8 回	グループディスカッション課題 2（日本における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、日本における制度にかかる問題について意見交換する。(2)
第 9 回	グループディスカッション課題 3（先進国における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における制度にかかる問題について意見交換する。(3)
第 10 回	グループディスカッション課題 3（先進国における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、日本以外の先進国における制度にかかる問題について意見交換する。(4)
第 11 回	グループディスカッション課題 4（途上国における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、途上国における制度にかかる問題について意見交換する。(1)
第 12 回	グループディスカッション課題 4（途上国における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、途上国における制度にかかる問題について意見交換する。(2)
第 13 回	グループディスカッション課題 4（途上国における制度）	「制度」に関する基礎文献を読み、途上国における制度にかかる問題について意見交換する。(3)
第 14 回	「制度」とは？「制度」が抱える／生み出す問題とは？	春学期の学びの総括を行う。
第 15 回	秋学期オリエンテーション	春学期の復習と秋学期のとり進め方について意見交換を行う。
第 16 回	「問題」を「解決する」とは？ (1)	「制度」、「統治」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(1)

第 17 回	「問題」を「解決する」とは？ (2)	「制度」、「統治」に関する基礎文献を読み、「問題」を「解決する」とはどういうことかについて意見交換する。(2)
第 18 回	「問題」の捉え方を学ぶ	「制度」、「統治」に関する基礎文献を読み、「問題」の捉え方－フレーミングについて学ぶ。
第 19 回	グループディスカッション課題 5（過去における制度）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 20 回	グループディスカッション課題 5（過去における制度）	グループ発表および全体ディスカッション。
第 21 回	グループディスカッション課題 6（現代における制度）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 22 回	グループディスカッション課題 6（現代における制度）	グループ発表および全体ディスカッション。
第 23 回	グループディスカッション課題 7（途上国における制度）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 24 回	グループディスカッション課題 7（途上国における制度）	グループ発表および全体ディスカッション。
第 25 回	グループディスカッション課題 8（途上国における制度）	ディスカッション課題についてグループ毎に議論し、更なる調査事項をまとめる。
第 26 回	グループディスカッション課題 8（途上国における制度）	グループ発表および全体ディスカッション。(1)
第 27 回	グループディスカッション課題 8（途上国における制度）	グループ発表および全体ディスカッション。フィードバックを含む。(2)
第 28 回	年間の学びの総括	「制度」について理解できた点、できなかった点を整理し、今後の学びや行動の計画を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。基礎文献、与えられた課題（英文含む）は必ず熟読して演習に臨むこと。関連して紹介された参考書も出来る限り目を通すこと。グループで積極的に集まり課題について議論する機会を設けること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定のテキストはありません。

【参考書】

研究会において紹介します。

【成績評価の方法と基準】

研究会での議論への貢献（70 %）、期末レポート（30 %）にて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過去には、ゼミ生同士のコミュニケーションをより頻繁に行いたいとの意見および、個人としての意見発表のスキル向上への配慮の要望があったことから、人数と時間の制約の中での議論の進め方について留意したい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当者（のうち 1 名）は、途上国への経済協力の実務に携わった経験がある。本研究会においては、貧困削減や格差是正のための支援の経験を通じて得られた「制度」や「統治」（「ガバナンス」）に関する知見が活用されている。

【Outline and objectives】

This year's seminar is on "institution." Students are expected to take part in group talk and various communications vigorously. Students will be able to understand basic concept and function of "institution" and to nurture their values and attitudes towards the society and institutions supporting/building our lives.

MAN400HA

研究会 B

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、企業価値とは何かをテーマに、SDGs、CSR、統合思考、ステュワードシップコード、コーポレートガバナンスコード、ESG 投資（責任投資）など企業活動の非財務情報の重要性に着目して、サステナブル社会で求められる企業像や企業価値について学びます。

【到達目標】

証券投資理論、SRI（社会的責任等）、ESG 投資の基本的知識を習得します。特定のテーマに沿って財務情報と非財務情報を使用した企業価値分析の実証的な取り組みを行ない、企業評価の基本知識とスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、CSR および Business Ethics に関する文献や論文を輪読し、ストックリーグに必要な知識を習得します。秋学期は、チームを編成しストックリーグに参加します。ストックリーグでは CSR 情報・財務データの分析や企業訪問によるヒアリング調査を行い、オリジナルの社会的責任投資ファンドを組成しバーチャルトレードを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス ・スケジュール ・ストックリーグ	ゼミの進め方 日経ストックリーグの概要
第 2 回	企業と社会に関する文献 講読①	担当者による報告と全体討議
第 3 回	企業と社会に関する文献 講読②	担当者による報告と全体討議
第 4 回	企業と社会に関する文献 講読③	担当者による報告と全体討議
第 5 回	企業と社会に関する文献 講読④	担当者による報告と全体討議
第 6 回	ストックリーグ テーマ報告< 1 >	テーマの方向性について報告と討議
第 7 回	ESG 投資文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 8 回	ESG 投資文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 9 回	ESG 投資文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 10 回	ストックリーグ テーマ報告< 2 >	問題認識と分析手法の報告と討議
第 11 回	ESG 投資文献講読④	担当者による報告と全体討議
第 12 回	財務分析文献講読①	担当者による報告と全体討議
第 13 回	財務分析文献講読②	担当者による報告と全体討議
第 14 回	財務分析文献講読③	担当者による報告と全体討議
第 15 回	ストックリーグ テーマ発表	ファンドテーマ決定企業の調査手法・ 調査スケジュールの報告
第 16 回	ストックリーグ中間報告 < 1 >	これまでの分析内容の報告と討議
第 17 回	ストックリーグ中間報告 < 2 >	これまでの分析内容の報告と討議
第 18 回	ストックリーグ活動① (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 19 回	ストックリーグ活動② (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 20 回	ストックリーグ活動③ (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 21 回	ストックリーグ中間報告 < 3 >	ユニバースの発表
第 22 回	ストックリーグ活動④ (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 23 回	ストックリーグ活動⑤ (企業訪問)	企業ヒアリングの報告と討議
第 24 回	ストックリーグ活動⑥レ ポート作成	チーム単位でレポート作成作業
第 25 回	ストックリーグ中間報告 < 4 >	ポートフォリオの発表と討議
第 26 回	ストックリーグ中間報告 < 5 >	ポートフォリオの発表と討議
第 27 回	ストックリーグ活動⑦レ ポート作成	チーム単位でレポート作成作業

第 28 回 ストックリーグ活動⑧レ チーム単位でレポート作成作業
ポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をして下さい。統合報告書やサステナブル報告書を読み、企業の SDGs 活動等に関する基礎知識を習得して下さい。企業に対するヒアリング調査を行うため、サブゼミや企業訪問を研究会の時間外に実施することが多くなります。また、夏季休暇中にゼミ合宿を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本経営協会／長谷川直哉『サステナビリティ調査報告書』日本経営協会、2019 年

長谷川直哉編著『企業家に学ぶ ESG 経営』文真堂、2019 年

長谷川直哉編著『統合思考と ESG 投資』文真堂、2018 年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017 年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016 年

日経エコロジー編『ESG 経営ケーススタディ 20』日経 BP 社、2017 年

水口剛『ESG 投資』日本経済新聞社、2017 年

谷本寛治『責任ある競争力ー CSR を問い直す』エヌティティ出版、2013 年

谷本寛治『SRI 社会的責任投資入門』日本経済新聞社、2003 年

【参考書】

必要に応じて随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）ゼミにおける報告内容および討議への貢献度、企業ヒアリングの取り組み内容

レポート（70%）日経ストックリーグレポート

【学生の意見等からの気づき】

参加者の自主的な取り組みを中心にゼミを行います。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてパソコンを使用します。

【実務経験のある教員による授業】

【実務経験】

損害保険会社の資産運用部門において、約 15 年投資業務を担当しました。1999 年、ESG 投資の先駆的な取り組みである SRI（社会責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業の ESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。また、(公財) 国際金融情報センターに出向し、カントリーリスクや国際金融システムに関する調査・研究に従事しました。

【関連資格】

証券アナリスト検定会員（CMA）

【Outline and objectives】

In this seminar we will learn the importance of non-financial information of corporate activities such as SDGs, CSR, integrated thinking, stewardship code, corporate governance code, ESG investment (responsible investment). In addition, we will discuss the corporate image and corporate value required in a sustainable society.

ENV400HA

研究会 A

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／ 4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然のもつ奥深い魅力を探求するとともに、生態系や野生生物の理解に基づいて、自然環境を取り巻く諸課題に対し望ましい在り方を考究することをテーマとします。その際、国際的視点や海外事例を中心に、加えて地域の社会経済や他の諸問題との関わりなど、様々なアプローチによって豊かな発想力を養います。研究会を通して多様な知識による基盤を作り、その上に各自の問題意識を組立て、修了論文を目指します。

【到達目標】

以下の 4 点を身に付けます。

- ①自然環境に関する幅広い知識・見識と柔軟な考え方
- ②設定課題について自らの意見を形成し、表明及び伝達する能力（プレゼンテーション／レポート能力）
- ③他者との議論を通して、異なる視点の意見を受け入れ合意を形成する能力（コミュニケーション能力）
- ④自ら課題を設定し、関連する情報を収集・分析し、体系的にまとめて考察する能力（論理的思考）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

生物多様性保全、生態系・野生生物と人間の社会経済との関係などをテーマに以下のことを実施します。

- ①グループワークをととして、設定課題について調査・考究し、成果を取りまとめます
- ②個人学習によって、設定課題について情報整理・企画立案し、成果を発表します
- ③野外学習／ゼミ合宿とサブゼミ学習を通じて、市民活動／企業とのコラボやフィールドに学び、企画力・実践力・分析力を養います（※サブゼミ学習のテーマ例：都市の緑地・水辺・生物・東京湾・生き物文化など）
- ④自らの研究テーマを設定し、情報収集と調査、分析と考察を重ね、最終的な修了論文作成につなげます

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	テーマ 1：グループ研究 1	事前学習
第 3 回	テーマ 1：グループ研究 2	グループ討議
第 4 回	テーマ 1：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 5 回	テーマ 1：グループ研究 4	グループ討議
第 6 回	テーマ 1：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 7 回	テーマ 1：グループ研究 6	発表と総括講義
第 8 回	テーマ 2：グループ研究 1	事前学習
第 9 回	テーマ 2：グループ研究 2	グループ討議
第 10 回	テーマ 2：グループ研究 3	グループ討議と中間発表
第 11 回	テーマ 2：グループ研究 4	グループ討議
第 12 回	テーマ 2：グループ研究 5	グループ討議とまとめ
第 13 回	テーマ 2：グループ研究 6	発表と総括講義
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	テーマ 3：ディベート 1	事前学習
第 17 回	テーマ 3：ディベート 2	グループ討議
第 18 回	テーマ 3：ディベート 3	ディベート第 1 回
第 19 回	テーマ 3：ディベート 4	グループ討議
第 20 回	テーマ 3：ディベート 5	ディベート第 2 回
第 21 回	テーマ 3：ディベート 6	発表とまとめ
第 22 回	テーマ 4：個人・グループ研究 1	事前学習

第 23 回	テーマ 4：個人・グループ研究 2	グループ内プレゼン
第 24 回	テーマ 4：個人・グループ研究 3	グループ討議
第 25 回	テーマ 4：個人・グループ研究 4	グループ討議と中間発表
第 26 回	テーマ 4：個人・グループ研究 5	グループ討議
第 27 回	テーマ 4：個人・グループ研究 6	発表と総括講義
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。設定課題に対して、事前調査、資料作成、発表準備などを行ってもらいます。また週末等に行う野外学習とサブゼミ活動に積極的に参加してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：課題の提出、議論への参加、学習意欲、グループワークやゼミ活動への貢献、野外学習やサブゼミ活動、自主的な取り組みなどを総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィールド学習、講義形式学習のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）」が未履修の学生は、当該科目を必ず履修してください。また、より理解を深めるため、「サイエンスカフェⅢ（生態学）」（春期）と「自然環境論Ⅳ」（秋期）の履修を推奨します。

【関連の深いコース】

グローバル・サステナビリティコース、環境サイエンスコース

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn the richness and diversity of nature and ecosystem services, and will explore ways to solve various problems between the humans and nature mainly from global perspectives, based on the understanding of ecosystems and wildlife.

MAN400HA

研究会 B

永野 秀雄

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。

【到達目標】

受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、現実にも用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取りたいと思います。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	英文契約書の背景（1）	国際契約書と英語等
第 2 回	英文契約書の背景（2）	仲裁、準拠法、国際裁判管轄等
第 3 回	契約書の英語（1）	接続詞、助動詞等
第 4 回	契約書の英語（2）	特殊な用語法（1）、小テスト
第 5 回	契約書の英語（3）	特殊な用語法（2）、小テスト
第 6 回	契約書の英語（4）	特殊な用語法（3）、小テスト
第 7 回	契約書の英語（5）	特殊な用語法（4）、小テスト
第 8 回	契約書の英語（6）	売買契約書（1）、小テスト
第 9 回	契約書の英語（7）	売買契約書（2）、小テスト
第 10 回	契約書の英語（8）	売買契約書（3）、小テスト
第 11 回	英文契約の読解（1）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 12 回	英文契約の読解（2）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 13 回	英文契約の読解（3）	実際の英文契約読解（班による発表）
第 14 回	英文契約の読解（4）	実際の英文契約読解（班による発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

宮野準治・飯泉恵美子著『英文契約書の基礎知識』（ジャパンタイムズ社、1997 年）、配布プリント。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績は、小テストの合計点（70 %）と班による発表評価（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

これからも、丁寧に英文契約の読み方を解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【実務経験のある教員による授業】

大学教員になる以前、企業の国際法務部で、英文契約及び関係する文書を英語で大量に起案してきたことから、読解の対象となる英文契約を説明するときに、なぜそのような表現になるのか、あるいは、自分であればもっと詳細に必要な事項を書き込むといった説明を行うことができる。

【Outline and objectives】

In this seminar, we will study for reading basic contracts written in English (based on Anglo-American law). English style and terms written in contracts are very unique. Students will learn basic contract terms and examples.

ENV400HA

研究会 B

高田 雅之

配当年次／単位：2～4 年／4 単位

開講セメスター：年間授業/Yearly | 曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

千代田区を学びの対象のひとつとしながら、都市全体を視野に入れ、以下のテーマに取り組みます。

- ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。
- ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考えます。
- ③環境教育・コミュニティ・企業活動・景観・維持管理など人間の果たす役割について探求します。
- ④認証制度・都市計画・グリーンインフラなどこれらに関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を提案します。

【到達目標】

本ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・生物多様性・計画・教育など様々な分野からのアプローチを試み、多面的知識と俯瞰的な視点から都市環境を考え、その実現をイメージできる実践的な思考力（コンサルタント力・デザイン力）を高めます。併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムである CES（千代田エコシステム）への貢献も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①グループ研究…半期に 2 テーマ程度を設定し、グループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定 → 情報収集 → 分析評価 → 伝達・発信」を通して課題への知識と理解を高めます。
- ②個人研究 1 …共通テーマを設定し、日替わり交代で短い発表を行い、それらを統合し俯瞰することでテーマの様相や課題を考えます。
- ③個人研究 2 …個々人の関心に応じた研究テーマを自由に設定して調査と意見交換を行い、到達目標に掲げた能力を高めていきます。
- ④フィールド研究…半期に数回程度、様々な取り組みの実際を学ぶ、グループで観察記録して評価する、環境教育に関わるイベント（神田児童館や千代田区主催の行事等を予定）に参加する等の活動を行います。
- ⑤実践提案まとめ…これらを積み重ね、組み合わせて持続可能な都市に向けた提言を取りまとめることを通して、俯瞰力・構想力・実践的思考力を高めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研究会の進め方
第 2 回	基礎学習 1（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 3 回	基礎学習 2（テーマ 1）	テーマ 1 に関する基礎知識の習得
第 4 回	基礎学習 3（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 5 回	基礎学習 4（テーマ 2）	テーマ 2 に関する基礎知識の習得
第 6 回	フィールド学習 1	現地調査 1
第 7 回	グループ研究 1	緑地に関するグループ討議
第 8 回	グループ研究 2	緑地に関するグループ討議・発表
第 9 回	グループ研究 3	水辺に関するグループ討議
第 10 回	グループ研究 4	水辺に関するグループ討議・発表
第 11 回	フィールド学習 2	現地調査 2
第 12 回	グループ研究 5	生物に関するグループ討議
第 13 回	グループ研究 6	生物に関するグループ討議・発表
第 14 回	春学期まとめ	総括講義と意見交換
第 15 回	ガイダンス	秋学期の研究会の進め方
第 16 回	グループ研究 7	認証と評価に関するグループ討議
第 17 回	グループ研究 8	認証と評価に関するグループ討議・発表
第 18 回	グループ研究 9	計画とデザインに関するグループ討議
第 19 回	グループ研究 10	計画とデザインに関するグループ討議・発表
第 20 回	フィールド学習 3	現地調査 3
第 21 回	個人研究 1	テーマ検討と意見交換
第 22 回	個人研究 2	研究構成の検討と意見交換
第 23 回	個人研究 3	研究のプッシュアップ
第 24 回	実践提案の検討	持続可能に都市に向けた提案の検討
第 25 回	実践提案のまとめ	持続可能に都市に向けた提案のまとめ
第 26 回	個人研究成果の発表 1	研究結果の発表と討論 1
第 27 回	個人研究成果の発表 2	研究結果の発表と討論 2
第 28 回	年間まとめ	総括講義と意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。
各自の研究に係る文献・資料収集、実地調査のほか、共同の活動としてゼミ
時間以外に、各種イベントの準備と実施、施設見学や現地調査等を実施しま
す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものは使用しません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100%）：活動参加、学習意欲、受講態度、グループワークや学内外
のイベント活動（環境展やエコプロなど）への貢献、ゼミ運営への率先と貢
献、提出物の内容と期日遵守等を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

過大な負担や知識の詰め込みにならないよう、個人学習、グループ学習、フィ
ールド学習、自主活動のバランスをとって、できる限り自発性と協調性を重視
しこれを促すよう学習していきます。

【その他の重要事項】

「自然環境政策論Ⅰ・Ⅱ」「サイエンスカフェⅢ」「自然環境論Ⅳ」などの関連
する講義科目の履修を推奨します。

【実務経験のある教員による授業】

公務員、独立行政法人、民間企業

【Outline and objectives】

In this course, students will learn practically the following themes
mainly for Chiyoda Ward as one of the study field with a view to the
entire urban area.

- ① The factors that compose urban nature, such as greenery, waterfront, and wildlife.
- ② The role and function of natural spaces that make up urban areas, such as street trees, parks, urban agriculture, rivers and coasts.
- ③ The role of human beings to urban nature, such as environmental education, activities at community, corporate activities, landscape creation and maintenance activities.
- ④ The mechanisms and systems that link urban nature, such as evaluation systems, urban planning and green infrastructure.

BSP100MA

ビジネスキャリア入門D

基幹科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・1 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が継続的に生存して活動を続けていくためには、市場で様々な競争にさらされ、生き残っていくあるいは成長していく必要があります。企業がどのように考え、どのように行動するかを理解することは、私たちが社会に出て、さらに企業のなかで働いていくうえで大変重要なことです。
本講義では、ビジネス社会での働き方、生き方を考えるために必要となる、企業戦略やその活動を理解するための初歩的な知識を学びます。

【到達目標】

本講義は、経営（特に経営戦略）を理解する上で必要となる基礎的知識を獲得することを目的とします。経営戦略に関連する多くのフレームワークを理解して、企業の様々な行動を分析する視点を持ってもらうことを目指します。受講者が①経営戦略に関する基本的な用語を説明できること②経営戦略に関する一般的な知識を習得し、企業の行動を理解し説明できること③企業行動、業界構造など実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めますが、受講者自身が何らかのワークを行うことがあります。受講者には経営（とくに経営戦略）の知識がないことを前提として、9 回の講義で大まかな企業の経営戦略の輪郭がわかるように進めます。9 回の講義のあと、4 回はビジネスの実際を理解するためにゲストによる講義にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション （キャリアデザイン学部 において経営を学ぶ意味 を考える）	キャリアにおいて、なぜ経済・経営を理解する必要があるのかについて考えます。
2	経営戦略とは何か、ドメインの定義	経営戦略とはどのようなことをいうのかを説明します。 企業が事業活動をおこなうにあたって、何を事業として展開していくべきかを考えます。
3	経営環境と経営資源	経営環境の分析手法について学びます。 経営資源を理解します。人、モノ、金、情報といった企業が経営していくうえで必要となる資源の説明を行います。
4	経営戦略を考えるワーク	強み弱み、機会と脅威を考慮した戦略分析手法である SWOT 分析について説明します。
5	経営資源の配分と戦略	どのような状況のときにどのような経営資源が重要となるかなどを考えます。 プロダクトポートフォリオについて説明します。
6	企業業績の決定要因	企業の努力だけで利益が決まるのか？それだけではないのか？という問題を考えます。 5 フォースによる産業の競争構造について説明します。
7	企業の成長戦略	企業を成長させるための方法について整理します。
8	製品ライフサイクル	ライフサイクルの視点で戦略を考えてみます。ステージ毎の戦略の違いを説明します。
9	市場地位別にみた戦略の違い	市場における立場によって有効な戦略は違うのかどうかを考えます。競争におけるシェアの重要性とリーダーの戦略について説明します。続けて、チャレンジャー、ニッチャーの戦略について説明します。
10	経営の実際、起業の実際 (1)	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。
11	経営の実際、起業の実際 (2)	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。
12	経営の実際、起業の実際 (3)	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。

13	経営の実際、起業の実際（4）	起業・経営に関わる社会人をお呼びして実際のビジネスを理解します。
14	試験・まとめと解説	ここまでの総括として試験を行います。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。企業がどのような活動をしているのか、企業が競争をするとはどういうことなのか？新しい製品はどのような意図をもって発売されているのか？など、身近なところから、物事を深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。ただし下記で指示した参考書に沿った内容で授業を進めます。

【参考書】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版（有斐閣アルマ）』2008、有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

①経営戦略に関する一般的知識、基本的用語を説明できるか、②企業の行動を十分理解し説明することができるか、③経営における経営戦略の役割を理解し、現実の企業を巡る現象を経営戦略理論に関連付けて説明することができるかを評価します。

定期試験 60%、授業時に行う小テスト 20%、レポート 20%の割合で評価します。

成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムへの講義資料のアップロードを事前に行います。学生の理解度を勘案しながら講義スピードを調整します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システムを使用します。

クリッカー、web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。授業はプロジェクトを使用します。

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業
スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた情報を組み込んだ授業を展開します。

【Outline and objectives】

Companies face various competition in the market. And in the competition companies are required to survive and grow. Therefore, understanding how companies think and how to behave is very important for us to go into society and work in companies.

In this lecture, you will learn the elementary knowledge to understand the company's strategy or activity, which is necessary to think about how to work in the business society and how to live.

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木 まり子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：火・6 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、ワークショップなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができるスキルを理解したうえで、実践できるようになります。また、演習を通して、対話や議論のスキルを身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習システムでその都度掲示する。本授業の開始日は5月12日（火）とする。この授業は、オンラインビデオ会議システム Zoom を使い双方向で行う予定である。授業開始日までを含めて、具体的なオンライン授業の方法は、学習支援システムで掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方 オンライン授業は5月12日開始	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】オンラインで参加型の場が求められる背景。ワークショップとファシリテーションとは。【演習】チェックイン
2	参加型の場をつくる3つの必須条件①事前準備のポイント「場づくり」	【講義】場づくり・場づくりの基本や空間のデザインについて。 【演習】場づくり体験
3	参加型の場をつくる3つの必須条件②事前準備のポイント「プログラム」	【講義】プログラムデザインとプロセスについて。【演習】広げる手法・収束する手法
4	参加型の場をつくる3つの必須条件③事前準備のポイント「ファシリテーター」	【講義】ファシリテーターについて。 【事例紹介】ファシリテーターの実践事例の紹介
5	ファシリテーターに求められる技術①オリエンテーション	【講義】オリエンテーションの OARR とは。【演習】アウトカムを考えるワーク
6	ファシリテーターに求められる技術②アイスブレイク	【講義】アイスブレイクとは。【演習】アイスブレイクの体験
7	ファシリテーターに求められる技術③傾聴と問いかけとグループサイズ	【講義】ファシリテーションにおける傾聴と問いかけとグループサイズとは。【演習】質問会議
8	ファシリテーターに求められる技術④グラフィックとタイムキープ	【講義】グラフィックとタイムキープとは【演習】ファシリテーショングラフィック
9	プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	【講義】プログラムデザインとは【演習】プログラムデザインを考えるワーク①
10	プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	7 回目に統合	7 回目に統合
12	8 回目に統合	8 回目に統合
13	9 回目に統合	9 回目に統合
14	10 回目に統合	10 回目に統合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を事前に配布します。授業では、テキストを予習していることを前提に進めます。

【参考書】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店「ワークショップ」中野民夫 新しい学びと創造の場 岩波書店（岩波新書）「ファシリテーション革命」中野民夫 岩波アクティブ新書「チームビルディング」堀公俊他 日本経済新聞出版社「ワークショップ入門」ロバート・チェンバーズ 明石書店「ワールドカフェ」カフェの会話が未来を創る～: アニータ ブラウン / デイビッド アイザックス ヒューマンバリュー「対話する力」中野民夫・堀公俊 日本経済新聞社出版社

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。

演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

ファシリテーションがそれぞれのキャリアデザインとつながっていくか、具体的な事例を取り上げていく予定です。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。オンラインで開催します。

◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline and objectives】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計） 基幹科目

林 奈生子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「仕事」と「お金」なしに人生を歩むことはできません。明確な仕事観があれば、長い職業人生において自身の望むキャリアを積み上げることができます。また、基本的なお金の知識があれば精神的にも物質的にも豊かな生活を送ることができます。しかし、現状では多くの学生が「仕事」と「お金」について学ぶことなく社会人になっていきます。本授業では、「仕事」と「お金」の基本知識を学び、自身の生活を設計することの重要性を理解しうえて、自らにふさわしい「生き方・働き方・人生の目標」を考えます。

【到達目標】

本授業では、「仕事」と「お金」の基本知識を学びます。「仕事」では、組織、チームワーク、コミュニケーション、求められる能力などを通して、働くことの意義について考え、自らの仕事観を持つことを目標にします。「お金」では、家計、予算、金利計算などを学び、リスクを考えながら金融商品を選ぶ知識を習得するとともに、お金と生活の関係を理解します。これらを通して生活設計の具体的な方法を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、グループワークや意見発表、ミニレポートの作成、最終課題の提出などにより、立体的・実践的に進めます。＊授業計画の回は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	まず、授業内容・進め方・授業中のルール、到達目標と成績評価基準、最終課題などについて説明する。次に、「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
2	ライフプランとファイナンシャルプランの関係	自身のライフプランを考え、生涯でいつ、どのようにお金が必要になるのかについて学ぶ。
3	家計分析	自身の家計について分析し、自身のお金の使い方の持ちようを知る。
4	予算の立て方	予算を立てることの意義と具体的な予算の立て方について学ぶ。
5	お金の基本知識	お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際のポイントを知る。
6	貯蓄型金融商品	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その持ちようと選び方を学ぶ。
7	リスクとリターン	リスク商品の基礎知識と活用方法を知る。
8	ポートフォリオの考え方	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法などについて学ぶ。
9	企業活動と消費者	企業活動と消費者の関係を整理し、「働くとは何か」「消費するとは何か」について考える。
10	仕事の選び方と生活設計	「組織・マネジメント・求められる人材」について学び、仕事をどのように選ぶべきかを考える。
11	組織とチームワークの特性	事例を通しチームワークの特性、リーダーシップのとり方を学ぶ。
12	社会人に求められるコミュニケーション能力	社会人に求められるコミュニケーション能力と自身の生活を豊かにするコミュニケーション技術について学ぶ。
13	自身のライフデザイン	前回までの授業を振り返り自身のライフプラン表を作成する。再度、最終課題について説明する。
14	まとめ～最終課題の提出	本授業全体の総括を行う。第13回で作成したライフプラン表をもとに、自身の将来設計と目標、行動計画についてのレポートを作成しライフプラン表とともに提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介します。

【参考書】

必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

配点は、グループワーク・ミニレポート60%、最終課題40%とします。
 ＊グループワーク・ミニレポートは受講生の習得状況により適宜実施します。
 ＊最終課題は次の2点を第14回にあわせて提出することです。
 ①ライフプラン表『自身のライフプラン』（第13回で作成）
 ②レポート『自身の将来設計と目標、行動計画』（第14回で作成）
 ＊従って、第13回で作成するライフプラン表『自身のライフプラン』を必ず第14回に持参してください。詳細は授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークでは、「自分の考え方とは違う考え方を聞くことで視野が広がった」「最初は不安だったが自分の意見を言うことができた」などの感想が寄せられた。引き続きグループワークや意見発表の場を設け、受講生の積極性・気づき・潜在能力の顕在化を促したいと考えています。

【その他の重要事項】

＜講師について＞

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline and objectives】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture will focus on the significance and importance of life design in this era, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. We discuss issues of corporate activities, job selection, teamwork, and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目
イ

梅崎 修

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：1～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

＜コロナ後、最新情報＞

緊急）4月23日開始の予定です（オリエンテーション）。授業支援システムに資料をアップする予定ですが、現在支援システムが混雑してアクセスできないよう状況です（現在（4月20日現在）。配布資料方式ですので、焦らずに。大丈夫です。

現時点の状況を考えますと、この授業は、当座は、基本的に「配布資料」になります。ゲスト講師をお呼びする予定は5月以降になっておりますが、現在だいたい方法を検討中です。ゲストの回は、人物紹介や人物紹介映像によって代替する可能性があります。

＜旧原稿＞

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第6回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第8回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種ゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第9回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第10回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第11回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第12回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第14回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）
阿川佐和子『聞く力 心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）
マルコ社『プロカウンセラーの聞く技術・話す技術』（サンクチュアリ出版）

【成績評価の方法と基準】

(旧) 授業への参加度 (50 %) と最終講義日に提出するレポート (50 %) で評価する。
(新) <コロナ後、最新情報>
一番大事なのは、レポート提出 (全 1 回) です。他、数回、出席に代わりに「ワーク提出 (数回)」をしてもらいます。
ただし、5 月以降、ゲスト講師参加も可能かもしれません。
どちらにしても、「レポート提出」+「出席 or ワーク作業」で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PC の持ち込みは可能

【その他の重要事項】

担当教員は民間企業に勤務しており、人事歴 10 年に加え、広報・ブランディング 7 年、現在も同企業で教育機関や企業への研修や組織コンサルタントに従事している。これに関連して、学生に様々なキャリアの可能性を示唆する授業を行う。

【Outline and objectives】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.
Making an image of your career is an effective way to career design.
In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).
From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ 展開科目
(ケーススタディ)

宮脇 優子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を研究（学習）することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。
まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項－その独自性や起源・発展の経緯、現代社会においてキャリアカウンセリングが求められている背景・ニーズを学ぶ。
次に、キャリアカウンセラーに求められる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。その上で、様々なケース研究に取り組み、実践への知見を深めることとする。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの基礎的な事項について理解できる
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して
- ①現代社会の様相、特に働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへの社会的ニーズを理解できる
- ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義とグループワークを主体とした授業形式をとる。
ケーススタディ（事例検討）は、グループでの意見交換や討議及び発表が中心となる。
授業終了後にコメントシートの提出を求め、次週の授業において感想・質問について応じるといった 2 WAY コミュニケーションをはかりながら進める。なお、心理アセスメントの活用の講では、実際にアセスメントツール（キャリア・インサイト）の体験を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	起源から見るキャリアカウンセリングの特質	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	社会経済・雇用環境の変化、社会のニーズとキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化にともない、なぜキャリア支援が必要とされているのか。支援者であるキャリアカウンセラー（キャリアコンサルタント）への期待、果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）、要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的な展開／ケーススタディ①	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な展開方法について学ぶ。そのことをふまえてケースを読んでみる。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	「キャリア支援のニーズが高いケース」～キャリア支援ニーズの高いケースの援助を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	「キャリアチェンジを伴う転職がしたい」～「キャリアチェンジ」について考える。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ④	「職場の人間関係に悩むケース」～職場の人間関係問題へのアプローチ、心理学理論を応用した援助を学ぶ。
第 9 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑤	「子育てしながら再び働きたい」～子育てしながら働く女性への援助を考える。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの活用	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの効果的な活用方法を学ぶ。(キャリア・インサイトの実施)
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	「メンタルヘルス不調からの脱出」～心理アセスメントを活用した援助の実際、ストレス理論に基づいた見立て方について学ぶ。

第 12 回	キャリアカウンセリング のケーススタディ⑦	「組織の問題に悩む管理職」 ～個と組織を活かすキャリアカウンセ リングを考える。
第 13 回	キャリアカウンセリング のケーススタディ⑧	「過重労働から職場不適応に陥った ケース」 ～「職場不適応」とは何か、その援助 方法について学ぶ。 これまでの授業の振り返りとまとめ
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に設定された課題について小レポートを作成し、提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「働く人へのキャリア支援～働く人の悩みに応える 27 のヒント」
宮脇優子編著 金剛出版

【参考書】

「キャリアカウンセリング入門 人と仕事の橋渡し」

渡辺三枝子＋ E.L. ハー著 ナカニシヤ出版

「キャリアカウンセリング」宮城まり子著 駿河台出版社

「キャリア・コンサルティング 理論と実際（三訂版）」木村周著 一般社団
法人「雇用問題研究会」

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み姿勢、グループワーク・発表への参加度） 40%

小レポート課題 10%

期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企
業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動を開始し、現
在に至っている。キャリアカウンセラーとしての 17 年の経験で支援してきた人
は 4,000 人を超える。

これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心
理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で
紹介しながら進めていきたい。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to understand the importance and methods
of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling, i.e.
its history and the reason why career counseling is required in today's
society.

The second phase will focus on the requirements for being a career
counselor and the counseling procedures as well as the psychological
assessment and the application of psychological theories in this field.

Lastly, we will examine its practical usage by looking into various cases.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即
しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するた
めに必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にパワーポイントを用いた講義形式で進める。テーマ
によって適宜事例研究、グループディスカッションなどを取り入れ
る。リアクションペーパー、レポートの提出を求める場合があり、提
出回の次の授業の冒頭で求められる観点や重要な点について解説を
おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）
の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目 標、授業時間内の学習など）、学 校における教育相談の意義と課題 を知る。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、 この時期に発生しやすい問題や課 題について学び、教育相談との関 係について考える。
第 3 回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期 に発生しやすい問題や課題につい て学び、教育相談との関係につい て考える。
第 4 回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期 に発生しやすい問題や課題につい て学び、教育相談との関係につい て考える。
第 5 回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心 理学の基礎的な理論・概念、カウ ンセリングの基礎について学ぶ。
第 6 回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、 受容・傾聴・共感的理解等のカウ ンセリングの基礎的な姿勢や技法 について学ぶ。
第 7 回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め 方について学び、学校教育におけ るカウンセリングマインドや組織 的対応の必要性を理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学 び、事例等を通して、問題や課題 に応じた教育相談の進め方につい て考える。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例 等を通して、問題に応じた教育相 談の進め方について考える。

第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談 試験	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。 第1回から第12回までの授業内容を範囲として試験を実施する。
第14回	外部機関との連携 試験の振り返り	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。 前回実施した試験内容の振り返りをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第1回「ガイダンス」

事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。

事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめる。

・第2回「幼児期、児童期の発達」

事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめる。

・第3回「青年期の発達」

事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめる。

・第4回「成人期の発達」

事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめる。

・第5回「カウンセリングの基礎」

事前学習（2時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめる。

・第6回「カウンセリングの技法」

事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめる。

・第7回「教育相談の進め方」

事前学習（2時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめる。

・第8回「不登校に関する相談」

事前学習（2時間）不登校の現状について、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。

・第9回「いじめに関する相談」

事前学習（2時間）いじめの現状について、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。

・第10回「非行に関する相談」

事前学習（2時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。

・第11回「発達障害に関する相談」

事前学習（2時間）発達障害について、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめる。

・第12回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。

・第13回「虐待に関する相談、試験」

事前学習（2時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。これまでの授業を振り返り、復習しておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめる。試験内容を振り返り、不十分であったところを復習しておく。

・第14回「外部機関との連携、試験の振り返り」

事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web 閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房

文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

試験（50％）、積極的参加：リアクションペーパー、ディスカッション等（50％）にて評価

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期
曜日・時限：土・1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学校における教育相談の意義と理論を学ぶ。具体的には、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）を身につけ、教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携における基本的な考え方を理解することを目指す。

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎時間、ワークシートを配布します。ワークシートは授業内に完成して提出します。講義の他、文献講読、ペアワーク、グループワーク、授業内での発表など、さまざまな授業形態を用いて主体的に学べるようにします。

1. 【教育相談の意義及び理論】（第 1 回～第 4 回）

・学校における教育相談の意義及び課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論及び概念

2. 【教育相談の方法】（第 5 回～第 6 回）

・学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性、教育相談を進める際に必要な基礎的知識

3. 【教育相談の展開】（第 7 回～第 14 回）

・幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味

・教育相談の具体的な進め方やそのポイント及び組織的な取り組み並びに連携

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。教育相談の定義を説明し、学校場面における教育相談の意義及び課題を理解する。
第 2 回	幼児期、児童期の発達	幼児期及び児童期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 3 回	青年期の発達	青年期における身体、思考、対人関係の発達などを扱う。
第 4 回	成人期の発達	成人期における発達課題、心身の変化、親子関係の変化を扱う。
第 5 回	カウンセリングの基礎	相談場面における受容、傾聴及び共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢並びに技法を紹介する。
第 6 回	カウンセリングの技法	児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を扱う。進路選択に資する各種の機会の提供のあり方について考える。
第 7 回	教育相談の進め方	様々な問題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を紹介し、理解する。
第 8 回	非行に関する相談	非行が見られ学校が荒れる過程とその収束過程を、事例も見ながら理解する。教育相談の計画の作成及び必要な校内体制の整備等、組織的な取り組みの必要性を理解する。
第 9 回	いじめに関する相談	いじめの発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 10 回	不登校に関する相談	不登校の発生・継続の要因について、事例も交え紹介する。
第 11 回	虐待に関する相談	虐待を扱った調査や事例などを紹介し、背景や実態について理解する。
第 12 回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりについて、どのような相談希求があり、どのような支援体制があるのか理解する。
第 13 回	発達障害に関する相談	自閉スペクトラム症、限局性学習症、注意欠如・多動症について説明する。
第 14 回	外部機関との連携	地域の医療、福祉及び心理等の専門機関と学校との連携の例を紹介し、その意義並びに必要性を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に文献を読む、また授業中に取り組んだワークシートを用いて復習する必要がある場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

会沢信彦・安齊順子編著 2017 【改訂版】教師のたまごのための教育相談 北樹出版
1900 円＋税

【参考書】

文部科学省 『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

試験（40 %）、積極的参加（60 %）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新開設のため、授業改善アンケートの結果はありません。担当している他の科目において、さまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気です」が授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、本授業でも取り入れていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

授業者は、小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で高校の心理職を兼務しており、関連して、本授業では事例的トピックも取り上げ、可能な限り具体的な対応についても検討します。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育相談

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期
曜日・時限：月・4 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・学校における教育相談の意義と理論
- ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄等）
- ・教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携

【到達目標】

教育相談を進めるにあたり、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月11日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要（授業の進め方、目標、授業時間内の学習など）、学校における教育相談の意義と課題を知る。
第2回	幼児期、児童期の発達	幼児期、児童期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第3回	青年期の発達	青年期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第4回	成人期の発達	成人期の発達のあり方、この時期に発生しやすい問題や課題について学び、教育相談との関係について考える。
第5回	カウンセリングの基礎	学校における教育相談に必要な心理学の基礎的な理論・概念、カウンセリングの基礎について学ぶ。
第6回	カウンセリングの技法	教育相談をおこなう上で必要な、受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法について学ぶ。
第7回	教育相談の進め方	教育現場における教育相談の進め方について学び、学校教育におけるカウンセリングマインドや組織的対応の必要性を理解する。
第8回	非行に関する相談	非行の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第9回	いじめに関する相談	いじめの現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第10回	不登校に関する相談	不登校の現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第11回	発達障害に関する相談	発達障害のあり方と課題について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第12回	ひきこもりに関する相談	ひきこもりの現状とあり方について学び、事例等を通して、問題や課題に応じた教育相談の進め方について考える。
第13回	虐待に関する相談	虐待の現状について学び、事例等を通して、問題に応じた教育相談の進め方について考える。
第14回	外部機関との連携	医療・福祉・心理等の専門機関について学び、教育相談における外部機関との連携の意義や必要性について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・第1回「ガイダンス」事前学習（2時間）シラバスに書かれた内容を理解し、科目の概要をおおよそ把握しておく。

事後学習（2時間）授業内容を振り返り、学校における教育相談の意義と課題についてまとめておく。

・第2回「幼児期、児童期の発達」

事前学習（2時間）児童期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、児童期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第3回「青年期の発達」

事前学習（2時間）青年期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、青年期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第4回「成人期の発達」

事前学習（2時間）成人期の心理、発達について参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、成人期における問題と教育相談についてまとめておく。

・第5回「カウンセリングの基礎」

事前学習（2時間）カウンセリングについて、参考書や関連書籍で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、カウンセリングの基礎となる理論についてまとめておく。

・第6回「カウンセリングの技法」

事前学習（2時間）カウンセリングの技法について参考書、関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）教育相談の際に必要なカウンセリングの技法についてまとめておく。

・第7回「教育相談の進め方」

事前学習（2時間）教育相談の進め方について、参考書や関連書籍等で調べておく。

事後学習（2時間）学校において必要となるカウンセリングマインドについてまとめておく。

・第8回「不登校に関する相談」

事前学習（2時間）不登校の現状について、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、不登校の問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第9回「いじめに関する相談」

事前学習（2時間）いじめの現状について、文部科学省のHP等で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、いじめの問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第10回「非行に関する相談」

事前学習（2時間）非行の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、非行の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第11回「発達障害に関する相談」

事前学習（2時間）発達障害について、厚生労働省HP「発達障害の理解のために」を閲覧し、調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、発達障害の問題や課題に対応する教育相談のあり方についてまとめておく。

・第12回「ひきこもりに関する相談」

事前学習（2時間）ひきこもりの現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、ひきこもりの問題や課題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第13回「虐待に関する相談」

事前学習（2時間）虐待の現状について、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、虐待の問題に応じた教育相談のあり方についてまとめておく。

・第14回「外部機関との連携」

事前学習（2時間）学校以外の諸機関の子供・若者支援について、内閣府の「子供・若者白書」（Web閲覧可）で調べておく。

事後学習（2時間）授業を振り返り、教育相談における外部機関との連携の意義やあり方についてまとめておく。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

春日井敏之ら（編）2011『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房
文部科学省 2010『生徒指導提要』教育図書
文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。小テスト（30％）、課題およびレポート（70％）とする。小テスト、課題、レポートはオンラインでの開講期間においては「学習支援システム」上でおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育の支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic knowledge on educational counseling and organizational approach.

PSY200MA

教育心理学

展開科目

遠藤 裕子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：土・1 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程、外的及び内的要因の相互作用
- ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達
- ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論
- ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方
- ・主体的な学習活動を支える指導の基礎

【到達目標】

- ・幼児、児童及び生徒の心身の発達過程並びに特徴を理解する。
- ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業開始日は 4 月 25 日（土）8 時 50 分から
すでに、Hoppii に「教材」を 3 点入れてあります。その中に「講義通信 No.1」がありますので、よく読んで、「どの授業形態で参加するか」回答を指定されたメアドに送ってください。「課題」も 1 点入れてあります。
（対面の授業の場合）※オンライン授業の場合でも準じてできる範囲で行います。
毎時間、ワークシートを配布します。ワークシートは授業内に完成して提出します。講義の他、文献講読、ペアワーク、グループディスカッション、授業内での発表など、さまざまな授業形態を体験することで、主体的に学べるようにします。
授業回数が 12 回になったため、11 回と 12 回、13 回と 14 回は、それぞれ 1 回分の授業の中で取り扱うこととします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、評価の仕方について説明します。自分自身が 14 回の授業で学ぶことを確認します。
第 2 回	教育における発達理解の意義	教育において「発達過程を理解すること」の意義を理解し、発達の基礎概念について学びます。
第 3 回	対人関係の発達	乳幼児から青年期にかけての子ども・青年を取りまくさまざまな対人関係、社会性の発達について学びます。
第 4 回	認知の発達	ピアジェの理論を参照しながら、人の認知発達について学びます。認知発達の過程を通して、幼児期から児童・青年期それぞれに対する教育的関わりについて学びます。
第 5 回	アイデンティティ	エリクソンの理論を中心に、生涯発達と発達の危機、特に青年期の発達課題について学びます。
第 6 回	学習の理論	条件づけなどの学習に関する基礎的な理論について学びます。
第 7 回	学習の指導	さまざまな教授法や学習方略について学びます。
第 8 回	動機づけ	主体的な学習を支える動機づけや学習を効果的に進めるための集団づくりについて学びます。
第 9 回	学習の評価	学習の成果を評価することの意義や役割について学び、特に学校教育の中で「児童・生徒を評価すること」との関連を考えます。
第 10 回	記憶の種類	記憶についての心理学的な理論を学び、記憶の仕組みを理解します。また、記憶と日常生活の関わりについて考えます。
第 11 回	性格の理解	「個性」というものをとらえるために、人格・性格や知的な能力についていくつかの心理学的な理論を学びます。
第 12 回	性格の様々な測定方法	心理学で使われる諸検査を紹介し、さまざまな測定や検査を学ぶことで「人の個性を理解する」ということについて考えます。

第 13 回	発達障害の理解	発達障害について正しく学び、理解を深めます。
第 14 回	発達障害の支援・指導	発達障害をかかえる児童・生徒への支援や指導などについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題などは授業内で完結することを基本としますが、事前に文献を読むことや授業内で取り組んだワークシートを用いての復習が必要になる場合があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

子安増生ら 2015『教育心理学 第 3 版（ベーシック現代心理学 6）』有斐閣 2100 円＋税

【参考書】

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（最新版）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（30 %）、毎時間配布するワークシート提出・授業への積極的参加（70 %）で評価

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、すべての項目で概ね良い評価を得ました。特にさまざまな授業形態を取り入れたことについて、「学びやすかった」「よい雰囲気」で授業が進められていた」「自分の授業で取り入れてみたい」などの記述が複数ありましたので、継続していきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマホなど、機器は何でもよいので、ネット環境を整えておいてください。

【その他の重要事項】

小学校から大学院まで、すべての校種での教職経験があります。また、現職で高校の心理職を兼務しており、本授業では関連した事例を取り上げ、具体的な場面から学ぶ機会にもします。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mental and physical development of children, learning theory and educational evaluation.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピューター、インターネットを使用しながら講義と演習、実習を組み合わせで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス コンピュータと IT 機器の基礎	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。 コンピュータの歴史や種類などについて学びます
2	コンピュータの構成	・ハードウェアの構成、周辺機器の基礎について、実際に触れながら学びます。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネットワーク ・LAN,WAN,WI-FI について
4	インターネットの基礎	・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS について学びます。
5	データベース	データベースの概要と RDBMS について
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館システムについて、演習しながら学習します。
7	図書館業務と関連する各種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バーコード、RFID などの関連する機器類について
8	各種メディアの特徴と保存	図書館で扱う旧来からのアナログメディア、現在のデジタルメディアについて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学びます。
12	情報セキュリティとシステムの保守	・情報セキュリティの基礎 ・図書館における情報セキュリティ対策 ・組織及び職員の情報セキュリティ ・サーバ管理と保守
13	学校図書館の現状	学校図書館における ICT 活用の現状について
14	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田中 均. 図書館情報技術論. 青弓社, 2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % レポート課題 20% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

実際の機器類に触れる時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。

情報実習室で授業を行う関係上、人数超過の場合は抽選となります。必ず初回の授業には出席してください。初回授業に出席しない場合は、履修を認めません。

授業は出席するだけでなく、演習等への積極的な参加も求めます。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

FRI200MA

図書館情報学概論Ⅱ

展開科目

丹 一信

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：金・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 月 19 日付で修正しています。学習支援システムも熟読してください。

図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するための科目です。

コンピュータの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、インターネット、情報社会論等について学習します。単に講義を聴講するだけでは、この科目を学習することにはなりません。常に演習を行いながら、実践的に学びます。

【到達目標】

図書館にかかわる情報技術の基礎的知識を理解するとともに、コンピュータを使った演習を通して、図書館情報に関する基本的な技術を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

コンピューター、インターネットを使用しながら講義と自宅での演習で進めます。

初回授業はガイダンスを中心に、4 月 25 日配信予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業について概説し、使用する機器やサイトについて説明する。
2	コンピュータと IT 機器の基礎 コンピュータの構成	・コンピュータの歴史や種類などについて学びます ・ハードウェアの構成、周辺機器の基礎について、実際に触れながら学びます。
3	ネットワークの基礎	・図書館に関わるコンピュータネットワーク
4	インターネットの基礎	・LAN,WAN,WI-FI について ・インターネットの歴史や技術 ・サーチエンジン ・Web、SEO、CSS
5	データベース	について データベースの概要と RDBMS について
6	図書館システム	現代の図書館業務を支える図書館システムについて、演習しながら学習します。
7	図書館業務と関連する各種の機器類	入退館システム、自動貸出機、バーコード、RFID などの関連する機器類について
8	各種メディアの特徴と保存	図書館で扱う旧来からのアナログメディア、現在のデジタルメディアについて実物を交えながら学習します。
9	デジタルアーカイブの構築と電子資料	・デジタルアーカイブの概要 ・デジタルアーカイブの作成技法 ・電子書籍などを学習します。
10	図書館の広報活動と情報発信の基礎	・図書館のウェブサイト構築の事情 ・ウェブと SNS などによる広報 ・ユニバーサルデザインについて
11	情報技術と利用者サービス	デジタルレファレンスサービス、SDI サービス、E-ラーニングなどの ICT を活用した利用者サービスについて学びます。
12	最新の情報技術と図書館	図書館業務の効率化や、新しい図書館サービスにつながる最新技術について学びます。
13	。	。
14	。	。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は演習を伴う場合も多いため、必ず次週分のテキストを閲読して、備える必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1. 田中 均. 図書館情報技術論. 青弓社, 2019, 177pp.
ISBN 9784787200709

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

Web 小テスト 30% 期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

実際の機器類の動画を見る時間を増やし、理解を促します。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で授業を行います。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。

図書館においてシステム管理官としての業務経験をもとに、図書館の実務で使われている技術、またその運用手法について具体的に解説します。抽選は行わない予定です。

学生の情報環境が整ってから、双方向の授業を目指します。

【Outline and objectives】

In this subject, we will learn the information technology necessary for library work.

In the lesson, you will learn about the fundamentals of computers, library operation systems, databases, search engines, electronic materials, the Internet, information sociology theory and so on.

ECN200MA

産業論

展開科目

青木 成樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：金・2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。

①我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる

②我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる

③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる

④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる

⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 2 回（第 1 回～第 2 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 3 回～第 5 回）では、パソコンを利用し、世界的な分析ツールである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 6 回（第 6 回～第 11 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 2 回（第 12 回～第 13 回）は、イノベーションについて学び、最後（第 14 回）に全体のまとめを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観し、同時に最近の変化や国の Society5.0 について学ぶ。
2	少子高齢化とグローバル化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、少子高齢化、グローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
3	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables）について学ぶ。
4	産業連関表から見た我が国及び地域の産業構造	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」を用いて、我が国及び地域経済の産業構造の特徴を定量的に学ぶ。
5	経済波及効果分析	経済波及効果の意味を把握し、産業連関表を用いて、観光客の誘致、イベントの開催、工場等の誘致が地域経済に与える経済波及効果について具体的に学ぶ。
6	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
7	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
8	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
9	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。

10	主要産業の動向（情報関連産業）	我が国の 20 世紀から 21 世紀にかけての成長産業である情報関連（IT）産業の動向、とりわけ、成長産業として発展した要因について学ぶ。
11	主要産業の動向（健康関連産業）	今後期待される成長産業として健康関連産業の動向について学ぶ。健康関連産業は、医薬品、介護、医療サービス等多様であるが、今年度は医療機器産業を中心に学ぶ。
12	イノベーション	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型、具体的な事例について学ぶ。
13	中小企業、ベンチャー企業	イノベーションの推進の主体として、大手企業に加え特徴ある中小企業群やベンチャー企業について具体的事例について学ぶ。
14	まとめ	我が国の産業の特徴について、マクロとミクロの観点から振り返り、重要なポイントを学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を効果的に学ぶためには、以下の 2 つについて、事前に学んでいることが望まれる。

- ① 経済学の基礎（ミクロ経済学とマクロ経済学の概要）
 - ② Excel の基本操作（第 3 回～第 5 回で学ぶ産業連関分析を理解するため）
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメ（PPT）を配布致します。

【参考書】

以下、順不同（五十音順）

- ① 伊神満『「イノベーターのジレンマ」の経済学的解明』日経 BP 社（2016 年）
- ② 入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社（2019 年）
- ③ 岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
- ④ 価値総合研究所『地域経済循環分析の手法と実践』ダイヤモンド社（2019 年）
- ⑤ 木村公一朗（編）『東アジアのイノベーション』作品社（2019 年）
- ⑥ 楠木健『ストーリーとしての競争戦略』東洋経済新報社（2010 年）
- ⑦ 経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑧ 経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑨ 小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社（2010 年）
- ⑩ 小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社（1976 年）、中公文庫から 1991 年に再刊
- ⑪ 清水洋『野生化するイノベーション』新潮選書（2019 年）
- ⑫ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
- ⑬ 富山和彦『なぜローカル経済から日本は甦るのか』PHP 新書（2014 年）
- ⑭ 中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016 年）
- ⑮ 原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017 年）
- ⑯ 日立東大ラボ『Society5.0』日本経済新聞社（2018 年）
- ⑰ 丸幸弘、尾原和啓『ディープレック』日経 BP 社（2019 年）
- ⑱ 宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問いなおす』ちくま新書（2018 年）
- ⑲ 三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012 年）
- ⑳ 吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %

期末テスト 40 %

期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は 8 年目である。最も受講者が多かった 2014 年度の授業改善アンケート調査をみると、「知識が身についた」(86.2 %)、「新しい発見があった」(41.4 %)、「進路選択に役立った」(10.3 %) の回答は全学部平均（各々 72.9 %、26.6 %、4.2 %）を上回った。一方、「授業難度が適切であった」「学生間の交流があった」については全学部平均を下回っている。このことから、本年度については上記「到達目標」に掲げた 5 つの目標を意識しながら、より明確な説明を心がけ、また毎回授業の終わり 10 分程度を質疑応答の時間に充て、意見交換の場を設けたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

私は 1985 年に長銀経営研究所に入社して以降、現在の日本政策投資銀行グループの価値総合研究所に至るまで民間のシンクタンクで約 35 年に渡り国や地方行政の産業政策の調査に係ってきた。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ① 「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えている。
- ② 産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③ 本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。

④ 与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline and objectives】

I think that graduating from university and working has two main purposes. One is to supply labor and obtain wages and salaries in return for use as a means of living. The other is that your workforce creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful for individuals, for companies, and for society.

In this class, you will learn about the Japanese industry, where your labor creates new value, from a variety of perspectives, such as 1) the overall picture and change of the industrial structure, 2) the characteristics and changes of major industries, and 3) the characteristics of major companies. Learn.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論 展開科目

酒井 理

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

流通ビジネスとサービスビジネスを理解するための知識と理論を修得することを目的とします。流通ビジネス、サービスビジネスのしくみや特徴を学問的な枠組みのなかから理解していきます。サービス経済化が進んでいく、これからの日本を含めたグローバル社会を見据えて、私たちが働くことになるビジネス環境の理解を深めます。将来を見据えて、自らのキャリアを考えていくうえで必要となるビジネス環境、ビジネス・システムを深く理解することを目指します。

【到達目標】

受講者が①流通・サービスビジネスに関する基本的な用語を説明できること②流通・サービスビジネスに関する一般的な知識を習得し、その経営のしくみを理解し説明できること③流通・サービスビジネスに関する実際の現象や出来事を理論と結びつけながら理解できることの3点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

身近なところの具体的事例から流通・サービスビジネスを理解できるよう授業を構成しますので、流通ビジネス・サービスビジネスについては特段深い知識はなく、初めて触れる学生を前提としておこないます。ただし、ビジネスキャリア領域の入門科目、マーケティング論などのビジネス系の基礎的な授業は最低限履修していることを推奨します。要所でゲストを招いてビジネスの実際の理解する機会を設けます。それにより理論と実際のどようにつながるのかを理解していきます。また、Webの株式売買システムを利用して上場している流通・サービス関連の企業分析を行うワークを組み込みます。特別な知識を必要とはしませんが、課題をこなすためには自宅ないし学校でインターネットにアクセスできる環境があることが前提です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	流通ビジネス全体解説 (流通の役割・小売業態)	流通が社会において、なぜ必要であるのかを考えます。 小売業態とは何かを解説します。代表的な業態である百貨店（デパート）を取り上げそのビジネスの特徴について解説します。
2	流通・サービス企業研究の進め方（導入編）	株式取引システムを使った企業研究について解説します。
3	チェーンシステム	総合スーパー・コンビニエンスストアを題材にチェーンシステムを理解します。
4	SPA とサプライチェーンマネジメント	SPA のビジネスを支えるサプライチェーンのしくみとともにユニクロ、H&M のビジネスを解説します。
5	EC ビジネス	インターネットを使った流通ビジネスについて解説します。
6	流通・サービス企業研究の進め方（展開編）	株式取引システムを使った企業研究で分析を発展させるための視点を提供します。
7	サービス・ビジネス全体解説（サービスの特性とビジネス課題）	モノとの対比によって形のないサービスという概念を理解します。
8	多様なサービスビジネス（人的サービス、物的サービス）	人的サービスの特徴と課題について説明します。身近なヘアサロン、飲食サービスなどを題材に解説します。 物的サービスの特徴と課題について説明します。物的サービスの特徴と課題について説明します。ブライダルサービス、ホテルなどを取り上げます。
9	多様なサービスビジネス（コンテンツサービス、金融サービス）	映画、音楽などのコンテンツを提供するサービスの特徴を解説します。 金融サービスの特徴を解説します。
10	シェアリングエコノミー・AI とこれからのビジネス	近年、成長著しいシェアリングエコノミーの特徴をシェアリングエコノミーの考え方とともに解説します。
11	株取引システムを使った企業研究成果（流通分野）の講評とプレゼン1	流通分野の企業研究成果を全体で共有し、講評します。

12	株取引システムを使った企業研究成果（サービス分野）の講評とプレゼン2	サービス分野の企業研究成果を全体で共有します。
13	株取引システムを使った企業研究成果（先端分野）の講評とプレゼン3	先端分野の企業研究成果を全体で共有します。
14	試験・まとめと解説	web 上でテストを実施して、授業全体のまとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。さらに流通・サービスビジネスの多くは身近に利用するものばかりです。このビジネスはどのように成り立っているのか、自分はなぜこのお店で買い物をするかを深く考えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

特に指示はしません。

【参考書】

特に指示はしません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、①流通・サービスビジネスに関する一般的な知識、基本的用語を説明できるか、②流通・サービスビジネスのしくみを十分理解し説明することができるか、③社会における流通・サービスビジネスの役割を理解し、現実の商業の諸問題を流通理論に関連付けて説明することができるかを試験によって評価する方法で行います。

期末の web テスト 40%、授業ごとの小テスト 20%、企業研究レポート 40%の割合で評価します。

成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

講義用スライドの学習支援システムにアップロードをします。

学習支援システムやメールで質問に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。クリッカー、web でのテストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

初回授業は 5 月 7 日木曜日です。

初回はガイダンスです。資料を事前に学習支援システムにアップしますので確認してください。

<実務経験のある教員による授業>

スモールビジネスのコンサルティング経験から得られた知見に基づいて、実際のビジネスにどのように理論的枠組みが応用できるかを解説します。

【Outline and objectives】

This course aims to acquire knowledge and theory to understand the distribution business and the service business.

Understand the structure and features of the distribution business and service business from an academic framework.

Focusing on the future, we aim to deeply understand the business environment and business systems necessary for thinking about your career.

SOC200MA

NPO論

展開科目

山口 佳子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：木・2 | 配当年次：2～4年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPOの事業を考え、事業計画書の作成またはプレゼンテーションを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマに若干の変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークやゲスト講師による講義を行います。また、フィールドワークについては、該当講義時間内で行うことが難しいため、講義外の日程で2回分をまとめて行うことになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第2回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第3回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるNPOの社会的役割について理解する。
第4回	NPOの具体的事例①	NPOの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第5回	NPOの具体的事例②	実際にNPOで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第6回	NPOの組織と運営について	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第7回	NPOと行政との協働	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第8回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第9回	フィールドワーク①	劇場や美術館などのアートNPOと行政との協働の現場に実際に足を運び、イベント等を体験する。
第10回	フィールドワーク②	劇場や美術館などのアートNPOと行政との協働の現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。
第11回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第12回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第13回	まとめ・振り返り	これまでの講義内容をふりかえる。
第14回	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつた事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。授業支援システムを用いて随時資料を配布する。

【参考書】

講義において、必要に応じていろいろと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（50%）と授業内などの小レポートや課題レポート（25%）、平常点（25%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はフィールドワークの実施が出来なかったため、今年度は行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【その他の重要事項】

アートNPOの立ち上げから10年間代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

NPO creates service in response to the needs of the community, solution and the organization of the social problem raised. NPO is expected to play a key role in solving the social problems and for the realization of the mission organized by them. However, many NPOs have problems with managing(human resources, funds, business, information, etc.) as a present situation. We are facing many objectives to be solved in the future as our challenge. In this course, we will examine the way and problem about improving management to develop NPO activities thorough concrete example.

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

加藤 丈太郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に人の移動が活発になり、移民・難民の数は増え続けている。一方、アメリカ・メキシコ国境間への壁の建設計画、ヨーロッパでの極右政党の台頭に象徴されるように、受け入れ社会における移民・難民への憎悪も増している。

日本における在留外国人数は過去最高を更新し続けている。2019 年4月から日本政府は「特定技能」人材の受け入れを開始した。5年間で34.5万人から受け入れるという。しかし、彼・彼女らが家族を帯同することは原則として認めていない。さらに、移民政策は取らないと強調している。

コロナウィルスの影響を受け、一時的に在留外国人数は減少するかもしれない。しかし、中長期で少子高齢化を捉えるならば、外国人（移民）を受ける議論は避けては通れない。また、課題解決の方策が必要とされる。

本授業では、日本における移民・難民の受け入れの状況を踏まえ、多文化社会のあり方を考える。

【到達目標】

- ・日本の移民・難民の受け入れ状況を理解する。
- ・多文化社会をめぐる基本的な概念を国際社会学に基づき理解し、日本社会の状況に照らして考えられるようになる。
- ・将来、企業、NGO/NPO、国際機関等で働く際に必要となるクリティカルシンキング・想像力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義とワークショップから構成される。コロナウィルスの影響が長引く場合、授業の一部はオンライン（ライブ授業を予定）で実施する。ワークショップでは一部、授業外で準備をしてもらうことが前提となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション (講義内容・評価基準等の説明) Zoom の練習を兼ねた アイスブレイク・受講者自己紹介	講義内容、評価方法を説明する。
第 2 回	入国管理とは何か：日本の政策展開と 2018 年入管法改正（講義）【テキスト 1 章】	日本の出入国在留管理政策の何が改正され、今後どのような課題が想定されるのかを理解する。
第 3 回	国際社会学から多文化社会にアプローチする（講義）【配布プリント】	グローバリゼーション、多文化主義など、多文化社会を理解するための用語を国際社会学の視点から理解する。
第 4 回	在日コリアン：差別との闘いと高齢化（講義）【テキスト 7 章】	在日コリアンがいかに差別と闘ってきたのかを知る。また在日外国人の高齢化に伴う課題を把握する。

第 5 回	日系人と日本社会：歴史・世代・ルーツをめぐって（講義）【テキスト 4 章】	1990 年代以降に受け入れが進んだ日系ブラジル人を巡っては様々な課題が提起されている。特に子どもの教育・若者の進学における課題について考える。
第 6 回	日本の生産を支える外国人材：技能実習制度と特定技能制度（講義）【テキスト 5 章】	技能実習制度は国際貢献か労働力補充の手段なのか。多面的に制度を見る。特定技能制度の現状も分析する。
第 7 回	高度人材獲得政策と留学生、日本語教育の課題（講義）【テキスト 3 章・8 章】	多くの留学生が日本での就職を希望している。一方、日本語教育には課題が現存する。現行の制度で留学生のキャリアの構築は可能かを考える。
第 8 回	Let me talk! : 私の「多文化」体験（ワークショップ）	数名の学生に多文化体験をプレゼンテーションしてもらう（残りの学生はレポートを提出する）
第 9 回	難民の社会参加と多文化社会（講義）【配布プリント・テキスト 12 章】	日本にどのような難民が存在するかを知る。また、難民受け入れ数が少ないのはなぜかを考える。
第 10 回	「不法」を生きる非正規移民（講義）【テキスト 15 章】	もし、あなたに在留資格がなかったらどうやって生きて行くのか。当事者の経験から考える。
第 11 回	外国人労働者受け入れにおける課題—地方の現場から（ゲストによる講演）	山梨県から外国人の人材派遣会社の社長をゲストに招く（オンラインに変更の可能性あり）。お話から「地方」における課題を知る。受講者は感想文を次週に提出する。
第 12 回	日本に暮らす移民・難民の気持ちを想像する「ドラマ」づくり（最終ワークショップ）	グループごとに移民・難民に関するドラマを作り、発表する。（教室活動が【可能】な場合）個人で移民・難民に起こりうるシナリオを作り、提出する。（教室活動が【不可能】な場合）
***	第 12 回が最終回となります	***
***	第 12 回が最終回となります	***

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキスト・プリントの指定箇所を事前に読んで来る。（コロナウィルスの影響が長引き、テキストが入手困難な場合は教員がテキストの要点を解説します。）
- ・「日本における私の多文化体験」というタイトルで、プレゼンテーション（30 分程度）or レポート（2,000 字程度）に取り組んでいた。【第 8 回】
- ・ゲストスピーカーの話を聞いての感想文を提出する。【第 11 回】
- ・移民・難民をめぐるニュースに注目すること（新聞を読むこと）。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

万城目正雄・川村千鶴子編著（2020）『インタラクティブゼミナール 新しい多文化社会論—共に拓く共創・協働の時代』東海大学出版会、2,750 円（税込）

【参考書】

- ※読みやすいものを挙げている。興味があるものはぜひ手に取って読んでみて欲しい。
- 塩原良和（2013）『共に生きる—多民族・多文化社会における対話』弘文堂、978-4335501241
- 芹澤健介（2018）『コンビニ外国人』新潮社、978-4106107672
- 西日本新聞社（2017）『新移民時代—外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、978-4750345864
- 松尾慎編著（2018）『多文化共生 人が変わる、社会を変える』にほんこの凡人社、978-4893589521
- 安田菜津紀（2019）『故郷の味は海をこえて』ポプラ社、978-4591164204
- 山村淳平（2020）『外国人収容所の闇—クルドの人々は今』（DVD）アジア太平洋資料センター（PARC）

【成績評価の方法と基準】

Let me talk! or レポートの内容 (40 %)、ゲストによる講演の感想文 (10 %)、最終ワークショップ (50 %) で評価する。
 なお、最終ワークショップは、教室活動が【可能】な場合はグループワーク、教室活動が【不可能】の場合は個人でのワークシートの記入を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

・昨年度の受講者は初めて出会う他学部、他学年の受講者とのワークショップを楽しんでいることが分かった。今年度においても、教室活動が可能となった場合は、新たな出会いを楽しんで欲しい。
 ・ゲストスピーカーの講演がとても好評であった。現場の声を聞いていただく機会として今年も設置する。(コロナウィルスの影響が長引いた場合、オンラインで実施することがあり得る。)

【学生が準備すべき機器他】

・パソコン (マイク・カメラ付のもの)
 ノート PC の場合マイク・カメラとも内蔵されている場合が多いです。
 ・インターネット接続が可能な環境 (4/20 時点では zoom の使用を想定しています)
 ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォン (zoom のアプリをインストールしておくこと)
 *準備に当たり、何かお困りの点があれば、相談してください (加藤メールアドレス jotaro33@gmail.com)

【その他の重要事項】

【重要】(4/20 (月) 更新)

・本講義は【4 月 22 日 (水) 16:50 ~ 18:30】が初回になります。
 ・4/20 日 (月) 午前に、オンライン授業へのアクセス方法について「授業支援システム」を通じてご連絡しましたのでご確認ください。(確認できない場合は、メールでお問い合わせください。)
 ・本授業は Zoom を用いて「ライブ授業」で行います。
 ・オンライン授業にアクセス出来なかった方には、メールをいただければ授業後、個別にフォローアップをします。アクセス出来なかった旨をお知らせください。
 担当教員メールアドレス 加藤 jotaro33@gmail.com
 ・講義時は、分からない点、より深めたい点を講師に質問すること。
 ・皆さんがアウトプットを出せば出すほど、学びが深まり、授業が面白くなる。私も受講者と共に学ぶことを楽しみにしている。
 ・授業時間外の学習を多く求める科目である。決して「楽勝科目」ではない。履修登録をする際にはこの点に十分留意されたい。
 ・コロナウィルスにより教室活動が出来なくなるなど、本授業も影響を受けることが想定される。しかし、可能な限り方法を探り、皆さんと共に学びを続けたいと願っている。一緒に頑張りましょう。
 「実務経験のある教員による授業」該当
 日本の外国人支援 NGO/NPO で外国人相談に当たってきた。受講者には移民・難民について字面だけではなく、リアリティを持って考えてもらうことを目指す。

【Outline and objectives】

This subject considers "Multi Cultural Society" through life of migrants and refugees in Japan. The lecturer intends to educate students to mediate and coordinate conflicts regarding migrants and refugees. Students develop their critical thinking and imagination to others by various activities such as presentation and workshop (making "drama").

MAN200MA

演習 (ビジネス) 2 年生

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・5 | 配当年次：2~4 年

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

3・4 年次の演習に向けて、2 年次の授業においては、働き方に関する基礎知識、情報収集・説明・議論の基礎を身につけることを目的とします。

【到達目標】

以下を到達目標とします。

- ①働き方に関する基礎的な知識を身につける
- ②特定のテーマに関連する基礎的な情報を収集し、他者にわかりやすく伝えることができる
- ③定説を鵜呑みにせず、複眼的な視点で考察することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席、個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。
 まずは基礎知識をつけることも目的として、課題図書に関するレジュメを作成頂き、授業当日に配布・説明頂きます。
 共同研究の実施に向けて、先行研究サーベイや問いの設定を行います。
 なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ＜3・4 年生と合同＞	自己紹介、ゼミの進め方に関する説明と意見交換
第 2 回	アクティブブックダイアログの解説と準備	①文献の選定 ②アクティブブックダイアログの解説 ③発表会ロジ打ち合わせ
第 3 回	課題図書に関する発表と質疑 (1)	課題図書①に関する発表と質疑
第 4 回	課題図書に関する発表と質疑 (2)	課題図書②に関する発表と質疑
第 5 回	3 年生共同研究の論文発表 ＜3・4 年生と合同＞	①3 年生共同研究の論文の発表 ②ゼミ生同士と外部の社会人との意見交換
第 6 回	共同研究の説明	①共同研究の進め方に関する説明 ②問いの立て方、調査方法に関する解説
第 7 回	共同研究の問いの設定	問いの案の発表と討議
第 8 回	図書館ガイダンス (アドバンス編)	文献サーベイのための手法の解説
第 9 回	先行研究サーベイの発表と問いの再設定	①先行研究サーベイの発表 ②問いの改訂案の発表とそれに関する討議
第 10 回	共同研究の研究計画	共同研究の研究計画の発表とそれに関する討議
第 11 回	意見交換会や発表準備	①発表資料の作成 ②ロジ打ち合わせ
第 12 回	2 年生共同研究と 3 年生卒業論文の研究計画案に関するビジネスパーソンとの意見交換 ＜3 年生と合同＞	研究計画案に関するゼミ生同士とビジネスパーソンとの意見交換
第 13 回	4 年生 卒論発表 (1) ＜3・4 年生と合同＞	卒論の発表 (前半) と質疑 (社会人も含む)
第 14 回	4 年生 卒論発表 (2) ＜3・4 年生と合同＞	卒論の発表 (後半) と質疑 (社会人も含む)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

課題図書の購読、レジュメの作成、共同研究のための発表資料の準備等が必要になります。
 本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

課題図書については 2 回目の授業で候補を提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容 (70 %)、ゼミの運営・活動への貢献 (30 %) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブブックダイアログは好評につき継続します。
共同研究を前倒しでスタートします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。

5・6 時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は 5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

思いを実現できる実務家を社会に送り出したいと思っています。

【Outline and objectives】

This course is designed students will obtain the knowledge of work styles in society, the fundamental skill of collecting information, explaining and discussion.

Course Objectives

- ① Obtain the basic knowledge of work styles
- ② Collect broad information and delivering it clearly about one topic
- ③ Consider from a variety of perspectives without believing accepted opinions

MAN200MA

演習（ビジネス）3・4 年生（春）

松浦 民恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の執筆に向けて、論文執筆に不可欠な「思い」や「問い」を自ら持てるように、知識の醸成、論理的な思考の訓練を行います。また、調査の企画・実践を通じて、調査の進め方についての理解を深めます。

【到達目標】

- ①働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、学術的な文献や論文をサーベイできるようになること
- ②働き方に関して設定した個別テーマ（問い）について、十分な理解のもとで他者に論点を提示できるようになること
- ③調査を企画・実践することを通じて、調査の進め方の基礎を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

ゼミには毎回出席。個人での発表やグループワークについても主体的、積極的な参加が必須条件です。3 年生は共同研究のテーマを設定し、調査の企画・実践を行います。さらに、卒論のフレームワークづくりにもとりかかります。なお、受講の状況や別の企画の提案等によって、授業計画の一部を変更する可能性がありますので、予めご了承ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要についてのオリエンテーション
第 2 回	共同研究（1）問いの設定	先行研究を踏まえた共同研究の問いの設定
第 3 回	共同研究（2）調査計画	調査計画の策定とそれに関する討議
第 4 回	テーマに関するオープンディスカッション（1）	テーマ（キャッシュレス時代の若者の消費行動（仮））に関するオープンディスカッション
第 5 回	テーマに関するオープンディスカッション（2）	テーマ（組織の雰囲気の研究（仮））に関するオープンディスカッション
第 6 回	テーマに関するオープンディスカッション（3）	テーマ（生産性を向上させるオフィス環境（仮））に関するオープンディスカッション
第 7 回	共同研究（3）練り直し	問いと研究計画案の練り直し
第 8 回	共同研究（4）調査設計	共同研究の調査設計案の策定
第 9 回	共同研究（5）研究計画案の作成	①共同研究の調査設計案に関する討議 ②研究計画案のポスター作成
第 10 回	研究の進捗共有とビジネスパーソンとの対話	①研究の進捗状況の共有 ②ゼミ生同士及び外部のビジネスパーソンとの意見交換
第 11 回	共同研究（6）調査票作成	①共同研究の研究計画案の練り直し ②依頼状や調査票の案の作成
第 12 回	共同研究（7）調査実施	①依頼状や調査票の確定 ②調査の実施
第 13 回	分析、執筆に関する解説	①分析方法に関する解説 ②論文執筆に関する留意点の説明
第 14 回	共同研究（8）執筆計画	①調査結果の中間報告 ②論文構成の発表とそれに関する意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究のための文献サーベイや調査の実施・結果のとりまとめ等。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミの議論や研究に関する取り組み姿勢・内容（70 %）、ゼミの運営・活動への貢献（30 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度よりも前倒しのスケジュールで進めたいと思います。

思いを実現できる実務家の育成に向けて、さまざまな仕掛けをしていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

基礎知識を身につけるために、「職業キャリア論」を積極的に受講してください。他のビジネスキャリア領域における働き方に関連する授業も、極力受講頂くことが望ましいです。

2017 年度からスタートした発展途上のゼミを、皆さんと一緒に面白くしていきたいと思っています。そのために必要なアイデアをどんどん出して、責任をもって改善を進めていける「自走集団」を目指していますので、よろしくお願いします。

5・6 時にわたってゼミを実施する場合だけでなく、共同研究の作業等が必要な場合もありますので、ゼミの日は 5・6 限とも他の予定を入れないようにしてください。

思いを実現できる実務家を、社会に送り出したいと考えております。

【Outline and objectives】

Students will be trained to hone their own knowledge and logical thinking in this course and to develop their passion for the issues that are important for the thesis.

< Course Objectives >

1. Research academic literature related to the theme/issue related to work styles covered in the thesis
2. Explain the issue of the thesis with good understanding
3. Understand the technicalities of research through planning and practice

MAN400MA

卒業論文（ビジネス）

松浦 民恵

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：集・他 | 配当年次：4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの大学生活における学びの集大成として、自らの興味関心に基づいて問いを立て、調査の実施、調査結果の分析・検討を通じて、卒業論文を執筆し、完成させる。

【到達目標】

- ①論文の問いが設定できるようになること
- ②調査を企画・設計し、実施できるようになること
- ③調査結果の分析・解釈ができるようになること
- ④分析結果を踏まえて、説得力のある論理的文章を書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は研究計画書に関する相談、秋学期は調査や執筆に関する相談を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文についてのオリエンテーション
第 2 回	論文執筆に向けた解説	卒業論文の構成、執筆上の留意点についての解説
第 3 回	問いの検討（1）	①先行研究と問いの案との提示 ②論文になり得るかについての検討（第 1 グループ）
第 4 回	問いの検討（2）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第 2 グループ）
第 5 回	問いの検討（3）	①先行研究と問いの案の提示 ②論文になり得るかについての検討（第 3 グループ）
第 6 回	問いの確定	問いや仮説の仮決定
第 7 回	研究計画（1）	研究計画の提示と検討（第 1 グループ）
第 8 回	研究計画（2）	研究計画の提示と検討（第 2 グループ）
第 9 回	研究計画（3）	研究計画の提示と検討（第 3 グループ）
第 10 回	3 年生共同研究・4 年生卒論研究計画の共有	研究の進捗状況の共有
第 11 回	研究計画再考	議論を踏まえた練り直し
第 12 回	調査票の作成（1）	問いに答えられる、仮説を検証できる調査票の作成
第 13 回	調査票の作成（2）	調査票の作成の続き
第 14 回	調査の実施	調査をスタートする
第 15 回	オリエンテーション	①夏休み合宿の振り返り ②今後の進め方についての意見交換 ③オリエンテーション
第 16 回	調査の進捗報告	調査の進捗報告（全員）
第 17 回	分析の相談（1）	調査の分析方法に関する相談（第 1 グループ）
第 18 回	分析の相談（2）	調査の分析方法に関する相談（第 2 グループ）
第 19 回	分析の相談（3）	調査の分析方法に関する相談（第 3 グループ）
第 20 回	分析	各自分析を進める
第 21 回	論文骨子作成（1）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第 1 グループ）
第 22 回	論文骨子作成（2）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第 2 グループ）
第 23 回	論文骨子作成（3）	分析結果を踏まえて論文骨子を作成する（第 3 グループ）
第 24 回	論文の推敲（1）	論文をお互いに推敲する
第 25 回	論文の推敲（2）	論文をお互いに推敲する（続き）
第 26 回	論文発表の準備	発表用資料を作成する
第 27 回	論文発表（1）	論文の発表と質疑（第 1 グループ）
< 2・3 年生との合同 >		
第 28 回	論文発表（2）	論文の発表と質疑（第 2 グループ）
< 2・3 年生との合同 >		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆、執筆に伴う先行研究サーベイや調査の実施の大部分は、授業時間外に、各自主体的に実施いただくことになります（授業は進捗確認と必要に応じたアドバイス中心）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【参考書】

必要に応じて、授業のなかで適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容を、以下の観点から評価します。

- ①問いの立て方（自己の関心が絞られているか、独創性があるか等）
- ②先行研究レビュー（十分にサーベイがなされているか等）
- ③調査の企画・設計・実施・分析（適切な手順、方法か等）
- ④文章の展開（論理的な説得力があるか等）

【学生の意見等からの気づき】

スケジュールをできるだけ前倒しにしていきたいと考えております。また、完成してからでなく、研究フレームワークがある程度見えてきた段階で、ビジネスパーソン等との対話の機会を設けることを検討します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器、参考文献等。

【その他の重要事項】

演習（ビジネス）3・4年生（春5限・秋6限）とは別に卒論指導を行います。演習（ビジネス）3・4年生（春・秋）にも出席してください。秋学期の2年生との合同ゼミは5限スタートになります。

演習の時間が内容によって変則的になりますので、オリエンテーション時に連絡するスケジュールをよく確認してください。

教員の、民間企業の営業現場や人事部門等での実務経験を生かして、具体的なケースなどを紹介しながら、授業を行いたいと考えております。

【Outline and objectives】

Through this course, students will develop skills to write graduation thesis and write out graduation thesis.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・1 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。

つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化化するリーダーシップ
⇒ モチベーション・マネジメント
⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

＊当授業は、4月22日（水）1限を開講日とします。今学期の特殊事情を鑑み、初回は多くの大学のオンライン授業に採用されている「Zoom」というグループディスカッション用のツールを使い、ガイダンスの講義と受講者の皆さんのネットワークの接続状況を確認します。受講希望者は、以下の要領で私までメールにてご連絡下さい。授業の開催通知（参加用のIDとパスワード）を送付します。

・メールタイトル：「就業応用力養成1」受講希望

・本文に、学生番号、学部名、氏名、を記載

例：08L0452 法学部 鈴木美伸

・送信先メールアドレス：yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp

＊Zoomは初心者でも使いやすいですが、授業時間に自分のPCから接続して下さい。初回に参加できない方は、事情を書いて上記メールアドレスまで送信して下さい。初回授業後に進め方を検討致します。

最後に、今学期は授業内容を開講後に相当見直す予定ですので、ご理解下さい。この授業は、企業に対して、学生による企画・提案を行います。

PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりですが、グループワークを中心に、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。

公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 ・各学部アイデンティティ ・就業力とは ・学生と企業の認識差 ・社会で求められる力 グループディスカッション ・データの見方 ・討議の手法 ・ブレインストーミング
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	論理的な文章 ・作文と論文の違い ・ビジネス文書作成 ・エントリーシート解析
3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	・ビジネスマナー ・報連相の重要点 ・トラブル対処力 ・顧客満足向上とは 起業家精神 ・ベンチャー企業経営 ・株主重視経営 ・資金調達力 大企業経営 ・グローバル企業経営 ・提案力の構造 ・世界で通用する力 働き方の進化 ・大学と仕事の関係 ・企業と個人の関係 ・コンサルティング
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	企業進化論 ・百年企業 ・最先端技術力 ・ビジネスプレゼンテーション
5	商社事例研究－1 半導体業界 世界を制した経営者	中小企業経営 ・大企業との差別化 ・商品企画力 ・プレゼンテーション ・市場調査 ・新商品開発（マーケティング） ・チーム別ワークショップ
6	商社事例研究－2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	社会で通用する人材 ・米国公認会計士講話 ・採用担当者の視点 ・求められる人材像 ・状況対応型キャリア 授業協力企業からの課題 ・ビジネスマナー ・ヒアリングスキル ・課題発見力
7	社会人ケーススタディー－1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	金融機関の底力 ・起業家行動の支援 ・全国ネットワークの活用 ・中小企業診断士の力
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界の優良企業	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノづくりの魅力 企業提案ワークショップ	
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 企業からの課題提示	
11	社会人ケーススタディー－2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 課題討議	
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実践 六次産業への挑戦	
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。
＊事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容）⇒ 30 点
- ・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー）⇒ 30 点
- ・グループワークでの貢献度⇒ 30 点
- ・期末テスト⇒ 10 点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000～2000 字程度のレポートを課しますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が 60 点以上を合格とします。
（欠席が 3 回以上の者は成績評価対象外）
就職活動での欠席は認めませんが、代替手段（補講等）は用意します。
＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。
特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート＆プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立ったとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート＆プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。PC は大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。
＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。
▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.
I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：水・1 | 配当年次：3～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対処、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

＊「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには (ビデオ教材使用)	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究－1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ 21世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究－2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリースランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解
7	課題レポート&プレゼンテーション－1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法

8	ライフスタイル研究－3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力 (ビデオ教材)	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）－1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）－2 学生目線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワーク ショッブ (一部英語で実施)	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション－2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）－3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

＊春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末テスト ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課しますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。総合評点が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）就職活動での欠席は認めませんが、代替手段（補講等）は用意します。＊遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、今年度もグループワークを重視します。特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポートとプレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。案単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポートとプレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。＊全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。案単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。▼実務経験のある教員による授業担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline and objectives】
"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.
Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.
I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

FRI200MA

図書館演習【通年】

丹 一信

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間
曜日・時限：火・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。
当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。
1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。
なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回のガイダンス（学習支援システム参照）は必須です。

【到達目標】
春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定 3 級合格レベルとすることです。各種のデータベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。
秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することです。さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。
秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。
また社会情勢によりですが、実地見学を行うことにより、図書館の実践についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。
なお初回授業日は 4 月 23 日です。ただし初回授業は、ガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。
また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】		
回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア (HULiC) の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロデジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講

第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。
第 17 回	パスファインダーの製作	パスファインダーの概要について
第 18 回	パスファインダーの製作	テーマを検討する
第 19 回	パスファインダーの製作	テーマを決定し、資料収集を行う。
第 20 回	パスファインダーの製作	図書、雑誌の選定
第 21 回	パスファインダーの製作	論文、記事の選定
第 22 回	パスファインダーの製作	Web 上の情報源など
第 23 回	パスファインダーの製作	AV 資料などについて
第 24 回	事例研究	新型コロナウイルスは、図書館にどのような影響を与えたか。
第 25 回	事例研究	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 26 回	専門図書館について 1	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 27 回	専門図書館について 2	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 28 回	専門図書館について 3	図書館調査の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間 開催（バンフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。
（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）

また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト., 樹村房, 2018, ix, 144pp.
今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.
(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC
Hulic
https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

本科目は履修者許可者の抽選、選抜を行います。学習支援システムに仮登録した学生の中から、再度、履修の意思確認を行い、抽選の上、履修許可者を確定します。仮登録しなかった場合、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。
「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

FRI200MA

図書館演習

丹 一信

単位数：4 単位 | 開講セメスター：年間

曜日・時限：木・5 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新型コロナウイルスの影響により、シラバスを 4 月 19 日付で大幅に修正しています。本シラバスの内容を十二分に理解してください。

当科目は、図書館司書課程における基礎的内容を理解した上で履修することを想定しており、履修登録に際しては、【その他の重要事項】を確認してください。前年度までに修得しておくことが望ましい望ましい科目もあります。（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。図書館司書課程の応用かつ実践的授業と位置付けています。授業の概要は以下の通り。

1. 情報検索のスキルの向上を目指します。
2. 情報リテラシーの向上を目指します。
3. 図書館に関する総合的な学びの機会とします。

なお、教室の関係で受講者の選抜を行います。詳細は最下欄の項目を参照のこと。初回のガイダンス（学習支援システム参照）は必須です。

【到達目標】

春学期の到達目標は、情報検索のスキルを検索技術者検定 3 級合格レベルとすることです。各種データベース、ツール等を用いて、情報検索を効率的に行うスキルを身につけます。

秋学期は、実用に耐えうるパスファインダーの製作し発表することです。さらに社会情勢が許せば、専門図書館を対象として図書館サービスの調査に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

春学期は、検索技術者検定 3 級合格を目指して、情報検索について総合的に学習します。各種データベースの演習を徹底して行います。

秋学期は、また図書館サービスの一環としてのパス・ファインダーを作成します。

また社会情勢によりますが、実地見学を行うことにより、図書館の実状についての理解を深めます。さらに専門図書館・大学図書館・データベース提供事業者などの図書館関連の事業についても深く学び、情報専門職とは何かを学びます。

なお初回授業日は 4 月 23 日です。ただし初回授業は、ガイダンス資料の配布（動画も含む）が主です。履修登録はこのガイダンスの内容を理解した上で行ってください。

また学習支援システムの説明も熟読してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	春学期授業の進行説明及び授業用グループウェア（HULiC）の利用方法
第 2 回	レポート論文の書き方	レポート論文の書き方について学習します。
第 3 回	情報検索概論	情報検索の基本理論と仕組みについて、学習します。
第 4 回	情報資源と情報サービス機関	データと情報：一次情報と二次情報およびそれらの情報資源の種類などについて
第 5 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 6 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 7 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 8 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 9 回	ネットワーク情報資源の検索と種類	ネットワーク情報資源の検索：ネットワーク情報資源の種類
第 10 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 11 回	ネットワーク社会と情報セキュリティについて	ネットワーク社会の諸問題：ネットワーク社会の法制度
第 12 回	ライブラリアン、サーチャー、インフォプロ、デジタルアーキビストについて	ライブラリアンの種類、インフォプロ、デジタルアーキビストなどの情報専門職について学びます。
第 13 回	休講	休講
第 14 回	休講	休講

第 15 回	秋学期ガイダンス 夏季課題の発表（web にて）	秋学期授業ガイダンス
第 16 回	パスファインダーの製作	図書館サービスとしてのパスファインダーの作成に取り組みます。
第 17 回	パスファインダーの製作	パスファインダーの概要について
第 18 回	パスファインダーの製作	テーマを検討する
第 19 回	パスファインダーの製作	テーマを決定し、資料収集を行う。
第 20 回	パスファインダーの製作	図書、雑誌の選定
第 21 回	パスファインダーの製作	論文、記事の選定
第 22 回	パスファインダーの製作	Web 上の情報源など
第 23 回	パスファインダーの製作	AV 資料などについて
第 24 回	事例研究	新型コロナウイルスは、図書館にどのような影響を与えたか。
第 25 回	事例研究	企業図書館とは何か、知財部門における調査やサービスの事例を学習します。
第 26 回	専門図書館について 1	専門図書館とは何かを学び、実際に調査対象とする専門図書館を選定します
第 27 回	専門図書館について 2	調査対象の専門図書館に対する調査項目や調査票の作成
第 28 回	専門図書館について 3	図書館調査の概要を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館への見学や調査が必須となります。
夏季休業期間に、国立国会図書館や武蔵野プレイス、大原社会問題研究所への見学を行います。

また第 22 回図書館総合展、2020 年 11 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間 開催（パシフィコ横浜）への見学課題などが必須となります。
（上記はあくまで 4 月下旬時点での予定です。社会情勢の変化により中止もあります）

また検索技術者検定 3 級受験を強く推奨します。＜＝こちらは授業内容と強く関わります。https://www.infosta.or.jp/kensaku-kentei/

平素からの専門図書館、大学図書館や情報センターへの関心が重要です。本授業の準備学習・復習時間は概ね各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

(1) 原田 智子, 吉井 隆明, 森 美由紀. 検索スキルをみがく：検索技術者検定 3 級公式テキスト., 樹村房, 2018, ix, 144pp.

今春、改訂版が刊行予定です。担当教員の指示を必ず確認の上、購入してください。

【参考書】

(1) 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会. 図書館年鑑., 日本図書館協会, 2018, 冊 p.

(2) 専門図書館協議会 https://jsla.or.jp/

【成績評価の方法と基準】

提出物（60%）および平常点（40%） 演習のため出席は極めて重要。

【学生の意見等からの気づき】

少人数です。その利点を生かした授業を行います。夏季期間中に図書館への見学なども行っています。出来るだけ多くの知見が得られる様な見学を行っています。図書館見学は毎年好評ですので、今年度も行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

PC

Hulic

https://lc.i.hosei.ac.jp/

【その他の重要事項】

「図書館情報学概論Ⅰ及び情報サービス論」あるいは「図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱ」が履修済みであることが極めて望ましい科目です（四年生、大学院生、通信教育部、科目等履修生は除く）。

本科目は履修者許可者の抽選、選抜を行います。学習支援システムに仮登録した学生の中から、再度、履修の意思確認を行い、抽選の上、履修許可者を確定します。仮登録しなかった場合、履修を許可しません。仮に不許可にも関わらず履修登録しても、単位認定をいたしません。

「実務経験のある教員による授業」に該当：サーチャー 1 級（データベース検索技術者）としての実務経験をもとに情報検索演習を徹底し、情報リテラシーの向上に向けた授業を行います。

【Outline and objectives】

The outline of the lesson is as follows.

1. We will aim for improvement of information literacy
2. We aim to improve the skill of information retrieval.
3. We will make a comprehensive learning opportunity for libraries.

CUM100MA

ミュージアム教育論

山下 治子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期

曜日・時限：土・3 | 配当年次：1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージアムにとって教育とは何か。その活動の経緯や基となる理論を学び、さまざまな実践例を通して、ミュージアムの教育活動について理解を深める。

【到達目標】

- ①ミュージアムの教育活動の意味、意義について理解できる。
- ②ミュージアムでの教育活動が多様であることや、地域社会との関わりについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

美術館や博物館、水族館などさまざまなミュージアムでの教育普及プログラムの事例を紹介しながら、ミュージアムにおける教育について考えを深める。受講生それぞれのミュージアム体験も紹介しあう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ミュージアム教育の現在	現在、ミュージアムにおいて教育活動がどのように展開されているのかを概観する。た、その目的や方法で実践・研究が行われてきたのかを概説する。（授業のガイダンスを含む）
第 2 回	ミュージアムの利用とミュージアム体験	受講生の博物館体験や利用実態を振り返ってもらい、利用者の博物館体験が構成されていくプロセスを説明する。
第 3 回	ミュージアムでの「学び」	教育学などの先行研究の知見を紹介しながら、人が学ぶとは何を意味するのかを考える。学校教育との違いや受講生自らの学びを振り返る。
第 4 回	ミュージアム教育の意義と理念	日本および諸外国で展開されてきた博物館教育の意義や理論について解説する。
第 5 回	生涯学習の場としてのミュージアム	美術館での学び、ワークショップ 生涯学習として行われている博物館活動とその課題について解説する。
第 6 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動①	自然史系博物館での学び① 地域やコミュニティに根差した博物館で展開されている教育活動に着目する。特徴的な事例を解説しながら、必要とされる活動の具体像を考える。
第 7 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動②	自然史系博物館での学び② さまざまな地域博物館における学びから、考える。
第 8 回	地域やコミュニティに根差したミュージアムの教育活動③	学校と連携したミュージアム教育の事例。学校教育との違い、また学校教育と連携することの意味や課題について考える。
第 9 回	動物園・水族館での学び	動物園や水族館での教育プログラムや展示を紹介し、教育の場としての動物園、水族館について考える。
第 10 回	ミュージアム教育的活動の手法	ミュージアム・エデュケーターについて知る。どのようなことが求められるのかなど、日本での実情を概説する。
第 11 回	ミュージアムの利用と学び	ミュージアムは社会的包摂の役割を担う。その意味で教育活動は重要であることを理解する。
第 12 回	ミュージアム教育の実際	ミュージアムで教育プログラムを実践している方をゲストに招き、活動を紹介・解説してもらう。
第 13 回	ミュージアムグッズとミュージアム教育	ミュージアムグッズの教育的効果を考える。ミュージアムショップはもうひとつの教育の場であることを認識する
第 14 回	試験（まとめを含む）	授業内に試験を行う。 教科書を持ち込み可。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろなミュージアムに行き、展示だけでなく教育普及プログラムを見たり、参加したりしてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『博物館教育論』黒沢浩・編著（講談社）

【参考書】

雑誌「ミュゼ」のほか、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

（出席数＋リアクションペーパー）（50％）＋レポート（30％）＋学期末試験（20％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「ミュゼ」というミュージアムの専門誌を編集してきました。取材や編集で得た情報や背景、今後の展望などについて、スライドや記事を使って紹介し、ともに考えていきます。

【Outline and objectives】

This course introduces the theory and the history of museum education by various case studies. The student will appreciate museum education deeply.

EDU200MA

現代生活・文化と社会教育Ⅰ

鈴木 悌遍

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期

曜日・時限：水・3 | 配当年次：2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域と企業 と「職場における学び」の関係性について学ぶ。

授業ではまず、地域と地域の資源、企業の活動との関係について解説する。その上で企業の持続的活動のために、「職場における学び」が果たす役割について学ぶ。

つぎに会津若松市とランドセル業界の変遷を解説する。2 つの変遷を踏まえた上で、具体的な事例としてランドセル会社羅羅屋による「職場における学び」について学ぶ。

その後ランドセル業界以外の地域企業の事例を示す。

学期後半では学生各位が興味を持った地域企業について調べ、発表、学生同士で議論を行い、理解を深める。

希望者にはランドセル工場見学の実習を行う。

【到達目標】

・社会教育士・社会教育主事、また広く地域における学習コーディネーターを志す学生が、地域企業と社会教育との関わりについて理解を深める機会を提供する。

・そのために、ほとんどの学生が使った経験を持つランドセル業界に焦点を当てて、設計・製造・販売・経営と雇用創出をふくめた地域貢献に実際について理解を深める。

・また特に、そこで働いている人々の人生や職業、自己研鑽、人材育成について、評述し、希望者について別の日程で現場見学の機会を設け、生涯学習・社会教育との関係を考える。

・学期後半ではそれぞれの学生が興味のある「地域企業と社会教育」の事例を調べ、発表をし、議論を行い、社会教育士・社会教育主事として実践的に活躍できる能力を身につけることを目指す。

・実際に地域企業の経営に携わる者としての経験を活かした授業を行うことを心掛ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習（事例研究と発表、議論）を中心に授業を進める。実習は別途、希望者のみ参加でおこなう。

①この授業は 5 / 6 から開始される

②授業方法については第 1 回までに検討します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域企業と社会教育	地域と企業の持続的關係性のためには「職場における学び」が重要であることを学期の講義内容の説明とともに学ぶ。
第 2 回	地域の資源と企業と社会教育 1	企業と企業活動に必要な資源（資本、労働力、原材料等資源、資金・信用、指導・規制・社会資本、理解・支持）と地域の関係について学ぶ。
第 3 回	地域の資源と企業と社会教育 2	地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 4 回	地域の資源と企業と社会教育 3	社会教育の視点から、地域と企業が行う実践について、具体的事例を学ぶ。
第 5 回	地域と地域企業の変遷と社会教育	会津若松市を素材に、地域の産業の移り変わりと地域の社会教育の変化について学ぶ。
第 6 回	地域と産業の変遷と社会教育	ランドセル業界を素材に、業界中心地の移り変わりと業界に携わる人々の社会教育の変化について学ぶ。

第 7 回	地域と企業と社会教育 1	会津若松市に主力工場を持つ創業 46 年のランドセル会社羅羅屋の歴史・特徴を学ぶ。
第 8 回	地域と企業と社会教育 2	羅羅屋が会津若松にもたらした変化、会津若松が羅羅屋にもたらした変化を解説する。事例をもとに地域と企業と社会教育の関係について学ぶ。
第 9 回	地域企業と社会教育 1	事例研究において、事例を探す、決定する、調査する、まとめる、発表する、議論する方法について学ぶ。
第 10 回	地域企業と社会教育 2	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 1）
第 11 回	地域企業と社会教育 3	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 2）
第 12 回	地域企業と社会教育 4	学生の調べた地域企業の事例について発表してもらい、議論する（その 3）
第 13 回	.	.
第 14 回	.	.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

授業内の発表やコメントペーパー等（80%）、定期試験（20%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

外資系コンサルティング会社勤務を経て、WEB コンサルティング会社、WEB 開発会社、EC 会社、ランドセル会社を経営。

実務者の目線、生活者の目線から、企業と地域と社会教育について講義を進める。

講義を通して、受講者の調査、発表、議論能力の向上に努める。

授業で使用了スライドに関しては授業後共有する。メール等にて質問、相談等を常時受け付ける。

【Outline and objectives】

In this lecture, students will learn about the relationship between local communities, companies and “learning in the workplace”.

The case study is Raraya, which produces Japanese traditional school bag (called “Randoseru”) company in Aizuwakamatsu.

Afterwards, other local companies case studies will be introduced.

In the second half of the semester, students will conduct case studies and make presentations.

Fieldwork will be conducted for those who are interested.

データ構造とアルゴリズム

尾花 賢

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠です。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学びます。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学びます。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学びます。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学びます。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

アルゴリズムは問題を解決するための定石です。したがって、これまでに数多くのアルゴリズムが開発されています。また、今後も次々に新しいアルゴリズムが開発されてゆくでしょう。アルゴリズムを使いこなしているプログラマは、アルゴリズムについて記述された専門書や論文で新しいアルゴリズムを知ることがほとんどです。そこで本講義では、アルゴリズムについて記述された専門書を読みこなす基礎的なスキルを身につけることを目標とします。具体的には、pseudo-code で記述されたアルゴリズムをプログラム化することを目標とします。各テーマごとに、アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートとその実行時間を解析する手法を学ぶ。
3	マージソートと漸化式による実行時間評価	マージソートとマージソートの実行時間を評価する手法を学ぶ。
4	スタック・キュー	基本的なデータ構造であるスタックとキューを学ぶ。
5	リスト・木構造	基本的なデータ構造であるリストと木構造を学ぶ。
6	ヒープソート	ヒープソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	クイックソート	クイックソートのアルゴリズムを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
8	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ挿入ソート、マージソート、ヒープソート、クイックソートのプログラミングを行い、実行時間を比較する。
9	ハッシュ表	重要なデータ構造のひとつであるハッシュ表を理解する。
10	二分探索木	重要なデータ構造のひとつである二分探索木を理解する。

11	講義の復習	今までの講義で学んだ内容を復習する。
12	グラフの表現	グラフを表現するための色々なデータ構造を理解するとともに Dijkstra 法における動的集合の扱いを学ぶ。
13	単一始点最短路問題	グラフに関する代表的アルゴリズムである単一最短路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
14	ダイクストラ法のプログラミング	ダイクストラ法を用いて、地下鉄駅間の最短距離を求めるプログラムを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アルゴリズムに関して記述された文章を予習で読み、プログラム化を授業後の課題とします。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 2012 年

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

1. 基礎力認定試験：主に講義の前半で学ぶ基礎的な事項の習得について確認します。
 2. 評定試験：講義全体の内容に関して評価します。
- 2 の評定試験の結果が最終評価となりますが、1 の基礎力認定試験に合格しなければ、評定試験の受験はできません。なお、各講義で出題される課題も一部最終評価に含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの解説を多くしてほしいとの要望に対応。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline and objectives】

When you write "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

PRI210KA-CS-251

最適化

佐藤 裕二

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や進化計算などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、演習により理解を深める、という形で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします

2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）＋演習課題（20%）＋授業への参加度（20%）で採点します。

参加度は授業中の態度（積極的に参加しているか、寝ているか、騒いでいるかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline and objectives】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.

形式言語とオートマトン

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回 非決定性有限オートマトン (2)

1. 空動作を伴うオートマトン
2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図
3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現
4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性
5. 正規表現から非決定性オートマトンに
6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ

第 7 回 中間試験

第 8 回 プッシュダウンオートマトン

1. 決定性プッシュダウンオートマトン
2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作
4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
5. 非決定性プッシュダウンオートマトン
6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現
7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作
8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図

第 9 回 チューリングマシン (1)

第 10 回 チューリングマシン (2)

第 11 回 文法 (1)

1. 決定性チューリングマシン
1. 非決定性チューリングマシン
1. 正規文法
2. 言語の生成装置としての形式文法
3. オートマトンと文法の対比・階層性

第 12 回 文法 (2)

第 13 回 文法 (3)

第 14 回 オートマトンと形式言語の関係およびまとめ

4. 文脈自由文法
1. 文法の種類
2. 文脈自由文法の例
3. 文脈自由文法と木構造
- 4.2 分木からチョムスキー標準形に
5. 文脈依存文法
1. 文法演習
- 正規文法と有限オートマトンの関係
1. 正規表現による正規言語の表現
2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法
3. 閉包性
4. チョムスキー標準形
5. グライバッハ標準形
- 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社
富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する

中間試験 40%

期末試験 60%

なお、評価は

出席 14 回中 11 回以上

を対象とする。

これに満たないものは評価の対象とはならない。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline and objectives】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

新ネットワーク理論

廣津 登志夫

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではネットワーク科学と呼ばれる情報科学の分野としては比較的新しいテーマを取り扱う。現在の科学技術の多くの部分は 19 世紀から 20 世紀にかけて還元要素法に基づいて築き上げられてきた学問に基づくが、ネットワーク科学では離散構造（離散数学）で学ぶグラフに対して複雑系という概念を導入し、これまでは解明が難しかった自然現象や生命現象を新たなアプローチで解き明かそうとするものである。具体的には、それぞれの動作は単純だが、それらが集団となって行動するときに創発的な複雑な振舞いを見せるような系について、新たな科学での方法論について学ぶ。

【到達目標】

複雑系は比較的新しい学問分野であり、単純な動きをする多数のエージェントによる少ない資源をめぐる競争において、フィードバックにより相互に影響を及ぼし合いながら形成される複雑な系（ネットワーク）としてシステムを捉える。複雑系の中にどのような普遍性があるのかを理解することを一つの目標とする。さらに発展的な目標として、現実あるいは仮想的な世界にどのように応用できるのかについても考える力をつけることが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義はニール・ジョンソンの「複雑で単純な世界」とバラバシの「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」を用いて行う。講義が中心となるが、新ネットワーク理論の中から面白い話題を見つけ各自プロジェクトを設定し、それを NetLogo を用いてプログラムで実現してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	複雑な要素、複雑な現象	1. 複雑性の意味 2. 創発現象の予測は可能か 3. 複雑性だらけの毎日 4. 八つの条件 5. 科学のなかの科学
第 2 週	NetLogo 紹介	1.NetLogo とは何か 2. 簡単な歴史 3.NetLogo の世界 4.NetLogo へのいざない 5. グラフィカルインターフェース 6. プログラミング 7. 例題（シロアリ）
第 3 週	秩序ポケットの出現	1. 秩序と無秩序の間 2. 書類をもとに戻せなくなる 3. 情報のフィードバック 4. 太陽・都市・身体 5. 宇宙と乱雑さ 6. 乱雑だから良いことも 7. 偏りがあるから、予測ができる

第 4 週	カオスとフラクタルをどうとらえるか	1. 複雑系のダイナミックス 2. 規則的な時系列とランダムな時系列 3. 不思議な状況 4. 現実の複雑系をとらえる方法 5. 楽しい音楽、退屈な音楽 7. 宇宙人が子供を観察したら
第 5 週	群衆の行動を予測する	1. 「二者択一」問題 2. 週末の夜の過ごし方 3. 勝者になるとはどういうことか 4. 意思決定の科学 5. 群衆と反群衆 6. 情報は食べ物に似ている 7. 癌や地球温暖化を制御する発想
第 6 週	複雑性とネットワーク	1. 動的ネットワーク 2. つながりはどのような影響を及ぼすか 3. ネットワークの生態学 4. 菌類の「栄養取り回し」モデル 5. 変化の中の変わらぬ構造 6. 公平さと効率のバランス
第 7 週	金融市場の動向を予測する	1. 金融市場はフィードバックだらけ 2. 金融専門家の標準モデルの限界 3. 異なる株式市場がよく似た動きを示すわけ 4. 紙飛行機モデルで十分 5. 暴落の分類学 6. 予測可能ポケットに注目 7. 衝撃にも、よく似た反応
第 8 週	渋滞・情報伝達と最適ネットワーク	1. ルート選びのジレンマ 2. 輸送・供給から経営、人体のネットワークまで 3. 渋滞税の額を変化させる 4. 多重リング・ネットワークのスーパーハブ 5. ハブには適正限界がある
第 9 週	理想のパートナーと出会う	1. 四つの障害 2. 放射性崩壊と交際の進展 3. うまくいく出会い方 4. 万人のパートナー 5. 生まれ変わり 6. 監視役による防衛戦略
第 10 週	戦争やテロの法則	1. 似てくるテロ、内戦、国家間戦争 2. 最悪のケースを考えて立案せよ 3. 反乱のメカニズム 4. テロと戦争の複雑系モデル 5. 攻撃のパターン
第 11 週	感染症、癌を如何に抑えるか	1. 生まれながらの殺し屋 2. 蔓延の鍵は、ネットワーク構造 3. コミュニティの相互作用 4. がんの有効な治療法 5. 最良の防御戦略とは

第12週 自然と量子ゲーム
絆 (1)

- 自然と量子ゲーム
1. 量子の不思議な振る舞い
 2. 複雑性の根源
 3. 光合成エネルギー利用の太陽電池
 4. 量子ゲーム・量子装置
 5. 誤差を組み合わせ、誤差を最小に
- 絆 (1)
1. 六次のつながり
 2. 弱い絆の強さ
 3. クラスタリング係数
 4. エルディッシュ数
 5. ワッツ=ストログッツのモデル

第13週 絆 (2)

6. ハブとコネクター
7. 放射性崩壊と交際の進展
8. 80 対 20 の法則
9. べき乗則
10. スケールフリー

第14週 絆 (3)
適応度モデル
まとめ

- 絆 (3)
11. 相転移
 12. 自己組織化
 13. ネットワークは成長する
 14. 優先的選択
 15. 金持ちはもっと金持ちに
- 適応度モデル
最近の研究動向の紹介
まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

講義資料を元にした酒匂資料を講義後に配布するので、講義中にとったノートとその内容の双方を確認しながら復習をすること。

課題やレポートが出たものについては必ずメ切までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

特にテキスト、参考書は指定しない。講義内容はスライドで提示し、講義を進めるのでノートを取ること。

講義後にスライドを元にした参考資料を CIS Moodle から提供する。

【参考書】

参考文献

「複雑で単純な世界」 ニール・ジョンソン (著), 阪本 芳久 (翻訳)

「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」 アルバート・ラズロ・バラバシ (著), 青木 薫 (翻訳)

Wilensky, Uri; Rand, William. An Introduction to Agent-Based Modeling: Modeling Natural, Social, and Engineered Complex Systems with NetLogo (MIT Press)

「ガイドツアー 複雑系の世界」メラニー・ミッチェル

「つながり 社会的ネットワークの驚くべき力」ニコラス・A・クリスタキス／著 ジェイムズ・H・ファウラー／著 鬼澤忍／訳

「スモールワールド・ネットワーク 世界を知るための新科学的思考法」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 辻 竜平 (翻訳), 友知 政樹 (翻訳)

「スモールワールド ネットワークの構造とダイナミクス」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 栗原 聡 (翻訳), 福田 健介 (翻訳), 佐藤 進也 (翻訳)

「複雑な世界, 単純な法則 ネットワーク科学の最前線」マーク・ブキャナン, 阪本 芳久

「複雑ネットワークの科学」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)

「複雑ネットワークとは何か複雑な関係を読み解く新しいアプローチ」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)

「SYNC」ステイーヴン・ストログッツ

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 80%, 課題レポートを含む平常の学習状態や授業への積極を 20%の配分で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【その他の重要事項】

本講義で取り扱うのはグラフに基づく理論的なネットワークで、インターネットやイントラネットなどの実際に稼働しているネットワークの制御・運用等の技術に触れるものではないので、科目選択においては注意すること。

本講義は担当教員の企業での情報科学・ネットワーク科学に関する研究・開発の経験を元に複雑系やネットワーク科学に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

This course introduces a knowledge and technologies related network science. Network science is a new research area based on the graph theory, that is used to express the problems of complex systems. Students are expected to expand their knowledge and to understand new area of the computer science topics during this lecture.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	オブジェクト指向データベースおよびまとめ	オブジェクト指向の概念と、その管理について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門

増永良文著

サイエンス社

(2006)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポート、授業内試験、および定期試験

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline and objectives】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

HUI213KA-CS-221

人工知能

藤田 悟

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を習得します。
人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。
計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方と、古典的な実現手法を学びます。
例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでももらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か	本講義全体で学ぶ概要について説明します。 人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景についての知識を学びます。
第 2 回	知識表現	知識にはどのような種類があり、それをどのように表現するかを学びます。 特に、論理式表現 (命題論理、述語論理) による知識について深く学びます。
第 3 回	手続的知識	代表的な手続的知識として、プロダクションシステムを学びます。 エキスパートシステムの考え方を学びます 意味ネットワーク、スクリプトなどの知識表現についても学びます。
第 4 回	推論	3 種類の推論 (帰納、仮説、演繹) を学びます。 前向き、後ろ向き推論の違いを学びます。

第 5 回 確率推論

意味ネットワーク、フレームに確率を用いた推論方法を学びます。
ベイズの推論の基礎を学びます。
ファジー推論、事例ベース推論についての知識を学びます。ついて学びます。
文脈を表現するスクリプトについて学びます。

第 6 回 探索

探索の定式化について学びます。
探索のグラフ表現を学びます。

第 7 回 深さ優先・幅優先探索

深さ優先探索について学びます。
幅優先探索について学びます。

第 8 回 中間試験

本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。

第 9 回 ヒューリスティック

山登り法について学びます。
A* アルゴリズムについて学びます。

第 10 回 ゲーム木探索

2 人プレイヤーのゲームについて、MIN-MAX 法や α β 枝刈りなどの

探索手法を学びます。

第 11 回 制約充足問題

四色塗り分け問題について考えます。
制約充足問題としての定式化を理解します。

第 12 回 学習と決定木

機械による学習の手順について学びます。
一般化という考え方を学びます。
ID3 決定木を紹介します。

第 13 回 ニューラルネットワーク

ニューラルネットワークの基礎を学びます。

第 14 回 まとめ

人工知能についての最近の話題も含めて、研究動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

人工知能入門 - 歴史、哲学、基礎・応用技術 -
J. フィンレー、A. デイックス
サイエンス社、2006 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
中間試験 40%
期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用 (任意項目)
ネットワークを利用
演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline and objectives】

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thinkings by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are four of the most important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence, and take practices for using the echnologies.

FRI13KA-CS-232

コンピュータグラフィックス

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックスは、コンピュータサイエンスにおける情報可視化技術の中でも最も高度に進化し、商業的にも一定の成功を収めている技術である。授業ではコンピュータグラフィックスを理解するために必要な概念、数学、アルゴリズムを紹介しながら、コンピュータグラフィックス全般について講義を行う。

【到達目標】

CG の基本 3 要素であるモデリング、レンダリング、アニメーションについて理解し、簡単なプログラムを作成し、実際に CG を生成できるようになることを目標とする。本講義を通して CG 技術の全体像を理解することがテーマである。学生は、講義内容を実際に実装することで、より正しく深く理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習、プログラミングを行う。プログラミング言語は Processing と Python を用いる。レイトレーシングソフトウェアとして POV-Ray を用いる。必要に応じて WebGL も用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、CG とは	モデリング、アニメーション、レンダリングの概要
2	カメラモデル	平行投影、射影変換、クリッピング
3	2 次元座標変換	2 次元座標系、アフィン変換、同次座標
4	3 次元変換	3 次元座標系、同次座標
5	ビューイングパイプライン、描画パイプライン	モデリング変換、視野変換、投影変換、クリッピング
6	形状モデル・ポリゴン	ワイヤーフレーム、サーフェース、ソリッドモデル
7	曲線・曲面	2 時曲線、パラメトリック曲線/曲面
8	ボリウム表現	ボクセル、メタボール
9	隠面消去	スキャンライン法、Z バッファ法、レイトレーシング法
10	シェーディング	シェーディングモデル
11	テクスチャマッピング	テクスチャマッピング、アンチエイリアシング、バンプマッピング
12	アニメーション	キーフレーム、手続き型アニメーション
13	物理シミュレーション	剛体・弾性体・衝突判定
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じて PC でのプログラミングも行う。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コンピュータグラフィックス 改訂新版, CG-ARTS 協会, 2015, 税抜 3,600 円 (電子版もあり)

【参考書】

コンピュータグラフィックス全般を体系的に学びたい学生は下記のテキストが良い。

Steve Marschner and Peter Shirley, Fundamentals of Computer Graphics, Fourth Edition, CRC Press, 2015.

John F. Hughes and et al., Computer Graphics: Principles and Practice, 3rd Edition, Addison-Wesley Professional, 2012.

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (50%), 中間・期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

講義と演習のバランスを取る。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使う。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での医療用画像処理や三次元映像技術、バーチャルリアリティに関する研究開発の体験を元に実践的なコンピュータグラフィックスに関する講義を行う。

事前に、CG のための幾何学を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

Computer graphics is one of the most advanced information visualization technologies in computer science. In the course, I'll introduce concepts, mathematics and algorithms necessary for understanding computer graphics, and lecture on computer graphics in general.

パターン認識と機械学習

若原 徹

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータによるパターン認識と機械学習の基礎となる、統計的パターン認識および Deep Learning の考え方とその適用法を学ぶ。

【到達目標】

統計的パターン認識における生成モデルと識別モデルに基づくアプローチを理解し、それぞれの特長を説明できる。機械学習の代表的な手法である Deep Learning の基礎理論を理解し、具体的実装法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

まず、バイズの定理と誤り確率最小化に基づく統計的パターン認識の考え方を導入する。次いで、生成モデルに基づくアプローチを説明し、中心的課題である確率密度関数推定のための代表的手法を紹介する。さらに、識別モデルに基づくアプローチを説明し、線形識別関数法から、単層パーセプトロン、さらに多層パーセプトロンを紹介する。授業後半では、Deep Learning を取り上げ、理論を学びながら、Python プログラミングを用いて畳み込みニューラルネットワークの実装を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	統計的パターン認識の考え方	クラスと特徴の結合確率、バイズの定理と事後確率
第 2 回	バイズ決定理論	誤り確率最小化、最適な決定領域、生成モデルと識別モデル
第 3 回	確率密度関数の推定 (1)	パラメトリックな方法としてのガウスモデルと最尤法
第 4 回	確率密度関数の推定 (2)	ノンパラメトリックな方法としてのカーネル法
第 5 回	識別モデルに基づく識別関数法	線形識別関数による 2 クラスと多クラスの分類
第 6 回	ニューラルネットワーク (1)	単層パーセプトロンから多層パーセプトロンへ
第 7 回	ニューラルネットワーク (2)	多層パーセプトロンの写像能力と学習法
第 8 回	Deep Learning(1)	Python プログラミング環境の設定とパーセプトロンの実装
第 9 回	Deep Learning(2)	各種活性化関数とニューラルネットワークの実装
第 10 回	Deep Learning(3)	各種損失関数を用いた学習アルゴリズムとその実装
第 11 回	Deep Learning(4)	誤差逆伝播法とその実装
第 12 回	Deep Learning(5)	学習に関する様々な技法の実装
第 13 回	Deep Learning(6)	畳み込みニューラルネットワークとその実装
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列の演算）の復習
- [3] 指数関数や対数関数の微積分の復習
- [4] Python プログラミングの復習
- [5] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬洋著：「わかりやすいパターン認識（第 2 版）」、オーム社、2019 年。
- [2] C. M. Bishop, "Neural Networks for Pattern Recognition", Oxford University Press, 1995.
- [3] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [4] 金谷健一著：「これなら分かる応用数学教室－最小二乗法からウェーブレットまで－」、共立出版、2003 年。
- [5] 斎藤康毅著：「ゼロから作る Deep Learning」、オライリー・ジャパン、2016 年。
- [6] F. Chollet 著、巢籠悠輔監訳：「Python と Keras によるディープラーニング」、マイナビ出版、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20 %、期末試験 60 %、平常点 20 % で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] 数式が難解であるため、考え方の基本から丁寧に説明を行う。
- [2] 講義が一方通行にならないように、質問時間を十分に取る。
- [3] プログラミングによる実装により、理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。

【その他の重要事項】

本講義は、担当教員の NTT 研究所での文字・画像認識に関わる研究実用化の経験を元に、パターン認識と機械学習に関する基礎から応用に渡る幅広く深い内容を含む。

【Outline and objectives】

This course deals with pattern recognition and machine learning by computer. First, students learn two major approaches based on generative model and discriminative model, respectively, from the viewpoint of statistical pattern recognition. Second, the new and powerful concept of "Deep Learning" is introduced and explained in detail. Students learn how to apply deep learning techniques to practical pattern recognition problems by means of Python programming.

HUI312KA-CS-331

ディジタル信号処理

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がディジタル化する時代において、ディジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やディジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。

学生は、アナログ信号処理とディジタル信号処理の基本原理が理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱いできるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 z 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、ディジタル信号処理の基本的な処理を Python で実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、Python や MATLAB を用いたプログラミング演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とディジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換、逆 z 変換、 z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム 1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム 2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	ディジタル IIR フィルタ	インパルス不変
13	FIR フィルタ	FIR フィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。

1. 萩原 将文, ディジタル信号処理 第 2 版, 森北出版, 2014.

2. 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.

【参考書】

1. 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
2. 原島 博, 信号解析教科書 - 信号とシステム -, コロナ社, 2018.
その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み・演習 (10%), レポート課題 (10%), 期末試験 (80%).

【学生の意見等からの気づき】

理解度を高めるために、演習を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノート PC を必要とする。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での医用画像処理や三次元映像技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング (MATLAB)、微積分法の応用: フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。
また、積分法の基礎と応用、複素関数論 1, 2, 交流回路と電磁波: 周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

【Outline and objectives】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

画像処理

小池 崇文

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究を含め様々な場面で画像処理を適切に使えるように習熟する。

【到達目標】

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせで各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。また、画像処理は、信号処理技術の応用であることを理解し、学問的な繋がりや信号処理の理論的な基礎の理解を確かなものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるように、なるべく多くの問題を解くような形式とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2 値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理 1	テクスチャと同時生起行列
11	領域処理 2	領域分割処理手法について
12	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
13	図形要素の検出	ハフ変換などの紹介
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じて PC でのプログラミングも行う。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

奥富編：デジタル画像処理（改訂第二版）、画像情報教育振興協会、2015。

ISBN 978-4-903474-64-9

【参考書】

教科書の巻末に参考図書・文献が載っているが、必要に応じて、講義内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (50%)、期末試験 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使う。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

MS コース以外の学生であっても、プログラミング (MATLAB) やデジタル信号処理を履修していることが望ましい。
行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでみることを勧める。

本講義は担当教員の企業での医用画像処理や三次元映像処理技術に関する研究開発の体験を元実践的な画像処理に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.

HUI312KA-CS-334

音声情報処理

伊藤 克亘

必修区分： | 配当年次／単位：年次／2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声コンピュータで扱う基礎的な能力を身につけることを目標とします。

コンピュータを使うと、音声を生成したり、取り込んだ音声を加工できます。これらを可能にする技術がデジタル信号処理です。本講義では、まず、音声の発声方法や聴覚特性に基づく音声のモデル化手法を紹介しします。

次に、その技法を用いて実現できる音声処理の技法のいくつかの例を取り上げます。

最後に、音声処理の応用技術として、音声関係の web/cloud API を紹介しします。

【到達目標】

MATLAB を用いてデジタル音声処理の技法を活用できる。
音声関係の web/cloud API を利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

役立つ技能の習得のために、取り上げる技法はプログラミングと関連付けて紹介します。また、実際の音声データを扱います。プログラミングを簡単にするために MATLAB を利用します。API は python で利用することを想定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要/基礎知識確認/MATLAB 復習/代表的な音声アプリケーション/音声とは
2	母音の生成	母音の音声波形の観察/母音の発声機構/母音発声の物理モデル/声道フィルタを用いた母音の合成
3	母音と子音の発声	母音の分類/子音の分類/ホルマントと調音位置
4	音声の聴取	人の聴覚系/蝸牛/聴覚尺度/メルスペクトル
5	音声の分解	音韻の分析/ケプストラム
6	音声の分析	聴覚末梢神経系における音声情報処理/プリエンファシス/時間方向の分解/対数変換/メル周波数スケール変換/音声スペクトルのピーク強調
7	母音の認識	ホルマントと母音/ホルマントの多様性/正規分布によるモデル化/多次元正規分布/GMM
8	音節の認識	日本語の子音の体系/MFCC による音韻の認識
9	簡単な音声合成	モデルベースの合成法/波形ベースの合成法
10	韻律の認識	日本語のイントネーションとアクセント/歌声の f0/ピッチ検出
11	音節の系列の認識	音声情報の時間スケール/調音結合とホルマント遷移/デルタパラメータ
12	音声対話とさまざまなアプリケーション	音声の伝搬と知覚/音声区間検出

13 アプリケーションの例 音源分離

14 まとめ 全体の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

授業外には、予習課題および復習課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

配布する資料に基づいて講義を進める。

【参考書】

書名： Theory and Applications of Digital Speech Processing

著者名： L. R. Rabiner, R. W. Schafer

出版社： Pearson

出版年： 2011

【成績評価の方法と基準】

講義内の課題、最終課題、定期試験を総合して決定する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム、web ページ、ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

「プログラミング (MATLAB)」(旧カリキュラムでは「デジタルデータ処理」)「デジタル信号処理」「統計学 2」を履修していることを期待する。また、「音と光」「情報理論」「パターン認識と機械学習」「科学技術計算」「オペレーションリサーチ」を並行して履修することが望ましい。また、できれば、「画像処理」も並行して履修することが望ましい。

詳細は web ページにも掲載します。

<http://www.slp.k.hosei.ac.jp/~itou/lecture/2018/SpeechProcessing/index.html>

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB がインストールされているか確認しておくこと。

アンインストールしていない限り、2011 年度以降 2016 年までに入学した学生用の貸与 PC にはインストールされている。インストールされていない学生のためのインストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。 <http://software.k.hosei.ac.jp/others/student.pdf> (後者のファイルは、VPN を使わないとアクセスできない)

本講義は担当教員の国立研究機関での音声に関する研究の経験を元に行う。

【Outline and objectives】

We aim to acquire the fundamental ability to handle speech with computers.

With a computer, you can synthesize speech and process the recorded speech. The technology that enables these is based on digital signal processing.

In this lecture, we will first introduce the modeling method of speech based on the method of generating speech and/or auditory characteristics. Students will try some examples of speech processing techniques that can be implemented using that technique.

Finally, we introduce the web / cloud API related to speech as application technology of speech processing.

GEO100CA

地理学Ⅱ

朴 琮玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学のモデル—都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地帯モデル	多核心モデルと三地帯モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	企業の海外進出行動と地理学 1	企業地理学について解説し、日本企業の海外進出の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。

14 地理学の応用と課題 応用地理学と地理学の課題を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】

レポート (10%)、小テスト (35%)、平常点 (5%)、定期試験 (50%) などにより総合的に評価する。また、緊急事態宣言の影響で、資料配信形のオンライン授業を行う間は、毎週、小テスト、レポートや課題提出によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned, In addition, geographic analytical skills as well as geographic theory will be acquired.

PHY100CA
物理学 A
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月27日（月）とする。受講を希望する人は、4月30日（木）までには学習支援システムにアクセスし、授業内容などを確認すること。

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなからできて いるか	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の4種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	二重スリット実験	素粒子の二面性を示す二重スリット実験について理解する
13	放射線	放射線とはどのようなものかを理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業内に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の実施により、変更となりました。

・毎回のオンライン課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用すべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月27日（月）とする。受講を希望する人は、4月30日（木）までには学習支援システムにアクセスし、授業内容などを確認すること。

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなからできているか	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の4種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	二重スリット実験	素粒子の二面性を示す二重スリット実験について理解する
13	放射線	放射線とはどのようなものかを理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業内に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の実施により、変更となりました。

・毎回のオンライン課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学Ⅱ

藤田 貢崇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がこれまで明らかにできない点は何であるのかを理解します。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術の発展と課題	科学技術の発展に伴って、現代社会にどのような問題が生じたかを考える
2	中間子	中間子について理解する
3	反物質	反物質の構成について理解する
4	素粒子を並べる	素粒子をグループ化し、法則性を理解する
5	粒子のカラー	素粒子の特性であるカラーを理解する
6	質量の正体	質量の実態について理解する
7	弱い力	素粒子論で考えられている、弱い力について理解する
8	対称性	対称性について理解する
9	ヒッグス場	ヒッグス場やヒッグス粒子について理解する
10	ニュートリノ	ニュートリノの特徴について理解する
11	対称性の破れ	対称性の破れと、それがもたらす物理学的な意義を理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業中に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

期末試験（秋学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PHY100CA
物理学 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術の発展と課題	科学技術の発展に伴って、現代社会にどのような問題が生じたかを考える
2	中間子	中間子について理解する
3	反物質	反物質の構成について理解する
4	素粒子を並べる	素粒子をグループ化し、法則性を理解する
5	粒子のカラー	素粒子の特性であるカラーを理解する
6	質量の正体	質量の実態について理解する
7	弱い力	素粒子論で考えられている、弱い力について理解する
8	対称性	対称性について理解する
9	ヒッグス場	ヒッグス場やヒッグス粒子について理解する
10	ニュートリノ	ニュートリノの特徴について理解する
11	対称性の破れ	対称性の破れと、それがもたらす物理学的な意義を理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業中に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

期末試験（秋学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PHY100CA

物理学 I

藤田 貢崇

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は 4 月 27 日（月）とする。受講を希望する人は、4 月 30 日（木）までには学習支援システムにアクセスし、授業内容などを確認すること。

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなからできているか	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の 4 種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	二重スリット実験	素粒子の二面性を示す二重スリット実験について理解する
13	放射線	放射線とはどのようなものかを理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業内に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の実施により、変更となりました。

・毎回のオンライン課題の提出 【50%】

・最終課題の提出 【50%】

の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA
物理学 A
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の開始日は4月27日（月）とする。受講を希望する人は、4月30日（木）までには学習支援システムにアクセスし、授業内容などを確認すること。

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなからできて いるか	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の4種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	二重スリット実験	素粒子の二面性を示す二重スリット実験について理解する
13	放射線	放射線とはどのようなものかを理解する
14	科学技術が果たす役割	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業内に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業の実施により、変更となりました。

・毎回のオンライン課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA
物理学 B
藤田 貢崇
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

【到達目標】

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識するような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	科学技術の発展と課題	科学技術の発展に伴って、現代社会にどのような問題が生じたかを考える
2	中間子	中間子について理解する
3	反物質	反物質の構成について理解する
4	素粒子を並べる	素粒子をグループ化し、法則性を理解する
5	粒子のカラー	素粒子の特性であるカラーを理解する
6	質量の正体	質量の実態について理解する
7	弱い力	素粒子論で考えられている、弱い力について理解する
8	対称性	対称性について理解する
9	ヒッグス場	ヒッグス場やヒッグス粒子について理解する
10	ニュートリノ	ニュートリノの特徴について理解する
11	対称性の破れ	対称性の破れと、それがもたらす物理学的な意義を理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る
14	科学技術の未来	科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は授業中に指定する。

【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

【成績評価の方法と基準】

期末試験（秋学期末）を実施する【100%】。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録すること。

【その他の重要事項】

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

BSC100CA

Basic Science for Global Environment A

山崎 友紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 4/Tue.4 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development
WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Midterm Exam./ Human Population; Ch.8	Presentation and Essay/Demography, Population and Society

WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate
WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management
WEEK 14	Final Examination	Paper Test, Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Homework, Essays, Quizzes, Presentations, etc.(30%), Final Exam(50%)

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

【Outline and objectives】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

BSC100CA
Basic Science for Global Environment A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development
WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Midterm Exam./ Human Population; Ch.8	Presentation and Essay/Demography, Population and Society
WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate

WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management
WEEK 14	Final Examination	Paper Test, Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Homework, Essays, Quizzes, Presentations, etc.(30%), Final Exam(50%)

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

【Outline and objectives】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

BSC100CA
Basic Science for Global Environment B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanization, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Exam./Field Trip	Presentation and Essay/Report
WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel
WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power

WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Final Exam.	Paper Test, Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Homework, Essays, Quizzes, Presentations, etc.(30%), Final Exam(50%)

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

【Outline and objectives】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

BSC100CA

Basic Science for Global Environment B

山崎 友紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 4/Tue.4 | キャンパス：多摩 / Tama
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanization, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Exam./Field Trip	Presentation and Essay/Report
WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel

WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power
WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Final Exam.	Paper Test, Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

【参考書】

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Homework, Essays, Quizzes, Presentations, etc.(30%), Final Exam(50%)

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

【Outline and objectives】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版

鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社

西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社

西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
 林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
 小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 %を超える』PHP 研究所
 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
 川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
 畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
 『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社
 『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

SES300CA
地球環境論 A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	VTRと演習	参考となるビデオ観察、グラフを用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習と演習	春学期全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は授業支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取り組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおりに）

【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline and objectives】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA
地球環境論 B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容、計画、評価方法、テキストの紹介。環境とは何か、エコとは何か
2	生態系	生態系と生物多様性、里地・里山の役割
3	資源とエネルギー	エネルギーとは何か。化石燃料を中心とした問題
4	非化石燃料と核燃料	発電および動力源としてのエネルギー資源
5	非金属資源と金属資源、生物資源	各種資源の地球規模、日本国内規模での問題
6	原子力発電	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
7	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
8	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
9	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
10	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
11	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
12	食品と環境	食品汚染、農業問題、毒とは何か
13	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
14	環境と経済・総復習	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。演習を交えた総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1) 『地球環境学入門 第2版』 山崎友紀 （講談社サイエンティフィク）2800 円

【参考書】

1) 『環境・エネルギー・健康 20 講』 今中利信・廣瀬良樹（化学同人）

2) 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』 Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

【成績評価の方法と基準】

授業内でレポートや小試験 (40%) を行い、期末筆記試験 (60%) を行う。合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。

【学生の意見等からの気づき】

理料系科目の苦手な学生も理解できるように努める

【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に授業支援システムが使える環境。

【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないよう配慮します。

【Outline and objectives】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
- ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
- ③M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。

講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べる事が出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

GW明けを予定しています。

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline and objectives】

This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.

1.To understand the function and role of the financial products on the market.

2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.

3.To understand the current trend of the market such as M&A. We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

CAR100EA

職業社会論

依田 素味

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

職業社会を大きな視点からとらえ、職業に就くとはどういうことかについて探ります。入門的な授業として、職業と社会のかかわりについて理解することを目的とし、自分なりの職業観を思考します。

【到達目標】

- ①職業キャリアを考える入口として、働く社会全体を俯瞰することができる。
- ②様々な職業キャリアの在り方について概説することができる。
- ③自分自身の課題意識を明らかにし、新・社会人基礎力をキーワードとして客観的視点を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

◆春学期スタート後、しばらくはオンラインでの開講となります。
本授業の第一回は 4 月 21 日 (火) とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

【1 当初の予定】

レジュメに沿って講義を行い、必要に応じて資料を配布します。レジュメは、Web 上の授業支援システムにアップしますので、授業前に各自プリントして予習し、授業の時に必ず持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	職業社会と自分自身	イントロダクション、職業と仕事
2	職業社会に関する諸定義	ライフキャリアとワークキャリア
3	社会の変遷と職業	AI 化による職業の変化
4	雇用という職業生活Ⅰ	多様な働き方の概観
5	雇用という職業生活Ⅱ	雇用の歴史的概観
6	雇用という職業生活Ⅲ	正規雇用と非正規雇用
7	新・社会人基礎力	社会人として求められる力
8	公務員という職業生活	国や自治体で働く
9	自営という職業生活	商店経営などで働く
10	職業生活と地域社会	地域コミュニティの関係
11	キャリアデザイン	個人のキャリア形成
12	教育訓練	職業人生を磨く
13	職業社会に関する今日的課題	「働き方改革」とは
14	職業社会のまとめ	【グループワーク】により他者の考え方を共有する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分を取り巻く職業社会に目を向け、テーマに基づき自ら課題を発見し、【レポート】として提出します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

『就職活動から一人前の組織人まで』上西充子・川喜多喬編 同友館 2010 年
『人材育成 キーワード 99』川喜多喬・依田素味著 泉文堂 2008 年

【成績評価の方法と基準】

◆春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績の方法と基準も変更がありえます。その場合は、学習支援システムで提示いたします。

【1 当初予定】

- ①期末試験 60% (講義で学んだことが最終的に理解できているかどうか)
- ②中間レポート 20% (理解度を確認する)
- ③授業内レポート 20% (積極的な授業参加の状況が評価の基準)

【学生の意見等からの気づき】

大規模教室の講義でも、学生のみなさん一人一人と双方向のコミュニケーションが図れるように、個別の質問を受け付ける時間も設定します。

【その他の重要事項】

- ①私語、遅刻については、厳しく注意を促します。
- ②授業内の取り決め詳細は「第一回目の講義」の時に伝えますので、必ず出席してください。
- ③1 年次から受講できる視野形成科目です。就職活動に関して情報提供は行いますが、そのためのスキルを身につけることを第一の目的とした科目ではありません。

④オフィスアワーは、授業後に受け付けます。

⑤社会学部を卒業し、企業経験を経て研究者となった教員が、「働く社会」について講義します。

【Outline and objectives】

We will view the occupational society from wide viewpoint, and we will inquire what it means to hold an occupation.

As an introductory lesson, we aim to understand the relationship between occupation and society, and think about our own occupational views.

PRI100EA

コンピュータ入門

湯本 正実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

【Outline and objectives】

Understand basical operations for using Windows PC

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実作業上確実に役立つコンピュータについての知識をゼロから体系的に学習する。パソコンと、スマートフォンや PDA（携帯情報端末）との共通点や相違点についても理解する。

【到達目標】

Windows パソコン全体の使い方。および、Word、Excel、PowerPoint の一通りの操作、およびネットワークの概要についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

パソコンでの実操作を通して、コンピュータがどうやって動くか、コンピュータは何か得意で何が不得意かを体系的に学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部、および Windows 基本 1	・ Windows 基本操作 電源 On、ログオン、アプリ起動、電源 Off までの一連の操作
第 2 週	Windows 基本 2	・ 改めてキーボードを見直す（両手を使うこと！） ・ ドライブ、フォルダ、ファイル操作
第 3 週	電子メール	・ 送受信の基本方法 ・ 転送/返信/CC/BCC の使い方
第 4 週	Word：文書作成ソフト	・ 文書の構造を考える ・ フォーマットに沿って文書作成を行う
第 5 週	PowerPoint：発表用資料作成ソフト	・ まず作ってみる ・ 更に凝ったものを作る機能
第 6 週	Excel(1)：計算表用のソフト。一番飯のタネになるアプリ	・ 基本操作：サンプル表の作成 ・ 何を選択しているかの識別 ・ ブックとシート
第 7 週	Excel(2)：ちょっと踏み込んだ操作	・ 書式指定：ややこしいけれども案外大切 ・ 関数の一部の使用
第 8 週	Excel(3)：こんなこともできます	・ ちょっと複雑な関数の使い方
第 9 週	Web についての基本知識	・ 超入門：HTML(Web ページの記述)
第 10 週	各アプリを組み合わせて文書作成	・ PowerPoint に Excel/画像等を組み込んでみる
第 11 週	覚えておくと便利なこと	・ Word, Excel, PowerPoint 等の共通操作について
第 12 週	Web の明と暗、学習および学習棄却	・ 慣れ親しんだ知識との決別も必要 ・ メディア・リテラシーおよびコンピュータ・リテラシー
第 13 週	不明点の確認および課題資料の作成	・ 構想を練る & 草稿作成
第 14 週	課題の完成	・ 最終版作成 + 提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 大学の実習室での授業が実施出来ない期間は、課題提出をもって出席とみなす。

・ 授業時間外での質問等は基本的に電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・ 実習室での授業が実施出来ない期間は基本的に課題点により評価する。
・ 質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

・ 毎回の授業で必ず覚えてプラスになるものがあるように工夫する。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

COT100EA

プログラミング入門

湯本 正実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 5/Tue.5

【Outline and objectives】

Understand basic knowledge for programming

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミングについての基礎知識を包括的に理解する。千里の道も一歩から。

【到達目標】

簡単なプログラミングをサンプルを見つけて作成できるレベルを達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

Processing および Java 言語のサンプル・プログラムの一部を改変することにより、徐々に共通にプログラミングに存在する勘所を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 週	導入部	・プログラミング言語の歴史および 衰勢 ・サンプル・プログラムの説明
第 2 週	導入部の続き 描画（グラフィックス）	・コメントとは？ 実は重要 ・数値データと文字データという融通 の利かない概念について ・絵を描いてみる
第 3 週	マルチメディアおよび Java 言語	・音を出してみる ・動画を動かしてみる ・Java 言語 と Eclipse の紹介
第 4 週	演算	・定数、変数という概念。コンピュータは察してくれない。日本語をゴミと扱うことさえある。 ・数値データの算術操作
第 5 週	数値の表現および文字 コードについて	・10 進以外の数値表現 ・文字コードの概念：文字の数値との紐付け、複数のコード体系
第 6 週	条件分岐 (1)	・if 文という概念。プログラミング言語間での共通記述
第 7 週	条件分岐 (2)	・else 文：もはや英語とは言えない ・switch 文。if 文以外にこれが必要となる「ケース」
第 8 週	繰り返し処理	・for, while 文という概念。プログラミング言語間での共通記述
第 9 週	データの扱い	・文字&数値データ
第 10 週	配列	・配列って何？ ー 具体例と操作方法
第 11 週	人間との「対話」	・キーボード入力を処理に反映させる
第 12 週	Java と Eclipse	・これであなたもエンジニアの一歩目！
第 13 週	提出課題の準備	・Processing または Eclipse を使って自由にプログラミングを動かしてみる
第 14 週	課題提出	・課題を仕上げて提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・欠席した場合は、前回の講義内容を授業支援システム等から入手の上自主的に学習すること。
・授業時間外での質問等は基本的に電子メールで受け付ける。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

参考ウェブページも含めて講義時に随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (50%) + 課題点 (50%) で評価する。
・質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。
・提出課題は、見つけたものの流用で良いが、内容を概括的に理解すること。

【学生の意見等からの気づき】

・途中で「ついていけない」と悲観しないでください。分野分野によって、得手不得手が出るのは当然のことです。
・また、長期的に見ると、知らない内に得意分野になっていることもあります。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

SOC100EB, SOC100EC, SOC100ED

メディア社会学への招待

藤田 真文

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は 2017 年度以前入学者用の授業です。
初回授業は 4 月 21 日（火）2 限から学習支援システムで教材の配布を開始します。
人間・社会・メディアの関係について考える。

【到達目標】

学生が、メディアについて自ら思考し、想像力を鍛え、そこからメディアについて認識し、表現していくための手がかりをつかむことできている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

今年度本授業は、履修者が比較的小数であることが予想されます。ゼミ形式で、履修者のレジュメ報告を中心に進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
01 回	授業の進め方	オリエンテーション
02 回	メディア社会論とは	メディア社会論の基礎を考える
03 回	メディアの歴史	メディアの歴史について考える
04 回	インターネットの歴史	インターネットの歴史について考える
05 回	メディアと人間関係の構築	メディアと人間関係の構築について考える
06 回	モバイル社会前史	モバイル社会前史について考える
07 回	モバイル社会の意味	モバイル社会の意味について考える
08 回	モバイルと居場所	モバイルと居場所について考える
09 回	コンテンツ・メディア前史	コンテンツ・メディア前史について考える
10 回	テレビと大衆文化	テレビと大衆文化について考える
11 回	メディアと民主主義	メディアと犯罪の関係について考える
12 回	ソーシャルメディアの功罪	ソーシャルメディアの功罪について考える
13 回	デジタルコンテンツの功罪	デジタルコンテンツの功罪について考える
14 回	ネット広告の功罪	ネット広告の功罪について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業項目についてテキストの関連した章を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のレジュメ報告 40% 最終レポート 40% 授業内での発言 20%

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目のためアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

この科目は「2017 年度以前入学生」のための旧カリ科目です。「2017 年度以前入学生」で学科基礎科目が未履修の学生に向けた授業内容となります。
レジュメ報告など授業への積極的な参加が求められる。一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送業界などメディア企業に関する講義に知見を活かしている。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of media sociology.

BSP100EB, BSP100EC, BSP100ED

国際社会入門

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは「国際社会から私へ、私から国際社会へ」。…自分の命は、国際社会の中でどのように生まれ、なぜ大学で学ぶようになったか。その国際社会に向けて、自分の命が続く限り返していけるものは何か。そのために何を学ばばいいか。これらの問いをつきつめて考えるお手伝いをします。

【到達目標】

①自分の人生を、人類史の流れの中で、学問的に振り返る力をつける。②自分の人生の将来について、学問的な見通しをつける。③自分はこの大学で何を学ぶべきか、見通しをもつ。④国際社会で広く議論されている学術的問題を理解し、自分の問題として批判的に捉える力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞ 4 月 22 日開始です。
テキストおよび、担当教員の研究室ホームページからアクセスできる担当教員執筆の論文を受講生全員で分担して報告し、それをもとに全員で議論していきます。受講生は、後述の「授業日誌」を作成しつつ、それをもとに議論に参加します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業説明：国際社会から私へ。私から国際社会へ。	システム論と生活世界論との関連について。受講生によるテキスト報告の分担。
2	グローバル・ベシック・インカム論	テキストの序章について、受講生からの報告、討論。
3	ナミビアの事例。	テキスト第 2 部のナミビア部分の報告、討論。
4	ブラジルの事例。	テキスト第 2 部のブラジル部分の報告、討論。
5	インドの事例。	テキスト第 2 部のインド部分の報告、討論。
6	アラスカの事例。	テキスト第 2 部のアラスカ部分の報告、討論。
7	イランの事例。	テキスト第 2 部のイラン部分の報告、討論。
8	ナミビアでの社会実験報告。	テキスト第 1 部の報告、討論。
9	グローバル資本主義システムと生活世界	テキスト全体について、システムと生活世界との関連の視点からの報告と議論。
10	歴史的不正義と先住民族論	研究室 HP にあるニュージーランド論文をもとに、報告、討論。
11	歴史的不正義とパレスチナ問題（1）	研究室 HP にあるパレスチナ論文をもとに、報告、討論。イスラエル論。
12	歴史的不正義とパレスチナ問題（2）	研究室 HP にあるパレスチナ論文をもとに、報告、討論。パレスチナ論。
13	新部族主義と国家論	研究室 HP にあるシオニズム論文と、新部族主義論文をもとに、報告、討論。授業日誌提出。
14	家族、私有財産あるいは市場、国家を考える。	受講生による授業日誌をもとにする報告と討論。現代社会の生活世界とシステムについての総括討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

以下 5 点を含む「授業日誌」を毎回作成する。①授業内容の要約。②授業内容へのコメント（おもしろかった点、よくわからない点を簡潔に）。③授業に関連して自分で読んだ本や資料の要約。④それへのコメント。⑤自分自身の生活を事例として、生活世界とシステムとの関連について考えたこと。疑問点と今後の研究課題。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正著訳『グローバル・ベシック・インカム入門』明石書店、2016 年、定価 2000 円。
「岡野内正研究室」のホームページからダウンロードできる各種論文（授業計画を参照）。

【参考書】

岡野内正著『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年9月刊行予定。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート—不平等社会が生み出す危険な階級』法律文化社、2016年、定価3000円＋税）。

【成績評価の方法と基準】

授業日誌について、項目①～⑤のそれぞれについて、到達目標①～⑤に照らして、20%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験を活かして、教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class for the beginners on the issues of International Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

PHL200EB, PHL200EC, PHL200ED

環境倫理

島田 昭仁

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：火3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代科学の原点になっている「自由」を理解するためにキリスト教哲学まで遡り「倫理」とは何かを明らかにする。同時に「倫理」は深い悲しみや憤りを共感することから理解しうるものであるから、様々な現実の社会問題を扱い、共感することを学ぶ。

【到達目標】

科学的合理性は「時」の概念から説明されうる。時を理解するうえで「自由」の概念を理解しなくてはならない。またそれを規制する目的で生まれた「公共」が、本来「自由」の中に包摂されるものであったことを理解しなくてはならない。今日の環境問題は、両者の分離に端を発していることに気づくことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回プロジェクターで解説を行い、講義の最後に質疑応答を行う。また毎回の講義でリアクション・ペーパーを配布する。まとめの講義で15分グループディスカッションを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ークロスロードー	寄生、共生、侵略とは何か
2	身近な環境と都市計画	都市計画は環境の敵か味方か
3	エネルギー政策と環境ーダム	ハッ場ダム建設を題材に公共政策とは何かを考える
4	エネルギー政策と環境ー原発	本学の「ゼロエネルギーキャンパスプロジェクト」を題材に
5	エネルギー政策と環境ードイツの選択	ドイツの脱原発政策を題材にドイツ思想について考える
6	交通と騒音ー新幹線公害	新幹線公害問題の社会学における意味
7	生態学における生産者と消費者	ストロマトライトから哺乳類の誕生、農耕民族と侵略民族
8	交通と土壌汚染ー豊洲市場問題	ふたたび「公共」とは何かについて考える。
9	軍事ー沖縄の基地問題	「自由」とは何かについて考える。
10	軍事ー辺野古移転問題	ゲストスピーカーによる講演
11	震災復興ー阪神淡路大震災と東日本大震災の比較	区画整理事業を通して「住民主権」とは何かを考える
12	エコロジーと社会学	エコフェミニズム・フェミニズム論争
13	倫理とは何かーキリスト教と侵略	旧約聖書 申命記7章を考える
14	まとめ ー時を超えるー	科学的合理性を支えている「時」の概念と「自由」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムに毎回のスライドをアップロードするので、各自ダウンロードして予習・復習に役立ててもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。当初は講義録画（ビデオクリップ）をアップする。

【テキスト（教科書）】

テキスト、参考書は授業内に配布する。（購入不要）

【参考書】

・『人間とは何かーその誕生からネット化社会まで』、ボルツ、2009年、法政大学出版局
・『境界線を破る!：エコ・フェミニ社会主義に向かって』、メアリ・メラウ、壽福・後藤訳、1993、新評論

【成績評価の方法と基準】

①期末試験期間のレポート提出による。

②レポート課題は、第14回講義内で示す。

*講義で言及した主題から10項目程度を選び、それに関する講義内容を要約する(30%)、自分の意見とその論拠を記述する(50%)、課題論文についての感想を記述する(20%)の3点である。

③評価基準は、主題把握的確さ、論述の論理一貫性、論拠の妥当性とする。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆっくと、とくに重要事項は何度も説明し、理解習得に努める。

【その他の重要事項】

国や地方自治体の都市計画業務に 25 年間携わった教員が、関連法規や施策の構想から実施までの流れに関する基本的知識を講義する。

【Outline and objectives】

What is the "freedom" which becomes the starting point of modern science? It have to be dated back from Christian philosophy and Greek philosophy to understand those, and then I will find out what is "ethics" clearly.

I deal with the historical investigation, and the practice philosophy which made the real environmental problem the subject. It will be analyzed multilaterally beyond the field scientifically for it. And I'll make it clear what is freedom and public, and "ethics".

ARS200EB, ARS200EC, ARS200ED

演習 1・2

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の学問的業績と向き合って議論することを通じて、現代という時代を生きることと、学問的のものごとを考えることを、受講生ひとりひとりが自分なりに結びつけることができるようにしたい。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることがらについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞ 4 月 22 日開始です。

春学期（4 月初めから 7 月初めまでの 3 か月間）は、ゼミ時間以外の火曜と金曜の夕方に都心で行われる国際系十大学合同セミナーに参加して、国際問題系のテーマに関する合同論文執筆に参加し、他流試合（？）の経験をしてもらいます。夏休み明けくらいに関西の私大のゼミとの合同合宿、11 月には学部研究発表会に参加します。秋学期は、各自のテーマでじっくりとゼミ論文を書いていきます。

以上が大枠ですが、内容については、学びの主体が受講生である以上、受講生と話し合って決めるのが基本だと考えています。受講生によるゼミ運営の自治組織をつくって、連絡網、楽しいことの企画などをやってもらいます。修正提案については、議論しますので、いつでもどうぞ！ さしあたりの提案は、以下のとおりです。

社会科学の古典中の古典である『資本論』を 1 年かけて読む。各自が「ゼミ日誌」を作って、そこに、テキストや討論の要旨、コメントなどを書き込んでいきます。最後の 2 回までに各自の自由論題でのゼミ論文を書き、回覧して相互評価します。同時に、9 月の関西の私大との合同ゼミ合宿での共同報告を準備し、11 月のゼミ研究発表会での共同報告も準備します。

なお例年 9 月及び 2 - 3 月に海外で、その他の時期に国内で、希望者のみが参加するベーシック・インカムに関連する現地調査や学会などに参加するゼミ研修旅行を行っており、参加者はその成果を報告書にまとめて公表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代の学問状況と社会問題	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、報告の順番などの決定。
2	商品論	報告と討論：社会的分業について。
3	貨幣論と資本論	報告と討論：物神性について。
4	労働過程論	報告と議論：人間と自然、人間と人間とのかわり。
5	価値増殖過程論	報告と議論：システムによる生活世界の植民地化。
6	絶対的剰余価値論	報告と討論：搾取への欲望。
7	労働日論	報告と討論：生活世界からみたシステムの論理。
8	相対的剰余価値論	報告と討論：生産力と搾取への欲望。
9	労賃論	報告と討論：システムと生活世界の交錯。
10	単純再生産論	報告と討論：歴史への視点。
11	領有法則の転回論	報告と討論：規範理論。
12	蓄積論	報告と討論：資本家による資本家からの奪い取りの論理。
13	本源的蓄積論	報告と議論：歴史的不正義と正義回復論。
14	資本循環論	報告と議論：資本の流れを見る場合の生産、商品、貨幣という視点のちがいとその帰結。
15	再生産論	報告と議論：二部門分割三価値構成からなる再生産表式に基づく再生産バランスの分析。
16	生産価格論	報告と討論：社会的分業視点から企業間競争をみるということ。

17	利潤論	報告と討論：個別企業の行動論と経営学の地平。
18	利潤率の傾向的低下論	報告と議論：システムの論理。
19	利子生み資本論	報告と議論：近代資本主義システムの歴史的特性。
20	信用論	報告と討論：社会的分業の視点から金融機関を考える。
21	株式会社論	報告と討論：「資本家の共産主義」としての株式会社の歴史的性格。
22	地代論	報告と討論：生産力発展に対する自然的制約の問題。エコロジーの理性論。
23	階級論	報告と討論：階級意識と即自的階級、対自的階級論。
24	金融資本論	報告と討論：銀行の役割の変化。
25	帝国主義論	報告と討論：植民地領有と軍需産業の問題。
26	資本論の歴史理論	報告と討論：19世紀、20世紀、21世紀の変わらなさと違い。
27	資本論の地理学	報告と討論：欧米、ラテンアメリカ、アフリカ、アジアからみた資本論。
28	国家論	トランスナショナル資本とトランスナショナル国家の議論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「ゼミ日誌」を書く。「ゼミ日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、授業での質疑応答と討論の要約とコメント。②各回のテーマに関連して、自分の日常生活、最近読んだ本やニュースなどをもとに考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。また、最終回の2回前までに、自由論題で学術論文形式のゼミ論文を書く。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

カール・マルクス『資本論』（数種類の翻訳があり、インターネットからも入手できます。どれでも大丈夫です。ただし、新しい訳のほうが読みやすく、岩波文庫などの古い訳は読みにくいので古本購入の場合は注意のこと）

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016年、定価2000円プラス税）。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2018年、9月刊行予定）
ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアート』（法律文化社、2016年、3000円プラス税）
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008年、定価777円）

【成績評価の方法と基準】

最終回に提出されたゼミ日誌とゼミ自由論文について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の10大セミナーへの参加を推奨し、「ゼミ日誌」によって活気ある議論のできる関係ができるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習3（卒業論文）

岡野内 正

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8単位
曜日・時限：火1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで各自が大学で研究してきたことを卒業論文としてまとめる作業を行い、最後に完成したものを発表する。

【到達目標】

現代社会の問題に関して、自らが設定したテーマについて、先行研究を調べ、研究状況と到達点を明らかにした上で、独自のデータあるいは見解に基づいて考察を行い、今後の研究課題を問題提起するような、2万字程度の卒業論文を、学術論文の形式をふまえて作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4月22日開始です。
受講生は、簡単な卒論の中間報告を毎回行い、より詳細な報告を順番に行う。卒論作成の第一段階として、春学期末には、論文を完成して、大学の懸賞論文に応募できる水準までもってくる。秋学期は、それをもとに毎回の報告で修正しながら、卒論を作成していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業説明と顔合わせ。ゼミ運営の役割分担。合同ゼミ合宿や学部研究発表会での報告準備などの年間計画、卒論中間報告などの決定
2	卒論構想の検討①受講生からのテーマ報告。	卒論構想の報告と討論（1）
3	卒論構想の検討②参照文献の報告。	報告と討論（2）
4	卒論構想の検討③先行研究の整理について。	報告と討論（3）
5	プレカリアートの時代①階級論。	テキストについての論点提起と議論（1）
6	プレカリアートの時代②新自由主義論。	論点提起と議論（2）
7	プレカリアートの時代③多国籍企業論。	論点提起と議論（3）
8	プレカリアートの時代④権力論。	論点提起と議論（4）
9	グローバル・ベーシック・インカム（GBI）入門①ベーシック・インカム論。	テキストについての論点提起と議論（1）
10	GBI 入門②ナミビアの事例。	論点提起と議論（2）
11	GBI 入門③ブラジルの事例。	論点提起と議論（3）
12	GBI 入門④インドの事例。	論点提起と議論（4）
13	卒論構想の再検討①テーマと章立て。	半期のあいだ進めた作業をもとに、卒論構想の報告と討論（1）
14	卒論構想の再検討②先行研究の整理。	報告と討論（2）
15	ガイダンス	秋学期の計画の詳細を決定
16	卒論の中間報告①テーマと章立て。	夏のあいだに進めた卒論作成の中間報告と討論（1）
17	卒論の中間報告②論理的一貫性。	報告と討論（2）
18	卒論の中間報告③実証性。	報告と討論（3）
19	卒論の中間報告④学術論文という形式。	報告と討論（4）
20	グローバル・ベーシック・インカム構想の射程①	テキストについての論点提起と議論（1）
21	GBI 構想の射程②ベーシック・インカム論	論点提起と議論（2）
22	GBI 構想の射程③開発戦略論。	論点提起と議論（3）
23	GBI 構想の射程④開発援助論。	論点提起と議論（4）

24	GBI 構想の射程⑤多国籍 企業論。	論点提起と議論（5）
25	卒論草稿の検討①テーマと構成。	卒論草稿の報告と討論（1）
26	卒論草稿の検討②論理性と実証性。	報告と討論（2）
27	卒論草稿の検討③先行研究の整理。	報告と討論（3）
28	卒論草稿の検討④学術論文形式。	報告と討論（4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期終了後には、大学の懸賞論文に応募できる水準のものを作成する。11月末までに卒論を完成させる。したがって、授業外の時間を用いて、自分の興味のあるテーマについて資料を集め、ひたすら論文の作成作業をする必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年。
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020 年（刊行予定）。

【参考書】

ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』（集英社新書、2008 年、定価 777 円）

【成績評価の方法と基準】

卒論の学術的水準で成績評価します。学術論文の形式（引用や参照にかかわる注があり、先行研究や研究状況の整理があり、適切な参考文献目録がある）と内容（論理的に首尾一貫している）があれば、単位取得が可能な 60%とし、着想のユニークさ、先行研究の整理の適切さ、フィールドワークや文献調査などの実証的データの新鮮さ、今後の研究課題の提起における発想の豊かさなどの点で加点し、100%で採点します。

【学生の意見等からの気づき】

早めに草稿を完成させ、仕上げていけるように工夫しました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。長年の国際開発・人権 NGO での活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class for academic writing in order to support the participants in writing the graduation Thesis.

ARS400EB, ARS400EC, ARS400ED

演習 3（卒業論文）

大崎 雄二

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国、東アジア地域を対象とし、その社会、文化、政治等について深く考察する。先行研究を十分に踏まえた上で、各自個別のテーマについてさらに綿密に調査、整理し、卒業論文としてまとめる。

【到達目標】

十分な先行研究解題を前提とし、学術論文の作法、技法を駆使しながら、内容の深い学術論文としての卒業論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現代中国、東アジア地域を対象とした地域研究、国際社会研究をテーマとして卒業論文を作成する学生のための演習。定期的な報告と相互学習、議論を重ねながら、個別の論題についてさらに詳しく調査、分析を重ね、最終的には卒業論文としてまとめる。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマの決定（1）	テーマの報告、討論（1）
2	テーマの決定（2）	テーマの報告、討論（2）
3	テーマの決定（3）	先行研究調査、文献解題（1）
4	テーマの決定（4）	先行研究調査、文献解題（2）
5	テーマの決定（5）	論文構想の検討（1）
6	テーマの決定（6）	論文構想の検討（2）
7	経過報告（1）	執筆経過報告（1）
8	経過報告（2）	執筆経過報告（2）
9	経過報告（3）	執筆経過報告（3）
10	経過報告（4）	執筆経過報告（4）
11	経過報告（5）	執筆経過報告（5）
12	経過報告（6）	執筆経過報告（6）
13	経過報告（7）	執筆経過報告（7）
14	経過報告（8）	執筆経過報告（8）
15	中間発表（1）	執筆経過報告（1）
16	中間発表（2）	執筆経過報告（2）
17	中間発表（3）	執筆経過報告（3）
18	執筆経過報告（1）	進捗状況報告（1）
19	執筆経過報告（2）	進捗状況報告（2）
20	執筆経過報告（3）	進捗状況報告（3）
21	執筆経過報告（4）	進捗状況報告（4）
22	形式の確認（1）	形式の細部の確認（1）
23	形式の確認（2）	形式の細部の確認（2）
24	執筆経過報告（5）	進捗状況報告（5）
25	執筆経過報告（6）	進捗状況報告（6）
26	執筆経過報告（7）	進捗状況報告（7）
27	執筆経過報告（8）	進捗状況報告（8）
28	執筆経過報告（9）	進捗状況報告（9）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書 講読指定図書、参考図書その他の書籍について
2. 調査
(1) 図書館にある関連書籍の調査・把握、データベース等の活用
(2) 聴き取り調査、アンケート調査等のさまざまな実地調査
3. 授業支援システム、Blog、BBS 等を利用した時間外の討議、意見交換
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

共有すべき共通テキストがあれば、提示する。

【参考書】

参考文献リストは、個別、テーマ別に可能な限り詳細に提示する。

【成績評価の方法と基準】

十分な先行研究解題、具体的事実の調査、独自の視点の展開等学術論文としての要件を十全に備えた卒業論文であるのかどうか（75 %）、それに参加（10 %）と協働（発表等 15 %）の要素を加え、総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムやその他のインタラクティブな方法で時間外の意見交換等をさらに活発におこなっていききたい。

【その他の重要事項】

履修希望者は、期日までに研究計画書を提出すること。

2019 年度に「演習2」を履修しておらず、「演習3」で初めて履修する学生は、必ず事前にメールで連絡、相談のこと。

【Outline and objectives】

SEMINAR 3 Complete your graduation thesis on your theme.

FRI200EB, FRI200EC, FRI200ED

演習 1

藤田 真文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は 4 月 22 日（水）5 限からオンライン授業を開始します。春学期は、『ギフト』（1997 年放送）というテレビドラマを分析対象にして、物語構造、映像表現、社会的との関わりなど多様な観点からテレビ・テキストの分析を学びます。秋学期は、脚本の書き方、撮影・編集などを学び、ショート・ムービーを制作します。

【到達目標】

テレビドラマを対象にしてマス・メディアのテキスト分析を実践する。さらにその知識をもとにショート・ムービーを制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①レポーターによるテキストの報告 ②テキストの類似事例の分析を繰り返し、テキスト分析とテキスト制作の方法を理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『ギフト』第 1 話を見る	テキスト分析
第 2 回	物語の進行	テキスト分析
第 3 回	物語の時間	テキスト分析
第 4 回	登場人物	テキスト分析
第 5 回	映像表現	テキスト分析
第 6 回	夏合宿に向けて	テキスト分析
第 7 回	物語と精神分析	テキスト分析
第 8 回	物語とジェンダー	テキスト分析
第 9 回	相互テキスト性	テキスト分析
第 10 回	現実性	テキスト分析
第 11 回	視聴者の読解	テキスト分析
第 12 回	読者論	テキスト分析
第 13 回	作家論	テキスト分析
第 14 回	グループ・テーマ発表	テキスト分析
第 15 回	脚本とは	脚本制作
第 16 回	ストーリーの発想	脚本制作
第 17 回	プロットの発想	脚本制作

発行日：2020/5/1

第 18 回	脚本の執筆ルール	脚本制作
第 19 回	映像表現	映像制作
第 20 回	制作班の構成	映像制作
第 21 回	グループ・ストーリー報告	映像制作
第 22 回	撮影の基本	映像制作
第 23 回	撮影の応用①	映像制作
第 24 回	撮影の応用②	映像制作
第 25 回	音声の録音	映像制作
第 26 回	編集の基本	映像制作
第 27 回	編集の応用	映像制作
第 28 回	撮影の準備	映像制作

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 授業のシラバスを熟読する
第 2 回～ 14 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第 15 回～ 27 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第 28 回 撮影に向けたグループ活動の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田真文『ギフト、再配達 テレビ・テキスト分析入門』せりか書房、2006 年、2415 円

【参考書】

各回の授業で紹介する

【成績評価の方法と基準】

①レポーター報告（評価の 40 %）授業で取りあげた事項の理解力を評価する。
②グループ作業への貢献（評価の 40 %）授業で取りあげた概念を活用できる力を評価する。
③平常点（評価の 20 %）ゼミ内での発言を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送番組の分析や制作のアクティブラーニング、フィールドワークにおいてアドバイスを与えている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of story analysis and making.

FRI300EB, FRI300EC, FRI300ED

演習 2

藤田 真文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：4 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は 4 月 22 日（水）4 限からオンライン授業を開始します。春学期はマス・メディア産業（放送、広告、I T など）の現状を様々な資料を駆使して分析します。秋学期は放送番組の企画書を作成して放送関係者の外部評価をもらいます。

【到達目標】

マス・メディア産業（放送、広告、I T など）の現状を分析するとともに、番組を企画し外部評価を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

①テキストのレポーター報告 ②グループ作業による取りまとめを繰り返しながら、理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	今年度ゼミの進行	ガイダンス
第 2 回	放送産業調査	現状分析
第 3 回	放送産業分析①	現状分析
第 4 回	放送産業分析②	現状分析
第 5 回	広告産業調査	現状分析
第 6 回	広告産業分析①	現状分析
第 7 回	広告産業分析②	現状分析
第 8 回	I T 産業調査	現状分析
第 9 回	I T 産業分析①	現状分析
第 10 回	I T 産業分析②	現状分析
第 11 回	放送産業分析発展①	現状分析
第 12 回	放送産業分析発展②	現状分析
第 13 回	広告産業分析発展①	現状分析
第 14 回	広告産業分析発展②	現状分析
第 15 回	放送関係者からのオリエンテーション	ガイダンス
第 16 回	視聴行動の分析	企画書作成
第 17 回	視聴者層の分析	企画書作成

第 18 回	企画意図の確定	企画書作成
第 19 回	企画詳細の調査	企画書作成
第 20 回	企画詳細の確定	企画書作成
第 21 回	番組展開の発想	企画書作成
第 22 回	番組展開の確定	企画書作成
第 23 回	企画書報告①	企画書作成
第 24 回	企画書報告②	企画書作成
第 25 回	放送関係者からの評価	企画書作成
第 26 回	卒業研究・テーマ発表 ①	卒業研究準備
第 27 回	卒業研究・テーマ発表 ②	卒業研究準備
第 28 回	卒業研究・テーマ発表 ③	卒業研究準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 授業のシラバスを熟読する
 第 2 回～ 14 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第 15 回～ 25 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
 第 26 回～ 28 回 卒業研究に向けた準備をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時に指定する。

【参考書】

各回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①レポーター報告（評価の 40 %）②グループ作業への貢献（評価の 40 %）③授業内での発言（評価の 20 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送業界や企業と連携した企画提案のアクティブラーニング、フィールドワークにおいてアドバイスを与えている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of media analysis.

FRI400EB, FRI400EC, FRI400ED

演習 3（卒業論文）

藤田 真文

開講時期：年間授業/Yearly | 単位数：8 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初回授業は 5 月 6 日（水）4 限からオンライン授業を開始します。卒業研究の計画と卒業論文執筆

【到達目標】

卒業研究を段階的に進め卒業論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4・DP11・DP12・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期は卒業研究を段階的に進めるために、テーマ発表、関連文献報告、調査計画を報告してもらいます。秋学期は卒業論文の完成に向けて個別指導を中心に進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	本年度ゼミの進行	ガイダンス
第 2 回	テーマ最終チェック①	卒業研究準備
第 3 回	テーマ最終チェック②	卒業研究準備
第 4 回	テーマ最終チェック③	卒業研究準備
第 5 回	参考文献調査①	卒業研究準備
第 6 回	参考文献調査②	卒業研究準備
第 7 回	参考文献調査③	卒業研究準備
第 8 回	参考文献報告①	卒業研究準備
第 9 回	参考文献報告②	卒業研究準備
第 10 回	参考文献報告③	卒業研究準備
第 11 回	卒業研究調査計画①	卒業研究発展
第 12 回	卒業研究調査計画②	卒業研究発展
第 13 回	卒業研究調査計画③	卒業研究発展
第 14 回	卒業研究調査計画④	卒業研究発展
第 15 回	卒業研究進行チェック ①	ガイダンス
第 16 回	卒業研究進行チェック ②	卒業研究発展
第 17 回	卒業研究進行チェック ③	卒業研究発展
第 18 回	卒業研究進行チェック ④	卒業研究発展

発行日：2020/5/1

第 19 回	卒業研究最終報告①	卒業研究発展
第 20 回	卒業研究最終報告②	卒業研究発展
第 21 回	卒業研究最終報告③	卒業研究発展
第 22 回	卒業研究最終報告④	卒業研究発展
第 23 回	最終報告からの修正①	卒業研究発展
第 24 回	最終報告からの修正②	卒業研究発展
第 25 回	卒論の文章表現①	卒論執筆
第 26 回	卒論の文章表現②	卒論執筆
第 27 回	論文執筆個別指導①	卒論執筆
第 28 回	論文執筆個別指導②	卒論執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 授業のシラバスを熟読する
第 2 回～ 14 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第 15 回～ 26 回 レポーターは報告を準備、その他はテキストの該当箇所を事前に読む
第 27 回～ 28 回 論文執筆の最終チェックを行う本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田真文編著『メディアの卒論 テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房、2016 年、3200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

①レポーター報告（評価の 40 %）②卒業論文（評価の 40 %）③平常点（評価の 20 %）

【学生の意見等からの気づき】

少人数科目につき該当なし。

【その他の重要事項】

一般社団法人日本民間放送連盟・研究所における実務経験があり、放送業界をテーマにした卒業論文の指導においてデータ収集のアドバイスを行っている。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write a better graduation thesis .

BSP100EA

基礎演習 I

岡野内 正

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教員および他の受講生との議論を通じて、現代社会の諸問題と自分の生き方を結び付けて考える。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的議論の流れをつかむ力をつける。④学術的議論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることから問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

<新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。> 4 月 22 日開始です。
読書会形式でテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それを少人数グループで回覧しながら、議論を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会と学問	授業説明、ゼミ運営の役割分担。
2	日本語版序文および第 1 章プレカリアート前半	報告と討論。
3	第 1 章後半	報告と討論。
4	第 2 章プレカリアートが増える理由前半	報告と討論。
5	第 2 章後半	報告と討論。
6	第 3 章プレカリアートになるのは誰か？ 前半	報告と討論。
7	第 3 章後半	報告と討論。
8	第 4 章移民は犠牲者か、悪者か、それとも英雄か？	報告と討論。
9	第 5 章 労働、仕事、時間圧縮前半	報告と討論。
10	第 5 章後半	報告と討論。
11	第 6 章地獄に至る政治	報告と討論。
12	第 7 章極楽に至る政治	報告と討論。
13	今日の世界とプレカリアートについて	報告と討論。授業日誌提出。
14	私たちの日常生活と社会システムについて	報告と討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の 2 項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②各回のテーマに関連して、自分自身の日常生活や最近読んだ本、ニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアートの時代』法律文化社、2016 年（英語版原書 Guy Standing, "The Precariat : The New Dangerous Class", Bloomsbury, 2011 は、出版社サイト < <https://www.bloomsburycollections.com/book/the-precariat-the-new-dangerous-class/> > で全文無料公開されている）。

【参考書】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税。
ヘレン・カルディコット著 岡野内正他訳『狂気の核武装大国アメリカ』集英社新書、2008 年、定価 777 円。

【成績評価の方法と基準】

提出された授業日誌について、各項目 50% ずつ 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権 NGO での長年の活動経験を生かして教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

BSP100EA

基礎演習Ⅱ

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の諸問題と自分の生き方とを結び付けて、学問的に考えて、議論しあう。

【到達目標】

①学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤あらゆることについて問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP3・DP4 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞

読書会形式でやや短めのテキストを精読します。担当学生が要旨と論点を報告し、講師を含めて議論していきます。受講生は、毎回「授業日誌」を作成し、それを少人数グループで回覧しながら、議論を進めます。最後の 2 回までに、各自が自由論題で学術論文形式で作成してきたゼミ自由論文を回覧して相互評価検討会をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	現代社会の諸問題の学問的解明と私たちの生き方	授業説明と報告者決定、役割分担など。
2	はじめに	報告と討論
3	第 2 部 1 章ナミビア	報告と討論
4	第 2 部 2 章ブラジル	報告と討論
5	第 2 部 3 章ナミビア	報告と討論
6	第 2 部 4 章インド	報告と討論
7	第 2 部 5 章アラスカ	報告と討論
8	第 2 部 6 章イラン	報告と討論
9	第 1 部神学的まえがき、1 章社会実験	報告と討論
10	第 1 部 2 章影響評価前半	報告と討論
11	第 1 部 2 章影響評価後半	報告と討論
12	第 1 部第 3 章全国の実施	報告と討論
13	第 1 部第 3 章全国の実施後半	報告と討論、授業日誌提出。
14	ゼミ自由論文検討会	各自のゼミ論文を回覧して、評価を書き入れていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の 5 項目を含むこと。①各回のテキスト部分の要約。②内容へのコメント（長所と短所を簡潔に）。③授業での質疑応答と討論についての要約。④授業での質疑応答と討論へのコメント。⑤社会の現状に関する疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。さらに、最後の 2 回までに、自由論題での学術論文形式のゼミ自由論文を作成してくる必要があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正他訳著『グローバル・ベーシック・インカム入門』（明石書店、2016 年、定価 2000 円プラス税）。

【参考書】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』（法律文化社、2020 年刊行予定）。

ガイ・スタンディング著 岡野内正監訳『プレカリアートの時代』（法律文化社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

最終回に提出された授業日誌およびゼミ自由論文について、50%ずつ 100 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験やレポートではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発 NGO での長年の活動経験と観察を生かした教室での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A seminar class on the issues of Globalization. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SES100EB

サステイナビリティ論A

田中 充

サブタイトル：環境問題A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題は人間活動により引き起こされる問題であり、社会の持続性「サステイナビリティ」を考える上できわめて重要です。授業では、環境の視点からサステイナビリティをとらえ、問題の構造、持続可能な開発目標、文明と環境との関わり、公害・環境問題の原因と解決策について学びます。

【到達目標】

持続可能な社会に向けて環境問題の基礎的な知識を修得し、その発生原因と影響、対策の考え方について理解します。環境問題の考え方・とらえ方、解決の考え方である「環境リテラシー」について学び、理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。理解度を確認するため、受講生の発言を求めるとともに、毎回リアクションペーパーを記入し提出します。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方と諸注意 環境問題とサステイナビリティ	シラバスを解説し、受講上の注意をします。講義の出発点としてサステイナビリティと環境問題の概要を学びます。
2	環境問題の意義と構造	環境問題を考える意義と環境問題の構造を解説します。持続可能な開発目標について紹介します。
3	文明の発達と環境問題	人間文明の発達と環境問題との関わりを学びます。
4	イースター島の文明崩壊と環境サステイナビリティ	文明社会の発達が環境サステイナビリティの破壊を引き起こした事例を学びます。
5	日本における公害問題の経緯～足尾鉾毒事件	日本の公害問題の経緯を振り返り、近代化の過程で発生した足尾鉾毒事件を学びます。
6	日本の高度経済成長とイタイイタイ病	高度経済成長期に発生したイタイイタイ病の原因・構造を学びます。
7	高度経済成長期の薬品公害・食品公害	産業公害と同時に発生した薬害と食品公害（カネミ油症事件等）を学びます。
8	公害問題の原点「水俣病」の構造	公害問題の原点である水俣病問題の経緯と被害構造を学びます。
9	水俣病による地域社会への影響	加害者・被害者の立場から水俣病が地域社会に及ぼした影響と構造的な要因を学びます。
10	水俣病の拡大と被害者の救済	水俣病被害の拡大の背景、水俣病裁判の経緯を学びます。
11	水俣病に学ぶ教訓－環境サステイナビリティの視点	水俣病を例として環境問題の特徴と課題、教訓を抽出し、サステイナビリティを考えます。
12	都市の水問題～水不足	グローバルな環境問題として世界の水問題について学びます。
13	都市の水問題～水の汚染	水問題のもう一つの側面である水質汚染の実態と対策について学びます。
14	環境サステイナビリティの実現に向けて－講義のまとめ	環境サステイナビリティの実現に向けて、何が必要かを受講生との討論形式で考え、まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。授業期間中に課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。プリントを配布します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）ほか、必要に応じて授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・配分は、授業参加 (平常点)30 %、課題レポート 10 %、期末試験 60 % とします。
- ・授業参加として、毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回につき 2～0 点）し、全回提出で満点 30 点とします。
- ・課題レポート（小テストに代える場合がある）を 1 回行い、満点 10 点とします。期末に状況に応じて自主（救済）レポートを行う場合があります。
- ・授業のまとめとして満点 60 点の期末試験を行います。
- ・欠席の多い受講態度 (概ね 3 割以上の欠席) は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

ビデオ上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
- ・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等を事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境政策論

<研究テーマ>自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of environmental issues, especially environmental sustainability.

SES200EB

環境政策論

田中 充

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済社会活動に起因する環境問題に対して、適切な環境政策を実施していくことが求められます。本授業は、現代社会が直面する環境問題の基本的構造を学ぶとともに、具体的事例に即して問題の解決をめざす環境政策の体系と考え方を修得します。

【到達目標】

水俣病や地球温暖化問題等の環境問題に関する専門的な知見を学ぶとともに、環境問題を解決に導く環境政策の考え方を理解し、政策を体系的に実践できる「環境マインド」を修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回リアクションペーパーを記入、提出します。環境問題の映像を視聴し、問題状況に関する理解を深めます。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、環境政策の理念	講義の進め方とスケジュール、受講生の注意を紹介します。環境政策の理念を学びます。
2	人間活動と環境問題	環境負荷の発生と環境問題との係わり、環境問題による文明崩壊の事例を学びます。
3	環境問題の発生と政策の役割	複雑な環境問題を解決する環境政策の位置づけと役割を学びます。
4	環境政策における市民参加	環境問題の解決に向けた市民参加・協働の意義と、その事例（アサザ事業、市民風車）を学びます。
5	環境ガバナンスの視点	多様な主体が関わり新しい公共を担う環境ガバナンスの仕組みを学びます。
6	環境政策の基本原則	政策の基本原則として持続性やロジカルフットプリント等を学び、政策への適用について考えます。
7	環境政策の基本原則と対策手法	政策の基本原則である汚染者負担原則、拡大生産者責任、予防原則などの考え方から対策手法を学びます。
8	水俣病の発生と問題構造	最大の公害問題である水俣病について、地域社会との関わりなど問題構造を学びます。
9	水俣病の拡大防止策の失敗	水俣病の被害と患者の状況を学び、拡大防止の不備、失敗の要因を説明します。
10	水俣病への行政の不作為と裁判	水俣病被害の拡大防止に向けた政策主体の行政の役割を学びます。水俣病裁判の経緯を理解します。
11	水俣病に学ぶ環境政策の教訓	多数の被害者を発生させた水俣病の特質を抽出し、今後の環境政策の教訓を学びます。
12	地球温暖化対策の実施	低炭素対策の枠組みと温暖化防止の国際社会の連携について学びます。
13	環境政策の手法	地球温暖化等の多様な環境問題を解決する環境政策手法（直接規制、経済的手法等）を学びます。
14	環境問題の解決に向けて（まとめ）	21 世紀の環境文明社会の構築に向けて環境問題の解決のあり方を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に 2 回の課題レポートを作成し提出します。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、田中充編著『地域からはじまる 低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

・配分は、授業参加（平常点）30 %、課題レポート 20 %、期末試験 50 % とします。
・授業参加として毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点（1 回につき 0～2 点）し、全回提出で 30 満点とします。
・課題レポートは 2 回（1 回を小テストに代える場合がある）行い、20 満点とします。
・授業のまとめとして 50 点満点の期末試験を行います。
・欠席の多い受講態度（授業回数のうち概ね 3 割以上の欠席）は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像視聴時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
・担当教員は、環境行政における政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について事例を交えて解説します。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞環境政策論

＜研究テーマ＞自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with the basic structure of environmental issues and the system of environmental policies to solve those issues.

SES200EB

環境自治体論

田中 充

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

住民生活や事業活動の現場を抱える地域・自治体に注目し、廃棄物対策、地球温暖化防止、エネルギー対策を事例として行政施策の条例・計画、環境マネジメント、住民参加手法などを学びます。

【到達目標】

廃棄物問題、地球温暖化・エネルギー問題等の具体的な環境問題について、その原因・経過・対策の構造を学び、自治体環境行政の視点に即して地域環境政策の概念と体系について修得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施します。受講生の理解度を確認するため、受講生の発言や意見交換の機会を設けるとともに、毎回リアクションペーパーの提出を求めます。問題状況に対する理解を深めるため、環境問題の映像を視聴します。進行状況により若干の予定の変更を行うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義の進め方とスケジュール、廃棄物問題の基礎	講義の進め方とスケジュールを紹介し ます。
2	廃棄物の現状と処理・処分	廃棄物の処理・処分の仕組みと現状、 問題の所在について学びます。
3	廃棄物の再資源化・リサイクル	廃棄物の再資源化について日本の現状 と課題を学びます。
4	資源循環型社会の構築： 水俣の循環型地域づくり	資源循環型社会の構築の事例として水 俣市の資源循環型地域づくりを学びま す。
5	環境基本条例・環境基本 計画の体系	自治体環境行政の枠組みとして基本条 例と基本計画の理念と体系を学びます。
6	公害克服とエコタウンの 推進	川崎の公害問題の改善とまちづくり、 環境と産業の調和を目指すエコタウン 構想を学びます。
7	地球温暖化問題の要因と 影響、構造	今日の経済社会に内在する温暖化問題 の原因と影響、その構造を学びます。
8	気候変動対策－緩和と適 応	地球温暖化対策の国際社会の経緯とと もに、対策の柱である緩和策と適応策 について学びます。
9	地域の温暖化対策：京都 市温暖化条例	全国初の京都市の地球温暖化対策条例 とその取り組みを学びます。
10	飯田市の地域環境マネジ メント	地域の環境マネジメントシステムとし て飯田市のマネジメントの取り組みを 学びます。
11	自治体環境行政と市民参 加	今日の自治体環境行政の柱となる市民 参加の仕組みを学びます。
12	自治体のエネルギー政策	自治体エネルギー政策の枠組みと政策 マトリックの概念を学びます。
13	庄内町のエネルギーコ ミュニティ	再生可能エネルギー政策の事例として 風力発電を進める庄内町（旧立川町） を学びます。
14	環境自治体と持続可能な 地域づくり（まとめ）	自治体環境政策の総合体系として環境 自治体の概念、持続可能性のあり方を 学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題に関する新聞記事やテレビニュース、関連文献を読むようにします。期間中に 2 回の課題レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。適宜プリントを配布します。授業時に映像を視聴します。

【参考書】

宇都宮深志・田中充編著『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい 2008）、田中充編著『地域からはじまる低炭素・エネルギー政策の実践』（ぎょうせい 2014）ほか、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・配分は、授業参加 (平常点)30 %、課題レポート 20 %、期末試験 50 % とします。
- ・授業参加として、毎回アクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーは記述内容に応じて採点 (1 回につき 0～2 点) し、全回提出で満点 30 点とします。
- ・課題レポートは 2 回 (うち 1 回を小テストに代える場合がある) 行い、満点 20 点とします。
- ・授業のまとめとして満点 50 点の期末試験を行います。
- ・欠席の多い受講態度 (概ね 3 割以上の欠席) は、成績評価の対象外とします。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映時の照明や空調の温度などへの指摘に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁です。悪質な者は退席させます。
- ・担当教員は、自治体行政における環境政策の立案・推進に従事した実務経験を有しており、その内容を踏まえた実務上の課題等について解説します。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞環境政策論

＜研究テーマ＞自治体環境政策、気候変動問題、環境アセスメント

【Outline and objectives】

This course deals with local governmental policies on issues of waste disposal, global warming measures and environmental management system, etc.

SOC100EB

グローバル市民社会論 A

岡野内 正

サブタイトル：コミュニティ・デザイン論 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

男女ベアの近代家族に基づく国民経済の自立と国民国家の独立に基づいた諸国家 (ネイション) の連合体が、近代化を達成して人類を幸せに導くというのが、20 世紀の人類の夢であった。その夢はかなわず、21 世紀の人類の大多数は、テロリストを次々に生み出す人格形成の危機、女性への構造的暴力、激しい民族対立、地球規模の環境破壊で苦しんでいる。この人類社会の危機を乗り越える新しい夢として、グローバル市民社会という考え方が提唱されてきた。この授業の目的は、この考え方の概略をつかむことだ。

【到達目標】

人類社会を常に男女ベアの近代家族に基づく国民国家の枠組みから捉えようとするやり方を、近代家族イデオロギーに基づく方法論的ナショナリズム、という。一人当たりの生産物の量が絶えず増加することで人類社会が幸福になれるという考え方を、近代化論という。20 世紀に支配的だったこの二つの考え方の意義と限界を明確につかむこと。そのうえで、グローバル市民社会論の意義と限界について議論できるようになることが、この授業の目標だ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞ 4 月 22 日開始です。
グローバル市民社会に関する学術書を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業ノート」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回ではそれをもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近代家族イデオロギー、方法論的ナショナリズム、近代化論、グローバル市民社会論の概略。テキストの報告分担。
2	グローバル化とプレカリアート	受講生の報告と教員を交えた議論
3	プレカリアートが増える理由	受講生の報告と教員を交えた議論
4	プレカリアートになるのは誰か	受講生の報告と教員を交えた議論
5	移民論	受講生の報告と教員を交えた議論
6	労働、仕事、時間圧縮	受講生の報告と教員を交えた議論
7	プレカリアート増加の政治的帰結	受講生の報告と教員を交えた議論
8	ガイ・スタンディングが提起する政策的展望	受講生の報告と教員を交えた議論
9	グローバル市民社会とベーシック・インカム	受講生の報告と教員を交えた議論。
10	インドからの市民社会への展望—ガンジーの反植民地運動	受講生の報告と教員を交えた議論。
11	ガンジーの憲法論	受講生の報告と教員を交えた議論。
12	独立後のインドとガンジー	受講生の報告と教員を交えた議論。
13	ガンジー思想の可能性	受講生の報告と教員を交えた議論。授業ノート提出。
14	グローバル市民社会論の意義と限界	授業ノートに基づく、受講生と教員を交えた議論。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業ノート」を書く。授業ノートは、以下の 2 項目を含むこと。①各回の講義あるいはテキスト部分、授業での質疑応答や討論についての要約とコメント。②授業のテーマと関連して、自分自身の日常生活と最新のニュースなどから考えたこと (質問し、議論し、研究してみたいこと)。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
C・ダグラス・ラミス著『ガンジーの危険な平和憲法案』集英社新書、2009年、680円＋税。

【参考書】

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】

13回分の授業ノートの内容によって100%評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。国際開発・人権NGOでの長年の活動経験と観察を踏まえて、授業での討論を展開します。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on the issues of Global Civil Society. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

サブタイトル：南北問題

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞
国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生から毎回数名がテキストの要旨紹介とコメント、疑問点や論点の提起を、分担して行い、教員とともに議論していく。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成して、それらを書きこんでいく。最終回では「授業日誌」をもとに総括討論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による報告分担
2	問題提起—正義のために資本を使う	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—ザックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
9	アラスカ・モデルの意義—遺産相続の論理と株式配当収益による無条件現金移転	受講生の報告と教員を交えた議論
10	全グローバル企業の90%を包摂する株式所有ネットワーク形成の意義	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカムの財源規模	受講生報告と教員を交えた議論
12	人類遺産相続基金の論理—全人類の相続回復による本源的蓄積暴力の匡正	受講生報告と教員を交えた議論
13	持ち分所有者全員による人類遺産の管理—透明性と熟議直接民主主義	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	持ち分所有者間紛争の非暴力的管理—歴史的正義回復審判所	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の2項目を含むこと。①各回のテキスト部分、質疑応答と討論の要約とコメント。②自分自身の日常生活や国際協力の現状に関するニュースなどから考えた、疑問点や論点（質問、議論、研究してみたいこと）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2020年（9月刊行予定）。

【参考書】
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円＋税。
岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円＋税。

【成績評価の方法と基準】
提出された13回分の授業日誌の2項目について、50%ずつ100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】
「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権NGO活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline and objectives】
A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on the subjects from the sociological perspective.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

サブタイトル：地域研究（イスラーム）
開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イスラーム社会とは、イスラーム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラーム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】
①イスラーム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラーム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】
＜新型コロナウイルスによる非常事態に対応した進め方の変更については、学習支援システムを参照してください。＞
中東・イスラーム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」を作成してくることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	中東・イスラーム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明と、報告者の決定。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラーム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレソティア国家：レソティア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家＝社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民	受講生報告と教員を交えた議論
9	トルコ—新自由主義・親イスラーム政党・外交	受講生報告と教員を交えた議論
10	中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉	受講生報告と教員を交えた議論

- 11 イランのイスラーム統 受講生報告と教員を交えた議論
治体制の現状
- 12 イラク「政治体制を巡 受講生報告と教員を交えた議論
る迷路」
- 13 イスラエルの国家安全 受講生報告と教員を交えた議論
保障とパレスチナ問題
の変遷
- 14 ヨルダン―紛争との共 受講生報告と教員を交えた議論
生

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、報告のための準備をし、毎回の授業について「授業日誌」を書く。「授業日誌」は、以下の6項目を含むこと。まず授業前の準備として、次の5項目を書いて授業に参加します。①各回のテキスト部分を読んで、自分なりにわかったこと。②わからなかったこと。③知りたくなって調べてみてわかったこと。④調べてみてわからなかったこと。⑤授業で講師や他の学生と議論してみたいこと。

さらに授業の後には、その日の授業で、⑥議論してみてわかったこと。⑦やはりわからなかったこと。⑧これから自分で調べたり、考えたり、議論してみたいこと。

準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年

【参考書】

長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。

岡野内 正著『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

提出された授業日誌について、予習50%、復讐50%、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline and objectives】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

LIN100EC

国際社会と言語文化

大崎 雄二

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語はヒトのコミュニケーションの「手段」であると同時に、思考や文化の「乗り物」でもある。グローバル化が進む現代の世界や各地域を言語という側面からとらえ直し、検証、考察をすすめる。

【到達目標】

1. 言語の歴史、特に近代以降の国民国家形成と言語（「国語」）との関係を学び、その背景をより深く理解する。
2. それぞれの母語と学習中の諸言語について、その言語と文化をさらに積極的に学ぶ態度を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

自らの言語生活を改めて検証する作業を通じて、母語や学習中の諸言語を意識的にとらえ直すための考察をすすめる。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションをとることができる時間と空間としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ヒトの言語	ヒトの移動と言語の機能
2	日本語を検証する ①	「ハイブリッド」の構造
3	日本語を検証する ②	漢字の受容と活用の歴史
4	近代国民国家と言語 ①	「国（家）語」の誕生
5	近代国民国家と言語 ②	「国（家）語」の現在
6	近代国民国家と言語 ③	EUの言語政策（ゲスト）
7	近代国民国家と言語 ④	フランス語の歴史（ゲスト）
8	近代国民国家と言語 ⑤	中国語から考える
9	近代国民国家と言語 ⑥	アジアの諸言語から考える
10	「グローバル言語」	英語から考える（ゲスト）
11	グローバル化と消滅危機言語 ①	言語の多様性と文化の多様性
12	グローバル化と消滅危機言語 ②	言語・文化の多様性と生物多様性
13	21世紀の社会とことば ①	言語と文化の未来を考える（グループ、個人発表と議論） ①
14	21世紀の社会とことば ②	言語と文化の未来を考える ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書その他の書籍について）
2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
3. 授業支援システム等を利用した時間外の討議、意見交換

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「国民国家語」として「再編」された諸言語、その背後にある歴史と文化をしっかりと考察し、「課題1」（書評など、20%）と「課題2」（小論文、50%）を完成させる。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表＝30%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to the human languages.

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 4/Wed.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の世界を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバリゼーションが進展する現代の国際社会の中でその独自性と普遍性とを分析、考察する。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえ、的確に分析していく視座を形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論。後半はテーマ別に小グループを編成し、発表、議論をおこなう。学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時間と空間としたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	「中国」という文明体	中華世界と中国的世界秩序
2	中国をめぐる経と緯	中国と「屈辱の近代」
3	現代中国への視座	「改革・開放」と現代中国
4	疑問と誤解（1）	中国を理解するキーワード
5	疑問と誤解（2）	中国共産党と社会主義
6	疑問と誤解（3）	伝統的政治思想と「民主化」
7	ひとつの中国、たくさんの中国（1）	多民族国家の諸問題
8	ひとつの中国、たくさんの中国（2）	香港、マカオ、台湾
9	発表と討論（1）	格差と「小康社会」の実現
10	発表と討論（2）	さまざまな社会問題から検証する現代中国
11	発表と討論（3）	「北京コンセンサス」と「ワシントンコンセンサス」
12	発表と討論（4）	日・中関係の過去と歴史認識問題
13	発表と討論（5）	日・中関係の現在・未来
14	発表と討論（6）	中国と世界のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 読書（参考図書への渉猟）
 2. 関連する新聞やネットの記事のチェック
 3. グループ発表、討論の準備
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はない。各回必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介する。

【成績評価の方法と基準】

現代中国と東アジア地域の「通時的」理解にグローバルな「共時的」解析、検証を加えて獲得した新しい視座により具体的な考察（書評など 20 % + 小論文 50 % = 70 %）をおこなう。これに参加（教員と学生の書面の応答〔「交換日記」〕や発表 = 30 %）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討論による相互学習、基本的な事項の確認等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきたい。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の「リテラシー」を伝え、中国像の「歪み」と実像とを比較考量する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：
開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題 2「思い出の本」をクラスごとのエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしていける過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は 800 字～2000 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。作品の制作や提出を授業時間外に行う課題がある。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに学習支援システムに仮登録を修了し、学習支援システム内の課題に取り組み始めること。

※定員を越えたので、仮登録を締め切り、受講生の抽選をしました。学習支援システムに接続できないときは、Google Classroom をみてください。

（臨時の代替情報ですので、後日、再度学習支援システムで確認してください）

クラスコード
3 限
g4jhspv

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	推敲とは	エッセイ添削例
第 4 回	作品 1 提出	テーマは「はじめての○○」
第 5 回	作品指導 1	自作を捉え直す
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	課題 1 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 1
第 8 回	作品 2 提出	テーマは「思い出の本」
第 9 回	作品指導 2	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題 2 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 2
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。各課題の作品テーマと締め切り日は、授業時間内に提示される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンテニエ エッセイ抄』みずず書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50 %・平常点 50%。作品評価は、課題の文字数や締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品はワードかテキストファイルで授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。授業中に手書きで文書作成が難しい者は、パソコン等を使用する。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短編小説の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、創作、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品は批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題の短編小説をクラスごとのアンソロジー短編集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、設定づくり、執筆、校正、編集など作品を本にしていける過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は課題のテーマに沿った 1500 字～3000 程度の短編小説を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	ストーリーとは	穴埋め創作
第 4 回	だれをどう描くか	人物や暮らしを捉える
第 5 回	なぜ書くのか	小説があることの意味を考える
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	プロット提出	課題に沿った粗筋を作る
第 8 回	作品提出	課題に沿った短編小説創作
第 9 回	作品指導	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題の合評	作品批評、質疑応答
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『好き、だった。はじめての失恋、七つの話』MF 文庫ダヴィンチ。『きみが見つける物語 十代のための新名作 恋愛編』角川文庫。『金原瑞人 YA セレクション みじかい眠りにつく前に I 真夜中に読みたい 10 の話』ポプラ文庫ビュアフル

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品を提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品は授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現や短編小説創作について実践的に指導する。「アンソロジー」を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ作品の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、文章作成、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品はすべて批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題 2「思い出の本」をクラスごとのエッセイ・アンソロジー集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、執筆、校正、編集など作品を本にしていく過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は 800 字、2000 字程度のエッセイ作品を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。作品の制作や提出を授業時間外に行う課題がある。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 4 月 21 日とし、この日までに学習支援システムに仮登録を修了し、学習支援システム内の課題に取り組み始めること。

※定員を越えましたので、仮登録を締め切りました。

学習支援システムに接続できないときは、

Google Classroom をみてください。

（臨時の代替情報ですので、後日、

再度学習支援システムで確認してください）

クラスコード

4 限

jsh5rco

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	推敲とは	エッセイ添削例
第 4 回	作品 1 提出	テーマは「はじめての○○」
第 5 回	作品指導 1	自作を捉え直す
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	課題 1 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 1
第 8 回	作品 2 提出	テーマは「思い出の本」
第 9 回	作品指導 2	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題 2 の合評	エッセイ賞選考・質疑応答 2
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。

執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『モンテニユ エッセイ抄』みずす書房。『とっさの方言』ポプラ文庫。『三時のおやつ』ポプラ文庫。『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の文字数や締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品と感想の課題をすべて提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品はワードかテキストファイルで授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。授業中に手書きで文書作成が難しい者は、パソコン等を使用する。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現やエッセイ作品について実践的に指導する。エッセイの本を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

SOC300ED

クリエイティブ・ライティング

梨屋 アリエ

サブタイトル：

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短編小説の制作と批評を行い、実践的に表現意識の向上を図るとともに、創作、出版に必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

文章表現の上達を第一の目的とするが、思考することや自己を表現することを意識的に行う場でもある。提出作品は批評の対象となる。受講学生が作品を読みあい意見交換することで、読者の視点を確認し、よりの確に表現するための手がかりを獲得できる。課題の短編小説をクラスごとのアンソロジー短編集として無料の電子書籍化し Web 公開することで、設定づくり、執筆、校正、編集など作品を本にしていける過程を体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義のほか、個人や小グループでのワークを行う。学生は課題のテーマに沿った 1500 字～3000 程度の短編小説を制作、推敲、発表する。作品制作のほか批評や課題解決のための話し合いなどを行う。授業の進度により内容は変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	客観情報と主観情報	伝え方、工夫のしかたを考える
第 2 回	著作者とは	書く人のための著作権を考える
第 3 回	ストーリーとは	穴埋め創作
第 4 回	だれをどう描くか	人物や暮らしを捉える
第 5 回	なぜ書くのか	小説があることの意味を考える
第 6 回	作品が本になる過程	文芸作品の出版の流れを知る
第 7 回	プロット提出	課題に沿った粗筋を作る
第 8 回	作品提出	課題に沿った短編小説創作
第 9 回	作品指導	自作を捉え直す
第 10 回	本の構成	本の要素や特性を考える
第 11 回	課題の合評	作品批評、質疑応答
第 12 回	作品集の編集作業	作品集の全体像を捉える
第 13 回	作品集の校正作業	細部を調整する
第 14 回	作品集の Web 公開	総評。質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外に、作品を制作する課題や他の学生の作品を読んで感想を書く課題がある。執筆のための資料や下調べが必要な場合は、事前に各自準備する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

『原稿編集ルールブック』第二版 日本エディタースクール編集。『好き、だった。はじめての失恋、七つの話』MF 文庫ダヴィンチ。『きみが見つける物語 十代のための新名作 恋愛編』角川文庫。『金原瑞人 YA セレクション みじかい眠りにつく前に I 真夜中に読みたい 10 の話』ポプラ文庫ビュアフル

【成績評価の方法と基準】

課題作品や提出物 50%・平常点 50%。作品評価は、課題の締め切りを遵守し、誤りのない文と筋の通った内容で作品が書かれていることを合格点とし、文学的な工夫や魅力のあるものに加点する。作品を提出し、授業内のワークに協力的に参加することが単位取得の最低条件となる。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の話し合いの時間を取り入れているため、「ほかの学生の意見や感想が聴けるので課題制作に張り合いがあった」、「グループで批評をする時間が作品制作以上にとても刺激になった」という感想が多い。

【学生が準備すべき機器他】

授業時間外に授業支援システムを使用する（資料配布や提出物など）。作品は授業支援システムに提出する。まれに E メールを使用する場合があるので、各自対応できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

児童文学やヤングアダルト小説の作家である教員が、創作活動や出版の経験を活かして、読者に伝わる文章表現や短編小説創作について実践的に指導する。「アンソロジー」を読んだ経験のない学生は、履修登録前に数冊読んでおくこと。

【Outline and objectives】

This course introduces creative writing to students taking this course.

COT300ED

プログラミングと論理的思考

湯本 正実

サブタイトル：特講（プログラミング上級）

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「プログラミング」と名前に留まらず、レポート、論文の執筆や、面接の想定問答等にも役に立つ総合的な論理的アプローチについての説明を行う。

【到達目標】

自分の考えを、矛盾や破綻がないように組み立てて、他人に伝えるための、有用な手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

論理的思考のきっかけや参考になるようなエピソードや既存の問題を説明し、それを元に「論理的思考」についての考えを深めて行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・授業の進め方についての説明 ・メール・アドレスの連携
2	メモ書きから	・考え事をするときに、メモをフローチャートやプログラムの記述にする。
3	論理（ロジック）についての具体例	・否定疑問文の返事が日本語と英語で逆になる点について、ロジックの観点から考察して行く。
4	論理（ロジック）についての具体例（続き）	・面接での想定問答 講師の実体験や、伝聞に沿った実例を紹介する
5	モンティ・ホール問題の解析	・ジェンダー問題と確率論に対する論理的な理解の欠落により、社会問題に至ってしまった、実際に起こった「モンティ・ホール問題」を解析し、その問題発生の原因を探る。
6	モンティ・ホール問題についての考察発表、および四色問題	・モンティ・ホール問題についての私見、感想等を自由に発表する。逆の現象とも言える四色問題の説明。
7	社会的実事例に基づく処理の流れの分析	・フローチャート形式で、各自で処理の流れをまとめてみる
8	ブラックボックス付きフローチャート	・自分だけでは解決できない箇所がある場合の扱い方。
9	よく話題に出るアルゴリズム問題の学習	・アルゴリズムとしてよく例に出される問題についての説明を行う。
10	よく話題に出るアルゴリズム問題の学習（続き）	・アルゴリズムとしてよく例に出される問題についての説明を行う（続き）。
11	頭が先か手が先かのアプローチ	・言い換えれば、処理フロー前提のアプローチ vs. 先ずは作って試みるアプローチの使い分け。
12	今までの説明内容の振り返り＋課題作成検討	・各自で課題を決めて、フローチャート＋プログラムで発表する準備を行う。
13	課題作成	・発表用課題作成
14	課題発表	・課題発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題については、各自がそれぞれの工夫により、自由に課題発表の題材を作成してもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しない

【参考書】

適宜指定

【成績評価の方法と基準】

- ・実習室での授業が実施出来ない期間は基本的に課題点により評価する。
- ・質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

客観的＋順序決め＋重要度決めを考える習慣付けを期待する。

【その他の重要事項】

現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Master logical thinking and expression

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアという多義語の中で、ここでは大きく①情報媒体②電子媒体の2つについて、この両方を扱う「手段」を、Web ページ作成方法の基本を中心に説明する。

【到達目標】

メディア・リテラシーとコンピュータ・リテラシーの両方の基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、基本重視の内容と丁寧な解説を行う。Web ページの基本となる HTML の知識を軸として、他の周辺の説明も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本：タグは応用範囲が広い。
第 3 回	HTML タグ (続き)	様々な HTML タグについて。
第 4 回	HTML 属性	属性とは？ リソース/イメージデータについて。マルチメディアの萌芽。
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクおよびアンカー、Java 言語のクラスについて。
第 6 回	表 (テーブル)	HTML のテーブルについて。テーブルとは 2 次元情報のこと。
第 7 回	表 (テーブル): 続き	HTML のテーブルについて (続き)。実は Excel もテーブル。
第 8 回	箇条書き (リスト)	HTML のリストについて。リストの Linux や Windows の例。
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウト (id attribute, division etc.)。
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念および Javascript の例。
第 11 回	イベント処理	HTML + Javascript でのイベント処理。
第 12 回	より細かい表現のために	HTML のブロックとインライン。Java プログラムの紹介。
第 13 回	最終提出課題作成検討	Search Engine Object と Prototype および最終提出課題作成。
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題作成および全体的な授業に関する質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習は、平均毎回 2 時間程度。
・不明点は、遠慮せずに教員や TA に質問したりする姿勢が重要。質疑応答はメール・ベースで行う。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

・実習室での授業が実施出来ない期間は基本的に課題点により評価する。
・質問や意見を積極的に提起してもらえれば、平常点に加味する。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。

【Outline and objectives】

Enable acquiring basic effective information via programming

COT300ED

メディアプログラミング実習

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング中級 D

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアという多義語の中で、ここでは大きく①情報媒体②電子媒体の2つについて、この両方を扱う「手段」を、Web ページ作成方法の基本を中心に説明する。

【到達目標】

メディア・リテラシーとコンピュータ・リテラシーの両方の基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とし、基本重視の内容と丁寧な解説を行う。Web ページの基本となる HTML の知識を軸として、他の周辺の説明も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Web ページの基本	HTML(HyperText Markup Language) の基本概念。
第 2 回	HTML タグ	HTML タグの基本：タグは応用範囲が広い。
第 3 回	HTML タグ (続き)	様々な HTML タグについて。
第 4 回	HTML 属性	属性とは？ リソース/イメージデータについて。マルチメディアの萌芽。
第 5 回	クラス/リンク	HTML のクラス、リンクおよびアンカー、Java 言語のクラスについて。
第 6 回	表 (テーブル)	HTML のテーブルについて。実は Excel はテーブル。
第 7 回	表 (テーブル): 続き	HTML のテーブルについて (続き)。2 次元情報。
第 8 回	箇条書き (リスト)	HTML のリストについて。リストの Linux や Windows の例。
第 9 回	レイアウト	HTML レイアウト (id attribute, division etc.)。
第 10 回	クライアントとサーバ	クライアントとサーバの概念および Javascript の例。
第 11 回	イベント処理	HTML + Javascript でのイベント処理。Processing でのイベント処理。
第 12 回	より細かい表現のために	HTML のブロックとインライン。Java プログラムの紹介。
第 13 回	最終提出課題作成検討	Search Engine Object と Prototype および最終提出課題作成。
第 14 回	最終提出課題作成および全体的 Q&A	最終提出課題作成および全体的な授業に関する質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習は、平均毎回 2 時間程度。
・不明点は、遠慮せずに教員や TA に質問したりする姿勢が重要。
・授業時間以外はメール・ベースでの質疑応答となる。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、提出物 (50%) を総合的に判断して、成績を評価する。提出物（課題）は、授業内容の理解度を確認するためのもの。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見には、都度、フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。
・止むを得ず欠席する場合は、メールで連絡のこと。欠席時には、配布資料を自習すること。

【Outline and objectives】
Enable acquiring basic effective information via programming

SOC300ED

映像制作技法

石橋 充行

サブタイトル：映像制作実習 A

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像表現には、伝えたいことを目に見える形に置き換え、伝達していく力の習得が不可欠です。

そのために必要となる基本的な知識・技術を学んでいきます。

【到達目標】

映像を「つくる」だけでなく、「見る」際にも必要となる映像表現のための基本的な技法や知識の理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像表現に必要な知識・スキルを様々なジャンルの映像を鑑賞したり、実際に制作してみることを通して学びます。

最後には、与えられたテーマに基づいての簡単な映像制作に挑戦してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スケジュールの確認ならびに各自の興味・関心のヒアリングなど
2	映像表現の技法を知る_1	過去の名作を通して映像表現の基本的な技法を知る
3	映像表現の技法を知る_2	過去の名作から様々な映像表現、その具体的な手法を学ぶ
4	映像編集_基本 1	映像編集アプリケーションの基本的な使い方を学ぶ
5	映像編集_基本 2	簡単な映像編集への挑戦
6	映像表現の技法を知る_3	映像を撮影する際に必要となる基本的知識などを学ぶ
7	映像編集_基本 3	映像の撮影から編集までに各自が挑戦する
8	映像編集_基本 4	制作した課題の発表・講評
9	企画	課題テーマに基づいた映像の企画書・提案書づくり
10	企画発表	各自の考えた企画の発表・講評
11	課題制作_1	各自企画の映像化に向けての作業
12	中間発表	途中経過の発表を通して企画をより良いモノにしていく
13	課題制作_2	最終発表のための映像制作
14	最終発表	制作した課題の発表・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での活動が、ある程度必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。有用なものに関しては授業内で共有などします。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の制作（60 %）と平常点（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし、アンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作のための環境が整っていることが理想ではありますが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

様々なジャンルの映像ディレクターとしての経験を持つ教員が、映像表現のために必要となる基礎的な知識・技術を指導します。

【Outline and objectives】

This course introduces students to communication in a creative perspective through visual imagery. Students will learn basic skills for visual communication, visualization of ideas, and others.

SOC300ED

映像制作実習

石橋 充行

サブタイトル：映像制作実習 A

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 5/Tue.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を用いて、伝えたいことを形にし、コミュニケーションしていくために必要となる知識・技術を実習を通して学んでいきます。

【到達目標】

- ・映像を見る力の獲得。
 - ・課題制作を通して「考え → 作り → 伝える力」を成長させる。
 - ・各種映像ソフトウェアの使い方、その基本の理解。
- これらを到達目標として設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4・DP13に関連。
DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- (1) 各種ソフトウェアの使い方を基本を理解のするための練習課題
 - (2) テーマに基づいての制作 → 制作物発表 → 講評
- 上記 2 点が、授業形態の基本的な柱となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認ならびに各自の指向・スキルレベルのヒアリング
2	映像制作_基礎 1	過去の名作から様々な映像表現の基本原則を学ぶ
3	映像制作_基礎 2	各種アプリケーションの基本的な使い方を学ぶ
4	映像制作_基礎 3	撮影・編集の基礎的な技法を知る
5	映像制作_基礎 4	編集作業を通してより実践的な表現手法を学ぶ
6	映像制作_基礎まとめ	テーマに基づいたシンプルな映像作品制作への挑戦
7	映像制作_基礎まとめ	完成作品の発表・講評
8	映像制作_応用 1	先行事例から映像デザイン・エフェクトの基礎的な手法を学ぶ
9	映像制作_応用 2	モーションデザイン課題【ロゴアニメーション】
10	映像制作_応用 3	モーションデザイン課題【予告編制作】
11	映像制作_応用 4	テーマに基づいた映像の企画書・提案書づくりに挑戦する
12	映像制作_応用 2	企画発表ならびに講評
13	映像制作_応用 3	各自、企画の映像化に向けての制作作業
14	映像制作_応用 4	完成作品試写・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外での活動が、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。有用なものに関しては授業内で共有などします。

【成績評価の方法と基準】

課題作品の制作（60 %）と平常点（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

映像制作のための環境が整っていることが理想ではありますが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

様々なジャンルの映像ディレクターとしての経験を持つ教員が映像表現のために必要となる基本的な知識・技術を指導します。
映像制作の経験が多少でもあると望ましいですが、必須ではありません。

【Outline and objectives】

This course introduces students to communication in a creative perspective through visual imagery.

Students will learn the concepts, theories, and skills of visual communication, covering visual persuasion, visualization of ideas, and others.

SOC300ED

広告制作実習

川越 智勇

サブタイトル：広告制作実習

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TVCM 制作実習のプロセスを通じて、課題発見から解決へのアプローチ、CM の企画、プレゼンテーションの構成／実施について学びます。問いを立てるための視点や企画発想法など、実際の広告実務の背景にある実践的な手法を身につけることを重点的に目指します。

【到達目標】

課題の抽出、解決方針の検討、具体策の立案のプロセスを実際に体験し、広告的な課題解決プロセスをひととおり実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりま各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月23日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

まず、広告に関する基礎的な事象から、課題抽出／解決のための考え方～秋学期の特講（広告制作実習）で実制作をおこなうために必要となる知識やノウハウ～を学びます。全体を通して手法の実践をとらなう内容になるため、受講者の積極的・主体的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	広告ビジネス概観	広告の役割や広告会社のビジネスモデルなど広告産業に関する基礎と広告制作プロセスについて
第 3 回	広告制作の流れ①オリエン～チームビルディング	広告会社の組織や制作作業に関するプレイヤーについて
第 4 回	広告制作の流れ②現状分析～課題抽出	市場や生活者について知るためのアプローチから課題を抽出する方法について
第 5 回	広告制作の流れ③企画発想～プレゼン	企画～プレゼンテーションまでの流れについて
第 6 回	広告制作の流れ④実制作～効果測定	撮影や編集など実制作および実施後の効果測定について
第 7 回	CM 企画について①	CM の構成について
第 8 回	CM 企画について②	CM を企画する方法について
第 9 回	CM 企画について③	アイディアとは何かについて
第 10 回	グループ実習①	CM 企画をグループで考える
第 11 回	グループ実習②	CM 企画をグループで考える
第 12 回	グループ実習③	CM 企画をグループで考える
第 13 回	グループ実習④	CM 企画をグループで考える
第 14 回	ケーススタディ	実際の広告キャンペーンを読み解く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いち生活者／消費者としての自己の購買行動について客観的に観察すること、日常触れる広告について考察すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義にワークを取り入れています。企画についてのものをさらに多くおこなうようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使って課題などを共有することがあります。

【その他の重要事項】

広告会社、クリエイティブブティック、フリーランス、ベンチャーでのクリエイティブ・ディレクター経験があり、現在も広告制作に携わる教員が、最新事例も交えながら広告制作について講義をおこないます。

2017 年度以前入学者については、この科目は通年科目となっています。このシラバスは春学期の内容となりますので、秋学期の内容については「特講（広告制作実習）」のシラバスを確認して下さい。2018 年度以降入学者は、この科目に加えて、秋学期に「特講（広告制作実習）」もセットで履修することが可能です。この科目は、秋学期の「特講（広告制作実習）」で実際に CM 制作をおこなうことを前提とした内容となるため、2 科目合わせての履修を強く推奨します。

なお、授業計画は、授業の展開によって変更することもあります。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the ways of discovering issues, finding solution, and planning for TVC through the process of producing TVCs.

SOC300ED

特講（広告制作実習）

川越 智勇

サブタイトル：広告制作実習

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TVCM 制作実習のプロセスを体験することにより、課題発見、解決手段としての企画発想、CM の実制作、プレゼンテーションの方法などを学びます。

【到達目標】

課題の抽出、解決方針の検討、具体策の立案のプロセスを実際に体験し、広告的な課題解決プロセスをひととおり実施できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP4 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

提示された課題について、CM を企画、制作、プレゼンテーションまでをグループワークで実践していただきます。全体を通して手法の実践をともなう内容になるため、受講者の積極的・主体的な参加を期待します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 15 回	課題のオリエン～環境分析作業	CM 制作課題の発表およびチームでの作業
第 16 回	課題抽出作業	主に課題抽出プロセスの進行
第 17 回	企画発想のためのベースまとめ	企画発想プロセスに進むために、環境分析および課題抽出内容をチーム内でまとめる
第 18 回	CM 企画開発①発散	チーム内で企画を発散する
第 19 回	CM 企画開発②選択	チーム内で企画を選定する
第 20 回	CM 企画開発③定着	チーム内で制作する CM 企画をコンテ化する
第 21 回	CM 制作準備	実制作にあたってのチーム内の役割分担および撮影手順の設定
第 22 回	CM 撮影・編集①	CM の撮影、編集作業
第 23 回	CM 撮影・編集②	CM の撮影、編集作業
第 24 回	CM 撮影・編集③	CM の撮影、編集作業、仕上げ
第 25 回	プレゼンテーション準備①	企画内容の発表のための構成づくり
第 26 回	プレゼンテーション準備②	企画内容の発表のためのマテリアルづくり
第 27 回	プレゼンテーション実施	各チームの企画内容および制作した CM を発表
第 28 回	評価	各チームの企画の評価、講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いち生活者／消費者としての自己の購買行動について客観的に観察すること、日常触れる広告について考察すること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、広告制作作業の各ステップにおける発表・報告（50%）の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークを円滑に進行するためのアドバイスをより多くおこなうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

101 教室の撮影・編集機器を使用します。全員に講習受講をお願いします。

【その他の重要事項】

広告会社、クリエイティブブティック、フリーランス、ベンチャーでのクリエイティブ・ディレクター経験があり、現在も広告制作に携わる教員が、最新事例も交えながら広告制作について講義をおこないます。

2017 年度以前入学者については、この科目は通年科目となっています。このシラバスは秋学期の内容となりますので、春学期の内容については「広告制作実習」のシラバスを確認して下さい。2018 年度以降入学者は、春学期の「広告制作実習」に加えて、この科目もセットで履修することが可能です。この科目は、春学期の「広告制作実習」を履修し CM の企画法を理解していることを前提とした内容のため、2 科目合わせての履修を強く推奨します。

なお、授業計画は、授業の展開によって変更することもあります。

【Outline and objectives】

The objective of this class is to learn the ways of discovering issues, finding solution, and planning for TVC through the process of producing TVCs.

COT200EA

プログラミング初級

湯本 正実

サブタイトル：プログラミング初級 I

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 4/Tue.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

週に一度、論理的に考え、プログラミングの「？」という感覚を「！」という感嘆に変えて行く（案外と心地良いものです）。

【到達目標】

「プログラミング？ 基本的な部分は分かるよ。」と言えるようになることが目標。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP2・DP4に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

初学者を対象とした授業である。主に Eclipse(開発用ソフト) を利用し、Java 言語の文法やプログラミングの書き方・考え方を基本から学ぶ。また、Python 言語の基礎部分も学習する。丁寧な解説と無理のない内容を心がけるので、考えつつ実習に取り組んでもらいたい。プログラミングに関連する IT 用語についても、きちんと解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	紹介 前編	プログラミング用語の解説 (Class という言葉がキー)。
第 2 回	紹介 後編	プログラミングで何ができるか。またそれには何を必要とするか。
第 3 回	変数	たとえ数でなくても「変数」という紛らわしい用語。
第 4 回	構成	プログラムの構成要素。
第 5 回	既存のものの流用の仕方	プログラムをゼロから書くという「修行」は不要。
第 6 回	動かすための書き方	実はプログラムには「動かない」部分と「動く」部分がある。
第 7 回	読み書き	「ファイル」という単位での読み書きについて。
第 8 回	画面プログラム 前編	画面作成の取っかかり。
第 9 回	画面プログラム 中編	画面作成は一筆書きでも一枚岩でもない。
第 10 回	画面プログラム 後編	画面と実動作を結び付ける。
第 11 回	コンピュータの外部からアクションを起こす	イベントの話。
第 12 回	Python その 1	Java とは全然違うスクリプト言語の紹介。
第 13 回	Python その 2	計算等の機能。
第 14 回	Python その 3	繰り返し等の機能。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習は、平均毎回 2 時間程度。
・授業は長丁場なので、理解の深まらない回もあり得る。資料を読み直したり、教員や TA に積極的に質問することが重要。

【テキスト（教科書）】

PowerPoint で資料を作成し、その内容に基づいて進める。

【参考書】

特に指定なし。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 (50%)、提出物 (50%) を総合的に判断して、成績を評価する。好奇心と向学心がプラス評価の対象になる。提出物（課題）は、どの程度理解しているかの確認のために行うもの。ほぼ毎回提出をお願いする。
・現在では、既に世の中に存在するプログラムの例を探し出して、自分の作りたいものに流用する方法が重要なので、その手法をつかむ。

【学生の意見等からの気づき】

各位からの的を射た意見は、講義に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、USB メモリを用意のこと。

【その他の重要事項】

・現役の IT エンジニアである教員が、実務経験や企業向け教育の体験で得た知識を講義する。
・止むを得ず欠席する場合は、メールで連絡のこと。欠席時には、配布資料を自習のこと。

発行日：2020/5/1

【Outline and objectives】

Changing questions about programming into admirations

MAN100IA

経営学

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学をはじめて学ぶ学生に経営学の基本的知識を身につけてもらうことを目標としています。経営学の研究対象である企業というものかどのような活動しているのかなど自分の生活と結びつけながら企業の活動を理解してもらい、今後、学生諸君が就職などにより企業などにおいて活動する場合に有益となるように企業の活動が経営学の理論とどのように結びつくのか、学生自身の考える力を養います。

本講義の到達目標を達成するために「経営戦略論」および「経営組織論」という分野を中心にしながら学習を進めていきます。この中で基本的用語や基本理論を学習して身につけてもらいます。

また経営学を身近な学問として感じながら、自分自身で考える能力を身につけてもらうために多くの事例を講義の中で取り上げながら学習してもらいます。講義内において各講義終了時に「感想・意見」の提出をしてもらい、個々の意見を簡潔に考えてまとめてもらいます。

「経営戦略論」および「経営組織論」を中心にしながら経営学とは何かということを理解してもらいながら学習を進めていきます。そのためには「経営戦略論」や「経営組織論」だけではなく企業や経営というものがいったいどのようなものかということを基礎的な部分についても事例を取り入れながら説明していきます。また経営学における基本的用語や経営理論は今後社会に出たあとも非常に役立つものと考えます。

講義においてはテキストを中心に進めていきますが、企業の動きは常に変化し大きく変化し大きなトピックが現れます。そのような企業の動きを実感しながら経営学が非常に身近な学問ということを理解してもらいたいと考えていますので、講義では多くの事例を取り上げていきます。メディアなど含めて身のまわりにおいて経営学に関係する事例が多く見つかりますので意識してみてください。

【到達目標】

経営学は企業活動という特定の領域を対象とした学問です。しかし私たちは企業が提供するモノやサービスを日々使用しており、非常に身近な学問とも言えます。学生にはこのような経営学を実際に身近に感じてもらいながら、その基本的知識を理解してもらうことが講義の目標です。

今後、学生が就職などにより企業において実際にモノやサービスを提供する機会が生まれる可能性があります。そのような場面において経営学の知識を有益に活用できるように学生自身で考える能力を養うことも目標としています。

学生には基本理論を習得することで基本的知識を身につけ、さらに企業の事例などを経営学の理論と結びつけ理解する能力を養ってもらいます。また学生には経営学や企業活動に関する基本的用語についても学習し、大学以外での生活において活用ができる知識を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

授業は講義形態にて実施します。講義中には学生の意見を求める質問を投げかけながら、講義内容を理解してもらうことができるように努めます。

各講義終了時にリアクション・ペーパーにて個々の意見や感想を簡潔に考えまとめてもらい提出してもらいます。

各講義の資料を必ず用意しますので、講義前までに用意した資料を精読して参加してください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べて提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および経営学の内容、講義の進め方を説明。
2	経営学・企業経営とは	これから学ぶ経営学はどのような学問か、また企業とは何かということを考える。
3	企業の概要	企業とはどのようなものかその仕組み、法的制度について。
4	企業と従業員の関係	企業における従業員との関係について雇用制度を中心にしながら説明。

5	企業を取り巻く環境	企業を取り巻く環境、ステイクホルダーなどとの関係について。
6	経営戦略 (1)：経営戦略とは	企業が環境に対応するために戦略を立てる必要性について。
7	経営戦略 (2)：競争戦略の基本	戦略にはいくつかのタイプが存在する。その主要な戦略の概念について。
8	経営戦略 (3)：多角化戦略	企業が成長のために選択する多角化戦略の論理と方法について。
9	経営戦略 (4)：国際化戦略	国境を越えて企業が活動する理由、そしてそのマネジメントについて。
10	経営組織論 (1)：組織とは何か	組織とは何か。組織構造とそれが企業に与える影響について。
11	経営組織論 (2)：インセンティブシステム	組織を管理するうえで動機付けの重要性およびその論理と手法を紹介。
12	経営組織論 (3)：リーダーシップ	リーダーシップの在り方について。
13	経営学の展開	経営学の企業以外への適用、今後の企業活動について。
14	講義のまとめ	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義前までに、用意した資料を読んでください。各講義の内容は資料で紹介されている内容を基礎として進めていきます。

経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べる課題を出しますので、それぞれ各自で調べてもらいます。

講義の進行にあわせてレポートの作成をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとのテキストおよび資料を事前に用意して配布します。講義を受講する前にこれらの資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

講義外の自主学習のために以下の著書をあげておきます。また講義中に他の参考書も紹介していきます。

・加護野忠雄・吉村典久編『1 からの経営学 第2 版』硯学舎、2012 年 4 月。
・伊丹敬之・加護野忠雄『ゼミナール経営学入門 第3 版』日本経済新聞社、2003 年 2 月。

その他参考書については講義において紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

(1) 講義への参加 (10 %)、(2) リアクション・ペーパーの提出 (10%)、(3) 基礎用語・時事用語回答の提出 (10%)、(4) 課題レポートの提出 (30 %)、(5) 期末レポート (40 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。

(2) 講義終了時に講義内容への感想・意見などリアクション・ペーパーを提出してもらいます。

(3) 講義ごとに経営学に関連する基礎用語または企業経営に関連する時事用語を調べ提出してもらいます。

(4) 講義の進行にあわせて 3 回のレポート作成を課題として出します。レポート作成を行い期限までに提出をすること。また講義内容をふまえてレポートが作成されているかを評価の対象とします。

(5) 講義内で学んだことを応用してレポートを作成します。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の主体となる企業の活動を自分たちの生活と密接に関わっていると意識してもらえるように、講義内では企業活動の実例をさらに多く紹介して、学生が経営学また企業の活動が生活に関係しているという認識を高めてもらい、経営学に興味をもってもらう工夫をさらに行います。

講義を受講する学生が主体的に考え、意見を述べてもらう機会をこれまで以上に増やしていきたいと考えています。

毎年講義中に提出してもらっているリアクションペーパーに書かれている意見や要望などを参考に講義内容の改善に努めています。

【その他の重要事項】

・企業において株主総会を中心とした IR 業務に従事しながら、全社的に横断する業務を担当する。これらの経験をもとに企業の経営全般に関する事項を学生に伝えていきます。

・現在、自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を行っており、それらから得た知識や経験から実際の経営活動を学生に紹介していきます。

【Outline and objectives】

It aims to have students who learn business science for the first time understand basic knowledge of business administration. Have understand their activities while linking them with their own lives. Have them learn about the relationship between management theory and corporate activity.

In the lecture, we will learn business management with a focus on management strategy and organization theory. And explain various cases to understand what kind of company and management are like.

We will nurture the student's own thinking ability as to how the activities of the company connect with the theory of business science so that students can benefit when they work in enterprises etc through job hunting.

SOC100IA

コミュニケーション論

山本 浩

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「コミュニケーション論」に技術やテクニックを期待する向きがあるかもしれない。多くの人にとってそれは重要なテーマではあろうが、この講義で伝えるのはもっと広い世界である。私たちは有史以前から、それぞれがそれなりのコミュニケーション手段を駆使してきたと考えられている。それが時間とともにことばや絵、文字、さらには映像という手段を動員して情報や意志の交換を高いレベルで図ってきた。ところが今日取り上げられがちなのは「言語能力の低下」「コミュニケーション能力不全」の問題に集約されやすく、多くの人が「力量アップ」を求めて努力を重ねようとしている。社会の、その構成員の本来期待するコミュニケーションとはいったい何か。あるときは実践を経由しながら、コミュニケーションの実相を把握する。

【到達目標】

受容、分析、理解、選択、表現。個々の、それでいて連続するアクションには、コミュニケーションの鎖を構成する重要な役割が負わされている。その理解のためには、自らを取り巻く世界の認識と相手の状況把握が欠かせない。到達すべきは；コミュニケーションについて、単なる技法としてではなく、取り巻く要件をことごとく理解すること。「読む・聞く・見る」力の醸成と「書く・話す・伝える」力の開発。全体から部分に至るまで情報のやりとりの基本原則を身につけ、“受け取り”“発信する”能力の向上を自らのものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

※ウィルスの影響下、序盤の進め方はウェブによる。教員が学習支援システムにアップロードするファイル（PDF）を読み込み、そこに示された課題を教員に宛てて期限内に送信する。毎回要求され、送信を求められる小論は、引用は三分の一まで。出典明記のこと。これを怠ると、採点の対象にならないので注意されたい。

また授業開始が当初の予定より遅れたため、授業回数としては 12 回。内容は、14 回分に充当するようなものを用意する。

晴れて対面授業が可能になれば、受講生には、理論を確かめたあとと演壇に立つてもらふ機会を用意する。自ら聞き、話すアクティブなコミュニケーション行動の実践だ。一方で多様なコミュニケーション形態に意識的に関わってもらふ時間も準備する。文章、会話、映像、芸術。人間活動の周りにあるさまざまなコミュニケーション活動をどう読み、それにどう反応するのか。コミュニケーションの具体的な力を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションを考える	物を見て、人類の遺産を目にして、道具を手にして。コミュニケーションがさまざまな手段を介して交わされてきたのを確認する。
2	コミュニケーションの歴史	個人から個人へ、個人から特定多数へ、個人から不特定多数へ。コミュニケーションは広がるだけではなく、その性質も変化を遂げてきた。活字の時代を経て、電波に行き着くところまでをまで考える。
3	仕草とことばのコミュニケーション	私たちの伝えようとするメッセージの守備範囲は単純なものから極めて複雑なものまで、広範囲に及んでいる。シンプルな情報を伝えるところから始まって、ことばの重さを改めて実感してみる。
4	文字のコミュニケーション	活字メディアが厳しい時代に入って、これからは音声に映像主体のコミュニケーション環境を迎えるのかと思いきやそうでもない。スマホにもタブレットにも今でも活字は踊っているからだ。文字のコミュニケーションを振り返る。

5	放送のコミュニケーション～ラジオ～	手書きから活字へ。文字のコミュニケーション全盛の時代に電気が分け入ってくる。速報性を武器としたラジオは時代の大コミュニケーションを独り占めし始める。
6	放送のコミュニケーション～テレビ～	情報の密度、その現実との近さにおいてテレビはラジオを凌駕することになった。テレビの中に蔓延するコミュニケーションを分析する。
7	CMに見るコミュニケーション～映像の伝える力～	画面からでてくるCMこそは、短時間で強い印象を残すことを求められる最も濃い形のコミュニケーション形態だ。専門的な視点からその構造を分析する。
8	情報選択とコミュニケーション～SNS 時代の波～	コミュニケーションの第一歩は「とる」に始まる。「聴きとる」「読み取る」「見てとる」。情報収集の原則を改めて振り返り、SNS の氾濫の中の「とる」を考える。
9	わかりやすく話す	何気なく情報のやりとりをしている友達との会話。あいさつを求められたサークルの送別会。大きな違いがあるようで底流に流れる原則は変わらない。話しの基本をおさらいする。
10	人前に立つ～理論編～	大きな式典の壇上に上がるのはもとより、親族の会で指名されて話しをするのでさだギマギしてしまう。人前でメッセージを発するのはやっかいなことだ。なぜそうなるのか。道理と筋立てを眺め渡し、あるべきスピーチの道を探る。
11	人前で話す～実施編～	前週で確認したスピーチの構造を実際に転用して、教壇に立って話ししてみよう。
12	コミュニケーション論総括	講義内期末論文試験
13	※ウィルスの影響下で、回数としてはキャンセル	ノーカウント
14	※ウィルスの影響下で、回数としてはキャンセル	ノーカウント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※ウェブでの授業が多くなることで、電子的な情報のやり取りがこれまで以上に割合を増やすことになるだろう。狭い範囲の情報のやり取りだけでなく、広い視点に立った情報収集に努めてもらいたい。とりわけ、海外の論調などを現地のサイトに入って翻訳アプリなどを使いながら、情報を集めることも勧めたい。

一方でこの講義では「伝える」ことに重心を置いた内容が多くなる。ただし、その前提としての情報収集（相手の意向を汲む）には万全の体制で臨まなければならない。普段から「何を伝えるか」「どう伝えるか」を意識した生活を送ればそれに越したことはない。「公式」の場や「多数を相手にした」場などに直面する機会は、高校生の時代より遙かに多くなる。部活やサークル、インターシップの場面で積極的に発言する姿勢を養い、これから先につながるコミュニケーションに重点を置いて講義を組んでいく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

・『マン・ウォッチング』デズモンド・モリス（1980）小学館
・『メディア社会—現代を読み解く視点』佐藤卓巳（2006）岩波書店
・『メディアコミュニケーション学』橋元良明（2008）大修館書店

【成績評価の方法と基準】

講義中に毎回課すりアクションペーパーがある。今年度は講義内に書き終えるという条件は、ウェブで行う講義に限り別扱いとする。いずれにしても受講生は、指定期限内にオンラインで送信し、教員の元に届いたものをティーチングアシスタントが採点。教員がチェックする形で毎回の得点を付与する。この形での“小論”には、1 回につき最大 3 点が付与される。最終講義内試験を除く 11 回に満点を取り続ければ計 33 点。最終講義に課する期末論文試験（単語/フレーズ問題 30 点、小論文 50 点）には必ず出席のこと（ただしこの形式は、対面授業が可能になった場合）。すべてパーフェクトであれば、113 点が獲得できる計算になる。対面授業が不可能であれば、ウェブでの試験で複数の小論文（合計 70 点）を課することになり、この場合には最高点 103 点となる。単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援アシスタントへのアップロードを軽快に進めたい。

【その他の重要事項】

放送局のアナウンサー経験者である教員が、ことばによるコミュニケーション技法と理念をベースに講義を行う。コミュニケーションの講義では、方法論に力点を置くように感じるだろうが実のところ重要なポイントは、局面に出くわしたときにそこにある内実をどう判断し自分自身の選択をどうするかということから始まる。いわば「判断力」「選択肢抽出能力」の勝負でもあるのだ。コミュニケーションスキルは大切なものだが、同時に「判断」「決断」もかけがえのない重要なファクターであることを覚えておかなければならない。

【Outline and objectives】

The communication knowledge and skills are essential items for the people who live in this modern society. The reason why we urge it? In bringing up some problems about our communicational situation we could grasp a tip of the theme in this lecture.

Each creature has its own way of communicating. Human beings have tried exchanging information and intention by making use of means such as pictures, words, letters, even images. It is now pointed out that "language ability is declining" and "communication skills are insufficient", and many people are trying to make efforts to seek for ways of improvement. What is the desirable communication in our society? You could find out the actual state of communication through some verbal practices.

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。

5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1）パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2）パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3）パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

・岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。

その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出およびその内容 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。

講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【その他の重要事項】

自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

We will learn knowledge about information processing such as computers and networks. It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.

It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.

It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。

5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1）パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2）パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3）パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

・岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。

その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出およびその内容 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。

講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【その他の重要事項】

自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

We will learn knowledge about information processing such as computers and networks. It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.

It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.

It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシー I

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータおよびネットワークなど情報処理に関する知識を身につけるとともに、情報化社会とも表現される現代においてその操作が必須となっているコンピュータおよびネットワークの操作を身につけ使いこなすことが出来るようにすることを目的としています。

また多様なメディアを利用して自己の意見の表現ができ、今後の生活の中で活用することができる知識および能力を習得することも目標としています。コンピュータリテラシーの入門編であり、情報処理技術の基礎的な内容を理解してもらうための講義です。

コンピュータおよびネットワークの仕組みを理解し、パーソナルコンピュータを用いた場合の情報の加工、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、インターネットおよびデータベースなどを利用した検索方法等を理解することを目的としています。講義の前半ではコンピュータの仕組みやネットワークの仕組みなどを基礎として、コンピュータリテラシーを身につける。その後ファイル操作、日本語ワープロソフトによる文章作成および編集能力、ビジネス文書や論文形式の文書作成、インターネットに代表されるネットワーク上において提供されるサービスである WEB による検索や電子メールの送受信方法、情報・意見の表現ができるようするためにプレゼンテーションソフトの基本的操作およびそれを活用したプレゼンテーション方法を学習します。

【到達目標】

情報を活用していく基礎的な能力を高めるために、コンピュータおよび情報処理に関する基礎知識を習得してもらいます。

コンピュータをはじめとするデバイスおよびインターネットの仕組みを理解してもらいます。

大学生として一般的なメールの送受信の基本操作を身につけ活用することができるようになります。

ワープロソフトの基本操作を学習しながらレポートや論文などの各種の文書の作成に必要な編集操作を覚え、あわせて文章表現を習得していきます。プレゼンテーションソフトを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につけます。

今後もその利用の拡大が広がると予想されるインターネットを利用するうえで必要なセキュリティに対する意識や情報倫理を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。 大学内におけるネットワーク環境などの説明。
2	コンピュータ、ネットワークを構成するハードウェアの歴史、ハードウェア構成法	コンピュータの構成や仕組みなど操作を行う上で必要な知識。
3	基本ソフトウェアの利用法、ファイルの概念とその利用法	利用する OS の基本操作、今後作成していくファイルに関する知識。
4	インターネットの利用	インターネットの基本知識とそれを利用する上でのマナーへの理解。 近年のインターネット上にて提供されるアプリケーションやサービスについて。

5	情報の伝達および発信	インターネットなどを介した情報発信方法の確認。 情報発信を行う場合の注意点ならびに受け取った情報に対する判断。
6	電子メールの設定法、メールサーバとメール伝送の仕組み、電子メールの基本操作	電子メールの仕組みの理解、利用するための機能を習得。電子メール送受信に関する基本操作の確認（添付ファイルや署名など）。
7	情報セキュリティへの意識	情報の不正利用を防ぐための知識を習得。
8	文書作成（1）ワープロソフトの基本操作	ワープロソフトの基本操作の習得。
9	文書作成（2）定型文書の作成、表の挿入など	ワープロソフトによる表の作成や定型文書のフォーマット利用など。
10	文書作成（3）画像・図形データの取り扱い	ワープロソフトによる画像や図形の利用方法。
11	プレゼンテーション資料の作成（1）パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
12	プレゼンテーション資料の作成（2）パワーポイントの基本操作。文字入力アニメーション効果、グラフと図の貼り付け	パワーポイントを利用して動的な表現利用。
13	プレゼンテーション資料の作成（3）パワーポイントの基本操作。オリジナルパワーポイントの作成	パワーポイントによるプレゼン資料の作成。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。

講義内では時間の関係から伝えることができない情報を扱う上でのモラル・倫理などの参考資料を提供しますので、講義以外の時間を利用して確認してもらいます。また講義にて行った操作などの資料を公開しますので必ず確認を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を用意し配布します。

【参考書】

・岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。

その他参考書などについては講義にて紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

以下に記載している内容は当初の成績評価の方法と基準です。この内容を変更する予定です。

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出およびその内容 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。

講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

また講義外の時間を利用して学習した内容の確認のための課題にも対応してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

受講する学生を取り巻くコンピュータの使用方法やインターネットにて提供されるサービスは常に変化しています。このような状況の中で、その変化にも対応できるように今日的な話題の解説や、今後も利用が予測されるコンピュータなどの活用、さらには様々なデバイスの活用、新たに生み出されているサービスなどについても触れていきます。

【その他の重要事項】

自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業を展開していることや、自治体などからの IT 講習運営受託、ネットワーク構築や運用などの事業の経験から、実際に必要とするスキルや最新傾向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

We will learn knowledge about information processing such as computers and networks. It aims to make it possible to master the operation of computers and networks that are indispensable in modern times.

It is an introduction to computer literacy and is a lecture to have you understand the basic contents of information processing technology.

It also aims to acquire knowledge and skills that can express their own opinions using diverse media and can be utilized in future life.

Learn and acquire the ability to learn and utilize information processing of personal computer, data transmission and reception method on information network, search method using internet and database.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	テキストデータの利用。 表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。

11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解、AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。

きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。

その他参考書などについては講義内に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出およびその内容 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】

自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.

The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university. Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	テキストデータの利用。 表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。

11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解、AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。

きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。

その他参考書などについては講義内に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出およびその内容 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】

自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.

The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university. Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PRI100IA

情報リテラシーⅡ

新海 貴弘

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠの応用編となる講義です。情報リテラシーⅠにおいて習得目標とした課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを基礎として、論文やレポート作成に必要なデータの処理、統計分析をコンピュータにて実行する手法および得た結果を発信する手法を習得してもらうことをテーマとしています。また大学以外の場においても活用できるスキルを身につけてもらいます。

表計算ソフトの操作を中心に学習しその基本的な操作をできるようにしていきます。さらに表計算ソフトの応用的な使用方法として、回帰分析など分析機能の利用、マクロを用いたプログラミングの基本などを学習していきます。そしてデータ処理を行った結果を発信する方法などについても学習します。

データの加工および分析などに活用する表計算ソフトの利用方法を学習します。講義の前半では表計算ソフトの基本的な使用方法を学習し、今後表計算ソフトを使用するうえでの基礎部分を身につけてもらうと同時に表計算ソフトの機能を理解していきます。

講義の後半では表計算ソフトを利用して問題分析を行うための手法を学習します。例えばデータの集計や基本統計量、また回帰分析など分析の基礎を学習します。またマクロを利用した簡易プログラムの作成などを行っていきます。

講義では今後の大学における研究にも活用できるスポーツおよび健康に関するデータを可能な限り利用して、表計算ソフトによる分析の事例として学習していきます。

【到達目標】

情報リテラシーⅠにより学習したコンピュータリテラシーを基礎としてさらに応用的なコンピュータおよびネットワークの活用ができるようになることを目標としています。

学生が今後必要とされるコンピュータを用いた問題分析の手法を利用できるようにすること、情報リテラシーⅡにおいて利用するアプリケーションがどのように利用することができるのかを理解してもらうことも目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

一部講義形態による授業も行いますが、基本はコンピュータを利用した実習形態にて講義を行います。アプリケーションによる操作を行い作成したファイルなどを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	講義の目標および内容、講義の進めかたの確認。
2	表計算ソフトの基本操作（ワークシートの編集など）	表計算ソフトの概要、ワークシートの基本操作。
3	表計算ソフトの基本操作（数式・関数の利用など）	表計算ソフトにおける数式の作成、関数の利用方法。
4	表計算ソフトの基本操作（グラフの作成）	グラフウィザードの基本操作の確認し、使用頻度が高いグラフの作成。
5	表計算ソフトの基本操作（データ操作 1）	表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。
6	表計算ソフトの基本操作（データ操作 2）	テキストデータの利用。 表計算ソフトにおけるデータ操作の基本を確認。 データの並べ替え、抽出。
7	表計算ソフトの応用操作（条件別の処理とデータの整理回収）	データ入力を行うためのフォームの利用やクロス集計を実行するためのピボットテーブルの利用。
8	表計算ソフトの応用操作（全体像を把握するためのデータ分析）	分析ツールの利用。基本統計量、ヒストグラム。
9	表計算ソフトの応用操作（比較判断するためのデータ分析）	分析ツールの利用。相関。散布図の作成、相関係数の算出。
10	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。回帰分析。

11	表計算ソフトの応用操作（仮説を検証するためのデータ分析）	分析ツールの利用。重回帰分析。
12	表計算ソフトの応用操作（マクロ作成）	マクロの記録などを含めたマクロプログラムの作成。
13	ビッグデータ分析と AI 技術の活用	ビッグデータに対しての理解、AI 技術の活用ケースに関する理解。
14	最終課題の作成	これまでの講義のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ごとに予習用資料を用意しますので、講義に参加する前に必ず確認してから参加してください。また講義にて行った操作などの資料も講義終了後に公開しますので確認を行ってください。

講義で確認した操作の理解度を確認するための宿題を課します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとにテキストとなる資料を用意し講義実施前に公開しますので、資料を確認して講義に参加してください。

【参考書】

岡本敏雄 監修『改訂新版 よくわかる情報リテラシー』技術評論社、2017 年 7 月。

きたみあき『Excel はじめてのデータ分析』技術評論社、2011 年 1 月。

その他参考書などについては講義内に紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

(1) 講義への参加 (50 %)、(2) 課題の提出およびその内容 (50 %)

(1) 積極的な講義への参加が評価対象です。5 回欠席した場合は成績評価の対象外とします。

(2) 講義は演習毎に課題の作成を行い、それを提出してもらいます。講義において指示した内容が反映されて完成しているかという点も評価の対象です。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンおよびアプリケーションなどの操作に不慣れな学生にも興味を持ってもらえるような課題内容やコンピュータに関するトピックスを提供していきます。

講義は実習形式となるため一方的な説明をする時間が多くなるが、学生からの質問などお互いがコミュニケーションを図れるような講義の進め方を準備していきます。

【その他の重要事項】

自己で WEB マーケティング、WEB 制作、EC などを中心とした事業、自治体などからの社会調査受託、データベース作成の経験から、データ解析などのスキルや動向などを伝えていきます。

【Outline and objectives】

This is a lecture to be applied to Information Literacy I. Based on what you learned in Information Literacy I, you will learn how to process data necessary for publications and reports, statistical analysis on computers.

The theme is to have you learn the method to transmit analysis results. We will develop skills that can be utilized even outside the university. Learning mainly about the operation of spreadsheet software, we will make basic operations possible. Learn to use analytical functions such as regression analysis. I will also learn the basics of programming.

PHL100IA

哲学

小館 貴幸

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

考えることなしに人間は生きることができない。したがって、私たちにとって哲学は本質的なものである。本講義では、いくつかのテーマを設定し、それらのテーマに対する複数の考え方とその枠組みを学んでいく。そのことにより、多角的な視野を獲得すると同時に、物事の見方を深め、自らじっくり考える力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- (1) 哲学とは何かを説明することができる。
- (2) 哲学における諸説について述べることができる。
- (3) 基本的な概念や語句について述べるができる。
- (4) 諸問題について自分の考えを述べるができる。
- (5) 物事を多角的な視点で捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には講義形式で行っていくが、自分の考えを深め、多角的な視点を得るためにグループワークやディスカッションなども取り入れていく予定である。また、提出課題やリアクションペーパーの機会も設けていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

秋学期		
回	テーマ	内容
1	哲学とは何か	①イントロダクション ②哲学の定義 ③哲学の成立
2	「よりよく生きる」：徳論（1）	①徳とは何か ②ソクラテスにおける徳
3	「よりよく生きる」：徳論（2）	①プラトンにおける徳 ②アリストテレスにおける徳
4	「私たちは何を知ることができるか」：認識論（1）	合理論について
5	「私たちは何を知ることができるか」：認識論（2）	経験論について
6	「私たちは何を知ることができるか」：認識論（3）	批判論について
7	「共にあるために何ができるか」：共生論（1）	①ハンセン病 ②多磨全生園の見学
8	「共にあるために何ができるか」：共生論（2）	①差別について ②ノーマライゼーション
9	「善悪の基準」：価値論（1）	義務論について
10	「善悪の基準」：価値論（2）	功利主義について
11	「生きることと死ぬこと」：死生論（1）	生の哲学について
12	「生きることと死ぬこと」：死生論（2）	死の哲学について
13	「ケアを生きる人間」：ケア論（1）	①ケアとは何か ②ハイネツのジレンマ
14	「ケアを生きる人間」：ケア論（2）	①ケアする者の意義 ②ケアされる者の意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：前回の授業内容を再確認する。事前課題がある場合には、その課題に取り組む。

復習：配布されたプリントを再度見直し、授業内容の振り返りを行う。課題がある場合は、その課題に取り組む。

できれば、講義で紹介する哲学の本を、とくに古典や法政大学関係者の著作を一冊でも読んでみる。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内にプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、課題（40%）、平常点（10%）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の人数を考慮しながら、グループワークやディスカッションなども行い、自ら考える機会をなるべく多く設けていきたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。

全体の講義の中の一回は、フィールドワークとして多磨全生園の見学を行う予定である。

担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約 20 年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、死とその周辺の問題について、現実に基づいた意見を伝えていく。

【Outline and objectives】

It is an essential for us in living to study philosophy. Because man cannot live without thinking. In this lecture, students learn some theories and some key concepts to resolve problems in some themes. The aim of this lecture is that students can examine the various aspects and deepen own thought.

PHL100IA

生命倫理

小館 貴幸

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理とは、文字通り生命についての倫理のことである。生命も倫理も一部の専門家だけの問題ではなく、今を生きているすべての人間の問題である。本講義では、生命倫理の成立や諸原則などを学ぶことができ、私たちが実際に直面しうであろう、生命の始まりや終わりに関する具体的な問題について理解することができる。講義を通して、諸問題について自分の意見を述べることができ、自分で答えを出せる力を養うことが、本講義の最大の目的である。

【到達目標】

- (1) 「いのち」の尊厳を理解し、尊重することできる。
- (2) 倫理とは何かを説明することができる。
- (3) 医の倫理と生命倫理の特徴を理解し、両者の違いを述べることもできる。
- (4) 生命倫理の四原則について説明することができる。
- (5) インフォームド・コンセントについて説明することができる。
- (6) 生命の始まりについての諸問題について自分の意見を述べることもできる。
- (7) 生命の終わりについての諸問題について自分の意見を述べることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行っていくが、具体的問題に関しては一部グループワークも導入していく。また、一回はフィールドワークとして、希望者による校外研修を行う予定である。授業内において、現場での具体的状況を把握し、当事者の思いを理解できるように、実際の映像資料なども多く取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	「いのち」と倫理	①イントロダクション ②「いのち」とは何か ③倫理とは何か
2	医の倫理	①『ヒポクラテスの誓い』 ②パターナリズム ③医の倫理の三原則
3	権利の確立	①医の倫理の限界 ②人体実験 ③被験者と患者の権利の確立
4	生命倫理の成立	①生命倫理の全体像 ②生命倫理という語
5	生命倫理の四原則（1）	①自律尊重の原則 ②リビング・ウィル ③アドバンス・ディレクティブ
6	インフォームド・コンセント	①インフォームド・コンセントとは何か ②セカンド・オピニオン
7	生命倫理の四原則（2）	①善行の原則 ②無危害の原則 ③公正の原則
8	現代における具体的諸問題（1）	①ハンセン病 ②多摩全生園の見学
9	現代における具体的諸問題（2）	①認知症 ②認知症者へのケア
10	生命の始まりをめぐる諸問題（1）	①いつから人になるのか ②線引き問題
11	生命の始まりをめぐる諸問題（2）	①人工妊娠中絶 ②選択的中絶 ③養子縁組
12	生命の終わりをめぐる諸問題（1）	①安楽死 ②安楽死の種類 ③安楽死許容の六要件と四要件
13	生命の終わりをめぐる諸問題（2）	①尊厳死 ②尊厳死許容の二要件
14	生命の終わりをめぐる諸問題（3）	①ターミナルケア ②人生の最終段階における意思決定 ③看取り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などを整理しておく。

復習：テキスト及び授業配布資料に基づいて前回授業の内容を復習する。興味があるテーマに関しては自分で調べる。また、課題がある場合には課題に取り組む。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』、勁草書房、2008 年。2700 円＋税。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、課題（30 %）、平常点（10 %）による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

自分のこととして考えられるような機会を多く儲ける予定である。具体的には、映像資料を用いて現状を追体験できるような機会、グループワークを通じて多様な意見に触れつつ自分の考えを深める機会、フィールドワークによって実際の現場を肌で体感する機会を設定していく。

【その他の重要事項】

受講希望者は、講義についてのイントロダクションを行うので、最初の講義に必ず出席してもらいたい。

全体の講義の中の一回は、フィールドワークとして多摩全生園の見学を行う。担当教員は、介護福祉士の国家資格を持ち、終末期の患者や人工呼吸器をつけた難病患者の在宅介護の仕事に約 20 年間携わってきた。在宅現場での経験を踏まえて、終末期ケアの現状や当事者や家族の生の声を多く紹介していく。

【Outline and objectives】

Bioethics means ethics of life. This is the problems that not only some experts but also we should work on. In this lecture, students can learn basic matters of bioethics including four principles and an history of bioethics. And they can understand some problems of the beginning of life and of the end of life that we will face on. The aim of this lecture is to cultivate an ability to work out a solution for those problems by oneself.

SOC100IA

障害者福祉論

山岸 倫子

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：土 1/Sat.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、障害者の定義や生活実態、法制度、歴史を学ぶことにより、「障害者」とされる人々が現代社会において生活していくことについて、様々な視点から学ぶ。学生は、障害者についての一般的なイメージを離れ、学術的な視点から障害／障害者について考えることを通して、自らが生活する社会が障害者や健常者にとってどのような社会であるを学ぶ。

【到達目標】

- ・障害者についての歴史的な知識を獲得できる。
- ・障害者の生活実態について知ることができる。
- ・障害についての理論と実体験を関連させて障害についてとらえることができる。
- ・障害についての理論を元に、財の分配の方法について体験的に学ぶことができる。
- ・障害者の生活を支える法制度についての知識を獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式をとるが学生との対話的なコミュニケーションをとりながら講義を進めていく。また、随時ワークを取り入れ、思考の掘り下げを促していく形式をとる。ワークについては参加人数に応じてペアワーク、グループワークのいずれかを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	障害者・障害の概念と理論	障害・障害者について各々が持つイメージを明らかにしたうえで、理論を学ぶ。
2	障害者福祉を支える理念とその展開	障害者福祉を支える基本的な理念について学び、障害者福祉の理念がどのように変容してきたのかを学ぶ。
3	障害者の生活実態	我が国の障害者の生活実態について、統計および事例から学ぶ。
4	障害者福祉の歴史	障害者福祉の歴史について学ぶ。また、1～3 回までのフィードバックとしてグループワークを予定している。
5	障害者運動	障害者運動の歴史と意義について学び、制度との関連性について学ぶ。
6	グループワーク	財の分配に関するグループワークを行い、マクロな視点から障害者福祉を考えると同時に、分配を支える理論について学ぶ。
7	障害者の生活に関する法制度	障害者に関連する法制度について学ぶ。
8	障害者総合支援法	現在障害者の生活を直接的に支えている法律について学ぶ。
9	障害児教育	障害児の教育について、その変遷も含めて学ぶ。
10	障害者の就労	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
11	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
12	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
13	事例検討	差別事例について検討を行う。
14	近年の障害者福祉の動向	障害者福祉の変遷を含め、近年の障害者福祉がどのようなになっているのか、また、どのような課題が残されているのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、各回に提示する課題について、情報を収集し、自ら考えておくこと。また講義中に紹介した文献の講読、参加者同士の積極的な議論及び、社会的現象への応用。自らの生活における実体験と理論との関連を意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加 30 %：平常点及び授業態度で評価する。授業態度については、積極的な発言（思考のアウトプット）を重視する。出席回数が 3 分の 2 以下のものは不可とする。

課題の提出 30 %：課題提出の有無及び内容で評価する。グループワーク後に、小レポートを 3 回予定している。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

期末試験 40 %：授業の内容を踏まえて評価する。評価のポイントとなるのは、①授業内で学んだ知識に基づき、②自らの考えを展開していること。ウェブサイトからの購入レポートは不可。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が少人数であること、かつ部活の公式戦や介護実習等により欠席者が多くなる傾向がある。少人数であることを活かし、対話形式を取り入れつつ、学生の知識習得に尽力するとともに、欠席者への対応も心掛けたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として、市役所、社会福祉法人にて、現場、運営管理の経験がある。生活保護及び、社会福祉全般についての総合的な支援活動を通して、学生が、障害者福祉並びに福祉全般への問題意識を持てるような講義を展開する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help acquire an understanding of the "disability" and "disability people". This course deals with definition of disability, legal system and history from the viewpoint of sociology.

HSS100IA

基礎科学**瀬戸 宏明**

カテゴリ：視野形成科目（必修選択）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ医学、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識および思考方法を習得することを本科目のテーマとする。自然科学分野の科目を履修するための基盤となる。

【到達目標】

科学の基礎となる学習科目は高校の履修課程での理科と数学である。スポーツ健康学部のカリキュラムに含まれる自然科学分野の科目（実習を含む）に必要な内容を紹介する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

生理学、生化学、解剖学等の理解に必要な、細胞に関する基本的概念や、代謝について元素、分子のレベルで理解できるように解説する。計測実験や調査などのデータ整理、統計解析に必要な、ごく基本的な数値処理について解説する。

運動生理学を学ぶ前段階と位置付けている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】**秋学期**

回	テーマ	内容
1	自然科学分野の科目の紹介	①科学的知識と考察が必要な科目について ②理科と数学の基本的知識の再確認
2	生体を構成する物質（1）	元素、原子、分子などの基本的概念の復習と応用。
3	生体を構成する物質（2）	細胞構築などの微小構造の概念の紹介する。
4	生体を構成する物質（3）	生理学、生化学、解剖学などを理解するために必要な分子細胞学の基礎。
5	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（1）	科学研究で頻繁に用いる表、グラフの理解；スポーツ科学研究の例示。
6	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（2）	基本的な統計手法の紹介；平均、分散など記述統計に必要な用語の解説する。
7	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（3）	データの表現；直線への当てはめとしての最小二乗法、三角関数の延長としての周波数解析の紹介など。
8	実験データの観察、統計データの理解に必要な数学（4）	筋電図、パワー計測、エネルギー代謝計測に応用されている数値処理の紹介
9	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（1）	糖、アミノ酸、タンパク質の基礎。
10	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（2）	生体内の化学反応、イオンの概念
11	生化学、生理学分野に必要な基礎科学（3）	呼吸生理の基礎となる、気体の圧力と体積の関係について
12	バイオメカニクス分野に必要な基礎科学	生体と関連する物理学（の基礎；物質の重量、速度、加速度や力学法則、単位系の考え方）
13	基本的な統計処理に活用するソフトウェアについて	エクセルを活用した基礎的な手法やグラフ作成や統計処理が可能なソフトウェアの紹介
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の予習と復習本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

イラスト 基礎からわかる生化学: 構造・酵素・代謝 （裳華房）

【参考書】

シンプル生化学 （南江堂）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（100%）

理解度を確認するために適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンの持参、情報実習室の使用については授業内に適宜連絡する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

可能な限り運動生理学を履修する前に本単位を修得することを強く推奨する。教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツ科学を学ぶために必要な科学的知識・思考方法を講義する。

【Outline and objectives】

We give a lecture about basic science that study scientific knowledge and consideration methods necessary to learn sports medicine and science.

PHL1001A

スポーツ哲学

早瀬 健介

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

体育とは何かスポーツとは何であるかを考える上で必要な原理・原則について知識を深め、スポーツそのものが持つ価値や社会において果たすことのできる役割等について、自らの言葉で語ることでできる力を養うことを目標とする。なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、スポーツは本当に文化となり得ているであろうか。今後スポーツに少なからず携わろうと考えている者は、自らの言葉でスポーツを語る必要に迫られることより、スポーツとは何なのか、さらに自身にとってスポーツとはどのようなものであるのか、その目的に応じて多様な関わり方が可能なスポーツについてより深く考えることがスポーツ専門職にとって重要となってくる。

【到達目標】

スポーツとは何であるかを考えるうえで必要な原理・原則についての知識を深めるとともに、スポーツが社会生活に及ぼす影響等について考察を加える。プレイとは何か、指導者とコーチの違い、フェアプレイとは何か、スポーツとドーピング、オリンピックとオリンピズムなどスポーツを取りまく諸課題に関し自身の言葉で語ることでできるスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナウイルス感染防止対応の授業開始は 4 月 27 日としますが、現状を鑑み当面は別添資料（授業時間外の学習に記載）に基づく課題作成（ワード）を行ってください。

対面授業再開後の内容は次の通りです。

体育・スポーツの概念を明らかにするとともに、身体活動をとおして行われる教育としての体育に焦点を当てることはもとより、我が国における体育・スポーツへの取組みやスポーツが社会に及ぼす影響など、社会生活との関わりの中でスポーツ活動を考えることのできる力を養う。テキスト及び必要に応じて配付する資料等をもとに、P.P. を使用したスクリーン形式の一斉授業を行う。本授業では体育とスポーツの違いをはじめ、これまで気にとめることの少なかったスポーツに関する様々なことにも焦点を当て、スポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにする。そしてそれらを今後のスポーツ振興に少しでも役立てることを目指す。

スポーツの素晴らしさを自らの言葉で説明するためにも各々の学生にスポーツ観を身に付けてもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期		
回	テーマ	内容
1	授業概要説明及び、体育・スポーツの抱える今日の課題	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項の授業ガイダンス及び、体育・スポーツが抱える今日の課題について考える
2	体育とは、スポーツとは	スポーツとは何か、体育とは何か
3	スポーツ哲学とは	なぜ体育系学部・学科の学生が、スポーツ哲学を学ぶ必要があるのか考える
4	体育からスポーツへ	体育とスポーツの関係の移り変わりを理解する
5	学校体育の変遷と学習指導要領①	明治から現在に至る体育で取り扱ってきた内容の変遷について学習指導要領等をもとに学ぶ
6	学校体育の変遷と学習指導要領②	現行の学習指導要領及び新学習指導要領について理解する
7	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係①	プレイとは何か、ホイジンガのプレイ論を通してスポーツの価値について考える
8	「プレイ（遊び）」と体育・スポーツの関係②	カイヨワのプレイ論及び、日本におけるプレイ論について考える
9	体育教師とコーチ	教師とは何をする指導者か、コーチには何が求められているのか、コーチング回路等を参考に考える
10	スポーツとフェアプレイ	スポーツマンシップとはどのようなことを指すのか、フェアプレイとは具体的にどのような行動のことをことをいうのか考える

11	アンチ・ドーピング	ドーピングの歴史、スポーツにおけるアンチ・ドーピング活動の必要性等、今現在のスポーツ界を取りまく問題を踏まえ考える
12	オリンピックとオリンピズム①	近代オリンピックの概要（なぜクーベルタンはオリンピックを復興したのか、その歴史と移り変わりについて考える）
13	オリンピックとオリンピズム②	オリンピックの真の目的は何か（近代オリンピックが目指すものは何か、オリンピックの現状と課題を踏まえて考える）
14	まとめ（半期を通しての振り返り）	まとめ（半期を通しての振り返り）及びテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「スポーツ哲学」の当面の授業について（課題作成）

次の課題について、下に示す文書スタイルに合わせて作成してください。（表題については、課題内容に即していれば、どのようなものでも構いません）

- 「スポーツ」が抱える今日の課題について、具体的事例を挙げて説明してください。
- 「体育」と「スポーツ」の違いについて、具体的事例を踏まえて述べるとともに、時代の流れに伴うその関係性の移り変わりについても説明してください。
- なぜ、子どもに「体育」の授業は必要なのですか。子どもの体力・運動能力の現状を踏まえ、あなたの考えを述べてください。
- 「スポーツ」には、狭い意味でのスポーツと広い意味でのスポーツがあります。それぞれについて具体的な内容を示し説明してください。
- オランダの歴史学者である「ヨハン・ホイジンガ」が、彼の著書である「ホモ・ルーデンス」の中で述べているプレイの本質を踏まえ、現代社会におけるスポーツの在り方について、あなたの考えを述べてください。
- 「体育教師」とスポーツ活動を支える「コーチ」の違いについて、あなたの考えを述べてください。
- スポーツ指導上の暴力や「体罰」等が無くならない理由について、あなたの考えを述べるとともに、今後の対応策についても記してください。
- 2020 東京オリンピックの 2021 年への延期は今後どのような影響を及ぼすと思いますか。あなたの考えを述べてください。
- あなたは「e(エレクトロニック) スポーツ」をスポーツ活動として認識していますか。「e スポーツ」を取り巻く現状を踏まえて、あなたの考えを述べてください。
- スポーツにおける「フェアプレイ」の重要性について、スポーツを始めたばかりの子どもにどのように説明すれば理解され则认为ますか。あなたの説明方法を教えてください。
- スポーツにおけるドーピングはなぜ禁止されていると认为ますか。その理由を挙げるとともに、いくつかある禁止理由の中で、あなたが最も重要だと考える理由についてその根拠を述べてください。
- 世界最大規模のスポーツの祭典といわれるオリンピックの今後の在り方について、あなたの考えを述べてください。

文書スタイル：A4 縦方向横書き（文字組）MS 明朝 10.5 ポイント 40 字×30 行（1200 字以内）

表題及び学籍番号・氏名等は、文字数に含みません。

表題、学籍番号・氏名を上段に記載し、ワードで作成 A4 1 枚に収めてください。

※ 作成の際に、使用した、引用・参考文献等についても記載してください。（「スポーツ哲学」で使用予定のテキストも参考にいただければ幸いです。）

作成された課題は、前期当該授業内容として認めるとともに、成績評価に反映もいたします。

なお、これら課題については、5 月以降に行われる予定の対面授業内で進捗状況に合わせ解説を加えたのちに、回収します。

【テキスト（教科書）】

「教養としての体育原理 新版 -現代の体育・スポーツを考えるために-」

友添秀則・岡出美則編 大修館書店 新版第 1 刷（2016 年 7 月）

また、必要に応じて資料を配付する予定。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

授業内における学生自身の意志に基づく意見（発言）は、授業への積極的参加として評価に加味する。授業におけるレポート等（30%）に加え、定期試験の成績（70%）による総合評価を行う。授業出席回数が授業実施の 2/3 未満の学生については、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業外において行う学習活動（主に予習・授業準備）に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。また、従前の授業内容に関して授業終了時に問うことより、各授業内容のポイントを押さえておくこと。

【その他の重要事項】

中高一貫の私学で 1 年間保健体育教員を経験、また、文部省体育局・文科省スポーツ・青少年局で 9 年間専門職として勤務、競技スポーツ・生涯スポーツを中心に幅広い分野の業務に携わる。

【Outline and objectives】

The student learns it about a principle necessary to think about sports by this lecture. By this lecture, the student learns a meaning and the value of sports. The student deepens understanding about the need of the physical education, the need of sports by this lecture. The student can get right knowledge about the problems (doping, physical punishment, qualification as the leader) to have of sports by this lecture. The student learns it about the role of sports through a lecture. In addition, the student will get the knowledge that can teach the value of sports in the next generation.

HSS200IA

運動生理学概論

高見 京太

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・運動生理学は、競技者のトレーニング、あるいは健康運動の指導などの現場において、欠かすことのできない重要な基礎学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入學したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、ヒトのからだの構造や働きについて学んだ機能解剖学と生理学をふまえた上で、運動している時、運動をした後、あるいは運動を継続した時に、からだにどのような影響や効果をもたらされるかを知り、からだの一時的あるいは適応的变化のメカニズムを理解することである。

【到達目標】

・運動による身体の機能変化について理解する。
・運動・トレーニングによる生理学的な機能や効果、その意義について系統立てることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行う。授業支援システムに、授業で使用する配布資料と予習シートがアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。

4 月 24 日（金）より授業を開始します。

授業開始時刻に学習支援システムを開いて待機して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	体力の概念 神経系	体力を定義し、その測定方法を学習する。 中枢神経と身体運動の関係を確認する。
2	エネルギー産生	筋のエネルギー供給機構を分類し、運動への関与を結びつけて学習する。
3	筋の構造と分類	骨格筋の構造を確認し、筋のエネルギー供給機構を分類する。
4	筋収縮と運動	骨格筋の収縮と弛緩の仕組みを学習し、筋の収縮様式を分類する。
5	呼吸器と運動	呼吸運動の仕組みを理解し、呼吸運動の調節を学習する。
6	心臓と運動	心臓の構造と心筋の収縮を理解し、心拍数の調節や血液の酸素運搬について学習する。
7	循環器系と運動	循環の原理を心臓、血管の働きから理解しし、循環調節について学習する。
8	環境と運動	環境が運動に与える影響を学習し、高所トレーニングや水中運動について理解する。
9	体の大きさ	体型・体型指数、身体組成について理解し、形態計測の手順を学習する。
10	体力の測定	筋力測定、パワー測定、敏捷性の測定の方法と手順を学習する。基礎および安静時代謝に基準を置く強度、最大下水準に基準を置く強度、最大水準に基準を置く強度について学習する。
11	トレーニングとは	トレーニングの三つの原理と五つの原則について理解し、運動方法（様式）、強度、時間、頻度、期間によって記述できること、運動方法（様式）と効果の特異性について学習する。
12	トレーニング（筋力・筋量）	筋肥大にかかわるメカニカルストレスや代謝的ストレスについて理解し、筋活動様式の違いによるレジスタンストレーニングの分類について学習する。
13	トレーニング（筋パワー・筋持久力）	筋パワー向上のための運動の理論的根拠を理解し、運動の負荷条件の違いによる最大筋力、最大速度、筋パワーへの効果について学習する。

14 トレーニング（全身持久力） 有酸素性運動の効果にかかわる生理学的メカニズムについて学習し、有酸素運動の負荷条件と生理的效果について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「運動とスポーツの生理学 改訂第 3 版」（北川薫著，市村出版，2014 年）

【参考書】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」（照井直人編，羊土社，2012 年）
「トータル人体解剖生理学 原書 10 版」（佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳，丸善出版，2017 年）
健康運動指導士養成講習会テキスト（上巻）（財）健康・体力づくり事業財団

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験（マークシート（2 点 ×30 問）と論述（10 点 ×3 問））。
小テスト、提出物（10%）：授業内に実施する小テスト、および期限内に提出された課題等。
欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】

知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本講義は、機能解剖学と生理学を学習していることを前提として授業を進める。分かりにくいことがあれば、機能解剖学や生理学のテキスト等を見直ししてほしい。各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。

【Outline and objectives】

・ Exercise physiology is an important fundamental discipline that is indispensable in the field of training athletes or instructing healthy exercise. The content of this class is the form and function of the human body and should be understood no matter which course you have entered if you entered the Faculty of Sports and Health Studies.
・ Students should consider the functional anatomy and physiology that they have learned about the structure and function of the human body, and how they affect the body when exercising, exercising, or continuing to exercise. Find out if it works, and understand the mechanisms of temporary or adaptive changes in the body.

SOC100IA

スポーツ史

山本 浩

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1 年次／2 単位
曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞のテレビ番組欄で障がい者スポーツの占める割合が増えている。スポーツ欄では五輪関連の記事が後を絶たない。2020 年大会が秒読みになっているせいもあるが、乗り遅れまいとするメディアの心境がそこに現れているようにも映る。IOC もメディアも気にかけているのは若い選手。しかし、少しばかり古い資料に目を転じてみれば、今から 90 年近く前にも日本の水泳選手が十代の半ばで五輪金メダルを取ったのがわかる。50 年前には石炭坑のトラックを走る人がいたし、100 年前には川をプールに見立てて世界一を競っていた。スポーツは、いったいどこからやってきたのか。その起源から今日までをたどることでスポーツの変容を知り、スポーツ史を概観することで私たち自身と社会の激変ぶりを確認するのが目標だ。

【到達目標】

スポーツの起源を暦の中に指し示すことは不可能に近い。私たちにできるのはせいぜいスポーツの持つ要素を見いだせるアクションや痕跡が、古くはどこまでたどれるかを指摘することだ。そこから今に到達するまでの過程に、受講生の目標の一つは設定される。勝負の基本原則（強い者が勝ち、速い者が栄冠を授かり、優れた戦術を身につけた集団が褒めそやされる）をわきまえた上で、何が大切にされ続け、何が変わらずにいらなかったのか。節目節目で影響を与えてきたさまざまな要件は何であったのか。地理、気象、宗教、戦争、産業構造、金、メディア。社会の変化とスポーツがどう関わってきたか。その延長上に、2020 年の向こう側につながるスポーツ世界観を想起する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

「スポーツ史」は、編年体の講義ベースで進める。受動的な時間にばかりしないため、受講生の積極的な発言の機会を設定する。その上で毎回、当日の講義に関連づけた設問をリアクションペーパーに示す小論文の形で課する。自らの持つ世界観、歴史観を、スポーツ史の中につける習慣を付けてもらいたい。世界の歴史や日々の出来事にも深い関心を持つことがスポーツ史の理解を促進してくれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	[全体ガイダンス]	講義の進め方を伝え、受講のために求められる姿勢や世界観を提示する。この段階では、様々な研究者の示したスポーツの定義に始まって遊びや祭りやスポーツの違いを認識してもらう。
2	[スポーツの萌芽と古代オリンピック]	文明の発生した地域での古代スポーツから古代オリンピックまで。スポーツ史の輝かしい幕開けは、古代オリンピックに集約される。
3	[戦いの世界と中世のスポーツ]	古代オリンピックが途絶えてから、欧州は宗教と戦争の時代に入ります。その中で、王家や貴族に支えられたスポーツの流れ。やがて裕福な市民にまで及ぶ中世の状況をたどる。
4	[近世のスポーツ]	ルネサンスを超えて産業革命の時代へ。この流れがスポーツに与えた影響には計り知れないものがある。人口増加、交通手段の発達、大量の情報伝達。さまざまな社会の変化が、スポーツを急激なスピードで広めていく力になった。
5	[フットボールの歴史]	歴史的には、「フットボール」イコール「サッカー」ではない。ボールを蹴るスポーツの中で 19 世紀にいち早くルールを統一したのがサッカー。そうした動きに対して、ラグビーは新たな動きを始める。

6	[近代オリンピック（1）～戦前編～]	第 1 回近代オリンピックはギリシャで開催された。理想に燃えたクーベルタンと、現実の大会運営にはしばしばギャップがあったとされる。世界がオリンピックをいかに受け入れていったかを見る。
7	[近代オリンピック（2）～戦中から戦後～]	第二次世界大戦後のオリンピックは、世界のスポーツ界をリードする形で回を重ねてきた。中でも 64 年の東京大会が私たちに残した遺産は大きい。東京を中心に、オリンピック隆盛の時代を丹念に振り返る。
8	[現代のオリンピック]	現代のオリンピックは、その変化の始まりを 84 年のロサンゼルスに見る人が少なくない。商業化といわれた大会から今日まで、オリンピックの変わり様を縦覧する。競技力向上策、その過程で生まれたドーピングにも目を向ける。
9	[陸上/水泳競技の歴史]	身体を動かし始めたときに最初に競うアクションは、何をおいてもまず走るところにある。水辺の国民たる私たちに水泳もまた身近な行動であった。陸上競技と水泳競技に個人スポーツの歴史をたどる。
10	[野球の歴史]	アメリカから学んだ野球は、近代日本のスポーツシーンを支える重要な競技として受け継がれてきた。学生からプロ、そしてメジャーリーグ。学校を舞台にした野球の歴史は、スポーツ教育史とも重なっている。
11	[相撲・武道の歴史]	日本書紀の時代に起源を見る相撲は、今に残る文化遺産のひとつだ。日本起源のスポーツには武道もある。学校体育の中にも取り入れられた武道の歴史と合わせて考える。
12	[学校体育の歴史]	限られた者たちのスポーツから国民の体育へ。20 世紀が近づくとつれ、私たちの身体作りは大きな変化を迎えた。戦争の時代を経ながら体育史は大きなうねりを見せる。
13	[障がい者スポーツの歴史]	障害者スポーツの最大の祭典は今、4 年に一度のパラリンピックに集約される。その最初の一步は、イギリスのストーク・マンデビル病院にある。第二次世界大戦で脊髄を損傷した患者を集めて行ったスポーツ大会にある。紆余曲折を経ながら次第に存在感を増す障害者スポーツの流れを追う。
14	総括および論文（講義内試験）	スポーツ史観を総括し、講義内のテスト/論文で答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今年はメガイベントのただ中を時計が回る年だ。メダルの数や入賞の有無に焦点を絞るだけでなく、17 日間で歴史に何を残すのか、22 競技が後世に何を伝えるのか。大所高所からこの夏を眺め渡そう。現代のスポーツ史は、政治史、経済史、社会史を総合している。理解を深めるためには、スポーツの周りの世界に広く視野を取ること。自分で打ち込むスポーツがある者は、最新の映像でもたらされるアスリート周りの瞬時のアクションと、勝負の後の振る舞いにも目をこらしてみよう。学びを進めるうちに準備学習・復習時間は 2 時間でも足りなく感じることだろう。

【テキスト（教科書）】

なし（必要があれば資料は別途用意する）。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大事典」中村敏雄編集主幹 大修館書店
「スポーツ史講義」稲垣正浩著 大修館書店
「体育・スポーツ史概論」木村吉次著 市村出版
スポーツ史、世界史、日本史などとともに、歴史に関わる地図を参考書として用意しておくで理解の促進を助けてくれる。

【成績評価の方法と基準】

配分：講義中に、指定する時間内で小論文を書いてもらう。毎回の小論文は成績評価の対象。1 回最高点 3 点。13 回のすべて満点を取れば、39 点。最終講義の時間内に行う試験 70 点。すべてフルに獲得すれば 109 点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い史観、具体事例をもっているかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使うスライドを授業支援システムに早めにアップする。講義中のスライド変換を少し時間をかけるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

講義では、パワーポイント、DVD、映像資料などを使う。基本的に学生が準備する機器はない。

【その他の重要事項】

放送局でスポーツに関わる解説委員をしていた教員が、長年の取材を通じて獲得した近現代史の現実を講義する。最終講義日の授業内試験には必ず出席すること。

学校を代表しての行事参加、病欠、忌引きに対しては、講義内小論文に代わる追加のレポート課題を期末に与える〔規定の書類/体育会書類、会葬礼状、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと〕。自分の都合での欠席は、レポート課題の対象にならない。

【Outline and objectives】

We find conspicuous amount of sport events in a TV program information. Under ordinary circumstances, we often recognize young athletes playing a leading role on smartphones and tablets. It could owe to the early strengthen program for the young talents, that entire sporting associations adopted earlier. Once you search for some articles in 1932, you might easily find out, that a Japanese 15-year-old swimmer got also an olympic gold medal. Around 50 years ago, an athlete ran on a cinder track, 100 years ago a swimmer crawled in a river instead of a pool. Where did sports come from? We would aim to reconsider about sports and by tracing from its origin up to today, the sports history could appear above our horizon, and then we could recognize our transformation vaguely.

SOM100IA

生理学

高見 京太

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1 年次／2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・生理学は、ヒトのからだの機能がどのように発現し、維持され、調節されているかを明らかにする学問である。授業で扱う内容は、スポーツ健康学部に入学したのであれば、いずれのコースに進もうとも理解しておくべき、ヒトのからだの形態と機能および重要な反応・適応である。
・授業の目的は、正常なからだの機能を分類したうえで理解し、また体系付けられた相互の関連性を理論的に説明できるようになることである。

【到達目標】

・ヒトのからだの構造と機能について具体的に述べることができる。
・生理機能とその仕組みについて系統立てることができる。
・生命現象について考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行う。授業で使用する配布資料と予習シートが、授業支援システムにアップロードされているので、遅くとも前日までに、これらをダウンロードして予習シートに解答を記入し、配布資料とともに授業へ持参して受講する。授業の最後に当日の内容を復習する内容の課題を出題するのでリアクションペーパー等で解答する。

4 月 24 日（金）より授業を開始します。

授業開始時刻に学習支援システムを開いて待機して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、細胞膜の生理学	生理学を定義し、ホメオスタシスのメカニズムを理解し、細胞の主要な部分の名称とその役割、人体を構成する組織の特徴を学習する。
2	ニューロン、シナプス	神経系の各要素とはたらきを理解し、神経伝達の仕組みを学習する。
3	体性感覚、視覚	体性感覚の受容器の仕組みを理解し、体性感覚の伝達経路を学習する。眼球の構造と視覚の経路を理解し、視覚情報の処理の仕組みを学習する。
4	聴覚、平衡感覚、味覚・嗅覚	聴覚器の構造を理解し、聴覚情報の処理仕組みを学習する。前庭系の末梢機構、中枢機構を理解し、平衡感覚の制御について学習する。味覚器と嗅覚器の構造を理解し味覚と嗅覚のメカニズムを学習する。
5	自律神経系	交感神経系と副交感神経系の構造について理解し、その機能を学習する。
6	脳の高次機能、記憶、情動	大脳皮質の機能局在を理解し、感覚の統合と記憶・情動とが行動を起こしていくことを学習する。
7	血液と体液	血液と体液について、その役割と機能について学習する。
8	消化	消化管の構造を理解し、消化管の運動、吸収、分泌について学習する。
9	栄養と代謝	生命・生活活動維持に必要な栄養素について理解し、栄養素の代謝メカニズムについて学習する。
10	腎機能と尿生成	ネフロン の形態と機能理解し、腎臓内の浸透圧勾配と尿濃縮について学習する。
11	体温調節	体温調節機構と熱中症について学習する。
12	内分泌	主なホルモンとその作用メカニズムについて学習する。
13	睡眠	睡眠の種類を理解し、睡眠覚醒の調節、体内時計について学習する。
14	生殖	男女の生殖機能について理解し、その働きについて学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習として、授業支援システムから予習シートをダウンロードして、設問への解答を記入し、配布資料とともに授業に持参する。
- ・復習として、配布資料の最終ページにある章のまとめを理解する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「運動とスポーツの生理学 改訂第 3 版」（北川薫著，市村出版，2014 年）

【参考書】

「はじめの一步のイラスト生理学 改訂第 2 版」（照井直人編，羊土社，2012 年）

「トートラ人体解剖生理学 原書 10 版」（佐伯由香・細谷安彦・高橋研一・桑木共之 編訳，丸善出版，2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90％）：講義で扱った内容を範囲とする筆記試験（マークシート（2 点 ×30 問）と論述（10 点 ×3 問））。

小テスト、提出物（10％）：授業内に実施する小テスト、および期限内に提出された課題等。

欠席を理由に減点することはない。

【学生の意見等からの気づき】

知識だけでなく興味・関心が高まるような具体的な内容を取り扱う。予習・復習時間や基本的な知識レベルの差異を考慮して、理解度を高める工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

各自の関心領域の授業外学習を通じて基礎知識を習得することと、講義での主体的な学びを通じてスポーツ健康学の基盤を固めてほしい。

学習進度に応じてスケジュールを変更する場合もある。

【Outline and objectives】

・ Physiology is the study of how human body functions are expressed, maintained, and regulated. The content of this class is the form and function of the human body and should be understood no matter which course you have entered if you entered the Faculty of Sports and Health Studies.

・ Students will be able to classify and understand normal body functions and will be able to theoretically explain the systematic interrelationships.

SOC100IA

スポーツ文化論

早瀬 健介

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位
曜日・時限：月 1/Mon.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは私たち人間の“こころ”と“からだ”の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた、生きがいのある社会の形成に寄与する人類共通のすばらしい文化の一つといわれている。
なぜ人はスポーツに惹きつけられるのか、スポーツの魅力とはいったい何なのか、「スポーツ文化」という言葉が使われるようになり久しいが、私たちのスポーツの価値をどのように認識しているのだろうか。
本授業ではスポーツを様々な視点から見ることにより、スポーツが現代社会に生きるすべての人々にとって欠くことのできない文化であることを再確認する。
我々の身近にあるスポーツがどのような変遷を経て現在に至っているのか、毎年世界各地で開催をされるオリンピックをはじめとする様々な国際スポーツ大会の在り方から身近なスポーツ環境まで、スポーツは我々の生活に深く根ざしている。
本授業ではこれらを元にスポーツが内包する魅力について知見を深めるとともに、それらを踏まえ自らがスポーツについて語る力を養いたい。

【到達目標】

様々なスポーツ関連事象を通して、現代社会を見ることのできる知識を身につける。
2017 年 4 月に策定された第 2 期スポーツ基本計画をはじめ、目前に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて展開されてきた様々な施策や、今後のスポーツ振興の在り方等に関して、自らの言葉で語ることのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナウィルス感染防止対応の授業開始は 4 月 27 日としますが、現状を鑑み当面は別添資料（授業時間外の学習に記載）に基づく課題作成（ワード）を行ってください。
対面授業再開後の授業内容は次の通りです。
国際大会を含め様々なスポーツイベントやアスリートを取りまく環境が変わりつつある今日、それらをめぐる様々な事象からスポーツについて考えるとともに、我が国における体育・スポーツへの取組やスポーツが社会に及ぼす影響など、スポーツに関する身近な題材を参考に、自らの生活との関わりの中でスポーツの価値について考える。
必要に応じて配付する資料等とともに、P.P. を使用したスクール形式の一斉授業を行う。本授業では、普段私たちが何気なく目や耳にしてきたスポーツとはどのようなものであり、どのような価値を内包しているのか等を明らかにするとともに、今後の各自のスポーツ振興に役立てることを目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概要説明及びスポーツの成立過程を概観	授業の内容、進め方、成績評価方法、留意事項。また、スポーツはどのような歴史をたどり現在に至っているのか概観を学習
2	スポーツ基本権	スポーツに関する国民の権利を保障する法的根拠を理解
3	スポーツ振興法及び「体育の日」について	当時の逐条解説等とともに、昭和 36 年のスポーツ振興法を学習。加えて「体育の日」について理解を深める
4	我が国のスポーツ活動の現状と課題	「スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）」データをもとに我が国のスポーツ活動の現状について理解する
5	我が国の体育スポーツ施設	「体育・スポーツ施設現況調査（文部科学省）」及びスポーツ庁のデータ等をもとにスポーツ環境を考える
6	2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組	「2020 東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（内閣府）」データ等をもとに東京大会でのおもてなし等について考える

7	スポーツ立国戦略とスポーツ基本法	平成 22 年に策定されたスポーツ立国戦略について、その背景を理解するとともに、スポーツ基本法前文について学習
8	スポーツ基本法	平成 23 年に約半世紀ぶりに改正された「スポーツ基本法」の内容について理解
9	スポーツ基本計画	平成 24 年に策定された「スポーツ基本計画」の概要について学ぶとともに、平成 27 年 4 月に策定された「第 2 期スポーツ基本計画」について理解を深める
10	子どものスポーツ環境	体力低下のデータ等をもとに子どものスポーツ環境について考える
11	地域スポーツクラブ	豊かなスポーツ環境の創造に向け「新しい公共」として期待される地域スポーツクラブについて理解を深める
12	オリンピックについて考える①	オリンピックを支えている基本的な考え方を学ぶとともに、祭典競技に対する考え方と競技内容等について理解を深める
13	2020 年東京オリンピック・パラリンピックについて考える	目前に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに関する諸課題について考える
14	授業内試験及び半期の振り返り	授業内試験の後に模範解答及び解説を行うとともに、半期授業の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「スポーツ文化論」の当面の授業について（課題作成）
次の課題について、下に示す文書スタイルに合わせて作成してください。
（表題については、課題内容に即していれば、どのようなものでも構いません）
1 「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」と、平成 23 年制定の「スポーツ基本法」前文の冒頭に明記されていますが、その理由についてあなたの考えを述べてください。
2 「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」のそれぞれについて具体的事例・内容を示して説明をする
とともに、その関係性についてあなたの考えを述べてください。
3 2020 東京オリンピックの陸上競技マラソンが、北海道（札幌）で開催されることについて、あなたの考えを述べてください。
4 あなたは「スポーツ」とは何であると考えますか。あなたの考えを述べてください。
（参考 ヨーロッパ・スポーツ憲章、スポーツ宣言、スポーツ基本法 等）
5 日本における「スポーツボランティア」の始まりは何であったといわれていますか。また、「スポーツボランティア」はスポーツであると考えることについて、あなたの考えを述べてください。
6 我が国のスポーツ実施率（文部科学省・スポーツ庁調べ）の推移及び、その具体的活動内容を踏まえ、現在の成人のスポーツ実施状況について簡潔に説明してください。
7 現代社会において「スポーツ」が産業や経済に及ぼす影響には、どのようなものがあると考えますか。具体的な事例を示すとともに、あなたの考えを述べてください。
8 現代社会における「スポーツ」と「メディア」の関係について、今後のスポーツ振興の在り方も踏まえて、あなたの考えを述べてください。
9 現代社会において「スポーツ」と「政治」はどのような関係にあるとあなたは考えますか。具体的な事例を示すとともにあなたの考えを述べてください。
10 これからの近代オリンピックの在り方について、あなたの考えを述べてください。
文書スタイル：A4 縦方向使用 横書き（文字組） MS 明朝 10.5 ポイント 40 字 × 30 行（1200 字以内）
表題及び学籍番号・氏名等は、文字数に含まれません。
表題、学籍番号・氏名を上段に記載し、A4 1 枚（ワードで作成）に収めてください。
※ 作成の際に、使用した、引用・参考文献等についても記載してください。
（1 年時「スポーツ哲学」で使用したテキストも参考にしていたいただければ幸いです。）
作成された課題は、前期当該授業内容として認めるとともに、成績評価に反映もいたします。
なお、これら課題については、5 月以降に行われる予定の対面授業内で進捗状況に合わせ解説を加えたのちに、回収します。
【テキスト（教科書）】
必要に応じてプリント等を配布
【参考書】
必要に応じて授業中に紹介
【成績評価の方法と基準】
授業内レポート・小テスト（30%）及び、定期試験（70%）による総合評価を行う。授業欠席回数が授業実施の 1/3 を越える学生については、成績評価の対象外とする。
【学生の意見等からの気づき】
授業外において行う学習活動（主に予習・授業準備）に関するコメントを、必要に応じて授業開始時に問う。各自準備をしておくこと。
【その他の重要事項】
中高一貫の私学で 1 年間保健体育教員を経験、また、文部省体育局・文科省スポーツ・青少年局で 9 年間専門職として勤務、競技スポーツ・生涯スポーツを中心に幅広い分野の業務に携わる。

【Outline and objectives】

It is the human common culture who the sports contribute to our "mind" and healthy development of "the body", and has an influence on the social formation with a rich definite aim brightly. The word "sports culture" is used well, but it is thought that we have not yet understood "sports culture". The student observes sports from various viewpoints by this lecture. And the student reconfirms that sports are essential culture for all people living in the modern society.

HSS2001A

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学的知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】5 月 7 日（木）2 限（11:10～12:50）

すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」 —スポーツ現場における ヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死（1）： 若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2）： 中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死性の頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。

6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また (mass gathering としての) スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】 他に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- 第1回：**
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。(特に第1章～第6章)
小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）
※資料室収蔵
- 第2回：**
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
- 第3回および第4回：**
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第5回：**
『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
- 第6回：**
『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵
『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷10か条の提言」から考える』（2016年33巻7号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第7回：**
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下調光：アスリートのためのメディカルチェック—心臓突然死を未然に防ぐために—

- 『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下調光：アスリートに対するメディカルチェック—その有用性と限界—、p153-162.）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第8回：**
木下調光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題、1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.
(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)
- 第9回：**
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）
『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）
- ※以上、すべて資料室収蔵
『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）
『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）
（いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能）
『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会 <http://www.saitama-sports.or.jp/files/science/Thunderbolt/>)
『雷対応マニュアル』（Jリーグ）
『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)
- 第10回：**
高木 修。『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）。(特に第1章、第2章、第4章) ※研究室収蔵
木下調光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第11回：**
木下調光：スポーツ選手の減量—米国アマチュアレスリングにおける事例—、(1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf)
木下調光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害、臨床スポーツ医学、2014;31(9):858-867.
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第12回：**
『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学、<http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>)
『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)
『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』（<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)
- 第13回：**該当資料無し
- 第14回：**
日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)、ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。
『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）
その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。
・Herb Appenzeller, "Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵
・小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
・入澤 充。『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵
- 【成績評価の方法と基準】**
期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。
原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。
【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。
- 【学生の意見等からの気づき】**
昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。
- 【学生が準備すべき機器他】**
各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。
- 【その他の重要事項】**
【実務の経験】 臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

発行日：2020/5/1

【どのように実務経験が授業に反映されるか】 上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の変異や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇しうる事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医科学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破滅的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医科学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】5月7日（木）2限（11:10～12:50）

すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえようように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	「なぜ事故が起きるのか」 ースポーツ現場における ヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
2	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。
3	スポーツと突然死（1）： 若年アスリート編	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。
4	スポーツと突然死（2）： 中高年編	中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致死性の頭部外傷や脊髄損傷の発生機序や対策について講義する。

6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	事故防止に必要な競技参加のためのメディカルチェックについて講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」ー競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外の人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内、あるいは授業支援システムを利用して適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】 蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】特に定めず

【参考書】

- 第1回：『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。（特に第1章～第6章）
小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
- 第2回：『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
- 第3回および第4回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』、2009年26巻11号、（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第5回：『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）
『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年第4版）
いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。
『柔道事故』（内田 良、河出書房新社）※資料室収蔵
- 第6回：『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E.Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵
『ほんとに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵
『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：“頭部外傷10か条の提言”から考える』（2016年33巻7号）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第7回：『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェックー心臓突然死を未然に防ぐためにー

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェッカーその有用性と限界－. p153-162.）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第 8 回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限：中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/99kiyo-kinoshita.pdf)

第 9 回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）

（いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能）

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会

<http://www.saitama-sports.or.jp/files/science/Thunderbolt>）

『雷対応マニュアル』（J リーグ）

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm）

第 10 回：

高木 修『人を助ける心』（1998 年、サイエンス社）。（特に第 1 章、第 2 章、第 4 章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009 年 26 巻 11 号（特に「BLS と AED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第 11 回：

木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－。 (1998 年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. http://sports.hc.keio.ac.jp/_userdata/98kiyo-kinoshita.pdf)

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第 12 回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第 13 回：該当資料無し

第 14 回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)。ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『ランス・アームストロング ツール・ド・フランス 7 冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には 3 部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなることが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies" (Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）

※資料室収蔵

・入澤 充。『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。

【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は検討できるだけの十分な回答数が得られていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise and sports.

SOM2001A

予防医学概論

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2 年次／2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

旧うか科目名：スポーツ医学概論 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体に関する基礎的学問分野の成果を包括的に活用し、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマをの基礎を学ぶ。身体機能に関する基礎的事項を理解したうえで身体活動・運動が健康に及ぼす影響を理解することを目標とする。

【到達目標】

スポーツ医学が扱う広範な分野を把握し、関連する定義、疫学、病態生理を理解する。健康管理や身体トレーニングの実践において必須となる、身体活動、運動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。基本的なスポーツ外傷・障害や救急処置を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

予防医学、健康科学の基礎的事項に加え、本講義は、内科、整形外科を中心とした臨床分野に応用され、幼児から高齢者、健康者から疾病保有者を幅広く対象とするスポーツ医学の概観を理解することを目的とする。その導入としては身体活動・運動と健康との関わりを理解することから始まる。基本的な身体機能の理解と、様々なスポーツ障害やその予防について学習する。疫学に代表される社会医学分野の事項も扱う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	スポーツ医学について説明し、健康管理、スポーツ活動などに関連するスポーツ医学分野のトピックスを紹介する。
2	スポーツと健康	運動習慣、スポーツ活動が健康増進に果たす役割を学習し、健康管理有用な運動処方、運動の種類、強度などの指標を理解する。
3	運動基準・運動指針	身体活動・運動および体力と健康との関係についての概念を確立し、「健康づくりのための身体活動基準 2013」などの内容を紹介する。
4	生活習慣病と運動疫学	生活習慣病の概念を理解し、予防施策における疫学研究の意義、運動疫学の意義および手法について。
5	健康の概念、医事法規	健康とは何かについて、世界保健機構の宣言、オタワ憲章の概念を参照して理解する。健康管理に関連して医療関係法規を学習する。
6	生活習慣病概論	生活習慣病とは何か、生活習慣病に含まれる疾病を概念的にとらえ、運動習慣等による予防、治療について包括的に学習する。
7	呼吸循環器系の働きとエネルギー供給	呼吸器官、心脈管系の構造と機能について理解し、一過性運動時の換気応答、脈管系の応答について学習する。また、その背景となる運動時の筋活動に対するエネルギー供給機構の基礎を学ぶ。
8	内科的メディカルチェック 内科的障害と予防	スポーツを実践する人の健康管理を理解し、内科的メディカルチェックの項目（問診、理学所見、血液検査、心電図、運動負荷試験など）を学習する。またスポーツによる内科的な急性・慢性の障害を取り上げ、予防、治療について紹介する。
9	整形外科的メディカルチェック	スポーツ活動時の運動機能の評価とスポーツ障害の管理を目的とした整形外科的メディカルチェックについて学習する。
10	救急処置	スポーツ現場での救急処置について学習するとともに心肺蘇生法の理論と実際を理解する。

11	運動器退行性疾患	加齢に伴う運動器疾患の病態を理解して適切な身体活動による進行防止や運動指導の意義を理解する。
12	外科的障害 上肢	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる上肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
13	外科的障害 下肢（膝を含む）	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる下肢の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。
14	外科的障害 脊椎	外科的障害の早期発見と良簿、スポーツによる脊椎の障害発生頻度、原因となるスポーツに関する知見を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回テーマにおけるキーワードについて予備知識をあらかじめ学習すること。例えば、生活習慣病とは何か？ など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

スポーツ医学研修ハンドブック（日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会監修、文光堂、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100 %）

理解度確認のためにレポート作成を適宜実施することがある。

【学生の意見等からの気づき】

適宜、解説用の補助プリントを作成し授業支援システムに掲示する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、予防医学およびスポーツに関わる様々な医学的テーマの基礎を講義する。

【Outline and objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

- 1: study basic knowledge about preventive medicine and sports injuries
- 2: learn the influence that physical activity and exercise give to health

HSS300IA

運動処方・負荷テスト

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動負荷テストの原理・方法と、有患者に対する運動処方の方法論。

【到達目標】

- ① 運動負荷テストの目的、適応、禁忌、合併症について理解する。
- ② 各種負荷方法および装置の特性など秋学期の実習に必要な実践的な知識を習得する。
- ③ 運動負荷心電図や心肺運動負荷試験の基本となる理論を理解する。
- ④ 目的・対象に応じた各種運動処方を行えることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】5月7日（木）3限（13:40～15:20）

すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② 前半は運動負荷テスト・運動処方の原理・方法論などの基礎を学習する。後半は各種疾患における運動負荷テスト・運動処方の実際について、病態生理、治療や運動のガイドラインに基づいて学習する事で、前半で習得した理論的基礎を応用的に習得する。
- ③ 後半では実際の症例に対する運動処方をレポートの課題として課す。
- ④ 講義はすべて医学的内容であるが、健康運動指導士が実践の場で扱う疾患とその理解を念頭に置いて構成され、必要最低限の基礎的理解を知識で習得できるよう配慮される。学習効果を上げるためには『運動生理学』や『スポーツ医学』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて受講する事が必須であると理解してほしい。
- ⑤ 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの基礎	運動負荷テストの歴史、目的、方法、適応、設備などについて。
2	運動処方に必要な心電図の基礎	体表表面心電図の電気生理学的基礎、12誘導およびモニター心電図の基礎について。
3	運動負荷心電図と判定	運動負荷心電図の原理・方法論、ST変化と不整脈、陽性、陰性、偽陽性、偽陰性、予後判定など。
4	運動負荷テストの適応と禁忌	リスクの層別化の考え方、メディカルチェックとスクリーニング、運動負荷テストの中止基準、インフォームドコンセント、安全対策、など運動負荷テストのリスクマネジメントについての医学的理解。
5	運動負荷テストのプロトコール	最適・最大の心肺応答を得るために必要な運動負荷プロトコールについての理論および代表的運動負荷プロトコールについて。
6	各種運動様式に対する心肺血管系の応答	動的・静的運動、定常・漸増負荷、全身・下肢運動などにおける心拍、血圧などの心肺血管系の応答について。
7	心肺運動負荷試験	心肺運動負荷試験の方法論、測定結果の評価法、最大酸素摂取量、いわゆるVT。

8	運動処方の原理と方法	用語、頻度、強度、期間設定、METS、など運動処方の原理・構造・方法を理解する。自覚的運動強度、心拍数、心肺運動負荷試験に基づく運動処方。
9	運動処方・負荷テスト各論（1）：心疾患	心臓病・肺疾患の病態生理、治療。心臓病・肺疾患患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
10	運動処方・負荷テスト各論（2）：高血圧	高血圧の病態生理、治療。高血圧患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
11	運動処方・負荷テスト各論（3）：糖尿病	糖尿病の病態生理、治療。糖尿病患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
12	運動処方・負荷テスト各論（4）：肥満・メタボリックシンドローム	肥満・メタボリックシンドロームの病態生理、治療。肥満・メタボリックシンドローム患者の運動負荷テスト・処方における留意点。
13	運動処方・負荷テスト各論（5）：ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症	ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症の病態生理、治療。ロコモティブシンドローム、骨粗鬆症患者の運動負荷テスト・処方における留意点。特にレジスタンストレーニングの処方原理と具体について講義する。
14	運動処方症例検討	各疾患の実際の処方例について、検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・アメリカスポーツ医学会『運動処方の指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵
- ・心肺運動試験に関しては、下記図書が簡潔にまとめて記載している。『A Practical guide to the Interpretation of Cardiopulmonary Exercise Tests』（Oxford University Press）※資料室収蔵

【参考書】

- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
- ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
- ・Arthur C. Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
- ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
- ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
- ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
- ・山地啓司. 『こころとからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
- ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
- ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみるACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
- ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
- ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
- ・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
- ・安達仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂3版』（中外医学社）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。ただし授業中に提出を課したレポートを追加的に評価する場合がある。

原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら運動負荷テストおよび有患者に対する運動処方の原理・方法について授業を行う。

- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 『運動生理学』、『スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』をあわせて履修する事を強く勧奨する。

③『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of exercise test and related cardiovascular physiology.

HSS300IA

生活習慣病と身体活動

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活習慣病に関する知識（定義、病態、疫学など）と、生活習慣としての運動・身体活動が疾病の発症と予防にいかに関わるのか、その機序と疫学的エビデンス。

【到達目標】

- ① 生活習慣病とは何か、その概念・定義を説明できるようにする。
- ② 生活習慣病の疫学、病態生理を理解する。
- ③ 生活習慣病を構成する疾患について定義・発症機序を理解する。
- ④ 身体活動・運動と生活習慣病の発症の関連について理論的背景と疫学的エビデンスを理解する。
- ⑤ 身体活動の意義・効果について、科学的エビデンスに基づき説明できるようにする。
- ⑥ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】5月6日（水）2限（11:10～12:50）

すべての回をオンライン授業で行う予定です。ただしパンデミックの完全終息などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えるようになった場合、速やかに教室における対面授業に切り替えます。昨年までと同等の内容で学習してもらえるように授業内容を構成していくつもりです。したがって、限られた授業回数ですが、原則としてシラバスに記載してある内容については、昨年までと同等に履修できるよう尽力します。そのため各回授業内容の記載変更はいたしません。

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。したがって学修のためには継続的な出席が必須である。
- ② 各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ③ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ④ 疫学的エビデンスを理解するために、『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましく、しばしば講義はそれを前提に行われるものと理解しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	なぜ身体活動を研究するのか？	身体活動量研究の歴史、概念・用語の定義、身体活動による健康増進・疾病予防の機序、生活習慣病とは。
2	身体活動量研究の方法論	身体活動量研究の基礎としての疫学的方法を歴史的背景も踏まえて解説、身体活動量の評価方法を学習する。
3	老化、寿命、QOL と身体活動	身体活動量と死亡率、寿命、QOL との関連について学習する。 キーワード：総死亡率、身体活動のリスク、compression of morbidity、dose-response、身体不活動
4	身体活動、フィットネスと心血管疾患	生活習慣病としての心血管疾患の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：虚血性心疾患、脳血管障害、閉塞性動脈硬化症、冠危険因子、Framingham Heart Study
5	身体活動、フィットネスと高血圧	生活習慣病としての高血圧の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：『高血圧治療ガイドライン』（日本高血圧学会）、chronic kidney disease、白衣高血圧
6	身体活動、フィットネスと糖尿病	生活習慣病としての糖尿病の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：Ⅱ型糖尿病、インスリン抵抗性、糖質代謝

7	身体活動、フィットネスと高血圧・高尿酸血症	生活習慣病としての高血圧・高尿酸血症の病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：LDL コレステロール、HDL コレステロール、痛風、『動脈硬化性疾患予防ガイドライン』（日本動脈硬化学会）
8	身体活動、フィットネスと肥満・メタボリックシンドローム	生活習慣病としての肥満、メタボリックシンドロームの病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：内臓脂肪、過体重、BMI、肥満症
9	身体活動、フィットネスと筋骨格系の健康	生活習慣病としての筋骨格系疾患・障害の医学、身体活動との関連について学習する。 キーワード：骨粗しょう症、変形性関節症、locomotive syndrome
10	喫煙と生活習慣病	生活習慣病の原因としての喫煙とその弊害について学習する。 キーワード：慢性閉塞性肺疾患、喘息、受動喫煙、『禁煙支援マニュアル』（厚労省）
11	身体活動、フィットネスと免疫・癌	生活習慣病としてエビデンスレベルの高い癌を中心に、病態生理、診断、治療および身体活動、フィットネスとの関連について学習する。 キーワード：乳癌、大腸癌、前立腺癌
12	身体活動、フィットネスとメンタルヘルス	不安障害・抑鬱に関する医学的理解、および身体活動との関連について学習する。 キーワード：うつ状態、うつ病、不安障害
13	（1）こどもの体力低下と身体活動 および（2）身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防プログラム	（1）こどもの生活習慣病の実態、身体活動の重要性について学習する。 キーワード：『体力・運動能力調査』（文部科学省）、エビジェネティクス（2）国内外の身体活動環境と健康増進政策、生活習慣病予防のための身体活動指導の実践について学習する。 キーワード：健康増進法、健康日本21（第2次）、特定健診・保健指導、『健康づくりのための身体活動基準2013』（厚労省）、都市計画と肥満
14	身体活動介入と行動変容	身体活動・運動継続のための行動科学的アプローチの理論的な基礎を学習する。 キーワード：行動変容モデル（transtheoretical model、プロチャスカ、1979）、運動のアドヒアランス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 各回の内容に記載したキーワードについて事前に学んで予備知識をつけておく、講義の理解を深める助けになる。
- ② 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補完し学習に役立てること。
- ③ 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ④ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

各授業回に関連するテーマについてより深く学ぶために必要な参考書・文献は各授業回で提示する。以下その他の参考文献・『健康づくりのための身体活動基準 2013』（厚労省）・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。原則として授業内に試験を行ってこれをもって定期試験に代えることはしない。【禁止事項】授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違反して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、実際の患者症例を提示しながら疾患の病態生理、発症機序、症状、治療、運動療法、予後などについて講義し、学生が生活習慣病の基礎的・臨床的知識を習得することができるようにする。

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

② 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修を済ませていること、または同時に履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge of chronic diseases and clinical epidemiology.

HSS300IA

運動生理学

瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義
 開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位
 曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動に対する生体の反応および機能的・構造的適応について扱う学問である運動生理学について講義する。

【到達目標】

運動生理学は生理学を基盤とし、理解のためには生化学や解剖学の内容も補足的活用する必要がある。体育学や最先端のスポーツ科学、スポーツ栄養学などを理解・活用する上で重要な科目の一つである。健康増進を目的とした身体活動や、スポーツパフォーマンス向上のためのトレーニングを、科学的エビデンスに基づいて実践するために必要な知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。生体における運動時の反応や運動に対する適応の機序は、生体の機能的・構造的特徴に基づき呼吸・循環器、神経、血液・免疫、内分泌、エネルギー代謝等の多くの分野に細分化されて研究されている。各テーマに沿って、身体活動およびスポーツ活動時に対する生体の反応や生理的適応の機序を系統的に学ぶ。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	神経系の役割と運動制御	運動機能を担う神経系の解剖・生理学的特徴の概論。神経筋接合部（運動単位）と高次中枢としての脳の運動制御に関する概論。
2	運動中の神経活動の実際：その1 末梢系	神経受容体における神経伝達物質による化学調節の基礎。運動時の心拍出量の変化に応じて血圧を制御する arterial baroreflex について。
3	運動中の神経活動の実際：その2 中枢系	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
4	骨格筋の役割と運動時の活動	筋活動時の中枢神経系を介した神経活動について理解する。運動時に末梢から中枢（exercise pressor reflex）、中枢から末梢（central command）へと伝播される神経伝達について。
5	トレーニングに対する骨格筋の適応	各種トレーニングに対する骨格筋の構造、生理機能の変化を学習する。有酸素トレーニングやレジスタンストレーニングが筋繊維レベルでのタンパク発現に及ぼす影響について。
6	内分泌系の役割と運動への応答	視床下部、下垂体から各臓器へ情報を伝達する内分泌系の役割と運動負荷時の変化を学習する。レジスタンス運動が内分泌系（インスリン、副腎皮質ホルモン、下垂体ホルモンなど）に及ぼす影響を紹介する。
7	トレーニングに対する内分泌系の適応	トレーニングの継続による、骨格筋や自律神経系の変化の背景にある内分泌系の意義を学習する。筋肥大のメカニズムや持続的トレーニングに伴う自律神経系の変化に伴う内分泌系の変化を紹介する。
8	生体エネルギー論 I	生体エネルギーとしての ATP の産生と利用のメカニズムについて理解する。エネルギーとは、エネルギー基質、解糖系、クレアチン燐酸などについて。
9	生体エネルギー論 II	エネルギー産生機構における酸素の役割。有酸素・無酸素エネルギー、酸素摂取量、酸素動態（定常・漸増負荷）。

10	酸素摂取量といわゆる AT	最大酸素摂取量の概念とその研究の歴史、測定方法（呼吸ガス分析）。Mechanical efficiency。（いわゆる）AT について学習する。
11	心臓・肺・ミトコンドリア	ガス交換、換気応答、心拍応答、心拍出量、動静脈酸素分圧較差など、運動における心肺循環器系の役割とその適応について学習する。
12	血液と循環	運動と体液、血液循環、末梢血管とその適応。Frank-Starling の法則、スポーツ心臓など、運動における血液・循環の役割とその適応について学習する。
13	生体エネルギー論 III	運動のエネルギー基質（macronutrient）、基礎代謝、酸素摂取量と消費エネルギー計算など、生体エネルギーの基質とその利用メカニズムについて学習する。
14	特殊環境における運動	特殊環境における運動において、生体のホメオスタシスがいかに維持され、また破綻するのか、理解する。すなわち、高所生理学、高山病、潜水生理学、潜水障害、低温障害、大気汚染、微小重力などについての学習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第1回：特に定めず

第2～14回：前回授業への取り組みと復習本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

・宮村実春 『ニュー運動生理学 I、II』（真興貿易、2015）
 ・石河利寛 『健康・体力のための運動生理学』（杏林書院、2000）
 ・Powers S, et al. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017)
 ・Kenney WL, et al. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics Publishers; 6th ed. (2015)
 ・McArdle WD, et al. "Exercise Physiology: Energy, Nutrition, and Human Performance" Lippincott Williams & Wilkins; 8th ed (2014)

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。
 教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、運動生理学について講義する。

【Outline and objectives】

We give a lecture about exercise physiology, the study of the acute responses and chronic adaptations to exercise such as specific changes in muscular, cardiovascular, and neural systems.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方を実際に行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨牀的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 14 | ホルター心電図および携帯型心電記録装置 | ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。 |
|----|---------------------|--|

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収載

【参考書】

【実習全体を通して利用できる参考書】

- ・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収載
 - ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収載
 - ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収載
 - ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収載
 - ・山地啓司. 『こころからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収載
 - ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収載
 - ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収載
 - ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収載
 - ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収載
 - ・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）※資料室収載
 - ・安達仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂 4 版』（中外医学社）※資料室収載
- 【第 4・5 回の実習に関する参考書】
- ・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）※資料室収載
 - ・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）※資料室収載

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

- 【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
- 【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時 12 誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

HSS300IA

運動負荷テスト実習

木下 訓光

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各種運動負荷テストの実践と結果の評価。

【到達目標】

- ① 運動負荷テスト原理・方法について理解し、各種対象者（疾患）に対して、適切な運動負荷テストを行い、得られた結果から処方を実際に行えるようにする。
- ② 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、本講義とともに同資格テキスト該当部分の内容を理解・習得する。
- ③ 単なる知識・手技の習得ではなく、実習を通じて心臓血管系・神経系・筋骨格系の機能・解剖学・生理学・病態生理への理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。
- ④ 授業の始めに各回のレポートのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	運動負荷テストの準備	実習室の構成を理解し、部屋の環境、備品、確認事項、など安全管理上の基礎について。その他グループ分け、テキストの紹介など。
2	バイタルサインの計測	安静時の血圧、脈拍の測定を実習する。
3	バイタルサインの計測	運動時の血圧、脈拍の測定を実習する。
4	モニター心電図	モニター心電図を用いてバルサルバ試験、呼吸性変動、顔面浸水試験。
5	循環器の自律神経調節	前回の結果を分析し、心臓血管系の自律神経調節機構について分析結果を踏まえてグループごとに発表する。
6	超音波断層診断装置による心臓の観察	運動負荷テストで異常を認めた場合や、運動負荷テストの適応可否について診断するために用いられる超音波断層診断装置を使い、心臓の解剖について、臨牀的に学習する。
7	標準 12 誘導心電図	標準 12 誘導心電図の測定。
8	運動負荷テストのための心電図装着	メイソン・ライカー法による心電図装着を実習し、運動負荷テストのために工夫された心電図測定装置の仕組みなどについて学ぶ。
9	運動負荷テスト（1）サイクルエルゴメーターによる多段階負荷	サイクルエルゴメーターによる多段階運動負荷テストを行う。
10	運動負荷テスト（2）サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式運動負荷テストを行う。最適な負荷増加率を計算できるようにする。
11	運動負荷テスト（3）：トレッドミルによる多段階負荷	12 誘導心電図を装着し、Bruce 法を用いて症候限界性運動負荷試験を行う。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。
12	心肺運動負荷試験（1）：サイクルエルゴメーターによる Ramp 負荷	サイクルエルゴメーターによる Ramp 式心肺運動負荷試験を行う。VT を求める。
13	心肺運動負荷試験（2）：トレッドミルによる多段階負荷	トレッドミルによる多段階運動負荷を行い、最大酸素摂取量について理解する。サイクルエルゴメーターとの違いを理解する。

- | | | |
|----|---------------------|--|
| 14 | ホルター心電図および携帯型心電記録装置 | ホルター心電図の装着、測定を行い、解析結果を分析する。携帯型心電記録装置を用いてスポーツ現場における使用法について学ぶ。 |
|----|---------------------|--|

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① レポートの作成・提出（原則毎回）。
- ② 各回の最後に次の授業に行く実習内容に必要な予習項目を提示するので十分な準備をして臨むこと。
- ③ 健康運動指導士の資格取得を目指す学生は、同資格テキストの該当する部分を、講義の進行に合わせて必ず精読・理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・アメリカスポーツ医学会『運動処方指針—運動負荷試験と運動プログラム』（南江堂）※資料室収蔵

【参考書】

【実習全体を通して利用できる参考書】

- ・Arthur C.Guyton. 『ガイトン生理学』（エルゼビア・ジャパン）※資料室収蔵
 - ・Gerard J. Tortora. 『トートラ人体の構造と機能』（丸善出版）※資料室収蔵
 - ・小澤壽司 他. 『標準生理学』（医学書院）※資料室収蔵
 - ・岡田隆夫. 『心臓・循環の生理学』（メディカルサイエンスインターナショナル）※資料室収蔵
 - ・山地啓司. 『こころからだを知る心拍数』（杏林書院）※資料室収蔵
 - ・池田隆徳. 『マンガで学ぶ心電図&不整脈』（中外医学社）※資料室収蔵
 - ・David P. Swain, Brian C. Leutholtz. 『運動処方—ケーススタディでみる ACSM ガイドライン』（ナッパ）※資料室収蔵
 - ・健康・体力づくり事業財団『健康運動指導士養成講習会テキスト 上・下』※資料室収蔵
 - ・川久保清『運動負荷心電図：その方法と読み方』医学書院※資料室収蔵
 - ・上嶋健治『運動負荷試験 Q&A119』（南江堂）※資料室収蔵
 - ・安達仁『CPX・運動療法ハンドブック：心臓リハビリテーションのリアルワールド 改訂 4 版』（中外医学社）※資料室収蔵
- 【第 4・5 回の実習に関する参考書】
- ・『やさしい自律神経生理学』（中外医学社）※資料室収蔵
 - ・『自律神経機能検査』（日本自律神経学会）※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果を解析してレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポートの提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。
なお実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

- 【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
- 【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、病院で医療行為として行われている安静時 12 誘導心電図、運動負荷心電図、呼気ガス分析、モニター心電図、ホルター心電図などの具体的手法と診断方法について、医師の指導のもと学生自らが経験して習得できるようにする。
- ① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。
- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目『運動処方・負荷テスト』の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1) 健康運動指導士資格試験受験の準備状況（テキストの購入、取得に必要な科目の履修状況など）、2) 『統計学Ⅰ』、『数学』、『基礎科学』の履修・単位取得状況を考慮する。
- ⑤ 学習効果を上げるためには『運動生理学』、『スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A』、『生活習慣病と身体活動』の履修を済ませていることが望ましい。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of exercise test and prescription and related cardiovascular physiology. The lecture provide skill how to conduct cardiopulmonary exercise test (CPX). The students should be given opportunities to practice exercise test by themselves.

CLS300IA

スポーツ医学（内科系）

瀬戸 宏明

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

旧うか科目名：スポーツ医学 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】

スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として各回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。

スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開講日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。運動と活性酸素。運動と感染症、癌。
6	熱中症と脱水	熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ (1)	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	疾患とスポーツ (2)	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実践を紹介する。

12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特に定めず

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2005）

目崎 登『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）

宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset mechanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.

CIM300IA

スポーツ医学（外科系）**瀬戸 宏明**

サブタイトル：【2017 年度以前入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

旧うか科目名：運動器疾患と身体活動 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身につけ、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靱帯の修復機転について学習する
3	頭頸部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頸部の外傷・障害について学習する
4	頭頸部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
5	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
6	体幹と骨盤・股関節（1）	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
7	体幹と骨盤・股関節（2）	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。第 1 回：特に定めず

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

- 1) アスレティックトレーナー専科テキスト 1～9 日本体育協会
- 2) スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版 編集：小出清一/福林徹/河野一郎
- 3) スポーツ科学・医学大事典 スポーツ医学 プライマリケア理論と実践 西村書店

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）

その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

図や動画を用いてわかりやすく解説していく。

後方の席は使用しない。

常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things

1: understanding of the structure of physical devices

2: understanding outbreak mechanism of injuries

3: how to make a prevention program of injuries

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期 回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。

9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

全体を通しての参考書

“Exercise Physiology (10th Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2017. ※研究室収蔵

第 2 回：

木下訓光. 熱中症－海外における最近のトピックス－. 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）』
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）

（いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能）

第 3・4 回：

『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』※資料室収蔵

第 5 回：

『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』※資料室収蔵

Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵

『ライフステージ栄養学実習書』※資料室収蔵

第 6 回：

『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』※資料室収蔵

アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。

<https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf>

『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』※資料室収蔵

(AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること)

ハンズオンリー CPR よくある質問 (<http://www.aha-tts.com/article/13690287.html>)

第 7 回：

Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵

木下訓光. やせと体組成、月経障害. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1）日本スポーツ協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

CIM300IA

スポーツ医科学実習

木下 訓光、瀬戸 宏明

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 1 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

旧うか科目名：スポーツ医学実習 [2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生にたいする医学的支援（対処・治療・予防）の実践において必要な知識・技術。

【到達目標】

スポーツ医学的評価を正確に行い、妥当性のある測定、検査結果の正しい解釈が行えるようにして、アスリートや患者の必要としている要求を論理的にアセスメントして、科学的介入が行えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 実習の性質から少人数制で行い、4～5 名から構成されるグループに分かれて実習を行う。
- ② 原則として毎回各グループまたは全体から 1 人または若干名の被検者を募り、対象者として測定などを行う。
- ③ 体組成評価、血液検査、熱中症の治療、脳振盪の評価、Hands only CPR について実習を行う。
- ④ リハビリテーションの評価と関連する筋力測定、筋電図などの測定を実施し、得られたデータを評価する。さらに代表的なスポーツ障害のケーススタディーを交えて、評価・介入計画について実習を行う。
- ⑤ 各回、測定したデータを利用して解析するべきテーマを与えるので、解析結果を翌週の授業までにレポートとして提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

秋学期 回	テーマ	内容
1	イントロダクション【担当：木下】	グループ分け、実習の概要・運営について、機器の扱いや実験に関する諸注意。
2	運動と体温、熱中症【担当：木下】	WBGT の測定、熱疲労の初期治療、熱射病の whole body cooling について実習する。
3	運動と血液（1）【担当：木下】	血液検査（ヘモグロビン、白血球数、血糖値、CK、鉄、フェリチンなど）を行い、スポーツ選手における貧血の診断などについて学ぶ。
4	運動と血液（2）【担当：木下】	前回の血液検査の結果を元に、メディカルチェックなどで行われる血液検査の実際とその解釈について学ぶ。
5	身体組成および骨密度【担当：木下】	体組成評価方法における gold standard としての DXA 法による身体組成および骨密度評価を行う。骨粗鬆症の診断について学ぶ。体組成・骨密度を左右する栄養摂取状況について調査を行いスポーツ栄養の実践について学ぶ。
6	スポーツ現場における BLS と AED の活用【担当：木下】	BLS と AED の使用方法について、特にスポーツ現場における活用を念頭に実習する。Hands-only CPR について実習する。
7	アスリートの臨床的サポートの実際【担当：木下】	骨密度、体組成、血液データなどを用いて、特に思春期を中心とした若年アスリートの医科学的サポートの実際について症例を踏まえながら学習する。これまでの測定したデータを利用して体組成評価をアスリートの医学的サポートにどのように生かしていくか分析・実践し、グループごとに発表する。
8	脳振盪・脊椎損傷への対応【担当：瀬戸】	脳振盪による認知機能、随伴症状を認めた場合の競技中止の判断と、経過観察後の競技復帰について学ぶ。SCAT およびコンピュータを用いた神経心理学的検査を学習する。頸椎損傷が疑われる場合のスポーツ現場における初期対応について学ぶ。

9	整形外科的メディカルチェック（1）【担当：瀬戸】	メディカルチェックの具体的な方法を説明する。身体各部位の観察方法について学習する。
10	整形外科的メディカルチェック（2）【担当：瀬戸】	関節可動域、弛緩性、タイトネスなどの項目について、実際の計測を行い、身体所見の観察方法を学習する。
11	スポーツ障害の特色（1）【担当：瀬戸】	代表的な動作（ランニング、投球などの）の機能解剖学を参考し、動作に固有なスポーツ障害について学ぶ。
12	スポーツ障害の特色（2）【担当：瀬戸】	腰痛症について、その発生メカニズムを理解する。動作と関連する腰背部の筋群について学習する。
13	レジスタンストレーニングの筋活動モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニングを実施する時の筋群の活動を筋電図を用いて観察し、トレーニング効果の理解を深める。
14	レジスタンストレーニング時の呼吸、循環系モニタリング【担当：瀬戸】	レジスタンストレーニング中の呼吸、循環応答を観察し、生体応答を理解する。医学的問題点への対処、アクシデントの予防についても検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート作成、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

全体を通しての参考書

“Exercise Physiology (10th Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2017. ※研究室収蔵

第 2 回：

木下訓光. 熱中症－海外における最近のトピックス－. 臨床スポーツ医学 2011;28(7):709-717. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)
『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）』
『熱中症対策マニュアル』（稲葉 裕 監修、エクスナレッジ）
『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）
『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）
『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

『夏のトレーニングガイドブック』（日本スポーツ協会）

（いずれも <https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能）

第 3・4 回：

『Newton 別冊 からだの検査数値 新装版』※資料室収蔵

第 5 回：

『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015 年版』※資料室収蔵

Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵

『ライフステージ栄養学実習書』※資料室収蔵

第 6 回：

『AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドラインアップデート 2015』※資料室収蔵

アップデート 2015 のハイライト版は下記の URL でも参照可能。

<https://eccguidelines.heart.org/wp-content/uploads/2015/10/2015-AHA-Guidelines-Highlights-Japanese.pdf>

『ハートセイバー ファーストエイド CPR AED 受講者用ワークブック AHA ガイドライン 2015 準拠』※資料室収蔵

(AHA BLS 関連の DVD も資料室にあるので参考にすること)

ハンズオンリー CPR よくある質問 (<http://www.aha-tts.com/article/13690287.html>)

第 7 回：

Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer, 2018) ※資料室収蔵

木下訓光. やせと体組成、月経障害. 臨床スポーツ医学 2014;31(9):858-867. (メディカルオンラインより全文閲覧可能)

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %：毎回の測定結果や実習内容を解析するなどしてレポートを作成し、次の講義に提出する。各回のレポートごとに評価を行い、得点化したうえで、最終的な評価を算出するが、欠席した場合はその回の得点は原則として 0 点とするので、欠席が多い場合、またはレポート提出回数が少ない場合、合格点を得ることができなくなる可能性があるので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

必要なものは各実習回に合わせて指示する。

【その他の重要事項】

【実務の経験】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】上記診療経験に基づき、医師の指導のもと学生が医療行為を含めた実習を経験し、スポーツ現場において発生する内科的および外科的障害・外傷の発生に対する医学的支援の実践において必要な知識・技術を習得できるようにする。

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

- ② 各回の実習は、その後の実習への準備となるため、欠席が多い場合は、続く実習の理解が不十分となる可能性があるので注意が必要である。
- ③ 春学期科目「スポーツ医学（内科系）/スポーツ医学 A」の単位を修得していることが履修の絶対条件である。
- ④ 履修希望者が多い場合は選抜を行う。その際には、1）日本スポーツ協会アスレチックトレーナー資格試験受験の準備状況、2）『統計学Ⅰ』、『数学』の履修・単位取得状況を考慮する。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide practical knowledge of sports medicine related to physical activity, exercise, and sports. The lecture provide skills how to deal and prevent sports injuries in children and adults.

CLS300IA

スポーツ医学 A

瀬戸 宏明

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：3～4 年次／2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内科系医学分と関連する様々なスポーツ障害とその病態生理、発症機序、予防、治療について講義する。各テーマと関連する基礎医学の内容も含む。

【到達目標】

スポーツ障害の定義、概念を、科学的エビデンスに基づいて正確に理解することができる。スポーツ障害の病態生理、発症機序、予防、治療方法などの臨床的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として毎回ごとに完結するテーマを設定して講義形式で行う。

スポーツ医学は、解剖学、生化学、運動生理学など複数の分野の成果を包括的に活用して、スポーツ活動に伴う様々な医学的課題を扱う学問である。したがって、これまで習得してきた基礎医学・健康科学の知識を活用して内科系スポーツ障害の病態生理を理解していく。例として、突然死や貧血、熱中症、スポーツ心臓、女性のスポーツ医学、心臓リハビリテーション、メディカルチェック、などの発症機序や予防・治療法について、科学的エビデンスに基づき、より専門的・先端的に学ぶ。その他、内分泌学、免疫学の分野に含まれるテーマについても解説する。

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムなどでその都度提示する。本授業の開始日は 5 月 6 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを授業内掲示板で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (1)	運動による突然死の原因疾患の疫学、病態生理、臨床知識の理解と、対策としてメディカルチェックの実践について習得。
2	突然死とメディカルチェック、運動適性、参加可否 (2)	競技参加・運営と関連するメディカルチェックの実践・事例を紹介する。
3	心臓のスポーツ医学	スポーツ心臓、スポーツによる心臓への潜在的負担（cardiovascular drift、心房細動）、心臓リハビリテーション
4	運動と免疫 (1)	運動・身体活動と関連する基本的な免疫学について学習する。
5	運動と免疫 (2)	運動による免疫力の低下および増強。
6	熱中症と脱水	運動と活性酸素。運動と感染症、癌。熱中症の定義・病態生理・臨床、脱水症、低ナトリウム血症、運動中の水分補給について学習。
7	疾患とスポーツ (1)	スポーツに関連した内科的障害について解説する。
8	疾患とスポーツ (2)	肝臓、腎臓、代謝疾患、神経疾患などを有する患者の運動の可否について学習する。
9	骨粗鬆症、sarcopenia とスポーツ	骨粗鬆症、sarcopenia についての医学的知識（病態生理・予防・治療）の習得。その予防におけるスポーツの役割、老化、アンチエイジングについて解説する。
10	女性のスポーツ医学	女性の運動、スポーツにおける固有の問題、すなわち女子アスリートの三徴、妊娠・月経とスポーツ、乳癌、更年期障害、乳房とパフォーマンスなどについて解説する。
11	リハビリテーションとスポーツ医学	一般的な運動療法、競技復帰前のアスレチックリハビリテーション、障害者スポーツについて学習。スポーツ医学分野に必要なリハビリテーション医学の実際を紹介する。

12	コンディショニングとスポーツ医学	コンディショニングにおいて重要なテーマであるオーバートレーニング症候群 (Unexplained Under Performance Syndrome) を例に挙げ、その医学的根拠について解説する。
13	小児のスポーツ医学	発育・発達期の特徴と発生メカニズム、疫学について学習。小児期に注意すべきスポーツ外傷や発育・発達を背景としたスポーツ障害について解説する。
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特に定めず

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

日本体育協会指導者育成専門委員会スポーツドクター部会『スポーツ医学研修ハンドブック 基本科目・応用科目』（文光堂、2005）

目崎 登『スポーツ医学入門』（文光堂、2009）

宮永 豊、他『アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学』（文光堂、1998）

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に教材に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

提示資料・スライドの説明を音声や映像を導入し、印象に残るような効果を導入する。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、内科系医学と関連する様々なスポーツ障害について講義する。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine A is to learn about pathophysiology, onset mechanism, the prevention and treatment about various sports dyskinesia related with internal medicine.

CIM3001A

スポーツ医学 B

瀬戸 宏明

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：3～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【到達目標】

運動器の構造を理解して、スポーツの動きとの整合性を学び、外傷・障害発生機序を理解して外傷・障害の予防プログラムを構築できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害について部位別に年齢・性別・競技特性などによる相違を学ぶ。これらの外傷・障害について科学的に分析する能力を養い、外傷・障害発症と関節弛緩性・関節可動域・関節アライメント・関節不安定性・筋タイトネス等の身体特性との関連性について学ぶ。損傷した組織が修復していく過程を把握し、アスレティックリハビリテーションのメニュー作成のための基礎的な知識を身に付け、安全なスポーツ現場の整備についても習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	半年間の講義の概要、などを説明する。骨・筋肉の名称、作用に関する試験を行う。
2	外傷・障害の修復	骨・軟骨や筋・腱・靱帯の修復機転について学習する
3	頭頸部と上肢の外傷・障害（1）	主に頭頸部の外傷・障害について学習する
4	頭頸部と上肢の外傷・障害（2）	主に上肢の外傷・障害について学習する
5	上肢のアスレティックリハビリテーション	上肢のアスリハについて要点を学習する
6	体幹と骨盤・股関節（1）	体幹の外傷・障害とバイオメカニクス
7	体幹と骨盤・股関節（2）	骨盤・股関節の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
8	体幹のアスレティックリハビリテーション	体幹のアスリハについて要点を学習する
9	大腿の外傷・障害	大腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
10	膝の外傷・障害	膝の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
11	膝・下腿の外傷・障害	膝・下腿の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
12	足関節・足部の外傷・障害	足関節・足部の外傷・障害とバイオメカニクスについて学習する
13	下肢のアスレティックリハビリテーション	下肢のアスリハについて要点を学習する
14	総括・単位認定試験	講義内容の総括と単位認定試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要があれば講義の前日までに、授業支援システム上に資料を掲載する。受講者は各自資料をダウンロードのうえ指定参考書などを用いて事前学習を行う。

第 1 回：特に定めず

第 2～14 回：前回授業への取り組みと復習

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

1）アスレティックトレーナー専科テキスト 1－9 日本体育協会

2）スポーツ指導者のためのスポーツ医学改訂第 2 版 編集：小出清一/福林徹/河野一郎

3）スポーツ科学・医学大事典 スポーツ医学 プライマリケア理論と実践 西村書店

【成績評価の方法と基準】

単位認定試験（原則 100%）

その他適時小テストを行う予定

【学生の意見等からの気づき】

図や動画を用いてわかりやすく解説していく。

後方の席は使用しない。

常に受講者の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

【その他の重要事項】

※授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。経験を活かし、スポーツの外傷・障害の予防プログラムを構築できるよう講義する。

【Outline and objectives】

Sports medicine is a branch of medicine that deals with the treatment and prevention of injuries related to sports.

A purpose of Sports Medicine B is to learn the following things

- 1: understanding of the structure of physical devises
- 2: understanding outbreak mechanism of injuries
- 3: how to make a prevention program of injuries

ECN1001A

スポーツ経済論

宮下 量久

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定やスポーツ庁の設置など、わが国のスポーツを取り巻く環境は大きく注目されています。本講義の目的は、経済学の考え方を基にして、スポーツ活動の役割や可能性を考えていくことにあります。経済学は「選択の学問」と呼ばれることもあり、スポーツの諸課題を解決するうえで重要な示唆を与えてくれるでしょう。また本講義では、スポーツ活動の根幹をなす「資金」について、公・民の両面から把握し、スポーツにまつわる経済活動についての知識も深めていきます。

【到達目標】

現実のスポーツに関する課題を経済学的視点から分析し、その解決策を含めて自分自身で論理的に説明できることを目指します。そのために、経済学における基本的な考え方・理論を習得してもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

冒頭の 10～15 分では授業内容に関連する時事的テーマについて平易に解説します。授業は Power Point を主に用いた講義形式ですが、一方通行の授業とならぬように、授業で扱う各テーマについて自分なりの考えをまとめて、次の授業までに小レポート（400 字以上）を提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	各講義の内容、進め方、評価方法などを説明します。また、どのようなスポーツの問題に関心があるのか、アンケート調査も行います。
2	オリンピックと経済学	オリンピックの事例や資金の流れを踏まえて、GDP（国内総生産）などの考え方、経済効果と経済成長の違いなどを学びます。
3	ワールドカップと経済学	サッカー・ラグビーのワールドカップなどのメガスポーツイベントの事例や資金の流れを踏まえて、需要曲線や供給曲線の特性などについて学びます。
4	スタンドプレーかチームプレーか	団体競技におけるスタンドプレーやチームプレーの事例を踏まえて、経済学における合理的選択などを学びます。
5	プロ野球選手の年俵はなぜ高いのか	国内外のプロスポーツ選手の年俵を事例に挙げながら、プロ野球の資金の流れやプロスポーツの労働供給市場について学びます。
6	プロチームは利潤最大化企業か	J リーグを取り巻く資金や企業を事例にして、企業の利潤最大化行動、生産者余剰の考え方などについて学びます。
7	チケット転売と経済学	スポーツイベントのチケット転売問題などを事例に、消費者余剰と生産者余剰を用いて、総余剰の意味、参入規制の余剰分析などを行います。
8	スポーツの競技団体における資金の実態	各種スポーツ競技団体の資金などを事例にして、補助金などによる政府の市場介入について説明します。
9	スポーツにおける国の役割	スポーツ庁などの政策・予算を事例に、市場の有効性、「市場の失敗」の是正、「政府の失敗」の是正などの概要を学びます。
10	スポーツと地域振興	都道府県や市町村のスポーツ政策・予算などを事例に、地域振興におけるスポーツの役割や地方分権の意義について学びます。
11	プロスポーツの資金の実態	野球・サッカー以外のスポーツの資金などを事例にし、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やグラフでの求め方について学びます。
12	望ましいゲームのルールとはなにか	ドーピング問題や八百長問題を踏まえて、ゲーム理論に基づき、公正・公平なルールについて考えます。

13	グローバル経済とスポーツ	スポーツの国際化の流れを踏まえて、国際経済の基本的な考え方を学びます。
14	試験・まとめと解説	授業の内容に基づき、試験・総括を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習については、授業前に資料を授業支援システムにアップしますので、一読しておいてください。
・復習については、小レポート課題を次の授業までに提出することで行っていきます。本授業の準備学習・復習時間は各 1～2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講師の作成資料に基づいて、授業を進めていきます。

【参考書】

笹川スポーツ財団（2017）『スポーツ白書 2017』
八田達夫（2008）『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

・成績評価の方法：経済学の考え方を踏まえて、授業の内容を的確に把握し、スポーツにまつわる各課題について自らの意見を述べるができるか、で評価します。
・成績評価の基準：毎回の講義で課す小レポート（配分：20 % 程度）、期末試験（配分：80 % 程度）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の希望等を踏まえて、講義の順番や内容などを一部変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

シンクタンク在職時、スポーツ予算の実態やスポーツ庁の組織形態について調査研究した経験を踏まえ、スポーツ行政における課題を明確にし、その解決策を検討していきます。

【Outline and objectives】

This course provides an overview of sports-based microeconomics. You can learn how economics is a useful tool for resolving problems in society through this lecture. We will examine a compelling value proposition for the sports industry and an interesting policy concerning sports in the national government.

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義
 開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、幅広いメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通すること。そのためには、メディアの発生から成長の軌跡と現状を理解しながら、今後著しい変化が予想されるメディア世界を読み解ける能力を磨き、知識を身につける。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。いったいスポーツ自体がなぜメディアなのか。4K での精緻な映像に始まって 8K の現実と遜色ない映像の世界は、スポーツにこそ最高の技術を使った伝達の価値を見いだせると語っているようだ。東京 2020 を伝えようとするメディアの新たな動きを経験した上で、スポーツメディアの近未来を考える機会としたい。

【到達目標】

オリ・パラという大きなスポーツイベントを契機に、メディアは大きな方向転換をしようとしている。講義を経て獲得すべきは：活字、電波、写真、モバイル。メディアの種類が変化するのではなく、その需給バランスが時代を画すほどにどう変わってきたのか。「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアはこの曲がり角をどうクリアしようとしているのか。その動向、情報を見聞きするにつけ、そこに社会の投影されるのを知り、世の人々の関心がどのように変わってきたのか。ストーリーミング、OTT、SNS、見逃し配信。さまざまなルートを通して、スポーツがそれ自身メディアとしてどう膨張しているのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアだ。受容媒体の重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは媒体技術面のイノベーションによるところが大きい。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかノウハウにもつながる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はまだまだメディアの中心に近い。その組織と活動から、全体的なニュース報道の中のスポーツの占める位置を窺う。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるとはば時を同じくして「スポーツ」に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	活字メディアの仕組み	スポーツメディアは、メディアの一つのジャンルである。そこをのぞき見るには、活字メディアの世界の常識と理念を知っておかなければならない。後に放送メディアも大きな影響を受けた取材から報道までのありようを見る。
4	電波メディアの仕組み	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	活字メディアにスポーツメディアの核を見る	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げて来た。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらスポーツメディアの特徴を知る。

6	事業を興すスポーツメディア	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきたのだ。
7	スポーツ中継（1）	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えない部分を音声実況の歴史から初めて含めて細部まで開示する。
8	スポーツ中継（2）	ラジオとテレビ。それはメディアの構造の違いだけでなく方法論の違いにもつながっている。音中心のメディアと映像主体のメディアを比べ、重ね合わせることでスポーツ報道のある部分が見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツスタジオ番組	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超える新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見だしているのかに底通する。
12	スポーツメディア世界の今	メディアを巡る環境は激変。放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加。ストーリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
13	東京 2020 にスポーツメディアの近未来を見た。	テレビ中のスポーツがストーリーミングに向かって急激に舵を切ったかのように見える。東京 2020 で経験した新しいスポーツメディアのありようを振り返る。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続ける。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことだ。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ。そこでひらめいた読後感さまざまなシーンで有用だ。いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かおう。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「21 世紀スポーツ大事典」中村敏雄ほか編集主幹 大修館書店
 「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会
 「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

配分：
 講義中に、指定する時間内で小論文を要求する。毎回の小論文は成績評価の対象となり。1 回最高点 3 点。13 回のすべて満点を取れば、39 点。最終講義内に行う試験 7 0 点。
 すべてフルに獲得すれば 109 点となり、明らかに最高レベルの評価で単位を取得できる。
 評価基準：積極性・独創性・多様な選択肢・広い世界観、具体事例を示せるかどうかなど。

【学生の意見等からの気づき】

テレビを見ない世代が増えている中で、2020 東京はそうした若い人たちにどんなインパクトを残すのだろうか。メガイイベント後の講義だけに、新鮮な記憶とともに「現代」を追いかけたい。
 スライド枚数を多くした分、スライドの切り替えが早いという声があった。留意しておきたい。

【その他の重要事項】

スポーツジャーナリストとしての 40 年にわたる内外での取材活動を元に、電波・活字・インターネットメディアの構造を講義する。

スポーツメディアの”期待”は、栄光・感動・勝利といった手垢のついた概念を持ち出すことで処理されようとするのか。それとも、そこから一歩抜け出したスポーツ観を提示してくるのか。それこそが本来は五輪・パラリンピックのレガシーであるべきなのだが。

【Outline and objectives】

To be familiar with the sports philosophies of existing media such as existing newspapers, broadcasting, Internet and tablets that are prominent in recent years. For that purpose, while understanding the trajectory and current situation of growth from the occurrence of media, you will acquire knowledge by refining the ability to understand the media world where remarkable changes are anticipated.

HSS2001A

バドミントン指導論演習

升 佑二郎

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：2～4 年次／2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

旧うか科目名：バドミントン指導論 (実習)[2012 年度以前入学生]

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してこれらの事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

バドミントンの歴史、競技規則、基礎技術論を資料を参考に学ぶ。バドミントン指導者として身に付けなければならない基本ストローク、フットワーク、フィーディング技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポーツプログラムを作成できる能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	バドミントン概論
2	バドミントン技術論	講義と実技 「基本ストローク」
3	バドミントン技術論	講義と実技 「コースを打ち分ける」
4	バドミントン技術論	講義と実技 「フットワーク」
5	バドミントン競技指導	講義と実技 「ジュニア編」
6	バドミントン競技指導	講義と実技 「シニア編」
7	バドミントン・トレーニング論	講義と実技 「導入編」
8	バドミントン・トレーニング論	講義と実技 「応用編」
9	バドミントン・コーチ論	講義と実技 「ティーチングとコーチング」
10	バドミントン戦術の指導と事例の研究	講義と実技 「研究データの活用」
11	バドミントン競技規則	講義と実技 「歴史とルール」
12	バドミントンゲームの分析	講義と実技 「シングルス」
13	バドミントンゲームの分析	講義と実技 「ダブルス」
14	理論及び技術習得試験とまとめ	試験と授業振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回：特になし

第 2～14 回：前回授業の復習

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】

DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（80%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

体育館シューズ

【その他の重要事項】

春学期科目のバドミントン実習を併せて履修することが望ましい。

本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけるバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS100IA

剣道指導論演習

古澤 伸晃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校において全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るようになることを目的とする。

【到達目標】

履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することのできる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道）の概要	授業の展開、剣道の歴史
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、構え方、納め方、足さばき、素振り、掛け声、切り返し
3	基本指導法②	模擬授業 1 基本指導法①の反復
4	基本指導法③	剣道具の装着（胴・垂れ・小手） 模擬授業 2 基本指導法①②の反復
5	基本指導法④	間合、踏み込み足 模擬授業 3 基本指導法①②③の反復
6	基本指導法⑤（しかけ技①）	剣道具の装着（手拭い・面） 模擬授業 4 基本指導法①②③④の反復
7	基本指導法⑥（しかけ技②）	打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技 模擬授業 5 基本指導法①②③④⑤の反復
8	基本指導法⑦（応じ技①）	払い技、引き技、出ばな技、 模擬授業 6 基本指導①②③④⑤⑥の反復
9	基本指導法⑧（応じ技②）	抜き技 模擬授業 7 基本指導①②③④⑤⑥⑦の反復
10	基本指導法⑨（応じ技③）	返し技 模擬授業 8 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧の反復
11	基本指導法⑩（総合演習指導法①）	すり上げ技、打ち落とし技 模擬授業 9 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復
12	基本指導法⑪（総合演習指導法②）	切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古、互角稽古 模擬授業 10 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 試合・審判法① 8～10 名で構成するグループ 1 により、「試合稽古」を行う。終了後に、礼法、試合内容、有効打突、審判法についてディスカッションし検討する。

13	基本指導法⑫ (総合演習指導法③)	模擬授業 1 1 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の 反復 試合・審判法② 3 名で構成するグループ 2 により、 「審判」を行う。終了後に、審判法に ついてディスカッションし検討する。 基本技を中心とした実技試験を実施 する。 剣道授業のまとめ
14	試験・解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし
ただし、授業において資料を配布する。

【参考書】
剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①実技試験
②模擬授業評価
③授業への参加態度
①～③を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
手拭い、名札、小手下は学校から支給します。

【その他の重要事項】
実務経験～皇宮護衛官
警察で学んだ剣道経験を活かし学生にわかりやすく指導する。また、剣道本
来の姿を模索しながら勝敗だけにこだわる剣道ではなく、礼法や相手を思い
やる心を大切に授業を進めていく。

【Outline and objectives】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School
Government Course Guidelines, all the junior high students should
complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that:
Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able
to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense
and defense through hitting and receiving

HSS100IA 剣道指導論演習

古澤 伸晃

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・演習
開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次／単位：1～4 年次／ 2
単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文部科学省・中学校学習指導要領の改訂により、2012 年 4 月より中学校に
おいて全ての生徒に武道を履修させることとなった。そこで本授業では学習
指導要領の内容に基づき、武道（剣道）の伝統的な考え方を理解し、まずは、
自分自身が相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打っ
たり受けたりするなどの攻防を通した練習や試合及び審判が出来るように
なることを目的とする。

【到達目標】
履修者が、中学校・高等学校において武道（剣道）の授業を展開することので
きる指導力、知識、技能を身に付けさせることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎・基本を大切にしながら実技を中心として授業を展開する。また、試合
を実施するとともに審判法についても授業を展開していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】		
回	テーマ	内容
1	授業展開と武道（剣道） の概要	授業の展開、剣道の歴史
2	基本指導法①	礼法（正座・座礼・立礼）、竹刀の名称 と構造、姿勢、呼吸、構えと目付け、 構え方、納め方、足さばき、素振り、 掛け声、切り返し
3	基本指導法②	模擬授業 1 基本指導法①の反復 剣道具の装着（胴・垂れ・小手）
4	基本指導法③	模擬授業 2 基本指導法①②の反復 間合、踏み込み足
5	基本指導法④	模擬授業 3 基本指導法①②③の反復 剣道具の装着（手拭い・面）
6	基本指導法⑤ （しかけ技①）	模擬授業 4 基本指導法①②③④の反復 打ち方・打たせ方・受け方 一本打の技・連続技
7	基本指導法⑥ （しかけ技②）	模擬授業 5 基本指導法①②③④⑤の反復 払い技、引き技、出ばな技、
8	基本指導法⑦ （応じ技①）	模擬授業 6 基本指導①②③④⑤⑥の反復 抜き技
9	基本指導法⑧ （応じ技②）	模擬授業 7 基本指導①②③④⑤⑥⑦の反復 返し技
10	基本指導法⑨ （応じ技③）	模擬授業 8 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧の反復 すり上げ技、打ち落とし技
11	基本指導法⑩ （総合演習指導法①）	模擬授業 9 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨の反復 切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、 掛かり稽古、互角稽古
12	基本指導法⑪ （総合演習指導法②）	模擬授業 1 0 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩の反復 試合・審判法① 8 ～ 10 名で構成するグループ 1 に より、「試合稽古」を行う。終了後に、礼 法、試合内容、有効打突、審判法につ いてディスカッションし検討する。

13	基本指導法⑫ (総合演習指導法③)	模擬授業 1 1 基本指導①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪の 反復 試合・審判法② 3 名で構成するグループ 2 により、 「審判」を行う。終了後に、審判法に ついてディスカッションし検討する。 基本技を中心とした実技試験を実施 する。 剣道授業のまとめ
14	試験・解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし
ただし、授業において資料を配布する。

【参考書】
剣道 社会体育教本 「改訂版」、全日本剣道連盟、全日本剣道連盟、2009.4.1

【成績評価の方法と基準】
①実技試験
②模擬授業評価
③授業への参加態度
①～③を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
剣道具、竹刀については学校で準備します。
手拭い、名札、小手下は学校から支給します。

【その他の重要事項】
実務経験～皇宮護衛官
警察で学んだ剣道経験を活かし学生にわかりやすく指導する。また、剣道本
来の姿を模索しながら勝敗だけにこだわる剣道ではなく、礼法や相手を思い
やる心を大切に授業を進めていく。

【Outline and objectives】
As the revision of Ministry of Education: Junior High School
Government Course Guidelines, all the junior high students should
complete martial arts after April 2012.
Based on what mentioned above, the purpose of this course is that:
Comprehension of traditional idea of martial art(kendo) Getting able
to do the practice, match, and judge Mastering the basic skills of offense
and defense through hitting and receiving

HSS2001A

バドミントン実習

升 佑二郎

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】
カテゴリ：スポーツコーチングコース専門科目・実技
開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次／単位：2～4 年次／
1 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快
感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、
増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要
な行為として位置付けられている。本科目は、バドミントンを通してそれら
の事項とともに、運動の喜びや楽しさを知り、バドミントンの指導ができる
ようになることを目的とする。

【到達目標】
指導者としてバドミントンを教えるために必要な基礎知識、技術論を習得する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
バドミントン指導者として身に付けなければならない基本ストローク、フッ
トワーク、ノック技術等実技を中心にコート上で実習し、シングルス、ダブ
ルスのゲームが行えるように学習する。また、地域スポーツ指導者として要
望の多いバドミントンの指導者として、ジュニアからシニアまで生涯スポー
ツプログラムを作成できる技術能力を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 春学期		
回	テーマ	内容
1	基本技術	グリップと技術習得
2	基本技術	ラケットテクニックの技術習得
3	基本ストローク	ドライブ
4	基本ストローク	ハイクリア&ヘアピン
5	基本ストローク	ドロップ&ロビング
6	基本ストローク	プッシュ&レシーブ
7	基本ストローク	スマッシュ&レシーブ
8	基本技術 応用編	オールロング
9	基本技術 応用編	オールショート
10	シングルス	フットワーク
11	シングルス	ゲーム組立
12	ダブルス	フォーメーション
13	ダブルス	組立
14	実技試験とまとめ	試験と授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回：特になし
第 2～14 回：前回授業の復習
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に決まったテキストは使用せず、資料などはその都度配布する。

【参考書】
DVD 教材「日本初のバドミントン博士！ 升佑二郎の最新科学トレーニング」
出版社：ティアンドエイチ 出版年：2017 年

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20%）、技術習得および指導法の実技試験（80%）により評
価する

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
体育館シューズ

【その他の重要事項】
秋学期科目のバドミントン指導論演習を併せて履修することが望ましい。
本科目担当教員は日本スポーツ協会バドミントンコーチ 4 の資格を有し、日
本バドミントン協会指導者資格講習会の講師を務めており、学校現場におけ
るバドミントンの指導法に関する講義を行う。

【Outline and objectives】

Sport is thought to be an important act that fulfills the intrinsic human need for moving the body, and it promotes refreshing feelings and senses of accomplishment and solidarity, while playing a major role in maintaining/promoting health as a basis for life-fulfillment, enhancing physical fitness, and supporting youth development. This course aims to help students learn the pleasure and enjoyment of exercise, in addition to the above-mentioned effects, through badminton, and become able to teach this sport.

HSS200IA

専門演習Ⅰ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「見る・聞く・体験する」から始めて「読む・分析する・評価する」へ

【到達目標】

科学的分析および論理的思考能力を獲得するための基礎を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」
「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ① 2 年時においては、3 年時以降に本格的に取り組む研究テーマの探求と、実
践的体験に必要な知識とスキルの習得を目的として講義・実習を行うが、3 年
生、4 年生のプレゼンテーションとその指導からも学ぶ機会を得る。
② 扱う内容は、プレゼンテーション、インタビューやコミュニケーション、
科学研究の方法論、スポーツ医学の理解に必要な統計学、英語論文・文
献の解読法、体力の重要な構成要素である「持久力」、「体組成」、「筋力・パ
ワー」についての正確な理解、スポーツ栄養などである。
③ スポーツ医学やスポーツ科学分野の学会・研究会に参加し、研究テーマと
関連した、または興味のあるテーマについて学習・取材する。
④ 文章を読み、理解し、評価する能力を養うための抄読会式セッションも定
期的に設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設 定、長期的な学習計画について。課題 図書の提示。
2	プレゼンテーション・ス キル①	【演習】2 年生の自己紹介（英語）
3	プレゼンテーション・ス キル②	【講義】プレゼンテーションの方法論に 関する講義
4	プレゼンテーション・ス キル③	【演習】3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書につ いて討議する。
6	研究報告会①	【演習】3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の 精度	【講義】各種体組成測定方法の原理、 compornent model について理解す る。
8	体組成②：インピーダ ンス法	【実習】インピーダンス法による体組成 評価を行う。 インピーダンス法の原理について学ぶ。
9	体組成③：骨密度	【実習】DXA 法による実際に体組成評 価を行う。 DXA 法および骨密度について理解す る。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書につ いて討議する。
11	持久力①：最大酸素摂取 量の測定①	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取 量の測定②	【実習】最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取 量の測定③	【演習】測定データをもとに、各人の最 大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取 量の測定④	【演習】測定データをもとに、各人の最 大酸素摂取量等を検証する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書につ いて討議する。
16	LT の測定①	【実習】LT を測定する。
17	LT の測定②	【実習】LT を測定する。
18	LT の測定③	【演習】測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書につ いて討議する。
20	ヒューマンカロリーメ ーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費 を様々な条件下で測定・分析する。

21	ヒューマンカロリーメ ーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費 を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメ ーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費 を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメ ーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費 を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	【演習】3 年生による研究発表会-2。
25	Book Club ⑤	モデレーターを決めて、課題図書につ いて討議する。
26	スポーツ栄養①	【講義】栄養調査の方法論、エネルギー バランス、減量・バルクアップの機序 について正確に理解する。
27	スポーツ栄養②	【実習】栄養調査・分析を行う。
28	スポーツ栄養③	【演習】栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 課題図書・文献のレビュー作成
② データ解析
③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とし
ます。

【テキスト（教科書）】

・近藤克則、【研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」】医学書院。
(2018) ※資料室収蔵：3 冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通し
て本書を読破することを強く勧める
・本多勝一、【中学生からの作文技術】。朝日新聞社、(2004) ※研究室収蔵
・福澤一吉、【議論のレッスン】。生活人新書、(2002) ※資料室収蔵
・小笠原 喜康、片岡 則夫、【中学生からの論文入門】。講談社現代新書、(2019)
※資料室収蔵

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to
Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017) ※
研究室収蔵、ただし旧版は資料室にあり
・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise"
Human Kinetics ; 4th ed. (2007) ※資料室収蔵
・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition"
Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) ※研究室収蔵、ただし第 3
版は資料室にあり
・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed.
(2018) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

- ① 参加の仕方・姿勢（20％）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成
果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果は
レポートなどで評価する。
② 抄読会（20％）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。
③ プレゼンテーション（20％）：発表の structure、論理性。スライドの質。
Non verbal communication skill の水準。
④ 実習参加（20％）：実習参加、レポート作成を評価する。
⑤ 演習およびレポート作成（20％）：科学的分析能力。
⑥ 夏期セミナー、研究会への参加（optional）：夏期セミナーや研究会への
参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分
析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツド
クター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。
授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic knowledge and skills of critical
reading, scientific analysis, and logical thinking.

HSS200IA

専門演習 I

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：2 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について必要な基礎知識の獲得。
- ②実習などを通して医学、医療の現状を把握する。
- ③各自の研究テーマの決定とそれに沿った文献考察や研究成果について適時プレゼンテーションがおこなえる。

【到達目標】

- ①運動器疾患についての知識の獲得。
- ②運動器疾患について所見に基づいて評価ができる。
- ③科学的分析および論理的思考能力の基礎能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
 - ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
 - ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
- 必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際 1	2 年生の自己紹介。
3	プレゼンテーションの方法と実際 2	プレゼンテーションの方法論に関する講義など。
4	文献検索の方法と実際	文献検索の方法を紹介して実際に自分で検索する方法を学習する。
5	機能解剖学/抄読会（上肢の前半）	特に肩関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
6	機能解剖学の抄読会（上肢の後半）	特に肘・手関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
7	機能解剖学の抄読会（体幹の前半）	脊椎の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
8	機能解剖学の抄読会（体幹の後半）	骨盤や股関節周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
9	機能解剖学の抄読会（下肢の前半）	大腿や膝周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
10	機能解剖学の抄読会（下肢の後半）	膝や足関節、足部周囲の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
11	機能解剖学の抄読会（頭部）	頭部の機能解剖学について実習や小テストをおこなう/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
12	機能解剖学の抄読会（その他）	今までで不足していると思われる各部位の機能解剖学について討議する。
13	スポーツ現場での障害への評価・処置/抄読会 9	スポーツ現場での評価・処置について/課題文献を決めて討議する。また適時使用器械について理解、手技の習得をおこなう。
14	春学期のまとめ	春学期の総括と秋学期以降の研究テーマを決定する。

秋学期

回	テーマ	内容
15	頭頸部について/抄読会	頭頸部について代表的な傷害、特に脳震盪についてその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
16	肩関節について/抄読会	肩関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
17	肘関節、手関節について/抄読会	肘関節・手関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
18	体幹、骨盤、股関節について/抄読会	体幹・骨盤・股関節について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
19	膝関節について/抄読会	膝関節の評価について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
20	足関節、足部について/抄読会	足関節・足部について代表的な傷害とその評価について発表・討議/抄読会をおこなう。
21	変形性関節症（前半）/抄読会 1	変形性関節症の疫学、経過などについて討議する/抄読会をおこなう。
22	変形性関節症（後半）/抄読会 2	変形性関節症の外科的治療やリハビリテーションなどについて討議する/抄読会をおこなう。
23	疲労骨折（前半）/抄読会 1	疲労骨折の疫学や受傷機序について討議する/抄読会をおこなう。
24	疲労骨折（後半）/抄読会 2	疲労骨折の経過や治療などについて討議する/抄読会をおこなう。
25	実技演習（評価方法）	これまでの知識を利用して傷害の評価を実習、習得する。
26	実技演習（機器操作）	傷害の評価のための測定機器の実習をおこなう。
27	実技演習（実際の評価）	これまでの知識を利用して実際に傷害の評価をおこない抄読会等で得た知識との相違点などを討議する。
28	秋学期のまとめ	秋学期の総括と 3 年時の研究テーマを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 第 1 回 特になし
- 第 2-14 回：前回授業の復習
- 第 15 回：春学期の復習
- 第 16-28 回：前回授業の復習
- その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし
適時資料を用意する

【参考書】

- ・ Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)
- ・ 坂井 健雄、松村 譲児：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011
- ・ 臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】

- 基本的には
 - ①平常点 70 点
 - ②各内容や課題への取り組み 30 点
- であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。
プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

In this course, we study the fundamental concepts related with sports medicine especially orthopaedics diseases. By reading scientific articles and practical measurements during exercise, students will be able to learn about sports medicine and orthopaedics diseases.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「読む・分析する・評価する」から「調べる・発表する」へ

【到達目標】

春学期終了までに卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿って調査活動を行う。

研究活動の報告を行う。論理的思考に基づく議論、論文作成の技術などに関して、文献抄読やレポート提出、プレゼンテーションなどを通じて学習する。英語によるプレゼンテーション、文章作成の指導を行う。

各学生の研究に必要な実験・測定を行う。

ヒューマンカロリーメーターを用いた測定を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本専門演習の理念、各学生の目標設定、長期的な学習計画について。課題図書への提示。
2	プレゼンテーション・スキル①	[演習] 2 年生の自己紹介（英語）。3 年生による評価。
3	プレゼンテーション・スキル②	[講義] プレゼンテーションの方法論に関する講義
4	プレゼンテーション・スキル③	[演習] 3 年生による課題報告（英語）
5	Book Club ①	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
6	研究報告会①	[演習] 3 年生による研究発表会-1
7	体組成①：体組成測定の精度	[講義] 各種体組成測定方法の原理、component model について理解する。
8	体組成②：インピーダンス法	[実習] インピーダンス法による体組成評価を行う。
9	体組成③：骨密度	インピーダンス法の原理について学ぶ。 [実習] DXA 法による実際に体組成評価を行う。 DXA 法および骨密度について理解する。
10	Book Club ②	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
11	持久力①：最大酸素摂取量の測定①	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
12	持久力②：最大酸素摂取量の測定②	[実習] 最大酸素摂取量の測定を行う。
13	持久力③：最大酸素摂取量の測定③	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
14	持久力④：最大酸素摂取量の測定④	[演習] 測定データをもとに、各人の最大酸素摂取量等を検証する。
15	Book Club ③	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
16	LT の測定①	[実習] LT を測定する。
17	LT の測定②	[実習] LT を測定する。
18	LT の測定③	[演習] 測定データをもとに、被検者の LT 等を検証する。
19	Book Club ④	モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。
20	ヒューマンカロリーメーター ①	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
21	ヒューマンカロリーメーター ②	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
22	ヒューマンカロリーメーター ③	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
23	ヒューマンカロリーメーター ④	運動や身体活動に伴うエネルギー消費を様々な条件下で測定・分析する。
24	研究報告会②	[演習] 3 年生による研究発表会-2

25 Book Club ⑤

モデレーターを決めて、課題図書について討議する。3 年生は英語図書。

26 スポーツ栄養①

[講義] 栄養調査の方法論、エネルギーバランス、減量・バルクアップの機序について正確に理解する。

27 スポーツ栄養②

[実習] 栄養調査・分析を行う。

28 スポーツ栄養③

[演習] 栄養調査・分析の結果発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 課題図書・文献のレビュー作成

② データ解析

③ 学外研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【注意】専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の 2 月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。研究計画書の作成は原則的に個別指導となるので、授業時間以外に積極的に担当教員と相談をする時間を設けること。相談の時間は事前に調整して決めること。提出締め切り直前に慌てて準備しても決して成就しないため、十分に準備を行うこと。

【テキスト（教科書）】

・近藤克則．「研究の育て方：ゴールとプロセスの「見える化」」医学書院。

(2018) ※資料室収蔵：3 冊あり。ゼミ生においては専門演習Ⅰ・Ⅱを通して本書を読破することを強く勧める

・Benardot D. "ACSM's Nutrition for Exercise Science" (Wolters Kluwer,

2018) ※アスリートのエネルギー代謝に関する最重要テキストである。資料室収蔵

【参考書】

・Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 10th ed. (2017) ※研究室収蔵、ただし旧版は資料室収にあり

・Wilmore JH, Costill D, Kenney WL. "Physiology of Sport and Exercise" Human Kinetics ; 6th ed. (2015) ※研究室収蔵、ただし第 4 版は資料室にあり

・McArdle WD, Katch FI, Katch VL. "Sports and Exercise Nutrition" Lippincott Williams & Wilkins; 5th ed (2019) ※研究室収蔵、ただし第 3 版は資料室にあり

・Jeukendrup A, Gleeson M. "Sport Nutrition" Human Kinetics; 3rd ed. (2018) ※研究室収蔵

【成績評価の方法と基準】

① 【到達目標】にあるように「卒業研究テーマを確定し、遅くとも夏期休暇までに研究活動を開始する」ことが出来たか否か（60%）。専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、年度末の 2 月上旬までに具体的で実現可能な研究計画書を提出すること。提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。

②参加の仕方・姿勢（5%）：一つのテーマに関する一貫性のある参加と成果。発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ「参加」と認める。成果はレポートなどで評価する。

③抄読会・Book Club（5 %）：評論・レビューの妥当性。論理的考察の有無。

④プレゼンテーション（10 %）：発表の structure、論理性。スライドの質。Non verbal communication skill の水準。

⑤実習参加（10 %）：実習参加、レポート作成を評価する。

⑥演習およびレポート作成（10 %）：科学的分析能力。

⑦授業外セミナー、研究会への参加（optional）：各種セミナーや研究会への参加を追加的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】実習によって得られたデータを授業支援システムにアップロードし、その分析を課題として課す場合がある。

【その他の重要事項】臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【Outline and objectives】The lecture intends to provide basic knowledge and skills of scientific investigation, statistical analysis, and presentation of data.

HSS300IA

専門演習Ⅱ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既に専門演習Ⅰを経験した学生によるⅡは、演習Ⅰで培った力を元にさらに大きな世界観でスポーツを捉えるところに重心を置く。引き続き「メディア」「スポーツの社会問題」「スポーツ組織のありよう」などが柱をなす主題だ。Ⅱに参加する学生は専門演習Ⅲを見据え、「将来取り組むテーマ」をより具体的に抽出すること。となれば「何に取り組むのか」を土台に、「どう取り組むのか」に意識を置くことだろう。演習ⅠとⅡに共通する要素は、「厳しく突き詰めて得た持論を外に向かって展開する」ところにある。今年大切にするのは、意見の交換。ディベートを集中的に取り込み、持論の提示、他者の意見の理解、そしてさまざまな情報をぶつけ合いながら取るべき施策の評価に時間を費やしたい。

【到達目標】

専門演習Ⅰで身につけた手法を元に、揺るぎない指摘、説得力のある論理展開を身につけること。そのためには取り組むテーマを分析・検討した上で、関連する資料やデータを十分に精査していかなければならない。目指すべきは：矛盾のない資料の選択や抽出法の獲得。対立意見を十分に検討し、採否の判断能力の向上。説得力のある論理構築法の習得。具体事例をおろそかにせず、全体を目指す力。完成度が高く力のある論文を書く能力を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

※ウィルスの影響下でやむなくウェブを利用した演習となる。とりわけ序盤は、直に会ってやり取りをする機会は相当限られるだろう。その分、これまで培ってきたプレゼンテーションやスライド制作の能力を存分に発揮するチャンスがあると言える。

※ウェブを使っている皆が参加できる方法をうまく利用しながら、専門演習らしいやり取りができることを期待している。
さて改めて専門演習Ⅱ。あくまで学生主体の授業である。参加者は専門演習Ⅰと近い思想だろうが、ステージは更に高い。授業の中で求められるのは：①積極的なリーダーシップの発揮②後進の手本となるような研究成果の発表③幅広いジャンルに対する知見、斬新なものの見方の提示。初めて専門演習の世界に入ってくるⅠの学生たちの期待は大きい。経験を生かして、Ⅰの学生たちにあるときは厳しくあるときは寛容に、自身の研究成果はわかりやすくなお深く対応する。リーダーシップを随所に発揮しながら、専門演習Ⅱの学生達が軸になって演習を回していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 演習Ⅱの自己紹介	自己紹介では、演習Ⅱらしく、焦点を定めた見本となるべき紹介が求められる。連絡系統の確認をする。
2	プレゼンテーションの見方、聞き方、考え方	演習Ⅱの代表者数人によるプレゼンテーション見本。意見交換。ディベートの要件把握。
3	素材のあり所と押さえ方	テーマを追求するのに当たって、材料のあり所、テーマを巡る選択肢の場所探し、そしてアプローチの方向を検討。
4	プレゼンテーション制作①	演習Ⅰの制作をサポートする。
5	プレゼンテーション①	前週に制作したプレゼンテーションをスクリーンで発表。意見交換から過不足の検討
6	調査・インタビュー・素材抽出	素材を集める際に使われるひとつの方法がインタビューやアンケート。その考え方を議論する。
7	論文の分析、書き方	先行研究のとらえ方、目次、アブストラクト、章立てなど論文執筆の手法を内外の論文や記事を参考にしながら確認する。
8	プレゼンテーションからディベート①	話題になっているスポーツ界のトピックを取り上げ、自分なりの分析を PPT で制作する。その際に、対立するアイデアを十分に取り込む技法を習得する。

9	プレゼンテーションからディベート②	前週制作の PPT を演習Ⅱの代表数人が提示、その後、ディベート形式で議論する。
10	図書館文献検索法研修	多摩図書館で、文献検索と論文執筆法の講習を受ける（予定）。
11	スポーツの常識／非常識	複数のメディアを比較しながらそれぞれの主張の違い、その背景を検証する。海外の論調を取り入れて、これまでの主張を改訂する。
12	プレゼンテーション制作③	ノーカウント
13	※ウィルスのため回数としてはキャンセル	
14	※ウィルスのため回数としてはキャンセル	ノーカウント

秋学期

回	テーマ	内容
15	夏課題総括①	春学期に設定しておいた夏課題の成果を発表する。
16	夏課題総括②	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
17	夏課題総括を題材にディベート	あらかじめ設定しておいた夏の課題の成果を発表する。
18	プレゼンテーション制作④	ジャーナルなテーマを元にプレゼンテーションを制作。それによってスポーツ界の構造変化を再確認する。
19	プレゼンテーション⑤	前週制作したものを発表する。
20	プレゼンテーション⑥	前々週から制作にかかっていたものを発表する。
21	プレゼンテーション制作⑤	過去 2 週の間演習で受けた批評を元に、自作のプレゼンテーションを改訂する。
22	プレゼンテーションとディベート	前週の改訂版をプレゼンする。ディベートで議論を更に深める。
23	プレゼンテーションとディベート	前々週から改訂してきたプレゼンを披露する。討論で議論を更に深める。
24	プレゼンテーションを元に論文制作	二次研究発表＝夏以降作った研究の改訂版と批評。
25	論文発表①	総括研究発表①
26	論文発表とプレゼンテーション①	総括研究発表②
27	論文発表とプレゼンテーション②	総括研究発表③
28	小論文により研究、執筆、スライド制作の力量試験	これまでの演習で伝えられた、議論になった内容から、持論を展開する小論文を執筆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※ウェブの授業で埋め尽くされる毎日だろう。こうなると情報の取り方、その読み方がそれぞれの力量によって左右される。書かれていること、伝えられていることをそのまま真に受けるか。なぜそのように伝えられるのか。演習の時間外でも、そのための力量を上げることが大いに可能だ。メディアの情報に敏感に。今年はイベントがすっかり枯れてしまいそうだ。となると、過去の振り返りが多くなる。A 紙を読んで頷き、B 画面を見てなるほどと納得するだけでは足りない。その時代の生活水準、科学の力、宗教の強さ、世界が世界を知らない時代。さまざまな論調を少し離れたところから読み解き、そこに自分の世界観をぶつけてもらいたい。そのためには、自分の考えがどこからきたのか、足下を探っておくことも必要だ。
大学生活の次のステージを考えたとき、もう一つ大切なことは、自分の人生設計と自分の追い求めるテーマとがどこかで重なるような組み立てができるかどうか。エネルギーの向かう方向が定まったとき、その一撃は途方もなく大きな力を発揮する。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義の進捗状況に応じ、大きなテーマを 2 週間をかけて履修していく。

【テキスト（教科書）】

なし（必要に応じてその都度、用意する）。

【参考書】

求めに応じて個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（批評の内容/研究発表）70 %、最終小論文 30 %。
評価基準：経験をどう生かしているか。積極性・独創性・多様な選択肢・具体事例をもっているか、鋭い批評眼があるかどうかなど。
最終演習日には、小論文を課す。必ず対応すること。

【学生の意見等からの気づき】

専門演習Ⅰの学生に対する、アクティブな対応ができるチャンスを増やす。学外での経験を増やせるように、社会参加へのサポートを続けたい。エントリーシートのチェックなど依頼には応じる。
参加学生の評価が高い外部講師の招聘を、これまで通り継続する。演習生の積極的な提案を待ちたい。
ディベートの機会を増やすが、リーディングパートを積極的に務めてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

自分のパソコンを持っている演習生は、それを持参すること。パワーポイント、キーノート、DVD、映像資料などを頻繁に使用する。

【その他の重要事項】

自分のテーマだけでなく、ゼミ全体のテーマを次々に提案するような気概を一人一人に持ってもらいたい。夏休みに、夏ゼミ合宿を検討する。万難を排して参加するよう求めたい。

オフィスアワーとは別に、メールで打診して積極的に研究室に足を運び、演習の際には指名が無くてもどんどん積極的に発言すること。なお今年はメガイベントの年。イベントとメディア上の関わりを持つ受講生が生まれることも想定される。自分の体験を、しっかり記録にとどめ、演習に還元してもらいたい。

【実務経験のある教員授業】

過去 32 年間にわたって、放送局勤務でスポーツ報道に携わった。国内外のメディアのやりとりやスポーツ現場の成り立ちなど経験したことは少なくない。演習では、そこで獲得した知見やネットワークをフルに生かしていく。

【特記事項】

今年 10 月、11 月にドイツ人客員教授による短期集中の特別講義がある。昨年に続いての特講で、スポーツメディア論を英語で週に二回。講義は、二ヶ月で 2 単位を獲得するチャンスであるだけにとどまらず、現代ドイツスポーツメディア界の著名教授による欧州のスタンダードを学んでもらいたい。今季のテーマは「世界のオリンピック報道比較」。わかりやすい英語の授業、積極的に登録することを勧めたい。

【Outline and objectives】

A student who has already experienced the seminar I could capture sports with a larger world view. Students who participate in II should broaden their horizons to the seminar III and try to extract a future theme of their studies. They find there some fundamental principles: ① introduction with good catch ② easy-to-understand composition ③ fresh information ④ development not to be got weary ⑤ convincing logic and ⑥ originality.

HSS3001A

専門演習Ⅱ

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：3 年次／ 4 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①運動器の障害に対する予防、再生について専門知識の獲得
- ②各自の研究テーマに沿った文献考察や研究成果についてプレゼンテーションがおこなえる

【到達目標】

- ①運動器疾患について所見といままで獲得した知識に基づいて評価ができる。
- ②科学的分析および論理的思考能力の応用力を獲得する。
- ③卒業論文にむけての研究テーマの検索と課題の設定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①割り当てられた文献を用いた抄読会とテーマについて各自がプレゼンテーションをおこない、それらについてディスカッションをおこなう。
 - ②適宜運動器疾患の評価のための実技、実習をおこなう。
 - ③スポーツ医学や運動器疾患分野の学会・研究会に参加して各自が学んだことをプレゼンテーションをおこなう。
- 必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本演習のガイダンスをおこなう。
2	プレゼンテーションの方法と実際	3 年生の自己紹介
3	プレゼンテーションの方法論	前回のプレゼンテーションを利用した方法論の講義
4	文献検索の方法と実際	オンラインデータベースの使い方および文献検索の方法
5	機能解剖学の復習と講義（上肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と上肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
6	機能解剖学の復習と講義（体幹）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と体幹の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
7	機能解剖学の復習と講義（下肢）	各自の研究課題に関連する機能解剖学の復習と下肢の機能解剖学についてゼミ内で講義する。
8	変形性関節症の学習/抄読会	変形性関節症の学習とそれに関連した抄読会
9	疲労骨折の学習/抄読会	疲労骨折の学習とそれに関連した抄読会
10	外傷性疾患の学習/抄読会	外傷性疾患の学習とそれに関連した抄読会
11	研究方法の学習 1/抄読会	リサーチクエスションの重要性について講義する。
12	研究方法の学習 2/抄読会	対象の選び方とそれぞれの方法論について講義する。
13	研究方法の学習 3/抄読会	論文で多用される統計について講義する。
14	春学期のまとめ	春学期のまとめと秋学期の以降の方向性について確認する。
15	ガイダンス	秋学期の内容の確認
16	器械操作の確認（Biodex など）/抄読会	主に Biodex の操作の習得と関連する論文の抄読会
17	器械操作の確認（EMG など）/抄読会	主に EMG の操作の習得と関連する論文の抄読会
18	器械操作の確認（超音波 など）/抄読会	主に超音波装置の操作の習得と関連する論文の抄読会
19	器械操作の確認（DEXA）/抄読会	DEXA の原理や結果の読み取りの習得と関連する論文の抄読会
20	研究計画の注意点	研究をするにあたっての注意点（剽窃、倫理など）
21	研究計画の作成 1/抄読会	リサーチクエスションの作成と関連する領域の抄読会
22	研究計画の作成 2/抄読会	研究計画の対象と方法について討議する。
23	研究計画の作成 3/抄読会	どのような統計を使用するか検討する。それに関連する抄読会

24	予備実験 1	各自課題を設定して予備実験を行う。
25	予備実験 2	予備実験の結果の報告。
26	予備実験 3	予備実験の limitation について討議する。
27	今後の研究計画発表	卒業研究の研究計画発表会を行う。
28	まとめ	1：3 年時のまとめ 2：卒業研究に関する方向性の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回 特になし

第 2-14 回：前回授業の復習

第 15 回：春学期の復習

第 16-28 回：前回授業の復習

その他：課題レポートなど本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

適時資料を用意する

【参考書】

・ Powers S, Howley E. "Exercise Physiology: Theory and Application to Fitness and Performance." McGraw-Hill Humanities; 7th ed. (2008)

・ 坂井 健雄、松村 謙兄：プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動系、医学書院、2011

・ 臨床スポーツ医学編集委員会：新刊スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド、文光堂、2003

【成績評価の方法と基準】

基本的には

①平常点 70 点

②各内容や課題への取り組み 30 点

であるが、その他出席や学内外の学会や研究会などへの参加姿勢などで総合的に評価する

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する場合がある。

プロジェクターの準備など。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline and objectives】

In this course, we study the fundamental concepts of sports medicine and Orthopaedics diseases by reading scientific articles and practical measurements during exercise. Theoretical background in this scientific area enables us to learn about sports medicine and Orthopaedics diseases.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

木下 訓光

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学的分析と論理的考察に基づく学術論文の作成。

【到達目標】

卒業論文の完成。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

研究データの集積、分析を指導する。研究計画書を作成する。優れた内容の研究は、学会で発表するための指導をする。

本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行く。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
1	卒業論文作成準備（1）	文献検索方法指導
2	卒業論文作成準備（2）	文献の読み方指導
3	卒業論文作成準備（3）	先行研究総括の指導
4	卒業論文作成準備（4）	問題の所在の導出の指導
5	卒業論文作成準備（5）	研究の目的導出の指導
6	卒業論文作成準備（6）	研究計画指導
7	卒業論文作成準備（7）	研究計画の確定
8	卒業論文作成準備（8）	倫理申請書作成指導
9	卒業論文作成準備（9）	実験（1）
10	卒業論文作成準備（10）	実験（2）
11	卒業論文作成準備（11）	実験（3）
12	卒業論文作成準備（12）	データ分析指導
13	卒業論文作成準備（13）	統計解析指導
14	卒業論文作成準備（14）	データ分析データ発表
15	卒業論文作成（1）	論文の構造の指導
16	卒業論文作成（2）	抄録作成指導
17	卒業論文作成（3）	緒言執筆指導（1）
18	卒業論文作成（4）	緒言執筆指導（2）
19	卒業論文作成（5）	方法執筆指導
20	卒業論文作成（6）	結果執筆指導（1）
21	卒業論文作成（7）	結果執筆指導（2）
22	卒業論文作成（8）	考察執筆指導（1）
23	卒業論文作成（9）	考察執筆指導（2）
24	卒業論文作成（10）	結論執筆指導（1）
25	卒業論文作成（11）	結論執筆指導（2）
26	卒業論文作成（12）	参考文献執筆指導
27	卒業論文作成（13）	全体確認推敲校閲
28	卒業論文発表	卒論を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

① 研究データ解析

② 調査活動

③ 学会・研究会参加

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

卒業論文（100 %）：科学的データに基づき、論理的に考察され、かつ指定された様式にのっとって記述された卒業論文の完成をもってのみ単位認定をする。

【学生の意見等からの気づき】

卒業研究を計画的に完成させられるように指導する。

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【注意事項-1】（再掲）本授業専門演習Ⅲは集中授業ではない。原則として毎週水曜 5 限に行く。少なくとも同時限に出頭して卒論作成の進捗報告をすることが求められる。またそれ以外に個人指導を希望する場合は必ず事前にEメールなどでアポイントメントをとり相談すること。

【注意事項-2】専門演習Ⅱの過程において、年度末の 2 月上旬までに専門演習Ⅲで取り組む卒業研究に関して、具体的に実現可能な研究計画書を提出できなかった場合は専門演習Ⅲの履修を認めない。

【注意事項-3】本ゼミにおける卒業論文提出の期限は 12 月末であり、学部の提出期限と異なる。この提出期限までに完成度の高い論文を作成して終了できない場合は専門演習Ⅲの単位を与えない。学生は十分な余裕を持って早期に執筆を開始すること。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic and advanced knowledge and skill of writing a graduation thesis.

HSS400IA

専門演習Ⅲ

山本 浩

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／ 4 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 年生を対象とした集中授業。メディア、ジャーナリズム、コミュニケーション、組織論。自分のテーマを設定し、調査・情報収集・分析をしながら、これまで積み上げてきた研究や専門演習Ⅱで掘り下げた方法論をもとに、学術的な論文執筆、および発表としてのプレゼンテーション作成を目的とする。自らの進路の延長上、あるいは専門演習Ⅰに始まり、専門演習Ⅱで繰り返し追いかけてきた事象、高校生の頃から持ち続けている疑問など、自らに近いテーマを取り上げることが、多角的でより深い論理を展開する助けとなる。

【到達目標】

テーマのとらえ方を表面的に終わらせない。ネット・活字・番組など受動的な情報をもとに論理を構築するばかりでなく、現場に足を運び、人に話を聞き、実際に試すという能動的なアクションを加えて、より深い成果に結びつける。早い段階での工程表の設定。テーマの決定と論文執筆の進め方の把握。先行研究選択と分類、評価。調査・研究方法の検討と確定。調査・研究。執筆から検証。アブストラクト。キーワード抽出。プレゼンテーション制作。最低目標 20000 字。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

集中講義の形式で、随時指導を基本原則とする。順序立てて言えば、①テーマの設定、②工程表の設計、③先行研究のチェックと読み込み、④研究方法の構築、⑤資料や調査の方法検討、⑥執筆と進んでいく。追いかけた研究テーマを、いったん下がった位置からもういちど見渡すこと。しかも自分で実際に現場に足を運んで更に深く掘り下げることも忘れない。構築した理論に基づき予め想定したイメージと、現場で発見した事実との間にギャップが生じた場合、それをどう調整するのか。スポーツ固有の環境下で得られるいろいろな体験を通じて、自分なりの視座を醸成しながら研究を仕上げる。何度も繰り返す直接のやりとりの中で、進捗具合の確認をする。広い裾野、整然とした積み上げ、そして揺るぎない筆致で成果が示されるかを問う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テーマとスケジュールの確認	3 年次に設定したテーマの輪郭を改めてチェックし、スケジュールを再確認する。
2	調査・研究の道筋と千個研究分析	どのような方法論を採るべきか、深く検証し可能性を探る一方で先行研究の検証に取りかかる。
3	工程表の製作	国内外の情報源や人脈を整理し、研究の流れや道筋を決定する。工程表の提出（必須）。
4	先行研究分析	先行研究を読み込んだ結果を提示し、それを検証する。
5	調査・研究①	調査、研究、文献購読を継続する。
6	調査・研究②	調査、研究、文献購読を継続する。工程表チェック（必須）。
7	中間報告①	調査、研究、文献購読の延長上で、文献の分析のあり方を問う。
8	中間報告②	調査、研究、文献購読を継続しながら、法・経済・政治との関わりをチェックする。
9	中間報告③	調査、研究、文献購読を継続しながら、社会の要請に目を向けた分析を行う。
10	継続研究①	問題点や発見の整理を経て、国内外研究者の論文をベースに調査・研究の修正、継続を続ける。
11	継続研究②	問題点や発見の整理を経て、メディアの論調、国内の専門家の著作などにより調査・研究の修正、継続を続ける。
12	修正報告①	修正点、不明事象のありなしをチェックする。
13	修正報告②	修正点、不明事象、新たに明らかになった点をチェックし手を加える。

14 プレゼンテーションと相互議論、夏休みの計画起草案

秋学期

15	進捗状況報告①	内容全体像を検証しながら、夏休みの研究計画と課題を規定する。
16	進捗状況報告②	夏休みを経て得られた新たな状況を加味し、報告する。必要があれば軌道修正にかかる。
17	継続研究③	研究を論文構成の理想型を意識して継続する。
18	継続研究④	アブストラクトを中心に全体像の捉え直しをする。
19	継続研究⑤	論文に引き込んだ表やデータの論旨との整合性を意識して研究を継続する。
20	継続研究⑥	同系論文との比較で不足する軸を確かめながら、研究を継続する。
21	中間報告④	研究成果を交互に発表し、演習生同士の意見交換を行う。
22	最終検証①	素材、情報、引用などに矛盾や自家撞着がないか確認する。
23	最終検証②	構成に無理がないかチェックをする。
24	最終検証③	結論に至るまでの論理構成のチェック。引用や出典に関する表記の確認をする。
25	審査と発表①	研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
26	審査と発表②	同僚学生の意見集約をした上で研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
27	審査と発表③	批判的な指摘に答える形で研究発表の確認と質疑応答（複数名）。
28	審査と発表④	最終提出に向けた研究発表の確認と質疑応答（複数名）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒論執筆には、テーマの設定によって時間的なずれが生じることがある。早め早めの対応が、優れた論文執筆の基本的な要件だ。うちに籠もらず、様々な関連組織やグループと積極的に接触の機会を持つこと。ひとつに限定せず、多方面からそれを眺め渡せるような環境下に自分を置くことも大切。演習の形態から、随時研究室に顔を出しコミュニケーションを図ること。ジャーナルな視点で、研究テーマに関わる記事・論文などには必ず目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

個々の研究テーマにしたがって、それぞれに勘案する。

【参考書】

海外の文献なども積極的に視野に入れる。インターネットの英語への翻訳ソフトを使えば、何語で書かれていようとそれなりの内容がつかめるようになる。国会審議の検索、最高裁の判例検索など、社会の考え方や視点に常に注意を払いながら進めること。

【成績評価の方法と基準】

主たる成果は、プリントアウトした通常の論文の形式とする。副たる成果として、途中経過にパワーポイントなどを使ってプレゼンテーションを求める。自分なりの哲学があって、適切な引用やインタビュー情報を十分に咀嚼し、論理的整合性を保ちながら取り込めているかどうか。一方的であったり、思い込みに資料を強引にあわせるような論法に陥らないこと。研究を待つまでもなく誰もが知っているような当たり前の結論だけで満足しないこと。評価配分：卒業論文 80 % プレゼンテーション作成 10 % 工程表 10 %。

【学生の意見等からの気づき】

「もっと早く取りかかっていれば良かった」専門演習Ⅲ履修生からたびたび寄せられた言葉だ。「先行研究」に対する意識。「工程表」への手際の良い取り組みが、悔いの残らない卒論執筆につながっていく。ここがクリアできれば、あとは強い探究心とこれまでの積み重ねでそれなりの推力を発揮できる。後手後手に回りがちな卒論への取り組みを、早めの刺激を用意しながらエンジンの回転数を上げていきたい。一人一人のテーマを繰り返し議論の俎上にあげ、意見の交換を増やして検証、分析、修正などのチャンスを増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

研究室で、随時スクリーンを使つての検証ができる。必要に応じて、パソコンやメモリーチップなどを持ち歩くこと。工程表の作成だけでなく、いつどのタイミングで指導教官のチェックを受けるのか、あらかじめ予定を立てて申告すること。本来は学生の側からの申告が前提だが、期日については担当教官からの指示も準備しておきたい。

【その他の重要事項】

③引用に対して、必ず出典や URL を残しておくこと④写真や材料をこたあるごとに集めておく⑤人の声を聞いたら、いつどこで誰に聞いたかを含め、メモを取っておく。そうしたデータが、論文の執筆で大きな助けになる。専門演習Ⅰ・Ⅱの講義に顔を出し、後進のゼミ生にも強い刺激を与えるよう求めたい。となく、論文制作への取りかかりが遅れがちになる。就活など、別の活動に気持が傾くからだ。論文のテーマを自分の将来設計と連動させられるようであれば、これから先進企業や組織から独自の視点を引き出すことが可能だ。その意味で、テーマ設定には熟考を求めたい。執筆方に迷いや不安が生じた場合は、担当教官ないしは図書館のアシストを積極的に活用すること。「高等教育の負担軽減制度に係る『実務経験のある教員による授業配置』に関する対応」

法政大学専任教員になる前に 32 年間にわたって放送の現場に従事。スポーツ報道、スポーツメディアの現場経験は、国の内外を問わず豊富に所持している。そこで得た知見を元に、活字や番組に現れない現実社会の構造を見据えた上での指導を実施する。

【特記事項】

10 月、11 月の 2 ヶ月間、ドイツ人客員教員が週 2 回のペースで特講を設定する。英語での講義だが、メディアに関わる卒論執筆者は、授業に参加することを強く勧めたい。広い視野から生まれた世界観を学ぶとともに減多になりチャンスを有効に使ってもらいたい。

【研究テーマに関して】

ある時期、就活との同時並行は避けて通れない。内定を受けた場合には、その先の世界に自分の研究を重ね合わせることができるのかどうか検討してみる。少しでも重なる部分があれば、意欲的な研究を引っ張る牽引車になってくれることがある。

【Outline and objectives】

Intensive Seminar for fourth graders. Media, journalism, communication, organization theory. While setting your own theme, surveying, collecting information, analyzing, based on the methodology delved down by the research in the seminar II, writing a graduation thesis and producing a powerpoint work as presentation.

To take up the theme that you were studying in your seminar I, repeatedly researching during the seminar II, which has been holding since high school students, it could help you strongly with multifaceted and deeper logic on your thesis.

HSS4001A

専門演習Ⅲ

瀬戸 宏明

カテゴリ：専門演習・演習

開講時期：年間授業/Yearly | 配当年次／単位：4 年次／4 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 II で決定したテーマから科学的分析や論理的考察に基づいて卒業論文を完成させる。

【到達目標】

1：卒業論文完成までの作成過程の学習

2：卒業論文の完成

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

1：実験より得られたデータの分析

2：先行研究より考えられる仮説、実験方法を随時検討する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	卒業論文作成について方向性の確認
第 2 回	先行研究の検討	先行研究について精査する。
第 3 回	先行研究と自身のテーマとの対比	先行研究に対して自身の求めている研究の整合性について検討する。
第 4 回	研究方法の精査	研究方法について検討する。
第 5 回	予備実験の準備	先行研究に基づいて研究デザインを決定する。
第 6 回	予備実験の実施	予備実験をおこない研究の方向性の確認をおこなう。
第 7 回	予備実験の最終確認	予備実験をおこない改善点を検討する
第 8 回	データの収集	データの収集をおこなう。
第 9 回	データの解析	データの解析をおこなう。
第 10 回	倫理書作成と論文作成について	倫理書の作成と今後論文作成についてのガイダンスをおこなう
第 11 回	論文指導（緒言）	論文における緒言の意義について指導をおこなう。
第 12 回	論文指導（対象と方法）	論文における対象と方法について指導をおこなう。
第 13 回	論文指導（結果）	論文における結果のまとめかたについて指導をおこなう。
第 14 回	論文指導（考察、まとめ）	考察の論理的構築の指導をおこなう。
第 15 回	ガイダンス	中間報告と今後の方向性の検討
第 16 回	実験の最終確認	実験方法の最終確認
第 17 回	実験の実施	実験の実施をおこなう。
第 18 回	結果報告	結果報告と引き続き不足分の実験をおこなう。
第 19 回	追加実験	必要に応じて追加実験をおこなう。
第 20 回	実験の limitation について	実験の limitation について検討する。
第 21 回	緒言の作成	仮説、緒言、目的について精査する
第 22 回	対象と方法の作成	方法について精査する
第 23 回	結果の作成	結果について精査する
第 24 回	考察、まとめの作成	考察とまとめについて精査する
第 25 回	卒業論文の作成	全体について振り返りをおこなう
第 26 回	卒業論文の予演	ゼミ内での予演をおこなう
第 27 回	卒業論文の発表	卒業研究の発表
第 28 回	卒業論文の提出	卒業論文の完成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定論文の精読

データの解析

学会、研究会への参加本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間 を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし

【参考書】

研究テーマにあわせて適時紹介する

【成績評価の方法と基準】

卒業論文完成にいたる論理の構築 50 %

卒業論文 50 %

【学生の意見等からの気づき】

テーマを明確にし、成績評価を厳密に行う。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターなど

【その他の重要事項】

授業の展開によって、若干の変更があり得る。

論文作成という性質上本人より自主的に相談の機会を作ること。

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

必要に応じて遠隔での双方向の授業という体制をおこなう予定である。

【Outline and objectives】

The lecture intends to complete of the graduation thesis based on scientific analysis and logical consideration.

BSP100JB

基礎演習 I

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 学部共通科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉学部での学習の基礎となるスキルと知識を習得するとともに、学生同士、学生と教員との交流を通して、豊かな人間関係を育み、学部教育理念であるウェルビーイング（Well-being）の考え方を学ぶことを目標とします。

【到達目標】

現代福祉学部の大きな3つの分野、社会福祉・地域づくり・臨床心理に関しての入門的な知識を身に着けること。レポート等の書き方の学習や図書館の活用、障がい者支援活動、ボランティア活動、ハラスメント予防、キャリア教育についてのガイダンスを通して、将来の職業から導かれる自身の教育の計画ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

20人程度の少人数です。図書館など各種関連施設からのガイダンスを受けたり、実習指導室での体験学習を行う他は、ゼミ教室における学習と意見交換を行います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、学習目標の確認
第2回	多摩キャンパス案内	キャンパスウォーク
第3回	図書館の活用方法	図書館のガイダンス
第4回	本学部の3分野①	社会福祉について学習する内容
第5回	本学部の3分野②	地域づくりについて学習する内容
第6回	本学部の3分野③	臨床心理について学習する内容
第7回	福祉用具体験①	車椅子の試乗体験
第8回	福祉用具体験②	高齢者・視覚障がい者の歩行体験
第9回	障がい者支援活動	ノートテイクの講習会
第10回	ハラスメント予防	ハラスメント予防の講習会
第11回	レポートの書き方①	テキストによる学習①
第12回	レポートの書き方②	テキストによる学習②
第13回	ボランティア活動	多摩地域交流センターのガイダンス
第14回	キャリア教育	キャリアセンターより進路等のガイダンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習と復習をしてください。授業時間だけで内容を自分のものにするのは難しいものです。授業の内容を自分で確認する事によってその内容が習得できます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウト

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内演習と提出物課題がよいバランスになるように学生の理解度を確認しながら調整していきます。

【Outline and objectives】

This course is designed to develop students' basic academic skills to cultivate their specialties in the undergraduate programs at the faculty of Social Policy and Administration. The course will provide various activities and lectures for students to gain their foundational knowledge and experience in the three major fields of study at our faculty, namely social welfare, community development, and clinical psychology. At the completion of this course, students will be able to make good use of the university's library and online resources, write reports in Japanese, have a deeper knowledge of disability support and harassment prevention, and engage in various types of volunteer work. Students will also be able to develop their own plan for their academic lives and be prepared to determine the specialty they would like to focus on in the following years.

BSP100JB

基礎演習Ⅱ

佐野 竜平

科目分類・科目群：総合教育科目 学部共通科目
配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部の理念であるウェルビーイングに照らして、主にグループワークを通じて自らのテーマを掘り下げつつ、様々なトピックや手法を学ぶ。

【到達目標】

2 年次以降の専門演習、実習やフィールドワーク、そして将来の職業人生を見据えて、論理的な思考力やプレゼンテーション、コミュニケーション手法を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文献・資料集め、レポート作成、フィールド調査、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を体験していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要・ポイントの紹介
第 2 回	夏休み課題報告①	プレゼンテーションおよび質疑①
第 3 回	夏休み課題報告②	プレゼンテーションおよび質疑②
第 4 回	グループワーク①	企画のポイント、グループづくり
第 5 回	グループワーク②	特定のテーマを議論
第 6 回	グループワーク③	データ・資料の収集・整理
第 7 回	グループワーク④	内容検討および事例研究
第 8 回	グループワーク⑤	グループ毎に発表原稿作成
第 9 回	グループワーク⑥	経験者からのフィードバック
第 10 回	グループワーク⑦	グループ毎にリハーサル
第 11 回	プレゼンテーション①	グループ研究成果を発表①
第 12 回	プレゼンテーション②	グループ研究成果を発表②
第 13 回	プレゼンテーション③	グループ研究成果を発表③
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート等課題 50%（総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

This seminar is designed to clarify which topics could be focused in the field of well-being studies in the rest of their university days while students can learn a variety of knowledge and skills in collaboration with other fellow students.

BSP100JB

フィールドスタディ入門

長山 恵一、水野 雅男、宮城 孝

科目分類・科目群：総合教育科目 学部共通科目
配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に関わる実務領域の内容と課題について理解する。

【到達目標】

現代福祉学部の学生として、所属学科の専門領域にこだわることなく、広く社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理に目が向けられるような資質を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ソーシャルワーク実習、精神保健ソーシャルワーク実習、臨床心理実習／心理実習、コミュニティスタディ実習／コミュニティマネジメント・リサーチ、コミュニティマネジメント・インターンシップの先行履修科目である。3 領域に関わる実務家を招いて実務内容について紹介いただく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義のガイダンス	本講義の進め方、諸注意
第 2 回	専門家の講義（1）	社会福祉分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ①（岩崎）
第 3 回	専門家の講義（2）	社会福祉分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ②（岩崎）
第 4 回	専門家の講義（3）	社会福祉分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ③（岩崎）
第 5 回	専門家の講義（4）	社会福祉分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ④（岩崎）
第 6 回	専門家の講義（5）	コミュニティマネジメント分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ①（水野）
第 7 回	専門家の講義（6）	コミュニティマネジメント分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ②（水野）
第 8 回	専門家の講義（7）	コミュニティマネジメント分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ③（水野）
第 9 回	専門家の講義（8）	コミュニティマネジメント分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ④（水野）
第 10 回	専門家の講義（9）	臨床心理分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ①（長山）
第 11 回	専門家の講義（10）	臨床心理分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ②（長山）
第 12 回	専門家の講義（11）	臨床心理分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ③（長山）
第 13 回	専門家の講義（12）	臨床心理分野の実務家の実務内容と担当教員によるまとめ④（長山）
第 14 回	3 年生の実習体験報告	各分野の実習体験内容についての報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

外部講師の専門分野について予告するので、当該分野の概略を調べて講義に臨むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

講義の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70 %）、期末試験（30 %）で総合評価

- *学外実務者からの啓発が重要、リアクションペーパーの内容を重視する。
- *欠席 5 回以上の場合は期末試験を受けても評価をしない。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや期末試験で評価の高い外部講師に引き続き講義を依頼する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて学習支援システムを通じて情報を伝達する。

【その他の重要事項】

授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ実務経験を有しており、その中で各専門分野で講師を選定し招聘するとともに、講義内容を適宜補足説明する。

【Outline and objectives】

Understand the contents and issues of practical areas related to social welfare, community management, clinical psychology.

SOW100JB

ソーシャルワーク I (相談援助の基盤と専門職)

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、多職種との連携など、ソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学習することにより、援助活動の基本スキルを習得することを目指します。

【到達目標】

専門職とは何かを理解するため、その職業の範囲や専門職倫理について学習し、加えて臨床心理士等をはじめとする他職種との連携することの意義などについて具体的に説明できるように学習していくことを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では、ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について学習し、実践の場において応用できるように様々な課題を提示したいと思います。受講生は提示された課題を分析し、その結果を提出してもらう予定です。
※講義内容については授業進度により変更の可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	生活課題の多様化と相談援助活動の必要性	講義スケジュール及び成績評価、講義趣旨についての説明
第 2 回	社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義	社会福祉士および介護福祉士と精神保健福祉士についての講義
第 3 回	総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義とその内容	ジェネラリスト視点に基づく相談援助の実践についての説明と DVD 鑑賞
第 4 回	ソーシャルワークの概念と範囲①	ソーシャルワークの定義についての講義（国際ソーシャルワーカー連盟など）
第 5 回	ソーシャルワークの概念と範囲②	ソーシャルワークの形成過程（慈善組織協会）の講義
第 6 回	ソーシャルワークの概念と範囲③	ソーシャルワークの形成過程（セツルメント）についての講義
第 7 回	ソーシャルワークの目的と原則	講義と課題説明
第 8 回	ソーシャルワークの理念①	ノーマライゼーションとインクルージョン、権利擁護に関する文献を用いた事例検討と講義
第 9 回	ソーシャルワークの理念②	社会正義、利用者本位と人権尊重、自立支援に関する文献を用いた事例検討と講義
第 10 回	ソーシャルワークにおける権利擁護の概念とその範囲	講義と小グループでの討議
第 11 回	ソーシャルワーカーの概念と実践の範囲	福祉行政、民間施設・組織における相談援助専門職と諸外国の動向
第 12 回	社会福祉職の倫理と倫理的ジレンマ	専門職倫理や日本社会福祉士会倫理綱領に基づいた事例検討
第 13 回	地域福祉の基盤整備と他職種連携の必要性	講義と事例検討
第 14 回	ソーシャルワークにおける最近の動向 ◆定期試験範囲の発表	グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

相談援助にかかわる専門職のイメージ像をもっといただくために、以下の文献に目を通しておいて下さい。

①奥川幸子（1997）『未知との遭遇』三輪書店

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

・社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職 第 2 版』中央法規 2010 年

・副田あけみ『社会福祉援助技術論 ジェネラリスト・アブローチの視点から』誠信書房 2005 年

【成績評価の方法と基準】

- ①出欠確認：リアクションペーパーを随時提出してもらい、出欠を確認します。
 ②試験方法：筆記試験
 ③成績評価：リアクションペーパー、授業内課題の提出が 20 %、筆記試験が 80 % の割合で総合的に評価します。特に、提示された課題の実施・提出は成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】

実践現場の話を経験的に盛り込みながら、授業展開していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーク実践の基礎的な技術、知識、価値に関する具体的な事例を盛り込みながら話を進めていく。

【Outline and objectives】

This course introduces the role and meaning of social worker and psychiatric social worker, and basic skills of social work practices to students taking this course.

ARSk100JB

地域問題入門

野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構想していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVD などの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第 2 回	地域社会を理解する視点①	むらの暮らしと生活文化
第 3 回	地域社会を理解する視点②	むらの共同性と社会関係
第 4 回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第 5 回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第 6 回	水辺空間管理と地域づくり	コモンズと弱者生活権
第 7 回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第 8 回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティと NPO・NGO
第 9 回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第 10 回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての”被害”とは？
第 11 回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第 12 回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第 13 回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第 14 回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介しておく。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems.

ARSX100JB

まちづくりの思想

佐野 竜平、水野 雅男、保井 美樹、図司 直也、野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

まちづくりとは何か、まちづくりの原則や方策、農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、まちづくり活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内、海外のまちづくり、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域／まち」をつくるって何？（図司）	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み（図司）	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか？（図司）	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	都市問題へのアプローチ（保井）	都市の概念とその発展に関する考え方や課題
第 5 回	都市政策の変遷と展望（保井）	都市計画、地方自治の動向と展望
第 6 回	地域資源の保全活用によるまちづくり（水野）	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 7 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか？（野田）	地元の人びとの生活の立場から考える
第 8 回	ツーリズムによる地域再生（野田）	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 9 回	コミュニティの文化と創造性（野田）	地域社会の論理を捉える方法
第 10 回	ツーリズムとまちづくり（水野）	地域資源を活用した新しいツーリズムの効用と実践事例
第 11 回	アジアの今①（佐野）	アジアを中心とした世界の動き①
第 12 回	アジアの今②（佐野）	アジアを中心とした世界の動き②
第 13 回	海外から日本を学ぶ（佐野）	グローバル社会に生きる視点
第 14 回	住民主体のまちづくり（水野）	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーのコメント）100 %春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールド体験に基づいてまちづくりの考え方を具体的に紹介する。

【Outline and objectives】

Understand what community development is, what principles and policies of town development, how to catch rural areas, urban areas, communities, through urban planning activities and practical examples of social business.

SOW200JB

地域福祉論

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域福祉についての基礎的な理解と思考法を養うとともに、地域福祉の今日的課題について考察する力を養う。地域福祉に関する基本的な重要事項については、今後の学習に活かせるようしっかりと理解しているか試験等により確認するので、自己学習を図ること。

【到達目標】

- ・地域福祉に関する基礎的な知識を体系的に理解し説明できる。
- ・今後の社会の変化に対応した地域福祉に関する課題を予測できる。
- ・地域福祉に関する先進的な実践事例を分析することができ、実践への応用を工夫することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、「地域福祉」の概念、その歩みや思想、諸理論、現代生活における地域福祉問題について基本的理解を図る。さらに、具体的に地域福祉の政策や財源、社会福祉協議会、NPO 法人など地域福祉を推進する組織・団体、サービス内容、担い手などについて理解を図る。主に講義によるが、ビデオの視聴や事例の紹介、演習による検討も必要に応じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現代社会における社会福祉問題と地域福祉	社会福祉問題を地域福祉の視点からの理解
第 2 回	今日の地域福祉のシステムと実践	地域福祉のシステムと実践の意義、概要
第 3 回	地域福祉の歴史的発展と展開①	地域福祉の源流と 1960 年代まで
第 4 回	地域福祉の歴史的発展と展開②	1970 年代から 1980 年代まで
第 5 回	地域福祉の歴史的発展と展開③理念と概念、諸理論	1990 年代から 2000 年代まで
第 6 回	地域福祉の理念と概念、諸理論	地域福祉の基本的な理念、概念、代表的な諸理論
第 7 回	地域福祉の構成要件①	在宅福祉サービスの内容と提供のあり方
第 8 回	地域福祉の構成要件②	住宅、交通、バリアフリーなどの関連公共施策
第 9 回	地域福祉の構成要件③	予防的福祉サービス、活動（権利擁護など）
第 10 回	地域福祉の推進主体①	推進主体の性格、社会福祉協議会、民生委員
第 11 回	地域福祉の推進主体②	NPO、ボランティア団体
第 12 回	地域福祉の推進主体③	地域包括支援センター、福祉事務所、社会福祉施設など
第 13 回	地域福祉の政策と財源	地域福祉の政策と財源（公的財源、民間財源）
第 14 回	地域福祉計画、まとめ	地域福祉計画の沿革と内容、策定方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、次回の講義の内容に対応するテキストを予習する。課されたレポート課題について、テーマに即してフィールドワークや文献等によりレポートを作成する。課題は、2～3 のテーマとする。準備・復習時間は、1 回につき 4 時間以上。

【テキスト（教科書）】

平野隆之・宮城 孝・山口稔『コミュニティとソーシャルワーク』有斐閣、2008 年

【参考書】

地域福祉学会『新版地域福祉事典』中央法規、2006 年
 社会福祉士講座編集委員会『地域福祉の理論と方法』中央法規、2009 年
 宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーションーコミュニティの持続可能性の危機に挑む』中央法規、2017 年
 宮城 孝他編著『地域福祉とファンディングー財源確保の方法と先進事例ー』中央法規、2018 年

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点、2～3のテーマの課題についてのレポート（30%）
2. 試験期間内に行う理解度を問う試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

学生自ら学習する自主的な態度の形成や大学における学習の基礎的な能力を高める授業方法を取り入れることとする。また、現代における地域社会における福祉のあり方を広い視野でとらえるように工夫したい。

【その他の重要事項】

・本授業は、地域福祉に関する用語や制度、実践についての基本的な理解を図ることが重要になります。積極的・意欲的な学習態度で臨んでください。また、福祉コミュニティ学科においては、社会福祉士試験科目であることも意識して学習してください。

・講師は、社会福祉協議会において実務経験を有しており、本講義において、その経験を踏まえ、地域福祉に関する実践的な内容、先進事例などを紹介し理解を深めることとする。

【Outline and objectives】

This subject learn basic understanding and thinking skills about the Community welfare, and it cultivates the way to consider about Community welfare problem having to do with today.

ENG200JB

社会的包摂論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。

国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。

講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、週週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第2回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第3回	バリアフリー政策②米国	米国のバリアフリー政策の相違
第4回	移動と UD ①	国内の交通施設や公共交通機関
第5回	移動と UD ②	欧州の交通政策とトラム
第6回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第7回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第8回	障害者の能力①	エイブルアート
第9回	障害者の能力②	障害者スポーツ
第10回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第11回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策と NPO 活動
第12回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第13回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第14回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

授業支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007 年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014 年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004 年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011 年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007 年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70% ②レポート 30% ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2018 年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 24 年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline and objectives】

By understanding barrier-free or social inclusion from various perspectives, we deepen our understanding of the community where all people live a healthy and cultural life. Especially, pay attention to the role sharing and cooperation of administrative, private, and citizens toward realization.

PSY200JC

心理学的支援法

末武 康弘

サブタイトル：カウンセリング (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を学習し、あわせて、訪問による支援や地域支援の意義、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、プライバシーへの配慮、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について学びます。

【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、私たちの身のまわりにある様々な問題や具体例を取り上げながら、また心理学的支援法の実践についての視聴教材や事例などを活用しながら、わかりやすく心理学的支援法の考え方や方法が共有できるように授業を進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容について概説し、あわせて成績評価の基準を示します。
第 2 回	心理学的支援法への誘い	心理学的支援法への導入を行います。
第 3 回	心理学的支援法の特質	心理学的支援法の特質や効果、限界について学びます。
第 4 回	対象となる諸問題	心理学的支援法ではどのような問題を対象とするのかを学びます。
第 5 回	心理学的支援法の発展	心理学的支援法の歴史的発展について学びます。
第 6 回	さまざまな理論と方法	心理学的支援法のさまざまな理論と方法の概要を学びます。
第 7 回	主要理論（その 1）	心理学的支援法の主要理論であるパーソンセンタードセラピーを学びます。
第 8 回	主要理論（その 2）	パーソンセンタードセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピーを学びます。
第 9 回	主要理論（その 3）	精神分析と精神力動的セラピーについて学びます。
第 10 回	主要理論（その 4）	認知行動療法について学びます。
第 11 回	主要理論（その 5）	その他の主要な理論と方法について学びます。
第 12 回	実際とプロセス	心理学的支援法のプロセスや実際の進展について学びます。
第 13 回	心理支援の適用	訪問支援や家族支援、特性や状況に応じた心理支援の考え方や方法について学びます。
第 14 回	留意点と授業のまとめ	心理学的支援法にとって重要なコミュニケーション、プライバシーの配慮、倫理について学びます。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として次回のテキストの該当範囲を読んできてもらいます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」と「理解度確認テスト」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

末武康弘（2018）『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎—』誠信書房

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100 %）で評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果を踏まえて、より具体的でわかりやすい授業内容を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】

In this lecture, you learn the history, concepts, significance, application and limitations of representative psychotherapy and counseling. In addition, you also learn the meaning of support by outreach, community support, the way of communication to build good relationships, privacy protection, support for stakeholders, and mental health education.

SOW200JB

ソーシャルワークⅢ (方法)

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、相談援助の具体的な方法を学ぶため、ソーシャルワークのプロセス、技法について講義します。

【到達目標】

相談援助過程を理解する。
実践事例を通してアセスメントの視点を学ぶ。
実践事例を通して援助方法の実践を学ぶ。
スーパービジョンの枠組み、視点を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事例等を通して、相談援助の過程であるインテーク、アセスメント、プランニング、モニタリングの意義、目的、方法、留意点を講義します。また、これらの過程で重要なケアマネジメント、アウトリーチ、ネットワーキング、連携、社会資源の調整・開発、権利擁護活動、ソーシャルアクション、個人情報保護法の運用などについても講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、成績評価について説明します。
第 2 回	相談援助の視点	生活者の視点、当事者の視点生活問題理解の視点について解説します。
第 3 回	インテーク	援助関係の構築とインテーク面接の方法、留意点を説明します。
第 4 回	アセスメント	情報収集とアセスメントの目的、意義、方法、実際について解説します。
第 5 回	プランニング、モニタリング	プランニングとモニタリングの目的、方法、留意点、実際について講義します。
第 6 回	ケアマネジメント	ケアマネジメントの概念、方法について、介護保険下で実施されているケアマネジメントを事例に解説します。
第 7 回	アウトリーチ、ネットワーキング、連携	用語の概念、多様なサービスをどのようにニーズに結び付けていくべきか、また、どのように提供していくべきかを解説します。
第 8 回	社会資源の開発、ソーシャルアクション	事例紹介とそこにみられる資源開発、ソーシャルアクションの目的、意義、方法、留意点について解説します。
第 9 回	相談援助の体系・各組織における相談援助の課題	相談援助方法を体系的に事例を交えて解説し、主だったサービス提供機関における相談援助の課題について解説します。
第 10 回	集団を活用した相談援助	集団を活用した相談援助の目的、意義、方法について解説します。
第 11 回	地域を基盤とした相談援助	地域を基盤とした相談援助の目的、意義、方法について事例を通して解説します。
第 12 回	スーパービジョン、記録、個人情報保護	スーパービジョン、記録の目的、意義、方法および個人情報保護法の要点について解説し、相談援助過程における運用の実践について講義します。
第 13 回	当事者支援の実践	当事者視点の生活問題、および支援のあり方について講義します。
第 14 回	試験	学習した内容の試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示を出したテキストの該当箇所については読んでください。また、適宜紹介する文献についても読み、理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内ではいつも使用するわけではありませんが、窪田暁子『福祉援助の臨床：共感する他者として』を中心に講義していきますので、予習・復習の際、参考にご覧ください。

【参考書】

窪田暁子『福祉援助の臨床：共感する他者として』誠心書房 2013 年
その他、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、レポート（授業内に提出）、試験の総合評価とします。
授業への能動的参加（40％）、試験（60％）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを通じた学生との意見交換、授業内容の確認を積極的に行っていきたいと思います。

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、インテークから面接技法、ソーシャルアクション、ソーシャルプランニングまでのプロセス、方法について講義する。

【Outline and objectives】

This course deals with the fundamental social work activity, including communication and interviewing, problem-solving process, assessment, social care planning, teamwork and supervision for social work practice.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、週週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第2回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第3回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第4回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第5回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第6回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第7回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第8回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第9回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第10回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第11回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策とNPO
第12回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第13回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第14回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。
授業支援システムに前週の教材を掲載しているので、十分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK出版、2011年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70％ ②レポート 30％ ①と②を総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2018年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline and objectives】

Learn about housing policy deeply involved in daily life and important for regional landscape and social welfare. Learn through how domestic policies have been addressed, through comparing domestic and overseas and examples of citizen activity.

SOW300JB

司法福祉論

辰野 文理

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

司法福祉の領域から「更生保護」を中心に制度の仕組みや意義を学習する。更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることにより再犯を防ぎ、社会生活を送れるように働きかける仕組み全体を指す。更生保護の対象と福祉の対象は重なることが多く、支援内容も共通する事例が多い。とくに近年は、犯罪を犯した高齢者や障害者を福祉につなぐ役割として、社会福祉士の役割が重要となってきた。そこで、本講義では、主に社会福祉士に関心のある学生向けに、更生保護に関する基本的な事項を解説することにより、そうした学生の皆さんが社会福祉士として活動するために必要となる更生保護に関する基礎的知識を習得することをめざす。

【到達目標】

1. 更生保護制度における基本的用語の意味を説明できる。
2. 制度の種々の手続きについて、その対象、具体的内容を説明できる。
3. 制度に関する統計類を利用し、その現状を説明できる。
4. 制度に関わる人々や、関連する機関の概要を説明できる。
5. 制度の意義や課題について複数の視点から討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テキストに沿って各事項の概要を講義により学習した上で、基本的事項の振り返りを行いながら進行する。（授業展開によって各回で扱うテーマや内容に若干の変更がありうる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	犯罪の動向、刑事司法の流れ、更生保護の概略	犯罪動向を把握した上で、更生保護の役割や意義を考える。
2	保護観察の対象	対象者の種類と特徴などを知る。
3	仮釈放手続き	仮釈放の基準や手続を知る。
4	矯正施設、生活環境の調整	矯正施設の状況、生活環境の調整の方法や意義を知る。
5	保護観察の方法	保護観察の方法を知る。
6	良好措置・不良措置	良好・不良措置の種類を知る。
7	更生緊急保護等	更生緊急保護等の対象や内容を知る。
8	更生保護施設	更生保護施設の概要を知る。
9	更生保護の機関、民間協力組織	更生保護に関わる機関や民間協力者を知る。
10	犯罪被害者等施策、犯罪予防活動	更生保護における犯罪被害者等施策と犯罪予防活動の概要を知る。
11	医療観察	医療観察制度の概要を知る。
12	関係機関との連携	更生保護と関係する機関を知る。
13	更生保護における近年の動向、課題と展望	更生保護に関する近年の話題や施策をみた上で、今後の展望を考察する。
14	最終確認試験、解説	更生保護全般を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間、テキストの該当箇所を目を通して授業に臨む（2時間）。授業後、学習した範囲を振り返り問題を中心に復習する（2時間）。また、刑事司法や更生保護に対する理解を深めるために、事件を起こした者がその後どのように扱われているかについて関心を持ってメディアに目を通しておく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業で下記を使用する（初回から使用する）。

辰野文理『要説 更生保護（第3版）』成文堂、2018 年

【参考書】

・法務省保護局のサイト

(http://www.moj.go.jp/hogo1/soumu/hogo_index.html)

・藤本・生島・辰野（編）『よくわかる更生保護』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

基本的知識の定着度を確認するために期末に筆記試験を行い、その結果により評価を行う（100 %）。

なお、授業中、不定期に小課題を提示する（こちらは加点点評価の対象とする）。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

多くの受講生にとって犯罪関係の講義の受講が初めてであることを考慮し、基本的な事項や用語の説明にも時間をさく予定である。

【その他の重要事項】

法務省や保護観察所勤務の実務経験に基づき、実務に即した具体的説明を取り入れた授業内容とする。（「実務経験のある教員による授業」に該当）

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to introduce procedure and the significance of "Offenders Rehabilitation".

"Offenders Rehabilitation" system is, with regard to persons who have committed crimes and juvenile delinquents, to prevent them from re-offending and assist them to rehabilitate themselves by treating them properly within society.

The object of the welfare often overlaps with an object of "Offenders Rehabilitation". Most of method and menus of the support are common, too. Therefore in late years the role of the social worker became important in a field of "Offenders Rehabilitation".

Through this course, students will be able to explain basic knowledge about "Offenders Rehabilitation", that is necessary to be a social worker.

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

サブタイトル：国際支援論（2017 年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な事例の考察を中心に議論を交えて進めていく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs、国際協力と現代福祉①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs、国際協力と現代福祉②
第 4 回	SDGs と現代福祉③	SDGs、国際協力と現代福祉③
第 5 回	人間の安全保障とは	人間の安全保障と現代福祉
第 6 回	国際機関と国際協力	国連による現代福祉
第 7 回	日本政府と国際協力	日本政府による現代福祉
第 8 回	NGO と国際協力	国際 NGO による現代福祉
第 9 回	民間企業と国際協力	民間企業による現代福祉
第 10 回	国際協力と実際の仕事	現代福祉に関わる具体的な仕事
第 11 回	国際協力課題検討①	アイデアの検討・紹介①
第 12 回	国際協力課題検討②	アイデアの検討・紹介②
第 13 回	国際協力課題検討③	アイデアの検討・紹介③
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

外務省 開発協力白書。その他、必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、レポート・アイデア紹介：50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。講義は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

SOW300JB

Community Based Inclusive Development

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

【到達目標】

This course aims at learning practical and applicable knowledge and skills on the mentioned subject.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students are expected to proactively join the sessions. The lectures may be online for at least the first half of the spring semester. Changes for each lecture may be presented on a case-by-case basis in the system “Hoppii”. The start date of this course may be the corresponding day of the week from April 21 to 27. By this date, some specific methods of online lectures are to be presented.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview the planned sessions
No.2	SDGs and Well-being(1)	Concept of inclusive development(1)
No.3	SDGs and Well-being(2)	Concept of inclusive development(2)
No.4	SDGs and Well-being(3)	Concept of inclusive development(3)
No.5	SDGs and Well-being(4)	Concept of inclusive development(4)
No.6	International organization	Initiatives by the United Nations
No.7	Government	Initiatives by the Government
No.8	NGOs	Initiatives by NGOs
No.9	Private sector	Initiatives by the private sector
No.10	Inclusive development	Actual work on social policy and administration
No.11	Discussion(1)	Feedback and brainstorming(1)
No.12	Discussion(2)	Feedback and brainstorming(2)
No.13	Discussion(3)	Feedback and brainstorming(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

In-class participation:50%, Discussion and Feedback: 50%. Grading methods and criteria will also change as at least the first half of the spring semester may be offered online. Specific methods and standards are going to be presented in the system “Hoppii” on the first day of the lecture.

【学生の意見等からの気づき】

Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience outside Japan.

【Outline and objectives】

This course is designed to overview the concept of inclusive development in relation to well-being studies.

SOW300JB

アジア地域開発論

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアを中心にアジア地域開発の要点を理解する。

【到達目標】

東南アジアの最新事情を学ぶとともに、アジアの地域開発の基礎知識・スキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジア各国の最新状況を押さえた後、アジアの地域開発の考え方を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	東南アジアの国々①	ブルネイの最新事情
第 3 回	東南アジアの国々②	カンボジアの最新事情
第 4 回	東南アジアの国々③	インドネシアの最新事情
第 5 回	東南アジアの国々④	ラオスの最新事情
第 6 回	東南アジアの国々⑤	マレーシアの最新事情
第 7 回	東南アジアの国々⑥	ミャンマーの最新事情
第 8 回	東南アジアの国々⑦	フィリピンの最新事情
第 9 回	東南アジアの国々⑧	シンガポールの最新事情
第 10 回	東南アジアの国々⑨	タイの最新事情
第 11 回	東南アジアの国々⑩	ベトナムの最新事情
第 12 回	アジア人労働者①	制度と具体的な実践①
第 13 回	アジア人労働者②	制度と具体的な実践②
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

世界保健機関（WHO）CBR Guidelines（日本語訳あり）

【成績評価の方法と基準】

平常点：50 %、発表・レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

東南アジアを中心に最新のアジア事情を踏まえた内容を提供。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。講義は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

Basic theories, good practices and important trends on community development in Asia, particularly in Southeast Asia, are to be focused for better understanding.

SOW300JB

Disability and Development in Asia

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia.

【到達目標】

Basic knowledge and skills on disability and development in Asia, in particular Southeast Asia, are to be obtained.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

Students are expected to proactively join the sessions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
No.1	Introduction	Overview of the planned sessions
No.2	Southeast Asia	Updating the situation in Southeast Asia
No.3	Other countries / regions in Asia	Updating the situation in other countries / regions in Asia
No.4	Disability(1)	What is the Convention (1)
No.5	Disability(2)	What is the Convention (2)
No.6	Disability(3)	What is the Convention (3)
No.7	Facilitation skills	Learning facilitation skills
No.8	Comparative study(1)	Key points in Japan and other Asia(1)
No.9	Comparative study(2)	Key points in Japan and other Asia(2)
No.10	Comparative study(3)	Key points in Japan and other Asia(3)
No.11	Discussion(1)	Feedback and brainstorming(1)
No.12	Discussion(2)	Feedback and brainstorming(2)
No.13	Discussion(3)	Feedback and brainstorming(3)
No.14	Review	Reviewing the past lectures and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review reference materials. 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Handouts

【参考書】
None

【成績評価の方法と基準】
In-class participation:50%, Report/Discussion:50%

【学生の意見等からの気づき】
Suggestions are to be reflected in the design of the course.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
Themes and contents are subject to change. Lectures are according to practical knowledge and experience outside Japan.

【Outline and objectives】
This course is designed to overview the theory and practice on disability and development in Asia, particularly Southeast Asia.

SOW300JB

障害者福祉論

眞保 智子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでの障害者施策の展開と現在の障害者施策、そして今後の施策の動向について学び、「わたしたちみんな」の Well-being を考えていく。

【到達目標】

暮らしの安寧を支援していく対人支援サービス体系の枠組みを理解する。そして「わたしたちみんな」の Well-being に向け、方策を考えていくために地域の「暮らし」の中で見てくる障害を捉える「目」と実践に際しての「心」を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「障害」と向き合っている当事者の語りなど、具体的事例を題材としながら社会福祉専門職として現行の制度や課題をどのようにとらえていくのか検討していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方とグループワークと個人ワークについての説明を行う。
第 2 回	障害者・障害の概念	障害者福祉を支える理念について学ぶ。
第 3 回	障害者福祉を支える理念	障害者福祉の歴史について学ぶ。
第 4 回	障害者福祉の歴史	講義をもとにグループワークを行う。
第 5 回	ゲストスピーカーによる講義による障害理解	グループワークにより障害者運動の歴史と意義について学ぶ。
第 6 回	障害者運動	グループワークにより現在の障害者福祉の法体系について学ぶ。
第 7 回	障害者福祉がかかわる法体系	グループワークにより障害者自立支援法がどのように誕生したのかということについて学ぶ。
第 8 回	障害者自立支援法下の（総合福祉法）のサービス体系	グループワークにより障害者自立支援法（総合福祉法）の具体的なサービスについて学ぶ。
第 9 回	ゲストスピーカーによる講義に基づき障害理解	講義をもとにグループワークを行う。
第 10 回	障害者の就業	障害者の雇用の状況及び、雇用を促進する法律、制度等について学ぶ。
第 11 回	障害者の所得保障	障害者の経済状況及び所得保障の在り方について学ぶ。
第 12 回	障害者福祉の国際動向	国連障害者権利条約の内容について学ぶ。
第 13 回	障害者福祉の今後	日本国内において、現在進行している障害者制度改革について学ぶ。
第 14 回	まとめ	講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中やテキスト中の参考文献の中から興味をもったものを精読し、グループワークおよび個人ワークの内容を充実させる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義中に紹介する。

【参考書】
講義中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
講義中の課題：50%（グループ発表と個人レポートただし提出だけでは評価しない、考察した視点と内容を評価する）
期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義・グループワーク・グループ内報告・レポートなど多彩な取り組みをしています。

【学生が準備すべき機器他】
レポートの執筆やグループワークの際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用する。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介する。

【Outline and objectives】

In this class, I will give a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities. As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives. At the seminar We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

PSY300JB

教育心理学特講

安齊 順子

サブタイトル：教育心理学 (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで教育心理学という科目で教えられてきたジャンルの中で、認知心理学的分野に臨床心理学的視点も併せて詳しく学ぶ。基本的な知識と、現代の子供をめぐる社会における問題への対応策や発達障害などの問題について併せて習得することを目的とする。学生は授業を通じて教育心理学の知識に加え子どもの問題を心理学的に理解するための展望を学ぶ。

【到達目標】

学生がこれまで習得した心理学知識と融合した形で、学校での諸問題への対応策をイメージすることや対応ができるようになることを目標とする。加えて、過去の心理学、教育心理学の理論を習得し、幅広い知識を獲得することを目標とする。学生は現代の学校でスクールカウンセリング等現実に行われている対処法や方法を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストとパソコンを利用した講義、課題によってはグループ学習の形式も取り入れる（例、アンガーマネジメント実習）。リアクションペーパーは毎回提出する。授業の後半はカウンセリングの実習を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	教育心理学とは、歴史	教育心理学という科目の成り立ち
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	学習と動機づけ	学習と動機づけについて学ぶ
4	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（幼児・児童期）	幼児期、児童期の心理的問題について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題（青年期）	青年期の心理的問題について学ぶ
6	学級の心理学、集団とは何か	具体的には、いじめなどについて学ぶ
7	脳の発達と心	子どもの脳と心について学ぶ
8	パーソナリティの理解	人格理解とその歴史について学ぶ
9	パーソナリティの理解 2	心理検査、知能検査について詳しく学ぶ
10	学校におけるカウンセリング、不登校	諸問題のうち不登校について学ぶ
11	学校で使えるカウンセリングの技法	様々な技法について学ぶ
12	学校で使える技法	アンガーマネジメント教育などのグループワーク
13	スクールカウンセラーの理解と活用	学校に配置されているスクールカウンセラーの仕事内容や活用を学ぶ
14	心理教育的援助サービス	発達障害について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「使える」教育心理学 服部環他著 北樹出版

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原 雅彦他著
「教師のたまごのための教育相談」北樹出版 会沢信彦・安斎順子編著

【成績評価の方法と基準】

試験を行う（70 %）。授業態度やリアクションペーパーなどの授業への反応も評価に含めることがある（30 %）。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回感想をとり次回の参考にする。昨年の感想から、学ぶ学生に知識のばらつきが見られるため、リアクションペーパーで反応を確認し、理解が深まっている点については、次回の授業で取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

教員はスクールカウンセラーの経験があるため、その体験を説明する。臨床心理士の資格を持っているため、その資格について説明する場合がある。

【Outline and objectives】

Educational Psychology

SOW300JB

コミュニティソーシャルワーク

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域を基盤とするソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の展開方法について、その基本的な内容やプロセスについて理解することを目的とする。コミュニティソーシャルワークについて基礎的な理解を図るとともに、事例分析などを通して実践的な思考力や創造力を養うことを目的とする。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワークの内容とプロセスについて説明することができる。地域の福祉問題・ニーズを多角的にアセスメントし、具体的なプランニングを基本的に行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義によるが、理解を助けるために先進的な事例を取り上げるとともに、演習的な方法により、実践的な能力開発を図ることとする。必要に応じ先進事例などのDVDなどを視聴する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	地域における福祉問題とソーシャルワーク実践	地域を基盤としたソーシャルワーク実践の目的と特徴（理解しやすい事例を用いて）
第2回	コミュニティソーシャルワークの概念と今日的意義	事例等を通しての基本的な理解
第3回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス①	地域におけるニーズ把握の方法
第4回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス②	ニーズの焦点化と共有化
第5回	コミュニティソーシャルワークの展開プロセス③	プランニングとモニタリング、評価
第6回	コミュニティソーシャルワークの実践内容①	小地域ネットワーク活動
第7回	コミュニティソーシャルワークの実践内容②	当事者のエンパワメントと組織化、ボランティアコーディネート
第8回	コミュニティソーシャルワークの実践内容③	NPO支援、社会資源の開発、改善、ネットワーク
第9回	事例を用いたコミュニティソーシャルワーク実践の展開①	個別アセスメント
第10回	実践の展開②	地域アセスメント
第11回	実践の展開③	アセスメントの統合
第12回	実践の展開④	サポートネットワーク図の作成
第13回	実践の展開⑤	プランニング
第14回	実践の展開⑥	プランニングの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、次回の授業に応じた演習の内容等について理解を図れるようテキストの予習を行う。また、与えられた課題について、文献などを調べてレポートとしてまとめる。レポートの課題は、2～3とする。準備・復習時間は、4時間以上。

【テキスト（教科書）】

平野隆之・宮城 孝・山口 稔『コミュニティとソーシャルワーク 地域福祉論』有斐閣、2008 年

【参考書】

宮城 孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』中央法規、2019 年

宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』中央法規、2017 年

宮城 孝他編著『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例』中央法規、2018 年

日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2014 年

日本地域福祉学会編『新版地域福祉辞典』中央法規、2006 年

【成績評価の方法と基準】

- ① 平常点、演習などのレポート等ホームワークの提出とその内容 (30%)
② 試験期間内に行う理解度を問う試験 (70%)
両方により総合的に行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な知識としての理解を図るだけでなく、それらを理解したうえでの応用的な学習、思考力を高めるために、参加型学習方法を取り入れることとする。

【学生が準備すべき機器他】

DVD等による事例の視聴

【その他の重要事項】

・本授業は、コミュニティソーシャルワークに関する基礎的な知識を得るとともに、実践的な思考法や創造性を養うことを目標とします。ボランティア活動の体験や報道等で取り上げられる社会的な課題に関心を持ち、授業に活かして下さい。
・講師は、社会福祉協議会での実務経験を有しており、本講義では、その経験や実践現場のソーシャルワーカーへの研修などで用いた教材などを活用して、受講生がコミュニティソーシャルワークの基本的なスキルを習得することとする。

【Outline and objectives】

This subject has a purpose of understanding about the basic contents and skills of Community social work. Through the case analysis, it cultivates practic skills and creativity.

SOW300JB

多文化ソーシャルワーク

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多文化社会を形成する要因とその問題について「資本と労働の国際移動」と「外国人労働者問題」から検討し、外国にルーツを持つ人々の生活問題とその福祉援助について考える。

【到達目標】

グローバルゼーションの視点から、現代社会の特質と人種・民族、文化の差異が関わって発生する生活問題との関連について理解する。
多文化ソーシャルワークの視点、思想・価値、原則・方法について理解する。
多文化ソーシャルワークの実践について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、仮想現実の中で問題解決のあり方を探る集団討議を行い、多文化理解や多文化社会実現の方法と課題について検討する。次に、グローバル化した現代社会の特質を整理・検討し、個人の生活問題との関係性を検討する。その上で、多文化ソーシャルワークについて、その起源・発展、理論的基盤、思想・価値、原則・方法について説明し、実際の展開例などの検討を行っていく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標、評価方法の確認、文化固有の習慣・価値とコミュニケーション・ギャップの理解
第2回	集団討議①	異文化間コミュニケーションの相違と相互理解
第3回	集団討議②	勤労に対する価値観の相違と社会問題
第4回	集団討議③	言語・教育における価値観の相違と社会問題
第5回	集団討議④	居住の集住化と分離と社会保障問題
第6回	集団討議⑤	前半の振り返りと多文化社会における課題の検討
第7回	現代社会の特質①	資本と労働の国際移動についての歴史的検討
第8回	現代社会の特質②	「周縁」における労働実態
第9回	在日外国人の置かれた状況①	入管法と外国人労働者政策および外国人労働者の社会保障
第10回	在日外国人の置かれた状況②	外国人労働者の医療・福祉問題
第11回	多文化ソーシャルワーク理論	歴史的変遷とその特徴
第12回	多文化ソーシャルワークの実践	アメリカにおけるハルハウスおよび近年の実践状況
第13回	日本における多文化ソーシャルワーク	労災・医療・福祉問題と方法論としてのアドボカシーネットワーク
第14回	試験	学習した内容の試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料の他、新聞、テレビ、地域活動などからも関連した問題・動向に関心を持ち、理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

集団討議への能動的参加・発言（60%）
最終試験（40%）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

集団討議を積み重ねていくことでディスカッションに慣れていき、講義より積極的に参加できるとの意見に基づき、主体的な検討、討議ができる主題をさらに工夫していきたい。

【その他の重要事項】

外国人支援N G Oでのソーシャルワーカー経験を持つ教員が、多文化社会において発生する諸問題やその支援のあり方について、様々な事例を交えて解説する。

【Outline and objectives】

This course introduces the complexity of issues on multicultural society from the perspective of the historical, global economy and international migration. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of Ethnic Sensitive Social Work, discuss the role of social worker and apply in the treatment of difference, oppression and social justice.

SOW300JB

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施する。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してほしい。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第 2 回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第 3 回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第 4 回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第 5 回	グリーフ・ケア、ビリーフメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第 6 回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第 7 回	愛する人を失うということ①	大切な人を失う感覚について考える
第 8 回	愛する人を失うということ②	悲嘆感情の表出について考える
第 9 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考える
第 10 回	ソーシャルワーカーとして何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考える
第 11 回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第 12 回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第 13 回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考える
第 14 回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開する。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

PSY200JC

コミュニティ心理学

榎原 佐和子

サブタイトル：コミュニティ心理学Ⅰ（2017年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学のアプローチは、伝統的個人心理臨床と異なり、個人の心だけでなく取り巻く環境（家族、学校、職場、地域社会など）へも働きかけ、治療よりも予防を重視します。その点で福祉および地域づくりと接点をもちます。この講義を受講することで、現代の様々な心理的問題の理解と解決方法の幅が広がると思います。

【到達目標】

コミュニティ心理学のもつ視点と様々な介入方法に関して、個人心理臨床との違いを踏まえて説明することができます。そして、コミュニティ心理学に基づいた実証研究を計画できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学関連の授業を初めて履修する場合にも理解できるように、伝統的な心理臨床のモデルと基本的な視点について紹介します。その上で、コミュニティ心理学の基本的視点と理論、介入方法について講義します。実践や研究などの実際の紹介を多くまじえながら進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	伝統的心理臨床モデルとは	伝統的心理臨床モデルによる事例を報告し、個人心理臨床の特徴を講義。
第3回	臨床心理の基本的視点①：発達の視点	臨床心理の基本的な視点として M. マーラーの分離-個体化理論などの発達モデルを講義。
第4回	臨床心理の基本的視点②：病態水準の視点	臨床心理の基本的な視点として病態水準を講義。
第5回	臨床心理の基本的視点③：システム論の視点	臨床心理の基本的な視点としてシステムの視点と家族療法を講義。
第6回	コミュニティ心理学の視点①	伝統的心理臨床の限界とそれを補うコミュニティ心理学の視点を講義。
第7回	コミュニティ心理学の視点②	コミュニティ心理学の歴史、定義、専門家の役割を講義。
第8回	介入の6レベル	マレルによる介入の6レベルについて講義。
第9回	心理的ストレス	心理的ストレス理論と実証研究を講義。
第10回	ソーシャルサポートと介入	ソーシャルサポートの理論とその介入を講義。
第11回	危機介入	危機理論と危機介入の実際の事例を用いて講義。
第12回	コンサルテーションとコラボレーション	コンサルテーションとコラボレーションの理論と実践を事例を用いて講義。
第13回	予防と介入	いくつかの予防の理論とその介入を講義。
第14回	まとめ	講義全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマによっては参考書を事前に読むとよいでしょう。授業後に配布資料を再読すると授業内容が整理されます。理解をさらに深めたい場合は配布資料に掲載された文献を読むのを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、教員が作成する資料を配布します。各テーマの重要文献は資料に記載します。

【参考書】

授業では使用しませんが、参考書として次の2冊があります（必ずしも購入する必要はありません）。『コミュニティ心理学 実践研究のための方法論』（日本コミュニティ心理学会研究委員会編 新曜社 2019年 2,700円）、『コミュニティ心理学入門』（植村勝彦編 ナカニシヤ出版 2007年 2,592円）

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（配布資料と参考書等の持ち込み不可）で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容等）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

教員は大学生、成人との臨床の実務経験を多くもっています。講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】

Unlike the traditional individual clinical psychological approach, community psychology approach works not only on the individual but also on the surrounding environment (family, school, workplace, community, etc.) and emphasizes prevention rather than treatment. In that respect, this approach has contacts with welfare and community development. By taking this lecture, students will be able to understand and solve various modern psychological problems.

PSY200JC

臨床心理学概論

金 築 優

サブタイトル：臨床心理学Ⅰ（2017年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「臨床心理学とは何か」について、その歴史、基本理論、介入技法等を概説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を理解し、臨床心理学の全体像をつかむことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

（福祉コミュニティ学科）ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

（臨床心理学科）ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の歴史、基本理論、介入技法等を概説していきますが、なるべく身近な問題を取り上げ、各自が具体的に考えながら、理解を深めていけばと考えています。適宜受講生の授業の疑問や感想も参考にしながら、進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容や進め方について説明し、成績の評価方法を示します。
第2回	臨床心理学の歴史（1）	欧米での臨床心理学の歴史を取り上げます。
第3回	臨床心理学の歴史（2）	日本における臨床心理学の歴史を紹介し、現状を概説します。
第4回	臨床心理学が対象とする問題（1）	乳幼児期及び児童期における心理的問題を取り上げます。
第5回	臨床心理学が対象とする問題（2）	思春期及び青年期における心理的問題を取り上げます。
第6回	臨床心理学が対象とする問題（3）	中年期及び老年期における心理的問題を取り上げます。
第7回	臨床心理学におけるアセスメント（1）	心理的問題を理解するための異常心理学を紹介します。
第8回	臨床心理学におけるアセスメント（2）	アセスメントで用いられる質問紙法や投影法を紹介します。
第9回	臨床心理学におけるアセスメント（3）	アセスメントで用いられる知能検査法や神経心理学的検査を紹介します。
第10回	臨床心理学における理論と介入技法（1）	クライエント中心療法を概説します。
第11回	臨床心理学における理論と介入技法（2）	精神分析を概説します。
第12回	臨床心理学における理論と介入技法（3）	認知行動療法を概説します。
第13回	社会のなかでの臨床心理活動	教育、医療・保健、産業等の領域における臨床心理活動を紹介します。
第14回	まとめ	これまでの授業内容を振り返り、臨床心理学の課題を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。また、授業で取り扱ったテーマについて理解を深めるために、課題を課すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教員からの一方的な講義になりがちですので、受講生との双方向的な要素も工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】

学校・教育領域での臨床心理士としての実践活動経験を踏まえて、講義を展開します。

【Outline and objectives】

This course introduces an overview of the field of clinical psychology. Major topics include definition, training, history and current controversies, psychological assessment methods, and psychotherapy approaches.

PSY200JC

心理療法

久保田 幹子

サブタイトル：心理療法 I (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。また幾つかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実践について説明することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていく。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第 2 回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第 3 回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第 4 回	心理療法家の姿勢と役割（1）	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第 5 回	心理療法家の姿勢と役割（2）	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第 6 回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第 7 回	心理療法（1） 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的精神療法の理論と方法について概説する。
第 8 回	心理療法（2） 精神分析的な精神療法、プ リーフセラピーなど	主な心理療法の中で、精神分析的な精神療法、プリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。
第 9 回	心理療法（3） 認知行動療法、対人関係 療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第 10 回	心理療法（4） 日本で生まれた心理療法 ：森田療法、内観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第 11 回	心理療法（5） 遊戯療法、箱庭療法など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第 12 回	心理療法の実際（1）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第 13 回	心理療法の実際（2）	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。

平常点およびリアクションペーパー：30 %

学期末試験：70 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思います。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行います。

【Outline and objectives】

Outline of basic concepts in psychotherapy, its history, people who will benefit from the therapy and therapeutic approaches

CIM300JB

精神疾患とその治療

関谷 秀子

サブタイトル：精神医学 (2017 年度以前入学生)

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の精神的側面を対象とする精神医学は我々にとって身近な学問である。福祉や臨床心理のみならず幅広い分野で必要な精神医学の正しい知識を習得し応用すべく精神医学的見地を身につける。

【到達目標】

精神科医療の歴史と現状を理解する。
精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解する。
代表的な精神疾患の成因・症状・経過・診断法・治療法・本人や家族への支援に関する基本的知識を習得する。
精神医療・福祉との連携の重要性と心理専門職・精神保健福祉士が担うべき役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

主にP C プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／精神医学序論①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。「西洋の精神医療の歴史」「日本の精神医療の歴史」「精神科治療における人権擁護について」「精神科医療機関の治療構造及び専門病棟」
第 2 回	精神医学序論②	「精神医学の概念」「精神医学における正常・異常と健康・病的状態の問題」「精神障害の成因と分類」
第 3 回	精神医学的診断学	「診断の手順と方法」「身体的検査と心理検査」
第 4 回	精神症状学①	「神経心理学」
第 5 回	精神症状学②	「精神症状と状態像」
第 6 回	精神障害①	「統合失調症」
第 7 回	精神障害②	「気分障害」
第 8 回	精神障害③	「神経症概念の歴史」「神経症性障害」
第 9 回	精神障害④	「パーソナリティ障害」
第 10 回	精神障害⑤	「器質性精神病」
第 11 回	精神障害⑥	「物質関連精神障害」
第 12 回	精神障害⑦	「児童・思春期精神障害」
第 13 回	精神医学の治療学	「精神療法」「薬物療法（薬剤による心身の変化）」「入院治療」「専門病棟におけるチーム医療と臨床心理士・精神保健福祉士の役割」
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容について事前に予習をする。授業中に配布した資料の復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医である教員が精神疾患とその治療について講義する。

【Outline and objectives】

The study of psychiatry is one familiar to us. It is not only important to study fields such as welfare psychology or clinical psychology, but a whole array of other fields deserve to be examined from a psychiatric point of view.

PSY300JC

社会・集団・家族心理学**榊原 佐和子**

サブタイトル：コミュニティ心理学Ⅱ（2017年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は対人関係および集団が個人の意識と態度、行動に及ぼす影響についての基本的な社会心理学の理論を講義します。その上で、家族と集団、社会、文化の影響による現代社会のさまざまな問題を概説し、それら諸問題への対応について検討を行います。

【到達目標】

対人関係並びに集団における人の意識と行動についての心の過程が推測できます。人の態度と行動についてさまざまな理論を用いて説明できます。家族と集団、文化が個人に及ぼす影響について概説でき、その対応策について考えることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、講師が作成した資料をもとに講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容と進め方、評価の仕方を説明。
第2回	対人関係における人の意識と行動についての心の過程①	自己と他者について講義。
第3回	対人関係における人の意識と行動についての心の過程②	対人関係の形成と葛藤について講義。
第4回	集団における人の意識と行動についての心の過程①	集団の中の個人について講義。
第5回	集団における人の意識と行動についての心の過程②	集団間の関係について講義。
第6回	人の態度と行動に関するさまざまな理論①	態度と行動形成についてのさまざまな理論を講義。
第7回	人の態度と行動に関するさまざまな理論②	態度と行動変容についてのさまざまな理論を講義。
第8回	家族が個人に及ぼす影響①	家族システムの視点を講義。
第9回	家族が個人に及ぼす影響②	ジェノグラム（家族の歴史）の視点を講義。
第10回	集団が個人に及ぼす影響①	組織（学校や職場など）の影響について講義。
第11回	集団が個人に及ぼす影響②	社会の影響について講義。
第12回	文化が個人に及ぼす影響①	文化の違いについて講義。
第13回	文化が個人に及ぼす影響②	異文化適応について講義。
第14回	講義全体のまとめ	授業全体の振り返りと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の講義で次の講義のポイントを説明しますので、事前に調べ（学習の準備）、講義の後に配布資料を読み、関連事項を調べる（復習）ことを勧めます。さらに配布資料に記載された引用・参考文献を読むとよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。講師が作成する資料を使用します。

【参考書】

ありません。講師が作成する資料に引用・参考文献として記載されています。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（配布資料などの持ち込み不可）で評価しますが、その得点が60点未満の場合は平常点（リアクションペーパーの内容など）を含め総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

教員は大学生、成人との臨床の実務経験を多くもっています。講義する内容を学生の皆さんが理解しやすくするため、プライバシーに配慮して、教員が経験した事例をいくつか報告します。

【Outline and objectives】

This lecture describes the basic social psychology theory about interpersonal relationships and the influence of groups on personal consciousness and attitudes and behavior. Then, this lecture outlines various problems of the modern society due to family and group, society, culture, and examines how to deal with these problems.

PSY300JC

児童精神医学

関谷 秀子

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

児童精神医学は 1950 年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、今日では取りあえずの国際的診断分類学ができて上がっている。その臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。
児童・思春期の心の発達について理解する。
代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。
児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主にPCプロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 児童精神医学の歴史①	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19 世紀の子ども観について。
第 2 回	児童精神医学の歴史②	子どもガイダンス運動の展開について。
第 3 回	児童精神医学の歴史③	児童精神医学の誕生について。
第 4 回	子どもの精神発達①	乳幼児期・幼児期の発達について。 マラーの発達理論。
第 5 回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第 6 回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第 7 回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第 8 回	不登校①	小学生の不登校
第 9 回	不登校②	思春期の不登校
第 10 回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第 11 回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第 12 回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第 13 回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%)、リアクションペーパー (20%) にて評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

【Outline and objectives】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence.

PSY300JC

精神分析学

中 康

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性の発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】

精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に PC プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジュメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	精神分析学の誕生①	メスレルの磁気術、プロイエとアンナ O。
第 2 回	精神分析学の誕生②	ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ。転移の認識。
第 3 回	フロイトの夢判断	夢の作業について。
第 4 回	心の局所論と構造論モデル	意識・前意識・無意識、超自我・自我・エス。
第 5 回	精神性の発達①	乳幼児期と潜伏期について。
第 6 回	精神性の発達②	思春期青年期から初期成人期、超自我の構造的变化、性器統裁と対象選択について。
第 7 回	精神分析療法と精神分析的 精神療法①	精神分析療法と精神分析的精神療法について。
第 8 回	精神分析療法と精神分析的 精神療法②	精神療法の進め方。アセスメントと治療計画。
第 9 回	契約	治療構造、治療契約について。
第 10 回	退行	治療的退行について。
第 11 回	抵抗	抵抗の形式と抵抗の扱い方について。
第 12 回	転移と逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、解釈の種類、転移解釈について。
第 13 回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化について。
第 14 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%)、リアクション・ペーパー (20%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline and objectives】

The Freud's theory of psychoanalysis is a system of the scientific hypothesis to understand the human mind. A hypothesis of psychodynamic psychoanalysis is a concept which reflects the minds of people at an unconscious level. We will try to understand the states of mind by learning the psychological theories of Sigmund Freud, specifically surrounding the topics of unconsciousness, structure model, psychosexual development, parent - child relation, therapist-client relation, and therapeutic alliance.

PSY300JC

臨床心理学特講

末武 康弘

サブタイトル：臨床心理学Ⅱ (2017 年度以前入学生)
科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解します。あわせて、それらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論 (1) : 無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論 (2) : 集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論 (3) : 自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論 (4) : 実存、現象学、超越	ビンズワングーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論 (5) : ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論 (6) : 体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論 (7) : 逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルビヤベックの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論 (8) : ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論 (9) : 芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論 (10) : エスノ、自然、真空	日本のエスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論 (11) : 折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	レポート課題とレポートの書き方について	レポート課題を示し、レポートの書き方について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（4000 字前後）（90 %）と毎回の発展課題（リアクションペーパー）（10 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的でわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline and objectives】

In this lesson, through reading comprehension of the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, you learn major theories and methods of clinical psychology.

PSY300JC

健康・医療心理学

久保田 幹子

サブタイトル：心理療法Ⅱ（2017 年度以前入学生）

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心身の健康とは何かを広い視野で考え、またそれが損なわれる原因について理解すると共に、心身の問題に対する具体的な支援の在り方について学びます。援助法については、医療現場における心理援助職の役割と課題、医療現場で活用されている心理的援助法の理論や特徴について学んでいきます。

【到達目標】

心身の健康とそれが損なわれる要因との関係を理解しつつ、さまざまな心身の問題に対する支援の在り方、医療現場における心理的援助の役割と課題、具体的な方法論について説明できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では、心身の健康とそれが損なわれる要因、また心理的援助の在り方、医療現場における心理専門職の役割などについて理解を深めていきます。その際には、実際の医療現場で生じる問題などを紹介しつつ、支援における課題などについてリアクションペーパーを用いながら共有していきます。授業の後半では、医療現場で活用されている援助法として森田療法と認知行動療法を取り上げ、それぞれの理論や具体的な介入方法について学んでいきます。視聴教材なども取り入れ、東洋で生まれた心理療法と西洋で生まれた心理療法の比較も行いながら理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、心身の健康とは	講義の内容について説明したのち、心身の健康およびそれが損なわれた状態について概説します。
第 2 回	ストレスと心身の疾病との関係	ストレスが心身の疾病にどのような影響を及ぼすかを概説します。
第 3 回	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援①	心理社会的課題を原因とする心身の問題について（医療現場から）概説します。
第 4 回	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援②	医療現場における心理援助職の役割および支援法について概説します。
第 5 回	保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援	心理社会的課題を原因とする心身の問題（保健活動が行われている現場から）と支援について概説します。
第 6 回	災害時に必要な心理に関する支援	災害時に生じる心身の問題と支援法について概説します。
第 7 回	森田療法について①	森田療法の精神病理仮説について概説します。
第 8 回	森田療法について②	森田療法の実際（入院森田療法）について概説します。
第 9 回	森田療法について③	森田療法の実際（外来森田療法）について概説します。
第 10 回	森田療法について④	森田療法の実際（日記療法）について概説します。
第 11 回	認知行動療法について①	行動療法の理論と実際について概説します。
第 12 回	認知行動療法について②	認知療法の理論と実際について概説します。
第 13 回	森田療法と認知行動療法の比較	森田療法と認知行動療法の異同について概説します。
第 14 回	授業のまとめ・試験	試験および全体の振り返りとまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活において、心理社会的問題と心身の問題との関連を振り返ること。また毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書などから実際の事例に触れ、理解を深めるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介します。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価します。

学期末試験（80％）、平常点およびリアクションペーパー（20％）の合計で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを活用し、相互交流が図れるように工夫していきます。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、医療現場における心理学的理解や支援について事例経験・事例紹介を盛り込みつつ解説していきます。

【Outline and objectives】

Mental and physical health from a broad perspective: understanding factors detrimental to health and learning practical strategies to help people cope with mental and physical problems
Discussion of helping skills include the role of psychological assistance practitioners in medical settings and issues in providing help, and the theory and characteristic of psychological assistance applied in medical settings.

PSY300JC

認知行動療法

金築 優

科目分類・科目群：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけでなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ（1）	学習（行動）理論（特に、レスポナデント学習）と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ（2）	学習（行動）理論（特に、オペラント学習）と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ（3）	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ（4）	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ（1）	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ（2）	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ（1）	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ（2）	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ（3）	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ（4）	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法（1）	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法（2）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法（3）	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）と定期試験（60%）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

【Outline and objectives】

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy.

OTR200JB

専門演習ⅠA

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除の理論的検討、およびそれに関連する多様な実態について学ぶ。

【到達目標】

「社会的排除」の主要概念と日本における諸問題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、社会的排除に関わるソーシャルワークについての学習。方法は、文献研究、実践（ボランティア、傾聴面接、現地視察・調査）などを組み合わせて行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期授業内容の概要と目標
第2回	グループ面接	専門演習Ⅱ・Ⅲとの合同面接
第3回	研究テーマの選定①	問題関心の意見交換
第4回	研究テーマの選定②	図書館等での文献検索
第5回	研究テーマの決定①	各自の研究テーマの概要を報告し、目的、研究方法について検討する。
第6回	研究テーマの決定②	研究計画を具体的に検討する。
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②文献研究の共有と検討
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③文献研究の課題について討議
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④文献研究のまとめ
第11回	研究報告①	貧困系テーマ研究結果の発表
第12回	研究報告②	障害系テーマ研究結果の発表
第13回	研究報告③	多文化系テーマ研究結果の発表
第14回	まとめ	春学期の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への能動的参加（30％）

研究発表（30％）

レポート（40％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたいと思います。

【その他の重要事項】

基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline and objectives】

This course deals with the theory on social exclusion and the realities of various form of discriminations.

OTR200JB

専門演習ⅠA

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅰのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。当事者や家族の持つ力が社会福祉のみならず、社会の中で大きな社会資源となっている現状を分析し、彼らと協働する力を育てていきます。

【到達目標】

さまざまな当事者やその家族、専門家とかわかるとにより、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

人はあらゆる体験を通して、知識や生き抜く術を獲得しているといえます。こうした「体験的知識」は、ソーシャルワークにおいては見過ごすことのできない重要なものです。ゼミでは、障害のある人やその家族、虐待を受けた人や精神障害当事者、犯罪被害者家族など、当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知ることからスタートし、社会福祉援助について考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行う中で、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容の説明
第2回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第3回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第4回	図書館オリエンテーション	講義
第5回	グループ討議に向けての準備	グループングと全体討議
第6回	先行研究の検討	先行研究の分析と整理
第7回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第8回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第9回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第10回	ゲストの専門分野についての学習結果と質疑応答	プレゼンテーションと全体討議
第11回	ゲストの専門分野をふまえての全体学習	プレゼンテーションと講義
第12回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とディスカッション
第13回	振り返り	全体討議
第14回	まとめ	まとめと秋学期に向けての討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソーシャルワークにおける「当事者性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどに役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講態度（50%）、発表内容・提出物（50%）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちと議論を深め、フィールドワークなどを積極的に実施していく予定です。

【Outline and objectives】

In this seminar students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.

OTR200JB

専門演習 I A

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアにおける障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・スキルを身に付けることを目指す。

【到達目標】

東南アジアについて基礎的な理解を深める。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

東南アジアに関する国際協力・開発に関する文献・資料集め、基礎スキルのアップ、海外ゼミ合宿の準備を進める。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第 2 回	専門ゼミでの学習①	学びの理解、活動の骨子づくり
第 3 回	専門ゼミでの学習②	年代を超えた意見交換から学ぶ
第 4 回	国際課題の学習①	東南アジアの基礎情報①
第 5 回	国際課題の学習②	東南アジアの基礎情報②
第 6 回	専門的な研究の前に①	質問力、プレゼンテーション手法
第 7 回	専門的な研究の前に②	ビジネススキル基礎
第 8 回	専門的な研究の前に③	動画撮影・編集
第 9 回	フィールドワーク①	フィールドワーク実施
第 10 回	フィールドワーク②	フィールドワークの成果発表
第 11 回	ゼミ合宿準備①	国際協力・開発課題の考察
第 12 回	ゼミ合宿準備②	海外フィールドワークの注意点等
第 13 回	ゼミ合宿準備③	夏休み課題の討議、諸準備
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50 %、レポート・プレゼン：50 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

海外渡航にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

The main goal of this seminar is to build a basis of international work and develop students' knowledge and skills on international cooperation and development in Southeast Asia.

OTR200JB

専門演習ⅠA

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】

受講生が実践的な取り組みを調査するなかから、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり（地域づくり）活動のフィールドワーク現場を選定するために、活動助成事業への企画書をグループ単位でとりまとめる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第 2 回	まちづくり活動の事例研究①	活動先進事例の実態把握① リノベーション住宅
第 3 回	まちづくり活動の事例研究②	活動先進事例の実態把握② クリエイティブツーリズム
第 4 回	まちづくり活動の事例研究③	活動先進事例の実態把握③ メンタルヘルスツーリズム
第 5 回	まちづくり活動の事例研究④	活動先進事例の実態把握④ シェアリングエコノミー
第 6 回	まちづくり活動の事例研究⑤	活動先進事例の実態把握⑤ コミュニティの居場所
第 7 回	活動助成の企画書作成①	フィールドワークの目的確認
第 8 回	活動助成の企画書作成②	フィールドワークでの活動プログラム検討①
第 9 回	活動助成の企画書作成③	フィールドワークでの活動プログラムの検討②
第 10 回	活動助成の企画書作成④	活動スケジュールの検討
第 11 回	活動助成の企画書作成⑤	企画書とりまとめ
第 12 回	フィールドワークの事前調査①	対象地域の社会条件の整理
第 13 回	フィールドワークの事前調査②	対象地域の環境条件の整理
第 14 回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査などの発表準備、フィールドワークの準備と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】

The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR200JB

専門演習ⅠA

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2年次／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演習全体の目的である「福祉社会の未来をデザインする」ために、「若者の視点から探る」をテーマに、前期は、我が国の将来の社会保障や社会福祉に関する課題について、若者の視点から、その背景や課題について検討する。その際、具体的なフィールドを設定して、必要なデータを収集し、分析する。また、先進的な政策や実践について、国際的な視野を含めて検討し、基礎的な考察する力や視野を広げることを目的とする。

【到達目標】

- ・将来の福祉社会の在り方について、自分たちの問題として真摯にとらえることができる。
- ・社会保障や社会福祉に関して国際的な視点で考えることができる。
- ・専門的な文献や論文を読了するとともに、具体的なデータを収集・分析して自ら考察することができる。
- ・グループでテーマを設定し、協力して議論を深めることができる。
- ・人前で発表するプレゼンテーションの基礎的な能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

文献の探索レポートの書き方、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、基本的には、演習方式によるゼミ生の共同研究による。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミ全体の目的と方法、前期の進め方と日程等
第2回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて①	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについての課題の検討
第3回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて②	上記について具体的なテーマの設定についての協議
第4回	福祉社会の未来と自分たちの暮らしについて③	テーマの設定と内容についての協議
第5回	グループ研究①	研究内容と方法について協議①
第6回	グループ研究②	研究内容と方法について協議②
第7回	グループ研究③	研究内容と方法について協議③
第8回	グループによる研究報告Ⅰ	中間報告①
第9回	グループによる研究報告Ⅰ	中間報告②
第10回	グループ研究④	研究方法について協議①
第11回	グループ研究⑤	研究方法について協議②
第12回	グループ研究⑥	研究方法について協議③
第13回	グループによる研究報告Ⅱ	中間報告③
第14回	グループによる研究報告Ⅱ	中間報告④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海外の社会保障や社会福祉に関するテーマをグループで設定し、自ら関連する文献等を渉猟し読了する。
準備・復習時間は、合計4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用する場合は授業で具体的に指示する。

【参考書】

駒村康平編著『2025年の日本 破綻か復活か』勁草書房、2016年 その他、適宜紹介するとともに、論文の書き方に関する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（60％）と研究の報告内容（40％）によって評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体性を活かすとともに、学生相互に活発に論議できるようなゼミにしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

報告において、パワーポイントを使用する場合は、パソコンの貸与など自ら準備すること。

【その他の重要事項】

専門演習Ⅱ、Ⅲにつながる基礎的な能力を高めるとともに、自ら問題意識を深め、調べ、まとめる主体的な学習態度の形成を図ります。

オフィスアワー 月曜日3時限

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、演習ではその経験を活かして適宜助言指導することとする。

【Outline and objectives】

It makes the theme to explore from the viewpoint of the youth about the future of the welfare society which is the purpose of this semina, and sets

the field, collects and analyzes a necessary data.

OTR200JC

専門演習ⅠA

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちを取り巻く社会の中で、どのような問題が生じているのか、その背後にどのような心理的な問題があるのか、といった疑問を通して、心理学的に考える姿勢を培うとともに、心理学的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

心の問題の基本的な知識とその背後にある要因を多面的に理解できる。
現代の心の問題について、自分の考え、疑問をディスカッションし、深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・人間の心の発達について理解する

・現代が抱えるテーマ（いじめ、虐待、ひきこもり、うつ、不安障害など）と心理学的要因との関連を考える
春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション①	ゼミの進め方に関するオリエンテーション。
第2回	オリエンテーション②	関心のあるテーマを出し合い、今後のグループ発表などのスケジュールを話し合う。
第3回	現代が抱える心の問題や援助について考える	一つのテーマを選び、全体でディスカッションを行い、理解を深める。
第4回	現代が抱える心の問題について①	テーマを選び、グループ発表 テーマA
第5回	現代が抱える心の問題について②	Aに関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習、夏合宿の計画。
第6回	現代が抱える心の問題について③	関連した論文を持ち寄り、ディスカッション① 夏合宿の計画。
第7回	現代が抱える心の問題について④	テーマを選び、グループ発表 テーマB
第8回	現代が抱える心の問題について⑤	Bに関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第9回	現代が抱える心の問題について⑥	関連した論文を持ち寄り、ディスカッション②
第10回	現代が抱える心の問題について⑦	テーマを選び、グループ発表 テーマC
第11回	現代が抱える心の問題について⑧	Cに関連する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第12回	現代が抱える心の問題について⑨	テーマを選び、グループ発表 テーマD
第13回	現代が抱える心の問題について⑩	Dに関する発表内容を元に、ディスカッション。ビデオ学習。
第14回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のあるテーマを選び、グループ発表を行うため、発表のための準備が必要となる。また、発表者のみの学習にならないように、各テーマについて個々に文献を調べる事前学習も必要である。
関連する文献・図書を検索し、あらかじめ読んでおくといった学習も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）および発表内容（40％）から総合的に評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、臨床心理学の基礎知識をわかりやすく学べるように、また現代社会においてみられる現象を心理学の観点からディスカッションできるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にはパワーポイントを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Learning the basics in psychology and cultivating a perspective in the field by exploring problems in our society and investigating underlying issues related to psychology

OTR200JC

専門演習ⅠA

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2年次／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や援助について報告や議論を行います。

【到達目標】

到達目標は、体験実習とディスカッションを通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

各種のセラピーについてグループで歴史・理論・方法を調べて発表し、そのセラピーについての体験実習を行い、ディスカッションします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
第2回	オリエンテーション②	ゼミ長他、ゼミにおける役割を決めます
第3回	春学期の小グループ、学習内容の決定	春学期に行う実践体験グループのグループ分けと、各グループで実施する内容を決定します
第4回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション①	例：カウンセリングロールプレイ
第5回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション②	例：箱庭療法
第6回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション③	例：音楽療法
第7回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション④	例：造形療法
第8回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑤	例：夢分析とイメージセラピー
第9回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑥	例：プレイセラピーとボディワーク
第10回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑦	例：行動療法と認知行動療法
第11回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑧	例：サイコドラマ
第12回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑨	例：森田療法と内観療法
第13回	調べたセラピーについての発表と体験実習、ディスカッション⑩	例：マインドフルネスストレス低減法
第14回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで協力し話し合いながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表と体験実習の内容を事前に検討してもらいます。また各グループで発表内容と体験実習、ディスカッションについてレポートを執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、学期末レポート（50％）をあわせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

体験実習やディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいとします。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】

You learn and discuss issues on clinical psychology, cooperating with each other among seminar students.

OTR200JB

専門演習ⅠB

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、「社会的排除」をキーワードに、何らかの理由で社会との「関係性」から離れて、社会的孤立の状態にある人びとの支援について学ぶ。

【到達目標】

「社会的排除」に関わるソーシャルワークの方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期は、理論と実践を統合するためのフィールドワーク等を行い、春学期の研究テーマを実践的に深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの計画①	グループ毎にテーマの確認とフィールドワーク先の検討
第 3 回	フィールドワークの計画②	フィールドワークの内容・進行計画の作成①
第 4 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（介入方法について）
第 5 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援方法について）
第 6 回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。③（相談・連携について）
第 7 回	フィールドワークの実践④	グループ毎にフィールドワークの実践を行い各々持ち帰った課題を整理・検討する。④（記録について）
第 8 回	フィールドワーク結果の検討①	フィールドワーク実践の振り返りと検討①（研究テーマとの関連で）
第 9 回	フィールドワーク結果の検討②	フィールドワーク実践の振り返りと検討②（実践方法について）
第 10 回	フィールドワーク結果の検討③	フィールドワーク実践の振り返りと検討③（社会問題との関連について）
第 11 回	研究報告①	貧困系グループの発表
第 12 回	研究報告②	障害系グループの発表
第 13 回	研究報告③	多文化系グループの発表
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミで取り組むテーマに関するボランティアないしは現場の見学、参加を自主的に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への能動的参加（30％）
研究発表（30％）
レポート（40％）

【学生の意見等からの気づき】

受講者の関心に応じて、ゼミのテーマに限定しない研究、ディスカッションも取り入れていきたい。

【その他の重要事項】

基本的には学生主体の運営で、柔軟な姿勢と思考でお互いの多様性と異質性を認め合い、異学年間で意見交換を行いながら、積極的にゼミを作っていく姿勢を期待する。
医療機関・N G O ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助について解説する。

【Outline and objectives】

This course deals with the support people who have been in socially isolated situation.

OTR200JB

専門演習ⅠB

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習ⅠBのテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」というものです。ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性、特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。学びの内容としては、グループごとのディスカッション、プレゼンテーション、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

【到達目標】

春学期での学びをさらに深め、当事者やその家族、専門家との関わりから得た情報や経験をもとに、彼らが必要としていることについて理解できるようにし、専門家としての援助観を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

人はあらゆる体験を通して、知識や生き抜く術を獲得しているといえます。こうした「体験的知識」は、ソーシャルワークにおいては見過ごすことのできない重要なものです。ゼミでは、障害のある人やその家族、認知症高齢者を介護する家族、精神障害当事者、犯罪被害者家族など、当事者と呼ばれる人びとの「体験的知識」を知ることからスタートし、社会福祉援助について考えていきます。ゼミ運営は、学生主体でフィールドワークやグループ討議、文献研究などを行う中で、相互に刺激しあい、ゼミを「作っていく」ことを目指してほしいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	授業スケジュールの作成	授業スケジュールについての全体討議
第 3 回	グループ活動	研究テーマについての全体討議および小グループでの討議
第 4 回	フィールドワーク	学外での学習
第 5 回	フィールドワークの振り返り	見学先をふまえた全体討議
第 6 回	グループ討議に向けての準備	グルーピングと全体討議
第 7 回	グループ討議	プレゼンテーション方法の検討
第 8 回	ゲストスピーカーを迎える準備	全体討議
第 9 回	ゲストの専門分野についての学習	プレゼンテーション
第 10 回	ゲストの専門分野に関する学習成果報告と質疑応答	プレゼンテーションと質疑応答
第 11 回	ゲストの専門分野と関連した DVD での学習	DVD 視聴と全体討議
第 12 回	ゲストスピーカーによる講義とディスカッション	講義とグループごとのディスカッション
第 13 回	振り返り	全体討議
第 14 回	まとめ	まとめと次年度に向けての討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソーシャルワークにおける「当事者性」「専門性」ということについて受講生自身の考えをまとめておくことと、学習したい領域について文献を読んでおくことをおすすめします。そのことがディスカッションなどで役に立つことと思います。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメや資料を配布します。また、適宜参考文献を紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講態度（50%）、発表内容・提出物（50％）などを総合的に評価します。特に、成績評価の基準として、受講生自らの疑問点や質問などの発言、グループ討議への積極的な姿勢は成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバー同士の相互作用による学習効果が期待できるため、今年度もこの点を意識して展開していきます。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、学生たちとともに議論をしたり、フィールドワークやゲストスピーカーとの橋渡しをしたいと思います。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and interaction with guest speakers, field works.

OTR200JB

専門演習 I B

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアにおける障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる基礎知識・スキルを引き続き身に付けることを目指す。

【到達目標】

東南アジアについて基礎的な理解を深める。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の基礎知識・スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

海外ゼミ合宿を土台に、ディスカッションやグループワーク等を実施しつつ、学生相互に学び合う機会を創出していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の振り返り、秋学期の見直し
第 2 回	ゼミ合宿報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	ゼミ合宿報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第 5 回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第 6 回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第 7 回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第 8 回	海外経験者に学ぶ	海外滞在経験者と質疑応答
第 9 回	1 次自主企画準備①	今後深めたいテーマの選定
第 10 回	1 次自主企画準備②	現地活動に必要な準備等を議論
第 11 回	学びの伝達	表現力向上のための企画実施
第 12 回	1 次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第 13 回	1 次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第 14 回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50 %、レポート・プレゼン：50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

自主ゼミ企画にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and skills on international cooperation and development in Southeast Asia.

OTR200JB

専門演習 I B

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】

受講生が実践的なフィールドワークを通じて、まちづくり（地域づくり）に必要な要因を把握する能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

まちづくり（地域づくり）のフィールドワークの準備と実施、報告まで一貫して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 回 活動報告	夏休みのフィールドワークの概要報告
第 2 回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果の整理①
第 3 回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の整理②
第 4 回	今後の活動課題①	秋のフィールドワークに向けての課題の検討①
第 5 回	今後の活動課題②	秋のフィールドワークに向けての課題の検討②
第 6 回	活動プログラム立案①	秋のフィールドワーク行動計画①
第 7 回	活動プログラム立案②	秋のフィールドワーク行動計画②
第 8 回	フィールドワーク実施①	現地での活動①
第 9 回	フィールドワーク実施②	現地での活動②
第 10 回	活動結果とりまとめ①	フィールドワーク成果の整理①
第 11 回	活動結果とりまとめ②	フィールドワーク成果の整理②
第 12 回	報告書作成①	活動報告書のとりまとめ①
第 13 回	報告書作成②	活動報告書のとりまとめ②
第 14 回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールドワークの準備と実施、報告書作成など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

演習時間での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】

The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR200JB

専門演習 I B

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習 I A での「若者の視点から福祉社会の未来をデザインする」とのテーマのもと、国内外の社会保障や社会福祉に関する研究で得た知見をもとに、日本における地域の生活課題を対象にグループでテーマを設定し、関連する文献やデータの読了や分析、フィールドワーク等により、議論を深め、研究を行う。問題に対して、自ら考える課題認識や、実際の現場をとおして課題を明らかにし、議論する力、また人前で発表する基礎的な力を養う。

【到達目標】

具体的な地域の福祉問題に関して発見し、探求することができる。テーマについてグループで議論し、自ら活発に発言できる。専門的な文献やデータを収集し、読解することができる。人前で、研究の内容や結果を発表できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

文献の渉猟や研究方法、プレゼンテーションの方法などについて講義するが、グループによる主体的な研究や報告が主となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	後期の進め方、スケジュール等
第 2 回	研究テーマの設定	研究テーマについてのグループ討議①
第 3 回	研究テーマの設定	研究テーマについてのグループ討議②
第 4 回	研究テーマについての報告	研究テーマの背景や意義についての報告と討議①
第 5 回	グループ研究	グループ報告に向けての討議と準備②
第 6 回	グループ報告 I ①	グループ研究の中間報告と討議①
第 7 回	グループ報告 I ②	グループ研究の中間報告と討議②
第 8 回	グループ報告 I ③	グループ研究の中間報告と討議③
第 9 回	グループ研究	グループ報告に向けた討議と準備①
第 10 回	グループ報告 II ①	グループ研究の中間報告と討議①
第 11 回	グループ報告 II ②	グループ研究の中間報告と討議②
第 12 回	グループ報告 II ③	グループ研究の中間報告と討議③
第 13 回	グループ研究	最終のグループ報告に向けた討議と準備
第 14 回	合同研究報告会	最終のグループ研究の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各小グループによって研修テーマを設定し、文献やデータの分析やフィールドワークなどを行い研究を進めるので、時間内だけで足りない場合等は、時間外にサバゼミを行ない研究を進める。準備・復習時間は 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に研究を進め、より活発に相互に議論できるような工夫を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションの際のパソコン等の準備

【その他の重要事項】

オフィスアワー月曜日 3 時限
講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【Outline and objectives】

This subject explore the setting thema to the future of the welfare society from the viewpoint of the youth, and by the fieldwork and so on it deepens a discussion and it dose a reserch, it cultivates the skills to disecuss and basic presentation through these.

OTR200JC

専門演習 I B

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちを取り巻く社会の中で、どのような問題が生じているのか、その背後にどのような心理的な問題があるのか、といった疑問を通して、心理学的に考える姿勢を培うとともに、心理学的な基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

心理療法家の姿勢、心理療法の概要について理解できる。
現代の心の問題について、自分の考え、疑問をディスカッションし、深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・心理療法の基礎について学ぶ（幾つかの心理療法を取り上げる）
- ・心理査定を通して心の問題やその援助を考える
- ・臨床現場を実際に見学し、心の問題と援助について学びを深める

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは	心理療法の基礎的な知識を学ぶ
第 2 回	心理療法家とは	心理臨床家の役割、姿勢など基礎的な知識を学ぶ
第 3 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ①	関心のある心理療法を選び、グループ発表①
第 4 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ②	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む① ビデオ学習
第 5 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ③	関心のある心理療法を選び、グループ発表②
第 6 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ④	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む② ビデオ学習
第 7 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑤	関心のある心理療法を選び、グループ発表③
第 8 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑥	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む③ ビデオ学習
第 9 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑦	関心のある心理療法を選び、グループ発表④
第 10 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑧	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む④ ビデオ学習
第 11 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑨	関心のある心理療法を選び、グループ発表⑤
第 12 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑩	発表内容を元に、ディスカッション。関連する論文を読む⑤ ビデオ学習
第 13 回	心理療法の具体的な内容を学ぶ⑪	関心のある心理療法を選び、グループ発表⑥およびディスカッション
第 14 回	まとめ	全体を通した振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のあるテーマを選び、グループ発表を行うため、発表のための準備が必要となる。また、発表者のみの学習にならないように、各テーマについて個々に文献を調べる事前学習も必要である。
関連する文献・図書を検索し、あらかじめ読んでおくといった学習も求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）と発表内容（40 %）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、臨床心理学の基礎知識をわかりやすく学べるように、また現代社会においてみられる現象を心理学の観点からディスカッションできるよう工夫したい。
体験学習も積極的に取り入れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にはパワーポイントを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Learning the basics in psychology and cultivating a perspective in the field by exploring problems in our society and investigating underlying issues related to psychology

OTR200JC

専門演習ⅠB

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：2年次／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミ生同士で協力しながら、臨床心理学に関連する問題や援助について報告や議論を行い、ゼミ論にまとめます。

【到達目標】

このゼミの到達目標は、グループ学習を通じて、臨床心理学の基本的な考え方や態度、スキルを共有することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学のトピックをグループでゼミ論にまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション①	ゼミの進め方、成績評価の基準を示します
2	オリエンテーション②	グループ分けと、ゼミ長他の役割を決めます
3	小グループ、研究内容の決定	各グループで取り組む内容を決定します
4	小グループによる研究発表とディスカッション①	各グループによる研究テーマと進行予定の発表
5	小グループによる研究発表とディスカッション②	例：グループA、グループBの発表
6	小グループによる研究発表とディスカッション③	例：グループC、グループDの発表
7	小グループによる研究発表とディスカッション④	例：グループE、グループAの発表
8	小グループによる研究発表とディスカッション⑤	例：グループB、グループCの発表
9	小グループによる研究発表とディスカッション⑥	例：グループD、グループEの発表
10	小グループによる研究発表とディスカッション⑦	例：グループAの発表
11	小グループによる研究発表とディスカッション⑧	例：グループBの発表
12	小グループによる研究発表とディスカッション⑨	例：グループCの発表
13	小グループによる研究発表とディスカッション⑩	例：グループDの発表
14	小グループによる研究発表とディスカッション⑪、まとめ	例：グループEの発表、授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループで協力しながら、文献を調べ、発表内容をレジュメにまとめ、発表内容を事前に検討してもらいます。また各グループでゼミ論文を執筆します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）、ゼミ論文（60％）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に関与するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】

You learn and discuss issues on clinical psychology and psychological support, and you also write seminar report cooperating with seminar students.

OTR300JB

専門演習ⅡA

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3年次／2単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除に関わる実態について学ぶ。

【到達目標】

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景と問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求し、レポート報告にまとめる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第2回	グループ面接	専門演習Ⅰ・Ⅲとの合同面接
第3回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第4回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第5回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査報告書
第6回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献および論文
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①文献研究のまとめ
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②フィールドワーク先とテーマの検討
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワーク先の具体的検討
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワークの計画作成
第11回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況についての意見交換
第12回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第13回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第14回	まとめ	グループ毎に春学期の報告とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への能動的参加（30％）

研究発表（40％）

レポート（30％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【その他の重要事項】

昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。
医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【Outline and objectives】

This course deals with the fact of the social exclusion.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱ A のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。学内での学習にとどまらず、積極的に当事者やその家族とかわり、当事者のもつ力と専門職の関係性について理解を深めていく。

【到達目標】

専門演習Ⅱ AB で学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。ゼミの活動では当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験し、それをもとに議論や課題学習を実施していただきます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定に関する話し合い
3	グループ活動と全体討議	研究フィールドの内容に関する討議
4	文献検索の方法フィールドワークのための学習①	講義
5	フィールドワークのための学習②	全体討議と先行研究の整理
6	フィールドワークのための学習③	全体とグループ学習テーマごとのグループ発表
7	プレゼンテーション	学習テーマに基づいたグループ発表
8	プレゼンテーションと討議	学習テーマに基づいた発表を受けての討議
9	プレゼンテーションと全体討議	学習テーマに基づいた発表の総括
10	グループによる研究内容の整理	グループごとの話し合い
11	グループによる課題検討	グループごとの話し合いと全体討議
12	グループによる活動テーマの発表	グループごとの発表
13	ゼミ活動報告	活動内容の報告
14	まとめ	春学期の総括と秋学期に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。

①久保絃章・石川到覚編（1998）『セルフヘルプグループの理論と展開』中央法規

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】

講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（50%）、発表内容・提出物（50%）、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアにおける障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを応用していく。

【到達目標】

東南アジアについて応用的な理解を深める。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

前年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を深めるアプローチを中心とする。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの目標や進行に関する議論
第2回	1 次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第3回	1 次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第4回	卒業論文を書く前に①	現場活動の方向性を検討
第5回	卒業論文を書く前に②	現場活動の文献・資料レビュー
第6回	卒業論文を書く前に③	骨子案を作成
第7回	2 次自主企画準備①	現場活動の時期や準備を検討
第8回	2 次自主企画準備②	現場活動の時期や準備を可視化
第9回	2 次自主企画骨子①	骨子発表および質疑応答①
第10回	2 次自主企画骨子②	骨子発表および質疑応答②
第11回	企画の学び合い	学年を超えて意見交換
第12回	2 次自主企画骨子③	現場活動の時期や準備修正
第13回	4 年生卒論中間発表	様々な研究課題の深め方
第14回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50 %、レポート・プレゼン：50 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

自主企画、海外渡航にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and skills on international cooperation and development in Southeast Asia.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】

受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的、進め方、構成員の問題意識の確認
第2回	政策提言のテーマ設定①	関心のあるテーマの共有
第3回	政策提言のテーマ設定②	テーマごとにグループ結成
第4回	フィールドワーク計画①	活動フィールドの選定①
第5回	フィールドワーク計画②	活動フィールドの選定②
第6回	フィールドワーク計画③	現地での調査計画①
第7回	フィールドワーク計画④	現地での調査計画②
第8回	フィールドワークの実施①	現地調査の実施①
第9回	フィールドワークの実施②	現地調査の実施②
第10回	政策提言とりまとめ①	調査結果のとりまとめ①
第11回	政策提言とりまとめ②	調査結果のとりまとめ②
第12回	政策提言とりまとめ③	政策提言申請書類作成①
第13回	政策提言とりまとめ④	政策提言申請書類作成②
第14回	春学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに24年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】

The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR300JB

専門演習Ⅱ A

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次ゼミでの学習をもとに、さらに基礎的な研究能力を高めることを目標とする。報告におけるプレゼンテーション能力や積極的に実践にかかわり、分析する能力を高めることも目標とする。また、自らの卒業研究のテーマと研究方法を明確にし、関連する文献やデータを探索し、分析を行う。

【到達目標】

研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。
自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し論理的に説明できる。
人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

自ら文献を探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。卒業研究における論文の作成方法やフィールドワークにおけるインタビューの方法などについて講義を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テーマ設定の方法
第 2 回	研究の方法について	講義による理解
第 3 回	仮テーマの報告	報告と指導
第 4 回	先行研究のレビュー	講義による理解
第 5 回	研究報告①	報告と討議①
第 6 回	研究報告②	報告と討議②
第 7 回	研究報告③	報告と討議③
第 8 回	研究報告④	報告と討議④
第 9 回	グループ研究のテーマ設定	テーマに関する討議①
第 10 回	研究報告⑤	報告と討議①
第 11 回	研究報告⑥	報告と討議②
第 12 回	研究報告⑦	報告と討議③
第 13 回	研究報告⑧	報告と討議④
第 14 回	研究報告⑨、前期のまとめ	報告と討議⑤ 前期の振り返りと後期に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テーマに関する文献やデータの収集、研究段階ごとのレポートの作成準備・復習時間は 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

適宜指示する。また、研究テーマに応じて、自ら選択する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続きゼミ生の積極性を高めるための改善を図ることとする。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】

This seminar is the purpose of improving basic research capability and the skill of presentation, and it sets the theme the research paper; it searches the related paper and data.

OTR300JC

専門演習Ⅱ A

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを設定し、研究を行う。

【到達目標】

関心のあるテーマをみつけ、先行研究の調査を通して、研究テーマの絞り込み、研究方法の吟味を行うことができる。
他の学生の研究テーマについて、ディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

関心のあるテーマに関する発表およびディスカッション
関心のあるテーマについて先行研究の調査。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	卒業論文に向けて、テーマの選び方、論文検索の方法を学ぶ。
第 2 回	現代の抱える問題についてディスカッション①	ビデオ学習も取り入れながら、現代の問題を心理学的に考える。テーマ A
第 3 回	関心のある心理学的テーマの学習①	関心のあるテーマを選び、個人発表①
第 4 回	関心のある心理学的テーマの学習②	関心のあるテーマを選び、個人発表②
第 5 回	関心のある心理学的テーマの学習③	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する①
第 6 回	関心のある心理学的テーマの学習④	関心のあるテーマを選び、個人発表③
第 7 回	関心のある心理学的テーマの学習⑤	関心のあるテーマを選び、個人発表④
第 8 回	関心のある心理学的テーマの学習⑥	関心のあるテーマを選び、個人発表⑤
第 9 回	関心のある心理学的テーマの学習⑦	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する②
第 10 回	関心のある心理学的テーマの学習⑧	関心のあるテーマを選び、文献学習①
第 11 回	関心のある心理学的テーマの学習⑨	関心のあるテーマを選び、文献学習②
第 12 回	現代の抱える問題についてディスカッション②	ビデオ学習も取り入れながら、現代の問題を心理学的に考える。テーマ B
第 13 回	関心のある心理学的テーマの学習⑩	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文のテーマを検討する③
第 14 回	春学期のまとめ	まとめとして、これまでの発表内容から今後の調査・研究テーマを話し合う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文に向けて関心のあるテーマを決定するための学習として、論文検索、先行研究の調査、まとめ、個人発表およびグループ発表の準備が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）と授業内の発表（40 %）から総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と日常体験をつなぐ工夫、臨床現場の実際を伝える工夫を引き続き行いたい。また、卒業論文作成に向けて、より一層、学生が相互に意見交換できるゼミ作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことをお勧めします。

【その他の重要事項】

学生と共に作る授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Finding a theme of interest to conduct research and compile a senior thesis.

OTR300JC

専門演習Ⅱ A

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、ゼミ論文にまとめる準備をします。

【到達目標】

このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめる準備をします。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりあう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方や成績評価の基準を示し、また、ゼミ長他、ゼミでの役割を決定します
2	個人テーマの選定①	各自の研究テーマを決めるためのブレインストーミングを行います
3	個人テーマの選定②	各自の研究テーマを決めるためのディスカッションを行います
4	研究テーマと発表スケジュールの決定	各自の研究テーマを決定し、ゼミでの発表のスケジュールを決めます
5	個人報告とディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過を報告し、それに基づきディスカッションを行います。例：ゼミ生 A～C 発表。
6	個人報告とディスカッション②	例：ゼミ生 D～F の発表
7	個人報告とディスカッション③	例：ゼミ生 G～I の発表
8	個人報告とディスカッション④	例：ゼミ生 J～L の発表
9	個人報告とディスカッション⑤	例：ゼミ生 M～O の発表
10	個人報告とディスカッション⑥	例：ゼミ生 A～C 発表。
11	個人報告とディスカッション⑦	例：ゼミ生 D～F の発表
12	個人報告とディスカッション⑧	例：ゼミ生 G～I の発表
13	個人報告とディスカッション⑨	例：ゼミ生 J～L の発表
14	個人報告とディスカッション⑩、まとめ	例：ゼミ生 M～O の発表、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）、学期末レポート（50％）をあわせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】

You discuss on clinical problems and psychological support, and prepare to write seminar report.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除に関わる援助の実践について学ぶ。

【到達目標】

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景とおよび問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の研究結果を基盤としながら、グループの研究関心に基づいてさらに深め、ゼミでの質疑応答を反映させながら卒業論文作成につなげる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期の目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの計画	フィールドワーク先の確認・進行計画の検討・作成
第 3 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する①（現場の状況について）
第 4 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する②（支援方法について）
第 5 回	フィールドワークの実践③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する③（課題の達成状況について）
第 6 回	グループ活動①	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する①（研究テーマとの関係と方法について）
第 7 回	グループ活動②	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する②（現場の現状と課題について）
第 8 回	グループ活動③	グループ毎にフィールドワーク結果を分析・考察する③（これからの課題・活動の方向性について）
第 9 回	報告書の作成①	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する①（構成・目次について）
第 10 回	報告書の作成②	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する②（理論的検討のまとめ）
第 11 回	報告書の作成③	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する③（実践結果のまとめ）
第 12 回	報告書の作成④	グループ毎に研究結果のまとめと報告書を作成する④（校正作業）
第 13 回	報告書の発表	グループ毎に報告書をもとに発表する
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分にを行い、協働で研究を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への能動的参加（60％） 研究発表（40％）

【学生の意見等からの気づき】

研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【その他の重要事項】

昨年度の経験、成果をもとに、今年度は中心的にゼミの企画、運営を主体的に担うことを期待する。

医療機関・N G O ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【Outline and objectives】

This course deals with the tackling social exclusion and human support services.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

専門演習Ⅱ B のテーマは、「当事者・家族から学ぶ社会福祉援助のあり方を学ぶ」です。学びの内容としては、グループごとのディスカッション、プレゼンテーション、ゲストスピーカーとの交流、フィールドワークを重ね、議論を深めていきます。

【到達目標】

専門演習Ⅱ A で学習した内容をもとに、専門職と当事者・家族との協働（パートナーシップ）について議論等を行い、「当事者に寄り添うこと」の意味などについて発言できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

ソーシャルワークは、当事者やその家族の固有性や特質について理解するソーシャルワーカーの姿勢が問われるものです。1 年を通して、当事者やその家族、専門家と関わります。また、家族会等に参加するなど、様々なフィールドワークを経験してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明とスケジュール確認
2	グループ活動	研究フィールドの選定と討議
3	文献検索方法	講義
4	フィールドワークのための学習	全体討議と先行研究の整理
5	フィールドワークのための講義と話し合い	全体討議とグループ学習
6	プレゼンテーション	グループごとの発表
7	プレゼンテーションと質疑応答	グループごとの発表と全体討議
8	研究成果と全体討議	フィールドワークに向けた研究成果のまとめ
9	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と話し合い
10	当事者・家族会へのフィールドワーク	グループごとに当事者・家族会への参加と討議
11	グループ活動報告	グループごとの話し合い
12	全体討議	全体討議と課題抽出
13	個人報告	個人による活動報告
14	まとめ	1 年間の総括と次年度に向けた話し合い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当事者・家族会（セルフヘルプグループ）の活動についての学びを深めていくので、事前に下記の文献に目を通してください。

①久保絃章・石川到寛編（1998）『セルフヘルプグループの理論と展開』中央法規

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。講義内でレジュメ・資料を配布します。

【参考書】

講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（50%）、発表内容・提出物（50%）、で総合的に評価します。特に、受講生の意見表明の仕方や積極的な討議姿勢などは成績評価のポイントとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミメンバーの相互作用による学習効果が得られているとの評価をいただきましたので、その点を引き続き意識して展開していきます。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、当事者支援についてともに議論しながら学習を深めていきたいと考えています。

【Outline and objectives】

In this seminar, students will mainly learn social work practices for people with difficulties and families. It also enhances the development of students'skill in making oral presentation and interaction with guest speakers,field works.

OTR300JB

専門演習Ⅱ B

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアにおける障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを応用していく。

【到達目標】

東南アジアについて応用的な理解を深める。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発の応用知識・スキルを培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期のゼミ活動をさらに発展させ、個々の関心事項を卒業研究論文に関連づけていくプロセスとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの目標と進行に関する議論
第 2 回	2 次自主企画報告①	プレゼンおよび質疑応答①
第 3 回	2 次自主企画報告②	プレゼンおよび質疑応答②
第 4 回	グループ研究①	特定テーマについて意見交換
第 5 回	グループ研究②	特定テーマについて発表準備
第 6 回	グループ研究③	特定テーマをゼミ内発表
第 7 回	グループ研究④	特定テーマをゼミ外で発表
第 8 回	フィールド調査①	個別フィールドワークの計画
第 9 回	フィールド調査②	個別フィールドワークの実施
第 10 回	フィールド調査③	個別フィールドワークのレビュー
第 11 回	3 次自主企画準備①	卒業論文の検討①
第 12 回	3 次自主企画準備②	卒業論文の検討②
第 13 回	3 次自主企画準備③	卒業論文の検討③
第 14 回	講義の振り返り	就活に向けた準備・意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50 %、レポート・プレゼン：50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

自主企画、海外渡航にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

The main goal of this seminar is to further build a basis of international work and develop students' knowledge and skills on international cooperation and development in Southeast Asia.

OTR300JB

専門演習ⅡB

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域住民や NPO が主体的に関わるまちづくり（地域づくり）を題材として、地域住民や NPO は地域の課題をどのように捉え、組織を結成し、財源を確保し、行政セクターと連携しているのかを学ぶ。

【到達目標】

受講生が実践的な取り組みに関心を深めるなかから、地域住民による自立的なまちづくり（地域づくり）への研究意欲を高めることを目標とする。関心のあるテーマごとにグループ研究を行い、政策提言コンペに応募する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

フィールドワークと専門演習とを相互に連携させながら進め、フィールドワークに基づいた実証的な政策提言をとりまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	活動課題の検討	第 1 次予選で指摘された課題の整理
第 2 回	フィールドワーク計画①	補足調査の計画①
第 3 回	フィールドワーク計画②	補足調査の計画②
第 4 回	フィールドワークの実施①	補足調査の実施①
第 5 回	フィールドワークの実施②	補足調査の実施②
第 6 回	フィールドワーク成果①	現地調査結果とりまとめ①
第 7 回	フィールドワーク成果②	現地調査結果とりまとめ②
第 8 回	政策提言の補足修正①	発表原稿作成①
第 9 回	政策提言の補足修正②	発表原稿作成②
第 10 回	発表練習	発表原稿作成
第 11 回	活動とりまとめ①	報告書作成①
第 12 回	活動とりまとめ②	報告書作成②
第 13 回	活動とりまとめ③	報告書作成③
第 14 回	秋学期のふりかえり	到達度と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査などの発表準備、フィールドワークの企画と実施など、グループワークに対して積極的に関わる姿勢が求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告（70 %）や議論など（30 %）を総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Facebook グループなどを活用して、学生への連絡と情報共有を図る。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 24 年間関わり、市民活動を企画運営してきた経験に基づき、まちづくり活動を企画する術について授業で紹介する。

【Outline and objectives】

The theme is town planning involving the subjective involvement of local residents and NPOs. Students learn how local residents and NPOs grasp local issues, organize an organization, secure resources, and collaborate with the administrative sector.

OTR300JB

専門演習ⅡB

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習をもとに、グループ研究をさらに進展させ、ゼミ報告会にて報告する。卒業研究の準備を進め、研究テーマを明確化するとともに、先行研究のレビューや関連するデータを収集し、分析する。また、適切な研究方法について検討する。

【到達目標】

研究テーマに関して、先行研究を探索しレビューできる。自らの研究テーマについて、ある程度根拠を示し、論理的に説明できる。人前で、説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

自ら文献や関連するデータを探索し、成果をレポートにより報告することと、ディスカッションが主となる。ゼミと合同で研究報告会を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋期授業の流れ
第 2 回	フィールドワークの方法、インタビューについて	講義による理解
第 3 回	事例分析について	講義による理解
第 4 回	研究報告①	報告と討議①
第 5 回	研究報告②	報告と討議②
第 6 回	研究報告③	報告と討議③
第 7 回	研究報告④	報告と討議④
第 8 回	グループ報告①	グループ報告と討議①
第 9 回	グループ報告②	グループ報告と討議②
第 10 回	合同ゼミ・卒論報告会	卒論報告会への参加
第 11 回	研究報告⑤	先行研究のレビュー
第 12 回	研究報告⑥	研究方法について
第 13 回	研究報告会に向けて	研究報告の準備
第 14 回	合同ゼミ・研究報告会	公開研究会における研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマに関する先行研究、関連するデータの収集・分析を行う。研究の段階ごとにレポートを課す。準備・復習時間は、4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

適宜指示する、自らの天球テーマに関する文献等を探索すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（60 %）と研究の報告内容（40 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見を参考に、より学生が積極性を高め、充実したゼミとなるよう図る。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】

It proceeds with the research by the group and it does the presentation of the research. As a result, it collects data about the own research subject and it proceeds with the analysis.

OTR300JC

専門演習ⅡB

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを設定し、研究を行う。

【到達目標】

関心のあるテーマを見つけ、先行研究の調査を通して、研究テーマの絞り込み、研究方法の吟味を行うことができる。

他の学生の研究テーマについて、ディスカッションに参加することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

関心のあるテーマに関する発表およびディスカッション

関心のあるテーマについて先行研究の調査。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討①	卒業論文のテーマを絞り込み、先行研究の文献学習と研究計画の検討。
第 2 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討②	各自のテーマに関連する先行研究を調べ、まとめる。
第 3 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討③	各自のテーマに関連する先行研究をまとめる（グループ研究）①
第 4 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討④	各自のテーマに関連する先行研究をまとめる（グループ研究）②
第 5 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑤	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する①
第 6 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑥	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）③
第 7 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑦	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）④
第 8 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑧	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する②
第 9 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑨	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）⑤
第 10 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑩	各自のテーマに関連する調査研究をまとめる（グループ研究）⑥
第 11 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑪	グループですすめてきた調査研究の考察および発表の準備をおこなう
第 12 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑫	4 年生の発表を聞きながら、卒業論文の研究方法を検討する③
第 13 回	卒業論文に向けて調査、 研究法の検討⑬	グループごとに調査研究を発表し、検討課題についてディスカッションをする。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文に向けて関心のあるテーマを決定するための学習として、論文検索、先行研究の調査、まとめ、個人発表およびグループ発表の準備が求められる。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）と授業内の発表（40 %）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

知識と日常体験をつなぐ工夫、臨床現場の実際を伝える工夫を引き続き行いたい。また、卒業論文作成に向けて、より一層、学生が相互に意見交換できるゼミ作りを心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことをお勧めします。

【その他の重要事項】

学生と共に作る授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は若干の変更可能性があります。

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介しながら、皆さんの問題提議や議論の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Finding a theme of interest to conduct research and compile a senior thesis.

OTR300JC

専門演習ⅡB

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、ゼミ論文にまとめます。

【到達目標】

このゼミの到達目標は、臨床心理学の研究を進めていくための基本的な方法やスキル（文献検索、先行研究の検討、研究方法の理解など）を獲得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

各自が臨床心理学にかかわる研究テーマを設定し、ゼミで発表・ディスカッションし、その成果をゼミ論文にまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方と、ゼミ論文作成に向けてのガイダンスを行います
2	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション①	研究テーマについての学習の途中経過（特に先行研究の検討を中心に）を報告し、それに基づきディスカッションを行います、例：ゼミ生 A～C の発表。
3	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション②	例：ゼミ生 D～F の発表
4	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション③	例：ゼミ生 G～I の発表
5	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション④	例：ゼミ生 J～L の発表
6	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑤	例：ゼミ生 M～O の発表
7	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑥	例：ゼミ生 A、B の発表
8	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑦	例：ゼミ生 C、D の発表
9	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑧	例：ゼミ生 E、F の発表
10	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑨	例：ゼミ生 G、H の発表
11	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑩	例：ゼミ生 I、J の発表
12	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑪	例：ゼミ生 K、L の発表
13	ゼミ論途中経過発表と ディスカッション⑫	例：ゼミ生 M、N、O の発表
14	卒論構想発表会	卒論の構想を全員が発表し、ディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ論文の執筆に向けて、各自の自己学習が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30 %）、ゼミ論文（70 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】

You discuss on clinical problems and psychological support, and write seminar report.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除の地域的取り組みや現場実践について学ぶ。

【到達目標】

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期は、グループによりテーマを共有し、文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査などを行いながら課題を追求し、レポート報告にまとめる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標、内容の確認
第2回	グループ面接	専門演習Ⅰ、Ⅱとの合同面接
第3回	研究テーマの明確化①	研究関心の列挙と絞り込み
第4回	研究テーマの明確化②	テーマの決定とグループ分け
第5回	先行研究のレビュー①	関連領域の調査研究報告書
第6回	先行研究のレビュー②	関連領域の論文
第7回	集団討議①	グループ毎に研究作業を進める①先行研究からの課題の整理
第8回	集団討議②	グループ毎に研究作業を進める②これまでのフィールドワークの振り返り
第9回	集団討議③	グループ毎に研究作業を進める③フィールドワークと研究テーマの再検討
第10回	集団討議④	グループ毎に研究作業を進める④フィールドワーク計画の検討
第11回	集団討議⑤	グループ毎に研究作業を進める⑤フィールドワーク実践状況の確認
第12回	集団討議⑥	グループ毎に研究作業を進める⑥フィールドワーク実践の課題の検討
第13回	集団討議⑦	グループ毎に研究作業を進める⑦フィールドワーク実践の課題整理
第14回	まとめ	グループ毎に春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書、論文、事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への能動的参加（30％）

研究発表（40％）

レポート（30％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【その他の重要事項】

医療機関・N G O ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【Outline and objectives】

This course deal with tackling social exclusion and social support services.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアにおける障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを具体的に実践する。

【到達目標】

東南アジアについて応用的な理解をレビューする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

過去2年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する経験として確立させる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	卒業研究企画①	現場研究の文献・資料収集①
第2回	卒業研究企画②	現場研究の文献・資料収集②
第3回	自主企画の学び合い①	学年を超えて意見交換①
第4回	卒業研究企画③	現場研究の文献・資料まとめ①
第5回	卒業研究企画④	現場研究の文献・資料まとめ②
第6回	卒業研究企画⑤	現場研究のデータ分析①
第7回	自主企画の学び合い②	学年を超えて意見交換②
第8回	卒業研究企画⑥	現場研究のデータ分析②
第9回	卒業研究企画⑦	現場研究のデータ分析③
第10回	卒業研究企画⑧	現場研究のデータ分析④
第11回	自主企画の学び合い③	学年を超えて意見交換③
第12回	卒論中間発表①	卒論中間報告と質疑応答①
第13回	卒論中間発表②	卒論中間報告と質疑応答②
第14回	講義の振り返り	講義の復習と今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50％、レポート・プレゼン：50％春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

自主企画、海外渡航にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

The main goal of this seminar is to apply knowledge and skills on international cooperation and development gained in relation to Southeast Asia.

OTR400JB

専門演習Ⅲ A

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成に向けて問題関心の明確化を行い、必要な文献探索やデータ収集、調査等を行い、論文として文章化し完成させる。

【到達目標】

- 地域の福祉課題等への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
- 調査研究や分析の方法を学び、自ら課題に対し分析する方法を組み立てることができる。
- 学術的な文章の書き方を学び、論理的な文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。ゼミ生による中間報告と2・3年生を含めた研究報告の機会を設ける。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	問題意識の明確化①	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第2回	問題意識の明確化②	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第3回	調査研究方法の学習Ⅰ	調査方法、分析の視点を学ぶ①
第4回	調査研究方法の学習Ⅱ	調査方法、分析の視点を学ぶ②
第5回	調査研究方法の学習Ⅲ	調査方法、分析の視点を学ぶ③
第6回	論文作成計画の検討Ⅰ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する①
第7回	論文作成計画の検討Ⅱ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する②
第8回	論文作成計画の検討Ⅲ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する③
第9回	論文作成計画の検討Ⅳ	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する④
第10回	文献や資料などの検討Ⅰ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる①
第11回	文献や資料などの検討Ⅱ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる②
第12回	文献や資料などの検討Ⅲ	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる③
第13回	調査計画の検討Ⅰ	調査方法を検討する①
第14回	調査計画の検討Ⅱ	調査方法を検討する②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケート調査を行ったり、自ら活動に参加し参与観察などを行うことを進める
準備・復讐時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

個別的に卒論作成に必要な文献等を指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 %、研究への取り組みの態度と内容 50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながらよりよい指導方法を検討していきます。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】

It collects the data about its own research subject and it proceeds making sentences with the own research.

OTR400JC

専門演習Ⅲ A

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の抱える諸問題を心理学の立場から議論し、その理解を深めると共に、心理的援助について学習する。

【到達目標】

現代社会の抱える問題を心理学の立場から議論し、心理的援助について学ぶと共に、各自で研究テーマを決定し、調査・研究を実施する。専門演習での発表・議論を経て、卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、卒業論文作成のための準備を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	演習の目的や進め方について話し合う。
第2回	論文構想発表①	問題意識や論文の構想について発表し、議論する①
第3回	論文構想発表②	問題意識や論文の構想について発表し、議論する②
第4回	論文構想発表③	問題意識や論文の構想について発表し、議論する③
第5回	論文構想発表④	問題意識や論文の構想について発表し、議論する④
第6回	論文計画の発表①	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する①
第7回	論文計画の発表②	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する②
第8回	論文計画の発表③	研究の進捗状況を発表し、それについて皆で議論する。
第9回	論文計画の発表④	調査テーマ、対象、方法、スケジュール等を発表し、議論する③
第10回	文献等レビュー報告①	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する①
第11回	文献等レビュー報告②	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する②
第12回	文献等レビュー報告③	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する③
第13回	文献等レビュー報告④	テーマに関する文献や資料を集め、その概要と分析結果を報告する④
第14回	まとめ	卒業論文作成のために進めてきた準備を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文を執筆するための準備として、過去の文献や研究結果を収集する。また、演習の仲間に取り組んでいる内容が伝わりやすいように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配付・指示する。

【参考書】

必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %

主体的取組み・参加の姿勢（演習内での報告、議論での積極的参加など）

30 %春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことができます。

【その他の重要事項】

ゼミ生と共につくる授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。
医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Discussion of issues in modern society from a psychological perspective for a deeper understanding of problems and learning about psychological assistance.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、社会的排除の実態について、その現状と社会的支援について学ぶ。

【到達目標】

このゼミでは、これまで学習してきた社会的排除に関する視点に基づきながら、各自の関心に応じてテーマを選択し、その社会的排除の実態、社会的背景および問題を明らかにし、そこに求められる社会福祉援助とは何かについて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期は、グループ学習をさらに深めてフィールドワーク実践の分析・考察を行い、最終報告としてのプレゼンテーションの準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	秋学期目標、内容の確認
第 2 回	フィールドワークの振り返りと再検討	グループ毎にフィールドワーク実践の振り返りと今後に向けての計画を作成する。
第 3 回	フィールドワークの実践①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。①（現場状況について）
第 4 回	フィールドワークの実践②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を整理・検討する。②（支援の実態について）
第 5 回	フィールドワーク結果の分析①	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。①（介入方法について）
第 6 回	フィールドワーク結果の分析②	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。②（支援の効果）
第 7 回	フィールドワーク結果の分析③	グループ毎にフィールドワーク実践を行い、各々持ち帰った課題を分析する。③（関係団体との連携について）
第 8 回	フィールドワーク結果の考察①	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。①（研究テーマの観点から）
第 9 回	フィールドワーク結果の考察②	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。②（援助者の立場から）
第 10 回	フィールドワーク結果の考察③	グループ毎にフィールドワーク実践の分析結果を考察する。③（社会問題の観点から）
第 11 回	研究報告①	貧困関連グループの発表
第 12 回	研究報告②	障害関連グループの発表
第 13 回	研究報告③	ダイバーシティ関連の発表
第 14 回	まとめ	年間の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

これまでの学習を踏まえた研究方法を実践していくため、授業以外でグループによる討議を十分に行い、協働で研究の準備を進めていくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、外部講師を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への能動的参加（30%）

研究発表（40%）

レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

研究指導については、合宿等も活用していきたい。

【その他の重要事項】

医療機関・N G O ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【Outline and objectives】

This course deal with the social exclusion and social support network.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアにおける障害と開発およびその他社会開発課題に関する研究を通じて、国際舞台で求められる知識・スキルを具体的に実践する。

【到達目標】

東南アジアについて応用的な理解をレビューする。また、現代福祉に関連した国際協力あるいは国際開発について知見をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

過去 2 年のゼミ活動から得られた知見を生かして、個々の関心事項への理解を振り返り、将来に応用する経験として確立させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒業研究まとめ①	研究のまとめ①
第 2 回	自主企画の発展①	新しい視点の討論①
第 3 回	卒業研究まとめ②	研究のまとめ②
第 4 回	卒業研究まとめ③	研究のまとめ③
第 5 回	自主企画の発展②	新しい視点の討論②
第 6 回	卒業研究まとめ④	研究のまとめ④
第 7 回	卒業研究まとめ⑤	研究のまとめ⑤
第 8 回	自主企画の発展③	新しい視点の討論③
第 9 回	卒業研究まとめ⑥	研究のまとめ⑥
第 10 回	卒業研究まとめ⑦	研究のまとめ⑦
第 11 回	卒論最終発表①	卒論最終報告と質疑応答①
第 12 回	卒論最終発表②	卒論最終報告と質疑応答②
第 13 回	卒論最終発表③	卒論最終報告と質疑応答③
第 14 回	卒論最終提出	これまでの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義で配布した資料等の復習。国際協力関連の課外活動への参画。発表や報告はスライド表示が原則。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への積極的参加：50 %、レポート・プレゼン：50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生が主体的に参加できるゼミ運営。様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

自主企画、海外渡航にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

上述の授業計画は、その展開によって若干変更する場合あり。

【Outline and objectives】

The main goal of this seminar is to apply knowledge and skills on international cooperation and development gained in relation to Southeast Asia.

OTR400JB

専門演習Ⅲ B

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自らのテーマに基づく卒業論文の完成に向けて、適切な方法と表現によって論文を仕上げる。また、卒業論文報告会において、第三者に理解しやすい、また訴求力のあるプレゼンテーションを行うことを目的とする。

【到達目標】

- 設定したテーマについて、自ら探求する努力をすることができる。
- オリジナルな視点を持つとともに、論理的に考察し、それらを適切に文章化することができる。
- 第三者に、自らの研究を理解しやすく、また訴求力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業論文の執筆に関する個別指導、中間報告会での報告・卒論報告会に向けての指導・助言

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の分析の指導①	分析の方法と内容についての指導・助言
第 2 回	研究の分析の指導②	分析の方法と内容についての指導・助言
第 3 回	研究の分析の指導③	分析の方法と内容についての指導・助言
第 4 回	研究の分析の指導④	分析の方法と内容についての指導・助言
第 5 回	研究の分析の指導⑤	分析の方法と内容についての指導・助言
第 6 回	研究結果の指導①	分析の結果についての指導・助言
第 7 回	研究結果の指導②	分析の結果についての指導・助言
第 8 回	研究結果の指導③	分析の結果についての指導・助言
第 9 回	考察の指導①	考察についての指導・助言
第 10 回	考察の指導②	考察についての指導・助言
第 11 回	考察の指導③	考察についての指導・助言
第 12 回	研究報告の指導	研究報告についての指導・助言
第 13 回	卒業論文の研究報告	2 年、3 年、4 年生による合同ゼミにおいて、卒論報告を行う。
第 14 回	研究の振り返り	報告の振り返りにより自らのこれまでの卒業研究の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマについて、必要なデータや文献などを収集し、分析を行う。また、必要に応じて関連する機関や団体などに、インタビューを行い分析する。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

各自研究テーマに応じて、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席と参加態度 (30 %)、卒業論文の内容 (70 %)

【学生の意見等からの気づき】

受講生の研究成果を振り返り、改善を図ることとする。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行うこととする。

【Outline and objectives】

It analyzes a collected data about its own research subject and it makes sentences logically. It does the presentation about the research meeting.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の抱える諸問題を心理学の立場から議論し、その理解を深めると共に、心理的援助について学習する。

【到達目標】

現代社会の抱える問題を心理学の立場から議論し、心理的援助について学ぶと共に、各自で研究テーマを決定し、調査・研究を実施する。専門演習での発表・議論を経て、卒業論文の完成に導くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

演習Ⅲでは、卒業論文の内容をゼミにおいて定期的にプレゼンテーションし、ゼミでのディスカッションを踏まえて検討を進め、年度末までに卒業論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	調査計画の報告①	調査方法、時期、対象等を検討し、報告する①
第 2 回	調査計画の報告②	調査方法、時期、対象等を検討し、報告する②
第 3 回	進捗状況報告①	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする①
第 4 回	進捗状況報告②	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする②
第 5 回	進捗状況報告③	調査研究の進捗状況を報告し、改善のための議論をする③
第 6 回	卒業論文中間報告（第 1 回）①	完成した章を発表し、改善のための議論を行う①
第 7 回	卒業論文中間報告（第 1 回）②	完成した章を発表し、改善のための議論を行う②
第 8 回	卒業論文中間報告（第 1 回）③	完成した章を発表し、改善のための議論を行う③
第 9 回	卒業論文中間報告（第 2 回）①	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う①
第 10 回	卒業論文中間報告（第 2 回）②	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う②
第 11 回	卒業論文中間報告（第 2 回）③	完成した章と全体の構成について発表し、改善のための議論を行う③
第 12 回	卒業論文報告Ⅰ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う①
第 13 回	卒業論文報告Ⅱ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う②
第 14 回	卒業論文報告Ⅲ	完成した卒業論文の発表を行い、質疑応答を行う③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の執筆を計画的に進める。また論文の内容が演習の仲間に十分に理解されるように、発表用の資料を作成したり、その方法を工夫することが求められる。演習後には、教員や仲間から受けた助言やコメントを卒業論文に反映させ、論文を改善することが求められる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配付・指示する。

【参考書】

必要に応じて配付・指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 70 %
主体的取組み・参加の姿勢（演習内での報告、議論での積極的参加など）30 %

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文作成に向けて、研究に役立つ相互の意見交換と、個々の関心を生かした研究が出来るようにサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】

各自の研究発表で PC やプロジェクターなどを使うことが出来ます。

【その他の重要事項】

ゼミ生と共に学ぶ授業です。受講生の関心や要請に応じて、上記計画は、若干の変更可能性があります。

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Discussion of issues in modern society from a psychological perspective for a deeper understanding of problems and learning about psychological assistance.

OTR400JC

専門演習Ⅲ B

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の諸問題と援助について議論します。

【到達目標】

臨床心理学に関連する諸問題と心理的援助、研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成し発表します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学に関連する問題や援助について各自で研究発表し、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、成績評価の基準について示します
2	発表スケジュールの話し合い	卒業論文に直結した各自の最終報告のスケジュールを話し合います
3	最終報告①	例：ゼミ生 A、B の報告
4	最終報告②	例：ゼミ生 C、D の報告
5	最終報告③	例：ゼミ生 E、F の報告
6	最終報告④	例：ゼミ生 G、H の報告
7	最終報告⑤	例：ゼミ生 I、J の報告
8	最終報告⑥	例：ゼミ生 K、L の報告
9	最終報告⑦	例：ゼミ生 M、N の報告
10	最終報告⑧	例：ゼミ生 O の報告
11	最終報告⑨	例：希望者の報告
12	最終報告⑩	例：各自の修正点の報告
13	卒論発表会の準備	卒論発表会の準備を行います
14	卒論発表会	提出された卒業論文について、各自その要旨を作成して発表し、ディスカッションを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成に直結した報告のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションが積極的に展開するように発言を促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表の際にパワーポイントを使用することを勧めます。パソコン本体は個人のものを持参しなくても大丈夫です。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的にわかりやすく授業します。

【Outline and objectives】

You discuss the clinical problems and psychological support.

OTR400JB

卒業論文

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
 配当年次／単位数：4 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文の作成

【到達目標】

卒業論文を大学4年間の集大成として位置づけ、これまで積み重ねてきた研究成果や実践的経験に基づいた問題意識を、関連先行研究のレビュー、さらなる文献研究、アンケート調査、フィールドワークなどによって必要なデータを収集し、その結果を分析、論述し、卒業論文へと結実させることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

年間を通じて個別指導を基本とするが、研究方法の確認、中間報告会、卒論発表会などは集団で行い、ディスカッションを重視する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	卒業論文についてのガイダンス
第2回	研究方法について①	文献研究について
第3回	研究方法について②	アンケート調査、フィールドワーク調査について
第4回	テーマの設定①	問題意識の明確化
第5回	テーマの設定②	先行研究の検討
第6回	テーマの確定	テーマ、目的、研究方法、目次の確定
第7回	論文作成のための準備作業①	文献研究概要の個別報告
第8回	論文作成のための準備作業②	調査研究概要の個別報告
第9回	論文作成のための準備作業③	フィールドワーク計画の個別報告
第10回	論文作成のための準備作業④	文献研究の中間報告
第11回	論文作成のための準備作業⑤	調査研究の中間報告
第12回	論文作成のための準備作業⑥	フィールドワーク状況の経過報告
第13回	論文作成のための準備作業⑦	これまでの研究結果についての報告
第14回	中間報告会	夏休み中の研究計画の整理
第15回	オリエンテーション	夏休みの課題の報告と研究計画の確認
第16回	研究結果の議論①	研究結果・データの分析・考察① (データの整理)
第17回	研究結果の議論②	研究結果・データの分析・考察② (データの集計)
第18回	研究結果の議論③	研究結果・データの分析・考察③ (データの分析)
第19回	研究結果の議論④	研究結果・データの分析・考察④ (データの考察)
第20回	研究結果の議論⑤	研究結果・データの分析・考察⑤ (データのまとめ)
第21回	研究結果の議論⑥	研究結果全体の考察
第22回	論文執筆①	序論について
第23回	論文執筆②	本論について①（先行研究レビューと理論的検討）
第24回	論文執筆③	本論について②（研究結果の分析と考察）
第25回	論文執筆④	結論について
第26回	論文執筆⑤	全体を通しての論旨の確認
第27回	論文執筆⑥	引用・参考文献の確認
第28回	卒業論文提出	最終確認と提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導は、基本的に進捗状況の報告と研究内容についてのディスカッションの場である。文献研究、アンケート調査、フィールドワーク調査および結果の整理、分析は各自で積極的に進めて、自ら個別指導時間を確保するよう能動的に行動してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

必要に応じて、適宜参考図書・論文・事例、現場を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個別指導、集団による研究への能動的取り組み：20%

卒業論文の内容：80%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文指導については、合宿等も活用していきたい。

【その他の重要事項】

医療機関・NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【Outline and objectives】

This course enhances the development of students skills in preparing a graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

佐野 竜平

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

関心のあるテーマについて必要なプロセスを経て卒論として完成させる。

【到達目標】

自ら取り組んできた研究内容を卒業論文として仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

個別指導が原則。専門演習と連動し、意見交換・発表の機会を設定。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	卒論テーマの明確化	卒論に向けた全体像づくり
第 2 回	調査研究方法の検討①	調査・分析方法を深める①
第 3 回	調査研究方法の検討②	調査・分析方法を深める②
第 4 回	調査研究方法の検討③	調査・分析方法を深める③
第 5 回	卒論計画の作成①	研究計画を策定①
第 6 回	卒論計画の作成②	研究計画を策定②
第 7 回	卒論計画の作成③	研究計画を策定③
第 8 回	文献・資料レビュー①	応用する文献・資料の検討①
第 9 回	文献・資料レビュー②	応用する文献・資料の検討②
第 10 回	文献・資料レビュー③	応用する文献・資料の検討③
第 11 回	卒論中間発表準備	現段階の到達点の確認
第 12 回	卒論中間発表①	研究内容の中間発表①
第 13 回	卒論中間発表②	研究内容の中間発表②
第 14 回	卒論中間発表③	研究内容のフォローアップ①
第 15 回	卒論中間発表④	研究内容のフォローアップ②
第 16 回	卒論中間発表⑤	研究内容のフォローアップ③
第 17 回	卒論概要の見直し①	研究計画の改善①
第 18 回	卒論概要の見直し②	研究計画の改善②
第 19 回	卒論執筆①	第 1 次原稿提出①
第 20 回	卒論執筆②	第 1 次原稿提出②
第 21 回	卒論執筆③	第 1 次原稿提出③
第 22 回	卒論執筆④	第 2 次原稿提出①
第 23 回	卒論執筆⑤	第 2 次原稿提出②
第 24 回	卒論執筆⑥	第 2 次原稿提出③
第 25 回	卒論最終仕上げ①	修正と発表①
第 26 回	卒論最終仕上げ②	修正と発表②
第 27 回	卒論最終仕上げ③	修正と発表③
第 28 回	卒論完成	完成版の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールド調査を進めつつ、ゼミと個別指導を連動させていく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容：80 %、研究への取り組み：20 %春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

論文執筆にかかる諸準備。

【その他の重要事項】

論文指導は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【Outline and objectives】

This course is designed to facilitate the process of students' learning and completion of his/her graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

水野 雅男

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査の後、文章を完成させる。

【到達目標】

- 地域への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
- 調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
- 学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化①	卒論の意義と問題意識を明確化
第 2 回	問題意識の明確化②	問題意識の深化
第 3 回	調査研究方法の学習①	調査方法・分析の視点①予備調査
第 4 回	調査研究方法の学習②	調査方法・分析の視点②量的調査
第 5 回	調査研究方法の学習③	調査方法・分析の視点③質的調査
第 6 回	論文計画の検討①	調査対象の選定
第 7 回	論文計画の検討②	調査対象の絞り込み
第 8 回	論文計画の検討③	テーマの抽出
第 9 回	論文計画の検討④	テーマの絞り込み
第 10 回	文献や資料の検討①	先行研究のレビュー
第 11 回	文献や資料の検討②	参考文献のレビュー
第 12 回	文献や資料の検討③	先行研究・参考文献のとりまとめ
第 13 回	調査計画の検討①	調査対象の選定
第 14 回	調査計画の検討②	調査方法の検討
第 15 回	調査計画の検討③	調査スケジュールの検討
第 16 回	中間報告①	進捗状況の確認
第 17 回	中間報告②	分析結果の確認
第 18 回	中間報告③	残された作業課題の確認
第 19 回	論文執筆①	第一次原稿の提出（第 1 章）
第 20 回	論文執筆②	第一次原稿の提出（第 2 章）
第 21 回	論文執筆③	第一次原稿の提出（第 3 章）
第 22 回	論文のまとめ作業①	第二次原稿の提出（第 1 章）
第 23 回	論文のまとめ作業②	第二次原稿の提出（第 2 章）
第 24 回	論文のまとめ作業③	第二次原稿の提出（第 3 章）
第 25 回	論文のまとめ作業④	第二次原稿の提出（終章）
第 26 回	文章最終仕上げ①	中間発表
第 27 回	文章最終仕上げ②	原稿の第一次修正
第 28 回	文章最終仕上げ③	原稿の第二次修正、校了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80 %
研究への取り組み 20 %春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや Facebook グループにより、学生への連絡や情報共有を図る。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの調査手法について助言する。

【Outline and objectives】

Clarify the problem consciousness of the paper, conduct necessary investigation, and complete the graduation thesis.

OTR400JB

卒業論文

宮城 孝

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：4 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な文献探索やデータ収集、調査等を行い、論文とし文章化し完成させる。

【到達目標】

- 地域の福祉課題への問題意識を明確化させ、その解決方法を提案できる。
- 調査研究や分析の方法を学び、自ら文章を組み立てる。
- 学術的な文章の書き方を学び、文章力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP5」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開講日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	問題意識の明確化 I	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 2 回	問題意識の明確化 II	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる。
第 3 回	調査研究方法の学習 I	調査方法、分析の視点を学ぶ。①
第 4 回	調査研究方法の学習 II	調査方法、分析の視点を学ぶ。②
第 5 回	調査研究方法の学習 III	調査方法、分析の視点を学ぶ。③
第 6 回	論文計画の検討 I	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。①
第 7 回	論文計画の検討 II	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。②
第 8 回	論文計画の検討 III	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。③
第 9 回	論文計画の検討 IV	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する。④
第 10 回	文献や資料などの検討 I	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。①
第 11 回	文献や資料などの検討 II	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。②
第 12 回	文献や資料などの検討 III	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる。③
第 13 回	調査計画の検討 I	調査方法を検討し、改善させる。①
第 14 回	調査計画の検討 II	調査方法を検討し、改善させる。②
第 15 回	調査計画の検討 III	調査方法を検討し、改善させる。③
第 16 回	中間報告 I	進捗報告書提出と議論①
第 17 回	中間報告 II	進捗報告書提出と議論②
第 18 回	中間報告 III	進捗報告書提出と議論③
第 19 回	論文執筆 I	章ごとに第 1 次原稿の提出①
第 20 回	論文執筆 II	章ごとに第 1 次原稿の提出②
第 21 回	論文執筆 III	章ごとに第 1 次原稿の提出③
第 22 回	論文完成に向けた作業 I	二次稿提出①
第 23 回	論文完成に向けた作業 II	二次稿提出②
第 24 回	論文完成に向けた作業 III	二次稿提出③
第 25 回	論文完成に向けた作業 IV	二次稿提出④
第 26 回	文章最終仕上げ I	発表と修正①
第 27 回	文章最終仕上げ II	発表と修正②
第 28 回	文章最終仕上げ III	発表と修正③

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導と専門演習と連動させる。調査研究に当たっては、フィールドワークを重視し、現場でのインタビューやアンケートを行ったり、自ら活動に参加して参与観察を行うことを推奨する。準備・復習時間は、1 回につき 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

適宜提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80%、研究への取り組み 20%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、先進事例の紹介などその経験を活かして卒論作成の助言・指導をおこなうこととする。

【Outline and objectives】

To complete a reserch paper,it does search of the neccessary artlcl and data.

It makes sentences as the reserch paper.

OTR400JC

卒業論文

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：4 年次／ 4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学的理解を基盤として、卒業論文に向けて問題意識の明確化を行い、必要な調査・分析の後、文章を完成する。

【到達目標】

臨床心理学の諸問題の中から、興味のあるテーマを各自設定し、専門演習での発表・ディスカッションを踏まえて、オリジナリティーの高い卒業論文を作成することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

原則、個別指導による。専門演習と連動させ、発表の機会を設ける。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ		内容
第 1 回	問題意識の明確化	I	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる①
第 2 回	問題意識の明確化	II	卒論の意義を学び、問題意識を明確化させる②
第 3 回	調査研究方法の学習	I	調査方法、分析の視点を学ぶ①
第 4 回	調査研究方法の学習	II	調査方法、分析の視点を学ぶ②
第 5 回	調査研究方法の学習	III	調査方法、分析の視点を学ぶ③
第 6 回	論文計画の検討	I	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する①
第 7 回	論文計画の検討	II	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する②
第 8 回	論文計画の検討	III	調査対象やテーマについて議論し、研究計画を策定する③
第 9 回	文献や資料などの検討	I	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる①
第 10 回	文献や資料などの検討	II	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる②
第 11 回	文献や資料などの検討	III	文献を読み、テーマに関する知識を蓄積させる③
第 12 回	調査計画の検討	I	調査方法を検討し、改善させる①
第 13 回	調査計画の検討	II	調査方法を検討し、改善させる②
第 14 回	調査計画の検討	III	調査方法を検討し、改善させる③
第 15 回	中間報告	I	進捗報告書提出と議論①
第 16 回	中間報告	II	進捗報告書提出と議論②
第 17 回	中間報告	III	進捗報告書提出と議論③
第 18 回	論文執筆	I	章ごとに第 1 次原稿の提出①
第 19 回	論文執筆	II	章ごとに第 1 次原稿の提出②
第 20 回	論文執筆	III	章ごとに第 1 次原稿の提出③
第 21 回	論文完成に向けての作業	I	第 2 次原稿提出①
第 22 回	論文完成に向けての作業	II	第 2 次原稿提出②
第 23 回	論文完成に向けての作業	III	第 2 次原稿提出③
第 24 回	文章最終仕上げ	I	発表と修正①
第 25 回	文章最終仕上げ	II	発表と修正②
第 26 回	文章最終仕上げ	III	発表と修正③
第 27 回	論文完成	I	提出に向けた最終的仕上げ作業
第 28 回	論文完成	II	論文提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個別指導と専門演習と連動させる。

【テキスト（教科書）】

適宜提示する。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容 80%

研究への取り組み 20%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながらよりよい方法を検討していきます。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、現代人が直面する課題や心理的問題なども紹介し、皆さんの問題提議や論文構想の助けになるように進めていきます。

【Outline and objectives】

Clarifying issues to discuss in senior thesis with a foundation in clinical psychology, conducting necessary research and analysis to complete a thesis

OTR400JC

卒業論文

末武 康弘

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：4 年次／ 4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の諸問題や援助に関する卒業論文の執筆の指導を行います。

【到達目標】

臨床心理学に関連する研究方法を学び、各自で研究テーマを設定して卒業論文を作成します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

個別の指導を行いながら、卒業論文の執筆に向けた先行研究の検討、調査の実施方法、データの分析方法、文章表現のスキルなどを共有します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	卒業論文の基準、成績評価の条件等を提示します。
2	個人テーマの選定①	卒業論文に向けた各自の研究テーマが収れんするように指導を行います。例：ゼミ生 A～E
3	個人テーマの選定②	例：ゼミ生 F～J
4	個人テーマの選定③	例：ゼミ生 J～O
5	先行研究レビューの指導①	論文執筆のための先行研究をレビューを指導します。例：ゼミ生 A～E
6	先行研究レビューの指導②	例：ゼミ生 F～J
7	先行研究レビューの指導③	例：ゼミ生 J～O
8	研究方法の指導①	各自の卒論テーマに沿った研究方法を指導します。例：ゼミ生 A～C
9	研究方法の指導②	例：ゼミ生 D～F
10	研究方法の指導③	例：ゼミ生 G～I
11	研究方法の指導④	例：ゼミ生 J～L
12	研究方法の指導⑤	例：ゼミ生 M～O
13	研究方法の指導⑥	希望者への指導
14	データ収集のための準備の指導、まとめ	データ収集のための準備について指導し、春学期のふりかえりとまとめを行います
15	秋学期のガイダンス	秋学期のゼミの進め方についてガイダンスします
16	データの収集と分析の指導①	各自のデータの収集と分析の方法について指導します。例：ゼミ生 A～C
17	データの収集と分析の指導②	例：ゼミ生 D～F
18	データの収集と分析の指導③	例：ゼミ生 G～I
19	データの収集と分析の指導④	例：ゼミ生 J～L
20	データの収集と分析の指導⑤	例：ゼミ生 M～O
21	卒論執筆指導①	卒論執筆のための最終的な指導を行います。例：ゼミ生 A、B
22	卒論執筆指導②	例：ゼミ生 C、D
23	卒論執筆指導③	例：ゼミ生 E、F
24	卒論執筆指導④	例：ゼミ生 G、H
25	卒論執筆指導⑤	例：ゼミ生 I、J
26	卒論執筆指導⑥	例：ゼミ生 K、L
27	卒論執筆指導⑦	例：ゼミ生 M、N
28	卒論執筆指導⑧、まとめ	例：ゼミ生 M、O、授業のふりかえりとまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

卒業論文の作成のために、自己学習（文献や先行研究の収集と分析）およびデータ収集・解析、論文執筆の作業が求められます。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

卒業論文の内容（100%）によって評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの結果に基づき、全員が有意義な卒業論文を完成できるようにていねいな指導をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的にわかりやすく指導します。

【Outline and objectives】

You write graduation thesis on clinical psychology.

ARSx300JB

コミュニティマネジメント・インターンシップⅡ

佐野 竜平、図司 直也、野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に実施したインターンシップを受けて、事後学習を進め、報告書を作成する。

【到達目標】

インターンシップ先での活動内容や個人研究のとりまとめを通して、地域社会におけるコミュニティマネジメントのあり方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

実習内容を整理し、補足、分析しながら個人研究を深め、その成果に基づいて報告会を実施し、報告書を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	夏季現場実習の概要報告	実習の概要報告
第 2 回	実習報告①	実習先（第 1 グループ）の発表と質疑
第 3 回	実習報告②	実習先（第 2 グループ）の発表と質疑
第 4 回	実習報告③	実習先（第 3 グループ）の発表と質疑
第 5 回	テーマ別グループ指導①	グループ討議の準備
第 6 回	テーマ別グループ指導②	グループ討議
第 7 回	テーマ別グループ指導③	グループ討議のまとめ
第 8 回	報告書作成作業①	報告書の内容構成作成
第 9 回	報告書作成作業②	報告書の内容構成の検討
第 10 回	プレゼンテーション指導	報告会の準備
第 11 回	実習報告会Ⅰ	報告会の実施（前半）
第 12 回	実習報告会Ⅱ	報告会の実施（後半）
第 13 回	報告書原稿校正作業	報告書原稿の校正作業
第 14 回	報告書最終原稿提出	報告書原稿提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

個人研究に関する知見を広げ、実習時の活動内容の取りまとめ、分析作業を日々進めておく。授業外の作業時間は、各 1 時間を標準とする。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時間中に必要に応じて配布するとともに、適宜指示する。

【参考書】

講義時間中に必要に応じて配布・紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での参加姿勢 60 %, 最終報告書 40 %

【学生の意見等からの気づき】

実習科目のためアンケートは非実施だが、実習生から寄せられた意見も踏まえながら、今年度の実習方針に反映させたい。

【その他の重要事項】

授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】

Based on the internship conducted during the summer vacation period, proceed with the after-school learning and prepare a report.

ARSx300JB

コミュニティスタディ実習 (2017 年度以前入学生)

佐野 竜平、関司 直也、野田 岳仁

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域社会の課題に対して多面的なアプローチを図っている地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等における現地実習

【到達目標】

夏休み期間中の 2 週間程度の現地実習を通して、実践的に課題を探りあて、解決に向けた道筋を描き出している現場の実践活動やそこに携わる人たちの考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

「コミュニティスタディ実習指導」において設定した地方自治体・NPO 法人・まちづくり会社・民間企業等において、夏休み期間中に 2 週間程度実施する。派遣先が首都圏以外の場合には、宿泊を伴う形で行う。実習先は、実習生の意向とマッチングしながら設定する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前	実習先の主体及び地域についての事前学習	「コミュニティスタディ実習指導」にて対応する。
実習中	現地実習	「コミュニティスタディ実習指導」の中で決定した実習先において実施する。適宜、担当教員が巡回指導を行う。
実習後①	実習先の主体及び地域、個別テーマ分析	「コミュニティスタディ実習指導」にて対応する。
実習後②	実習内容の取りまとめ	実習報告会の実施と実習報告書の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コミュニティスタディ実習指導の授業を通して、実習先の主体及び地域についての事前学習や、実習後の個別テーマ分析について指示する（予習・復習は 1 時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。実習派遣前に、各自が記入する「実習ノート」を配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

実習先での活動状況・実習ノート提出 100 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

実習科目のためアンケートは非実施だが、実習生から寄せられた意見も踏まえながら、今年度の実習方針に反映させたい。

【その他の重要事項】

授業を担当する 3 名の教員がそれぞれ地域プランニング、まちづくり活動などのフィールド体験を有しており、その実績に基づいてインターンシップの考え方を具体的に助言する。

【Outline and objectives】

Field training in local governments, NPO corporations, town planning companies, private companies, etc. that are pursuing a multifaceted approach to problems of local communities

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導 I

眞保 智子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：3 年次／1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 精神保健ソーシャルワーク実習の意義と概要について理解する。
(2) 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な知識を習得する。精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関して理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

精神保健ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、精神保健ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術について具体的に理解し、適切に実習に必要な準備を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	精神保健ソーシャルワーク実習の意義
第 2 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解	実習先に関する理解
第 3 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（見学）	見学
第 4 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（個人ワーク）	見学レポート作成
第 5 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（報告）	見学・体験・レポートに基づき議論
第 6 回	個別面談	実習の目的の確認
第 7 回	実習先の調整	個別指導による実習先の研究
第 8 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関決定	個別指導による実習先について報告
第 9 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（医療機関）	個別指導による実習先（医療機関）調整
第 10 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（地域施設）	個別指導による実習先（地域施設）の研究
第 11 回	精神保健ソーシャルワーク実習施設・機関の理解（行政機関）	個別指導による実習先（行政機関）の研究
第 12 回	実習施設・事業者・機関・団体の基本的な理解	実習報告会への参加への準備
第 13 回	実習施設・事業者・機関・団体の発展的な理解	実習報告会への参加
第 14 回	まとめ	実習報告会の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。実習配属のための面接に必ず出席すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加準備状況および発言 60 %・課題 40 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用する。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行う。

【Outline and objectives】

This class provides programs so that students can understand the knowledge and skills required of Psychiatric social worker.

SOW300JB

精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

眞保 智子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目
配当年次／単位数：4 年次／ 1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【到達目標】

精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。さらに、具体的な体験や援助活動、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導、巡回指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得するよう進める。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習および実習指導のねらいと留意点の説明
第 2 回	課題確認	実習課題の確認と事前学習の進め方
第 3 回	専門的知識と技術	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解
第 4 回	専門的知識と技術（個人ワーク）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関するレポート
第 5 回	専門的知識と技術（報告）	実習先で必要となる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解と報告
第 6 回	倫理と責務	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解
第 7 回	倫理と責務（議論）	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解と事例を通じた議論
第 8 回	プライバシー保護	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解）
第 9 回	記録の意義	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
第 10 回	記録（実践）	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解と実践
第 11 回	実習計画の作成	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成
第 12 回	実習計画の報告	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議をふまえた実習計画の作成と報告
第 13 回	実習計画の検討	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議 実習計画の修正
第 14 回	まとめ	実習に向けてまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。なお、本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加準備状況および発言 6 0 %・課題 4 0 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートは実施していない。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士としての実践をもとに事例検討を行う。

【Outline and objectives】

This class provides programs so that students can understand the knowledge and skills required of Psychiatric social worker.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅱ

石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 蘭美、中村 律子、柴崎 祐美、西田 ちゆき、高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】

ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。

ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。

ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。

②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	インテーク
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	アウトリーチ
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワーキング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. It also enhances the development of students' skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅲ

柴崎 祐美、西田 ちゆき、根岸 弓、西田 純子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する

【到達目標】

ソーシャルワークの一連の展開過程について説明できる。
ソーシャルワークの基礎的な事例分析ができる。
ソーシャルワーカーとしての倫理と基本的な態度が形成される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げる。

②個別指導並びに集団指導を通して、援助場面を想定した実技指導（ロールプレイ等）を中心に演習形態により指導する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	相談援助の展開プロセス	展開プロセスの全体的な理解
第 3 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導①	インテーク
第 4 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導②	アウトリーチ
第 5 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導③	アセスメント
第 6 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導④	プランニング
第 7 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑤	支援の実施
第 8 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑥	チームアプローチ
第 9 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑦	ネットワークング
第 10 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑧	社会資源の活用・調整・開発の理解
第 11 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑨	モニタリング
第 12 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑩	効果測定
第 13 回	事例による相談援助技術と援助プロセスの実技指導⑪	終結とアフターケア
第 14 回	まとめ	事例検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員より与えられた課題について、報告できるよう作業し準備すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやロールプレイ等の体験型の学習方法の改善・開発に努めます。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
各教員が社会福祉実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. It also enhances the development of students' skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習Ⅶ

柴崎 祐美、西田 ちゆき、杉本 豊和、西田 純子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

相談援助に係る知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】

ソーシャルワークのスキルの内容について事例に応じて適切に説明できる。
ソーシャルワーカーに求められる倫理と基本的な態度形成を強める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、テーマ別の事例検討を集団指導により行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	困難・多問題事例検討①	困難・多問題事例への対応の理解①生活保護
第 3 回	困難・多問題事例検討②	困難・多問題事例への対応の理解②ホームレス
第 4 回	困難・多問題事例検討③	困難・多問題事例への対応の理解③高齢者虐待
第 5 回	困難・多問題事例検討④	困難・多問題事例への対応の理解④児童虐待
第 6 回	困難・多問題事例検討⑤	困難・多問題事例への対応の理解⑤家庭内暴力（DV）
第 7 回	困難・多問題事例検討⑥	困難・多問題事例への対応の理解⑥社会的排除
第 8 回	困難・多問題事例検討⑦	困難・多問題事例への対応の理解⑦低所得者
第 9 回	困難・多問題事例検討⑧	困難・多問題事例への対応の理解⑧権利擁護活動
第 10 回	地域福祉の基盤整備と開発①	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第 11 回	地域福祉の基盤整備と開発②	地域福祉の計画
第 12 回	地域福祉の基盤整備と開発③	ネットワークング
第 13 回	地域福祉の基盤整備と開発④	社会資源の活用・調整・開発
第 14 回	地域福祉の基盤整備と開発⑤	サービスの評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験と事例検討の理論的統合をはかる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更場合があります。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。

それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能です。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. It also enhances the development of students' skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク演習 V

石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 蘭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められるソーシャルワーク実践に係る知識と技術について、ソーシャルワーク実習における体験を踏まえ、より実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】

ソーシャルワークのスキルについて振り返り、実習体験を整理できる。
ソーシャルワーカーとしての基本的な態度を高める。
自己の発展的な課題について認識できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、ソーシャルワーク実習における各自の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導により実技指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	演習のねらいと進め方
第 2 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化①	印象的な場面についての検討
第 3 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化②	利用者の生活および福祉課題（利用者理解）
第 4 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化③	コミュニケーション技法
第 5 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化④	インテークとアセスメント
第 6 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑤	支援計画の作成
第 7 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑥	モニタリングと評価の留意点
第 8 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑦	ソーシャルワークの価値
第 9 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑧	ソーシャルワークの知識
第 10 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑨	ソーシャルワークの技術
第 11 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑩	福祉現場の組織理解
第 12 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑪	各自の個別的経験の一般化と言語化
第 13 回	実習の振り返りと個別的な体験の一般化⑫	相談援助の概念化と理論化
第 14 回	実習・演習の総括	実習・演習の意義の理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員により与えられた課題について、報告できるように作業し準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

ソーシャルワーク実習の体験を理論化できる学習方法を工夫します。

【その他の重要事項】

なお、授業計画は担当教員により変更する場合がある。
欠席・遅刻の詳細については、『実習の手引き』を確認すること。
それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices. It also enhances the development of students' skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW200JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 蘭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：2 年次／1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①ソーシャルワーク実習の意義について理解する。
- ②ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。
- ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

【到達目標】

ソーシャルワーク実習の意義と実施までのプロセスを説明できる。

自らの適性や関心などを判断して、説明できる。

実習配属先に関する基礎的な内容について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ソーシャルワーク実習に係る個別指導、集団指導並びに見学・フィールドワーク等を通して、実習に必要な知識と技術を具体的に理解し、実習にむけた適切な準備を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習と実習指導における個別指導及び集団指導の意義
第 2 回	実習先の検討・決定①	個別指導による希望実習先・内容の検討
第 3 回	実習先の検討・決定②	個別指導による実習先との調整結果の検討
第 4 回	実習先の検討・決定③	実習先の決定と課題レポートについて
第 5 回	実習分野の基本的理解①	実習地域の地域社会に関する歴史、産業、人口動態、地域特性
第 6 回	実習分野の基本的理解②	施設・事業者・機関・団体等に関する基本的な理解
第 7 回	実習分野の基本的理解③	社会保障体系とサービス・事業内容及び相談援助に係る知識と技術
第 8 回	実習分野の基本的理解④	障害・疾病の特性と生活問題の理解（利用者理解）
第 9 回	実習分野の基本的理解⑤	地域特性と利用者の生活問題、地域の福祉的課題
第 10 回	実習先の関連業務に関する基本的理解	実習先の介護や保育等の関連業務に関する基本的理解
第 11 回	現場体験学習・見学実習①	実習先と同じ領域での体験学習（介護・各種サービスの理解や利用体験等含む）
第 12 回	現場体験学習・見学実習②	現場体験学習・見学実習のレポート作成
第 13 回	実習の評価は全体総括会	実習報告会への参加・レポート作成
第 14 回	レポートの作成	実習先に関する学習と事前体験の成果・課題を整理し、レポートを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールド体験Ⅱ、実習報告会に参加してのレポートを作成し、決められた期日までに提出すること。各教員の指示によって準備を行い、実習配属のための面接に必ず出席すること。実習先決定後は、実習領域に関する基本的学習・ボランティアを行い、レポートを作成、決められた期日に提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

実習に必要な資料等を担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

面接の状況 50 %、課題提出 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

各教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先の具体的な情報提供が可能である。

【Outline and objectives】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 蘭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ソーシャルワーク実習」の事前における学習を通して、ソーシャルワーク実習の意義を理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】

自己にとってのソーシャルワーク実習の意義について明確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習では、ソーシャルワーク実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、実習計画作成の方法、および相談援助に必要な倫理、知識、技術について具体的かつ实际的に理解し、実習に必要な準備を行う。実習中は巡回指導により実習指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習の全体の流れ、留意事項の理解
第 2 回	実習計画の作成方法	実習課題の定め方、事前学習の進め方の理解
第 3 回	実習先で行われる関連業務	介護等の関連業務・サービスの基本的理解
第 4 回	分野別講義①	実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術
第 5 回	分野別講義②	実習先で必要とされる利用者に関する理解
第 6 回	実習への準備	事前訪問等の留意事項
第 7 回	実習計画の作成①	目標、達成課題の明確化
第 8 回	実習計画の作成②	実習内容の理解と明確化
第 9 回	実習計画の作成③	実習計画書の作成と指導（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 10 回	実習計画の作成④	実習計画書の完成（実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえる）
第 11 回	実習記録について	実習ノートの記録内容及び記録方法
第 12 回	指導の受け方	実習指導者のスーパービジョンについて
第 13 回	実習中の倫理	倫理・個人のプライバシーの保護（個人情報保護法の理解を含む）、守秘義務について
第 14 回	実習に行くにあたっての最終注意事項	最終的な留意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、期日までにレポート等にまとめ報告を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加態度 60 %、課題提出 40 %。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習指導」は、「ソーシャルワーク実習」の履修者のみ履修できる（単独履修不可）。欠席・遅刻の詳細については『実習の手引き』を確認すること。それぞれの教員が社会福祉の実践経験を有しており、実習先のより具体的な情報を提供することが可能である。

【Outline and objectives】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker. It also enhances the development of students'skill in social work necessary skills and knowledge.

SOW300JB

ソーシャルワーク実習

石井 享子、伊藤 正子、岩崎 晋也、岩田 美香、佐藤 蘭美、中村 律子、西田 ちゆき、高良 麻子

科目分類・科目群：専門教育科目 演習・実習科目

配当年次／単位数：3 年次／ 4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①ソーシャルワーク実習を通して、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得すること、並びに社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目標とする。

②関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。

【到達目標】

ソーシャルワークの実践現場の機能やソーシャルワーカーの役割について説明できる。

基礎的なソーシャルワークのスキルを実践することができる。

ソーシャルワーカーとしての自らの適性について振り返ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

以下に掲げる事項について、学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習状況について把握するとともに実習中の個別指導を巡回指導等を通して行う。

①利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成

②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成

③利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成

④利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価

⑤多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践

⑥社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解

⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実践

⑧当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
概ね 7 ～ 10 月	現場実習	各自、180 時間以上、大学が指定する学校・機関・組織にて実習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習の記録をまとめ、次の日の目標と達成課題を明らかにすること。また、中間の時点で中間のまとめ、終了後速やかに最終のまとめを整理し、指導を受けること。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員により適宜指示する。

【参考書】

担当教員により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

指定施設での実習態度や実習記録および実習指導者の評価 60 %、報告書 40 %。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、前年度までに先行履修科目の単位取得をし、配属の仮決定を受けている事が必要です。また、「ソーシャルワーク実習指導」の（欠席や遅刻などの）授業態度や、実習期間中の実習態度によっては、指定施設と相談の上、実習中止とすることがあります。実習指導者は社会福祉士として多くの経験を積んでいるため、現状分析や課題分析などにおいて専門的知識を提供してくれます。

【Outline and objectives】

This course will prepare the students to work effectively in the practicum education as a social worker.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度 of アプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を中心として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

【追記：重要】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。そのため、学習支援システムでの課題提示・提出が授業の進め方の軸となります。授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Word 2013 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心とした実技試験を行い、到達度を判定します。

【追記：重要】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準が変更になる可能性があります。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にしてお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、PowerPoint のプレゼンテーションを作れる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー（サイエンス社）

Microsoft Excel 2013 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心に話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度 of アプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を中心として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

【追記：重要】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。そのため、学習支援システムでの課題提示・提出が授業の進め方の軸となります。授業計画の変更がある場合は、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 28 日とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Word 2013 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心とした実技試験を行い、到達度を判定します。

【追記：重要】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準が変更になる可能性があります。具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にしてお話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシーを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、PowerPoint のプレゼンテーションを作れる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシー（サイエンス社）

Microsoft Excel 2013 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心に話しします。

【Outline and objectives】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は新型コロナウイルスの影響のため、当面の間、オンライン講義を行います。本科目の授業開始日は4月23日（木）です。当日までに、学習支援システム Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal> にアクセスし、授業登録を行ってください。授業ページにオンライン講義を受講するための詳細が明記されています。なお、本登録は仮登録であり、大学への履修届けは別途必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を100点として、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの3つのみである。これら3つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全体の3分の2を講義に充て、残り3分の1を演習に充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 ー 代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し。
3	配列 ー 表操作	配列。
4	双六ゲーム ー 内部表現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム ー GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム ー 基本設計	問題の定義【仕様】
7	オセロゲーム ー 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム ー 勝敗決定アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本年度は新型コロナウイルスの影響のため、当面の間、オンライン講義を行います。本科目の授業開始日は4月23日（木）です。当日までに、学習支援システム Hoppi <https://hoppii.hosei.ac.jp/portal> にアクセスし、授業登録を行ってください。授業ページにオンライン講義を受講するための詳細が明記されています。なお、本登録は仮登録であり、大学への履修届けは別途必要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を1つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

法文営 1～2 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング構造の基本を学び、自力でプログラミングが出来るまでを体験する。

【到達目標】

プログラムの基本構造は代入、条件判定、繰り返しの3つのみである。これら3つの操作をデータ構造（定数、配列）と組み合わせることでプログラミングの基本を理解する。最終的には、コンピュータと対戦するオセロゲーム作りを体験する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

全体の3分の2を講義に充て、残り3分の1を演習に充てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	変数の概念	変数の概念
2	プログラムの基本構造 ー 代入、条件分岐、繰り返し	代入、条件分岐、繰り返し。
3	配列 ー 表操作	配列。
4	双六ゲーム ー 内部表現	内部表現と表面 GUI と分離。
5	双六ゲーム ー GUI 設計	GUI 設計。
6	オセロゲーム ー 基本設計	問題の定義【仕様】
7	オセロゲーム ー 配置問題	アルゴリズム。
8	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (1)	アルゴリズム。
9	オセロゲーム ー 置き換えアルゴリズム (2)	アルゴリズム。
10	オセロゲーム ー 勝敗決定アルゴリズム	アルゴリズム。
11	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 1	対戦アルゴリズム。
12	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 2	対戦アルゴリズム。
13	オセロゲーム ー コンピュータと対戦 アプローチ 3	対戦アルゴリズム。
14	プログラム評価	プログラム評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題を通して、プログラム構造とプログラミング技術を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは授業支援のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：40%

最終課題の評価：60%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline and objectives】

You will learn the basic structure of programs and write programs by yourself.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【重要】4/24 第1回の授業（オリエンテーション）開催いたしました。すでに授業資料を Hoppii にアップロードしていますので、履修予定者は仮登録の上、授業資料を確認ください。2020 春学期、オンライン授業が実施されることに伴い、授業計画が一部変更されています。授業計画は3月末のものになっていますが、新しい授業内容はオリエンテーション（資料あり）で説明します。第2回は5/8を予定しています。

●5/15以降、ZOOM等を活用し参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業主旨、進め方、成績評価方法、求められる参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明します。
第2回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても議論します。

第3回 学生と社会人

社会人には何が求められているのだろう。学生とは何が異なるのだろう。それぞれの役割を比較しながら、就職活動やインターンシップで求められる基本的な態度やマナー等も理解していきます。

第4回 労働の連鎖

私たちの社会は、労働の連鎖でできあがっています。連鎖が一つでも途絶えると、通常の生活ができなくなります。身近な商品が皆さんの手元に届くまでにどれだけの労働が関わっているかを例に考えていきます。

第5回 ストレスマネジメント

適度なストレスは、何かを頑張るための良い刺激となり、自己成長へ繋がります。一方、心が苦しくなったり、嫌な気分になったり、やる気をなくしたりする悪いストレスもあります。ストレスを理解し、対処する方法を学びます。

第6回 アルバイト経験の意味

アルバイトとして働く場合も、労働法によって保護されています。労働基準法やパートタイム労働法など、働く上での基本的な権利と義務について学んでいきます。アルバイトは就業経験としてどのような意味があるのかも考えていきます。

第7回 やる気とモチベーション

これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源になるものを見つけていきます。

第8回 インターンシップ

インターンシップとは何か。何をするのか。どういう効果があるのか。どのように参加するのがよいのだろうかなど、窓口であるキャリアセンター職員をゲストに呼び、過去の先輩の事例や参加の注意点などを聞いていきます。

第9回 働き方と多様性

現代の日本では、外国人、高齢者、障害者、性的マイノリティなど様々な人たちが、様々な雇用形態で働いています。雇用形態の変化、新しい働き方のあり方やその意義について考えます。

第10回 グローバル人材とは

グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。

第11回 働くことの意味

働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論し発表します。

第12回 企業の採用活動

就職活動を採用される立場からだけでなく、採用する側の立場で考えてみましょう。企業社会で求められる人材とはどういう人だろうかという視点を持ち、自分がどんな人間なのかを人に伝えるためのワークを実施していきます。

- 第13回 世の中の動きと求められる人材 これから世の中はどのように変化していくのか、変化に対応しながら、皆さんはどのような生活を営み、キャリアを歩んでいくのでしょうか。近未来予想図を描いてみます。
- 第14回 学生生活の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に紙に書き出し、「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業の中で適宜指示をします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードをしたりプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

授業の回数が変更になったことに伴い、評価の比重を変更する予定です。授業内でアナウンスをしますのでご確認ください（更新2020.4.26）毎回のリアクションペーパーが70%、期末試験での成績が30%という構成。リアクションペーパーは、記述内容、論理構成等を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、学生と教員、学生同士、学生と先輩社会人の相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具は必ず持ってくる。それ以外に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。また企業や大学では、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にものってきました。授業では、企業・組織の実態などを共有し、これからの大学生活を送る上で、また社会に出ていく準備期間としてキャリアデザインの必要性を伝えていきます。

■皆様の参加をお待ちしています■ 4月23日更新

オリエンテーション（資料）にて、今後の授業の進め方の詳細・授業内容の変更など詳細を説明していますので確認ください。

【Outline and objectives】

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

藤澤 広美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

単位数：2単位

法文営国環キG1年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムを用いて、その都度提示する。また、本授業開始日時は、4月24日（金）10:40～12:20とする。具体的なオンライン授業の方法などについて、初回授業日に学習支援システムを用いて提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要、進め方、成績評価方法等を説明します。また、キャリアとは何か、大学生にとってのキャリアとは何か、導入講義を行います。
2	働くことの意味	なぜキャリアデザインが必要なのか、あなたにとって働くことの意味や意義、やりがいとは何か、ワークを通して検討します。
3	労働の連鎖	社会は労働（職業や役割等）の連鎖でできています。社会の中で自分自身がどのような役割を担っているのか、ワークを通して検討します。

4	インターンシップ	インターンシップとは何か（意義や内容、効果）、どのように参加するとよいのか。窓口であるキャリアセンター職員をゲストに呼び、過去の先輩たちの事例や参加の注意点などについて学びます。
5	これまでの自分を振り返る	キャリアデザインの枠組みを学び、これまでの自分を振り返ります。自身の人生観や価値観、仕事観に影響を与えた出会いをまとめるワークを行います。
6	今の自分を分析する	自己理解の基本姿勢について学びます。また、あなた自身が見ている「今の自分」について分析したうえで自己紹介ワークを行います。
7	多様なキャリアの捉え方	これまでの授業で紹介したキャリアに関する理論を整理します。また、理論を用いて長期的なキャリアを展望するワークを行います。
8	偶然を活かすキャリア	偶然を活かすキャリア理論について学びます。参考動画の視聴を通して偶然の活かし方を検討します。また、長期的な人生を歩むうえで役立つであろう「偶然を味方にする」ワークを行います。
9	人生の転機と変幻自在なキャリア	人生の転機とは何か、転機を活かすキャリア理論と変幻自在なキャリアについて学び、自身が長期的な人生を歩む上で必要となる考え方を探ります。
10	ワーク・ライフ・バランス	ワーク・ライフ・バランスとは何か、結婚、出産や育児といったライフ・イベントに関する事例をもとにグループで検討します。
11	働き方と多様性	現代の日本社会における雇用形態を学び、性別・年齢・国籍などの属性的条件、価値観やライフスタイルなどの違いによる働き方を考えます。
12	企業の採用活動と求められる能力	企業の採用活動、求められる能力について学びます。自身の行動を振り返ることで能力を整理し、学生生活の過ごし方のヒントを探ります。
13	大学での学び	大学での学びとは何か、春学期の授業を振り返ります。本授業と他の授業の接点や自身の生活における学びの応用など、ワークを通して検討します。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどのように過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるために何が必要か、学生生活の目標を設定します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
各回の授業では当該テーマに関して生活の中で接点を探したり、それをきっかけに学びを深めたりすることを期待した発展ワークを出題します。
日常生活でも学びを応用する機会を増やしていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回各講義に関連した資料を配布します。
資料は「授業支援システム」上にPDFファイルにて配布します。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りです。
リアクションペーパー（毎回）：70％、レポート：30％

【学生の意見等からの気づき】

昨年度ゲストスピーカー登壇について好評を得たため、今年度も予定しています。
なお、授業内での意見によって運営方法等は変更することがあります。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料（レジュメ、ワークシート等）や課題提出等で授業支援システムを利用します。各自印刷のうえ、授業に持参してください。

【その他の重要事項】

新卒で人材紹介会社にて人事コンサルティング営業に従事したのち、メーカー販社兼商社にて法人営業に就き、ベンチャー企業と創業100年を超える老舗企業を経験しました。また、3つの大学でキャリアカウンセラーとして、累計2,000件を超えるキャリアカウンセリングの経験があります。
企業経験の観点からはリアルに、キャリアカウンセリングの観点からは皆さんと近い目線でキャリアデザインについて一緒に考えていきたいと思っています。

【Outline and objectives】

This course deals with the how to spend at university and working in society.

By thinking them together, I will support you so that you can spend your student life meaningfully.

In the classroom, we provide basic knowledge about the way of thinking, society, and working that are necessary for walking a longer-term life.

It also enhances the development of students' attitude to act autonomously.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：岩田和子、講師（ゲストスピーカー）：山本洋一郎氏他

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

法文営国環キ G 1 年～

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義は株式会社イオン銀行の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。授業の開始日は4月24日（金）からとし、全12回の講義とします。本講義は、複数回の動画配信（教材配布あり）と、教材のみ配布の方法にて実施します。成績評価の方法と基準については、変更ありません。なお、今後授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

オムニバス形式ですが、授業としての統一性を保てるよう、責任者の教員が同席します。そのコーディネートのもと、各回のテーマに最適の講師（ゲストスピーカー）が、講義を担当します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	・金融経済教育の重要性 ・人生とお金	・生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ。 ・人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性などを学ぶ。
2	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
3	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
4	ライフプランを描く①	ライフプランの重要性、人生の3大費用などを学ぶ
5	ライフプランを描く②	キャッシュフローの分析演習など
6	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
7	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点

8	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ
9	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ
10	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用法などを学ぶ
11	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用法などを学ぶ
12	・トラブルに強くなる ・全体総括	・学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ。 ・全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
配布資料およびweb上の参考資料を事後に読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7割以上）（20%）、中間小テスト（2回）（20%）および最終レポート（60%）の点数により学習到達度の観点から単位を付与する。

※リアクションペーパーは、学習支援システムのテスト/アンケート機能等を活用して実施いたします。

【学生の意見等からの気づき】

2020年度より開講のため、なし。

【Outline and objectives】

In today's society, it is unavoidable to be involved in finance, so it is important to acquire financial literacy (knowledge and judgment about money) as a living skill.

The goals of learning about financial literacy are as follows:

- ・ To understand the important things about life.
- ・ To acquire practical skills through gathering the information you need and getting actionable information to make comparisons, tests, and decisions.

This lecture is donated by AEON Bank, Ltd.

LAW100LA

法学Ⅰ

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法の意義や種類といった法学全体に関わる一般的・包括的な知識と、裁判の種類や裁判手続といった裁判制度に関する知識を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかを理解する。
- ③裁判制度、裁判手続、裁判所の組織について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じて配布するプリントに基づいて、講義形式で授業を行うが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は5月4日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。なお、本授業では、秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法の分類	法の種類と体系
第 4 回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第 5 回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第 6 回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第 7 回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第 8 回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第 9 回	法の歴史	大陸法と英米法
第 10 回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第 11 回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第 12 回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第 13 回	法の根拠	自然法の意義、法実証主義による自然法批判
第 14 回	法の効力	法の効力の種類、法適用の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解消されたかどうかをチェックして、まだ解消されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the judicial system.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

営 1 年 A～D / 法文営国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②民法、消費者法、経済法、労働法、刑法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ③法的なものの考え方（いわゆる「リーガルマインド」）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業支援システムを通じて配布するプリントに基づいて、講義形式で授業を行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第 3 回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第 4 回	民法②：契約法	契約法の基礎的知識について学ぶ。
第 5 回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎的知識について学ぶ。
第 6 回	民法④：物権法	物権法の基礎的知識について学ぶ。
第 7 回	民法⑤：家族法・相続法	家族法・相続法の基礎的知識について学ぶ。
第 8 回	消費者法	消費者法の基礎的知識について学ぶ。
第 9 回	経済法	経済法の基礎的知識について学ぶ。
第 10 回	労働法	労働法の基礎的知識について学ぶ。
第 11 回	憲法	憲法の基礎的知識について学ぶ。
第 12 回	刑法	刑法の基礎的知識について学ぶ。
第 13 回	国際法	国際法の基礎知識について学ぶ。
第 14 回	現代法の課題	授業全体のまとめと現代法の今後の課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博（編）『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

【Outline and objectives】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と内容を概観する。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
- ③日本国憲法の構造について理解する。
- ④日本国憲法が保障する人権の内容と限界について理解する。
- ⑤日本国憲法が定める平和主義の意義と内容について理解する。
- ⑥日本国憲法が定める統治機構の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って、授業を進めていくが、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムで適宜提示する。本授業の開始日は5月7日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システム上の本授業ページ内の「お知らせ」で提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点等を説明する
第2回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第3回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第4回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第5回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第6回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第7回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第8回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第9回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の種類とそれぞれの特質について学ぶ。
第10回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ。
第11回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第12回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法9条の解釈論について学ぶ。

第13回 統治機構①：日本国憲法が定める権力分立 日本国憲法上の統治機構について学ぶ。

第14回 統治機構②：行政国家・政党国家 権力分立の現代的課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【Outline and objectives】

In this class, you first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, you learn about the history and contents of the Constitution of Japan.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

法文営国環キ 1～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台となっている立憲主義の内容、および立憲主義が成立した歴史的沿革について学んだ上で、日本国憲法の成立経緯と内容を概観する。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義の意義とその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の成立経緯について理解する。
- ③日本国憲法の構造について理解する。
- ④日本国憲法が保障する人権の内容と限界について理解する。
- ⑤日本国憲法が定める平和主義の意義と内容について理解する。
- ⑥日本国憲法が定める統治機構の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業システムを通じて配布するプリントに沿って、講義形式で授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修の意義及び受講上の注意点等を説明する
第 2 回	社会規範としての法の意義	法の意義、種類、体系などについて学ぶ。
第 3 回	法体系における憲法の意義	立憲主義の意義について学ぶ。
第 4 回	憲法の構造	憲法の目的としての人権保障と、手段としての統治機構について学ぶ。
第 5 回	憲法の歴史①：憲法の成立	近代憲法の成立経緯について学ぶ。
第 6 回	憲法の歴史②：憲法の発展	近代憲法から現代憲法への移行について学ぶ。
第 7 回	日本国憲法の成立経緯①：明治憲法	明治憲法の成立経緯と特色について学ぶ。
第 8 回	日本国憲法の成立経緯②：現行憲法の制定過程	日本国憲法の成立経緯とそこに含まれる問題点について学ぶ。
第 9 回	人権保障①：人権の種類と特質	人権の種類とそれぞれの特質について学ぶ。
第 10 回	人権保障②：人権の制限	人権の制限原理としての公共の福祉について学ぶ
第 11 回	平和主義①：平和主義の内容	憲法が定める平和主義の内容について学ぶ。
第 12 回	平和主義②：平和主義をめぐる問題	憲法 9 条の解釈論について学ぶ。
第 13 回	統治機構①：日本国憲法が定める権力分立	日本国憲法上の統治機構について学ぶ。
第 14 回	統治機構②：行政国家・政党国家	権力分立の現代的課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に先立って、下記の参考書および配布プリントをよく読んで、疑問点や課題を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問点や課題が解明できたかを確認する。また、参考書を使って、自分なりに学習を深める。なお、この授業の予習・復習に要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはせず、授業支援システムを通じて配布するプリントを用いて授業を進める。

【参考書】

芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第 7 版〕』（岩波書店、2019 年）
安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）

その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記到達目標が達成できたか否かを期末試験によって判定し、成績を評価する（100 %）。期末試験では基本的な問題を 60 点分、応用的な問題を 40 点分出題し、60 点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

初学者が多いことに配慮して、基本的な知識に関する説明を丹念に行うように心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、授業では現実政治における憲法の意義や役割についても言及する。

【Outline and objectives】

In this class, you first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, you learn about the history and contents of the Constitution of Japan.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

国環キ 1 年／法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I はミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学 II はマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

4/25 開始。Zoom によるリアルタイム講義形式。毎回、授業開始前の 10:30-40 の間に接続を完了してください。なお、ICT 環境が整わない学生に配慮し、毎回の課題（練習問題）提出と期末試験のみでも単位取得ができるようにします。課題は毎回、授業終了後に支援システムに掲載しますので、次の授業までに提出してください。また、今後の状況によっては、期末試験をレポート提出に代える可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎概念、需要と供給	経済学とは、家計の需要、企業の供給
第 2 回	市場均衡	市場とは、需要曲線、供給曲線、市場均衡
第 3 回	市場均衡の変化	需要曲線のシフト、供給曲線のシフト、市場均衡の変化
第 4 回	価格弾力性	需要の価格弾力性、供給の価格弾力性、価格弾力性と均衡の変化
第 5 回	価格規制	上限価格規制、下限価格規制、割当て
第 6 回	租税	課税による均衡の変化、価格弾力性と税の帰着
第 7 回	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場均衡の効率性
第 8 回	市場の失敗	独占、外部性
第 9 回	分業の利益	トレードオフと機会費用、比較優位と交易の利益、絶対優位と比較優位
第 10 回	貿易政策	内外価格差と貿易、保護貿易
第 11 回	需要と供給の方程式	直線の方程式、関数記号による記述
第 12 回	ゲーム理論①	ゲームとは、ナッシュ均衡、有名なゲーム
第 13 回	ゲーム理論②	逐次手番ゲーム、コミットメント

第 14 回 まとめ

難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、授業の流れをつかんでおく。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第 2 版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）＋期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からさらに内容を絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を授業支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

西崎 文平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

国環キ 1 年／法文国環キ 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰはミクロ経済学の入門であり、個人や企業の意思決定、市場における需要と供給の調整などを学びます。経済学Ⅱはマクロ経済学の入門であり、一国全体で生産される財の総量（GDP）や失業、インフレといった概念とその決まり方などを学びます。学生は、これらの授業を通じて、世の中を動かしている重要なメカニズムを理解し、人生において適切な意思決定をするための有力なツールを習得することができます。

【到達目標】

①基礎的な経済理論を参照して、さまざまな経済現象の背後にあるメカニズムを自分なりに推測できる。②経済政策に関するさまざまな議論を自分なりに評価できる。③経済指標の解説などのニュースに興味を感じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回、理論モデルやその応用について説明したうえで、例題の解き方を解説します。また、最後の 5-10 分程度を練習問題にあてます。第 2 回以降は、冒頭で前回出題した練習問題の解答を説明します。図と高校レベルの数式を使った説明を基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学の考え方	マクロ経済学とは、マクロ経済学と政策
第 2 回	GDP	国民経済計算、三面等価、経済成長率
第 3 回	民間需要	個人消費、設備投資
第 4 回	GDP 決定の簡単なモデル	財市場の均衡、乗数
第 5 回	財政政策	財政政策とは、財政政策の効果
第 6 回	金融①	利子率、金融政策
第 7 回	金融②	株式市場、銀行、金融危機
第 8 回	物価	物価とは、物価の統計、名目利子率と実質利子率
第 9 回	為替レート	為替レートの見方、購買力平価、金利平価
第 10 回	外需と国際収支	輸出入の決定要因、経常収支と財・サービス収支
第 11 回	貨幣と物価	貨幣とは、貨幣数量方程式
第 12 回	総需要と雇用	総需要のまとめ、失業率の変動
第 13 回	経済成長	GDP と生活水準、経済成長の源泉
第 14 回	まとめ	難しかった点の復習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布資料に目を通し、授業の流れをつかんでおく。また、重要な用語を覚えるとともに、例題を自分で解いてみるなどの復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

「マンキュー 入門経済学」（第 2 版）、東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題（50%）＋期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からさらに内容を絞り込んで、重要な点は時間をかけて説明するようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料を授業支援システムに掲載するので、事前にプリントして授業に持参してください。

【その他の重要事項】

内閣府において経済財政白書の作成等に携わった経験を活かし、現実の経済動向や政策運営を踏まえたケーススタディを紹介します。

【Outline and objectives】

Economics I will provide an introduction to microeconomics, which deals with the analysis of choices made by individual households and firms and of the market forces of demand and supply. Economics II, an introductory macroeconomics course, will discuss the determination of aggregate output (GDP), unemployment and inflation. The goal of the courses is to help students equipped with powerful tools to understand important mechanisms of how the world works and to make appropriate decisions in their life.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 営 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいのかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。状況を見て、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパーの提出をお願いする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マクロ経済を観察する 1	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	マクロ経済を観察する 2	GDP の基本を学びます
3	マクロ経済を観察する 3	実質と名目と物価の関係を学びます
4	マクロ経済を観察する 4	物価統計と失業統計の基本的な特徴を理解します
5	マクロ経済を支える金融市場 1	金融と实体经济の関係を考察します
6	マクロ経済を支える金融市場 2	金利と金融市場の基礎を学びます
7	マネーの機能と中央銀行の役割 1	マネーとは何かを学びます

8	マネーの機能と中央銀行の役割 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マネーの機能と中央銀行の役割 3	金融システムの安定化の意義を理解します
10	財政の仕組みと機能 1	財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能 2	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能 3	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	GDP と金利の決まり方 1	消費と投資の決定メカニズム、政府と中央銀行の経済政策を学びます
14	GDP と金利の決まり方 2	IS-LM モデルを構築します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣、2020 年 03 月下旬予定の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

営 1 年 A～J / 営 2～4 年

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。状況を見て、課題解決型学習（PBL）、リアクションペーパーの提出をお願いする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	総需要・総供給と物価の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	総需要・総供給と物価の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	総需要・総供給と物価の決まり方 3	物価と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給と物価の決まり方 4	経済政策の役割を考察します
5	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
6	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
7	為替レートの決まり方 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
8	為替レートの決まり方 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます

9	為替レートの決まり方 3	開放経済下での経済政策の効果を学びます
10	経済成長 1	経済成長の意味を理解します
11	経済成長 2	経済成長モデルを使った分析を行います
12	景気変動 1	景気変動の要因を理解します
13	景気変動 2	景気変動モデルを使った分析を行います
14	資産価格の決まり方	資産バブルの意味を学びます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけます。

【Outline and objectives】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係系 A 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア・太平洋島嶼との関係、辺野古の新基地建設に反対する民意のあり方などについて学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の 4 人に 1 人が犠牲になる日本で最も過酷な被害を受け、1972 年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。戦前は南方の島々などに、多くの移民を送り出した歴史もあります。沖縄について学ぶことは、アジア・太平洋島嶼と日本の関係を理解するためにも役立つでしょう。

【到達目標】

・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、そこに至るまでの歴史的経緯を知る。
・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
・琉球王国時代のアジア各国との関係や多くの移民を送り出した戦前の暮らし、戦時中の被害の実態などを知る。
・沖縄の現状を通して、米国だけでなく韓国、北朝鮮、中国などアジアの国々、太平洋島嶼と日本との関係を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【4月16日追記】

コロナ対応に鑑み、当面の授業は、オンライン会議システムの「Zoom」を使ったミーティングで実施します。

本来の授業時間である火曜日 4 時限の時間帯に合わせてミーティングを設定し、学習支援システムのお知らせで招待状を表示しますので、学生は各自で対応願います。

授業開始は 4 月 28 日（火）としますが、練習も兼ねて 4 月 21 日（火）にもミーティングを設定します。できるだけ参加するように心掛けてください。21 日はシステムへの習熟が目的ですので、出欠を含めて成績評価とは無関係です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	沖縄の置かれた現状、日本政府との関係、独自の文化、歴史的背景などの概説【授業全体の流れを説明】
2	沖縄の現状①基地	米軍基地の現状、なぜ辺野古への基地建設反対の民意が生まれるのか
3	沖縄の現状②経済	沖縄経済は米軍基地に依存しているのか。観光業の実態は
4	沖縄の現状③政治	基地反対の強い民意が生まれ、自民党が苦戦する政治情勢はいかにつくられたのか
5	グループディスカッションなど【振り返り】	沖縄の現状への理解度を確認する

6	沖縄の歴史①沖縄戦	県民の 4 人に 1 人が命を落とした戦争被害の実態、本土決戦の捨て石とされた背景
7	沖縄の歴史②琉球王国から沖縄県へ	琉球王国時代から、多くの移民を送り出すようになった戦前まで
8	沖縄の歴史③戦後の復興と米施政下の時代	過酷な戦争被害から沖縄はどのように復興したのか。米軍施政下の人々の暮らしは
9	沖縄の歴史④日本復帰への思い	米軍施政下から起きた日本への復帰運動
10	沖縄の歴史⑤復帰後の沖縄	沖縄県民が望んだはずの復帰への期待と失望
11	沖縄の歴史⑥復帰から現代まで	沖縄の基地返還運動と観光を柱とした経済発展
12	沖縄の歴史⑦まとめ	沖縄はどのような道を歩んで現在の状況に至ったか
13	グループディスカッションなど【振り返り】	沖縄の現状や歴史の理解度を確認する
14	沖縄の現状と歴史【総括】	授業内容全体を踏まえた上で、今年前半の沖縄関係のニュースを取り上げて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めませんが、受講生の関心に応じて授業時に紹介することもある。

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行 <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016 年
・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、2017 年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（40%）

期末レポート（60%）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当であるため情報なし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約 30 年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、沖縄の現状を通じて見えてくる日本の政治や外交のあり方を提示したいと考えています。

2014 年から 16 年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、そのころからメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んできました。最近では、日本と韓国のジャーナリストを目指す学生が互いの国を訪問して交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に 2 回）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携してジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。大学での授業は初めてですが上記の経験を生かしつつ、記者ならではの視点を皆さんにお伝えしたいと思います。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。

②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホや PC の使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係系 B」の前提授業となるため、B を受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline and objectives】

Through the current status and history of Okinawa, which still has many US military bases, we will learn about Japan's security policy, its relations with the Asian and Pacific islands, and the willingness to oppose the construction of a new base in Henoko. Okinawa suffered the worst damage in Japan in the Pacific War, killing one in four residents, and was under US administration until it returned to Japan in 1972. Before the war, there was a history of sending many immigrants to the southern islands. Learning about Okinawa will help you understand the relationship between Asia and the Pacific Islands and Japan.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017 年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A」で学んだ沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策やアジア各国・太平洋島嶼との関係、ジャーナリズムのあり方などについて、さらに学びを深めます。太平洋戦争で県民の 4 人に 1 人が犠牲になる過酷な被害を受け、日本に復帰するまで 27 年間も米国の施政下に置かれた沖縄の姿からは、日本の安全保障問題、アジア各国・太平洋島嶼との関係性などが垣間見えます。地元の新聞と全国紙の報道の違いなど、メディアの姿勢にも特徴があります。現在の沖縄が置かれた状況を学ぶことで、日本が進むべき道が見えてくると 생각합니다。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、そこに至るまでの歴史的経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意が、どのように形成されてきたのかを理解する。
- ・沖縄の現状を通して、米国だけでなく韓国、北朝鮮、中国などアジアの国々、太平洋島嶼と日本との関係を理解する。
- ・沖縄を報道するメディアの姿勢を通じて、ジャーナリズムのあるべき姿や役割を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に、グループディスカッションを行う。
各講義ごとにリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「アジア・太平洋島嶼国際関係史 A」で学んだ沖縄の現状や歴史を振り返る【授業全体の流れを説明】
2	メディアの役割①沖縄の地元紙	地元紙の沖縄タイムスと琉球新報は、米軍基地の問題をどのように報じているのか。全国紙との違いは何か
3	メディアの役割②戦争とメディア	戦時中に戦争賛美や翼賛報道に担ったメディアの歴史を学ぶ
4	グループディスカッション【振り返り】	沖縄の現状と報道のメディアの役割
5	沖縄とアジアの国々①韓国	在韓米軍という形で、沖縄と同様に基地を抱える韓国の状況を学ぶ
6	沖縄とアジアの国々②米国	国際情勢の中で、日米韓の関係は、どのような役割を果たしているのか
7	沖縄とアジアの国々③中国	米国と対抗するまでに存在感を増した中国の海洋開発や国際戦略の意図は何か

- | | | |
|----|-------------------------|---|
| 8 | 沖縄とアジアの国々④
北朝鮮 | 北朝鮮は近くて遠い国。なぜミサイルを飛ばすのか。人々の暮らしは。ベールに包まれた国の実状を学ぶ |
| 9 | グループディスカッション【振り返り】 | アジア各国と日本は、どのような関係性を保つべきか |
| 10 | 未解決の課題①従軍慰安婦 | 沖縄には戦時中、朝鮮半島から連れてこられた慰安婦がいた。証言を基に、今も議論が続く慰安婦問題を学ぶ |
| 11 | 未解決の課題②徴用工 | 沖縄には戦時中、朝鮮半島から労働力として徴用された人々がいた。日韓で未決着の補償問題の本質は何か |
| 12 | 未解決の課題③在日韓国・朝鮮人とヘイトスピーチ | 日本人の差別意識の根底にあるのは何か。在日朝鮮人や沖縄に対するヘイトスピーチの現状と課題を学ぶ |
| 13 | グループディスカッション【振り返り】 | 未解決の課題への取り組みについて議論する |
| 14 | アジア・太平洋島嶼の沖縄と日本【総括】 | さまざまな課題や外交から見える沖縄と日本の関係を考える |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めないが、受講生の関心に応じて授業時に紹介することもある。

【参考書】

・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A B o o k」沖縄県発行
<http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
 ・『私の沖縄現代史』新崎盛暉著、岩波現代文庫、2017年

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（40％）

期末レポート（60％）

指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当であるため情報なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、沖縄の現状を通じて見えてくる日本の政治や外交のあり方を提示したいと考えています。

2014年から16年まで「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、そのころからメディア業界への就職を希望する学生への支援活動に取り組んできました。最近では、日本と韓国のジャーナリストを目指す学生が互いの国を訪問して交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）の実行委員や、田中優子総長が編集委員を務める「週刊金曜日」と連携してジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）の事務局長を務めています。

大学での授業は初めてですが、上記の経験を生かしつつ、記者ならではの視点を皆さんにお伝えしたいと思います。

【その他の注意事項】

①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。

②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。

【Outline and objectives】

Through the current status and history of Okinawa learned in "International History of Asia and Pacific Islands A", we will further deepen the study of Japan's security policy, relations with Asian countries and Pacific islands, and journalism. Okinawa was severely damaged in the Pacific War, killing one in four residents, and was under US administration for 27 years before returning to Japan. This gives a glimpse into Japan's security issues and its relationship with Asian countries and Pacific islands. There is also a distinctive media attitude, such as the differences between local newspapers and national newspapers. By learning about the current situation of Okinawa, we can think Japan will have a better way to go.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による気候とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって気候が変化した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。
2	東日本大震災と自然環境問題	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。
3	オゾンホール	成層圏の気候からオゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染 1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響について説明する。
6	越境汚染 2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変 1（ヒートアイランド）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明し、その対応について議論する。

8	人為による気候の改変 2（光化学スモッグ）	大気汚染物質が影響する光化学スモッグの原因と予測について説明する。
9	人為による気候の改変 3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。
10	異常気象 1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象 2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象 3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象 4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷について説明し、近年の状況について解説する。
14	南極の環境保全まとめ	地球環境のバロメーターである南極を説明し、環境保全対策を解説する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。また、「オゾン層の保護」、「エルニーニョの成因と影響」について、レポートの作成を行う。更に、「ヒートアイランド」、「観光鍾乳洞」に関して課題論文のまとめを実施する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著、インデックス・コミュニケーションズ
- ・異常気象と人類の選択 江守正多著、角川 SSC 新書
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著、古今書院
- ・新百万人の天気教室 白木正規著、成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

2～4 年 ※定員制

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは作図を実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。なお、リアクションペーパーの質問には、必ず回答するとともに、記載された事項により授業内容を変更することがある。

第 1 回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないと受講は認めないので、受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席し、試験を受けること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	はじめに 地球温暖化の概要	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。更に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。
2	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
3	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
4	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。

5	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。特に、現在、温暖化が最も進んでいる北極について詳細に解説する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	生態系への影響	地球温暖化により動物、植物がどのような影響を受けているかを説明する。
8	緩和策 1（国際的な取り組み）	IPCC、COP などによる国際的な取り組みを説明する。また、現状の課題について、検討する。
9	緩和策 2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
10	適応策 1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
11	適応策 2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
12	懐疑論への対応	地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討する。
13	地球温暖化の予測（気温、CO ₂ 、生態系へのリスク）	気温、CO ₂ の予測と課題を説明する。また、生態系の変化とリスク、人間への影響について、解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。また、「海洋汚染」及び「地球温暖化の緩和策と適応策」についてレポートを作成する。なお、自然環境変化への対応における発表では、報告者は発表内容のレジュメを作成し、事前に提出する。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象 吉野正敏著 成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著 古今書院
- ・異常気象と地球温暖化 鬼頭昭雄著 岩波新書
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－ 日本気象学会 地球環境問題委員会編 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：30%
- ・小テスト・作図：20%
- ・レポート：10%
- ・試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、昨年度は学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

【Outline and objectives】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本来は文法のクラスなのですが、ペアを組む教師と相談の上、このクラスではフランス語の初歩的な会話を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでそのつと提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、具体的なオンライン授業の方法などは「第一回」授業の資料に記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。
2 回目	Leçon 1	アルファベ
3 回目	Leçon 1	国籍を言う 主語人称代名詞 「～である」
4 回目	Leçon 2	職業・身分を言う
5 回目	Leçon 2	er 動詞現在形
6 回目	Leçon 3	名詞の性と数
7 回目	Leçon 3	否定文
8 回目	Leçon 4	「持つ」 否定の冠詞
9 回目	Leçon 4	疑問文
10 回目	Leçon 5	所有形容詞 疑問詞
11 回目	Leçon 5	形容詞の性と数
12 回目	Leçon 6	定冠詞
13 回目	Leçon 6	場所を言う
14 回目	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらい、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』、ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』森本・三野著、駿河台出版社、1900 円

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、「第一回」授業の資料に記載します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができます。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

文 1 年 M

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ペアを組む教師と相談の上、このクラスでは主にフランス語の初歩的な会話を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

CDを聞き、教師が解説した後、学生たちに基本例文と単語を暗記してもらいます。その後、指名された学生が口頭で発表します。テキストの練習問題は適当に飛ばし、2回の授業でテキストの1課を終える予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回目	春学期の復習	復習
2 回目	Leçon 7	形容詞
3 回目	Leçon 7	「～がある」
4 回目	Leçon 8	比較
5 回目	Leçon 8	目的語代名詞
6 回目	Leçon 9	部分冠詞
7 回目	Leçon 9	中性代名詞 en
8 回目	Leçon 10	「行く」と「来る」
9 回目	Leçon 10	中性代名詞 y
10 回目	Leçon 11	代名動詞
11 回目	Leçon 11	時刻の言い方・聞き方
12 回目	Leçon 12	目的語代名詞
13 回目	Leçon 12	疑問詞
14 回目	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランセ』、朝日出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験 50 % で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最初歩のフランス語会話の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでそのつど提示します。本授業の開始日は4月22日（水）とし、具体的なオンライン授業の方法などは「第一回」授業の資料に記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、フランス語の挨拶。	授業の進め方と成績のつけ方。フランス語の挨拶。
②	Initiation 1	挨拶。
③	Initiation 2	挨拶。国籍、職業を聞く。
④	Leçon 1	名前、職業、住所を聞く。自分の仕事を言う。
⑤	Leçon 1	人について質問する。
⑥	Leçon 2	職業を聞く。
⑦	Leçon 2	何語を話すか聞く。
⑧	Leçon 3	人について聞く。もの、ことを言う。
⑨	Leçon 3	何語を話すか言う。
⑩	Leçon 4	好きなものを言う。
⑪	Leçon 4	どちらが好きか言う。
⑫	Leçon 5	好きなことを言う。
⑬	Leçon 5	したいことを言う。
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Spirale（新スパラル）』、クレピュー、カランス著、アシェット・ジャボン

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、「第一回」授業の資料に記載します。

【学生の意見等からの気づき】

ペアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができます。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf100LA

フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

営 1 年 S

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的なフランス語会話力の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用・変化させながら、基礎的なフランス語会話力の習得を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
①	Leçon 6	好みを説明する
②	Leçon 6	人を描写する
③	Leçon 7	自分について、科目について話す
④	Leçon 7	時間割を言う
⑤	Leçon 8	持っているものを言う
⑥	Leçon 8	ものを借りる
⑦	Leçon 9	場所を説明する、聞く
⑧	Leçon 9	場所について聞く
⑨	Leçon 10	何をするか聞く、答える
⑩	Leçon 10	詳しく聞く
⑪	Leçon 11	趣味について言う
⑫	Leçon 11	習慣を言う、頻度を言う
⑬	Leçon 12	家族のことを言う
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Spirale（新スパラル）』、クレピュー、カラン著、アシェット・ジャボン

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ペアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができます。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Students taking this course will learn French conversation.

LANf200LA

フランス語 3 - I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

環 2 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの時事についての平易なエッセイを読むことを通じ、フランス語の文法、語彙、構文の理解を深めます。

【到達目標】

フランス語の基本文法の理解を完成し、辞書を引きつつ、平易な文章を読めるようになること。また、仏検 3 級レベルへの早期の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでそのつど提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日（水）とし、具体的なオンライン授業の方法などは「第一回」授業の資料に記載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション。	授業の進め方。中性代名詞。
	文法（1）。	
第 2 回	文法（2）。	中性代名詞。複合過去。
第 3 回	文法（3）。	複合過去。
第 4 回	文法（4）。	関係代名詞。
第 5 回	文法（5）。	関係代名詞。
第 6 回	文法（6）。	代名動詞。
第 7 回	文法（7）。	半過去。
第 8 回	文法（8）。	単純未来。
第 9 回	文法（9）。	条件法。
第 10 回	文法（10）。	接続法。
第 11 回	講読「モン＝サン＝ミシェル」（1）。	テキスト第 1 課を読む。
第 12 回	講読「モン＝サン＝ミシェル」（2）、「チュニジア」（1）。	テキスト第 1 課、第 2 課を読む。
第 13 回	講読「チュニジア」（2）。	テキスト第 2 課を読む。
第 14 回	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指名された学生は、しっかりと準備してくること。それ以外の学生も、最低限、単語だけは調べてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「アンフォ vol.5 フランス語でニュースを読む」、駿河台出版社。

【参考書】

仏和辞典は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、「第一回」授業の資料に記載します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストをより新しいものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Reading easy essays about current affairs in France, students will improve their knowledge of French grammar and vocabulary.

LANf200LA

フランス語3-II

2017年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5
単位数：1 単位
環 2 年 A～F

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランスの時事についての平易なエッセイを読むことを通じて、フランス語の文法、語彙、構文の理解を深めます。最後の数回はプリントを用い、持続可能性についてのエッセイを読みましょう。

【到達目標】

フランス語の基本文法の理解を完成し、辞書を引きつつ、平易な文章を読めるようになること。また、仏検3級レベルへの早期の到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

あらかじめ発表者を指名し、指名された学生がテキストの該当箇所を音読し、和訳します。それをもとに教師が修正・説明・和訳し、文法を再確認したり、構文を分析したりしながら、テキストを読み進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講読「サロン・デュ・ショコラ」(1)。	テキスト第4課を読む。
第2回	講読「サロン・デュ・ショコラ」(2)、「エッフェル塔」(1)。	テキスト第4課、第5課を読む。
第3回	講読「エッフェル塔」(2)、「ワテルローの戦い」(1)。	テキスト第5課、第6課を読む。
第4回	講読「ワテルローの戦い」(2)。	テキスト第6課を読む。
第5回	講読「カレーのジャングル」。	テキスト第7課を読む。
第6回	講読「抗議行動」。	テキスト第9課を読む。
第7回	講読「ルーブル美術館」。	テキスト第10課を読む。
第8回	講読「観光の女王」。	テキスト第11課を読む。
第9回	講読「ニースのテロ」。	テキスト第13課を読む。
第10回	講読「フランスの出生率」。	テキスト第15課を読む。
第11回	講読・水について。	プリントを読む。
第12回	講読・都市鉱山について。	プリントを読む。
第13回	講読・二酸化炭素について。	プリントを読む。
第14回	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指名された学生は、しっかりと準備してくる。それ以外の学生も、最低限、単語だけは調べてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「アンフォ vol.5 フランス語でニュースを読む」、駿河台出版社。

【参考書】

仏和辞典は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

出席と授業中の発表 50 %、期末試験 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストをより新しいものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline and objectives】

Reading easy essays about current affairs in France, students will improve their knowledge of French grammar and vocabulary.

SOW500J1

ソーシャルワーク特論 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでのソーシャルワーク実践では、当事者支援のプロセスにおける死別ケアや看取りについて語られることが少ない状況であった。しかしながら、人口の高齢化や核家族化などの社会状況の変化により、ソーシャルワーク実践において、当事者の死別ケアや看取りにかかわることが求められつつある。こうした状況をふまえ、本講義ではソーシャルワーク実践における死別ケアのあり方について考究していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義を通して、生と死について考究し、学問的見地をふまえた自らの意見を表明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的には、いくつかの代表的な死をめぐる諸説を取り上げ、学習していく。そのうえで、当事者の死別体験にソーシャルワーカーはいかにしてかわっているのかをディスカッションや事例を通して検討し、ソーシャルワークにおける死別ケアのあり方について考察する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義要領と内容説明
第2回	死をめぐる諸説の説明	死別に関する先行研究の説明
第3回	死をめぐる諸説の説明と検討	死別に関する先行研究の説明と議論
第4回	死別ケアの実践	先行研究および文献検討
第5回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実践	先行研究および文献検討
第6回	ソーシャルワーク実践における死別ケアの実践	ソーシャルワーク実践における具体的な死別ケアに関するグループディスカッションを行う
第7回	死生観と援助観との関連性	文献検討とディスカッション
第8回	死生観の援助観との関連性	文献検討とグループディスカッション
第9回	死別に関するDVD鑑賞	死別に関するDVDを鑑賞する
第10回	全体討議	死別に関するDVD鑑賞をうけて、グループディスカッションを行う
第11回	医療職とソーシャルワーカーの立ち位置について	死別に関するDVD鑑賞をうけて討議
第12回	医療職とソーシャルワーカーの実践比較	論文検討
第13回	他職種とのかかわりの違い	これまで学習したことを踏まえてのディスカッション
第14回	総括	生と死についてのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2010）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
なお、本講義の準備・復習時間は各4時間程度とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）・発表と討議への参加およびレポートなど（50%）を総合的に評価する。

特に、発表と討議に備えた先行研究の読み込み、自主学習については、成績評価の際のポイントとなる。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

日常生活において「死」について考える機会が少ないため、その機会を提供することについて評価をいただいたので、その点を意識して講義を展開したい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the view of life with death in social work.

SOW500J1

ソーシャルワーク理論研究特論

伊藤 正子

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの視点と実践モデルを学ぶ。

【到達目標】

ソーシャルワークの発展過程において、援助の視点、方法、目標がどのように変遷してきたのかについて説明できる。

ソーシャルワークの各実践モデルの特徴について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、ソーシャルワークを歴史的に概観し、各実践モデルが発展してきた過程を整理する。その上で、テキストに沿いながら、ソーシャルワークにおける各実践モデルについて、起源・影響、問題理解の視点、介入原理・技法・過程、ターゲットグループ、残された課題、日本における展開の7つの項目について整理していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第 2 回	ソーシャルワークの歴史	視点、価値、思想
第 3 回	実践モデル①	心理社会的アプローチ
第 4 回	実践モデル②	機能的アプローチ
第 5 回	実践モデル③	問題解決モデル
第 6 回	実践モデル④	家族療法とソーシャルワーク
第 7 回	実践モデル⑤	行動療法とソーシャルワーク
第 8 回	実践モデル⑥	課題中心ソーシャルワーク
第 9 回	実践モデル⑦	生態学的（エコロジカル）アプローチ
第 10 回	実践モデル⑧	ジェネラリスト・アプローチ
第 11 回	実践モデル⑨	ケアマネジメント
第 12 回	実践モデル⑩	ソーシャルサポート・ネットワーク
第 13 回	実践モデル⑪	エンパワメント・アプローチ
第 14 回	実践モデル⑫	構成主義・ナラティブアプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の該当部分をテキストに沿って学習しておくこと。また報告担当者は、テキスト内の参考文献や、授業中に紹介する文献・資料などを中心に、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

久保紘章・副田あけみ著『ソーシャルワークの実践モデル 心理社会的アプローチからナラティブまで』川島書店 2005 年、一部の理論に関する文献については、受講生と相談の上決定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（70％）
2. 最終レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

アンケートは未実施

【その他の重要事項】

医療機関・N G O ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、ソーシャルワークの実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

＜研究テーマ＞エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduce the different perspectives and skills of social work practice.

SOW500J1

地域福祉特論

宮城 孝

科目分類・科目群：専門展開科目（ソーシャルワーク系）

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域福祉の実践方法論、特に地域を基盤としたソーシャルワークの方法（コミュニティソーシャルワーク）について、その概念、関連する理論、今日的意義について理解を図るとともに、実践現場における具体的なスキルについて、事例を用いた演習によって修得を図る。また、地域福祉のシステムの開発、整備の在り方について、先進的な事例の分析によって理解を図る。

【到達目標】

コミュニティソーシャルワークの理論の内容について説明できる。
地域を基盤としたソーシャルワークの一連のスキルを説明できる。
自らの事例について、アセスメントからプランニングを適切に設計できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、演習、事例分析などによる。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、CSWの概念等
第2回	CSWの理論と今日的な意義	理論と今日的な意義、先進事例分析
第3回	事例を用いた演習①	個別課題アセスメント①
第4回	事例を用いた演習②	個別課題アセスメント②
第5回	事例を用いた演習③	地域アセスメント①
第6回	事例を用いた演習④	地域アセスメント②
第7回	事例を用いた演習⑤	アセスメントの統合
第8回	事例を用いた演習⑥	ソーシャルサポートマップの作成
第9回	事例を用いた演習⑦	プランニング①
第10回	事例を用いた演習⑧	プランニング②
第11回	地域ネットワークの形成	視点と方法、先進事例の分析等
第12回	地域福祉のシステム開発	視点と方法、先進事例の分析等
第13回	地域福祉計画と包括的相談・支援システム①	視点と方法
第14回	地域福祉計画と包括的相談・支援システム②	先進事例の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示した文献や演習課題等をレポートやワークシートにまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

宮城 孝他編著、日本地域福祉研究所監修『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』中央法規、2019年

【参考書】

宮城 孝編集代表『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む-』中央法規、2017年、
宮城 孝ほか編著『地域福祉とファンドレイジング-財源確保の方法と先進事例-』中央法規、2018年
中島 修、菱沼幹男『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』中央法規、2015年 他、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点60%、レポート等の提出とその内容40%により総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心のある研究テーマに応じ、地域福祉との関連について探求する機会を設けることとする。

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、その経験を活かしてコミュニティソーシャルワークのスキルの修得を図ることとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論
〔主要研究業績〕

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2019年、
・『地域福祉とファンドレイジング-理論と先進事例-』（編著）中央法規、2018年
・『地域福祉のイノベーション-コミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表・共著）中央法規、2017年
・『東日本大震災と地域福祉-次代への継承を探る-』（編集担当・共著）中央法規、2015年
・『相談援助演習』（編著）ミネルヴァ書房、2015年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000年

【Outline and objectives】

The methodology of the Community welfare, speciality, the concept about the Community social work, the related theory, it makes to learn skill on community social work.

SOW600J1

論文研究演習 I

伊藤 正子

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文にむけた研究計画の作成を学ぶ。

【到達目標】

修士論文の作成に向けて、研究計画を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確化することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取り組む。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第 2 回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第 3 回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第 4 回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第 5 回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第 6 回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第 7 回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第 8 回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第 9 回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第 10 回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第 11 回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第 12 回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第 13 回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第 14 回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第 15 回	中間総括	明確化されたことの確認
第 16 回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第 17 回	研究目的の明確化①	研究の具体的な目的の列挙
第 18 回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第 19 回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第 20 回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第 21 回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第 22 回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第 23 回	研究構想の基盤作り③	研究データ収集方法の検討
第 24 回	研究構想の基盤作り④	研究データ分析方法の検討
第 25 回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第 26 回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第 27 回	研究計画書の作成③	データ収集のスケジュール検討
第 28 回	まとめ	研究計画の確認とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（60%）
2. 研究計画書（40%）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

医療機関・N G O ソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 > 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

< 研究テーマ > エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduces academic writing to prepare a master's thesis.

SOW600J1

論文研究演習 I

水野 雅男

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の執筆に向けた研究方法を学ぶ。

【到達目標】

問題関心に沿った先行研究をレビューし、研究の論点を整理する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年度スケジュールの確認
第2回	関心分野と問題意識①	問題意識ある分野・領域の確認①
第3回	関心分野と問題意識②	問題意識ある分野・領域の確認②
第4回	関心分野と問題意識③	問題意識ある分野・領域の確認③
第5回	関心分野と問題意識④	問題意識ある分野・領域の確認④
第6回	先行研究のレビュー①	先行・関連研究の分析整理①
第7回	先行研究のレビュー②	先行・関連研究の分析整理②
第8回	先行研究のレビュー③	先行・関連研究の分析整理③
第9回	先行研究のレビュー④	先行・関連研究の分析整理④
第10回	先行研究のレビュー⑤	先行・関連研究の分析整理⑤
第11回	研究テーマと仮説設定①	テーマと課題の独自性の確認①
第12回	研究テーマと仮説設定②	テーマと課題の独自性の確認②
第13回	研究テーマと仮説設定③	テーマと課題の独自性の確認③
第14回	夏休み中の作業課題	自主研究する作業項目の確認
第15回	調査対象の検討①	調査対象候補の情報整理①
第16回	調査対象の検討②	調査対象候補の情報整理②
第17回	調査対象の検討③	調査対象の絞り込み①
第18回	調査対象の検討④	調査対象の絞り込み②
第19回	調査対象の検討⑤	調査対象の絞り込み③
第20回	調査研究方法の検討①	調査全体計画立案
第21回	調査研究方法の検討②	量的調査の検討①アンケート調査設計
第22回	調査研究方法の検討③	量的調査の検討②アンケート調査修正
第23回	調査研究方法の検討④	質的調査の検討①ヒアリング調査設計
第24回	調査研究方法の検討⑤	質的調査の検討②ヒアリング調査修正
第25回	調査結果分析方法の検討①	アンケート調査データの整理と入力①
第26回	調査結果分析方法の検討②	アンケート調査データの整理と入力②
第27回	調査結果分析方法の検討③	ヒアリング調査データの整理方法
第28回	総括	研究テーマと調査研究方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること（予習・復習は1時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度（70%）と課題への対応（30%）を総合的に判断し評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用して、課題などを提示する。

【専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

金澤町家に関する調査研究
震災復興住宅に関する調査研究
クリエイティブツーリズム研究

【Outline and objectives】

Learn research methods for writing a master's thesis.

SOW600J1

実践研究演習 I

佐藤 蘭美

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要なデータの収集にむけたフィールドワークや調査を実施することを旨とする。

【到達目標】

データ収集に必要な研究手法を検討・習得し、フィールド調査の応用することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

はじめに、一般的なデータ収集の方法について学習し、受講者の関心領域や研究方法に適したデータ収集の技法、フィールドの選定、研究仮説の検討を行い、研究内容を明確化していく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日まで具体的にオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 2 回	データ収集の方法①	研究対象の選定について
第 3 回	データ収集の方法②	フィールドの選定方法についての説明
第 4 回	データ収集の方法③	各自の研究対象とフィールドの方向性についての発表
第 5 回	データ収集の実際	データ収集の実際について DVD で学習する
第 6 回	データ収集方法のまとめ	データ収集に関するフリーディスカッション
第 7 回	研究テーマと手法の検討①	研究手法についての説明
第 8 回	研究テーマと手法の検討②	研究テーマと手法の関連性についての説明
第 9 回	研究テーマと手法の検討③	各自の研究テーマと研究手法の方向性について報告
第 10 回	関連研究方法のレビュー①	講義
第 11 回	関連研究方法のレビュー②	前週の講義を受けての確認とディスカッション
第 12 回	関連研究方法のレビュー③	関連研究方法への関心の確認
第 13 回	関連研究方法のレビュー④	フリーディスカッション
第 14 回	中間総括	研究内容の検討とまとめ
第 15 回	オリエンテーション	講義内容の説明
第 16 回	研究仮説の検討①	研究仮説に関する説明
第 17 回	研究仮説の検討②	研究仮説の立て方
第 18 回	研究仮説の検討③	受講生の研究内容の検討
第 19 回	研究仮説の検討④	受講生の研究内容の検討
第 20 回	研究仮説の報告	各自の研究仮説についての報告
第 21 回	研究テーマの発表①	各自の研究テーマの報告
第 22 回	研究テーマの発表②	全体での質疑応答とフリーディスカッション
第 23 回	研究フィールドについての報告①	各自の研究フィールドの報告
第 24 回	研究フィールドについての報告②	研究の方向性について確認
第 25 回	研究方法の明確化①	研究方法の妥当性の説明
第 26 回	研究方法の明確化②	研究方法についての報告
第 27 回	研究方法の明確化③	研究方法の検証
第 28 回	総括	研究の方向性についての確認と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生自らが研究の対象とするフィールドに関連する資料および情報を収集し、授業進度にあわせて適宜説明できるよう準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加－ 60 %

課題への取り組み・提出課題－ 40 %

特に、研究対象とするフィールドに関連する専門的知識や情報については、授業進度に合わせて説明できることが評価の基準となる。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、双方向の授業で議論することに評価を得ているので、心がけていきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> ソーシャルワーク論、死別ケア

<研究テーマ>

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

<主要研究業績>

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course focuses specifically on the necessary skills and methods according to the students' research topics.

SOW600J1

実践研究演習 I

佐野 竜平

科目分類・科目群：演習科目
配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究に必要なデータ収集・分析方法を学ぶ。

【到達目標】

研究を進めるためのデータ収集・分析方法や他の実践スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマに沿ったデータ収集・分析に必要なアレンジを進めていく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期の進め方について確認
第2回	データ収集の方法①	データ収集スキルを学ぶ①
第3回	データ収集の方法②	データ収集スキルを学ぶ②
第4回	データ収集の方法③	データ収集スキルを学ぶ③
第5回	質的調査法①	質的調査法を学ぶ①
第6回	質的調査法②	質的調査法を学ぶ②
第7回	質的調査法③	質的調査法を学ぶ③
第8回	フィールド調査法①	フィールド調査法を学ぶ①
第9回	フィールド調査法②	フィールド調査法を学ぶ②
第10回	フィールド調査法③	フィールド調査法を学ぶ③
第11回	関連研究レビュー①	関連研究から手法を学ぶ①
第12回	関連研究レビュー②	関連研究から手法を学ぶ②
第13回	関連研究レビュー③	関連研究から手法を学ぶ③
第14回	中間総括	これまでの振り返り
第15回	オリエンテーション	秋学期の進め方について確認
第16回	研究仮説の検討①	研究仮説を検討①
第17回	研究仮説の検討②	研究仮説を検討②
第18回	研究仮説の検討③	研究仮説を検討③
第19回	フィールドの検討①	研究フィールドを検討①
第20回	フィールドの検討②	研究フィールドを検討②
第21回	フィールドの検討③	研究フィールドを検討③
第22回	フィールド調査実践①	調査準備を進め、実施①
第23回	フィールド調査実践②	調査準備を進め、実施②
第24回	フィールド調査実践③	調査準備を進め、実施③
第25回	フィールド調査実践④	調査準備を進め、実施④
第26回	中間報告①	フィールド報告の準備①
第27回	中間報告②	フィールド報告の準備②
第28回	レビュー	1年間の振り返りと要点の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回進捗報告や確認が求められるので、事前準備が不可欠となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加・発表・報告：70%、論文アウトライン：30%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生による様々なアイデアを応用。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

演習は長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている海外プロジェクトを元に展開。

【担当教員の専門分野等】

国際協力、国際地域開発、障害と開発、東南アジア

【Outline and objectives】

Necessary skills and methods according to his/her research topics are to be focused.

SOW600J1

実践研究演習 I

水野 雅男

科目分類・科目群：演習科目

配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、修士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

【到達目標】

修士論文作成の技術を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	年間スケジュールの確認
第2回	関連研究のレビュー①	先行・関連する研究の調査分析①
第3回	関連研究のレビュー②	先行・関連する研究の調査分析②
第4回	関連研究のレビュー③	先行・関連する研究の調査分析③
第5回	関連研究のレビュー④	先行・関連する研究の調査分析④
第6回	関連研究のレビュー⑤	先行・関連する研究の調査分析⑤
第7回	研究課題と仮説検討①	レビュー対応課題と仮説の設定①
第8回	研究課題と仮説検討②	レビュー対応課題と仮説の設定②
第9回	研究課題と仮説検討③	レビュー対応課題と仮説の設定③
第10回	研究課題と仮説検討④	レビュー対応課題と仮説の設定④
第11回	研究対象の検討①	仮説検証のための研究対象選定①
第12回	研究対象の検討②	仮説検証のための研究対象選定②
第13回	研究対象の検討③	仮説検証のための研究対象選定③
第14回	研究対象の検討④	仮説検証のための研究対象選定④
第15回	研究方法の検討①	適切な研究方法の抽出選定①
第16回	研究方法の検討②	適切な研究方法の抽出選定②
第17回	研究方法の検討③	適切な研究方法の抽出選定③
第18回	研究方法の検討④	適切な研究方法の抽出選定④
第19回	研究方法の検討⑤	適切な研究方法の抽出選定⑤
第20回	研究方法の検討⑥	適切な研究方法の抽出選定⑥
第21回	データ収集分析検討①	量的調査データの分析方法①
第22回	データ収集分析検討②	量的調査データの分析方法②
第23回	データ収集分析検討③	量的調査データの分析方法③
第24回	データ収集分析検討④	量的調査データの分析方法④
第25回	データ収集分析検討⑤	質的調査データの分析方法①
第26回	データ収集分析検討⑥	質的調査データの分析方法②
第27回	データ収集分析検討⑦	質的調査データの分析方法③
第28回	データ収集分析検討⑧	質的調査データの分析方法④

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること（予習・復習は1時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習への参加態度（70%）と課題への対応（30%）を総合的に判断し評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用して、課題などを提示する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

金澤町家に関する調査研究

震災復興住宅に関する調査研究

クリエイティブツーリズム研究

【Outline and objectives】

Practically learn the ideas and methods required for master's thesis creation in accordance with the field of interest.

SOW600J1

実践研究演習Ⅱ

宮城 孝

科目分類・科目群：演習科目
配当年次／単位数：2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策や実践のフィールドにおいて求められるスキルの修得を図ること。または、それらのフィールドにおける学術的な分析を加えるためのデータを収集することを目標とする。

【到達目標】

適切な方法でフィールドワークができる。
フィールドワークで得たデータを適切に分析し、可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生のフィールドワークに対する個別的なスーパービジョンを行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フィールドワークの全体像
第 2 回	フィールドワークの目的と内容①	目的の明確化①
第 3 回	フィールドワークの目的と内容②	目的の明確化②
第 4 回	フィールドワークの対象と方法①	対象と方法の明確化①
第 5 回	フィールドワークの対象と方法②	対象と方法の明確化②
第 6 回	スーパービジョン（初期①）	実際のスーパービジョン①
第 7 回	スーパービジョン（初期②）	実際のスーパービジョン②
第 8 回	スーパービジョン（初期③）	実際のスーパービジョン③
第 9 階	スーパービジョン（初期④）	実施のスーパービジョン④
第 10 回	スーパービジョン（前期①）	実際のスーパービジョン①
第 11 回	スーパービジョン（前期②）	実際のスーパービジョン②
第 12 回	スーパービジョン（前期③）	実際のスーパービジョン③
第 13 回	スーパービジョン（前期④）	実際のスーパービジョン④
第 14 回	前期の振り返りとまとめ	振り返りと今後に向けて
第 15 回	オリエンテーション	秋学期の目標の設定
第 16 回	目標の設定	目標の設定と課題の明確化
第 17 回	スーパービジョン（中期①）	実際のスーパービジョン①
第 18 回	スーパービジョン（中期②）	実際のスーパービジョン②
第 19 回	スーパービジョン（中期③）	実際のスーパービジョン③
第 20 回	スーパービジョン（中期④）	実際のスーパービジョン④
第 21 回	スーパービジョン（後期①）	実際のスーパービジョン①
第 22 回	スーパービジョン（後期②）	実際のスーパービジョン②
第 23 回	スーパービジョン（後期③）	実際のスーパービジョン③
第 24 回	スーパービジョン（後期④）	実際のスーパービジョン④
第 25 回	振り返りとまとめ①	データ等の分析①
第 26 回	振り返りとまとめ②	データ等の分析②
第 27 回	振り返りとまとめ③	理論化の検討①
第 28 回	振り返りとまとめ④	理論化の検討②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の指導に向けて、記録やデータをレポートとしてまとめ報告できるように準備しておくこと。準備・復習時間を 4 時間以上とする

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、フィールドワークの内容とそれらを反映したレポートの内容 60 %により、評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会における実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例-』中央法規、2018 年『地域福祉のイノベーションとソーシャルワークの持続可能性の危機に挑む-』編集代表)、中央法規、2017 年
- ・『東日本大震災と地域福祉ー次代への継承を探る-』（共編著）中央法規、2015 年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014 年
- ・『ソーシャルワークと社会開発ー開発的ソーシャルワークの理論とスキルー』（監訳）丸善、2012 年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010 年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008 年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006 年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000 年

【Outline and objectives】

It sets a field to creat reserch paper and to improve practice skill,and collect the data in tke fied,also,analyzes a case in the filld.

PSY500J2

臨床心理基礎実習

久保田 幹子、末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目
配当年次／単位数：1 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けた事前指導を行います。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理実習を行うため、そして公認心理師・臨床心理士として将来的に活動するための基本的な態度や技能、倫理等を学習することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の理論と方法を実践にいかすための基礎的なトレーニングを実施し、臨床心理士として将来的に活動するために欠かすことのできない素養や技能を学習します。なお、この授業の単位取得は法政大学臨床心理相談室の研究相談員の条件となるので、必ず 1 年次で履修すること。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画および成績評価の基準を示します。
第 2 回	臨床心理実践の基礎①：概説	臨床心理実践の基礎を、本専攻における実習教育の内容を中心に概説します。
第 3 回	臨床心理実践の基礎②：臨床心理面接の基礎	臨床心理実践の基礎を臨床心理面接を中心に概説します①
第 4 回	臨床心理実践の基礎③：臨床心理面接の基礎	臨床心理実践の基礎を臨床心理査定を中心に概説します②
第 5 回	臨床心理実践の基礎④：臨床心理面接の基礎	臨床心理実践の基礎を臨床心理地域援助を中心に概説します。
第 6 回	臨床心理研究の基礎	臨床心理学における研究の意義や目的、方法論等について概説します。
第 7 回	臨床心理実践と研究の倫理①	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の意義や課題について概説します。
第 8 回	臨床心理実践と研究の倫理②	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：日本臨床心理士会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第 9 回	臨床心理実践と研究の倫理③	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：アメリカ心理学会倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第 10 回	臨床心理実践と研究の倫理④	臨床心理実践および臨床心理学研究における倫理の具体例（例：法政大学大学院人間社会研究科倫理規定）を取り上げ、発表とディスカッションを行います。
第 11 回	臨床心理実習事前指導：医療領域①	医療領域における実習の事前指導を行います①
第 12 回	臨床心理実習事前指導：医療領域②	医療領域における実習の事前指導を行います②
第 13 回	臨床心理実習事前指導：医療領域③	医療領域における実習の事前指導を行います③
第 14 回	臨床心理実習事前指導：概説	大学内（臨床心理相談室）および学外（医療機関等）における実習教育全般についてのガイダンスを行います。
第 15 回	臨床心理実習事前指導：発達領域①	発達領域における実習の事前指導を行います①
第 16 回	臨床心理実習事前指導：発達領域②	発達領域における実習の事前指導を行います②
第 17 回	臨床心理実習事前指導：教育領域①	教育領域における実習の事前指導を行います①
第 18 回	臨床心理実習事前指導：教育領域②	教育領域における実習の事前指導を行います。②
第 19 回	臨床心理実習事前指導：福祉領域	福祉領域における実習の事前指導を行います。

第 20 回	臨床心理実習事前指導：心理相談領域等	心理相談領域における実習の事前指導を行います。
第 21 回	臨床心理実践の基本的技能：概説	実習で求められる基本的な技能について講義とディスカッションを行います。
第 22 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク①	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：神経症）
第 23 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク②	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：鬱）
第 24 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク③	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：パーソナリティ障害）
第 25 回	臨床心理実践の基本的技能：インテーク④	インテークを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：発達障害）
第 26 回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント①	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：発達検査）
第 27 回	臨床心理実践の基本的技能：アセスメント②	アセスメントを適切に実施し、記録をまとめるためのトレーニングを実施します。（例：知能検査）
第 28 回	臨床心理実践の基本的技能：ケース検討	ケース検討を行うための事例の書き方、報告の仕方、議論のあり方等について学びます（例：人格検査）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表やディスカッションを行うための自己学習（文献の収集と分析、発表レジュメの作成等）および、インテーク記録やアセスメント記録の作成と修正の作業等が求められます。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、発表（30 %）、ディスカッション（20 %）への参加をあわせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の臨床現場の様子が理解できるよう、具体例を交えつつ講義を進めたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床、カウンセリング機関における臨床の実務経験があります。実際の臨床経験を紹介しつつ、心理臨床家としての姿勢、現場実習に必要な知識などを習得できるよう進めていきます。

【担当教員の専門分野等】

【久保田幹子】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

- 1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月）
- 2)『女性はずせ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月）
- 3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法、こころの科学、2009;147:72-78

【末武康弘】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

- ① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
- ②『ジェンドリン哲学入門：フォーカシングの根底にあるもの』（共編著、コスモスライブラリー、2009 年 8 月）
- ③『フォーカシングの原点と臨床的展開』（共著、岩崎学術出版社、2009 年 5 月）

【Outline and objectives】

Basic attitude, skills and ethics in providing psychological assistance and preparation for clinical psychology practicum

PSY500J2

心理支援に関する理論と実践

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業で学ぶ内容は次のことです。

1. 力動論に基づく心理療法の理論と方法
2. 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法
3. その他の心理療法の理論と方法
4. 心理に関する相談、助言、指導等への上記 1.～3. の応用
5. 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整

【到達目標】

この授業の到達目標は、次のとおりです。

- ・代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義及び適応について概説できること。
- ・訪問による支援や地域支援の意義について概説できること。
- ・心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができること。
- ・良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけること。
- ・心理療法やカウンセリングの適用には限界があることを説明できること。
- ・心理に関する支援を要する者等のプライバシーに配慮できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、レジュメ作成と発表、ディスカッション、ロールプレイや体験学習などを織り交ぜながら進めていきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や成績評価について
第 2 回	心理支援と心理学的支援方法	全体の理論と方法を概説します
第 3 回	力動論に基づく心理療法	力動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 4 回	力動論に基づく発展的な心理療法	力動論に基づく発展的な心理療法の理論と方法を学びます
第 5 回	行動論に基づく心理療法	行動論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 6 回	認知論に基づく心理療法	認知論に基づく心理療法の理論と方法を学びます
第 7 回	その他の心理療法①	その他の心理療法の理論と方法を学びます（人間性の理論）
第 8 回	その他の心理療法②	その他の心理療法の理論と方法を学びます（システム理論）
第 9 回	その他の心理療法③	その他の心理療法の理論と方法を学びます（表現芸術療法）
第 10 回	その他の心理療法④	その他の心理療法の理論と方法を学びます（民族文化療法）
第 11 回	心理に関する相談、助言、指導等への理論と方法の応用	心理に関する相談、助言、指導等への上記の理論と方法の応用を学びます
第 12 回	適切な支援方法の選択・調整①	心理に関する支援を要する者の特性に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第 13 回	適切な支援方法の選択・調整について②	心理に関する支援を要する者の状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学びます
第 14 回	授業のまとめ	授業のふりかえりとまとめをおこないます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連資料の収集・分析、レジュメ作成などの学習が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（60 %）、ディスカッションへの参加（40 %）をあわせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業での発表においては、パワーポイント使用を推奨します。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年）

③ 『主観性を科学化する』質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline and objectives】

The contents to be learned in this lesson are as follows.

1. Theory and method of psychotherapy based on psychodynamic theory
2. Theory and method of psychotherapy based on behavioral/cognitive theory
3. Other psychotherapy theories and methods
4. Application of the above items 1 to 3
5. Selection and adjustment of appropriate support methods

PSY500J2

臨床心理面接特論Ⅱ

末武 康弘

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法を学び、あわせて臨床心理面接の態度やスキルを共有するための実習やディスカッションを行います。

【到達目標】

カウンセリングや心理療法など臨床心理面接の基礎となる理論と方法の効果やプロセスについて説明できること、さらに、試行カウンセリングを継続して実施し、その内容を事例報告や逐語記録としてまとめ報告できることなど、臨床心理面接に求められる専門性の土台を形成することがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理面接の効果やプロセスについて学ぶとともに、試行カウンセリングを中心とした実習・検討・議論を実施し、臨床心理面接の態度やスキルを実践的に学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と内容、授業計画、成績評価の基準を示します
第 2 回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説①	臨床心理面接の主要な歴史について概説します
第 3 回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説②	臨床心理面接の効果についての研究を概観します
第 4 回	臨床心理面接の効果とプロセス：概説③	臨床心理面接のプロセスに関する研究を概観します
第 5 回	試行カウンセリングの実習と報告①	各自が試行カウンセリングを実施し（インタークおよび 3 回の継続面接）、その事例報告と逐語記録（抜粋）を作成して報告します。報告を受けてディスカッションを行います。院生 A、B の報告
第 6 回	試行カウンセリングの実習と報告②	院生 C、D の報告
第 7 回	試行カウンセリングの実習と報告③	院生 E、F の報告
第 8 回	試行カウンセリングの実習と報告④	院生 G、H の報告
第 9 回	試行カウンセリングの実習と報告⑤	院生 I、J の報告
第 10 回	試行カウンセリングの実習と報告⑥	院生 K、L の報告
第 11 回	試行カウンセリングの実習と報告⑦	院生 M、N の報告
第 12 回	試行カウンセリングの実習と報告⑧	院生 O の報告
第 13 回	試行カウンセリングの報告書の作成について	試行カウンセリングの報告書の作成について指導します
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、各自の学習内容や学習成果をディスカッションします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表と報告のための自己学習（文献の収集と分析、試行カウンセリングの実施、事例報告や逐語記録の作成、発表レジュメの執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（40 %）、試行カウンセリングの報告書（50 %）、ディスカッションへの参加（10 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

関連する科目のアンケート結果に基づき、受講生にとってより明確な知識やスキルが身につくように授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

発表に際してはパワーポイントの使用を推奨します。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実践について具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年）

③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline and objectives】

You learn practical methods and skills of psychological support.

PSY500J2

心理実践実習

金築 優、丹羽 郁夫

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：2 年次／1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 分野の施設のうち、3 分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また上記の 5 分野には加えないが、学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして、実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

(1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(エ) 多職種連携及び地域連携

(オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計 450 時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は 270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は 90 時間以上とする。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に出向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	大学での指導	大学において実習担当教員が定期的にケースカンファレンス等の指導を行い、実習生全体で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習記録をまとめ、次回の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告 (20%)、および実習指導者の評価 (80%) 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】
金築優：認知行動療法
関谷秀子：精神療法

【Outline and objectives】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, although not added to the above five fields, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher.

PSY500J2

臨床心理実習Ⅱ

金築 優、関谷 秀子

科目分類・科目群：専門基幹科目

配当年次／単位数：2 年次／1 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の 5 分野の施設のうち、3 分野以上の施設で実習を行うが、保健医療の領域の医療機関（病院又は診療所）での実習は必須とする。なお医療機関以外の施設においては、見学を中心とする実習を行うことがある。また学内の臨床心理相談室においても実習を行う。そして実習中は当該施設の実習指導者及び実習担当教員による指導を受ける。

【到達目標】

到達目標は、以下の事項を実習を通して学習することである。

- (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得
 (1) コミュニケーション、(2) 心理検査、(3) 心理面接、(4) 地域支援 等
 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
 (エ) 多職種連携及び地域連携
 (オ) 心理専門職としての職業倫理及び法的義務への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

実習担当教員の指導のもと、実習施設の決定と施設に関する事前学習を行い、実習施設の実習指導者及び実習担当教員から指導を受け、計 450 時間以上の実習を行う。実習の内、ケースを直接担当する時間は 270 時間以上とし、その内、学外施設での実習時間は 90 時間以上とする。なお実習担当教員は、実習生の実習状況を把握しつつ、上記の目的に掲げる事項の基本的な修得ができるように、実習生及び実習指導者との連絡調整を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
実習前①	実習オリエンテーション	実習全般に関わるガイダンスを行う。
実習前②	実習施設の紹介	実習施設に関する情報提供をする。
実習前③	実習施設の決定	実習施設を決定し、その施設に関して事前学習を指導する。
実習中①	学外施設での実習	実習先の指導者から指導を受けながら実習を行うが、実習施設によっては実習担当教員が実習先に向いて指導を行う。
実習中②	臨床心理相談室での実習	実習担当教員から指導を受けながら実習を行う。
実習中③	大学での指導	大学において実習担当教員が定期的にケースカンファレンス等の指導を行い、実習生全体で実習経験を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習期間中、実習記録をまとめ、次の到達目標を明らかにすること。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

実習担当教員及び実習指導者により適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

施設での実習態度や実習報告 (20%)、および実習指導者の評価 (80%) 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

両教員とも現場での経験が豊富であり、この経験に基づいて実習指導を行う。

【担当教員の専門分野】

金築優：認知行動療法

関谷秀子：精神療法

【Outline and objectives】

Practice at three or more institutions out of the five sectors of health care, welfare, education, judicial and criminal, industry and labor, but practice at a medical institution (hospital or clinic) in the area of health care Mandatory. In facilities other than medical institutions, practical training centered on tours may be conducted. Also, we also conduct practical training in the clinical psychology counseling room in the university. During practical training, you will receive guidance from the instructor's instructor and practical teacher.

PSY500J2

医療心理学特論

久保田 幹子

科目分類・科目群：専門展開科目
配当年次／単位数：1・2 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療現場における心理学的アプローチ、心理臨床家の姿勢、役割について学ぶ。

【到達目標】

医療現場における心理臨床家の姿勢・役割を理解するとともに、現場に必要な精神医学的知識、幾つかの心理療法の理論と具体的な介入の仕方について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

心理臨床家に必要な姿勢、医療現場における心理臨床家の役割について、文献を通して学ぶ。

また上記のテーマについて、ディスカッションを通して問題意識や理解を深めていく。

医療現場における心理学的アプローチについて、グループ発表を行い、幅広い知識を身につける。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開講日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション、グループ発表の内容確認とスケジュール決め
第 2 回	医療現場における心理臨床家の役割	いくつかの論文を読みながら、医療現場における心理臨床家の役割について学ぶ。
第 3 回	医療現場における心理臨床家の姿勢①	医療現場における心理臨床家の役割について、過去の文献・研究を通して理解を深める。
第 4 回	医療現場における心理臨床家の姿勢②	グループ発表とディスカッション
第 5 回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ①	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：不安障害）
第 6 回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ②	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：うつ病）
第 7 回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ③	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（例：パーソナリティ障害）
第 8 回	患者の抱える問題を心理学的に理解し、その援助について学ぶ④	関心のある疾患を選択し、グループ発表、ディスカッション（心身症、身体表現性障害）
第 9 回	医療現場における心理学的アプローチの実践① ＜森田療法＞	森田療法についてグループ発表、ディスカッション①
第 10 回	医療現場における心理学的アプローチの実践② ＜森田療法＞	森田療法についてグループ発表、ディスカッション②
第 11 回	医療現場における心理学的アプローチの実践③ ＜森田療法＞	症例を通して森田療法の実際を学ぶ。ビデオ学習。
第 12 回	医療現場における心理学的アプローチの実践④ ＜認知行動療法＞	認知行動療法についてグループ発表、ディスカッション①
第 13 回	医療現場における心理学的アプローチの実践⑤ ＜認知行動療法＞	認知行動療法についてグループ発表、ディスカッション②
第 14 回	医療現場における心理学的アプローチの実践⑥ ＜他の心理療法＞	他の心理療法についてグループ発表、ディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

医療現場における心理臨床家の役割、精神疾患、さまざまな心理療法に関する文献を自主的に読むこと。グループ発表の準備など。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

「心理療法プリマーズ 森田療法」 北西憲二、中村敬編 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、授業態度および発表内容（50 %）によって総合的に評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、医療現場の現状を伝えながら、理論と実際の臨床を繋げられるように努めるとともに、臨床心理士の役割や姿勢を考える機会としていきたい。ディスカッションの時間も多く取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

発表にはパワーポイントなどを使用することをお勧めします。

【その他の重要事項】

医療機関における臨床の実務経験があります。実際の病院臨床の経験を紹介しつつ、医療現場における臨床家の課題、必要な知識を学べるよう進めています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

森田療法、比較心理療法、心理検査法

＜研究テーマ＞

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

＜主要研究業績＞

- 1）『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月）
- 2）『女性はずなぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月）
- 3）久保田幹子：対人恐怖の森田療法、こころの科学、2009;147:72-78
- 4）久保田幹子：森田療法における受容、精神療法、2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Psychological approach in medical settings, attitude and role of a clinical psychologist

PSY600J2

論文研究指導

久保田 幹子

科目分類・科目群：研究指導科目

配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を作成する

【到達目標】

修士論文のテーマを設定し、先行研究の調査、研究の実施を通して論文を完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文作成に向けて、関心のあるテーマについて事前学習を行う。

修士論文の研究テーマを決定し、研究計画の作成、研究の実施、論文の作成を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、論文作成の手順について
第2回	テーマ決定の事前学習	関心のあるテーマについてディスカッション
第3回	文献収集の技法	文献収集の方法について
第4回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表①	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる①
第5回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表②	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる②
第6回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表③	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる③
第7回	関心のあるテーマについて国内外の文献学習、発表④	関心のあるテーマについて先行研究を調べ、まとめる④
第8回	テーマ決定	修士論文のテーマを決定する。
第9回	調査・研究法の検討①	研究の目的、方法を検討し、実施する①
第10回	調査・研究法の検討②	研究の目的、方法を検討し、実施する②
第11回	調査・研究法の検討③	研究の目的、方法を検討し、実施する③
第12回	調査・研究法の検討④	研究の目的、方法を検討し、実施する④
第13回	調査・研究法の検討⑤	研究の目的、方法を検討し、実施する⑤
第14回	調査・研究法の検討⑥	研究の目的、方法を検討し、実施する⑥
第15回	調査・研究結果の検討①	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める①
第16回	調査・研究結果の検討②	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める②
第17回	調査・研究結果の検討③	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める③
第18回	調査・研究結果の検討④	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める④
第19回	調査・研究結果の検討⑤	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑤
第20回	調査・研究結果の検討⑥	調査、研究結果を具体的に検討し、理解を深める⑥
第21回	論文執筆指導①	研究結果を元に論文を作成する①
第22回	論文執筆指導②	研究結果を元に論文を作成する②
第23回	論文執筆指導③	研究結果を元に論文を作成する③
第24回	論文執筆指導④	研究結果を元に論文を作成する④
第25回	論文執筆指導⑤	研究結果を元に論文を作成する⑤
第26回	論文執筆指導⑥	研究結果を元に論文を作成する⑥
第27回	論文執筆指導⑦	研究結果を元に論文を作成する⑦
第28回	論文執筆指導⑧	研究結果を元に論文を作成する⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究テーマの選択、方法論を吟味するために、主体的に文献を検索し、先行研究を調査すること。研究テーマの理解を深めるためにも、幅広く情報収集すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、紹介する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成に向けての研究姿勢（50%）および修士論文（50%）によって評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

関心のあるテーマを尊重し、実際の臨床に役立つ研究・修士論文となるよう段階的に指導していきたい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

- 1) 『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015年3月）
- 2) 『女性はずせ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018年8月）
- 3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法、こころの科学、2009;147:72-78
- 4) 久保田幹子：森田療法における受容、精神療法、2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Creating a master's thesis

PSY600J2

論文研究指導

末武 康弘

科目分類・科目群：研究指導科目
配当年次／単位数：1・2 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学の修士論文を作成するための知識、研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

修士論文の作成が到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学の修士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	論文研究指導の概要を示します
第 2 回	研究計画の概要の検討①	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 A を中心に指導
第 3 回	研究計画の概要の検討②	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 B を中心に指導
第 4 回	研究計画の概要の検討③	修士論文作成のための研究計画の概要を検討します。院生 C を中心に指導
第 5 回	先行研究の探索と検討①	先行研究の探索と分析について概説します。
第 6 回	先行研究の探索と検討②	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 A を中心に指導
第 7 回	先行研究の探索と検討③	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 B を中心に指導
第 8 回	先行研究の探索と検討④	研究テーマに関連する先行研究の探索と分析を行います。院生 C を中心に指導
第 9 回	研究デザインの検討①	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を概説します。
第 10 回	研究デザインの検討②	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 A を中心に指導
第 11 回	研究デザインの検討③	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 B を中心に指導
第 12 回	研究デザインの検討④	修士論文作成のための研究デザインと研究方法を検討します。院生 C を中心に指導
第 13 回	リサーチエッセイの検討とチェック①	データ収集のためのリサーチエッセイを作成し検討します。院生 A を中心に指導。
第 14 回	リサーチエッセイの検討とチェック②	データ収集のためのリサーチエッセイを作成し検討します。院生 B、C を中心に指導
第 15 回	秋学期のオリエンテーション	秋学期の進め方について示します。
第 16 回	データ収集との処理の検討①	収集されたデータの処理と分析方法を解説します。
第 17 回	データ収集との処理の検討②	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 A を中心に指導
第 18 回	データ収集との処理の検討③	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 B を中心に指導
第 19 回	データ収集との処理の検討④	収集されたデータの処理と分析方法を検討します。院生 C を中心に指導
第 20 回	処理結果のまとめと検討①	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 A を中心に指導
第 21 回	処理結果のまとめと検討②	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 B を中心に指導
第 22 回	処理結果のまとめと検討③	データの処理と分析によって結果を検討します。院生 C を中心に指導

第 23 回	考察の検討①	結果についての考察を検討します。院生 A を中心に指導
第 24 回	考察の検討②	結果についての考察を検討します。院生 B を中心に指導
第 25 回	考察の検討③	結果についての考察を検討します。院生 C を中心に指導
第 26 回	論文執筆の指導①	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生 A を中心に指導
第 27 回	論文執筆の指導②	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生 B を中心に指導
第 28 回	論文執筆の指導③、まとめ	論文の構成、文章表現、引用や注、文献の書き方等を指導します。院生 C を中心に指導。授業のまとめを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修士論文作成のための学習活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、論文執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の執筆過程（60 %）と論文の内容（40 %）で総合的に評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

データの分析や論文執筆にはパソコンを使用してください。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法
＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究
＜主要研究業績＞
① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)
② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年）
③ 「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline and objectives】

You learn the knowledge, research method, ability to write a master's thesis in clinical psychology.

SOW500J3

福祉社会系特殊講義Ⅰ

眞保 智子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

障害者政策における社会的な課題とそれに対応する制度等のあり方に関する近年の研究動向について講義する。

【到達目標】

障害者雇用に関わる制度・政策論と就労支援について、障害者福祉制度を踏まえ、障害者の雇用・就労について、障害者の労働参加のあり方を考える視点から、障害者雇用・就労に関する研究方法の展開と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

障害者雇用・就労に関する制度・政策論と支援実践について、関連文献をもとに障害者雇用・就労研究方法の展開と課題を講義し、ディスカッションをおこなう。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のねらい、スケジュールの説明
第2回	近代社会と労働	近代思想と労働について、その認識や発見について整理する
第3回	近代社会と障害者の生活世界	障害者福祉の位置づけについて
第4回	障害者福祉制度・政策体系	歴史的変遷から特質を学ぶ
第5回	障害者福祉制度・政策体系（障害別制度の体系）	障害者福祉制度の特質と課題について
第6回	障害者の就労に関する制度・政策体系（福祉的就労制度）	所謂福祉的就労制度の特質と課題について
第7回	障害者雇用に関する制度・政策体系（雇用促進法と雇用率制度）	雇用促進法の体系と雇用率の特質と課題について
第8回	障害者雇用に関する制度・政策体系（特例子会社制度）	特例子会社制度の特質と課題について
第9回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（福祉サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について
第10回	障害者就労支援に関する制度・政策体系（労働サイドの支援）	障害者就労支援制度の特質と課題について
第11回	障害者就労とソーシャルワーク	IPSの理論と実践
第12回	障害者就労とソーシャルワークの理論	ストレングスモデルの理論と実践
第13回	障害者就労支援とソーシャルワークの実践	「比較優位」の視点による就労支援の実践
第14回	差別禁止法制と割当雇用制度	わが国と諸外国の障害者雇用制度の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外の文献や諸状況を事前に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

眞保智子（2017）『障害者雇用の実務と就労支援「合理的配慮」のアプローチ』日本法令
その他適宜紹介します。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加準備および発言：50％
課題レポート：50％春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

新規科目のため、アンケートは実施しておりません。

【学生が準備すべき機器他】

レポートの執筆、グループワークや報告の際にワード・エクセル・パワーポイントなどを使用する。

【その他の重要事項】

精神保健福祉士として、知的障害のある方、発達障害のある方、精神障害のある方に対する就労支援および生活支援の実践を通じての知識および技能についても紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>若者支援論、障害者雇用

<研究テーマ>

- 1 障害者のキャリアデザイン
- 2 障害者・若者・高齢者・女性雇用に関する諸問題
- 3 企業における精神科ソーシャルワーク

【Outline and objectives】

In this class, I will give a lecture on current issues and progress of policy for persons with disabilities. As described in the seminar title, students will mainly learn the framework for disability studies, not just welfare perspectives. At the seminar We will discuss Well-being for all people, whether they are disabled or not disabled.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅰ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおけるクライアント理解の視点を学ぶ。

【到達目標】

現代社会における生活問題の特質を説明できる。
クライアントの人格発達に影響を及ぼす諸要因を理解し、援助モデルを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、生活を既定する諸要因ごとに、それらが人間発達および生活問題に及ぼす影響について検討し、次に資本主義社会における現代生活の一般的な問題状況の把握を試みる。さらに、グローバリゼーションという視点から再度現代社会における社会問題、およびそれによる生活問題という視点からその特質を捉え直し、そこに求められる社会福祉援助について考察する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開講日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	生活問題論①	経済的規定性
第3回	生活問題論②	生活と人格発達
第4回	生活問題論③	集団と人格発達
第5回	生活問題論④	障害と人格発達
第6回	生活問題論⑤	病と人格発達
第7回	生活問題論⑥	文化とこころ
第8回	生活問題論⑦	文化、宗教とエスニシティ
第9回	生活問題論⑧	個別化と社会化の同時進行
第10回	生活問題論⑨	生活問題の重層性の理解
第11回	グローバリゼーション時代の生活問題①	資本と労働の国際移動
第12回	グローバリゼーション時代の生活問題②	液化化した社会における個人
第13回	グローバリゼーション時代の生活問題③	開発途上国における生活問題
第14回	グローバリゼーション時代の生活問題④とまとめ	世界都市における生活問題とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、毎回資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（40％）
2. 最終レポート（60％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
<研究テーマ>エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduces the perspectives of social work practices for understanding client reality.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民、エスニックマイノリティの現状と反抑圧的实践を学ぶ。

【到達目標】

反抑圧的实践の重要概念を説明できる。
移民、エスニックマイノリティの生活問題と援助者の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

エスニックマイノリティを中心としつつ、マイノリティとよばれる人びとのおかれた状況とそれに対する社会福祉実践について、アメリカを中心として概観し、その上で、近年のマイノリティ援助理論の動向を検討し、その特徴を整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標
第2回	マイノリティについて	マイノリティとは何かー社会・経済的システム、偏見・差別、文化的背景からの検討
第3回	マイノリティに関する研究動向	マイノリティの福祉的課題
第4回	社会福祉実践におけるマイノリティ①	アメリカにおける移民支援の起源
第5回	社会福祉実践におけるマイノリティ②	アメリカにおけるマイノリティ援助の歴史の変遷
第6回	社会福祉実践におけるマイノリティ③	アメリカにおける黒人問題とソーシャルワーク
第7回	社会福祉実践におけるマイノリティ④	日本におけるオールドカマーとニューカマーの生活問題
第8回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論①	ラディカルソーシャルワーク
第9回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論②	エンパワメントアプローチ
第10回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論③	エスニックセンシティブソーシャルワーク
第11回	マイノリティ援助のソーシャルワーク理論④	クリティカルソーシャルワーク
第12回	マイノリティに関する最近の実践動向①	アメリカの事例
第13回	マイノリティに関する最近の実践動向②	日本の事例
第14回	まとめ	ソーシャルワークにおけるマイノリティ支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に紹介した文献・資料などを中心に、該当箇所について復習し、理解を深めておくこと。また、報告を求めることがあるので、報告を担当する際には、入念な準備を行い、プレゼンテーションの予行を終えておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、必要に応じて資料を配布し、後半の文献研究は受講者の関心に沿って文献を選定する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（40％）
2. 最終レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

医療機関・NGOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論
<研究テーマ>エスニック・マイノリティへのソーシャルワーク、外国人労働者の医療・労働・生活問題

【Outline and objectives】

This course introduces the realities of migrants and ethnic minorities in Japan and anti-oppressive practice of social work.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義 I

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークの中核をなす「当事者性」について考究する。

【到達目標】

授業では、受講者とソーシャルワークにおける当事者性の基本事項について共有したうえで、関連する知識を学習し、理論的な側面を含め、当事者理解を深めていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のテーマと受講生の研究テーマを合わせながら、取り扱うテーマを絞り込み、それに関連する文献を収集し、輪読、議論を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	テキスト・文献の紹介と講義の進め方
第 2 回	ソーシャルワークに関する研究動向	論文をととして学習する
第 3 回	ソーシャルワークに関する最近の研究動向	最近の論文をととして学習する
第 4 回	当事者性とは何か	当事者とは何かを理解する
第 5 回	セルフヘルプ・グループに関する研究	先行研究のレビュー
第 6 回	セルフヘルプ・グループに関する最新の研究	先行研究のレビュー
第 7 回	セルフヘルプ・グループに関する文献を用いた検討	先行研究をレビューしながらの討議
第 8 回	セルフヘルプ・グループに関する解釈	先行研究のレビューと課題の探求
第 9 回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の検討	課題について、討議を行う
第 10 回	セルフヘルプ・グループに関する研究課題の設定	先行研究の検討と研究課題設定
第 11 回	セルフヘルプ・グループに関する研究内容の報告	これまでの議論を踏まえた研究内容の報告
第 12 回	当事者と専門職者との関係性	援助関係の検討
第 13 回	当事者と専門職者の関係性とその課題	援助関係とその課題に関する検討を行う
第 14 回	春学期のまとめと議論	「援助」「支援」についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループの理論と展開』中央法規
・石川到覚・久保絃章（1998）『セルフヘルプ・グループ活動の実践』中央法規

【成績評価の方法と基準】

・授業内報告 50%
・課題提出 50%春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の課題や研究の方向性について、積極的にコミュニケーションを図りながら授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、自洗と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>社会福祉援助論、グリーフケア

＜研究テーマ＞ソーシャルワークにおける死別ケア研究、当事者と家族のあり方に関する研究

【Outline and objectives】

This course deals with the basic concepts and principles of social work practices for people with difficulties.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルワークにおける死別ケアに関する研究を理解する

【到達目標】

本講義では、ソーシャルワークにおける援助関係を理解した上で、人が生きるといふことの線上にある「死」について、専門職としてのアプローチの仕方について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

死生にかかわるテーマを設定し、受講者の関心と合わせながら、輪読・議論を行っていく。具体的には、担当教員の専門領域やこれまでの研究から導出されたことを明らかにし、本講義の基盤を形成して行く。その上で、受講者の関心に合わせたテーマを定め、関連する文献等を収集し、報告を行っていく。報告された内容・文献について、提起された課題について議論して行く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、文献紹介
第 2 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実践①	死別に関する研究
第 3 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実践②	悲嘆に関する研究
第 4 回	ソーシャルワークにおける死別とケアの実践③	グリーフケアに関する研究
第 5 回	成年後見と尊厳死①	ドイツにおける事前指示書の概要
第 6 回	成年後見と尊厳死②	事前指示書の法的概要
第 7 回	意思決定支援と尊厳死①	意思決定支援の方法
第 8 回	意思決定支援と尊厳死②	意思決定支援の課題
第 9 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究①	文献読み込み
第 10 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究②	課題検討
第 11 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究③	ディスカッション
第 12 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究④	死生をめぐる感情とケア
第 13 回	死生をめぐるソーシャルワーク研究⑤	専門職の死生観
第 14 回	研究の動向についてのまとめと議論	秋学期を通して学んだことを議論しまとめとする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に提示された文献を通読した上で、論点を洗い出しておくこと。また、報告を求める場合は、単なる発表にならないよう、議論をする準備をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ指定しない。授業の中で話し合い、決定する。

【参考書】

清水哲郎・島蘭進（2010）『ケア従事者のための死生学』

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内報告 50%
- ・課題提出 50%

【学生の意見等からの気づき】

受講生とコミュニケーションをとることが評価されているので、その点を意識して取り組みたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク 明石書店 2011 年

②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性、ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.

③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course introduces the bereavement care in social work practices to students taking this course.

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義 I

宮城 孝

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地域を基盤としたソーシャルワーク（コミュニティソーシャルワーク）の概念、理論、先進的事例の分析を交えて講義する。また、地域福祉に関するネットワーク、システムについて、地域福祉計画の策定方法を交えて講義する。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワークについて、理論的に説明できる
地域福祉のシステムや計画策定の方法について説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

前半では、コミュニティソーシャルワークについての講義と文献解説、先進事例の分析について中心に取り組む。

後半では、地域福祉のネットワーク、システム、地域福祉計画の策定方法について、理論や先進事例についての分析に取り組む。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コミュニティソーシャルワーク	概念と今日的意義
第 2 回	コミュニティソーシャルワーク	理論
第 3 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス①）	個別課題アセスメント
第 4 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス②）	地域アセスメント
第 5 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス③）	アセスメントの統合
第 6 回	コミュニティソーシャルワーク（プロセス④）	プランニング
第 7 回	チームアプローチ	理論と実践
第 8 回	ネットワーク形成	理論と実践
第 9 回	地域福祉システム	内容と事例分析
第 10 回	地域福祉計画①	今日的意義
第 11 回	地域福祉計画②	ニーズ把握の方法
第 12 回	地域福祉計画③	課題の明確化
第 13 回	地域福祉計画④	目標の設定と資源化
第 14 回	地域福祉計画⑤	関連公共施策との連携

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業までに、先行研究や事例に関するレポートをまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）と提出課題の内容（40 %）により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019 年
・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の理論と先進事例－』（中央法規）2018 年

・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の方法と先進事例ー』中央法規,2018 年
・『地域福祉とイノベーション』編集代表、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉ー次代への継承を探るー』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発ー開発的ソーシャルワークの理論とスキル』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000 年

【Outline and objectives】

In this lecture,it attempts to understand the concept,theory of the community social work,also,it improve to analze the case of the community sociai work

SOW500J3

福祉臨床系特殊講義Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：1～3 年次／ 2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、また将来の福祉問題に対応する地域を基盤としたソーシャルワーク実践、地域福祉のシステム、計画策定に関して、先行研究や先進事例をおしで検討する。履修希望者の関心領域に応じてテーマを変えることもある。

【到達目標】

地域を基盤としたソーシャルワーク、地域福祉のシステム形成において、理論的、応用的なレベルで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

先行研究に関する文献のレビューや、先進事例の分析に関してレポートを作成し報告を行う。レポートの報告と個別指導による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	文献・データの選択①	先行研究・先進事例の検討①
第 2 回	文献・データの選択②	先行研究・先進事例の検討②
第 3 回	レポートによる報告①	報告に基づく検討①
第 4 回	レポートによる報告②	報告に基づく検討②
第 5 回	先行研究の選択①	先行研究の検討①
第 6 回	レポートによる報告③	報告に基づく検討③
第 7 回	レポートによる報告④	報告に基づく検討④
第 8 回	前半のまとめ	まとめと今後の目標
第 9 回	先行研究の選択②	先行研究の検討②
第 10 回	レポートによる報告⑤	報告に基づく検討⑤
第 11 回	レポートによる報告⑥	報告に基づく検討⑥
第 12 回	先進事例の選択	事例分析と検討
第 13 回	レポートによる報告⑦	報告に基づく検討⑦
第 14 回	レポートによる報告⑧	報告に基づく検討⑧

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を課したり、自ら課題を設定し、レポートにまとめて報告できるように準備すること。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、レポートの提出と報告内容 60%により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導を行う。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展- 理論と先進事例ー』（編著）中央法規 2019 年
・『地域福祉とファンドレイジングー財源確保の理論と方法ー』（編著）中央法規、2018 年
・『地域福祉のイノベーションーコミュニティの持続可能性の危機に挑む』（編集代表）中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉ー次代への継承を探るー』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規,2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発ー開発的ソーシャルワークの理論とスキルー』（監訳）丸善,2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房,2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣,2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規 2007 年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規,2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規,2000 年

【Outline and objectives】

in this lecture,it attempts to understand the community social work practice,system of community welfare,community welfare planning,through,it improve to analyze the case.

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義 I

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「成熟化社会における豊かな地域社会を創造するための景観政策のあり方」

成熟化社会において、生活の豊かさを醸し出すとともに、地域の個性を演出する上で重要な景観政策への取り組みについて、その歴史的な変遷と近年の取り組みについて、国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】

豊かさを享受できる地域社会を標榜する上での「景観」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第2回	我が国の風景の変遷①	異邦人がみた風景
第3回	我が国の風景の変遷②	風景の乱れ・歪み
第4回	我が国の風景の変遷③	明治から大正時代の風景論
第5回	我が国の風景の変遷④	風景づくりの作法
第6回	海外の風景づくり①	英国でのユートピア
第7回	海外の風景づくり②	西欧でのアメニティ論
第8回	海外の風景づくり③	イタリアの小都市
第9回	海外の風景づくり④	イタリアの農山村
第10回	海外の風景づくり⑤	イタリアの景観政策
第11回	生活景①	中心市街地と郊外住宅地
第12回	生活景②	景観を育む取り組み 金沢大野
第13回	生活景③	景観を育む取り組み 伊勢河崎
第14回	生活景④	生活景と都市計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること（予習は1時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『生活景』日本建築学会編、学芸出版社、2009年
『都市をつくる風景』中村良夫、藤原書店、2010年
『イタリア小さなまちの底力』陣内秀信、講談社、2000年

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（50％）とレポート（50％）によって評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに24年間関わった中で、町家再生活用や震災復興住宅再建に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第707号、2015年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013年

『生活景』（共著）学芸出版社、2009年

【Outline and objectives】

Theme "Landscape policy to create a rich community in maturing society"

In the maturing society, we will examine the historical transition and recent efforts of landscape policy, which is important for directing the individuality of the region, while also enriching the living conditions, and considering it while comparing domestic and overseas.

ARSk500J3

地域・文化系特殊講義Ⅱ

水野 雅男

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ「成熟化社会における文化多様性を享受できる創造都市」
経済効率を追い求めた 20 世紀を経て、21 世紀は個々の多様性を尊重し、文化が生み出す新しい価値を求める「創造都市」を世界各都市が標榜している。創造都市とはどのようなものか、その経済的な側面も考察しながら、取り組まれている政策について国内外を比較しながら検討する。

【到達目標】

21 世紀の新しい都市の在り方としての「創造都市」の果たす役割を「政策」という観点から理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で行うので、講義内容は開講時に受講生と話し合い受講生の問題関心などに合わせて、柔軟に対応していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とスケジュール
第 2 回	創造都市の文化戦略①	文化多様性と社会包摂に向かう創造都市
第 3 回	創造都市の文化戦略②	都市の創造的縮小の時代
第 4 回	創造都市の文化戦略③	創造都市の文化ブランド戦略
第 5 回	創造都市の文化戦略④	アジアの創造産業と都市政策
第 6 回	創造都市への戦略①	アートによるイノベーション
第 7 回	創造都市への戦略②	都市のアイデンティティ創出、創造的産業創生
第 8 回	創造都市への戦略③	文化の空間戦略と都市計画
第 9 回	創造都市への戦略④	国内の創造都市の事例
第 10 回	創造都市への戦略⑤	海外の創造都市の事例
第 11 回	創造都市と観光振興①	地方都市の観光振興
第 12 回	創造都市と観光振興②	観光客を惹きつける街
第 13 回	創造都市と観光振興③	景観まちづくりと交通政策
第 14 回	創造都市と観光振興④	創造都市と雇用創出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテーマに関連する資料に目を通し、明確な問題意識を持って参加すること（予習は 1 時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「創造都市と社会包摂」佐々木雅幸・水内俊雄編、水曜社、2009 年
「創造性が都市を変える」横浜市・鈴木伸治編、学芸出版社、2010 年
「創造都市のための観光振興」宗田好史、学芸出版社、2009 年

【参考書】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（50 %）とレポート（50 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに 24 年間関わった中で、創造都市構築に関する市民活動を企画運営してきた経験を中心に授業で紹介する。

【担当教員の専門分野等】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年
「金沢市中心部における歴史的木造住宅の保全・継承システムに関する研究」日本建築学会論文集第 707 号、2015 年
『地方都市の再生戦略』（共著）学芸出版社、2013 年
『生活景』（共著）学芸出版社、2009 年

【Outline and objectives】

Theme "Creative city that can enjoy cultural diversity in maturing society"

After the 20th century pursuing economic efficiency, the 21st century respects individual diversity and each city in the world advocates "creative city" seeking new value created by culture. While considering what the creative city is and the economic aspect of it, consider the policy being undertaken while comparing domestic and overseas.

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義 I

末武 康弘

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文等で学びます。

【到達目標】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

心理療法の理論、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）、体験的心理療法、フォーカシング指向心理療法に関する理論を原著や論文を受講者の要望をとり入れながら検討します。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	心理療法概説	主要な心理療法の歴史や理論について概説します
第2回	心理療法におけるクライアント中心療法の位置づけ	心理療法の分野全体におけるクライアント中心療法の位置づけを考察します
第3回	クライアント中心療法の歴史	クライアント中心療法の歴史を考察します
第4回	クライアント中心療法の理論①	クライアント中心療法のパーソナリティ理論を考察します
第5回	クライアント中心療法の理論②	クライアント中心療法のセラピー理論を考察します
第6回	体験過程と体験的心理療法①	体験過程の理論を考察します
第7回	体験過程と体験的心理療法②	体験的心理療法の理論を考察します
第8回	フォーカシングと FOT ①	フォーカシングとについて考察します
第9回	フォーカシングと FOT ②	フォーカシングの実際を体験し、議論します
第10回	フォーカシングと FOT ③	フォーカシング指向心理療法について考察します
第11回	困難ケースとクライアント中心療法	対応が困難ケースへのクライアント中心療法の適用について考察します
第12回	ブリセラピー	困難ケースへの対応方法としてのブリセラピーについて考察します
第13回	パーソンセンタードセラピー①	パーソンセンタードセラピーの展開について考察します
第14回	パーソンセンタードセラピー②	パーソンセンタードセラピーの各種の方法について考察します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連する文献（英語文献を含む）を読んで分析し、自分の臨床的見解と照らし合わせる作業が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（50％）、ディスカッションへの参加（50％）をあわせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2019年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【その他の重要事項】

特にありません。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline and objectives】

You learn theories and methods of person-centered therapy, experiential therapy and focusing-oriented therapy.

PSY500J3

臨床心理系 (心理・地域) 特殊講義Ⅱ

末武 康弘

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を検討します。

【到達目標】

心理療法、とくにクライアント中心療法（パーソンセンタードセラピー）やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を専門的に理解することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主にジェンドリンの「パターンを超えて思考する (Thinking beyond patterns)」の講読を通して、クライアント中心療法やフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を探求します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	パーソンセンタードセラピーやフォーカシング指向心理療法の哲学的な基盤を概説します。
第 2 回	Thinking beyond patterns の背景	ジェンドリンの Thinking beyond patterns の背景を考察します。
第 3 回	Thinking beyond patterns 講読①	Thinking beyond patterns, ChapterA-1 を検討します。
第 4 回	Thinking beyond patterns 講読②	Thinking beyond patterns, ChapterA-2 を検討します。
第 5 回	Thinking beyond patterns 講読③	Thinking beyond patterns, ChapterA-3 を検討します。
第 6 回	Thinking beyond patterns 講読④	Thinking beyond patterns, ChapterA-4 を検討します。
第 7 回	Thinking beyond patterns 講読⑤	Thinking beyond patterns, ChapterA-5 を検討します。
第 8 回	Thinking beyond patterns 講読⑥	Thinking beyond patterns, ChapterB-1 を検討します。
第 9 回	Thinking beyond patterns 講読⑦	Thinking beyond patterns, ChapterB-2 を検討します。
第 10 回	Thinking beyond patterns 講読⑧	Thinking beyond patterns, ChapterB-3 を検討します。
第 11 回	Thinking beyond patterns 講読⑨	Thinking beyond patterns, ChapterB-4 を検討します。
第 12 回	Thinking beyond patterns 講読⑩	Thinking beyond patterns, ChapterB-5 を検討します。
第 13 回	Thinking beyond patterns 講読⑪	Thinking beyond patterns, ChapterB-6 を検討します。
第 14 回	まとめ	まとめとふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト Thinking beyond patterns および、関連文献（英語文献を含む）の読解と分析が求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Gendlin, E. T. (1991) Thinking beyond patterns. New York: The Focusing Institute. http://www.focusing.org/gendlin/docs/gol_2159.html

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表（50 %）、ディスカッションへの参加（50 %）を合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度はアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に講義します。

【担当教員の専門分野等】

＜専門分野＞ 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

＜研究テーマ＞ パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

＜主要研究業績＞

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012 年）

③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016 年）

【Outline and objectives】

You learn the philosophical bases on person-centered/focusing-oriented therapy.

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義 I

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義を通して、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について学習します。

【到達目標】

精神医学、精神病理学、精神療法等の基本的知識を備えるとともに、最近の研究動向を調査し、理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学術領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害に対する理解と援助を中心として、講義を行う予定です。精神療法としては、森田療法を軸に扱っていきます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	不安障害における最近の研究動向	最近の論文を通して学習する。
第 3 回	不安障害について	不安障害について具体的に理解する。
第 4 回	不安障害のアセスメント	不安障害のアセスメントについて理解する。
第 5 回	不安障害とその背後にある心理的問題	不安障害の背後にある心理的問題（個人、家族）について文献調査を行う。
第 6 回	不安障害に対する精神療法	最近の不安障害に対する精神療法について文献調査を行う。
第 7 回	不安障害に対する森田療法	森田療法の有効性について文献調査を行う。
第 8 回	不安障害に関する最近の研究動向 1	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う①
第 9 回	不安障害に関する最近の研究動向 2	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う②
第 10 回	不安障害に関する最近の研究動向 3	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う③
第 11 回	不安障害に関する最近の研究動向 4	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う④
第 12 回	不安障害に関する最近の研究動向 5	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑤
第 13 回	不安障害に関する最近の研究動向 6	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑥
第 14 回	不安障害に関する最近の研究動向 7	不安障害に関する最近の研究について文献調査を行う⑦

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

精神医学、精神病理学、精神療法について積極的に文献を読み、幅広く知識を得るように努力すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストはありませんが、参考文献を適宜お知らせします。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %） ディスカッション等への積極的な参加（40 %） 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの研究の流れを基盤として、新たな疑問や関心を個々の研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月）

2)『女性なぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月）

3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法、こころの科学、2009;147:72-78

4) 久保田幹子：森田療法における受容、精神療法、2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, and psychotherapy

PSY500J3

臨床心理系 (病理・発達) 特殊講義Ⅱ

久保田 幹子

配当年次／単位数：1～3 年次／2 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特殊講義Ⅰで学習した内容を基盤として、精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について、さらに学習を進めます。

【到達目標】

精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要な先行研究の概要を理解するとともに、最近の研究動向の概要についても理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学における基礎的研究および学際領域としての精神医学、精神病理学、精神療法等に関する重要かつ先端的な研究動向について講義します。特に、不安障害や森田療法に関する最新の研究動向について、文献講読とディスカッションを通して学習を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	国内外における研究動向について	文献調査を元に理解を深める。
第 3 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 1	先行研究の調査、文献研究①
第 4 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 2	先行研究の調査、文献研究②
第 5 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 3	先行研究の調査、文献研究③
第 6 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 4	先行研究の調査、文献研究④
第 7 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 5	先行研究の調査、文献研究⑤
第 8 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 6	先行研究の調査、文献研究⑥
第 9 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 7	先行研究の調査、文献研究⑦
第 10 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 8	先行研究の調査、文献研究⑧
第 11 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 9	先行研究の調査、文献研究⑨
第 12 回	不安障害とその援助、森田療法に関する最近の研究動向 10	先行研究の調査、文献研究⑩
第 13 回	研究動向のまとめ 1	最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る①
第 14 回	研究動向のまとめ 2	最近の研究概要を理解し、今後必要な研究テーマを探る②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内のみならず、海外の研究を理解するために、先行研究を主体的に探り、その内容を学習すること。独創的な研究テーマを探るために、幅広く知識を得ること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

参考文献を適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60 %）、ディスカッション等への積極的な参加（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

先行研究の学習や先端の研究動向の調査を基盤に、さらに個々の関心や疑問を掘り下げ、研究につなげられるように指導したい。

【その他の重要事項】

医療現場における臨床の実務経験があります。臨床経験を通して、皆さんの研究に関する問題提議・論文構想に関してアドバイスを行っていきます。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

森田療法、比較心理療法、心理検査法

<研究テーマ>

女性の心理的危機、強迫性障害に対する森田療法、比較心理療法など

<主要研究業績>

1)『森田療法で読む強迫性障害』（共著書・編者、東京、白揚社、2015 年 3 月）

2)『女性はずなぜ生きづらいのか』（共著書、東京、白揚社、2018 年 8 月）

3) 久保田幹子：対人恐怖の森田療法。こころの科学, 2009;147:72-78

4) 久保田幹子：森田療法における受容。精神療法, 2013;39(6):12-17

【Outline and objectives】

Latest and important developments in the study of psychiatry, psychopathology, psychotherapy based on a foundation built in Special Lecture I.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

伊藤 正子

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士学位論文の作成に向けて、論文構想を固めることを目的とする。

【到達目標】

テーマにそって必要な先行研究のレビュー、研究方法を確定し、研究計画書を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、各自の研究関心を明確することから始め、次に、先行研究のレビューを隣接領域も含めて丁寧に行う。さらに、春学期中に研究課題を絞り込み、秋学期に入ってから、研究目的を明確化するとともに、研究構想の基盤を作り上げ、研究計画書の作成に取り組む春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	春学期目標の明確化
第2回	研究関心の明確化①	研究関心の列挙
第3回	研究関心の明確化②	研究関心のグループ化
第4回	研究関心の明確化③	グループ化された関心への命名
第5回	研究関心の明確化④	各関心におけるキーワードの抽出
第6回	先行研究のレビュー①	隣接領域の文献研究
第7回	先行研究のレビュー②	関連領域の文献研究
第8回	先行研究のレビュー③	隣接領域の論文研究
第9回	先行研究のレビュー④	関連領域の論文研究
第10回	研究課題の絞り込み①	オリジナリティの検討
第11回	研究課題の絞り込み②	実践的意義の検討
第12回	研究課題の絞り込み③	データ収集可能性の検討
第13回	研究課題の絞り込み④	研究実施フィールドの検討
第14回	研究課題の絞り込み⑤	研究仮説の検討
第15回	中間総括	明確化されたことの確認
第16回	オリエンテーション	秋学期目標の明確化
第17回	研究目的の明確化①	研究の具体的目的の列挙
第18回	研究目的の明確化②	学術的な意義による絞り込み
第19回	研究目的の明確化③	独創性に基づく絞り込み
第20回	研究目的の明確化④	予想される結果の検討
第21回	研究構想の基盤作り①	研究仮説の明確化
第22回	研究構想の基盤作り②	研究手法（量的、質的等）の検討
第23回	研究構想の基盤作り③	データ収集方法の検討
第24回	研究構想の基盤作り④	データ分析方法の検討
第25回	研究計画書の作成①	研究実施体制の検討
第26回	研究計画書の作成②	研究実施フィールドの確認
第27回	研究計画書の作成③	研究対象者の確認
第28回	まとめ	データ収集のスケジュール検討とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回報告を求めるので、担当する報告内容については、入念な準備を行っておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点（60％）
2. 研究計画書（40％）春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

医療機関・NPOソーシャルワーカー、および福祉計画策定委員経験のある教員が、社会問題および社会福祉援助の実践について解説する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 社会福祉援助論、多文化ソーシャルワーク論

<研究テーマ> マイノリティ・解放に関わるソーシャルワーク、エスニック・マイノリティの生活問題

【Outline and objectives】

This course enhances the development of student's skills in consolidation the paper conception to prepare a doctoral thesis.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

佐藤 蘭美

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士學位論文の作成に向けて、専門的な研究手法、先行研究のレビュー、研究課題や研究対象の設定など、論文執筆に向けた研究指導を行う。

【到達目標】

博士論文作成に必要な知識や専門的技術の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の関心領域、研究テーマに応じて、先行研究のレビュー、仮説および研究方法の検討などについて個別指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	博士論文執筆に向けたスケジュールの検討
第 2 回	関心領域・テーマの検討 1	関心に沿った課題設定 1
第 3 回	関心領域・テーマの検討 2	関心に沿った課題設定 2
第 4 回	関心領域・テーマの検討 3	関心に沿った課題設定 3
第 5 回	関心領域・テーマの検討 4	関心に沿った課題設定 4
第 6 回	先行研究のレビュー 1	先行研究の探索と検討 1
第 7 回	先行研究のレビュー 2	先行研究の探索と検討 2
第 8 回	先行研究のレビュー 3	先行研究の探索と検討 3
第 9 回	先行研究のレビュー 4	先行研究の整理と報告 1
第 10 回	先行研究のレビュー 5	先行研究の整理と報告 2
第 11 回	研究テーマの仮説検討 1	先行研究の精査と問題の明確化 1
第 12 回	研究テーマの仮説検討 2	先行研究の精査と問題の明確化 2
第 13 回	研究テーマの仮説検討 3	先行研究の精査と問題の明確化 3
第 14 回	春学期の総括	春学期の内容を総括し、夏季のフィールドワークや調査に関する指導
第 15 回	オリエンテーション	論文執筆スケジュールの確認
第 16 回	夏季課題報告	夏季に行ったフィールドワーク及び調査結果についての報告
第 17 回	研究方法の検討 1	論文で用いる研究方法の検討 1
第 18 回	研究方法の検討 2	論文で用いる研究方法の検討 2
第 19 回	研究方法の検討 3	論文で用いる研究方法の検討 3
第 20 回	研究方法の検討 4	論文で用いる研究方法の検討 4
第 21 回	探索的調査の検討	調査に向けての課題整理
第 22 回	探索的調査の実施 1	調査の実施 1
第 23 回	探索的調査の実施 2	調査の実施 2
第 24 回	調査結果の検証 1	調査の実施と成果の検証 1
第 25 回	調査結果の検証 2	調査の実施と成果の検証 2
第 26 回	調査結果の検証 3	調査の実施と成果の検証 3
第 27 回	論文構想の明確化	探索的調査をふまえた研究内容の修正と論文執筆に向けた研究内容の明確化
第 28 回	1 年間の成果まとめ	これまでの総括と今後の展望の議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自らの研究テーマに関連する国内外の先行研究について丁寧に整理し、各回の指導において報告できるよう準備すること本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて適宜紹介する

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

①演習への参加姿勢 20 % ②課題提出 40 % ③論文構想発表会 40 % 春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

論文の完成に向け、受講生の困りごとや研究の方向性について話し合いながら、授業を改善していきたい。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、実践と理論の融合について教示していく。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞ソーシャルワーク論、死別ケア

＜研究テーマ＞

- ・ソーシャルワークにおける死別ケアと ACP
- ・セルフヘルプ・グループ論（特に自閉症者と家族）

＜主要研究業績＞

- ①自閉症の人の死別経験とソーシャルワーク. 明石書店 2011 年
- ②医療ソーシャルワーカーと精神保健福祉士のグリーフとその対応：共通性と相違性. ホスピスケアと在宅ケア 25(1)2017.
- ③アドバンス・ケア・プランニング先進国の状況とわが国における課題. 医療ソーシャルワーク 67 号.2019

【Outline and objectives】

This course focuses especially on to examine the knowledge, the theme, the research method, the research hypotheses, in order to write a doctoral dissertation.

SOW700J3

人間福祉特別演習 I

水野 雅男

配当年次／単位数：1 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各自が関心を持っている分野に即して、博士論文作成に必要な考え方や手法について実践的に学ぶ。

各自の関心分野に応じて、先行研究のレビューを重ねながら研究仮説とテーマを組み立てる。さらに、仮説に応じた実証方法を検討し、研究構成を組み立てる。

【到達目標】

博士論文作成の技術を習得するようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

履修生の関心分野に沿って、履修生と相談の上、指導助言のスケジュールと方法を決定する。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとりまう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	論文作成計画の検討①	論文作成方法とスケジュール①
第2回	論文作成計画の検討②	論文作成方法とスケジュール②
第3回	論文作成計画の検討③	論文作成方法とスケジュール③
第4回	先行研究のレビュー①	先行研究の検索と整理①
第5回	先行研究のレビュー②	先行研究の検索と整理②
第6回	先行研究のレビュー③	先行研究の検索と整理③
第7回	先行研究のレビュー④	先行研究の検索と整理④
第8回	先行研究のレビュー⑤	先行研究の検索と整理⑤
第9回	研究仮説の検討①	研究課題と仮説の設定①
第10回	研究仮説の検討②	研究課題と仮説の設定②
第11回	研究仮説の検討③	研究課題と仮説の設定③
第12回	研究方法の検討①	課題解決の研究手法の抽出①
第13回	研究方法の検討②	課題解決の研究手法の抽出②
第14回	研究方法の検討③	課題解決の研究手法の抽出③
第15回	研究方法の検討④	課題解決の研究手法の抽出④
第16回	研究構成の検討①	研究のフローと章立て①
第17回	研究構成の検討②	研究のフローと章立て②
第18回	研究構成の検討③	研究のフローと章立て③
第19回	データ収集分析①	調査データの分析と考察①
第20回	データ収集分析②	調査データの分析と考察②
第21回	データ収集分析③	調査データの分析と考察③
第22回	データ収集分析④	調査データの分析と考察④
第23回	論文執筆の指導①	各章節の指導助言①
第24回	論文執筆の指導②	各章節の指導助言②
第25回	論文執筆の指導③	各章節の指導助言③
第26回	論文執筆の指導④	各章節の指導助言④
第27回	論文執筆の指導⑤	各章節の指導助言⑤
第28回	論文執筆の指導⑥	各章節の指導助言⑥

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に必要な作業を充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること（予習は1時間程度）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として配付する。

【参考書】

必要に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100％）で評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者と話し合いながら、継続的に改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを活用して、課題などを提示する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネートに24年間関わった経験に基づき、フィールドレベルからの研究テーマの構築について助言する。

【担当教員の専門分野】

都市住宅政策論・地域経営論・市民活動運営論

【主要研究業績】

「被災した住宅の再建に関わる工務店の実態に関する研究」都市計画論文集 Vol.51、2016 年

【Outline and objectives】

Learn practically about the concepts and methods necessary for doctor dissertation preparation in fields that each person is interested in.

Build research hypotheses and themes while reviewing previous research in your field of interest. Study the verification method according to the hypothesis, and construct the research composition.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅰ

宮城 孝

配当年次／単位数：1 年次／ 4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成のための研究デザインを作成し、テーマに関する先行研究のレビューを体系的に行うとともに、自らの研究の目的、対象、研究方法を構築することを目標とする。

【到達目標】

自らの研究テーマについて適切にデザインできる。
研究の内容に対し、適切な研究方法が選択できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマを明確にするために、先行研究のレビューを体系的に行うなどの作業、必要なデータの収集方法などについて指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 21 日～27 日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の対象と目的①	明確化の検討①
第 2 回	研究の対象と目的②	明確化の検討②
第 3 回	研究テーマの設定①	主題の明確化の検討①
第 4 回	研究テーマの設定②	主題の明確化の検討②
第 5 回	研究方法の明確化①	研究方法の検討①
第 6 回	研究方法の明確化②	研究方法の検討②
第 7 回	先行研究のレビュー①	対象の探索と検討①
第 8 回	先行研究のレビュー②	対象の探索と検討②
第 9 回	先行研究のレビュー③	対象の探索と検討③
第 10 回	先行研究のレビュー④	対象の探索と検討④
第 11 回	研究仮説の設定①	視点と仮説の検討①
第 12 回	研究仮説の設定②	視点と仮説の検討②
第 13 回	データの収集方法①	具体的な収集方法の検討①
第 14 回	データの収集方法②	具体的な収集方法の検討②
第 15 回	データの収集方法③	具体的な収集方法の検討③
第 16 回	データの収集方法④	具体的な収集方法の検討④
第 17 回	データの収集方法⑤	具体的な収集方法の検討⑤
第 18 回	データの収集と分析①	分析方法の検討①
第 19 回	データの収集と分析②	分析方法の検討②
第 20 回	データの収集と分析③	分析方法の検討③
第 21 回	データの収集と分析④	分析方法の検討④
第 22 回	考察①	視点と枠組みの検討①
第 23 回	考察②	視点と枠組みの検討②
第 24 回	考察③	内容の検討
第 25 回	論文の作成指導①	論文の構成の検討①
第 26 回	論文の作成指導②	内容の構成の検討②
第 27 回	論文の報告・指導①	内容の検討①
第 28 回	論文の報告・指導②	内容の検討②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業に向けて、課題を設定してレポートや仮論文としてまとめ報告できるように準備すること。準備・復習時間を 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

必要に応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、レポートの提出と報告、その内容 60 %により評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕 地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019 年
・『地域福祉とファンディング－財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018 年
・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性の危機に挑む－』（編集代表）、中央法規、2017 年
・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共編著）中央法規、2015 年
・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）中央法規、2014 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善、2012 年
・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010 年
・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008 年
・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007 年
・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006 年
・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000 年
・『ソーシャルワークと社会開発－開発的ソーシャルワークの理論とスキル－』（監訳）丸善出版、2012 年

【Outline and objectives】

To create reserch paper,it sets reserch design.It does the review of the past reserach paper systematically about the own reserch subject.Then,it makes to build the purpose,the object,the way of its reserch.

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅱ

宮城 孝

配当年次／単位数：2 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成を目標として、特に先行研究のレビュー、仮説の設定、オリジナル・データの収集と分析方法等進行状況に応じて適宜研究指導を行う。

【到達目標】

得られたデータを適切な研究方法を用いて分析し、論理的に論文を執筆することができる。

研究の意義と今後の課題を自覚できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

個別的な研究指導による。研究指導では、研究方法の内容、データの収集・分析の方法と結果、論理化などの妥当性、信頼性などについて研究テーマに応じて研究を進めるための助言指導を行う。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	前期の目標とスケジュール
第2回	研究指導	先行研究のレビュー①
第3回	研究指導	先行研究のレビュー②
第4回	研究指導	先行研究のレビュー③
第5回	研究指導	仮説の設定①
第6回	研究指導	仮説の設定②
第7回	研究指導	仮説の設定③
第8回	研究指導	研究方法の検討①
第9回	研究指導	研究方法の検討②
第10回	研究指導	研究方法の検討③
第11回	研究指導	研究方法の検討④
第12回	研究指導	データの収集方法①
第13回	研究指導	データの収集方法②
第14回	研究指導	データの収集方法③
第15回	前期総括	データの収集方法④
第16回	オリエンテーション（後期の目標とスケジュール）	データの分析方法①
第17回	研究指導	データの分析方法②
第18回	研究指導	データの分析方法③
第19回	研究指導	データの分析方法④
第20回	研究指導	論理化①
第21回	研究指導	論理化②
第22回	研究指導	論理化③
第23回	研究指導	論理化④
第24回	研究指導	文章化①
第25回	研究指導	文章化②
第26回	研究指導	文章化③
第27回	研究指導	文章化④
第28回	研究指導	文章化⑤

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の研究指導までに、課題について事前にレポート等にまとめておくこと。準備・復習時間を4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜必要に応じ指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点40％と研究の報告内容60％によって評価を行う。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート未実施

【その他の重要事項】

講師は、社会福祉協議会にて実務経験を有しており、本授業では、その経験を活かして適宜助言指導することとする。

【担当教員の専門分野等】

〔専門領域〕地域福祉方法論

〔主要研究業績〕

- ・『コミュニティソーシャルワークの新たな展開－理論と先進事例－』（編著）中央法規、2019 年
- ・『地域福祉とファンドレイジング－財源確保の方法と先進事例－』編著、中央法規、2018 年
- ・『地域福祉のイノベーション－コミュニティの持続可能性に挑む－』編著、中央法規、2017 年
- ・『東日本大震災と地域福祉－次代への継承を探る－』（共著）編集代表、中央法規、2015 年
- ・『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』（共著）、中央法規、2015 年
- ・『ソーシャルワークと社会開発』（監訳）丸善出版、2012 年
- ・『地域福祉の理論と方法』（共著）ミネルヴァ書房、2010 年
- ・『コミュニティとソーシャルワーク』（編著）有斐閣、2008 年
- ・『地域福祉と民間非営利セクター』（編著）中央法規、2007 年
- ・『新版 地域福祉事典』（編集幹事）日本地域福祉学会、中央法規、2006 年
- ・『イギリスの社会福祉とボランティアセクター』中央法規、2000 年

【Outline and objectives】

It advices the creating of research paper.specially,the way of research such as the setting of hypothesis,the analysis of the appropriate data,

SOW700J3

人間福祉特別演習Ⅲ

末武 康弘

配当年次／単位数：3 年次／4 単位

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけます。

【到達目標】

臨床心理学領域の博士論文を作成するための専門知識、高度な研究方法、論文執筆の力を身につけることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」と「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

特別演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、臨床心理学領域の博士論文を作成するための指導を行います。なお、指導の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月21日～27日までの該当の曜日とし、この日まで具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	博士論文提出のための計画の確認	博士論文作成の年度計画確認
第2回	先行研究の探索と検討 1	最新の先行研究を探索
第3回	先行研究の探索と検討 2	最新の先行研究を収集
第4回	先行研究の探索と検討 3	最新の先行研究を分析
第5回	先行研究の探索と検討 4	最新の先行研究を検討
第6回	先行研究の探索と検討 5	最新の先行研究を精査
第7回	研究デザインと研究方法の検討 1	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを再検討
第8回	研究デザインと研究方法の検討 2	特別演習Ⅱで確定した研究デザインを洗練
第9回	研究デザインと研究方法の検討 3	特別演習Ⅱで確定した研究方法を再検討
第10回	研究デザインと研究方法の検討 4	特別演習Ⅱで確定した研究方法を洗練
第11回	研究デザインと研究方法の検討 5	特別演習Ⅱで確定した研究デザインと研究方法を洗練
第12回	博士論文の構成の検討 1	博士論文の構成の整合性を検討
第13回	博士論文の構成の検討 2	博士論文の構成を洗練
第14回	博士論文予備登録の指導	博士論文予備登録のための指導
第15回	博士論文完成の指導 1	博士論文を仕上げるための指導
第16回	博士論文完成の指導 2	博士論文のテーマの妥当性の指導
第17回	博士論文完成の指導 3	博士論文の論述形式の妥当性の指導
第18回	博士論文完成の指導 4	博士論文の論理的整合性の指導
第19回	博士論文完成の指導 5	博士論文の論述内容の妥当性の指導
第20回	博士論文完成の指導 6	博士論文の研究倫理の検討
第21回	博士論文完成の指導 7	博士論文のオリジナリティの検討
第22回	博士論文完成の指導 8	博士論文の社会的意義の検討
第23回	博士論文完成の指導 9	博士論文の学術的意義の検討
第24回	博士論文完成最終指導 1	博士論文を仕上げるため最終的な指導
第25回	博士論文完成最終指導 2	最終的な論述形式の指導
第26回	博士論文完成最終指導 3	最終的な論述内容の指導
第27回	博士論文審査に向けた指導	博士論文審査に向けた指導
第28回	博士論文発表に向けた指導、まとめ	博士論文発表に向けた指導とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士論文作成のための研究活動（文献や先行研究の収集と分析、研究方法の学習、データの収集と分析、博士論文の執筆等）が必要です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文の執筆過程（40％）と論文の内容（60％）で評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の意見から、より各自の研究意図に沿った指導を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、具体的に指導します。

【担当教員の専門分野等】

<専門分野> 臨床心理学、カウンセリング・心理療法

<研究テーマ> パーソンセンタードセラピーおよびフォーカシング指向心理療法の理論的・実践的研究

<主要研究業績>

① The clinical significance of Gendlin's process model.(Person-Centered and Experiential Psychotherapies, 9(2), 2010)

② 『エビデンスにもとづくカウンセリング効果の研究』（監訳、岩崎学術出版社、2012年）

③ 『「主観性を科学化する」質的研究法入門』（共編著、金子書房、2016年）

【Outline and objectives】

You learn the high-level knowledge, research method, ability to write a doctoral dissertation in clinical psychology.

HSS500I1

スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下 訓光、瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を学ぶために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業開始日】5月7日（木）5限

授業の前半はスポーツ医科学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医科学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。後半はスポーツ医科学領域の先端的知見・研究成果について学習しつつ、修士論文作成に必要な学術論文の構造（literature review, statement of problem, research question (s), hypothesis, delimitation, limitation）について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜
2 回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医科学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3 回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系の概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4 回	医科学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医科学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ2乗検定、2群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5 回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌
6 回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B細胞、T細胞、サイトカイン、炎症
7 回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックスとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿

8 回	生体エネルギー論 【担当：木下】	ヒトの動きのメカニズムを分子・細胞レベルから理解し、生体におけるエネルギーの発生機序・消費効率の観点からスポーツパフォーマンスを分析する。 【keyword】 ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、酸素消費、エネルギー消費、運動効率、競技パフォーマンス
9 回	エリートアスリートの生理学的評価 【担当：木下】	スポーツパフォーマンス（特に持久系）を評価する重要な生理学的指標について、定義・方法論・意義について学ぶ。 【keyword】 最大酸素摂取量、クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10 回	身体組成の医科学 【担当：木下】	身体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンボネントモデル、DXA、BIA
11 回	エネルギー代謝と疾病・健康・パフォーマンス 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、肥満、減量の機序などの臨床的応用について学習する。 【keyword】 肥満、基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリーメーター
12 回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	スポーツ栄養の話題（いわゆるサブリメントの効果の真偽や、競技力向上における三大栄養素の役割など）に関して、最新のエビデンスに基づき学習する。また不十分な栄養摂取に関連して発生する臨床的問題についても学習する。 【keyword】 エルゴジェニックエイド、Low energy availability、貧血
13 回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義・パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック
14 回	身体活動量の医科学 【担当：木下】	身体活動の臨床的意義について理解し、運動を医療に活用するための理論的背景・手法について学習する。 【keyword】 身体活動量、運動疫学、生活習慣病、予防医学、運動療法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業（瀬戸担当部分）では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。後半の授業（木下担当部分）においては、指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

シンプル生化学【改訂第6版】、監修：林典夫・廣野治子、南江堂、2014年
“Exercise Physiology (10th Edition)” Powers, S. F. and Howley, E. T. McGraw Hill, 2017. ※研究室収蔵

各回のテーマに応じて必要な文献を適宜提示する。

【後半の授業（木下担当部分）】 テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半（瀬戸担当部分）においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容をS～Dまで評定し、これを点数化して平均したものを前半（瀬戸担当部分）の点数とする。後半（木下担当部分）においては、以下の通りである。授業内で課題を課す場合がある。関連してレポート作成を求める場合がある。また授業内で試験を行う場合がある。試験を行う場合は筆記試験または口頭試験で行う。課題の達成度、レポートの内容、試験の結果などを総合評価して点数化し、後半（木下担当部分）の点数とする。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を検討すべき意見なし

【その他の重要事項】

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかねば学習目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

【Outline and objectives】

The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅲ

山本 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2 年次
 備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマに関する世界を概観する。とりわけメディアの特性や環境を分析し、スポーツとメディアの関係に焦点を絞って、見識を深める。そのためには社会の構造、そこを統御する規範、歴史を知っておかなければならない。

【到達目標】

スポーツ世界を構成する要素の中で、アスリートの周りに展開する肉体やボールの描くベクトルを除けば、勝敗を規定するのは政治・経済・社会であったりする。

研究テーマの周辺で；
 勝ち負けに影響を与える「政治」がどう関わっているのかの把握。
 「経済」はどこにどう影響を及ぼしているかの理解。
 人々の声や環境の変化、すなわち「社会」がスポーツをどう動かすのかの認識。
 それぞれを単体で調べ上げるのではなく、お互いの関係を多層的に縦覧し、スポーツを突き動かす要件の何がどう関わっているかを調べ上げ、それを研究に還元する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

小さなテーマを複数取り出し、その関連をスポーツ世界から抽出してもらう。小さなスケールで始め、やがて大きなうねりが発見できるように、次第に視野を広げる演習とする。少人数ゆえ、担当教員の研究室を利用し、受講生と日程調整をして実施する。シラバスの記載をベースにししながら、研究の進捗に合わせて柔軟に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス：研究するスポーツの個性と周辺環境の洗い出し	自ら取り上げたテーマに関連するスポーツを軸に、類似スポーツの周辺環境を含めてその特性を調べる。
2	スポーツの基礎Ⅰ：当該スポーツと政治	テーマに関わるスポーツの成り立ちや栄枯盛衰に与った因子を、国内・国外を問わず、広い視野から調べてトピックを拾い出す。
3	スポーツの基礎Ⅱ：当該スポーツと経済	当該スポーツが経済的側面からどのような環境に置かれているのか。他のスポーツとも比較しながらその特徴を把握する。
4	スポーツの基礎Ⅲ：当該スポーツと社会	人気、知名度、環境への負荷。社会の中でどのように見られ、取り込まれているのか。見落としがちな側面を分析する。
5	メディアの基礎Ⅰ：メディアとスポーツ	メディアがスポーツをどう取り上げてきたか。メディアのイノベーションも視野に入れながら評価する。
6	メディアの基礎Ⅱ：メディア需要の変化とメディアの変身	社会の中のメディアの受け止められ方と、それによって姿を変えたスポーツの対応を探る。
7	メディアの基礎Ⅲ：ニューメディアに関わるスポーツ	SNS を初めとする、社会メディアとスポーツの関わり方。
8	先行研究調査：研究テーマにかかる先行研究調査	過去から直近までの先行研究の分析と評価。と国海外の研究にも焦点を当てる。
9	スポーツとメディアⅠ：スポーツに触手を伸ばしたメディア	メディアが取り上げた、当該スポーツの歴史と見られ方。
10	スポーツとメディアⅡ：スポーツとメディアの反目	視聴者、読者に対する影響力を失い始めていく。
11	スポーツとメディアⅢ：スポーツとメディアのコラボレーション	メディアスポーツと言われるジャンルが、競技スポーツの中でも幅をきかせている。スポーツとメディアの協力関係をさまざまなスポーツに見る。
12	テーマの周囲を見るⅠ：研究テーマと素材の分析①	研究テーマの周辺で過不足なく情報を収集しきっているか確認する。

- 13 テーマの周囲を見るⅡ：研究テーマと素材の分析② 研究テーマの当事者が 2 以上の場合には、第 2 の当事者周辺の情報収集の経過を確認する。
- 14 講義内小論文：講義内で研究テーマ周辺の課題に関して設問を用意し論文で答える。 研究を進める上で十分な準備ができたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は少なくとも 2 時間は必要。研究を遂行する上では、間断なく視野を広げることが求められる。随時、海外の現況をもとに新たな情報を演習内で披露してもらう。

【テキスト（教科書）】

使用せず。そのときに応じて、メディアの論調、映像、書籍などを素材に取り上げる。

【参考書】

「放送研究と調査」NHK 放送文化研究所（月刊誌）
 「調査情報」TBS（隔月刊）
 「21 世紀スポーツ大事典」大修館書店

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習の中での完成度を全体の 70 %。
 最終授業日の授業内小論文を 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

海外文献の検索など、これまでに以上に視野を広げた演習とする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

プロジェクターとスクリーンを用意し、そこに今を確かめられる情報を投影しながら授業を進める。
 放送界で 32 年間の実務経験あり。放送関係者とは NHK、民法を問わず濃いコンタクトを続けている。研究のアシストとなるようなアレンジメントを適用し、受講者の教育に資するつもりである。

【Outline and objectives】

Surveying the world around the theme of your study. On the way to getting adequate insight, you should analyze the distinctive nature and environment of the media world focusing on sports-media relations. To climb up on the observatory, you should have knowledge of its norm and history.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅲ

瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：2 年次
備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①修士論文作成に必要な研究計画を実施するための能力の習得
- ②調査・分析の実施

【到達目標】

- ① 9 月に実施予定の修士論文中間発表会の準備ができる力を身につけること
- ② 研究計画に基づいて修士論文作成に必要なデータの収集を完成させること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

I、II で習得した実験方法を用いてデータの集積をおこない、整理や分析をおこなう。
必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	研究計画の確認と今後の方向性について
2	調査・実験の実施計画の確認	研究計画に基づいた調査・実験の実施のための最終確認
3	結果の整理方法の確認	結果の整理、分析とそれに対するディスカッションの方法の確認
4	論文抄読会/リサーチエスション	リサーチエスションにかかわる抄読会
5	予備実験	予備実験の実施
6	調査・実験の実施	研究計画に基づいた調査・実験の経過報告
7	論文抄読会/統計	使用する統計にかかわる抄読会
8	調査・実験の継続	研究計画に基づいた調査・実験の最終報告
9	結果の整理	結果の整理、分析とそれに対するディスカッション
10	論文抄読会/関連領域	関連領域にかかわる抄読会
11	追加実験の検討	前回までの結果を踏まえた追加実験の検討
12	修士論文作成について	修士論文作成の開始のための講義/剽窃などの違法行為についての講義
13	修士論文中間発表会への対応	修士論文中間発表会への準備、討議
14	中間発表	研究内容の中間発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連した領域内の文献の精読、資料作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適時必要な文献などを提示する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50 %）
口頭試問（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし
教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。
そのため現場で求められるものを授業に展開可能である。

【Outline and objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

- 1: acquire the ability to implement the research plan necessary for master's thesis
- 2: conduct research and analysis.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅳ

山本 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究テーマの進捗状況に応じて、周辺の情報整理、調査の正確性、統計の適正摘要、インタビューの分類などをチェックしながら、修士論文完成に向けての道をつける。

【到達目標】

完成度の高い修士論文執筆はもとより、そこに時代と土地（「今」「どこで」）、社会環境の反映された論旨が展開できることを目標とする。
そのためには、研究テーマの舞台となる地域の特性をしっかりとわきまえた上での、大所高所からの指摘につなげる。
調査やデータを揺るぎない礎石として持論を繰り広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

研究の進展に伴って、時間を合理的に捻出。調査、研究の段落を迎えるところで、随時、集中的に演習を展開する。
途中経過では、ブロックごとの発表。他の章との整合性確認など、大局観を意識しながら、子細な分析に瑕疵のないことを確認しながら進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	中間報告Ⅰ	論文の章ごとの完成度を上げる。
2	中間報告Ⅱ	論文の章間の整合性を確認する。
3	中間報告Ⅲ	論文の中に現れる彼我の世界観の違いが、統一した論旨を損ねていないか検証する。
4	中間報告Ⅳ	類似論文の論調を分析しながら、自己の研究に照らし合わせて瑕疵を探る。
5	中間報告Ⅴ	複数の章にまたがって、論旨の流れの向かう先を検証する。
6	研究反芻Ⅰ	調査から時間を経過したところで、調査結果に連動する情報を確認する。
7	研究反芻Ⅱ	インタビューの声を改めて洗い出し、2020 東京大会の世論の反応などを参考に改めて研究内容を精査する。
8	研究反芻Ⅲ	2020 東京後の社会の反応（メディアを含め）を概観し、研究に反映させる。
9	校正チェック	論文の中身の検証。
10	情報再確認	データ、情報、調査結果の数値、索引などのチェック。
11	最終チェック	全体を再確認する。
12	プレゼンテーションⅠ	研究成果に基づき、プレゼンテーションを再考する。
13	プレゼンテーションⅡ	研究成果のプレゼンテーションを完成させる。
14	完成前点検	研究全体を改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究のみならず、同時並行で公開される類似分野の論文、書籍には間断なく目を通すこと。本授業の準備学習・復習時間は少なくとも各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前指定は特になし。

【参考書】

研究テーマにしたがって、随時指定し推薦する。

【成績評価の方法と基準】

論文執筆の過程での思考過程、情報選択、調査方法の適性度を検証。これを 20 % とし、論文本編の評価を 80 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

新規対応のため、過去の意見提示はない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

【その他の重要事項】

教員は過去に放送局でスポーツ報道・放送に 32 年間の実務経験あり。オリンピック、W 杯サッカー、冬季競技、甲子園、プロ野球などさまざまなイベント、競技の取材報道経験あり。研究分野がメディアとの間に関連を持つ場合は、人脈、取材方法を含め多様な展開をサポートする。

【Outline and objectives】

Depending on the progress of the theme, the way for the master's thesis would be completed, while checking the neighboring information, the accuracy of the investigation, the appropriate summary of statistics, the classification of the interview.

OTR600I1

スポーツ健康学演習Ⅳ

瀬戸 宏明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：2 年次

備考：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①論文作成に必要な考察力、文章力の強化
- ②修士論文の完成

【到達目標】

- ①得られたデータの分析、それに基づく考察
- ②修士論文の提出
- ③学会発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

これまでに得られた結果を踏まえて、自身のリサーチクエストに対する検証をおこなう。そして先行研究などと比較もおこない修士論文を作成していく。
必要に応じてオンライン授業をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	修士論文完成への方向性の確認
2	結果の総括/リサーチクエストとの関連性	自身のリサーチクエストに対する実験方法の妥当性や結果の信頼性などについての検討
3	結果の総括/今後の発展性	実験、解析のふりかえりと反省、今後への見通しと発展の可能性についての検討
4	結果の考察/学会発表の予演	結果についてのディスカッション/学会の予演
5	学会発表	学会発表をおこなう
6	結果の考察/先行研究との比較	結果についてのディスカッション/先行研究との比較とその意義についてなど
7	結果の考察/検証方法	結果についてのディスカッション/結果の信頼性の具体的な検証の方法についてなど
8	結果の考察/統計手法	結果についてのディスカッション/統計の方法など
9	ディスカッション/解釈	結果についてのディスカッション/結果の解釈について
10	ディスカッション/その他の因子	結果についてのディスカッション/その他の包絡因子などの検討など
11	ディスカッション/limitation	結果についてのディスカッション/研究の限界についてなど
12	ディスカッション/総括	結果についてのディスカッション/結果の総括
13	最終発表の予演	発表内容についての検討
14	修士論文の提示	修士論文の完成形の提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連した領域内の文献の精読、資料作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

論文など適時指定する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文作成までの過程（80 %）

口頭試問（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。
そのため現場で求められるものを授業に展開可能である。

【Outline and objectives】

A purpose of this lecture is to learn the following things

1: improve the thinking and writing skills necessary for writing a master's thesis

2: complete the master's thesis

ADE500N1

近現代デザイン概論

渡邊 眞理

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀初頭に成立した近代建築の意匠を、私たちの生きる時代の表現の様式として、その背後にひそむ原理や体系について究明する。また 21 世紀の現代社会を特質づける新たな建築課題がいかなる様式の変容をうながしているのかも具体的に探る。

【到達目標】

近代建築様式生成の時代的背景について知る。近代建築の建築家と建築作品についての具体的な認識を深める。また現代建築の作品を通じてその新たな建築課題について考察する。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化	持続可能性 と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

レム・コールハースとハンス・オブリストによる「プロジェクト・ジャパン」（平凡社）と八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」を輪読する。両書は 1960 年代にわが国で展開されたメタボリズムが建築デザイン分野の最後のアバンギャルドであるという認識のもとに編集された貴重なインタビュー＋画像＋資料の記録集である。建築、都市デザインからプロダクト・デザインまでが一体的に生成した時代とはどんな時代だったのか。さらに 60 年代だけでなくその前後 30 年をカバーしているので、両書を学習する中でやがてわが国の近代デザインの生成過程があたりだされてくる。なお、下記の授業計画は、授業履修者との協議により変更される場合があるので、あくまでひとつの目安と考えてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（渡辺）	授業スケジュール、読書案内、発表授業について。
2	運動（渡辺）	モダニズムはスクールでなく、ムーブメント（運動）だった。その中でメタボリズムとは何だったのか？
3	磯崎新（発表授業）	磯崎新へのインタビューと磯崎の作品への分析から建築家の思想について考える。
4	タブラ・ラサ（発表授業）	1930-40 年代モダニストはどのような活動をおこなったのか？
5	丹下健三と丹下研究室（発表授業）	戦前からヒロシマまで、丹下健三の果たした役割には一貫性があった。
6	菊竹清訓（発表授業）	スカイハウス、海上都市など菊竹の斬新な発想はどこから生まれたか。
7	メタボリズム 1960（発表授業）	世界デザイン会議のためのポートフォリオを再読する。
8	川添登・大高正人（発表授業）	川添というエディターの果たした役割、大高による坂出入口土地の意味を再考する。
9	東京湾と東京計画 1960（発表授業）	東京湾については丹下健三のプロジェクトがよく知られているが、それだけではなかった。
10	横文彦（発表授業）	横とメタボリズムの関係は何か、横の独自性はどこにあるのか。
11	メタボリズムのレポートリー（発表授業）	メタボリズム概念はどのように展開したのか。
12	黒川紀章トメディアアーキテクト（発表授業）	黒川作品分析とメディアの寵児となった建築家に見る建築家とメディアの関係。

13 榮久庵憲司（発表授業） プロダクト・デザインの分野を開拓した榮久庵の出自。どこから来てどこへ向かったのか。

14 大阪万博（発表授業） それはメタボリズムの祭典でもあった。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代建築および近代建築史に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、模型制作を行なう。敷地図・平面図・立面図・断面図などの図面の分析を行なう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レム・コールハース、ハンス・オブリスト「プロジェクト・ジャパン」平凡社、2011 年

八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」オーム社、2012 年

【参考書】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (20%) と発表授業の評価 (40%+40%)。前半と後半に必ず IAE サーバーにパワーポイントを提出し授業内で発表することが単位認定の条件である。授業を 4 回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでの発表。IAE サーバーの利用、RFC による公開。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計の指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

This course investigates the principles and systems hidden behind architectural design from the early 20th century using language from today's era. In addition we closely examine changing patterns in new architectural themes specific to the modern 21st century.

近現代デザイン概論

渡邊 眞理

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀初頭に成立した近代建築の意匠を、私たちの生きる時代の表現の様式として、その背後にひそむ原理や体系について究明する。また 21 世紀の現代社会を特質づける新たな建築課題がいかなる様式の変容をうながしているのかも具体的に探る。

【到達目標】

近代建築様式生成の時代的背景について知る。近代建築の建築家と建築作品についての具体的な認識を深める。また現代建築の作品を通じてその新たな建築課題について考察する。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化	持続可能性 と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

レム・コールハースとハンス・オブリストによる「プロジェクト・ジャパン」（平凡社）と八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」を輪読する。両書は 1960 年代にわが国で展開されたメタボリズムが建築デザイン分野の最後のアバンギャルドであるという認識のもとに編集された貴重なインタビュー＋画像＋資料の記録集である。建築、都市デザインからプロダクト・デザインまでが一体的に生成した時代とはどんな時代だったのか。さらに 60 年代だけでなくその前後 30 年間をカバーしているので、両書を学習する中でやがてわが国の近代デザインの生成過程があたりだされてくる。なお、下記の授業計画は、授業履修者との協議により変更される場合があるので、あくまでひとつの目安と考えてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（渡辺）	授業スケジュール、読書案内、発表授業について。
2	運動（渡辺）	モダニズムはスクールでなく、ムーブメント（運動）だった。その中でメタボリズムとは何だったのか？
3	磯崎新（発表授業）	磯崎新へのインタビューと磯崎の作品への分析から建築家の思想について考える。
4	タブラ・ラサ（発表授業）	1930-40 年代モダニストはどのような活動をおこなったのか？
5	丹下健三と丹下研究室（発表授業）	戦前からヒロシマまで、丹下健三の果たした役割には一貫性があった。
6	菊竹清訓（発表授業）	スカイハウス、海上都市など菊竹の斬新な発想はどこから生まれたか。
7	メタボリズム 1960（発表授業）	世界デザイン会議のためのポートフォリオを再読する。
8	川添登・大高正人（発表授業）	川添というエディターの果たした役割、大高による坂出入口土地の意味を再考する。
9	東京湾と東京計画 1960（発表授業）	東京湾については丹下健三のプロジェクトがよく知られているが、それだけではなかった。
10	横文彦（発表授業）	横とメタボリズムの関係は何か、横の独自性はどこにあるのか。
11	メタボリズムのレポートリー（発表授業）	メタボリズム概念はどのように展開したのか。
12	黒川紀章トメディアアーキテクト（発表授業）	黒川 の 作品 分析 と メディア の 寵 児 と な っ た 建 築 家 に 見 る 建 築 家 と メ デ ィ ア の 関 係 。

13 榮久庵憲司（発表授業）

プロダクト・デザインの分野を開拓した榮久庵の出自。どこから来てどこへ向かったのか。

14 大阪万博（発表授業）

それはメタボリズムの祭典でもあった。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代建築および近代建築史に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、模型制作を行なう。敷地図・平面図・立面図・断面図などの図面の分析を行なう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レム・コールハース、ハンス・オブリスト「プロジェクト・ジャパン」平凡社、2011 年

八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」オーム社、2012 年

【参考書】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (20%) と発表授業の評価 (40%+40%)。前半と後半に必ず IAE サーバーにパワーポイントを提出し授業内で発表することが単位認定の条件である。授業を 4 回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでの発表。IAE サーバーの利用、RFC による公開。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計論の指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

This course investigates the principles and systems hidden behind architectural design from the early 20th century using language from today's era. In addition we closely examine changing patterns in new architectural themes specific to the modern 21st century.

ADE500N1

近現代デザイン概論

渡邊 眞理

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀初頭に成立した近代建築の意匠を、私たちの生きる時代の表現の様式として、その背後にひそむ原理や体系について究明する。また 21 世紀の現代社会を特質づける新たな建築課題がいかなる様式の変容をうながしているのかも具体的に探る。

【到達目標】

近代建築様式生成の時代的背景について知る。近代建築の建築家と建築作品についての具体的な認識を深める。また現代建築の作品を通じてその新たな建築課題について考察する。

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

歴史と文化：◎ 技術と芸術：○

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化	持続可能性 と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
	◎			○		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

レム・コールハースとハンス・オブリストによる「プロジェクト・ジャパン」（平凡社）と八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」を輪読する。両書は 1960 年代にわが国で展開されたメタボリズムが建築デザイン分野の最後のアバンギャルドであるという認識のもとに編集された貴重なインタビュー＋画像＋資料の記録集である。建築、都市デザインからプロダクト・デザインまでが一体的に生成した時代とはどんな時代だったのか。さらに 60 年代だけでなくその前後 30 年をカバーしているので、両書を学習する中でやがてわが国の近代デザインの生成過程があたりだされてくる。なお、下記の授業計画は、授業履修者との協議により変更される場合があるので、あくまでひとつの目安と考えてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（渡辺）	授業スケジュール、読書案内、発表授業について。
2	運動（渡辺）	モダニズムはスクールでなく、ムーブメント（運動）だった。その中でメタボリズムとは何だったのか？
3	磯崎新（発表授業）	磯崎新へのインタビューと磯崎の作品への分析から建築家の思想について考える。
4	タブラ・ラサ（発表授業）	1930-40 年代モダニストはどのような活動をおこなったのか？
5	丹下健三と丹下研究室（発表授業）	戦前からヒロシマまで、丹下健三の果たした役割には一貫性があった。
6	菊竹清訓（発表授業）	スカイハウス、海上都市など菊竹の斬新な発想はどこから生まれたか。
7	メタボリズム 1960（発表授業）	世界デザイン会議のためのポートフォリオを再読する。
8	川添登・大高正人（発表授業）	川添というエディターの果たした役割、大高による坂出入口土地の意味を再考する。
9	東京湾と東京計画 1960（発表授業）	東京湾については丹下健三のプロジェクトがよく知られているが、それだけではなかった。
10	横文彦（発表授業）	横とメタボリズムの関係は何か、横の独自性はどこにあるのか。
11	メタボリズムのレポートリー（発表授業）	メタボリズム概念はどのように展開したのか。
12	黒川紀章トメディアアーキテクト（発表授業）	黒川作品分析とメディアの寵児となった建築家に見る建築家とメディアの関係。

13 榮久庵憲司（発表授業） プロダクト・デザインの分野を開拓した榮久庵の出自。どこから来てどこへ向かったのか。

14 大阪万博（発表授業） それはメタボリズムの祭典でもあった。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

近代建築および近代建築史に関する参考文献の読書。事例研究の作品を選定し、模型制作を行なう。敷地図・平面図・立面図・断面図などの図面の分析を行なう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レム・コールハース、ハンス・オブリスト「プロジェクト・ジャパン」平凡社、2011 年

八束はじめ「メタボリズム・ネクサス」オーム社、2012 年

【参考書】

授業開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (20%) と発表授業の評価 (40%+40%)。前半と後半に必ず IAE サーバーにパワーポイントを提出し授業内で発表することが単位認定の条件である。授業を 4 回以上無断欠席すると単位認定外となるので注意。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントでの発表。IAE サーバーの利用、RFC による公開。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計論の指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

This course investigates the principles and systems hidden behind architectural design from the early 20th century using language from today's era. In addition we closely examine changing patterns in new architectural themes specific to the modern 21st century.

ADE500N1

環境工学概論

田中 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、エネルギーを使わない生活は考えられない。しかしながら、現在問題となっている地球温暖化の原因が、近年のエネルギー資源の大量消費にあることは明らかである。この授業では、エネルギー問題を考える上での必要な知識を学び、建築関連の業務に生かすことを目的としている。

【到達目標】

一次エネルギーと二次エネルギーの違い、エネルギー統計の読み方、高位発熱量と低位発熱量の違いなどを知ることで、省エネルギー対策を考える際の道筋を自ら考えられるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

遠隔授業とする。当面の間、学習支援システムを利用する形で進め、ネットを通じた授業の配信が可能になれば、そちらに切り替えることを考慮する。

【4月27日のスタート】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地球環境の現状と予測 1	地球環境とりわけ環境異変の現状と予測を映像や資料を使って把握する
2	地球環境の現状と予測 2	地球環境とりわけ環境異変の現状と予測を映像や資料を使って地球規模でとらえるようにする。
3	環境異変の原因	環境異変とその原因を史的に考察する
4	暑さ寒さの4要素 紫外線とオゾンとの関係	気温・湿度・風速・放射熱が人に与える影響 紫外線の特性とオゾン・オゾンホールとの関係 太陽からの光エネルギー（紫外線・可視光線・赤外線）と地球環境異変
5	放射熱 1 赤外線の特性 近赤外線と遠赤外線 空気暖房と放射暖房 夏の西日はなぜ暑く感じる	近と遠赤外線の違い 空気暖房と放射暖房 放射熱源と気密との関係 放射熱線と受熱面との角度が受熱量に与える影響
6	放射熱 2 日射遮熱の原理 窓面遮熱	受熱面の外側遮熱の効果
7	放射熱 3 屋根遮熱	民家の置き屋根における遮熱特性と現代住宅への応用
8	放射熱 4 放射熱源と蓄熱蓄熱の原理	放射熱源と蓄熱の関わりを民家の特性から学び現代への応用を考える 夏
9	放射熱 5 放射熱源と蓄熱 夏夜間冷熱を日中に利用 放射熱 冬日中の熱を夜間に利用 熱伝達と風速 空気層の断熱	放射熱源と蓄熱の関わりを民家の特性から学び現代への応用を考える 冬 放射熱と対流熱の違いを学ぶ
10	調湿 1 結露が起きる原理	結露が起きる原因と対策
11	外部・内部結露 調湿 2 調湿の原理 調湿材の特性	除湿器による除湿原理と調湿材による調湿特性
12	調湿 3 調湿材の特性	調湿素材の特性 「木」 調湿素材の特性 「土」「紙」「畳」
13	通風の原理 1 南北通風	南北通風の原理と応用
14	通風の原理 2 上下通風 考查 地球の進化と環境	上下通風の原理と応用 地球誕生からの環境変化を地球の歴史を通じて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・新聞・雑誌などに載るエネルギー関連の記事には目を通すこと。
- ・各自、自分が消費したエネルギーがどのくらいかを考えておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内の映像と解説を基本とし、テキストを使わずに進める。

【参考書】

特に参考書は指定しないが、地球環境問題に関する総論的な本を読んでおくとうまい。
そのほかは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義によって理解を積み上げていくことを基本とする。平常点 28%、授業内レポート 39%、期末試験 33%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PCによるプレゼンテーションを適時取り入れていくので、プロジェクターを利用する。

【その他の重要事項】

・電力会社で勤務していたので、エネルギー供給者の立場についても述べる。

【Outline and objectives】

A life without using energy is unthinkable. Obviously, however, the cause of the current problem of global warming lies in the recent mass consumption of energy resources. The purpose of the present course is to acquire knowledge necessary to address energy issues and to apply that knowledge to work in the relevant architecture.

ADE500N1
環境工学概論

田中 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、エネルギーを使わない生活は考えられない。しかしながら、現在問題となっている地球温暖化の原因が、近年のエネルギー資源の大量消費にあることは明らかである。この授業では、エネルギー問題を考える上での必要な知識を学び、建築関連の業務に生かすことを目的としている。

【到達目標】

一次エネルギーと二次エネルギーの違い、エネルギー統計の読み方、高位発熱量と低位発熱量の違いなどを知ること、省エネルギー対策を考える際の道筋を自ら考えられるようになることが目標である。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性 と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
◎	○	◎				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

遠隔授業とする。当面の間、学習支援システムを利用する形で進め、ネットを通じた授業の配信が可能になれば、そちらに切り替えることを考慮する。

【4月27日のスタート】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとエネルギーと建築の関わり	エネルギーがネットワークを通して供給されることが、建築に与えた影響について考える。
2	エネルギーの基礎知識【1】	そもそもエネルギーとは何か、『物理』というエネルギーと『建築』などと言うエネルギーとの違いを学ぶ。
3	エネルギーの基礎知識【2】	エネルギー統計の読み方と一次エネルギーと二次エネルギーなどの基礎知識を学ぶ。
4	エネルギーインフラについて	電力・ガスなどのエネルギーが、建築に届くまでの過程を学ぶ。
5	省エネルギーとは何だろうか	省エネルギーという言葉は、世間でも一般的に使われるが、法律ではどのように定義されているかを学ぶ。
6	地球環境問題とエネルギー消費を考える	地球環境問題として温暖化が注目されているが、建築分野にはどの程度の責任があるのかを学ぶ。
7	エネルギー消費の計測を考える	エネルギー消費の現状を把握することが重要であると言われるが、ではどのように計るかを学ぶ。
8	省エネルギーの具体的対策を考える	今までの授業で学んだことを基礎として、実際の対策について学ぶ。
9	冷凍機について考える	住宅を含む建築の省エネルギーを考える上で、冷暖房に使われる冷凍機はエネルギー消費量の多さから考えて重要であるので、冷凍機の原理について学ぶ。
10	その他のエネルギー使用機器について考える	照明器具・家電製品などのエネルギー使用状況を学ぶ。
11	エネルギー自由化について考える	エネルギー自由化の目的と問題点について学ぶ。
12	省エネルギー建築のあり方【1】	これまでどのような対策がとられてきたのかを学ぶ。
13	省エネルギー建築のあり方【2】	今後どのような対策が考えられるかについて学ぶ。
14	考查 今後の展望	持続可能性の観点から、今後の建築のあり方を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・新聞・雑誌などに載るエネルギー関連の記事には目を通すこと。
・各自、自分が消費したエネルギーがどのくらいかを考えておくこと。

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内の映像と配付資料を基本とし、市販のテキストを使わずに進める。

【参考書】

希望者には民家実測のデータをもとに、温熱特性をまとめた私の博士論文「伝統的民家における温熱特性と現代住宅への応用に関する研究」を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義によって理解を積み上げていくことを基本とする。平常点 28%、授業内レポート 39%、期末試験 33%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PC によるプレゼンテーションを適時取り入れていくので、プロジェクターを利用する。

【その他の重要事項】

・電力会社で勤務していたので、エネルギー供給者の立場についても述べる。

【Outline and objectives】

A life without using energy is unthinkable. Obviously, however, the cause of the current problem of global warming lies in the recent mass consumption of energy resources. The purpose of the present course is to acquire knowledge necessary to address energy issues and to apply that knowledge to work in the relevant architecture.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日、エネルギーを使わない生活は考えられない。しかしながら、現在問題となっている地球温暖化の原因が、近年のエネルギー資源の大量消費にあることは明らかである。この授業では、エネルギー問題を考える上での必要な知識を学び、建築関連の業務に生かすことを目的としている。

【到達目標】

一次エネルギーと二次エネルギーの違い、エネルギー統計の読み方、高位発熱量と低位発熱量の違いなどを知ることで、省エネルギー対策を考える際の道筋を自ら考えられるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

遠隔授業とする。当面の間、学習支援システムを利用する形で進め、ネットを通じた授業の配信が可能になれば、そちらに切り替えることを考慮する。

【4月27日のスタート】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとエネルギーと建築の関わり	エネルギーがネットワークを通して供給されることが、建築に与えた影響について考える。
2	エネルギーの基礎知識 【1】	そもそもエネルギーとは何か、『物理』でいうエネルギーと『建築』などと言うエネルギーとの違いを学ぶ。
3	エネルギーの基礎知識 【2】	エネルギー統計の読み方と一次エネルギーと二次エネルギーなどの基礎知識を学ぶ。
4	エネルギーインフラについて	電力・ガスなどのエネルギーが、建築に届くまでの過程を学ぶ。
5	省エネルギーとは何だろうか	省エネルギーという言葉は、世間でも一般的に使われるが、法律ではどのように定義されているかを学ぶ。
6	地球環境問題とエネルギー消費を考える	地球環境問題として温暖化が注目されているが、建築分野にはどの程度の責任があるのかを学ぶ。
7	エネルギー消費の計測を考える	エネルギー消費の現状を把握することが重要であると言われるが、ではどのように計るかを学ぶ。
8	省エネルギーの具体的対策を考える	今までの授業で学んだことを基礎として、実際の対策について学ぶ。
9	冷凍機について考える	住宅を含む建築の省エネルギーを考える上で、冷暖房に使われる冷凍機はエネルギー消費量の多さから考えて重要であるので、冷凍機の原理について学ぶ。
10	その他のエネルギー使用機器について考える	照明器具・家電製品などのエネルギー使用状況を学ぶ
11	エネルギー自由化について考える	エネルギー自由化の目的と問題点について学ぶ。
12	省エネルギー建築のあり方 【1】	これまでどのような対策がとられてきたのかを学ぶ。
13	省エネルギー建築のあり方 【2】	今後どのような対策が考えられるかについて学ぶ。
14	考查 今後の展望	持続可能性の観点から、今後の建築のあり方を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・新聞・雑誌などに載るエネルギー関連の記事には目を通すこと。
- ・各自、自分が消費したエネルギーがどのくらいかを考えておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内の映像と解説を基本とし、テキストを使わずに進める。

【参考書】

特に参考書は指定しないが、地球環境問題に関する総論的な本を読んでおく

と良い。

そのほかは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義によって理解を積み上げていくことを基本とする。平常点 28%、授業内レポート 39%、期末試験 33%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

PC によるプレゼンテーションを適時取り入れていくので、プロジェクターを利用する。

【その他の重要事項】

・電力会社で勤務していたので、エネルギー供給者の立場についても述べる。

【Outline and objectives】

A life without using energy is unthinkable. Obviously, however, the cause of the current problem of global warming lies in the recent mass consumption of energy resources. The purpose of the present course is to acquire knowledge necessary to address energy issues and to apply that knowledge to work in the relevant architecture.

CST500N1

景観デザイン概論

福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、景観デザインに関する様々な概念を学び、公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

【到達目標】

- 1) 景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
- 2) 都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
- 3) 都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(4/21 追記) 受講者は Hoppii に履修仮登録をしてください。また Google Classroom で資料の掲示や課題を掲出しますので登録してください。授業コードは eb3aa3vm です。初回授業 4 / 23 は 8:50 を目処に資料や課題をアップロードします。

(4/17 追記) 本授業は4月23日（木）より開講するが、大学によるオンラインビデオ環境の提供が連休明けとなることから、ZOOM による開講は環境整備が整ってから実施する。そのため、初回は授業支援システム上にアップロードする教材を確認し、指示に従って課題提出等の対応をとること。

(以前の指示)

本授業は4月23日（木）8：50より ZOOM を用いて開講する。受講者は授業支援システムに掲載される URL から参加する。できるかぎりカメラ付きの PC から参加すること。

本科目では、景観デザインに関する考え方を事例を交えて学習する。基本的に講義形式とするが、出題するレポートについて可能な限り授業内の発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について、グループワークによってその主張を確認する
6	グループディスカッション（2）	引き続き、グループワークにより、議論の論点を整理し、それらについて学生自身の意見を整理し、発表する。
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う

13 今後の景観デザインの方 土木・建築といった従来の分野を超えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する

14 まとめ 講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う
- ・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し、授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

景観とデザイン 佐々木葉著・内山久雄編／オーム社

【参考書】

景観用語事典（増補改訂版） 篠原修編／彰国社

その他授業中に適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業における提出物（20%）と2回のレポート（80%）により評価し、総合点60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、グループディスカッションを導入する。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.

景観デザイン概論

福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、景観デザインに関する様々な概念を学び、公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

【到達目標】

- 1) 景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
- 2) 都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
- 3) 都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
-------------	----------------	-------	-----	-------	------	----------------------



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(4/17 追記) 本授業は4月23日（木）より開講するが、大学によるオンラインビデオ環境の提供が連休明けとなることから、ZOOMによる開講は環境整備が整ってから実施する。そのため、初回は授業支援システム上にアップロードする教材を確認し、指示に従って課題提出等の対応をとること。

(以前の指示)

本授業は4月23日（木）8：50よりZOOMを用いて開講する。受講者は授業支援システムに掲載されるURLから参加する。できるかぎりカメラ付きのPCから参加すること。

本科目では、景観デザインに関する考え方を事例を交えて学習する。基本的に講義形式とするが、出題するレポートについて可能な限り授業内の発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について、グループワークによってその主張を確認する
6	グループディスカッション（2）	引き続き、グループワークにより、議論の論点を整理し、それらについて学生自身の意見を整理し、発表する。
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う

11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う
13	今後の景観デザインの方向	土木・建築といった従来の分野を超えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する
14	まとめ	講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う
・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し、授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

景観とデザイン 佐々木葉著・内山久雄編／オーム社

【参考書】

景観用語事典（増補改訂版） 篠原修編／彰国社
その他授業中に適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業における提出物（20%）と2回のレポート（80%）により評価し、総合点60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、グループディスカッションを導入する。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.

CST500N1
景観デザイン概論

福井 恒明

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、景観デザインに関する様々な概念を学び、公共空間における景観デザインプロジェクトの事例についてその内容や考え方を学ぶ。基本的な概念を確認したのちに、いくつかのテーマについてグループディスカッションにより論点を整理する。それらにより今後の都市・建築・環境などの分野における景観デザインの考え方を修得すると共に、自分の専門分野との関係を確認する。

【到達目標】

- 1) 景観デザインの着眼点および分析の基礎を習得する
- 2) 都市環境デザイン／社会基盤分野において良好な景観を形成している事例を知り、評価されている理由を理解する
- 3) 都市環境デザイン／社会基盤において景観デザインが必要とされる理由やその価値観について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連
デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連
デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(4/17 追記) 本授業は4月23日（木）より開講するが、大学によるオンラインビデオ環境の提供が連休明けとなることから、ZOOMによる開講は環境整備が整ってから実施する。そのため、初回は授業支援システム上にアップロードする教材を確認し、指示に従って課題提出等の対応をとること、（以前の指示）

本授業は4月23日（木）8：50よりZOOMを用いて開講する。受講者は授業支援システムに掲載されるURLから参加する。できるときはカメラ付きのPCから参加すること。

本科目では、景観デザインに関する考え方を事例を交えて学習する。基本的に講義形式とするが、出題するレポートについて可能な限り授業内の発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	景観デザインの範疇	景観デザインが取り扱う課題や範疇について確認する
2	景観のとらえ方	景観について考える上で前提となる人間の視覚特性や景観把握モデルについて説明する
3	景観の規範	伝統的な景観・文化的景観の概要について説明する
4	景観の価値	景観が生み出す効果と価値の考え方について説明する
5	グループディスカッション（1）	事前に与えられたテーマ（立場の異なる2者の議論）について、グループワークによってその主張を確認する
6	グループディスカッション（2）	引き続き、グループワークにより、議論の論点を整理し、それらについて学生自身の意見を整理し、発表する。
7	景観デザインの系譜	戦後の景観デザインの流れについて説明する
8	インフラのデザイン	他分野のデザインに比べてインフラストラクチャーのデザインに求められる要件や特徴について説明する
9	水辺のデザイン実践（1）	河川等の水辺のデザイン事例について実務者をゲストを招きデザインの意図や成果について説明を受ける
10	水辺のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う
11	道のデザイン実践（1）	都市空間のデザイン事例について実務者をゲストとして招きデザインの意図や成果について説明を受ける
12	道のデザイン実践（2）	前授業の内容を元に質疑やディスカッションを行う
13	今後の景観デザインの方 向	土木・建築といった従来の分野を超えた地域の持続に貢献する景観デザインの方向性について紹介・議論する

14 まとめ 講義範囲全般を対象としたふりかえりを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回終了後に習得した概念や用語の確認を行う
- ・グループディスカッションの前には事前に配布した資料を十分に確認し、授業当日はすぐにディスカッションに入れるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

景観とデザイン 佐々木葉著・内山久雄編／オーム社

【参考書】

景観用語事典（増補改訂版） 篠原修編／彰国社
その他授業中に適宜紹介します

【成績評価の方法と基準】

授業における提出物（20%）と2回のレポート（80%）により評価し、総合点60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度に引き続き、グループディスカッションを導入する。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、都市環境デザインにおける景観の考え方を実際のプロジェクトにおける適用を踏まえて講義する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn various concepts concerning architecture for infrastructure and environment, and learn the outline and concept of several actual projects. After reviewing basic concepts, group discussions on several themes will be held. Through the course students should acquire the concept of landscape design in urban, architecture and environment fields.

ADE500N1

地域・都市再生概論

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。

当面の4つの柱とは、

- ①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
- ②地方都市の空洞化、衰退への対処
- ③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
- ④景観形成のあり方である。

【到達目標】

当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマの選定、研究成果、プレゼンテーション能力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.

ADE500N1

地域・都市再生概論

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。

当面の4つの柱とは、

- ①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
- ②地方都市の空洞化、衰退への対処
- ③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
- ④景観形成のあり方である。

【到達目標】

当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマの選定、研究成果、プレゼンテーション能力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.

ADE500N1

地域・都市再生概論

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業は、地域・都市再生概論、即ち人口減少社会下における地域・都市整備の課題を捉え、どのように再生していくかに関する視点を学ぶものである。しかしながら、これは大きなテーマであり、かつ漠然としている。当授業では当面、4つの柱を建て、それに関する課題を受講者が見つけ、自らが絞り込んだテーマに対して調査研究を行うといったスタイルをとっていく。

当面の4つの柱とは、

- ①人口減少局面を迎えた、わが国の国土のあり方
- ②地方都市の空洞化、衰退への対処
- ③東日本大震災による復興まちづくり、今後の大規模震災への備え
- ④景観形成のあり方である。

【到達目標】

当授業では、受講者が『自ら絞り込んだテーマについて調査し、一定のまとめを行う』といった出口を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

初回から前半において地域・都市が置かれる状況、これを再生していくための諸制度の概要説明を行う。これらを踏まえ、受講者は自らのテーマ、研究対象地域を選定し、発表して教員との質疑応答を行う。さらにこれらについて深く研究し、全員がこれをPPT等により発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、問題提起 地方都市の状況	広範な地域・都市再生の課題について概観するとともに、当授業で重点的に取り扱う範囲を明らかにする。
2	被災地の状況 制度、予算概要	地方都市の状況、被災地の状況などを紹介し、合わせて地域再生の重要なツールとなる国の制度、予算などを論ずる。
3	研究テーマに関する質疑（1）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
4	研究テーマに関する質疑（2）	受講生は自らのテーマを絞り込むための質疑書を作成し、教員とディスカッションする。
5	地域・都市再生の視点	課題意識が深まった段階を捉え、地域・都市再生の視点を論ずる。課題意識から現実の動きへの橋渡しの考え方である。
6	ディスカッション	以上を踏まえてフリー・ディスカッションを行う。
7	研究テーマと対象都市の発表	受講生全員から研究テーマと対象都市、研究の狙いの発表を受け、必要な質疑を行う。
8	調査・研究、質疑（1）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
9	調査・研究、質疑（2）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
10	調査・研究、質疑（3）	調査・研究を進める。暫時質疑に対応する。
11	研究発表（1）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
12	研究発表（2）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
13	研究発表（3）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。
14	研究発表（4）	自らの研究成果を発表し、教員からの質疑を受ける。プレゼンテーション能力を併せて問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の動きに関心を持つ。新聞など社会性ある情報に接する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特段なし（その都度、紹介する。）

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

テーマの選定、研究成果、プレゼンテーション能力により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報収集、発表用ツールの制作などにPCを用いる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students research problems related to the city they live in, compiling relevant data and presenting it.

ENV500N1

環境技術英語

大友 敬三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・グローバル化の進展に伴い、技術者や研究者には英語による技術情報の表現、文書化等のスキルが求められている。このため、本授業では、建築、都市環境、システムデザイン等の分野を対象として、英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する。

【到達目標】

- ①英語論文の全体構造を理解できる。
- ②英語論文を構成する各セクション（イントロダクション、メソッド、リザルツ、ディスカッション、コンクルージョン、アブストラクト）の骨組みと役割を理解できる。
- ③卒業研究成果等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。
- ④卒業研究成果等を題材として、各セクションの骨組みと役割に沿った簡潔な英語論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業では、履修学生各自の卒業研究成果等を題材として、段階的に英語論文化する。仕上がりは A4 版 4～6 ページを想定する。それに必要な知識やノウハウを習得できるように、以下のように授業を進める。

- (1) 毎回の授業では、指定教科書に基づく各回テーマの解説、履修学生によるタスク演習と発表、宿題等で構成する。
- (2) 第 5 回、第 8 回、第 11 回、第 14 回それぞれの授業では、英語論文ライティング演習に充てる。
- (3) 各回の授業で解説した内容に関して、指定教科書で出題されているタスク（宿題）を課すので、次回授業時に提出（提出にあたっては、教科書のタスクを A4 版に拡大コピーして使う）すること。
- (4) 英語論文分析には、履修学生の研究内容に關係するモデル英語論文 2 編を対象とするので、各自、調査して第 2 回授業時に教員に提出（可能であれば電子化する）するとともに毎回授業時には携帯する。
- (5) 指定教科書以外に英語論文文化に必要な資料等については、必要とする授業回に対応して配布する。

春学期はオンラインでの開講となる。それに伴い、上記 (1)～(5) について、以下のような要領で運用する予定である。

- ・本授業では、オンデマンド型（コンテンツをサーバーに蓄積）でオンライン授業に対応する。
- ・コアとなるオンライン授業ツールは、「学習支援システム」とする。
- ・各回の授業の構成要素（上記 (1)）ごとの「学習支援システム」機能との対応は以下のとおりとする：

- (1) 指定教科書に基づく各回テーマの解説
→「配布資料」機能を使い、ナレーションを含む PowerPoint スライドショー）による。

- (2) 履修学生による授業中タスク演習
→「授業内掲示板」機能を使い、タスクごとのスレッドに演習結果を返信による。

- (3) 宿題（指定教科書で出題されているタスクに関するレポート提出）
→「課題」機能を使い、課題設定とそれに対するレポート等の提出による。本授業の開始日は 4 月 24 日（金）とし、この日までにより具体的なオンデマンド方式による授業運営方法を学習支援システム上に掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の目的や進め方、授業計画等を把握する。 ・英文化対象となる卒業研究成果等を挙げるとともに、分析する英語論文の調査方針を整理する。
2	論文の全体構造	・技術英語論文の基本的な構造を把握する ・英語論文に盛り込む各自の卒業研究成果等の情報を洗い出す。
3	イントロダクション・セクションの骨組み	・イントロダクション・セクションにおいて、話題を絞り込むための骨組みを理解する。

4	イントロダクション・セクションの時制の役割	・イントロダクション・セクションに使われる時制（現在完了、過去、現在）の役割と使い分けを理解する。
5	イントロダクション・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のイントロダクション・セクションに盛り込む情報を整理して、本セクションを英文化する。
6	メソッド・セクションの骨組み	・メソッド・セクションにおいて、概論から詳細に向かって記述するための骨組みを理解する。
7	メソッド・セクションの態と時制の役割	・メソッド・セクションに使われる態（受働態と能動態）とその時制（過去形と現在形）の役割と使い分けを理解する。
8	メソッド・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のメソッド・セクションに盛り込む情報を整理して、本セクションを英文化する。
9	リザルツとディスカッション・セクションの骨組み	・リザルツとディスカッション・セクションにおいて、事実・意見・一般化をそれぞれ記述するための骨組みを理解する。
10	リザルツとディスカッション・セクションの一般化表現	・リザルツとディスカッション・セクションをコンクルージョン・セクションにつなぐための一般化表現を理解する。
11	リザルツとディスカッション・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のリザルツとディスカッション・セクション、コンクルージョン・セクションに盛り込む情報を整理して、これらのセクションを英文化する。
12	アブストラクトの骨組み	・アブストラクトにおいて、論文全体のエッセンスを凝縮するための骨組みを理解する。
13	アブストラクト作成の技術	・アブストラクト作成に必要な英語のロジック・テクニク（パラレリズム）を理解する。
14	アブストラクトのライティングと論文タイトル	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のアブストラクトを英文化するとともに、論文タイトルのつけ方の基本を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★第 1 回_ガイダンス

【準備学習】

- ・本授業のシラバスを読んで、到達目標、授業の進め方・方法、授業計画等を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書タスク 4（宿題）→ モデル論文を調査して、第 2 回授業に提出できるように準備する。（2 時間）

★第 2 回_論文の全体構造

【準備学習】

- ・英語論文文化の対象とする各自の卒業研究成果等について事前に整理する（背景、内容、方法、結果、結論等）。（1 時間）

- ・教科書「第 1 章」を読んで疑問点や不明点を明らかにする。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 1（自習）→ 研究内容の概要について英文化する。（2 時間）

★第 3 回_イントロダクション・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 2 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。（1 時間）

- ・第 3 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 2（宿題）→ モデル論文について、イントロダクションの話の流れ；逆接部を分析する。（1 時間）

- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。（1 時間）

★第 4 回_イントロダクション・セクションの時制の役割

【準備学習】

- ・教科書「第 2 章 2. 時制の役割」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。（1 時間）

- ・第 4 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 3（宿題）→ モデル論文のイントロダクションの逆接と時制を調べる。（1 時間）

- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。（1 時間）

★第 5 回_イントロダクション・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に背景、内容について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、イントロダクション・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 2 (宿題) → 各自の英語論文におけるイントロダクション・セクションを作成する。(2 時間)

★第 6 回_メソッド・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 3 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 6 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 4 (宿題) → モデル論文についてメソッド・セクションの態と使えるような表現を抽出する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 7 回_メソッド・セクションの態と時制の役割

【準備学習】

- ・教科書「第 3 章 2. 態と時制の役割」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 7 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 5 → モデル論文について、メソッド・セクションの態・時制を分析する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 8 回_メソッド・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に方法について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、メソッド・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 3 (宿題) → 各自の英語論文におけるメソッド・セクションを作成する。(2 時間)

★第 9 回_リザルトとディスカッション・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 4 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 9 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 6 (宿題) → モデル論文について、ディスカッション・セクションの構造を分析する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 10 回_リザルトとディスカッション・セクションの一般化表現

【準備学習】

- ・教科書「第 4 章 2. 一般化表現」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 10 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 7 (宿題) → モデル論文について、ディスカッション・セクションの同等・比較と強調等の表現部を抜き書きする。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 11 回_リザルトとディスカッション・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に結果、結論について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、リザルトとディスカッション・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 4 (宿題) → 各自の英語論文におけるリザルトとディスカッション・セクションを作成する。(2 時間)

★第 12 回_アブストラクトの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 5 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 12 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 8 (宿題) → モデル論文について、アブストラクトの構造を調べる。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 13 回_アブストラクト作成の技術

【準備学習】

- ・教科書「第 5 章 2. 英語のロジック」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 13 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 9 (宿題) → モデル論文について、アブストラクトのキイ・リザルト、節から句への書き換え等を抽出する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 14 回_アブストラクトのライティングと論文タイトル

【準備学習】

- ・教科書「第 6 章 1. タイトルをつけよう」を読んで各自の卒業研究成果等の論文タイトルを検討する。(1 時間)
- ・第 5 回、第 8 回、第 11 回の課題で作成した英語論文について全体を通じて読み直し、ブラッシュアップする。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・各自の英語論文を期末レポート課題として提出できるように英文をブラッシュアップする。(2 時間)

【テキスト(教科書)】

- ・「通じる! 科学英語論文・ライティングのコツ」, 尾鍋智子著, 大阪大学出版会, 2015 年, ￥1,980

【参考書】

- ・「最短ルートで迷子にならない! 理工系の英語論文執筆講座」, 西山聖久著, 化学同人, 2019 年, ￥2,640
- ・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい!」, 福田尚代・西山聖久著, 誠文堂新光社, 2016 年, ￥2,200
- ・「英語論文ライティング教本—正確・明確・簡潔に書く技法—(KS 語学専門書)」, 中山裕木子著, 講談社, 2018 年, ￥3,850
- ・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」, 中山裕木子著, 日本工業英語協会, 2009 年, ￥1,980
- ・「英語は「名詞」と「動詞」が 9 割! 速効! 英文ライティング」, 福田尚代著, 日本能率協会マネジメントセンター, 2017 年, ￥1,650

【成績評価の方法と基準】

- ・春学期がオンラインでの開講となったことにともない、以下で示す成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日 4 月 24 日(金)に学習支援システムで提示する。

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末レポート(各自の研究成果等の英語論文)により到達度を測定(点数化)し、100 点満点として総合的に成績評価する(60 点以上が合格)。平常点と期末レポートの配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①英語論文の全体構造を理解できる。→ 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ②英語論文を構成する各セクションの骨組みと役割を理解できる。→ 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ③卒業研究成果等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。→ 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ④卒業研究成果等を題材として、各セクションの骨組みと役割に沿った簡潔な英語論文を作成できる。→ 平常点 10 点+期末レポート 30 点=小計 40 点
- ・平常点には、提出タスクと質疑応答・発表等が含まれる。
- ・期末レポートは、各自の研究成果等の英語論文を指す。
- ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可(評価: D)とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・担当教員は 2020 年度から本授業を担当するため、2020 年度授業アンケート結果等に基づいて授業内容を改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

- ・プリント教材の配布や課題(宿題、各種タスク類)の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ・担当教員は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.

ENV500N1

環境技術英語

大友 敬三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・グローバル化の進展に伴い、技術者や研究者には英語による技術情報の表現、文書化等のスキルが求められている。このため、本授業では、建築、都市環境、システムデザイン等の分野を対象として、英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する。

【到達目標】

- ①英語論文の全体構造を理解できる。
- ②英語論文を構成する各セクション（イントロダクション、メソッド、リザルツ、ディスカッション、コンクルージョン、アブストラクト）の骨組みと役割を理解できる。
- ③卒業研究成果等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。
- ④卒業研究成果等を題材として、各セクションの骨組みと役割に沿った簡潔な英語論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業では、履修学生各自の卒業研究成果等を題材として、段階的に英語論文化する。仕上がりは A4 版 4～6 ページを想定する。それに必要な知識やノウハウを習得できるように、以下のように授業を進める。

- (1) 毎回の授業では、指定教科書に基づく各回テーマの解説、履修学生によるタスク演習と発表、宿題等で構成する。
- (2) 第 5 回、第 8 回、第 11 回、第 14 回それぞれの授業では、英語論文ライティング演習に充てる。
- (3) 各回の授業で解説した内容に関して、指定教科書で出題されているタスク（宿題）を課すので、次回授業時に提出（提出にあたっては、教科書のタスクを A4 版に拡大コピーして使う）すること。
- (4) 英語論文分析には、履修学生の研究内容に關係するモデル英語論文 2 編を対象とするので、各自、調査して第 2 回授業時に教員に提出（可能であれば電子化する）するとともに毎回授業時には携帯する。
- (5) 指定教科書以外に英語論文文化に必要な資料等については、必要とする授業回に対応して配布する。

春学期はオンラインでの開講となる。それに伴い、上記 (1)～(5) について、以下のような要領で運用する予定である。

- ・本授業では、オンデマンド型（コンテンツをサーバーに蓄積）でオンライン授業に対応する。
- ・コアとなるオンライン授業ツールは、「学習支援システム」とする。
- ・各回の授業の構成要素（上記 (1)）ごとの「学習支援システム」機能との対応は以下のとおりとする：

- (1) 指定教科書に基づく各回テーマの解説
→「配布資料」機能を使い、ナレーションを含む PowerPoint スライドショー）による。

- (2) 履修学生による授業中タスク演習
→「授業内掲示板」機能を使い、タスクごとのスレッドに演習結果を返信による。

- (3) 宿題（指定教科書で出題されているタスクに関するレポート提出）
→「課題」機能を使い、課題設定とそれに対するレポート等の提出による。

本授業の開始日は 4 月 24 日（金）とし、この日までにより具体的なオンデマンド方式による授業運営方法を学習支援システム上に掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の目的や進め方、授業計画等を把握する。 ・英文化対象となる卒業研究成果等を挙げるとともに、分析する英語論文の調査方針を整理する。
2	論文の全体構造	・技術英語論文の基本的な構造を把握する ・英語論文に盛り込む各自の卒業研究成果等の情報を洗い出す。
3	イントロダクション・セクションの骨組み	・イントロダクション・セクションにおいて、話題を絞り込むための骨組みを理解する。

4	イントロダクション・セクションの時制の役割	・イントロダクション・セクションに使われる時制（現在完了、過去、現在）の役割と使い分けを理解する。
5	イントロダクション・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のイントロダクション・セクションに盛り込む情報を整理して、本セクションを英文化する。
6	メソッド・セクションの骨組み	・メソッド・セクションにおいて、概論から詳細に向かって記述するための骨組みを理解する。
7	メソッド・セクションの態と時制の役割	・メソッド・セクションに使われる態（受働態と能動態）とその時制（過去形と現在形）の役割と使い分けを理解する。
8	メソッド・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のメソッド・セクションに盛り込む情報を整理して、本セクションを英文化する。
9	リザルツとディスカッション・セクションの骨組み	・リザルツとディスカッション・セクションにおいて、事実・意見・一般化をそれぞれ記述するための骨組みを理解する。
10	リザルツとディスカッション・セクションの一般化表現	・リザルツとディスカッション・セクションをコンクルージョン・セクションにつなぐための一般化表現を理解する。
11	リザルツとディスカッション・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のリザルツとディスカッション・セクション、コンクルージョン・セクションに盛り込む情報を整理して、これらのセクションを英文化する。
12	アブストラクトの骨組み	・アブストラクトにおいて、論文全体のエッセンスを凝縮するための骨組みを理解する。
13	アブストラクト作成の技術	・アブストラクト作成に必要な英語のロジック・テクニク（パラレリズム）を理解する。
14	アブストラクトのライティングと論文タイトル	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のアブストラクトを英文化するとともに、論文タイトルのつけ方の基本を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★第 1 回_ガイダンス

【準備学習】

- ・本授業のシラバスを読んで、到達目標、授業の進め方・方法、授業計画等を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書タスク 4（宿題）→ モデル論文を調査して、第 2 回授業に提出できるように準備する。（2 時間）

★第 2 回_論文の全体構造

【準備学習】

- ・英語論文文化の対象とする各自の卒業研究成果等について事前に整理する（背景、内容、方法、結果、結論等）。（1 時間）

- ・教科書「第 1 章」を読んで疑問点や不明点を明らかにする。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 1（自習）→ 研究内容の概要について英文化する。（2 時間）

★第 3 回_イントロダクション・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 2 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。（1 時間）

- ・第 3 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 2（宿題）→ モデル論文について、イントロダクションの話の流れ；逆接部を分析する。（1 時間）

- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。（1 時間）

★第 4 回_イントロダクション・セクションの時制の役割

【準備学習】

- ・教科書「第 2 章 2. 時制の役割」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。（1 時間）

- ・第 4 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 3（宿題）→ モデル論文のイントロダクションの逆接と時制を調べる。（1 時間）

- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。（1 時間）

★第 5 回_イントロダクション・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に背景、内容について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、イントロダクション・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 2 (宿題) → 各自の英語論文におけるイントロダクション・セクションを作成する。(2 時間)

★第 6 回_メソッド・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 3 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 6 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 4 (宿題) → モデル論文についてメソッド・セクションの態と使えるような表現を抽出する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 7 回_メソッド・セクションの態と時制の役割

【準備学習】

- ・教科書「第 3 章 2. 態と時制の役割」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 7 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 5 → モデル論文について、メソッド・セクションの態・時制を分析する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 8 回_メソッド・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に方法について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、メソッド・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 3 (宿題) → 各自の英語論文におけるメソッド・セクションを作成する。(2 時間)

★第 9 回_リザルトとディスカッション・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 4 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 9 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 6 (宿題) → モデル論文について、ディスカッション・セクションの構造を分析する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 10 回_リザルトとディスカッション・セクションの一般化表現

【準備学習】

- ・教科書「第 4 章 2. 一般化表現」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 10 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 7 (宿題) → モデル論文について、ディスカッション・セクションの同等・比較と強調等の表現部を抜き書きする。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 11 回_リザルトとディスカッション・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に結果、結論について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、リザルトとディスカッション・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 4 (宿題) → 各自の英語論文におけるリザルトとディスカッション・セクションを作成する。(2 時間)

★第 12 回_アブストラクトの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 5 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 12 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 8 (宿題) → モデル論文について、アブストラクトの構造を調べる。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 13 回_アブストラクト作成の技術

【準備学習】

- ・教科書「第 5 章 2. 英語のロジック」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 13 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 9 (宿題) → モデル論文について、アブストラクトのキイ・リザルト、節から句への書き換え等を抽出する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 14 回_アブストラクトのライティングと論文タイトル

【準備学習】

- ・教科書「第 6 章 1. タイトルをつけよう」を読んで各自の卒業研究成果等の論文タイトルを検討する。(1 時間)
- ・第 5 回、第 8 回、第 11 回の課題で作成した英語論文について全体を通じて読み直し、ブラッシュアップする。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・各自の英語論文を期末レポート課題として提出できるように英文をブラッシュアップする。(2 時間)

【テキスト(教科書)】

- ・「通じる！ 科学英語論文・ライティングのコツ」, 尾鍋智子著, 大阪大学出版会, 2015 年, ￥1,980

【参考書】

- ・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」, 西山聖久著, 化学同人, 2019 年, ￥2,640
- ・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい!」, 福田尚代・西山聖久著, 誠文堂新光社, 2016 年, ￥2,200
- ・「英語論文ライティング教本—正確・明確・簡潔に書く技法—(KS 語学専門書)」, 中山裕木子著, 講談社, 2018 年, ￥3,850
- ・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」, 中山裕木子著, 日本工業英語協会, 2009 年, ￥1,980
- ・「英語は「名詞」と「動詞」が 9 割! 速効! 英文ライティング」, 福田尚代著, 日本能率協会マネジメントセンター, 2017 年, ￥1,650

【成績評価の方法と基準】

- ・春学期がオンラインでの開講となったことにともない、以下で示す成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日 4 月 24 日(金)に学習支援システムで提示する。

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末レポート(各自の研究成果等の英語論文)により到達度を測定(点数化)し、100 点満点として総合的に成績評価する(60 点以上が合格)。平常点と期末レポートの配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①英語論文の全体構造を理解できる。→ 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ②英語論文を構成する各セクションの骨組みと役割を理解できる。→ 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ③卒業研究成果等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。→ 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ④卒業研究成果等を題材として、各セクションの骨組みと役割に沿った簡潔な英語論文を作成できる。→ 平常点 10 点+期末レポート 30 点=小計 40 点
- ・平常点には、提出タスクと質疑応答・発表等が含まれる。
- ・期末レポートは、各自の研究成果等の英語論文を指す。
- ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可(評価: D)とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・担当教員は 2020 年度から本授業を担当するため、2020 年度授業アンケート結果等に基づいて授業内容を改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

- ・プリント教材の配布や課題(宿題、各種タスク類)の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ・担当教員は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.

ENV500N1

環境技術英語

大友 敬三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・グローバル化の進展に伴い、技術者や研究者には英語による技術情報の表現、文書化等のスキルが求められている。このため、本授業では、建築、都市環境、システムデザイン等の分野を対象として、英語論文の構成や執筆方法を系統的に学習するとともに英語論文作成を実践する。

【到達目標】

- ①英語論文の全体構造を理解できる。
- ②英語論文を構成する各セクション（イントロダクション、メソッド、リザルツ、ディスカッション、コンクルージョン、アブストラクト）の骨組みと役割を理解できる。
- ③卒業研究成果等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。
- ④卒業研究成果等を題材として、各セクションの骨組みと役割に沿った簡潔な英語論文を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業では、履修学生各自の卒業研究成果等を題材として、段階的に英語論文化する。仕上がりは A4 版 4～6 ページを想定する。それに必要な知識やノウハウを習得できるように、以下のように授業を進める。

- (1) 毎回の授業では、指定教科書に基づく各回テーマの解説、履修学生によるタスク演習と発表、宿題等で構成する。
- (2) 第 5 回、第 8 回、第 11 回、第 14 回それぞれの授業では、英語論文ライティング演習に充てる。
- (3) 各回の授業で解説した内容に関して、指定教科書で出題されているタスク（宿題）を課すので、次回授業時に提出（提出にあたっては、教科書のタスクを A4 版に拡大コピーして使う）すること。
- (4) 英語論文分析には、履修学生の研究内容に關係するモデル英語論文 2 編を対象とするので、各自、調査して第 2 回授業時に教員に提出（可能であれば電子化する）するとともに毎回授業時には携帯する。
- (5) 指定教科書以外に英語論文文化に必要な資料等については、必要とする授業回に対応して配布する。

春学期はオンラインでの開講となる。それに伴い、上記 (1)～(5) について、以下のような要領で運用する予定である。

- ・本授業では、オンデマンド型（コンテンツをサーバーに蓄積）でオンライン授業に対応する。
- ・コアとなるオンライン授業ツールは、「学習支援システム」とする。
- ・各回の授業の構成要素（上記 (1)）ごとの「学習支援システム」機能との対応は以下のとおりとする：

- (1) 指定教科書に基づく各回テーマの解説
→「配布資料」機能を使い、ナレーションを含む PowerPoint スライドショー）による。

- (2) 履修学生による授業中タスク演習
→「授業内掲示板」機能を使い、タスクごとのスレッドに演習結果を返信による。

- (3) 宿題（指定教科書で出題されているタスクに関するレポート提出）
→「課題」機能を使い、課題設定とそれに対するレポート等の提出による。

本授業の開始日は 4 月 24 日（金）とし、この日までにより具体的なオンデマンド方式による授業運営方法を学習支援システム上に掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	・本授業の目的や進め方、授業計画等を把握する。 ・英文化対象となる卒業研究成果等を挙げるとともに、分析する英語論文の調査方針を整理する。
2	論文の全体構造	・技術英語論文の基本的な構造を把握する ・英語論文に盛り込む各自の卒業研究成果等の情報を洗い出す。
3	イントロダクション・セクションの骨組み	・イントロダクション・セクションにおいて、話題を絞り込むための骨組みを理解する。

4	イントロダクション・セクションの時制の役割	・イントロダクション・セクションに使われる時制（現在完了、過去、現在）の役割と使い分けを理解する。
5	イントロダクション・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のイントロダクション・セクションに盛り込む情報を整理して、本セクションを英文化する。
6	メソッド・セクションの骨組み	・メソッド・セクションにおいて、概論から詳細に向かって記述するための骨組みを理解する。
7	メソッド・セクションの態と時制の役割	・メソッド・セクションに使われる態（受働態と能動態）とその時制（過去形と現在形）の役割と使い分けを理解する。
8	メソッド・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のメソッド・セクションに盛り込む情報を整理して、本セクションを英文化する。
9	リザルツとディスカッション・セクションの骨組み	・リザルツとディスカッション・セクションにおいて、事実・意見・一般化をそれぞれ記述するための骨組みを理解する。
10	リザルツとディスカッション・セクションの一般化表現	・リザルツとディスカッション・セクションをコンクルージョン・セクションにつなぐための一般化表現を理解する。
11	リザルツとディスカッション・セクションのライティング	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のリザルツとディスカッション・セクション、コンクルージョン・セクションに盛り込む情報を整理して、これらのセクションを英文化する。
12	アブストラクトの骨組み	・アブストラクトにおいて、論文全体のエッセンスを凝縮するための骨組みを理解する。
13	アブストラクト作成の技術	・アブストラクト作成に必要な英語のロジック・テクニク（パラレリズム）を理解する。
14	アブストラクトのライティングと論文タイトル	・各自の卒業研究成果等を対象とする英語論文のアブストラクトを英文化するとともに、論文タイトルのつけ方の基本を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★第 1 回_ガイダンス

【準備学習】

- ・本授業のシラバスを読んで、到達目標、授業の進め方・方法、授業計画等を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書タスク 4（宿題）→ モデル論文を調査して、第 2 回授業に提出できるように準備する。（2 時間）

★第 2 回_論文の全体構造

【準備学習】

- ・英語論文文化の対象とする各自の卒業研究成果等について事前に整理する（背景、内容、方法、結果、結論等）。（1 時間）

- ・教科書「第 1 章」を読んで疑問点や不明点を明らかにする。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 1（自習）→ 研究内容の概要について英文化する。（2 時間）

★第 3 回_イントロダクション・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 2 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。（1 時間）

- ・第 3 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 2（宿題）→ モデル論文について、イントロダクションの話の流れ；逆接部を分析する。（1 時間）

- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。（1 時間）

★第 4 回_イントロダクション・セクションの時制の役割

【準備学習】

- ・教科書「第 2 章 2. 時制の役割」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。（1 時間）

- ・第 4 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。（1 時間）

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 3（宿題）→ モデル論文のイントロダクションの逆接と時制を調べる。（1 時間）

- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。（1 時間）

★第 5 回_イントロダクション・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に背景、内容について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、イントロダクション・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 2 (宿題) → 各自の英語論文におけるイントロダクション・セクションを作成する。(2 時間)

★第 6 回_メソッド・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 3 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 6 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 4 (宿題) → モデル論文についてメソッド・セクションの態と使えるような表現を抽出する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 7 回_メソッド・セクションの態と時制の役割

【準備学習】

- ・教科書「第 3 章 2. 態と時制の役割」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 7 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 5 → モデル論文について、メソッド・セクションの態・時制を分析する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 8 回_メソッド・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に方法について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、メソッド・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 3 (宿題) → 各自の英語論文におけるメソッド・セクションを作成する。(2 時間)

★第 9 回_リザルトとディスカッション・セクションの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 4 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 9 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 6 (宿題) → モデル論文について、ディスカッション・セクションの構造を分析する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 10 回_リザルトとディスカッション・セクションの一般化表現

【準備学習】

- ・教科書「第 4 章 2. 一般化表現」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 10 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 7 (宿題) → モデル論文について、ディスカッション・セクションの同等・比較と強調等の表現部を抜き書きする。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 11 回_リザルトとディスカッション・セクションのライティング

【準備学習】

- ・各自の卒業研究成果等の情報のうち、主に結果、結論について簡単に英作文する。(1 時間)
- ・モデル論文等を参考にして、リザルトとディスカッション・セクションの記述に使えるような表現を抽出する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書章末タスク 4 (宿題) → 各自の英語論文におけるリザルトとディスカッション・セクションを作成する。(2 時間)

★第 12 回_アブストラクトの骨組み

【準備学習】

- ・教科書「第 5 章 1. 骨組み」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 12 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 8 (宿題) → モデル論文について、アブストラクトの構造を調べる。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 13 回_アブストラクト作成の技術

【準備学習】

- ・教科書「第 5 章 2. 英語のロジック」を読んで、疑問点や不明点を明らかにしておく。(1 時間)
- ・第 13 回授業で取り上げる予定のタスクのうち、モデル論文で該当する箇所の内容を把握する。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・教科書提出タスク 9 (宿題) → モデル論文について、アブストラクトのキイ・リザルト、節から句への書き換え等を抽出する。(1 時間)
- ・授業中で消化できなかったタスクを演習する。(1 時間)

★第 14 回_アブストラクトのライティングと論文タイトル

【準備学習】

- ・教科書「第 6 章 1. タイトルをつけよう」を読んで各自の卒業研究成果等の論文タイトルを検討する。(1 時間)
- ・第 5 回、第 8 回、第 11 回の課題で作成した英語論文について全体を通じて読み直し、ブラッシュアップする。(1 時間)

【復習・宿題】

- ・各自の英語論文を期末レポート課題として提出できるように英文をブラッシュアップする。(2 時間)

【テキスト (教科書)】

- ・「通じる！ 科学英語論文・ライティングのコツ」, 尾鍋智子著, 大阪大学出版会, 2015 年, ￥1,980

【参考書】

- ・「最短ルートで迷子にならない！ 理工系の英語論文執筆講座」, 西山聖久著, 化学同人, 2019 年, ￥2,640
- ・「理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術: 頻出単語をイメージで把握! 論文の定型文だからわかりやすい!」, 福田尚代・西山聖久著, 誠文堂新光社, 2016 年, ￥2,200
- ・「英語論文ライティング教本—正確・明確・簡潔に書く技法— (KS 語学専門書)」, 中山裕木子著, 講談社, 2018 年, ￥3,850
- ・「技術系英文ライティング教本: 基本・英文法・応用」, 中山裕木子著, 日本工業英語協会, 2009 年, ￥1,980
- ・「英語は「名詞」と「動詞」が 9 割! 速効! 英文ライティング」, 福田尚代著, 日本能率協会マネジメントセンター, 2017 年, ￥1,650

【成績評価の方法と基準】

- ・春学期がオンラインでの開講となったことにともない、以下で示す成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日 4 月 24 日 (金) に学習支援システムで提示する。

- ・本授業における到達目標に対し、以下のように平常点と期末レポート (各自の研究成果等の英語論文) により到達度を測定 (点数化) し、100 点満点として総合的に成績評価する (60 点以上が合格)。平常点と期末レポートの配分は、それぞれ 40 点、60 点とする。

【到達目標と評価の対応】

- ①英語論文の全体構造を理解できる。 → 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ②英語論文を構成する各セクションの骨組みと役割を理解できる。 → 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ③卒業研究成果等を英語論文化するための情報を洗い出しできる。 → 平常点 10 点+期末レポート 10 点=小計 20 点
- ④卒業研究成果等を題材として、各セクションの骨組みと役割に沿った簡潔な英語論文を作成できる。 → 平常点 10 点+期末レポート 30 点=小計 40 点
- ・平常点には、提出タスクと質疑応答・発表等が含まれる。
- ・期末レポートは、各自の研究成果等の英語論文を指す。
- ・4 回以上欠席した場合は、単位取得不可 (評価: D) とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・担当教員は 2020 年度から本授業を担当するため、2020 年度授業アンケート結果等に基づいて授業内容を改善していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

- ・プリント教材の配布や課題 (宿題、各種タスク類) の提出と返却、および各種の連絡に法政大学授業支援システムや Web メールシステムを利用することがあるため、適宜確認しておくこと

【その他の重要事項】

- ・担当教員は実務経験教員である。所属機関で電力施設の耐震性評価に関する研究に従事してきた。研究成果を国際会議で口頭発表、あるいは英文論文投稿する過程で技術英文作成の経験を積んできた。このような経験を講義に反映し、履修学生が実務で技術英語を活用することを念頭においた講義にしたい。

【Outline and objectives】

Growing globalization requires engineers and researchers to acquire English-handling skills on technical communications and documentations. For this purpose, students will systematically learn organization and development of an English-written academic paper as well as prepare a short paper on their past study related with a specified field such as architecture, urban environment and systems design.

LAW500N1

知的財産権論

宮武 久佳

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的ななどな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ベシクインカム」「ロボット技術」「シェアリング経済」「人工知能」「伝書鳩が消えた」「電子メールは絶滅危惧種か」「インダストリー4.0」「ドローン革命」「仮想通貨」「モノのインターネット」など

【到達目標】

好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどのような時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（1）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（2）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品が SNS で瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3Dプリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する3Dプリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえない（学生発表）。
10	ビッグデータ時代を生きる	ビッグデータが作る世界とは何か、多面的に検討したい（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何か議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエイティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	21世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「正しいコピペのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860 円プラス税

【参考書】

誰が「知」を独占するのか（福井健策。集英社新書）
ビッグデータの衝撃（城田真琴。東洋経済新報社）
評価と贈与の経済学（岡田斗司夫、内田樹。徳間ポケット）
捏造の科学者（須田桃子。文藝春秋）
科学者とな何か（村上陽一郎。新潮選書）
「ドローンの哲学」（シャマユ。明石書院）
「アマゾンがわかる」（GAFA リサーチ。ソシム社）
「入門 AI と金融の未来」（野口悠紀雄。PHP）
これ以外にも、学生発表の内容に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（50％）と期末レポート（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考に、授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

【その他の重要事項】

議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多様な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

【Outline and objectives】

Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include basic income, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence, disappearance of carrier pigeons, e-mail as an endangered species, industry 4.0, drone revolution, virtual currency, IoT etc.

知的財産権論

宮武 久佳

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的ななどな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ベシクインカム」「ロボット技術」「シェアリング経済」「人工知能」「伝書鳩が消えた」「電子メールは絶滅危惧種か」「インダストリー 4.0」「ドローン革命」「仮想通貨」「モノのインターネット」など

【到達目標】

好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどのような時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（1）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（2）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品が SNS で瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3D プリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する 3D プリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえない（学生発表）。
10	ビッグデータ時代を生きる	ビッグデータが作る世界とは何か、多面的に検討したい（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何を議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエイティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	21世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860 円プラス税

【参考書】

誰が「知」を独占するのか（福井健策。集英社新書）
 ビッグデータの衝撃（城田真琴。東洋経済新報社）
 評価と贈与の経済学（岡田斗司夫、内田樹。徳間ポケット）
 捏造の科学者（須田桃子。文藝春秋）
 科学者とな何か（村上陽一郎。新潮選書）
 「ドローンの哲学」（シャマユー。明石書院）
 「アマゾンがわかる」（GAFA リサーチ。ソシム社）
 「入門 AI と金融の未来」（野口悠紀雄。PHP）
 これ以外にも、学生発表の内容に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（50％）と期末レポート（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考に、授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

【その他の重要事項】

議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多様な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。

教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。

各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

【Outline and objectives】

Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include basic income, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence, disappearance of carrier pigeons, e-mail as an endangered species, industry 4.0, drone revolution, virtual currency, IoT etc.

LAW500N1

知的財産権論

宮武 久佳

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識が力を生む。本講義では、大学院生として専門の道を歩む学生が身に付けておきたい教養としての知的財産論を学ぶ。従来の「特許」「著作権」など知財法に基づく縦割りの知財論を超えて、リベラルアーツ的ななどな分野でも応用の効く「知のストレッチ」を目指す。キーワードは次のとおり。「ベシクインカム」「ロボット技術」「シェアリング経済」「人工知能」「伝書鳩が消えた」「電子メールは絶滅危惧種か」「インダストリー 4.0」「ドローン革命」「仮想通貨」「モノのインターネット」など

【到達目標】

好むと好まざると関わらず、あらゆるデータがデジタル化され、ネットワーク化される時代の、情報や知識、知恵に関する高度なセンスと、社会で必要とされる情報のインプットとアウトプットに関する法的ルールの基礎を身に付けることができる。併せて、今がどのような時代か、人工知能をはじめとする情報テクノロジーの観点から検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少人数のセミナー形式とする。前半は教員が、今、知識の世界で起きていることを、デジタル化、ネットワーク化する時代の文脈において講義する。後半は、分担を決めて学生発表形式とする。あらかじめ、ひとり一人の受講者が調査方向テーマを受け取り、それについて、取材調査し、報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	知的財産の現在	知的財産とは何かについて俯瞰する。
2	情報のインパクト（情報と人生）	情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
3	情報のインパクト（情報とビジネス）	前回から引き続き、情報という知財の最小単位がどのようなインパクトを持つのか、歴史的現象から学ぶ。
4	創造と模倣（1）	文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
5	創造と模倣（2）	前回から引き続き、文化資源のリサイクルという視点から、コンテンツ知財の独占と保護を考える。
6	メディアとリテラシー	作品が SNS で瞬時に展開する時代の情報リテラシーを検討する。
7	電子図書の未来	書物の電子化がもたらすものを、人文、社会、理工の観点から学びたい（学生発表）。
8	3D プリンターの行方	知財とテクノロジーが交差する 3D プリンターについて多角的に分析する（学生発表）。
9	ドローンの問題点	小ヘリコプターのドローンが各界にインパクトを与えている。ドローンの光と影を押さえない（学生発表）。
10	ビッグデータ時代を生きる	ビッグデータが作る世界とは何か、多面的に検討したい（学生発表）。
11	科学と社会	原発開発、生命科学、宇宙開発などで、科学者の倫理が問われている。根本問題は何が議論したい（学生発表）。
12	人工知能と創造性	あらゆる分野で人工知能が注目を集める。クリエイティブな世界と人工知能の関係を考える（学生発表）。
13	コンテンツにお金を払う理由	なぜコンテンツにお金を払わなければならないのか。著作権ビジネスを論じたい（学生発表）。
14	全体まとめ	21 世紀前半の知的財産権論を概括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本教科書を繰り返し読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「正しいコピーのすすめ 模倣、創造、著作権と私たち」（宮武久佳著。岩波書店）860 円プラス税

【参考書】

誰が「知」を独占するのか（福井健策。集英社新書）
ビッグデータの衝撃（城田真琴。東洋経済新報社）
評価と贈与の経済学（岡田斗司夫、内田樹。徳間ポケット）
捏造の科学者（須田桃子。文藝春秋）
科学者とな何か（村上陽一郎。新潮選書）
「ドローンの哲学」（シャムユー。明石書院）
「アマゾンがわかる」（GAFA リサーチ。ソシム社）
「入門 AI と金融の未来」（野口悠紀雄。PHP）
これ以外にも、学生発表の内容に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（50％）と期末レポート（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートやコメントシートなど学生からのフィードバックを参考に、授業改善に取り組む。

【学生が準備すべき機器他】

大学院の授業につき、パソコン、タブレットなどの持ち込みを認める。

【その他の重要事項】

教員は、記者として長らく通信社に勤務した。取材で得た情報をいち早く正確に世界に伝えることが仕事であった。現場の経験に基づいて、情報や知識の伝達について解説する。
議論を歓迎する。毎回のトピックについて、多様な意見をもって授業に臨むこと。日頃から、「現代を生きるセンス」を磨くよう、あらゆるニュースに精通する姿勢を持ってほしい。
各回の内容や進行については、講義の進捗に応じて変更される場合があるので注意してほしい。

【Outline and objectives】

Knowledge creates power. In this course, students will learn intellectual property theory as part of their preparation for specialist graduate study. More than just learning about divisions in intellectual property based on patent and rights holder laws, this course aims to stretch students' way of thinking in a liberal arts approach that is applicable to almost any field. Keywords in this course include basic income, robotic technology, sharing economy, artificial intelligence, disappearance of carrier pigeons, e-mail as an endangered species, industry 4.0, drone revolution, virtual currency, IoT etc.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に応用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】

企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせる進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2 回	成熟経済における産業発展	1990 年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の拡大という観点から概説する。
3 回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4 回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5 回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6 回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7 回	プレイヤーの行動原理	プレイヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8 回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の 3 つが重要である。
9 回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10 回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど意思決定への適用を検討する。
11 回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。
12 回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。

13 回 現実への適用

金融機関の救済、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。

14 回 シグナリング

情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。

予備的な情報収集が課せられる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

赤木博文 『コンパクト・ミクロ経済学』新世社 2008 年

八田達夫 『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社 2013 年
イッサーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳 『意思決定理論入門』

NTT 出版 2012 年

一橋大学経済学部 編 『教養としての経済学』有斐閣 2013 年
ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳 『市場を創る』NTT 出版 2011 年

【成績評価の方法と基準】

経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。
平常点 20 %、小テスト（レポート含む）40 %、期末試験 40 %という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

MAN500N1

現代産業論

今橋 隆

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に応用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】

企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせる進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2 回	成熟経済における産業発展	1990 年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の拡大という観点から概説する。
3 回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4 回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5 回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6 回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7 回	プレイヤーの行動原理	プレイヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8 回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の 3 つが重要である。
9 回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10 回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど意思決定への適用を検討する。
11 回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。
12 回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。

13 回 現実への適用

金融機関の救済、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。

14 回 シグナリング

情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。

予備的な情報収集が課せられる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

赤木博文 『コンパクト・ミクロ経済学』新世社 2008 年

八田達夫 『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社 2013 年
 イツアーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳 『意思決定理論入門』

NTT 出版 2012 年

一橋大学経済学部 編 『教養としての経済学』有斐閣 2013 年
 ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳 『市場を創る』NTT 出版 2011 年

【成績評価の方法と基準】

経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。
 平常点 20 %、小テスト（レポート含む）40 %、期末試験 40 %という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。毎回補足資料を映示する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、経営戦略、市場開発、意思決定など、経営の諸分野に応用可能なゲーム理論を中心に、ミクロ経済学を使用して産業に対する分析を行う。

【到達目標】

企業経営において主要な要素である経営戦略、市場開発、意思決定などを理解する基盤を養うとともに、受講者がそれらの諸要素を経済全体における位置づけから把握する能力を磨く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義によるゲーム理論の解説の進行にあわせ、個別産業への応用例について、受講者への問いかけやレポートを組み合わせる進め方。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	高度成長期の産業発展プロセス	主に高度成長期の産業について、その産業政策の特徴、及び、産業の発展プロセスについて講義する。対象産業は自動車産業など。
2 回	成熟経済における産業発展	1990 年代以降の経済と産業について、イノベーションや市場の拡大という観点から概説する。
3 回	市場経済の考え方	今日の経済は市場における企業活動を原動力としている。その基礎的な機能を解説する。
4 回	ゲーム理論の成り立ち	ゲーム理論の沿革について、経済発展との関わりに配慮して解説する。
5 回	ゲームを構成する要素	囚人のジレンマを例として、ゲームの思考法を示す。
6 回	ミクロ経済学との接合	ゲーム理論を深く理解するため、ミクロ経済学との関連を説明する。
7 回	プレイヤーの行動原理	プレイヤーの行動において想定される合理性につき説明し、利得、戦略、解などを組み込んで適用する。
8 回	事象のモデル化	現実の事象は複雑であるため、主要な要素を反映してモデル化する必要がある。とりわけ、時間、不確実性、情報の 3 つが重要である。
9 回	解の考え方としてのナッシュ均衡	解を考察する場合、中心となるのはナッシュ均衡であるため、その重要性を具体的に説明する。
10 回	意思決定におけるナッシュ均衡	金融機関の取り付け、チキンゲームなど意思決定への適用を検討する。
11 回	時間を通じたゲーム	時間の経過を組み込むと、逐次手番ゲームになる。この典型が市場への参入についての意思決定である。
12 回	ゲームの木	市場への参入戦略を分析するうえで有用なゲームの木を中心に、関連する事例を紹介する。

13 回 現実への適用

金融機関の救済、競争政策などに対する適用について、事例を中心に検討し、集団で討議する。

14 回 シグナリング

情報に関連した重要な概念としてのシグナリングについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日経新聞、日経産業新聞などにより、関連する情報の収集を受講者は日常的に行うこと。

予備的な情報収集が課せられる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

赤木博文 『コンパクト・ミクロ経済学』新世社 2008 年

八田達夫 『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社 2013 年
イッサーク・ギルボア著、川越敏司・佐々木俊一郎訳 『意思決定理論入門』

NTT 出版 2012 年

一橋大学経済学部 編 『教養としての経済学』有斐閣 2013 年
ジョン・マクミラン著、瀧澤弘和・木村友二訳 『市場を創る』NTT 出版 2011 年

【成績評価の方法と基準】

経営戦略、市場開発、意思決定を主なテーマとして出題される下記の諸要素で評価する。論理性、表現力、思考力が評価の対象である。
平常点 20 %、小テスト（レポート含む）40 %、期末試験 40 %という組み合わせで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

シラバスに準拠しながら、論理的思考力を養うような授業を心がける。経済学の専門用語に関し、基礎から解説する。
毎回補足資料を映示する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員以外に、金融機関の調査部門、交通関係の研究所における幹部研究員、政府審議会の専門委員などの経歴を有する兼任講師が、企業経営の経済学的分析を講義する。

【Outline and objectives】

The main theme of this course is micro-economic analyses of industries. Game theory is applied to management strategy, market development and decision making.

OTR900N1

海外研修プログラム 2

渡邊 眞理、網野 禎昭、浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

9 月に約 1 週間、ユタ大学ブラッフ校でデザインスタジオを実施する。このワークショップではユタ州南部のナバホ・インディアン居留地に隣接した日本とはまったく異なった環境の中で、ものづくりワークショップに取り組む。ユタ大学の担当教員および担当 T A から英語でデザイン指導を受ける。現地では基本的に英語環境の中で生活する。

【到達目標】

この授業は技術の習得だけでなく歴史文化の理解を重視しているため、米国西部の自然および文化的環境に親しむことも研修の一部である。参加学生たちは米国の大自然の中で生活する中で感性を磨き、英語を用いてデザイン発表や作品制作を行なう中で、生きた英語を体験的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デザイン工学研究科内にユタ大学ワークショップ運営委員会を設置し、参加学生の指導、監督、評価を行なう。プログラム期間内には現地教員（非常勤講師）と協力して指導を行なう。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、この授業は 2020 年度は開講しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（東京）	このワークショップの目的は単なる語学研修ではなく、デザイン研修でもあることなどワークショップの概要と注意事項を示す。8 月に何回か実施予定。
2	Guidance at SLC/ UoU	ソルトレークシティ SLC にある、州立ユタ大学 UoU でワークショップの実質的なガイダンスを受ける。
3	SLC Study Tour	SLC とその周辺を見学する。ユタ大学の学生とのワークショップも予定されている。
4	Bluff Workshop Go to Bluff!	Bluff への移動日。ユタ州の大自然の中を 400 km 南下する。
5	Bluff Workshop Guidance	ワークショップ期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
6	Bluff Workshop Design 1	ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
7	Bluff Workshop Design 2	ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
8	Bluff Workshop Review	中間レビューによる企画内容の説明
9	Bluff Workshop Design & Build 1	中間レビューの結果を受けた企画の修正と製作作業の実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
10	Bluff Workshop Design & Build 2	企画の修正と製作作業の実施。ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
11	Bluff Workshop Design & Build 3	企画の最終製作作業の実施。ワークショップ実施期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
12	Bluff Workshop Final review	最終日は本学の教員も参加して講評会を行なう。
13	Arches National Park Tour	Bluff からの帰路国立公園のひとつを見学する（行先は変更の可能性ある）
14	SLC	ユタ大学とソルトレークシティを見学する。帰国後にワークショップの発表展示会を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

このワークショップは英語研修だけが目的ではなく、英語でデザイン行為を学ぶことが主目的だが、基礎力としての英語会話能力は涵養しておく必要がある。観光旅行ではないので、ソルトレークシティや米国西部については自己学習が不可欠である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

現地ガイダンス時に指示する

【参考書】

現地ガイダンス時に指示する

【成績評価の方法と基準】

Bluff ワークショップの参加と成果（80%）および帰国後の展示会のプレゼンテーション（20%）が評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

履修対象者は原則として本学デザイン工学研究科に在籍している大学院生だが、学部 4 年生も大学院科目の先行履修として履修可能である。

【学生が準備すべき機器他】

デザインスタジオに準じるので、受講生は最大 15 名程度である。米国にも配布ノート PC などを持参し、ワークショップの作業記録などに使用する

【その他の重要事項】

現地でのデザイン経験豊富な現地教員が、デザインのためのディスカッションや現地での製作作業を指導する。

【Outline and objectives】

For around one week in September, students will take part in a design studio in the Bluff program at the University of Utah. This hands on workshop is located adjacent to a Navajo Indian settlement in the south of Utah, an environment unlike anywhere in Japan. Students will receive design guidance in English from University of Utah staff and teaching assistants, experiencing daily life in an English-speaking environment.

OTR900N1

海外研修プログラム 2

溝渕 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

9月に約1週間、ユタ大学ブラッフ校でデザインスタジオを実施する。このワークショップではユタ州南部のナバホ・インディアン居留地に隣接した日本とはまったく異なった環境の中で、ものづくりワークショップに取り組む。ユタ大学の担当教員および担当TAから英語でデザイン指導を受ける。現地では基本的に英語環境の中で生活する。

【到達目標】

この授業は技術の習得だけでなく歴史文化の理解を重視しているため、米国西部の自然および文化的環境に親しむことも研修の一部である。参加学生たちは米国の大自然の中で生活する中で感性を磨き、英語を用いてデザイン発表や作品制作を行なう中で、生きた英語を体験的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デザイン工学研究科内にユタ大学ワークショップ運営委員会を設置し、参加学生の指導、監督、評価を行なう。プログラム期間内には現地教員（非常勤講師）と協力して指導を行なう。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、この授業は2020年度は開講しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（東京）	このワークショップの目的は単なる語学研修ではなく、デザイン研修でもあることなどワークショップの概要と注意事項を示す。8月に何回か実施予定。
2	Guidance at SLC/ UoU	ソルトレークシティ SLCにある、州立ユタ大学 UoU でワークショップの実質的なガイダンスを受ける。
3	SLC Study Tour	SLC とその周辺を見学する。ユタ大学の学生とのワークショップも予定されている。
4	Bluff Workshop Go to Bluff!	Bluff への移動日。ユタ州の大自然の中を 400 km南下する。
5	Bluff Workshop Guidance	ワークショップ期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
6	Bluff Workshop Design 1	ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
7	Bluff Workshop Design 2	ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
8	Bluff Workshop Review	中間レビューによる企画内容の説明
9	Bluff Workshop Design & Build 1	中間レビューの結果を受けた企画の修正と製作作業の実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
10	Bluff Workshop Design & Build 2	企画の修正と製作作業の実施。ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
11	Bluff Workshop Design & Build 3	企画の最終製作作業の実施。ワークショップ実施期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
12	Bluff Workshop Final review	最終日は本学の教員も参加して講評会を行なう。
13	Arches National Park Tour	Bluff からの帰路国立公園のひとつを見学する（行先は変更の可能性あり）
14	SLC	ユタ大学とソルトレークシティを見学する。帰国後にワークショップの発表展覧会を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

このワークショップは英語研修だけが目的ではなく、英語でデザイン行為を学ぶことが主目的だが、基礎力としての英語会話能力は涵養しておく必要がある。観光旅行ではないので、ソルトレークシティや米国西部については自己学習が不可欠である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

現地ガイダンス時に指示する

【参考書】

現地ガイダンス時に指示する

【成績評価の方法と基準】

Bluff ワークショップの参加と成果（80%）および帰国後の展覧会のプレゼンテーション（20%）が評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

履修対象者は原則として本学デザイン工学研究科に在籍している大学院生だが、学部4年生も大学院科目の先行履修として履修可能である。

【学生が準備すべき機器他】

デザインスタジオに準じるので、受講生は最大15名程度である。米国にも配布ノートPCなどを持参し、ワークショップの作業記録などに使用する

【その他の重要事項】

現地でのデザイン経験豊富な現地教員が、デザインのためのディスカッションや現地での製作作業を指導する。

【Outline and objectives】

For around one week in September, students will take part in a design studio in the Bluff program at the University of Utah. This hands on workshop is located adjacent to a Navajo Indian settlement in the south of Utah, an environment unlike anywhere in Japan. Students will receive design guidance in English from University of Utah staff and teaching assistants, experiencing daily life in an English-speaking environment.

OTR900N1

海外研修プログラム 2

田中 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

9月に約1週間、ユタ大学ブラッフ校でデザインスタジオを実施する。このワークショップではユタ州南部のナバホ・インディアン居留地に隣接した日本とはまったく異なった環境の中で、ものづくりワークショップに取り組む。ユタ大学の担当教員および担当TAから英語でデザイン指導を受ける。現地では基本的に英語環境の中で生活する。

【到達目標】

この授業は技術の習得だけでなく歴史文化の理解を重視しているため、米国西部の自然および文化的環境に親しむことも研修の一部である。参加学生たちは米国の大自然の中で生活する中で感性を磨き、英語を用いてデザイン発表や作品制作を行なう中で、生きた英語を体験的に学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

デザイン工学研究科内にユタ大学ワークショップ運営委員会を設置し、参加学生の指導、監督、評価を行なう。プログラム期間内には現地教員（非常勤講師）と協力して指導を行なう。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、この授業は2020年度は開講しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（東京）	このワークショップの目的は単なる語学研修ではなく、デザイン研修でもあることなどワークショップの概要と注意事項を示す。8月に何回か実施予定。
2	Guidance at SLC/ UoU	ソルトレークシティ SLCにある、州立ユタ大学 UoU でワークショップの実質的なガイダンスを受ける。
3	SLC Study Tour	SLC とその周辺を見学する。ユタ大学の学生とのワークショップも予定されている。
4	Bluff Workshop Go to Bluff!	Bluff への移動日。ユタ州の大自然の中を 400 km南下する。
5	Bluff Workshop Guidance	ワークショップ期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
6	Bluff Workshop Design 1	ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
7	Bluff Workshop Design 2	ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
8	Bluff Workshop Review	中間レビューによる企画内容の説明
9	Bluff Workshop Design & Build 1	中間レビューの結果を受けた企画の修正と製作作業の実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
10	Bluff Workshop Design & Build 2	企画の修正と製作作業の実施。ワークショップ実施。期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
11	Bluff Workshop Design & Build 3	企画の最終製作作業の実施。ワークショップ実施期間中はユタ大学のワークショップ担当教員の指導を受ける。
12	Bluff Workshop Final review	最終日は本学の教員も参加して講評会を行なう。
13	Arches National Park Tour	Bluff からの帰路国立公園のひとつを見学する（行先は変更の可能性ある）
14	SLC	ユタ大学とソルトレークシティを見学する。帰国後にワークショップの発表展示会を行なう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

このワークショップは英語研修だけが目的ではなく、英語でデザイン行為を学ぶことが主目的だが、基礎力としての英語会話能力は涵養しておく必要がある。観光旅行ではないので、ソルトレークシティや米国西部については自己学習が不可欠である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

現地ガイダンス時に指示する

【参考書】

現地ガイダンス時に指示する

【成績評価の方法と基準】

Bluff ワークショップの参加と成果（80%）および帰国後の展示会のプレゼンテーション（20%）が評価の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

履修対象者は原則として本学デザイン工学研究科に在籍している大学院生だが、学部 4 年生も大学院科目の先行履修として履修可能である。

【学生が準備すべき機器他】

デザインスタジオに準じるので、受講生は最大 15 名程度である。米国にも配布ノート PC などを持参し、ワークショップの作業記録などに使用する

【その他の重要事項】

現地でのデザイン経験豊富な現地教員が、デザインのためのディスカッションや現地での製作作業を指導する。

【Outline and objectives】

For around one week in September, students will take part in a design studio in the Bluff program at the University of Utah. This hands on workshop is located adjacent to a Navajo Indian settlement in the south of Utah, an environment unlike anywhere in Japan. Students will receive design guidance in English from University of Utah staff and teaching assistants, experiencing daily life in an English-speaking environment.

ADE500N2

建築構造力学特論

那花 謙二

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築構造設計をする上で必要な建築構造力学、構造設計法の仕組みについて講ずる。

【到達目標】

構造解析の手法として、計算機を使用して大容量の数値計算に頼っているのがほとんどであり、結果は計算機に頼っているだけである。構造物をいかにモデル化することができるのかが、構造設計の第一歩である。そのモデル化した構造物を、解析的に解明することが重要である。高度な専門能力を必要とする構造設計 1 級建築士レベルを目標として、建築構造力学・構造設計法を修得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
-------------	----------------	-------	-----	-------	------	--------------------------

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。

それにともなう各回の授業計画の変更については、

学習支援システムでその都度提示する。

本授業の開始日は 2020 年 5 月 7 日とし、

この日までに具体的なオンライン授業の方法などを学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	構造設計・ものづくりとは	実際のものづくりの現場紹介（スカイツリー）
第 2 回	耐震設計の歩み	構造規定の変遷・震害から得た教訓・最新の問題（つなみ・天井落下・長周期地震動）
第 3 回	材料力学と構造力学	仮想仕事法・基本的な公式
第 4 回	保有水平耐力	S 造・RC 造の保有耐力の計算方法・荷重増分法・モデル化
第 5 回	構造材料と材料特性	S 造・RC 造の材料特性・座屈
第 6 回	耐震設計	地震荷重・地震動・エネルギー法・スベクトル・共振・固有値・固有モード・剛性バランス・変形能力
第 7 回	耐風設計・その他の荷重	風荷重・ガスト影響係数・ピーク風力係数・積雪荷重・温度荷重
第 8 回	鉄骨造の耐震計算の方法	鉄骨造の設計ルート・柱梁の断面算定・Ds
第 9 回	鉄骨造の詳細設計	保有耐力接合・柱脚設計・組立材・溶接・疲労（渦励振動・S-N 曲線）
第 10 回	RC の耐震計算の方法	RC の設計ルート・柱梁の断面算定・ビロティー・剛床
第 11 回	耐震診断	S 造・RC 造の耐震診断・耐震補強
第 12 回	免振構造	免振装置・3 次元免振
第 13 回	制振構造	制振構造の分類・ダンパーの種類
第 14 回	統括	講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

材料力学の復習をおこなう

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

チモシェンコ，“材料力学”

2007 年版 建築物の構造関係技術基準解説書

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

初歩的な構造力学の内容も取り入れる

【その他の重要事項】

大空間構造物の実施設計の経験を持つ教員が、建築構造力学、構造設計法の仕組みについて講義する。

【Outline and objectives】

In this course it is important to understand Structural Mechanics when designing structural frames.

Lectures will be given on Mechanisms of Structural Design Methods and Structural Planning.

ADE500N2

曲面構造特論

那花 謙二

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドーム、体育館、アリーナ、競技場、工場、格納庫等は両方向大スパンを必要としている。二方向にスパンの大きな構造物を大スパン構造、スペースストラクチャーあるいは空間構造と名付ける。これを実現するにあたり、構造形式、構法の開拓が多彩な形態を生み、自由な造形を提供され、建築家達は夢のある大空間を演出してきた。テーマは、大空間の基本的な力の流れを把握すること。

【到達目標】

曲面構造の基本的な力の流れを把握でき、概略設計ができるようになることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
-------------	----------------	-------	-----	-------	------	--------------------------

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

シュルの理論は応用力学と応用数学の融合による力学の母体をなすものである。シュル構造の概念を把握することにより、曲面構造の特有の力の流れ、変形を理解することを目的とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	曲面構造の種類	実際の曲面構造の紹介・形態創生
第 2 回	片持構造・単純支持構造・格子梁構造・アーチ構造・フラットスラブ構造・ラーメン構造	片持構造・単純支持構造・格子梁構造・アーチ構造・フラットスラブ構造・ラーメン構造の概略設計
第 3 回	折板構造・立体トラス構造・シュル構造	折板構造・立体トラス構造・シュル構造の概略設計
第 4 回	ドーム構造・サスペンション構造・ハイブリッド構造	ドーム構造・サスペンション構造・ハイブリッド構造の概略設計・全体座屈
第 5 回	曲面構造の詳細設計	曲面構造のディテール・偏心・2次部材・柱脚
第 6 回	体育館の設計	スパン方向・桁方向・線材置換・入力荷重・トラスの設計・梁の横補剛
第 7 回	テンソル	テンソル・有限要素法の流れ
第 8 回	弾性論	弾性論の基礎式
第 9 回	平板	平板曲げ
第 10 回	シュル理論	膜応力、回転シュル膜理論、シュル応力
第 11 回	逆問題	変分原理（カテナリー曲線）・ニューラルネットワーク・ホモロガス変形・遺伝的アルゴリズム
第 12 回	膜構造	極小曲面・形態解析・一般逆行列
第 13 回	学校体育館の耐震診断	保有水平耐力・終局耐力・Is・F 値
第 14 回	総括	講義の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

材料力学の復習をおこなう

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

授業中適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

レポート 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

実施された大空間構造物の解説をとりいれる

【その他の重要事項】

大空間構造物の実施設計の経験を持つ教員が、実際に担当した物件等について講義する。

【Outline and objectives】

Structures with large spans like domes, gymnastic halls, arenas, factories and hangars are known as space structure.

Architects have produced space structures to incorporate large spans and free form.

The purpose of this course will be the understanding of the flow of forces in space structures.

ADE500N2

建築プロフェッショナル総合演習2

下吹越 武人、石渡 智秋、稲葉 裕、小川 重雄、中川 龍吾、鈴木 研一

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「デザインスタジオ」「建築インターンシップ」を補完する内容をテーマとし、他の個別授業では得られない建築の職能意識の修得、建築設計に関わる周辺分野の知識と技能の習得を目標とする。

【到達目標】

- 1. 建築設計に関わる幅広い周辺分野の知識および技術を学び、その応用を試みることで広範な専門技術の習得を目指す。
- 2. 建築分野の職能倫理に関する理解を深め、それに基づいて行動する能力を養う。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性 専門性	技術と芸術 情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
		◎		○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」、「DP5」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

建築計画および設計の実務面に関わる内容を題材とし、レクチャー、セミナー、ワークショップ（演習）を組み合わせた授業形式による。ワークショップは3分野それぞれ4回ずつから構成され、導入段階では基礎知識と基本手法の習得を、試行段階ではそれらを用いて初期作業の実行を試み、発展段階では各人それぞれに固有な展開を加え、完成段階でまとまった制作物として仕上げる。

【合同ガイダンスについて】

4月24日（金）15時より建築プロフェッショナル総合演習1および2の合同ガイダンスを実施し、履修抽選を行います。詳細は学習支援システムの【お知らせ】で確認して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営 1	・建築士制度に関わる授業の成り立ちについて ・セミナー形式による授業
第2回	建築家の職能意識、建築事務所の業務と運営 2	・セミナー形式による授業 ・発表・講評
第3回	ワークショップ／照明計画とデザイン 1	（導入段階）
第4回	ワークショップ／照明計画とデザイン 2	（試行段階）
第5回	ワークショップ／照明計画とデザイン 3	（発展段階）
第6回	ワークショップ／照明計画とデザイン 4	発表・講評
第7回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 1	（導入段階）
第8回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 2	（試行段階）
第9回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 3	（発展段階）
第10回	ワークショップ／建築写真と撮影手法 4	発表・講評
第11回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 1	（導入段階）
第12回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 2	（試行段階）
第13回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 3	（発展段階）
第14回	ワークショップ／建築音響計画とデザイン 4	発表・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ガイダンス時に指示される
本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はないが、必要な参考文献については授業内で指示される

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート、ワークショップの成果等にもとづく総合評価とする
配分：レポート 10 %、ワークショップ成果物 30 % ×3 回

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC、デジタルカメラ

【その他の重要事項】

- ・実務で活躍する教員が自身の経験を活かし実習指導を行うオムニバス形式の授業である。
- ・少人数スタジオ制授業のため、受講者制限を行う場合がある。
- ・A期第1週に開催する「建築プロフェッショナル総合演習1・2 合同ガイダンス」にて抽選を行うので、1 または 2 を履修希望する学生は必ず「合同ガイダンス」に出席すること。
- ・合同ガイダンスを欠席した場合は履修を認めない。

【Outline and objectives】

Complementing the contents in “Design Studio” and “Architecture Internship”, this course provides professional awareness and knowledge and technical skills from surrounding fields not available in other lectures.

建築構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築構造物がつまびき適切な骨格を描き出す創造的行為が構造デザインである。そして、構造デザインは、科学や技術だけではなく多くのものと結びついている。審美、歴史、文化、哲学、思想、経済……。一般的に構造設計としてイメージされる構造計算は、この活動において、仕上げの筆を加え、その構造物が要求にそった強さや健全さを持っている事を証明することにすぎない。そのような段階に入る前に統合的な判断に基づく基本的な構造概念の構築を行う必要があり、それが構造計画である。

本授業では、このような構造計画から構造計算までの一連の構造デザインの流れについて、著名な構造設計者の例を研究するとともに、実際の構造物の設計を通して体感する。

【到達目標】

構造計画立案のための基本的な構造原理や著名構造設計者などの専門家の言葉を理解する力の養成と、我が国の構造関係技術基準の把握、それに適合した構造設計・構造計算法の理解を到達目標とし、その過程で構造デザインの真髄の一端に触れる事をめざす。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性 と設計倫理	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
○	◎	○				

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP6」、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

まずはじめに、著名構造設計者の設計例を調査し、その拠り所となる構造原理、推進力となる設計思想、手だてとしての設計手法を整理・研究する。その際には構造模型なども作製し五官を総動員させながら構造デザインの神髄の理解に努める。その後、日本における構造関係技術基準を総覧した上で、実際に自分の力で建築物の構造設計に取りかかり、構造設計図書をまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス 構造デザインとは
第 2 回	事例研究	著名構造設計者の文献・作品調査 設計思想・設計手法の把握
第 3 回	事例研究	構造模型製作 構造原理の把握
第 4 回	事例研究	発表会
第 5 回	構造関係技術基準	構造関係規定の構成と要求性能 仕様規定・構造計算規定 荷重・外力 耐震計算 許容応力度・材料強度
第 6 回	構造関係技術基準	鉄骨造の技術規準 鉄筋コンクリート造の技術規準
第 7 回	設計演習（課題設定）	課題設定エスキス 与条件の把握
第 8 回	設計演習（構造計画）	要求性能・設計方針決定 荷重表作成 仮定断面の設定
第 9 回	設計演習（構造計画）	構造解析モデルの作成 略構造図の作成
第 10 回	設計演習（構造解析）	応力計算 変形計算
第 11 回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 柱の断面検定 梁の断面検定 耐震壁の断面検定
第 12 回	設計演習（構造計算）	許容応力度計算 接合部の断面検定 2 次部材の断面検定 基礎の断面検定
第 13 回	設計演習（構造計算）	層間変形角の検討 剛性率・偏心率の検討 保有水平耐力の検討

第 14 回 設計演習（構造図）

基礎伏図の作成
梁伏図の作成
軸組図の作成
部材リスト図の作成
構造詳細図の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献調査および構造模型製作、発表会のための資料作成、構造設計図書の作成とそのための学習など授業時間外の自主学習が非常に重要である。授業時間内では、これまでの作業進捗状況の説明と疑問点の確認が主体である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

とくになし。

【成績評価の方法と基準】

授業内発表（30 %）、期末レポート（構造設計図書）（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報教室の PC もしくは配布ノート PC

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

The process of creating frames suitable for building construction is one guided by structure design. Structure design is not limited to only science and technology but a tied to many things including aesthetics, history, culture, philosophy, imagination and economics. Structural calculation can be viewed to be, in addition to the finalizing of construction, a guarantee to meet the demands of building strength and soundness. Structural planning involves making the decisions relevant to formulating structural concepts prior to entering this phase. In this course, students gain experience in planning real structures from examples of research by well known structural designers in the continuous process from planning to calculation.

OTR500N3

都市環境デザイン工学基礎2

高見 公雄、内田 大介、酒井 久和

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部で学習した基礎的な教科のうち、空間の視覚モデル化とその表現、景観デザイン、地盤力学と地盤環境、構造力学と鋼構造に関連する知識のエッセンスを再確認する。

【到達目標】

上記内容について基礎的な能力を修得とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

上記内容について講義と演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、土の物理量、土の分類と力学的性質	土の物理量、土の分類と力学的性質についての演習問題と解答、関連する講義
2	地盤内の水の動き	地盤内の水の動きについての演習問題と解答、関連する講義
3	圧密沈下量、圧密時間	圧密沈下量、圧密時間についての演習問題と解答、関連する講義
4	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法	土のせん断強度と土質試験の関係、土圧の種類、土圧計算法についての演習問題と解答、関連する講義
5	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する 2・3 次元物体の応力と変形	鋼材の機械的性質、弾塑性棒の変形、軸方向力が作用する 2・3 次元物体の応力と変形についての演習問題と解答、解説
6	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法 (1)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説
7	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法 (2)	梁部材の曲げ応力・せん断応力と変形の計算法についての演習問題と解答、解説。関連する講義
8	トラス構造の部材力と変形の計算方法	トラス構造の部材力と変形の計算方法についての演習問題と解答、解説
9	継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法	継手部（高力ボルト接合、溶接接合）の強度計算方法についての演習問題と解答、解説
10	都市空間の可視化方法の変遷	同上
11	市街地整備制度の系譜と成果	同上
12	市街地の整備、都市デザインの方法と必要な視点、技術	同上
13	技術面、制度面からみた都市デザインの課題と制度充実の状況	同上
14	総合的なデザインとして展開すべき都市デザインの方法	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる (100%)。遅刻・欠席は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

電卓

【その他の重要事項】

3 名の教員は、それぞれ都市計画、橋梁設計、土構造物設計に実務者として携わった経験を有し、その知見を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

The program objectives of Basics of Civil Engineering 2 are to confirm fundamental knowledge and skills related to structural engineering, steel structure, geomechanics, environmental geotechnics, landscape and city planning.

CST500N3

災害リスクマネジメント概論

馬場 仁志

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会に存在する様々な災害リスクにどう対処していくべきか。リスクマネジメントの概念を学習し、日本および海外における自然災害への対応事例を分析、総合的な防災の方法論について理解を深める。

【到達目標】

- 1) 災害リスクマネジメントサイクルの各段階について内容を理解し、バランスよく防災の取り組みを考察できるようになる。
- 2) 災害リスクマネジメントにおける日本と世界との違いを、地理的・歴史文化的に理解し、リスク削減における国際協力を進めるうえでの方向性や課題について深い議論ができるようになる。
- 3) 危機対応における組織の役割や連携の重要性について理解し、災害に対する地域社会のレジリエンス向上に必要な知識と方法論を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症対策による授業スケジュール変更により、4月21日開始、春学期内で終了予定とします。YouTube教材を作成します。大きく3部に分け、第1部は「災害リスクマネジメント総論」、第2部は「災害リスク削減」、第3部は「災害事態への対応」とし、リスクマネジメントにおける全体像をまず学習したうえで、平時、有事の各対応を明確に区別して理解を深めることとする。

第1部では「災害リスクマネジメントとは」、「世界の災害と防災および日本の貢献」、「日本の災害と防災」、「都市デザインにおける防災の主流化」、第2部では「日本の治水史」、「気候変動に適應する社会とは」、「リスク削減における目標設定と効果」、「フィールドワーク」、第3部では「危機管理システムと危機対応能力」、「地域社会のセキュリティ確保」、「地域のレジリエンス向上」、「フィールドワーク」を行う。

最後に「都市計画の実例研究」、「研究レポート発表」で総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	災害リスクマネジメントとは	リスクとは何か、災害とは何か等、リスクマネジメントの概念と定義を学び、今後の授業コースの基礎となるべく防災に関する知識のベースラインを形成する
2	世界の災害と防災および日本の貢献	世界各地で発生する災害の特徴、UNDRRの仙台行動枠組みと各国の取り組み、日本の貢献、JICAによる防災分野の国際協力の方針と実績について理解する
3	日本の災害と防災	災害が多発する日本の地理的・歴史的条件を振り返るとともに、災害対策基本法をはじめとする日本の防災に関する法制度や組織関係を理解する
4	都市デザインにおける防災の主流化	都市計画の中に防災の視点を導入するために必要な要素は何か、行政・企業や組織・個人それぞれの役割と責任、連携の在り方や行動について学ぶ
5	日本の治水史	日本の国土形成において重要な役割を担ってきた治水の歴史とその社会背景に焦点を当て、災害リスク削減における地域社会の認識構造について議論する
6	気候変動に適應する社会とは	気候変動、都市化、経済発展、人口高齢化問題など、近年の変動要素を踏まえた災害リスク管理はどうあるべきか、世界の趨勢と議論の方向性を探る
7	フィールドワーク	東京を洪水災害から守るためのインフラ整備について、代表的現場を見学しながら歴史と現状を学外実習する
8	フィールドワーク	大規模な災害が発生した際の行政や組織の対応について、シミュレーション演習を交えながら学外実習する
9	危機管理システムと危機対応能力	危機管理システムに含まれる各種要素、それらにより形成される組織や地域の危機管理能力はどのように評価されるのか、実例を交えて理解を深める

10	地域社会のセキュリティ確保	世界の標準的な緊急時総合調整システムであるICS、組織の危機管理・事業継続に必要なBCMS、その他の社会安全を構成する要素とを理解する
11	地域のレジリエンス向上	大規模あるいは広域的な災害時には個別組織の対応だけでは限界があることから新たに開発された地域全体のレジリエンスを高める取り組み＝Area BCMについて学ぶ
12	地域防災計画の実例研究	防災基本計画と地域防災計画および地区防災計画の実例を分析し、課題を理解したうえで修正案を考察する
13	都市計画の実例研究	津波避難施設整備指針などを基に具体的な都市計画と危機管理システムの設計を試み、その成果を取りまとめる
14	研究レポート発表	これまでの研究成果を発表・相互評価し、防災のエキスパートとして活躍するには何が必要かを議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フィールドワークでは、行政機関が開放している学習施設を訪問し、災害に対応しながら発展してきた都市の歴史と現状の体制などを学び、防災に関する組織の役割、関係法令、答申などを調べ、都市計画に必要な関連知識を学ぶ本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「災害リスクマネジメント概論」（初回にPDFで配布）

【参考書】

災害危機管理論入門、吉井裕明＋田中 淳、弘文堂
 防災学原論、岡田憲夫監修、築地書房
 災害の経済学、馬奈木俊介、中央経済社
 その他適宜追加する。

【成績評価の方法と基準】

レポート発表 60 点、平常点（討議への参加） 40 点

【学生の意見等からの気づき】

毎年発生する災害から得られる新たな知見を考察するとともに、国連 DRR による災害リスク削減仙台行動枠組みの対応状況など、最新動向を交えて常に変化する災害リスクへの取り組みを評価する。

【学生が準備すべき機器他】

講義に PPT 使用。適宜資料を配布する。

【その他の重要事項】

国際協力機構（JICA）を通じて多くの発展途上国で指導をしている現役の国際協力機構専門員が、世界と日本の災害リスクマネジメントの現状と課題を解説する。

【Outline and objectives】

Our society is faced with various disaster risks. This course will introduce the concept of risk management, analyze examples of responses to natural disasters in Japan and overseas, and deepen understanding of comprehensive disaster prevention methodology.

CST500N3

材料科学概論

鯉 清

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建設に使用される主要材料の物理的・化学的特性について、使用上熟知しておくべき基礎的事項を身につける。さらに、これらの諸材料の材料設計に関する基本的な考え方、ならびにコンクリートの体積変化の種類と制御技術を修得する。

【到達目標】

材料の化学的側面を理解し、材料の諸特性を定量的に評価する技術とコンクリートの体積変化制御技術を身につけることを本授業の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

今年は休講します。

社会環境材料としてのセメント系材料の現状や技術的課題、さらに新材料・技術について概説する。具体的な講義内容としては、社会環境材料としてのセメント系材料の物理的・化学的特性、セメント系材料の水和物とその利用、社会環境材料と資源循環、セメント・コンクリートの高性能化・多機能化、コンクリートの空隙と体積変化のメカニズムの概説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建設材料について
2	セメント産業における資源循環	日本における資源循環とセメント産業、セメント製造工程における廃棄物の処理・利用
3	セメントクリンカ原料としての廃棄物利用	廃棄物利用と環境負荷の低減、廃棄物・副産物利用による環境影響評価、廃棄物の利用拡大に向けて
4	(1) 廃棄物利用増大を目的としたセメントの特性 (2) エコセメント	(1) 廃棄物・副産物の原料利用状況と利用量増大に向けた考え方、間隙相を増したセメントの特性、CO ₂ 排出量低減と資源リサイクルの両立に向けて (2) エコセメント開発の経緯、製造および品質、水和および硬化組織、混和材の利用、エコセメント事業の可能性
5	CO ₂ 削減と混合セメント	セメント産業の CO ₂ 排出、混合セメントの特徴と材料設計
6	セメント系材料の水和と組織形成	水和反応と組織形成の研究の意義、ポルトランドセメントの水和、ポルトランドセメントの水和による硬化体組織の形成
7	セメント系水和物	(1) モノサルフェート系水和物 (AFm 相) の生成反応 (2) エトリンガイト系水和物 (AFt 相) の生成反応 (3) カルシウムシリケート系水和物 (C-S-H) の生成反応 (4) セメント系水和物の生成量
8	混和材料	(1) 高炉スラグの発生と性質、高炉スラグの新たな活用の可能性 (2) フライアッシュの発生と特性、フライアッシュの改質技術 (3) 貴重な資源としてのシリカフェューム (4) 石灰石微粉末
9	膨張材とエトリンガイト	(1) 膨張材とコンクリートの耐久性、膨張材の水和反応と膨張機構 (2) エトリンガイトによる微細構造の制御とコンクリートの多機能化、セメント・コンクリートの高強度化・超早強化
10	セメント系材料のまとめ	セメントの製造、セメントの種類と性質、セメント系水和物、混和材料の種類と性質についての基礎の総括

11	(1) コンクリート廃材と建設廃材の資源循環 (2) セメント中の微量成分 (3) セメント系材料による CO ₂ の固定化	(1) 再生骨材の資源循環技術、廃棄物となった建材の資源化 (2) 微量成分の基準値、セメントから溶出しやすい微量成分、セメント硬化体からの微量成分の溶出 (3) 古代セメントを知る。炭酸活化技術、セメントのライフサイクル CO ₂ 吸収量算定プロトコル
12	(1) 骨材 (2) ぐらしと石灰石	(1) 岩石の誕生と多様性、規格 (2) 産業生態系のキー素材、環境負荷低減素材
13	(1) 化学混和剤 (2) 硬化コンクリートの性質	(1) 化学混和剤の種類、減水剤・高性能減水剤、収縮低減剤 (2) 空隙と水、温度ひび割れ・乾燥収縮・自己収縮のメカニズム
14	(1) 特殊コンクリート (2) コンクリートのひび割れ制御	(1) 暑中、寒中、水中、吹付、マスコンクリート (2) コンクリートの体積変化制御の物理と化学、温度ひび割れ、乾燥収縮、自己収縮

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布資料による準備学習・講義した内容の復習
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書なし。パワーポイントおよび印刷物による授業

【参考書】

川村満紀／S. チャタジー：コンクリートの材料科学（森北出版株式会社）
大門正機・坂井悦郎：新・社会環境マテリアル（株式会社セメント新聞社）

【成績評価の方法と基準】

レポートによる評価
成績評価は 100 点満点として、セメント系材料の熟知度およびセメント関連英文パワーポイントの和訳にて評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

セメント業界での研究開発と製造実績の経験を活かし、材料の物理的・化学的特性、コンクリートのひび割れ制御技術ならびに環境に及ぼす影響について解説する。

【Outline and objectives】

In this course students will be expected to fully understand how to use physical and chemical properties of main materials for construction use. In addition, they will be able to learn the basic concept of material design for such construction materials, including types of volume change for concrete and methods of control.

ADE500N3

比較都市環境デザイン

高見 公雄、伊藤 香織、橋本 圭央

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

わが国では前世紀後半の戦災復興から都市化の時代に、猛烈なスピードで都市が計画され、つくられてきた。21 世紀に入り一転して人口減少を最大要因としながら都市化の時代への反省、拡がり過ぎた市街地の集約化の時代を迎えた。このように常に荒波の中にあると言えるわが国の都市整備の環境の中、都市環境デザインの妥当性、あるべき姿を見いだすためには、時間的、空間的な比較の中で、私たちの置かれている状況を認識する力が求められる。当授業はこのような視点に基づき、時間的、地域的、また国際的視野の中で都市環境デザインを捉え評価することを狙いとして進める。

【到達目標】

わが国の都市環境デザインの現状を客観的に認識する能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

都市整備の今後を考える時、現状を的確に判断できる能力が求められる。わが国の多くの都市は中世までそのルーツを遡ることができ、また地勢や気候風土の固有性を背景として多様な都市環境ができあがってきた。一方近代以降の時代においては少なからず欧米の都市づくりの影響を受け、またその後の極端な人口移動等に応じて、その時々求められる量的な課題に応えつつ都市はつくられてきた。このような固有性、外的または社会的影響などを切り口にして、都市環境デザインの今後と現状について論じる（高見 公雄）。都市や地域に関するデータの飛躍的增加に伴い、膨大な情報の中から何を読み取りどのように伝えていくのかが重要を増している。一方、個々の都市に目を向けると、都市ブランディングや市民とのコミュニケーションなど都市の個性を戦略的都市運営に結び付ける試みが盛んになっている。本講義では、世界の状況の視覚化によって都市のグローバルな様相を論じるとともに、都市の個性を育てるコミュニケーションの手法と理念を概観する（伊藤 香織）。近代以降、様々な分野において機能主義的な建築・都市環境の概念形成を批判的に捉えなおすために、人間目線でのミクロな考察や実践が重要とされるようになっていく。一方で、そこでの建築・都市環境の概念形成を捉える際に、中世から続く視覚中心主義、近代における動線分離、近代以降における境界・周縁性等の現代まで続く影響に対する人間目線での通時的な考察はこれまであまりなされていない。そのため、本講義では、近代以前から現代までの建築・都市環境の概念形成について、特に人間目線におけるそれらの記述の過程を概観したうえで、その限界と今後の展望を見通す。（橋本圭央）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	固有性	地勢、気候風土、社会体制との関連性
第 2 回	戦後復興期の都市と建築	経済成長とともに進められた都市づくり
第 3 回	安定成長期の都市デザイン	一時代を築いた都市環境デザイン
第 4 回	都市整備施策の国際比較	市街地整備制度の確認と検証
第 5 回	現状の認識	時間的、国際的観点からの都市環境デザインの現状
第 6 回	都市の視覚化	各種統計情報の可視化 変化の可視化
第 7 回	データマイニング	所在情報 情報相互の関連性
第 8 回	戦略的都市運営	意思決定のためのプラットフォーム ステップアップの戦略
第 9 回	都市の個性とコミュニケーション	良さ・利点の発見と確認 表現方法
第 10 回	事例研究	市民参加 さまざまなイベント 都市情報センター
第 11 回	近代以前における建築・都市環境の概念形成	視覚中心主義、および遠近法の影響を確認
第 12 回	近代における建築・都市環境の概念形成	機能主義、および動線分離の問題を例証
第 13 回	近代以降における建築・都市環境の概念形成	機能主義批判、および境界・周縁性を検証
第 14 回	現代における建築・都市環境の概念形成	多自然主義、感覚人類学等、およびネットワーク論の可能性を検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に教員より必要な指示が出る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員作成のプリントが配布される。

【参考書】

各回の内容に即して参考書の紹介がある。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50 %）並びに研究発表（50 %）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

瞬時に関連情報を捕捉しつつ講義を理解することが望ましく貸与パソコン等を常に携帯することが望ましい。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about important observations when considering urban environment, including topics such as period and regions.

CST500N3

水域環境の保全

佐合 純造、伊藤 一正、和田 彰、阿部 充、酒井 憲司、吉富 友恭、川崎 秀明、鈴木 享子、CHAVOSHIAN SEYED ALI

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義で学生は、河川を中心とした水環境の課題について、変遷や施策、対策などについて、実例とともに学び、また、日本と関わりの深いアジアや中東の河川環境の現状や保全状況も理解する。さらに、学生は、東京都内の河川管理の現状や整備を理解するための現地調査に参加する。なお、講義は実務経験を有する講師が担当する。

【到達目標】

水域の環境問題について正しく理解して、課題と今後のあり方について意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・水域の環境問題についてその背景、歴史、現状を理解する。
- ・水域の環境問題にかかわる法制度や技術について理解する。
- ・現場において具体的にどのように実践されているのか理解する。
- ・水域の環境問題について海外の状況を理解する。
- ・水域の環境問題について課題や今後のあり方について議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 回	概論	水域環境の歴史、制度の現状を説明する。(佐合)
2 回	水域環境と河川管理	水域環境の保全に係る治水対策や河川管理について学ぶ。(佐合)
3 回	河川再生と市民参加	河川再生の事例、市民参加の重要性とその変遷について学ぶ。(和田)
4 回	河川環境の調査と整備手法	多自然川づくり、自然再生、水辺の国勢調査、水辺の利活用（かわまち）を学ぶ。(阿部)
5 回	都内河川の現地調査 1	東京都内の河川整備や施設の現地調査を行う。
6 回	都内河川の現地調査 2	東京都内の河川整備や施設の現地調査を行う。
7 回	水環境と上下水道	水利用と水質改善の代表である上下水道の仕組みと課題を学ぶ。(酒井)
8 回	水資源と環境	ダムなど水資源開発に関連した手法や環境の事例や課題を学ぶ。(川崎)
9 回	海外の河川環境 1	アジアを主体に世界の河川環境の現状や河川環境整備の事例を学ぶ。(伊藤)
10 回	海外の河川環境 2	ユネスコの水域環境に関する活動や課題、また各国の水域環境の事例を学ぶ。(アリ)
11 回	水環境の展示デザイン	水辺の自然をテーマにした展示の考え方や具体的な方法を学ぶ。環境学習、合意形成ツール等についても取り上げる。(吉富)
12 回	水域環境の生態学	水域において構造物やその構造と生物生息状況の関係や生物多様性の重要性を学ぶ。(鈴木)
13 回	全体討議 1	提出レポートや講義全体を踏まえて、講義の内容について意見交換や質疑を行う。
14 回	全体討議 2	提出レポートや講義全体を踏まえて、講義の内容について意見交換や質疑を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間の中で現場見学を実施する予定（5～6回で都内河川を見学）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義時に資料を配布する。

【参考書】

必要場合は各回で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価基準は提出レポートで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

国交省、東京都、また、関連するコンサルタント等において勤務した経験を活かして河川、ダム、下水道等の分野の技術や課題を講義する。

【Outline and objectives】

In this course, students will learn about water environment problems around rivers undergoing transitions, reviewing government policies, measures, and other case examples. Also, students will study the present situation and conservation measures of river environments in Asia and the Middle East that are closely related to Japan. In addition, students will participate in an on-site visit to understand the current condition and improvements made to river management in Tokyo. Classes will be assigned by lecturers with practical experience.

社会基盤施設の資産管理

丸山 明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースでは、社会基盤施設の特徴を知り、社会基盤施設の戦略的な資産管理に必要な技術を修得し、修得した能力を実務で発揮できるようになる。まず社会基盤施設を群としてとらえ、施設が中長期間にどのような健全度で存在するかを維持管理費用の投資額によってシミュレーションし、その結果から現状求められる維持管理戦略を学ぶ。一方、個別構造物に発生する変状の種類と特徴、変状の発見と診断、変状の進展予測、変状の最適修繕時期、修繕方法等の短期計画の策定の流れを理解する。中長期計画と短期計画、両者の理解により、インフラマネジメントの全体像、各プロセスの要素技術、PDCAサイクルの重要性を習得し、その結果、学生は、社会基盤施設の運営・管理を効率的に行い、その後、業務を指導できる専門技術者となる。

【到達目標】

到達目標は、①社会基盤施設の現状と抱えている課題を正しく理解する。②施設の状態を確認する点検・診断技術を修得する。③既設構造物にどのような変状（損傷と劣化）が発生するか、またその原因は何かを理解する。④劣化の種類と原因を把握し、劣化進行速度を工学的あるいは統計学的に導く方法を理解する。⑤社会基盤設備の中長期維持管理計画、短期修繕計画策定について、その要諦を理解する。⑥社会基盤施設の建設から維持管理、補修・補強、更新までをマネジメントする技術を理解する。最終目標は、①～⑥までを理解し、自分のスキルとすることで、実務に活かし、職務遂行能力に優れ、説明責任を適切に果たす能力と倫理観のある優れた技術者となることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、建設コンサルタントとして実践経験や学会等で修得した広範囲な知見と技術力によって、社会基盤施設の戦略的管理を実施、指導できる実務型技術者育成を目指す。このような観点から、講義用に作成したパワーポイント及び板書によって各ステップの必要項目を解説し、理解度を高める講義方式を採用する。学生の質問、要望については、臨機応変に対応し、相互理解のもと進める。なお、講義に使用するパワーポイントは、事前に公開し、予習、復習に役立てる。また、社会に出て、即戦力として機能するように、プレゼンテーション能力を高める実務型スタイルも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アセットマネジメントとその変遷	なぜアセットマネジメントが必要なのか。そもそもアセットマネジメントとは何かを説明し、インフラ維持管理の方針を変える出来事とその時代のアセットマネジメントを解説する。
第 2 回	インフラ施設とその現状	インフラにはどのような施設があり、どのような役割があるかを説明し、インフラが現在どのような状況になるかを解説する。
第 3 回	長寿命化修繕計画 (1)	長寿命化修繕計画の詳細と課題を解説する。
第 4 回	長寿命化修繕計画 (2)	実践的な長寿命化修繕計画 (= 中長期投資計画) を、事例を用いて解説する。
第 5 回	短期修繕計画 (1)	長寿命化修繕計画との違いを説明し、「点検」技術や「評価・診断」について解説する。
第 6 回	短期修繕計画 (2)	性能を保持する「維持」、性能を元に戻す「補修」、性能を向上させる「補強」と、一連のメンテナンスに関する「記録」について解説する。
第 7 回	新技術と新発注方式	最新の ICT 技術等を用いた維持管理や、新たな発注方式の採用などを解説する。
第 8 回	PFI/PPP	PFI/PPP 手法を用いた施設維持管理について解説する。
第 9 回	住民の維持管理参加	行政ではなく住民自らのインフラ施設の維持管理への参加を、事例を用いて解説する。
第 10 回	会計の知識	会計の基本を理解し、公会計を資産管理の視点から事例を用いて解説する。また資産価格、社会的便益等を解説する。

第 11 回 マネジメントの知識

戦略的資産管理に必要なマネジメント技術、例えば、ポートフォリオ、リスクマネジメント、トレードオフや、投資判断の手法について解説する。社会基盤施設の資産管理演習課題を設定し、これまで得たスキルを基に資産管理計画案を策定し、プレゼンテーション資料を作成する。演習その 1 で策定した計画案を PPT や関連資料を使ってプレゼンテーションする。プレゼンテーションについて、講評し、改善点、説明責任等を示す。社会基盤施設の戦略的資産管理について、講師とのミーティングを通じて、更なるスキルアップを目指し、実戦力となるよう導く。

第 12 回 資産管理演習 (1)

第 13 回 資産管理演習 (2)

第 14 回 社会基盤施設の資産管理
とりまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外の社会基盤施設の現状と課題、資産管理手法（インフラマネジメント）に関する事前学習が望ましい。

講義前に公開する講義用資料によって予習し、講義時に疑問点を質問し、理解度を高めるのが好ましい。講義が進む過程で 2 回程度の課題を講師が設定、レポート提出をする。

【テキスト（教科書）】

講義用資料：各講義開始前日までにネットで公開する。

【参考書】

1. アセットマネジメント導入への挑戦：土木学会
2. これならわかる「道路橋の点検」：建設図書

【成績評価の方法と基準】

1. 演習成果発表の評価：40%
2. 課題レポート（2 回）：30%
3. 講義支援体制評価：30%

【学生の意見等からの気づき】

今年度より担当

【学生が準備すべき機器他】

パーソナルコンピュータ（ワード、エクセル、パワーポイントソフト含む）

【その他の重要事項】

- ・新潟市等の地方公共団体に、戦略的維持管理の実装に関して建設コンサルタントの立場で支援してきた教員が、自らの知見とスキルによって戦略的資産管理手法について指導する。
- ・即戦力として機能する人材育成が目標であることから、講義中、講義後に分からないこと、知りたいことを積極的にヒヤリングすることが望ましい。

【Outline and objectives】

The aim of this course is to learn about infrastructures in civil engineering and skills for their strategic assessment. Practical knowledge and skills obtained from this course can be applied to actual projects. By acknowledging infrastructures in civil engineering by group analysis, and by simulating how an infrastructure can exist over a medium-to-long term considering its invested maintenance and operation cost, one can study strategies required for the current state. At the same time, topics such as typical degradation and damage of infrastructure, inspection methods and diagnostics, performance prediction, reinforcing and retrofitting, planning of management and their PDCA cycle will be discussed in class. By understanding both medium-to-long term and short period plans, one will be able to acquire the overall picture of infrastructure management, the elemental technology of each process, and the importance of a PDCA cycle. By taking this course, students will become high-level engineers, being able to perform operation and management of infrastructures in civil engineering efficiently, and give guidance as a specialist.

CST500N3

鋼橋の点検・診断・対策技術

杉本 一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主として鋼橋を対象とした維持管理に関するもので、デザイン工学科大学院を対象としたものである。この授業では、鋼橋の維持管理計画、点検、診断、対策などについて紹介する。学生は対策方法、モニタリングなどのケーススタディを通じて基礎的な概念を学ぶことができる。また、維持管理において必要な溶接継手とボルト継手の基礎知識についても習得できる。鋼橋の維持管理の課題の理解を通じて、「土木鋼構造診断士補」レベルとしての素養を身に付けることが期待される。

【到達目標】

鋼橋の維持管理に関連する各種事項の理解に務めると共に、土木鋼構造診断士補と同等の専門的知識を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1・2回	ガイダンス、点検・診断の概要と演習	ガイダンスを行うと共に、鋼橋の点検・診断の概要について述べると共に演習を行う。
第3・4回	主要材料の性質と変遷、接合方法の概要と演習	主要材料の特徴とこれまでの変遷及び接合方法について述べると共に演習を行う。
第5・6回	損傷の種類と測定方法の概要と演習	損傷の種類と測定方法について述べると共に演習を行う。
第7・8回	損傷の点検と測定方法の概要と演習	損傷の点検と測定方法に関して述べると共に演習を行う。
第9・10回	損傷部材の評価の概要と演習	損傷部材の評価方法について述べると共に演習を行う。
第11・12回	補修・補強の概要と演習	補修・補強方法について述べると共に演習を行う。
第13・14回	鋼道路橋、鋼鉄道橋他、鋼構造物に関する損傷と演習	鋼道路橋、鋼鉄道橋他、鋼構造物の損傷に関して紹介すると共に演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

鋼構造に関する知識を習得しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

日本鋼構造協会 土木鋼構造物の点検・診断・対策技術
授業でのプリント配布

【参考書】

特に指定しない。（必要に応じて講義で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

レポートの課題（70 %）と授業中の討議（30 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との対話型の授業を目指します。

【その他の重要事項】

鉄道の土木鋼構造物の設計から維持管理業務に携わってきた教員が、土木鋼構造物の維持管理について解説する。

【Outline and objectives】

This course will examine maintenance primarily in steel bridges for graduate students in civil and environmental engineering departments. The course will introduce maintenance planning, inspection, diagnosis and countermeasures etc. of steel bridges.

Students will learn basic concepts about these subjects through case studies of non-destructive testing and retrofitting methods.

Also, they will learn basic knowledge about welded and bolted joints for maintenance.

Through understanding problems in maintenance of steel bridges, students are expected to acquire technical knowledge such as steel structure diagnosis at a professional engineering level.

CST500N3

複合材料構造解析

山本 佳士

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鉄筋コンクリート構造物の設計の基本となる材料構成則と、構造物設計に関する最近の話題について研究情報も含めて概説する。

【到達目標】

鉄筋コンクリート構造物に対する専門的な知識を習得するきっかけをつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

鉄筋コンクリート構造物の設計の基本となる数値解析手法および構成則の概説と、構造物設計に関する最近の話題について研究情報を紹介する。英語併用可能。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	鉄筋コンクリートの構成則 1：ひびわれの取り扱い	分散と離散ひび割れ 回転ひび割れモデルと固定ひび割れモデルほか
2	鉄筋コンクリートの構成則 2：ひび割れ発生前のコンクリート	弾塑性破壊モデル
3	鉄筋コンクリートの構成則 2：ひび割れ発生前のコンクリート	エクセルおよび他の任意プログラムによるモデル試作演習
4	鉄筋コンクリートの構成則 2：ひび割れ発生前のコンクリート	エクセルおよび他の任意プログラムによるモデル試作演習
5	鉄筋コンクリートの構成則 3：時間依存性	クリープ、動的挙動
6	鉄筋コンクリートの構成則 4：コンクリートおよびコンクリート構造の疲労	疲労の事例とモデル化
7	鉄筋コンクリートの構成則 5：引張り応力下のコンクリートと付着	引張りをうけるコンクリートと、コンクリートと鉄筋間の付着
8	鉄筋コンクリートの構成則 5：引張り応力下のコンクリートと付着	エクセルおよび他の任意プログラムによる破壊エネルギーに関する演習
9	鉄筋コンクリートの構成則 6：ひび割れ面でのせん断伝達モデル	接触密度関数モデル
10	鉄筋コンクリートの構成則 6：ひび割れ面でのせん断力伝達モデル	接触密度関数モデルを使ったせん断力の計算法
11	鉄筋コンクリートの構成則 6：ひび割れ面でのせん断力伝達モデル	エクセルおよび他の任意プログラムによるモデル試作演習
12	鉄筋コンクリートの構成則 6：ひび割れ面でのせん断力伝達モデル	エクセルおよび他の任意プログラムによるモデル試作演習
13	鋼コンクリート複合構造部材の解析事例 1	接合部、合成版、合成柱等の解析におけるモデル化
14	鋼コンクリート複合構造部材の解析事例 2	合成版、合成柱等の解析事例の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回講義の復習

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

1. 非線形解析と構成則 岡村ほか 技報堂出版
2. Nonlinear mechanics of reinforced concrete:K.Maekawa et al., Spon press.
3. コンクリートのひび割れと破壊の力学 三橋、六郷、国枝、技法道出版

【成績評価の方法と基準】

演習 30 点 × 3 = 90 点

毎回の小レポート 10 点

レポート作成時は持ち込み可

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

橋梁等代表的な土木構造物の設計経験を有する教員が、専門についての解説を行い、演習をとおして実用的な技術を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn the principal constitutive models of reinforced concrete, structural design and relevant research in concrete structures.

ADE500N3

サステイナブル都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当授業の目標は、サステイナブル都市デザイン、即ち持続可能な都市をどのように作るかである。まずは、「地区の課題を見つけ、その解決策としての市街地整備の形を提案する」ということの訓練を行う。授業は演習形式とし、『都市問題を考えつつ、手仕事としての図面、そのテクニック』の習得を中心に進める。

【到達目標】

現下の都市整備課題を理解し、自ら設定したテーマに即して例示される市街地においてその解答を見い出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、『DP1』『DP2』『DP3』に関連

【授業の進め方と方法】

国の社会資本整備審議会における、サステイナブル都市への指向などを捉え、最新の社会状況を紹介しつつ、各自テーマを見つけ研究を進める。講義と演習を適宜組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	市街地整備の歴史と到達点	今日までの都市整備の流れ、歴史の概要を理解する
第2回	人口減少社会における都市づくり サステイナブル都市デザインの課題	今後の持続可能なまちづくりのポイントを理解する
第3回	状況視察	課題の対象地を視察する
第4回	状況視察	課題の対象地を視察し、現状を理解する
第5回	テーマ発表、討論	各自より研究テーマを発表する
第6回	サステイナブル都市づくり演習（1）課題の抽出と整理	テーマに即して、具体的なまちづくり検討を進める。
第7回	サステイナブル都市づくり演習（2）類似対応策の検索と評価	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第8回	サステイナブル都市づくり演習（3）課題対応の方向性検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第9回	テーマへのアプローチに関する評価	中間的な発表を行い、課題の理解についての講評を得る
第10回	求められている都市デザインの方向	中間発表を踏まえ、まちづくりのポイントを明らかにしていく。
第11回	サステイナブル都市デザイン演習（1）求められるデザインの指向性	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第12回	サステイナブル都市デザイン演習（2）デザイン案比較検討	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第13回	サステイナブル都市デザイン演習（3）デザイン案の確定とブラッシュアップ	教員とディスカッションしながら計画を詰めていく。
第14回	発表、講評	研究成果を発表し、講評を得る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読み社会の動きを理解する。各種報道、専門書などに幅広く接し、都市整備に関する関心を高める
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義に PPT を使用する。

【参考書】

サステイナブル都市に関する最新の刊行物など

【成績評価の方法と基準】

課題の選定、取り上げた課題に対応した検討内容（50%）、検討成果と発表（50%）により評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

演習課題の作図には、初期エスキスにおいて定規などの製図器具を用い、仕上げる際には貸与 PC 等を使用して、デジタルツールによる図面作成を行う。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

This course is a collaboration with Project Studio in the undergraduate program to examine and develop the planning of target districts.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

橋梁設計法の基本原理を学び、設計で必要となる構造解析手法を FEM ソフトウェアを用いた実習を通して理解する。

【到達目標】

実際の構造解析が実行でき、さらに解析結果を判断し、設計に結びつけられるようになることを目指す。線形弾性解析、弾性座屈固有値解析、弾塑性解析を内容を理解して実施できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と PC を用いた実習をほぼ半々で行う。そのため、授業時間には毎回ノート型 PC を持参のこと。構造解析のソフト (DIANA) は初回の授業時にインストール方法などを説明する。4 / 21 より Zoom によるオンライン授業を開始します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、構造物の設計法の概要	授業の全体の概要とソフトウェアの設定、構造物の設計法を概説する。
2	FEM ソフトウェアの紹介、信頼性設計理論	汎用 FEM ソフトの概要を理解する、信頼性設計理論の説明
3	モデル化と線形解析	構造、荷重、境界条件、材料のモデル化、橋梁設計のための格子解析を紹介
4	FEM のデータ作成演習	プリプロセッサを用いて 3 次元の RC 橋脚のモデル作成
5	弾性解析の実施と結果の表示に関する演習	橋脚モデルの弾性解析とポストプロセッサの活用
6	弾性座屈固有値解析の基礎	Euler 座屈の基礎（柱と板）を紹介
7	板の Euler 座屈解析の演習	板の弾性座屈固有値解析を FEM で実施する
8	塑性論の基礎：弾性、塑性、降伏関数	鋼材の弾塑性挙動、降伏関数を理解する
9	流れ則と硬化則	鋼材を対象とした流れ則、硬化則を理解する
10	非線形方程式の求解	Newton Raphson 法と計算の制御、収束判定について学ぶ
11	弾塑性 FEM 解析の予備段階として弾性解析の演習	円孔をもつ鋼板の FEM 解析、メッシュ作成と弾性解析まで実施する
12	弾塑性 FEM 解析の演習	円孔をもつ鋼板の FEM 解析、メッシュ作成と弾塑性解析までを実施
13	期末レポートの内容とレポートの構成	期末レポートの課題についてレポートの構成、内容について議論する
14	期末レポートの実施	期末レポートの課題を実施する。終わらなかった部分はレポートして後日提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解析ソフトのインストール、授業の復習、レポートの作成、解析ソフトウェアを用いたデータ作成、解析の実行など。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1 冊の教科書に沿って行う授業ではないが、適宜、以下の参考書を参照してください。

【参考書】

実践有限要素法シミュレーション、泉聡志、酒井信介共著、森北出版
 塑性の有限要素法、Owen 他著、科学技術出版
 非線形 CAE 協会監修、岸正彦著、構造解析のための有限要素法実践ハンドブック、森北出版

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 40%、期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度アンケート対象外のためアンケート結果なし

【学生が準備すべき機器他】

以下の条件を満足するノート型 PC を毎回授業に持参してください。

Microsoft Windows

- 7 SP1 (64 bit)

- 8.1 Update 1 (64 bit)

- 10 (64 bit)

【その他の重要事項】

鋼構造物の製作会社に 4 年間勤務し、鋼橋の設計と研究に従事していた。そのため本授業では設計実務のための基礎的な知識を座学で講義し、構造解析ソフトを用いた実習を行っている。

【Outline and objectives】

In this course students will study fundamentals of bridge design, and understand structural analysis methods for design through practice with FEM software.

LANe500N4

テクニカルライティング

豊島 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの普及とグローバル化によって英語で自らの考えを発信できる能力—特にライティングによるコミュニケーション力—が社会で活躍するための要件となってきました。

この授業の目的は工学系大学院生にとって特に重要な「具体的な内容を論理的かつ正確に相手に伝え、相手を納得させられる英語ライティング力」を身につけることです。この目的を達成するために相手（情報の受け取り手）を常に意識しながら、構造的でわかりやすい英文を書くための考え方やスキルを学びます。

【到達目標】

英文ライティングで具体的な内容を正確に伝え相手を納得させるには、文章のストラクチャ（組み立て）がきわめて重要です。

この授業の目標は「読み手にとってわかりやすい構造的な英文を書けるようになること」です。そして、その目標を達成するために工学系大学院生に必須の Email、CV（英文履歴書）、英語プレゼンテーション原稿、アブストラクトを題材に英語で書く練習をします。特に論文要旨を 100 ワード程度の英語にまとめたアブストラクトを書くためには、要点をおさえながら論理的に短くまとめる力が必要であり、その能力は研究活動のみならず、様々な場面で不可欠と言えます。修士論文の冒頭に必要なアブストラクトを自信をもって書けるように授業でしっかり学んでいきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実習からなります。新型コロナの影響で当面は zoom と学習支援システムを併用する授業を行う予定です。4/21 の初回授業で授業概要と進め方を説明しますので、受講予定者はぜひ仮登録して学習支援システムの「お知らせ」を参照して授業に参加してください。

授業はテキストにそって各テーマに関する講義を受講後、ライティングの課題に取り組みます。そして作成した原稿を相互にピア・レビューします。プレゼンテーションは、対面授業が可能になった場合はビデオ撮影し ICT 利用の相互評価システムでフィードバックする予定です。今後の状況に応じて連絡します。

授業では工学系大学院生に特に求められる Email、CV、英語プレゼンテーション原稿の作成方法を学び、実際に書く練習をします。授業はテキストを中心に進めますが、OWL/Purdue Writing Lab、British Council 等の優れた英語学習サイトもとりあげ、幅広い教材を使って指導します。最終課題として修士論文執筆時に必要なアブストラクト（英語要旨）を各自の研究テーマにそって書き上げます。アブストラクトを執筆する準備としてそれぞれの専門分野の英語論文をレビューし、その分野特有の専門用語や表現を学びます。また英語研究論文を書く上で重要な引用文献の書き方等のスキルも学習します。

尚、詳細な授業計画と内容は初回ガイダンスで説明しますが、授業の進捗により内容を一部変更する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	テクニカル・ライティング概論	初日はガイダンスとテクニカルコミュニケーションについてお話しします。実験的に zoom を使って授業をしたいと思います。やり方は学習支援システムの「お知らせ」に掲示しますので、仮登録をすませ「お知らせ」を参照ください。
2	英語ライティングの基本と Essay Writing	英語エッセイの書き方を復習し、実際に書く練習をします。
3	英語論文の書き方 "Keys to Writing Great Papers" の講読	大学院生向けに英語論文執筆の秘訣が書かれた "Keys to Writing Great Papers" を読み、優れた英語論文を書くための心構えと方法を学びます。
4	第 3 章 英文メール術	英文メールの基礎と構成を学びます。そしてフォーマルとインフォーマルなライティングの違いと書き方を学習します。
5	第 3 章 英文メール術	さまざまな事例を研究して実際に書く練習をします。
6	第 6 章 CV、レジメ（英語履歴書）	自分の経歴と業績を CV、レジメのフォーマットにまとめる方法を学びます。

7	第 6 章 CV、レジメ（英語履歴書）	CV、レジメを実際を書く練習をします。
8	Article Review	前半のまとめに、各自が選んだ専門分野の英語論文をレビューして発表します。対面授業が可能になっていれば、発表をビデオ撮影し学内のウェブ OA Tube 上にアップロードします。発表者は、ビデオ映像と相互評価支援システムによる他の受講者と教員のフィードバックを参照して自己省察レポートを書きます。
9	第 4 章 プレゼンテーションの極意	英語プレゼンテーションの事例研究を行い、実際にロジカルなプレゼンテーションを組み立てる練習をします。
10	第 4 章 プレゼンテーションの極意	新形態のポストカードプレゼンテーションの練習をします。
11	第 1 章 アブストラクトの書き方	アブストラクト（英語要旨）の構成を学び、実際に書く練習をします。
12	第 1 章 アブストラクトの書き方	アブストラクト（英語要旨）を仕上げ校正します。
13	第 1 章 アブストラクトの書き方	各自が作成したアブストラクト（英語要旨）を口頭発表後、提出します。発表はビデオ撮影され OA Tube 上にアップロードされます。発表者は相互評価支援システムによる教員とほかの受講者のフィードバックとビデオ録画を参考に省察します。
14	まとめ	第 13 回目の授業で提出されたアブストラクトを教員が添削し、各受講者にフィードバックします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の学習内容をテキストにそって予習し授業にのぞみます。ライティングの課題は各自が期日までに授業外で準備し、授業時にピアレビューし、グループまたは個人でプレゼンテーションをします。

Midterm Review には各自の専門分野の英語論文をレビューし、プレゼンテーションしますので、紹介できそうな英語論文を探しておいてください。そして、最終課題として英語要旨を書きますので、題材となる研究テーマ（学部の卒論テーマも可）を考えておいてください。

尚、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「ハーバードでも通用した研究者の英語術・ひとりで学べる英文ライティング・スキル」 島岡 要、Joseph A.Moore、羊土社、ISBN978-4-7581-0840-9

【参考書】

・「Keys to Writing Great Papers: Advice for Graduate Students and Young Researcher」(中島エリザベス著、BookWay)

・Rosenberg, B.(2005). *Technical Writing for Engineers and Scientists*. New Jersey:Pearson Education.

・Wallwork, A.(2011). *English for Writing Research Papers*.New York: Springer

・Zemach, D.E., Broudy, D.,&Valvona, C.(2011). *Writing Research Papers - From Essay to Research Paper* . Oxford: Macmillan Education

・「科学技術系の現場で役立つ英文の書き方」(N. マッカードル、J.T. ムラオカ、時国滋夫著、講談社サイエンティフィック)

・「ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方」(小野義正著、丸善株式会社)

・「理系研究者のためのアカデミック・ライティング」(ヒラリー・グラスマン・デール著、東京書籍)

・The Purdue Online Writing Lab (OWL) <https://owl.english.purdue.edu/>

【成績評価の方法と基準】

・Midterm Review 30% (Presentation 20%, Paper 10%)

・課題 30% (Presentation を含む)

・最終課題 40% (Presentation 10%, Paper 30%)

・3 分の 1 以上欠席の場合、単位は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

「修士論文の冒頭に必要な英語要旨の構成や書き方がわかって、とてもためになった」、「自分の研究分野の英語論文を読む機会ができてよかった」、「自分の課題や選んだ英語論文を発表する機会があり、プレゼンテーションが上手になった」というコメントをいただきました。ライティング力だけでなくコミュニケーション力を高めるために、日常生活で使用頻度の高い実践的な内容を選び、授業を進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

相互評価支援システム使用の際は PC を持参するようにしてください。

【その他の重要事項】

ニューヨーク州立大学 (UB) で理工系学生 (STEM) 向けのテクニカル・コミュニケーションを修了し書籍および実務翻訳を手がけてきた教員が、構造的で明快な英文ライティングの書き方を指導します。

【Outline and objectives】

Modern engineers are required to have strong communication skills to be successful in the global world. This course aims to improve graduate students' verbal English communication skills, especially writing skills, to thrive in the global engineering community. The course objective is to instruct students on how to structure clear, concise, and audience-directed texts. The 14-week course consists of lectures, writing projects, discussions, and presentations. In the course, students learn skills in writing documents such as e-mail messages, PowerPoint presentations, CVs, as well as academic papers. Also, they will collaborate with peers to critique the assigned writing tasks. The final goal of this course is to write an English abstract of their research. Before writing the abstract, students will read English academic articles related to their specializations, review the content, and make presentations about their chosen articles.

HUI500N4

ヒューマンサイエンス論

森 健治

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

より良いサービスを作るためには、サービスの利用者の視点に立ち、サービスのデザインを考えることが必要である。本講義において、受講生は人間の認知の諸特性を理解し、また、サービス利用場面の観察手法を学ぶ。サービスの利用場面を評価、分析し、利用者にとってより価値の高いサービスデザインとして反映する方法を検討できるようになる。

【到達目標】

受講生は、記憶、注意、ヒューマンエラーに関わる認知機能など、人間の基礎的な認知のメカニズムについて理解する。また、多様なサービスの評価手法を知り、ユーザ観察に基づいた問題発見や改善案の検討が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に示す各回テーマについて、基礎的な知識を講義により学ぶ。また、受講生による実践（ユーザビリティテスト、エスノグラフィ調査の実施）や議論（グループディスカッション）を経て、レポートを提出する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本講義の目標と進め方について説明を行う
2	モノの使いやすさと認知	モノの使いやすさと認知に関する基礎を学ぶ
3	ヒューマンエラー	失敗のメカニズムを理解する
4	身の回りにあるモノのデザイン	身の回りのデザインと、エラーに備えたデザインについて考えを深める
5	記憶と注意の特性	記憶と注意のメカニズムを理解する
6	認知的高齢化とサービスデザイン	加齢による認知機能の変化とデザインの関係を理解する
7	開発プロセスとユーザ評価	ユーザ評価の手法を学ぶ
8	ユーザビリティテスト 1	ユーザビリティテストを計画する
9	ユーザビリティテスト 2	調査結果の報告と議論を行う
10	エスノグラフィ調査 1	エスノグラフィ調査を計画する
11	エスノグラフィ調査 2	エスノグラフィ調査を実践する
12	エスノグラフィ調査 3	エスノグラフィ調査を報告する
13	ユーザ調査のまとめと発展	ユーザ調査手法をまとめ理解を深める。
14	総まとめ	全体を振り返り解説する。講義で得た知識を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、レポートの作成を求められます。レポートの作成には、ユーザ評価の実践、受講生間での議論を必要とする場合があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定はありません。各回講義ごとに、資料を配布します。

【参考書】

講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・下記の 3 つのレポートにより成績を評価します。評価には、各レポート提出に関わる講義への参加姿勢も考慮します。
 ・エラー事例報告書 30 %、ユーザビリティテスト報告書 30 %、エスノグラフィ調査報告書 40 %

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生には積極的に講義に参加いただいておりますが、さらなるアクティブラーニングの推進と、講義手順の改善を行い、専門的な知識と実践的な知恵をより身に付けられるよう努めます。

【その他の重要事項】

人間中心設計の専門資格を有し、IT 業界やメーカーでの新規ビジネス開発を行っている教員が、その経験や知識を踏まえ、サービス創出に役立つ「人間の基礎特性」や「ユーザ調査の手法」について講義する。

【Outline and objectives】

In this course students will understand the mechanisms of human cognition and learn how to observe scenes in which users interact with artifacts. They will become able to analyze and evaluate the usability and user experience of products and services, and consider more valuable services for users.

ART500N4

身体表現論

山中 玲子、観世 鏡之丞、観世 喜正、中司 由起子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本が世界に誇る伝統芸能である能について基本的な知識を身につけるとともに、現在の能をとりまく環境や新しい可能性について考える。

【到達目標】

- 1) 能について、参考書を丸写しにした知識だけでなく、自分の言葉で説明できる。
- 2) 能の謡や所作の基本、舞台や装束の特性等を、経験によって知り、伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス方式の授業である。1) 映像資料も用いながら能についての基礎知識を学ぶ授業と、2) 第一線で活躍中の能楽師による、「役者の身体やその基礎となる稽古」「現代における能の公演形態の問題等を考える授業」とを組み合わせ、現代の能楽に関する総合的な知見を身につけていく。能楽堂における実地授業（4 コマ分）もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	10 月 1 日。ガイダンス（中司）	講義および実習についてのガイダンス。受講に必要な最低限の基礎知識を得る。
第 2 回	10 月 15 日。能の歴史と演技者（中司）	能楽師の役籍と流儀などの、能楽を演じる人々の構成を知る。
第 3 回	10 月 22 日。現代の能楽師（観世喜正）	家元制度や内弟子制度など、現代に生きる能楽師の暮らし（活動の内容）について知る。
第 4 回	10 月 29 日。能楽師の修業過程（観世鏡之丞）	修業の過程や能を演じる上での心構えについて、能楽師自身の言葉を聴く。
第 5 回	11 月 5 日。9 時 30 分～12 時 30 分。実習①（観世鏡之丞・山中・中司）	青山の鏡仙会能舞台にて実習。能舞台の特徴。能舞台上を歩く。能の謡・舞の体験。第 6 回と連続授業。
第 6 回	11 月 5 日。9 時 30 分～12 時 30 分。実習②（観世鏡之丞・山中・中司）	青山の鏡仙会能舞台にて実習。装束付けの体験と見学。能面の見学。第 5 回と連続授業。
第 7 回	11 月 12 日。能を舞い演じること（観世鏡之丞）	能の作品をどのように解釈して演じるのか、作品にこめる思いについて演者の言葉を聴く。
第 8 回	11 月 19 日。能の作品（中司）	小テスト実施。能の曲趣の豊かさを知る。能の作品の調べ方を学ぶ。
第 9 回	11 月 26 日。能の上演形態と演出（中司）	小テストのフィードバック。能の上演形態の種類と演出の幅を知る。
第 10 回	12 月 3 日。能の興行（観世喜正）	能の興行がどのようにおこなわれるのか、計画の段階から当日までの流れを知る。
第 11 回	12 月 10 日。9 時 30 分～12 時 30 分。実習①（観世喜正・山中・中司）	矢来能楽堂での実習。能舞台の特徴。能舞台上を歩く。能の謡と所作の体験。第 12 回と連続授業。
第 12 回	12 月 10 日。9 時 30 分～12 時 30 分。実習②（観世喜正・山中・中司）	矢来能楽堂での実習。能装束に実際に触れ、その扱いを学ぶ。第 11 回と連続授業。
第 13 回	12 月 17 日。能の普及（観世喜正）	国内での普及活動と海外への発信の状況を通して、能の普及の実態と今後の展開を考える。
第 14 回	1 月 14 日。レポート発表（山中・中司）	各自のレポートを発表し、討議をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講期間中に最低一回は実際に能楽堂へ足を運んで能を見、その経験をレポートに生かす。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

受講前に、市販のガイドブックや宣伝チラシなど、何でも良いので自分なりに能についての情報を得ておいてほしい。

「文化デジタルライブラリー」にも基本情報を載せてある。

<http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>

【成績評価の方法と基準】

レポート（30 %）。課題、能楽堂で実際に能を鑑賞したうえで、能の催しの企画書を作成する）、2 回の実習への参加（50 %）、小テスト等の平常点（20 %）。第 8 回に能楽の基礎知識を確認するテストをおこなう）を総合して決める。

【学生の意見等からの気づき】

文系・理系の学生が混ざる珍しいクラスなので、最終回に出席者が互いの意見を聞き合う機会を設けた。最終回に限らず、通常の授業中でも、ちょっとした感想、小さな疑問など、遠慮せず、積極的に発言してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

白足袋

【その他の重要事項】

★第一線で活躍中の能楽師を講師に招いての授業なので、授業日程が多少変動的になっていきます。特に 2 回の実地授業は、学外の施設にて、1 限・2 限の時間帯 2 コマ分を使つての授業ですが、単位取得のためには 2 回の実地授業出席は必須としますので、よく考えて受講計画をたててください。

★実習時には足袋が必要となります。入手方法はガイダンスの際に伝えます。

【Outline and objectives】

Together with studying fundamentals of the traditional Japanese noh performance renown throughout the world, students will consider the environment and new possibilities currently surrounding it.

SES500N4

ソシオシステムデザイン論

廣田 尚子

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活・社会・ビジネスを横断したテーマを取り上げて、本質的価値の循環を生むシステムのデザインプロセスを学ぶ。仕組みのデザインでは、社会や環境が抱える問題の解決・人々の生活の質が向上し心が豊かになる価値・新しいビジネス創出を切り分けて考えるのではなく、それらが深く関連することで価値が循環するシステムが求められている。その解決を見出すデザインには、論理的思考とクリエイティブな発想の両方の力が求められているため、この授業は実践的作業を繰り返し行い、論理的思考と発想力を同時に身につけるプログラムとしている。

【到達目標】

社会の多くの場面で求められるデザインの思考を基礎から身につけ、アイデアを生む発想法と実践力を強化する。論理的思考とクリエイティブな発想の習得を目標とする。また実践的作業プロセスにおいて、次の習得も行う。

- ・ユーザー視点の徹底化
- ・多重する複雑な情報から問題を抽出する情報分析力
- ・問題とニーズを把握して繋げる力
- ・イノベティブなアイデアを生み出す思考力

深掘りする思考法、アイデアを生み出し方、システム構築法を実践的に強化することにより、自己研究分野における開発力と推進力の向上が可能になる。将来に向けては、更に経営デザインを理解できる人材の育成を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

【内容】

基礎学習の後、実際のコンペに応募する想定で提案を制作します。

【進め方】

本年度は、課題図書による簡易レポート（基礎学習）と双方向オンライン（Zoom）によるグループディスカッションを組み合わせた授業展開とします。

【日程】

4/21(火)Hopiiにて課題提示：課題図書「アナロジー思考」細谷功を読む

4/28(火)HOPIIにて簡易レポートの作成について提示

5/12(火) 双方向オンライン授業（Zoom）にてレクチャー

5/19(火)Zoomにてコンペ応募を想定した思考レッスン

5/26(火)Zoomにてコンペ応募を想定した思考レッスン

6/2(火)Zoomにてコンペ応募を想定した思考レッスン

6/9(火)Zoomにて思考レッスンのプレゼンテーション・講評
グッドデザイン賞を受賞したソーシャルデザイン・ビジネスデザインの優良事例を参考に、社会的問題解決を生む提案作業を行います。

- ・優良事例の研究
- ・ブレインストーミングによる課題抽出
- ・調査分析とアイデアを生む思考の構築を繰り返す（グループディスカッション）
- ・提案システムの伝達と運用方法の提案
- ・論理的思考によるデザイン手法を総合的に理解する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1 週	ガイダンスの実施 デザインの概論的解説	デザインの役割と可能性を講義形式にて解説
2 週	優良事例の研究 1 優良事例の研究 2	グッドデザインを受賞した優良事例を詳細に解説し、ディスカッションする
3 週	オリジナル課題開始	グループのオリジナルテーマをディスカッションする。
4 週	オリジナルテーマ：社会的問題から課題の抽出	ブレインストーミングによる課題の抽出。
5 週	オリジナルテーマ：情報の抽象化と分析	複雑で膨大な情報をどのように処理しアイデアを生む準備作業。通常ブラックボックス化されている思考作業を紐解く。
6 週	オリジナルテーマ：情報のアイデア化システム化	分析・抽象化した情報をアイデアに昇華するプロセスの解説と実践。
7 週	アイデア → ストーリー構築 システムフローの作成 成果発表	アイデアを核に、完結したストーリーへ構築するプロセスの実践。成果発表と講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会の不都合や問題点を抽出し、各自に於いて思考の準備をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を提示する。

【参考書】

基本的にはテーマの進行に合わせ提示するが、基本参考書としては下記の書籍を紹介する。

ソーシャルリサーチ：ジェフ・ペイン

意味論的転回：クリッペンドルフ、最適デザインの概念：松岡由幸

未来を洞察する：鷲田祐一、第3の波：アルビン・トフラー
その他

【成績評価の方法と基準】

チーム発表の成果と個人のチーム貢献度を中心に評価。欠席は 2 回まで認め、出席日数を個人評価に加算される。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、履修者による満足度は極めて高いが、更なる改善を目指し、各国の工学系・デザイン系・ビジネス系の授業を参考に講義内容の修正を行っている。

【学生が準備すべき機器他】

履修者は PC を持参し、必要ソフトは事前にインストール済みとする。

【その他の重要事項】

企業の製品開発デザインと開発コンサルの経験、グッドデザイン賞ビジネスモデル部門審査委員、ビジネスデザインアワード審査委員長の経験を活かして、仕組みのデザインを指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will learn about system design processes which give way to fundamental value cycles, engaging in areas which cut across topics in daily life, society and business. In this design, rather than clearly categorizing the value/creation of businesses which sustain and solve problems in society and environment towards better quality of living, we study their deep-set relationships to discover systems of value cycles. The design of such solutions requires both logical and creative processes, which this program aims to develop through the exploration of practical exercises.

SES500N4

インダストリアルデザイン論

佐藤 康三

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インダストリアルデザイン（以下 ID）の源泉より今日の ID 開発の状況、今後のあり方までを学べます。講義内容は、ID 学問を理解する上で必ず必要な西洋建築史、西洋美術史、日本美術史、近代デザイン史、を俯瞰し、文化的文脈の理解、工業の発達と他分野への影響等を含めて学び、今日の ID をより深く理解することを目的とする。（講義は週二回に分け行う。）

【到達目標】

今日の ID、ID の源泉からこれからの ID をより深く理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、週二回に分け行われる。インダストリアルデザイン（以下 ID）の源泉より今日の ID 開発の状況、今後のあり方までを学んでいく。講義ノートを必ずとる。また、各回の講義内容について、考察しておき、課題レポートを提出する。講義内容は、様々な画像を活用されるが、各自でより多くの参考作品を調べる事。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 製品デザインと文化的文脈 1	この授業の要点、注意事項の説明。 ガイダンス後講義 デザインとは、どのような思想、哲学より生まれてきたか。 歴史的認識の重要性を学ぶ。
2	製品デザインと文化的文脈 2	ギリシア建築、壁画、彫刻からルネッサンス建築、壁画、絵画、彫刻と欧州でのデザイン運動の関わり、文脈を俯瞰する。
3	コンポジションとは何か 1	ギリシア建築、壁画、彫刻からルネッサンス建築、壁画、絵画、彫刻と欧州でのデザイン運動の関わり、文脈を俯瞰する。
4	コンポジションとは何か 2	神聖比例、カノン、黄金比について
5	MODERNISM 1 CONSTRUCTIVISM de Stijl	ロシア構成主義とディ・ステールについて
6	MODERNISM 2 de Stijl	ロシア構成主義とディ・ステール、ドイツ工作連盟、バウハウスの思想背景、造形理論について
7	MODERNISM 3 Deutsche Werkbund Bauhaus	バウハウスの思想背景、造形理論について
8	MODERNISM 4 ITALIAN DESIGN 1	未来派の思想背景とイタリア現代デザインの関係について 1
9	MODERNISM 5 ITALIAN DESIGN 2	未来派の思想背景とイタリア現代デザインの関係について 1
10	MODERNISM 6 FUTURISMO 3	未来派の思想背景とイタリア現代デザインの関係について 2
11	MODERNISM 7 OLIVETTI 1	OLIVETTI の思想と表現
12	MODERNISM 8 OLIVETTI 2	アメリカンデザインの思想背景と工業デザイン意匠表現： T 型フォードと機械科時代
13	AMERICAN DESIGN 1 FORD MODEL T MODERNISM 9 AMERICAN DESIGN 2 INDUSTRIAL DESIGNER RAYMOND LOEWY	アメリカンデザインの思想背景と工業デザイン意匠表現 2 レイモンド・ローウィー

14	MODERNISM 10 AMERICAN DESIGN 3 RAYMOND LOEWY BUCKLIGSTER FULLER	アメリカンデザインの思想背景と工業デザイン意匠表現 3 バックミンスター・フラー 講義総括とこれからの製品デザイン 講義まとめ
----	---	--

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を用いて予習・復習、特に参考資料の確認
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

世界デザイン史（阿部公正＝監修：美術出版社）2017 第 5 版：¥2500

【参考書】

西洋美術史（高階秀爾＝監修：美術出版社）
西洋建築史（堀内正明他＝執筆：美術出版社）

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業態度を評価対象とします。
課題：講義レポート提出（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をより理解し易くする為の図像を増やす。全体授業内容を簡潔にする。

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の知識を講義する。

【Outline and objectives】

From the source of industrial design (ID) below, we can learn about today's ID development situation and future direction.

HUI500N4

インタフェースデザイン論

土屋 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の情報社会では、電子機器の多機能化、高機能化の進展により、インタフェースがより多様化、複雑化するため、ユーザーに過度な操作の負担や不安を与えることが多くなっている。ユーザーの操作技術や記憶に頼らず、効率的で快適な人と機器の対話（インタラクション）と、より高次の感性価値実現を目指すインタフェースデザインの方法論を、実製品のインタフェースの評価分析とラピッドプロトタイプイングによる新たな提案を通して学習する。

【到達目標】

具体的事例を通して、インタフェースデザインのコンセプト立案からプロトタイプ制作までのプロセスと、そのユーザビリティ（操作性）、およびアクセプタビリティ（受容性）評価手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な製品のインタフェースを、ISO のインタフェース設計ガイドラインやユーザビリティワークショップ等の評価手法を用いて評価・分析することで、インタフェースデザインに必要な技術を体感的に確認すると同時に、次世代の入出力デバイスの技術動向を踏まえた新しいインタフェースのデザインとラピッドプロトタイプの製作を通して、実践的デザイン手法を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	インタフェースデザインの現状、必然性・可能性両面からのデザイン手法等を概説する
2	製品観察	実製品を事例にユーザーの操作行為の観察とインタフェースの問題点抽出手法を解説する
3	製品分析、問題点抽出	ユーザー行為の観察データ、およびユーザーニーズの定量的・定性的分析手法を解説する
4	情報の企画（仮説構築）	身体的・認知的両面からのインタフェースデザインコンセプトを構築する
5	情報の構造化	ユーザーと機器とのインタラクションを操作フローとしてとりまとめる
6	情報の可視化（1）	身体的・認知的インタフェースの基本デザイン案を制作、GUI 要素をデータ化する
7	情報の可視化（2）	インタラクション確認のための動作プロトタイプを制作する
8	情報の検証（1）	インタフェース設計ガイドライン、およびユーザビリティワークショップを用いた評価実験を実施する
9	情報の検証（2）	評価実験で得られたデータの分析を行い、改善案をとりまとめる
10	インタフェース開発の現状	インタフェース開発の歴史と開発動向について解説する
11	インタフェース開発環境とデバイス	オーサリング、プロトタイプ、ホットモデルの開発ツール、入出力デバイスを解説する
12	身体的インタフェース	タンジブルインタフェース、フィジカルインタラクションの開発手法を解説する
13	ラピッドプロトタイプینگ1	ラピッドプロトタイプینگツールを用いた製品提案を行う。
14	ラピッドプロトタイプینگ2	ラピッドプロトタイプینگツールを用いた製品のユーザビリティ評価実験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題に対する調査、レポートの作成を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会
ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版
デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版

ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業内での発表、授業態度をもとに総合的に評価する。
平常点（20 %）+ 各課題合計（60 %）= 合計 100 %

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションによる学生同士の意見交流を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【その他の重要事項】

実践的なユーザビリティ評価手法を学習するため、企業訪問を行うことがあるので、実施方法については指示に従うこと。

【Outline and objectives】

In the information society, interfaces are becoming more complicated due to the progress of electronic device multifunctionality, leading to greater burden being placed on users. Through the evaluation analysis of interface and rapid prototyping, we will learn about the interface design methodology aiming for efficient and comfortable human-machine interaction without undue reliance on users' operation skills.

品質マネジメント論

池庄司 雅臣

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

品質マネジメント論では、様々な形のデータに対する捉え方や扱い方を学ぶことで、実践的な問題解決能力を育成することを目的とする。
とりわけ問題解決へのアプローチとしては、統計的品質管理 (Statistical Quality Control : SQC) の基礎的な理論と、代表的な統計手法を理解すること。そして実際にデータに触れて分析してみることを重視する。
授業を通じて、仮説検定などの統計的な考え方や分析方法を身につけることで、様々な問題や事象の背後にあるデータが身近な存在となり、主体的に分析・評価できるようになるための一助となれば幸いである。

【到達目標】

統計的な考え方に基づく問題解決としては、以下のようなプロセスが挙げられる。

- ①. 与えられたデータを客観的な事象として観察
- ②. データをもとに事象全体の構造を仮説として設定
- ③. 仮説を説明する統計的数理モデルの構築
- ④. 数理モデルに対する評価検証

①～④のプロセスについて、演習を通して理解することに重点を置きつつ、その背後にある基礎的な確率・統計の知識についても学習する。
さらに、エクセルの「分析ツール」をメインとした、基礎的なデータの取り扱いについても習得する。
また、演習では必要最低限の記述・説明を意識してもらい、その都度、講師からの十分な解説も反映させることで、論理的なレポートを作成できることを企図する。
以上を本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に前半の講義と後半の演習から構成され、演習ではノートパソコン（主にエクセル）を利用する。
演習レポートは、電子ファイル形式（ワードまたはエクセル）での提示とする。
最後の自由演習については、パワーポイントにまとめて発表する場を設ける。（最終発表）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の内容や構成、また品質マネジメントの有り方などについて説明
2	QC 7つ道具	基礎的な品質管理の考え方について説明
3	管理図	管理図の作成方法と、その背後にある統計的考え方について説明
4	推定・検定の考え方（1）	平均や分散、正規分布などについて説明
5	推定・検定の考え方（2）	t 検定・カイ 2 乗検定・F 検定について説明
6	分散分析	一元配置と二元配置の分散分析について説明
7	実験計画法	実験計画法について説明
8	品質工学（1）	品質工学の考え方と S N 比の説明
9	品質工学（2）	品質工学の適用事例と損失関数の説明
10	相関と回帰	相関と単回帰分析について説明
11	重回帰分析	重回帰分析について説明
12	主成分分析	主成分分析について説明
13	総括および自由演習	授業のまとめを行い、個々が題材とするテーマから自由にデータを分析
14	最終発表	自由演習の結果について発表（ppt 形式の資料を準備）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
（毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み、毎回の演習、および最終発表をもとに評価する。

（平常点：30%、演習レポート：40%、最終発表：30%）

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、データの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline and objectives】

The aim of this course in quality management theory is learn about methods of capturing and handling various sorts of data in order gain skills in solving practical problems.

At the forefront of problem solving approaches are the understanding of fundamental theory of statistical quality control (SQC) as well as representative statistical methods. Focus will also be given on experience of analyzing real data.

Through this course, by obtaining skills in statistical approaches and analysis methods such as hypothesis testing, students should become familiar with the data underlying various problems and phenomena and reach a position to analyze and evaluate them independently.

HUI500N4

ヒューマニティデザイン論

安積 伸

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、デザインの文化・芸術的側面に目を向け、デザインと共にある、あるいは隣接する芸術メディアを理解する事によって、より多様で豊かなデザイン表現のあり方を考察する事を目的とします。
本年度のテーマとするメディアは、D 期開始時に発表します。

【到達目標】

人は太古の昔より、常に魅力的で新しいコミュニケーションの手段を求め、それは往々にして芸術的表現として結実しました。あるときは真実に近づくための手段として孤高の美が追求され、またあるときは大衆の娯楽として洗練された美意識が世界を大きく包み込みました。この授業では、様々な時代の多様なメディアの作品を鑑賞しながら、その文化的時代背景、芸術的視点、表現としての魅力を理解し、クリエイティブなメディアの過去・現在・未来を考察する事を目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

様々な切り口で表現メディアを読み解きつつ、その歴史的背景、技術、問題意識、表現の魅力などへの理解を深めます。
学外施設への積極的な訪問調査を行い、クリエイターの生の声を聞くことで、現在進行形の表現としてどう昇華されているかを理解し、さらにそれらが今後どのように発展出来るか、考察を含むレポートあるいは提案としてプレゼンテーションしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明
2	メディアをとりまく歴史・文化とその周辺	テーマとする表現メディアの歴史と現状を読み解く。
3	参考作品鑑賞 視聴 学外調査1準備	テーマとする表現メディアの映像作品・記録などの視聴。 学外調査を行うための準備。
4	学外調査1-1	学外施設を訪問し、テーマとする表現メディアの歴史と現状を理解する。
5	学外調査1-2	学外施設を訪問し、テーマとする表現メディアの歴史と現状を理解する。
6	学外調査1まとめ 学外調査2準備	学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 第2回目学外調査の準備。
7	学外調査2-1	学外施設を訪問し、テーマとする表現メディアの歴史と現状を理解する。
8	学外調査2-1	学外施設を訪問し、テーマとする表現メディアの歴史と現状を理解する。
9	調査2まとめ 視聴リスト作製	第2回目学外施設訪問で得た知見をまとめ報告。 調査により浮かび上がった作品に関する情報の収集。
10	参考資料 視聴鑑賞会	参考作品視聴会。 グループディスカッションによる読み解き。
11	特別講義	クリエイターによる、実践例を紹介する講義。 講師を招聘もしくは訪問。
12	現場訪問	制作現場訪問
13	研究発表	調査・講義で得た情報を元に、自ら掘り下げた研究・提案の結果を発表
14	講義総括	まとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習 各テーマの自主的調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

近代デザインの歩み (橋本 太久磨：理工学社)
メディアアートの教科書 (白井 雅人他＝編纂：フィルムアート社)
The Shock of the New (Robert Hughes：Thames & Hudson)

【成績評価の方法と基準】

課題発表 40 点、授業 50 点、提出レポート 10 点、とします。
成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、

89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-、79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-、69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-、60 点未満を D、未受験を E とする。
積極的な調査への参加、授業態度を評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

内容・進行スケジュールに関する要求があれば、随時考慮してゆきます。

【その他の重要事項】

デザイナーとしての経験を有する教員が、現在進行形のクリエイティブワークに関する授業を行います。

【Outline and objectives】

This course provides understanding of the cultural/artistic aspects of design by observing various related media, and to discuss possibilities of more diverse and rich expression of design. The theme is announced at the beginning of the D semester.

OTR500N4

システムデザインワークショップ（PBL）

安積 伸、岩月 正見、野々部 宏司、峯元 長、SEONG YOUNG AH

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な人工的な「もの・こと」は、人間が生活していくためのもの・ことであり、「ものづくり」は、いわば現在の様々な課題の解決策ととらえることができる。「ものづくり」にあたっては、(1) デザイン、(2) 機能、安全性、(3) 公知といったデザインに関わる 3 つの事項を確保しなければならない。これを実現するためには、「もの・こと」としてそのものを生成する為に多面的に熟慮されたデザイン設計計画、材料や加工技術やメカニズム、エレクトロニクスといったテクノロジーに関わる知識が不可欠である。さらに、「ものづくり」に際して、クラウドコンピューティングを活用し様々な情報を得ながら政策を進める。また制作はプロトタイプにはコンピュータ数値制御でのデスクトップ工房を活用する。また限られた資源を有効に利用し、環境に配慮すること、また創出された「ものづくり」を世の中に認知させるためのマネジメントを忘れてはならない。この実習講義では、実社会の課題に対して、クリエーション系計画、テクノロジー系計画、マネジメント系計画の三つの観点から具体的な解決策を制作し、総合的にものづくりの本質を学ぶ事が出来る。

【到達目標】

クリエーション系計画、テクノロジー系計画、マネジメント系計画の三つの観点から具体的な製品プロトタイプを制作し、総合的にものづくりの本質を学び、デザイン成果物を製作する事を目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

実際の製品は、クリエーション、テクノロジー、マネジメントのコラボレーションにより創造される。本講義では、「もの・こと」の課題を設定し、実際の企画・製作・製造プロセスを体験しながら、ものづくりをクリエーション、テクノロジー、マネジメントの各系を連携した総合的デザイン視座に立った（意匠、機構、管理の視点求められる。）実習形式で学ぶ。作業はチーム編成による集中講義等で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 制作テーマの発表	授業の進め方、本年度の「ものづくり」テーマ発表、制作チーム編成
第 2 回	デザイン開発計画企画	テーマに沿った、開発事象（デザイン）の策定、初期製品開発企画立案法を学ぶ。
第 3 回	デザイン開発計画方向性立案	デザイン開発企画立案よりより具体的なデザイン対象を見いだし、その対象の調査研究を行う。調査方法の精査法を学び、初期デザイン開発計画提案資料作成を行う。
第 4 回	デザイン開発計画の発表（第 1 回デザインレビュー） 第一次プロトタイプ	前回までの、作業プロセスをまとめ、開発対象物の第一次プロトタイプをまとめて発表を行う。
第 5 回	機構企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの機構について学び、機構企画を行う。
第 6 回	機構の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの表現調整と機構の適合性について学ぶ。
第 7 回	機構の決定	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、機構の決定の仕方を学ぶ。
第 8 回	機構計画の発表（第 2 回デザインレビュー） 第二次プロトタイプ	前回までの作業プロセスをまとめ機構計画を中心に第二次プロトタイプをまとめて発表を行う。発表を行う、また調整によって変更された意匠仕様変更についても発表を行う。
第 9 回	販売企画	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、対象製品の販売企画の仮説立案法を学び、初期販売企画をたてる。
第 10 回	販売の方向性立案	デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観機構と実装機構の整合性を調整し、販売企画の方向性を立案し、立案された計画の整合性について学ぶ。

第 11 回 販売方法の決定

デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観と実装機構の整合性を調整し、販売方法、効果の決定法を学ぶ。前回までの作業プロセスをまとめ販売計画を中心に発表を行う、また調整によって変更された意匠仕様変更、機構変更についても発表を行う。第三次プロトタイプ

第 12 回 販売計画の発表（第 3 回デザインレビュー）
第三次プロトタイプ

第 13 回 開発計画企画の策定

デザイン開発計画に基づく対象デザインの外観決定、実装機構決定、販売法の決定の整合性を調整し、開発計画全体の企画書の策定法を学ぶ。

第 14 回 総合デザインレビュー
総合講評

授業で行った全ての作業プロセスをまとめ最終プロトタイプ、制作フロー、問題点等のプレゼンテーションを行う。全体講評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマの基礎調査、調査データの分析、分析より得られたテーマに沿った「ものづくり」方向性立案、基本方針より導きだされる課題テーマに対する現在の問題点の抽出から問題点解決のための第一次仮説立案までを、しっかりとまとめる事が重要で。様々な基礎データの収集を各チームが行う。また、問題可決された提案モデルの制作を行ないプレゼンテーションをする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。演習時必要な参考資料は適宜配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

最終作品、プレゼンテーション内容、発想能力などにより総合的に評価する。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

授業環境の改善

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In this practical lecture (PBL), we generate concrete solutions from the three viewpoints of creation, technology, and management planning, considering real-world social problems and studying the foundations of making comprehensive systems.

SES500N4

デザイン創生学特論

佐藤 康三、土屋 雅人、安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本特論では、人間の感性へ大きく依存するノンバーバル (nonverbal) 分野へ科学的方法論を導入し、ノンバーバル分野における普遍性や規則性を、内外の先端的なデザイン事例や演習などを交えながら考究する。このような考究に基づき物作りの基盤を成すデザイン創生学を論ずる。(オムニバス方式/全15回)

【到達目標】

以下の能力を身につけることを目標とする。

1. プロダクトデザイン理論的思考能力
2. ヒューマニティーデザイン理論的思考能力
3. インターフェイスデザイン理論的思考能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

最近の研究動向を把握するため、国内外の学術雑誌を中心に文献調査を行い、それらの内容に対するプレゼンテーションとディスカッションを行う。5回ずつ、3名の教員がオムニバス方式で講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1～5 回	プロダクトデザイン観点 (佐藤康三)	プロダクトデザイン学の観点から、問題の設定やモデル化、およびその具体的な解決策の事例を通してプロダクトデザインの理論的デザイン創生学を考究する。
第 6～10 回	ヒューマニティーデザイン観点 (安積 伸)	ヒューマニティーデザイン学の観点から、問題の設定やモデル化、およびその具体的な解決策の事例を通して、デザインの理論的デザイン創生学を考究する。
第 11～14 回	インターフェイスデザイン観点 (土屋雅人)	インターフェイスデザイン学の観点から、問題の設定やモデル化、およびその具体的な解決策の事例を通して、インターフェイスデザインの理論的デザイン創生学を考究する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、分析
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員から進捗に合わせ適宜配布する。

【参考書】

担当教員から学生の相談に合わせ適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション、ディスカッションなどから総合的に判定する。
成績基準は次の通り。

A+(100-90), A(89-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

新規開講科目

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

Through advanced design cases and domestic and foreign examples, we will study universality and regularity in non-linguistic fields.

ADE600N2

建築学修士研修 1 (2014 年度以降入学用)

渡邊 眞理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクトⅠで必要となる基礎的な専門技術を指導する。

【到達目標】

専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
◎			○		◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎資料の紹介と説明、調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の基礎 1	使用機器・ソフトの整備
第 3 回	研修の基礎 2	資料の読み合わせと解説
第 4 回	研修の基礎 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の基礎 4	資料の読み合わせと解説
第 6 回	研修の実践 1	実践課題の説明
第 7 回	研修の実践 2	課題作業と適宜指導
第 8 回	研修の実践 3	課題作業と適宜指導
第 9 回	研修の実践 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第 10 回	中間報告	中間報告と討議
第 11 回	研修の応用 1	応用課題の説明
第 12 回	研修の応用 2	課題作業と適宜指導
第 13 回	研修の応用 3	課題作業と適宜指導
第 14 回	研修の応用 4	まとめ方の指導と作業結果の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計および建築を取り巻く諸問題についての指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.

ADE600N2

建築学修士研修 1 (2014 年度以降入学用)

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士課程修了要件として修士論文の提出がある。本科目はラボ系所属生にとってはこのための最初の必修コースワークでもある。論文作成を試行するための次のコースワークであるプロジェクトⅠで必要となる基礎的な専門技術を指導する。

【到達目標】

専門分野を研究する上での基本的な知識と技術を指導ゼミの研究活動を通して習得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
◎			○			◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎資料の紹介と説明、調査法・実験法・プログラム開発法の個別指導

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の基礎 1	使用機器・ソフトの整備
第 3 回	研修の基礎 2	資料の読み合わせと解説
第 4 回	研修の基礎 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の実践 1	実践課題の説明
第 6 回	研修の実践 2	課題作業と適宜指導
第 7 回	研修の実践 3	課題作業と適宜指導
第 8 回	研修の実践 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	研修の応用 1	応用課題の説明
第 11 回	研修の応用 2	課題作業と適宜指導
第 12 回	研修の応用 3	課題作業と適宜指導
第 13 回	研修の応用 4	まとめ方の指導と作業結果の整理
第 14 回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

As part of the requirements for master's graduation the submission of a master's thesis is necessary. For laboratory assigned students this course is the first part of their compulsory coursework. Guidance will be provided on fundamental technical skills necessary for Project I, the next course in which students prepare to write their thesis.

ADE600N2

建築学修士研修 2(2014 年度以降入学用)

渡邊 眞理

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロジェクト I で得られた研究成果を分析し、修士論文作成に必要なより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また、修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】

より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに、学内外の様々な研究資料に触れ、異なる研究テーマへの理解を深め、現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較、検証を実施し、既存研究のレビューとしてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
◎				○		◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の読み合わせ、調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の継続 1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第 3 回	研修の継続 2	資料の収集と分類
第 4 回	研修の継続 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の継続 4	資料の読み合わせと解説
第 6 回	研修の拡張 1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第 7 回	研修の拡張 2	比較結果に基づく検証方法の策定
第 8 回	研修の拡張 3	検証の実施
第 9 回	研修の拡張 4	検証の実施
第 10 回	中間報告	中間報告と討議
第 11 回	研修のまとめ 1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第 12 回	研修のまとめ 2	研究方法の改良、追加研究課題の有無について検討
第 13 回	研修のまとめ 3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第 14 回	研修のまとめ 4	検証結果、新提案を含む研究課題の位置付けを行い、レビュー報告書の概要を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計および建築を取り巻く諸問題についての指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.

ADE600N2

建築学修士研修 2(2014 年度以降入学用)

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プロジェクト I で得られた研究成果を分析し、修士論文作成に必要なより高度な専門知識や技術・手法を説明する。また、修士論文の位置付けを行うために必要な既存研究の評価方法を指導する。

【到達目標】

より高度な専門知識や技能の獲得に努めるとともに、学内外の様々な研究資料に触れ、異なる研究テーマへの理解を深め、現在の研究水準を把握する能力を養う。これまでの研究成果との比較、検証を実施し、既存研究のレビューとしてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
◎			○	◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の読み合わせ、調査・実験・プログラム開発の内容報告と討議。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	研修の継続 1	研究課題に関連した資料のリスト作成
第 3 回	研修の継続 2	資料の収集と分類
第 4 回	研修の継続 3	資料の読み合わせと解説
第 5 回	研修の拡張 1	これまでの研究成果と既往研究の比較
第 6 回	研修の拡張 2	比較結果に基づく検証方法の策定
第 7 回	研修の拡張 3	検証の実施
第 8 回	研修の拡張 4	検証の実施
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	研修のまとめ 1	検証結果に基づく研究方法の再構築
第 11 回	研修のまとめ 2	研究方法の改良、追加研究課題の有無について検討
第 12 回	研修のまとめ 3	方法の改良や追加課題についての報告と討議
第 13 回	研修のまとめ 4	検証結果、新提案を含む研究課題の位置付けを行い、レビュー報告書の概要を確認する
第 14 回	最終報告	最終報告と討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、報告内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will analyze the results gathered in Project I, receiving guidance on a higher technical knowledge, skills and methods necessary for writing their master's thesis. Furthermore, in order to understand the relevance of their thesis evaluation methods of existing research will also be reviewed.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト 1

渡邊 眞理

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究課題を設定し、研修Ⅰで習得した技能を駆使して、いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

【到達目標】

与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
◎			○	◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

研究課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、論文作成指導、口頭発表練習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの企画 1	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第 3 回	プロジェクトの企画 2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第 4 回	プロジェクトの企画 3	プロジェクトに関する主要資料の選取、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第 5 回	プロジェクトの企画 4	プロジェクト課題の検討と策定
第 6 回	プロジェクトの立案 1	プロジェクト課題に必要な技術（機器、ソフト）のリストアップ
第 7 回	プロジェクトの立案 2	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第 8 回	プロジェクトの立案 3	調査・実験・ソフト開発の実施
第 9 回	プロジェクトの立案 4	調査・実験・ソフト開発の実施
第 10 回	中間報告	中間報告と討議
第 11 回	プロジェクトの展開 1	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 12 回	プロジェクトの展開 2	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 13 回	プロジェクトの展開 3	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 14 回	プロジェクトの展開 4	追加の調査・実験・ソフト解析の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計および建築を取り巻く諸問題についての指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト 1

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究課題を設定し、研修Ⅰで習得した技能を駆使して、いかにしたら論文を作成することができるかを指導する。

【到達目標】

与えられた研究課題を独自の視点と工夫を持ち込んで一編の個性ある論文としてまとめる。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
◎			○	◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

研究課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、論文作成指導、口頭発表練習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの企画 1	ゼミの既出研究資料・学会関係資料の収集と系統的分類
第 3 回	プロジェクトの企画 2	資料の読み合わせと評価：資料的価値の吟味、内容の妥当性・今後の問題点・拡張の可能性に関する検討。
第 4 回	プロジェクトの企画 3	プロジェクトに関する主要資料の選取、追加資料の必要性・新たな課題の可能性に関する検討
第 5 回	プロジェクトの企画 4	プロジェクト課題の検討と策定
第 6 回	プロジェクトの立案 1	プロジェクト課題に必要な技術（機器、ソフト）のリストアップ
第 7 回	プロジェクトの立案 2	調査・実験・ソフト開発に関する計画の策定
第 8 回	プロジェクトの立案 3	調査・実験・ソフト開発の実施
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	プロジェクトの展開 1	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 11 回	プロジェクトの展開 2	調査・実験・ソフト解析の結果に対する収集整理
第 12 回	プロジェクトの展開 3	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 13 回	プロジェクトの展開 4	追加の調査・実験・ソフト解析の検討
第 14 回	最終報告	最終報告と討議・投稿可否の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

This course will guide students on setting their research topic, and using the skills obtained in Training 1, how to go about writing their thesis.

ADE600N2

修士論文（建築）

渡邊 眞理

開講時期：秋学期授業/Fall ｜ 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次後期は研修 2 で習得した技能を応用して具体的な研究課題を設定し、指導を受けながら、発表論文としてまとめる。

【到達目標】

【学習・教育到達目標との関連（アーキテクト・マインド）】

総合デザイン力：◎ 専門性：◎ 情報技術：○ 表現能力・コミュニケーション能力：◎

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
◎	◎		○	◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

研究方針・研究計画の策定指導、調査・実験の指導と内容報告及び討議、論文作成指導、口頭発表練習。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス・概要説明
第 2 回	調査・研究 1	指導教員に従う。
第 3 回	調査・研究 2	指導教員に従う。
第 4 回	調査・研究 3	指導教員に従う。
第 5 回	調査・研究 4	指導教員に従う。
第 6 回	調査・研究 5	指導教員に従う。
第 7 回	調査・研究 6	指導教員に従う。
第 8 回	調査・研究 7	指導教員に従う。
第 9 回	調査・研究 8	指導教員に従う。
第 10 回	調査・研究 9	指導教員に従う。
第 11 回	調査・研究 10	指導教員に従う。
第 12 回	調査・研究 11	指導教員に従う。
第 13 回	調査・研究 12	指導教員に従う。
第 14 回	まとめ	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定して輪講する場合や適宜問題に応じて論文や資料を読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度、レポートの内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計および建築を取り巻く諸問題についての指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

By applying techniques acquired through the master's program, students will choose a research topic related to cities and architecture, receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their thesis submission.

ADE600N2

修士論文（建築）

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文を執筆する。

【到達目標】

修士論文の完成。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」
「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告
と討議、修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打 合せ
第 2 回	プロジェクトの継続 1	レビューを踏まえた研究課題の検討と 確認
第 3 回	プロジェクトの継続 2	作業の実施と結果の検討
第 4 回	プロジェクトの継続 3	作業の実施と結果の検討
第 5 回	プロジェクトの継続 4	作業の実施と結果の検討
第 6 回	プロジェクトの発展 1	研究課題を支える調査・実験・開発ソ フトについて説明する丁寧な記述
第 7 回	プロジェクトの発展 2	研究課題を支える調査・実験・開発ソ フトについて説明する丁寧な記述
第 8 回	プロジェクトの発展 3	調査・実験・開発ソフトから得られた データの分かりやすい表示とグラフ化
第 9 回	中間報告	中間報告書の提出と討議
第 10 回	プロジェクトのまとめ 1	修士論文の構成案について討議
第 11 回	プロジェクトのまとめ 2	修士論文の内容案について討議
第 12 回	プロジェクトのまとめ 3	修士論文原稿について討議し、追加事 項の有無を検討
第 13 回	プロジェクトのまとめ 4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文 の作成
第 14 回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について 討議し、提出の可否を判断する。投稿 予定論文の発表、修正の有無を検討 し、完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加
し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、
各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に
応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度、報告書の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講
義を行う。

【Outline and objectives】

By applying techniques acquired through the master's program,
students will choose a research topic related to cities and architecture,
receiving advice from their supervisor and reporting the findings in their
thesis submission.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト2

渡邊 眞理

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コースワークの最終段階として、修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し、設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

【到達目標】

プロジェクトⅠ、研修Ⅱの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要、学内外の論文・情報誌に投稿する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケーション能力
◎				○	◎	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第2回	プロジェクトの継続1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第3回	プロジェクトの継続2	作業の実施と結果の検討
第4回	プロジェクトの継続3	作業の実施と結果の検討
第5回	プロジェクトの継続4	作業の実施と結果の検討
第6回	プロジェクトの発展1	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第7回	プロジェクトの発展2	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第8回	プロジェクトの発展3	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第9回	プロジェクトの発展4	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第10回	中間報告	中間報告と討議
第11回	プロジェクトのまとめ1	修士論文の構成案について討議
第12回	プロジェクトのまとめ2	修士論文の内容案について討議
第13回	プロジェクトのまとめ3	修士論文原稿について討議し、追加事項の有無を検討。
第14回	プロジェクトのまとめ4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めがないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家で一級建築士である担当教員から建築設計および建築を取り巻く諸問題についての指導を受けることができる。

【Outline and objectives】

As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.

ADE600N2

建築学修士プロジェクト2

浜田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コースワークの最終段階として、修士論文の作成開始から完成に至る全過程を一貫して指導する。これまでに蓄積または収集した調査資料・実験結果・開発プログラムを分析し、設定した研究課題から価値ある総合的な知見を導き出す方法を指導する。

【到達目標】

プロジェクトⅠ、研修Ⅱの成果を更に発展させ、豊かな内容を盛り込んだ納得の修士論文としてまとめ上げる。修士論文で得られた新しい知見を紀要、学内外の論文・情報誌に投稿する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	歴史と文化 と設計倫理	持続可能性	専門性	技術と芸術	情報技術	表現能力・ コミュニケー ション能力
◎			○	◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科建築学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

修士論文課題・研究計画の策定指導、調査・実験・開発プログラムの内容報告と討議、修士論文作成の指導。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	研修内容の説明・資料紹介・日程の打合せ
第 2 回	プロジェクトの継続 1	レビューを踏まえた研究課題の検討と確認
第 3 回	プロジェクトの継続 2	作業の実施と結果の検討
第 4 回	プロジェクトの継続 3	作業の実施と結果の検討
第 5 回	プロジェクトの継続 4	作業の実施と結果の検討
第 6 回	プロジェクトの発展 1	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第 7 回	プロジェクトの発展 2	研究課題を支える調査・実験・開発ソフトについて説明する丁寧な記述
第 8 回	プロジェクトの発展 3	調査・実験・開発ソフトから得られたデータの分かりやすい表示とグラフ化
第 9 回	中間報告	中間報告と討議
第 10 回	プロジェクトのまとめ 1	修士論文の構成案について討議
第 11 回	プロジェクトのまとめ 2	修士論文の内容案について討議
第 12 回	プロジェクトのまとめ 3	修士論文原稿について討議し、追加事項の有無を検討
第 13 回	プロジェクトのまとめ 4	修士論文の主要内容に基づく投稿論文の作成
第 14 回	最終報告	最終報告書（修士論文相当）について討議し、提出の可否を判断する。投稿予定論文の発表、修正の有無を検討し、完成稿の内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導ゼミにおける調査・実験・ソフト開発の実施全般に対し、積極的に参加し、幅広い知識と技能の習得に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導ゼミの方針や研究段階によって異なる。特に指定する場合や適宜問題に応じて論文や資料を紹介し、読み合わせることもある。

【参考書】

特に定めないが、自主的な要望に沿って参考書は紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミでの貢献度（学習姿勢、取り組み姿勢など）、発表の内容、作成論文の水準などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline and objectives】

As their final coursework, students will be guided from start to finish on writing their master's thesis. By analyzing all of the collected knowledge, fieldwork, experimental and program developmental data so far, students will receive guidance on drawing valuable conclusions from their research topics.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 1（2014 年度以降入学生）

内田 大介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読および特定テーマに関する議論 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 1（2014 年度以降入学生）

高見 公雄

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

都市環境デザイン工学研究 1（2014 年度以降入学生）

福井 恒明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にもつくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (1)	景観工学・景観デザインに関する文献・知見の調査方法について
2	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (2)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認 (1 回目)
3	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (3)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認 (2 回目)
4	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (4)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認 (3 回目)
5	景観工学・景観デザインに関する文献調査 (5)	景観工学・景観デザインに関する基礎的文献の内容確認 (4 回目)
6	国内外のデザイン作品レビュー (1)	国内外のデザイン作品のレビュー方法について
7	国内外のデザイン作品レビュー (2)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介 (1 回目)
8	国内外のデザイン作品レビュー (3)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介 (2 回目)
9	国内外のデザイン作品レビュー (4)	国内外のデザイン作品事例の文献調査と紹介 (3 回目)
10	まちなみの見方しらべ方 (1)	景観上特徴のあるまちなみの調査方法について
11	まちなみの見方しらべ方 (2)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認 (1 回目)
12	まちなみの見方しらべ方 (3)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認 (2 回目)
13	まちなみの見方しらべ方 (4)	景観上特徴のあるまちなみの現地確認 (3 回目)
14	まとめ	景観工学・景観デザインに関する知識や、これらに関する問題意識を確認することを通じ、修士論文テーマの方向性について個別に議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しないが、以下の書籍の内容の習得が前提となる。
篠原修編：景観用語事典 増補改訂版、彰国社、2007

【参考書】

特に無し。適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 1（2014 年度以降入学生）

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、特定テーマに関する議論
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	同上
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	同上
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	同上
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	同上
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	同上
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	同上
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	同上
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	同上
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	同上
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	同上
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	同上
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	同上
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。取り組み (100%)

法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

都市環境デザイン工学研究 2（2014 年度以降入学生）

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通して、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究2（2014年度以降入学生）

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

都市環境デザイン工学研究 2（2014 年度以降入学生）

福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据え、修士論文のテーマを具体的に定めるための学習や調査を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にものごくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GIS の活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	修士論文の方向性についての確認と調査・研究方針の検討	これまでの学習を踏まえて、修士論文の大まかなテーマについて確認し、研究方針について検討を行う
2	既往研究レビュー (1)	修士論文のテーマに関する既往研究をリストアップする。
3	既往研究レビュー (2)	修士論文のテーマに関する既往研究本文を収集し、目的、方法及び到達点について整理する
4	既往研究レビュー (3)	修士論文のテーマに関する既往研究本文を収集し、目的、方法及び到達点について整理する
5	既往研究レビュー (4)	修士論文のテーマに関する既往研究本文を収集し、目的、方法及び到達点について整理する
6	修士論文テーマの概要決定	既往研究のレビュー等に基づき、修士論文のテーマとして取り扱う内容（目的、対象等）について確認する
7	修士論文の対象・方法検討 (1)	修士論文の対象・方法について検討するため、予備的な資料収集や現地確認等を行う。研究に必要な装置等についても確認する。
8	修士論文の対象・方法検討 (2)	修士論文の対象・方法について検討するため、予備的な資料収集や現地確認等を行う。研究に必要な装置等についても確認する。
9	修士論文の対象・方法検討 (3)	修士論文の対象・方法について検討するため、予備的な資料収集や現地確認等を行う。研究に必要な装置等についても確認する。
10	予備調査・予備実験 (1)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため、予備的な調査や実験等を行い、必要に応じて計画の修正を検討する
11	予備調査・予備実験 (2)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため、予備的な調査や実験等を行い、必要に応じて計画の修正を検討する
12	予備調査・予備実験 (3)	修士論文実施のフィージビリティを確認するため、予備的な調査や実験等を行い、必要に応じて計画の修正を検討する

13	学会発表・聴講 (1)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し、他の研究者の研究内容や発表方法について確認する
14	学会発表・聴講 (2)	土木学会景観・デザイン研究発表会に発表または聴講参加し、他の研究者の研究内容や発表方法について確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。

【参考書】

特に無し。各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究2（2014年度以降入学生）

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学分野のうち、地震防災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通して、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【参考書】

特に無し。研究テーマに応じて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み (100%)

法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

都市環境デザイン工学研究3（2014年度以降入学生）

内田 大介

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究3（2014年度以降入学生）

高見 公雄

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実際に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通じ、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究3（2014年度以降入学生）

福井 恒明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では、都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの確認	各自の研究課題について、これまでに実施した内容を論文形式にまとめ提出し、課題や今後の方向性を議論する
2	研究構成と研究方法の確認(1)	研究の構成と方法について、手順やスケジュールを計画として作成する
3	研究構成と研究方法の確認(2)	研究の構成と方法について、手順やスケジュールを計画として確定させる
4	調査及び実験等の準備(1)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。
5	調査及び実験等の準備(2)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。準備が終了次第、調査や実験を実施する。
6	調査及び実験等の準備(3)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。準備が終了次第、調査や実験を実施する。
7	調査及び実験等の準備(4)	研究に必要な情報やデータを得るための準備作業を行う。準備が終了次第、調査や実験を実施する。
8	調査及び実験等の実施(1)	計画した調査及び実験等を実施する。
9	調査及び実験等の実施(2)	計画した調査及び実験等を実施する。
10	調査及び実験等の実施(3)	計画した調査及び実験等を実施する。
11	調査及び実験結果等の分析・考察(1)	得られた情報やデータを整理し、統計的処理や図化等の分析作業を行った後、考察を行う。
12	調査及び実験結果等の分析・考察(2)	得られた情報やデータを整理し、統計的処理や図化等の分析作業を行った後、考察を行う。
13	中間とりまとめ準備	これまでの研究成果を論文形式にまとめ、指導教員の確認・修正指示を受ける
14	中間とりまとめ	指示に基づいて修正作業を行い、中間報告書とする。状況に応じて学会等の口頭発表論文として投稿する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。

【参考書】

特に無し。各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

修士二年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。
多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究3（2014年度以降入学生）

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、都市環境デザイン工の分野のうち、地震減災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。
具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (1)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 1
2	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (2)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 2
3	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (3)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 3
4	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (4)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 4
5	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (5)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 5
6	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (6)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 6
7	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (7)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 7
8	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (8)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 8
9	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (9)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 9
10	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (10)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 10
11	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (11)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 11
12	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (12)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 12
13	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (13)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 13
14	都市環境デザイン工学に関する基礎学習 (14)	内外の文献等の講読、既往の研究のレビュー、特定テーマに関する調査・研究 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 10 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取組みにより評価する。取り組み (100%)
法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

【Outline and objectives】

The objective of this course is to acquire basic knowledge, conduct surveys and study themes related to the student's major field of study in civil and environmental engineering.

CST600N3

修士論文（都市）**高見 公雄**

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

（高見 公雄）都市・地域レベルから小空間までといった空間の広がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価 (100 %) する。

【学生の意見等からの気づき】

各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.

CST600N3

修士論文（都市）

福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

都市環境デザイン工学研究1～4にて修得した知識やスキルをもとに、これまでの研究成果を学術論文としての修士論文にとりまとめることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地にもつくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。当研究室では都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

都市環境デザイン工学研究1～4を通じて取り組んできた修士論文の研究目的を達成し、論文執筆計画に基づいて国内外の研究集会や学術誌への発表を前提として研究成果をとりまとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	研究テーマの決定	研究の目的・対象を定める。
2	既往研究レビュー	研究テーマに関する既往研究についてレビューし、研究の位置づけを確認する。
3	研究の構成及び方法の検討	研究目的を達成するための論理的な構成や具体的な方法について吟味し、決定する。
4	文献収集・調査・実験等の実施(1)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う。
5	文献収集・調査・実験等の実施(2)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う。
6	文献収集・調査・実験等の実施(3)	研究に必要なデータを収集するための文献収集・調査・実験等を行う。
7	分析・考察(1)	得られたデータについて整理・分析し、その結果についての考察を行う。
8	分析・考察(2)	得られたデータについて整理・分析し、その結果についての考察を行う。
9	中間取りまとめ	ここまで得られた成果について取りまとめの上で、今後必要な作業について確認・検討を行う。
10	追加作業(1)	各自の状況に応じて追加作業を行う。
11	追加作業(2)	各自の状況に応じて追加作業を行う。
12	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる。
13	研究取りまとめ	研究成果を論文形式にとりまとめる。
14	研究とりまとめと発表準備	修士論文審査会での発表準備について指導教員の指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。各自のテーマや進捗状況により紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出された論文の内容（60%）、審査会での発表・質疑の内容（40%）により評価し、全体で60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

該当無し。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.

CST600N3

修士論文（都市）

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、地震防災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	同上特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組み 30%、論文 50%、発表 20%により評価する。法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

【Outline and objectives】

In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.

CST600N3

修士論文（都市）

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will write a thesis describing their problems and their solutions. The problems to solve are determined by students.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究4（2014年度以降入学生）

内田 大介

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。橋梁などの鋼構造物を適切に設計・製作・架設し、長期間安全に維持することを目的とした研究を行う。このような範囲の中から、研究テーマを定め、構造物試験機や材料試験機を用いてモデル試験体の耐力試験を行い、強度・耐力を実験的に求めるとともに、有限要素法などの構造解析を通して、それらの評価方法について検討する。また、構造物の実態を把握するための現地調査なども行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

主として授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

造船・重機メーカーで鋼橋の設計や種々の鋼構造物に関する研究開発に携わっていた教員が指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 4（2014 年度以降入学生）

高見 公雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、自ら選択した各専門分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

都市・地域レベルから小空間までといった空間の拡がり、また大都市から村落まで多様な都市状況など、幅広い都市デザインのフィールドへの理解を深めるとともに、それぞれのフィールドが抱える課題整理を行う。整理された課題を踏まえ、また現下の社会的な問題意識等を勘案して対応について検討すべき具体的な地区や地域を特定し、その状況分析と都市デザインの観点からの解決策について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

教員との研究面談時の提出資料（50 %）とその口頭諮問（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究4（2014年度以降入学生）

福井 恒明

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工学の分野のうち、自ら選択した景観工学・景観デザインに関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の読読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の緒テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は個々に題目が与えられ、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に活用できる能力を修得する。指導教員の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。都市や地域における景観を対象に、その文化的背景・実状の把握・景観を構成する公共事業の仕組みや設計・都市計画関連制度の運用など多面的な議論にもとづき研究を行う。定められた研究テーマに関して、指導教員と議論しながら手法を検討する。文献調査・ヒアリング・アンケート・フィールドワーク・実験等の中からテーマに即した適切な方法によりデータを収集し、GISの活用や画像処理、統計処理等の分析を用いて考察を行う。これらにより景観保全・形成に資する知見について研究する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	取り組んだ研究の進捗状況確認	これまでの研究成果について確認し、再度課題の抽出を行い、研究の方向性を議論する。
2	継続的研究実施 (1)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
3	継続的研究実施 (2)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
4	継続的研究実施 (3)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
5	継続的研究実施 (4)	個別状況に応じて必要な追加作業（資料補足、実験実施、追加分析等）を行う。
6	論文の論理構成の確認 (1)	最終的なまとめにむけて、方法の検討、データの収集や処理過程についてまとめ、指導教員に報告・議論する。
7	論文の論理構成の確認 (2)	論文の目的と得られた結果についての対応を確認し、必要に応じて修正を行う。
8	論文執筆 (1)	研究の位置づけについて再度確認した上で論文として執筆する。
9	論文執筆 (2)	用語の統一、図表表現の統一等に注意し、確認を行う。
10	論文執筆 (3)	背景目的と結論の対応関係について注意し、確認を行う。
11	論文草稿完成	論文としての体裁を整える。自分で全体を読み直して修正を行う。
12	論文草稿チェック	論文草稿について主査の確認を受ける。必要に応じて修正する。
13	副査による指導	草稿をもとに副査の指導を受け、必要な修正を加える。
14	論文としての仕上げ	論文の体裁を整えて完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。

【参考書】

特に無し。各自のテーマや進捗状況に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

個別に指示する課題により評価する（100%）。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

修士一年次の授業であるが、各担当者の受講者が少数であるため、授業評価アンケートは実施しない科目となっている。

多くの受講者は、共通基盤科目・基盤科目・専門科目の履修に主眼が注がれ、本授業への取組みが不足している。各分野の担当教員の工夫が必要である。

【その他の重要事項】

景観計画・景観デザインについての実務経験を持つ教員が、その経験を活かして、研究成果の都市環境デザインにおけるプロジェクトにおける適用を踏まえて指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

CST600N3

都市環境デザイン工学研究 4（2014 年度以降入学生）

酒井 久和

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市環境デザイン工の分野のうち、地震防災分野に関するテーマを中心課題に据えて基礎的な学習や調査・研究を行う。

【到達目標】

修士論文にかかわる研究を進めるために必要な知識・技術を修得することが目標となる。

具体的には専門に係わる内外の文献等の講読、現地見学、特定テーマに関する議論や調査・研究などを通じて、専門分野の諸テーマに関する問題意識を形成し、問題解決能力の初歩を会得することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

（概要）各学生は個々に題目が与えられ、教授の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学のそれぞれの分野での本質論の徹底追求をおこなうとともに、実地に物づくりをおこなうための方法論とその考え方を習得し、広く自由に応用できる能力を修得する。指導教授の研究室でおこなう高度の論議及び討論を通し、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考える冷静な技術感覚が養成される。

地震分野において、実問題を意識した減災に関わるテーマを取り扱う。文献研究、現地調査、土質試験、統計的分析、各種解析的手法による数値解析等に基づいて、諸問題の改善を目的とした研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (1)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。1
2	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (2)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。2
3	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (3)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。3
4	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (4)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。4
5	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (5)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。5
6	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (6)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。6
7	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (7)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。7
8	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (8)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。8
9	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (9)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。9
10	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (10)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。10
11	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (11)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。11
12	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (12)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。12
13	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (13)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。13
14	都市環境デザイン工学に関する調査・研究 (14)	特定テーマに関する調査・研究、研究成果のとりまとめ。14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の授業の復習、ならびに特定テーマに関する基礎的な知識から研究レベルの課題までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 10 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【参考書】

特に無し。各分野の担当教員が適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間外の自己啓発的な日々の学習への取り組みにより評価する。取り組み（100%）

法政大学大学院基準に従い S から E まで 12 段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

建設会社で設計、研究開発に携わっていた教員が、実社会の課題を紹介しながら研究指導を行っている。

【Outline and objectives】

In this course students will investigate and study problems relevant to civil and environmental engineering. Students will determine which problems they wish to solve.

CST700N3

都市環境デザイン工学特別研究 1_2014 年度以降入学

道奥 康治

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川流域の環境問題と災害科学に関わる水工学諸問題を研究テーマとして設定し専門的な学習や調査・研究を行う。教員による研究指導をともなう。

【到達目標】

博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力を習得することを目標とする。具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読、必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査、研究を通じてテーマに関する問題意識を形成、問題解決のための応用能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方を学び、様々な問題へ応用できる能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。特に河川流域の環境・災害科学に必要な数理的素養と調査方法を習得するために、水理学・水文学・水質科学・生態学・流域の社会科学などに関する書籍・文献を購読し、担当教員との議論を通して理解を深める。また、水圏環境学に関する国内外の研究動向を調査し、博士論文テーマの課題を設定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (1)	国内外の文献・資料の収集と購読 1
2	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (2)	国内外の文献・資料の収集と購読 2
3	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (3)	国内外の文献・資料の収集と購読 3
4	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (4)	国内外の文献・資料の収集と購読 4
5	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (5)	国内外の文献・資料の収集と購読 5
6	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (6)	国内外の文献・資料の収集と購読 6
7	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (7)	学習成果の中間報告
8	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (8)	国内外の文献・資料の収集と購読 7
9	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (9)	国内外の文献・資料の収集と購読 8
10	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (10)	国内外の文献・資料の収集と購読 9
11	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (11)	国内外の文献・資料の収集と購読 10
12	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (12)	国内外の文献・資料の収集と購読 11
13	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (13)	国内外の文献・資料の収集と購読 12
14	都市環境デザイン工学に関する応用的な調査・研究 (14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜指示する。

【参考書】

特になし。適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

Students will learn and investigate environmental issues and disaster science of river basin from a viewpoint of hydraulic engineering. The students will be supervised by their professor.

CST700N3

都市環境デザイン工学特別研究 2_2014 年度以降入学

道奥 康治

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

河川流域の環境問題と災害科学に関わる水工学諸問題の研究テーマに関する専門的な学習と調査・研究を継続し、研究の進展を図る。教員との議論を通して研究指導を受ける。

【到達目標】

博士論文に関わる研究を進めるために必要な専門的知識・能力をより深く習得することを目標とする。具体的には博士論文テーマに関わる国内外の文献・資料の収集と購読、必要に応じて現地調査による情報収集を実施する。研究を進める上での議論や調査、研究を通じてテーマに関する問題意識を深め、問題解決のための総合能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科都市環境デザイン工学研究科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各学生は、教員の直接指導をうけて、都市環境デザイン工学の各専門分野での研究を進めるための方法や考え方をより深く学び、様々な問題へ応用し総合的に解決する能力を修得する。所属研究室での論議・討論を通じ、国際的な視野で研究内容を広く客観的に考えるための科学技術的素養が育成される。河川流域の環境・災害科学に必要な数理的素養と調査方法を習得するために、水理学・水文学・水質科学・生態学・流域の社会科学などに関する書籍・文献を購読し、担当教員との議論を通して理解を深める。また、水圏環境学に関する国内外の研究動向を調査し、博士論文テーマの研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (1)	国内外の文献・資料の収集と購読 1
2	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (2)	国内外の文献・資料の収集と購読 2
3	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (3)	国内外の文献・資料の収集と購読 3
4	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (4)	国内外の文献・資料の収集と購読 4
5	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (5)	国内外の文献・資料の収集と購読 5
6	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (6)	国内外の文献・資料の収集と購読 6
7	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (7)	学習成果の中間報告 7
8	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (8)	国内外の文献・資料の収集と購読 7

9	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (9)	国内外の文献・資料の収集と購読 8
10	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (10)	国内外の文献・資料の収集と購読 9
11	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (11)	国内外の文献・資料の収集と購読 10
12	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (12)	国内外の文献・資料の収集と購読 11
13	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (13)	国内外の文献・資料の収集と購読 12
14	都市環境デザイン工学に関する総合的な調査・研究 (14)	本授業で学んだ成果の最終報告のとりまとめと発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特定テーマに関するの専門的な知識から研究レベルの問題解決能力の形成までの、自己啓発的な幅広い継続学習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜指示する。

【参考書】

特になし。適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

自己啓発的な日々の調査・研究への取組みにより評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline and objectives】

Students will further continue to learn and investigate environmental issues and disaster science of river basin from a viewpoint of hydraulic engineering. The students will be supervised through discussion with their professor.

OTR600N4

システムデザイン修士研修 1

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルを修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の最初である、このシステムデザイン研修1では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。
この修士研修1では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ること目標とする。とくに、その **rationale**(必然性、理論的根拠、妥当性) について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修1（春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	Rationale の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるという Rationale （論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。 Rationale に関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case 1 について、より深くその rationale を考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case 2）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case 2 について、より深くその rationale を考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case 3）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case 3 について、より深くその rationale を考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case 4）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case 4 について、より深くその rationale を考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case 5）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case 5 について、より深くその rationale を考察する。
13	Rationale Case Study-6	関連する研究（case 6）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
14	まとめ	新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から指示・配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-

69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This first part of the course 'System Design Training 1' will provide students with opportunities to take various approaches from different perspectives and to validate the studies.

OTR600N4

システムデザイン修士研修 1

佐藤 康三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の最初である、このシステムデザイン研修1では、幅広い視点からのアプローチを試み、その研究の妥当性を学ぶ。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。
この修士研修1では、少なくとも修士論文としてどのようなテーマが相応しいか、関連研究（成果物）にどのようなものがあるかを知ること目標とする。とくに、その **rationale**(必然性、理論的根拠、妥当性) について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修1（春学期）を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	Rationale の概念	新しい研究や作品については、それが必要であるという Rationale （論理的根拠、正当性）と呼ばれるものが必要である。 Rationale に関する導入教育を行う。
3	Rationale Case Study-1A	関連する研究（case1）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
4	Rationale Case Study-1B	case 1 について、より深くその rationale を考察する。
5	Rationale Case Study-2A	関連する研究（case 2）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
6	Rationale Case Study-2B	case 2 について、より深くその rationale を考察する。
7	Rationale Case Study-3A	関連する研究（case 3）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
8	Rationale Case Study-3B	case 3 について、より深くその rationale を考察する。
9	Rationale Case Study-4A	関連する研究（case 4）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
10	Rationale Case Study-4B	case 4 について、より深くその rationale を考察する。
11	Rationale Case Study-5A	関連する研究（case 5）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
12	Rationale Case Study-5B	case 5 について、より深くその rationale を考察する。
13	Rationale Case Study-6 A	関連する研究（case 6）をひとつ取り上げ、その rationale を考察する。
14	Rationale Case Study-6 B	case 6 について、より深くその rationale を考察する。
	まとめ	新しい研究は、どうあるべきかについての総合議論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題について、各自が調査し、考察する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から指示・配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

与えられた課題に対する、解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。
成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In Master's Training 1, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4

システムデザイン修士研修2

安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の秋学期である、このシステムデザイン研修2では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。
この修士研修2では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要な基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修2(秋学期)を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1（研究論文1）	関連する研究論文（論文1）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文1の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文1の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文1の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文1のテクニック	研究論文1で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
7	研究論文1のスキル	研究論文1で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
8	関連する分野の研究論文の調査2（研究論文2）	関連する研究論文（論文2）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
9	研究論文2の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
10	研究論文2の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文2の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文2のテクニック	研究論文2で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
13	研究論文2のスキル	研究論文2で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程前半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

This course commences with an introduction to the knowledge and skills for establishing the basis of studies for a master's degree. It then cultivates that foundation through surveys of relevant references and information in the specific research field for each student. This second part of the course 'System Design Training 2' held during the autumn semester of the first year will provide students with the necessary research methods, necessary rudimentary knowledge, theory, techniques and skills.

OTR600N4

システムデザイン修士研修2

佐藤 康三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得し、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して基礎力を涵養する。とくに、修士1年生の秋学期である、このシステムデザイン研修2では、研究の手法や必要となる基礎知識、理論、テクニック、スキルに関する研修を行う。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。
この修士研修2では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、基礎知識、スキルに関するトレーニングを行う。研究に必要な基礎知識およびスキルのもっとも基本的なものを身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修2(秋学期)を取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1（研究論文1）	関連する研究論文（論文1）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
3	研究論文1の専門用語	当該研究に関連する専門用語に関して調査を行う。
4	研究論文1の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
5	研究論文1の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
6	研究論文1の理論3	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
7	研究論文1のテクニック	研究論文1で用いられているテクニックについて、学び、それを練習する。
8	研究論文1のスキル	研究論文1で用いられているスキルについて、学び、それを練習する。
9	関連する分野の研究論文の調査2（研究論文2）	関連する研究論文（論文2）を取り上げ、そこで用いられている、用語・理論・テクニック・スキル等をピックアップする。
10	研究論文2の専門用語	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
11	研究論文2の理論1	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
12	研究論文2の理論2	研究論文で用いられている、概念・理論について学ぶ。
13	研究論文2のテクニック、スキル	研究論文2で用いられているテクニック、スキルについて、学び、それを練習する。
14	まとめ	研究遂行には、新しい理論やテクニック、スキルを学ぶ必要があることを理解させ、その自己学習方法を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程前半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

■イタリア、日本でプロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In Master's Training 2, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

システムデザイン修士研修3

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生春学期の修士研修3に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。とくに研究の論理構造や論旨展開の妥当性、問題設定と結論の在り方について学ぶ。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。
この修士研修3では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、論文の論理構成、結論導出に至るプロセスについて知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修3（春学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	関連する分野の研究論文の調査1（研究論文1）	関連する研究論文（論文1）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
3	研究論文1の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
4	研究論文1の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
5	研究論文1の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
6	関連する分野の研究論文の調査2（研究論文2）	関連する研究論文（論文2）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
7	研究論文2の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
8	研究論文2の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
9	研究論文2の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
10	関連する分野の研究論文の調査3（研究論文3）	関連する研究論文（論文3）を取り上げ、そこでの論旨展開、結論に至るプロセス、問題設定と結論の妥当性を検討する。
11	研究論文3の論旨展開	当該論文の論理構造、論旨展開について考察し、論文の論理構造はどうあるべきかを学ぶ。
12	研究論文3の結論導出方法とその記述	当該論文の結論を導出プロセスおよびその妥当性、記述方法を学ぶ。
13	研究論文3の問題設定と結論	当該論文の問題設定と得られた結論の関係を考察し、その妥当性を検証する。
14	まとめ 論文の論理構造と、その記述方法 問題設定と、その結論の対応関係	研究論文（リポート）を作成する上で重要となる、論理構造と記述方法、問題設定の在り方、対応する結論の在り方についてについて纏める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（前期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

This course will prepare students for the ‘System Design Training 3’ course in the spring semester of the second year of a master's degree. It provides students with its significance and a summary of related issues, focusing on the logical structure of studies, validity of argument, problem setting and drawing conclusions.

OTR600N4

システムデザイン修士研修3

佐藤 康三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して、研究や作品のプロジェクトテーマを決定する。

【到達目標】

修士学位論文や作品の作成にあたり後半（前期）で必要となる関連事項を指導教員からの個別指導のプロセスの中で会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、最終的な修士の学位論文作成や作品制作のために必要な研究プロジェクトのプロセスと最終成果物取得のための指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ (ガイダンス)	内容
1		システムデザイン専攻における修士研修後半（前期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2-14	(佐藤康三)	プロダクトデザイン分野に関する指導を行う。
2-14	(土屋雅人)	インタフェースデザイン分野に関する指導を行う。
2-14	(安積 伸)	インダストリアルデザイン分野に関する指導を行う。
2-14	(小林 尚登)	ロボット工学分野に関する指導を行う。
2-14	(竹内 則雄)	計算工学・安全工学分野に関する指導を行う。
2-14	(田中 豊)	メカトロニクス分野に関する指導を行う。
2-14	(岩月正見)	ロボット工学・コンピュータビジョン分野に関する指導を行う。
2-14	(西岡 靖之)	知識工学・生産工学分野に関する指導を行う。
2-14	(野々部 宏司)	オペレーションズリサーチ分野に関する指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（前期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のためアンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In Master's Training 3, students receive individual guidance from their supervising advisor regarding preparation for their master's degree dissertation.

OTR600N4

システムデザイン修士研修 4

安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生秋学期の修士研修4に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修4では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修4（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	類似研究調査1	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査2	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査3	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査4	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査5	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査6	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査1	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査2	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査3	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査4	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査5	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけられるかを考える。
14	まとめ	学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点 90 点以上を S とし、

89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-、79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-、69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-、60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

This course will prepare students for the 'System Design Training 4' course in the autumn semester of the second year of a master's degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4

システムデザイン修士研修 4

佐藤 康三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システムデザイン専攻における修士2年生秋学期の修士研修4に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要（類似分野調査・周辺研究分野調査と体系化）について述べる。

【到達目標】

修士学位論文の作成にあたり必要となる関連事項を指導教員からの個別指導を受ける。

この修士研修4では、少なくとも修士論文作成の研究を遂行する上で必要となる、周辺分野を含めた研究分野調査と、その体系化を行うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の個別指導の下に、必要となる研修を行う。これは最終的な修士論文のテーマ、学生本人の意向や能力によって内容は異なる。それぞれ内容や進捗スピード、目標は学生により異なるものとなる。指導教員と学生がマンツーマンで相談・議論しながら進めることになる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士研修4（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	類似研究調査1	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
3	類似研究調査2	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
4	類似研究調査3	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
5	類似研究調査4	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
6	類似研究調査5	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
7	類似研究調査6	類似研究を調査し、当該研究との対比を行い、当該研究の位置づけを確認する。
8	周辺研究分野調査1	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
9	周辺研究分野調査2	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
10	周辺研究分野調査3	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
11	周辺研究分野調査4	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
12	周辺研究分野調査5	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
13	周辺研究分野調査6	周辺研究分野を調査し、当該研究分野との対比を行い、当該研究分野の位置づけを確認する。
14	まとめ:学問分野の体系化	いろいろな学問分野があり、それらが体系化されていることを学ぶ。修士論文で取り上げる研究が体系のどこに位置づけられるかを考える。 学問体系の重要性を理解し、当該研究の位置づけ、その記述・表現方法について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献の調査

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指導教員から配布

【参考書】
指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため、アンケートを実施していない。

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

This course will prepare students for the ‘System Design Training 4’ course in the autumn semester of the second year of a master’s degree. It provides students with its significance and a summary of the related issues, focusing on the exploration of studies in similar/peripheral areas and systematization of them.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト 1

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。

この修士1年生春学期のプロジェクトは、比較的小規模なプロジェクトで当該分野に関連する研究プロジェクトの概要を知ることとする。

【到達目標】

このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト1（春学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。最初のプロジェクトであるので、比較的簡単なもので今後の基礎となるものを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン1	マイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン1	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン1の締めを行う。
7	マイルストーン2	マイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン2	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン2の締めを行う。
9	マイルストーン3	マイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン3	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン3の締めを行う。
11	マイルストーン4	マイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン4	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン4の締めを行う。
13	マイルストーン5	マイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン5の締めを行う。
14	プロジェクトの締め、成果物の提示	プロジェクトの成果を締め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-、79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-、69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-、60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. 'System Design Master's Project 1' in the spring semester of the first year is relatively small-scale and helps to provide an overview of related research projects.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト2

安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士1年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

【到達目標】

このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定し、すすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト2（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン1	マイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン1	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン1の纏めを行う。
7	マイルストーン2	マイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン2	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン2の纏めを行う。
9	マイルストーン3	マイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン3	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン3の纏めを行う。
11	マイルストーン4	マイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン4	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン4の纏めを行う。
13	マイルストーン5	マイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、マイルストーン5の纏めを行う。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

Various projects will be undertaken in this course to provide students with the basic knowledge and skills for the studies required for a master's degree. The medium-scale project 'System Design Master's Project 2' in the autumn semester of the first year is based on the previous one conducted in the spring semester. Students are expected to learn how to proceed with the project and to cultivate problem-solving skills.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト2

佐藤 康三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための研究の基盤となる知識やスキルの修得のためのプロジェクトを行う。
この修士1年生秋学期のプロジェクトは、春学期のプロジェクトを礎として中程度のプロジェクトを行う。このプロジェクトを通して、プロジェクトの進め方を知るとともに、問題解決能力を涵養する。

【到達目標】

このプロジェクトを通して、当該研究分野の見識を深めることを目的とすると共に、必要となる基礎知識、プロジェクトの進め方、問題解決の方法、成果物の提示方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定し、すすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト2（秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員が幾つかのテーマ候補をあげ、その概要を説明する。春学期のプロジェクトを礎として若干高度なプロジェクトを候補とする。
3	テーマ候補に関する調査	テーマ候補に関する先行プロジェクトの調査を行い、それを報告する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。また、プロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	マイルストーン1	マイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	マイルストーン1	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン1の纏めを行う。
7	マイルストーン2	マイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	マイルストーン2	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン2の纏めを行う。
9	マイルストーン3	マイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	マイルストーン3	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン3の纏めを行う。
11	マイルストーン4	マイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	マイルストーン4	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、マイルストーン4の纏めを行う。
13	マイルストーン5	マイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
14	プロジェクトの纏め、成果物の提示	プロジェクトの成果を纏め、成果物を対外的に提示する方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。
成績基準は次の通り。
A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In System Design Master's Project 2, students will undertake projects to acquire fundamental research knowledge and skills required for a master's degree.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト3

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとつの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト3はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト3、4（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。
3	テーマ候補に関する調査および精査	テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく2つのテーマに分割する。（テーマ1およびテーマ2）各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	テーマ1のマイルストーン1	テーマ1のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ1のマイルストーン1	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン1の纏めを行う。
7	テーマ1のマイルストーン2	テーマ1のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ1のマイルストーン2	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン2の纏めを行う。
9	テーマ1のマイルストーン3	テーマ1のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ1のマイルストーン3	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン3の纏めを行う。
11	テーマ1のマイルストーン4	テーマ1のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ1のマイルストーン4	アドバイスの従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン4の纏めを行う。
13	テーマ1のマイルストーン5	テーマ1のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、テーマ1のマイルストーン5の纏めを行う。

- 14 テーマ1の取り纏め、プロジェクトの成果を纏め、成果物をテーマ1の成果に基づく対外的に提示可能な形にする。その成果を検討し、テーマ2の修正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、

89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-

79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-

69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-

60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 3' is the first half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト3

佐藤 康三

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとつの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト3はプロジェクトの前半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定してすすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト3、4（春学期・秋学期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
2	テーマの候補	指導教員と相談しながら、修士論文で必要となる実証データをえるためのプロジェクトテーマの候補をあげる。
3	テーマ候補に関する調査および精査	テーマ候補に関する先行事例の調査を行い、それを報告する。利用可能な先行事例を精査する。
4	テーマの選定およびスケジュール・マイルストーンの設定	テーマに選定に関して、指導教員と議論を行い、テーマを決定する。このテーマは大きく2つのテーマに分割する。（テーマ1およびテーマ2）各テーマのプロジェクトスケジュールおよびマイルストーンを設定する。
5	テーマ1のマイルストーン1	テーマ1のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ1のマイルストーン1	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン1の纏めを行う。
7	テーマ1のマイルストーン2	テーマ1のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ1のマイルストーン2	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン2の纏めを行う。
9	テーマ1のマイルストーン3	テーマ1のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ1のマイルストーン3	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン3の纏めを行う。
11	テーマ1のマイルストーン4	テーマ1のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ1のマイルストーン4	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ1のマイルストーン4の纏めを行う。
13	テーマ1のマイルストーン5	テーマ1のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。

- 14 テーマ1の取り纏め、プロジェクトの成果を纏め、成果物をテーマ1の成果に基づく対外的に提示可能な形にする。その成果を檢討し、テーマ2の修正を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や実施能力、問題解決能力、最終成果物の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In System Design Master's Project 3, students will undertake projects to acquire fundamental research knowledge and skills required for a master's degree.

OTR600N4

システムデザイン修士プロジェクト4

安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとつの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト4はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定し、すすめる。各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン修士プロジェクト3で行ったテーマ1の総括とテーマ2に関する準備を行う。
2	テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	テーマ1の反省を踏まえ、テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う。
3	テーマ2のマイルストーン1	テーマ2のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
4	テーマ2のマイルストーン1	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン1の纏めを行う。
5	テーマ2のマイルストーン2	テーマ2のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ2のマイルストーン2	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン2の纏めを行う。
7	テーマ2のマイルストーン3	テーマ2のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ2のマイルストーン3	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン3の纏めを行う。
9	テーマ2のマイルストーン4	テーマ2のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ2のマイルストーン4	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン4の纏めを行う。
11	テーマ2のマイルストーン5	テーマ2のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ2のマイルストーン5	アドバイスのに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン5の纏めを行う。
13	テーマ2の纏めと総括、不足データ・補足データの収集と検証および最終的な纏め	テーマ2の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足データ・補足データを検証し、最終的な纏めを行う。
14	テーマ1およびテーマ2の統合および対外的提示	テーマ1およびテーマ2を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が90点以上をSとし、
89～87点をA+、86～83点をA、82～80点をA-
79～77点をB+、76～73点をB、72～70点をB-
69～67点をC+、66～63点をC、62～60点をC-
60点未満をD、未受験をEとする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

In this course students will complete one project closely related to the master's thesis. 'System Design Master's Project 3' and the 'System Design Master's Project 4' are connected to form one large-scale project. 'System Design Master's Project 4' is the second half of the whole project aiming to collect empirical data for the writing of the thesis.

システムデザイン修士プロジェクト4

佐藤 康三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための、修士論文に密接に関連したプロジェクトを行う。このシステムデザイン修士プロジェクト3とシステムデザイン修士プロジェクト4は、連結したひとつの大きなプロジェクトであり、システムデザイン修士プロジェクト4はプロジェクトの後半部分である。このプロジェクトを通して、修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的とする。

【到達目標】

修士論文作成に必要な実証的データを得ることを目的にプロジェクトを行う。プロジェクトの設定方法や得られたデータの検証方法、得られたデータからのフィードバックの方法を学ぶことも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

個々の指導教員の指導の下、各自が、それぞれのプロジェクト内容を設定し、各段階毎に、指導教員に報告し、アドバイスを受けるというプロセスを繰り返す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	システムデザイン修士プロジェクト3で行ったテーマ1の総括とテーマ2に関する準備を行う。
2	テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定	テーマ1の反省を踏まえ、テーマ2のスケジュールおよびマイルストーンの再設定を行う。
3	テーマ2のマイルストーン1	テーマ2のマイルストーン1の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
4	テーマ2のマイルストーン1	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン1の纏めを行う。
5	テーマ2のマイルストーン2	テーマ2のマイルストーン2の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
6	テーマ2のマイルストーン2	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン2の纏めを行う。
7	テーマ2のマイルストーン3	テーマ2のマイルストーン3の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
8	テーマ2のマイルストーン3	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン3の纏めを行う。
9	テーマ2のマイルストーン4	テーマ2のマイルストーン4の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
10	テーマ2のマイルストーン4	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン4の纏めを行う。
11	テーマ2のマイルストーン5	テーマ2のマイルストーン5の到達状況を指導教員に報告し、その問題点に関する議論を行う。問題解決のアドバイスを指導教員より受ける。
12	テーマ2のマイルストーン5	アドバイスに従い解決した問題を指導教員に報告するとともに、テーマ2のマイルストーン5の纏めを行う。
13	テーマ2の纏めと総括、不足部分の抽出	テーマ2の総括を行い、修士論文作成に十分な検証データが得られたか否かを検証する。不足部分や、補足データ収集に関する計画を立てる。
14	テーマ1およびテーマ2の統合および対外的提示	テーマ1およびテーマ2を統合してひとつのプロジェクトとして纏め、対外的に提示可能な形とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、プロジェクトの実施
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

プロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力、問題解決能力、最終成果の学術的価値などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施していない。

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の基礎知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In System Design Master's Project 4, students will undertake projects to acquire fundamental research knowledge and skills required for a master's degree.

OTR600N4

修士論文 (SD)

安積 伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための修士論文の作成を行う。研究の基盤となる知識やスキルの修得、実証データの提示作業、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して研究手法を学ぶ。

【到達目標】

修士学位論文を作成することを最終目標とし、その作成ために必要となる考え方や各種スキルを身につけることを副次的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する。各段階毎に、指導教員と議論を行い、進捗状況のチェック、途中経過の問題点、最終目標の再検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト後半（後期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
第 2 回	テーマに関するブレンストーミング 1	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面的視点から議論する。
第 3 回	テーマに関するブレンストーミング 2	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面的視点から議論する。
第 4 回	テーマの合理性（社会的意義・学術的意義）	取り上げたテーマが、研究対象として相応しいか否かを、検証する。その学術的意義や社会的意義についても検討する。
第 5 回	先行研究調査 1	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第 6 回	先行研究調査 2	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第 7 回	ゴール・サブゴールの設定	研究を遂行するための研究計画を作成する。とくに、必要となるマイルストーンを設定する。
第 8 回	研究計画の作成 サブゴール 1 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 9 回	サブゴール 2 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 10 回	サブゴール 3 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 11 回	サブゴール 4 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 12 回	サブゴール 5 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 13 回	研究成果の取り纏め	研究成果を取り纏め、成文化する。各章の構成や緒言、参考文献の記述を行う。
第 14 回	対外的に提示可能な成果物としての取り纏め	修士論文を公開可能なものとするための最終検証を行う。とくに、新規性や著作権問題に関するチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、修士研究、修士論文作成
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は、総合点が 90 点以上を S とし、
89～87 点を A+、86～83 点を A、82～80 点を A-
79～77 点を B+、76～73 点を B、72～70 点を B-
69～67 点を C+、66～63 点を C、62～60 点を C-
60 点未満を D、未受験を E とする。

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】

プロダクトデザイナーとしての経験を有する教員が、実務で培った知識・経験・考え方に基づいた指導を行う。

【Outline and objectives】

In this program students will write a thesis for their master's degree. During the process, they will learn research methods by gaining fundamental knowledge and skills for their field, presenting empirical data and referencing information in related areas.

OTR600N4

修士論文（SD）

佐藤 康三

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学位取得のための修士論文の作成を行う。研究の基盤となる知識やスキルの修得、実証データの提示作業、参考文献や研究分野の関連情報のサーベイ作業などを通して研究手法を学ぶ。

【到達目標】

修士学位論文を作成することを最終目標とし、その作成ために必要となる考え方や各種スキルを身につけることを副次的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学研究科システムデザイン専攻ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

指導教員の日々のアドバイスの下に修士論文を作成する。各段階毎に、指導教員と議論を行い、進捗状況のチェック、途中経過の問題点、最終目標の再検討を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	システムデザイン専攻における修士プロジェクト後半（後期）に取り組む心構えやその意義について解説し、必要な関連事項の概要について述べる。
第 2 回	テーマに関するブレンストーミング 1	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第 3 回	テーマに関するブレンストーミング 2	どのようなテーマで修士論文を作成するかについて、多方面の視点から議論する。
第 4 回	テーマの合理性（社会的意義・学術的意義）	取り上げたテーマが、研究対象として相応しいか否かを、検証する。その学術的意義や社会的意義についても検討する。
第 5 回	先行研究調査 1	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第 6 回	先行研究調査 2	当該テーマに関連する先行研究を調査し、その概要、その優れた点、欠落している点を纏める。
第 7 回	ゴール・サブゴールの設定	研究を遂行するための研究計画を作成する。とくに、必要となるマイルストーンを設定する。
第 8 回	サブゴール 1 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 9 回	サブゴール 2 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 10 回	サブゴール 3 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 11 回	サブゴール 4 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 12 回	サブゴール 5 の検証	研究計画に基づいて、そのサブゴールを順に達成していく。サブゴールが到達不可能であれば、最終ゴールの見直し、研究計画の見直しも行う。
第 13 回	研究成果の取り纏め	研究成果を取り纏め、成文化する。各章の構成や緒言、参考文献の記述を行う。
第 14 回	対外的に提示可能な成果物としての取り纏め	修士論文を公開可能なものとするための最終検証を行う。とくに、新規性や著作権問題に関するチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献の調査、修士研究、修士論文作成
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指導教員から配布

【参考書】

指導教員から指示

【成績評価の方法と基準】

修士課程後半（後期）を通じて、各専門領域分野におけるプロジェクトテーマの立案能力や解析・分析能力などを判断基準として、担当教員が総合的に評価する。

成績基準は次の通り。

A+(100-95), A(94-80), B(79-70), C(69-60), D(59-0), E(未受験)

【学生の意見等からの気づき】

個別指導科目のため実施せず

【その他の重要事項】

■プロダクトデザイナー実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の知識・手法を指導する。

【Outline and objectives】

In this course students will aim to complete their master's thesis. Themes can be decided at will, but their rationale must be strictly discussed with the supervisor. Students have to derive meaningful results within their theme and explain them clearly and simply in their thesis.

